

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅲ <a>

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

獲得目標

基本的なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 高野切について
 - 第2回 高野切第三種の書について
 - 第3回 高野切第三種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
 - 第4回 高野切第三種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
 - 第5回 高野切第三種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
 - 第6回 高野切第三種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
 - 第7回 高野切第三種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
 - 第8回 高野切第三種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
 - 第9回 高野切第三種の背臨
 - 第10回 高野切第三種の集字
 - 第11回 高野切第三種の倣書
 - 第12回 高野切第一種の書について
 - 第13回 高野切第一種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
 - 第14回 高野切第一種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
 - 第15回 高野切第一種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
-

授業以外での学習方法

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅ですべて復習と予習を重ねること。

教科書

日本名筆選「高野切第三種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選「高野切第一種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む 授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅲ

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

獲得目標

基本的なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 高野切について
 - 第2回 高野切第三種の書について
 - 第3回 高野切第三種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
 - 第4回 高野切第三種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
 - 第5回 高野切第三種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
 - 第6回 高野切第三種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
 - 第7回 高野切第三種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
 - 第8回 高野切第三種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
 - 第9回 高野切第三種の背臨
 - 第10回 高野切第三種の集字
 - 第11回 高野切第三種の倣書
 - 第12回 高野切第一種の書について
 - 第13回 高野切第一種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
 - 第14回 高野切第一種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
 - 第15回 高野切第一種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
-

授業以外での学習方法

豊かな表現力に養成には徹底した習熟が大切。自宅ですべて復習と予習を重ねること。

教科書

日本名筆選「高野切第三種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選「高野切第一種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 漢字古典研究 I <a>

担当者 中村 史朗

テーマ

漢字古典の書法に関する研究—王羲之以前を中心に—

獲得目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて基本的な知識を修得するとともに、各古典の多様な表現技法に習熟する。書体の変遷等、史的な視点を重視し、単に個別の技法を知るだけでなく、歴史のながれの中で作品相互がどのように関係しあっているのか、念入りに掘りさげたい。臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主となるが、履修者がすすんで自身が時間をかけて取り組む古典を見だし、制作の背景を固めることもねらいとしている。また代表的な古典とあわせ同時代の新出資料も取り上げ、名筆を生み出す時代状況を考察する。

授業の内容

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況等について講述する。時代の区切りで課題の提出をもとめ臨書を日常化できるよう促す。また古典の表現に関する鑑賞文や自身の臨書についてのコメントなどを通じて記述する習慣を身につける。

内 容

- 第1回 ガイダンス 中国書道史概観(1)
- 第2回 漢字の始原 甲骨文字
- 第3回 周代の金文
- 第4回 先秦の真跡資料
- 第5回 古代の刻石(1) 石鼓文など
- 第6回 古代の刻石(2) 泰山刻石など
- 第7回 漢代の隷書(1) 前漢の刻石など
- 第8回 漢代の隷書(2) 漢碑の典型①
- 第9回 漢代の隷書(3) 漢碑の典型②
- 第10回 漢魏晋の真跡資料(1)
- 第11回 漢魏晋の真跡資料(2)
- 第12回 魏晋の小楷
- 第13回 王羲之の墨跡本(1)
- 第14回 王羲之の墨跡本(2)
- 第15回 まとめ 課題整理、臨書ファイル提出

授業以外での学習方法

事前に授業で取り扱う古典について基本的な事項を確認しておくこと。指定した古典は授業外の時間に反復して臨書すること。

教科書

改訂 書道の古典(1)～(3)

著者： 大東文化大学書道文化センター

出版社： 二玄社

出版年： 1984

ISBN:

参考書

中国法書選(1)～(60)

著者：

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN:

書跡名品叢刊(1)~(208)

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

天来書院テキストシリーズ(1)~(53)

著者:

出版社: 天来書院

出版年:

ISBN:

書道講座(1)~(7)

著者: 西川寧 編

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

書道全集

著者:

出版社: 平凡社

出版年:

ISBN:

書道藝術

著者:

出版社: 中央公論社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト (10)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

授業時に指示する提出課題、授業中の取り組み、小テストなどを総合して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 漢字古典研究 I

担当者 中村 史朗

テーマ

漢字古典の書法に関する研究—王羲之以前を中心に—

獲得目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて基本的な知識を修得するとともに、各古典の多様な表現技法に習熟する。書体の変遷等、史的な視点を重視し、単に個別の技法を知るだけでなく、歴史のながれの中で作品相互がどのように関係しあっているのか、念入りに掘りさげたい。臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主となるが、履修者がすすんで自身が時間をかけて取り組む古典を見いだし、制作の背景を固めることもねらいとしている。

授業の内容

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況等について講述する。時代の区切りで課題の提出をもとめ臨書を日常化できるよう促す。また古典の表現に関する鑑賞文や自身の臨書についてのコメントなどを通じて記述する習慣を身につける。

内 容

- 第1回 ガイダンス 中国書道史概観(1)
- 第2回 漢字の始原 甲骨文字
- 第3回 周代の金文
- 第4回 先秦の真跡資料
- 第5回 古代の刻石(1) 石鼓文など
- 第6回 古代の刻石(2) 泰山刻石など
- 第7回 漢代の隷書(1) 前漢の刻石など
- 第8回 漢代の隷書(2) 漢碑の典型①
- 第9回 漢代の隷書(3) 漢碑の典型②
- 第10回 漢魏晋の真跡資料(1)
- 第11回 漢魏晋の真跡資料(2)
- 第12回 魏晋の小楷
- 第13回 王羲之の墨跡本(1)
- 第14回 王羲之の墨跡本(2)
- 第15回 まとめ 課題整理、臨書ファイル提出

授業以外での学習方法

事前に授業で取り扱う古典について基本的な事項を確認しておくこと。指定した古典は授業外の時間に反復して臨書すること。

教科書

改訂 書道の古典(1)～(3)

著者： 大東文化大学書道文化センター

出版社： 二玄社

出版年： 1984

ISBN：

参考書

中国法書選(1)～(60)

著者：

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

書跡名品叢刊(1)~(208)

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

天来書院テキストシリーズ(1)~(53)

著者:

出版社: 天来書院

出版年:

ISBN:

書道講座(1)~(7)

著者: 西川寧 編

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

書道全集

著者:

出版社: 平凡社

出版年:

ISBN:

書道藝術

著者:

出版社: 中央公論社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (10)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

授業時に指示する提出課題、授業中の取り組み、小テストなどを総合して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読c(社会言語学 I)

担当者 鳥谷 善史

テーマ

ことばの変化と社会の相関(日本の諸方言を中心に)

獲得目標

ことばが変化する要因としては、ことばそのものに内在する法則とことば以外の刺激によるものがある。社会言語学は、ことばの変化といった側面において、両者の要因を総合的に考察しつつも、特に後者のことば以外の社会的要因との相関を調査をとおして実証的に研究する。ここでは、これまでの研究の潮流を確認し、今後の展開や可能性について検討したい。

授業の内容

日本語の変化の中でもとりわけ、文法及び音声・音韻の変化について詳細に確認する。受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。

内 容

- 第1回 社会言語学とは
- 第2回 日本の社会言語学とその研究分野
- 第3回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)1(現象の分析)
- 第4回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)2(通時的側面)
- 第5回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)3(共時的側面)
- 第6回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)4(方言からみる変化の実態)
- 第7回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)5(属性からみる変化の実態)
- 第8回 ら抜き言葉のまとめ(小テスト:レポート)
- 第9回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)1(音声学概説)
- 第10回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)2(音声学概説)
- 第11回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)3(現象の分析)
- 第12回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)4(共時的側面・通時的側面)
- 第13回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)5(変化の実態)
- 第14回 音声音韻の変化のまとめ(小テスト:レポート)
- 第15回 社会言語学のまとめ

授業以外での学習方法

授業中に紹介した参考文献やシラバスの参考書を読み、より考察を深め小テスト:レポートを作成すること。

教科書

日本語ウォッチング

著者: 井上史雄

出版社: 岩波新書

出版年: 1998

ISBN: 4-00-430540-3

参考書

社会言語学

著者: 真田信治・渋谷勝己他

出版社: 桜楓社

出版年: 1992

ISBN: 4273026023

関西方言の社会言語学

著者： 徳川宗賢・真田信治編

出版社： 世界思想社

出版年： 1995

ISBN： 4790705501

応用社会言語学を学ぶ人のために

著者： ダニエル・ロング他

出版社： 世界思想社

出版年： 2001

ISBN： 4790708993

関西・ことばの動態

著者： 真田信治

出版社： 大阪大学出版会

出版年： 2001

ISBN： 4872591097

社会言語学の展望

著者： 真田信治編

出版社： くろしお出版

出版年： 2006

ISBN： 4874243452

改訂版社会言語学図集

著者： 真田信治他編

出版社： 秋山出版

出版年： 2010

ISBN： 9784870236165

方言学

著者： 真田信治編著

出版社： 朝倉書店

出版年： 2011

ISBN： 9784254515244

都市と周縁のことば

著者： 岸江信介他編著

出版社： 和泉書院

出版年： 2013

ISBN： 9784757606661

成績評価

試験（0）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（40）

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）参加度は、積極的な受講に対して評価するものである。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読m(メディア・表現研究Ⅰ)

担当者 禧美 智章

テーマ

アニメーションの読解

獲得目標

アニメーションの技法や話法を理解するための知識、アニメーション・リテラシーの修得をめざす。オタク的知識の蓄積を目指す授業ではないので、注意してほしい。※日本語日本文学講読n(メディア・表現研究Ⅱ)も受講することが望ましい。

授業の内容

様々なアニメーションを鑑賞しながら、映像表現・アニメーションの読解法を解説する。なお、授業内容は進行等に変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス、アニメーションとは何か
- 第2回 アニメーションの種類
- 第3回 アニメーションの制作過程〈1〉プリプロダクション
- 第4回 アニメーションの制作過程〈2〉ポストプロダクション
- 第5回 絵コンテの読み方
- 第6回 アニメーターのおかれた現状
- 第7回 キャラクター〈1〉記号論
- 第8回 キャラクター〈2〉データベース消費
- 第9回 (進度調整)
- 第10回 動き〈1〉フルアニメーションとリミテッド・アニメ
- 第11回 動き〈2〉映像の原則
- 第12回 音響
- 第13回 ストーリーと脚本〈1〉原作と映像
- 第14回 ストーリーと脚本〈2〉文学とアニメーション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

教科書

授業時にプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

アニメーション学入門(平凡社新書)

著者: 津堅信之

出版社: 平凡社

出版年: 2005

ISBN: 978-4582852912

映像の原則 改訂版

著者： 富野由悠季

出版社： キネマ旬報社

出版年： 2011

ISBN： 978-4873767369

アニメーションの事典

著者： 横田正夫、池田宏、小出正志

出版社： 朝倉書店

出版年： 2012

ISBN： 978-4254680218

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

毎回コミュニケーションペーパーを回収し、授業理解度・参加度を評価する。また、授業期間中、レポートの提出を求める（80%）。講義内での発言、授業に関する優れた質問・提言があった場合は評価に加える（20%）。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <a>

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文のテーマの探求と確立

獲得目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成のために、研究方法を習得し、自らのテーマを発見し、卒業論文を完成を目指す。

授業の内容

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進める。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス
 - 第2回 卒業論文の取り上げたい作品・テーマについての発表
 - 第3回 同上
 - 第4回 同上
 - 第5回 同上
 - 第6回 同上
 - 第7回 参考文献・資料・論文の検索・収集の方法と実際
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 卒業論文の構造と執筆方針の確定
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 授業のまとめと夏季休暇中の課題確認
-

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a10203a110

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (70)

参考URL

源氏物語の世界

<http://www.sainet.or.jp/~eshibuya/>

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

獲得目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の内容

4回生との合同授業のため、調整しながら進める。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 卒論で取り上げたい作品についての発表
 - 第3回 同上
 - 第4回 同上
 - 第5回 同上
 - 第6回 同上
 - 第7回 文献を収集し、論文を読む
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 作品の構造や成立、テーマに迫るための発表
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 前期の総括と夏休みの課題について
-

授業以外での学習方法

作品を熟読する。図書館に足しげく通う。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

a10203a112

参加度には、出席点のほかに平常点も含まれます

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <c>

担当者 辻本 千鶴

テーマ

近現代文学研究(演習)

獲得目標

作品を読む力・論文を書く力を養成することを目標とする。同時に卒論の対象とする作家・作品・テーマを絞り込んでいけるよう、準備を進める。

授業の内容

演習形式。受講者各人が選んだ作家・作品での研究発表を中心に進める。発表一巡後は、近現代文学を素材に、グループでの作品分析ワーク・ショップを行う。

内 容

- 第1回 講義 作家論と作品論／卒業論文への取り組み方
- 第2回 ワーク・ショップ 芥川龍之介「千代女」1
- 第3回 ワーク・ショップ 芥川龍之介「千代女」2
- 第4回 学生発表 1
- 第5回 学生発表 2
- 第6回 学生発表 3
- 第7回 学生発表 4
- 第8回 学生発表 5
- 第9回 学生発表 6
- 第10回 学生発表 7
- 第11回 発表予備日
- 第12回 ワーク・ショップ
- 第13回 ワーク・ショップ
- 第14回 ワーク・ショップ
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自分の担当日でなくとも、発表作品を事前に通読してから授業に出席すること。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

期末試験はレポート形式とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <d>

担当者 橋本 正志

テーマ

日本近現代文学の研究

獲得目標

卒業論文につながる研究の準備を段階的かつ実践的に行う(演習形式)。発表や議論を通じて、設定したテーマに対する理解を深めることを目的とする。

授業の内容

授業は、前後期を通じて作品や論文の「文章を読み、要約する」段階から、しだいに「問題を見つける」「関連資料を探る」、そして「論文を書く」という過程をとったものを計画している。

内 容

- 第15回 まとめ
第1回 ガイダンスおよび作品アンケート
第2回 受講生による発表(1)国木田独歩「画の悲み」(明35)
第3回 受講生による発表(2)菊池寛「恩讐の彼方に」(大8)
第4回 受講生による発表(3)佐藤春夫「美しい町」(大8)
第5回 受講生による発表(4)芥川龍之介「尾生の信」(大8)
第6回 受講生による発表(5)近松秋江「黒髪」(大11)
第7回 受講生による発表(6)中山義秀「厚物咲」(昭13)
第8回 受講生による発表(7)岡本かの子「巴里祭」(昭13)
第9回 受講生による発表(8)室生犀星「宝篋印塔」(昭16)
第10回 受講生による発表(9)平塚武二「たまむしのずしの物語」(昭23)
第11回 受講生による発表(10)武田泰淳「愛と誓ひ」(昭28)
第12回 受講生による発表(11)城昌幸「ママゴト」(昭33)
第13回 受講生による発表(12)井伏鱒二「草野球の球審」(昭35)
第14回 受講生による発表(13)宮尾登美子「連」(昭37)

授業以外での学習方法

教科書は必ず購入し、毎回持参すること。あらかじめ作品を読んで臨むこと。

教科書

ひたむきな人々—近代小説の情熱家たち

著者： 橋本正志ほか編

出版社： 龜鳴屋

出版年： 2009

ISBN： 97849902714040

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <e>

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文に向けてのテーマの探求

獲得目標

1)興味・関心をしっかり吟味することによってみずからの力でテーマを設定する。2)先行研究を読みこむことによって、論文を書くという作業の持つ意味を理解する。3)自分の思いや考えを他の人に伝えるために必要な事項を修得する。

授業の内容

受講生が持つさまざまなことばに関する「引っかけり」を、卒業論文に向けての「テーマ」として確定していく。

内 容

- 第1回 導入:卒論に向けての第一歩
 - 第2回 論文とは何か?
 - 第3回 テーマの候補についての報告(1)
 - 第4回 テーマの候補についての報告(2)
 - 第5回 テーマの候補についての報告(3)
 - 第6回 テーマの候補についての報告(4)
 - 第7回 仮テーマの決定と参考文献探索(1)
 - 第8回 仮テーマの決定と参考文献探索(2)
 - 第9回 仮テーマの決定と参考文献探索(3)
 - 第10回 仮テーマの決定と参考文献探索(4)
 - 第11回 先行研究紹介(1)
 - 第12回 先行研究紹介(2)
 - 第13回 先行研究紹介(3)
 - 第14回 先行研究紹介(4)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代書研究 I

担当者 尾西 正成

テーマ

今日における書のありかたを総合的に考察する。現代社会において、個の表現としての書はどのような方向を求めているのか、また書が社会性を持つとはどのようなことなのか、実作、鑑賞などを手がかりに検討したい。

獲得目標

近百年の日本において「漢字仮名交じりの書」「少字数書」「前衛書」など、従来の歴史の中には見られない新傾向の書が生まれた。これらが運動のかたちで大きな展開を見せるようになった背景はどのようなものなのかを知り、あわせて各々の基礎的な表現技法を実作を通じて修得する。また新傾向の書と比較しながら、伝統的な漢字や仮名の書が、現代においてどのように変質したかについても理解を深める。

授業の内容

近百年の日本の書を概観し、新傾向の書の成立の背景・根拠をさぐる。また「漢字仮名交じりの書」「少字数書」などの基礎的技法に習熟する。講義、発表、実習など形式を変えながら進行する。

内 容

- 第1回 近百年の書。現代書の諸相(1)。会場で書が鑑賞されることについて。
- 第2回 現代書の諸相(2)。戦後の新傾向の書を中心に。
- 第3回 現代の書と古典。その価値と技法の展開をめぐって。
- 第4回 現代書の制作。意図と技法、用具・用材。
- 第5回 漢字仮名交じりの書(1) 概観
- 第6回 漢字仮名交じりの書(2) 言葉と書、言文一致表記と書の表現との関係を考える。
- 第7回 漢字仮名交じりの書(3) 古典の書風を応用して-1-
- 第8回 漢字仮名交じりの書(4) 古典の書風を応用して-2-
- 第9回 漢字仮名交じりの書(5) 素材と技法の関係を考える。
- 第10回 少字数書(1) 少字数を書くことの意味。
- 第11回 少字数書(2) 大字表現の意味
- 第12回 少字数書(3) 特有の技法、用具・用材を生かして。
- 第13回 現代の書—多様な表現—(1)。さまざまな素材を用いて。
- 第14回 現代の書—多様な表現—(2)。新しい発表のかたち。
- 第15回 まとめ これからの書のありかた

授業以外での学習方法

作品制作を中心とするが、書き上げたものを相互に批評したり、指導の場における評価のあり方などを検討する機会を設ける。授業以外にも積極的に作品を試作するとともに、展示会場に足を運び作品を鑑賞したり、関係書籍に掲載されている作品を参照することによって、自身の表現の方向性を探ってほしい。

教科書

参考書

漢字仮名交じりの書の名品

著者： 田宮文平・中野遵

出版社： 天来書院

出版年： 2010

ISBN：

現代文体の書(書学大系・研究編10)

著者： 青木香流

出版社： 同朋舎

出版年： 1984

ISBN：

少字数の書(書学大系・研究編11)

著者: 浅見錦龍、新井光風 他

出版社: 同朋舎

出版年: 1984

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

作品、レポート、授業に対する取り組み、出席率など総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <a>

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文のテーマの探求と確立

獲得目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成のために、研究方法を習得し、自らのテーマを発見し、卒業論文を完成を目指す。

授業の内容

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進める。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス
 - 第2回 卒業論文の取り上げたい作品・テーマについての発表
 - 第3回 同上
 - 第4回 同上
 - 第5回 同上
 - 第6回 同上
 - 第7回 参考文献・資料・論文の検索・収集の方法と実際
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 卒業論文の構造と執筆方針の確定
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 授業のまとめと夏季休暇中の課題確認
-

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a102040110

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (70)

参考URL

源氏物語の世界

<http://www.sainet.or.jp/~eshibuya/>

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

獲得目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の内容

卒論作成に向けて進める。演習Ⅰと合同。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 卒論で取り上げたい作品について発表する
 - 第3回 同上
 - 第4回 同上
 - 第5回 同上
 - 第6回 同上
 - 第7回 文献を収集し、論文を読む
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 作品の構造や成立、テーマに迫るための発表
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 前期の総括と夏休みの課題について
-

授業以外での学習方法

- 1, 作品を熟読する。2, 問題意識を持つ。3, 図書館に足しげく通う。4, 表現力を磨く。
-

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <c>

担当者 辻本 千鶴

テーマ

卒業論文作成

獲得目標

卒業論文作成に向けて議論を積み重ね、着実に成果を上げていくことを目標とする。

授業の内容

演習形式。受講生が選んだ作家・作品についての研究発表を中心に進める。

内 容

- 第1回 講義 卒業論文への取り組み・参考文献紹介
 - 第2回 講義 近現代文学研究概説
 - 第3回 受講生による発表(1)
 - 第4回 受講生による発表(2)
 - 第5回 受講生による発表(3)
 - 第6回 受講生による発表(4)
 - 第7回 受講生による発表(5)
 - 第8回 受講生による発表(6)
 - 第9回 受講生による発表(7)
 - 第10回 受講生による発表(8)
 - 第11回 受講生による発表(9)
 - 第12回 発表予備日
 - 第13回 ワーク・ショップ
 - 第14回 ワーク・ショップ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

自分の担当でなくとも、発表作品を通読してから出席すること。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30%)

小テスト (0)

授業中発表等 (70%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <d>

担当者 辻本 千鶴

テーマ

卒業論文作成

獲得目標

卒業論文作成に向けて議論を積み重ね、着実に成果を上げていくことを目標とする。

授業の内容

演習形式。受講生が選んだ作家・作品についての研究発表を中心に進める。

内 容

- 第1回 講義 卒業論文への取り組み・参考文献紹介
 - 第2回 講義 近現代文学研究概説
 - 第3回 受講生による発表(1)
 - 第4回 受講生による発表(2)
 - 第5回 受講生による発表(3)
 - 第6回 受講生による発表(4)
 - 第7回 受講生による発表(5)
 - 第8回 受講生による発表(6)
 - 第9回 受講生による発表(7)
 - 第10回 受講生による発表(8)
 - 第11回 受講生による発表(9)
 - 第12回 発表予備日
 - 第13回 ワーク・ショップ
 - 第14回 ワーク・ショップ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

自分の担当でなくとも、発表作品を通読してから出席すること。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30%)

小テスト (0)

授業中発表等 (70%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <e>

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文作成

獲得目標

1)議論をとおして自らの考えを磨き上げていく。2)自分のテーマだけでなく、他の学生のテーマについても強い関心を持って議論に参加する。

授業の内容

卒業論文作成に向けて報告と議論を繰り返して、着実に成果を上げていく。

内 容

- 第1回 導入
 - 第2回 受講生による第1回報告(1)
 - 第3回 受講生による第1回報告(2)
 - 第4回 受講生による第1回報告(3)
 - 第5回 受講生による第1回報告(4)
 - 第6回 受講生による第2回報告(1)
 - 第7回 受講生による第2回報告(2)
 - 第8回 受講生による第2回報告(3)
 - 第9回 受講生による第2回報告(4)
 - 第10回 受講生による第3回報告(1)
 - 第11回 受講生による第3回報告(2)
 - 第12回 受講生による第3回報告(3)
 - 第13回 受講生による第3回報告(4)
 - 第14回 まとめ1
 - 第15回 まとめ2
-

授業以外での学習方法

直接関係がある、ないにかかわらず、学术论文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 東洋史概説 I

担当者 小野 浩

テーマ

東方イスラム世界史概説

獲得目標

一次史料を紹介しつつ、イスラムの勃興からイスラム期イラン・中央アジアの歴史の流れを大まかに把握することを目標とする。

授業の内容

イラン・中央アジアを中心とする東方イスラム世界の歴史を、モンゴル人・トルコ人・ペルシア人の果たした役割に注目しつつ概観する。なお、以下に示す講義計画はあくまで予定であり、扱う対象や回数に変更が生じることもある。また、高校での世界史の学習を前提としている。(昨今、高校で世界史を学習していないことを訴える学生が多々いるが、この授業は、そういった学生のために高校の世界史教科書をおさらいするものではないことを承知されたい)

内 容

- 第1回 イスラムとは何かー六信五行
- 第2回 預言者ムハンマドの生涯
- 第3回 イスラムの人名と暦
- 第4回 カリフー4カリフ・ウマイヤ家・アッバース家
- 第5回 アリー信仰とシーア派
- 第6回 イスラムの学術文化 その1
- 第7回 イスラムの学術文化 その2
- 第8回 イスラムの学術文化 その3
- 第9回 イスラム化以前のテュルク人ー突厥・ウイグル
- 第10回 イスラム化したテュルク人ーカラハン朝・セルジューク朝・ホラズム朝
- 第11回 モンゴルの大遠征
- 第12回 イルハン朝とラシード・アッディーンの『集史』
- 第13回 ティムールの興起とティムール朝
- 第14回 バーブルとムガル朝の成立
- 第15回 サファヴィー朝の成立

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 西洋史概説 I

担当者 佐藤 専次

テーマ

ヨーロッパ世界の形成と発展

獲得目標

現在、EUの発展が大きな話題になっている。そのような統一したヨーロッパ世界がどのように形成されたかを理解する。

授業の内容

古代ローマ時代から14,15世紀のヨーロッパ中世までについて、主要なテーマをあげて概観する。

内 容

- 第1回 ヨーロッパの地理・言語・宗教
 - 第2回 地中海世界とローマ
 - 第3回 ローマ帝国の崩壊とキリスト教の発展
 - 第4回 ゲルマン人の民族移動と部族王国
 - 第5回 東ローマ帝国の変容と東方正教世界
 - 第6回 フランク王国の成立とメロヴィング朝
 - 第7回 カール大帝とカロリング朝
 - 第8回 ノルマン人とイングランド王国の成立
 - 第9回 農村社会の変動と人口の増大
 - 第10回 修道院改革と民衆の宗教的覚醒
 - 第11回 グレゴリウス改革と叙任権闘争
 - 第12回 十字軍とヨーロッパの膨張
 - 第13回 中世都市の発達
 - 第14回 黒死病と「危機」の時代
 - 第15回 イタリア戦争と主権国家の形成
-

授業以外での学習方法

講義では、高校の世界史の教科書程度の知識は必要になる。また下記の教科書を事前に読むのが望ましい。

教科書

教養のための西洋史入門

著者： 中井義明/他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 考古学概説 I

担当者 五十川 伸矢

テーマ

考古学研究が明らかにした時代観・技術史

獲得目標

あな(遺構)・もの(遺物)で構成されている遺跡を、どのように解釈するかという方法と考古学研究が明らかにしてきた過去の社会像、土器・金属器・瓦などの出土遺物の精緻な研究成果を理解する。

授業の内容

時代順に、考古学的な成果によって推定される時代変遷を解説するとともに、研究の進んでいる土器・金属・瓦の研究成果を説明する。

内 容

- 第1回 考古学研究の方法とその特徴
- 第2回 狩猟採集の社会——縄文時代
- 第3回 狩猟採集から農耕へ——弥生時代
- 第4回 金属生産の開始——銅鐸の変遷と祭祀
- 第5回 大墓の時代——古墳時代
- 第6回 学外授業 向日市物集女車塚古墳見学
- 第7回 歴史時代の考古学
- 第8回 土器の語る世界①——古代・中世の土器概説
- 第9回 土器の語る世界②——輸入陶磁器
- 第10回 学外授業 考古学関連博物館展覧の参観
- 第11回 金属生産の歴史①——青銅鑄物
- 第12回 金属生産の歴史②——鑄鉄鑄物
- 第13回 古代瓦の美——飛鳥・白鳳・天平の葺
- 第14回 古代の平瓦作り——失われた伝統技術
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I <a>

担当者 増淵 徹

テーマ

古代の法から社会像を考える

獲得目標

『類聚三代格』をテキストに、太政官符などの古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の内容

参加者各自に官符などを割り当て、その読み下し、訳、考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 授業解説、テキストの解説(1)
- 第2回 テキストの解説(2)、図書館の活用方法やレポートの作成方法の解説
- 第3回 史料の読み方と理解の実際(1)
- 第4回 史料の読み方と理解の実際(2)
- 第5回 歴史遺産の見学(学外授業)
- 第6回 個別発表(1)
- 第7回 個別発表(2)
- 第8回 個別発表(3)
- 第9回 個別発表(4)
- 第10回 個別発表(5)
- 第11回 個別発表(6)
- 第12回 個別発表(7)
- 第13回 個別発表(8)
- 第14回 個別発表(9)
- 第15回 歴史研究の方法論と史料分析(まとめ)

授業以外での学習方法

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。

教科書

類聚三代格(該当部分コピー配布)

著者: 黒板勝美編(国史大系)

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

参考書

『律令国家と天平文化』(日本の時代史4)

著者: 佐藤 信 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

『平安京』(日本の時代史5)

著者: 吉川真司 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史6)

著者: 加藤友康 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本歴史大系2 律令国家の展開

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

日本歴史大系3 貴族政治と武士

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

『平安京の時代』(日本古代の歴史)

著者: 佐々木恵介

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本史基礎ゼミ I **

担当者 山田 徹

テーマ

百練抄を読む

獲得目標

日本中世史料を読解する能力を養う。

授業の内容

テキストは、朝廷の記録書である百練抄を使用する。最初の数回は、和様漢文の基礎を理解するため、簡単な記事を集中的に読む。慣れてきたら、治承・寿永の内乱に関する記事を中心に、講読していくこととする。

内 容

- 第1回 授業解説
 - 第2回 百練抄の講読(1)
 - 第3回 百練抄の講読(2)
 - 第4回 百練抄の講読(3)
 - 第5回 百練抄の講読(4)
 - 第6回 百練抄の講読(5)
 - 第7回 百練抄の講読(6)
 - 第8回 百練抄の講読(7)
 - 第9回 百練抄の講読(8)
 - 第10回 百練抄の講読(9)
 - 第11回 百練抄の講読(10)
 - 第12回 百練抄の講読(11)
 - 第13回 百練抄の講読(12)
 - 第14回 百練抄の講読(13)
 - 第15回 百練抄の講読(14) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

史料について、予習と復習をおこなうこと。この時代に関しては多くの本が売られています。最新の研究成果が示された本を、ぜひ手に取ってみてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

鎌倉幕府

著者: 石井進

出版社: 中央公論社

出版年: 2004(初出1966)

ISBN:

源平の盛衰

著者： 上横手雅敬

出版社： 講談社

出版年： 1997(初出1969)

ISBN:

源平合戦の虚像を剥ぐ

著者： 川合康

出版社： 講談社

出版年： 1996

ISBN:

後白河法皇

著者： 棚橋光男

出版社： 講談社

出版年： 1995

ISBN:

源義経

著者： 元木泰雄

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2007

ISBN:

日本の時代史7 院政の展開と内乱

著者：

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2002

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

江戸時代の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。

授業の内容

江戸時代の幕府・藩に関する史料(譜代大名松平忠利の日記)を読む。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳の作成と報告。

内 容

- 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説
 - 第2回 テキストに関する概説
 - 第3回 松平忠利の日記の講読
 - 第4回 松平忠利の日記の講読
 - 第5回 松平忠利の日記の講読
 - 第6回 松平忠利の日記の講読
 - 第7回 松平忠利の日記の講読
 - 第8回 松平忠利の日記の講読
 - 第9回 松平忠利の日記の講読
 - 第10回 松平忠利の日記の講読
 - 第11回 松平忠利の日記の講読
 - 第12回 松平忠利の日記の講読
 - 第13回 松平忠利の日記の講読
 - 第14回 松平忠利の日記の講読
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料等に慣れ親しんで欲しい。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (30)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

幕末・明治の史料を読む。

獲得目標

日本近代史史料を確実に読める能力を養う。

授業の内容

下記のテーマに関する史料を通読し、幕末・明治の時代状況もあわせて知るようになる。

内 容

- 第1回 史料購読の方法
 - 第2回 幕末という時代についての説明
 - 第3回 京都の幕末・維新についての説明
 - 第4回 (史料)「池田屋事件」
 - 第5回 (史料)「禁門の変」
 - 第6回 (史料)「安政の大獄」
 - 第7回 (史料)「薩長盟約」
 - 第8回 (史料)「大政奉還」
 - 第9回 (史料)「王政復古の大号令」
 - 第10回 (史料)「鳥羽・伏見の戦い」
 - 第11回 大政奉還から鳥羽・伏見の戦いまでの説明
 - 第12回 (史料)「大坂遷都の建白」
 - 第13回 (史料)「琵琶湖疏水」
 - 第14回 (史料)「同上」
 - 第15回 明治の京都についてのまとめ
-

授業以外での学習方法

京都には幕末・明治の史跡が数多くある。京都を散策してほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミ I <a>

担当者 松浦 京子

テーマ

西洋史上の著名な史料(英文)を読む

獲得目標

英文史料を精読しその史料から何を読み取れるかを考え、史料解読の方法を理解することをめざす

授業の内容

Weidenfeld and Nicolson社刊のIllustrated History of Europeに掲載されている抜粋史料を年代順に読んでいく。ヘロドトスの『歴史』、アリストテレスの『アテナイの国制』からはじまって、タキトゥスの『ゲルマニア』や『年代記』、各種中世年代記、教皇文書、議会文書、思想家の著作、旅行記、『エンサイクロペディア』、王令・布告、新聞、日記、書簡、条約など、歴史研究において重要な史料を読み、その内容から何が読み取れるかを考える。各史料の翻訳とその意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。翻訳に関しては、発表報告の最低でも2週間前には全訳文を教員に提出し添削をうけなければならない。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 テキストの解説と分担の決定
- 第2回 教員による模擬史料購読、解説
- 第3回 ゼミ生報告一回目①と質疑応答
- 第4回 ゼミ生報告一回目②と質疑応答
- 第5回 ゼミ生報告一回目③と質疑応答
- 第6回 ゼミ生報告一回目④と質疑応答
- 第7回 ゼミ生報告一回目⑤と質疑応答
- 第8回 ゼミ生報告一回目⑥と質疑応答
- 第9回 ゼミ生報告一回目⑦と報告二回目①質疑応答
- 第10回 ゼミ生報告二回目②と質疑応答
- 第11回 ゼミ生報告二回目③と質疑応答
- 第12回 ゼミ生報告二回目④と質疑応答
- 第13回 ゼミ生報告二回目⑤と質疑応答
- 第14回 ゼミ生報告二回目⑥と質疑応答
- 第15回 ゼミ生報告二回目⑦と質疑応答

授業以外での学習方法

各自担当部分の翻訳と関連文献の精読。史料上の専門用語(歴史用語)に関する下調べ。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミ I

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史に関する基本研究法の実践

獲得目標

中国史を研究するために、その前提となる漢文史料の読解や研究論文の読み込みの技術及び文献の調査方法を身につける。
Ⅰ中国史の基本知識をもつため、基本的な論文・資料を読む。Ⅱ古代中国の政治、思想、文化、文物制度の基本知識を身につける。Ⅲそれぞれが関心を持つテーマについてどのような文献探索が必要なのか、を指導する。

授業の内容

内 容

- 第1回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅰ
- 第2回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅱ
- 第3回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅲ
- 第4回 中国史研究の基本論文・資料を読むⅠ—資料から何を読みとるかを考える
- 第5回 中国史研究の基本論文・資料を読むⅡ—資料から何を読みとるかを考える
- 第6回 中国史研究の基本論文・資料を読むⅢ—資料から何を読みとるかを考える
- 第7回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
- 第8回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第9回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第10回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第11回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
- 第12回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第13回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第14回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史基礎ゼミ I <a>

担当者 酒井 一臣

テーマ

この授業では戦後史の史料を読みます。『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む予定です。

獲得目標

この授業の目的は、近現代政治史研究には欠かせない史料の扱いになれることで、卒業論文にむけた史料読解力を伸張することです。この授業では、近年さかんになったオーラル・ヒストリーの史料を読みます、史料をもとに、どのように調査研究を進めていけばいいのを知ってもらうことも授業の目的です。

授業の内容

史料をめぐる基礎知識の整理をチームをつくって調べてもらいます。その後、担当を決めて、史料を読み進めていきます。なお、外部講師の招請・校外学習を行う場合があります。

内 容

- 第1回 導入と解説
 - 第2回 戦後史概説
 - 第3回 基礎調査の発表(1)
 - 第4回 基礎調査の発表(2)
 - 第5回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(1)
 - 第6回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(2)
 - 第7回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(3)
 - 第8回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(4)
 - 第9回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(5)
 - 第10回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(6)
 - 第11回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(7)
 - 第12回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(8)
 - 第13回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(9)
 - 第14回 まとめの発表(1)
 - 第15回 まとめの発表(2)
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史基礎ゼミ I

担当者 南 直人

テーマ

現代史(ヨーロッパ・アメリカ)の専門研究への入門

獲得目標

専門的な現代史(ヨーロッパ・アメリカ)研究のために必要な基礎的知識・技法の修得をめざす。

授業の内容

西洋史学(近現代)の概説的／専門的知識、専門研究のスタイル、近年における種々の専門的研究テーマについて学習する。そのために、概説書から適宜テーマを選定し、各人がそれぞれ指定されたテーマについて発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外講師の講演会をそれぞれ1回程度おこなうこともある。

内 容

- 第1回 歴史学の意義について考える、進路／就職についても考える
 - 第2回 現代史(西洋史)研究へのイントロダクション
 - 第3回 現代の世界(1)
 - 第4回 現代の世界(2)
 - 第5回 現代の世界(3)
 - 第6回 西洋近代史概説(1)
 - 第7回 西洋近代史概説(2)
 - 第8回 西洋近代史概説(3)
 - 第9回 西洋近代史概説(4)
 - 第10回 西洋現代史概説(1)
 - 第11回 西洋現代史概説(1)
 - 第12回 西洋現代史概説(2)
 - 第13回 西洋現代史概説(3)
 - 第14回 西洋現代史概説(4)
 - 第15回 まとめ・発表
-

授業以外での学習方法

テキストや参考書以外の現代史関係の書物をできるだけ読むこと

教科書

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011年

ISBN:

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2001年

ISBN:

近代ヨーロッパ史

著者： 福井憲彦

出版社： 放送大学教育振興会

出版年： 2005年

ISBN:

概説 現代世界の歴史

著者： ウィリアム・ウッドラフ

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2003年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本女性史特講 I

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

獲得目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態、などの面から会得する。

授業の内容

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

内 容

- 第1回 原始・古代の女性労働
 - 第2回 都城の変遷と女性の生活
 - 第3回 律令制下の女性の地位
 - 第4回 平安京の成立
 - 第5回 女房としての紫式部
 - 第6回 平安女性の財産相続権
 - 第7回 平氏政権下の女性
 - 第8回 院政期の女院と女房
 - 第9回 武士の登場・武士の女性
 - 第10回 鎌倉幕府法にみる娘、妻、母、後家
 - 第11回 平安時代の出産、鎌倉時代の出産
 - 第12回 北条政子の生涯とその役割
 - 第13回 南北朝期の女性の地位変化
 - 第14回 日野重子と日野富子
 - 第15回 古代・中世の女性の地位をめぐって
-

授業以外での学習方法

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい

教科書

参考書

日本女性史

著者： 脇田・林・永原編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1987

ISBN：

乳母の力

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2005

ISBN：

日本中世女性史論

著者： 田端泰子著

出版社： 塙書房

出版年： 1994

ISBN：

高台院北政所おね

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN：

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN：

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（80）

授業中課題（）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 外書研究a

担当者 井上 徳子

テーマ

中国語テキストの講読

獲得目標

中国語テキストの読解力を養成することである。それとともに、中国史についての知識や認識を深めることも、目標の1つである。

授業の内容

古代から中世にかけての中国の歴史を扱った中国語テキストを講読する。初回に受講者と話し合いながら、講読するテキストを決定する。第2回目以降は、テキスト本文を受講者が順番に日本語訳し、必要に応じて適宜、井上が訂正・補足する、という形式で授業を進める。原則として毎回全員が翻訳を担当すると思ってもらいたい。その際、中国語による発音は課さない。それは、けっして発音を軽視するわけではなく、限られた時間を最大限、この授業の主眼である読解力の養成や内容の理解にあてるためである。また、テキストを読み進める中で、理解に必要な中国の政治・制度などについての関連資料を随時配布し、当該時代の理解を深める作業を行う。正確な中国語の翻訳を土台として、歴史・歴史学についての知識・認識を深めるためである。

内 容

- 第1回 授業の進め方、予習の仕方などについてのガイダンス
- 第2回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第3回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第4回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第5回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第6回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第7回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第8回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第9回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第10回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第11回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第12回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第13回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第14回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進める
- 第15回 中国語テキストの講読を、受講生で分担し進め、これまでのまとめを行なう

授業以外での学習方法

受講生は、テキストについて必ず予習してくること。また、授業で扱われる時代などに関する文章を積極的に読み、知識の習得に心がけること。

教科書

プリントして配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業にて随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 外書研究c

担当者 小野 浩

テーマ

基礎的文法の解説およびアジア史関連英語文献選読

獲得目標

アジア史に関する英語文献をテキストにして、常に文法に留意しつつ精読する姿勢を習得する。単語を辞書で引いてそれを適当に組み合わせて意味の通るように日本語化する、といった態度を排し、まずなによりも文法的に読解することを目指す。したがってスピードにはこだわらず、まずはやさしい英文をゆっくりと読み進めることから始める。読む分量は少しずつであっても、毎週読み進めて行けば少なくとも《英語アレルギー》の度合いはいくぶんなりとも減少して行くはずである。

授業の内容

テキストは、アジアの歴史に関連するものを適宜選び、コピーして配布する。最初は日本語訳のある英文を扱い、なぜこう訳せるのか確認しつつ授業を進める。テキストごとに書誌的知識と歴史背景を解説する。出席者全員で輪読していくので、毎回充分な予習が必須となる。なお、テキストとして下記テキスト欄に挙げたものはあくまで一例である。

内 容

- 第1回 この授業の方針説明
- 第2回 テキストの解説
- 第3回 全員による輪読および内容の解説 その1
- 第4回 全員による輪読および内容の解説 その2
- 第5回 全員による輪読および内容の解説 その3
- 第6回 全員による輪読および内容の解説 その4
- 第7回 全員による輪読および内容の解説 その5
- 第8回 全員による輪読および内容の解説 その6
- 第9回 全員による輪読および内容の解説 その7
- 第10回 全員による輪読および内容の解説 その8
- 第11回 全員による輪読および内容の解説 その9
- 第12回 全員による輪読および内容の解説 その10
- 第13回 全員による輪読および内容の解説 その11
- 第14回 全員による輪読および内容の解説 その12
- 第15回 全員による輪読および内容の解説 その13

授業以外での学習方法

授業までに必ず文献の予習をしておくこと。

教科書

Islamic Central Asia—An Anthology of Historical Sources

著者: Scott C. Levy & Ron Cela (eds.)

出版社: Indiana University Press

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習 I <a>

担当者 増淵 徹

テーマ

日本古代史研究 I

獲得目標

古代史を研究する上で基本的な史料の読解や研究方法を修得し、次年度の卒業研究に必要な能力の向上を目的とする。講読(古代史)とは異なる史料(主に『日本紀略』)を扱い、徹底的に史料を読むなかで、史料から課題を析出し時代像を構成していくための基礎的な力量の向上を図ることに主眼を置く。

授業の内容

参加者各自に史料を割り当て、その読解レポートの報告を軸に授業を進める。参考文献は其中で適宜紹介する。なお、古代の遺跡や研究機関への見学(1回)、歴史学に関する講演会等(1回)を行う。

内 容

- 第1回 授業の進め方の解説。テキストの解説
 - 第2回 図書館の活用及び論文検索の方法の解説。レポートの作成方法の解説。
 - 第3回 史料の読解演習
 - 第4回 文化遺産見学(学外授業)
 - 第5回 個別発表(1)
 - 第6回 個別発表(2)
 - 第7回 個別発表(3)
 - 第8回 個別発表(4)
 - 第9回 個別発表(5)
 - 第10回 個別発表(6)
 - 第11回 個別発表(7)
 - 第12回 個別発表(8)
 - 第13回 個別発表(9)
 - 第14回 個別発表(10)
 - 第15回 後期演習への取り組みに関する指導
-

授業以外での学習方法

古代史に関する知識の量的拡充が何より重要であり、そのために可能な限りの多読を勧める。活字に親しもうとする意欲に欠くところのある学生は望まない。

教科書

国史大系『日本紀略』(該当部分)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史)

著者: 加藤友康(編)

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2002

ISBN:

『平安京の時代』(日本古代の歴史)

著者: 佐々木恵介

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2013

ISBN:

『摂関政治』(岩波新書)

著者: 古瀬奈津子

出版社: 岩波書店

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習 I

担当者 細川 涼一

テーマ

中世政治史・思想史・芸能史・民衆生活史の史料・論文を読む

獲得目標

中世史研究の状況を知るとともに、論文読解の方法を身につけ、自分自身の研究作成にむけた目標を設定していくことにしたい。

授業の内容

日本中世史関係の論文から、ゼミ参加者の興味のある論文を読むとともに、適宜ゼミ参加者の研究発表を行っていく。前期には、「東寺百合文書」から都市京都の民衆、東寺領荘園の農民の生活がうかがえる史料を読むと同時に、関連論文の講読を行っていく。なお歴史学に関する講演会等を1回行う。

内 容

- 第1回 「東寺百合文書」の講読(1)「東寺百合文書」とは
- 第2回 「東寺百合文書」の講読(2)東寺南大門前茶屋史料
- 第3回 「東寺百合文書」の講読(3)中世の茶屋をめぐる論文講読
- 第4回 「東寺百合文書」の講読(4)中世の茶屋をめぐる論文講読
- 第5回 「東寺百合文書」の講読(5)東寺と手猿楽史料
- 第6回 「東寺百合文書」の講読(6)東寺と手猿楽史料
- 第7回 「東寺百合文書」の講読(7)中世の猿楽能をめぐる論文講読
- 第8回 「東寺百合文書」の講読(8)中世の猿楽能をめぐる論文講読
- 第9回 「東寺百合文書」の講読(9)備中国新見荘のたまがき書状
- 第10回 「東寺百合文書」の講読(10)備中国新見荘のたまがき書状
- 第11回 「東寺百合文書」の講読(11)備中国新見荘の農民をめぐる論文講読
- 第12回 「東寺百合文書」の講読(12)備中国新見荘の農民をめぐる論文講読
- 第13回 「東寺百合文書」の講読(13)備中国新見荘の農民をめぐる論文講読
- 第14回 「東寺百合文書」の講読(14)山城国上下久世荘百姓等の起請文
- 第15回 「東寺百合文書」の講読(15)山城国上下久世荘百姓等の起請文

授業以外での学習方法

事前に配られた史料・論文を読んでおくこと。史料・論文はプリントで配布する。

教科書

プリントで配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (35%)

授業中課題 ()

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (35%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習 I <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

日本近世史研究の諸問題

獲得目標

研究するさいの基本的な技術や姿勢について理解を深める。

授業の内容

授業の前半では、近世前期の武家の書状を読み、近世前期の漢文史料の読み方・調べ方を習得してもらうことにする。そのさい、受講生には担当した史料に訓点を付し逐語訳を作成し報告してもらう。授業の後半では、江戸時代史に関する論文を輪読し、論文の要約のしかたや、研究文献の集め方などを学んでもらうことにする。なお、前期の最後には、400字詰原稿用紙で10枚程度のレポートを作成してもらう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ガイダンス
 - 第3回 近世前期の武家書状を読む
 - 第4回 近世前期の武家書状を読む
 - 第5回 近世前期の武家書状を読む
 - 第6回 近世前期の武家書状を読む
 - 第7回 近世前期の武家書状を読む
 - 第8回 近世前期の武家書状を読む
 - 第9回 近世前期の武家書状を読む
 - 第10回 近世前期の武家書状を読む
 - 第11回 江戸時代史に関する論文を輪読する
 - 第12回 江戸時代史に関する論文を輪読する
 - 第13回 江戸時代史に関する論文を輪読する
 - 第14回 江戸時代史に関する論文を輪読する
 - 第15回 まとめ、レポート作成に関するアドバイス
-

授業以外での学習方法

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、近世史に関する知識を増やすこと。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (35)

授業中発表等 (30)

参加度 (15)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習 I <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

日本近代史の諸問題

獲得目標

研究論文を読みこなし課題を発見するなど日本近代史を学ぶための必要な知識の習得。

授業の内容

各自が各自のテーマにもとづく著書・研究論文の内容を批判を交えながら報告し、全員で討論を行う。

内 容

- 第1回 ゼミの運営方法と卒論テーマを決めていく際の心得
 - 第2回 日本近代史に関する文献・史料の検索の仕方
 - 第3回 日本近代史に関する著書・研究論文の選択方法と読み方
 - 第4回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(1)
 - 第5回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(2)
 - 第6回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(3)
 - 第7回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(4)
 - 第8回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(5)
 - 第9回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(6)
 - 第10回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(7)
 - 第11回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(8)
 - 第12回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(9)
 - 第13回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(10)
 - 第14回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(11)
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

事前に配布された文献を読んでくること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習 I <a>

担当者 王 衛明

テーマ

中国史研究の最も基本となる文献の理解を軸に、歴史の意味や史料のあり方について議論する。

獲得目標

この授業では、東アジア史、とりわけ古代中国史発展の基本構造を理解するため、基本的な文献資料やその資料探索の方法について具体的に指導する。また読み方、内容理解の仕方を各個が関心を抱くテーマの報告、討論することを通して、問題意識を深めることを目的とする。また教員から史料提供することによって、様々な文献調査法、解釈、分析法を実践する。

授業の内容

内 容

- 第1回 発表の主旨を説明する
 - 第2回 研究の時代・地域を設定する
 - 第3回 各自の研究テーマを設定する
 - 第4回 各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
 - 第5回 各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
 - 第6回 学外授業(中国関連の寺社見学)
 - 第7回 発表及び講評・議論
 - 第8回 発表及び講評・議論
 - 第9回 発表及び講評・議論
 - 第10回 発表及び講評・議論
 - 第11回 学外授業(中国関連の常設展、或いは特別展見学)
 - 第12回 発表及び講評・議論
 - 第13回 改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
 - 第14回 改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習 I

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

獲得目標

専門論文の読み方を会得することを目標とする。また文献探索・収集の仕方も習得する。

授業の内容

前期は初めの3～4回分を使って中央アジア・西アジアの歴史に関する学術論文を選読し、歴史の専門論文とはいかなるものかを習得させる。専門論文を読む場合、内容全体はもとより一文一文をおろそかにせず徹底して精読する姿勢が要求される点で、通常の読書とは異なる。たとえ日本語の論文であろうと、その内容がほぼ理解できるとは限らないのである。読んでみても解らないとき、著者の論旨が把握し難いのか、それとも自分自身の知識不足ゆえに理解が及ばないからか、つまりどの点がどう解らないのかを明確に見定めることが肝要である。こうした点に留意しながら論文と言うものに慣れてもらう。論文内容に関しては担当者を決めてその担当者が用意したレジュメにもとづき、出席者で疑問点を出し合い討議する。それ以降、最終の15回までは出席者各自の研究発表ないしみずから選んだ論文の紹介を行なう。ただし、学外者を招いて講演会を開くこともある。

内 容

- 第1回 基本的工具類の紹介説明――目録・入門書・地図等
- 第2回 文献を探す――具体的に文献の所蔵確認およびその検索方法につき説明する
- 第3回 選定した学術論文の内容解説
- 第4回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その1
- 第5回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その2
- 第6回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その3
- 第7回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その1
- 第8回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その2
- 第9回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その3
- 第10回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その4
- 第11回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その5
- 第12回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その6
- 第13回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その7
- 第14回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その8
- 第15回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その9

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習 I <c>

担当者 松浦 京子

テーマ

西洋史に関する研究文献に基づく研究・報告

獲得目標

卒業論文作成に向けて、各自が問題(テーマ)を発見し、歴史に対する独自の視点を養い、また、文献検索の手法を習得することをめざす。

授業の内容

卒論作成に向けて必須のスキルとメソッドの獲得、テーマの設定、研究視点の多様性の認識を身につけるべく、2回の解説講義の後、指定論文の精読・分析を通じてテーマ・問題設定、内容展開について考える。以降は、各自が関心を持っている地域、時代(大まかな区分でかまわない)に関して、どのような歴史上の課題が設定できるかを念頭におきつつ、各自の関心に関わる研究論文をできるだけ広く収集し、精読し、4本の簡単な内容紹介と1本については詳細な内容紹介を行う。これらの学習を通じて、卒論のテーマのしぼり込みを行う。ゼミ生各自の一回目の報告が終了した時点で、おおよそのテーマ(関心対象となる事件、事象、もしくは地域、時代が)絞られてきていることが求められる。それに基づき、以降は、各自がテーマに沿った文献リストを作成し、簡単な研究動向を報告する。なお、期間中に歴史学に関する講演会を1回行う。なお、歴史学に関する講演会等(1回)を行う場合がある。

内 容

- 第1回 歴史研究とは何かについて。本ゼミの目的についての講義
- 第2回 図書館ガイダンスに基づく、専門文献の検索の手法ならびに入手法についての説明
- 第3回 学術論文について考察する。松浦論文を用いて、文献の精読(批判的精読)、研究の視点、分析手法、論文構成について学ぶ。
- 第4回 松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う①
- 第5回 松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う②
- 第6回 ゼミ生報告1-①と質疑応答
- 第7回 ゼミ生報告1-②と質疑応答
- 第8回 ゼミ生報告1-③と質疑応答
- 第9回 ゼミ生報告1-④と質疑応答
- 第10回 ゼミ生報告1-⑤と質疑応答
- 第11回 ゼミ生報告1-⑥と質疑応答
- 第12回 ゼミ生報告1-⑦と質疑応答、ゼミ生報告2-①とリストのチェック
- 第13回 ゼミ生報告2-②とリストのチェック
- 第14回 ゼミ生報告2-③とリストのチェック
- 第15回 夏休み中の研究の進め方、課題設定について

授業以外での学習方法

参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容を関心にそって分析・整理する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史演習 I <a>

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本現代史の諸問題

獲得目標

この授業では、卒業論文作成に向けて、各自のテーマをみつけて研究を進めていく準備を行います。発表と質疑応答を通じ、各自のテーマを深めて具体化していくことを目的とします。

授業の内容

最初は、卒業論文を書くためのガイダンスを行います。その後、各自のテーマを決定し、発表を行います。発表に対して質問することも重要です。発表と質疑応答を通じて、卒業論文の内容を高めていきましょう。なお、外部講師の招請・校外学習を行う場合があります。

内 容

- 第1回 卒業論文の書き方、テーマ設定の方法
 - 第2回 テーマの発表と文献の探し方
 - 第3回 発表の方法を学ぶ
 - 第4回 テーマ選択の動機の発表会
 - 第5回 個人発表(1)
 - 第6回 個人発表(2)
 - 第7回 個人発表(3)
 - 第8回 個人発表(4)
 - 第9回 個人発表(5)
 - 第10回 個人発表(6)
 - 第11回 個人発表(7)
 - 第12回 個人発表(8)
 - 第13回 これからの計画発表(1)
 - 第14回 これからの計画発表(2)
 - 第15回 これからの計画発表(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史演習 I

担当者 南 直人

テーマ

現代史研究の諸問題

獲得目標

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。

授業の内容

まず最初に全体的なガイダンスをおこない、テーマを選ぶ際の注意、学術論文の探し方を学んだあと、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

内 容

- 第1回 卒論の書き方、テーマ、卒業後の進路
 - 第2回 専門書・論文の探索方法、図書館利用方法
 - 第3回 卒業研究に関する基礎知識、これまでの卒業論文の内容の学習
 - 第4回 個別発表1回目(1)
 - 第5回 個別発表1回目(2)
 - 第6回 個別発表1回目(3)
 - 第7回 個別発表1回目(4)
 - 第8回 個別発表1回目(5)
 - 第9回 個別発表1回目(6)
 - 第10回 個別発表2回目(1)
 - 第11回 個別発表2回目(2)
 - 第12回 個別発表2回目(3)
 - 第13回 個別発表2回目(4)
 - 第14回 個別発表2回目(5)
 - 第15回 個別発表2回目(6)
-

授業以外での学習方法

自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 民俗学 I

担当者 橋本 章彦

テーマ

宗教民俗学入門

獲得目標

現代を生きる我々の問題として「民俗」を考えてみたい。その為に講義では、我々にとってできる限り身近な民俗的事象を取り上げる。中には、一見して民俗と何の関わりもないような話題についても考察を加えることになるであろう。皆さんは、それらの検討を通じて、現代生活と民俗の深い関わりを認識し、自分自身を民俗の視点から、今一度見つめ直す機会として欲しい。

授業の内容

以下の予定にしたがって講義を展開する。

内 容

- 第1回 柳田国男の人と学問—導入的観点から
- 第2回 民俗と民俗学そして宗教民俗学について(目的、方法、対象など)
- 第3回 「傘」の宗教民俗学—なぜ人は相合い傘を画くのか—
- 第4回 ご先祖様が帰ってくる—盆行事の現代的意義を考える(1)—
- 第5回 ご先祖様が帰ってくる—盆行事の現代的意義を考える(2)—
- 第6回 ご先祖様が帰ってくる—盆行事の現代的意義を考える(3)—
- 第7回 怪獣民俗論—『ゴジラ』(1954)の鑑賞
- 第8回 怪獣民俗論—ゴジラの出現を民俗的世界観から考える—
- 第9回 怪獣民俗論—怪獣についての現代的イメージの源をさぐる—
- 第10回 怪獣民俗論—アメリカゴジラと日本ゴジラの比較民俗—
- 第11回 戦争と民俗—戦時下にはどのような民俗が生まれたか—
- 第12回 都市伝説の民俗学—戦時下世間話の中の神々(1)—
- 第13回 都市伝説の民俗学—戦時下世間話の中の神々(2)
- 第14回 民俗的境界論—境界は如何なる方法で造られたか—
- 第15回 まとめにかえて—フィールドワーク方法論

授業以外での学習方法

民俗学の入門書を一冊くらいは読むのが望ましい。また宗教学の講義を受けたり、もしくは概説書を読んで宗教について理解を深めておくことも重要である。

教科書

プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

民俗学概論

著者: 福田アジオ・宮田登編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

現代民俗学入門

著者： 佐野賢治編

出版社： 吉川弘文館

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（50）

・参加度とは出席率を意味する。3分の2以上の出席者を採点対象として点数化する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミ I <a>

担当者 一瀬 和夫

テーマ

考古学事象の観察、記録、解釈の流れをつかむ。

獲得目標

I hear and I forget. I see and I remember. I do and I understand. をもとに、自己の研究課題の設定方法を修得する。

授業の内容

野外や教室での発表、ワークショップを行う。

内 容

- 第1回 『選択する』考古学、パラダイムの転換、データと理論
- 第2回 史跡の見学発表の検討
- 第3回 史跡での見学発表(学外授業)
- 第4回 「状況」コンテキストと発掘調査報告の整理方法
- 第5回 オブジェクト・ワークショップ(はさみ、のり・テープ・ホッチキス使用)
- 第6回 オブジェクト・レポート発表(複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ)①
- 第7回 オブジェクト・レポート発表(複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ)②
- 第8回 「もの」がもつ観念構成的な領域と機能
- 第9回 「もの」からくるライフサイクルを考えるためのテーマの設定
- 第10回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論①
- 第11回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論②
- 第12回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論③
- 第13回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論④
- 第14回 考古学的コンテキストを検討する
- 第15回 さらなるレポートの課題の報告と研究の見通し

授業以外での学習方法

気に入ったものをつねに探す。博物館・ショッピング街などにあるものと展示を意識的に見学する。

教科書

参考書

古墳の研究 調べ学習日本の歴史2

著者: 一瀬和夫監修

出版社: ポプラ社

出版年: 2000

ISBN: 9784591063774

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミ I

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の内容

文献史料(翻刻史料)を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 文献史料を読む(1)
 - 第3回 文献史料を読む(2)
 - 第4回 文献史料を読む(3)
 - 第5回 文献史料を読む(4)
 - 第6回 文献史料を読む(5)
 - 第7回 文献史料を読む(6)
 - 第8回 文献史料を読む(7)
 - 第9回 学外授業
 - 第10回 くずし字を読む(1)
 - 第11回 くずし字を読む(2)
 - 第12回 くずし字を読む(3)
 - 第13回 くずし字を読む(4)
 - 第14回 くずし字を読む(5)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

博物館や美術館の展示を積極的に見学する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミ I <C>

担当者 小林 裕子

テーマ

美術史研究の入門編として、その方法論を知り、体験する。

獲得目標

本講義では観察と研究史の検討により、関連作例や時代背景を織り込みつつ対象を客観的に分析する視点を養うことを目標とする。なお、必要に応じて学外見学を実施する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 美術史概説① 宗教美術とは何か
 - 第3回 美術史概説② 仏伝
 - 第4回 美術史概説③ 仏教東漸
 - 第5回 作品観察と討論
 - 第6回 仏像のディスクリプション
 - 第7回 テーマ論文講読と討論
 - 第8回 美術史概説④ 絵巻物
 - 第9回 美術史概説⑤ やまと絵と漢画
 - 第10回 作品観察と討論
 - 第11回 絵画のディスクリプション
 - 第12回 テーマ論文講読と討論
 - 第13回 学外見学
 - 第14回 研究史を調べる・読む・執筆する
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

京都、奈良の寺院、博物館や美術館で積極的に実物に接することをのぞむ。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 美術工芸史研究 I

担当者 小林 裕子

テーマ

日本美術形成とその展開

獲得目標

日本美術史の諸問題に触れ、作品の理解はもとより、従来の研究方法や研究史を客観的に分析評価できる視点を養うことを目標とする。

授業の内容

古代における芸術表現は自らの美意識を満足させるための造形活動ではなく、意識的に外来の文化を摂取しようとしていた為政者の要求によるものであった。つくり手たちはその要求に応えるべく外来文化の模倣を出発点として、技術や表現技法を取得していく。こうした時代を経た後、わが国独特の自然や民族性を織り込んだ、いわゆる和様という文化が確立されていくのである。本講義では、祖先から継承してきたわが国の特筆すべき美術作品の制作された時代背景や宗教観を理解しつつ、作品が我々に語りかけるものを感じてとってもらいたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 天寿國繡帳のイコノロジー
 - 第3回 法隆寺再建非再建論争
 - 第4回 阿修羅の面貌の秘密 興福寺西金堂釈迦集会像
 - 第5回 造東大寺司の活動 大仏造立と正倉院宝物
 - 第6回 唐代美術の日本への伝播 長安旧光宅寺石仏龕と聖林寺十一面観音像
 - 第7回 新文化の刺激 唐招提寺金堂三尊と鑑真和上
 - 第8回 空海のもたらした文化 東寺講堂諸像と曼荼羅
 - 第9回 学外見学
 - 第10回 煌めく浄土の世界 平等院・三十三間堂・浄瑠璃寺
 - 第11回 治承の兵火と南都復興
 - 第12回 運慶と東国の仏像
 - 第13回 神護寺伝源頼朝像をめぐる諸問題
 - 第14回 美術史的京都案内2014年度版
 - 第15回 狩野永徳と長谷川等伯
 - 第16回 理解度の確認
-

授業以外での学習方法

奈良や京都の寺院に足を運び、信仰対象としての作品の姿を実感する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習 I <a>

担当者 巽 淳一郎

テーマ

研究テーマを設定し、先行研究論文を批判的に解説する。

獲得目標

論文を読む力を付け、論文の論理性を確認し問題点や課題を見つける。

授業の内容

各自研究テーマの先行研究論文を読み解き、みんなの前で発表し、意見・批判を聞き、至らない所を自覚し、研究の向上を図る。

内 容

- 第11回 ゼミ発表・討論。
 - 第12回 ゼミ発表・討論。
 - 第13回 ゼミ発表・討論。
 - 第14回 ゼミ発表・討論。
 - 第15回 総括。全体討議。
 - 第1回 ゼミ方式のガイダンス、ゼミ発表予定の策定。
 - 第2回 学外授業。
 - 第3回 各自の研究テーマと先行研究論文のリストアップ。
 - 第4回 ゼミ発表・討論。
 - 第5回 ゼミ発表・討論。
 - 第6回 ゼミ発表・討論。
 - 第7回 ゼミ発表・討論。
 - 第8回 ゼミ発表・討論。
 - 第9回 ゼミ発表・討論。
 - 第10回 ゼミ発表・討論。
-

授業以外での学習方法

学外授業の場となる遺跡の下調べ。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

発表内容・発表方法の工夫などに参加度を勘案して成績評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産学演習 I **

担当者 登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学研究の方法を学ぶ

獲得目標

歴史遺産学に関して各自の興味を持つ研究テーマを設定し、それについて研究成果と課題を確認する。

授業の内容

各自の設定した研究テーマについて、先行研究の成果と課題について発表する。さらに、テーマに関連する代表的な研究論文を参加者全員で講読し、討論を行う。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス1 歴史遺産学研究の進め方について
 - 第2回 ガイダンス2 研究論文の検索と読み方について
 - 第3回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読1
 - 第4回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読2
 - 第5回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読3
 - 第6回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読4
 - 第7回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読5
 - 第8回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読6
 - 第9回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読7
 - 第10回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読8
 - 第11回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読9
 - 第12回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読10
 - 第13回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読11
 - 第14回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読12
 - 第15回 研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読13
-

授業以外での学習方法

各自の設定したテーマに関する文献(概説書・新書・選書など)を積極的に読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (35)

a10413a112

この授業では、発表の内容はもちろん、討論への参加度を重視する。そのためには、授業での配布物にあらかじめ目を通しておくことが必要となる。この点をしっかりと理解した上で授業に出席して欲しい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習 I <c>

担当者 小林 裕子

テーマ

嘉承元年(1106)頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

獲得目標

親通の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、学外見学・学部講師による特別講義を実施することがある。

授業の内容

本演習では、『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。

内 容

- 第1回 ガイダンス及び『七大寺日記』解題
- 第2回 東大寺条(東大寺のみ概略解説)
- 第3回 興福寺条
- 第4回 興福寺条
- 第5回 興福寺条
- 第6回 興福寺条
- 第7回 元興寺条
- 第8回 元興寺条
- 第9回 元興寺条
- 第10回 元興寺条
- 第11回 西大寺条
- 第12回 西大寺条
- 第13回 西大寺条
- 第14回 学外見学あるいは外部講師による特別講義
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記

著者： 藤田経世

出版社： 中央公論美術出版

出版年： 1972年

ISBN:

参考書

奈良六大寺大観(全14巻)

著者： 奈良六大寺大観刊行会

出版社： 岩波書店

出版年： 1999~2001年

ISBN:

日本の古寺美術シリーズ

著者:

出版社: 保育社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習 I <d>

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の古文書を読む(初級)

獲得目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の内容

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 演習(1)
 - 第3回 演習(2)
 - 第4回 演習(3)
 - 第5回 演習(4)
 - 第6回 学外授業
 - 第7回 演習(5)
 - 第8回 演習(6)
 - 第9回 演習(7)
 - 第10回 演習(8)
 - 第11回 学外授業
 - 第12回 演習(9)
 - 第13回 演習(10)
 - 第14回 演習(11)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN:

成績評価

a10413a114

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (60)
出席を重視する。

小テスト (40)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代と教育

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

教師として身につけるべき現代認識

獲得目標

私たちはどのような時代を生きているかを同時代的視点から捉えるとともに、現代社会が取り組むべき教育の課題を考える。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設の状況を知って、自らの進路を考える資質を養う。

授業の内容

現代認識を身につけるためのテーマとして平和の問題とジェンダーの問題を取り上げる。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設で働く人をゲストティーチャーとして招き講演を組織する。

内 容

- 第7回 学校現場から教育を考える①:小学校
 - 第8回 学校現場から教育を考える②:幼稚園
 - 第9回 保育士の仕事を考える
 - 第10回 福祉施設で働くということ
 - 第11回 ジェンダーと教育(1)
 - 第12回 ジェンダーと教育(2)
 - 第13回 日本国憲法で日本が求めた社会はどのようなものだったのか
 - 第14回 唯一の被爆国日本が原発政策を進めたのはなぜか
 - 第15回 劣化ウランの被害を受けているイラクの子どもたちから「フクシマ」を考える
 - 第1回 修学旅行と平和教育:ヒロシマ・ナガサキを考えることの意味
 - 第2回 被曝者の体験を聞くことの意味
 - 第3回 「はだしのゲン」の訴えたかったことは何か
 - 第4回 「サダコ」の物語から何を学ぶか
 - 第5回 「核の被害は私を最後にして欲しい」の願いにどう応えたか
 - 第6回 「フクシマ」は今どうなっているのか
-

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される国際情勢や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

教科書

授業内で配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a30101ad10

試験 (0)
授業中課題 (60)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育心理学(初)**

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

子どもの発達と教育

獲得目標

教育心理学の基礎概念の習得を通じて、子どもの発達と教育のかかわりについての理解を深める。具体的には、「発達理論」、「学習理論」、「人格理論」、「教育評価理論」等の柱を立てて、そこでの基礎概念の習得を通じて、子どもに対する指導や援助の基本的な視点を獲得することができるようにすること。

授業の内容

教育現場の様々な問題を取り上げ、その背後にある課題を心理学的に考察する

内 容

- 第1回 教育心理学とは、本講義が目指すもの
- 第2回 系統発生と個体発生、子どもの発達にとって必要な基本条件
- 第3回 発達の原理と発達段階
- 第4回 ピアジェの発生的認識論とヴィゴツキーの社会文化的発達論
- 第5回 学習の原理と学習理論、行動主義とゲシュタルト学説
- 第6回 忘却の原理と忘却理論
- 第7回 学習動機とその発達(障がいのある児童の学習課程を含む)
- 第8回 人格の構造と人格理論(障がいのある児童の発達を含む)
- 第9回 欲求の階層構造と人格発達
- 第10回 子どもの行動と防衛機制
- 第11回 教育評価とは、指導と評価
- 第12回 絶対評価、相対評価、到達度評価
- 第13回 関心・意欲・態度と教育評価
- 第14回 試験
- 第15回 試験問題の解説と授業のまとめ

授業以外での学習方法

授業は包括的、概論的なものとなるため、それを補う意味で、各柱立てに沿ってのレポート(計4回、各1200字程度)を求め、その際、提示された参考文献を必ず参照することを求める。

教科書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a30101d250

試験 (70)
授業中課題 (30)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習 <A>**

担当者 倉持 祐二

テーマ

児童の指導に関する実践記録を読み、教育観・指導観・子ども観について学ぶ。

獲得目標

子どもの表現(特に詩)から子どもを理解することの意義と方法を学ぶ。グループでの話し合いを組織し、まとめ、発表する力を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(教職教育としての学びについて)
- 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第3回 『心ってこんなに動くんだ』① グループ討議と発表
- 第4回 『心ってこんなに動くんだ』② グループ討議と発表
- 第5回 『心ってこんなに動くんだ』③ グループ討議と発表
- 第6回 フィールドワークの中間まとめ
- 第7回 『心ってこんなに動くんだ』④ グループ討議と発表
- 第8回 『心ってこんなに動くんだ』⑤ グループ討議と発表
- 第9回 『心ってこんなに動くんだ』⑥ グループ討議と発表
- 第10回 西條先生の講演(予定)
- 第11回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ①
- 第12回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ②
- 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」のプラン作成
- 第14回 フィールドワークのまとめ
- 第15回 基礎演習の総括

授業以外での学習方法

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。

教科書

心ってこんなに動くんだ

著者： 西條昭男

出版社： 新日本出版社

出版年： 2006年

ISBN:

参考書

子どもが伸びるとき ―荒れる高学年の克服―

著者： 西條昭男

出版社： 駒村出版

出版年： 1989年

ISBN:

成績評価

a30102aa10

試験 ()
授業中課題 (50%)
参加度 (20%)

小テスト ()
授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習 **

担当者 池田 修

テーマ

児童の指導に関する実践記録を読み、教育観・指導観・子ども観について学ぶ。

獲得目標

子どもの表現(特に詩)から子どもを理解することの意義と方法を学ぶ。グループでの話し合いを組織し、まとめ、発表する力を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(教職教育としての学びについて)
- 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第3回 『心ってこんなに動くん』① グループ討議と発表
- 第4回 『心ってこんなに動くん』② グループ討議と発表
- 第5回 『心ってこんなに動くん』③ グループ討議と発表
- 第6回 フィールドワークの中間まとめ
- 第7回 『心ってこんなに動くん』④ グループ討議と発表
- 第8回 『心ってこんなに動くん』⑤ グループ討議と発表
- 第9回 『心ってこんなに動くん』⑥ グループ討議と発表
- 第10回 西條先生の講演(予定)
- 第11回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ①
- 第12回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ②
- 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」のプラン作成
- 第14回 フィールドワークのまとめ
- 第15回 基礎演習の総括

授業以外での学習方法

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。

教科書

心ってこんなに動くん

著者： 西條昭男

出版社： 新日本出版社

出版年： 2006年

ISBN:

参考書

授業で指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a30102aa12

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習 <C>**

担当者 三上 周治

テーマ

児童の指導に関する実践記録を読み、教育観・指導観・子ども観について学ぶ。

獲得目標

子どもの表現(特に詩)から子どもを理解することの意義と方法を学ぶ。グループでの話し合いを組織し、まとめ、発表する力を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(教職教育としての学びについて)
- 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第3回 『心ってこんなに動くん』① グループ討議と発表
- 第4回 『心ってこんなに動くん』② グループ討議と発表
- 第5回 『心ってこんなに動くん』③ グループ討議と発表
- 第6回 フィールドワークの中間まとめ
- 第7回 『心ってこんなに動くん』④ グループ討議と発表
- 第8回 『心ってこんなに動くん』⑤ グループ討議と発表
- 第9回 『心ってこんなに動くん』⑥ グループ討議と発表
- 第10回 西條先生の講演(予定)
- 第11回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ①
- 第12回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ②
- 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」のプラン作成
- 第14回 フィールドワークのまとめ
- 第15回 基礎演習の総括

授業以外での学習方法

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。

教科書

心ってこんなに動くん

著者： 西條昭男

出版社： 新日本出版社

出版年： 2006年

ISBN:

参考書

授業で指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a30102aa13

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習 <D>**

担当者 神谷 栄司

テーマ

「自分で考える」ということを考える。

獲得目標

何冊かある哲学に関する絵本を教材にし、自分の思考について意識させ、自主的な思考を育てることを目指す。

授業の内容

1)文献の講読・討論を行う。2)ちびっ子ランドなどを念頭においてクラスとしての活動に取り組む。3)ゼミ内の意思疎通を良くするため親睦の活動を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、クラスとしての計画
 - 第2回 文献講読と討論
 - 第3回 文献講読と討論
 - 第4回 文献講読と討論
 - 第5回 文献講読と討論
 - 第6回 文献講読と討論
 - 第7回 文献講読と討論
 - 第8回 文献講読と討論
 - 第9回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第10回 文献講読と討論
 - 第11回 文献講読と討論
 - 第12回 文献講読と討論
 - 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第14回 文献講読と討論
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

毎回の授業に対するコメントを書くと共に、他の学生のコメントを読み、内容を深める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習 <E>**

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

獲得目標

必修課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、観察した事実と関連する文献の講読・討論を通して、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法についての視点を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 体験学習の意義と概要
 - 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
 - 第4回 体験学習(5月)の振り返り
 - 第5回 文献講読と討論
 - 第6回 文献講読と討論
 - 第7回 文献講読と討論
 - 第8回 文献講読と討論
 - 第9回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第10回 体験学習(6月)の振り返り
 - 第11回 文献講読と討論
 - 第12回 文献講読と討論
 - 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第14回 体験学習(7月)の振り返り
 - 第15回 今後の課題
-

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回(午前中半日)の体験学習(フィールドワーク)を行う。また、子どもや保育に関するさまざまな文献・資料を読むよう、心がける。

教科書

参考書

育ちあう乳幼児心理学

著者: 心理科学研究会 編

出版社: 有斐閣

出版年: 2000年

ISBN: 4-641-07634-0

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習 <F>**

担当者 青木 美智子

テーマ

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

獲得目標

必修課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、観察した事実と関連する文献の講読・討論を通して、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法についての視点を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 体験学習の意義と概要
 - 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
 - 第4回 体験学習(5月)の振り返り
 - 第5回 文献講読と討論
 - 第6回 文献講読と討論
 - 第7回 文献講読と討論
 - 第8回 文献講読と討論
 - 第9回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第10回 体験学習(6月)の振り返り
 - 第11回 文献講読と討論
 - 第12回 文献講読と討論
 - 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第14回 体験学習(7月)の振り返り
 - 第15回 今後の課題
-

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回(午前中半日)の体験学習(フィールドワーク)を行う。また、子どもや保育に関するさまざまな文献・資料を読むよう、心がける。

教科書

参考書

育ちあう乳幼児心理学

著者： 心理科学研究会 編

出版社： 有斐閣

出版年： 2000年

ISBN： 4-641-07634-0

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (50%)

参加度 (0%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus**科目名 基礎演習 <G>****担当者 森本 美絵****テーマ**

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

獲得目標

必修課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、観察した事実と関連する文献の講読・討論を通して、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法についての視点を深める。

授業の内容**内 容**

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 体験学習の意義と概要
- 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第4回 体験学習(5月)の振り返り
- 第5回 文献講読と討論
- 第6回 文献講読と討論
- 第7回 文献講読と討論
- 第8回 文献講読と討論
- 第9回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
- 第10回 体験学習(6月)の振り返り
- 第11回 文献講読と討論
- 第12回 文献講読と討論
- 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
- 第14回 体験学習(7月)の振り返り
- 第15回 今後の課題

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回(午前中半日)の体験学習(フィールドワーク)を行う。また、子どもや保育に関するさまざまな文献・資料を読むよう、心がける。

教科書**参考書**

育ちあう乳幼児心理学

著者： 心理科学研究会 編

出版社： 有斐閣

出版年： 2000年

ISBN： 4-641-07634-0

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教科教育法(図画工作) <a>

担当者 大久保 恭子

テーマ

小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ。

獲得目標

小学校図画工作科の指導に必要な基礎知識を習得する。学童期の発達段階と表現様式・内容を理解し、具体的な指導法を理解する。

授業の内容

図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画)
- 第2回 図画工作指導法①「図画工作科の目標と内容」
- 第3回 図画工作指導法②「各学年の目標と内容(1)」
- 第4回 図画工作指導法③「各学年の目標と内容(2)」
- 第5回 図画工作指導法④「各学年の目標と内容(3)」
- 第6回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①
- 第7回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②
- 第8回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開③
- 第9回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開④(学級の仲間の作品)
- 第10回 実践に向けて「学習指導案」
- 第11回 実践に向けて「学習指導案」作成
- 第12回 教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」
- 第13回 教育実習に向けて「図画工作指導計画②模擬授業(中学年授業)と検証」
- 第14回 教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業(高学年授業)と検証」
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

○自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。○教育現場でのボランティア・フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。○自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行う。

教科書

小学校学習指導要領解説「図画工作編」

著者:

出版社: 文部科学省

出版年: 2008

ISBN:

参考書

小学校指導法 図画工作

著者: 渡辺千恵子編

出版社: 玉川大学出版部

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

a30102g310

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教科教育法(図画工作) **

担当者 大久保 恭子

テーマ

小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ。

獲得目標

小学校図画工作科の指導に必要な基礎知識を習得する。学童期の発達段階と表現様式・内容を理解し、具体的な指導法を理解する。

授業の内容

図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画)
- 第2回 図画工作指導法①「図画工作科の目標と内容」
- 第3回 図画工作指導法②「各学年の目標と内容(1)」
- 第4回 図画工作指導法③「各学年の目標と内容(2)」
- 第5回 図画工作指導法④「各学年の目標と内容(3)」
- 第6回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①
- 第7回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②
- 第8回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開③
- 第9回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開④(学級の仲間の作品)
- 第10回 実践に向けて「学習指導案」
- 第11回 実践に向けて「学習指導案」作成
- 第12回 教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」
- 第13回 教育実習に向けて「図画工作指導計画②模擬授業(中学年授業)と検証」
- 第14回 教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業(高学年授業)と検証」
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

○自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。○教育現場でのボランティア・フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。○自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行う。

教科書

小学校学習指導要領解説「図画工作編」

著者:

出版社: 文部科学省

出版年: 2008

ISBN:

参考書

小学校指導法 図画工作

著者: 渡辺千恵子編

出版社: 玉川大学出版部

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

a30102g312

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教科教育法(体育) <a>

担当者 口野 隆史

テーマ

自分の体育授業で、どんな子どもに育ててほしいのかを考える

獲得目標

まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を(理想でもよいのである程度)描けるようにする。

授業の内容

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

内 容

- 第1回 自分の受けて来た体育授業を振り返る 体育授業の目的・目標
- 第2回 体育授業で子どもたちに学ばせたい内容
- 第3回 体育授業の指導方法と評価
- 第4回 優れた体育授業について学ぶ
- 第5回 陸上競技① 陸上競技の授業実践を学ぶ
- 第6回 陸上競技② 模擬授業「短距離走」を題材に
- 第7回 陸上競技③ 模擬授業「リレー」を題材に
- 第8回 器械運動① マット・跳び箱の授業実践を学ぶ
- 第9回 器械運動② 模擬授業「側転」を題材に
- 第10回 器械運動③ 模擬授業「お話マット」を題材に
- 第11回 球技① 球技の授業実践を学ぶ
- 第12回 球技② 模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に
- 第13回 球技③ 模擬授業「フラッグフットボール」を題材に
- 第14回 模擬授業を振り返り「指導案」を修正する
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

1. クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらった時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみてください。2. テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。

教科書

小学校学習指導要領解説 体育編

著者:

出版社: 東洋館出版社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

授業で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a30102g410

試験 ()
授業中課題 (40)
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教科教育法(体育) **

担当者 口野 隆史

テーマ

自分の体育授業で、どんな子どもに育ててほしいのかを考える

獲得目標

まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を(理想でもよいのである程度)描けるようにする。

授業の内容

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

内 容

- 第1回 自分の受けて来た体育授業を振り返る 体育授業の目的・目標
- 第2回 体育授業で子どもたちに学ばせたい内容
- 第3回 体育授業の指導方法と評価
- 第4回 優れた体育授業について学ぶ
- 第5回 陸上競技① 陸上競技の授業実践を学ぶ
- 第6回 陸上競技② 模擬授業「短距離走」を題材に
- 第7回 陸上競技③ 模擬授業「リレー」を題材に
- 第8回 器械運動① マット・跳び箱の授業実践を学ぶ
- 第9回 器械運動② 模擬授業「側転」を題材に
- 第10回 器械運動③ 模擬授業「お話マット」を題材に
- 第11回 球技① 球技の授業実践を学ぶ
- 第12回 球技② 模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に
- 第13回 球技③ 模擬授業「フラッグフットボール」を題材に
- 第14回 模擬授業を振り返り「指導案」を修正する
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

1. クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらった時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみてください。2. テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。

教科書

小学校学習指導要領解説 体育編

著者:

出版社: 東洋館出版社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

授業で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a30102g412

試験 ()
授業中課題 (40)
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **こどもの保健 I - 2**

担当者 安藤 忠 齋藤 洋子

テーマ

子どもの疾病とその予防および適切な対応、子どもの生活と事故予防、保育環境について学ぶ。

獲得目標

1. 子どもにみられる症状の特徴とその対処を理解する。2. 子ども心の健康と課題について理解する。3. 子どもの安全な生活のための配慮と関係機関の連携について理解する。

授業の内容

子どもの病気の特徴と対応、心の健康、事故と安全等について、教科書とプリントの併用で進める。

内 容

- 第1回 子どもの病気の特徴
 - 第2回 子どもに多い症状への対応 I
 - 第3回 子どもに多い症状への対応 II
 - 第4回 子どもに多い症状への対応 III
 - 第5回 予防接種
 - 第6回 子どもの生活と環境
 - 第7回 子どもの心身症と精神疾患
 - 第8回 子ども心の健康と課題 I
 - 第9回 子ども心の健康と課題 II
 - 第10回 子ども心の健康と課題 III
 - 第11回 保育環境整備
 - 第12回 事故と安全 I
 - 第13回 事故と安全 II
 - 第14回 健康・安全の実施体制
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

図表で学ぶ子どもの保健 I

著者： 加藤忠明・岩田力 編著

出版社： 建帛社

出版年：

ISBN：

参考書

よくわかる子どもの保健

著者： 竹内義博・大矢憲明 編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年：

ISBN：

成績評価

a30102h310

試験 (80)
授業中課題 ()
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保育実習指導Ⅲ**

担当者 塩見 哲史

テーマ

授業の意義・目的・内容を理解し、実習前後の学びを通し施設職員としての素養を学ぶ。

獲得目標

①保育実習Ⅲの意義・目的・内容の理解ができる。②保育士・児童指導員の業務内容や職業倫理について理解を深める。③入所児童のおかれている家庭環境や地域の生活実態に触れ児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識・技術・判断力を実践し養う。④保育士・児童指導員を目指す者として自己の課題を明確にすることができる。⑤児童自立支援計画票の作成、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。

授業の内容

将来の児童福祉施設職員を志す者たちが集い、既に保育実習Ⅰ～Ⅱで学んだ経験を語り合い、児童福祉施設等の保育士・児童指導員に求められる資質・能力・技術の獲得を目指し討論形式で進める。

内 容

- 第1回 【実習事前指導1】: 受講の意思確認と保育実習Ⅰ～Ⅱを終えての内容と自己課題を振り返り、実習目標を設定する。
- 第2回 【実習事前指導2】: 「生活施設の職員とは？」をテーマに討論形式で展開する。(debate・インタビューゲーム含む)
- 第3回 【実習事前指導3】: 施設の実体験を基に社会的養護及び児童家庭福祉のあり方について学ぶ。
- 第4回 【実習事前指導4】: 支援計画をたてるポイントについて展開する。
- 第5回 【実習事前指導5】: 実習直前における諸注意と実習目標設定の最終確認を行う。
- 第6回 【実習事後指導1】: ①実習の報告を基に振り返りを行う。
- 第7回 【実習事後指導2】: ②実習の報告を基に振り返りを行う。
- 第8回 【実習事後指導3】: 実習評価表を基に自己評価及び課題の整理と保育実習Ⅲのまとめを行う。
-

授業以外での学習方法

保育実習Ⅲを履修しようとする自己の姿勢について整理を行っておく。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (30%)

授業中の課題(レポート含む)及び実習施設からの「評価表」・「実習日誌」等も含め総合的に評価する

a30103e780

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening I <a>**

担当者 西村 友美

テーマ

英語のリズムとイントネーションの体得

獲得目標

特に日本人が苦手とする英語特有のリズムとイントネーションに気づき、慣れることをめざす。

授業の内容

テキストを中心に、身近なトピックスとバラエティーにとんだアクティビティーでリスニングの基礎づくりをする。また、特に日本人が苦手とする英語特有のリズムとイントネーションに気づき、慣れることを目指す。中間・終了テスト以外に、小テストをする。

内 容

- 第1回 授業の説明、リズムの基本
 - 第2回 自己紹介、英語のリズム
 - 第3回 要望の仕方
 - 第4回 旅行の計画、ビデオ—日本人のリスニングの弱点(1)
 - 第5回 公共交通機関の使い方、ビデオ—日本人のリスニングの弱点(2)
 - 第6回 レストランでの注文、ビデオのまとめ—レポート提出
 - 第7回 中間テストとまとめ
 - 第8回 強く発音される音(1)
 - 第9回 道を尋ねる、強く発音される音(2)
 - 第10回 ショッピング、弱く撥音される音(1)
 - 第11回 紛失物、弱く撥音される音(2)
 - 第12回 病院で
 - 第13回 経験を伝える
 - 第14回 旅慣れる
 - 第15回 終了テストとまとめ
-

授業以外での学習方法

アウトプット(授業で説明するシャドーイングなど)を日課的に行う。自分の気に入ったマテリアル(映画や音楽)を選んでどんどん聞く。

教科書

Adventures Abroad

著者: Dale Fuller Kevin Cleary

出版社: MACMILLAN LANGUAGEHOUSE

出版年: 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening I **

担当者 山崎 清水

テーマ

リスニング能力を体得

獲得目標

リスニング能力を体得することで英語で日常会話ができるようになることを目指す。

授業の内容

世界各国の様子を紹介するDVDを観てリスニングの力を習得する。

内 容

- 第1回 Victoria, Canada
 - 第2回 Cameroon
 - 第3回 North Island, New Zealand
 - 第4回 Nepal
 - 第5回 まとめ
 - 第6回 Birmingham, England
 - 第7回 Nice, France
 - 第8回 Wisconsin, U.S.A.
 - 第9回 Rio, Brazil
 - 第10回 まとめ
 - 第11回 Wicklow, Ireland
 - 第12回 Geneva, Switzerland
 - 第13回 Gold Coast, Australia
 - 第14回 St. Andrews, Scotland
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

日頃から積極的に英語を聴くように心がけること。

教科書

World Explorer

著者: John S. Lander

出版社: 朝日出版社

出版年: 2004

ISBN: 978425515387

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening II **

担当者 野口 博代

テーマ

英語を聞き、理解する楽しみを見つけよう！

獲得目標

DVDを通して、語彙の強化及び様々な表現を学習しながら、リスニングの力を身につける事を目標とします。

授業の内容

テレビ番組のトークショー形式で構成されたDVD映像を教材に、様々なリスニングタスクを行います。

内 容

- 第1回 Introduction / Unit1 New Friends, New Faces
 - 第2回 Unit 1 / Unit 2 Express Yourself!
 - 第3回 Unit 2 / Unit 3 What Do We Need?
 - 第4回 Unit 3 / Unit 4 Vacation!
 - 第5回 Unit 4 / Unit 5 Heroes
 - 第6回 Unit 5 / Unit 6 The Mind
 - 第7回 Unit 6 The Mind
 - 第8回 Review for Unit 1 – Unit 6
 - 第9回 Unit 7 In the City
 - 第10回 Unit 8 All About You
 - 第11回 Unit 9 Change
 - 第12回 Unit10 Your Health
 - 第13回 Unit11 That's Amazing!
 - 第14回 Unit 12 At the Movies
 - 第15回 Review for Unit 7 – Unit 12
-

授業以外での学習方法

教科書

Good Morning World 2

著者: Susan Stempleski / James R. Morgan / Nancy Douglas

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening II <a>**

担当者 日高 周平

テーマ

基礎的なリスニング能力の向上。

獲得目標

日常生活で必要とされるリスニング能力の基礎を養う。

授業の内容

毎回教科書の1ユニットを行い、補助教材を使いながらリスニング、語彙、文法の確認をする。

内 容

- 第1回 講義概要・成績評価の方法・TOEICに関する説明
 - 第2回 Unit 1 旅行 1
 - 第3回 Unit 2 オフィス 1
 - 第4回 Unit 3 レストラン
 - 第5回 Unit 4 季節・天気
 - 第6回 Unit 5 健康
 - 第7回 Unit 6 旅行 2
 - 第8回 Unit 7 休暇
 - 第9回 Unit 8 オフィス 2
 - 第10回 Unit 9 ショッピング
 - 第11回 Unit 10 就職活動
 - 第12回 Unit 11 娯楽
 - 第13回 Unit 12 旅行 3
 - 第14回 TOEIC系対策問題（プリントにて対応）
 - 第15回 総合復習、理解度確認テスト
-

授業以外での学習方法

第一回講義で配布するTOEIC対策用の単語リストを暗記する事

教科書

The TOEIC Test CIRCUIT／語彙から始めるThe TOEIC Test 総合演習

著者： 鶴岡公幸／Matthew Wilson

出版社： 松柏社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ ）

参加度（ 60 ）

小テスト（ 40 ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **国際ビジネス I**

担当者 岡田 有叶

テーマ

リーガルライティング

獲得目標

国際ビジネスは、原則としてその開始にあたり、契約書(主に英文)が取り交わされ、契約内容に厳密に沿って展開されます。そこで国際ビジネスに進むことを希望する皆さんは、英文契約書を読めて、さらには作成できるようになっておくことが将来的にみて極めて望ましいといえます。この考え方に立って、英文契約書の解釈と作成法(リーガルライティング)について、その基礎を学び、併せて重要な関連事項を学習します。

授業の内容

この授業では、英文契約書の読み方、書き方だけでなく、日本人と(英米の人々を主とする)外国人の契約観の違い、ひいては、物事に対する考え方の違いなどを初めとして、国際ビジネスにおける英文契約書の重要性や、さらに、国際ビジネスに進むことを希望する学生にとって、覚えておいたほうが好ましいと思われる国際売買取引の概要なども、併せて学習します。最後に、契約交渉にも触れ、説得力ある交渉文をいかに作成するかについて学習したいと考えます。同学習は、皆さんがビジネスのどのような分野に進むとしても、相手方との交渉において、必ず役立つでしょう。また、この授業では、英語だけでなく、日本語(国語)力の強化にも力を入れます。というのは、英文契約書を読み解き、正しく邦訳するためには、しっかりとした日本語力が必要であり、英文契約書の作成や相手方との交渉においても、英語力を発揮する前提として、日本語による論理的な思考が不可欠だからです。上記の学習効果を上げるため、次のことを実施します。1.(宿題)初回と最終回を除いて、ほぼ毎回皆さんの余力負担にならない程度で宿題を出す。2.(レポート)新書版程度の本を1冊指定して、800字程度で読後感想文を書くようにとの課題を出す。契約書の英文は、文学作品や新聞記事などで普段接する英文とかなり違ってはいるだけでなく、国際ビジネスで扱われる諸事項がふんだんに出てくるので、初めは戸惑うかもしれません。私もできるだけ平易に解説しますので、新しいことに挑戦する気概で取り組んでください。国際ビジネスに進むことを予定していない人でも、学んでおけば、この国際化の時代にあって、役立つときがきつとくるものと信じています。同時に、この授業が皆さんの日本語力向上にも役立つことを念じています。

内 容

- 第1回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第2回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第3回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第4回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第5回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第6回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第7回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第8回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第9回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第10回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第11回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第12回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第13回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第14回 契約交渉論入門(ビジネスにおける説得力ある交渉文の書き方(組立て方と表現方法など))
- 第15回 契約交渉論入門(ビジネスにおける説得力ある交渉文の書き方(組立て方と表現方法など))

授業以外での学習方法

当面は、授業(と予習、復習)、宿題、レポートに力を注いで、その後、下記に掲げる参考書や授業中に挙げる書籍などを読んでください。

教科書

ひと目でわかる英文契約書

著者: 野口 幸雄

出版社: かんき出版

出版年: 2011

ISBN: 978-4-7612-6778

参考書

[新版]英文契約書を読みこなす

著者: 大崎 正瑠

出版社: 大修館書店

出版年: 2011

ISBN: 978-4-469-24562

英文契約書の読み方

著者: 山本 孝夫

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2006

ISBN: 4-532-11105-6

英文契約書の書き方(第2版)

著者: 山本 孝夫

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2006

ISBN: 4-532-11104-8

はじめての英文契約書起案・作成完全マニュアル

著者: 長谷川 俊明

出版社: 日本法令

出版年: 2003

ISBN: 4-539-71873-8

国際ビジネス実践セミナー、契約の英語(2巻)、交渉の英語(3巻)

著者: 小中 信幸、中谷 栄一郎他

出版社: 日興企画

出版年: 1999~2001

ISBN: 4-88877-630-X

The McGraw-Hill Handbook of Business Letters (4th edition)

著者: Roy W. Poe

出版社: McGraw-Hill

出版年: 2005

ISBN: 9780071460804

(注:この他、詳しくは授業中に説明します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **翻訳基礎論**

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

An introduction to translation practice, strategies and theory

獲得目標

(1) To increase the students' awareness about languages and their various characters (2) To provide them with knowledge about the different types of translation (3) To equip them strategies to help them translate between English and Japanese successfully. This class will be taught in English.

授業の内容

This course is intended as a practical introduction to those interested in language in general, and in the practice of translating from one language to another in particular. We will take an initial look at the linguistic differences between different languages, but between Japanese and English in particular. Then we will look at the translation process itself, touch on a little translation theory, and then look at different kinds of translation. In the central section of the course, we will translate a number of so-called 'simple' English texts, analyze them for the problems they display, and look at various strategies for solving them. Finally, we will undertake the translation of a short set text.

内 容

- 第1回 PowerPoint introduction: the world's languages, language families and a comparison of the Japanese and English languages
 - 第2回 PowerPoint: different types of translation
 - 第3回 PowerPoint: the translation process
 - 第4回 PowerPoint: introduction to translation theory
 - 第5回 Basic translation strategies (1)
 - 第6回 Basic translation strategies (2)
 - 第7回 Basic translation strategies (3)
 - 第8回 PowerPoint: textual analysis
 - 第9回 How to use dictionaries, the thesaurus, the Internet, and other translation resources; and their dangers
 - 第10回 Technical translation
 - 第11回 Literary translation
 - 第12回 Advanced translation strategies: transposition
 - 第13回 Advanced translation strategies: componential analysis
 - 第14回 Translation of a set text
 - 第15回 Final discussion and evaluation
-

授業以外での学習方法

I have a wide range of translation texts and exercises that can be made available for students who wish to practice the strategies taught in class, and a wide variety of books on the subject of translation.

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30202d610

Students will have a short translation assignment to be handed in towards their final grade as well as an 'unseen' translation test.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Essay & Presentation I**

担当者 日高 周平

テーマ

Essay and presentation

獲得目標

Learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.

授業の内容

内 容

- 第1回 Introduction & Course Description
 - 第2回 Unit 1 Let me introduce myself
 - 第3回 Unit 2 Would you do me a favor?
 - 第4回 Unit 3 Please give me some advice
 - 第5回 Unit 4 How about going to the museum?
 - 第6回 Unit 5 Let's decide when to meet
 - 第7回 Unit 6 I have to apologize to you
 - 第8回 Unit 7 Room for two?
 - 第9回 Unit 8 I have a problem
 - 第10回 Unit 9 We would like to invite you to a party!
 - 第11回 Unit 10 How to get to his place?
 - 第12回 Unit 11 This is just a reminder
 - 第13回 Unit 12 Thank you for the invitation, but...
 - 第14回 Unit 13 Good luck!
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

Students will be required to write emails and letters, both inside and outside the class. Students are welcome to contact me via email.

教科書

Write Me Back Soon! Communicating through Email

著者: 成岡恵子/早野 薫/Sean M. Hackett 著

出版社: 金星堂

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **通訳研究**

担当者 西村 友美

テーマ

通訳の理論と集中訓練

獲得目標

(1) 実践を通して通訳術の基本を習得することを目指す。(2) 通訳を通じて異文化コミュニケーションについて考察する力を養う。

授業の内容

「通訳基礎論」で習得した基礎的理論と技術をもとに、より高度な通訳を集中的に訓練する。毎回の授業で、段階的なトレーニングを重ね、最終的には簡単な通訳(逐次・同時)ができるようにしたい。学期末近くにゲストスピーカーを招き、実際により即した通訳を体験してもらう予定である。また同時に、通訳の基礎的な理論を学ぶ。教科書の理論編を分担して授業でプレゼンをし、全体でディスカッションをする。自ら通訳者を目指さない受講者も、通訳者はことばの壁をどう乗り越えているのか、また異文化間のコミュニケーションを円滑に進めるためにどんな工夫をしているのかを知ることが、自分の英語の運用にも役立つはずである。授業はそのような観点から進めていきたい。なお、英語コミュニケーション演習Ⅰcの受講者にはこの科目を同時履修することを勧める。

内 容

- 第1回 通訳とは、通訳事例の観察
- 第2回 通訳の種類と活動の場
- 第3回 通訳に求められるもの
- 第4回 通訳の研究
- 第5回 通訳モデル
- 第6回 通訳と翻訳
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 記憶とノートテキング
- 第9回 逐次通訳(1)
- 第10回 逐次通訳(2)
- 第11回 同時通訳(1)
- 第12回 同時通訳(2)
- 第13回 同時通訳(3)
- 第14回 通訳とデリバリー
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書の理論編を理解するための文献を読む。各種通訳練習。本格的通訳トレーニングは、TOEIC800点程度取得、あるいは英検準1級を取得してから始めるというのが通説になっている。この授業では、受講者ができるだけ早くそのレベルに到達することができるよう指導するので、授業外での自習をしっかりすることが必須条件となる。

教科書

通訳学101

著者： 友野百枝他

出版社： 大阪教育図書

出版年： 2012

ISBN:

参考書

授業で指示する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 公共経営入門

担当者 阪本 崇

テーマ

公共経営の理論と実践

獲得目標

・公共部門が社会の中で果たす役割について理解する。・公共部門がどのような組織から成り立っているかを理解する。・公共部門で働くこととはどのようなことかを理解する。

授業の内容

公共部門における経営は、政府やその関連機関の組織の経営だけを指すのではない。公共部門は社会そのものを経営する要としても重要な役割を担っている。この授業では、この2つの視点から、公共経営の役割と仕組み、公共経営改革などをはじめとして、公共経営について理解することを目指す。また、都道府県庁・市役所職員などをゲストスピーカーとして招き、公共部門で働くということは実際どのようなことなのかについても学ぶ。授業計画は以下のとおりであるが、ゲストスピーカーの都合等により日程を入れ替える場合がある。

内 容

- 第1回 イントロダクション:日本の公共部門
 - 第2回 公共経営の役割(1)
 - 第3回 公共経営の役割(2)
 - 第4回 公共経営の役割(3)
 - 第5回 公共経営の目的(1)
 - 第6回 公共経営の目的(2)
 - 第7回 公共経営のしくみ(1)
 - 第8回 公共経営のしくみ(2)
 - 第9回 公共経営のしくみ(3)
 - 第10回 公共経営の実際(1)
 - 第11回 公共経営の実際(2)
 - 第12回 公共経営改革(1)
 - 第13回 公共経営改革(2)
 - 第14回 公共経営改革(3)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

新聞やニュースに関心を持ち、公共部門をめぐる世の中の動きに注意しておくことが必要である。しかし、報道されるのは真実の一面でしかない。社会のために、公共部門がどのように動いているのか、実際に目で見て確かめる機会を持つことも重要である。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 医療経営入門

担当者 高山 一夫

テーマ

医療経営入門

獲得目標

医療問題を解決するうえでマネジメントの知見は有益である。この授業では、医療経営のマネジメントの基本的な内容について、医療制度レベル、医業経営レベル、医療技術レベルの3つのレベルで、理解を深めることを目標とする。

授業の内容

医療経営におけるマネジメントの3つのレベルについて、それぞれ5回程度に分けて講義する。

内 容

- 第1回 ガイダンスと話題提供
 - 第2回 医療マネジメントの特徴
 - 第3回 医療制度のマネジメント(1) 医療保険制度
 - 第4回 医療制度のマネジメント(2) 医療法
 - 第5回 医療制度のマネジメント(3) 介護保険制度
 - 第6回 医療制度のマネジメント(4) 税と社会保障の一体改革
 - 第7回 医療経営のマネジメント(1) 診療報酬制度と医業経営の現状
 - 第8回 医療経営のマネジメント(2) 医療機関の人的資源管理
 - 第9回 医療経営のマネジメント(3) 医療機関の業務管理
 - 第10回 医療経営のマネジメント(4) 医療機関のファイナンス
 - 第11回 医療技術のマネジメント(1) 医療の経済評価の基礎
 - 第12回 医療技術のマネジメント(2) 費用効果分析とその事例
 - 第13回 医療技術のマネジメント(3) 費用効用分析とその事例
 - 第14回 医療技術のマネジメント(4) 費用便益分析とその事例
 - 第15回 講義全体のまとめと理解度の確認
-

授業以外での学習方法

新聞や雑誌の記事に目を通すなど、医療に対する理解と関心を持つこと。授業中に紹介した参考書などを積極的に読むこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **専門演習 I <a>**

担当者 今久保 幸生

テーマ

現代ヨーロッパ経済論

獲得目標

現代企業(ビジネス)の発展のためには、企業を取り巻く環境とその変化にどう対応するかが重要である。その環境の中では経済・社会の要素の意味が大きい。今回取り上げるヨーロッパ経済は、世界GDPに占めるその比重の重さや社会の規範や制度における模範性からみて、依然重視すべき対象である。このようなヨーロッパ経済の意義を把握するのが目的である。

授業の内容

基本はヨーロッパ経済に関する最新の教科書の輪読による授業とする。

内 容

- 第1回 初回のオリエンテーション、輪読分担の決定、各種連絡など。
 - 第2回 序章 ヨーロッパとは何か？
 - 第3回 第1章 EU加盟国の歴史
 - 第4回 第2章 ヨーロッパ統合の歴史と現在
 - 第5回 第3章 EUの主要機関と意思決定
 - 第6回 第4章 EU通貨統合と金融市場
 - 第7回 第5章 EU社会保障制度の改革
 - 第8回 第6章 EUの雇用戦略
 - 第9回 第7章 EUの環境政策
 - 第10回 第8章 EUの農業政策
 - 第11回 第9章 EU拡大と中・東欧諸国
 - 第12回 第10章 EU企業と産業
 - 第13回 第11章 EU・アジア関係
 - 第14回 第12章 ヨーロッパ経済の現在と未来
 - 第15回 終章 ヨーロッパ経済はどこへ向かうか？
-

授業以外での学習方法

EU経済、EU各国経済、EU非加盟国経済などに関する記事や論文、報道を学習すること。

教科書

現代ヨーロッパ経済論

著者： 久保広正・田中友義編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2011

ISBN:

参考書

ヨーロッパ統合史

著者： 遠藤乾編

出版社： 名古屋大学出版会

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

a50103a110

試験 ()
授業中課題 (30%)
参加度 (30%)

小テスト ()
授業中発表等 (40%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I

担当者 河野 充央

テーマ

財務管理の研究

獲得目標

財務諸表の分析をとおして、企業経営の良否の判断をする。最終的に、実際に企業が作成提出する有価証券報告書に掲載された財務諸表を分析する能力を身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 資金管理と財務諸表
 - 第2回 財務分析と比較
 - 第3回 収益性の分析(1)
 - 第4回 収益性の分析(2)
 - 第5回 収益性の分析(3)
 - 第6回 生産性の分析(1)
 - 第7回 生産性の分析(2)
 - 第8回 生産性の分析(3)
 - 第9回 流動性の分析(1)
 - 第10回 流動性の分析(2)
 - 第11回 流動性の分析(3)
 - 第12回 損益分岐点分析(1)
 - 第13回 損益分岐点分析(2)
 - 第14回 成長性の分析
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネスのタイムリーな記事をプリントで適宜配布する。ゼミ生は、これを読みレポートを提出する。

教科書

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

原価計算

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

情報化社会における管理会計の役割

著者： 河野充央

出版社： 税務経理協会

出版年：

ISBN：

現代国家危機

著者： 河野充央 他

出版社： 富嶽出版

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (15)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <c>

担当者 今井 まりな

テーマ

グループ論文の執筆に関する準備

獲得目標

輪読を通じて、問いの設定、先行研究レビュー、事例記述といった一連の研究プロセスを学習する。夏休みに実施するインタビュー調査のためのスキルを習得する。

授業の内容

前半は研究方法と事例研究に関する文献を輪読する。後半はグループ分けを行い、2015年1月末までに執筆するグループ論文に向けて準備を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 輪読1(研究方法と事例研究に関する文献)
 - 第3回 輪読2
 - 第4回 輪読3
 - 第5回 輪読4
 - 第6回 グループ分けと問題設定の仕方
 - 第7回 輪読5
 - 第8回 問いの設定(グループ1、2)
 - 第9回 問いの設定(グループ3、4)
 - 第10回 先行研究レビューの仕方
 - 第11回 問いの確定(グループ1、2)
 - 第12回 問いの確定(グループ3、4)
 - 第13回 先行研究レビュー(グループ1、2)
 - 第14回 先行研究レビュー(グループ3、4)
 - 第15回 インタビュー調査方法
-

授業以外での学習方法

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

教科書

マーケティング・リフレーミング

著者： 栗木契・水越康介・吉田満梨

出版社： 有斐閣

出版年： 2012

ISBN： 978-4641163904

創造的論文の書き方

著者： 伊丹敬之

出版社： 有斐閣

出版年： 2001

ISBN： 978-4641076495

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (70%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <d>

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントの発展的学習

獲得目標

医療マネジメントに関する知見を深めるとともに、受講生相互の交流を通じて、各自の研究テーマや将来の進路について考える。

授業の内容

グループワーク並びにテキストを用いた発表と討論を通じて、医療マネジメントについての理解を深めるとともに、卒業研究をまとめるために必要なアカデミックスキルも習得する。学外授業や夏合宿も実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 グループワーク(1)
 - 第3回 グループワーク(2)
 - 第4回 グループワーク(3)
 - 第5回 グループワーク(4)
 - 第6回 グループワーク発表会
 - 第7回 テキストを用いた演習(1)
 - 第8回 テキストを用いた演習(2)
 - 第9回 テキストを用いた演習(3)
 - 第10回 テキストを用いた演習(4)
 - 第11回 テキストを用いた演習(5)
 - 第12回 テキストを用いた演習のまとめ
 - 第13回 学外授業・ゼミ合宿の準備
 - 第14回 学外授業
 - 第15回 演習全体のまとめ(ゼミ合宿)
-

授業以外での学習方法

自主ゼミ(医療マネジメント研究会)も活用しつつ、積極的に学習する習慣を保持して下さい。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <e>

担当者 高原 正興

テーマ

研究課題の設定、スラムと貧困のフィールドワーク、社会病理学系の講読

獲得目標

ゼミ生の社会的な関心を深化させるとともに、社会病理学系に関するフィールドワークと文献講読を継続して、社会的な素養を育成する。

授業の内容

テキストの講読・発表・討論、フィールドワークへの参加など

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 春季課題の発表(1)
 - 第3回 春季課題の発表(2)
 - 第4回 春季課題の発表(3)
 - 第5回 学生によるテキストの発表・討論(1)
 - 第6回 学生によるテキストの発表・討論(2)
 - 第7回 学生によるテキストの発表・討論(3)
 - 第8回 釜ヶ崎のフィールドワーク
 - 第9回 学生によるテキストの発表・討論(4)
 - 第10回 学生によるテキストの発表・討論(5)
 - 第11回 学生によるテキストの発表・討論(6)
 - 第12回 学生によるテキストの発表・討論(7)
 - 第13回 学生によるテキストの発表・討論(8)
 - 第14回 学生によるテキストの発表・討論(9)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

講読文献の予習は必須である。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a50103a115

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

授業中課題は春季レポートの評価とフィールドワークのレポートである。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <f>

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文作成のための文献調査方法・文章作成方法

獲得目標

卒業論文作成の基礎となる調査能力・文章力を身につける

授業の内容

専門演習 I・II では、4回生で卒業論文を書くための準備を行う。専門演習 I では、各個人がテーマを決めて、半年間をかけて文献レポートを作成する。テーマは自分自身の関心に応じて選んでよい。最初にレポート・論文を書くための基礎的な文章作成方法や文献調査方法などを学んだ上で、それぞれの進捗状況に合わせて中間報告を行う。レポート・論文の書き方について、参考書をいくつか挙げておくと、これ以外にもたくさん刊行されているので、自分にあったものを選んでよい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 文献・資料の調べ方
 - 第3回 テクニカル・ライティング入門(1)
 - 第4回 テクニカル・ライティング入門(2)
 - 第5回 レポート発表 I (1)
 - 第6回 レポート発表 I (2)
 - 第7回 レポート発表 I (3)
 - 第8回 中間のまとめ
 - 第9回 レポート発表 II (1)
 - 第10回 レポート発表 II (2)
 - 第11回 レポート発表 II (3)
 - 第12回 レポート発表 II (4)
 - 第13回 レポート発表 II (5)
 - 第14回 レポート発表 II (6)
 - 第15回 半年間のまとめ
-

授業以外での学習方法

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

a50103a116

授業の最後に作成した文献レポートを提出する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **専門演習 I <g>**

担当者 李 在鎬

テーマ

スティーブ・ジョブズの伝記を輪読し、経営戦略とリーダーシップの実践について理解を深める。

獲得目標

ゼミの研究テーマについて学習するとともに、卒業研究において、しっかり先行研究を吟味し、理論的な脈絡の中で、自分の経営学研究を位置づけるため、必読の代表的な論文を読み、読解力、発表力を鍛えるのが本教科の目的である。

授業の内容

スティーブ・ジョブズの伝記を輪読し、グローバルな視点から、経営戦略とリーダーシップのあり方について議論する。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)または、関連DVD資料の鑑賞
- 第14回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック ※尚、この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。
- 第15回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック ※尚、この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

学習方法 経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

スティーブ・ジョブズ I

著者: ウォルター・アイザックソン

出版社: 講談社

出版年: 2011年

ISBN:

スティーブ・ジョブズ II

著者: ウォルター・アイザックソン

出版社: 講談社

出版年: 2011年

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（80）

参加度（20）

基本的に2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <救急>

担当者 北小屋 裕.関根 和弘.千田 いずみ.夏目 美樹.深澤 雄二.福岡 範恭

テーマ

公務員試験対策

獲得目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス、公務員試験対策
 - 第2回 公務員試験対策
 - 第3回 公務員試験対策
 - 第4回 公務員試験対策
 - 第5回 公務員試験対策
 - 第6回 公務員試験対策
 - 第7回 公務員試験対策
 - 第8回 公務員試験対策
 - 第9回 公務員試験対策
 - 第10回 公務員試験対策
 - 第11回 公務員試験対策
 - 第12回 公務員試験対策
 - 第13回 公務員試験対策
 - 第14回 公務員試験対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a50103a118

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 CAD演習 I <a>

担当者 杉本 雅子

テーマ

JW-CADによる建築製図

獲得目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CAD の基本的な操作方法について学ぶ。

授業の内容

建築業界で最も代表的なCADソフトの一つであるJW-CADを習得する。基本操作を学習後、実際の建築図面を一通り作成することにより、CADにより建築製図の基礎をマスターする。

内 容

- 第1回 CAD ソフトについて
 - 第2回 CAD ソフトについて(2)
 - 第3回 CAD 製図の基礎とオブジェクトの操作
 - 第4回 CAD 製図の基礎とオブジェクトの操作(2)
 - 第5回 平面図の作図
 - 第6回 // (2)
 - 第7回 // (3)
 - 第8回 // (4)
 - 第9回 // (5)
 - 第10回 // (6)
 - 第11回 // (7)
 - 第12回 // (8)
 - 第13回 家具、窓等の作図
 - 第14回 家具、窓等の作図(2)
 - 第15回 課題の作図、提出
 - 第16回 課題の作図、提出(2)
 - 第17回 立面図の作図
 - 第18回 // (2)
 - 第19回 // (3)
 - 第20回 // (4)
 - 第21回 // (5)
 - 第22回 // (6)
 - 第23回 断面図の作図
 - 第24回 // (2)
 - 第25回 // (3)
 - 第26回 // (4)
 - 第27回 敷地図の作図、レイアウト
 - 第28回 敷地図の作図、レイアウト(2)
 - 第29回 図面の設定、印刷
 - 第30回 総括
-

授業以外での学習方法

建築、インテリアの専門書に目を通し、建築作品展に足を運ぶことにより、図面の表現技法を自身の目で学ぶこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築構造**

担当者 福田 浩明

テーマ

獲得目標

建築における構造の仕組みや役割を学ぶ。木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、壁式鉄筋コンクリート構造、コンクリートブロック構造など基本的な構法を取り上げ、それらの特性について理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス、建築構造と倫理
 - 第2回 地盤特性について
 - 第3回 基礎について、免震構造
 - 第4回 木質構造1
 - 第5回 木質構造2
 - 第6回 コンクリートブロック構造、組石造
 - 第7回 壁式鉄筋コンクリート構造
 - 第8回 鉄筋コンクリート構造1
 - 第9回 鉄筋コンクリート構造2
 - 第10回 鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造
 - 第11回 建築の各部構造1、屋根
 - 第12回 建築の各部構造2、床と壁
 - 第13回 建築の各部構造3、天井と階段
 - 第14回 建築の各部構造4、造作と開口部
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

図解やさしい建築一般構造

著者： 今村仁美 他

出版社： 学芸出版

出版年： 2009

ISBN：

参考書

成績評価

試験（50%）

授業中課題（ ）

参加度（50%）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

a50201d510

人数、その他の状況に応じて評価方法をかえることもあります。原則は出席とノートの記録を重視します。最終日に100点満点のペーパーテスト(ノートのみ持ち込み可)と一緒に成績の評価とします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <a>

担当者 今井 裕夫

テーマ

「スペース・エレメント(建築を構成している要素)」の研究

獲得目標

私たちが取りまく環境は、いろいろな「建築を構成しているエレメント」により成立している。環境に漠然と散在する「エレメント」の中から、興味を引く「エレメント」を求め、それから一つ一つの存在意味を探るデザイン・サーヴェイ(デザイン取材)を写真の撮影により行う。その場所に赴き、凝視(じっとみつめること)を通して建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての感性の獲得とさらに磨きをかけるための感性ノート作りを行うとともに作家研究または設計課題を行う。

授業の内容

毎日の視線から気になる建築のデザイン要素を求めて歩く。例えば窓や階段といった機能や用途が明解である対象物を撮影する。エレメントの意味を読み取り、その成立背景から大まかに分類する。・写真によるチェックを行う。・写生または写真からのドローイングにより記憶素として確認を行う。・眼差しによる言葉をつづること。(箇条書程度でよいがキーワードやキャプションが必要)・適宜、報告と情報交換をゼミ形式で行う。発表者は発表用レジュメを人数分用意する。・2-3名のグループ行動がよいと思われる。・提出物は感性ノート I A4版(20P)クリアファイル(A4 用紙に写真またはそのカラーコピーを添付(コメント付き)20枚以上/ドローイング2枚)・カメラ(できればマニュアルカメラ)を所有すること。・その他指示による。

内 容

- 第1回 ガイダンス(課題主旨の説明)
- 第2回 講義
- 第3回 取材①
- 第4回 取材①
- 第5回 取材①
- 第6回 講義
- 第7回 課題(設計・ドローイング)
- 第8回 課題(設計・ドローイング)
- 第9回 課題(設計・ドローイング)
- 第10回 取材②
- 第11回 取材②
- 第12回 取材②
- 第13回 発表・講評
- 第14回 発表・講評
- 第15回 ノート作成(提出) ※尚、この授業は必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

つね日頃、カメラを持ち歩くこと。環境に散在するかたちに興味をもつこと。凝視すること。言葉を交わすこと。撮影すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **専門演習 I **

担当者 竹山 清明

テーマ

望ましい生活空間のあり方を学ぶ

獲得目標

使いやすく美しい木造戸建て住宅の平面計画と空間計画の原則を学ぶ。

授業の内容

調査と制作

内 容

- 第1回 一般的な核家族用の木造戸建て住宅の設計を行うガイダンス
- 第2回 910mmのモジュールを用いて合理的な平面計画を行う方法を学ぶ その1
- 第3回 910mmのモジュールを用いて合理的な平面計画を行う方法を学ぶ その2
- 第4回 910mmのモジュールを用いて合理的な平面計画を行う方法を学ぶ その3
- 第5回 910mmのモジュールを用いて合理的な平面計画を行う方法を学ぶ その4
- 第6回 910mmのモジュールを用いて合理的な平面計画を行う方法を学ぶ その5
- 第7回 910mmのモジュールを用いて合理的な平面計画を行う方法を学ぶ その6
- 第8回 見学・調査などのフィールドワーク
- 第9回 美しいデザインを持つ住宅の事例を集め優れた事例を参考に自分のデザインをつくり上げる その1
- 第10回 美しいデザインを持つ住宅の事例を集め優れた事例を参考に自分のデザインをつくり上げる その2
- 第11回 美しいデザインを持つ住宅の事例を集め優れた事例を参考に自分のデザインをつくり上げる その3
- 第12回 美しいデザインを持つ住宅の事例を集め優れた事例を参考に自分のデザインをつくり上げる その4
- 第13回 美しいデザインを持つ住宅の事例を集め優れた事例を参考に自分のデザインをつくり上げる その5
- 第14回 美しいデザインを持つ住宅の事例を集め優れた事例を参考に自分のデザインをつくり上げる その6
- 第15回 美しいデザインを持つ住宅の事例を集め優れた事例を参考に自分のデザインをつくり上げる その7

授業以外での学習方法

常日頃から望ましい生活空間のあり方を自主的に探る姿勢の獲得が必要である。様々な魅力的な生活空間の見学・調査や、それらが掲載されている写真資料などを眺め学ぶことを生活習慣にして欲しい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 (25%)

小テスト ()

授業中発表等 (25%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <c>

担当者 松本 正富

テーマ

現代建築家のデザイン手法についての検討

獲得目標

当ゼミでは、卒業研究として建築・インテリア設計作品の制作を前提とする。様々な建築家のデザイン手法や設計に対する概念を学ぶことで、建築・インテリア設計やデザインという行為に対する興味と見識を広げる。効果的なプレゼンテーションの技能を習得する。ものづくりやデザインという行為の楽しさを見つけ出す。

授業の内容

1)各自が興味を持った建築家とその作品について調査し、パワーポイントによるプレゼンテーションを行う。2)数回の建築見学会を開催する。3)建築やデザイン系のコンペへの参加を奨励し、これに関わるアドバイスと支援を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 調査テーマの設定
 - 第3回 プレゼンテーション-1
 - 第4回 プレゼンテーション-2
 - 第5回 プレゼンテーション-3
 - 第6回 プレゼンテーション-4
 - 第7回 プレゼンテーション-5
 - 第8回 プレゼンテーション-6
 - 第9回 建築見学会-1
 - 第10回 コンペ課題コンセプト検討-1
 - 第11回 コンペ課題コンセプト検討-2
 - 第12回 コンペ課題ドローイング-1
 - 第13回 コンペ課題ドローイング-2
 - 第14回 建築見学会-2
 - 第15回 まとめと講評 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業・特別講演会を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

教科書

参考書

コンパクト設計資料集成

著者： 日本建築学会編

出版社： 丸善株式会社

出版年： 2005

ISBN: 9784621075098

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <d>

担当者 河野 良平

テーマ

自分の好きな建築やインテリアとは？

獲得目標

自分の建築やインテリアに対する興味のあるかを探す。

授業の内容

各自が3回ずつ発表を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表1
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表2
 - 第9回 発表2
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表3
 - 第12回 発表3
 - 第13回 発表3、まとめ
 - 第14回 見学
 - 第15回 見学 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <e>

担当者 近藤 康子

テーマ

建築・インテリアの読解とデザイン

獲得目標

建築家やインテリアデザイナーの作品を、図面、スケッチ、言説などから多角的、批評的に読み解く方法論を身に付ける。設計課題を通して、自身のイメージや発想を具体的な作品としてデザインし、それを効果的に表現するプレゼンテーション能力を鍛える。

授業の内容

・作品分析(取り上げる作品についてはガイダンスにて発表)。図面の模写、スケッチや言説の読解などを通して、作品を成立させている歴史的背景や作家の意図などを読み解く。作品を批評的に捉えることとして、そこに自らのデザインを加えて発表する。・設計課題(テーマについては第9回の講義で発表)。テーマに沿って、住宅を設計する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 作品の模写
 - 第3回 作品の模写
 - 第4回 作品の調査・分析
 - 第5回 作品の調査・分析
 - 第6回 作品の提案
 - 第7回 作品の提案
 - 第8回 プレゼンテーション
 - 第9回 設計課題;住宅
 - 第10回 設計課題;住宅
 - 第11回 設計課題;住宅
 - 第12回 設計課題;住宅
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 見学会
 - 第15回 見学会 ※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行なうことがある。
-

授業以外での学習方法

日常的にスケッチや写真撮影を行なうなど、常に身のまわりのものに積極的に向き合うこと。

教科書

使用しない。資料を適宜配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <f>

担当者 織田 直文

テーマ

まちの元気づくりをプロデュースする。

獲得目標

現代のまちの様々な病理について学ぶとともに、まちを元気にするプロデュース力を身につける。実践学習として具体的なイベントに関わる。また、各自が卒業研究のテーマを検討し、研究計画書を作成し作業に取り組む。

授業の内容

まちづくりの意義や手法を学習するとともに、具体的なイベントに関わり、「臨床の知」を学ぶ。卒論テーマの検討と研究作業を開始する。テーマは例えば祭・イベント、歴史や文化、自然・環境、伝統産業・観光等の振興、町家・町並み、中心市街地や歴史的商店街の活性化等である。また適宜、ゲストスピーカーを招いての学習やフィールドワークなども行う。

内 容

- 第1回 ゼミの進め方、自己紹介
 - 第2回 フィールドワーク調査
 - 第3回 フィールドワーク調査
 - 第4回 卒業研究に向けての講義
 - 第5回 卒業研究に向けての発表① + イベント研究①
 - 第6回 卒業研究に向けての発表② + イベント研究②
 - 第7回 卒業研究に向けての発表③ + イベント研究③
 - 第8回 卒業研究に向けての発表④ + イベント研究④
 - 第9回 イベント体験
 - 第10回 イベント体験
 - 第11回 イベント反省
 - 第12回 卒業研究に向けての発表⑤
 - 第13回 卒業研究に向けての発表⑥
 - 第14回 まちづくりに関する総括講義
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

卒業研究に関連する情報収集を行い、スクラップする。

教科書

とくにない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

とくにない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a50203a116

試験 (0)
授業中課題 (30)
参加度 (40)

小テスト (0)
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <g>

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アートを伝える、文化を創る(その1)

獲得目標

1)アーツマネジメントの概念を自分のものにする 2)各種の文化プロデュース現場に参加し意味を考える 3)実演芸術、視覚芸術、言語芸術のほか、冠婚葬祭イベントなど自分のテーマを見つける

授業の内容

自主性を大事にします。形にしばられない考え方をしたい人向きです。卒業研究も卒業論文だけでなく、卒業制作(独自に企画を考えたり、外部企画に積極的に参加したりして、その成果を写真や動画なども含めて提出する形)も積極的に取り入れます。ゼミの運営もできるだけ、その場で起きる「創発」的な状態にしたい。就職活動にも、義務感とするのではなく、自分たちで楽しくできるように、工夫をしようと思っています。就活の準備を演劇的に模擬化したり、自らを伝える術を芸術(アーツ)によって身に付けるように考えています。自分のテーマのために、積極的に読書すること。その際、参考書欄を見つつ、生協の読書奨励制度を活用すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アーツマネジメントを自分のことばにする
- 第3回 地域の文化イベントに参加する
- 第4回 アーツプロジェクト体験Ⅰ～子どもの文化フォーラム参加
- 第5回 アーツの鑑賞を学外で行う
- 第6回 アーティストやアーツマネージャーのお話を聞く
- 第7回 アーティストやアーツマネージャーをインタビューしてまとめる
- 第8回 レジュメを作って発表する① 演劇ダンス
- 第9回 レジュメを作って発表する② 音楽
- 第10回 レジュメを作って発表する③ 映画
- 第11回 レジュメを作って発表する④ 美術工芸デザイン
- 第12回 各地の夏休み企画を探してみる(卒業制作の準備とも連動)
- 第13回 アーツプロジェクト体験Ⅱ 自分が参加できる企画を見つけ、アプローチする
- 第14回 キャリア研究(インターンシップ先など)
- 第15回 まとめ ※尚、この講義では第5回の講義時、また必要に応じて学外で授業を行う。

授業以外での学習方法

ツイッターやブログの活用を検討する。京都や滋賀、大阪などにおけるさまざまなアーツセンターのボランティアなどをゼミで提示するので、活用する。

教科書

参考書

キャラクター文化入門

著者: 暮沢剛巳

出版社: NTT出版

出版年: 2010

ISBN:

大学論

著者： 大塚英志

出版社： 講談社

出版年： 2010

ISBN:

アーツ・マネジメント概論三訂版

著者： 伊藤裕夫ほか

出版社： 水曜社

出版年： 2009

ISBN:

入門都市政策

著者： 真山達志ほか

出版社： 大学コンソーシアム京都

出版年： 2009

ISBN:

アーツマネジメントみち

著者： 小暮宣雄

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN:

限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999

ISBN:

地域再生の罨

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010

ISBN:

コミュニティを問いなおす

著者： 広井良典

出版社： 筑摩書房

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (50)

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄アーツブログ

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <h>

担当者 谷口 知司

テーマ

観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究

獲得目標

観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺的な知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、併せて教科書の輪読を行う。

授業の内容

演習であるため、学生の活動が中心になる。

内 容

- 第1回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
 - 第2回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
 - 第3回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
 - 第4回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
 - 第5回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
 - 第6回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
 - 第7回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
 - 第8回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
 - 第9回 課題についての発表
 - 第10回 課題についての発表
 - 第11回 旅(調査)をプランニングする。夏休み中に観光地の現地調査(観光資源調査を含む)を行う。そのための①現地予備調査(書籍・雑誌・Web・ビデオ等)をする。②現地予備調査を基に旅(調査)のプランニングをする。なお、ゼミメンバー各人が責任分担し全体を構成する。
 - 第12回 旅(調査)をプランニングする。
 - 第13回 旅(調査)をプランニングする。
 - 第14回 旅(調査)をプランニングする。
 - 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

様々な観光資源や地域資料等の収集やその方法を身につけるためのフィールドワークを行う。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <i>

担当者 金武 創

テーマ

観光/文化と現代ビジネス

獲得目標

ビジネス・マインドを基礎に文化観光の理解を深める

授業の内容

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練(専門演習 I, II 共通)前後期ともに都市環境デザイン学科2コースの専門的な学習を予定しているが、詳しい内容はゼミ生と相談して決める。他と比べて、2倍以上のゼミ学習量なので、1コース集中の他ゼミと遜色ない水準を維持できるのではないかと。条件が整えば、らくたび文庫プロジェクトを実施予定です。

内 容

- 第1回 「ハイ・コンセプト」を読む①
- 第2回 「ハイ・コンセプト」を読む②
- 第3回 「祭りのゆくえ」を読む①
- 第4回 「祭りのゆくえ」を読む②
- 第5回 「モチベーション3.0」を読む①
- 第6回 「モチベーション3.0」を読む②
- 第7回 観光ビジネス改善提案①
- 第8回 観光ビジネス改善提案②
- 第9回 観光ビジネス改善提案③
- 第10回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む①
- 第11回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む②
- 第12回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む③
- 第13回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む①
- 第14回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む②
- 第15回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む③ ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行う

授業以外での学習方法

日経MJ,日経ビジネスオンラインを読むこと。学外授業を行うこともある。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ハイ・コンセプト

著者: ピンク

出版社: 講談社

出版年: 2006

ISBN:

モチベーション3.0

著者: ピンク

出版社: 三笠書房

出版年: 2010

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

授業出席と授業中課題は成績評価の最低条件です。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習 I <j>

担当者 木下 達文

テーマ

プロジェクトマネジメント&空間プロデュース(1) ～自己テーマの確立と基礎知識の習得～

獲得目標

本演習では、各自のテーマを明確にし、文献を通じて基礎的知識を養う。なお、等ゼミにおいては、ゼミ生相互の交流と共同研究を促進するため、「サブプログラム」を実施している。また、夏休みには、アパレンティシップとして、将来設計に応じたインターンのプログラムを自分自身で設定し、それらを達成していくことを目的としている。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標)
 - 第2回 自己関心発見ワークショップ
 - 第3回 専門領域・テーマの絞り込み(1)
 - 第4回 専門領域・テーマの絞り込み(2)
 - 第5回 将来目標の設定
 - 第6回 基礎文献の収集と購読(1)
 - 第7回 基礎文献の収集と購読(2)
 - 第8回 中間発表(1)
 - 第9回 中間発表(2)
 - 第10回 基礎文献の収集と購読(1)
 - 第11回 基礎文献の収集と購読(2)
 - 第12回 基礎文献の収集と購読(3)
 - 第13回 期末発表(1)
 - 第14回 期末発表(2)
 - 第15回 評価とまとめ
-

授業以外での学習方法

個人研究は基本的に学生自ら行うことなので、計画的に時間をとって研究を進めること。ゼミでは、研究だけでなく、就職支援も積極的に行うので、将来のことを早くから考えるようにする。また、当ゼミではメールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を適宜行っている。なお、必要に応じて、ゼミ会等の懇親会も毎年行っている。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a50203a120

特に出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈A〉**

担当者 竹下 夏美

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 3. 文献を講読することができる 4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマの絞り方を学ぶ ①看護分野における自己の関心事について、文献検索が可能となるテーマに設定できる 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ①学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ②文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する ③プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈B〉**

担当者 伊藤 恵美子

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 3. 文献を講読することができる 4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマの絞り方を学ぶ ①看護分野における自己の関心事について、文献検索が可能となるテーマに設定できる 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ①学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ②文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する ③プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <C>**

担当者 西村 美八

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 3. 文献を講読することができる 4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマの絞り方を学ぶ ①看護分野における自己の関心事について、文献検索が可能となるテーマに設定できる 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ①学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ②文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する ③プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈D〉**

担当者 竹 明美

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 3. 文献を講読することができる 4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマの絞り方を学ぶ ①看護分野における自己の関心事について、文献検索が可能となるテーマに設定できる 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ①学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ②文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する ③プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈E〉**

担当者 片山 由加里

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 3. 文献を講読することができる 4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマの絞り方を学ぶ ①看護分野における自己の関心事について、文献検索が可能となるテーマに設定できる 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ①学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ②文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する ③プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈F〉**

担当者 常田 裕子

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 3. 文献を講読することができる 4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマの絞り方を学ぶ ①看護分野における自己の関心事について、文献検索が可能となるテーマに設定できる 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ①学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ②文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する ③プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈G〉**

担当者 植村 由美子

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 3. 文献を講読することができる 4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマの絞り方を学ぶ ①看護分野における自己の関心事について、文献検索が可能となるテーマに設定できる 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ①学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ②文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する ③プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈H〉**

担当者 神崎 光子

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 3. 文献を講読することができる 4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマの絞り方を学ぶ ①看護分野における自己の関心事について、文献検索が可能となるテーマに設定できる 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ①学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ②文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する ③プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <I>**

担当者 中橋 苗代

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 3. 文献を講読することができる 4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマの絞り方を学ぶ ①看護分野における自己の関心事について、文献検索が可能となるテーマに設定できる 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ①学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ②文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する ③プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈J〉**

担当者

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる 3. 文献を講読することができる 4. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマの絞り方を学ぶ ①看護分野における自己の関心事について、文献検索が可能となるテーマに設定できる 2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ①学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ②文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する ③プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について 図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第4回 看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読およびディスカッション
- 第13回 文献講読およびディスカッション
- 第14回 文献講読およびディスカッション
- 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **養護概説**

担当者 永井 節子

テーマ

学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割と、専門性を理解する。

獲得目標

学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割を理解し、養護教諭としての基礎的な知識と技術について学び、専門職としての能力を修得する。

授業の内容

養護教諭の役割の基礎的理解をはかり、実践論を通してより深く具体的に理解する。

内 容

- 第1回 養護の概念と、養護の目的機能
- 第2回 養護教諭の専門性と、専門職化の過程
- 第3回 養護教諭と保健室・保健室機能
- 第4回 養護活動の展開・来室児童生徒への対応
- 第5回 養護活動の方法・健康実態の把握と支援
- 第6回 教育としての健康診断①
- 第7回 教育としての健康診断②
- 第8回 保健指導演習①
- 第9回 保健指導演習②
- 第10回 養護活動の方法・健康実態の把握と支援
- 第11回 健康問題に応じた養護活動(内科的な訴えをもつ子ども)
- 第12回 健康問題に応じた養護活動(傷害を負った子ども)
- 第13回 健康問題に応じた養護活動(慢性疾患を抱えた子ども他)
- 第14回 学校の特性に応じた養護活動・研究活動の意義
- 第15回 レポート作成・まとめ

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考文献や、配布された資料を読むこと。学校保健や子どもの健康情報(新聞記事など)を収集して、子どもの健康課題を考える。

教科書

新養護学概論

著者： 大谷尚子・中桐佐智子

出版社： 東山書房

出版年：

ISBN：

参考書

教育としての学校保健

著者： 数見隆生

出版社： 青木書店

出版年：

ISBN：

養護教諭の役割と教育実践

著者： 央戸洲美

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（20%）

参加度（10%）

レポートまとめ(50%)

小テスト（0）

授業中発表等（20%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **看護研究演習 I**

担当者 片山 由加里・中島 登美子

テーマ

看護研究に必要な基本的知識を理解する

獲得目標

1)看護における研究の役割を理解する 2)看護研究のプロセスを学ぶ 3)看護研究における文献検討の意義と方法を理解する 4)各種研究デザインと研究方法を理解する 5)看護研究における倫理を理解する

授業の内容

本科目では、看護の知を創り出す方法について学びます。本科目は、キャリア開発演習 I ～IV(1、2回生)を受けており、後の看護研究演習 II(4回生)に繋がります。前半は講義中心、後半は演習中心です。

内 容

- 第1回 看護における研究の役割
 - 第2回 文献検討の意義と方法
 - 第3回 看護研究のプロセス
 - 第4回 研究における倫理
 - 第5回 研究デザイン
 - 第6回 看護研究の方法 事例研究方法
 - 第7回 研究課題・研究方法の選択
 - 第8回 データ収集・分析①
 - 第9回 データ収集・分析②
 - 第10回 研究計画書
 - 第11回 論文講読①
 - 第12回 論文講読②
 - 第13回 論文講読③
 - 第14回 論文講読④
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

看護の知の形成は、看護実践の中から生まれます。興味を持って意欲的に看護実践系科目に取り組んでおいてください。

教科書

看護における研究

著者： 南裕子編

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2008

ISBN：

参考書

APA論文作成マニュアル

著者： アメリカ心理学会／江藤裕之他訳

出版社： 医学書院

出版年： 2011

ISBN：

成績評価

a70103a110

試験 ()
授業中課題 (30%)
参加度 (20%)

小テスト ()
授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **看護教育学 I**

担当者 阿部 祝子・梶谷 佳子

テーマ

1. 看護の教育的機能 2. 看護教育

獲得目標

1. 看護の対象への教育的支援について理解する。 2. 看護教育について理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション, 授業の進め方(阿部)
 - 第2回 教育原理(阿部)
 - 第3回 教育方法(阿部)
 - 第4回 教育評価(阿部)
 - 第5回 看護教育の発達と看護教育制度(阿部)
 - 第6回 キャリア開発と看護継続教育(阿部)
 - 第7回 まとめ(阿部)
 - 第8回 オリエンテーション, 授業の進め方, 教育プロセスと教案作成(梶谷)
 - 第9回 教育プロセスと教案作成(梶谷)
 - 第10回 グループ学習①ーグループ編成, 課題設定(梶谷)
 - 第11回 グループ学習②ー授業案の作成(梶谷)
 - 第12回 グループ学習③ー教育方法の検討, 教材作成(梶谷)
 - 第13回 グループ学習④ー授業評価の媒体の作成(梶谷)
 - 第14回 模擬授業と授業リフレクション①(梶谷)
 - 第15回 模擬授業と授業リフレクション②(梶谷)
-

授業以外での学習方法

模擬授業の教育内容等については、図書室で学習してください。

教科書

特に指定しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

看護教育学

著者: グレグ美鈴, 池西悦子

出版社: 南江堂

出版年: 2009年

ISBN: 978-4524250493

看護教育における授業設計 第4版

著者： 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子

出版社： 医学書院

出版年： 2009年

ISBN： 978-426008402

患者教育のポイント アセスメントから評価まで

著者： Barbara McVan(武山満智子訳)

出版社： 医学書院

出版年： 1990年

ISBN： 978-4260340199

ナースのための患者教育と健康教育

著者： A. Graham/Carol J. Gleit/Marlyn Duncan Boyd(安酸史子監訳)

出版社： 医学書院

出版年： 1996年

ISBN： 978-4260342094

成績評価

試験 (30%)

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

レポート, 授業中発表および授業参加度により総合的に評価する.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅴ(看護)**

担当者 伊藤 恵美子・奥野 信行・小野塚 元子・河原 宣子・竹 明美・西村 美八・松本 賢哉

テーマ

2回生までの学びを踏まえて、実践看護学実習に向けて事例検討を行い、自らの課題を明確化する。

獲得目標

1. さまざまな対象の健康課題について、ライフサイクルと看護の場を踏まえてアセスメントすることができる。2. 自らの学習上の課題を見出し、解決方法を考えて取り組むことができる。

授業の内容

ライフサイクルでの妊娠出産の過程を理解する。また、障害を抱えた人へのリハビリテーション看護を理解し、それを支える家族へのサポートと地域でのサポートの在り方を理解できるように段階を踏まえた演習

内 容

- 第1回 妊婦、産褥・新生児期(帝王切開事例含む)事例看護過程演習①
- 第2回 妊婦、産褥・新生児期(帝王切開事例含む)事例看護過程演習① 発表
- 第3回 妊婦、産褥・新生児期(帝王切開事例含む)事例看護過程演習②と 発表
- 第4回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区活動計画
- 第5回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区活動計画
- 第6回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区活動計画
- 第7回 障害を抱えた人の事例看護課程展開
- 第8回 障害を抱えた人の事例看護課程展開
- 第9回 障害を抱えた人の事例看護課程展開
- 第10回 障害を抱えた家族員を受け入れる高齢者家族の事例展開
- 第11回 障害を抱えた家族員を受け入れる高齢者家族の事例展開
- 第12回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区活動計画
- 第13回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区活動計画
- 第14回 事例の統合と発表
- 第15回 事例の統合と発表

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **統計学基礎論**

担当者 山崎 真理子

テーマ

統計学の基礎的な知識を修得する。

獲得目標

理学療法に関する調査報告・論文を理解するために求められるデータ分析の基本的な知識を習得する。

授業の内容

基本的には、パワーポイントで講義を進めます。実際に計算をしてもらう機会も設けますので、受講生は各自、電卓(√(ルート)記号付き)を用意して下さい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 調査方法とデータの種類
 - 第3回 度数分布表とヒストグラム
 - 第4回 基本統計量: 代表値
 - 第5回 基本等計量: ちらばり
 - 第6回 確率分布(二項分布)
 - 第7回 確率分布(正規分布)
 - 第8回 グラフ化と分割表
 - 第9回 散布図と相関係数
 - 第10回 回帰分析(回帰式)
 - 第11回 回帰分析(分散分析表)
 - 第12回 分割表の分析(オッズ比、連関係数)
 - 第13回 分割表の検定(カイ2乗検定)
 - 第14回 偏差値
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

授業外課題として、個人・グループで簡単な調査を実施してもらうことがあります。また、授業で習った内容を復習する良い機会にもなりますので、科学的なデータを扱った記事やTV番組などにも、積極的に触れるように心がけて下さい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

よくわかる心理統計

著者: 山田剛史・村井潤一郎

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

心理学のためのデータ解析テクニカルブック

著者： 森敏昭・吉田寿夫

出版社： 北大路書房

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

授業中課題（20）

参加度（30）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 臨床心理学

担当者 濱田 智崇

テーマ

対人援助職に必要な臨床心理学の知識や考え方を身につける

獲得目標

対人援助職として人とかかわるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へかかわる存在になっていくのか、それぞれが、主体的に考えられるようになることを目指す。

授業の内容

いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。知識だけにとどまらず、自分が現場にコミットして、相手との関係の中で考える「臨床の知」としての思考力を身につける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 臨床心理学とは何か
- 第3回 ロジャーズの来談者中心療法の基礎①
- 第4回 ロジャーズの来談者中心療法の基礎②
- 第5回 カウンセラーの基本的な態度から考える対人援助とは①
- 第6回 カウンセラーの基本的な態度から考える対人援助とは②
- 第7回 認知行動療法の基礎
- 第8回 フロイトの精神分析の基礎①
- 第9回 フロイトの精神分析の基礎②
- 第10回 無意識とイメージの世界に触れる①
- 第11回 無意識とイメージの世界に触れる②
- 第12回 援助者が自らと向き合う①
- 第13回 援助者が自らと向き合う②
- 第14回 臨床心理学と現代社会の対人援助
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでおくと理解が深まる

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 人体の構造と機能実習 I (構造系)

担当者 林正 健二

テーマ

骨、筋の触診と神経系の知識を統合して、神経系の診察の基礎を習得する。

獲得目標

触診の手技だけでなく、神経系の構造と機能を頭に描きつつ、論理的に考えを進めていく態度を身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 脳神経(Ⅱ);瞳孔他
 - 第2回 脳神経(Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ);眼球運動
 - 第3回 脳神経(Ⅴ、Ⅶ);顔面
 - 第4回 脳神経(Ⅸ、Ⅹ、ⅩⅡ);口
 - 第5回 脳神経(ⅩⅠ);副神経と筋
 - 第6回 運動系;筋緊張
 - 第7回 運動系;上肢1
 - 第8回 運動系;上肢2
 - 第9回 運動系;下肢1
 - 第10回 運動系;下肢2
 - 第11回 運動系;反射1
 - 第12回 運動系;反射2
 - 第13回 感覚系
 - 第14回 協調運動
 - 第15回 歩行
-

授業以外での学習方法

国家試験既出問題集による自学自習は授業と並行して行おう。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (90%)
授業中課題 ()
参加度 ()

小テスト (10%)
授業中発表等 ()

a90102a210

多肢選択式に筆記試験です。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **運動生理学演習**

担当者 甲斐 義浩 堀江 淳

テーマ

運動における神経系、筋骨格系、呼吸循環器系、代謝系の変化を理解し理学療法へ応用する。

獲得目標

本授業の目的は以下のこととする。・神経細胞の構造と情報伝達のメカニズムについて理解すること。・骨格筋の構造と筋収縮のメカニズムについて理解すること。・呼吸器系の解剖、生理学を復習し、運動時の呼吸器系の変化を理解すること。・循環器系の解剖、生理学を復習し、運動時の循環器系の変化を理解すること。・代謝、体温調節など生体における運動中の変化を理解すること。

授業の内容

講義による座学を中心とするが、測定方法などを理解する場合は実技、実習を取り入れていく。

内 容

- 第1回 呼吸① 呼吸器の構造と機能、呼吸調節、血液ガスの解釈について学習する。
- 第2回 呼吸② 呼吸機能検査(フローボリューム検査と肺気量分画検査)の解釈と実際について学習する。
- 第3回 循環① 循環器の構造と機能、循環調節
- 第4回 循環② 運動時の心拍変動について学習する。
- 第5回 運動耐容能 酸素輸送系における循環応答(呼気ガス分析による酸素摂取量測定)の解釈と実際について学習する。
- 第6回 代謝 基礎代謝と運動時エネルギー代謝の理解する。
- 第7回 体温調節 体温、熱産生、熱放散の理解する。
- 第8回 運動を支配する機能[神経系]① 神経系の基本的構造と機能
- 第9回 運動を支配する機能[神経系]② 神経系と運動
- 第10回 運動を支配する機能[神経系]③ 運動を支配する機能の障害
- 第11回 運動を発現する機能[骨格筋]① 筋収縮のメカニズム
- 第12回 運動を発現する機能[骨格筋]② 筋収縮のエネルギー
- 第13回 運動を発現する機能[骨格筋]③ 筋線維の種類
- 第14回 運動を発現する機能[骨格筋]④ 筋収縮の様式 筋機能の障害
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

当該科目における国家試験の過去問においてどのような問題が出題されているか確認しておくこと。

教科書

シンプル生理学改訂第6版

著者: 貴邑富久子・他

出版社: 南江堂

出版年: 2011

ISBN:

参考書

やさしい運動生理学

著者: 杉晴夫

出版社: 南江堂

出版年: 2006

ISBN:

健康・体力のための運動生理学

著者： 石河 利寛

出版社： 杏林書院

出版年： 2000

ISBN:

成績評価

試験（100%）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

期末試験の受験は堀江担当範囲、甲斐担当範囲のそれぞれの講義の3分の2以上の出席を必要とする。欠席の場合、試験結果より減点する（連絡あり欠席－2点、無断欠席－4点）。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **整形外科学**

担当者 安藤 忠

テーマ

まず、整形外科の歴史や理学療法との関わりを明らかにし、理学療法が、研究や臨床において、整形外科学の良きパートナーであることを認識することを主目的とする。そのため、講義では、整形外科学における診断・検査の概要と、外傷性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、代謝・内分泌系疾患、腫瘍などの主要疾患と理学療法の役割を解説する。

獲得目標

研究・臨床における理学療法と整形外科との関連の重要性について理解し、次に、整形外科臨床においてよく見られる、各種疾患における理学療法の要点を理解する。

授業の内容

まず、整形外科の歴史や理学療法との関わりを明らかにし、理学療法が、研究や臨床において、整形外科学の良きパートナーであることを認識することを主目的とする。そのため、講義では、整形外科学における診断・検査の概要と、外傷性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、代謝・内分泌系疾患、腫瘍などの主要疾患と理学療法の役割を解説する。

内 容

- 第1回 総論 整形外科学とリハビリテーションの関連
- 第2回 総論 整形外科学における診断法・検査法・治療法
- 第3回 総論 整形外科疾病論 ①炎症性疾患
- 第4回 総論 整形外科疾病論 ②代謝・内分泌性疾患
- 第5回 総論 整形外科疾病論 ③骨・関節性疾患
- 第6回 総論 整形外科疾病論 ④骨・軟部腫瘍
- 第7回 総論 整形外科疾病論 ⑤神経・筋疾患
- 第8回 各論 外傷性疾患 ①骨折
- 第9回 各論 外傷性疾患 ②脊髄損傷
- 第10回 各論 外傷性疾患 ③関節の損傷
- 第11回 各論 外傷性疾患 ④腱・人体の損傷
- 第12回 各論 外傷性疾患 ⑤末梢神経の損傷
- 第13回 各論 外傷性疾患 ⑥スポーツ障害
- 第14回 各論 外傷性疾患 ⑦熱傷と凍傷
- 第15回 各論 外傷性疾患 ⑧切断と離断

授業以外での学習方法

整形外科学や理学療法技術ガイドなどの関連書の購読や学会・研究会への参加

教科書

整形外科学(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野シリーズ)

著者: 立野勝彦

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

参考書

小児整形外科の実際

著者: 藤井敏男

出版社: 南山堂

出版年:

ISBN:

成績評価

a90102b010

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

3分の1以上の欠席を認めない

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **神経内科学**

担当者 中村 重信

テーマ

神経内科疾患は理学療法の重要な対象である

獲得目標

神経内科疾患を習得することによって、理学療法を志すものは、大きな飛躍をとげることができる。そのため、理学療法の基礎として、神経内科疾患の学習は必須のものとなる。

授業の内容

毎回、A4一枚のサマリーを配布し、それに従って授業する。理学療法を行う上で、将来有用な知見を提供するため、実践に則した気持ちで授業に参加して頂きたい。

内 容

- 第1回 神経内科とは:どんな方法で、どんな病気を取り扱うかについて述べる。とくに、理学療法を志す人にとっては、神経内科学の知識は必須のものであり、実践に当たって役立つものである。
- 第2回 意識障害・睡眠障害:意識が軽度に障害されとか、睡眠が障害されると、理学療法に集中することができない。そのため、リハビリテーションを行っている間に事故を起こすことが多い。
- 第3回 認知症:理学療法を行って、運動の仕方などを学習する能力が低下していると効果が少ない。一方、認知症の人に刺激を与え、認知機能のそれ以上の低下を防ぐことも理学療法に期待される課題である。
- 第4回 失語・失行・失認:これらの機能が低下すると、理学療法をスムーズに行うことが困難になる。一方、これらの機能を回復させるために、言語聴覚士、作業療法士などと協力して、機能回復に当たることが大切である。
- 第5回 運動障害:理学療法が最も力を入れる障害である。ただ、運動障害を起こす疾患によって、治療法は異なり、治療の途中で副作用や事故を起こす原因となりうる。そのため、運動障害をきたした原因疾患に応じた治療法が重要である。
- 第6回 感覚障害・感情障害:感覚障害や感情障害は理学療法の効果を左右する。感覚障害はバランスを保つ上に重要であり、理学療法時の事故につながる。感情障害はやる気の低下などを通して、理学療法の効果を少なくする。
- 第7回 脳卒中:脳血管が破裂(出血)または閉塞(梗塞)する結果、神経が障害されて、運動障害のほか、意識障害、失語・失行・失認、感覚障害、感情障害、認知症を起こす。そのため、運動障害以外の症状にも配慮して理学療法をする。
- 第8回 神経変性疾患:パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋委縮性側索硬化症など、神経細胞の変性・脱落によって、運動障害のほか、様々の症状を起こす。それぞれの疾患に見合った理学療法が期待される。
- 第9回 末梢神経障害:種々の原因によって末梢神経障害が起こる。また、末梢神経障害により、運動障害、感覚障害のほか、自律神経障害を伴うことも多い。それらに対する理学療法を組み立てることが必要である。
- 第10回 筋疾患:骨格筋自体が障害されて起こる疾患である。遺伝子異常による疾患、免疫異常による疾患、代謝の異常による疾患、加齢に伴う筋委縮などがある。それらに対する理学療法上の問題点を心得る必要がある。
- 第11回 脊髄障害:脊髄が障害されて、運動障害、感覚障害などを起こす。その原因には様々のものがあり、疾患によって、理学療法が異なるため、脊髄障害の原因診断が大切である。
- 第12回 感染症・免疫疾患:脳炎・髄膜炎の原因を明らかにすることが大切である。また、多発性硬化症、ギランバレー症候群など免疫異常により、神経系の障害を起こすことがある。それらの診断を明にして、理学療法に取り掛かる必要がある。
- 第13回 中毒や欠乏症による神経疾患:アルコール中毒、薬物中毒、重金属中毒あるいはビタミン欠乏症などの栄養素欠乏症により、神経障害を起こす。原因療法と並行して理学療法も行う。
- 第14回 脳腫瘍・神経外傷:これらの疾患は脳神経外科や整形外科で治療されるが、これらも神経疾患として含める。とくに、手術後の回復期に理学療法が有効なことが多い。
- 第15回 合併症・リスク:神経障害のため、廃用性萎縮などを起こすことが多い。廃用性萎縮を防ぐため、適切な理学療法を行うことが勧められる。しかし、理学療法を行う過程で、転倒などの危険を伴うこともあるので、留意する。

授業以外での学習方法

教科書

標準理学療法学・作業療法学「神経内科学」第4版

著者： 川平和美編・著

出版社： 医学書院

出版年： 2013

ISBN：

参考書

標準神経病学 2版

著者： 水野美邦監修

出版社： 医学書院

出版年： 2012

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（25）

参加度（25）

3分の1以上の欠席を認めない【理学療法学科科目共通】

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法技術学入門演習Ⅱ(筋・神経の触察)

担当者 松尾 奈々宮崎 純弥

テーマ

筋・神経の機能解剖学を学び、検査・測定や治療に必要な触察を演習形式で学習する。

獲得目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形などの基礎知識を修得することができる。
2. 学習者が視診・触察を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形について認識できる。
3. 学習者が評価・治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得できる。

授業の内容

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、筋・神経の解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、総論(筋の形、触察法)
- 第2回 肩甲帯筋の触診
- 第3回 肩甲帯筋の触診
- 第4回 上腕筋の触診
- 第5回 前腕筋の触診
- 第6回 前腕筋・手の内在筋の触診
- 第7回 頸筋・頭部の筋の触診
- 第8回 体幹筋の触診
- 第9回 体幹筋の触診
- 第10回 骨盤筋の触診
- 第11回 大腿筋の触診
- 第12回 大腿筋・下腿筋の触診
- 第13回 下腿筋、足の内在筋の触診
- 第14回 触診のまとめ
- 第15回 触診のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

筋骨格系の触診マニュアル

著者： ジョセフ・F・マスコーリーノ

出版社： 産調出版

出版年： 2012

ISBN： 9784882827887

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系

著者： 坂井建雄

出版社： 医学書院

出版年： 2011

ISBN： 9784260010689

参考書

成績評価

試験（60%）

小テスト（実技試験 30%）

授業中課題（5%）

授業中発表等（）

参加度（5%）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <a>**

担当者 村田 伸

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 - 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 - 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 - 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 - 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 - 第6回 研究倫理について学ぶ
 - 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 - 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 - 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 - 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
 - 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 - 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 - 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 - 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 - 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
-

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a110

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I **

担当者 堀江 淳

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 - 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 - 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 - 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 - 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 - 第6回 研究倫理について学ぶ
 - 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 - 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 - 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 - 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
 - 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 - 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 - 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 - 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 - 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
-

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a112

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <c>**

担当者 白岩 加代子

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a113

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <d>**

担当者 安彦 鉄平

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 - 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 - 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 - 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 - 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 - 第6回 研究倫理について学ぶ
 - 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 - 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 - 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 - 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
 - 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 - 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 - 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 - 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 - 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
-

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a114

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <e>**

担当者 横山 茂樹

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 - 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 - 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 - 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 - 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 - 第6回 研究倫理について学ぶ
 - 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 - 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 - 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 - 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
 - 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 - 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 - 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 - 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 - 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
-

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a115

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <f>**

担当者 宮崎 純弥

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 - 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 - 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 - 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 - 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 - 第6回 研究倫理について学ぶ
 - 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 - 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 - 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 - 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
 - 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 - 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 - 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 - 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 - 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
-

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a116

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <g>**

担当者 甲斐 義浩

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 - 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 - 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 - 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 - 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 - 第6回 研究倫理について学ぶ
 - 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 - 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 - 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 - 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
 - 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 - 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 - 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 - 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 - 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
-

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a117

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法 I <h>

担当者 松尾 奈々

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 - 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 - 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 - 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 - 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 - 第6回 研究倫理について学ぶ
 - 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 - 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 - 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 - 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
 - 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 - 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 - 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 - 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 - 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
-

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a118

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <i>**

担当者 濱出 茂治

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 - 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 - 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 - 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 - 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 - 第6回 研究倫理について学ぶ
 - 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 - 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 - 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 - 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
 - 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 - 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 - 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 - 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 - 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
-

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a119

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅰ〈J〉

担当者 児玉 隆之

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 - 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 - 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 - 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 - 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 - 第6回 研究倫理について学ぶ
 - 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 - 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 - 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 - 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
 - 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 - 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 - 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 - 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 - 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
-

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a120

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <k>**

担当者 崎田 正博

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 - 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 - 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 - 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 - 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 - 第6回 研究倫理について学ぶ
 - 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 - 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 - 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 - 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
 - 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 - 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 - 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 - 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 - 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
-

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a121

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法研究法 I <I>**

担当者 小田桐 匡

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
 - 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
 - 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
 - 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
 - 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
 - 第6回 研究倫理について学ぶ
 - 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
 - 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
 - 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
 - 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
 - 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
 - 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
 - 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
 - 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
 - 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
-

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a122

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **動作分析学演習**

担当者 甲斐 義浩・永井 宏達

テーマ

動作分析に必要な運動力学の原理を学び、重力環境下における基本動作の成り立ちについて理解を促進する。

獲得目標

1.動作分析のおおまかな流れを理解することができる。2.動作分析に必要な運動力学の要素を理解することができる。3.基本動作(立ち上がりや歩行など)の運動要素を理解し、説明することができる。4.3次元動作解析装置を用いた動作分析の基礎を理解することができる。

授業の内容

正常から逸脱した異常姿勢や異常歩行の原因と影響について力学的な視点から解説する。

内 容

- 第1回 動作分析の基礎
- 第2回 物体の重心について、重心の観察
- 第3回 動作時(立ち上がりおよび歩行)の重心移動について
- 第4回 重心に加わる力(重力・床反力)について
- 第5回 姿勢保持時における重心と足圧中心との関係について
- 第6回 動作時における床反力の変化について
- 第7回 姿勢保持時および動作時の関節モーメントの変化について
- 第8回 動作の観察(1)-寝返り・起き上がりの観察
- 第9回 動作の観察(2)-立ち上がりの観察
- 第10回 動作の観察(3)-歩行の観察
- 第11回 動作分析実技(1)-三次元動作解析装置の基本的操作方法
- 第12回 動作分析実技(2)-三次元動作解析装置を用いた計測の実際
- 第13回 動作分析実技(3)-三次元動作解析装置より得られる測定値の分析
- 第14回 動作分析実技(4)-分析結果の解釈
- 第15回 動作分析実技(5)-まとめ

授業以外での学習方法

当該科目における国家試験の過去問においてどのような問題が出題されているか確認しておくこと

教科書

基礎運動学 第6版補訂

著者: 中村隆一

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年: 2012

ISBN:

歩行分析-正常歩行と異常歩行 原著第2版

著者: Perry J(著), 武田功(訳)

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験（90%）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（10%）

期末試験の受験は甲斐担当範囲、永井担当範囲のそれぞれの講義の3分の2以上の出席を必要とする

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **物理療法学演習**

担当者 永井 宏達・濱出 茂治

テーマ

物理療法の適切な使用法を学修することを目的とする。また、各種物理療法が生体に与える影響についても実習を通して学習し、物理療法機器の危険性と安全性の理解を図る。

獲得目標

物理療法における疼痛抑制、温熱、痙性抑制等の治療効果に関する基本的特性を実験によって修得する。

授業の内容

・治療機器の操作を理解する。・物理エネルギーがどのような影響を生体に与えるかを理解する。・多様な機能障害への臨床適用技術を修得する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 温熱療法(伝導熱)における生体皮膚温度の測定実習
- 第3回 温熱療法(輻射熱)における生体皮膚温度の測定実習
- 第4回 温熱療法(エネルギー転換熱)における生体皮膚温度の測定実習Ⅰ
- 第5回 温熱療法(エネルギー転換熱)における生体皮膚温度の測定実習Ⅱ
- 第6回 寒冷療法(伝導冷却、対流冷却)における生体皮膚温度、神経誘発電位の測定実習
- 第7回 寒冷療法(気化冷却、痙性抑制法)における生体皮膚温度、神経誘発電位の測定実習
- 第8回 光線療法(紫外線、ソフトレーザー療法)における皮膚紅斑反応測定実習
- 第9回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(上肢)
- 第10回 電気療法におけるモーターポイント探索実習(下肢)
- 第11回 電気療法(経皮的末梢神経電気刺激)における生体刺激実習
- 第12回 電気療法(神経・筋電気刺激)における生体刺激実習
- 第13回 電気療法(干渉電流療法)における生体刺激実習
- 第14回 電気療法(高電圧刺激法)における生体刺激実習
- 第15回 電気診断実習(クロナキシー検査)
- 第16回 電気診断実習(運動神経・感覚神経伝導速度)
- 第17回 電気診断実習(H波、F波)
- 第18回 水治療法(ハーバードタンク)におけるシミュレーション実習
- 第19回 水治療法(過流浴)におけるシミュレーション実習
- 第20回 水治療法(浴中運動)におけるシミュレーション実習
- 第21回 牽引療法(脊椎牽引)におけるシミュレーション実習
- 第22回 牽引療法(四肢牽引)におけるシミュレーション実習
- 第23回 バイオフィードバック療法におけるシミュレーション実習
- 第24回 バイオフィードバック療法におけるシミュレーション実習
- 第25回 模擬症例におけるシミュレーション実習Ⅰ
- 第26回 模擬症例におけるシミュレーション実習Ⅱ
- 第27回 模擬症例におけるシミュレーション実習Ⅲ
- 第28回 模擬症例におけるシミュレーション実習Ⅳ
- 第29回 模擬症例におけるシミュレーション実習Ⅴ
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

物理療法学に関する教科書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

教科書

物理療法マニュアル

著者： 嶋田智明、濱出茂治・他

出版社： 医歯薬出版

出版年： 1996

ISBN：

参考書

成績評価

試験（70%）

小テスト（ ）

授業中課題（15%）

授業中発表等（ ）

参加度（15%）

3分の1以上の欠席を認めない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生活技術学演習

担当者 安彦 鉄平・村田 伸

テーマ

本講義は、生活技術学で学んだ各種の日常生活動作の評価について、疾患別の検査・測定と、その結果の解釈について学ぶ。また、各疾患特有のADL障害の要因について理解し、その指導方法や理学療法プログラムについて学ぶ。

獲得目標

1. 疾患特有の機能障害とADL障害を理解し、説明できる。2. 各疾患ごとにADL制限の要因を説明できる。3. ADLの自立に向けた基本的なアプローチ方法を説明、実施できる。

授業の内容

理学療法の大きな目標の一つである日常生活活動の自立を目指すための理学療法の一連の流れを学習する。

内 容

- 第1回 脳血管障害者のADL(評価の実践:BI)
- 第2回 脳血管障害者のADL(評価の実践:FIM)
- 第3回 脳血管障害者のADL(動作分析)
- 第4回 脳血管障害者のADL(基本動作の指導)
- 第5回 脳血管障害者のADL(基本動作の指導)
- 第6回 下肢運動器障害者のADL評価
- 第7回 下肢運動器障害者のADL評価(大腿骨頸部骨折)
- 第8回 下肢運動器障害者のADL評価(変形性股関節症)
- 第9回 下肢運動器障害者のADL評価(変形性膝関節症)
- 第10回 体幹運動器障害者のADL評価
- 第11回 体幹運動器障害者のADL評価(腰痛症)
- 第12回 その他の疾患による障害者のADL評価
- 第13回 その他の疾患による障害者のADL評価(関節リウマチ)
- 第14回 その他の疾患による障害者のADL評価(パーキンソン病)
- 第15回 その他の疾患による障害者のADL評価(下肢切断)

授業以外での学習方法

テキストやプリントを基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

日常生活活動テキスト

著者： 河元岩男・他

出版社： 南江堂

出版年： 2011

ISBN： 4524247084

参考書

成績評価

試験 (80%)

授業中課題 (0%)

参加度 (20%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (0%)

a90103a610

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **生活環境論**

担当者 白岩 加代子・村田 伸

テーマ

障害をもつ人が自立した生活を送るのに必要となる環境整備の理論と実際について学ぶ。

獲得目標

障害を持つ人の生活環境整備の方法や障害を通して関係してくる法制度、福祉用具やユニバーサル・デザイン住宅の知識について学ぶ。理学療法士として障害をもつ人が安心した生活を営むために必要な知識を習得し、アドバイスできるようになることが目標となる。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 高齢者・障害者を取り巻く社会状況と住環境
 - 第3回 学外研修(福祉・リハ関連機器)
 - 第4回 学外研修(福祉・リハ関連機器)
 - 第5回 福祉住環境コーディネーターの役割と機能
 - 第6回 福祉住環境整備の進め方
 - 第7回 福祉住環境整備の共通基本技術
 - 第8回 生活行為別福祉住環境整備の手法
 - 第9回 福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識
 - 第10回 障害別にみた福祉住環境整備
 - 第11回 福祉用具の意味と適用
 - 第12回 生活行為別にみた福祉用具の活用
 - 第13回 ケーススタディを用いた住宅改造1
 - 第14回 ケーススタディを用いた住宅改造2
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

自分が生活している環境の中で、ユニバーサルデザインされている箇所を調べてみてください。

教科書

「福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト」最新刊

著者： 東京商工会議所 編

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

生活環境論

著者： 木村哲彦 監修

出版社： 医歯薬出版

出版年：

ISBN：

成績評価

a90103b610

試験 (70)
授業中課題 (20)
参加度 (10)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Literacy I <Ha>

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
- 第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする
- 第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 2d, e: 物を描写する
- 第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
- 第7回 Unit 3d, e: 道案内をする、場所を描写する
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
- 第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
- 第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
- 第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
- 第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
- 第14回 Unit 6d, e: リクエストをする 礼状を書く
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

指定箇所の予習 単語ノートの作成

教科書

Life, Elementary, Student

著者: Paul Dummett, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

Life Elementary Workbook with Audio CD

著者: Hughes, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0%）

授業中課題（10%）

参加度（15%）

小テスト（60%）

授業中発表等（15%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Literacy I <Hb>

担当者 山崎 清水

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分と家族の情報を与える
- 第3回 Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」
- 第4回 Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する
- 第5回 Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」
- 第6回 Unit 3 (D): (Reading) Unusual Houses、(Writing/Speaking) 住居を比較する
- 第7回 Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す
- 第10回 Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」
- 第11回 Unit 5 (D): (Reading) Robots at Work、(Writing/Speaking) 仕事を説明する
- 第12回 Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Zoo Dentists」
- 第13回 Unit 6 (D): (Reading,) Shackleton's Epic Journey - A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する
- 第14回 Unit 6 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験（50）

授業中課題（20）

参加度（10）

小テスト（）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Literacy I <Hc>

担当者 栗田 梨津子

テーマ

アカデミック英語入門

獲得目標

様々な学問分野の英語を読んで理解できるようになるための基礎となる語彙力、文法力、読解力を養うこと。まとまった量の英文から正確にかつ短時間で情報を読み取るためのスキルを身につけること。

授業の内容

アカデミック英語の基礎となる様々なトピックの説明文を読み、パラグラフごとの要点をつかむ練習をします。補足的に、各ユニットのテーマに関連するリスニングの練習を通して、聴解力を養います。

内 容

- 第1回 授業概要の説明 英語の学習経験や英語能力に関するアンケート
- 第2回 Unit 1: Trends in Living (Chapter 1: A Cultural Difference: Being on Time)
- 第3回 Unit 1: Trends in Living (Chapter 2: Changing Lifestyles and New Eating Habits)
- 第4回 Unit 1: Trends in Living (Chapter 3: Technology Competes for Family Time)
- 第5回 Unit 1のまとめとリスニング練習
- 第6回 Unit 2: Issues in Society (Chapter 4: Language: Is It Always Spoken?)
- 第7回 Unit 2: Issues in Society (Chapter 5: Loneliness: How Can We Overcome It?)
- 第8回 Unit 2: Issues in Society (Chapter 6: The Importance of Grandmothers)
- 第9回 Unit 2のまとめとリスニング練習
- 第10回 Unit 3: Justice and Crime (Chapter 7: Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System)
- 第11回 Unit 3: Justice and Crime (Chapter 8: The Reliability of Eyewitnesses)
- 第12回 Unit 3: Justice and Crime (Chapter 9: Solving Crimes with Modern Technology)
- 第13回 Unit 3のまとめとリスニング練習
- 第14回 リスニング練習
- 第15回 リスニング練習

授業以外での学習方法

各ユニットの終わりに、語彙と内容をどれだけ理解できているかを確認する小テストを行いますので、毎回授業の復習をしっかりしておいてください。

教科書

Issues for Today 3 (Reading for Today, Fourth Edition)

著者: Lorraine C. Smith & Nancy Nici Mare

出版社: Heinle, Cengage Learning

出版年: 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Literacy I <Hd>

担当者 弥永 啓子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
 - 第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする
 - 第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
 - 第5回 Unit 2d,e: 物を描写する
 - 第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
 - 第7回 Unit 3d, e: 道案内をする、場所を描写する
 - 第8回 前半の復習とまとめ
 - 第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
 - 第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
 - 第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
 - 第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
 - 第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
 - 第14回 Unit 6d, e: リクエストをする 礼状を書く
 - 第15回 後半の復習とまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25%)

参加度 (15%)

小テスト (60%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **心理学 I**

担当者 坂本 敏郎

テーマ

獲得目標

心理学の歴史、心理学の研究方法について概観し、心理学がどのような学問分野であるかを理解する。心理学の中でも、科学的に明らかにされてきた知覚、認知、学習、感情、動機づけなどの基礎心理学領域について理解を深める。

授業の内容

こころのはたらきを客観的、科学的に観察、解析することの重要性が、心理学、とりわけ実験心理学、基礎心理学において指摘されてきた。本講義では、情動、動機づけ、知覚、認知、学習、記憶、発達といった実験や観察によって明らかにされてきた心理機能について、わかりやすく概説する。これらの基礎心理学全般の基本的な知見を概観することにより、心理学とはどういう学問なのかを探究する。

内 容

- 第1回 心理学とは
 - 第2回 心理学の研究方法
 - 第3回 実験心理学の歴史
 - 第4回 こころの数量化、実験計画法
 - 第5回 感覚と知覚
 - 第6回 錯視と運動の知覚
 - 第7回 感情と情動
 - 第8回 動機づけと生得的行動
 - 第9回 学習の基礎1:古典的条件づけとその理論
 - 第10回 学習の基礎2:オペラント条件づけとその理論
 - 第11回 遺伝と発達
 - 第12回 こころの発達と成長
 - 第13回 認知、記憶、思考
 - 第14回 推論と意思決定
 - 第15回 心理学の未来(社会の役に立つ心理学とは)
-

授業以外での学習方法

心理学概論関連の書籍を読み、自学自習する。

教科書

心理学概論

著者: 山内弘継、橋本幸 編

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: 2006年

ISBN:

参考書

心理学入門

著者: 佐藤タツヤ編

出版社: 有斐閣アルマ

出版年: 2010年

ISBN:

成績評価

a90201b010

試験 (60%)
授業中課題 (20%)
参加度 (20%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **政治学概説**

担当者 鶴谷 将彦

テーマ

本講義は、政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

獲得目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 イントロダクション・選挙について
 - 第2回 投票行動・メディアと政治
 - 第3回 政治家
 - 第4回 日本政治史① ～戦後政治と55年体制～
 - 第5回 日本政治史② ～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
 - 第6回 政党
 - 第7回 官僚制
 - 第8回 利益団体
 - 第9回 国会(議会)
 - 第10回 政策過程
 - 第11回 首相～強い首相と弱い首相～
 - 第12回 地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
 - 第13回 地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に
 - 第14回 国際政治
 - 第15回 本講義のまとめ
 - 第16回 定期試験
-

授業以外での学習方法

教科書

ポリティカルサイエンス事始め第3版

著者: 伊藤光利編

出版社: 有斐閣ブックス

出版年: 2009

ISBN: 9784641183728

参考書

はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに 第3版

著者: 北山俊哉・久米郁男・真淵勝

出版社: 有斐閣アルマ

出版年: 2009

ISBN: 9784641123687

成績評価

試験（100）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（0）

成績評価については、第1回の授業の中のイントロダクションで説明する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理統計学Ⅱ

担当者 前田 洋光

テーマ

推測統計学の理解

獲得目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、実際の心理学研究において頻繁に用いられる種々の統計解析について、具体的な問題を解きながら理解を深めていく。それによって、各分析手法の概念について理解することを、第一の目的とする。加えて、与えられたデータ分析し、適切な結論を導くことができる実践力を獲得することを目標とする。

授業の内容

心理統計学Ⅰで習得した内容を踏まえ、本講では、卒業研究において自らで心理学研究をまとめるにあたり最低限必要となる、より発展的・実践的な統計学の概念について学んでいく。また、種々の統計手法について、電卓を用いて手計算をおこなう演習を併用することによって、一層の理解を深めていく。

内 容

- 第1回 イントロダクション:統計学の基礎の復習
 - 第2回 標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(1)
 - 第3回 標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(2)
 - 第4回 統計的検定の基礎
 - 第5回 t検定(1):対応のない場合のt検定
 - 第6回 t検定(2):対応のある場合のt検定
 - 第7回 一元配置分散分析(1):一要因被験者間検定
 - 第8回 一元配置分散分析(2):多重比較
 - 第9回 ノンパラメトリック検定(1)
 - 第10回 ノンパラメトリック検定(2)
 - 第11回 データ分析演習(1)
 - 第12回 データ分析演習(2)
 - 第13回 データ分析演習(3)
 - 第14回 データ分析演習(4)
 - 第15回 授業全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

教科書

参考書

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本

著者: 吉田 寿夫 著

出版社: (北大路書房)

出版年:

ISBN:

よくわかる心理統計

著者: 山田 剛史・村井 潤一郎 著

出版社: (ミネルヴァ書房)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト (50)

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **感情心理学**

担当者 坂本 敏郎

テーマ

獲得目標

人や動物のこころのはたらきの重要な機能のひとつである感情・情動のメカニズムについて理解する。なぜ感情が生起するのか、感情と身体反応(脳の活動、生理反応、免疫反応)はどのような関係をもつのかについて理解を深める。

授業の内容

ヒトを含む動物は感情・情動という心理的機能を生得的に有している。情動は比較的短期の感情の動きと定義され、快と不快の情動に分類される。食欲や性欲などが充足された時には快の情動が生じ、恐怖、嫌悪、怒りなどは不快情動が生じる。本講義では、情動の起源、情動の分類、情動を制御する脳内機構、情動障害のメカニズムについて、ヒトや動物から得られた知見を紹介し、解説する。さらに、二個体以上の相互作用からなる行動、社会行動(攻撃行動、性行動、養育行動、愛着行動)の心理的メカニズムおよびそれを制御する脳内機構、神経内分泌機構についても解説する。

内 容

- 第1回 感情とは？
 - 第2回 情動と感情
 - 第3回 情動理論
 - 第4回 進化と情動
 - 第5回 快の情動
 - 第6回 快の情動と神経回路
 - 第7回 不快の情動
 - 第8回 不快の情動の神経回路
 - 第9回 情動障害1
 - 第10回 情動障害2
 - 第11回 攻撃行動の基礎
 - 第12回 つがい形成行動、愛着行動の基礎
 - 第13回 養育行動の基礎
 - 第14回 他個体の認知
 - 第15回 こころの絆の形成
-

授業以外での学習方法

感情心理学関連の書籍を読み、自学自習する。

教科書

感情の心理学

著者： 大平英樹(編)

出版社： 有斐閣アルマ

出版年： 2010年

ISBN:

参考書

進化心理学入門

著者： J.H. カートライト

出版社： 新曜社

出版年： 2005年

ISBN:

脳とホルモンの行動学

著者： 近藤保彦他（編）

出版社： 西村書店

出版年： 2009年

ISBN:

成績評価

試験（ ）

授業中課題（40%）

参加度（30%）

小テスト（30%）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 対人援助論A

担当者 青木 剛・中西 龍一

テーマ

獲得目標

心理学的対人援助の基礎を学ぶ

授業の内容

心理学的対人援助の理論とスキルについて、その基礎となるC・ロジャーズによる「来談者中心法 (Client centered therapy)」およびE・バーンによる「交流分析 (Transactional Analysis)」の理論について理解する。また、ロジャーズがセラピストに求めた「受容」「共感」「自己一致」の態度や傾聴のスキル、バーンによる「交流」の視点を獲得する。

内 容

- 第1回 心理学的対人援助とは
 - 第2回 Rogersによる「来談者中心法」
 - 第3回 「来談者中心法」を考える
 - 第4回 「来談者中心法」とは
 - 第5回 「来談者中心法」をマイクロカウンセリングの視点から分析する
 - 第6回 「マイクロカウンセリング」基本的傾聴技法、質問技法、
 - 第7回 「マイクロカウンセリング」言い換え技法、最小限お励まし、感情の同定
 - 第8回 「傾聴」とは
 - 第9回 来談者中心法 まとめ
 - 第10回 交流分析 交流分析とは
 - 第11回 交流分析 エゴグラム
 - 第12回 交流分析 やりとり分析
 - 第13回 交流分析 ゲーム・人生脚本
 - 第14回 交流分析 再決断療法 (TA・ゲシュタルト)
 - 第15回 授業 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

講座サイコセラピー 第8巻 交流分析

著者:

出版社: 日本文化科学社

出版年: 1985

ISBN: 978-4821061464

参考書

マイクロカウンセリング

著者: アレン・E・アイビー

出版社: 風間書房

出版年: 2004

ISBN: 978-4759914450

成績評価

a90202e510

試験 ()
授業中課題 (40%)
参加度 (60%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **カウンセリング**

担当者 中島 暢美

テーマ

リスニングの基本的態度の理解

獲得目標

カウンセリング理論の概要を習得すること、および心理療法としてのカウンセリングにおけるカウンセラーの基本的態度について理解することを目標とする。

授業の内容

カウンセリングを行なうための基礎的知識を学ぶとともに、カウンセリングを受講生自身が実際に体験する。技法論に留まらず、受講生各人が心身を通してカウンセリングを体験学習する時間を共有したい。

内 容

- 第1回 イントロダクション、カウンセリングとは(1)
 - 第2回 カウンセリングとは(2)
 - 第3回 カウンセリングとは(3)
 - 第4回 心理療法としてのカウンセリング(1)
 - 第5回 心理療法としてのカウンセリング(2)
 - 第6回 心理療法としてのカウンセリング(3)
 - 第7回 心理療法としてのカウンセリング(4)
 - 第8回 リスニングの基本的態度(1)
 - 第9回 リスニングの基本的態度(2)
 - 第10回 リスニングの基本的態度(3)
 - 第11回 リスニングの実際(1)
 - 第12回 リスニングの実際(2)
 - 第13回 リスニングの実際(3)
 - 第14回 リスニングの実際(4)
 - 第15回 リスニングの実際(5)
-

授業以外での学習方法

参考書や心理学辞典を調べるなど、専門用語の理解について自学自習を実践して下さい。

教科書

対人援助職のためのリスニング—カウンセリングの基本となる聞き方—

著者： 中島暢美

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2014年3月末予定

ISBN：

参考書

カウンセリングを学ぶ

著者： 佐治守夫他

出版社： 東京大学出版会

出版年： 1996

ISBN：

新訂 方法としての面接 臨床家のために

著者: 土居健郎

出版社: 医学書院

出版年: 1992

ISBN:

試行カウンセリング

著者: 鑪幹八郎

出版社: 誠信書房

出版年: 1991

ISBN:

心理学の基礎知識

著者: 東洋・大山正・詫摩武俊・藤永

出版社: 有斐閣ブックス

出版年: 1995

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

体験学習重視のため出席は必須。毎回の講義の課題および最終課題で総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワーク I <a>**

担当者 滝野 功久・殿谷 仁志・中西 龍一・松下 幸治・山崎 貴子

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

獲得目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の内容

※受講登録時は全員<a>に登録したうえで、後日クラス振り分けを行います。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (60%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワーク I **

担当者 滝野 功久・殿谷 仁志・中西 龍一・松下 幸治・山崎 貴子

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

獲得目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の内容

※受講登録時は全員<a>に登録したうえで、後日クラス振り分けを行います。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (60%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワーク I <c>**

担当者 滝野 功久・殿谷 仁志・中西 龍一・松下 幸治・山崎 貴子

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

獲得目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の内容

※受講登録時は全員<a>に登録したうえで、後日クラス振り分けを行います。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (60%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワーク I <d>**

担当者 滝野 功久・殿谷 仁志・中西 龍一・松下 幸治・山崎 貴子

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

獲得目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の内容

※受講登録時は全員<a>に登録したうえで、後日クラス振り分けを行います。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (60%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワーク I <e>**

担当者 滝野 功久・殿谷 仁志・中西 龍一・松下 幸治・山崎 貴子

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

獲得目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の内容

※受講登録時は全員<a>に登録したうえで、後日クラス振り分けを行います。

内 容

- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)
- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (60%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 産業心理学 I (組織行動論)

担当者 石田 正浩

テーマ

よりよい組織を作るために必要な心理学的な視点を獲得する。

獲得目標

組織において人を動かす上で生じる問題を、心理学的な観点から適切に理解し、効果的な対処が考えられるようになる。現在進行中の働きかたの変化に対しても、その心理学的な意味を理解・説明できるようになる。

授業の内容

組織に生きる人々の心理・行動の問題として、ワークモチベーション・集団生産性・リーダーシップ・ストレスを取り上げ、心理学的な人間理解とはどのようなものかを学ぶ。自分が所属する集団での経験を参照できるように身近な事例を多く取り入れて講義する。

内 容

- 第1回 組織行動論・組織心理学とは
 - 第2回 ワーク・モチベーション1 基本概念、欲求階層理論
 - 第3回 ワーク・モチベーション2 2要因理論と達成動機づけ
 - 第4回 ワーク・モチベーション3 内発的動機づけ
 - 第5回 ワーク・モチベーション4 公平理論・期待理論・目標設定理論
 - 第6回 応用行動分析
 - 第7回 ワークモチベーション理論と実践 目標管理・成果主義・ジョブデザイン
 - 第8回 集団生産性1 基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
 - 第9回 集団生産性2 シュタイナーの課題分類と生産性
 - 第10回 集団生産性3 集団意思決定
 - 第11回 リーダーシップ1 リーダーシップとは、特性論、行動論
 - 第12回 リーダーシップ2 条件即応理論
 - 第13回 リーダーシップ3 変革型リーダーシップ理論、LMX
 - 第14回 組織ストレス1 組織ストレス理解の基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
 - 第15回 組織ストレス2 バーンアウト、ストレスの管理
-

授業以外での学習方法

自分が所属している(した)集団での経験を振り返り、概念や理論が意味するところを実感する。

教科書

参考書

産業・組織心理学エッセンシャルズ 改訂三版

著者： 田中堅一郎編

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2011

ISBN： 4779505631

新版 組織行動のマネジメント

著者： スティーブン P. ロビンス著、高木春夫訳

出版社： ダイヤモンド社

出版年： 2009

ISBN： 9784478004593

心理学の世界 基礎編10 組織心理学

著者: 古川久敬

出版社: 培風館

出版年: 2011

ISBN: 9784563058760

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 よそおいの心理学

担当者 日比野 英子

テーマ

外見と心の関係

獲得目標

本講義では、粧いと装いという外見のデザインや印象管理を行うことが、人の心の有り様や心の健康とどのような関係があるのか、人と人とのコミュニケーションにどのような影響をおよぼすのかを理解し、さらに、福祉や医療の場でのこれらを用いたサポートの実践例についても理解を深める。

授業の内容

以下のように、装いと化粧についての心理学各領域における基礎研究を紹介し、後にそれらを用いた実践例を紹介するとともに臨床心理学的見地からのよそおいについての考察を展開する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 外見をめぐる諸問題、よそおいとは、本授業のねらい・方針
- 第2回 装いの社会・心理的機能①
- 第3回 装いの社会・心理的機能②
- 第4回 顔について① 顔とは(乳幼児期における顔認知などから)
- 第5回 顔について② こども顔とおとな顔、女顔とお男顔
- 第6回 顔について③ 顔認知のステレオタイプ
- 第7回 化粧とは 化粧の文化誌、メーキャップの心理学
- 第8回 社会心理学における化粧研究
- 第9回 感情心理学・生理心理学における化粧研究①
- 第10回 感情心理学・生理心理学における化粧研究②
- 第11回 化粧とパーソナリティ
- 第12回 化粧の臨床的応用① 精神障害者を対象として
- 第13回 化粧の臨床的応用② 高齢者を対象として
- 第14回 化粧と装いの臨床的応用③ 身体障害者を対象として
- 第15回 まとめ 臨床心理学的視点からみたよそおいの意味

授業以外での学習方法

化粧や服装について、多岐にわたる視点からアプローチするため、特に1冊の教科書を用いないが、下記の参考書や授業中に紹介する書籍を精読して興味を深めてもらいたい。

教科書

参考書

被服と化粧の社会心理学—人はなぜ装うのか

著者： 大坊郁夫・神山進他

出版社： 北大路書房

出版年： 1996年

ISBN： 978-4762820588

化粧行動の社会心理学

著者： 大坊郁夫他

出版社： 北大路書房

出版年： 2001年

ISBN： 4-7628-2226-4

個と向き合う介護

著者： 西本典良・日比野英子他

出版社： 誠信書房

出版年： 2006年

ISBN: 4-414-60137-1

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **広告心理学**

担当者 前田 洋光

テーマ

広告を科学的見地から理解する

獲得目標

広告の心理・社会的機能を、客観的な視点から論考することができる。

授業の内容

私たちは日々、多くの広告に接触しながら生活している。本講では、心理学や行動科学の研究成果を中心に、これら広告の心理・社会的機能を学習し、広告の送り手・受け手の双方の視点から種々のトピックについて論考していく。加えて、広告を通して人間(消費者)理解を深めることによって、さまざまなマーケティング戦略について議論していく。

内 容

- 第1回 インTRODakション
 - 第2回 広告効果
 - 第3回 ブランドと広告
 - 第4回 メディアによる差異
 - 第5回 購買後効果と長期的効果
 - 第6回 広告表現と戦略:タレント起用広告
 - 第7回 広告表現と戦略:比較広告
 - 第8回 広告表現と戦略:ユーモア広告
 - 第9回 広告表現と戦略:その他の広告表現
 - 第10回 POP広告
 - 第11回 公共広告
 - 第12回 インターネット広告
 - 第13回 プロダクトプレイスメント
 - 第14回 広告の倫理:広告苦情
 - 第15回 まとめと確認
-

授業以外での学習方法

日常生活において、さまざまな広告に接触すること

教科書

購入する必要はない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

広告心理

著者: 仁科貞文ほか

出版社: 電通

出版年:

ISBN:

成績評価

a90203e210

試験 (80)
授業中課題 (20)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **発達臨床心理学**

担当者 中村 和夫

テーマ

人としての発達を生きる上での障害の実際とソーシャルサポートについて理解する。

獲得目標

人としての発達を生きる上での様々な障害についてその実際の姿を理解するとともに、社会生活におけるソーシャルサポートのあり様と実践現場の活動について理解すること。

授業の内容

最初に各種障害の特徴と課題について説明する。次に社会生活における各種ソーシャルサポートの実践について紹介する。

内 容

- 第1回 発達に障害があるとはどういうことか
 - 第2回 障害とは何か：診断、治療、支援
 - 第3回 知的発達の障害
 - 第4回 姿勢・運動の障害
 - 第5回 言葉の障害
 - 第6回 視覚の障害
 - 第7回 聴覚の障害
 - 第8回 重症心身障害
 - 第9回 発達障害：学習障害
 - 第10回 発達障害：注意欠陥多動性障害
 - 第11回 発達障害：自閉症スペクトラム
 - 第12回 不登校・ひきこもり
 - 第13回 発達臨床の現場とソーシャルサポート：乳幼児健診・発達相談・発達支援センターなど
 - 第14回 発達臨床の現場とソーシャルサポート：保育所・通園施設・児童養護施設など
 - 第15回 発達臨床の現場とソーシャルサポート：特別支援教育
-

授業以外での学習方法

発達臨床心理学の関連図書による自学自習

教科書

よくわかる臨床発達心理学 第4版

著者： 麻生武・浜田寿美男 編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2012

ISBN：

参考書

よくわかる発達障害

著者： 小野・上野・藤田 編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN：

成績評価

a90203e910

試験 (70%)

授業中課題 ()

参加度 (30%)

参加度とは出席を含めた授業態度

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Aa>

担当者 米澤 洋子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ab>

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ac>

担当者 禧美 智章

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ad>

担当者 権藤 愛順

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ae>

担当者 名和 久仁子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Af>

担当者 松井 治子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ag>

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ah>

担当者 橋本 正志

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ai>

担当者 渡邊 浩史

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Aj>

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ak>

担当者 伊藤 典文

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <AI>

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Am>

担当者 重松 恵美

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <An>

担当者 檜垣 泰代

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ba>

担当者 米澤 洋子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Bb>**

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bc>

担当者 禧美 智章

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Bd>**

担当者 権藤 愛順

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Be>**

担当者 名和 久仁子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
 - 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bf>

担当者 松井 治子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Bg>**

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bh>

担当者 橋本 正志

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年： ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bi>

担当者 渡邊 浩史

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bj>

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bk>

担当者 伊藤 典文

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <BI>

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bm>

担当者 重松 恵美

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Bn>**

担当者 檜垣 泰代

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の内容

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの作成とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの作成とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <a>**

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
- 第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする
- 第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 2d, e: 物を描写する
- 第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
- 第7回 Unit 3d, e: 道案内をする、場所を描写する
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
- 第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
- 第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
- 第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
- 第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
- 第14回 Unit 6d, e: リクエストをする 礼状を書く
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

指定箇所の予習 単語ノートの作成

教科書

Life, Elementary, Student

著者: Paul Dummett, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

Life Elementary Workbook with Audio CD

著者: Hughes, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0%）

授業中課題（10%）

参加度（15%）

小テスト（60%）

授業中発表等（15%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B **

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 TOEIC リスニング問題 構成、リスニング訓練方法
 - 第2回 写真描写問題攻略法 人物描写
 - 第3回 応答問題攻略法 Wh疑問文
 - 第4回 会話問題攻略法 設問の先読み訓練
 - 第5回 説明文問題攻略法 キーワードのとらえ方
 - 第6回 写真描写問題攻略法 位置関係
 - 第7回 応答問題攻略法 クイックレスポンスの練習
 - 第8回 会話問題攻略法 会話の流れをつかむ
 - 第9回 説明文問題攻略法 話の流れをつかむ
 - 第10回 写真描写問題 演習
 - 第11回 応答問題 演習
 - 第12回 会話問題 演習
 - 第13回 説明文問題 演習
 - 第14回 模擬試験 解答・解説
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

教科書

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2

著者： 河合忠仁 David E. Bramley

出版社： 松柏社

出版年： 2007

ISBN： 9784881985854

Score Goals in TOEIC Test Listening 500

著者： 河合忠仁 David E. Bramley

出版社： 松柏社

出版年： 2006

ISBN： 9784881985717

新TOEIC TEST 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ出版

出版年： 2008

ISBN： 9784901429658

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（20）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <c>**

担当者 クーラン コーリ

テーマ

Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)

獲得目標

Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)

授業の内容

·Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A) 名前を聞く・教える
- 第3回 Unit 1 (B) スペルを聞く・教える
- 第4回 Unit 2 (A) 出身・国籍について話す
- 第5回 Unit 2 (B) メールアドレスと電話番号を交換する
- 第6回 Unit 3 (A) 身の回りのものについて話す
- 第7回 Unit 3 (B) 英語での言い方を尋ねる
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A) 移動の手段・交通機関について話す
- 第10回 Unit 4 (B) 時間を尋ねる・表現する
- 第11回 Unit 5 (A) インターネット利用について話す
- 第12回 Unit 5 (B) 買い物をする
- 第13回 Unit 6 (A) 職業・仕事について話す
- 第14回 Unit 6 (B) 電話をかける・電話にでる
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

The teacher will introduce methods (free ESL websites and other interesting and fun online resources, DVDs, etc) to study and improve your English outside of classtime on a weekly basis. This extra study can be done at any time during the student's free

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126151

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126540

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

Tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

参考URL

Weblio 英和和英辞典

www.eje.weblio.jp

An excellent, free online dictionary

Using English

www.usingenglish.com/

Fun and free English online learning

Top 10 FREE ESL websites

www.freenuts.com/learn-english-online-for-free/

Free online English lessons in many formats

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <d>

担当者 溝部 芳子

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

獲得目標

TOEICリスニングに対応できるリスニングスキルの養成および基礎となる語彙力の修得を目的とする。

授業の内容

TOEICリスニングの各パートごとに必要なスキルを確認した上で、リスニング練習を行う。英語の音の変化、リズムに慣れ、リスニングに多く出題される場面を理解するために必要な語彙を習得する。音読やシャドーイングなど英語を声に出す機会を増やしたい。積極的な授業参加が求められる。随時小テストを行う。

内 容

- 第1回 Part 1 動作表現、人や物を指す表現
 - 第2回 Part 1 位置、状態を表す表現、状態を表す受動態
 - 第3回 Part 2 疑問詞を使った疑問文、Yes/No 疑問文
 - 第4回 Part 2 提案・依頼・申し出の表現
 - 第5回 Part 1, 2 総合演習
 - 第6回 Part 3 大意把握
 - 第7回 Part 3 店での会話、電話での会話
 - 第8回 Part 3 オフィスでの会話
 - 第9回 Part 3 総合演習
 - 第10回 Part 4 留守番電話のメッセージ、スピーチ
 - 第11回 Part 4 アナウンス、ガイドツアー
 - 第12回 Part 4 広告
 - 第13回 Part 4 総合演習
 - 第14回 リスニングパート総合演習(1)
 - 第15回 リスニングパート総合演習(2)
-

授業以外での学習方法

語彙学習。CDを聴いて復習をする。TVやWeb、映画など、英語の音声に触れる機会を増やすこと。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC Test Listening

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： 2011

ISBN: 9784342553004

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (25%)
参加度 (15%)

小テスト (40%)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus科目名 **英語 I B <e>**

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 写真描写問題攻略法 人物描写
- 第3回 応答問題攻略法 Wh疑問文
- 第4回 会話問題攻略法 設問の先読み訓練
- 第5回 説明文問題攻略法 キーワードのとらえ方
- 第6回 写真描写問題攻略法 位置関係
- 第7回 応答問題攻略法 クイックレスポンスの練習
- 第8回 会話問題攻略法 会話の流れをつかむ
- 第9回 説明文問題攻略法 話の流れをつかむ
- 第10回 写真描写問題 演習
- 第11回 応答問題 演習
- 第12回 会話問題攻略法 演習
- 第13回 説明文問題 演習
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

Score Goals in TOEIC Test Listening 400

著者： 河合忠仁 David E. Bramley

出版社： 松柏社

出版年： 2006

ISBN： 9784881985700

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1

著者： 河合忠仁 David E. Bramley

出版社： 松柏社

出版年： 2007

ISBN： 9784881985847

新TOEIC TEST 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ出版

出版年： 2008

ISBN： 9784901429658

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（20）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <f>**

担当者 田中 美和子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ·Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

·Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験（30）

授業中課題（10）

参加度（30）

小テスト（20）

授業中発表等（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <g>

担当者 プライアンスカガイル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報聞き取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a: - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <h>**

担当者 スミス ジョン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ·Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

·Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験（30）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（10）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <i>

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ·Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

·Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報聞き取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life Elementary Workbook

著者: John Hughes

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9781133316039

参考書

成績評価

試験 (25)

授業中課題 (25)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

ktu-e-learn.net

<http://ktu-e-learn.net/>

このサイトは、小テストや期末テストの実施、リスニング等に毎回使います。

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <j>

担当者 弥永 啓子

テーマ

プロジェクトとプレゼンテーションを通して国際語としての英語で発信する

獲得目標

・リサーチの基本的な技能を身につける・英語でのプレゼンテーション経験を通して英語によるパブリックスピーキングに自信を持つ・自律的な英語学習のためのICT活用スキルを身につける

授業の内容

各学生が自分でプロジェクトのテーマを決めてリサーチし、これを発表する。

内 容

- 第1回 自己紹介、オンライン辞書の活用方法を学ぶ
 - 第2回 英語で自分の好きなことについて話す、オンライン辞書の活用方法を学ぶ
 - 第3回 インターネットでいくつかの関心事について調べてみる、検索エンジンの活用
 - 第4回 テーマを決める、グループでテーマに関するアイデアを出し合う、情報収集を開始する
 - 第5回 情報収集
 - 第6回 情報収集
 - 第7回 情報整理とプレゼンテーションの構成を考える
 - 第8回 プレゼンテーションの原稿を作成する、ワードで校閲する
 - 第9回 プレゼンテーションのスライドを試作する
 - 第10回 プレゼンテーションの練習をする、グループ内でプレゼンテーションをする、フィードバックにより内容の修正を検討する
 - 第11回 内容を修正する、最終原稿とスライドを完成する
 - 第12回 質疑応答に備える
 - 第13回 最終プレゼンテーション(1)
 - 第14回 最終プレゼンテーション(2)
 - 第15回 最終プレゼンテーション(3)
-

授業以外での学習方法

授業内で完了できなかったリサーチやリサーチ・学習記録、プレゼンテーションの準備

教科書

Inspire 2

著者: Martmann, Pamela

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9781133963684

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (45%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <k>**

担当者 小川 享子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報聞き取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a: - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

授業内容に従い、リスニング、ライティングなどの課題を出すので、それに取り組む。語彙を増やすための努力をする

教科書

Life, Elementary, Student's Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (10)

参加度 (15)

小テスト (20)

授業中発表等 (15)

試験、小テスト、授業中の積極的な学習姿勢、ペアワークなどの取り組みなどを総合的に判断して成績評価を出す。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <I>**

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ·Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

·Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (55)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <m>

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about people and things that have changed the world.

獲得目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の内容

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as preparing weekly blog entries, and doing reading, listening and speaking exercises about various world-changers. We will also focus on various tools for autonomously improving your English speaking and writing skills. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語 I A. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction / getting to know you
 - 第2回 Model autobiographies
 - 第3回 Brainstorming & planning
 - 第4回 Writing a script
 - 第5回 Using feedback symbols & rewriting
 - 第6回 Recording & editing
 - 第7回 Sharing & giving feedback
 - 第8回 Model group projects
 - 第9回 Brainstorming & choosing a theme
 - 第10回 Conducting group research I
 - 第11回 Conducting group research II
 - 第12回 Putting it all together
 - 第13回 Model presentation
 - 第14回 Presentation preparation
 - 第15回 Final presentations
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <n>

担当者 溝部 芳子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報聞き取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a: - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

DVDを観る。語彙学習、その他自宅学習課題にしっかりと取り組む。

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20%)

参加度 (15%)

小テスト (45%)

授業中発表等 (20%)

小テストには2～3單元ごとの確認テストが含まれる。

参考URL

2014 Syllabus科目名 **英語 I B <o>**

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 Unit 1 Computers and Society (コンピューター社会)
- 第2回 Unit 2 Business Transaction (ビジネス)
- 第3回 Unit 3 At the Office (オフィス)
- 第4回 Unit 4 Cars and Society (車社会)
- 第5回 Unit 5 Eating and Drinking (食生活)
- 第6回 Unit 6 Shopping (ショッピング)
- 第7回 Unit 7 Entertainment (娯楽)
- 第8回 Unit 8 Accidents & Crimes (事故・犯罪)
- 第9回 Unit 9 Teaching & Learning (教育・学問)
- 第10回 Unit 10 Medicine & Hospitals (医療・病院)
- 第11回 Unit 11 Finance and Banks (金融・銀行)
- 第12回 Unit 12 Economy and Industry (経済・産業)
- 第13回 Unit 13 Geography and Travels (地理・旅行)
- 第14回 Unit 14 Weather and Climate (気象・気候)
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

Total Strategy for the TOEIC Test

著者: 石井隆之

出版社: 成美堂

出版年: 2006

ISBN: 9784791905539

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <p>

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
- 第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする
- 第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 2d, e: 物を描写する
- 第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
- 第7回 Unit 3d, e: 道案内をする、場所を描写する
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
- 第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
- 第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
- 第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
- 第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
- 第14回 Unit 6d, e: リクエストをする 礼状を書く
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

指定箇所の予習 単語ノートの作成

教科書

Life, Elementary, Student

著者: Paul Dummett, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

Life Elementary Workbook with Audio CD

著者: Hughes, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0%）

授業中課題（10%）

参加度（15%）

小テスト（60%）

授業中発表等（15%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <q>**

担当者 クーラン コーリ

テーマ

Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)

授業の内容

・Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A) 名前を聞く・教える
- 第3回 Unit 1 (B) スペルを聞く・教える
- 第4回 Unit 2 (A) 出身・国籍について話す
- 第5回 Unit 2 (B) メールアドレスと電話番号を交換する
- 第6回 Unit 3 (A) 身の回りのものについて話す
- 第7回 Unit 3 (B) 英語での言い方を尋ねる
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A) 移動の手段・交通機関について話す
- 第10回 Unit 4 (B) 時間を尋ねる・表現する
- 第11回 Unit 5 (A) インターネット利用について話す
- 第12回 Unit 5 (B) 買い物をする
- 第13回 Unit 6 (A) 職業・仕事について話す
- 第14回 Unit 6 (B) 電話をかける・電話にでる
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

The teacher will introduce methods (free ESL websites and other interesting and fun online resources, DVDs, etc) to study and improve your English outside of classtime on a weekly basis. This extra study can be done at any time during the student's free

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126151

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126540

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

Tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

参考URL

Weblio 英和和英辞典

www.eje.weblio.jp

An excellent, free online dictionary

Using English

www.usingenglish.com/

Fun and free English online learning

Top 10 FREE ESL websites

www.freenuts.com/learn-english-online-for-free/

Free online English lessons in many formats

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <r>

担当者 弥永 啓子

テーマ

プロジェクトとプレゼンテーションを通して、国際語としての英語で発信する

獲得目標

・リサーチの基本的な技能を身につける・英語でのプレゼンテーション経験を通して英語によるパブリックスピーキングに自信を持つ・自律的な英語学習のためのICT活用スキルを身につける

授業の内容

各学生が自分でプロジェクトのテーマを決めてリサーチし、これを発表する。

内 容

- 第1回 自己紹介、オンライン辞書の活用方法を学ぶ
- 第2回 英語で自分の好きなことについて話す、オンライン辞書の活用方法を学ぶ
- 第3回 インターネットでいくつかの関心事について調べてみる、検索エンジンの活用
- 第4回 テーマを決める、グループでテーマに関するアイデアを出し合う、情報収集を開始する
- 第5回 情報収集
- 第6回 情報収集
- 第7回 情報整理とプレゼンテーションの構成を考える
- 第8回 プレゼンテーションの原稿を作成する、ワードで校閲する
- 第9回 プレゼンテーションのスライドを試作する
- 第10回 プレゼンテーションの練習をする、グループ内でプレゼンテーションをする、フィードバックにより内容の修正を検討する
- 第11回 内容を修正する、最終原稿とスライドを完成する
- 第12回 質疑応答に備える
- 第13回 最終プレゼンテーション(1)
- 第14回 最終プレゼンテーション(2)
- 第15回 最終プレゼンテーション(3)

授業以外での学習方法

授業内で完了できなかったリサーチやリサーチ・学習記録、プレゼンテーションの準備

教科書

Inspire 2

著者: Martmann, Pamela

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9781133963684

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (45%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <s>

担当者 プライアンスカガイル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ·Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

·Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報聞き取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a: - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <t>**

担当者 田中 美和子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ·Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

·Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験（30）

授業中課題（10）

参加度（30）

小テスト（20）

授業中発表等（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <u>**

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Acting English Drama

獲得目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.

授業の内容

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introductions
 - 第2回 Journal notebook, week one – Story Research
 - 第3回 Week 2 Story Characters
 - 第4回 Episode 3 Monsters – New words
 - 第5回 Journal week 4 Quiz – Morning After
 - 第6回 Acting Scene 5 Q and A
 - 第7回 Natural pronunciation practice
 - 第8回 Episode 7 Acting scene with students and Teacher
 - 第9回 Journals week 8 – Story Summary
 - 第10回 Story Questions – Vocabulary Test
 - 第11回 Final Journal Notebook week 10
 - 第12回 Favorite Actor Report – Presentation
 - 第13回 Final Story notes– Q and A
 - 第14回 Heat wave Idioms and Dialogues
 - 第15回 Final Papers and Discussion
-

授業以外での学習方法

B5 Notebook Journals will be required homework and research

教科書

Acting English Drama

著者: Marcus Thorson

出版社: Sun Publishing

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト (15)

授業中発表等 (15)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <v>**

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 Unit 1 Eating Out 文の構造
- 第2回 Unit 2 Amusement 名詞 I： 名詞・代名詞
- 第3回 Unit 3 Daily Life 名詞 II： 加算/不可算名詞
- 第4回 Unit 4 Directions 形容詞・副詞
- 第5回 Unit 5 Travel 動詞・助動詞
- 第6回 Unit 6 Advertising 時制
- 第7回 Unit 7 Personnel イディオム I
- 第8回 Unit 8 Purchases 一致
- 第9回 Unit 9 Office Work 分詞・動名詞・不定詞
- 第10回 Unit 10 Employment 関係詞
- 第11回 Unit 11 Business 接続詞・前置詞
- 第12回 Unit 12 Finance & Banking 特殊構文
- 第13回 Unit 13 Health & Welfare 比較
- 第14回 Unit 14 Computers & The Internet 仮定法 Unit 15 Media イディオム II
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

Power Charge for the TOEIC Test

著者： 西田晴美 Brian Covert

出版社： 金星堂

出版年： 2009

ISBN： 9784764738744

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <w>

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about people and things that have changed the world.

獲得目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の内容

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as preparing weekly blog entries, and doing reading, listening and speaking exercises about various world-changers. We will also focus on various tools for autonomously improving your English speaking and writing skills. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語 I A. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction / getting to know you
 - 第2回 Model autobiographies
 - 第3回 Brainstorming & planning
 - 第4回 Writing a script
 - 第5回 Using feedback symbols & rewriting
 - 第6回 Recording & editing
 - 第7回 Sharing & giving feedback
 - 第8回 Model group projects
 - 第9回 Brainstorming & choosing a theme
 - 第10回 Conducting group research I
 - 第11回 Conducting group research II
 - 第12回 Putting it all together
 - 第13回 Model presentation
 - 第14回 Presentation preparation
 - 第15回 Final presentations
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <x>

担当者 スミス ジョン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ·Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

·Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験（30）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（10）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <y>**

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ·Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

·Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (55)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <z>**

担当者 小川 享子

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報を聞き取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a: - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

授業内容に従い、リスニング、ライティングなどの課題を出すので、それに取り組む。語彙を増やすための努力をする。

教科書

Life, Elementary, Student's Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (10)

参加度 (15)

小テスト (20)

授業中発表等 (15)

試験、小テスト、授業中の積極的な学習姿勢、ペアワークなどの取り組みなどを総合的に判断して成績評価を出す。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <Ha>

担当者 松村 優子

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
- 第3回 Unit 1d, e: 自己紹介をする
- 第4回 Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 2d, e: 物を描写する
- 第6回 Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
- 第7回 Unit 3d, e: 道案内をする、場所を描写する
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
- 第10回 Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
- 第11回 Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
- 第12回 Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
- 第13回 Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
- 第14回 Unit 6d, e: リクエストをする 礼状を書く
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

指定箇所の予習 単語ノートの作成

教科書

Life, Elementary, Student

著者: Paul Dummett, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

Life Elementary Workbook with Audio CD

著者: Hughes, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0%）
授業中課題（10%）
参加度（15%）

小テスト（60%）
授業中発表等（15%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <Hb>**

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ·Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

·Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation. (友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1 (A): Meet and Introduce People (初対面・自己紹介)
- 第3回 Unit 1 (B/C): Family members / Describing people (家族・人の外見を描写する)
- 第4回 Unit 2 (A/B): Jobs (仕事について話す)
- 第5回 Unit 2 (C): Countries (世界の国々について話す)
- 第6回 Unit 3 (A/B): Your house (家を描写する)
- 第7回 Unit 3 (C): Household objects (家具や家庭用品について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4 (A/B): Personal possessions (持ち物について話す)
- 第10回 Unit 4 (C): Buy a present (ギフトを選ぶ)
- 第11回 Unit 5 (A/B): Daily routine (日課を描写する)
- 第12回 Unit 5 (C): Work activities (仕事内容について話す)
- 第13回 Unit 6 (A/B): Giving directions (道案内をする)
- 第14回 Unit 6 (C): Transportation (交通機関について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (55)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 I B <Hc>**

担当者 栗田 梨津子

テーマ

アカデミック英語入門

獲得目標

様々な学問分野の英語を読んで理解できるようになるための基礎となる語彙力、文法力、読解力を養うこと。まとまった量の英文から正確にかつ短時間で情報を読み取るためのスキルを身につけること。

授業の内容

アカデミック英語の基礎となる様々なトピックの説明文を読み、パラグラフごとの要点をつかむ練習をします。補足的に、各ユニットのテーマに関連するリスニングの練習を通して、聴解力を養います。

内 容

- 第1回 授業概要の説明 英語の学習経験や英語能力に関するアンケート
- 第2回 Unit 1: Trends in Living (Chapter 1: A Cultural Difference: Being on Time)
- 第3回 Unit 1: Trends in Living (Chapter 2: Changing Lifestyles and New Eating Habits)
- 第4回 Unit 1: Trends in Living (Chapter 3: Technology Competes for Family Time)
- 第5回 Unit 1のまとめとリスニング練習
- 第6回 Unit 2: Issues in Society (Chapter 4: Language: Is It Always Spoken?)
- 第7回 Unit 2: Issues in Society (Chapter 5: Loneliness: How Can We Overcome It?)
- 第8回 Unit 2: Issues in Society (Chapter 6: The Importance of Grandmothers)
- 第9回 Unit 2のまとめとリスニング練習
- 第10回 Unit 3: Justice and Crime (Chapter 7: Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System)
- 第11回 Unit 3: Justice and Crime (Chapter 8: The Reliability of Eyewitnesses)
- 第12回 Unit 3: Justice and Crime (Chapter 9: Solving Crimes with Modern Technology)
- 第13回 Unit 3のまとめとリスニング練習
- 第14回 リスニング練習
- 第15回 リスニング練習

授業以外での学習方法

各ユニットの終わりに、語彙と内容をどれだけ理解できているかを確認する小テストを行いますので、毎回授業の復習をしっかりしておいてください。

教科書

Issues for Today 3 (Reading for Today, Fourth Edition)

著者: Lorraine C. Smith & Nancy Nici Mare

出版社: Heinle, Cengage Learning

出版年: 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <Hd>

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ·Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ·Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ·Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

·Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money. (人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ·Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 1a - Explorers (個人情報聞き取り、交換する)
- 第3回 Unit 1b - A family in East Africa (家族および友達について読む・話す)
- 第4回 Unit 2a - My possessions (持ち物について話す・聞く)
- 第5回 Unit 2b - At home (部屋を描写する)
- 第6回 Unit 3a - No-car zones (街での暮らしについて読む・話す)
- 第7回 Unit 3b - Working under the sea (仕事について聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 4a - 100% identical? (好き嫌いについて読む・話す)
- 第10回 Unit 4b - Free time at work (日課について読む・話す)
- 第11回 Unit 5a - Famous for food (食べ物について聞く・話す)
- 第12回 Unit 5b - Food markets (買い物と量について読む・話す)
- 第13回 Unit 6a - The face of money (過去の人物について読む・書く・話す)
- 第14回 Unit 6b - Discover the past (過去のことを聞く・読む・話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life Elementary Workbook

著者: John Hughes

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9781133316039

参考書

成績評価

試験 (25)

授業中課題 (25)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

ktu-e-learn.net

<http://ktu-e-learn.net/>

このサイトは、小テストや期末テストの実施、リスニング等に毎回使います。

2014 Syllabus

科目名 英語 I B <R>

担当者 杉山 泰

テーマ

基礎英語 (Basic English)、特に「基礎動詞＋前置詞」というやさしい英語で日本文化を伝えよう。

獲得目標

中学校で学んだ基礎英語(850語)で、日本文化を伝えることができる。Goだけでも、Rice goes with natto and fresh eggs.で立派な説明になるし、nattoもfermented(発酵した)を知らなくとも、traditional sticky beansで十分だろう。On your mark. Get set. Go.など子どもがいつも用いている基礎英語だ。こうした中学英語を徹底的に利用して、日本文化を伝えていく。

授業の内容

毎回教科書の問題をやっていく。90分間は作業をするので、毎回辞書を持っていくこと。毎回のプリント提出が重要になるので、欠席した学生は、かならず次回にそのプリントをもらい、遅れても提出する。プリントの提出が出席の条件となる。

内 容

- 第1回 自己紹介。Lesson 1 一語、一文で英語は通じる。(No work, no money.のアジア式英語も役に立つ。Long time, no see.の意味は?)
- 第2回 Lesson 2 動詞＋er＝～する人、～する道具(I am a mind reader.＝君の心が読めるんだ)
- 第3回 Lesson 3 動詞＋…ing＝(現在分詞と動名詞の違い＝I am feeling well.とI gave up smoking.の違いは?)
- 第4回 Lesson 4 動詞＋ed＝過去分詞(I love fried rice and smoked salmon.とAn A-bomb was dropped on Hiroshima.)
- 第5回 Lesson 5 be動詞＋形容詞(I am pleased to see you.とIt is pleasant to get all my credits.)
- 第6回 Lesson 6 InとOut(in controlとout of controlの違いは? 同じく、Get in my car.とGet out of the room.の違いは?)
- 第7回 Lesson 7 OnとOff(Is the switch on? No, It's off.)
- 第8回 Lesson 8 Have の構文(We had nothing to do with it.の構文)
- 第9回 Lesson 9 Comeの構文(Dinner is ready. I am coming.＝今行きます＝近づいていくニュアンス)
- 第10回 Lesson 10 Goの構文(Dinner is ready. I am going.＝用事があるから出かけます＝離れていくニュアンス)
- 第11回 Lesson 11 Takeの構文(I'll take this.＝これください)
- 第12回 Lesson 12 Putの構文(Don't put off till tomorrow what you can do today.)
- 第13回 Lesson 13 Giveの構文(魔法の杖のGiveとGet＝on / offやin / outを用いたイディオムの意味は?)
- 第14回 Lesson 14 Getの構文(8つの基礎動詞 go-come / keep-let / make / have / do / say等を使いこなそう)
- 第15回 Lesson 15 makeの構文(基礎動詞を用いて、履歴書で自己アピール文を書こう)

授業以外での学習方法

NHKの基礎英語や『チャロの冒険物語』をテレビで観賞してほしい。また、映画などにも興味を持ち、BBCのニュースを聞く習慣をしよう。

教科書

Putting Common Verbs to Work

著者： 鳥飼慎一郎

出版社： 朝日出版社

出版年： 2010年

ISBN:

参考書

英語の壁

著者： マーク・ピーターセン

出版社： 中公新書

出版年： 2003年

ISBN:

日本語教のすすめ

著者： 鈴木孝夫

出版社： 新潮新書

出版年： 2009年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

毎回の出席と毎回の提出物を最大眩重視する。毎回授業に参加できない場合は、各自教科書の問題を自宅でやり、プリントをもらって提出すれば、遅れの出席として評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **言語コミュニケーション論**

担当者 北林 利治

テーマ

日本語と英語のコミュニケーション

獲得目標

(1) 英語と日本語のコミュニケーションのさまざまなレベルにおける違いを理解すること。(2) 上記のテーマで、短いプレゼンテーションかスキットができるようになること。

授業の内容

このクラスでは、日本語によるコミュニケーションとの比較を通じて、英語コミュニケーションの方法の特徴を学ぶ。担当者による講義と、教科書をつかった実践とを組み合わせ、英語コミュニケーションの特徴を自らの体験をとおして理解してもらいたい。各時間の後半は、受講生によるプレゼンテーションかスキットにあてる。受講者には、グループか個人で、5分ていどのスキット(英語)を含むプレゼンテーションをしてもらう。なお、言語によるコミュニケーションとのかかわりにおいて、若干、言語以外によるコミュニケーションにも触れることがある。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ハグや握手(ノンバーバルコミュニケーション)
- 第3回 パーティーの習慣(好みを選択させる)
- 第4回 お礼の表現(ていねいな表現)
- 第5回 クラスで意見を述べる(間接表現、はっきりと意見を述べる)
- 第6回 謙遜表現(日本語のていねいな表現)
- 第7回 感情を表すかどうか(ノンバーバルコミュニケーション)
- 第8回 教師と学生の呼びかけ方(会話表現の比較、ていねいな言葉使いとは)
- 第9回 レストランにおける習慣の違い(注文の仕方)
- 第10回 誤りははっきりと言葉で伝えるか、それとなく伝えるか(間接コミュニケーション)
- 第11回 デートに誘うとき(表現には日英でどんな違いがあるか)
- 第12回 好みを言う場合(自分の意見をどう伝えるか)
- 第13回 人前でする(言う)と失礼だとされること(鼻をかむ、失礼な表現とは)
- 第14回 謝罪の表現(遅刻と時間の概念について)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

英文の教科書は、指定されたところは必ず予習しておくこと。期末レポートのほか、小レポートをときどきクラス内において提出してもらう。

教科書

Cultural Crossroads

著者: Kimberly Forsythe and Akira Mikami

出版社: 三修社

出版年: 1999年

ISBN:

参考書

異文化コミュニケーション・ハンドブック

著者: 石井敏ほか

出版社: 有斐閣選書

出版年: 1997年

ISBN:

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション

著者： 久米昭元ほか

出版社： 有斐閣選書

出版年： 2007年

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（20）

授業中発表等（20）

参加度（10）

授業の終わりに小レポートを書いてもらい、その提出は参加度の評価に入れる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代のメディアと表現 <a>

担当者 禧美 智章

テーマ

宮崎駿と細田守のアニメーションを「読む」

獲得目標

宮崎駿・細田守が作品に込めたメッセージや思想を理解する

授業の内容

「風の谷のナウシカ」や「サマーウォーズ」等の作品分析を中心として講義形式で授業を行う(なお、授業規模・進行等によって、授業内容・取り上げる作品を変更する場合がある)。

内 容

- 第1回 宮崎駿の思想
 - 第2回 「風の谷のナウシカ」読解(1)
 - 第3回 「風の谷のナウシカ」読解(2)
 - 第4回 「風の谷のナウシカ」読解(3)
 - 第5回 「風の谷のナウシカ」読解(4)
 - 第6回 「紅の豚」読解
 - 第7回 「ハウルの動く城」読解
 - 第8回 宮崎駿まとめ
 - 第9回 細田守の演出
 - 第10回 「サマーウォーズ」読解(1)
 - 第11回 「サマーウォーズ」読解(2)
 - 第12回 「サマーウォーズ」読解(3)
 - 第13回 「おおかみこどもの雨と雪」読解(1)
 - 第14回 「おおかみこどもの雨と雪」読解(2)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

宮崎駿の地平

著者: 野村幸一郎

出版社: 白地社

出版年: 2010/10

ISBN: 4893591037

サマーウォーズ

著者: 岩井恭平

出版社: 角川書店

出版年: 2009/7

ISBN: 4044288224

参考書

おおかみこどもの雨と雪

著者: 細田守

出版社：角川書店

出版年：2012/6

ISBN： 978-4044288228

成績評価

試験（70）

授業中課題（30）

参加度（）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 中国語 I <a>

担当者 蒲 豊彦

テーマ

中国語入門

獲得目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったりがったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の内容

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課～3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課～5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課～7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 中国語 I

担当者 蒲 豊彦

テーマ

中国語入門

獲得目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったりがったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の内容

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課～3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課～5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課～7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 中国語 I <c>

担当者 トウ カ

テーマ

中国語入門

獲得目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったりがったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の内容

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課～3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課～5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課～7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 中国語 I <d>

担当者 トウ カ

テーマ

中国語入門

獲得目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったりがったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の内容

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課～3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課～5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課～7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 政治学概論 I

担当者 鶴谷 将彦

テーマ

本講義は、政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

獲得目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 イントロダクション・選挙について
 - 第2回 投票行動・メディアと政治
 - 第3回 政治家
 - 第4回 日本政治史① ～戦後政治と55年体制～
 - 第5回 日本政治史② ～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
 - 第6回 政党
 - 第7回 官僚制
 - 第8回 利益団体
 - 第9回 国会(議会)
 - 第10回 政策過程
 - 第11回 首相～強い首相と弱い首相～
 - 第12回 地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
 - 第13回 地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に～
 - 第14回 国際政治
 - 第15回 本講義のまとめ
 - 第16回 定期試験
-

授業以外での学習方法

教科書

ポリティカルサイエンス事始め第3版

著者: 伊藤光利編

出版社: 有斐閣ブックス

出版年: 2009

ISBN: 9784641183728

参考書

はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに 第3版

著者: 北山俊哉・久米郁男・真淵勝

出版社: 有斐閣アルマ

出版年: 2009

ISBN: 9784641123687

成績評価

試験（100）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（0）

成績評価については、第1回の授業の中のイントロダクションで説明する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **民法**

担当者 近藤 実千代

テーマ

民法に関する基礎知識と初歩的な応用力の習得

獲得目標

1. 日常生活の各場面において、民法の関連や位置付けを理解する。
 2. 法的な思考方法に触れ、多面的な考え方を身につける。
 3. 初歩的な問題発見能力と処理能力を身につける。
-

授業の内容

日常生活の各場面において、事例を用いながら、民法の基本的な制度とその背景にある考え方について講義する。講義時には、毎回レジュメや参考資料を配布し、これに沿って講義する。法学概論Ⅱと表記が重複している部分があるが、講義内容は異なる。

内 容

- 第1回 民法の基本原則
 - 第2回 意思表示
 - 第3回 未成年者と高齢者の契約
 - 第4回 無権代理と表見代理
 - 第5回 双務契約の債務の関係
 - 第6回 債務不履行責任
 - 第7回 まとめとテスト①(第1回～第6回)
 - 第8回 人的担保
 - 第9回 物的担保
 - 第10回 不法行為と損害賠償
 - 第11回 婚姻
 - 第12回 離婚
 - 第13回 親子
 - 第14回 遺言と相続
 - 第15回 まとめとテスト②(第8回～第14回)
-

授業以外での学習方法

新聞やテレビ等のニュースに注意を払い、法と日常生活との関連に留意する。

教科書

2014年版の小型六法

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

民法への招待 第4版

著者: 池田真朗

出版社: 税務経理協会

出版年: 2012

ISBN:

新・キーワード民法

著者： 中田邦博・高嶋英弘

出版社： 法律文化社

出版年： 2007

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20%)

参加度 ()

小テスト (80%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会学概論 I**

担当者 松田 いりあ

テーマ

現代日本社会の諸問題を社会学理論とデータを参照しながら読み解く

獲得目標

現代日本は20世紀につちかわれた「自明性」の感覚が空洞化し再編される時代を迎えている。私たちが「あたりまえ」と思ってきたことがもはや「あたりまえ」ではない時代に「まとも」に生きることは簡単ではない。この授業ではかつて「あたりまえ」と思われてきた事柄をメタレベルから再検討することによって、21世紀の社会で少しでも「まとも」に生きていく方法をともに模索していく

授業の内容

自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の習得を目指す。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちにあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる

内 容

- 第1回 はじめに:この授業の概要の説明
 - 第2回 社会学とは何か(1):社会とは
 - 第3回 社会学とは何か(2):近代社会とは
 - 第4回 社会学とは何か(3):現代社会とは
 - 第5回 家族をめぐる社会学(1):家族を定義することの困難
 - 第6回 家族をめぐる社会学(2):現代家族をめぐる諸問題
 - 第7回 ジェンダーをめぐる社会学
 - 第8回 自己(自我)をめぐる社会学
 - 第9回 仕事をめぐる社会学
 - 第10回 地域をめぐる社会学
 - 第11回 国家をめぐる社会学
 - 第12回 グローバル化をめぐる社会学
 - 第13回 メディアと情報化をめぐる社会学(1):メディアの歴史的展開
 - 第14回 メディアと情報化をめぐる社会学(2):現代社会とメディア
 - 第15回 まとめ:この授業の総括
-

授業以外での学習方法

授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと

教科書

社会学理論と社会システム

著者: 三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2009年

ISBN: 978-4623053872

参考書

成績評価

試験 (70%)

授業中課題 (30%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 スポーツコース I <a>

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (10%)

参加度 (60%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

aky801d510

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **スポーツコース I **

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
 - 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
 - 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
 - 第4回 応用練習(ミニゲーム)
 - 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
 - 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
 - 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
 - 第11回 応用練習(ミニゲーム)
 - 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
-

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (10%)

参加度 (60%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

aky801d512

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 スポーツコース I <c>

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (10%)

参加度 (60%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

aky801d513

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 スポーツコース I <d>

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (10%)

参加度 (60%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

aky801d514

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **スポーツコース I <ラクト>**

担当者 佐々木 雅人

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット

獲得目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション: フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)
- 第2回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操
- 第3回 体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
- 第4回 マシンジム: オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ
- 第5回 ストレッチ理論: ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり
- 第6回 ダイエットの為の栄養と理論: 体脂肪とはなんぞや? 正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について
- 第7回 有酸素運動: 体脂肪を燃焼させるメカニズムについて
- 第8回 エアロビクス I: 踏み台昇降ステップ台でのオリエンテーション。理論、種類、実践
- 第9回 無酸素運動: ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」
- 第10回 自律訓練法: ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
- 第11回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動
- 第12回 腹部ひきしめ体操: 腹筋群、背筋群、コアトレーニング
- 第13回 ダンスエクササイズ: ズンバ(ZUMBA)で敏捷性、巧緻性(器用さ)の向上
- 第14回 脚部ひきしめ体操: 脚筋群、臀部を強化、スクワット
- 第15回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動と体脂肪測定

授業以外での学習方法

(1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15~18:45までの時間帯授業になります。(2) 参考書:「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。(3) 京都橘大学はラクトスポーツプラザと団体契約をしているため、授業以外時は特別料金で利用できません(学生証提示)

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

aky801d515

(技能20%) (態度20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **スポーツコースⅢ <a>**

担当者 宇部 一

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化による生涯スポーツの基盤づくり(※2011年度以前入学生は2単位です。)

獲得目標

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の内容

バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。

内 容

- 第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
- 第2回 バレーボールの基礎技能(パス、サービス)
- 第3回 バレーボールの基礎技能(サーブレシーブ、スパイク)、ミニゲーム
- 第4回 グルーピング、チームでの練習の取り組み
- 第5回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)
- 第6回 リーグ戦形式でのゲーム(フォーメーションに関わるチーム練習)
- 第7回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)
- 第8回 バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ
- 第9回 バスケットボールの基礎技能(ボールハンドリング)
- 第10回 バスケットボールの基礎技能(シュート、ドリブル、パス)、ミニゲーム
- 第11回 グルーピング、チームでの練習の取り組み
- 第12回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)
- 第13回 リーグ戦形式でのゲーム(組織的なディフェンスの活用)
- 第14回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)
- 第15回 バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

授業以外での学習方法

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **スポーツコースⅢ **

担当者 宇部 一

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化による生涯スポーツの基盤づくり(※2011年度以前入学生は2単位です。)

獲得目標

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の内容

バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。

内 容

- 第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
- 第2回 バレーボールの基礎技能(パス、サービス)
- 第3回 バレーボールの基礎技能(サーブレシーブ、スパイク)、ミニゲーム
- 第4回 グルーピング、チームでの練習の取り組み
- 第5回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)
- 第6回 リーグ戦形式でのゲーム(フォーメーションに関わるチーム練習)
- 第7回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)
- 第8回 バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ
- 第9回 バスケットボールの基礎技能(ボールハンドリング)
- 第10回 バスケットボールの基礎技能(シュート、ドリブル、パス)、ミニゲーム
- 第11回 グルーピング、チームでの練習の取り組み
- 第12回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)
- 第13回 リーグ戦形式でのゲーム(組織的なディフェンスの活用)
- 第14回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)
- 第15回 バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

授業以外での学習方法

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **スポーツコースⅢ〈ラクト〉**

担当者 佐々木 雅人

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と柔軟性の向上

獲得目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、柔軟性向上プログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です

内 容

- 第1回 オリエンテーション フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)
- 第2回 ストレッチⅠ 柔軟性の向上と準備・整理体操
- 第3回 体力・形態測定：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
- 第4回 マシンジム：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ
- 第5回 ストレッチ理論：ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり
- 第6回 ストレッチⅡ：スタティックストレッチとは。体前屈で良い結果をだす
- 第7回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動
- 第8回 エアロビクスⅠ ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践
- 第9回 ストレッチⅢ：ストレッチで柔軟性を向上する
- 第10回 ペアストレッチ：ペアになってストレッチを実践する
- 第11回 自律訓練法：ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
- 第12回 ボールストレッチ：バランスボールを使ったストレッチ
- 第13回 ピラティス：身体の歪を解消
- 第14回 肩こり・腰痛体操：柔軟・筋力不足の肩こり、腰痛を解消する
- 第15回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動

授業以外での学習方法

(1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。(2)参考書：「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。(3)京都橘大学はラクトスポーツプラザと団体契約をしているため、授業以外時は特別料金で利用できます(学生証提示)。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

aky801d713

(技能20%) (態度20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 物理学基礎

担当者 鳥居 善光

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として物理学の基礎について学ぶ。

獲得目標

高等学校で学習した物理の内容を再確認するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、科学技術への関心を高め、市民として必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。

授業の内容

運動とエネルギー、電気、波について、原理・法則を学び、日常的な現象や先端科学技術との関連を考える。

内 容

- 第1回 物体の運動
 - 第2回 力のつりあい(1)
 - 第3回 力のつりあい(2)
 - 第4回 運動の法則(1)
 - 第5回 運動の法則(2)
 - 第6回 仕事とエネルギー(1)
 - 第7回 仕事とエネルギー(2)
 - 第8回 温度と熱
 - 第9回 仕事と熱エネルギー
 - 第10回 電気(1)
 - 第11回 電気(2)
 - 第12回 波動
 - 第13回 音波
 - 第14回 光波
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

Primary 大学テキスト これだけはおさえたい物理

著者： 金原 稔

出版社： 実教出版

出版年：

ISBN: 9784407316421

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 化学基礎

担当者 中村 一郎

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として化学の基礎について学ぶ。

獲得目標

高等学校における化学の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な化学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の内容

生活の中にある物質や現象を、化学的なものの見方や考え方で捉え理解できるように、一部演習形式を取り入れながら化学的な基礎概念を解説する。

内 容

- 第1回 物質は何からできているか。
- 第2回 分子について
- 第3回 原子の構造と原子同士の結合
- 第4回 分子の形はどのようにして決まるか
- 第5回 分子の形……異性体と立体化学
- 第6回 物質の三態……固体・液体・気体
- 第7回 溶液について(1)
- 第8回 溶液について(2)、小テスト(1回目)
- 第9回 化学反応はなぜ起こるか
- 第10回 触媒、反応速度
- 第11回 酸と塩基(1)
- 第12回 酸と塩基(2)
- 第13回 酸化と還元
- 第14回 有機化合物の構造とその書き表し方、命名法
- 第15回 日常の中の化合物、小テスト(2回目)

授業以外での学習方法

毎回の授業テーマについて教科書または事前に配布するレジメを予習しておくこと

教科書

新版 化学「もの」をみる目

著者： 大野惇吉、安井伸郎、牛田智

出版社： 三共出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 (20)

aky901e610

結果だけではなく過程も評価します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **生物学基礎**

担当者 中村 一郎

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。

獲得目標

高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の内容

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。

内 容

- 第1回 細胞生物学(1) 細胞の構造と役割
 - 第2回 細胞生物学(2) 細胞を構成する物質-1
 - 第3回 細胞生物学(3) 細胞を構成する物質-2
 - 第4回 細胞生物学(4) エネルギー、酵素、代謝
 - 第5回 細胞生物学(5) エネルギー獲得
 - 第6回 遺伝(1)メンデル遺伝学とその後
 - 第7回 遺伝(2)DNAと遺伝におけるその役割
 - 第8回 遺伝(3)DNAからタンパク合成まで 1回目 小テスト
 - 第9回 発生と老化(1)
 - 第10回 発生と老化(2)
 - 第11回 脳の構造と機能
 - 第12回 がん
 - 第13回 食と健康(1)
 - 第14回 食と健康(2)
 - 第15回 感染と免疫 2回目 小テスト
-

授業以外での学習方法

毎回の授業テーマについて教科書または事前に配布するレジメを予習しておくこと

教科書

やさしい基礎生物学

著者: 南雲 保

出版社: 羊土社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (70)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <2a>**

担当者 香坂 千佳子

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。

獲得目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めて行きます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／キャリアとは
 - 第2回 社会人基礎力を身につけることの意義
 - 第3回 これからの学生生活を考える
 - 第4回 私の価値観を考える①
 - 第5回 私の価値観を考える②
 - 第6回 人生の目的・目標①
 - 第7回 人生の目的・目標②
 - 第8回 人生の目的・目標③
 - 第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア
 - 第10回 キャリアとグローバル社会を考える
 - 第11回 ケーススタディ①
 - 第12回 ゲストスピーカー
 - 第13回 ケーススタディ②
 - 第14回 ケーススタディ③
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

小テスト (0%)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (40%)

ask102b810

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <2b>**

担当者 堀越 昭夫

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します

獲得目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めて行きます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／キャリアとは
- 第2回 社会人基礎力を身につけることの意義
- 第3回 これからの学生生活を考える
- 第4回 私の価値観を考える①
- 第5回 私の価値観を考える②
- 第6回 人生の目的・目標①
- 第7回 人生の目的・目標②
- 第8回 人生の目的・目標③
- 第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア
- 第10回 キャリアとグローバル社会を考える
- 第11回 ケーススタディ①
- 第12回 ゲストスピーカー
- 第13回 ケーススタディ②
- 第14回 ケーススタディ③
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（60%）

授業中発表等（20%）

参加度（20%）

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容（質）及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合（発表）などを含めて評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <2c>**

担当者 香坂 千佳子

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。

獲得目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めて行きます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／キャリアとは
 - 第2回 社会人基礎力を身につけることの意義
 - 第3回 これからの学生生活を考える
 - 第4回 私の価値観を考える①
 - 第5回 私の価値観を考える②
 - 第6回 人生の目的・目標①
 - 第7回 人生の目的・目標②
 - 第8回 人生の目的・目標③
 - 第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア
 - 第10回 キャリアとグローバル社会を考える
 - 第11回 ケーススタディ①
 - 第12回 ゲストスピーカー
 - 第13回 ケーススタディ②
 - 第14回 ケーススタディ③
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (60%)

参加度 (40%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (0%)

ask102b813

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <2d>**

担当者 堀越 昭夫

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します

獲得目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めて行きます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／キャリアとは
- 第2回 社会人基礎力を身につけることの意義
- 第3回 これからの学生生活を考える
- 第4回 私の価値観を考える①
- 第5回 私の価値観を考える②
- 第6回 人生の目的・目標①
- 第7回 人生の目的・目標②
- 第8回 人生の目的・目標③
- 第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア
- 第10回 キャリアとグローバル社会を考える
- 第11回 ケーススタディ①
- 第12回 ゲストスピーカー
- 第13回 ケーススタディ②
- 第14回 ケーススタディ③
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（60%）

授業中発表等（20%）

参加度（20%）

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容（質）及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合（発表）などを含めて評価する

参考URL

2014 Syllabus

科目名 キャリアデザイン入門 <G>

担当者 香坂 千佳子

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。

獲得目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めて行きます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／キャリアとは
 - 第2回 社会人基礎力を身につけることの意義
 - 第3回 これからの学生生活を考える
 - 第4回 私の価値観を考える①
 - 第5回 私の価値観を考える②
 - 第6回 人生の目的・目標①
 - 第7回 人生の目的・目標②
 - 第8回 人生の目的・目標③
 - 第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア
 - 第10回 キャリアとグローバル社会を考える
 - 第11回 ケーススタディ①
 - 第12回 ゲストスピーカー
 - 第13回 ケーススタディ②
 - 第14回 ケーススタディ③
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (60%)

参加度 (40%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (0%)

ask102b815

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <2e>**

担当者 堀越 昭夫

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。

獲得目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日(1年間=365日)を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて「何を、学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア(人生)に大きな影響を与えることになるかを考え、働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めて行きます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／キャリアとは
- 第2回 社会人基礎力を身につけることの意義
- 第3回 これからの学生生活を考える
- 第4回 私の価値観を考える①
- 第5回 私の価値観を考える②
- 第6回 人生の目的・目標①
- 第7回 人生の目的・目標②
- 第8回 人生の目的・目標③
- 第9回 これからの日本の将来と私達のキャリア
- 第10回 キャリアとグローバル社会を考える
- 第11回 ケーススタディ①
- 第12回 ゲストスピーカー
- 第13回 ケーススタディ②
- 第14回 ケーススタディ③
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（60%）

授業中発表等（20%）

参加度（20%）

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容（質）及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合（発表）などを含めて評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 国語科教育法 I

担当者 池田 修

テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

獲得目標

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。具体的には、漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な参加を期待する。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。

内 容

- 第1回 国語科って何？ 授業ガイダンス。学習指導要領では？ どんな力をつける教科なの？ 国語科教育の歴史 学習権宣言
- 第2回 国語の授業を作る基礎。発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方。
- 第3回 メモ指導。聞く生徒を育てるために。箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法。
- 第4回 漢字指導 1。漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント
- 第5回 漢字指導 2。自作漢字学習教材の相互評価 四字熟語でポン たほいや 簡単な学習ゲーム論。
- 第6回 読書指導 1。読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション。
- 第7回 読書指導 2。「書き込み回覧作文」による評価 和綴じ本づくり。
- 第8回 作文指導 1。体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方。
- 第9回 作文指導 2。アイデア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価。
- 第10回 作文指導 3。「書き込み回覧作文」による評価 テスト問題のつくり方。
- 第11回 小テストと定期考査。国語科で行うテストについて、具体的に考え、実際に作ってみる。
- 第12回 音読／プレゼン指導。滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際。
- 第13回 句会方式による指導。句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト。
- 第14回 小テストと定期考査と採点方法。第11回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。。
- 第15回 国語科教育法1を評価する。「書き込み回覧作文」による国語科教育法1の評価。

授業以外での学習方法

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

教科書

まともな日本語教えない勘違いだらけの国語教育

著者： 有元秀文

出版社： 合同出版

出版年：

ISBN：

いちばんやさしい教える技術

著者： 向後千春

出版社： 永岡書店

出版年：

ISBN：

実践へのヒント 国語科授業用語の手引き 第二版

著者： 中原國明・大熊徹編

出版社： 教育出版

出版年： ISBN：

国語科資料総覧

著者： 吉野教育図書編集部

出版社： 吉野教育図書

出版年： ISBN：

発問の作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN：

参考書

中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集

著者： 石川晋・平山雅一

出版社： 学事出版

出版年： ISBN：

みんな言葉を持っていた

著者： 柴田保之

出版社： オクムラ書店

出版年： ISBN：

一斉指導10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社： 学事出版

出版年： ISBN：

新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN：

読書で遊ぼうアニメーション

著者： モセラット・サルト

出版社： 柏書房

出版年： ISBN：

プレイフル・ラーニング

著者： 上田信行×中原淳

出版社： 三省堂

出版年： ISBN：

授業の作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN：

これだけは身につけたい 超定番！ 授業づくりの基礎・基本

著者： 八木正一・上條晴夫

出版社： 学事出版

出版年： ISBN：

奇跡の教室

著者： 伊藤氏貴

出版社： 小学館

出版年： ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は楽しい

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（10）

授業中課題（40）

授業中発表等（20）

参加度（30）

出席君と掲示板へ授業後の課題提出を合わせて、出席をカウントすることを理解すること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前) <Md>

担当者 一瀬 和夫

テーマ

自己の考古学遺跡調査の報告書の分析力を身につける

獲得目標

研究に必要な基礎的データを取得するための遺跡調査のデータの集約、分析をし報告書作成を体感する。

授業の内容

遺跡調査の集約、分析、製図、文章作成、報告書編集、それらのマネージメントを行う。

内 容

- 第1回 報告書作成の調査現場を観察する。
 - 第2回 報告書作成の調査現場を観察する。
 - 第3回 報告書作成の現場を観察する。
 - 第4回 調査図面等の基本データの集約を行う。
 - 第5回 調査図面等の基本データの集約を行う。
 - 第6回 調査の集約したデータの分析を行う。
 - 第7回 調査の集約したデータの分析を行う。
 - 第8回 調査図面などの製図を行う。
 - 第9回 調査図面などの製図を行う。
 - 第10回 調査の状況、所見、考察の文章を作成する。
 - 第11回 調査の状況、所見、考察の文章を作成する。
 - 第12回 調査報告のマネージメントを考える。
 - 第13回 調査報告のマネージメントを考える。
 - 第14回 調査報告書を作成する。
 - 第15回 調査報告書を作成する。
-

授業以外での学習方法

行政・他大学の発掘調査や整理作業に参加する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前) <Mo>

担当者 巽 淳一郎

テーマ

優秀な修士論文を上梓する。

獲得目標

、助言・指導・教唆を行い、学生が優秀な論文を書けるようにすることを目的とする。

授業の内容

学生に発表させ、内容の検討・問題点を指摘し、課題を与える。

内 容

- 第1回 研究計画の検討。修士論文作成の企画策定。
 - 第2回 研究史の整理。
 - 第3回 研究史の整理
 - 第4回 陶邑古窯跡資料の検討
 - 第5回 陶邑古窯跡資料の検討
 - 第6回 陶邑古窯跡資料の検討
 - 第7回 陶邑古窯跡須恵器編年の再検討
 - 第8回 陶邑古窯跡須恵器編年の再検討
 - 第9回 修士論文中間発表の原稿作制準備
 - 第10回 修士論文中間発表の原稿作制準備
 - 第11回 修士論文中間発表の原稿の検討
 - 第12回 修士論文中間発表
 - 第13回 修士論文中間発表の反省と私的を受けた点の検討
 - 第14回 夏休みの研究計画作成
 - 第15回 これまでの研究成果のとりまとめ
-

授業以外での学習方法

陶邑資料保管場所(平安高校)での実物観察

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

与えた課題の達成度・発表資料の出来不出来を基準に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **看護教育論 <M>**

担当者 阿部 祝子

テーマ

教育の本質と看護教育

獲得目標

教育の本質を理解した上で、看護学教育の特徴について探究する。

授業の内容

内 容

- 第1回 教育の本質
- 第2回 看護の特徴と教育
- 第3回 看護教育制度論(プレゼンテーション, 討議)
- 第4回 看護基礎教育 その1(プレゼンテーション, 討議)
- 第5回 看護基礎教育 その2(プレゼンテーション, 討議)
- 第6回 看護継続教育 その1(プレゼンテーション, 討議)
- 第7回 看護継続教育 その2(プレゼンテーション, 討議)
- 第8回 看護教育課程論 その1(プレゼンテーション, 討議)
- 第9回 看護教育課程論 その2(プレゼンテーション, 討議)
- 第10回 看護教育方法論 その1(プレゼンテーション, 討議)
- 第11回 看護教育方法論 その2(プレゼンテーション, 討議)
- 第12回 看護教育評価論 その1(プレゼンテーション, 討議)
- 第13回 看護教育評価論 その2(プレゼンテーション, 討議)
- 第14回 キャリア発達(プレゼンテーション, 討議)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護という職業の特徴を明確にしておく。

教科書

特に指定しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

看護教育学

著者: グレッグ美鈴/池西悦子

出版社: 南江堂

出版年:

ISBN:

看護教育学第4版

著者： 杉森みどり

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

看護の教育学序説

著者： 杉下喜代子

出版社： ゆみる出版

出版年：

ISBN：

その他授業内で提示する.

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

プレゼンテーションおよび授業への参加態度から総合的に評価する.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **コンサルテーション論〈M〉**

担当者 新道 幸恵・富岡 小百合・渡壁 晃子

テーマ

高度実践看護職は、ケアの対象者に直接かかわるだけでなく、看護職を含むケア提供者に対しても「相談」機能を果たす。その効果的な方法を体験的に学習するとともに、コンサルテーションの概念、プロセスや実践モデル、コンサルタントの役割等の知識を習得し課題を探究する。また、管理、教育的支援、コミュニケーション、評価等の機能をもって、かかわる人々の主体性や独自性を尊重しつつ、自らの専門性と他職種との連携について探究する。

獲得目標

CNS等の高度実践看護者にとって重要な役割のひとつである相談（コンサルテーション）は、働く組織を知り、マネジメント力を発揮しながら、高度実践力によってモデルとしての役割を示すことで、効果を上げる。そこで、この授業においてはコンサルテーションについての概念を理解し、その実践を可能にする方法論を学ぶと同時に、組織へのアプローチやマネジメント力等をコンサルテーションにどのように活用するかを理解することを目標とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 コンサルテーションとは(ガイダンス、学習の意義と専門看護師の役割)
- 第2回 コンサルテーション概論①(コンサルテーションの概念と歴史的背景)
- 第3回 コンサルテーション概念(スーパービジョンとプロセス/コンサルテーション)
- 第4回 コンサルテーション概論③(コミュニケーション技法と文化のかかわり)
- 第5回 コンサルタントの役割と機能、コンサルタントに必要な教育
- 第6回 コンサルテーションのプロセスとコンサルテーションモデル
- 第7回 コンサルテーション・コンサルタントに関する文献レビュー
- 第8回 医療分野におけるコンサルテーションの実際①(渡壁先生:オンコロジー、リエゾン)
- 第9回 医療分野におけるコンサルテーションの実際①(渡壁先生:オンコロジー、リエゾン)
- 第10回 医療分野におけるコンサルテーションの実際②(富岡先生:クリティカル)
- 第11回 医療分野におけるコンサルテーションの実際②(富岡先生:クリティカル)
- 第12回 医療分野におけるコンサルテーションの実際③(組織変革の推進)
- 第13回 医療分野におけるコンサルテーションの実際③(組織変革の推進)
- 第14回 マネジメントの活用
- 第15回 CNSのエンパワメント

授業以外での学習方法

関連文献の事前学習と発表準備

教科書

指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

プロセスコンサルテーション援助関係を築くということ

著者: E.Hシャイン著(稲葉元吉・尾川丈一訳)(2002)

出版社: 白桃書房

出版年:

ISBN:

カウンセリングトコンサルテーション

著者： 辻村英夫(編)(2002)

出版社： 学文社

出版年：

ISBN：

スーパービジョン／コンサルテール所の実践のすすめ

著者： 現代のエスプリ(2000.6)

出版社： 至文堂

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（備考を参照）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

レポート50%，討論および授業への参加態度50%，から総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護管理論 <M>

担当者 新道 幸恵 阿部 祝子 野村 陽子

テーマ

看護管理に関する諸理論と看護サービス・マネジメントへの適用

獲得目標

看護管理に必要な基本的な諸理論、管理プロセス、実践システムについて学習し、効果的な看護サービス・マネジメントのあり方を探求する。

授業の内容

看護管理の諸理論と関連学問領域の概念や諸理論について多角的に理解した上で、最近の看護管理の実践に関する研究動向を文献によって把握する。そして、看護管理の効果的な在り方および方向性や課題について探求する。

内 容

- 第1回 看護マネジメントに関わる主要な用語とその概念
 - 第2回 看護組織論
 - 第3回 看護組織論
 - 第4回 看護マネジメント論
 - 第5回 リーダーシップ論
 - 第6回 専門職論
 - 第7回 看護における人的資源活用論
 - 第8回 医療における安全管理論
 - 第9回 意思決定論
 - 第10回 医療における情報技術・情報管理論
 - 第11回 看護を取り巻く環境の変化
 - 第12回 保健・医療・福祉制度
 - 第13回 看護制度・政策論
 - 第14回 看護制度・政策論
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

広く関連図書・専門誌等を読み、自らの関心領域、課題を明確にする。討議における発表の準備をする。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

看護管理学習テキスト第1巻～第8巻

著者: 井部俊子/中西睦子監修

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

看護サービス管理第3版

著者： 中西睦子編

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

その他授業内で提示する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

レポートおよび授業への参加態度、プレゼンテーションから総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **看護政策論 <M>**

担当者 野村 陽子

テーマ

看護政策の基本と政策的思考

獲得目標

1 看護制度の構造と看護政策の特徴を理解する 2 医療現場の課題を、制度や政策と結びつけて考究する 3 現在の看護政策課題を理解し、今後の方向性を考察する

授業の内容

看護制度・政策の基本的な考え方を理解した上で、看護制度に関連する課題について政策過程分析を行い、決定に影響を与える組織の力動関係を理解する。そして自身の医療現場の課題と関連づけて政策的思考を学び、看護の質を向上させるための政策立案の知識と方法を学ぶ。

内 容

- 第1回 ガイダンス(学習目標、授業の進め方)
- 第2回 看護政策論の基本的考え方
- 第3回 看護制度の構造と政策
- 第4回 看護の政策過程(1)看護職員確保対策
- 第5回 医療機関等の確保対策と政策課題:事例検討
- 第6回 看護の政策過程(2)看護資格制度
- 第7回 専門看護師制度等の課題:事例検討
- 第8回 看護の政策過程(3)診療報酬及び介護報酬制度
- 第9回 医療機関や訪問看護ステーションにおける報酬制度の課題:事例検討
- 第10回 2014年診療報酬改定と医療政策・看護政策
- 第11回 看護の政策過程(4)訪問看護制度
- 第12回 地域完結型医療への転換における課題:事例検討
- 第13回 2014年国会審議(保助看法改正及び人材確保法改正)
- 第14回 チーム医療における看護制度の課題
- 第15回 看護政策の課題(討議・まとめ)

授業以外での学習方法

教科書

政策型思考と政治

著者: 松下圭一

出版社: 東京大学出版会

出版年:

ISBN:

看護管理学習テキスト7 看護制度・政策論

著者: 井部俊子、中西睦子編集

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2003

ISBN:

保健師助産師看護師法60年史

著者:

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2009

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **精神看護学 <M>**

担当者 松本 賢哉・伊藤 恵美子

テーマ

精神看護に関する概念及び理論と実践方法の理解

獲得目標

1. 日本および海外の精神保健医療福祉の制度と体制について、法制度の変遷と人権擁護や倫理、治療的環境、地域保健福祉体制等の視点から説明できる。2. 精神的な問題を抱えた人とその家族を理解し、生活の評価に必要な基礎的理論と方法について説明できる。

授業の内容

精神看護を卓越した実践に必要な精神保健医療福祉の制度と体制に関する知識、精神的な問題を抱えた人とその家族の理解および生活の評価に必要な基礎的理論と方法について、講義及び学生自身のプレゼンテーション、研究論文のクリティーク、討議を通して学ぶ。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 精神看護に関する概念及び理論と実践方法の概要
- 第2回 精神保健医療福祉の制度と体制—法制度の変遷—
- 第3回 精神保健医療福祉の制度と体制—人権擁護、倫理—
- 第4回 精神保健医療福祉の制度と体制—治療的環境—
- 第5回 精神保健医療福祉の制度と体制—地域精神医療福祉—
- 第6回 精神保健医療福祉の制度と体制—海外の地域精神保健福祉—
- 第7回 対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論—精神力動論—
- 第8回 対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論—心理・社会的成長発達に関する理論—
- 第9回 対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論—セルフケア理論—
- 第10回 対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論—認知・行動に関する理論—
- 第11回 対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論—脆弱性-ストレス-対処モデル—
- 第12回 対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論—家族に関する理論—
- 第13回 対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論—ストレス・コーピング理論—
- 第14回 精神状態のアセスメントに必要な技法
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

授業時に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

h701011910

試験（備考を参照）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

出席率(50%)、授業中発表・ディスカッションへの参加(50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅲ(周産期) <M>

担当者 遠藤 俊子・中野 育子

テーマ

今日のわが国の周産期医療の実態を分析し、周産期医療提供システムにおける看護職の新たな働き方を創造する能力を獲得する。

獲得目標

1.変化の激しいわが国の周産期医療の実態を分析し、これからの母子援助のケアを組み込んだ周産期医療提供システムのあり方をチーム医療の観点からとらえる。2.周産期医療の各々の現場に応じた他職種が協働できる接近法や、新たなシステム構築に向けての調整ができる基礎能力を獲得する。3.周産期の母子援助のためのケアを制作に結びつける手立てについて学ぶ。

授業の内容

1回生時の学びをふまえて、より具体的な理解と政策活動への結びつきを考える。

内 容

- 第1回 わが国の戦後の母子保健統計、ならびに諸外国の母子保健統計と周産期医療の実態からわが国の周産期医療の実態を明らかにする。
- 第2回 わが国の戦後の母子保健統計、ならびに諸外国の母子保健統計と周産期医療の実態からわが国の周産期医療の実態を明らかにする。
- 第3回 周産期医療体制整備事業について検討する。
- 第4回 周産期医療体制整備事業について検討する。
- 第5回 健やか親子21について検討する。
- 第6回 健やか親子21について検討する。
- 第7回 周産期医療体制におけるあり方検討会(討議)
- 第8回 周産期医療体制におけるあり方検討会(討議)
- 第9回 わが国と諸外国の看護・助産師教育制度 基礎教育
- 第10回 わが国と諸外国の看護・助産師教育制度 基礎教育
- 第11回 わが国と諸外国の看護・助産師教育制度 基礎教育
- 第12回 わが国と諸外国の看護・助産師教育制度 基礎教育
- 第13回 わが国と諸外国の看護・教育制度 現任・卒後教育
- 第14回 わが国と諸外国の看護・教育制度 現任・卒後教育
- 第15回 周産期医療における医療訴訟の事例検討
- 第16回 周産期医療における医療訴訟の事例検討
- 第17回 周産期医療における医療訴訟の事例検討
- 第18回 周産期医療における医療訴訟の事例検討
- 第19回 医療安全と周産期医療における機能評価、医療安全にかかわる周産期病棟管理
- 第20回 医療安全と周産期医療における機能評価、医療安全にかかわる周産期病棟管理
- 第21回 医療安全と周産期医療における機能評価、医療安全にかかわる周産期病棟管理
- 第22回 医療安全と周産期医療における機能評価、医療安全にかかわる周産期病棟管理
- 第23回 新たな周産期医療システムの構築 院内助産システム、母子健康手帳の電子化等
- 第24回 新たな周産期医療システムの構築 院内助産システム、母子健康手帳の電子化等
- 第25回 新たな周産期医療システムの構築 院内助産システム、母子健康手帳の電子化等
- 第26回 新たな周産期医療システムの構築 院内助産システム、母子健康手帳の電子化等
- 第27回 「周産期医療に関わる私の提言」の発表とまとめ
- 第28回 「周産期医療に関わる私の提言」の発表とまとめ
- 第29回 まとめ
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

専門誌の論文等から、その都度配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（備考を参照）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中課題提出20%、授業中の発表等50%、レポート30%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅳ(周産期)〈M〉

担当者 神崎 光子・中島 暢美

テーマ

周産期の医療施設における家族の心理・社会的問題への援助方法を習得し、看護の質向上に向けたアプローチを学ぶ。

獲得目標

1.周産期の母子と家族をめぐる心理・社会的問題や倫理的問題と家族のメンタルヘルスとの関連を学ぶ。2.周産期のさまざまな問題に対する家族の意思決定が適切に行われるようケア(相談、助言、倫理的調整)の提供方法をカウンセリング理論、危機介入理論に基づいて習得する。3.事例分析を通して、心理社会的問題を抱えた家族への適切なケア(相談、助言、倫理調整)や他職種との連携を行う実践能力を養う。4.母子と家族への心理・社会的援助を適切に実践するための組織内の教育活動やスタッフへのコンサルテーション、連携システムの構築など看護の質向上のためのアプローチを考察する。

授業の内容

内 容

- 第1回 周産期の家族の変容とリプロダクティブヘルスに関連した心理社会的問題
- 第2回 周産期の家族の変容とリプロダクティブヘルスに関連した心理社会的問題
- 第3回 心理社会的問題を抱えた家族のアセスメントと看護援助(相談・助言・倫理的調整)
- 第4回 心理社会的問題を抱えた家族のアセスメントと看護援助(相談・助言・倫理的調整)
- 第5回 事例検討①: 周産期の社会的ハイリスク家族への看護援助
- 第6回 事例検討①: 周産期の社会的ハイリスク家族への看護援助
- 第7回 周産期の倫理的問題における家族の意思決定を支える看護援助
- 第8回 周産期の倫理的問題における家族の意思決定を支える看護援助
- 第9回 事例検討②: 周産期の倫理的問題への看護援助
- 第10回 事例検討②: 周産期の倫理的問題への看護援助
- 第11回 家族形成期のメンタルヘルスと看護援助
- 第12回 家族形成期のメンタルヘルスと看護援助
- 第13回 妊産褥婦のメンタルヘルスと心理的援助および心理臨床家との連携
- 第14回 妊産褥婦のメンタルヘルスと心理的援助および心理臨床家との連携
- 第15回 妊産褥婦とその家族への援助(ケア、相談、助言)の実際
- 第16回 妊産褥婦とその家族への援助(ケア、相談、助言)の実際
- 第17回 事例検討③: 精神疾患を持つ妊産婦と家族への援助
- 第18回 事例検討③: 精神疾患を持つ妊産婦と家族への援助
- 第19回 周産期看護者のメンタルヘルスとコンサルテーション
- 第20回 周産期看護者のメンタルヘルスとコンサルテーション
- 第21回 心理社会的な問題を抱える困難事例を担当するスタッフへの相談、助言、業務調整の実際
- 第22回 心理社会的な問題を抱える困難事例を担当するスタッフへの相談、助言、業務調整の実際
- 第23回 事例検討④: 妊産褥婦およびその家族への援助の実際(相談、助言、家族間の調整: 実習受持事例への介入の分析)
- 第24回 事例検討④: 妊産褥婦およびその家族への援助の実際(相談、助言、家族間の調整: 実習受持事例への介入の分析)
- 第25回 事例検討⑤: 妊産褥婦およびその家族への援助の実際(相談、助言、家族間の調整: 実習受持事例への介入の分析)
- 第26回 事例検討⑤: 妊産褥婦およびその家族への援助の実際(相談、助言、家族間の調整: 実習受持事例への介入の分析)
- 第27回 事例検討⑥: 周産期看護者へのカウンセリングとコンサルテーションの実際(相談、助言、スタッフ間の調整、教育: 実習での活動の分析)
- 第28回 事例検討⑥: 周産期看護者へのカウンセリングとコンサルテーションの実際(相談、助言、スタッフ間の調整、教育: 実習での活動の分析)
- 第29回 心理社会的問題を抱えた困難事例における多職種間の協働にむけたCNSの役割と活動(実習受持事例へのコーディネーションの分析、連携システム構築の考察)
- 第30回 心理社会的問題を抱えた困難事例における多職種間の協働にむけたCNSの役割と活動(実習受持事例へのコーディネーションの分析、連携システム構築の考察)

授業以外での学習方法

教科書

ディブリーフィング・ワークの研究

著者： 中島暢美

出版社： 関西学院大学出版会

出版年： ISBN:

ビリーフ—家族看護実践の新たなパラダイム

著者： ロレイン・Mライト、ウエンディ・Lワトソン、ジャニス・ベル

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： ISBN:

参考書

患者とのコミュニケーションを検討する吉田哲著. 改訂[版]

著者： 看護とカウンセリング / 吉田哲著

出版社： メディカ出版

出版年： 2000 ISBN:

カウンセリング論：看護師による「カウンセリング事例」集

著者： 北島謙吾編

出版社： 慧文社

出版年： 2005 ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ヘルスケア組織・政策論〈D〉**

担当者 野村 陽子・高山 一夫・林正 健二

テーマ

獲得目標

1. 保健医療に係わる歴史の変遷を踏まえ、法制度の仕組みや政策決定プロセスを理解する。2. 医療のあり方と役割、多職種連携のあり方等を自己の課題と関連づけて考察することができる。

授業の内容

概要: わが国の戦後の保健医療に係わる歴史の変遷を踏まえて、社会の変化と保健医療に関わる法制度の仕組みや決定の政策プロセスを学ぶ。日米の医療制度を比較しながら、わが国の医療のあり方と役割、多職種連携のあり方等を考察し、自己の課題と関連づけて学ぶ。授業形式: プレゼンテーションをもとにセミナー形式で進める。

内 容

- 第1回 チーム医療の概念の整理、チーム医療における政策過程 チーム医療における看護職の役割と機能を検討
- 第2回 チーム医療に関与する専門職の資格制度 施設内、在宅医療における専門職の連携のあり方を検討
- 第3回 看護業務の拡大に関する検討 諸外国の看護業務の進展状況と関連づけて検討
- 第4回 看護業務拡大と看護の資格制度の位置づけ 看護師の専門資格化と保健師、助産師の資格制度のあり方について検討
- 第5回 特定行為の看護師研修制度の創設 当該研修制度の意義と看護師の役割変化について検討
- 第6回 介護職の医療行為に関する政策過程 社会福祉士・介護福祉士法改正の意味と課題について検討
- 第7回 看護業務と介護業務の制度的 看護・介護の資格制度の今後のあり方について検討
- 第8回 看護の今後の役割と課題 チーム医療における今後の課題について検討
- 第9回 医療経済学および比較政策学の基本概念
- 第10回 医療費とその増加要因、超過医療費分析
- 第11回 健康格差、医療保障、民間保険と公的保険
- 第12回 医療における非営利性と公益性、医療法人制度の改革
- 第13回 医療と看護の経済評価、政策適用上の課題
- 第14回 EPAによる外国人看護師受け入れを通じた多職種連携の現状と課題
- 第15回 今後の看護のグローバル化におけるチーム医療の課題

授業以外での学習方法

教科書

参考書

健康と医療の公平に挑む

著者: 松田亮三・青木郁夫・高山一夫

出版社: 勁草書房

出版年: 2009

ISBN:

日米の医療

著者： 杉田米行編

出版社： 大阪大学出版会

出版年： 2008

ISBN：

医療経済学の基礎理論と論点

著者： 西村周三・田中滋・遠藤久雄

出版社： 勁草書房

出版年： 2006

ISBN：

国際的視点から学ぶ医療経済学入門

著者： B.マックペイク、L.クマラナヤケ、C.ノルマンド、大日康史・近藤正英訳

出版社： 、東京大学出版会

出版年： 2004

ISBN：

The Oxford Handbook of Health Economics

著者： S. Glied and P.C. Smith, eds.

出版社：

出版年： 2012

ISBN：

ヘルスケア政策に関する研究論文を選定し授業資料とする。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（備考を参照）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

プレゼンテーション(発表の準備と内容)30%、参加度(授業中に意見・質問などを発して授業の内容を深め、目標に貢献する姿勢)30%、レポート40%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本文学史 I

担当者 林 久美子

テーマ

日本の古典文学と芸能について学ぶ

獲得目標

日本語による文化の豊かさを享受できるように、古典文学に対する幅広い教養を身につける。

授業の内容

記紀から読本まで、日本文学の歴史と特質をおおむね時間軸に沿って学ぶ。(具体的な内容は、変更の可能性はある)

内 容

- 第1回 上代文学1『古事記』
 - 第2回 上代文学2『万葉集』
 - 第3回 中古文学1『竹取物語』
 - 第4回 中古文学2『源氏物語』とその影響
 - 第5回 中世文学1『新古今和歌集』
 - 第6回 中世文学2『平家物語』
 - 第7回 中世文学3『方丈記』と『徒然草』
 - 第8回 近世文学1 松尾芭蕉と井原西鶴
 - 第9回 近世文学2 近松門左衛門
 - 第10回 近世文学3 上田秋成
 - 第11回 古典と女性作家
 - 第12回 写本と版本
 - 第13回 地域文学 琉球と東北
 - 第14回 芸能
 - 第15回 観光と文学
-

授業以外での学習方法

毎回、用意された設問に対する答えを用意してくること。

教科書

新編これからの日本文学

著者： 丸山顕徳、西端幸雄ほか

出版社： 金壽堂出版

出版年： 2007

ISBN： 978-4-903762

参考書

岩波講座日本文学史

著者： 久保田淳、藤井貞和ほか

出版社： 岩波書店

出版年： 1995～1997

ISBN：

日本文芸史

著者： 古橋信孝、藤井貞和ほか

出版社： 河出書房新社

出版年： 1986～2005

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

「授業中課題」とは、各回に出された設問に対する解答や提出物です。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本文学史Ⅱ

担当者 渡邊 浩史

テーマ

明治の日本文学史

獲得目標

明治時代の文学について理解と知識を深める。文学史を学んでいく過程で、重要な作品については鑑賞する。それらの作品鑑賞を通して、明治時代の文学作品の特徴や意味合いについて考察することを目的とする。

授業の内容

明治時代の有名な小説を取り上げ、作者と作品内容、文学史的背景について講義を行う。受講者各人が作品への知識を得るにとどまらず、鑑賞し、批評的に読む機会を設けたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス —講義概要等の説明—
 第2回 明治の文学史① ——写実主義・擬古典主義・浪漫主義・自然主義
 第3回 明治の文学史② ——高踏派／余裕派・新浪漫主義／耽美派・新理想主義／白樺派
 第4回 自然主義文学 田山花袋「蒲団」①
 第5回 自然主義文学 田山花袋「蒲団」②
 第6回 余裕派の文学 夏目漱石「三四郎」①
 第7回 余裕派の文学 夏目漱石「三四郎」②
 第8回 余裕派の文学 夏目漱石「三四郎」③
 第9回 耽美派の文学 谷崎潤一郎「刺青」①
 第10回 耽美派の文学 谷崎潤一郎「刺青」②
 第11回 白樺派の文学 武者小路実篤「お目出たき人」①
 第12回 白樺派の文学 武者小路実篤「お目出たき人」②
 第13回 白樺派の文学 武者小路実篤「お目出たき人」③
 第14回 大正文学への流れ ——新現実主義／新思潮派(芥川龍之介を中心に)
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義で扱う作品は全文通読を必須とする。他にも言及する作品を積極的に通読すること。

教科書

明治文藝名作散歩

著者： みぎわ書房編

出版社： 白地社

出版年： 2005

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a10201d410

試験はレポートとし、最終日に提出をする。(授業中に説明)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 かな古典研究 I <a>

担当者 橋本 二三

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

獲得目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 万葉仮名の作品について①
 - 第2回 万葉仮名の作品について②
 - 第3回 万葉仮名の作品について③
 - 第4回 万葉仮名の作品について④
 - 第5回 草仮名の作品について
 - 第6回 草仮名の典型「秋萩帖」
 - 第7回 草仮名の作品について
 - 第8回 女手の完成期の作品「高野切」①
 - 第9回 女手の完成期の作品「高野切」②
 - 第10回 高野切系統の作品について①
 - 第11回 高野切系統の作品について②
 - 第12回 高野切系統の作品について③
 - 第13回 平安三色紙の作品「継色紙」
 - 第14回 平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
 - 第15回 平安三色紙の作品「升色紙」
-

授業以外での学習方法

授業中では学習時間が足りないなので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10202a510

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **かな古典研究 I **

担当者 橋本 二三

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

獲得目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 万葉仮名の作品について①
 - 第2回 万葉仮名の作品について②
 - 第3回 万葉仮名の作品について③
 - 第4回 万葉仮名の作品について④
 - 第5回 草仮名の作品について
 - 第6回 草仮名の典型「秋萩帖」
 - 第7回 草仮名の作品について
 - 第8回 女手の完成期の作品「高野切」①
 - 第9回 女手の完成期の作品「高野切」②
 - 第10回 高野切系統の作品について①
 - 第11回 高野切系統の作品について②
 - 第12回 高野切系統の作品について③
 - 第13回 平安三色紙の作品「継色紙」
 - 第14回 平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
 - 第15回 平安三色紙の作品「升色紙」
-

授業以外での学習方法

授業中では学習時間が足りないなので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10202a512

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読⑥(平安文学研究Ⅰ)

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読むー光源氏の栄華ー

獲得目標

平安時代文学の代表作であり、日本の古典文学の最高峰の一つとされている源氏物語を読む。源氏物語は、書かれてから千年以上経過した現代でも、多くの読者を獲得している。千年に渡って読み続けられてきた源氏物語の、時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の内容

源氏物語の第一部の前半部を中心に物語展開の流れを追いつつ、各所を取り上げ、原文を丁寧に読み解くことを通じて、そこに込められた登場人物や作者の思いを探る。

内 容

- 第1回 源氏物語という作品
- 第2回 光源氏の恋ー桐壺の巻ー
- 第3回 雨夜の品定めー帚木・空蟬の巻ー
- 第4回 夕顔物語ー夕顔の巻ー
- 第5回 若紫との出会い・藤壺との密通ー若紫の巻ー
- 第6回 青海波の舞ー紅葉賀の巻ー
- 第7回 朧月夜の恋ー花宴の巻ー
- 第8回 車の所争いー葵の巻ー(現地学習を別に設定する)
- 第9回 六条御息所との別れー賢木の巻ー(現地学習を別に設定する)
- 第10回 橘の花散る里ー花散里の巻ー
- 第11回 須磨の秋ー須磨の巻ー
- 第12回 明石の君との出会いー明石の巻ー
- 第13回 復活する光源氏ー濤標の巻ー
- 第14回 明石の君の嵯峨野ー松風の巻ー
- 第15回 光源氏の青春の終焉ー薄雲の巻ー

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者： 池田亀鑑

出版社： 中央公論社

出版年： 1984～1985

ISBN：

その他源氏物語注釈書

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（20）

授業中発表等（）

参加度（30）

試験はレポート試験とする。

参考URL

源氏物語の世界

<http://www.sainet.or.jp/~eshibuya/>

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読g(古典文学研究 I)

担当者 林 久美子

テーマ

『南総里見八犬伝』を読む

獲得目標

江戸時代の大ベストセラーであった馬琴読本の面白さを知る。

授業の内容

少しずつ読み進めながら、受講者に「私の読み方＝発見(八犬)伝」を披露していただきます。

内 容

- 第1回 八犬伝の享受について
 - 第2回 八房と伏姫
 - 第3回 信乃と額蔵
 - 第4回 芳流閣
 - 第5回 犬士見八と小文吾
 - 第6回 玉の由来
 - 第7回 五犬士集結
 - 第8回 一角と妖怪
 - 第9回 莊介、小文吾
 - 第10回 毛野の仇討ち
 - 第11回 犬江親兵衛の活躍
 - 第12回 八犬士集結
 - 第13回 連合軍結成
 - 第14回 国府台、洲崎の戦い
 - 第15回 大団円
-

授業以外での学習方法

教科書は全巻が掲載されているわけではないので、興味をもった所は現代語訳の本文を読んでください。ネットサイトも充実しています。(下記参照)

教科書

ビギナーズ・クラシックス『南総里見八犬伝』

著者： 石川博編

出版社： 角川学芸出版

出版年： 2007

ISBN： 978404357422

参考書

岩波文庫『南総里見八犬伝』1～10

著者： 小池藤五郎校訂

出版社： 岩波書店

出版年： 1990

ISBN：

新潮日本古典集成別巻『南総里見八犬伝』1～12

著者： 濱田啓介校訂

出版社： 新潮社

出版年： 2003-2004

ISBN：

ちくま学芸文庫『完本 八犬伝の世界

著者： 高田 衛

出版社： 筑摩書房

出版年： 2005

ISBN： 448008940

復興する八犬伝

著者： 諏訪春雄、高田 衛

出版社： 勉誠出版

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（）

授業中発表等（60）

参加度（40）

受講者数によっては、発表に代わってレポートの提出を求める場合があります。

参考URL

白龍亭

<http://www.mars.dti.ne.jp/~opaku/>

伏姫屋敷

<http://homepage2.nifty.com/fusehime/>

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読Ⅰ(近代文学研究Ⅰ)

担当者 渡邊 浩史

テーマ

短編小説に存在する〈選択〉を読みとく

獲得目標

人生は様々な〈選択〉に満ち溢れている。本講義では、作品鑑賞を深めていくなかで浮かび上がる〈選択〉について読みとり、考察していきたい。さらに、それぞれの文学者の作風、各作品の叙述、構想、主題について獲得することを目標とする。

授業の内容

演習形式を取り入れる予定なので、取り上げる作品は必ず読んでくること。人数が多い際にはグループ発表になる可能性もある。

内 容

- 第1回 ガイダンス —講義概要等の説明—
- 第2回 近代文学を読み進めるポイント
- 第3回 芥川龍之介「魔術」①
- 第4回 芥川龍之介「魔術」②
- 第5回 庄野潤三「プールサイド小景」①
- 第6回 庄野潤三「プールサイド小景」②
- 第7回 向田邦子「ダウト」①
- 第8回 向田邦子「ダウト」②
- 第9回 江戸川乱歩「人間椅子」①
- 第10回 江戸川乱歩「人間椅子」②
- 第11回 阿部昭「天使が見たもの」①
- 第12回 阿部昭「天使が見たもの」②
- 第13回 村上春樹「レーダーホーゼン」①
- 第14回 村上春樹「レーダーホーゼン」②
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

右か、左か 心に残る物語——日本文学秀作選

著者： 沢木耕太郎編

出版社： 文藝春秋

出版年： 2010年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト (0)

授業中発表等 (40%)

a10202d910

「授業中課題」は討論で導き出した自分の意見文の提出及び、レポート。「授業中発表」では、討論における自分の意見や質疑応答が評価の対象となる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読k(現代文学研究 I) <a>

担当者 橋本 正志

テーマ

明治から大正の小説を読解する。

獲得目標

近現代小説の名作を中心に、時代社会との関連やそこに描かれた多彩な人間像について考察していきたい。作品の主題を理解し、さらに時代社会との関わりにおいて深めることを目的とする。

授業の内容

受講人数により演習形式も取り入れる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 明治の文学(1)福沢諭吉『学問ノススメ』(明5~9)「脱亜論」(明18)
- 第3回 明治の文学(2)坪内逍遙『小説神髓』(明18~19)
- 第4回 明治の文学(3)二葉亭四迷「小説総論」(明19)『浮雲』(明20~22)
- 第5回 明治の文学(4)国木田独歩「たき火」(明29)『武蔵野』(明34)
- 第6回 明治の文学(5)与謝野晶子『みだれ髪』(明34)
- 第7回 明治の文学(6)島崎藤村「破戒」(明39)
- 第8回 明治の文学(7)田山花袋「蒲団」(明40)、石川啄木「性急な思想」(明43)
- 第9回 明治の文学(8)谷崎潤一郎「刺青」(明43)
- 第10回 大正の文学(1)志賀直哉「清兵衛と瓢箪」(大2)「池の縁」(昭13)
- 第11回 大正の文学(2)夏目漱石「現代日本の開化」(明44)「こゝろ」(大3)①
- 第12回 大正の文学(3)夏目漱石「こゝろ」(大3)②、「私の個人主義」(大3)
- 第13回 大正の文学(4)室生犀星「寂しき魚」(大9)
- 第14回 大正の文学(5)有島武郎「宣言一つ」(大11)、葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」(大15)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

本文は抜粋を配布する。あらかじめ全体を読んでおくことが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語日本文学講読k(現代文学研究 I) **

担当者 辻本 千鶴

テーマ

戦後の現代文学のなかから名作小説を読む。

獲得目標

戦後の文学を年代順に読み、社会・人間・文学、三者の相互関係を考察する。その作業を通じて、作品への鑑賞眼や現代文学への問題意識を養成することを目標とする。

授業の内容

下記の作品を取り上げ、批評・研究の対象としてのアプローチを試みる。主として講義形式で進めるが、受講生は中間発表(あるいは中間レポート)を担当して授業の進行に参加する。なお、うち一回は黛まどか先生の特別講義が実施される予定である。(日程未定)

内 容

- 第1回 梅崎春生「桜島」
- 第2回 大岡昇平「野火」1
- 第3回 大岡昇平「野火」2
- 第4回 小島信夫「アメリカン・スクール」
- 第5回 安岡章太郎「ガラスの靴」
- 第6回 遠藤周作「白い人・黄色い人」
- 第7回 三島由紀夫「仮面の告白」
- 第8回 幸田文「流れる」
- 第9回 有吉佐和子「紀ノ川」
- 第10回 安倍公房「砂の女」1
- 第11回 安倍公房「砂の女」2
- 第12回 開高健「輝ける闇」
- 第13回 宮本輝「泥の河」
- 第14回 古井由吉「杏子」
- 第15回 黛まどか先生 特別講義(日程未定)

授業以外での学習方法

授業で扱う作品を通読すること。同じ作家の他の作品も自主的積極的に読むこと。

教科書

(プリント配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (20%)

参加度 (10%)

小テスト ()

授業中発表等 (30%)

試験はレポート形式とする。なおレポート課題と別の作品について、中間発表(あるいは中間レポート提出)を義務づける。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅴ〈a〉

担当者 新谷 泰一

テーマ

行・草書の書法の研究

獲得目標

行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の内容

内 容

- 第1回 行草書の表現
- 第2回 王羲之とその書法
- 第3回 集字聖教序の書法
- 第4回 集字聖教序の臨書(半紙)
- 第5回 集字聖教序の臨書(半紙)
- 第6回 集字聖教序の臨書(半切)
- 第7回 集字聖教序の臨書(半切)
- 第8回 臨書作品の相互批評・まとめ
- 第9回 米?の書法
- 第10回 蜀素帖の書法
- 第11回 蜀素帖の臨書(半紙)
- 第12回 蜀素帖の臨書(半切)
- 第13回 ? 溪詩卷他の臨書(半紙)
- 第14回 ? 溪詩卷他の臨書(半切)
- 第15回 米?臨書作品の互評 まとめ ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

家庭での十分な書き込みと、授業で学習する古典以外の古典の練習をしっかりとすること。

教科書

中国法書選16集字聖教序

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選48米?集

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **書法 V **

担当者 新谷 泰一

テーマ

基本的な行・草書法の習得により、書作の幅を広げる。

獲得目標

自在で幅広い字形の表現力と筆を扱う技術の習得をめざす

授業の内容

内 容

- 第1回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
 - 第2回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
 - 第3回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
 - 第4回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
 - 第5回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
 - 第6回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
 - 第7回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
 - 第8回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
 - 第9回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
 - 第10回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
 - 第11回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
 - 第12回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
 - 第13回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
 - 第14回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
 - 第15回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
-

授業以外での学習方法

滑らかで自由な運筆が出来るようになるには、十分な書き込みが必要である。教室のみでなく、家庭での豊富な練習が向上に繋がる。授業で学習する以外の古典への挑戦も望まれる。

教科書

東晋、王羲之「集字聖教序」 法書ガイド

著者：

出版社： 二玄舎

出版年：

ISBN：

東晋、王羲之「集字聖教序」 法書ガイド

著者：

出版社： 二玄舎

出版年：

ISBN：

宋、米ふつ「米ふつ集」 中国法書選

著者:

出版社: 二玄舎

出版年:

ISBN:

宋、米ふつ「米ふつ集」 法書ガイド

著者:

出版社: 二玄舎

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅶ <a>

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

獲得目標

多様なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 関戸本古今和歌集について
- 第2回 関戸本古今和歌集の技法について
- 第3回 関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等)
- 第4回 関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等)
- 第5回 関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等)
- 第6回 関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等)
- 第7回 関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法)
- 第8回 関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法)
- 第9回 関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法)
- 第10回 関戸本古今和歌集の倣書①
- 第11回 関戸本古今和歌集の倣書②
- 第12回 関戸本古今和歌集の倣書③
- 第13回 創作への展開①
- 第14回 創作への展開②
- 第15回 創作への展開③

授業以外での学習方法

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

教科書

日本名筆選19「関戸本古今和歌集」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選13「継色紙」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

授業中課題（80）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。

小テスト（0）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅶ

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

獲得目標

多様なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 関戸本古今和歌集について
 - 第2回 関戸本古今和歌集の技法について
 - 第3回 関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等)
 - 第4回 関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等)
 - 第5回 関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等)
 - 第6回 関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等)
 - 第7回 関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法)
 - 第8回 関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法)
 - 第9回 関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法)
 - 第10回 関戸本古今和歌集の倣書①
 - 第11回 関戸本古今和歌集の倣書②
 - 第12回 関戸本古今和歌集の倣書③
 - 第13回 創作への展開①
 - 第14回 創作への展開②
 - 第15回 創作への展開③
-

授業以外での学習方法

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

教科書

日本名筆選19「関戸本古今和歌集」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選13「継色紙」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

授業中課題（80）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。

小テスト（0）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講a(日本語史 I)

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語の通時的变化や変異を概観する。

獲得目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、古代語に区分される、上代・中古及び中世前半(鎌倉時代・南北朝時代)の状況について確認したい。それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学びたい。

授業の内容

日本語史の総説と音韻史及び文字史、文法史について概説する。極めて専門性の高い内容であるため、日本語学の基本的な知識がない場合や、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。

内 容

- 第1回 日本語史について(ガイダンス)
 - 第2回 総説1(日本語の範囲・記述対象)
 - 第3回 総説2(時代区分・資料)
 - 第4回 総説3(言語変化のメカニズム)
 - 第5回 音韻史1(上代を中心に1)
 - 第6回 音韻史2(上代を中心に2)
 - 第7回 音韻史3(上代以降の状況)
 - 第8回 文字史1(漢字の伝来)
 - 第9回 文字史2(万葉仮名)
 - 第10回 文字史3(平仮名の成立とその広がり)
 - 第11回 文字史4(片仮名の成立とその使用)
 - 第12回 文法史(所謂学校文法の確認と上代の活用について)
 - 第13回 文法史(中世から現代の変化① 活用形の変化を中心に)
 - 第14回 文法史(中世から現代の状況② 活用形の変化を中心に)
 - 第15回 全体のまとめと小テスト(レポート)
-

授業以外での学習方法

参考文献を各自で調べ授業で述べた内容をより深く考察すること。

教科書

日本語史概説

著者: 沖森卓也

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: 425451522-0

参考書

概説日本語の歴史

著者: 佐藤武義

出版社: 朝倉書店

出版年: 1995

ISBN: 4254510195

日本語史要説

著者： 渡辺実

出版社： 岩波書店

出版年： 1997

ISBN： 4000260111

日本語の歴史

著者： 山口明穂他

出版社： 東京大学出版会

出版年： 1997

ISBN： 4130820042

はじめて読む日本語の歴史

著者： 沖森卓也

出版社： ベレ出版

出版年： 2010

ISBN： 4860642556

日本語の歴史全8巻

著者： 亀井孝他編

出版社： 平凡社

出版年： 1963-66

ISBN： 4582765955

成績評価

試験（0）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（40）

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）参加度は、積極的な受講に対して評価するものである。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講c(現代日本語研究 I)

担当者 福田 雅子

テーマ

編集入門・・・DTP(机上出版)への第一歩

獲得目標

編集は出版界をはじめ多くのマルチメディアで必要とされる技術です。編集のプロを目指す人はもちろんですが、ビジネスの世界でも企画書・プレゼンテーション・社内報・PR誌・その他多くの社内文書と編集はさまざまな分野で必要とされています。ビジネスDTPの現場においても役立つ、検定試験「ビジネスDTP検定Ⅲ種」の合格レベルの知識とスキルの習得を目指します。

授業の内容

本講義は「ワード」による編集入門です。Windowsの世界で最も良く使用されるワープロソフト「Word」は、単に文章入力だけのソフトではありません。レイアウトとデザインによって商業印刷並の印刷物を作ることができます。年賀状からチラシ・パンフレット・企画書とその用途は幅広く、基本的な編集感覚を実践を通して、一步一步身に付けていきます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 レイアウト作成の基本①
- 第3回 レイアウト作成の基本②
- 第4回 より正確なレイアウト作成①
- 第5回 より正確なレイアウト作成②
- 第6回 レイアウトを魅力的に演出する技法の習得①
- 第7回 レイアウトを魅力的に演出する技法の習得②
- 第8回 レイアウトを魅力的に演出する技法の習得③
- 第9回 より読みやすいレイアウトの作成
- 第10回 レイアウト作成のまとめ①
- 第11回 レイアウト作成のまとめ②
- 第12回 レイアウト作成の実践①
- 第13回 レイアウト作成の実践②
- 第14回 レイアウト作成の実践③
- 第15回 レイアウト作成の実践④

授業以外での学習方法

Wordの基本的な操作復習

教科書

Wordではじめるレイアウトデザイン Microsoft Word2010対応

著者:

出版社: ワークスコーポレーション

出版年: 2013年

ISBN: 4-86267-146-2

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講⑥(京都と文学)

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語の舞台としての京都

獲得目標

京都は、平安時代文学の多くが作り出された場所であり、その風土は、多大の影響を作品に与えている。具体的な場所のそれぞれが、どのように作品と関わり合っているか、そして、その関わりが、以後の歴史で、いかに伝統的な風土観となって継承されているかを探りたい。さらに、京都の今と将来を考える見識を得ることも授業の目標とする

授業の内容

平安時代文学の代表作品である源氏物語を取り上げ、原文を丁寧に読み解きながら、舞台となった各所の意味を考える。京都にある大学の授業として、現地見学の案内もきめ細かく行いたい。現地研修も授業時間以外に自由参加の形で行う。

内 容

- 第1回 平安京という都
 - 第2回 大内裏と内裏
 - 第3回 源氏物語と内裏
 - 第4回 光源氏の邸宅～二条の院と六条院
 - 第5回 嵯峨野(現地学習を別に設定する)
 - 第6回 比叡山
 - 第7回 宇治(現地学習を別に設定する)
 - 第8回 大原野
 - 第9回 西山
 - 第10回 小野
 - 第11回 北山
 - 第12回 逢坂の関と伊勢路
 - 第13回 須磨・明石
 - 第14回 紫式部の越前行
 - 第15回 紫式部ゆかりの地
-

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語の舞台を訪ねて

著者: 加納重文

出版社: 宮帯出版

出版年: 2011

ISBN:

源氏物語の平安京

著者： 加納重文

出版社： 青簡舎

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験（70）

授業中課題（）

参加度（30）

試験はレポート試験とする。

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

源氏物語の世界

<http://www.sainet.or.jp/~eshibuya/>

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講g(歌舞伎・浄瑠璃研究Ⅰ)

担当者 林 久美子

テーマ

歌舞伎について学ぶ

獲得目標

京都を代表する文化のひとつであり、世界遺産でもある歌舞伎の特色を知る。

授業の内容

以下を予定していますが、みなさんの質問とリクエストに応じて進めます。

内 容

- 第1回 歌舞伎とは
 - 第2回 出雲の阿国と南座のこと
 - 第3回 女形の魅力
 - 第4回 市川団十郎と江戸歌舞伎
 - 第5回 歌舞伎十八番
 - 第6回 坂田藤十郎と近松門左衛門
 - 第7回 三大名作①
 - 第8回 三大名作②
 - 第9回 三大名作③
 - 第10回 任侠劇『夏祭浪花鑑』
 - 第11回 鶴屋南北の怪談劇
 - 第12回 現代の歌舞伎
 - 第13回 受講生による作品紹介①
 - 第14回 受講生による作品紹介②
 - 第15回 これまでのまとめ
-

授業以外での学習方法

5月には南座で歌舞伎鑑賞教室があります。興味のある人は情報を見て足を運んでください。また、メディアセンター所蔵のビデオやテレビ、シネマ歌舞伎などでも鑑賞してください。活字になった脚本も図書館に多数あります。

教科書

歌舞伎の中の日本

著者： 松井今朝子

出版社： 日本放送出版協会

出版年： 2008

ISBN： 978414011532

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。発表者はレポートを免除されることがあります。

参考URL

日本芸術文化振興会

<http://www.ntjjac.go.jp/bunraku.html>

文化デジタルライブラリー

<http://www2.ntjjac.go.jp/dglib/>

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講i(近代文学研究Ⅲ)

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

森見登美彦『有頂天家族』を読む

獲得目標

『有頂天家族』において、「家」という、重要だが一見古臭そうな近代文学の一大テーマが、どのように受け継がれ、どのように変奏されているかを考える。また、森見の小説は日本の近代小説を忠実になぞり、同時に巧妙にずらされる傾向にあるので、適宜近代日本の小説との比較を行いつつ分析し、多くの作品に親しむことを目指す。

授業の内容

基本的には講義形式であるが、毎回授業終了時に講義内容についての分析的なコメントを求める。コメントに対してはできるだけ次の授業の冒頭で回答したい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 動物と人間(1)
 - 第3回 動物と人間(2)
 - 第4回 変身という行為(1)
 - 第5回 変身という行為(2)
 - 第6回 家族の物語(1)
 - 第7回 家族の物語(2)
 - 第8回 家族の物語(3)
 - 第9回 二つの「三角関係」
 - 第10回 舞台としての京都(1)
 - 第11回 舞台としての京都(2)
 - 第12回 舞台としての京都(3)
 - 第13回 食べる(飲む)ということ
 - 第14回 混乱と祝祭空間
 - 第15回 まとめとレポート指導
-

授業以外での学習方法

(1)第2回までには『有頂天家族』を読了する。(2)プリントを授業終了時に配布した場合は、次の回までに目を通し、自分なりに問題点を整理しておく。(3)期末レポートに向けて、できるだけ多くの日本の近代小説を読む。

教科書

文庫版『有頂天家族』

著者： 森見登美彦

出版社： 幻冬舎

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 (30%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a10203d910

学期末に授業内容に関するレポートの提出を求め、これを「試験」とする。「授業中課題」とは、毎回提出するコメント用紙のことであり、記述内容により評価が変わる。「授業中課題」の評価は「参加度」(出席)と連動するので、注意すること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講k(現代文学研究Ⅲ)

担当者 三重野 由加

テーマ

大正・昭和初期に発表された児童文学作品の解釈と鑑賞を行う。

獲得目標

教科書等に掲載されるような有名作品だけでなく、普段手にすることの少ない名作を含めて、児童文学を俯瞰する。そのことにより、文学研究あるいは児童文学を教えるための基礎力を養成することを目的とする。

授業の内容

作品の丁寧な解釈と鑑賞を行う。そのために、受講生は事前に作品を読んでおく必要がある。講義後、グループディスカッションを行い、代表者に発表をしてもらう。なお、授業進度により、内容を変更する場合がある。

内 容

- 第1回 導入
 - 第2回 芥川龍之介「蜘蛛の糸」
 - 第3回 有島武郎「一房の葡萄」
 - 第4回 室生犀星「寂しき魚」
 - 第5回 島崎藤村「幸福」
 - 第6回 佐藤春夫「蝗の大旅行」
 - 第7回 宇野浩二「でたらめ教」
 - 第8回 豊島与志雄「手品師」
 - 第9回 浜田広介「ある島のきつね」
 - 第10回 内田百閒「影法師」
 - 第11回 坪田譲治「魔法」
 - 第12回 水上瀧太郎「大人の眼と子供の眼」
 - 第13回 壺井栄「がきのめし」
 - 第14回 椋鳩十「月の輪熊」
 - 第15回 小川未明「赤いろうそくと人魚」
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

授業で取り上げる作品を、必ず、事前に読んでおくこと。

教科書

日本児童文学名作集

著者： 桑原三郎・千葉俊二編

出版社： 岩波書店

出版年： 1994

ISBN： 4-00-311432-9

参考書

成績評価

試験（50）

授業中課題（10）

小テスト（0）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講m(メディア・表現研究Ⅲ)

担当者 重松 恵美

テーマ

現代小説における古典芸能

獲得目標

今の時代になぜ、古典芸能が、若者を主な読者とする小説の題材として取り上げられているのか。いくつかの作品(関連作品を含む)を読解しながら、現代文学の動向について考える。

授業の内容

現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読む。作品をていねいに読んで理解した上で、作品について受講生各自が考察したことをレポートにまとめる。レポートは800字×4回実施。第9回目(予定)には、グループディスカッションを実施し、作品についての意見発表と意見交換を行なう。

内 容

- 第1回 田中啓文「ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰」
- 第2回 田中啓文「ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰」
- 第3回 田中啓文「ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰」
- 第4回 田中啓文「ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰」
- 第5回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」
- 第6回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」
- 第7回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」
- 第8回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」
- 第9回 ディスカッション
- 第10回 三浦しをん「仏果を得ず」
- 第11回 三浦しをん「仏果を得ず」
- 第12回 三浦しをん「仏果を得ず」
- 第13回 三浦しをん「仏果を得ず」
- 第14回 池上永一「テンベスト」
- 第15回 池上永一「黙示録」

授業以外での学習方法

テキストを3冊とも用意し、学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分(週あたり2時間)とする。

教科書

ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰

著者: 田中啓文

出版社: 集英社文庫

出版年: 2006

ISBN: 978-4-08-746074

カブキブ! 1

著者: 榎田ユウリ

出版社: 角川文庫

出版年: 2013

ISBN: 978-4-04-100956

仏果を得ず

著者： 三浦しをん

出版社： 双葉文庫

出版年： 2011

ISBN: 978-4-575-51444

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (90)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 作品研究 I <a>

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

獲得目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の内容

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

内 容

- 第1回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第2回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第3回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第4回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第5回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第6回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第7回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第8回 倣書作品制作の準備(詩文の決定)
- 第9回 倣書作品制作の準備(形式、用具・用材の工夫)
- 第10回 倣書作品制作の準備(集字など)
- 第11回 倣書作品の制作
- 第12回 倣書作品の制作
- 第13回 倣書作品の制作
- 第14回 倣書作品の制作 (卒業制作の準備)
- 第15回 倣書作品の制作 (卒業制作の準備)

授業以外での学習方法

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a102040410

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 作品研究 I

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

獲得目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の内容

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

内 容

- 第1回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第2回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第3回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第4回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第5回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第6回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第7回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第8回 倣書作品制作の準備(詩文の決定)
- 第9回 倣書作品制作の準備(形式、用具・用材の工夫)
- 第10回 倣書作品制作の準備(集字など)
- 第11回 倣書作品の制作
- 第12回 倣書作品の制作
- 第13回 倣書作品の制作
- 第14回 倣書作品の制作 (卒業制作の準備)
- 第15回 倣書作品の制作 (卒業制作の準備)

授業以外での学習方法

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a102040412

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 作品研究Ⅲ <a>

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

獲得目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の内容

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

内 容

- 第1回 倣書の方法について
 - 第2回 各自選択の古筆による集字ノートの点検
 - 第3回 小字作品の制作と鑑賞 (1) 1首
 - 第4回 小字作品の制作と鑑賞 (2) 2首
 - 第5回 小字作品の制作と鑑賞 (3) 4首
 - 第6回 小字作品の制作と鑑賞 (4) 8首
 - 第7回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
 - 第8回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
 - 第9回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
 - 第10回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
 - 第11回 中・大字作品の制作と鑑賞 (1)
 - 第12回 中・大字作品の制作と鑑賞 (2)
 - 第13回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
 - 第14回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
 - 第15回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)
-

授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 作品研究Ⅲ

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

獲得目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の内容

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

内 容

- 第1回 倣書の方法について
 - 第2回 各自選択の古筆による集字ノートの点検
 - 第3回 小字作品の制作と鑑賞 (1) 1首
 - 第4回 小字作品の制作と鑑賞 (2) 2首
 - 第5回 小字作品の制作と鑑賞 (3) 4首
 - 第6回 小字作品の制作と鑑賞 (4) 8首
 - 第7回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
 - 第8回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
 - 第9回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
 - 第10回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
 - 第11回 中・大字作品の制作と鑑賞 (1)
 - 第12回 中・大字作品の制作と鑑賞 (2)
 - 第13回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
 - 第14回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
 - 第15回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)
-

授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書学A I (中世) <Za>

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

古代・中世における古文書の様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。

授業の内容

最初は古文書学の概要を説明し、各様式の古文書を受講者に割り当て、読んでもらう。この講義はくずし字の解読が主ではないので注意。

内 容

- 第1回 概説① 古文書とは？古文書学とは？
- 第2回 概説② 古文書の伝来
- 第3回 概説③ 古文書学用語の基礎知識
- 第4回 概説④ 古文書の伝来
- 第5回 概説⑤ 律令制と文書行政
- 第6回 古文書の様式 I 公式様文書(1)
- 第7回 古文書の様式 I 公式様文書(2)
- 第8回 古文書の様式 I 公式様文書(3)
- 第9回 古文書の様式 II 公家様文書(1)
- 第10回 古文書の様式 II 公家様文書(2)
- 第11回 古文書の様式 II 公家様文書(3)
- 第12回 古文書の様式 II 公家様文書(4)
- 第13回 その他の古文書 (1)
- 第14回 その他の古文書 (2)
- 第15回 まとめ(予備)

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内に扱える古文書は少ない。各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真などを見る。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1997年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

单元ごとの確認のテストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書学A I (中世) <Zb>

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

古代・中世における古文書の様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する

授業の内容

最初は古文書学の概要を説明し、各様式の古文書を受講者に割り当て、読んでもらう。この講義はくずし字の解読が主ではないので注意。

内 容

- 第1回 概説① 古文書とは？古文書学とは？
- 第2回 概説② 古文書の伝来
- 第3回 概説③ 古文書学用語の基礎知識
- 第4回 概説④ 古文書の分類
- 第5回 概説⑤ 律令制と文書行政
- 第6回 古文書の様式 I 公式様文書(1)
- 第7回 古文書の様式 I 公式様文書(2)
- 第8回 古文書の様式 I 公式様文書(3)
- 第9回 古文書の様式 II 公家様文書(1)
- 第10回 古文書の様式 II 公家様文書(2)
- 第11回 古文書の様式 II 公家様文書(3)
- 第12回 古文書の様式 II 公家様文書(4)
- 第13回 その他の古文書 (1)
- 第14回 その他の古文書 (2)
- 第15回 まとめ(予備)

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内に扱える古文書は少ない。各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載された写真などを見る。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN:

演習古文書選様式編
著者： 日本歴史学会
出版社： 吉川弘文館
出版年： 1976年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

单元ごとに確認のテストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史特講g(近現代史) <Z>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

日本近代地域社会の変容

獲得目標

幕末から明治そして大正という激動の時代を地域の視点から見た場合どのような像を提示できるかを示す。

授業の内容

日本近代の地域社会が幕末から明治・大正にかけてどのように変容していくか京都府・滋賀県を対象に話を

内 容

- 第1回 前期で何を話すか(概説)
 - 第2回 幕末の激動を庶民はどうみたか
 - 第3回 同上
 - 第4回 王政復古の号令から鳥羽・伏見の戦いへ
 - 第5回 東京奠都
 - 第6回 国の「文明開化」政策は地域にどのように入っていくか(小学校、徴兵、地租改正)
 - 第7回 同上
 - 第8回 議会制度の導入(府県会、町村会・帝国議会)
 - 第9回 明治維新後、交通体系はどのように変わってくるか(鉄道、道路、舟運)
 - 第10回 同上
 - 第11回 日清・日露戦争を地域社会はどのようにうけとめたのか
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 日露戦後の地域社会
 - 第15回 同上
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史特講i(ヨーロッパ・アメリカ史 I) <Z>

担当者 南 直人

テーマ

ヨーロッパの近現代史をより深く考察する

獲得目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ近現代史についての理解を深める。

授業の内容

食の歴史の意義についての一般的な考察から具体的な内容へと展開していく

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
 - 第2回 ヨーロッパの食文化の特質
 - 第3回 香辛料の世界史的役割
 - 第4回 「コロンブスの交換」(1)
 - 第5回 「コロンブスの交換」(2)
 - 第6回 「コロンブスの交換」(3)
 - 第7回 ジャガイモとトウモロコシ
 - 第8回 コーヒー・茶・砂糖と植民地支配(1)
 - 第9回 コーヒー・茶・砂糖と植民地支配(2)
 - 第10回 ドイツにおけるコーヒー
 - 第11回 工業化による食の変化(1)
 - 第12回 工業化による食の変化(2)
 - 第13回 ヨーロッパ的食生活の成立(1)
 - 第14回 ヨーロッパ的食生活の成立(2)
 - 第15回 まとめ・総括
-

授業以外での学習方法

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の食文化(シリーズ)

著者: 石毛直道監修

出版社: 農文協

出版年: 2003~2008

ISBN:

成績評価

a103028910

試験 (0)
授業中課題 (10)
参加度 (30)

小テスト (60)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書学A I (古代・中世) <a>

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

古代・中世における古文書の様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する

授業の内容

最初は古文書学の概要を説明し、各様式の古文書を受講者に割り当て、読んでもらう。この講義はくずし字の解読が主ではないので注意。

内 容

- 第1回 概説① 古文書とは？古文書学とは？
- 第2回 概説② 古文書の伝来
- 第3回 概説③ 古文書学用語の基礎知識
- 第4回 概説④ 古文書の分類
- 第5回 概説⑤ 律令制と文書行政
- 第6回 古文書の様式 I 公式様文書(1)
- 第7回 古文書の様式 I 公式様文書(2)
- 第8回 古文書の様式 I 公式様文書(3)
- 第9回 古文書の様式 II 公家様文書(1)
- 第10回 古文書の様式 II 公家様文書(2)
- 第11回 古文書の様式 II 公家様文書(3)
- 第12回 古文書の様式 II 公家様文書(4)
- 第13回 その他の古文書 (1)
- 第14回 その他の古文書 (2)
- 第15回 まとめ(予備)

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内に扱える古文書は少ないので、各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真などを見る。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

单元ごとに確認のテストを行うとともに、宿題および授業中の課題および参加度を評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書学A I (古代・中世)

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

古代・中世における古文書の様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する

授業の内容

最初は古文書学の概要を説明し、各様式の古文書を受講者に割り当て、読んでもらう。この講義はくずし字の解読が主ではないので注意。

内 容

- 第1回 概説① 古文書とは？古文書学とは？
- 第2回 概説② 古文書の伝来
- 第3回 概説③ 古文書学用語の基礎知識
- 第4回 概説④ 古文書の分類
- 第5回 概説⑤ 律令制と文書行政
- 第6回 古文書の様式 I 公式様文書(1)
- 第7回 古文書の様式 I 公式様文書(2)
- 第8回 古文書の様式 I 公式様文書(3)
- 第9回 古文書の様式 II 公家様文書(1)
- 第10回 古文書の様式 II 公家様文書(2)
- 第11回 古文書の様式 II 公家様文書(3)
- 第12回 古文書の様式 II 公家様文書(4)
- 第13回 その他の古文書 (1)
- 第14回 その他の古文書 (2)
- 第15回 まとめ(予備)

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内に扱える古文書は少ない。各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真などを見る。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

单元ごとの確認テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史特講a(古代史)

担当者 増淵 徹

テーマ

日記からみた平安時代史

獲得目標

平安期の貴族社会に関する知識を増やし、諸種の史料から総合的に歴史像を再構成する資質を養う。

授業の内容

10世紀末～12世紀の平安中後期を扱う。当該期は『小右記』『御堂関白記』『権記』をはじめ、多くの貴族日記が遺存する、史料的には恵まれた時期である。これらの日記の記述を主材料に、具体的な記事の分析を通して貴族社会の構造と変遷を考え抜いていく内容とする。

内 容

- 第1回 日記概論①
- 第2回 日記概論②
- 第3回 日記の記事から①-女性の暴力-
- 第4回 日記の記事から②-下女の口論と集団乱闘-
- 第5回 日記の記事から③-事件処理と検非違使-
- 第6回 日記の記事から④-「因縁」「所縁」の世界-
- 第7回 日記の記事から⑤-因幡国愁訴事件とその背景①-
- 第8回 日記の記事から⑥-因幡国愁訴事件とその背景②-
- 第9回 日記の記事から⑦-主人と家司・家人①-
- 第10回 日記の記事から⑧-主人と家司・家人②-
- 第11回 看取られる死・見捨てられる生①
- 第12回 看取られる死・見捨てられる生②
- 第13回 日記の行方①-師輔日記の伝来-
- 第14回 日記の行方②-院政と日記の集約-
- 第15回 まとめ-日記再論- ※この授業では、学外授業を実施することがあります。

授業以外での学習方法

テキストとしては大日本古記録等の該当部分を配布するので、自身での読み取りが必要である。

教科書

参考書

日本の歴史5 『王朝の貴族』

著者： 土田直鎮

出版社： 中公文庫

出版年：

ISBN：

日本古代史6 『撰関政治』

著者： 古瀬奈津子

出版社： 岩波新書

出版年：

ISBN：

日記の家

著者： 松蘭 齊

出版社： 吉川弘文館

出版年：

ISBN：

日本の時代史 『摂関政治と王朝文化』

著者： 加藤友康編

出版社： 吉川弘文館

出版年：

ISBN：

摂関期貴族社会の研究

著者： 告井幸男

出版社： 塙書房

出版年：

ISBN：

平安京の時代

著者： 佐々木恵介

出版社： 吉川弘文館

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本史特講c(中世史)**

担当者 大田 壮一郎

テーマ

中世武家政権と宗教

獲得目標

中世宗教史研究の研究水準を理解し、あわせて研究史の捉え方や論証の方法などを身につける。

授業の内容

中世国家と宗教の問題については、朝廷(公家政権)の宗教政策が中心に論じられてきた。しかし、鎌倉・室町時代における武家政権の国家的位置を踏まえるならば、武家政権の宗教政策を論じることは不可欠の課題である。この講義では、武家政権の宗教政策を中心に、中世宗教史の再検討を行いたい。各分野の研究動向の紹介とともに、論点となる重要史料についての分析も行う。

内 容

- 第1回 イントロダクション 鎌倉「新」仏教
- 第2回 中世宗教史研究の動向 I
- 第3回 中世宗教史研究の動向 II
- 第4回 鎌倉幕府と宗教 I 都市鎌倉の寺社概観
- 第5回 鎌倉幕府と宗教 II 初期鎌倉幕府と禅宗
- 第6回 鎌倉幕府と宗教 III 北条氏と禅宗(1)
- 第7回 鎌倉幕府と宗教 IV 北条氏と禅宗(2)
- 第8回 鎌倉幕府と宗教 V モンゴル襲来と寺社(1)
- 第9回 鎌倉幕府と宗教 VI モンゴル襲来と寺社(2)
- 第10回 南北朝の内乱と寺社 一僧の「軍忠」
- 第11回 室町幕府と宗教 I 戦争と鎮魂 怨霊と供養
- 第12回 室町幕府と宗教 II 管領細川頼之と寺社
- 第13回 室町幕府と宗教 III 足利義満の登場と室町殿の「平和」
- 第14回 室町幕府と宗教 IV 室町殿と門跡
- 第15回 室町幕府と宗教 V 室町殿と地域寺社
- 第16回 定期試験

授業以外での学習方法

地の利を活かして京都を訪れ現地を実際に歩いてみる。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

室町・戦国期研究を読みなおす

著者: 中世後期研究会編

出版社: 思文閣出版

出版年: 2007年

ISBN:

室町幕府の政治と宗教

著者： 大田 壮一郎

出版社： 塙書房

出版年： 2014年

ISBN:

成績評価

試験（70）

小テスト（）

授業中課題（30）

授業中発表等（）

参加度（）

私語をはじめ、他の受講者への迷惑になる行為については受講取り消しを含め厳しく対処する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史特講e(近世史)

担当者 鍛冶 宏介

テーマ

江戸時代の歴史上の諸問題を学ぶ

獲得目標

①史料から過去の歴史を明らかにするという歴史学の基本を学ぶこと。②現代とは異なる、また現代に繋がる面もある江戸時代の社会の仕組みをしること。③過去があり、今があるという歴史の流れを理解すること

授業の内容

高校までの歴史といえば暗記科目という印象が強いです。しかし大学で学ぶ歴史学では、事件が起こった年号や、難しい皇帝の名前などの暗記を求められることはありません。本講義では、下記のように江戸時代の歴史上のさまざまな題材を取り上げながら、歴史学に関する講義を行い、史料から歴史を描くという学問の面白さを学んでもらいます。なお、本講義では、毎回の講義にて、疑問・感想の提出を求めます。毎回、講義冒頭で、前回の疑問への回答を行います。場合によっては、回答だけで一コマを費やすこともあるほど、講師も全力で応えますので、是非応え甲斐のある疑問・質問が書けるように、能動的な姿勢で講義に挑んで下さい。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 史料とは歴史の材料である、ということ
- 第3回 歴史学と歴史創作 —新選組を事例に—
- 第4回 歴史学と歴史創作 part2 —屋根の上に鴨はいたか！？—
- 第5回 古文書のなかの新選組
- 第6回 水戸黄門の虚像と実像
- 第7回 黄門様の歴史学
- 第8回 隠された藩主の恋心 —活字史料の裏側—
- 第9回 年齢詐称をあばく —史料批判の技法—
- 第10回 一次史料と二次史料 —「徳川実紀」と「右筆所日記」—
- 第11回 土のなかの戦場
- 第12回 流行病とその対応
- 第13回 江戸時代のお殿様
- 第14回 遊女を見る視線
- 第15回 江戸時代の舞妓ハーン

授業以外での学習方法

テレビで大河ドラマをみたり、神社仏閣などを通った際は案内掲示板を熟読するなど、普段の生活のなかで歴史を意識してみして下さい。また講義の後、レジュメを熟読しておいてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

遊女の社会史

著者: 今西一

出版社: 有志舎

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（50）

授業中発表等（）

参加度（）

受講者の数によっては試験ではなく、レポートにすることもあります。授業中課題は毎回の提出を求めますので、出席も兼ねています。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 近現代史特講a(日本)

担当者 高久 嶺之介

テーマ

日本近代地域社会の変容

獲得目標

幕末から明治そして大正という激動の時代を地域の視点から見た場合どのような像を提示できるかを示す。

授業の内容

日本近代の地域社会が幕末から明治・大正にかけてどのように変容していくか京都府・滋賀県を対象に話を

内 容

- 第1回 前期で何を話すか(概説)
 - 第2回 幕末の激動を庶民はどうみたか
 - 第3回 同上
 - 第4回 王政復古の大号令から鳥羽・伏見の戦いへ
 - 第5回 東京奠都
 - 第6回 国の「文明開化」政策は地域にどのように入っていくか(小学校、徴兵、地租改正)
 - 第7回 同上
 - 第8回 議会制度の導入(府県会、町村会・帝国議会)
 - 第9回 明治維新後、交通体系はどのように変わってくるか(鉄道、道路、舟運)
 - 第10回 同上
 - 第11回 日清・日露戦争を地域社会はどのようにうけとめたのか
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 日露戦後の地域社会
 - 第15回 同上
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 近現代史特講c(世界)

担当者 南 直人

テーマ

ヨーロッパの近現代史をより深く考察する

獲得目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ近現代史についての理解を深める。

授業の内容

食の歴史の意義についての一般的な考察から具体的な内容へと展開していく

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
 - 第2回 ヨーロッパの食文化の特質
 - 第3回 香辛料の世界史的役割
 - 第4回 「コロンブスの交換」(1)
 - 第5回 「コロンブスの交換」(2)
 - 第6回 「コロンブスの交換」(3)
 - 第7回 ジャガイモとトウモロコシ
 - 第8回 コーヒー・茶・砂糖と植民地支配(1)
 - 第9回 コーヒー・茶・砂糖と植民地支配(2)
 - 第10回 ドイツにおけるコーヒー
 - 第11回 工業化による食の変化(1)
 - 第12回 工業化による食の変化(2)
 - 第13回 ヨーロッパ的食生活の成立(1)
 - 第14回 ヨーロッパ的食生活の成立(2)
 - 第15回 まとめ・総括
-

授業以外での学習方法

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の食文化(シリーズ)

著者: 石毛直道監修

出版社: 農文協

出版年: 2003~2008

ISBN:

成績評価

a10302e910

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (60)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史特講c(東アジア史Ⅲ)

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史の基本問題として、その成立と展開の特質を探る。

獲得目標

この授業では、中国における都市文明の起源から唐代までの歴史と、文化の形成から展開の諸問題を取り扱う。中国文明の成立は、中国周辺の異民族にも大きな影響を与えた。古代中国の高度にすぐれた文化がこれらの地域に広く浸透し、文化的政治的な成長と中国化を促した。やがて中国を中心にして漢字文化を共有し、相互に密接な関係を有する東アジア世界が形成される。その文明の形成に大きな役割を果たした幾つかの事例を素材に、文献史学、更に近年進出の資料を美術史、考古学の立場から、中国古代史構造の基本問題とその考え方を探る。

授業の内容

内 容

- 第1回 中国文明を理解するためのキーワード総解説
- 第2回 夏文明の問題—考古と文献実証の間
- 第3回 夏文明と殷商文明—青銅器の発展の諸問題
- 第4回 春秋戦国時代の出土文献と文字出土資料
- 第5回 秦代中国統一の諸問題Ⅰ—万里長城の建設の意義
- 第6回 秦代中国統一の諸問題Ⅱ—皇帝陵墓の出現と陪葬俑
- 第7回 漢代の儒家思想とその文化Ⅰ
- 第8回 漢代の文物制度Ⅱ—蔵書と目録学の出現
- 第9回 漢代の思想と文化Ⅲ—考古資料からみる漢代の信仰
- 第10回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅰ—仏教の伝来と発展
- 第11回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅱ—漢訳仏教經典と寺院の成立及び伽藍配置の問題
- 第12回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅲ—漢字発展の諸問題
- 第13回 隋唐時代の文化Ⅰ—初唐・盛唐期の仏教文化
- 第14回 隋唐時代の文化Ⅱ—考古学資料からみる唐代の国際関係
- 第15回 内容総括

授業以外での学習方法

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史特講e(中央・西アジア史 I)

担当者 塩野崎 信也

テーマ

民族の展示場コーカサス

獲得目標

コーカサス地方に居住する多様な民族の歴史や文化を紹介し、「民族とは何か」という問題について考える

授業の内容

今年の冬季五輪の開催地であったソチは、コーカサス地方に属している。世界で最も民族的に複雑な地域とも言われるコーカサスは、チェチェン問題をはじめ、アルメニア問題やオセチア問題など、多くの民族紛争を抱える地域でもある。本講義では、これら民族問題の構図と歴史的経緯の理解を目指す。また、講義の後半には、アゼルバイジャン人を具体的な例として、「民族」がいかんして形成されるのかを考察する。

内 容

- 第1回 北コーカサスの国々と民族
 - 第2回 南コーカサスの国々と民族
 - 第3回 チェチェンとダゲスタン
 - 第4回 ロシアによる北コーカサス征服と「カフカース戦争」
 - 第5回 現代のロシアとチェチェン人
 - 第6回 コーカサスのキリスト教徒たち:アルメニア人とグルジア人
 - 第7回 アルメニア商人の活躍
 - 第8回 グルジア出身の軍人奴隷たち
 - 第9回 アゼルバイジャンの民族と文化
 - 第10回 地名としての「アゼルバイジャン」の歴史的変遷
 - 第11回 アゼルバイジャン人の祖先たち
 - 第12回 アゼルバイジャン人の誕生
 - 第13回 20世紀のアゼルバイジャン
 - 第14回 アゼルバイジャン民族主義の果てに
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

関連図書は授業中に適宜指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史特講g(中央・西アジア史Ⅲ)

担当者 宮本 純二

テーマ

古代エジプト王朝史 I

獲得目標

エジプト古代王朝史の前半の流れを知り、理解を深める

授業の内容

古代エジプト文明の特色は、約三千年の長きにわたりオリエント世界で重要な役割を担った点に最もよく見出せる。授業では、その文明を生み出す前提となった風土をはじめとし、国家統一へと向かう先王朝時代、国家の基礎が形成される初期王朝時代、壮大なピラミッドの造営事業を成し遂げた古王国時代、そして、文化の爛熟期である中王国時代にいたる王朝史を辿る(それに続く王朝史後半は後期の世界史特講hで扱う)。またそれと並行して、古代エジプト史を理解する上で必要となる基礎事項を随時、解説する。なお、古代エジプト史に関しては、文字史料と共に、考古遺物や遺跡が重要な意味を持つため、できる限りビデオ等の映像教材を用いて具体例を示しつつ授業を進める予定である。

内 容

- 第1回 講座解説(映像資料観賞を含む)
- 第2回 自然環境と地理的背景: ナイルの恵み
- 第3回 先王朝時代: 農耕の始まり
- 第4回 先王朝時代: 農耕社会の成長
- 第5回 国家統一へ: ナルメル王のパレットを読む
- 第6回 初期王朝時代: 国家基盤の形成
- 第7回 古王国時代: ピラミッドの出現/王権の確立
- 第8回 古王国時代: ピラミッドの変遷
- 第9回 古王国時代: ギザの三大ピラミッド
- 第10回 古王国時代: ピラミッド建造の背景
- 第11回 古王国時代: 繁栄の終焉
- 第12回 第一中間期: 統一の崩壊/社会の変革
- 第13回 中王国時代: 文化の熟成/古典の形成
- 第14回 総括(映像資料観賞)
- 第15回 総括(映像資料観賞/レポート提出を含む)

授業以外での学習方法

古代エジプト人たちの残した遺跡や遺物、また記録が王朝史を解明する原点であることは言うまでもない。最近では、それらの文化遺産の多くが書物だけにとどまらず、様々な形で紹介されているので、それらも積極的に利用することが望ましい。『古代エジプト文明と遺跡(全17巻)』: 早稲田大学・古代エジプト調査室製作のビデオ(本学AVセンター収蔵)など。

教科書

随時、コピーで配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

古代エジプト入門(補助テキスト、購入が望ましい)

著者: 内田杉彦

出版社: 岩波ジュニア新書

出版年: 2007

ISBN:

参考書

世界の歴史1・人類の起源と古代オリエント

著者： 尾形禎亮他

出版社： 中央公論社

出版年： 1998

ISBN:

エジプト王国三千年

著者： 吉成薫

出版社： 講談社選書メチエ

出版年： 2000

ISBN:

ファラオ歴代誌

著者： ピーター・クレイトン

出版社： 創元社

出版年： 1999

ISBN:

古代オリエント辞典

著者： 日本オリエント学会編

出版社： 岩波書店

出版年： 2004

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (85)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史特講i(ヨーロッパ・アメリカ史 I)

担当者

テーマ

ヨーロッパの近現代史をより深く考察する

獲得目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ近現代史についての理解を深める。

授業の内容

食の歴史の意義についての一般的な考察から具体的な内容へと展開していく

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
- 第2回 ヨーロッパの食文化の特質
- 第3回 香辛料の世界史的役割
- 第4回 「コロンブスの交換」(1)
- 第5回 「コロンブスの交換」(2)
- 第6回 「コロンブスの交換」(3)
- 第7回 ジャガイモとトウモロコシ
- 第8回 コーヒー・茶・砂糖と植民地支配(1)
- 第9回 コーヒー・茶・砂糖と植民地支配(2)
- 第10回 ドイツにおけるコーヒー
- 第11回 工業化による食の変化(1)
- 第12回 工業化による食の変化(2)
- 第13回 ヨーロッパ的食生活の成立(1)
- 第14回 ヨーロッパ的食生活の成立(2)
- 第15回 まとめ・総括

授業以外での学習方法

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の食文化(シリーズ)

著者: 石毛直道監修

出版社: 農文協

出版年: 2003~2008

ISBN:

成績評価

a10302f910

試験 (0)
授業中課題 (10)
参加度 (30)

小テスト (60)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **世界女性史特講 I**

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリス女性生活誌1

獲得目標

近世以降のイギリスにおける女性の在り様の変化、多様な活動を検証することを通して、「西洋近代」と女性史のかかわりを考察する

授業の内容

上記のテーマ、目的を1年かけて追及し、前期においては、以下のトピックについて講義する

内 容

- 第5回 近世の社会構造と女性④ 産業革命を支えた存在
- 第6回 工業化社会の二類型の女性
- 第7回 「家庭の天使」の真実① 家庭機能の変容によって
- 第8回 「家庭の天使」の真実② 結婚は最大のビジネス
- 第9回 「家庭の天使」の真実③ フェミニズムの源泉
- 第10回 「conspicuous consumptionの担い手」の裏側① 余暇の商業化
- 第11回 「conspicuous consumptionの担い手」の裏側② モードの裏側で
- 第12回 「優雅な社会奉仕者」の持つ意味① 福音主義が残したもの
- 第13回 「優雅な社会奉仕者」の持つ意味② ディストリクト。ヴィジティング
- 第14回 「優雅な社会奉仕者」の持つ意味③ 社会進出の原動力
- 第15回 まとめと確認
- 第1回 女性史について 史学史的アプローチ
- 第2回 近世の社会構造と女性① ジェントルマン支配のなかで
- 第3回 近世の社会構造と女性② 農業構造から考える
- 第4回 近世の社会構造と女性③ 家族構造から考える

授業以外での学習方法

毎回の授業の際に配るコメント・シートによる復習と予習 イギリス史の概説書の精読

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **地誌**

担当者 中西 和子

テーマ

『地誌』を読もう。書かれた地域と筆者の地域について知ろう。“地誌”って実は二度オイシイ！！

獲得目標

日本を含め世界の古典的な「地誌(書)」を取り上げ、「人類はなぜ地誌を書くのか」「地域を描写する」ということの基本について考える。後半は京都の地誌を中心に取り上げ、地域の文化・社会を読み取る力をつける。

授業の内容

基本的に配布プリントを資料にして授業を進めるが、一部パワーポイントも使用。

内 容

- 第1回 イントロダクション：“地誌書”が世界を変える？“ジパング”良いコ、一度はおいで！？『東方見聞録』と“ワークワーグ”
- 第2回 自国地誌と外国地誌 —『魏志倭人伝』と『風土記』、さて、どっちが正しい日本の姿？
- 第3回 外国人からみた日本：イザベラ・バードの見た日本
- 第4回 日本人のみた外国1：河口慧海とチベット社会と日本の社会
- 第5回 地誌が書かれるのはどんな時？—『風土記』から『日本地誌提要』と『皇国地誌』まで
- 第6回 地誌が読まれるのはどんな時？—明治人がハマった『輿地誌略』
- 第7回 日本人のみた外国2：小田 実『何でも見てやろう』と沢木耕太郎『深夜特急』
- 第8回 ガイドブックと戦争—ミシュランは地誌？
- 第9回 あなたの一番読みたい「地誌」は？
- 第10回 京都の地誌1：どこからどこまでが京都？…ていうか、“京風”ってナニ？
- 第11回 京都の地誌2：京都の産業って何でしょう？京都を代表する企業ってどこ？
- 第12回 京都の地誌3：近郊の成立—“京都”と周辺&“京野菜”について考える
- 第13回 京都の地誌4：大学と映画館—“いちご白書をもう一度”を、もう一度
- 第14回 京都の地誌5：山科ってどんなところ？その1
- 第15回 京都の地誌6：山科ってどんなところ？その2

授業以外での学習方法

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。また、山科という地域について意識を向ける習慣をつけるように希望します。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (10%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a10302g610

授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来説など既往の研究をまとめるだけではなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 人文地理学

担当者 谷口 知司

テーマ

人文地理学とはどんな学問なのか。何に関心を持ち、どのような方法でアプローチするのか。

獲得目標

地域、環境、空間といった地理学のキーコンセプトを具体的な素材をとおして学び、地理学を学ぶと何がわかるのか、どんなことの役に立つのかということを知る。

授業の内容

教科書を中心として授業を進めるが、適宜資料等を配布する。

内 容

- 第1回 生活と社会の地理①
 - 第2回 生活と社会の地理②
 - 第3回 生活と社会の地理③
 - 第4回 生活と社会の地理④
 - 第5回 生産と流通の地理①
 - 第6回 生産と流通の地理②
 - 第7回 生産と流通の地理③
 - 第8回 生産と流通の地理④
 - 第9回 想像と表象の地理①
 - 第10回 想像と表象の地理②
 - 第11回 想像と表象の地理③
 - 第12回 想像と表象の地理④
 - 第13回 過去に問いかける地理①
 - 第14回 過去に問いかける地理②
 - 第15回 過去に問いかける地理③およびまとめ
-

授業以外での学習方法

復習を中心に教科書、配布プリントなどを参考に積極的に取り組んでください。

教科書

人文地理学

著者： 竹中克行他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2009

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30）

授業中課題（20）

参加度（10）

小テスト（20）

授業中発表等（20）

a10302g710

小テストならびに課題提出は随時行うが、そのすべてが評価の対象となる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 外書研究e

担当者 藤井 翔太

テーマ

歴史学の基礎について英語文献の購読を通じて学ぶ

獲得目標

入門的な歴史学の英語文献(History: A Very Short Introduction)の購読を通じて、歴史学研究を進めていく上で必要な歴史学に関する知識と英語力を身につけることが目的である。

授業の内容

全員でテキストを訳しながら読み進めていきます。全訳しながら進めていくので必ず予習をして来てください。

内 容

- 第1回 Introduction: 授業の進め方などについて説明
 - 第2回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく
 - 第3回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく
 - 第4回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく
 - 第5回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく
 - 第6回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく
 - 第7回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく
 - 第8回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく * 小テスト: 確認のための小テストを行います
 - 第9回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく
 - 第10回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく
 - 第11回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく
 - 第12回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく
 - 第13回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく
 - 第14回 購読: テキストを訳しながら読み進めていく * 確認のための小テストを行います
 - 第15回 Conclusion: 授業の総括+より深いテキスト購読のための講座
-

授業以外での学習方法

必ず予習として訳を作ってきてください。

教科書

History: A Very Short Introduction

著者: John H. Arnold

出版社: Oxford University Press

出版年: 2000

ISBN: 019285352X

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史講読 I <a>

担当者 淵原 智幸

テーマ

『続日本紀』を読む

獲得目標

奈良時代史の基本史料である『続日本紀』を丁寧に読み込む。これにより古代史の基礎知識を修得するとともに、自ら問題を発見し・調べ・考え・発表する能力、つまりは研究能力の基礎を身につける。

授業の内容

各自の担当範囲について、漢和辞典や歴史事典類はもちろん、関連史料や先行研究などまで調べた上で、レジメにまとめて報告してもらう。なお毎回、史料の読み下しを報告者以外の人に行ってもらおう。この読み下しも成績評価に大きく反映される。

内 容

- 第1回 ガイダンス、分担の決定、報告例の提示と解説(1)
 - 第2回 報告例の提示と解説(2)、関連史料・関連論文の調べ方
 - 第3回 個別報告
 - 第4回 個別報告
 - 第5回 個別報告
 - 第6回 個別報告
 - 第7回 個別報告
 - 第8回 個別報告
 - 第9回 個別報告
 - 第10回 個別報告
 - 第11回 個別報告
 - 第12回 個別報告
 - 第13回 個別報告
 - 第14回 個別報告
 - 第15回 個別報告
-

授業以外での学習方法

自分の担当回か否かを問わず、毎回あらかじめ史料を読んでおくこと。読み下し方を考えるのはもちろん、できるだけ内容についても調べておいてほしい。

教科書

第1回の授業でコピーを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新日本古典文学大系『続日本紀』

著者: 青木和夫ほか編

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

成績評価

a10303a310

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

「参加度」には出席率だけでなく、担当範囲以外の読み下しや質問・意見発表といった平常点が含まれる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史講読 I

担当者 山田 徹

テーマ

鎌倉・室町幕府法令を読む

獲得目標

中世法制史料の読解力と、関連事項を調べる力をつける。

授業の内容

法制史料は、文書・記録と並んで、中世史研究の基本的な史料です。本講では、鎌倉・室町幕府の法令を読み、上記の能力の養成を目指します。また、こうした法令を読み解いていくことで、中世社会で何が問題とされ、それに対して幕府がどのような対策をとろうとしていたのかも、わかってくるはずです。

内 容

- 第1回 ガイダンス(テキストの配布と分担決定)
 - 第2回 史料講読の基礎確認
 - 第3回 史料講読の基礎確認 第一課題提出
 - 第4回 史料の講読
 - 第5回 史料の講読
 - 第6回 史料の講読
 - 第7回 史料の講読
 - 第8回 史料の講読
 - 第9回 史料の講読
 - 第10回 史料の講読
 - 第11回 史料の講読
 - 第12回 史料の講読
 - 第13回 史料の講読
 - 第14回 史料の講読
 - 第15回 史料の講読 第二課題提出 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

授業で取り上げることのできる法令は限られています。それ以外にも、中世法令の読解にチャレンジしてみてください。また、授業中に指示する研究書や論文にも、ぜひ目を通してみましょう。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

中世法制史料集 第一巻 鎌倉幕府法

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 1955

ISBN:

中世法制史料集 第二卷 室町幕府法

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 1957

ISBN:

中世政治社会思想 上

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 1972

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

第1回に決定した担当範囲に関して、読み下し・逐語訳・関連事項についてのレジユメを第3回までに提出してもらい(第一課題)、第4回以降の進行は、そのレジユメに沿った報告を順番におこなうかたちで進めていきます。成績評価は、この第一課題と報告のほか、授業の途中で提示する第二課題(第15回までに提出)によっておこないます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史講読 I <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

近世の武士に関する史料を読む

獲得目標

江戸時代の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。

授業の内容

江戸時代中後期の武士、なかでも中下級武士に関する史料(分限帳など)を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した逐語訳・事項解説の作成と報告。

内 容

- 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説
 - 第2回 テキストに関する概説
 - 第3回 史料の講読
 - 第4回 史料の講読
 - 第5回 史料の講読
 - 第6回 史料の講読
 - 第7回 史料の講読
 - 第8回 史料の講読
 - 第9回 史料の講読
 - 第10回 史料の講読
 - 第11回 史料の講読
 - 第12回 史料の講読
 - 第13回 史料の講読
 - 第14回 史料の講読
 - 第15回 まとめ ※ なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料などに慣れ親しんで欲しい。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（20）

授業中課題（25）

授業中発表等（25）

参加度（30）

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史講読 I <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

幕末から明治期にかけての史料を読む。

獲得目標

幕末から明治期にかけてのあらゆる種類の史料をスムーズに読み、内容を把握できる能力を養う。

授業の内容

幕末の京都の庶民の日記、政治家の手紙、明治期の政治家の日記(京都府知事北垣国道の日記等)などを読んでいく。授業は受講者が用意したレジュメをもとに進められる。受講生は割り当てられた史料について、文の音読ができるようにした上で、語句の意味、人名や事件名、歴史的背景などを調べ、論点をレジュメ化して提示し、発表することが求められる。史料は配布する。

内 容

- 第1回 授業の進め方、史料についてのガイダンス
 - 第2回 史料についてのガイダンス
 - 第3回 受講生による発表、質疑応答、教師からの補足説明
 - 第4回 同上
 - 第5回 同上
 - 第6回 同上
 - 第7回 同上
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 同上
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 前期のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史講読 I <a>

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史関連の文献を読む

獲得目標

中央アジア・西アジア史に関連する文献を読み、ヨーロッパ中心史観を脱したグローバルな世界史理解を試みる。

授業の内容

三木亘『世界史の第2ラウンドは可能か』を読みつつ、西アジアを中心としたグローバルな世界史理解を試みる。毎回全員で輪読し、内容から問題点を読み取る。テキストはプリントにして配布する。

内 容

- 第1回 授業の目的説明、およびテキストの説明。
 - 第2回 テキスト内容の概略の解説
 - 第3回 輪読と内容の解説 その1
 - 第4回 輪読と内容の解説 その2
 - 第5回 輪読と内容の解説 その3
 - 第6回 輪読と内容の解説 その4
 - 第7回 輪読と内容の解説 その5
 - 第8回 輪読と内容の解説 その6
 - 第9回 輪読と内容の解説 その7
 - 第10回 輪読と内容の解説 その8
 - 第11回 輪読と内容の解説 その9
 - 第12回 輪読と内容の解説 その10
 - 第13回 輪読と内容の解説 その11
 - 第14回 輪読と内容の解説 その12
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

世界史の第二ラウンドは可能か

著者： 三木 亘

出版社： 平凡社

出版年： 1992

ISBN：

参考書

成績評価

試験（0%）

授業中課題（0%）

参加度（40%）

小テスト（0%）

授業中発表等（60%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史講読 I

担当者 松浦 京子

テーマ

英語文献の精読と内容理解

獲得目標

英語文献史料の正確な翻訳力と、それを史料として用いる力を身につけることをめざす

授業の内容

西洋史研究において必携である英語文献の読解能力を身につけ向上させるために、比較的平易な英語研究書をゼミ生で輪読し、内容についての質疑応答を行う。テキストは、19世紀イギリスで横行し後に社会問題となった児童労働の実態と、その解消のために尽力した人物ならびに運動を概観したElizabeth Longmate, *Children at Work 1830-1885, (Then and There Series)*, U.K., 1981である。平易な叙述で本文全体83頁と短いながら、同時代史料と図版が多用されているので、初めて本格的英語研究文献に触れる者にも、取組みやすいテキストと言えよう。ゼミ生で各章ごとに分担して全文和訳を行う。担当者は、報告に際して、全訳文を載せたレジユメを用意し、なおかつ、邦語文献にあたることで史料内容の背景や関連事象の理解に努め、その成果を報告すること。また、報告後に講読箇所の内容について質疑応答を行うので、担当者以外のゼミ生もテキストの熟読に努めること。なお、全訳担当者は、報告より前に翻訳文を担当教員に提出し、チェックを受けること。

内 容

- 第1回 テキストの紹介、担当箇所の決定
- 第2回 背景としての奴隷制貿易反対運動と博愛主義運動の説明と、冒頭数頁の全訳と特記事項の紹介
- 第3回 学生報告①と質疑応答
- 第4回 学生報告②と質疑応答
- 第5回 学生報告③と質疑応答
- 第6回 学生報告④と質疑応答
- 第7回 学生報告⑤と質疑応答
- 第8回 学生報告⑥と質疑応答
- 第9回 学生報告⑦と質疑応答
- 第10回 学生報告⑧と質疑応答
- 第11回 学生報告⑨と質疑応答
- 第12回 学生報告⑩と質疑応答
- 第13回 学生報告⑪と質疑応答
- 第14回 学生報告⑫と質疑応答
- 第15回 内容把握確認のための総括と小テスト

授業以外での学習方法

関連文献の収集と精読

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (33)

小テスト (34)

授業中発表等 (33)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史講読Ⅰ

担当者 久保田 裕次

テーマ

近現代日本の政治外交に関する基礎史料の読解

獲得目標

歴史を研究する上で、史料の読解能力を身につけることは不可欠です。この授業では、史料の「読み」方を習得し、論文を作成するための基礎力の養成を目指します。

授業の内容

課題史料の輪読や時代背景などに関する報告。課題史料はそのつど配布します。主に日清戦後から日中国交正常化までの外交文書を取り上げる予定です。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、近現代史料の概要説明など)
 - 第2回 近代の政治外交に関する概説
 - 第3回 史料の読解と報告①
 - 第4回 史料の読解と報告②
 - 第5回 史料の読解と報告③
 - 第6回 史料の読解と報告④
 - 第7回 史料の読解と報告⑤
 - 第8回 史料の読解と報告⑥
 - 第9回 史料の読解と報告⑦
 - 第10回 現代の政治外交に関する概説
 - 第11回 史料の読解と報告⑧
 - 第12回 史料の読解と報告⑨
 - 第13回 史料の読解と報告⑩
 - 第14回 史料の読解と報告⑪
 - 第15回 史料の読解と報告⑫
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

東アジア国際政治史

著者： 川島真・服部龍二編

出版社： 名古屋大学出版会

出版年： 2007

ISBN：

「国際化」の中の帝国日本

著者： 有馬学

出版社： 中央公論新社

出版年： 1999

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (20)

積極的な議論を期待しています

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ <a>

担当者 増淵 徹

テーマ

卒業研究の展開に向けて

獲得目標

自分の関心を明確化するとともに、その分野に関わる卒業論文作成を目指した個人研究を進展させる。同時に、テーマの絞り方や研究史の整理・評価、史料の読解やそこからの問題点の引き出し方など、随時授業における各人の報告をもとに討論を行い、より広い視点と客観性の維持に配慮できるようにする。

授業の内容

まずは研究論文を追跡し、研究の思考方法、論文の作成方法を学ぶ。その後、参加者各人が関心あるテーマに沿った史料を提出し、その史料の理解に関する研究史や問題点を報告することを通じて、自身の関心の方向性を凝縮させていく。なお、古代史関係の遺産を見学する学外学習や、必要に応じて、卒業研究の参考になるように、学外授業や学外講師を招いての講演を行うことがある。

内 容

- 第1回 個人研究の進め方に関する概括的指導
 - 第2回 研究論文演習(1)
 - 第3回 研究論文演習(2)
 - 第4回 歴史遺産見学(学外授業)
 - 第5回 研究論文演習(3)
 - 第6回 研究論文演習(4)
 - 第7回 研究論文演習(5)
 - 第8回 個別発表(1)
 - 第9回 個別発表(2)
 - 第10回 個別発表(3)
 - 第11回 個別発表(4)
 - 第12回 個別発表(5)
 - 第13回 個別発表(6)
 - 第14回 個別発表(7)
 - 第15回 後期に向けての卒業研究に関する概括的指導(まとめ)
-

授業以外での学習方法

図書館や様々な情報媒体を通して、論文と史料の博搜に努めること

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ

担当者 細川 涼一

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を完成させる。日本史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4年生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導を行います。

授業の内容

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また、必要に応じて学外授業を行う。

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
 - 第2回 個別発表(1)
 - 第3回 個別発表(2)
 - 第4回 個別発表(3)
 - 第5回 個別発表(4)
 - 第6回 個別発表(5)
 - 第7回 個別発表(6)
 - 第8回 個別発表(7)
 - 第9回 個別発表(8)
 - 第10回 個別発表(9)
 - 第11回 個別発表(10)
 - 第12回 個別発表(11)
 - 第13回 個別発表(12)
 - 第14回 個別発表(13)
 - 第15回 個別発表(14)
-

授業以外での学習方法

事前に配られた史料・論文を読んでおくこと。史料・論文はプリントで配布する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

日本近世史研究の諸問題

獲得目標

卒業論文作成に向けて自己のテーマに基づく研究を深める。

授業の内容

各自が各自の研究テーマにもとづく報告を行い、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う。前期の最後には原稿用紙換算で25枚以上のレポートと、卒論に関わる史料(資料)を集めたデータベースを作成してもらおう。

内 容

- 第1回 ガイダンスなど
 - 第2回 ガイダンスなど
 - 第3回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第4回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第5回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第6回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第7回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第8回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第9回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第10回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第11回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第12回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第13回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第14回 個別報告(時間があれば、史料を読む)
 - 第15回 まとめ、レポート作成に関するアドバイス ※ なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

授業中に指示する。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a103040113

試験 ()
授業中課題 (45)
参加度 (15)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文作成に向けて自己のテーマにもとづく研究を深化させる。

授業の内容

各自のテーマにもとづく個別報告を行い、討論を行う。

内 容

- 第1回 4回生前期のゼミ運営方法討議
 - 第2回 昨年度卒業論文の紹介
 - 第3回 卒論の内容にかかわる個別報告(1)
 - 第4回 卒論の内容にかかわる個別報告(2)
 - 第5回 卒論の内容にかかわる個別報告(3)
 - 第6回 卒論の内容にかかわる個別報告(4)
 - 第7回 卒論の内容にかかわる個別報告(5)
 - 第8回 卒論の内容にかかわる個別報告(6)
 - 第9回 卒論の内容にかかわる個別報告(7)
 - 第10回 卒論の内容にかかわる個別報告(8)
 - 第11回 卒論の内容にかかわる個別報告(9)
 - 第12回 卒論の内容にかかわる個別報告(10)
 - 第13回 卒論の内容にかかわる個別報告(11)
 - 第14回 卒論の内容にかかわる個別報告(12)
 - 第15回 4回生前期のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ <Z>

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本現代史の諸問題

獲得目標

この授業では、卒業論文作成に向けて、各自のテーマに関して研究を進めていきます。発表と質疑応答を通じ、各自のテーマを深めて具体化していくことを目的とします。

授業の内容

3年で決めた各自のテーマに従い、発表を行います。発表に対して質問をすることも重要です。発表と質疑応答を通じて、卒業論文の内容を高めていきましょう。

内 容

- 第1回 卒業論文の説明(1)
 - 第2回 卒業論文の説明(2)
 - 第3回 個人発表(1)
 - 第4回 個人発表(2)
 - 第5回 個人発表(3)
 - 第6回 個人発表(4)
 - 第7回 個人発表(5)
 - 第8回 個人発表(6)
 - 第9回 個人発表(7)
 - 第10回 個人発表(8)
 - 第11回 個人発表(9)
 - 第12回 個人発表(10)
 - 第13回 これからの計画(1)
 - 第14回 これからの計画(2)
 - 第15回 これからの計画(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ <a>

担当者 王 衛明

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を完成させる

授業の内容

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。
○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
 - 第2回 個別発表(1)
 - 第3回 個別発表(2)
 - 第4回 個別発表(3)
 - 第5回 個別発表(4)
 - 第6回 個別発表(5)
 - 第7回 個別発表(6)
 - 第8回 個別発表(7)
 - 第9回 個別発表(8)
 - 第10回 個別発表(9)
 - 第11回 個別発表(10)
 - 第12回 個別発表(11)
 - 第13回 個別発表(12)
 - 第14回 個別発表(13)
 - 第15回 個別発表(14)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ

担当者 小野 浩

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を完成させる

授業の内容

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。
○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
 - 第2回 個別発表(1)
 - 第3回 個別発表(2)
 - 第4回 個別発表(3)
 - 第5回 個別発表(4)
 - 第6回 個別発表(5)
 - 第7回 個別発表(6)
 - 第8回 個別発表(7)
 - 第9回 個別発表(8)
 - 第10回 個別発表(9)
 - 第11回 個別発表(10)
 - 第12回 個別発表(11)
 - 第13回 個別発表(12)
 - 第14回 個別発表(13)
 - 第15回 個別発表(14)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ <c>

担当者 松浦 京子

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文執筆のために必要な史料文献の収集の完了と問題考察に努めること

授業の内容

これまでの学習の集大成としての卒業論文執筆に向けて、そのための研究発表・討論・指導などを行う。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行なう。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する。また、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 全体指導(卒業研究の進め方)
 - 第2回 全体指導と個別面談①
 - 第3回 全体指導と個別面談②
 - 第4回 全体指導と個別面談③
 - 第5回 全体指導と個別面談④
 - 第6回 学生報告①と討論・講評
 - 第7回 学生報告②と討論・講評
 - 第8回 学生報告③と討論・講評
 - 第9回 学生報告④と討論・講評
 - 第10回 学生報告⑤と討論・講評
 - 第11回 学生報告⑥と討論・講評
 - 第12回 学生報告⑦と討論・講評
 - 第13回 学生報告⑧と討論・講評
 - 第14回 学生報告⑨と討論・講評
 - 第15回 学生報告⑩と討論・講評、夏休みに向けての心構え
-

授業以外での学習方法

参考文献の収集と精読、情報整理

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅲ <a>

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本現代史の諸問題

獲得目標

この授業では、卒業論文作成に向けて、各自のテーマに関して研究を進めていきます。発表と質疑応答を通じ、各自のテーマを深めて具体化していくことを目的とします。

授業の内容

3年で決めた各自のテーマに従い、発表を行います。発表に対して質問をすることも重要です。発表と質疑応答を通じて、卒業論文の内容を高めていきましょう。

内 容

- 第1回 卒業論文の説明(1)
 - 第2回 卒業論文の説明(2)
 - 第3回 個人発表(1)
 - 第4回 個人発表(2)
 - 第5回 個人発表(3)
 - 第6回 個人発表(4)
 - 第7回 個人発表(5)
 - 第8回 個人発表(6)
 - 第9回 個人発表(7)
 - 第10回 個人発表(8)
 - 第11回 個人発表(9)
 - 第12回 個人発表(10)
 - 第13回 これからの計画(1)
 - 第14回 これからの計画(2)
 - 第15回 これからの計画(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅲ

担当者 南 直人

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆するが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行う。

授業の内容

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていく。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外授業・学外講師を招いての講演等を行うことがある。

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
 - 第2回 個別発表(1)
 - 第3回 個別発表(2)
 - 第4回 個別発表(3)
 - 第5回 個別発表(4)
 - 第6回 個別発表(5)
 - 第7回 個別発表(6)
 - 第8回 個別発表(7)
 - 第9回 個別発表(8)
 - 第10回 個別発表(9)
 - 第11回 個別発表(10)
 - 第12回 個別発表(11)
 - 第13回 個別発表(12)
 - 第14回 個別発表(13)
 - 第15回 個別発表(14)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 考古学概説〈Z〉

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

獲得目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかにより形成され、保存されてきたのかについて、演習をととして学びとる。

授業の内容

多様な演習により、文化財に対すべき姿勢を習得する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 演習事前指導
 - 第3回 歴史遺産学演習①
 - 第4回 歴史遺産学演習②
 - 第5回 歴史遺産学演習③
 - 第6回 歴史遺産学演習④
 - 第7回 演習事後学習
 - 第8回 ガイダンス
 - 第9回 演習事前指導
 - 第10回 歴史遺産学演習①
 - 第11回 歴史遺産学演習②
 - 第12回 歴史遺産学演習③
 - 第13回 歴史遺産学演習④
 - 第14回 演習事後学習
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財特講Ⅱ(中近世文化史)〈Z〉

担当者 松本 裕

テーマ

西洋の都市建築史を社会的・文化的背景との関連から人間の諸活動の痕跡として捉え直す

獲得目標

西洋の事例を中心に、各時代で人々がどのような問題に直面し、いかなる都市的・建築的解決を模索してきたのか、その思考と試行のプロセスに着目して論じる。そうすることで、今日的課題にアプローチする際、過去の事例の中に多くの有効な知見を得ることができると期待する。到達目標：(1)西洋建築の起源から現代までの意匠、構造、技術を理解する、(2)西洋建築の設計手法と空間の特質を理解する、(3)西洋における建築と都市の関わりと成り立ちを理解する、(4)各種演習や卒業研究に取り組む際に、多くの示唆を与えてくれる参照必須事例についての基礎知識を身につける。

授業の内容

最新の都市・建築事情も紹介しつつ、履修者の身近な現代から過去へと時代をさかのぼる。独自に作成した画像・図版・レジュメ等の資料を用いて、西洋都市建築史の基本事項を理解できるよう講義を行う。

内 容

- 第1回 【序、現代-都市・建築概観1】 講義の進め方、評価(確認レポート、試験)について。「都市組織」という考え方について。現代都市・建築の様々な試みについて。
- 第2回 【現代-都市・建築概観2】 近代都市建築の残した課題、今日的課題に対する現代都市・建築の様々な試みについて。
- 第3回 【近代建築と都市計画の展開】 様式から空間への変遷を理解する：均質空間と近代建築、国際化の過程。
- 第4回 【近代建築・都市計画の萌芽】 新しい素材と近代建築の生成、各地のアールヌーヴォー等の思潮と特徴を把握する。
- 第5回 【産業革命・工業化と都市・建築】 高層建築の歴史について。
- 第6回 【都市大改造と理想都市計画】 オスマンのパリ大改造、田園都市、工業都市の思潮と特徴を把握する。
- 第7回 【様式リヴァイヴァル・革命期の建築と都市】 古典建築以降幻視建築を含む各様式の概要と基本類型・差異を把握する。
- 第8回 【古典主義・バロック建築と都市】 ヨーロッパ各地のバロック建築・ロココ建築の特徴、ルネサンス建築ならびにマニエリスム建築との差異を把握する。
- 第9回 【ルネサンス・マニエリスム期の建築と都市】 神から人間のための建築・都市へと移行するルネサンス期の社会的・文化的文脈と空間構成の特徴。マニエリスム期の特徴、ならびにそれらとバロック期建築との差異を把握する。
- 第10回 【ゴシック建築と中世都市】 光の建築・ゴシック大聖堂の構造的特徴を中世都市の成り立ちと合わせて理解する。また、ゴシック建築の展開と地域的差異を把握する。
- 第11回 【初期キリスト教、ビザンチン、ロマネスク建築と中世都市、イスラム都市建築】 中世都市、初期キリスト教、ビザンチン建築、ロマネスク建築の成立過程と事例を把握する。また、イスラム都市建築を概観しその差異を把握する。
- 第12回 【古代ローマの建築と都市】 ローマ都市の形成、ローマ古典建築の特徴を理解する。
- 第13回 【古代ギリシャの建築と都市】 ギリシャ建築思潮とその実践(地中海都市含む)の関係性を理解
- 第14回 【西洋都市・建築史総括1】 原始的空間、古代から現代までの大きな流れをダイジェストとして通覧し(過去から現代へ)、今日的課題に対する現代都市・建築の様々な試みの意義を再確認する。〈前編〉先史時代～様式リヴァイヴァル期。
- 第15回 【西洋都市・建築史総括2】 同上 〈後編〉産業革命期、近代化～現代

授業以外での学習方法

西洋都市・建築について学ぶことで、日本の都市・建築をより相対的に把握できるようになります。逆もまた然りです。まずは身近な日本の事例、特に関西の古建築・歴史的町並みを積極的に探訪してください。講義で紹介する重要事例について、夏休みなどに、実際に現地で現物に接しフィールドワークを行う努力をしてください。映画や文学などイメージとしてどのように西洋の都市・建築が扱われているか注意を払ってください。

教科書

テキスト建築意匠

著者：平尾和洋＋末包伸吾編集、松本裕、他著

出版社：学芸出版社

出版年：2006

ISBN：

参考書

近代建築史図集

著者： 日本建築学会編

出版社： 彰国社

出版年： 1981

ISBN：

西洋建築史図集

著者： 日本建築学会編

出版社： 彰国社

出版年： 1976

ISBN：

図説世界建築史』(全16巻)

著者：

出版社： 本の友社

出版年：

ISBN：

建築の歴史～古代から現代まで

著者：

出版社： KONEMANN出版

出版年： 2001

ISBN：

建築の歴史～20世紀～

著者：

出版社： KONEMANN出版

出版年： 2001

ISBN：

卒業設計コンセプトメイキング

著者： 松本 裕

出版社： 学芸出版社

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（60%）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（40%（理解度把握小レポート））

筆記試験(60点):手書きノートと『テキスト建築意匠』のみ「持ち込み可」にて筆記試験を実施する。参加度(40点):出席を重視します。毎回、出席確認を兼ねた簡単な小レポート(講義内容に関する履修者各自の見解+講義への感想・要望+質問など)を提出していただきます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財特講Ⅳ(染織)〈Z〉

担当者 中村 千枝子

テーマ

日本の染織文化の変遷

獲得目標

人が生活のなかで基本的に必要とされる条件を指して『衣・食・住』という言葉がある。その筆頭に挙げられているように『衣』は人々に生活に最も身近で重要な関係を持ってきた。古くから「編む」「織る」「染める」行為は繰り返されるなかで、時代と共に変化をとり高級化してきた。各時代の変化を牽引していたものとは何か？ 歴史的な背景とともに解説する。

授業の内容

講義内容に沿って素材や染織裂など資料として提示する。パワーポイントからの画像やビデオを見るなど、視覚的に理解できるように進める。染織を理解するために基本的な知識もおさえない。

内 容

- 第1回 概論 染織とは
 - 第2回 素材の解説
 - 第3回 古墳時代の染織
 - 第4回 上代の染織
 - 第5回 上代の染織
 - 第6回 正倉院の染織
 - 第7回 正倉院の染織
 - 第8回 正倉院の染織
 - 第9回 平安時代の染織
 - 第10回 名物裂
 - 第11回 能装束
 - 第12回 小袖
 - 第13回 小袖
 - 第14回 小袖
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

博物館、美術館、社寺などで伝世されてきた染織品を見る。伝統工芸や伝統芸能に触れるなど本物に触れ、鑑賞の眼を養う。

教科書

参考書

織りと染めの歴史

著者： 河上繁樹・藤井健三共著

出版社： 昭和堂

出版年： 1999

ISBN：

染と織を訪ねる

著者： 長崎巖

出版社： 新潮社

出版年：

ISBN：

日本の色辞典

著者： 吉岡幸雄

出版社： 紫紅社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ 20 ）

参加度（ 40 ）

小テスト（ 40 ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅲ <a>

担当者 巽 淳一郎

テーマ

卒業論文の作成。

獲得目標

各自の研究テーマに関する先行研究を踏まえ、緻密な資料検討をおこない、独創的な見解を発表する。

授業の内容

3回生時に集めた先行研究論文を読み、理解した内容、問題点を分かり易く発表し、他の学生から意見を聞く。

内 容

- 第1回 ゼミ方式の紹介、発表の日程の策定。各自研究計画の策定。
 - 第2回 学外授業。
 - 第3回 ゼミ発表：先行研究論文の講読と評価。
 - 第4回 ゼミ発表：先行研究論文の講読と評価。
 - 第5回 ゼミ発表：先行研究論文の講読と評価。
 - 第6回 ゼミ発表：先行研究論文の講読と評価。
 - 第7回 ゼミ発表：先行研究論文の講読と評価。
 - 第8回 ゼミ発表：先行研究論文の講読と評価。
 - 第9回 ゼミ発表：先行研究論文の講読と評価。
 - 第10回 ゼミ発表：中間発表資料の作成と検討。
 - 第11回 ゼミ発表：中間発表資料の作成と検討。
 - 第12回 ゼミ発表：中間発表資料の作成と検討。
 - 第13回 ゼミ発表：中間発表資料の作成と検討。
 - 第14回 ゼミ発表：中間発表資料の作成と検討。
 - 第15回 ゼミ発表：中間発表資料の作成と検討。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a104040110

発表内容を判断材料とし、参加度を勘案して成績評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅲ

担当者 有坂 道子

テーマ

卒業論文作成にむけて

獲得目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○
テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各
自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について
指導する。○論文作成にむけての個別指導

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 文化財学演習(1)
 - 第3回 文化財学演習(2)
 - 第4回 文化財学演習(3)
 - 第5回 文化財学演習(4)
 - 第6回 学外授業
 - 第7回 文化財学演習(5)
 - 第8回 文化財学演習(6)
 - 第9回 文化財学演習(7)
 - 第10回 文化財学演習(8)
 - 第11回 学外授業
 - 第12回 文化財学演習(9)
 - 第13回 文化財学演習(10)
 - 第14回 文化財学演習(11)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (100)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅲ <C>

担当者 小林 裕子

テーマ

卒業論文執筆準備

獲得目標

各々研究テーマを検討、先行研究をまとめたうえで論文構成を決定する。

授業の内容

まず受講者各々の研究テーマを発表し、それについての討論を実施する。つぎにテーマに沿った先行研究を整理し、論文構成を練ったうえで再度発表して執筆方針を確定する。なお、必要に応じて外部講師による研究発表及び学外授業を実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 図書館レファレンス
 - 第3回 研究テーマ発表①
 - 第4回 研究テーマ発表②
 - 第5回 研究テーマ発表③
 - 第6回 研究テーマ発表④
 - 第7回 研究テーマ発表⑤
 - 第8回 外部講師による研究発表
 - 第9回 論文執筆方針及び構成の発表①
 - 第10回 論文執筆方針及び構成の発表②
 - 第11回 論文執筆方針及び構成の発表③
 - 第12回 論文執筆方針及び構成の発表④
 - 第13回 論文執筆方針及び構成の発表⑤
 - 第14回 論文執筆方針及び構成の発表⑥
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

a104040113

実物をよく観察し、先行研究を理解することこそ、独創性・新規性あふれる論文を生む。したがって精力的に資料収集につとめてほしい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅲ <d>

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

卒業論文の作成

獲得目標

各自論文構成を検討し、研究計画を策定。研究史の整理し、自己の研究のオリジナリティーを明確にさせる。

授業の内容

研究計画の整備。発表、それにもとづく質疑応答と討議、評価。まとめと課題の抽出。

内 容

- 第1回 研究発表
 - 第2回 研究発表
 - 第3回 学外授業
 - 第4回 研究発表
 - 第5回 研究発表
 - 第6回 研究発表
 - 第7回 研究発表
 - 第8回 研究内容の整備と確認
 - 第9回 図・文献等整備
 - 第10回 図・文献等整備
 - 第11回 図・文献等整備
 - 第12回 論文補足修正・加筆
 - 第13回 論文補足修正・加筆
 - 第14回 研究修正案発表
 - 第15回 研究修正案発表
-

授業以外での学習方法

資料収集と観察と分析。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

研究発表内容、研究進展度、オリジナリティーを基に評価。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本美術史 I**

担当者 村田 隆志

テーマ

日本美術の特質の認識と、各時代の特徴についての体系的な理解

獲得目標

日本では各時代、各分野それぞれに多くの優れた美術作品が生み出されてきた。幾度もの自然災害や戦乱にも関わらず、現代にも多数の作品が残されている。教員の紹介する作品の画像を通じて、その魅力、および特質を認識し、時代が下るにつれて美術の表現はどのように変化していったのかを体系的に理解すること、そして課題を通じてその魅力について言葉で表現する能力を養うことを目的とする。

授業の内容

本講義では、各時代、各分野の優れた作品について画像を提示しながら紹介し、理解を深める。課題では特定の作品について、作品解説の執筆を求め、ディスクリプションの能力についても強化を図る。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 縄文・弥生時代の美術
 - 第3回 飛鳥・白鳳時代の美術
 - 第4回 奈良時代の美術
 - 第5回 平安時代の美術
 - 第6回 鎌倉時代の美術
 - 第7回 室町時代の美術
 - 第8回 桃山時代の美術
 - 第9回 江戸時代の美術1
 - 第10回 江戸時代の美術2
 - 第11回 実地見学
 - 第12回 明治・大正時代の美術
 - 第13回 昭和期の美術
 - 第14回 現代の美術
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

関西では、本講義で紹介する各種の作品に博物館・美術館・寺社などで実際に接することが比較的容易である。積極的な鑑賞機会を持つこと。本科目の学びに益する展覧会が開催される場合、学外授業として実地見学を行う場合がある。

教科書

参考書

カラー版 日本美術史

著者： 辻惟雄監修

出版社： 美術出版社

出版年： 2002

ISBN： 4568400651

日本美術の歴史

著者： 辻惟雄

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2005

ISBN： 4130820869

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **東洋美術史 I <Z>**

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史の全体像を体系的に解説する

獲得目標

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。オリエント(東洋)という芸術史上の概念は、インド以東の中国、朝鮮、日本及び東南アジア諸国の造形美術を指す。この授業では、美術史通史の性格を持ち、中国古代文明を中心に、歴代王朝に生み出された代表的な絵画、彫刻、工芸、建築等を直接的考察対象にし、美術史学の学問体系から、これらの様々な様式特徴、表現主題、重要作家の事跡と歴史地位等をイメージ資料で通覧し、また中国において近年最新の考古発掘資料とその研究現状の紹介を加えながら、複雑で多様な美的歴史展開の輪郭を講じていきたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 概説・中国美術史発展の特徴と研究方法
- 第2回 史前・原始社会の美術—文明の形態
- 第3回 夏文明に関する諸説の検討
- 第4回 二里头遺跡の発掘及び青銅文明の出現
- 第5回 商周の美術—青銅器の出現と文飾の意味
- 第6回 春秋・戦国時代の美術—帛画・青銅工芸品、漆器(美術副葬品の出現)
- 第7回 秦代の美術—始皇帝陵と兵馬俑
- 第8回 秦代美術の問題点—その源流を考える
- 第9回 漢代の美術—死後世界の憧憬とその表現
- 第10回 墓室壁画及び画像石、画像磚に見られる美術資料
- 第11回 東アジア地域における秦漢美術の意義
- 第12回 魏晋南北朝時代—職業仏教画家と士大夫画家及び墓室壁画の諸問題。
- 第13回 中国古代の絵画史論—謝赫の「六法」から張彦遠の『歴代名画記』まで
- 第14回 魏晋南北朝時代の代表画家とその史料上の問題
- 第15回 内容総括

授業以外での学習方法

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **東洋美術史**

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史の全体像を体系的に解説する

獲得目標

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。オリエント(東洋)という芸術史上の概念は、インド以東の中国、朝鮮、日本及び東南アジア諸国の造形美術を指す。この授業では、美術史通史の性格を持ち、中国古代文明を中心に、歴代王朝に生み出された代表的な絵画、彫刻、工芸、建築等を直接的考察対象にし、美術史学の学問体系から、これらの様々な様式特徴、表現主題、重要作家の事跡と歴史地位等をイメージ資料で通覧し、また中国において近年最新の考古発掘資料とその研究現状の紹介を加えながら、複雑で多様な美的歴史展開の輪郭を講じていきたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 概説・中国美術史発展の特徴と研究方法
- 第2回 史前・原始社会の美術—文明の形態
- 第3回 夏文明に関する諸説の検討
- 第4回 二里头遺跡の発掘及び青銅文明の出現
- 第5回 商周の美術—青銅器の出現と文飾の意味
- 第6回 春秋・戦国時代の美術—帛画・青銅工芸品、漆器(美術副葬品の出現)
- 第7回 秦代の美術—始皇帝陵と兵馬俑
- 第8回 秦代美術の問題点—その源流を考える
- 第9回 漢代の美術—死後世界の憧憬とその表現
- 第10回 墓室壁画及び画像石、画像磚に見られる美術資料
- 第11回 東アジア地域における秦漢美術の意義
- 第12回 魏晋南北朝時代—職業仏教画家と士大夫画家及び墓室壁画の諸問題。
- 第13回 中国古代の絵画史論—謝赫の「六法」から張彦遠の『歴代名画記』まで
- 第14回 魏晋南北朝時代の代表画家とその史料上の問題
- 第15回 内容総括

授業以外での学習方法

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産学実習Ⅲ <a>**

担当者 一瀬 和夫

テーマ

組織、群としての発掘調査成果を記録する考古学研究の基礎となる実践方法を知る

獲得目標

今日、発掘されたものはどのような手続きで処置されているのかを知り、フィジカルなチームプレーで行うことの多い調査の流れと
いうものを理解して、研究へとつなげていくことを目的とする。また、その研究成果の活用も考える。

授業の内容

作業室、野外、PC教室での作業。資料活用法の見学

内 容

- 第1回 考古遺物のスケッチと観察
- 第2回 研究資料活用開発の技術—チームワーク・ワークショップ①
- 第3回 研究資料活用開発の技術—チームワーク・ワークショップ②
- 第4回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図①
- 第5回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図②
- 第6回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図③
- 第7回 野外での測量①
- 第8回 野外での測量②
- 第9回 野外での測量③
- 第10回 Photoshop・Illustratorによる遺跡分布図の作成
- 第11回 Photoshop・Illustratorによる調査区設定図の作成
- 第12回 Photoshop・Illustratorによる土層断面図の作成
- 第13回 Photoshop・Illustratorによる遺構平面図の作成
- 第14回 Photoshop・Illustratorによる出土状況図の作成
- 第15回 考古資料の展示の見学(学外授業)

授業以外での学習方法

Photoshop、Illustratorのコンピュータ・ソフトに触れてみる。

教科書

PCによる教材提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

埋蔵文化財発掘調査の手びき

著者: 文化庁文化財保護部

出版社: 国土地理協会

出版年: 1966

ISBN:

成績評価

a10413a310

試験 (0)
授業中課題 (80)
参加度 (20)

小テスト (0)
授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産学実習Ⅲ **

担当者 登谷 伸宏

テーマ

歴史資料(歴史的建造物・歴史都市・遺跡など)の評価方法を学ぶ

獲得目標

歴史資料(歴史的建造物・歴史都市・遺跡など)の評価、および取り扱いに関する専門的な知識を習得する。

授業の内容

歴史遺産学研究を進めるにあたって必要となる歴史資料のうち、歴史的建造物、および古文書を取りあげる。その上で、歴史的建造物については、①図面の作成、②文化財としての評価方法、③報告書の作成方法に関する技術を身に付ける。一方、古文書については、①くずし字の解説・読解、②取り扱い方法に関する技術を習得する。なお、各回の授業内容は変更する可能性がある。歴史的建造物に関する実習は学外で行うことがある。さらに、夏期には宿泊をともなう実習旅行を実施する予定である。

内 容

- 第1回 ガイダンス 歴史資料の評価、および取り扱いについて
 - 第2回 歴史的建造物の評価に関する実習①
 - 第3回 歴史的建造物の評価に関する実習②
 - 第4回 歴史的建造物の評価に関する実習③
 - 第5回 歴史的建造物の評価に関する実習④
 - 第6回 歴史的建造物の評価に関する実習⑤
 - 第7回 歴史的建造物の図面作成に関する実習⑥
 - 第8回 歴史的建造物の図面作成に関する実習⑦
 - 第9回 歴史的建造物の図面作成に関する実習⑧
 - 第10回 古文書の評価・取り扱いに関する実習①
 - 第11回 古文書の評価・取り扱いに関する実習②
 - 第12回 古文書の評価・取り扱いに関する実習③
 - 第13回 古文書の評価・取り扱いに関する実習④
 - 第14回 古文書の評価・取り扱いに関する実習⑤
 - 第15回 古文書の評価・取り扱いに関する実習⑥
-

授業以外での学習方法

歴史的建造物や伝統的町並みの見学を自主的に行うこと。博物館・美術館などで古文書に触れる機会をより多くつくること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅲ <c>

担当者 小林 裕子

テーマ

美術作品の形状記述や図面作成、美術工芸作品(絵画・工芸品等)の調書作成方法や取扱など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。

獲得目標

学芸員や研究者は直接実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。なお、必要に応じて外部講師を招聘する。

授業の内容

内 容

- 第4回 取扱実習(箱物②)
 - 第5回 取扱実習(絵画①)
 - 第6回 取扱実習(絵画②)
 - 第7回 取扱実習(絵画③)
 - 第8回 取扱実習(絵画④)
 - 第9回 取扱実習(染織①)
 - 第10回 取扱実習(染織②)
 - 第11回 取扱実習(金工①)
 - 第12回 取扱実習(金工②)
 - 第13回 宿泊調査実習のための事前学習
 - 第14回 宿泊調査実習のための事前学習
 - 第15回 まとめ なお、必要に応じて学外授業をおこなうことがある。
 - 第1回 ガイダンス
 - 第2回 美術工芸作品の種類と取扱説明
 - 第3回 取扱実習(箱物①)
-

授業以外での学習方法

奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅲ <d>

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

獲得目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の内容

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方の実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 実習(1)古文書の扱い方
 - 第3回 実習(2)実習で扱う古文書について
 - 第4回 実習(3)内海家文書の整理①
 - 第5回 実習(4)内海家文書の整理②
 - 第6回 学外授業
 - 第7回 実習(5)内海家文書の解読・初級①
 - 第8回 実習(6)内海家文書の解読・初級②
 - 第9回 実習(7)内海家文書の解読・初級③
 - 第10回 実習(8)内海家文書の解読・初級④
 - 第11回 学外授業
 - 第12回 実習(9)内海家文書の解読・初級⑤
 - 第13回 実習(10)内海家文書の解読・初級⑥
 - 第14回 実習(11)内海家文書の解読・初級⑦
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN: 9784490103335

成績評価

a10413a314

試験 (0)
授業中課題 (0)
参加度 (70)
出席を重視する

小テスト (0)
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築遺産研究 I**

担当者 松本 裕

テーマ

西洋の都市建築史を社会的・文化的背景との関連から人間の諸活動の痕跡として捉え直す

獲得目標

西洋の事例を中心に、各時代で人々がどのような問題に直面し、いかなる都市的・建築的解決を模索してきたのか、その思考と試行のプロセスに着目して論じる。そうすることで、今日的課題にアプローチする際、過去の事例の中に多くの有効な知見を得ることができると期待する。到達目標：(1)西洋建築の起源から現代までの意匠、構造、技術を理解する、(2)西洋建築の設計手法と空間の特質を理解する、(3)西洋における建築と都市の関わりと成り立ちを理解する、(4)各種演習や卒業研究に取り組む際に、多くの示唆を与えてくれる参照必須事例についての基礎知識を身につける。

授業の内容

最新の都市・建築事情も紹介しつつ、履修者の身近な現代から過去へと時代をさかのぼる。独自に作成した画像・図版・レジュメ等の資料を用いて、西洋都市建築史の基本事項を理解できるよう講義を行う。

内 容

- 第1回 【序、現代-都市・建築概観1】 講義の進め方、評価(確認レポート、試験)について。「都市組織」という考え方について。現代都市・建築の様々な試みについて。
- 第2回 【現代-都市・建築概観2】 近代都市建築の残した課題、今日的課題に対する現代都市・建築の様々な試みについて。
- 第3回 【近代建築と都市計画の展開】 様式から空間への変遷を理解する：均質空間と近代建築、国際化の過程。
- 第4回 【近代建築・都市計画の萌芽】 新しい素材と近代建築の生成、各地のアールヌーヴォー等の思潮と特徴を把握する。
- 第5回 【産業革命・工業化と都市・建築】 高層建築の歴史について。
- 第6回 【都市大改造と理想都市計画】 オスマンのパリ大改造、田園都市、工業都市の思潮と特徴を把握する。
- 第7回 【様式リヴァイヴァル・革命期の建築と都市】 古典建築以降幻視建築を含む各様式の概要と基本類型・差異を把握する。
- 第8回 【古典主義・バロック建築と都市】 ヨーロッパ各地のバロック建築・ロココ建築の特徴、ルネサンス建築ならびにマニエリスム建築との差異を把握する。
- 第9回 【ルネサンス・マニエリスム期の建築と都市】 神から人間のための建築・都市へと移行するルネサンス期の社会的・文化的文脈と空間構成の特徴。マニエリスム期の特徴、ならびにそれらとバロック期建築との差異を把握する。
- 第10回 【ゴシック建築と中世都市】 光の建築・ゴシック大聖堂の構造的特徴を中世都市の成り立ちと合わせて理解する。また、ゴシック建築の展開と地域的差異を把握する。
- 第11回 【初期キリスト教、ビザンチン、ロマネスク建築と中世都市、イスラム都市建築】 中世都市、初期キリスト教、ビザンチン建築、ロマネスク建築の成立過程と事例を把握する。また、イスラム都市建築を概観しその差異を把握する。
- 第12回 【古代ローマの建築と都市】 ローマ都市の形成、ローマ古典建築の特徴を理解する。
- 第13回 【古代ギリシャの建築と都市】 ギリシャ建築思潮とその実践(地中海都市含む)の関係性を理解
- 第14回 【西洋都市・建築史総括1】 原始的空間、古代から現代までの大きな流れをダイジェストとして通覧し(過去から現代へ)、今日的課題に対する現代都市・建築の様々な試みの意義を再確認する。〈前編〉先史時代～様式リヴァイヴァル期。
- 第15回 【西洋都市・建築史総括2】 同上 〈後編〉産業革命期、近代化～現代

授業以外での学習方法

西洋都市・建築について学ぶことで、日本の都市・建築をより相対的に把握することができるようになります。逆もまた然りです。まずは身近な日本の事例、特に関西の古建築・歴史的町並みを積極的に探訪してください。講義で紹介する重要事例について、夏休みなどに、実際に現地で現物に接しフィールドワークを行う努力をしてください。映画や文学などイメージとしてどのように西洋の都市・建築が扱われているか注意を払ってください。

教科書

テキスト建築意匠

著者：平尾和洋＋末包伸吾編集、松本裕、他著

出版社：学芸出版社

出版年：2006

ISBN：

参考書

近代建築史図集

著者： 日本建築学会編

出版社： 彰国社

出版年： 1981

ISBN：

西洋建築史図集

著者： 日本建築学会編

出版社： 彰国社

出版年： 1976

ISBN：

図説世界建築史』(全16巻)

著者：

出版社： 本の友社

出版年：

ISBN：

建築の歴史～古代から現代まで

著者：

出版社： KONEMANN出版

出版年： 2001

ISBN：

建築の歴史～20世紀～

著者：

出版社： KONEMANN出版

出版年： 2001

ISBN：

卒業設計コンセプトメイキング

著者： 松本 裕

出版社： 学芸出版社

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（60%）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（40%（理解度把握小レポート））

筆記試験(60点):手書きノートと『テキスト建築意匠』のみ「持ち込み可」にて筆記試験を実施する。参加度(40点):出席を重視します。毎回、出席確認を兼ねた簡単な小レポート(講義内容に関する履修者各自の見解+講義への感想・要望+質問など)を提出していただきます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産研究Ⅱ

担当者 中村 千枝子

テーマ

日本の染織文化の変遷

獲得目標

人が生活のなかで基本的に必要とされる条件を指して『衣・食・住』という言葉がある。その筆頭に挙げられているように『衣』は人々に生活に最も身近で重要な関係を持ってきた。古くから「編む」「織る」「染める」行為は繰り返されるなかで、時代と共に変化をとり高級化してきた。各時代の変化を牽引していたものとは何か？ 歴史的な背景とともに解説する。

授業の内容

講義内容に沿って素材や染織裂など資料として提示する。パワーポイントからの画像やビデオを見るなど、視覚的に理解できるように進める。染織を理解するために基本的な知識もおさえない。

内 容

- 第1回 概論 染織とは
 - 第2回 素材の解説
 - 第3回 古墳時代の染織
 - 第4回 上代の染織
 - 第5回 上代の染織
 - 第6回 正倉院の染織
 - 第7回 正倉院の染織
 - 第8回 正倉院の染織
 - 第9回 平安時代の染織
 - 第10回 名物裂
 - 第11回 能装束
 - 第12回 小袖
 - 第13回 小袖
 - 第14回 小袖
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

博物館、美術館、社寺などで伝世されてきた染織品を見る。伝統工芸や伝統芸能に触れるなど本物に触れ、鑑賞の眼を養う。

教科書

参考書

織りと染めの歴史

著者： 河上繁樹・藤井健三共著

出版社： 昭和堂

出版年： 1999

ISBN：

染と織を訪ねる

著者： 長崎巖

出版社： 新潮社

出版年：

ISBN：

日本の色辞典

著者: 吉岡幸雄

出版社: 紫紅社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **地域文化論**

担当者 柴田 陽一

テーマ

先人の著作や最近の研究論文をととして、「地域文化」に関する多面的・総合的な見方を学ぶとともに、特定の地域の文化現象についての調査・発表を行う。

獲得目標

「地域文化」とは何だろうか？ 地域性があり、一定の地域にしか存在しない文化のことなのか？ なぜそこにあり、なぜ地域によって異なるのか？ こうした問いは、学際的に解明される性格のものである。本講義の前半では、「地域文化」に関する先人の著作や最近の研究論文(民俗学、民族学、人文地理学など)を読み、その内容を理解する。後半では、ある「地域文化」をとりあげ、グループでそれに関する調査・発表を行う。これらを通じて、「地域文化」に対する多面的・総合的な見方を身に付けることが、本講義の目的である。

授業の内容

前半では、配布資料を用いて、「授業の計画」に記す著作の内容を解説する。なるべく授業前に読んでおくことが望ましい。後半は、いくつかのグループに分かれて、グループごとにある「地域文化」についての調査・発表を行う。その他、2回分の学外授業(博物館等の見学、フィールドワーク)を行う。

内 容

- 第1回 「地域文化」を考える視点①
- 第2回 「地域文化」を考える視点②
- 第3回 東北編①——柳田国男『雪国の春』(1928)
- 第4回 東北編②——山口弥一郎『津浪と村』(1943)
- 第5回 京都編①——宮本常一『私の日本地図 京都』(1975)
- 第6回 京都編②——梅棹忠夫『京都の精神』『梅棹忠夫の京都案内』(1987)
- 第7回 学外授業(京都を予定)
- 第8回 滋賀編①——白洲正子『かくれ里』(1971)
- 第9回 滋賀編②——司馬遼太郎「湖西のみち」「近江散歩」(1970～)
- 第10回 学外授業(大津を予定)
- 第11回 沖縄編①——柳田国男『海南小記』(1925)
- 第12回 沖縄編②——柳田国男『海上の道』(1961)
- 第13回 グループ発表①
- 第14回 グループ発表②
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

「授業の計画」に記した著作を読む。とりあげた地域について、地図や地誌などを用いて理解を深める。

教科書

参考書

柳田国男著作集3・24

著者： 柳田国男

出版社： 筑摩書房

出版年：

ISBN：

津浪と村(復刊版)

著者： 山口弥一郎

出版社： 三弥井書房

出版年：

ISBN：

私の日本地図 14京都

著者: 宮本常一

出版社: 未来社

出版年:

ISBN:

京都の精神

著者: 梅棹忠夫

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

梅棹忠夫の京都案内

著者: 梅棹忠夫

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

白洲正子著作集3

著者: 白洲正子

出版社: 青土社

出版年:

ISBN:

街道をゆく1・24

著者: 司馬遼太郎

出版社: 朝日新聞出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職入門(初)

担当者 小寺 隆幸

テーマ

教師の仕事についての認識を深め、教職を志す目的や教師としての責任について考える。

獲得目標

今日の教育・学校・子どもをとりまく状況の中で、教師の仕事は何かを考え、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。特に学習指導、生活指導、学校づくりについて、基本的な点を理解する。さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を育てる。

授業の内容

具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者相互が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。

内 容

- 第1回 教育をとりまく状況と今日の教育課題
- 第2回 教師に期待されること、教師としての生き方、教師の日常
- 第3回 学習指導の歴史的な変遷と、現代に求められる学力
- 第4回 小学校での授業創りの実際(算数を例に考える)
- 第5回 少人数指導・習熟度別指導を巡って
- 第6回 子どもたちの現状と生活指導の課題
- 第7回 いじめや不登校にどう取り組むか
- 第8回 学級作りの取り組み
- 第9回 総合的な学習の時間の意義と実際
- 第10回 特別支援教育について(ADHDなどの子どもたちの指導について)
- 第11回 評価についての様々な考え方と実際
- 第12回 保護者・地域との連携をどうつくるか
- 第13回 教師としての研修、教師の権利と責任、教師の身分保障、教師を巡る法的問題
- 第14回 試験
- 第15回 試験の解説と授業のまとめ

授業以外での学習方法

教育の理念を深く掘り下げるために、古典とされる書物、あるいは現在の優れた実践記録などを読む。教育を巡る様々なできごとや教育改革の報道に注目し、自分が教師であればどのように考え対処するか、という問題意識を常に持つ。

教科書

新しい時代の教職入門

著者： 秋田喜代美・佐藤学

出版社： 有斐閣アルマ

出版年： 2006

ISBN： 4-641-12241-5

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **自然科学概論**

担当者 宮下 ゆたか

テーマ

21世紀を生きる市民に求められる「科学的自然観」、「自然科学と社会との正しい関わり方」などについて具体的事例を通して学ぶ。

獲得目標

①「自然の階層性・歴史性」について具体的事例を通して学び、「科学的自然観とは」について考察する。②天動説から地動説への変遷の歴史をとおり、「自然科学とは」「科学的なものの見方とは」について考察する。③いまだに収束していない2011.3.11福島第一原発事故問題をとおり、「自然科学と社会との正しい関わり方」「未来のエネルギー」について考察する。

授業の内容

「科学的な自然観とは」、「科学的なものの見方とは」、「自然科学と社会との正しい関わり方とは」などについてグループ討論も取り入れて学習を深める。

内 容

- 第9回 「自然科学とは、科学的なものの見方とは(2)」:「近代科学の父 ガリレオ」の科学的業績と生き方について学習する。
- 第10回 今までの学習を振り返って
- 第11回 「原発・放射能問題(1)」:「原発の過去・現在・未来」について学習する。
- 第12回 「原発・放射能問題(2)」:「放射線の人体への影響」について学習する。
- 第13回 「原発・放射能問題(3)」:「未来のエネルギー」について学習する。
- 第14回 「原発・エネルギー問題 どう考えるか」(討論)
- 第15回 自然科学概論 ふりかえり学習とまとめ
- 第1回 自然科学概論オリエンテーション(講義内容・進め方、班編成、アンケートなど)
- 第2回 「自然の階層性(1)」:原子のミクロな世界から宇宙のマクロな世界まで、各階層を貫く法則性について学習する。
- 第3回 「自然の階層性(2)」:光と電子の振る舞いを中心に、量子の世界について学習する。
- 第4回 「自然の歴史性(1)」:宇宙の進化と星の一生について学習する。
- 第5回 「自然の歴史性(2)」:太陽、地球はどのようにして生まれ、進化してきたのかについて学習する。
- 第6回 「自然の歴史性(3)」:最初の生命体は地球上でどのようにして誕生し、進化してきたのかについて学習する。
- 第7回 「自然科学の起源」:自然科学誕生の歴史について学習する。
- 第8回 「自然科学とは、科学的なものの見方とは(1)」:天動説から地動説への変遷の歴史について学習する。

授業以外での学習方法

講義を受けて興味を持った項目・内容が出てきた場合は、図書館やインターネットのサイトから各自学習するとよい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

物理学と方法

著者: 坂田昌一

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

科学者と社会

著者： 坂田昌一

出版社： 岩波書店

出版年：

ISBN：

星界の報告：他一編

著者： ガリレオ・ガリレイ

出版社： 岩波書店

出版年：

ISBN：

天文対話 上, 下

著者： ガリレオ・ガリレイ

出版社： 岩波書店

出版年：

ISBN：

新科学対話 上, 下

著者： ガリレオ・ガリレイ

出版社： 岩波書店

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（45）

授業中発表等（25）

参加度（30）

①15回の講義のうち、10回以上出席すること。6回以上欠席した場合は単位は認められない。②出席カードによる確認と、その日の講義の「課題作文」提出とで出席となる。③「介護等体験」「保育実習」などカリキュラム上の講義の欠席のみ「公欠」とみなす。就職活動を理由にする欠席は「公欠」としないので回数に注意して就職活動をする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **音楽概論**

担当者 佐野 仁美

テーマ

社会的背景や他の芸術との関わりから音楽の歴史を辿る。

獲得目標

1)西洋音楽や日本音楽についての基礎知識を習得し、音楽表現への理解を深める。2)様々な音楽や総合芸術作品を鑑賞し、その特徴を自らの言葉で語れるようになることを目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 人間と音楽:音楽を考える視点、ワールドミュージック
 - 第2回 西洋音楽:古代ギリシャ、中世の音楽
 - 第3回 西洋音楽:ルネサンス音楽
 - 第4回 西洋音楽:バロック音楽
 - 第5回 西洋音楽:古典派の音楽
 - 第6回 西洋音楽:ロマン派の音楽
 - 第7回 西洋音楽:国民楽派の音楽
 - 第8回 西洋音楽:近代・現代の音楽
 - 第9回 ポピュラー音楽
 - 第10回 日本の音楽:古代から中世へ
 - 第11回 日本の音楽:能と狂言
 - 第12回 日本の音楽:近世の音楽
 - 第13回 総合芸術:音楽と舞踊
 - 第14回 総合芸術:劇の音楽
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

音楽に関連する本や雑誌を読む。いろいろなジャンルの曲を聴く。

教科書

西洋音楽史

著者: 岡田暁生

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 美術概論

担当者 大久保 恭子

テーマ

芸術と人間、芸術と社会・文化との関連について理解する。

獲得目標

1) 芸術作品の分析を通して個々の作品の意味内容を理解する。2) 芸術作品を構成する造型言語に親しみ理解する。3) 芸術作品に意味を与える文化の構造とそれを支える概念の理解に至る。4) 作品の理解に際しては、受身で話を聞くのではなく自ら思考してその理解を確かなものとする。

授業の内容

パワーポイントを用いて具体的作例を呈示する。まずは作品に関する基本的なデータを解説し、次いで適宜問題を提起する。それを受けて受講生は思考し互いに意見交換をして解答を出す。その解答をもとに授業を進める。このQ&A方式によって受講生の積極的な授業への参加を求める。

内 容

- 第1回 はじめに・古代ギリシャの理想美
 - 第2回 中世の表象①ロマネスク美術
 - 第3回 中世の表象②ゴシック美術
 - 第4回 ルネッサンス芸術と規範①
 - 第5回 ルネッサンス芸術と規範②
 - 第6回 ルネッサンス芸術と規範③
 - 第7回 遠近法的世界観とは？
 - 第8回 マニエリスム芸術・怪物的奇想の美
 - 第9回 マニエリスム芸術・グロテスク
 - 第10回 「周縁」の美・北方の美
 - 第11回 「周縁」の美・死をめぐる価値観
 - 第12回 境界とは何か？①グロテスクをめぐる問題
 - 第13回 境界とは何か？②「笑い」「道化」をめぐる問題
 - 第14回 理性の表象
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

1) 展覧会なども含めて美術作品の鑑賞の機会を意識して持つこと。2) 受講後速やかに講義内容のノートを作成すること。

教科書

担当者によるハンドアウト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語コミュニケーション技術(ディベート)

担当者 池田 修

テーマ

第三者を説得するコミュニケーションの形態であるディベートを初歩から学び、コミュニケーションの質を深める。

獲得目標

ディベートを初歩から学び、そのスキルと指導方法の習得をめざす。論文執筆に必須の、論証の方法を学ぶ。小学校でディベートの指導ができるようになる。

授業の内容

ディベートを学ぶとディベートで学ぶの二つを行う。まとめとして、小論文を書く。製本して提出する。演習が中心になるので授業には積極的に参加のこと。課題が多く出ることを予め告げておく。ワード、エクセル、e-mailはある程度使えることが望ましい。チームを作ってディベートをすることがあるので、欠席は基本的に認めない。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。

内 容

- 第1回 ディベートとは？ シナリオ方式のディベート1
- 第2回 シナリオ方式のディベート2、シナリオ方式のディベート3
- 第3回 シナリオの改良 立論の構造／プランの役割
- 第4回 改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(個人戦)
- 第5回 第二反駁のある改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(個人戦)
- 第6回 試合の準備の仕方、リンクマップ、反駁カード、団体戦準備
- 第7回 改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(団体戦)
- 第8回 改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(団体戦)
- 第9回 ディベートビデオ視聴 フローシートのとり方のテスト
- 第10回 自由席論題ディベート1、自由席論題ディベート2、自由席論題ディベート3(個人戦)
- 第11回 立論の作り方
- 第12回 団体戦ディベート 予選1
- 第13回 団体戦ディベート 予選2
- 第14回 団体戦ディベート 予選3
- 第15回 団体戦ディベート決勝 まとめ

授業以外での学習方法

自らの疑問に対して、仮説を立て、調査を行い、自説を構築し、第三者が納得する形で話言葉と文字で伝えるというトレーニングは、諸君の得手不得手の分野を明らかにするだろう。これを理解した上で、世の中にある事象に対して「なぜだろう」「どうなっているのだろう」と考え、調べる癖を付けることが大事である。四回生で書くことになる卒業論文のための基礎トレーニングの一つとなることを期待する。

教科書

中等教育におけるディベートの研究

著者： 池田修

出版社： 大学図書出版

出版年：

ISBN：

武器としての決断思考

著者： 瀧本哲史

出版社： 星海社新書

出版年：

ISBN：

参考書

日本の論点2014

著者:

出版社: 文藝春秋

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

出欠席は出席君と掲示板の両方で確認する。参加度は、出席回数ではないことを理解すること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈幼a〉

担当者 田中 淑子

テーマ

幼児内面を豊かにする音楽教育を考える。

獲得目標

音楽は、幼児の内面を豊かにするものである。きれいな声で歌う、音楽に合わせて体を動かす(律動)、歌や曲に合わせてリズム打ちをするなど、音楽を楽しませながら、内面を豊かにするにはどうすればよいかを考える。

授業の内容

幼児の年齢に応じた音楽活動を、周辺の環境などを考慮しながら相応しいものを探っていく。

内 容

- 第1回 音楽教育の意義について考える。
 - 第2回 季節に合わせた音楽を見つける。 1
 - 第3回 季節に合わせた音楽を見つける。 2
 - 第4回 季節に合った絵本を読み、その内容に相応しい歌を見つける。
 - 第5回 絵本を読み、その内容を、音楽に合わせて表現する。
 - 第6回 リズム打ちの基本を学ぶ。
 - 第7回 打楽器を使って、リズム打ちの応用を考える。
 - 第8回 身近にあるものを使って、簡単な打楽器を作る。
 - 第9回 グループで自由に曲を決め、打楽器を使って、発想豊かな演奏をする。
 - 第10回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 1
 - 第11回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 2
 - 第12回 身近にあるものを題材にして、簡単な作詞作曲をする。
 - 第13回 作詞作曲したものを発表し合う。
 - 第14回 実際の幼児の音楽活動(映像)を見る。
 - 第15回 歌や身体表現、打楽器などを使って、総合的な音楽を考える。
-

授業以外での学習方法

自然の移り変わりを心に留める。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈幼b〉

担当者 田中 淑子

テーマ

幼児の内面を豊かにする音楽教育を考える。

獲得目標

音楽は、幼児の内面を豊かにするものである。きれいな声で歌う、音楽に合わせて体を動かす(律動)、歌や曲に合わせてリズム打ちをするなど、音楽を楽しませながら、内面を豊かにするには、どうすればよいかを考える。

授業の内容

幼児の年齢に応じた音楽活動を、周辺の環境等を考慮しながら相応しいものを探っていく。

内 容

- 第1回 音楽教育の意義について考える。
- 第2回 季節に合わせた音楽を見つける。 1
- 第3回 季節に合わせた音楽を見つける。 2
- 第4回 季節に合った絵本を読み、その内容に相応しい歌を見つける。
- 第5回 絵本を読み、その内容を、音楽に合わせて表現する。
- 第6回 リズム打ちの基本を学ぶ。
- 第7回 打楽器を使って、リズム打ちの応用を考える。
- 第8回 身近にある物を使って、簡単な打楽器を作る。
- 第9回 グループで自由に曲を決め、打楽器を使って、発想豊かな演奏をする。
- 第10回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 1
- 第11回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 2
- 第12回 身近にあるものを題材にして、簡単な作詞作曲をする。
- 第13回 作詞作曲したものを発表し合う。
- 第14回 実際の幼児の音楽活動(映像)を見る。
- 第15回 歌や身体表現、打楽器などを使って、総合的な音楽を考える。

授業以外での学習方法

自然の移り変わりを心に留める。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈幼c〉

担当者 田中 淑子

テーマ

幼児の内面を豊かにする音楽教育を考える。

獲得目標

音楽は、幼児の内面を豊かにするものである。きれいな声で歌う、音楽に合わせて体を動かす(律動)、歌や曲に合わせてリズム打ちをするなど、音楽を楽しませながら、内面を豊かにするにはどうすればよいかを考える。

授業の内容

幼児の年齢に応じた音楽活動を、周辺の環境等を考慮しながら相応しいものを探っていく。

内 容

- 第1回 音楽教育の意義について考える。
 - 第2回 季節に合わせた音楽を見つける。 1
 - 第3回 季節に合わせた音楽を見つける。 2
 - 第4回 季節に合った絵本を読み、その内容に相応しい歌を見つける。
 - 第5回 絵本を読み、その内容を、音楽に合わせて表現する。
 - 第6回 リズム打ちの基本を学ぶ。
 - 第7回 打楽器を使って、リズム打ちの応用を考える。
 - 第8回 身近にあるものを使って、簡単な打楽器を作る。
 - 第9回 グループで自由に曲を決め、打楽器を使って、発想豊かな演奏をする。
 - 第10回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 1
 - 第11回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 2
 - 第12回 身近にあるものを題材にして、簡単な作詞作曲をする。
 - 第13回 作詞作曲したものを発表し合う。
 - 第14回 実際の幼児の音楽活動(映像)を見る。
 - 第15回 歌や身体表現、打楽器などを使って、総合的な音楽を考える。
-

授業以外での学習方法

自然の移り変わりを心に留める。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **音楽演習Ⅱ〈児〉**

担当者 阿部 真子・佐野 仁美

テーマ

小学校の音楽指導に必要な歌唱技能や、楽典の知識を養う。

獲得目標

(1)日本語を歌う上での基本的な発声法、発語法を習得し、正しい音程感を獲得する。(2)基本的な音楽理論を理解し、読譜力をつける。(3)小学校の歌唱共通教材を使用し、斉唱・重唱などの体験を通して、実際の授業で歌唱教育を実践する上での様々な方法を身につける。

授業の内容

小学校の共通教材である文部省唱歌や日本歌曲の曲調をつかんで歌うために必要な、基本的な発声法・日本語の発語法を目指しヴォイストレーニングや、音感のトレーニングなどを行う。併せて、基礎的な楽典の知識を、実際の楽譜に応用して理解を深める。

内 容

- 第1回 オリエンテーション『歌うって何だろう』“語る”と“歌う”の違い、“日本語らしさ”の表現について考える。
- 第2回 基本的な発声法の実践。小学校1・2年の共通教材の歌唱、新曲視唱、楽典
- 第3回 小学校1・2年共通教材の歌唱とその応用(輪唱など)。新曲視唱、楽典
- 第4回 小学校3年の共通教材の歌唱。新曲視唱、楽典
- 第5回 小学校3年共通教材の歌唱とその応用(身体表現と歌唱)。新曲視唱、楽典
- 第6回 小学校4年の共通教材の歌唱。新曲視唱、楽典
- 第7回 小学校4年共通教材の歌唱とその応用(重唱の導入)。新曲視唱、楽典
- 第8回 小学校5年の共通教材の歌唱。新曲視唱、楽典
- 第9回 小学校5年共通教材の歌唱とその応用(重唱・合唱)。新曲視唱、楽典
- 第10回 小学校6年の共通教材の歌唱。新曲視唱、楽典
- 第11回 小学校6年共通教材の歌唱とその応用(合唱)。新曲視唱、楽典
- 第12回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践1。合唱への取り組み。新曲視唱、楽典
- 第13回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践2。合唱練習(グループ)。新曲視唱、楽典
- 第14回 テーマ別ヴォイストレーニングの実践3。合唱発表(グループ)。新曲視唱、楽典
- 第15回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

普段からできるだけ多くの唱歌・日本歌曲などに接する機会を持つておく。

教科書

初等科音楽教育法[改訂版]

著者： 初等科音楽教育研究会

出版社： 音楽之友社

出版年： 2011

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

a30101e314

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (20)

小テスト (40)
授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **音楽演習Ⅱ〈R〉**

担当者 阿部 真子・佐野 仁美

テーマ

ピアノ基礎技能、およびコード伴奏による弾き歌い技能の習得

獲得目標

1. ピアノ演奏の基本的な技能を習得する。2. コードネームを理解し、コード伴奏による子どもの歌の弾き歌いができるようになる。3. 基本的な楽典の知識を習得する。無理のない発声で、正しい音程感を持って歌うことができるようになる

授業の内容

授業前半は全体で、基本的な楽典の知識を学び、子どもの歌のコード奏による弾き歌い、新曲視唱の練習、後半はバイエルなど各自の進度に応じたテキストを用いたレッスンをを行う。

内 容

- 第1回 コードネームの復習・新曲視唱・楽典・バイエル No.72,73,74
- 第2回 ハ長調のコード進行・新曲視唱・楽典・バイエル No.73,74,75
- 第3回 ハ長調のコードによる伴奏付け・新曲視唱・楽典・バイエル No.75,77,78
- 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)・新曲視唱・楽典・バイエル No.77,78,79
- 第5回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)2・新曲視唱・楽典・バイエル No.79,80,81
- 第6回 ヘ長調のコード進行・新曲視唱・楽典・バイエル No.80,81,82
- 第7回 ヘ長調のコードによる伴奏付け・新曲視唱・楽典・バイエル No.82,88,89
- 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)・新曲視唱・楽典・バイエル No.88,89,91
- 第9回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)2・新曲視唱・楽典・バイエル No.91,93,94
- 第10回 ト長調のコード進行・新曲視唱・楽典・バイエル No.93,94,95
- 第11回 ト長調のコードによる伴奏付け・新曲視唱・楽典・バイエル No.95,96,97
- 第12回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)・新曲視唱・楽典・バイエル No.96,97,98
- 第13回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)2・新曲視唱・楽典・バイエル No.98,99,100
- 第14回 既習の調による弾き歌い復習・新曲視唱・楽典・バイエル No.99,100
- 第15回 ピアノ実技試験、弾き歌い発表

授業以外での学習方法

授業中の課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

コードでかんたん! こどものうた マイ・レパートリー

著者: 坂井康子・岡林典子・南夏世・佐野仁美

出版社: ヤマハミュージックメディア

出版年: ISBN:

全訳 バイエル教則本

著者:

出版社: 全音楽譜出版社

出版年: ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育課程研究(初) <Z>**

担当者 八木 英二

テーマ

教育課程の構造と教育実践

獲得目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の内容

1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

内 容

- 第1回 教育課程の構造と意味
- 第2回 内申書、通知票について
- 第3回 目標と評価のあり方
- 第4回 観点別評価の意味
- 第5回 教育実践評価と授業公開(初等)
- 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(初等)
- 第7回 教科書の採択システム
- 第8回 教科書づくり
- 第9回 教科と教科外の教育方法(初等)
- 第10回 総合学習について(初等)
- 第11回 身体と教育課程(初等)
- 第12回 教育課程と授業づくり(初等)
- 第13回 思春期の教育階梯
- 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。

教科書

教師の役割変化を問う

著者: 八木英二

出版社: 三学出版

出版年: 2013

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301023110

試験 (40)
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育方法の研究(初) <Z>

担当者 梅本 裕

テーマ

<授業をつくる>ことへのイメージを育む

獲得目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の内容

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

内 容

- 第1回 「あの坂の名は？」社会科における発信型の授業とは何か？
- 第2回 「見たこと作文」子どもが<動く>授業の条件とは？
- 第3回 「木の葉の駅で」発問の構造
- 第4回 「発電所はどこにあるか？」教授行為とは何か？
- 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての<指示・発問・説明・応答・制御>
- 第6回 「お化け屋敷で算数を」子どもたちの理解の構造をさぐる
- 第7回 「絵を描くのは苦手です」教育内容と方法の開発論理
- 第8回 「声を育てる音楽の授業」<雰囲気の良い授業>の構造は？
- 第9回 「世界とつながる、深く調べる」インターネットとコンピュータでできること
- 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」<分析ツールを教える>国語の授業
- 第11回 「オオカミ狩りはいいことか？」総合学習とは何か？
- 第12回 授業づくりの記号論的構造<教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価>
- 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」授業の機能とITの活用
- 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」イメージをそだてる授業の構造
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

専門分野の勉強にしっかり取り組んでおきなさい。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 道徳教育の研究(初) <Z>

担当者 碓井 敏正

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

獲得目標

押し付けであっては、道徳教育の効果はない。学校教育を通して、子どもたちが自然と道徳性をいかに身につけるかを学ぶことを目標とする。

授業の内容

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

内 容

- 第1回 道徳とは何か
 - 第2回 中学生期の発達の特徴
 - 第3回 道徳教育の歴史(明治～大正)
 - 第4回 道徳教育の歴史(戦後)
 - 第5回 全面主義と特設主義
 - 第6回 他の教科と道徳教育の関連
 - 第7回 道徳教育と特別活動
 - 第8回 道徳教育と総合学習
 - 第9回 道徳の内容の理解
 - 第10回 道徳教育の要としての道徳の時間
 - 第11回 道徳の時間の展開
 - 第12回 道徳の時間の実践例
 - 第13回 家庭、地域と道徳教育
 - 第14回 道徳教育と評価
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

ニュースで報道される教育問題や、青少年の精神状況、道徳意識について常に関心を払うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育相談(初)**

担当者 芦名 猛夫

テーマ

カウンセリングマインドと人間関係づくり

獲得目標

心の病の諸相を知ること。教育相談関連の初歩的理論と技法を知ること。学校現場での人間関係づくりのためにカウンセリングマインドの活用を図る基礎力を身につける。

授業の内容

講義を主とするが、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、人間関係づくりのエクササイズビデオ視聴などを入れながら進める。

内 容

- 第1回 授業ガイダンス、教育相談の意義：“今なぜ教育相談？”
 - 第2回 教育相談の機能と限界
 - 第3回 教育相談の歩み
 - 第4回 教育相談の事例検討(1)不登校、いじめ等
 - 第5回 教育相談の事例検討(2)対人恐怖、神経症等
 - 第6回 ストレスマネジメント
 - 第7回 教育相談に役立つ基礎的理論と技法(1)精神分析論(フロイト)
 - 第8回 " (2)自己理論(ロジャーズ)
 - 第9回 " (3)行動理論、論理療法
 - 第10回 " (4)交流分析、ゲシュタルト理論他
 - 第11回 人間理解とカウンセリングマインド
 - 第12回 人間関係づくりのエクササイズ
 - 第13回 望ましいコミュニケーションのために
 - 第14回 まとめと復習
 - 第15回 試験
-

授業以外での学習方法

子どもと教育に関わる事象や問題、現代的課題に関心をよせ、それらの資料を日常的に可能なかぎり収集し、個々に考察すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301023810

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 ()

授業内にミニレポートを作成(提出)、これを基に授業を展開させる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育内容(環境) <Z>

担当者 青木 美智子

テーマ

乳幼児期の子どもの自発性が育つ保育環境を創造するため、その理論と実際を学ぶ

獲得目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の内容

1 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。2 子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。3 身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。4 幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。5 乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

内 容

- 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
- 第2回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
- 第3回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
- 第4回 あそびの概念をめぐる絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
- 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
- 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
- 第7回 子どもの発達の特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
- 第8回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
- 第9回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
- 第10回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ビオトープ
- 第11回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」
- 第12回 諸外国の保育環境～「保育環境評価」
- 第13回 人的環境としての保育者
- 第14回 子どもの権利の保障と平和の文化
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

1 生活圏の自然環境を観察する力を、身近な植物を同定する技術・知識の習得を通じて発展させていこう。保育に実用的な草花遊びのレパートリーを普段から増やす努力を求めよう。2 園芸を生活のなかに取り入れ、積極的に住環境の緑化を促進する方法の習得を求めよう。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 (20%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保育内容(表現) <Z>**

担当者 久堀 久美子

テーマ

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

獲得目標

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。乳幼児期のいろいろな表現について資料を基に理解し特質・意義をふまえた指導法を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 シラバスの説明・「表現」について
 - 第2回 絵本の意義と伝え方
 - 第3回 絵本の読み聞かせの実践
 - 第4回 紙芝居の意義と演じ方
 - 第5回 紙芝居の演じ方と実践
 - 第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
 - 第7回 粘土あそび等造形活動
 - 第8回 ペープサートの意義と表現について
 - 第9回 ペープサートの作成と演出について
 - 第10回 ペープサートによる実践
 - 第11回 劇づくりの意義と指導法
 - 第12回 劇づくりの作成、準備
 - 第13回 劇づくりの役割分担と演技
 - 第14回 劇づくりによる表現、実践
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

- 1: 広く自然にふれ様々な文化を見聞する 2: 表現方法の検討・計画を行い、素材づくりを行う
-

教科書

参考書

随時紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (20%)

参加度 (30%)

小テスト (20%)

授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 小児保健Ⅱ〈Z〉

担当者 安藤 忠 齋藤 洋子

テーマ

子どもの疾病とその予防および適切な対応、子どもの生活と事故予防、保育環境について学ぶ。

獲得目標

1. 子どもにみられる症状の特徴とその対処を理解する。2. 子どもの心の健康と課題について理解する。3. 子どもの安全な生活のための配慮と関係機関の連携について理解する。

授業の内容

子どもの病気の特徴と対応、心の健康、事故と安全等について、教科書とプリントの併用で進める。

内 容

- 第1回 子どもの病気の特徴
 - 第2回 子どもに多い症状への対応Ⅰ
 - 第3回 子どもに多い症状への対応Ⅱ
 - 第4回 子どもに多い症状への対応Ⅲ
 - 第5回 予防接種
 - 第6回 子どもの生活と環境
 - 第7回 子どもの心身症と精神疾患
 - 第8回 子ども心の健康と課題Ⅰ
 - 第9回 子ども心の健康と課題Ⅱ
 - 第10回 子ども心の健康と課題Ⅲ
 - 第11回 保育環境整備
 - 第12回 事故と安全Ⅰ
 - 第13回 事故と安全Ⅱ
 - 第14回 健康・安全の実施体制
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

図表で学ぶ子どもの保健Ⅰ

著者： 加藤忠明・岩田力 編著

出版社： 建帛社

出版年：

ISBN：

参考書

よくわかる子どもの保健

著者： 竹内義博・大矢憲明 編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年：

ISBN：

成績評価

a301028350

試験 (80)
授業中課題 ()
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 小児栄養〈Z〉

担当者 小松 啓子

テーマ

子どもの発育・発達における食と栄養の意義と実践

獲得目標

1. 小児期の連続的な食生活体験の重要性を理解できる。2. 子どもの健全な食習慣の確立と食行動の自立との関連について理解できる。3. 小児期の食生活上の発達課題について説明できる。4. 保育の場での食育推進のあり方について具体的に説明できる。

授業の内容

現代の食生活は一見豊かそうに見えますが、食品選択に対する知識不足もあって、栄養摂取は偏り、それに生活リズムの乱れが重なり生活習慣病の発症要因になるなど、豊かさのかけり、歪がみられるようになってきました。このような時代的背景を踏まえて、家庭や保育所等において、子どもたちの食生活に生じている問題を取り上げ、講義・演習を通して、小児期からの食生活の重要性について専門的な理解を深めます。

内 容

- 第1回 子どもの健康な生活と食生活の意義
- 第2回 子どもの発育・発達と食生活 (1)身体発育・精神・運動機能発達と栄養・食生活
- 第3回 子どもの発育・発達と食生活 (2)食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活
- 第4回 日本人の食事摂取基準の意義とその活用
- 第5回 妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活
- 第6回 乳汁栄養
- 第7回 人工栄養
- 第8回 離乳の意義とその実践 (1)離乳の定義・必要性・開始時の留意点
- 第9回 離乳の意義とその実践 (2)離乳の進め方と離乳食供与上の留意点
- 第10回 離乳の意義とその実践 (3)離乳期の栄養上の課題
- 第11回 幼児期の心身の特徴と食生活 (1)身体発育の特徴
- 第12回 幼児期の心身の特徴と食生活 (2)食機能の発達
- 第13回 幼児期の食生活の特徴と実践 (1)食事と生活リズム
- 第14回 幼児期の食生活の特徴と実践 (2)食事摂取基準と献立・調理上の注意点
- 第15回 まとめ
- 第16回 食育とは
- 第17回 保育所(幼稚園)における食育
- 第18回 食育活動の実践1
- 第19回 食育活動の実践2
- 第20回 食育活動の実践3
- 第21回 食育活動の実践4
- 第22回 栄養に関する基礎知識1
- 第23回 栄養に関する基礎知識2
- 第24回 学童期の心身の特徴と食生活
- 第25回 思春期の心身の特徴と食生活
- 第26回 児童福祉施設における食事と栄養
- 第27回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1)疾病および体調不良の子どもへの対応
- 第28回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2)食物アレルギーのある子どもへの対応
- 第29回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (3)障がいのある子どもへの対応
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

今回の授業内容の予習と、受講後の復習を通して、知識の獲得を心がけ、専門的な知識を身につけること。

a301028510

教科書

子どもの食と栄養

著者： 堤ちはる、土井正子

出版社： 萌文書林

出版年： 2013

ISBN: 9784893471543

参考書

成績評価

試験（20）

授業中課題（15）

参加度（30）

小テスト（20）

授業中発表等（15）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 道徳教育の理論と方法(初)

担当者 碓井 敏正

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

獲得目標

押し付けであっては、道徳教育の効果はない。学校教育を通して、子どもたちが自然と道徳性をいかに身につけるかを学ぶことを目標とする。

授業の内容

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

内 容

- 第1回 道徳とは何か
 - 第2回 中学生期の発達の特徴
 - 第3回 道徳教育の歴史(明治～大正)
 - 第4回 道徳教育の歴史(戦後)
 - 第5回 全面主義と特設主義
 - 第6回 他の教科と道徳教育の関連
 - 第7回 道徳教育と特別活動
 - 第8回 道徳教育と総合学習
 - 第9回 道徳の内容の理解
 - 第10回 道徳教育の要としての道徳の時間
 - 第11回 道徳の時間の展開
 - 第12回 道徳の時間の実践例
 - 第13回 家庭、地域と道徳教育
 - 第14回 道徳教育と評価
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

ニュースで報道される教育問題や、青少年の精神状況、道徳意識について常に関心を払うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育方法論(初)

担当者 梅本 裕

テーマ

<授業をつくる>ことへのイメージを育む

獲得目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の内容

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

内 容

- 第1回 「あの坂の名は？」社会科における発信型の授業とは何か？
- 第2回 「見たこと作文」子どもが<動く>授業の条件とは？
- 第3回 「木の葉の駅で」発問の構造
- 第4回 「発電所はどこにあるか？」教授行為とは何か？
- 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての<指示・発問・説明・応答・制御>
- 第6回 「お化け屋敷で算数を」子どもたちの理解の構造をさぐる
- 第7回 「絵を描くのは苦手です」教育内容と方法の開発論理
- 第8回 「声を育てる音楽の授業」<雰囲気の良い授業>の構造は？
- 第9回 「世界とつながる、深く調べる」インターネットとコンピュータでできること
- 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」<分析ツールを教える>国語の授業
- 第11回 「オオカミ狩りはいいことか？」総合学習とは何か？
- 第12回 授業づくりの記号論的構造<教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価>
- 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」授業の機能とITの活用
- 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」イメージをそだてる授業の構造
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

専門分野の勉強にしっかり取り組んでおきなさい。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **国語概論**

担当者 尾西 正成・佐野 裕子

テーマ

国語(日本語)を分析対象として科学的・客観的に考えるための基礎知識を学ぶ。

獲得目標

無意識に習得し、何の問題もなく運用することができる国語(日本語)について意識化し、これまで気づくことのなかった日本語の特性に目を向け、物事を客観的に見る能力を養うことを目標とする。

授業の内容

授業は講義形式で行う。毎回授業で学んだ内容に関する確認プリントを配布するので、必ず提出してもらおう。また、小テストを第6回目と第10回目に、まとめのテストを12回目に実施する。

内 容

- 第2回 日本語の音1
 - 第3回 日本語の音2
 - 第4回 日本語の表記1
 - 第5回 日本語の表記2
 - 第6回 日本語の待遇表現1・小テスト1
 - 第7回 日本語の待遇表現2
 - 第8回 日本語の方言1
 - 第9回 日本語の方言2
 - 第10回 日本語の系統と類型・小テスト2
 - 第11回 国語と日本語
 - 第12回 まとめ
 - 第13回 書写1
 - 第14回 書写2
 - 第15回 書写3
 - 第1回 授業説明
-

授業以外での学習方法

ハンドアウトや確認プリントで復習を行うこと。特に「音声」「系統と類型」の部分は、復習が求められる。

教科書

配布プリント

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない 出席確認は、カードによる確認と確認プリントの提出による確認のダブルチェックを行う。出席に際しては、必ずカードのチェックと確認プリントの提出を忘れないように(どちらか欠けている場合は欠席と見なす)。また、小テストやまとめテストを未受験の場合も、評価の対象としない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会科概論**

担当者 倉持 祐二

テーマ

小学校社会科の全体像をつかむ

獲得目標

各学年の社会科の授業を体験的に学びながら、社会科という教科の性格と役割、社会科の目標・内容・方法、社会科指導の基礎的な技能の習得をめざす。また、2008年度版の学習指導要領をふまえた実践的課題について考える視点を獲得する。

授業の内容

2008年度版学習指導要領や教科書をもとに、小学校3～6年の社会科学習の目標・内容・方法のアウトラインをつかむ。そのうえで、実際に1時間の授業案づくりを試みる。

内 容

- 第1回 社会科で学ぶこと(社会科の誕生)
 - 第2回 2008年度版学習指導要領の特徴をつかむ
 - 第3回 社会科の目標と評価
 - 第4回 小学校3・4年の学習内容 商店をどう教えるか
 - 第5回 小学校3・4年の学習内容 地域の生産労働をどう教えるか
 - 第6回 小学校3・4年の学習内容 地図をどう教えるか
 - 第7回 小学校5年の学習内容 日本の農業をどう教えるか
 - 第8回 小学校5年の学習内容 日本の工業をどう教えるか
 - 第9回 小学校5年の学習内容 情報をどう教えるか
 - 第10回 小学校6年の学習内容 時代の特徴をどうつかませるか
 - 第11回 小学校6年の学習内容 戦争をどう教えるか
 - 第12回 小学校6年の学習内容 憲法をどう教えるか
 - 第13回 小学校社会科の教育課程を考える
 - 第14回 教材研究の実際(絵画史料を読み解く)
 - 第15回 1時間の授業案づくりの視点と方法
-

授業以外での学習方法

『2008年度版 小学校学習指導要領解説 社会科編』や小学校社会科に関する実践書に興味をもち、自らの力で読みすすめていくことを期待する。

教科書

小学校学習指導要領解説 社会編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： 2008年8月

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト (30%)

授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **生活科概論**

担当者 三上 周治

テーマ

獲得目標

小学校低学年における、自然や社会に関わる学びを創る

授業の内容

小学校中学年以降に展開される学びの土台となる認識を培う。小学校低学年の子ども達の周りにある自然や社会について、個別にそして具体的に認識することを目的とする。動物や植物、磁石や空気、自分の体や自分がくらす、学校や家庭を具体的に取り上げることで、自然認識や社会認識の基礎を培う。

内 容

- 第1回 小学校低学年での教科教育が果たす役割(教科教育としての生活科の任務①)
- 第2回 小学校低学年での自然や社会にかかわる学びの意味(教科教育としての生活科の任務②)
- 第3回 生活科教科書、学習指導要領の定期する生活科とは？
- 第4回 身近な動物の飼育観察を通して、動物の生き様を学ぶ
- 第5回 身近な植物の栽培観察を通して、植物の生き様を学ぶ
- 第6回 トンカチ、サンドペーパー、豆電球をむ使って金属探し
- 第7回 磁石を使って、鉄探し
- 第8回 空気は、水とよく似ていることを学ぶ
- 第9回 色水遊び
- 第10回 音の鳴るおもちゃづくり
- 第11回 動くおもちゃづくり
- 第12回 学校の教室、家の部屋
- 第13回 家族の生活と、家で働く人の仕事
- 第14回 郵便局の仕事
- 第15回 生活科学習指導案の作り方

授業以外での学習方法

教科書

その都度プリントを示す。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

生活科教科書

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

学習指導要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

授業中にプリントで示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 家庭科概論

担当者 大塚 真理子

テーマ

小学校家庭科を指導するための基礎力を高める

獲得目標

小学校家庭科の指導に必要な基礎的な知識や技能を習得するとともに、子どもの生活課題を踏まえた指導の深め方を考察する。

授業の内容

学習指導要領で示されている各内容について、講義と学生のグループ発表により、理解を深める。

内 容

- 第1回 小学校家庭科の役割(オリエンテーション)
 - 第2回 小学校家庭科の内容(学習指導要領と教科書を見る)
 - 第3回 家庭生活と家族 1
 - 第4回 家庭生活と家族 2
 - 第5回 日常の食事と調理の基礎 1
 - 第6回 日常の食事と調理の基礎 2
 - 第7回 日常の食事と調理の基礎 3
 - 第8回 快適な衣服 1
 - 第9回 快適な衣服 2
 - 第10回 布を使った製作 1
 - 第11回 布を使った製作 2
 - 第12回 快適な住まい 1
 - 第13回 快適な住まい 2
 - 第14回 身近な消費生活と環境 1
 - 第15回 身近な消費生活と環境 2 (まとめ)
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

小学校家庭科の学習内容は生活の基礎基本である。自分自身の生活に関心を深め、学習したことを日常生活に活かそうとする実践的態度をもつ。

教科書

教科書「新しい家庭5・6」

著者:

出版社: 東京書籍

出版年:

ISBN:

小学校家庭科概論

著者: 加地芳子

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN:

参考書

小学校学習指導要領解説家庭編

著者： 文部科学省

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（40）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保育内容総論**

担当者 八木 英二

テーマ

保育内容の総合性と指導の基本をつかむ

獲得目標

保育内容の健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域を総合的にとらえる視点を養う。さらに発達過程と幼児理解を基礎にした保育を行うための教育課程の編成と長期・短期の指導計画の立案過程について学ぶ。

授業の内容

実践事例に数多くふれながら、あわせて教育・保育実習の実習ができるような実習指導計画の作成方法について学んでいく。

内 容

- 第1回 幼稚園教育要領と保育所保育指針
 - 第2回 自然(環境)と社会(人間関係)の関係
 - 第3回 小学校への接続
 - 第4回 入園当初の計画
 - 第5回 ごっこ遊びの意義
 - 第6回 遊びの素材論
 - 第7回 遊びの発展
 - 第8回 身振り表現の意義
 - 第9回 お話を聞くこと
 - 第10回 童話の扱い
 - 第11回 保育計画とは何か
 - 第12回 前期の保育
 - 第13回 後期の保育
 - 第14回 劇遊びと生活発表
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

できるだけ実践事例に多くふれることが大切であるが、学生同士で生活における自身の遊びの文化的社会的な意味を論議しあうなど、生涯発達の観点からも遊びの意義を広げ深めることを期待する。

教科書

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **児童文化論**

担当者 重松 恵美

テーマ

現代小説における古典芸能

獲得目標

今の時代になぜ、古典芸能が、若者を主な読者とする小説の題材として取り上げられているのか。いくつかの作品(関連作品を含む)を読解しながら、現代文学の動向について考える。

授業の内容

現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読む。作品をていねいに読んで理解した上で、作品について受講生各自が考察したことをレポートにまとめる。レポートは800字×4回実施。第9回目(予定)には、グループディスカッションを実施し、作品についての意見発表と意見交換を行なう。

内 容

- 第1回 田中啓文「ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰」
- 第2回 田中啓文「ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰」
- 第3回 田中啓文「ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰」
- 第4回 田中啓文「ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰」
- 第5回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」
- 第6回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」
- 第7回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」
- 第8回 榎田ユウリ「カブキブ! 1」
- 第9回 ディスカッション
- 第10回 三浦しをん「仏果を得ず」
- 第11回 三浦しをん「仏果を得ず」
- 第12回 三浦しをん「仏果を得ず」
- 第13回 三浦しをん「仏果を得ず」
- 第14回 池上永一「テンベスト」
- 第15回 池上永一「黙示録」

授業以外での学習方法

テキストを3冊とも用意し、学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分(週あたり2時間)とする。

教科書

ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰

著者: 田中啓文

出版社: 集英社文庫

出版年: 2006

ISBN: 978-4-08-746074

カブキブ! 1

著者: 榎田ユウリ

出版社: 角川文庫

出版年: 2013

ISBN: 978-4-04-100956

仏果を得ず

著者： 三浦しをん

出版社： 双葉文庫

出版年： 2011

ISBN: 978-4-575-51444

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (90)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **こどもの食と栄養 <幼a>**

担当者 小松 啓子

テーマ

子どもの発育・発達における食と栄養の意義と実践

獲得目標

1. 小児期の連続的な食生活体験の重要性を理解できる。2. 子どもの健全な食習慣の確立と食行動の自立との関連について理解できる。3. 小児期の食生活上の発達課題について説明できる。4. 保育の場での食育推進のあり方について具体的に説明できる。

授業の内容

現代の食生活は一見豊かそうに見えますが、食品選択に対する知識不足もあって、栄養摂取は偏り、それに生活リズムの乱れが重なり生活習慣病の発症要因になるなど、豊かさのかけり、歪がみられるようになってきました。このような時代的背景を踏まえて、家庭や保育所等において、子どもたちの食生活に生じている問題を取り上げ、講義・演習を通して、小児期からの食生活の重要性について専門的な理解を深めます。

内 容

- 第1回 子どもの健康な生活と食生活の意義
- 第2回 子どもの発育・発達と食生活 (1)身体発育・精神・運動機能発達と栄養・食生活
- 第3回 子どもの発育・発達と食生活 (2)食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活
- 第4回 日本人の食事摂取基準の意義とその活用
- 第5回 妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活
- 第6回 乳汁栄養
- 第7回 人工栄養
- 第8回 離乳の意義とその実践 (1)離乳の定義・必要性・開始時の留意点
- 第9回 離乳の意義とその実践 (2)離乳の進め方と離乳食供与上の留意点
- 第10回 離乳の意義とその実践 (3)離乳期の栄養上の課題
- 第11回 幼児期の心身の特徴と食生活 (1)身体発育の特徴
- 第12回 幼児期の心身の特徴と食生活 (2)食機能の発達
- 第13回 幼児期の食生活の特徴と実践 (1)食事と生活リズム
- 第14回 幼児期の食生活の特徴と実践 (2)食事摂取基準と献立・調理上の注意点
- 第15回 まとめ
- 第16回 食育とは
- 第17回 保育所(幼稚園)における食育
- 第18回 食育活動の実践1
- 第19回 食育活動の実践2
- 第20回 食育活動の実践3
- 第21回 食育活動の実践4
- 第22回 栄養に関する基礎知識1
- 第23回 栄養に関する基礎知識2
- 第24回 学童期の心身の特徴と食生活
- 第25回 思春期の心身の特徴と食生活
- 第26回 児童福祉施設における食事と栄養
- 第27回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1)疾病および体調不良の子どもへの対応
- 第28回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2)食物アレルギーのある子どもへの対応
- 第29回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (3)障がいのある子どもへの対応
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

今回の授業内容の予習と、受講後の復習を通して、知識の獲得を心がけ、専門的な知識を身につけること。

a30102h510

教科書

子どもの食と栄養

著者： 堤ちはる、土井正子

出版社： 萌文書林

出版年： 2013

ISBN: 9784893471543

参考書

成績評価

試験（20）

授業中課題（15）

参加度（30）

小テスト（20）

授業中発表等（15）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **こどもの食と栄養 <幼b>**

担当者 小松 啓子

テーマ

子どもの発育・発達における食と栄養の意義と実践

獲得目標

1. 小児期の連続的な食生活体験の重要性を理解できる。2. 子どもの健全な食習慣の確立と食行動の自立との関連について理解できる。3. 小児期の食生活上の発達課題について説明できる。4. 保育の場での食育推進のあり方について具体的に説明できる。

授業の内容

現代の食生活は一見豊かそうに見えますが、食品選択に対する知識不足もあって、栄養摂取は偏り、それに生活リズムの乱れが重なり生活習慣病の発症要因になるなど、豊かさのかけり、歪がみられるようになってきました。このような時代的背景を踏まえて、家庭や保育所等において、子どもたちの食生活に生じている問題を取り上げ、講義・演習を通して、小児期からの食生活の重要性について専門的な理解を深めます。

内 容

- 第1回 子どもの健康な生活と食生活の意義
- 第2回 子どもの発育・発達と食生活 (1)身体発育・精神・運動機能発達と栄養・食生活
- 第3回 子どもの発育・発達と食生活 (2)食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活
- 第4回 日本人の食事摂取基準の意義とその活用
- 第5回 妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活
- 第6回 乳汁栄養
- 第7回 人工栄養
- 第8回 離乳の意義とその実践 (1)離乳の定義・必要性・開始時の留意点
- 第9回 離乳の意義とその実践 (2)離乳の進め方と離乳食供与上の留意点
- 第10回 離乳の意義とその実践 (3)離乳期の栄養上の課題
- 第11回 幼児期の心身の特徴と食生活 (1)身体発育の特徴
- 第12回 幼児期の心身の特徴と食生活 (2)食機能の発達
- 第13回 幼児期の食生活の特徴と実践 (1)食事と生活リズム
- 第14回 幼児期の食生活の特徴と実践 (2)食事摂取基準と献立・調理上の注意点
- 第15回 まとめ
- 第16回 食育とは
- 第17回 保育所(幼稚園)における食育
- 第18回 食育活動の実践1
- 第19回 食育活動の実践2
- 第20回 食育活動の実践3
- 第21回 食育活動の実践4
- 第22回 栄養に関する基礎知識1
- 第23回 栄養に関する基礎知識2
- 第24回 学童期の心身の特徴と食生活
- 第25回 思春期の心身の特徴と食生活
- 第26回 児童福祉施設における食事と栄養
- 第27回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (1)疾病および体調不良の子どもへの対応
- 第28回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (2)食物アレルギーのある子どもへの対応
- 第29回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (3)障がいのある子どもへの対応
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

今回の授業内容の予習と、受講後の復習を通して、知識の獲得を心がけ、専門的な知識を身につけること。

教科書

子どもの食と栄養

著者： 堤ちはる、土井正子

出版社： 萌文書林

出版年： 2013

ISBN: 9784893471543

参考書

成績評価

試験（20）

授業中課題（15）

参加度（30）

小テスト（20）

授業中発表等（15）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保育の心理学〈幼a〉**

担当者 平沼 博将

テーマ

保育実践と関連づけながら、子どもの発達過程や保育という営みを心理学的に理解する

獲得目標

子どもたちの発達過程や「保育」という営みを心理学的に理解することにより、人格形成における保育の役割について深く考える。また、視聴覚教材や実践記録を活用することで、実際の保育実践への想像力を涵養しつつ、単なる知識としての学習ではなく、保育者として必要な実践的力量的の形成をめざす。

授業の内容

胎生期から児童期の子どもたちの発達について学ぶとともに保育・教育実践の課題について考える。また、障害のある子どもたちの障害特性や発達の特徴についての学習を通して、保育における支援のあり方を考える。

内 容

- 第1回 「保育の心理学」で何を学ぶのか
- 第2回 胎生期の発達と胎児の発達保障(1)－生命誕生－
- 第3回 胎生期の発達と胎児の発達保障(2)－出生前診断について考える－
- 第4回 0歳児の発達と保育実践の課題(1)－乳児期前半－
- 第5回 0歳児の発達と保育実践の課題(2)－乳児期後半－
- 第6回 1歳児の発達と保育実践の課題
- 第7回 2歳児の発達と保育実践の課題
- 第8回 3歳児の発達と保育実践の課題
- 第9回 4歳児の発達と保育実践の課題
- 第10回 5歳児の発達と保育実践の課題
- 第11回 障害のある子どもの発達と保育における支援(1)－自閉症の理解と支援－
- 第12回 障害のある子どもの発達と保育における支援(2)－発達障害の理解と支援－
- 第13回 乳幼児の遊びと保育心理学(1)－ごっこ遊びの世界－
- 第14回 乳幼児の遊びと保育心理学(2)－子どもの描画活動－
- 第15回 まとめにかえて－保育者として発達し続けるために－

授業以外での学習方法

授業中に紹介する資料や文献の中から興味を持ったものを読んでみる。

教科書

授業中にプリントを配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a30102h610

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保育の心理学〈幼b〉**

担当者 平沼 博将

テーマ

保育実践と関連づけながら、子どもの発達過程や保育という営みを心理学的に理解する

獲得目標

子どもたちの発達過程や「保育」という営みを心理学的に理解することにより、人格形成における保育の役割について深く考える。また、視聴覚教材や実践記録を活用することで、実際の保育実践への想像力を涵養しつつ、単なる知識としての学習ではなく、保育者として必要な実践的力量的の形成をめざす。

授業の内容

胎生期から児童期の子どもたちの発達について学ぶとともに保育・教育実践の課題について考える。また、障害のある子どもたちの障害特性や発達的特徴についての学習を通して、保育における支援のあり方を考える。

内 容

- 第1回 「保育の心理学」で何を学ぶのか
- 第2回 胎生期の発達と胎児の発達保障(1)－生命誕生－
- 第3回 胎生期の発達と胎児の発達保障(2)－出生前診断について考える－
- 第4回 0歳児の発達と保育実践の課題(1)－乳児期前半－
- 第5回 0歳児の発達と保育実践の課題(2)－乳児期後半－
- 第6回 1歳児の発達と保育実践の課題
- 第7回 2歳児の発達と保育実践の課題
- 第8回 3歳児の発達と保育実践の課題
- 第9回 4歳児の発達と保育実践の課題
- 第10回 5歳児の発達と保育実践の課題
- 第11回 障害のある子どもの発達と保育における支援(1)－自閉症の理解と支援－
- 第12回 障害のある子どもの発達と保育における支援(2)－発達障害の理解と支援－
- 第13回 乳幼児の遊びと保育心理学(1)－ごっこ遊びの世界－
- 第14回 乳幼児の遊びと保育心理学(2)－子どもの描画活動－
- 第15回 まとめにかえて－保育者として発達し続けるために－

授業以外での学習方法

授業中に紹介する資料や文献の中から興味を持ったものを読んでみる。

教科書

授業中にプリントを配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a30102h612

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 音楽演習入門 <a>

担当者 佐野 仁美

テーマ

ピアノ演奏の基本と音楽理論

獲得目標

1)教育・保育に必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と楽典の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15
- 第2回 音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24
- 第3回 拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46
- 第4回 標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51
- 第5回 長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57
- 第6回 長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61
- 第7回 短音階、バイエルNo.65、67、こぐまのマーチ
- 第8回 移調、バイエルNo.72、73、草競馬
- 第9回 和音、バイエルNo.73、75
- 第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78
- 第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.78、79
- 第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80
- 第13回 音楽理論小テスト、バイエルNo.80
- 第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
- 第15回 ピアノ実技発表

授業以外での学習方法

授業中に指示された課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集

著者： 小畑郁男・佐野仁美編著

出版社： サーベル社

出版年： 2014年

ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー

著者： 坂井康子他編著

出版社： ヤマハ・ミュージックメディア

出版年： 2008年

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者：

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 音楽演習入門

担当者 佐野 仁美

テーマ

ピアノ演奏の基本と音楽理論

獲得目標

1)教育・保育に必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と楽典の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15
- 第2回 音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24
- 第3回 拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46
- 第4回 標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51
- 第5回 長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57
- 第6回 長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61
- 第7回 短音階、バイエルNo.65、67、こぐまのマーチ
- 第8回 移調、バイエルNo.72、73、草競馬
- 第9回 和音、バイエルNo.73、75
- 第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78
- 第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.78、79
- 第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80
- 第13回 音楽理論小テスト、バイエルNo.80
- 第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
- 第15回 ピアノ実技発表

授業以外での学習方法

授業中に指示された課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集

著者： 小畑郁男・佐野仁美編著

出版社： サーベル社

出版年： 2014年

ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー

著者： 坂井康子他編著

出版社： ヤマハ・ミュージックメディア

出版年： 2008年

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者：

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 音楽演習入門 <c>

担当者 佐野 仁美

テーマ

ピアノ演奏の基本と音楽理論

獲得目標

1)教育・保育に必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と楽典の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15
- 第2回 音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24
- 第3回 拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46
- 第4回 標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51
- 第5回 長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57
- 第6回 長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61
- 第7回 短音階、バイエルNo.65、67、こぐまのマーチ
- 第8回 移調、バイエルNo.72、73、草競馬
- 第9回 和音、バイエルNo.73、75
- 第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78
- 第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.78、79
- 第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80
- 第13回 音楽理論小テスト、バイエルNo.80
- 第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
- 第15回 ピアノ実技発表

授業以外での学習方法

授業中に指示された課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集

著者： 小畑郁男・佐野仁美編著

出版社： サーベル社

出版年： 2014年

ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー

著者： 坂井康子他編著

出版社： ヤマハ・ミュージックメディア

出版年： 2008年

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者：

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会福祉援助技術 <Za>**

担当者 森本 美絵

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

獲得目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の内容

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

内 容

- 第1回 相談援助の概要
 - 第2回 相談援助の方法
 - 第3回 個人に対する相談援助の具体的展開
 - 第4回 事例による理解
 - 第5回 集団を活用した相談援助の具体的展開
 - 第6回 事例による理解
 - 第7回 記録・連携・協働の方法
 - 第8回 保育相談支援の意義と基本的視点
 - 第9回 保育相談支援の基本
 - 第10回 保育相談支援の展開
 - 第11回 環境を通じた保育相談支援
 - 第12回 保育所入所児童の保護者への保育相談支援
 - 第13回 保育所の地域子育て支援における保育相談支援
 - 第14回 児童福祉施設における保育相談支援
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考文献等を読み進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (20%)

小テスト (50%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習 I <a>

担当者 倉持 祐二

テーマ

“子どものくらしと学び”を考える基本文献を読む

獲得目標

子どものくらしと学びを考えるための基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深める資料を収集し、わかったことをまとめて発表する。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション 問題意識を交流する
 - 第2回 教育・保育で使える教材・教具づくり①
 - 第3回 教育・保育で使える教材・教具づくり②
 - 第4回 教育・保育で使える教材・教具づくり③
 - 第5回 学外授業／京都市学校歴史博物館の見学
 - 第6回 教育・保育で使える教材・教具づくり④
 - 第7回 教育・保育で使える教材・教具づくり⑤
 - 第8回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む①
 - 第9回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む②
 - 第10回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む③
 - 第11回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む④
 - 第12回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑤
 - 第13回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑥
 - 第14回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑦
 - 第15回 子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑧
 - 第16回 (学外授業を適宜行うことがある)
-

授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけるために、大学図書館を利用し、『教育』『生活教育』『歴史地理教育』『社会科教育』『どの子も伸びる』『授業づくりネットワーク』『作文と教育』などの教育関係の雑誌を定期的に読む。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

歴史地理教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

社会科教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

生活教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

授業づくりネットワーク

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

どの子も伸びる

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

作文と教育

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習 I

担当者 口野 隆史

テーマ

子どもの発達と教育をめぐる諸問題

獲得目標

文献等の読解と検討を通じて、研究「テーマ」を設定する基礎能力の向上を目指す。また、文献や資料を読み取り、分析する力量の向上を目指す。

授業の内容

文献・資料等の購読と検討を行う。文献・資料等を読み、分析・総合する。研究「テーマ」を設定しようと試みる。

内 容

- 第1回 本演習の概要説明、及び本演習が目指すもの
 - 第2回 文献の講読と検討
 - 第3回 文献の講読と検討
 - 第4回 文献の講読と検討
 - 第5回 文献の講読と検討
 - 第6回 文献の講読と検討
 - 第7回 文献の講読と検討
 - 第8回 文献の講読と検討
 - 第9回 関心領域についてのレジュメ作成と発表①
 - 第10回 関心領域についてのレジュメ作成と発表②
 - 第11回 関心領域についてのレジュメ作成と発表③
 - 第12回 関心領域についての文献リストの作成と発表①
 - 第13回 関心領域についての文献リストの作成と発表②
 - 第14回 関心領域についての文献リストの作成と発表③
 - 第15回 まとめと夏季課題について
-

授業以外での学習方法

図書館や自宅での、テーマ(関心領域)に沿った文献等の収集、ノートの作成は必須である。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

授業中、まず他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育演習 I <c>**

担当者 大久保 恭子

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する

獲得目標

人格形成と結びついた表現の意味を探る視点を掴み、子どもの発達と表現との関わりを、さまざまな角度から深く追求する力を身につける。各自が問題意識を掘り起こし、研究活動の第一段階に入る。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション:表現と教育に関する学の研究領域、研究の方法論について
- 第2回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む①
- 第3回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む②
- 第4回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む③
- 第5回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む④
- 第6回 子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む⑤
- 第7回 実践取材&調査と分析①
- 第8回 実践取材&調査と分析②
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議①②
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議③④
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤⑥
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑦⑧
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑨⑩
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑪⑫
- 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑬⑭

授業以外での学習方法

○学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加…を適宜、行うことがある ○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、論文(実績のある大学のそれらに関わる論文集)や実践報告を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 ()

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育演習 I <d>**

担当者 三上 周治

テーマ

小学校の学級経営および教科教育についての研究。

獲得目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション: 自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
- 第2回 保育・小学校現場における子どもと教師の関わり①
- 第3回 保育・小学校現場における子どもと教師の関わり②
- 第4回 基本文献の輪読と発表①
- 第5回 基本文献の輪読と発表②
- 第6回 基本文献の輪読と発表③
- 第7回 基本文献の輪読と発表④
- 第8回 基本文献の輪読と発表⑤
- 第9回 基本文献の輪読と発表⑥
- 第10回 基本文献の輪読と発表⑦
- 第11回 研究テーマ設定に向けての計画
- 第12回 関心を持つ分野および文献についての報告①
- 第13回 関心を持つ分野および文献についての報告②
- 第14回 関心を持つ分野および文献についての報告③
- 第15回 まとめ: 夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

授業以外での学習方法

自ら進んで、関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。

教科書

授業中に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a30103aa14

試験 ()
授業中課題 (30%)
参加度 (20%)

小テスト ()
授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習 I <e>

担当者 佐野 仁美

テーマ

子どもと音楽の関わりについて考える。

獲得目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション: 自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
 - 第2回 保育や教育の場における子どもと音楽の関わり①
 - 第3回 保育や教育の場における子どもと音楽との関わり②
 - 第4回 基本文献の輪読と発表①
 - 第5回 基本文献の輪読と発表②
 - 第6回 基本文献の輪読と発表③
 - 第7回 基本文献の輪読と発表④
 - 第8回 基本文献の輪読と発表⑤
 - 第9回 基本文献の輪読と発表⑥
 - 第10回 基本文献の輪読と発表⑦
 - 第11回 研究テーマ設定に向けての計画
 - 第12回 関心を持つ分野および文献についての報告①
 - 第13回 関心を持つ分野および文献についての報告②
 - 第14回 関心を持つ分野および文献についての報告③
 - 第15回 まとめ: 夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負
-

授業以外での学習方法

自ら進んで、関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。

教科書

授業中に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a30103aa15

試験 ()
授業中課題 (30%)
参加度 (20%)

小テスト ()
授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習 I <f>

担当者 池田 修

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献に学ぶ

獲得目標

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献、または幼児や児童のことばに関する認識を育てる保育実践や教育実践の記録を読み、各自が関心のあるテーマを探し出す。テーマにそって調査したことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、問題意識を深める。

授業の内容

幼児や児童ことばの形成にかかわる教育実践上の課題と、学級づくりに関する実践上の課題をつかむために、ことばの発達と教育に関する基本文献、学級づくりのための基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深める資料を収集し、わかったことをまとめて発表する。受講生の学ぼうとする領域の分布、または関心によって授業の進め方は調整することがある。また、学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある。

内 容

- 第1回 国語科教育学、学校経営研究の研究対象と領域、研究の方法論について
- 第2回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む①
- 第3回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む②
- 第4回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む③
- 第5回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む④
- 第6回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む⑤、個別発表の計画づくり
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑧

授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践(『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載)を読む。教育研究会に積極的に参加する。

教科書

論理が伝わる 世界標準の「書く技術」

著者： 倉島保美

出版社： 講談社

出版年：

ISBN：

参考書

授業中に指示

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a30103aa16

試験 ()
授業中課題 (25)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 (25)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習 I <g>

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護のもとにある児童に関わる諸課題を基本文献から学ぶ。

獲得目標

基本となる文献を読み、各自が関心のあるテーマを探す。

授業の内容

基本文献を読み、発表する。

内 容

- 第1回 研究方法について学ぶー1
 - 第2回 研究方法について学ぶー2
 - 第3回 基本文献1の講読の分担報告ー1
 - 第4回 基本文献1の講読の分担報告ー2
 - 第5回 基本文献1の講読の分担報告ー3
 - 第6回 基本文献1の講読の分担報告ー4
 - 第7回 質疑・応答・討議
 - 第8回 基本文献2の講読の分担報告ー1
 - 第9回 基本文献2の講読の分担報告ー2
 - 第10回 基本文献2の講読の分担報告ー3
 - 第11回 基本文献2の講読の分担報告ー4
 - 第12回 質疑・応答・討議
 - 第13回 基本文献3の講読の分担報告ー1
 - 第14回 基本文献3の講読の分担報告ー2
 - 第15回 基本文献3の講読の分担報告ー3
-

授業以外での学習方法

基本文献のほかに、各自の関心あるテーマに関して、大学図書館等を活用して、できるだけ多くの文献を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育演習 I <h>**

担当者 青木 美智子

テーマ

乳幼児期の心身の発達に関する知識を基礎に置き、受講者の実習等の体験を通じて得た興味や関心を広げ、研究の基礎を形づくることをめざす。

獲得目標

乳幼児期は心身の発達が著しく、また、個人差も激しい時期である。このような発達の特徴をふまえながら、保育者として、子どもたちの身体・生命の発達をどのように見守り、情緒の安定を図り、相互に育ち合う保育・教育活動について考える。また、受講生が育ってきた地域の子育てのありかたを振り返り、どのような子育て支援の仕組みのなかで育ってきたのかを調べ、今後保育・教育の現場に必要であると考えられる支援について、あるいは継続して行われるべき支援とはどのようなものであるのかについて、問題意識を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 ゼミ活動の計画と確認
- 第2回 保育・教育のいま1
- 第3回 保育・教育のいま2
- 第4回 保育・教育のいま3
- 第5回 保育者という仕事1
- 第6回 保育者という仕事2
- 第7回 保育者という仕事3
- 第8回 外国の就学前教育1
- 第9回 外国の就学前教育2
- 第10回 外国の就学前教育3
- 第11回 研究・調査の進め方の基礎を学ぶ①
- 第12回 研究・調査の進め方の基礎を学ぶ②
- 第13回 研究・調査の進め方の基礎を学ぶ③
- 第14回 研究・調査の進め方の基礎を学ぶ④
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

基本文献に関連した資料や文献を探して読む。また、各自の関心を広げると共に、関連する資料や文献を収集する。

教科書

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)
 授業中課題 (50%)
 参加度 (0%)

小テスト (0%)
 授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習 I <i>

担当者 神谷 栄司

テーマ

卒業論文を展望し、各自の課題意識を深める。

獲得目標

1)子どもの現実にかかわる発表を多面的に行い、現実認識を深める。2)卒論の最初の問題意識を発表し、夏季休暇中の各人の課題を明らかにする。3)ゼミ内の意思疎通を図るために親睦の活動を位置づける。

授業の内容

1)乳幼児・学齢児をはじめとした子どもの現実にかかわる発表を行う(1回当たり2名発表) 2)卒論の最初の問題意識を発表・相談する(1回当たり2名発表)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 子どもの現実を深める(1)
 - 第3回 子どもの現実を深める(2)
 - 第4回 子どもの現実を深める(3)
 - 第5回 子どもの現実を深める(4)
 - 第6回 子どもの現実を深める(5)
 - 第7回 子どもの現実を深める(6)
 - 第8回 子どもの現実を深める(7)
 - 第9回 卒業論文の問題意識を深める(1)
 - 第10回 卒業論文の問題意識を深める(2)
 - 第11回 卒業論文の問題意識を深める(3)
 - 第12回 卒業論文の問題意識を深める(4)
 - 第13回 卒業論文の問題意識を深める(5)
 - 第14回 卒業論文の問題意識を深める(6)
 - 第15回 卒業論文の問題意識を深める(7)
-

授業以外での学習方法

卒業論文に関する各自の問題意識を深めるために、関連する単行本や論文を学習する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習 I <j>

担当者 八木 英二

テーマ

ゼミでの発表と討論

獲得目標

「教育演習 I」は3～4回生の2年間のゼミ活動の出発点として、各自が自身のテーマを見つけ、ゼミのなかで発表を行い、討論できる力を身につける。レジュメの初歩的な書き方についても学ぶ。

授業の内容

各自が自身のみつけたテーマにそって、発表準備のための文献を収集し、集めた資料の要点と自身の感想を整理し発表を行う。ゼミに積極的に参加し、他人の発表に耳を傾け、意見の交流を活発に行う。

内 容

- 第1回 レジュメの書き方について
 - 第2回 各自の発表と全体討論1
 - 第3回 各自の発表と全体討論2
 - 第4回 各自の発表と全体討論3
 - 第5回 各自の発表と全体討論4
 - 第6回 各自の発表と全体討論5
 - 第7回 各自の発表と全体討論6
 - 第8回 各自の発表と全体討論7
 - 第9回 各自の発表と全体討論8
 - 第10回 各自の発表と全体討論9
 - 第11回 各自の発表と全体討論10
 - 第12回 各自の発表と全体討論11
 - 第13回 各自の発表と全体討論12
 - 第14回 各自の発表と全体討論13
 - 第15回 各自の発表と全体討論14
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 人間発達学入門

担当者 浅井 雅志.アンガス ノーマン.池田 修.大久保 恭子.金山 敬.神谷 栄司.北林 利治.佐野 仁美.西村 友美.
宮嶋 邦明.八木 英二

テーマ

人間発達を「言語と人間」の視点から多面的に考察する。

獲得目標

「言語と人間」の視点による人間発達の理解を学部生に共通する教養とする。

授業の内容

授業のテーマに関して人間発達学部両学科専任教員によるリレー講義を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(神谷)
 - 第2回 ことばはどのように生まれたのか——歴史的起原(神谷)
 - 第3回 独り言と内的言語(宮嶋)
 - 第4回 想像とウソとことば(宮嶋)
 - 第5回 対話について(神谷)
 - 第6回 音楽とことば(佐野)
 - 第7回 美術とことば(大久保)
 - 第8回 日本語の魅力(池田)
 - 第9回 言語の翻訳可能性(西村)
 - 第10回 滅びゆく言語(アンガス)
 - 第11回 多言語主義(北林)
 - 第12回 第2言語習得(金山)
 - 第13回 英語公用語化論争(浅井)
 - 第14回 コミュニケーションと教育改革(八木)
 - 第15回 まとめ(神谷)
-

授業以外での学習方法

講義中に紹介された文献などを出来る限り学習する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30103ac10

試験はレポートによる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 表現教育論〈a〉

担当者 大久保 恭子

テーマ

芸術作品を分析して社会との関わりを理解し、子供を含める「他者」をいかに理解したかを考え、教育の意味と意義を理解する。

獲得目標

1) 芸術作品と芸術に関する言説の分析を通して個々の作品の意味内容を理解する。2) 芸術作品に意味を与える文化の構造とそれを支える概念の理解に至る。3) 「他者」と子供に対する過去の認識を理解する。4) 作品の理解に際しては、受身で話を聞くのではなく自ら思考してその理解を確かなものとする。

授業の内容

パワーポイントを用いて具体的作例を呈示する。まずは作品に関する基本的なデータを解説し、次いで適宜問題を提起する。それを受けて受講生は思考し互いに意見交換をして解答を出す。その解答をもとに授業を進める。このQ&A方式によって受講生の積極的な授業への参加を求める。

内 容

- 第1回 はじめに・トピック①革命と芸術(1)：革命期の芸術家たち
- 第2回 トピック①革命と芸術(2)革命期の芸術家たち
- 第3回 トピック①革命と芸術(3)革命期の芸術家たち
- 第4回 トピック①革命と芸術(4)革命による社会変化と印象派
- 第5回 トピック①革命と芸術(5)19世紀の内なる病
- 第6回 トピック②植民地政策と芸術(1)オリエンタリズムの発生
- 第7回 トピック②植民地政策と芸術(2)オリエンタリズムの大流行
- 第8回 トピック②植民地政策と芸術(3)オリエンタリズムの大流行
- 第9回 トピック②植民地政策と芸術(4)内なるオリент
- 第10回 トピック②植民地政策と芸術(5)内なるオリент
- 第11回 トピック③戦争と芸術(1)第一次世界大戦とダダ
- 第12回 トピック③戦争と芸術(2)第一次世界大戦とシュルレアリスム
- 第13回 トピック③戦争と芸術(3)戦争とプリミティヴィズム
- 第14回 トピック③戦争と芸術(4)第一次世界大戦後
- 第15回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

- 1) 教育全体と絡めながら表現活動を考えるために、多様な文献や主張に意欲的に触れ、研究会等に主体的に参加する。
- 2) 保育・小学校教育現場での表現活動に触れる機会を意識的に持つことを心がけ、現場に積極的に出向く。

教科書

担当者によるハンドアウト

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

〈プリミティヴィズム〉と〈プリミティヴィズム〉—文化の境界をめぐるダイナミズム—

著者： 大久保恭子

出版社： 三元社

出版年： 2009

ISBN：

成績評価

a30103d710

試験 (0)
授業中課題 (30)
参加度 (30)
全回出席が前提。

小テスト (0)
授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **総合学習論**

担当者 小寺 隆幸

テーマ

小学校における総合的な学習の意義を理解し、優れた実践から学ぶ。

獲得目標

環境や平和の問題を考えるための基本的な知識を身につけ、総合的な学習を構想し教材をつくる力を育てる。

授業の内容

内 容

- 第1回 総合学習の意義と系譜
 - 第2回 地域の川を考える総合学習
 - 第3回 地域の自然を考える総合学習
 - 第4回 生き物を通して考える総合学習
 - 第5回 食を考える総合学習
 - 第6回 福祉を考える総合学習
 - 第7回 異文化国際理解の総合学習
 - 第8回 平和を考える総合学習
 - 第9回 沖縄を考える総合学習
 - 第10回 東日本大震災と防災教育を考える総合
 - 第11回 福島原発事故を考える総合学習
 - 第12回 小学校の先生のお話を伺う
 - 第13回 グループ発表1
 - 第14回 グループ発表2
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

* 社会の様々な問題に関心を持ち、新聞や本を読む。そして将来教師となったときにその問題をどのように子どもたちに伝え考えさせていけばよいのかという問題意識を持つ。

教科書

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <a>

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

テーマの絞り込みと関連文献・資料の収集を通じて、卒論作成の基盤を築く。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒論進捗報告(構想)
 - 第4回 卒論進捗報告(構想)
 - 第5回 卒論進捗報告(構想)
 - 第6回 卒論進捗報告(構想)
 - 第7回 卒論進捗報告(先行研究)
 - 第8回 卒論進捗報告(先行研究)
 - 第9回 卒論進捗報告(先行研究)
 - 第10回 卒論進捗報告(先行研究)
 - 第11回 卒論進捗報告(本論・調査内容)
 - 第12回 卒論進捗報告(本論・調査内容)
 - 第13回 卒論進捗報告(本論・調査内容)
 - 第14回 卒論進捗報告(本論・調査内容)
 - 第15回 まとめと夏期課題
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育演習Ⅲ **

担当者 口野 隆史

テーマ

卒業論文のテーマ・方法を明確にし、卒業論文作成の態勢を整える

獲得目標

これまで学内外で学習してきたことから、自らの研究テーマ、自らの研究の独自性について、教員及びゼミメンバーと討議を重ねながら明らかにしていく。それに従い、どのような方法で調査・研究を進めればよいか同様に明らかにしていく。さらに、調査・研究によって得られた知見、資料、データをどのように分析・総合すればよいか検討する。これらことを通じ、研究の方法および自らのテーマに関する内容について理解を深める。

授業の内容

これまでに学内外で学習してきたことから、自らの研究テーマ、自らの研究の独自性について、教員及びゼミメンバーと討議を重ねながら明らかにしていく。具体的にどのような調査・研究を行えば良いのか検討を重ねる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション。授業の計画(学生各自の卒業論文作成に向けての前期及びこの1年の計画)についての理解
- 第2回 各自の研究の進捗状況(研究の動機、テーマ、特色など)の報告及びその検討①
- 第3回 各自の研究の進捗状況(研究の動機、テーマ、特色など)の報告及びその検討②
- 第4回 各自の研究の進捗状況(研究の動機、テーマ、特色など)の報告及びその検討③
- 第5回 各自の研究方法の検討①
- 第6回 各自の研究方法の検討②
- 第7回 各自の研究方法の検討③
- 第8回 中間まとめ(研究のテーマ、方法などに関する確認)
- 第9回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集①
- 第10回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集②
- 第11回 調査によるデータ収集、文献資料等の収集③
- 第12回 調査のデータ及び文献資料等の分析①
- 第13回 調査のデータ及び文献資料等の分析②
- 第14回 調査のデータ及び文献資料等の分析③
- 第15回 まとめ 各自ゼミ内発表及び中間発表に向けての課題整理

授業以外での学習方法

各自で、また小グループで研究テーマ、方法、内容について学習を進める。他のゼミの学生とも、またできれば他大学の学生とも交流し、自らの研究の特徴について考える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (40%)

授業中、まず他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <c>

担当者 小寺 隆幸

テーマ

算数教育、平和教育、総合学習等を中心に幅広く教育のあり方について考える。

獲得目標

算数教育や総合学習のあり方、内容、方法などについて自分の問題意識を醸成し、それを深く追求する。それぞれの報告をもとに、質疑・応答・討議を重ねながら、深めていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 問題意識の交流
 - 第2回 文献を読む①
 - 第3回 文献を読む②
 - 第4回 文献を読む③
 - 第5回 文献を読む④
 - 第6回 文献を読む⑤
 - 第7回 個別発表と質疑・応答・討議①
 - 第8回 個別発表と質疑・応答・討議②
 - 第9回 個別発表と質疑・応答・討議③
 - 第10回 個別発表と質疑・応答・討議④
 - 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
 - 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
 - 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
 - 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

学外授業等を行うことがある 自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <d>

担当者 三上 周治

テーマ

卒業論文の検討と準備

獲得目標

関心のある研究テーマを見つけ、そのテーマにそった研究内容とその方法を学び、今後の研究方針を決定して準備を進める

授業の内容

卒業論文のテーマを決定し、テーマに関連した発表を行ない、質疑応答のなかで専門的な知識と考察を深めていきます。

内 容

- 第1回 ガイダンス(今後の進め方について)
 - 第2回 各自が春休みに集めた資料の紹介①
 - 第3回 各自が春休みに集めた資料の紹介②
 - 第4回 研究テーマの発表と検討①
 - 第5回 研究テーマの発表と検討②
 - 第6回 研究テーマの発表と検討③
 - 第7回 研究テーマの発表と検討④
 - 第8回 研究テーマの発表と検討⑤
 - 第9回 ゼミ合宿の内容検討
 - 第10回 研究進行状況の報告と討論①
 - 第11回 研究進行状況の報告と討論②
 - 第12回 研究進行状況の報告と討論③
 - 第13回 研究進行状況の報告と討論④
 - 第14回 研究進行状況の報告と討論⑤
 - 第15回 前期のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <e>

担当者 八木 英二

テーマ

獲得目標

各自の卒論予定テーマを明確にし、ゼミ発表をふまえて討論を行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論の書き方
 - 第2回 卒論テーマの各自発表と討論1
 - 第3回 卒論テーマの各自発表と討論2
 - 第4回 卒論テーマの各自発表と討論3
 - 第5回 卒論テーマの各自発表と討論4
 - 第6回 卒論テーマの各自発表と討論5
 - 第7回 卒論テーマの各自発表と討論6
 - 第8回 卒論テーマの各自発表と討論7
 - 第9回 卒論テーマの各自発表と討論8
 - 第10回 卒論テーマの各自発表と討論9
 - 第11回 卒論テーマの各自発表と討論10
 - 第12回 卒論テーマの各自発表と討論11
 - 第13回 卒論テーマの各自発表と討論12
 - 第14回 卒論テーマの各自発表と討論13
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <f>

担当者 池田 修

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を通して卒業論文を書き進めることができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方。テーマの絞り方。討論・講評し、最終テーマを決定させる。文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導。
 - 第3回 卒論進捗報告(序論)
 - 第4回 卒論進捗報告(序論)
 - 第5回 卒論進捗報告(序論)
 - 第6回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第9回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第10回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第12回 卒論中間発表会 1
 - 第13回 卒論中間発表会 2
 - 第14回 卒論中間発表会 3
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

卒業研究のテーマに関して調査研究を進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <g>

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護のもとにある児童に関する諸課題を基本文献から学ぶ。

獲得目標

論文の章立てと各章の概要を書き上げる。

授業の内容

内 容

- 第1回 各自の課題の検討
 - 第2回 文献1の講読の分担報告-1
 - 第3回 文献1の講読の分担報告-2
 - 第4回 文献1の講読の分担報告-3
 - 第5回 文献1の講読の分担報告-4
 - 第6回 質疑・応答・討議
 - 第7回 文献2の講読の分担報告-1
 - 第8回 文献2の講読の分担報告-2
 - 第9回 文献2の講読の分担報告-3
 - 第10回 文献2の講読の分担報告-4
 - 第11回 質疑・応答・討議
 - 第12回 文献3の講読の分担報告-1
 - 第13回 基本文献3の講読の分担報告-2
 - 第14回 文献3の講読の分担報告-3
 - 第15回 文献3の講読の分担報告-4
-

授業以外での学習方法

大学図書館等を活用して、できるだけ多くの本を読み要約する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <h>

担当者 三山 岳

テーマ

卒業論文の検討と準備

獲得目標

関心のある研究テーマを見つけ、そのテーマにそった研究内容とその方法を学び、今後の研究方針を決定して準備を進める

授業の内容

卒業論文のテーマを決定し、テーマに関連した発表を行ない、質疑応答のなかで専門的な知識と考察を深めていきます。

内 容

- 第1回 ガイダンス(今後の進め方について)
 - 第2回 各自が春休みに集めた資料の紹介①
 - 第3回 各自が春休みに集めた資料の紹介②
 - 第4回 研究テーマの発表と検討①
 - 第5回 研究テーマの発表と検討②
 - 第6回 研究テーマの発表と検討③
 - 第7回 研究テーマの発表と検討④
 - 第8回 研究テーマの発表と検討⑤
 - 第9回 ゼミ合宿の内容検討
 - 第10回 研究進行状況の報告と討論①
 - 第11回 研究進行状況の報告と討論②
 - 第12回 研究進行状況の報告と討論③
 - 第13回 研究進行状況の報告と討論④
 - 第14回 研究進行状況の報告と討論⑤
 - 第15回 前期のまとめ
-

授業以外での学習方法

ゼミの進行に関わらず、積極的に文献を読んでおくこと

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <i>

担当者 倉持 祐二

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめる。

授業の内容

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

内 容

- 第1回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ①
 - 第2回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ②
 - 第3回 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ③
 - 第4回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導①
 - 第5回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導②
 - 第6回 文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導③
 - 第7回 順次、各自の研究テーマについて発表させる①
 - 第8回 順次、各自の研究テーマについて発表させる②
 - 第9回 順次、各自の研究テーマについて発表させる③
 - 第10回 順次、各自の研究テーマについて発表させる④
 - 第11回 順次、各自の研究テーマについて発表させる⑤
 - 第12回 順次、各自の研究テーマについて発表させる⑥
 - 第13回 執筆要領、留意事項など細部について指導する①
 - 第14回 執筆要領、留意事項など細部について指導する②
 - 第15回 執筆要領、留意事項など細部について指導する③
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <J>

担当者 神谷 栄司

テーマ

卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての確定

獲得目標

1)卒業論文のタイトル、課題設定、章節立てを確定する。2)ゼミ内の人間関係を良好にする。

授業の内容

1)卒業論文のタイトル、課題設定、章節立てを報告する(1コマ当たり1人発表)。2)ゼミ内の交流のために親睦の活動を位置づける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(1)
 - 第3回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(2)
 - 第4回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(3)
 - 第5回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(4)
 - 第6回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(5)
 - 第7回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(6)
 - 第8回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(7)
 - 第9回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(8)
 - 第10回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(9)
 - 第11回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(10)
 - 第12回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(11)
 - 第13回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(12)
 - 第14回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(13)
 - 第15回 卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(14)
-

授業以外での学習方法

卒業論文に関連する単行本・論文等を研究し、タイトル、課題設定、章節立てについて考察する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus**科目名 研究入門ゼミ I <C>****担当者 アンガス ノーマン****テーマ**

Study Strategies and Getting to Know the Modern World

獲得目標

1. To make the students more informed about world issues; 2. to have the students get into good and regular reading habits; 3. to encourage students to think in an academic, logical, informed and global way; 4. to give students the opportunity to express their opinions; 5. to encourage students to take notes; and 6. to give students the chance to make presentations and improve their presentation skills.

授業の内容

In this class we will read about various major world issues. Students will make PowerPoint presentations on one of the twenty-one topics, and a variety of in-class discussion and written activities will be held after each presentation, and also also each five weeks.

内 容

- 第1回 イントロ: クラスの目標・評価・テキストの紹介や分担 Study Skills I
- 第2回 Study Skills II
- 第3回 池上彰「知らないと恥をかく世界の大問題4」第1章と第2章
- 第4回 池上彰「知らないと恥をかく世界の大問題4」第3章と第4章
- 第5回 池上彰「知らないと恥をかく世界の大問題4」第5章と第6章
- 第6回 池上彰「知らないと恥をかく世界の大問題4」第7章discussion
- 第7回 受講生選択テキストと発表1
- 第8回 受講生選択テキストと発表2
- 第9回 受講生選択テキストと発表3
- 第10回 受講生選択テキストと発表4
- 第11回 国別のテキスト1
- 第12回 国別のテキスト2
- 第13回 国別のテキスト3
- 第14回 国別のテキスト4
- 第15回 Final roundup and discussion

授業以外での学習方法

Watch the news daily, read the newspaper regularly, and read related materials on global topics

教科書

「知らないと恥をかく世界の大問題4」

著者: 池上彰

出版社: 角川新書

出版年: 2013

ISBN: 9784047315041

参考書**成績評価**

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building I <c>**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Develop your reading skills and build your vocabulary

獲得目標

This course will aim to build your reading and vocabulary-building skills, as well as your ability to critically engage with academic material.

授業の内容

Reading will be conducted both in class and as homework. Students will be required to study vocabulary intensively. There will be regular quizzes.

内 容

- 第1回 Introduction
 - 第2回 Unit 1: Advertising & consumerism
 - 第3回 Unit 1: You are what you buy
 - 第4回 Unit 2: Extreme athletes
 - 第5回 Unit 2: Extreme sports, extreme risks
 - 第6回 Unit 3: Time to relax?
 - 第7回 Unit 3: Growing old
 - 第8回 Review 1
 - 第9回 Unit 4: Living with robots
 - 第10回 Unit 4: A new member of the family
 - 第11回 Unit 5: Animal testing
 - 第12回 Unit 5: Is animal research necessary?
 - 第13回 Unit 6: The death of the encyclopedia
 - 第14回 Unit 6: The age of digital information
 - 第15回 Review 2
-

授業以外での学習方法

教科書

In Focus Level 1 Student's Book with Online Resources

著者: Charles Browne, Brent Culligan, Joseph Phillips

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2014

ISBN: 9781107627093

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation I <a>**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Develop confidence in writing and presenting in English

獲得目標

This course will aim to develop basic academic presentation and writing skills. Students will learn how to present a topic using effective physical, visual and verbal communication, and how to write academic paragraphs and short essays.

授業の内容

The first-semester course will focus on presentation skills, and paragraphs will be developed based on each presentation. From the final presentation, students will develop a 400-word essay. Students will be expected to attend regularly, participate actively and submit regular writing and presentation assignments. This class will be held in a computer lab. This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Learn about course; Posture and eye contact
 - 第2回 PRESENT: Informative Speech
 - 第3回 Gestures
 - 第4回 PRESENT: Layout Speech
 - 第5回 Voice inflection
 - 第6回 Prepare Demonstration Speech; presentation script vs. paragraph
 - 第7回 PRESENT: Demonstration Speech
 - 第8回 Effective visuals; revision practice
 - 第9回 Explaining visuals; prepare Country Comparison Speech
 - 第10回 PRESENT: Country Comparison Speech; 400-word essay model
 - 第11回 Story message: the introduction
 - 第12回 Story message: the body
 - 第13回 Story message: the conclusion
 - 第14回 Final presentations 1; 400-word essay
 - 第15回 Final presentations 2; 400-word essay
-

授業以外での学習方法

教科書

Speaking of Speech (New Edition)

著者: D. Harrington & C. LeBeau

出版社: Macmillan

出版年: 2009

ISBN: 9780230726017

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

ktu-e-learn.net

<http://ktu-e-learn.net/>

We will use this site weekly for submitting and sh

2014 Syllabus科目名 **Writing & Academic Presentation I **

担当者 栗田 梨津子

テーマ

アカデミック・ライティングおよびプレゼンテーション入門

獲得目標

英語でのライティングおよびプレゼンテーションの基本技能を習得し、自分の経験や意見について英語で表現できるようになること。

授業の内容

英語でのレポートまたは論文作成の基本となるパラグラフの書き方や形式上のルールについて学んでいきます。同時に、ポディランゲージや視覚資料を用いて自分の考えを効果的に伝えるための技能を身につけていきます。

内 容

- 第1回 授業概要の説明
- 第2回 Unit 1: A new club member
- 第3回 Unit 1: A new club member
- 第4回 プレゼンテーション 1-1
- 第5回 プレゼンテーション 1-2
- 第6回 Unit 2: A favorite place
- 第7回 Unit 2: A favorite place
- 第8回 プレゼンテーション 2-1
- 第9回 プレゼンテーション 2-2
- 第10回 Unit 4: A memorable experience
- 第11回 Unit 4: A memorable experience
- 第12回 Unit 4: A memorable experience
- 第13回 プレゼンテーション 3-1
- 第14回 プレゼンテーション 3-2
- 第15回 全体のまとめ

授業以外での学習方法

毎回テキストの指定された範囲を予習し、単語や文法などを調べておいてください。また必要であれば、参考書等を使って基本的な英文法を各自復習してください。

教科書

Present Yourself 1: Experiences

著者: Steven Gershon

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2008

ISBN:

参考書

マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)

著者: Raymond Murphy

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

成績評価

a30201a912

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

授業中課題として英文エッセイ(400 words)を提出してもらいます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 Writing & Academic Presentation I <c>

担当者 金山 敬

テーマ

「世界でモノをいう日本人」育成のために

獲得目標

英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成する。

授業の内容

今まで蓄積してきた英語をベースに、プロジェクトを経験しながら、提案や説得できる、あるいは、効果的に情報伝達ができる英語力を養いつつ、プレゼンテーションの技術を身につけていきます。

内 容

- 第1回 Orientation, Basics of the English Presentation
 - 第2回 Project 1 "Introducing Yourself" Step 1
 - 第3回 Project 1 "Introducing Yourself" Step 2
 - 第4回 Project 1 "Introducing Yourself" Step 3
 - 第5回 Project 1 "Introducing Yourself" Presentation
 - 第6回 Project 2 "News Digest" Step 1
 - 第7回 Project 2 "News Digest" Step 2
 - 第8回 Project 2 "News Digest" Step 3
 - 第9回 Project 2 "News Digest" Presentation
 - 第10回 Review
 - 第11回 Project 3 "Promoting Your Vacation Plans" Step 1
 - 第12回 Project 3 "Promoting Your Vacation Plans" Step 2
 - 第13回 Project 3 "Promoting Your vacation Plans" Step 3
 - 第14回 Project 3 "Promoting YOur vacation Plans " Presentation
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

Presentations to Go

著者： 松岡 昇 他

出版社： センゲージ ラーニング株式会社

出版年： 2014

ISBN： 9784863122642

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20%)

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

a30201a913

積極的な授業参加を高く評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 International Business English I <Z>

担当者 弓場 俊也

テーマ

国際ビジネスにおける実践的英語コミュニケーション力と貿易実務の習得

獲得目標

わが国の貿易は自由化されており、世界の動向も自由貿易協定(FTA)や経済連携協定(EPA)更には環太平洋経済連携協定(TPP)など各国間で通商規制を緩和して貿易をより自由に行える潮流になっている。情報機器、物流システムの進歩により商社、専門家を通しての間接貿易から、一般の会社、個人による直接貿易へ形態も変化してきた。そしてインターネットの普及により国際ビジネスコミュニケーションも従来のいわゆる「コレボン」商業英語からEメールが主流になった。それにともない新しい貿易実務対応が求められている。貿易はモノ・カネ・サービスの国際取引であるが、海外のビジネスパートナーと信頼関係を築くためには国際ビジネスにおける公用語として英語によるコミュニケーションが必須である。ビジネス英語は英語力だけではなく貿易取引全体の仕組みについて知識、貿易実務、専門用語まで幅広い習得が必要である。ビジネスの現場で使われる英語はそれほどレベルの高いものではないが、シンプルで的確に意図を相手に伝えられる実践的なものでなければならない。またスムーズに商談交渉を進めるためには異文化理解能力も国際ビジネスパーソンには必要である。将来国際ビジネスに係る人が最低限身につけておくべき実践英語力として、日商ビジネス英語検定3級の合格レベルを目指す。

授業の内容

国際商取引に必要な英文ビジネス・ライティングおよび貿易基礎知識を解説します。

内 容

- 第1回 英文ビジネスライティングの概要
- 第2回 海外取引の基本的な流れ
- 第3回 英文ビジネスレター・Eメールの基礎
- 第4回 海外取引先とビジネス交渉の流れ
- 第5回 英文ビジネスレターの構成と表現
- 第6回 貿易における国際ルール
- 第7回 英文ビジネスライティングの応用
- 第8回 国際取引に使われる英文書類
- 第9回 英文契約書の考え方と理解
- 第10回 インコタームズとは
- 第11回 国際物流で使われる英語
- 第12回 英文ビジネスレター(ケーススタディ)
- 第13回 海外決済と外国為替で使われる英語
- 第14回 国際ビジネスにおける異文化理解とビジネス英語のコンテキスト
- 第15回 総括と確認

授業以外での学習方法

教科書

日商ビジネス英語検定3級公式テキスト

著者： 日本商工会議所編

出版社： 日本能率協会マネジメントセンター

出版年： 2012年10月20日初版

ISBN: 9784820748045

参考書

成績評価

a302023810

試験（33%）

小テスト（33%）

授業中課題（0%）

授業中発表等（0%）

参加度（34%）

毎講義時に実施するミニテストと学期末試験および出席日数により評価します。期間中に日商ビジネス英語検定3級に合格した者は最終評価を特別加点します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ〈a〉

担当者 浅井 雅志

テーマ

充実した留学生活のために

獲得目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の内容

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

内 容

- 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標
- 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
- 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
- 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
- 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
- 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
- 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
- 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
- 第9回 ディスカッション①ー気候や環境について
- 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー
- 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
- 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)
- 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)
- 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。英語圏で作られた映画を観たりや音楽を聴いたりするときも、その文化的背景を考えてみよう。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ

担当者 西村 友美

テーマ

充実した留学生活のために

獲得目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の内容

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨンー留学とは、多文化理解プログラムの目標
- 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
- 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
- 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
- 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
- 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
- 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
- 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
- 第9回 ディスカッション①ー気候や環境について
- 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー
- 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
- 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)
- 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)
- 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

printed materials

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ <c>

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

充実した留学生活のために

獲得目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の内容

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

内 容

- 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標
- 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
- 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
- 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
- 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
- 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
- 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
- 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
- 第9回 ディスカッション①ー気候や環境について
- 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー
- 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
- 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)
- 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)
- 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

Students should read books explaining aspects of Japanese culture in English. They should also follow the news about the country of their choice, and use the Internet to find out about the local environment where they will be studying. This class will be

教科書

American Homestay Album

著者： 島田拓司

出版社： 成美堂

出版年： 2006

ISBN： 4-7919-4528-X

参考書

The Exchange Student Survival Kit

著者： Nobuyuki Yamauchi

出版社： 英宝社

出版年： 2008

ISBN： 978-4-269-14011

Gateway to Canada

著者: V. Sauve

出版社: Oxford

出版年:

ISBN: 978019-5443356

成績評価

試験 (20)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

The constant use of English will be a major factor in the evaluation of the students in this class.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building III <a>**

担当者 ジェームス デイ-ゲル

テーマ

Intermediate Readings on Japan and its Culture

獲得目標

(1) To develop intermediate English reading skills in preparation for SAP, GFP and GIP (2) To familiarize students with Japanese and other cultural issues in English (3) To consolidate a basic 3,200 word vocabulary

授業の内容

The series of texts will build into a portfolio that will be of direct use to the students attending the SAP, GFP or GIP Programmes, both linguistically and culturally. This class will be taught in English

内 容

- 第1回 Reading text: Japanese Daily Life
 - 第2回 Reading text: Daily Life in a Western Country
 - 第3回 Reading text: Japanese Food
 - 第4回 Reading text: The Japanese Language
 - 第5回 Reading text: Japanese Ways of Thinking
 - 第6回 Reading text: Japanese Religion
 - 第7回 Reading text: Japanese Society and its Structure
 - 第8回 Reading text: Japanese Customs (1)
 - 第9回 Reading text: Japanese Customs (2)
 - 第10回 Reading text: Japanese Festivals
 - 第11回 Reading text: Japanese Culture (1)
 - 第12回 Reading text: Japanese Culture (2)
 - 第13回 Reading text: Japan Today (1)
 - 第14回 Reading text: Japan Today (2)
 - 第15回 Final discussion and assessment
-

授業以外での学習方法

Extensive reading on Japanese culture in English, including Oxford Bookworm Graded Readers (Levels 3 & 4)

教科書

参考書

成績評価

試験 (20%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト (20%)

授業中発表等 ()

a30202a210

Students will be required to achieve 60% on a common 3,200 word (Kilgarriff) vocabulary test.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 Reading & Vocabulary Building III

担当者 西村 友美

テーマ

リーディング・ストラテジーと語彙力の強化

獲得目標

身近な話題を題材にして、総合的に英文読解力と語彙力を高める。

授業の内容

予習・復習が基本となる。毎回授業で教科書を1ユニットずつ進み、各ユニットのワード—テストも小テストとして毎回行う。

内 容

第1回 unit 1
第2回 unit 2
第3回 unit 3
第4回 unit 4
第5回 unit 5
第6回 unit 6
第7回 unit 7
第8回 unit 8
第9回 unit 9
第10回 unit 10
第11回 unit 11
第12回 unit 12
第13回 unit 13
第14回 unit 14
第15回 unit 15

授業以外での学習方法

教科書

Reading Powerhouse

著者: Yasumasa Someya/Yoshihiro Minamitsu

出版社: Kinseido

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 Reading & Vocabulary Building III <c>

担当者 山下 美朋

テーマ

リーディング力と語彙力を養成する

獲得目標

1. 身近な話題の内容を精読(じっくり読み込む)することで読解力を身につける 2. 速読により、必要な情報をつかむ技術を身につける 3. 読解力の下支えとなる語彙力、文法力を身につける

授業の内容

教科書を1Unitずつ進める。毎回、単語テストも行う。

内 容

第1回 Unit 1
第2回 Unit 2
第3回 Unit 3
第4回 Unit 4
第5回 Unit 5
第6回 Unit 6
第7回 Unit 7
第8回 Unit 8
第9回 Unit 9
第10回 Unit 10
第11回 Unit 11
第12回 Unit 12
第13回 Unit 13
第14回 Unit 14
第15回 Unit 15

授業以外での学習方法

授業予習、復習および単語テストの準備を行うこと。

教科書

Focus on Reading! Richard Carpenter 関口智子 松柏社 2012

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening V <a>**

担当者 浅井 雅志

テーマ

Improve your listening comprehension

獲得目標

The aim of this class is to improve your listening comprehension so that you can cope with various situations in English-spoken environment.

授業の内容

This class will be carried out entirely in English. You listen to a certain passage and take notes; then answer various question either in the textbook or by the teacher. The teacher will also give you some background information about the topic of the text. You will take a test at the end of the term.

内 容

- 第1回 Introduction; Chapter 1
 - 第2回 Chapter 2
 - 第3回 Chapter 3
 - 第4回 Chapter 4
 - 第5回 Chapter 5
 - 第6回 Chapter 6
 - 第7回 Chapter 7
 - 第8回 Chapter 8
 - 第9回 Chapter 9
 - 第10回 Chapter 10
 - 第11回 Chapter 11
 - 第12回 Chapter 12
 - 第13回 Chapter 13
 - 第14回 Chapter 14
 - 第15回 video material; test
-

授業以外での学習方法

Listen to the CD provided and prepare for the class. Listen to English in whatever form--music, news, recorded story.

教科書

Social Issues in a Contemporary World

著者: Naoki Sugimori, et al

出版社: 成美堂

出版年: 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening V **

担当者 金山 敬

テーマ

Systematic, step-by-step approach to listening

獲得目標

Developing aural and oral fluency through engaging content and practical exercises

授業の内容

Units are thematically structured, including topics which frequently appear in daily conversations.

内 容

- 第1回 Orientation
 - 第2回 Unit 1 Family
 - 第3回 Unit 2 Friends
 - 第4回 Unit 3 Customs
 - 第5回 Unit 4 Education Unit 5 Unit 4 Unit 4 Education
 - 第6回 Unit 5 Sports
 - 第7回 Unit 6 Work
 - 第8回 Unit 7 Food
 - 第9回 Unit 8 Studing English
 - 第10回 Unit 9 Health
 - 第11回 Unit 10 Clothes
 - 第12回 Unit 11 Traveling
 - 第13回 Unit 12 Music
 - 第14回 Unit 13 Movies
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

English Listening and Speaking Patterns

著者: Andrew E. Benett

出版社: 南雲堂

出版年: 2014

ISBN: 9784523177470

成績評価

試験 (20%)

授業中課題 (20%)

参加度 (40%)

小テスト (20%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening VI **

担当者 野口 博代

テーマ

English Listening for Communication!

獲得目標

様々な場面において必要な情報が正確に聞きとれ、また自分の考えを英語で伝える事が出来るようになる事を目標にします。

授業の内容

主に日米間の文化の違いをトピックにとりあげた会話、インタビューなど様々な形式のリスニングタスクを行い、情報を正確にとらえ英語で自分の意見をまとめる練習をします。

内 容

- 第1回 Introduction / weddings
 - 第2回 student jobs / TV stations and programs
 - 第3回 common superstitions / movies and movie theaters
 - 第4回 living at college / national holidays
 - 第5回 Review
 - 第6回 being a volunteer / living with your parents after college
 - 第7回 breakfast habits / spectator sports
 - 第8回 bible and religion / romance and dating
 - 第9回 Christmas / family time
 - 第10回 Review
 - 第11回 discipline at school / shopping on the Net
 - 第12回 high school prom / newspapers
 - 第13回 inappropriate language
 - 第14回 Review
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

初回の授業で指示します。

教科書

Cubic Listening: Closing The Culture Gap

著者: Timothy Kiggell / Kevin Cleary

出版社: Macmillan Languagehouse

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening VI <a>**

担当者 日高 周平

テーマ

基礎的なリスニング能力の向上。

獲得目標

日常生活で必要とされるリスニング能力の基礎を養う。

授業の内容

毎回教科書の1ユニットを行い、補助教材を使いながらリスニング、語彙、文法の確認をする。

内 容

- 第1回 講義概要・成績評価の方法・TOEICに関する説明
- 第2回 Unit 1 TOEICを知る
- 第3回 Unit 2 基本戦略 1
- 第4回 Unit 3 基本戦略 2
- 第5回 Unit 4 英文の基本構造を見抜く
- 第6回 Unit 5 解答根拠の登場順
- 第7回 Unit 6 正解の言い換えパターンを知る
- 第8回 Unit 7 機能疑問文を聞き取る
- 第9回 Unit 8 動詞の時制を見極める
- 第10回 Unit 9 接続詞 vs. 前置詞
- 第11回 Unit 10 ダブルパッセージの攻略
- 第12回 Unit 11 接続副詞に強くなる
- 第13回 Unit 12 NOT型設問のコツ
- 第14回 TOEIC系対策問題 (プリントにて対応)
- 第15回 総合復習、理解度確認テスト

授業以外での学習方法

第一回講義で配布するTOEIC対策用の単語リストを暗記する事

教科書

Level-up Trainer for the TOEIC TEST

著者: Ayako Yokogawa, Tony Cook

出版社: Cengage Learning

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (60)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation III <a>**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Researching and writing academic essays and developing academic presentations

獲得目標

This course will aim to develop the skills, strategies and procedures necessary for writing longer essays and making longer academic presentations.

授業の内容

In the first half of the course we will study essay writing, culminating in a 1,200-word research paper. In the second half of the course we will learn to develop an academic presentation. The course will be held in a computer lab. Regular attendance and homework submission are required. This class will be taught in English

内 容

- 第1回 Introduction to the course; overview of essay structure
 - 第2回 Topic and focus
 - 第3回 Researching and outlining
 - 第4回 Introduction and thesis statement
 - 第5回 Body
 - 第6回 Conclusion
 - 第7回 Citing sources
 - 第8回 Overview of presentation structure
 - 第9回 The physical message
 - 第10回 Slides: the visual message
 - 第11回 The story message
 - 第12回 Selecting and developing a topic
 - 第13回 Putting it all together
 - 第14回 Final presentations
 - 第15回 Final presentations (cont'd)
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

ktu-e-learn.net

<http://ktu-e-learn.net/>

We will use this site weekly for submitting and sh

2014 Syllabus

科目名 Writing & Academic Presentation III

担当者 栗田 梨津子

テーマ

アカデミック・ライティングおよびプレゼンテーション演習

獲得目標

学術的なテーマに関する英語でのライティングおよびプレゼンテーションの基本技能を習得し、自分の考えを明快に表現できるようになること。

授業の内容

英語のレポートまたは論文作成の基本となるパラグラフの書き方、議論の展開の仕方、文体について学ぶと同時に、ボディランゲージや視覚資料などを用いて自分の考えを効果的に伝えるための技能を身につけていきます。

内 容

- 第1回 授業概要の説明 Unit 1: The Researched Essay (Part 1-2)
 - 第2回 Unit 1: The Researched Essay (Part 3-4)
 - 第3回 プレゼンテーション1-1
 - 第4回 プレゼンテーション1-2
 - 第5回 Unit 2: Comparison-Contrast Essays (Step 1-2)
 - 第6回 Unit 2: Comparison-Contrast Essays (Step 3-4)
 - 第7回 プレゼンテーション2-1
 - 第8回 プレゼンテーション2-2
 - 第9回 Unit 3: Cause-and-Effect Essays (Step 1-2)
 - 第10回 Unit 3: Cause-and-Effect Essays (Step 3-4)
 - 第11回 Unit 4: Argumentative Essays (Step 1-2)
 - 第12回 Unit 4: Argumentative Essays (Step 3-4)
 - 第13回 プレゼンテーション3-1
 - 第14回 プレゼンテーション3-2
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

毎回テキストの指定された範囲を予習し、単語や文法などを調べてきてください。

教科書

Effective Academic Writing 3 (second edition)

著者: Rhonda Liss & Jason Davis

出版社: Oxford University Press

出版年: 2012

ISBN:

参考書

マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)

著者: Raymond Murphy

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

成績評価

a30202a512

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

授業中課題として英文エッセイ(1,200 words)を提出してもらいます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation III <c>**

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Writing and presentation on academic and cultural topics for SAP

獲得目標

(1) To familiarize the students with more advanced forms of expression and more sophisticated writing styles (2) To develop intermediate presentation skills (3) To reinforce PowerPoint skills and equip students with more advanced PowerPoint functions

授業の内容

This class will prepare SAP, GFP and GIP students for the more sophisticated types of report and presentations that they will be required to produce when abroad. The content will vary from the personal to current affairs. This class will be taught in English

内 容

- 第1回 Writing Preparation: a personal topic
 - 第2回 Writing Preparation: a personal topic
 - 第3回 Student presentations
 - 第4回 Writing Preparation: a cultural topic
 - 第5回 Writing Preparation: a cultural topic
 - 第6回 Student presentations
 - 第7回 Writing Preparation: a current affairs topic
 - 第8回 Writing Preparation: a current affairs topic
 - 第9回 Student presentations
 - 第10回 Writing Preparation: an academic topic
 - 第11回 Writing Preparation: an academic topic
 - 第12回 Student presentations
 - 第13回 Writing Preparation: for final essay (data and statistics)
 - 第14回 Writing Preparation: for final essay (text)
 - 第15回 Final essay and assessment
-

授業以外での学習方法

Reading of English newspapers and magazines

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a30202a513

Students will be required to produce at least three presentations, one of which must be PowerPoint; and a final essay of 1,200 words.

参考URL

2014 Syllabus科目名 **英語学**

担当者 久保田 美佳

テーマ

What is English language? What are its characteristics?

獲得目標

①To learn the basics of English linguistics ②To deepen understanding of the history, grammar, and social significance of the English language.

授業の内容

English is said to be the native language of 350 million people, an official language of 400 million people, and a second language (of various proficiency levels) of 1 billion people. The class is designed to study the English language from a variety of perspectives in order to answer the questions, "What is English language?" and "What are its characteristics?" This class is mostly conducted in English.

内 容

- 第1回 English linguistics: Overview English as a global language
- 第2回 Language and Culture
- 第3回 English Phonetics
- 第4回 First Language Acquisition
- 第5回 American English and Other English Varieties.
- 第6回 Pidgin English and Creole English
- 第7回 Future of English, English in Asia
- 第8回 Spelling and English Pronunciation
- 第9回 English Vocabulary
- 第10回 English Grammar
- 第11回 English Onomatopoeia
- 第12回 Social Dialects of English (Class-based Dialects, Black English, etc.)
- 第13回 The Importance of Language
- 第14回 Modern Linguistics
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

Students are required to read the designated sections of the textbook BEFORE coming to each class. (i.e. Students are expected to do some reading outside the class.) Also, since the lectures are mostly given in English, students are advised to study the r

教科書

Twenty-Six Short Essays on English

著者: 清水克正、Naoyuki Akaso, William Herlofsy

出版社: 英宝社

出版年: 2013

ISBN: 4-269-41018-9

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

参加度 (0)

小テスト (80)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **通訳基礎論**

担当者 西村 友美

テーマ

通訳入門

獲得目標

(1) 基本的な通訳訓練法を身につける。(2) 通訳過程を理解し、簡単な逐次通訳・同時通訳ができるようになること。

授業の内容

聞いたことを瞬時に口頭で訳す通訳者の頭の中はどうなっているのだろう。通訳をいろいろな角度から観察したり、解剖してその中身を覗いてみよう。授業では簡単な通訳を練習し、日本の諸相を英語話者に紹介する場面でボランティアで通訳できるようになることをめざす。また、プロとして活躍する通訳者はきわめて高い語学力を持っていると言われる。この授業では、シャドーイングをはじめ、一般の語学学習にもたいへん効果があるといわれる通訳訓練を実際におこなうことによって、受講生の英語力全般を養成する。

内 容

- 第1回 通訳とは、通訳実例の観察
- 第2回 Unit 1 自己紹介、通訳実例の分析
- 第3回 Unit 2 社会、クイック・リスパンス
- 第4回 Unit 3 大学生生活、シャドーイング(1)
- 第5回 Unit 4 教育(留学)、シャドーイング(2)
- 第6回 Unit 5 社会(ファッション)、スラッシュ・リーディング
- 第7回 Unit 6 医療(メタボリック症候群)、サイト・トランスレーション
- 第8回 Unit 7 日本文化(アニメ・漫画)、中間まとめ
- 第9回 Unit 8 教育(ボランティア活動)、逐次通訳(1)
- 第10回 Unit 9 社会(長寿社会)、逐次通訳(2)
- 第11回 Unit 10 国際交流Ⅰ(実践演習)、逐次通訳(3)
- 第12回 Unit 11 日本文化(伝統的な行事)、同時通訳(1)
- 第13回 Unit 12 環境、同時通訳(2)
- 第14回 Unit 13 国際交流Ⅱ(実践演習)、「「On-line の理解」の解剖と日英語対照研究
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で紹介する通訳トレーニングを毎日実行すること。通訳のトレーニングを別の場で試してみることを、応用してみることを。

教科書

TOEIC150点アップを目指す 通訳訓練法

著者: 越智 美江

出版社: 大阪教育図書

出版年: 2010

ISBN:

参考書

授業で指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a30202d710

試験 (70)
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **International Business English**

担当者 弓場 俊也

テーマ

国際ビジネスにおける実践的英語コミュニケーション力と貿易実務の習得

獲得目標

わが国の貿易は自由化されており、世界の動向も自由貿易協定(FTA)や経済連携協定(EPA)更には環太平洋経済連携協定(TPP)など各国間で通商規制を緩和して貿易をより自由に行える潮流になっている。情報機器、物流システムの進歩により商社、専門家を通しての間接貿易から、一般の会社、個人による直接貿易へ形態も変化してきた。そしてインターネットの普及により国際ビジネスコミュニケーションも従来のいわゆる「コレポン」商業英語からEメールが主流になった。それにともない新しい貿易実務対応が求められている。貿易はモノ・カネ・サービスの国際取引であるが、海外のビジネスパートナーと信頼関係を築くためには国際ビジネスにおける公用語として英語によるコミュニケーションが必須である。ビジネス英語は英語力だけではなく貿易取引全体の仕組みについて知識、貿易実務、専門用語まで幅広い習得が必要である。ビジネスの現場で使われる英語はそれほどレベルの高いものではないが、シンプルで的確に意図を相手に伝えられる実践的なものでなければならない。またスムーズに商談交渉を進めるためには異文化理解能力も国際ビジネスパーソンには必要である。将来国際ビジネスに係る人が最低限身につけておくべき実践英語力として、日商ビジネス英語検定3級の合格レベルを目指す。

授業の内容

国際商取引に必要な英文ビジネス・ライティングおよび貿易基礎知識を解説します。

内 容

- 第1回 英文ビジネスライティングの概要
- 第2回 海外取引の基本的な流れ
- 第3回 英文ビジネスレター・Eメールの基礎
- 第4回 海外取引先とビジネス交渉の流れ
- 第5回 英文ビジネスレターの構成と表現
- 第6回 貿易における国際ルール
- 第7回 英文ビジネスライティングの応用
- 第8回 国際取引に使われる英文書類
- 第9回 英文契約書の考え方と理解
- 第10回 インコタームズとは
- 第11回 国際物流で使われる英語
- 第12回 英文ビジネスレター(ケーススタディ)
- 第13回 海外決済と外国為替で使われる英語
- 第14回 国際ビジネスにおける異文化理解とビジネス英語のコンテキスト
- 第15回 総括と確認

授業以外での学習方法

教科書

日商ビジネス英語検定3級公式テキスト

著者： 日本商工会議所編

出版社： 日本能率協会マネジメントセンター

出版年： 2012年10月20日初版

ISBN: 9784820748045

参考書

成績評価

a30202d810

試験 (33%)

小テスト (33%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (34%)

毎講義時に実施するミニテストと学期末試験および出席日数により評価します。期間中に日商ビジネス英語検定3級に合格した者は最終評価を特別加点します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語教育論**

担当者 金山 敬

テーマ

英語教育、現在の日本の英語教育の問題点を提起し、国際理解と英語教育のあるべきすがたについて考える。

獲得目標

英語教育を理論面および実践面から概観し、考察する。

授業の内容

英語教育の基本理念、言語習得理論の基礎、国際理解などを学びながら、英語教育のあり方を考察する。、

内 容

- 第1回 ガイダンス(国際理解教育と英語教育の問題点、そのあり方)
 - 第2回 第1章 英語教育の基本理念
 - 第3回 第2章 第二言語習得(言語習得理論の基礎)
 - 第4回 第3章 外国語教授法
 - 第5回 第4章 学習指導要領
 - 第6回 第1章から4章までのまとめ
 - 第7回 第5章 言語要素の指導
 - 第8回 第6章 4技能の活動
 - 第9回 第7章 授業展開
 - 第10回 第8章 教材・教具
 - 第11回 第5章から8章までのまとめ
 - 第12回 第9章 評価とテスト
 - 第13回 第10章 学習者
 - 第14回 第11章 教員養成と教員研修
 - 第15回 第9章から11章までのまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

グローバル時代の英語教育

著者: 岡 秀夫 編著

出版社: 成美堂

出版年: 2011年

ISBN: 978-4-7919-3099

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 多文化の理解と教育 <Z>

担当者 浅井 雅志・アンガス ノーマン・池田 修・金山 敬・神谷 栄司・北林 利治・佐野 仁美・西村 友美・宮嶋 邦明・八木 英二

テーマ

人間発達を「言語と人間」の視点から多面的に考察する。

獲得目標

「言語と人間」の視点による人間発達の理解を学部生に共通する教養とする。

授業の内容

授業のテーマに関して人間発達学部両学科専任教員によるリレー講義を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(神谷)
- 第2回 ことばはどのように生まれたのか——歴史的起原(神谷)
- 第3回 独り言と内的言語(宮嶋)
- 第4回 想像とウソとことば(宮嶋)
- 第5回 対話について(神谷)
- 第6回 音楽とことば(佐野)
- 第7回 美術とことば(大久保)
- 第8回 日本語の魅力(池田)
- 第9回 言語の翻訳可能性(西村)
- 第10回 滅びゆく言語(アンガス)
- 第11回 多言語主義(北林)
- 第12回 第2言語習得(金山)
- 第13回 英語公用語化論争(浅井)
- 第14回 コミュニケーションと教育改革(八木)
- 第15回 まとめ(神谷)

授業以外での学習方法

講義中に紹介された文献などを出来る限り学習する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a302033210

試験はレポートによる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語コミュニケーション演習 I <a>**

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Seminar in Translation Studies in the Community

獲得目標

1. To reinforce the translation strategies previously learned 2. To develop a linguistic flexibility of mind 3. To develop advanced English language skills and vocabulary 4. To introduce students to a variety of text translations that are directly relevant and of practical use to the Yamashina community. 5. To give students the opportunity to make academic presentations

授業の内容

In this seminar, we will revise and reinforce the various translation strategies covered in the Basic Theory of Translation class, so that students are completely familiar with them. (Any third-year students who have not already taken this class should be sure to register for it.) Then we will cover a number of different text translations that relate to the Yamashina community before students are given translation assignments, which they will then present in class, and hopeful be of actual practical use to people living and working in Yamashina, and to its visitors. This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction 1: Comparing the English and Japanese languages & discussion
 - 第2回 Introduction 2: Basic translation strategies with examples & discussion
 - 第3回 Introduction 3: Advanced translation strategies with examples & discussion
 - 第4回 Translation of a Japanese menu
 - 第5回 Student presentations (1)
 - 第6回 Translation of a Japanese tourist pamphlet
 - 第7回 Student presentations (2)
 - 第8回 Translation of a Japanese pamphlet for a historic building
 - 第9回 Student presentations (3)
 - 第10回 Translation of a Japanese cultural event text
 - 第11回 Student presentations (4)
 - 第12回 Translation of a Japanese map for tourists
 - 第13回 Student presentations (5)
 - 第14回 Choosing the translation projects for second semester
 - 第15回 Final Discussion and Conclusions
-

授業以外での学習方法

Reading general introductory materials on translation and translation studies. Careful checking of any translated material related to the Yamashina and Kyoto areas: English pamphlets, tourist information in English etc.

教科書

参考書

翻訳の基礎

著者: 宮脇 孝雄

出版社: 研究社出版

出版年: 2000

ISBN: 9784327451417

A Textbook of Translation

著者: P. Newark

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988

ISBN: 9780139125935

In Oher Words

著者: M. Baker

出版社: Routededge

出版年: 2011

ISBN: 9780415467543

The Translation Studies Reader

著者: L. Venuti

出版社: Routededge

出版年: 2004

ISBN: 9780415319201

Theories of Transaltion

著者: J. Biguenet

出版社: Chicago Guides

出版年: 1992

ISBN: 9780226048710

翻訳はいかにすべきか

著者: 柳瀬 尚紀

出版社: 岩波新書

出版年: 2000

ISBN: 9784004306528

実践翻訳の技術

著者: 別宮 貞徳

出版社: ちくま学芸文庫

出版年: 2006

ISBN: 9784480090287

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I

担当者 浅井 雅志

テーマ

文化の理解をとおして自分への理解を深める

獲得目標

「文化」とは不思議なもので、まるで魚を取り巻く水のようにわれわれを取り巻いている。自分という人間は文化の産物なのに、その文化がよくわからないから自分という存在もよくわからないでいる。明治以降の巨大な変化、さらに近年ではいわゆる「グローバル化」の急激な進行の中で、日本人は「アイデンティティ・クライシス」に陥っているようにも見える。そんな中にいるから、わかりにくい自分が余計見えにくくなっている。—こんな状況を乗り越えるべく、文化というものをその深層から理解することを通して自分という不可思議な存在の理解を深めよう。

授業の内容

エドワード・ホールという著名な文化人類学者の本を読みつつ、上記の「目標」を実践してみたい。具体的には、毎回の授業で担当者が、レジュメを用意して口頭発表し、教員が必要な補足説明を加え、それをもとにディスカッションをする。学期末にはペーパーを提出する。欠席が6回以上になると単位が認められない。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 Beyond Culture Chap. 1
- 第3回 Beyond Culture Chap. 2
- 第4回 Beyond Culture Chap. 3
- 第5回 Beyond Culture Chap. 4
- 第6回 Beyond Culture Chap. 5
- 第7回 Beyond Culture Chap. 6 (1)
- 第8回 Beyond Culture Chap. 6 (2)
- 第9回 Beyond Culture Chap. 7
- 第10回 Beyond Culture Chap. 8
- 第11回 Beyond Culture Chap. 9
- 第12回 Beyond Culture Chap. 10
- 第13回 Beyond Culture Chap. 11
- 第14回 Beyond Culture Chap. 12 (1)
- 第15回 Beyond Culture Chap. 12 (2); 総括; ペーパー提出

授業以外での学習方法

授業でやる章は必ず読んでくる。関連文献を読む。それ以外は授業で適宜指示する。

教科書

Beyond Culture

著者: Edward T. Hall

出版社: Anchor Books

出版年: 1989

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I <c>

担当者 西村 友美

テーマ

アカデミック・スタディ・スキルの養成と通訳学入門

獲得目標

(1) SAP参加から得た問題意識をより深く追求する。(2) 通訳を一つの研究領域として学ぶ。(3) 通訳を通じて異文化コミュニケーションについて考え、かつ実際の異文化コミュニケーション能力の向上を図る。

授業の内容

日本語と英語の比較に関心がある。人が言語を超えて理解するとはどんなことなのか知りたい。——そのような関心や疑問を、通訳を通じて考えてみよう。また、文献のみならず自ら通訳を実践しながら考えよう。そのために通常の授業での通訳訓練だけでなく、学外にも出て、京都の名所を英語でガイドしたり、通訳ボランティアなどを実践する。そうして考えたことを論理的に表現する訓練をする(教科書の使用)。さらに、橘での残り2年間をどのような目標をもって進むのかを考え、ゼミの活動を通じてそれを実行する。ゼミ生どうしの絆をしっかりとつくり、卒業後の生き方を考えることもゼミの重要な活動となる。★★受講者は原則として「通訳基礎論」を既に履修済みであることが望ましい。履修していない者でこの演習の受講を希望する者は、事前学習教材を指示するので担当教員まで申し出てください。★★この授業を履修する学生はさらに通訳技能のブラッシュアップを目指し、「通訳研究」を同時履修することが好ましい。

内 容

- 第1回 スタディ・スキルとは
- 第2回 プレゼン1回目、逐次通訳演習
- 第3回 プレゼン1回目、逐次通訳演習
- 第4回 プレゼン1回目、逐次通訳演習
- 第5回 通訳学文献研究、通訳演習
- 第6回 通訳学文献研究、通訳演習
- 第7回 通訳学文献研究、通訳演習
- 第8回 通訳学文献研究、同時通訳演習
- 第9回 通訳学文献研究、同時通訳演習
- 第10回 プレゼン2回目、同時通訳演習
- 第11回 プレゼン2回目、同時通訳演習
- 第12回 プレゼン2回目、同時通訳演習
- 第13回 通訳ガイド(情報収集と練習)
- 第14回 通訳ガイド(情報収集と練習)
- 第15回 学外授業(京都英語観光ガイド)

授業以外での学習方法

教科書

不実な美女か貞淑な醜女か

著者： 米原万里

出版社： 新潮社

出版年： 1997

ISBN:

参考書

授業で指示する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I <d>

担当者 北林 利治

テーマ

英語を習得するとはどういうことかを問い直す

獲得目標

①外国語を身につけるという現象をさまざまな観点から考察し、第2言語習得論について理解を深める。②外国語を身につけるにあたって不可欠である「文法」を、コミュニケーションという観点から問い直し、現在の文法研究について理解を深める。③クラスで効果的なプレゼンテーションが行えるように、また、説得力のあるレポートを書くことができるようにする。

授業の内容

わたしたちは、長い期間、英語という外国語を勉強してきた。相当な努力をして、勉強をしても、母語のように容易に外国語を操ることはできない。母語の習得と外国語の習得の違いは一体どこにあるのだろうか。新聞、ネットの広告には、「聞き流すだけでペラペラ英語」とかさまざまな英語の習得法を見かける。いったい、外国語を身につけるという現象とはどういうメカニズムが働いているのだろうか。外国語の習得にあたっていつも問題になることは、〈文法〉をどう扱うかという問題である。文を作らないと、単語を発するだけではコミュニケーションは成り立たないから、〈文法〉が外国語の習得において不可欠なことは当たり前と言え、その〈文法〉とは、必ずしも、受験で暗記する参考書に書いてあるような文法や、いつも悪者にさせられている役に立たない英文法であるとはいえない。真の意味でコミュニケーションに役立つ文法とはどういうものなのだろうか。このクラスでは、下記の教科書と補足の参考文献(プリント配布)を受講生のプレゼンテーションを中心にして読み進めながら、さまざまな観点から「外国語を身につけるという現象」を考察し、近年、目覚ましい発展をとげている第2言語習得論についての理解を深めていきたい。そして、同時に、言語を習得するにあたって、〈文法〉をどう理解したらよいのかという問題についても考えてみたい。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 プレゼンテーションの基礎
- 第3回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第4回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第5回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第6回 アカデミックライティングの基礎①
- 第7回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第8回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第9回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第10回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第11回 アカデミックライティングの基礎②
- 第12回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第13回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第14回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第15回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論

授業以外での学習方法

クラスで参考文献を紹介するので、文献をたくさん読むこと。

教科書

外国語学習の科学: 第二言語習得論とは何か

著者: 白井恭弘

出版社: 岩波新書

出版年: 2008

ISBN: 978400431150-8

〈英文法〉を考える

著者： 池上嘉彦

出版社： ちくま学芸文庫

出版年： 1995

ISBN： 978448008230-5

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (40)

参加度 (10)

3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I <e>

担当者 金山 敬

テーマ

児童英語教育 言語習得と英語教育 多文化理解とコミュニケーション

獲得目標

自分の興味関心は何か。それを見つけ、どのように取り組み、研究していくかを考察する。日本の英語教育、特に児童期の英語教育の果たすべき役割の研究 世界の人々とよりよい理解と関係を築くためのコミュニケーション研究など

授業の内容

いかに論文に取り組んでいくか、論文はどのようにして書くのかをまず、研究し、それとともに自分のテーマを見つける。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方 1
- 第3回 論文の書き方 2
- 第4回 研究討議
- 第5回 自分のテーマ探し 1
- 第6回 自分のテーマ探し 2
- 第7回 研究発表と討議 1
- 第8回 研究発表と討議 2
- 第9回 自分のテーマのより深い考察研究 1
- 第10回 自分のテーマのより深い考察研究 2
- 第11回 研究発表と討議 1
- 第12回 研究発表と討議 2
- 第13回 パワーポイントによる発表 1
- 第14回 パワーポイントによる発表 2
- 第15回 振り返りとまとめ

授業以外での学習方法

自分のテーマに沿った文献を読む。論文の書き方についての本を読む。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a30203a115

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (40%)

積極的かつ意欲的な授業態度を高く評価します。

小テスト ()

授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus**科目名 Critical Reading I <a>**

担当者 芝原 妙子

テーマ

This class is designed to increase students' English reading skills and develop their insights to the topics of reading materials.

獲得目標

The overall objectives of this class is not only to enhance reading skills made in the first and second years, but also to encourage students to form their own opinions and thoughts to relate to the ideas in the text.

授業の内容

The Text: Students are responsible for completing the readings for the day they are assigned. They should come to class prepared with two to three questions. Questions should be designed to generate interesting discussions and critical thinking about the reading. This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction and course description Unit 1-1 Education and Gender
 - 第2回 Unit 1-2 Education and Gender
 - 第3回 Unit 2-1 Global Warming
 - 第4回 Unit 2-2 Global Warming
 - 第5回 Unit 3-1 Drinking Water
 - 第6回 Unit 3-2 Drinking Water
 - 第7回 Unit 4-1 Poverty and Hunger
 - 第8回 Unit 4-2 Poverty and Hunger
 - 第9回 Unit 5-1 Fighting Disease
 - 第10回 Unit 5-2 Fighting Disease
 - 第11回 Unit 6-1 Terrorism
 - 第12回 Unit 6-2 Terrorism
 - 第13回 Unit 7-1 Internment
 - 第14回 Unit 7-2 Internment
 - 第15回 Review and Presentation
-

授業以外での学習方法

Read newspapers, magazines, and journals.

教科書

Global Issues Towards Peace

著者: Keiso Tatsukawa and others

出版社: Nan'un-do

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (35)

参加度 ()

小テスト (15)

授業中発表等 (20)

a30203a310

Since the readings and the class sessions in this course complement rather than repeat each other, it is extremely important that you be in class, on time and prepared, each day. Please do the day's reading before coming to class, and be prepared to discuss and ask questions about the reading assignments. You are expected to participate in discussion and turn in the papers on the scheduled days. Unexpected late papers are penalized. For example, a B paper would be recorded as a C. Without prior arrangements, there will be no make-ups for the presentations or the quizzes and exams.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Critical Reading I **

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Academic English Reading Course on Intercultural Communication

獲得目標

1. To develop academic reading skills that will be of use when the students are preparing for their graduation theses 2. To develop academic vocabulary 3. To provide the students with a practical knowledge of the academic field of intercultural communications

授業の内容

In this course we will read a number of independent texts on various aspects of the main theme, intercultural communication. The texts should build into a portfolio that will increase the students competence in intercultural situations, as well as more advanced reading skills.

内 容

- 第1回 Chen & Starosta: Intercultural Communication Competence (1)
 - 第2回 Chen & Starosta: Intercultural Communication Competence (2)
 - 第3回 Identity (1): The Enculturation Process & Seamus Heaney, 'Punishment'
 - 第4回 Defamiliarization Texts: Aristophanes, The Desire and Pursuit of the Whole; Craig Raine, 'A Martian Sends a Postcard Home'
 - 第5回 The Concept of the 'Other' Vocabulary and Idiom Test (1)
 - 第6回 'Soft' and 'Hard' Cultural Attitudes
 - 第7回 The Japanese and English Languages
 - 第8回 Different Ways of Thinking – content and processes
 - 第9回 Religion, Ethics, World Views and Values
 - 第10回 Identity (2): Stereotyping Vocabulary and Idiom Test (2)
 - 第11回 The Absolute Self and the Movable Self – the individual and the group
 - 第12回 Nonverbal Communication
 - 第13回 Culture and Reverse Culture Shock
 - 第14回 Trompanaar's Seven Dimensions of Culture
 - 第15回 Cultural Conflict and Resolution: Kirkup, 'East Meets West' Final discussion and evaluation
-

授業以外での学習方法

Oxford Bookworm Graded Readers (Levels 3–6) Reading English texts on the main topic of intercultural communication and its sub-topics

教科書

参考書

The Global Intercultural Communication Reader

著者: M.F. Asante

出版社: Routledge

出版年: 2008

ISBN: 0-415-95813-4

成績評価

試験 (20%)

授業中課題 (30%)

小テスト (20%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus**科目名 言語理論研究****担当者 久保田 美佳**

テーマ

Understanding language and linguistics

獲得目標

The objective of this course is to give students a way of understanding what language is, what role it plays in our society, and how it is related to the way we think and perceive the world around us.

授業の内容

In order to communicate in a native or a second or third language, it is important to know what language is, and how it can be used or misused in communication. This class is designed to give an overview of linguistics as a discipline, as well as to have the students think for themselves, what communication and language use is all about.

内 容

- 第1回 What are words?
- 第2回 How are words made?
- 第3回 Is there such thing as a "primitive" language?
- 第4回 What determines the size and content of vocabulary?
- 第5回 What is grammar?
- 第6回 How important is the word order?
- 第7回 Does a language always stay as it is? Or, is it always changing?
- 第8回 Do some languages die out? Why?
- 第9回 How is a language related to society?
- 第10回 What is linguistic sexism? Do men and women speak the same language?
- 第11回 How do people acquire their first language?
- 第12回 Is learning a second language different from learning the first language?
- 第13回 What does it mean to be bilingual?
- 第14回 How is language related to mind and cognition?
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

Students are expected to read the assignments before coming to the class. For the presentations in English, students will be required to research materials related to the issue on their own.

教科書

Hand-outs

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 ()

小テスト (80)

授業中発表等 (20)

a30203d210

This class will be conducted in English.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 国際ビジネス実務演習 I

担当者 弓場 俊也

テーマ

国際ビジネスパーソンに必要な貿易実務と適応能力を養い、海外取引の多様なフィールドで活躍できる実践的能力を身につける。

獲得目標

地球規模で経済活動が普通に行われるグローバル化の時代に入り、民族、国籍、文化など異なる人々が国境を越えてビジネスをする機会が増えてきました。特に新興国の人口増加、経済成長力は世界経済で重要な地位を占めることとなります。日本は人口減により国内の市場が縮小する中、大企業だけでなく、中小企業もこれからは世界に市場を求める方向に急速変化せざるを得ないでしょう。本講義は貿易取引をスムーズに行うために必要な基礎知識を学び、具体的には最近の貿易概要、国際ビジネスパーソンが知っておかなければならない国際ルール、海外取引先との引き合いから契約に至るまでの貿易交渉の流れ、海外決済方法、通関手続きを含む国際物流など実践的貿易実務を学びます。特に国内と異なるビジネス風土、習慣に対して異文化理解も大切な要素となります。貿易業務にはさまざまな業種がありますが、貿易実務全体像を学ぶことにより、将来どんな国際ビジネス分野に就いたとしても現場で即戦力となることが可能になります。

授業の内容

将来国際ビジネスに携わるうえで必要な貿易実務と実践的ノウハウを概説します。また貿易実務関係の資格試験合格を目指す人にも参考になります。

内 容

- 第1回 近年における国際ビジネス概況
- 第2回 貿易取引の流れと全体像の理解
- 第3回 国際取引交渉、マーケティング、信用調査
- 第4回 国際取引における発注と受注の仕組み
- 第5回 インコタームズ(定型貿易条件)の解説
- 第6回 国際契約書の基礎知識
- 第7回 国際契約のケーススタディ
- 第8回 外国為替の基礎知識
- 第9回 海外決済の方法と種類
- 第10回 信用状決済の仕組み
- 第11回 国際物流の仕組み
- 第12回 海上貨物と航空貨物
- 第13回 輸出入通関手続きについて
- 第14回 国際ビジネスにおける異文化理解
- 第15回 総括と確認

授業以外での学習方法

教科書

貿易実務のエッセンス

著者： 勝田英紀

出版社： 中央経済社

出版年： 2012年2月10日

ISBN： 9784502693809

参考書

成績評価

試験 (34%)

小テスト (33%)

a30203d510

授業中課題（0%）

授業中発表等（0%）

参加度（33%）

毎講義時に実施するミニテストと学期末試験および出席日数により評価します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Workshop I <a>

担当者 弥永 啓子

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

7月のTOEIC試験で700点以上を目指す。Part 5頻出の文法項目を理解する。

授業の内容

TOEIC試験得点アップのため、リーディングセクションの文法・語彙パートの頻出項目を講義、演習、グループワークで学んでゆく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 リスニング、読解問題の典型的なパターン
 - 第3回 品詞(1)、Listening Part 1
 - 第4回 品詞(2)、Listening Part 2
 - 第5回 代名詞(1)、Listening Part 3
 - 第6回 代名詞(2)、Listening Part 4
 - 第7回 比較(1)、読解: 広告
 - 第8回 比較(2)、読解: 広告
 - 第9回 形容詞(1)、読解: 申込書
 - 第10回 形容詞(2)、読解: 申込書
 - 第11回 復習、実践問題
 - 第12回 時制(1)、読解: 手紙、Eメール
 - 第13回 時制(2)、読解: 手紙、Eメール
 - 第14回 態(1)、読解: 掲示
 - 第15回 態(2)、読解: 掲示
 - 第16回 主述一致(1)、読解: 求人
 - 第17回 主述一致(2)、読解: 求人
 - 第18回 不定詞と動名詞(1)、読解: 記事
 - 第19回 不定詞と動名詞(2)、読解: 記事
 - 第20回 復習、実践問題
 - 第21回 接続詞(1)、読解: 保証書
 - 第22回 接続詞(2)、読解: 保証書
 - 第23回 前置詞(1)、読解総合問題
 - 第24回 前置詞(2)、読解総合問題
 - 第25回 関係詞(1)、読解総合問題
 - 第26回 関係詞(2)、読解総合問題
 - 第27回 分詞(1)、読解総合問題
 - 第28回 分詞(2)、読解総合問題
 - 第29回 総復習、実践問題(1)
 - 第30回 総復習、実践問題(2)
-

授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施し、毎週リスニングを中心とする宿題を課すので、これらをしっかりとこなすようにしてください。

教科書

Listening Guide to the TOEIC Test

著者: Bruce Rogers

出版社: Cengage Learning

出版年: 2007

ISBN: 9784902902693

TOEICテスト書き込みドリル スコア650文法編

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2010

ISBN: 4342000067

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (60%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。3. 成績評価の留意点 上記試験成績は7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(前期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。成績評価の20%はTOEICスコアに基づくものとします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Workshop I

担当者 栗田 梨津子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEICテストのスコアアップ(7月のテストで550点以上)を目標に、様々な場面で用いられる実践的な英語を正確かつ迅速に理解できるようになるためのスキルを身につけること。

授業の内容

TOEICテストの頻出事項をおさえながら、各セクションで正解率を上げるための基礎的な語彙・文法力を強化します。※注意事項 1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC450点以上の学生が対象となります。450点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。

内 容

- 第1回 授業概要の説明 TOEIC対策のための学習方法に関する説明
- 第2回 リスニング(写真描写問題)、文法(品詞)
- 第3回 リスニング(写真描写問題)、文法(代名詞)
- 第4回 問題演習
- 第5回 リスニング(応答問題)、文法(比較)
- 第6回 問題演習
- 第7回 リスニング(応答問題)、文法(形容詞・代名詞の働きをする語句)
- 第8回 問題演習
- 第9回 リスニング(会話問題)、文法(時制)
- 第10回 問題演習
- 第11回 リスニング(会話問題)、文法(態)
- 第12回 問題演習
- 第13回 リスニング(会話問題)、読解(広告)
- 第14回 問題演習
- 第15回 リスニング(説明文問題)、読解(請求書、申込書)
- 第16回 問題演習
- 第17回 リスニング(説明文問題)、読解(手紙、Eメール、ファックス)
- 第18回 問題演習
- 第19回 リスニング(説明文問題)、読解(お知らせ、掲示、社内回覧)
- 第20回 問題演習
- 第21回 リスニング(説明文問題)、読解(求人)
- 第22回 問題演習
- 第23回 リスニング(説明文問題)、読解(記事)
- 第24回 問題演習
- 第25回 模擬試験1
- 第26回 模擬試験1の解説
- 第27回 模擬試験2
- 第28回 模擬試験2の解説
- 第29回 模擬試験3
- 第30回 模擬試験3の解説

授業以外での学習方法

毎回課題と小テストをしっかりとこなしてください。

教科書

TOEICテスト書き込みドリル スコア650 文法編

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： 2010

ISBN:

Quick Start for the TOEIC Test Level 2

著者： Kazushige Cho他

出版社： Macmillan Language House

出版年： 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (60)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

上記試験成績は、7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(前期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPもしくは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意してください。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **English Workshop III**

担当者

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

12月のTOEIC試験で750点以上を目指す。Part 5 頻出の文法項目の理解を深めるとともに語彙力を増強する

授業の内容

TOEIC試験得点アップのため、前期 English Workshop I で学んだ文法項目を復習しながら、文法・語彙パートの実践演習と、講義、グループワークを通して理解を深めてゆく。又、進度に応じて適宜リスニング演習を授業内で行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 前期文法項目復習(1)
 - 第2回 前期文法項目復習(2), 実践練習
 - 第3回 実践演習
 - 第4回 前期文法項目復習(3), 実践演習
 - 第5回 実践演習
 - 第6回 前期文法項目復習(4), 実践演習
 - 第7回 実践演習
 - 第8回 復習、弱点確認
 - 第9回 前期文法項目復習(5), 実践演習
 - 第10回 実践演習
 - 第11回 前期文法項目復習(6), 実践演習
 - 第12回 実践演習
 - 第13回 前期文法項目復習(7), 実践演習
 - 第14回 実践演習
 - 第15回 復習、弱点確認
-

授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施し、毎週リスニングを中心とする宿題を課すので、これらをしっかりとこなすようにしてください。

教科書

TOEICテスト本番攻略リーディング10回模試(English Workshop I, II から継続使用)

著者: カン・ジンオー、カン・ウオンジー

出版社: 学研

出版年: 2010

ISBN: 9784053032034

The TOEIC Test Trainer, Listening Supplement

著者: Geoffrey Tozer, 他

出版社: Cengage Learning

出版年: 2007

ISBN: 9784902902860

参考書

成績評価

試験（20%）

小テスト（60%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（0）

参加度（0）

上記試験成績は12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(後期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童英語教育研究

担当者 金山 敬

テーマ

幼児や児童の英語教育について

獲得目標

小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらよいかを異文化理解と英語教育のあり方について、実践と理論の両側面から考察する。

授業の内容

実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つ歌、ライム、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。

内 容

- 第1回 ガイダンス(異文化理解と英語教育について)
 - 第2回 英語の指導技術について
 - 第3回 歌の指導法
 - 第4回 歌指導の発表 I
 - 第5回 歌指導の発表 II
 - 第6回 ナーサリーライムの指導法
 - 第7回 ナーサリーライム指導の発表 I
 - 第8回 ナーサリーライム指導の発表 II
 - 第9回 フォニックスの指導法
 - 第10回 フォニックス指導の発表 I
 - 第11回 フォニックス指導の発表 II
 - 第12回 異文化理解教育について
 - 第13回 異文化理解を促す指導の発表 I
 - 第14回 異文化理解を促す指導の発表 II
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

a30203e410

授業への積極的な取り組みと意欲的な態度を高く評価します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **児童英語指導演習 I**

担当者 金山 敬

テーマ

児童英語教育の実践のための演習

獲得目標

児童英語教育のあるべき教育内容の考察とその実践のための実習

授業の内容

児童英語教育の目的と意義を理解し、実際に小学校や幼稚園において英語活動を行うのに必要なカリキュラムの考察および作成、そして近隣の公立小学校における観察実習と短期実習

内 容

- 第1回 ガイダンス(児童英語教育の目的と意義)
- 第2回 "Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議①
- 第3回 "Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議②
- 第4回 "Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議③
- 第5回 "Hi, friends!"を使った模擬授業①
- 第6回 "Hi, friends!"を使った模擬授業②
- 第7回 "Hi, friends!"を使った模擬授業③
- 第8回 公立小学校における英語活動の観察実習一低中学年
- 第9回 公立小学校における英語活動の観察実習一高学年
- 第10回 小学校における観察実習の報告と討議
- 第11回 私立幼稚園における課外英語授業の観察実習
- 第12回 幼稚園における観察実習の報告と討議
- 第13回 実習反省会(教室運営、指導力についての評価)①
- 第14回 実習反省会(教室運営、指導力についての評価)②
- 第15回 まとめ(観察実習の総括と児童英語教育の意義の再確認)

授業以外での学習方法

公立小学校の英語活動および私立幼稚園の課外英語授業の観察実習

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

Hi, friends! 1

著者: 文部科学省

出版社: 東京書籍

出版年: 2012年

ISBN: 9784487258833

Hi, friends! 2

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年： 2012年

ISBN: 9784487258840

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (40%)

授業への積極的な取り組みを評価します

小テスト ()

授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ <a>

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

卒業論文作成に向けて Translation Seminar

獲得目標

卒業論文作成に向けて準備をする 1. To develop advanced and practical translation skills from and into English 2. To prepare students for writing an academic paper

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導 This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

Translation – An advanced resource book

著者: B. Hatim and J. Munday

出版社: Routledge

出版年: 2004

ISBN: 9780415-28305-9

In Other Words – A coursebook on translation

著者: Mona Baker

出版社: Routledge

出版年: 2011

ISBN: 9781415-46754-4

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ

担当者 浅井 雅志

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文作成に向けて準備をする

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ <c>

担当者 西村 友美

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文作成に向けて準備をする

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (60%)

参加度 (40%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (0%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ <d>

担当者 北林 利治

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文作成に向けて準備をする

授業の内容

内容は、卒業論文作成に向けて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。従業の進め方の概要は以下の通り。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。○中間発表後、執筆要項、注意事項など細部について指導する。○論文作成に向けての個別指導

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

授業以外での学習方法

卒業論文の執筆に向けて、先行研究の小レポートや報告をクラスでのプレゼンテーション以外にも随時行ってもらおう。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

a302040114

欠席が3分の1を超える場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ <e>

担当者 金山 敬

テーマ

卒業論文作成に向けて Translation Seminar

獲得目標

卒業論文作成に向けて準備をする 1. To develop advanced and practical translation skills from and into English 2. To prepare students for writing an academic paper

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導 This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

Translation – An advanced resource book

著者: B. Hatim and J. Munday

出版社: Routledge

出版年: 2004

ISBN: 9780415-28305-9

In Other Words – A coursebook on translation

著者: Mona Baker

出版社: Routledge

出版年: 2011

ISBN: 9781415-46754-4

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **経営学概論 <Z>**

担当者 今久保 幸生

テーマ

現代企業・経営の基礎を学ぶ

獲得目標

現代企業・経営のあり方や企業・経営とその外部環境との関係に関する基礎的な理論や考え方を理解させるのが目的である。

授業の内容

教科書に即して授業を進めるが、教科書に記載されていない事柄も説明する。

内 容

- 第1回 企業経営とは
 - 第2回 企業の歴史(経営史)
 - 第3回 コーポレート・ガバナンス
 - 第4回 企業・経営管理
 - 第5回 経営戦略と組織
 - 第6回 マーケティング
 - 第7回 経営労務・人事管理
 - 第8回 組織における人の行動
 - 第9回 ものづくり
 - 第10回 ビジネスモデル
 - 第11回 サービス化
 - 第12回 経営情報システム
 - 第13回 企業の社会的責任
 - 第14回 環境経営
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

関連文献や、新聞雑誌・映像メディアなども手がかりにして、学習内容の予習・復習を行うこと。

教科書

よくわかる現代経営・第4版

著者：「よくわかる現代経営」編集委員会

出版社：ミネルヴァ書房

出版年：2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70%)

授業中課題 ()

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎解剖学**

担当者 川上 ゆかり

テーマ

正常な人体の形態と構造について学ぶ

獲得目標

本基礎解剖学は肉眼解剖学、組織学及び発生学の分野を含むが、その中で今後、専門分野を学ぶにあたり、必要と思われる基礎的知識に重点を置き、各部所を関連づけながら正常な人体の形態と構造を立体的に理解する。

授業の内容

解剖学は形態学ですので できるだけ理解しやすいよう 図や顕微鏡写真、立体模式図などを引用、テレビに写し指し示し、書き込みながら講義を進めます。特に理解を助けると思われるカラーの図やまとめは B4プリント(50枚)にして配り テキストとします。

内 容

- 第1回 概論
 - 第2回 細胞・組織
 - 第3回 骨格系
 - 第4回 筋系
 - 第5回 神経系
 - 第6回 神経系(自律神経、伝導路) 感覚系
 - 第7回 循環器系
 - 第8回 血液、脈管系
 - 第9回 呼吸器系
 - 第10回 消化器系Ⅰ
 - 第11回 消化器系Ⅱ
 - 第12回 内分泌系
 - 第13回 泌尿器系
 - 第14回 生殖器系
 - 第15回 発生
 - 第16回 総括テスト
-

授業以外での学習方法

解剖学は医学を学ぶにあたって最も基礎となる学問です。専門分野を学ぶ度、解剖学の教科書、参考書に立ち戻り、比較、確認される事でより理解を深めることができます

教科書

入門人体解剖学

著者： 藤田恒夫

出版社： 南江堂

出版年：

ISBN：

救急救命士標準テキスト

著者：

出版社： へるす出版

出版年：

ISBN：

参考書

カラー人体解剖

著者： 井上貴央 監訳

出版社： 西村書店

出版年： ISBN：

入門組織学

著者： 牛木辰男

出版社： 南江堂

出版年： ISBN：

ラングマン 人体発生学

著者： 安田峯生 訳

出版社： メディカル・サイエンス・インターナショナル

出版年： ISBN：

臨床につながる解剖学

著者： 松村讓児

出版社： 羊土社

出版年： ISBN：

成績評価

試験（100%）

小テスト（0%）

授業中課題（0%）

授業中発表等（0%）

参加度（0%）

適時行う小テスト・出席状況は、最終判定時考慮する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **生理学**

担当者 浜本 徹・藤野 和典

テーマ

基礎生理学・病態生理学

獲得目標

生命現象を主に機能的側面から学ぶ。人体の生体システムについて恒常性の維持や体組成、細胞などについて学習し、血液、神経系、循環器系などについての正常な生理的機能について理解を深める。さらに異常状態である病態生理についても学ぶ。

授業の内容

内 容

第1回	生体システムⅠ	生体の構成、細胞の構造、体液の組成
第2回	生体システムⅡ	生体維持機能
第3回	神経系の機能Ⅰ	中枢神経系
第4回	神経系の機能Ⅱ	末梢神経系、運動、知覚
第5回	神経系の機能Ⅲ	自律神経系、感覚系
第6回	呼吸系の機能Ⅰ	気道、胸郭
第7回	呼吸系の機能Ⅱ	肺、酸・塩基平衡
第8回	循環器系の機能Ⅰ	循環システム
第9回	循環器系の機能Ⅱ	心臓
第10回	血液の機能Ⅰ	血球成分と血漿成分
第11回	血液の機能Ⅱ	止血線溶機能と凝固因子
第12回	消化系機能Ⅰ	消化管機能
第13回	消化系機能Ⅱ	肝・胆・膵機能
第14回	その他	泌尿器系、生殖系、内分泌系、免疫機能
第15回	まとめ	

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（70%）

授業中課題（0%）

参加度（30%）

小テスト（0%）

授業中発表等（0%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急医学総論 I

担当者 夏目 美樹

テーマ

救急救命士の使命と基礎知識

獲得目標

救急救命士の業務遂行には、その社会的使命の理解や救急医療制度の理解そして救急医学を中心とした医学全般の知識が必要となる。本講義では、救急救命の歴史や現代の救急医療について概観し、救急救命士の業務を担保する科学的思考の基礎知識や人間の身体、心、くらしへの理解を深める。さらに、救急救命士の行う応急処置と種類、代表的な処置として心肺蘇生法の理解を、職業としての救急救命士を具体的なイメージを持てるようにする。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション、胃の倫理と生命倫理
 - 第2回 救急業務とは、救急業務の沿革
 - 第3回 病院前救護
 - 第4回 科学的思考の基礎、人間と人間生活
 - 第5回 救急救命士の役割と責任
 - 第6回 救急医療体制
 - 第7回 救急医療システム
 - 第8回 メディカルコントロール
 - 第9回 救急救命士に関する法令
 - 第10回 救急活動要領
 - 第11回 救急活動要領
 - 第12回 死者の対応要領
 - 第13回 医療保険制度
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト改訂第8版第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験（100）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

規定の講義参加度に達した者のみ試験評価を実施する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会調査・フィールドワーク入門 <Z>**

担当者 高原 正興

テーマ

社会調査・フィールドワークの意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。

獲得目標

「社会調査士」資格取得に必要な認定科目(A)に対応する授業科目として、社会調査の基本知識を身につける。

授業の内容

下記の教科書に準拠して、社会調査の基本知識を講義形式で展開する。第一に定義・目的・歴史、第二に各種調査の種類を紹介、第三に調査方法や手順の実際に関する内容を概説する。

内 容

- 第1回 社会調査とは何か 社会調査の目的
 - 第2回 社会学と社会調査の歴史
 - 第3回 調査方法論 調査倫理
 - 第4回 量的調査と質的調査
 - 第5回 国勢調査 官庁統計 事業所・企業統計調査 世論調査
 - 第6回 調査票調査
 - 第7回 調査票作成
 - 第8回 サンプリング
 - 第9回 データ化作業
 - 第10回 データ分析
 - 第11回 フィールドワークとはなにか
 - 第12回 フィールドワークの事例
 - 第13回 聞き取り調査 参与観察法
 - 第14回 ドキュメント分析
 - 第15回 (まとめ)社会調査の意義
-

授業以外での学習方法

教科書

新・社会調査へのアプローチ

著者： 大谷信介他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2013

ISBN： 623-06654-4

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **統計学基礎論**

担当者 片岡 裕介

テーマ

獲得目標

本科目は、官庁や企業が公表する統計や調査結果を理解し、あるいは、社会調査を行うときに必要となる「統計学」の基礎的な知識と態度を身につけることを目的としている。授業では、まず、社会調査における「統計」の意味・目的、「データ」の種類・性質、実際の「統計調査」の事例を学び、続いて、「量的なデータ」のうち、「一変量データ」については、単純集計、度数分布、代表値、ばらつきなど、「二変量データ」については、クロス集計、相関関係などの意味、計算の仕方、グラフの読み方・描き方を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業ガイダンス: 社会調査と統計学
 - 第2回 調査方法とデータの種類: 定性調査と定量調査、質的データと量的データ
 - 第3回 定性調査(フィールドワーク論文)の事例
 - 第4回 定量調査(官庁統計や簡単な調査報告)の事例
 - 第5回 基本統計量: 代表値
 - 第6回 基本等計量: ちらばり
 - 第7回 度数分布表とヒストグラム
 - 第8回 正規分布
 - 第9回 様々な図表化
 - 第10回 クロス集計表
 - 第11回 散布図と相関分析
 - 第12回 因果関係と相関関係
 - 第13回 3疑似相関
 - 第14回 単回帰分析
 - 第15回 順位相関分析
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

a50101d610

遅刻・早退2回を欠席1回とみなし、5回を超えて欠席すると単位を取得できない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **経営学入門**

担当者 今久保 幸生

テーマ

現代企業・経営の基礎を学ぶ

獲得目標

現代企業・経営のあり方や企業・経営とその外部環境との関係に関する基礎的な理論や考え方を理解させるのが目的である。

授業の内容

教科書に即して授業を進めるが、教科書に記載されていない事柄も説明する。

内 容

- 第1回 企業経営とは
 - 第2回 企業の歴史(経営史)
 - 第3回 コーポレート・ガバナンス
 - 第4回 企業・経営管理
 - 第5回 経営戦略と組織
 - 第6回 マーケティング
 - 第7回 経営労務・人事管理
 - 第8回 組織における人の行動
 - 第9回 ものづくり
 - 第10回 ビジネスモデル
 - 第11回 サービス化
 - 第12回 経営情報システム
 - 第13回 企業の社会的責任
 - 第14回 環境経営
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

関連文献や、新聞雑誌・映像メディアなども手がかりにして、学習内容の予習・復習を行うこと。

教科書

よくわかる現代経営・第4版

著者：「よくわかる現代経営」編集委員会

出版社：ミネルヴァ書房

出版年：2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70%)

授業中課題 ()

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 簿記演習 I

担当者 河野 充央

テーマ

獲得目標

会計データの認識・測定・伝達のプロセスを、簿記一巡の手続きを学習し理解する。同時に、企業における資金の流れを、貸借平均の原理に則って理解する

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 企業経営と簿記会計の役割
 - 第2回 複式簿記の意義と目的
 - 第3回 財務諸表の仕組み 貸借対照表と損益計算書の関係
 - 第4回 取引の分析と集計の方法 仕訳と勘定記入
 - 第5回 商品取引(1)
 - 第6回 商品取引(2)
 - 第7回 現金預金(1)
 - 第8回 現金預金(2)
 - 第9回 手形取引(1)
 - 第10回 手形取引(2)
 - 第11回 種々の債権債務(1)
 - 第12回 種々の債権債務(2)
 - 第13回 有価証券
 - 第14回 有形固定資産
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

練習問題として、プリントを配布するので、特に、復習用として活用してもらいたい。

教科書

完全合格のための日商簿記3級

著者： 大原簿記学校編

出版社： 大原出版

出版年：

ISBN：

参考書

簿記 I

著者： 武田隆二「

出版社： 税務経理協会

出版年：

ISBN：

簿記Ⅱ

著者： 武田隆二「

出版社： 税務経理協会

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（30）

授業中課題（ ）

参加度（50）

小テスト（20）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グローバルビジネス入門**

担当者 李 在鎬

テーマ

グローバル企業の世界を舞台とした戦略、管理、組織、調達、マーケティングについて学ぶ。

獲得目標

グローバル企業の経営者の観点から、グローバル経営環境を分析する基本的な枠組みを身に着ける。特に、日系企業を分析対象の中心に据えおき、海外進出の経営実践的手法とその背景にある理論的考察を行う。

授業の内容

当該分野における先行研究を踏まえた上で、海外進出を図る日系企業の経営者の視点に立って、事前検討事項から海外進出先の選定、事業計画書の作成、工場の竣工などを想定して、必要な手法と原理を学ぶ。ただし、本授業の運営においては、受講生の人数に合わせて、柔軟に行う。また、グローバルな視点から国際経済経営に関する記事にも触れ、同時代における問題意識をもつ。

内 容

- 第1回 グローバルビジネス論の概要説明
- 第2回 グローバルビジネスの環境の認識と日系企業の海外展開
- 第3回 企業はなぜグローバル化するのか。特に日系企業の進出目的を明確にする。
- 第4回 グローバルビジネス論と多国籍企業概念
- 第5回 多国籍企業論(1)ハイマーの優位性論
- 第6回 多国籍企業論(2)内部化理論
- 第7回 多国籍企業論(3)進化モデル
- 第8回 総括と理解度チェック
- 第9回 グローバル企業の経営戦略(1)
- 第10回 グローバル企業の経営戦略(2)
- 第11回 グローバル企業の組織論
- 第12回 本社と海外子会社の企業間関係
- 第13回 日本企業はグローバルスタンダードを志向すべきか、ローカルに適應すべきか。
- 第14回 グローバル市場競争に関する映像資料の鑑賞(DVD) または、グローバルビジネスに関するケーススタディーを行う。
- 第15回 全体の総括と理解度チェック、または、学外授業を行う場合がある。

授業以外での学習方法

BBCや日経テレコムなどを駆使して、海外企業や日本企業のグローバル化について調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメを中心に行う。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（70）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

受講生が少人数になった場合は、演習形式の授業を検討する。また、大人数の授業の際にも、受講生の反応や状況的要因を勘案し、必要に応じては柔軟な授業運営をする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代企業と法 I

担当者 山田 廣己

テーマ

企業とその法規制

獲得目標

企業(個人企業や会社企業)の組織や活動に関する基本的法律知識を習得する。

授業の内容

個人企業や会社企業(株式会社・合同会社・合資会社・合名会社)の組織や活動とその法規制を概観する。

内 容

- 第1回 経済活動と企業： 企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。
- 第2回 資本主義・市場経済・貨幣(金融)制度： 企業をとりまく資本主義、市場経済原理について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。
- 第3回 企業をめぐる法規制： 企業の組織や活動に関するさまざまな法律、法規定がある。たとえば、商法、会社法、民法、独占禁止法や金融商品取引法等の法律などに触れる。
- 第4回 企業の組織： 個人企業、組合、合名会社、合資会社、合同会社や株式会社の組織を説明し、さらに国内で活動する外国会社にも触れる。
- 第5回 企業の経営者・従業員： 株式会社を経営する取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。
- 第6回 企業グループ： 会社はグループを作って企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合併(ごうべん)企業についても触れる。
- 第7回 企業の資金： 企業(とくに会社)はその活動を展開するために資金を必要とする。その資金調達方法について説明する。金融市場の国際化についても触れる。
- 第8回 投資と利殖(りしょく)： 株式会社が発行する「株式」や「社債」は人々の投資・利殖の対象である。証券や金融商品の取引、商品先物取引、為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。
- 第9回 企業の失敗： 企業の事業活動が失敗に終わったとき(倒産)、どのように処理するか説明する。
- 第10回 企業の責任： 企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織活動などに関して発生するさまざまな責任を概説する。
- 第11回 競争と独占(1)： 独占禁止法の話をする。
- 第12回 競争と独占(2)： 独占禁止法の話をする。
- 第13回 企業の決済手段(1)： 手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段に決済手段について説明する。
- 第14回 企業の決済手段(2)： 手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明する。
- 第15回 総括と理解度チェック

授業以外での学習方法

新聞報道やニュース報道に接し、多くの学生の就職先である企業(会社)の組織活動に興味を持つよう心がけて下さい。

教科書

特に指定しない。

著者： 講義レジュメ配布。

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

携帯用法令集(必ず用意してください)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間中ごろにレポート提出を求める。最終講義日に小テストを実施する(必ず受験してください)。以上を総合的に判断して評価する。毎回積極的に講義に参加し、集中して話を聞き、積極的に質問してほしい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 医療概論

担当者 石橋 修

テーマ

医療概論と臨床医学総論

獲得目標

医療概論では、医学医療の歴史から制度、現代直面する問題を大きな視点で概括し、理解することを目指します。臨床医学総論では、臨床医学を学ぶ上での基本的な考え方と知識を説明し、今後の医学分野の学習の基礎を作ることを目指します。

授業の内容

診療情報管理士テキストに沿って講義します。時間が許せば医療現場での具体的な事例等を提示してイメージを持つ助けにします。適宜小テストをして、理解の具合を確認して講義の改善に生かします。

内 容

- 第1回 講義の概要説明。医学、医療とは。
- 第2回 医学と医療の歴史；医学の起源 20世紀の医学
- 第3回 医学と医療の歴史；我が国の医学と医療の歴史
- 第4回 現代医療；実例等も示して概説し、現場での医療のイメージを持ってもらうことを目標とします。
- 第5回 医の倫理；実際に臨床の現場で起こっている倫理的問題等も提示し、問題意識を持ってもらうことを目標とします
- 第6回 社会保障制度と医療制度；制度の概略と基本的な理念を理解し、実際にどのように運用されているのか紹介しながら、現状の問題点等も考えてもらうことを目標にします。
- 第7回 介護保険制度；制度の概略と基本的な理念を理解し、実際にどのように運用されているのか紹介しながら、現状の問題点等も考えてもらうことを目標にします。
- 第8回 医療法、公衆衛生、地域保健について概説します。
- 第9回 予防医学について概説します。
- 第10回 健康と疾病；健康と疾病についての基本的な考え方を学びます。
- 第11回 疾病の原因と病理1；テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
- 第12回 疾病の原因と病理2；テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
- 第13回 疾病の検査方法と診断；テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
- 第14回 疾病の治療；テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
- 第15回 まとめ；全体を通じて必要な内容を補います。※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

事前にすることは特にありませんが、医学や医療に関連した、書籍、論文、記事、映画、テレビドラマ、小説、などに触れるように努力してください。

教科書

参考書

診療情報管理 1—診療情報管理士テキスト 基礎・医学編 第6版

著者： 武田隆久

出版社： 日本病院会

出版年： 2012/07

ISBN： 9784903448091

成績評価

試験（40）

小テスト（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **救急疾病 I**

担当者 小尾口 邦彦・福井 道彦

テーマ

呼吸器系(総論)・循環器系(総論)・神経系の疾病の理解

獲得目標

呼吸系・循環系を中心に構造と機能、観察と診断法、疾患に応じた症状の特徴、さらに応急処置と搬送法について学習する。また関連して、呼吸困難、喀血、発熱、胸痛、動悸・不整脈などの症候や、高齢者に特有の疾患について、原因と病態、観察・判断応急処置と搬送までの修得を目指す。この他、神経系の疾患などについても理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 呼吸器①解剖と生理1
- 第2回 呼吸器②解剖と生理2
- 第3回 呼吸器③呼吸器疾患の病態生理
- 第4回 呼吸器④疾患の診断 問診・症状・理学所見、検査 喀血、呼吸困難、胸痛など ※小テスト(呼吸器分野)
- 第5回 循環器①解剖と生理1
- 第6回 循環器②解剖と生理2
- 第7回 循環器③病態生理 循環電気生理
- 第8回 循環器④病態生理疾患の診断 問診・症状・理学所見、胸痛、呼吸困難、動悸・不整脈、発熱 ※小テスト(循環器分野)
- 第9回 神経系①解剖・生理1 脳神経
- 第10回 神経系②解剖生理2 脊髄・末梢神経
- 第11回 神経系③主要な神経症候 神経感染症、脳血管障害、脊髄疾患感覚系疾患、その他神経疾患
- 第12回 神経系④脳血管障害、神経外傷学 ※小テスト(神経系分野)
- 第13回 高齢者に特有の疾患① 原因と病態
- 第14回 高齢者に特有の疾患② 高齢者をめぐる社会状況 観察・判断、処置・搬送
- 第15回 まとめ ※13～15講はワークショップ形式で高齢者問題を考え、グループ発表とレポート提出を予定している。

授業以外での学習方法

高齢者の授業はワークショップ形式で「高齢社会の問題と対策」を行います。高齢者との暮らしについて各自考えておくこと。救急救命士標準テキスト「健康と社会保障」(上巻P.175)の章・インターネット他を参照のこと。

教科書

参考書

成績評価

- | | |
|-------------|-------------|
| 試験 (0%) | 小テスト (30%) |
| 授業中課題 (20%) | 授業中発表等 (0%) |
| 参加度 (50%) | |

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急症候学 I

担当者 藤野 和典

テーマ

外傷総論

獲得目標

救急医療のうち、特に外傷救急医学について学ぶ。外傷とは機械的外力により身体が形態的、機能的に障害を被ることであり、損傷の種類や緊急度の評価により適切な処置を習得する。また外傷を引き起こす原因・メカニズムや(受傷機転)、複数以上の部位に一定以上の重症度を有する外傷(多発外傷)の特徴や病態・症状、観察と応急処置なども理解する。なお、各授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを毎回行います。

授業の内容

内 容

- 第1回 外傷総論 外傷の定義と種類、疫学
 - 第2回 出血と止血機構、創傷と感染 出血の種類と病態生理、創傷の治療機転
 - 第3回 受傷機転、損傷の特徴 外傷別発生機序とそれらの特徴
 - 第4回 多発外傷 多発外傷の病態と観察・処置
 - 第5回 妊婦・小児・高齢者の外傷 特徴と観察・処置
 - 第6回 ショックについて 原因と分類
 - 第7回 ショックの病態生理 生体反応と重症度
 - 第8回 観察と判断 観察のポイント
 - 第9回 重症度評価 状況評価と重症度評価のポイント
 - 第10回 応急処置と搬送 初期評価と応急処置
 - 第11回 応急処置と搬送 搬送時の注意点
 - 第12回 演習
 - 第13回 演習
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 試験とまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 (0%)

参加度 (10%)

小テスト (30%)

授業中発表等 (0%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急医学総論Ⅲ

担当者 奥野 信行・河原 宣子・松本 賢哉

テーマ

局所所見観察と在宅処置、看護、リスクマネジメントなど

獲得目標

救急現場では、傷病者とその周囲の状況を短時間で情報収集し、まず何をすべきかの判断を下さなくてはならない。そのために必要な環境観察と傷病者観察の意義を学び、全身・局所観察の基本を習得する。さらに患者の増加に伴い重要となる在宅療養者に対する救急活動時の問題と在宅医療の知識、処置の方法について習得する。また感染とその予防、安全管理とリスクマネジメント、看護概念と救急医療についても理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 4/8生命倫理とは
 - 第2回 4/15安全管理とリスクマネジメント(1)
 - 第3回 4/22安全管理とリスクマネジメント(2)
 - 第4回 4/29看護について
 - 第5回 5/13在宅療養者に対する看護
 - 第6回 5/20観察(局所)(1)
 - 第7回 5/27観察(局所)(2)
 - 第8回 6/3接遇
 - 第9回 6/10感染症とは
 - 第10回 6/17消毒と滅菌について、清潔操作
 - 第11回 6/13or7/1在宅療養者に対する処置(1)(演習)実践看護学演習Ⅲに参加
 - 第12回 6/13or7/1在宅療養者に対する処置(2)(演習)実践看護学演習Ⅲに参加
 - 第13回 6/13or7/1在宅療養者に対する処置(3)(演習)実践看護学演習Ⅲに参加
 - 第14回 7/15在宅療養者に対する処置(4)(まとめ)
 - 第15回 7/22まとめ
-

授業以外での学習方法

第11回目から13回目の演習時間と場所については別途連絡する

教科書

参考書

成績評価

試験 (70%)

授業中課題 ()

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急症候学Ⅱ

担当者 池田 栄人・高階 謙一郎

テーマ

ショック概念と様々な外傷の症状、処置・搬送方法の習得を目指す

獲得目標

医学用語としてのショック概念を学び、その原因と分類を理解する。また外傷に伴うショック(外傷性ショック)の分類とそれぞれの原因、病態生理と観察と判断法を習得する。さらに、腹部外傷、胸部外傷、頭部外傷について発生機序と病態、それぞれの外傷の種類について理解を深める。このほか感染症と救急、死の概念についても学習する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ショックについて 原因・病態生理、循環不全
 - 第2回 ショックの観察と判断 応急処置と搬送
 - 第3回 外傷性ショック 原因と分類
 - 第4回 外傷性ショックの病態生理 観察と判断
 - 第5回 腹部外傷① 解剖、発生機序と病態・主な腹部外傷
 - 第6回 腹部外傷② 症状と観察、判断・応急処置・搬送等
 - 第7回 胸部外傷① 解剖、主な胸部外傷
 - 第8回 胸部外傷② 症状と観察、判断・応急処置・搬送等
 - 第9回 顔面・頸部外傷① 解剖、主な顔面・頸部外傷
 - 第10回 顔面・頸部外傷② 症状と観察、判断・応急処置・搬送等
 - 第11回 頭部外傷① 解剖、発生機序と病態、外傷の分類と主な損傷
 - 第12回 頭部外傷② 頭部外傷続発症、後遺症、小児・高齢者の頭部外傷、症状と観察、判断・処置運送等
 - 第13回 熱傷、電撃症他、化学損傷、異物、縊頸・絞頸、刺咬症 外傷関連特殊感染症
 - 第14回 感染症と救急、死の概念と判定
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 人的資本の経済学

担当者 阪本 崇

テーマ

人間の能力の形成とその有効活用について経済的視点から分析する

獲得目標

労働や技能、教育が経済にとって持つ意味を人的資本の概念を使って分析できるようになる

授業の内容

天然資源の豊かな国や国土の広い国、人口の多い国が必ずしも経済的に豊かな国ではないことからわかるように、社会が保有している資源がいくら豊かであったとしても、それを有効に活用する知識や技術がなければ、経済は発展しない。そこでポイントになるのが、人間の持つ能力であるが、これを経済学では「人的資本」としてとらえる。この授業では経済の中で人的資源はどのように蓄積され、また、どのようにすれば有効に利用されるのかを、教育経済学や労働経済学の視点から学ぶ。

内 容

- 第1回 人的資本とは何か：T.シュルツの発見とI.フィッシャーの資本理論
 - 第2回 経済成長と人的資本(1)：ソローの残渣と新古典派成長モデル
 - 第3回 経済成長と人的資本(2)：人的資本と内生的成長モデル
 - 第4回 人的資本と労働市場(1)：労働供給と労働需要
 - 第5回 人的資本と労働市場(2)：失業とそのメカニズム
 - 第6回 人的資本の理論(1)：賃金変化とOJT、Off-JT
 - 第7回 人的資本の理論(2)：資産価値の決定と直接的・間接的費用
 - 第8回 人的資本の理論(3)：一般的訓練と特殊訓練
 - 第9回 人的資本の理論(4)：人的資本論への批判
 - 第10回 人的資本の理論(5)：人的資本投資を支えるメカニズム
 - 第11回 組織の中での人的資本(1)：組織が存在する理由
 - 第12回 組織の中での人的資本(2)：プリンシパル・エージェント理論
 - 第13回 組織の中での人的資本(3)：チームの生産
 - 第14回 組織の中での人的資本(4)：昇進の意義
 - 第15回 まとめと到達度の確認
-

授業以外での学習方法

きちんと復習をしてノートを仕上げてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (0)

小テスト (80)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **経営戦略論 I**

担当者 今久保 幸生

テーマ

経営戦略の基礎を学ぶ

獲得目標

経営戦略に関する教科書を手がかりに、経営戦略の基礎的な理論や応用例を説明することを通じて、経営戦略の基礎を理解させる。

授業の内容

教科書に即して、経営学の理論と具体例を系統的に説明するが、教科書で触れられていないことも説明する。教科書の理解は必要だが授業での教科書以外の説明も重要だということである。

内 容

- 第1回 授業全体の進め方ガイダンス
 - 第2回 経営戦略の概念と体系
 - 第3回 製品市場戦略と多角化
 - 第4回 資源展開戦略とPPM
 - 第5回 競争戦略と競争優位
 - 第6回 リソース・ペースト・ビューと知識
 - 第7回 経営戦略と組織
 - 第8回 ネットワーク組織と組織間関係
 - 第9回 M&A戦略と企業価値
 - 第10回 情報ネットワークと経営戦略
 - 第11回 グローバリゼーションと経営戦略
 - 第12回 地球環境問題と経営戦略
 - 第13回 起業と経営戦略
 - 第14回 イノベーションと経営戦略
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

新聞やインターネット、映像などで知った様々な経営戦略の実践や考え方などを教科書の諸理論と照らし合わせて考えてみる。

教科書

よくわかる経営戦略論

著者： 井上善海他編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2008

ISBN：

参考書

成績評価

試験（70%）

授業中課題（ ）

参加度（30%）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **経営組織論**

担当者 李 在鎬

テーマ

経営組織の基本原理を学ぶ。

獲得目標

経営組織の全体像を把握した上で、主要理論について理解を深めることが本教科の目的である。

授業の内容

経営組織の概要及び、ミクロ理論(個人と組織間の関係からとらえる観点)とマクロ理論(環境の中で機能するシステムとして捉える視点)の諸理論を学習する。

内 容

- 第1回 講義概要と経営組織論の概要説明
 - 第2回 多様な組織観
 - 第3回 組織論における人間観
 - 第4回 モチベーション
 - 第5回 個人と組織との関係
 - 第6回 集団と組織
 - 第7回 組織とリーダーシップ
 - 第8回 前半内容の総括及び理解度チェック
 - 第9回 組織文化
 - 第10回 経営戦略と組織
 - 第11回 分業の形態
 - 第12回 組織設計の原理
 - 第13回 組織構造、またはDVD資料鑑賞
 - 第14回 組織変革
 - 第15回 後半内容の総括及び理解度チェック
-

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお薦めします。

教科書

経営組織

著者： 金井壽宏

出版社： 日本経済新聞出版社

出版年： 2006

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a50102d510

テスト以外の見なし評価は原則的に認めておりません。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **経営情報システム論**

担当者 片岡 裕介

テーマ

情報化社会における経営情報の役割と可能性

獲得目標

情報技術(IT)あるいは情報通信技術(ICT)の革新が、企業経営ならびに地域社会に及ぼす影響を考えるにあたり、経営情報システムの基礎的事項について学習するとともに、経営活動や社会生活の中で経営情報がどのように活用されているかを理解する。

授業の内容

まず、経営情報の基礎概念、情報化社会の進展、経営情報システムの考え方などについて基礎的内容を学習する。さらに、経営情報と社会生活との関わりについて具体的な事例を通して見ることで、経営情報システムの理解を深める。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン
 - 第2回 情報化社会の進展
 - 第3回 情報化社会における経営情報
 - 第4回 情報技術の基礎
 - 第5回 経営情報システムの変遷
 - 第6回 経営戦略と情報システム
 - 第7回 経営組織と情報システム
 - 第8回 システムとネットワーク
 - 第9回 知識と経営
 - 第10回 経営情報と流通(1) 情報化と流通システム
 - 第11回 経営情報と流通(2) チェーンストアと物流システム
 - 第12回 地域社会における経営情報(1) 情報セキュリティと情報倫理
 - 第13回 地域社会における経営情報(2) エリアマーケティング
 - 第14回 地域社会における経営情報(3) 位置情報サービス
 - 第15回 地域社会における経営情報(4) 不動産ビジネス
-

授業以外での学習方法

教科書

はじめて学ぶ経営情報学

著者： 高橋敏朗編

出版社： 日科技連出版社

出版年： 2005

ISBN:

参考書

経営情報論 新版

著者： 遠山暁・村田潔・岸真理子

出版社： 有斐閣

出版年： 2008

ISBN:

経営情報システム

著者： 宮川公男

出版社： 中央経済社

出版年： 2004

ISBN：

日本の流通と都市空間

著者： 荒井良雄・箸本健二編

出版社： 古今書院

出版年： 2004

ISBN：

ビジネス・行政のためのGIS

著者： 村山祐司・柴崎亮介編

出版社： 朝倉書店

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（30）

参加度（20）

小テスト（50）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 人的資源管理論

担当者 李 在鎬

テーマ

組織成員を最も大事な経営資源として捉え、組織成員が成長でき、且つ人的資源を最大限に活用及び拡大再生産できる組織のあり方を学ぶ分野である。

獲得目標

企業などの組織内で行われている採用、職務設計、人事考課、報酬、昇進、人材育成に関する手法とその根幹をなす諸理論を理解することが本教科の主要な獲得目標である。

授業の内容

授業の前半において人的資源開発の基本的な概念を習い、後半では関連理論を学習する。

内 容

- 第1回 労務管理の概要
 - 第2回 採用と退職
 - 第3回 人事異動
 - 第4回 人事制度
 - 第5回 能力開発
 - 第6回 職場の能率
 - 第7回 労働条件と職場環境
 - 第8回 人的資源管理の制度とコンセプトの総括と理解度チェック
 - 第9回 古典的組織理論
 - 第10回 人間関係論
 - 第11回 モチベーション論(1)
 - 第12回 モチベーション論(2)
 - 第13回 リーダーシップ論(1)またはDVD資料鑑賞
 - 第14回 リーダーシップ論(2)
 - 第15回 人的資源の関連理論の総括と理解度チェック
-

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

労務管理と人的資源管理の構図

著者: 赤岡功・日置弘一郎

出版社: 中央経済社

出版年: 2005

ISBN:

成績評価

a50102d710

試験 (80)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

講義資料は授業中配られます。

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 マーケティング論 I

担当者 今井 まりな

テーマ

マーケティング論の視点を身につける。

獲得目標

マーケティング論に関する基礎概念を理解する。企業のマーケティング活動の実例を知り、マーケティング論の視点から読み解く力を養う。

授業の内容

マーケティング論の基礎概念について、企業の実例を交えながら解説する。また、履修者にもマーケティングの知識を運用する機会を設ける。具体的には履修者に最低1回のレポート課題の提出を義務付ける。詳細は初回のガイダンスで連絡するので、履修予定者は必ず出席すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 マーケティングとは何か
 - 第3回 マーケティング・マネジメントの基本枠組み
 - 第4回 製品・サービスのデザイン①
 - 第5回 製品・サービスのデザイン②
 - 第6回 価格のデザイン
 - 第7回 流通チャネルのデザイン
 - 第8回 プロモーションのデザイン
 - 第9回 マーケティング資源の配分
 - 第10回 事業の定義
 - 第11回 競争構造の理解
 - 第12回 製品ライフサイクル
 - 第13回 市場地位別戦略
 - 第14回 国際マーケティング
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

『日本経済新聞』や『日経ビジネス』などの記事に目を通し、企業の具体的なマーケティング活動を学習する。

教科書

ゼミナール・マーケティング入門(第2版)

著者: 石井淳蔵・嶋口充輝・栗木契・余田拓郎

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2013

ISBN: 978-4532134396

売れる仕掛けはこうしてつくる

著者: 栗木契・余田拓郎・清水信年

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2006

ISBN: 978-4532312985

参考書

指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70%)

授業中課題 (30%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 応用簿記演習 I <Z>

担当者 山本 耕二

テーマ

複式簿記の基礎分野を含めて応用分野を学習して行く

獲得目標

決算に関連する項目を学習し財務諸表を作成する能力を身につける 特殊商品売買など簿記の応用分野を理解する

授業の内容

本講座は昨年度開講された会計学概論bの承継講座です。同講座を受講した学生が望ましい。前半は日商簿記3級レベルの内容で主に決算に関連した内容を学習する 後半は日商簿記2級レベルで商業簿記の内容を学習する

内 容

- 第1回 ガイダンス 売掛金元帳・買掛金元帳
 - 第2回 費用・収益の繰延べ見越し(1)
 - 第3回 費用・収益の繰延べ見越し(2) 消耗品他の決算手続
 - 第4回 簿記一巡の手続きと財務諸表
 - 第5回 銀行勘定調整表
 - 第6回 有価証券(1)
 - 第7回 有価証券(2) 商品売買(1)
 - 第8回 商品売買(2)
 - 第9回 特殊商品売買(1)
 - 第10回 特殊商品売買(2)
 - 第11回 特殊商品売買(3)
 - 第12回 特殊商品売買(4)
 - 第13回 固定資産(1)
 - 第14回 総合問題演習
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

簿記をしっかり理解するには予習及び復習が必要です。毎回宿題を出しますから、しっかり自宅学習するように。

教科書

完全合格のための日商簿記2級商業簿記テキスト

著者： 大原簿記学校

出版社： 大原出版

出版年： 2012

ISBN： 9784872589627

完全合格のための日商簿記2級商業簿記問題集

著者： 大原簿記学校

出版社： 大原出版

出版年： 2012

ISBN： 9784872589634

参考書

成績評価

試験（40）

授業中課題（10）

参加度（30）

まじめに取り組む姿勢を高く評価します。

小テスト（10）

授業中発表等（10）

参考URL

山本耕二税理士事務所

<http://homepage3.nifty.com/tax-yamamoto>

追加的な連絡事項を掲示する

2014 Syllabus

科目名 **企業と法**

担当者 山田 廣己

テーマ

企業とその法規制

獲得目標

企業(個人企業や会社企業)の組織や活動に関する基本的法律知識を習得する。

授業の内容

個人企業や会社企業(株式会社・合同会社・合資会社・合名会社)の組織や活動とその法規制を概観する。

内 容

- 第1回 経済活動と企業： 企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。
- 第2回 資本主義・市場経済・貨幣(金融)制度： 企業をとりまく資本主義、市場経済原理について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。
- 第3回 企業をめぐる法規制： 企業の組織や活動に関するさまざまな法律、法規定がある。たとえば、商法、会社法、民法、独占禁止法や金融商品取引法等の法律などに触れる。
- 第4回 企業の組織： 個人企業、組合、合名会社、合資会社、合同会社や株式会社の組織を説明し、さらに国内で活動する外国会社にも触れる。
- 第5回 企業の経営者・従業員： 株式会社を経営する取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。
- 第6回 企業グループ： 会社はグループを作って企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合併(ごうべん)企業についても触れる。
- 第7回 企業の資金： 企業(とくに会社)はその活動を展開するために資金を必要とする。その資金調達方法について説明する。金融市場の国際化についても触れる。
- 第8回 投資と利殖(りしょく)： 株式会社が発行する「株式」や「社債」は人々の投資・利殖の対象である。証券や金融商品の取引、商品先物取引、為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。
- 第9回 企業の失敗： 企業の事業活動が失敗に終わったとき(倒産)、どのように処理するか説明する。
- 第10回 企業の責任： 企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織活動などに関して発生するさまざまな責任を概説する。
- 第11回 競争と独占(1)： 独占禁止法の話をする。
- 第12回 競争と独占(2)： 独占禁止法の話をする。
- 第13回 企業の決済手段(1)： 手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段に決済手段について説明する。
- 第14回 企業の決済手段(2)： 手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明する。
- 第15回 総括と理解度チェック

授業以外での学習方法

新聞報道やニュース報道に接し、多くの学生の就職先である企業(会社)の組織活動に興味を持つよう心がけて下さい。

教科書

特に指定しない。

著者： 講義レジュメ配布。

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

携帯用法令集(必ず用意してください)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間中ごろにレポート提出を求める。最終講義日に小テストを実施する(必ず受験してください)。以上を総合的に判断して評価する。毎回積極的に講義に参加し、集中して話を聞き、積極的に質問してほしい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 医療政策論

担当者 高山 一夫

テーマ

格差拡大社会における社会保障制度の役割と課題

獲得目標

医療・福祉制度を中心に日本の社会保障制度に関する基本的な知識を習得するとともに、格差拡大社会を生き抜くための基本的なリテラシーを身につける。

授業の内容

社会保障制度とりわけ医療・介護制度の現状と課題について講義し、貧困や格差が拡大する日本社会のあり方について理解を深める。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 貧困・格差の現状と社会保障の役割
 - 第3回 社会保障の全体像とその財源
 - 第4回 医療制度の現状と課題(1) 医療保険制度
 - 第5回 医療制度の現状と課題(2) 医療提供体制
 - 第6回 医療制度の現状と課題(3) 医療制度の改革動向
 - 第7回 介護保険制度
 - 第8回 中間まとめと確認テスト
 - 第9回 公的年金制度
 - 第10回 雇用保険と労災保険
 - 第11回 社会福祉
 - 第12回 生活保護と医療扶助
 - 第13回 社会保障制度の国際比較(1)
 - 第14回 社会保障の国際比較(2)
 - 第15回 講義全体のまとめと確認テスト
-

授業以外での学習方法

授業中で指示する参考文献にできるだけ目を通すとともに、医療問題や社会保障に関する新聞、雑誌記事等に注意を払ってください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

はじめての社会保障第10版

著者: 棕野美智子・田中耕太郎

出版社: 有斐閣アルマ

出版年: 2013

ISBN: 9784641124943

成績評価

a50102e910

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

理解度の確認のために小テストを実施します。

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **非営利組織論**

担当者 高山 一夫

テーマ

獲得目標

非営利組織の役割

授業の内容

現代社会における非営利セクター、非営利組織の役割に関する基本的な知識を習得し、今後の経済社会のあり方を構想する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 非営利組織とは
 - 第3回 非営利組織の理論
 - 第4回 政府、企業、非営利組織
 - 第5回 英米の非営利セクターと法制度
 - 第6回 日本の非営利セクターと法制度
 - 第7回 日本の非営利セクターの活動領域(1)
 - 第8回 日本の非営利セクターの活動領域(2)
 - 第9回 日本の非営利セクターの活動領域(3)
 - 第10回 日本の非営利セクターの活動領域(4)
 - 第11回 日本の非営利セクターの活動領域(5)
 - 第12回 非営利組織の人的資源管理
 - 第13回 非営利組織の資金管理
 - 第14回 非営利組織と経済社会の変革
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **マーケティングリサーチ**

担当者 今井 まりな

テーマ

マーケティング・リサーチを実践する。

獲得目標

マーケティング・リサーチの意義やそのプロセスを理解する。よく用いられるマーケティング分析の手法や解釈の仕方などに関する基礎的なスキルを習得する。

授業の内容

まず、マーケティング・リサーチの意義と概要、および各プロセスについて説明する。その上で、データを分析するために必要な手法について説明し、実際に履修者に分析を行ってもらう。

内 容

- 第1回 マーケティング・リサーチの概要
 - 第2回 マーケティング・リサーチのプロセス
 - 第3回 統計分析の基礎
 - 第4回 質問票の作成
 - 第5回 SPSS入門
 - 第6回 相関分析
 - 第7回 重回帰分析の考え方①
 - 第8回 重回帰分析の考え方②
 - 第9回 重回帰分析の実施
 - 第10回 因子分析の考え方
 - 第11回 因子分析の実施
 - 第12回 分散分析の考え方
 - 第13回 分散分析の実施
 - 第14回 調査データを用いた分析①
 - 第15回 調査データを用いた分析②
-

授業以外での学習方法

統計学に関する基礎的な文献に目を通しておくと、授業の内容がより理解しやすくなる。

教科書

1からのマーケティング分析

著者： 恩蔵直人・富田健司

出版社： 碩学舎

出版年： 2011

ISBN： 978-4502683602

参考書

社会調査法入門

著者： 盛山和夫

出版社： 有斐閣

出版年： 2004

ISBN： 978-4641183056

成績評価

a50102f710

試験 ()
授業中課題 (60%)
参加度 (40%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 薬理学(救)

担当者 天野 博夫

テーマ

基礎薬理学・臨床薬理学

獲得目標

薬は身体にとって本来異物であり、人に対して利益を与えると同時に危険をもたらす二面性を有している。今日の医療のあらゆる分野において医薬品の使用は不可欠な手段となっており、上記のような薬と生体との複雑な関係についての十分な理解が全ての医療従事者に求められている。本科目においては、生体の機能と薬の関係の理解を土台として薬理学の一般的な基礎知識を身につけることを重点目標とする。加えて、プレホスピタルケアおよび救急医療の特殊性を踏まえ、生体の生命維持機能と関連の深い代表的薬物の作用を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 基礎知識の確認と整理1
 - 第2回 基礎知識の確認と整理2
 - 第3回 薬理作用の基礎・薬の作用点
 - 第4回 薬物投与と薬物動態1
 - 第5回 薬物投与と薬物動態2
 - 第6回 自律神経系作用薬1
 - 第7回 自律神経系作用薬2
 - 第8回 循環器系作用薬1
 - 第9回 循環器系作用薬2
 - 第10回 呼吸器系作用薬
 - 第11回 中枢神経系作用薬
 - 第12回 薬物の有害作用
 - 第13回 薬物相互作用
 - 第14回 救急医療における薬物投与
 - 第15回 良く用いられる日常薬
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70%)

授業中課題 (20%)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **救急症候学Ⅲ**

担当者 大石 泰男・小畑 仁司・西本 泰久・富士原 彰

テーマ

救急症候・病態生理学

獲得目標

プレホスピタルの主体は観察・判断・処置で構成されているが、本講義では傷病者観察、特に外科鑑別診断学の領域について教授し、この分野の実践能力向上のために、判断・処置の知識の整理を行い、理解を深めます。

授業の内容

内 容

- 第1回 胸痛・動悸・不整脈
 - 第2回 心肺停止①
 - 第3回 咯血・痙攣
 - 第4回 心肺停止②
 - 第5回 意識障害
 - 第6回 頭痛・めまい
 - 第7回 運動障害・感覚障害
 - 第8回 ショック・循環不全
 - 第9回 咯血・痙攣
 - 第10回 呼吸困難・発熱
 - 第11回 性器出血・鼻出血
 - 第12回 腹痛・吐下血・血尿
 - 第13回 嘔吐・下痢・歯痛
 - 第14回 鑑別診断(外科)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

講義・実習をより理解するために、日常のやり取りのなかで、出てくる医学用語(略語を含む)を自分でまとめ、理解する。医学大辞典(医歯薬出版)

教科書

参考書

成績評価

試験 (20%)

授業中課題 (20%)

参加度 (30%)

小テスト (30%)

授業中発表等 (0%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急処置各論 I

担当者 関根 和弘.千田 いずみ.西本 香王里.林 敏雅

テーマ

薬剤投与とメディカルコントロール

獲得目標

医師の具体的指示のもとに行う特定行為の静脈路確保とアドレナリン投与、救急医療体制とメディカルコントロールについて学びます。

授業の内容

内 容

- 第1回 心肺停止前後の病態
 - 第2回 特定行為が適応となる心肺停止の病態
 - 第3回 薬剤投与に必要な基礎知識、薬物の作用
 - 第4回 薬物の吸収・代謝・排泄
 - 第5回 薬剤の投与経路と投与方法、薬物の有害作用
 - 第6回 薬剤投与の原則、薬事法と医薬品
 - 第7回 輸液製剤、自律神経薬
 - 第8回 心停止に用いられる代表的薬剤
 - 第9回 医療機関で行われる二次救命処置
 - 第10回 心停止と特定行為のプロトコル1
 - 第11回 心停止と特定行為のプロトコル2
 - 第12回 事後検証とウツタイン様式
 - 第13回 救急救命処置とメディカルコントロール1
 - 第14回 実際のMC体制について
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急症候学VI

担当者 関根 和弘・竹下 仁・夏目 美樹・西本 泰久

テーマ

救急救命士による心肺機能停止前の患者に対する静脈路確保および輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与の実施。

獲得目標

1. 救急現場に於いて血糖測定、ブドウ糖投与およびショックの病態などを鑑別し、心肺機能停止前の静脈路核のおよび輸液の適応を適切に判断する能力の習得。
 2. 血糖測定、ブドウ糖溶液投与、静脈路確保および輸液をプロトコールに基づき適確かつ安全に施行する技術の習得。
 3. メディカルコントロール下の活動を認識し医師との円滑なコミュニケーションに適切な指示指導助言を受けることが出来る能力の習得。
 4. 傷病者などへの接遇の祭に、医療倫理のその側面からも適切な説明と同意を得られる能力の習得。

授業の内容

救急救命士による心肺機能停止前の患者に対する静脈路確保および輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与の実施に係る講義および実習。

内 容

- 第1回 処置拡大の変遷と新たな処置拡大についての概要。傷病者への説明と医療倫理について。
- 第2回 糖尿病の病態と治療。低血糖の病態。
- 第3回 ブドウ糖の投与と合併症。意識障害をきたす疾患とその鑑別。
- 第4回 各種ショック等の病態と治療。
- 第5回 ショックの原因別の分類・鑑別と輸液の効果。輸液と生体の反応と合併症。
- 第6回 メディカルコントロールとオンラインでの傷病者情報の効率的な伝達。
- 第7回 血糖測定に関する基本的手技。
- 第8回 静脈路確保と輸液に関する基本的手技
- 第9回 静脈路確保と輸液に関する基本的手技
- 第10回 血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与のシナリオ訓練
- 第11回 血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与のシナリオ訓練
- 第12回 心肺機能停止前の静脈路確保と輸液のシナリオ訓練
- 第13回 心肺機能停止前の静脈路確保と輸液のシナリオ訓練
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697449

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697456

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697463

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697470

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697487

参考書

成績評価

試験（100）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

規定回数の講義参加度に達している者のみ試験評価を実施する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **仕事研究 I**

担当者 李 在鎬

テーマ

グローバル企業の世界を舞台とした戦略、管理、組織、調達、マーケティングについて学ぶ。

獲得目標

グローバル企業の経営者の観点から、グローバル経営環境を分析する基本的な枠組みを身に着ける。特に、日系企業を分析対象の中心に据えおき、海外進出の経営実践的手法とその背景にある理論的考察を行う。

授業の内容

当該分野における先行研究を踏まえた上で、海外進出を図る日系企業の経営者の視点に立って、事前検討事項から海外進出先の選定、事業計画書の作成、工場の竣工などを想定して、必要な手法と原理を学ぶ。ただし、本授業の運営においては、受講生の人数に合わせて、柔軟に行う。また、グローバルな視点から国際経済経営に関する記事にも触れ、同時代における問題意識をもつ。

内 容

- 第1回 グローバルビジネス論の概要説明
- 第2回 グローバルビジネスの環境の認識と日系企業の海外展開
- 第3回 企業はなぜグローバル化するのか。特に日系企業の進出目的を明確にする。
- 第4回 グローバルビジネス論と多国籍企業概念
- 第5回 多国籍企業論(1)ハイマーの優位性論
- 第6回 多国籍企業論(2)内部化理論
- 第7回 多国籍企業論(3)進化モデル
- 第8回 総括と理解度チェック
- 第9回 グローバル企業の経営戦略(1)
- 第10回 グローバル企業の経営戦略(2)
- 第11回 グローバル企業の組織論
- 第12回 本社と海外子会社の企業間関係
- 第13回 日本企業はグローバルスタンダードを志向すべきか、ローカルに適應すべきか。
- 第14回 グローバル市場競争に関する映像資料の鑑賞(DVD) または、グローバルビジネスに関するケーススタディーを行う。
- 第15回 全体の総括と理解度チェック、または、学外授業を行う場合がある。

授業以外での学習方法

BBCや日経テレコムなどを駆使して、海外企業や日本企業のグローバル化について調べておくこと。

教科書

使用しない。レジュメーを中心に行う。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（70）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

受講生が少人数になった場合は、演習形式の授業を検討する。また、大人数の授業の際にも、受講生の反応や状況的要因を勘案し、必要に応じては柔軟な授業運営をする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **管理会計論**

担当者 河野 充央

テーマ

経営管理(マネジメント)に役立つ会計を学ぶ

獲得目標

企業の経営管理者が行うマネジメント活動に対して、会計がどのような役割を果たすのかを学ぶプロセスで、意思決定と業績管理の方法を修得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 会計的思考と管理会計
 - 第2回 財務諸表の分析(1)
 - 第3回 財務諸表の分析(2)
 - 第4回 財務諸表の分析(3)
 - 第5回 短期利益計画
 - 第6回 予算編成と予算統制
 - 第7回 事業部業績評価
 - 第8回 コストダウンの方法
 - 第9回 投資意思決定の諸問題
 - 第10回 在庫費用の管理
 - 第11回 マーケティング会計(1) 販売費と物流費の管理
 - 第12回 マーケティング会計(2) 研究開発費の管理
 - 第13回 経営戦略と管理会計(1)
 - 第14回 経営戦略と管理会計(2)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネス等に掲載される経済記事を適宜紹介する(プリントで配布等)ので、講義で学んだ知識を活用して、経営の実務にも興味をもってもらいたい。

教科書

管理会計を語る

著者: 西澤脩

出版社: 中高経済社

出版年:

ISBN:

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

管理会計

著者： 岡本清 他

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（30）

授業中課題（15）

参加度（40）

小テスト（15）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <a>

担当者 河野 充央

テーマ

卒業論文の作成

獲得目標

夏季休暇中に下書きを完成させることを目的に、前期演習において卒論の作成指導を行う

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 春季休暇中の課題提出 論文の書き方・形式について指導
- 第2回 卒論指導(1) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第3回 卒論指導(2) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第4回 卒論指導(3) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第5回 卒論指導(4) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第6回 卒論指導(5) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第7回 卒論指導(6) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第8回 卒論指導(7) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第9回 卒論指導(8) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第10回 卒論指導(9) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第11回 卒論指導(10) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第12回 卒論指導(11) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第13回 卒論指導(12) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第14回 卒論指導(13) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第15回 夏季休暇中における下書き完成のための課題指示

授業以外での学習方法

適宜指示をする参考文献を参照し、質の高い卒論の完成を目指す

教科書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ

担当者 河野 充央

テーマ

卒業論文の作成

獲得目標

夏季休暇中に下書きを完成させることを目的に、前期演習において卒論の作成指導を行う

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 春季休暇中の課題提出 論文の書き方・形式について指導
- 第2回 卒論指導(1) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第3回 卒論指導(2) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第4回 卒論指導(3) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第5回 卒論指導(4) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第6回 卒論指導(5) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第7回 卒論指導(6) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第8回 卒論指導(7) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第9回 卒論指導(8) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第10回 卒論指導(9) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第11回 卒論指導(10) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第12回 卒論指導(11) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第13回 卒論指導(12) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第14回 卒論指導(13) 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第15回 夏季休暇中における下書き完成のための課題指示

授業以外での学習方法

適宜指示をする参考文献を参照し、質の高い卒論の完成を目指す

教科書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <c>

担当者 今井 まりな

テーマ

卒業論文の執筆

獲得目標

卒業論文に見合うテーマと問いを設定し、その解決に向けた調査を行う。

授業の内容

ゼミ生の報告と報告内容に関するディスカッションを中心に進める。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 卒業論文の書き方
 - 第3回 テーマ設定
 - 第4回 テーマ設定
 - 第5回 問いの設定
 - 第6回 問いの設定
 - 第7回 問いの設定
 - 第8回 先行研究のレビュー
 - 第9回 先行研究のレビュー
 - 第10回 先行研究のレビュー
 - 第11回 先行研究のレビュー
 - 第12回 調査設計
 - 第13回 調査設計
 - 第14回 調査設計
 - 第15回 調査設計
-

授業以外での学習方法

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

教科書

参考書

創造的論文の書き方

著者： 伊丹敬之

出版社： 有斐閣

出版年： 2001

ISBN： 9784641076495

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <d>

担当者 李 在鎬

テーマ

ゼミの研究テーマに加え、卒業研究の計画を行う。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の内容

基礎演習Ⅲでの経営リーダーシップ理論、専門演習Ⅰ・Ⅱでの経営戦略論を土台にし、自分の卒業研究のテーマを決め、研究計画を行う。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 学生による報告、ただし、必要に応じて、課外授業、あるいは関連DVD鑑賞を行う。
- 第15回 学生による報告、ただし、必要に応じて、課外授業を行う。最終的に全体の総括を行う。

授業以外での学習方法

経済新聞を精読してください。

教科書

戦略論1994～1999

著者： ハーバード・ビジネス・レビュー編集部編

出版社： ダイヤモンド社

出版年： 2010年

ISBN: 9784478013205

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

a501040114

基本的に2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <e>

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントに関する発展的学習

獲得目標

医療マネジメントについてさらに学習を進めるとともに、卒業研究の完成に向けて、課題に見合った研究方法や論文の書き方について学習する。

授業の内容

医療マネジメントについてさらに学習をすすめるとともに、卒業研究の完成にむけて、進捗状況の報告を求め、研究指導を行う。また、学外授業や夏合宿も実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 研究技法の学習(1)
 - 第3回 研究技法の学習(2)
 - 第4回 研究技法の学習(3)
 - 第5回 卒業研究構想報告(1)
 - 第6回 卒業研究構想報告(2)
 - 第7回 卒業研究構想報告(3)
 - 第8回 卒業研究構想報告(4)
 - 第9回 テキストの輪読と討論(1)
 - 第10回 テキストの輪読と討論(2)
 - 第11回 テキストの輪読と討論(3)
 - 第12回 テキストの輪読と討論(4)
 - 第13回 テキストの輪読と討論(5)
 - 第14回 学外授業
 - 第15回 演習全体のまとめ(ゼミ合宿)
-

授業以外での学習方法

自主ゼミ等を通じて、学外授業の準備や論文作成技法の学習などに努めることが望ましい。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

レポートの組み立て方

著者: 木下是雄

出版社: ちくま文庫

出版年: 1994

ISBN: 9784480081216

論文の教室

著者： 戸田山和久

出版社： NHKブックス

出版年： 2002

ISBN： 9784140019542

学外授業・ゼミ合宿の準備

著者： 澤田昭夫

出版社： 講談社現代文庫

出版年： 1977

ISBN： 9784061581531

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <f>

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文を作成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒論進捗報告(序論)
 - 第4回 卒論進捗報告(序論)
 - 第5回 卒論進捗報告(序論)
 - 第6回 卒論進捗報告(序論)
 - 第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第9回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第10回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第12回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第13回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第14回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <g>

担当者 高原 正興

テーマ

卒業論文の作成にむけて

獲得目標

12月の卒業論文の提出にむけて、よりよい卒業論文が作成できるように、ゼミ生の研究発表を続ける。

授業の内容

ゼミ生による卒業論文の研究発表

内 容

- 第1回 前期ガイダンス
 - 第2回 春季課題の報告(1)
 - 第3回 春季課題の報告(2)
 - 第4回 春季課題の報告(3)
 - 第5回 春季課題の報告(4)
 - 第6回 春季課題の報告(5)
 - 第7回 卒業論文の研究発表(1)
 - 第8回 卒業論文の研究発表(2)
 - 第9回 卒業論文の研究発表(3)
 - 第10回 卒業論文の研究発表(4)
 - 第11回 卒業論文の研究発表(5)
 - 第12回 卒業論文の研究発表(6)
 - 第13回 卒業論文の研究発表(7)
 - 第14回 卒業論文の研究発表(8)
 - 第15回 まとめと展望
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a501040117

試験 ()
授業中課題 (20)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <h>

担当者 今久保 幸生

テーマ

卒業論文を作成する。

獲得目標

各自、課題に見合った研究方法や論文の書き方を学び、卒業論文を作成する。

授業の内容

卒業研究(卒業論文)の報告とそれへのコメントおよび受講生相互の意見交換を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンスと論文の書き方
 - 第2回 卒業研究報告1(序論・課題と方法)
 - 第3回 卒業研究報告2(序論・課題と方法)
 - 第4回 卒業研究報告3(序論・課題と方法)
 - 第5回 卒業研究報告4(序論・課題と方法)
 - 第6回 卒業研究報告5(本論:先行研究の検討)
 - 第7回 卒業研究報告6(本論:先行研究の検討)
 - 第8回 卒業研究報告7(本論:先行研究の検討)
 - 第9回 卒業研究報告8(本論:先行研究の検討)
 - 第10回 卒業研究中間報告会(予定)
 - 第11回 卒業研究報告9(本論:調査内容の報告)
 - 第12回 卒業研究報告10(本論:調査内容の報告)
 - 第13回 卒業研究報告11(本論:調査内容の報告)
 - 第14回 卒業研究報告12(本論:調査内容の報告)
 - 第15回 卒業研究中間報告会(予定)・演習のまとめ
-

授業以外での学習方法

必要に応じて個別指導を行うほか、ゼミ生相互で卒論を報告し合い、議論し合うのが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ〈救急〉

担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

公務員試験対策

獲得目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス、公務員試験対策
- 第2回 公務員試験対策
- 第3回 公務員試験対策
- 第4回 公務員試験対策
- 第5回 公務員試験対策
- 第6回 公務員試験対策
- 第7回 公務員試験対策
- 第8回 公務員試験対策
- 第9回 公務員試験対策
- 第10回 公務員試験対策
- 第11回 公務員試験対策
- 第12回 公務員試験対策
- 第13回 公務員試験対策
- 第14回 公務員試験対策
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a501040119

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急救命実習XI

担当者 北小屋 裕.千田 いずみ.夏目 美樹.深澤 雄二.福岡 範恭

テーマ

実践的なシミュレーション実習により総合的な観察・処置技術を養う

獲得目標

これまでに修得した救急救命技術を総括し、実践的な実習により救急救命士としての総合的な観察・処置技術を修得する

授業の内容

救急救命実習Ⅷを修得していること。

内 容

- 第1回 シミュレーション実習
 - 第2回 シミュレーション実習
 - 第3回 シミュレーション実習
 - 第4回 シミュレーション実習
 - 第5回 シミュレーション実習
 - 第6回 シミュレーション実習
 - 第7回 シミュレーション実習
 - 第8回 シミュレーション実習
 - 第9回 シミュレーション実習
 - 第10回 シミュレーション実習
 - 第11回 シミュレーション実習
 - 第12回 シミュレーション実習
 - 第13回 シミュレーション実習
 - 第14回 シミュレーション実習
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト改訂第8版第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験（100）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

規定の講義参加度に達している者のみ試験評価を実施する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **デッサン〈Za〉**

担当者 富家 大器

テーマ

演習を通じ「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する

獲得目標

自分の手を動かしていくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握し表現する能力を高め、あらゆる造形表現の基礎能力を獲得する。

授業の内容

鉛筆を使ったデッサン、色紙を使用する平面構成、ペーパーを使った立体構成を予定している。適宜事例の解説なども織りまぜて行く。場合によって各自の作品発表を行うこともある。

内 容

- 第1回 ガイダンス 道具の使い方、デッサンの基礎
 - 第2回 デッサン1(課題1)
 - 第3回 デッサン2(課題2-1)
 - 第4回 デッサン3(課題2-2)
 - 第5回 デッサン4(課題3-1)
 - 第6回 デッサン5(課題3-2)
 - 第7回 平面構成 課題説明 事例紹介
 - 第8回 平面構成1(課題1-1)
 - 第9回 平面構成2(課題1-2)
 - 第10回 平面構成3(課題2-1)
 - 第11回 平面構成4(課題2-2)
 - 第12回 立体構成 課題説明 事例紹介
 - 第13回 立体構成1(課題1-1)
 - 第14回 立体構成2(課題1-2)
 - 第15回 立体構成3 まとめと発表
-

授業以外での学習方法

普段から「物をよく見る」という姿勢が重要。また、美術館に出向いたりして先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的である

教科書

参考書

授業中全都紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a502014110

授業中課題50%、授業中発表・出席・授業中態度・積極性・参加度総合50% 尚、全授業回数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なすので注意したい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **デッサン** <Zb>

担当者 富家 大器

テーマ

演習を通じ「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する

獲得目標

自分の手を動かしていくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握し表現する能力を高め、あらゆる造形表現の基礎能力を獲得する。

授業の内容

鉛筆を使ったデッサン、色紙を使用する平面構成、ペーパーを使った立体構成を予定している。適宜事例の解説なども織りまぜて行く。場合によって各自の作品発表を行うこともある。

内 容

- 第1回 ガイダンス 道具の使い方、デッサンの基礎
 - 第2回 デッサン1(課題1)
 - 第3回 デッサン2(課題2-1)
 - 第4回 デッサン3(課題2-2)
 - 第5回 デッサン4(課題3-1)
 - 第6回 デッサン5(課題3-2)
 - 第7回 平面構成 課題説明 事例紹介
 - 第8回 平面構成1(課題1-1)
 - 第9回 平面構成2(課題1-2)
 - 第10回 平面構成3(課題2-1)
 - 第11回 平面構成4(課題2-2)
 - 第12回 立体構成 課題説明 事例紹介
 - 第13回 立体構成1(課題1-1)
 - 第14回 立体構成2(課題1-2)
 - 第15回 立体構成3 まとめと発表
-

授業以外での学習方法

普段から「物をよく見る」という姿勢が重要。また、美術館に出向いたりして先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的である

教科書

参考書

授業中全都紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a502014112

授業中課題50%、授業中発表・出席・授業中態度・積極性・参加度総合50% 尚、全授業回数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なすので注意したい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **都市とアート〈Z〉**

担当者

テーマ

都市環境デザイン学科文化プロデュース入門の入門

獲得目標

文化と都市、プロデュースと環境デザインの関係を広く柔軟に学ぶ。地域公共政策と文化プロデュースの関係を知る。映画(アニメ、ホラーなど)を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。

授業の内容

都市環境デザイン学科の主に文化プロデュースを学びたい学生さんの最初の一步。でも、他の学修にも役に立つと思います。

内 容

- 第1回 はじめに・・・地域公共政策士の第一種プログラム「文化プロデュース力養成講座」とはなにか
- 第2回 文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的(社会構成的)な捉え方
- 第3回 地域とはなにか
- 第4回 文化のなかのアート、その分類と特質
- 第5回 学外授業 京都市内などにおいて、地域の公共的文化環境を視察する
- 第6回 まちと都市と地域と文化と(互いの関係とすみわけ)
- 第7回 誕生日のあるアート、それが映画だ(活動写真からトーキーへ)
- 第8回 超自然存在としてのアニメ、妖怪(妖怪と幽霊、妖怪の例示～河童の特性とは?)
- 第9回 アニメ映画への接近(原恵一監督～「河童のクウの夏休み」から分かること)現在製作中の新しい映画「カラフル」に言及する可能性あり
- 第10回 実写映画への接近1(黒沢清監督～ホラー映画を冷静に鑑賞するには?)
- 第11回 実写映画への接近2(黒沢清監督～心理とアクション～)「東京ソナタ」を題材にして
- 第12回 映画プロデュースに必要なものは
- 第13回 文化プロデュースから何が生まれるのか
- 第14回 私たちの文化の未来へ アーツマネジメントってなんだろう
- 第15回 まとめ・・・これからの文化プロデュース科目の予告 文化プロデュースに関わる学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

授業以外での学習方法

古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館にいて実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。参考文献をいくつか購入して読むこと。そのために生協読書奨励制度を活用すること。ソーシャルメディアもfacebookを活用したりブログなどを手がけたりうまく利用したりするようにしてください。

教科書

参考書

アニメーション監督 原恵一

著者: 浜野保樹

出版社: 晶文社

出版年: 2005年

ISBN: 4-7949-6677-6

これからのアートマネジメント

著者： 中川真・小暮宣雄ほか

出版社： フィルムアート社

出版年： 2011年

ISBN: 9784845911639

黒沢清の映画術

著者： 黒沢清

出版社： 新潮社

出版年： 2006年

ISBN: 4-10-302851-3

成績評価

試験 (0)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄のアーツブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

できればフィード購読を

2014 Syllabus

科目名 インテリアデザイン論

担当者 近藤 康子

テーマ

インテリアデザインに関する基礎知識を修得する。

獲得目標

インテリアのデザインに関する基礎的な知識を修得する。建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備やそれらの性質、機能や構造などについて学ぶ。また、実際の事例について解説し、カタログ・見本帳・サンプルなどを実際に見ることで理解を深め、快適なインテリア空間の在り方について考える。

授業の内容

建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備および性質、機能、構造に関する知識を学ぶ。具体事例を多数参照し、そこに自らの経験を重ね合わせることで、一人一人が快適なインテリア空間のありかたについて考える。

内 容

- 第1回 暮らしとインテリア
 - 第2回 日本の住まいとインテリア 西洋のインテリアと家具の様式
 - 第3回 インテリアと寸法
 - 第4回 インテリアの性能と安全性
 - 第5回 空間のデザイン
 - 第6回 インテリアの色彩、テクスチャー
 - 第7回 インテリアの仕上げ材料
 - 第8回 家具の種類、配置、インテリアファブリック
 - 第9回 照明計画と照明器具
 - 第10回 インテリアの構法とデザイン
 - 第11回 室内環境の計画
 - 第12回 インテリアの計画演習1
 - 第13回 インテリアの計画演習2
 - 第14回 インテリアの計画演習3
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

日常生活においてもインテリアデザインに関心を持ち、多くの情報を得るよう心掛けること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **観光学総論**

担当者 谷口 知司

テーマ

観光学の全体像を知る。

獲得目標

さまざまな観光の現況と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の内容

観光学の全般について論述する。

内 容

- 第1回 観光とは(歴史を含む)①
 - 第2回 観光とは(歴史を含む)②
 - 第3回 旅行業と観光①
 - 第4回 旅行業と観光②
 - 第5回 鉄道会社と観光①
 - 第6回 鉄道会社と観光②
 - 第7回 航空産業と観光①
 - 第8回 航空産業と観光②
 - 第9回 ホテル・旅館業と観光①
 - 第10回 ホテル・旅館業と観光②
 - 第11回 土産品と観光①
 - 第12回 土産品と観光②
 - 第13回 ニューツーリズム①
 - 第14回 ニューツーリズム②
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

教科書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **観光資源論 I**

担当者 谷口 知司

テーマ

日本国内の観光資源について概観する。

獲得目標

国内の主要な観光地理を概観し、国内観光資源の全体像を理解できることを目的とする。

授業の内容

ワークブックを用いて行う。

内 容

- 第1回 北海道エリア1
 - 第2回 北海道エリア2
 - 第3回 東北エリア1
 - 第4回 東北エリア2
 - 第5回 関東エリア1
 - 第6回 関東エリア2
 - 第7回 中部エリア1
 - 第8回 中部エリア2
 - 第9回 関西エリア1
 - 第10回 関西エリア2
 - 第11回 中国・四国エリア1
 - 第12回 中国・四国エリア2
 - 第13回 九州・沖縄エリア1
 - 第14回 九州・沖縄エリア2
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

毎回授業で小テストを行うので家庭学習が必要です。

教科書

国内観光地理

著者: JTB能力開発

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (0)

参加度 (10)

小テスト (70)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 まちづくり論入門

担当者 織田 直文

テーマ

観光やまちづくりの魅力を知り、それらに臨床的に関わるための基礎知識を身につけよう。

獲得目標

「観光」や「まちづくり」の概念、特性、その成立過程などを臨地まちづくりとして学ぶとともに多くの事例を通じて、その内容の多様性と深淵性を理解し、＜科学の知＞と＜臨床の知＞を習得する。

授業の内容

「観光」や「まちづくり」の基礎となるハード面としての空間認識、単位、住宅・建築、都市計画の基本事項を学ぶとともに、地域経済、観光振興、文化政策などのソフト面の基本事項も学ぶ。また、まちづくりの歴史および、現代的課題の提示と解決手法なども学ぶ。なお、学外から専門家を招いての特別講義も考えている。

内 容

- 第1回 講義の進め方と「地域＝まち」「臨地まちづくり」「デザイン」概念。
- 第2回 ハード面のまちづくりのための基本事項である「空間単位」「住宅・建築」「都市計画」。
- 第3回 住宅見学。バリアフリーとユニバーサルデザイン。
- 第4回 テーマタウン方式のまちづくり。
- 第5回 「観光」の概念と観光振興。
- 第6回 まちづくりと景観まちづくり。まちかどのスポット整備。
- 第7回 歴史的商店街の価値評価と再生。
- 第8回 イベント論。＜ツアー＞および＜地域イベント＞企画案作成課題の提示。
- 第9回 誰がまちづくりを行うのか？「公的部門」と「民的部門」
- 第10回 協働のまちづくり
- 第11回 日本のまちづくりの歴史①「古代計画都市－京都編」（京都の歴史と魅力）
- 第12回 日本のまちづくりの歴史②「歴史都市類型編」（中世～近世の諸都市類型）
- 第13回 日本のまちづくりの歴史③「近代編」（明治期から昭和初期の地域振興）
- 第14回 日本のまちづくりの歴史④「現代編」（昭和～平成のまちづくり）
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

あなたが暮らす地域で起こる出来事に関心を持ってください。また、地域の行事や、社会でのボランティア活動にできるだけ参加してください。

教科書

臨地まちづくり学

著者： 織田直文

出版社： サンライズ出版

出版年： 2005

ISBN:

参考書

まちづくりを学ぶ

著者： 石原武政・西村幸夫編著

出版社： 有斐閣

出版年： 2010年

ISBN:

文化政策と臨地まちづくり

著者： 織田直文編著

出版社： 水曜社

出版年： 2009年

ISBN：

まちづくりの百科事典

著者： 似田貝香門他

出版社： 丸善

出版年： 2008年

ISBN：

日本まちづくり事典

著者： 井上繁

出版社： 丸善

出版年： 2010年

ISBN：

成績評価

試験（20）

小テスト（10）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（50）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化プロデュース入門 I

担当者 小暮 宣雄

テーマ

都市環境デザイン学科文化プロデュース入門の入門

獲得目標

文化と都市、プロデュースと環境デザインの関係を広く柔軟に学ぶ。地域公共政策と文化プロデュースの関係を知る。映画(アニメ、ホラーなど)を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。

授業の内容

都市環境デザイン学科の主に文化プロデュースを学びたい学生さんの最初の一步。でも、他の学修にも役に立つと思います。

内 容

- 第1回 はじめに・・・地域公共政策士の第一種プログラム「文化プロデュース力養成講座」とはなにか
- 第2回 文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的(社会構成的)な捉え方
- 第3回 地域とはなにか
- 第4回 文化のなかのアート、その分類と特質
- 第5回 学外授業 京都市内などにおいて、地域の公共的文化環境を視察する
- 第6回 まちと都市と地域と文化と(互いの関係とすみわけ)
- 第7回 誕生日のあるアート、それが映画だ(活動写真からトーキーへ)
- 第8回 超自然存在としてのアニメ、妖怪(妖怪と幽霊、妖怪の例示～河童の特性とは?)
- 第9回 アニメ映画への接近(原恵一監督～「河童のクウの夏休み」から分かること)現在製作中の新しい映画「カラフル」に言及する可能性あり
- 第10回 実写映画への接近1(黒沢清監督～ホラー映画を冷静に鑑賞するには?)
- 第11回 実写映画への接近2(黒沢清監督～心理とアクション～)「東京ソナタ」を題材にして
- 第12回 映画プロデュースに必要なものは
- 第13回 文化プロデュースから何が生まれるのか
- 第14回 私たちの文化の未来へ アーツマネジメントってなんだろう
- 第15回 まとめ・・・これからの文化プロデュース科目の予告 文化プロデュースに関わる学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

授業以外での学習方法

古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館にいて実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。参考文献をいくつか購入して読むこと。そのために生協読書奨励制度を活用すること。ソーシャルメディアもfacebookを活用したりブログなどを手がけたりうまく利用したりするようにしてください。

教科書

参考書

アニメーション監督 原恵一

著者: 浜野保樹

出版社: 晶文社

出版年: 2005年

ISBN: 4-7949-6677-6

これからのアートマネジメント

著者： 中川真・小暮宣雄ほか

出版社： フィルムアート社

出版年： 2011年

ISBN: 9784845911639

黒沢清の映画術

著者： 黒沢清

出版社： 新潮社

出版年： 2006年

ISBN: 4-10-302851-3

成績評価

試験 (0)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄のアーツブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

できればフィード購読を

2014 Syllabus

科目名 都市文化資源論

担当者 木下 達文

テーマ

都市を含む地域にある文化的な要素を考える

獲得目標

京都には、神社仏閣だけでなく、魅力的な文化施設や商業施設が多々あるように、地域のさまざまな文化的資源を発掘・発見する目を養い、テーマ(エリア)を決めて実際にフィールドワークを行いながら、資源の掘り起こしとその情報の編集・制作までを行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 都市の文化とは
 - 第3回 文化資源の多様性
 - 第4回 観光と文化資源
 - 第5回 まち育と文化資源
 - 第6回 その他の文化資源
 - 第7回 文化資源の発掘
 - 第8回 個別都市(地域)の選定
 - 第9回 個別文化資源研究(文献研究)1
 - 第10回 個別文化資源研究(文献研究)2
 - 第11回 文化資源の現地調査(フィールドワーク)
 - 第12回 文化資源の現地調査(フィールドワーク)
 - 第13回 文化資源の編集
 - 第14回 文化資源の編集
 - 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

身の回りにあるものすべてが、文化資源であるといえる。ふだん見過ごしがちなものでも、多角的に観察してみると、新たな価値を発見できる目を養って欲しい。

教科書

参考書

観光学への扉

著者： 井口貢・木下達文他編

出版社： 学芸出版社

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a50201e610

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※後半グループワークを行うため、欠席は3回までとしているので、良く考えて履修をすること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化 <Z>

担当者 五十川 伸矢

テーマ

京都の古寺と古鐘 ——京都観光スポットと梵鐘探訪——

獲得目標

京都の観光スポットとなっている古寺をとりあげて、その歴史を解説するとともに、その寺が所蔵する古鐘について、最新の研究成果をもとに、その歴史を学習する。

授業の内容

日本史の教科書に出てくる京都府下の有力寺院の沿革と現状を解説し、その歴史の重要な証人としての梵鐘を紹介してゆく。

内 容

- 第1回 京都の古寺と古鐘——梵鐘の様式——
 - 第2回 梵鐘づくりの技術①民俗例のビデオ
 - 第3回 梵鐘づくりの技術②実物観察と鑄造遺跡
 - 第4回 妙心寺と最古の梵鐘
 - 第5回 神護寺と華麗な陽鑄銘文
 - 第6回 平等院と阿弥陀堂に似合う華麗な鐘
 - 第7回 学外授業 宇治平等院
 - 第8回 笠置寺と中国鐘をまねたユニークな鐘
 - 第9回 安祥寺と河内鑄物師の鐘
 - 第10回 清水寺と三条釜座の鑄物師が作った鐘
 - 第11回 南蛮寺と洋鐘形の鐘
 - 第12回 方広寺と豊臣滅亡の鐘
 - 第13回 学外授業 東山知恩院・方広寺
 - 第14回 中国の古鐘と日本鐘
 - 第15回 韓国の古鐘と日本鐘
-

授業以外での学習方法

京都の寺院や神社をたずねた時には梵鐘を鑑賞し、ひととき功德を積んで仏門へと誘われてほしい

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 都市と文化資源 <Z>

担当者 木下 達文

テーマ

都市を含む地域にある文化的な要素を考える

獲得目標

京都には、神社仏閣だけでなく、魅力的な文化施設や商業施設が多々あるように、地域のさまざまな文化的資源を発掘・発見する目を養い、テーマ(エリア)を決めて実際にフィールドワークを行いながら、資源の掘り起こしとその情報の編集・制作までを行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 都市の文化とは
 - 第3回 文化資源の多様性
 - 第4回 観光と文化資源
 - 第5回 まち育と文化資源
 - 第6回 その他の文化資源
 - 第7回 文化資源の発掘
 - 第8回 個別都市(地域)の選定
 - 第9回 個別文化資源研究(文献研究)1
 - 第10回 個別文化資源研究(文献研究)2
 - 第11回 文化資源の現地調査(フィールドワーク)
 - 第12回 文化資源の現地調査(フィールドワーク)
 - 第13回 文化資源の編集
 - 第14回 文化資源の編集
 - 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

身の回りにあるものすべてが、文化資源であるといえる。ふだん見過ごしがちなものでも、多角的に観察してみると、新たな価値を発見できる目を養って欲しい。

教科書

参考書

観光学への扉

著者： 井口貢・木下達文他編

出版社： 学芸出版社

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a502025510

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※後半グループワークを行うため、欠席は3回までとしているので、良く考えて履修をすること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **アーツ演習 I <Za>**

担当者 清水 俊洋

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践(※主に視覚芸術の領域における)

獲得目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術(ちらし)デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の内容

(1)視覚芸術の名作(現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など)の鑑賞と分析・説明 (2)Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践 (3)写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

内 容

- 第1回 「ビジュアルアーツ演習」とは? 心にひびくデザインを考える … たくさんのチラシをみながら…
 - 第2回 文字をみる・文字をつくる … タイポグラフィ制作
 - 第3回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
 - 第4回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
 - 第5回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
 - 第6回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
 - 第7回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
 - 第8回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
 - 第9回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
 - 第10回 視覚効果 … 隠蔽と想像力／錯覚／意外性その他
 - 第11回 商品広告写真を撮る
 - 第12回 心にひびくことばを考える … キャッチコピー
 - 第13回 見る人に伝わる商品広告をつくる
 - 第14回 見る人に伝わる商品広告をつくる
 - 第15回 見る人に伝わる商品広告をつくる
 - 第16回 最終試験(60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出)
-

授業以外での学習方法

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触れている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト

著者: 志賀 隆生

出版社: ビー・エヌ・エヌ新社

出版年: 2007

ISBN: 978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール

著者： 大崎 善治

出版社： ソフトバンククリエイティブ

出版年： 2010

ISBN： 978-4797359220

なぜ、これがアートなの？

著者： アメリア アレナス

出版社： 淡交社

出版年： 1998

ISBN： 978-4473015785

成績評価

試験（30%）

小テスト（ ）

授業中課題（30%）

授業中発表等（ ）

参加度（40%）

参考URL

宣伝美術 清水俊洋

<http://shimizutoshihiro.info>

講師の公式ウェブサイト

2014 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅲ <a>**

担当者 河野 良平

テーマ

獲得目標

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント
 - 第2回 配置計画案の作成
 - 第3回 平面計画案の作成
 - 第4回 立面・断面計画案の作成
 - 第5回 架構計画案の作成
 - 第6回 中間発表
 - 第7回 配置図・平面図の作成1
 - 第8回 平面図の作成2
 - 第9回 立面図の作成
 - 第10回 断面図の作成
 - 第11回 展開図、パースまたはアクソメトリック図の作成
 - 第12回 模型1
 - 第13回 模型2
 - 第14回 模型3
 - 第15回 講評とまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅲ **

担当者 松本 正富

テーマ

戸建て住宅の設計

獲得目標

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

授業の内容

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント
- 第2回 配置計画案の作成
- 第3回 平面計画案の作成
- 第4回 立面・断面計画案の作成
- 第5回 架構計画案の作成
- 第6回 中間発表
- 第7回 配置図・平面図の作成1
- 第8回 平面図の作成2
- 第9回 立面図の作成
- 第10回 断面図の作成
- 第11回 展開図、パースまたはアクソメトリック図の作成
- 第12回 模型1
- 第13回 模型2
- 第14回 模型3
- 第15回 講評とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

初学者の建築講座

著者： 瀬川康秀

出版社： 市ヶ谷出版社

出版年： 2011

ISBN： 9784870710146

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築計画 I**

担当者 竹山 清明

テーマ

住居の計画について基本的な知識を習得する。

獲得目標

居住施設の計画について基本的な知識を習得する。人間の基本動作とそれに伴う必要寸法、戸建て住宅の歴史や様々な形式、各室の計画、配置計画、動線計画さらには集合住宅の種類と計画まで学ぶ。また、住宅の基本計画を実際に行うことで理解を深める。

授業の内容

人間の基本動作とそれに伴う必要寸法、戸建て住宅の歴史や様々な形式、各室の計画、配置計画、動線計画さらには集合住宅の種類と計画まで学ぶ。また、住宅の基本計画を実際に行うことで理解を深める。

内 容

- 第1回 ガイダンス、建築計画の役割
 - 第2回 住活様式と住宅の変化
 - 第3回 人間の基本動作1
 - 第4回 人間の基本動作2
 - 第5回 戸建住宅の配置計画
 - 第6回 戸建住宅の平面計画
 - 第7回 戸建住宅の各室計画
 - 第8回 戸建住宅の基本計画1
 - 第9回 戸建住宅の基本計画2
 - 第10回 団地計画
 - 第11回 集合住宅の形式と配置計画
 - 第12回 集合住宅の平面計画
 - 第13回 集合住宅の住戸計画1
 - 第14回 集合住宅の住戸計画2
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

住宅の計画やデザインを学ぶ上で、人々の日常生活のあり方を学ぶことは重要である。また質の高い空間イメージの理解や把握も最も大きい役割を果たす。建築図書やマスコミ・インターネット・展覧会などを利用して、様々な生活のあり方や課題、魅力的な空間イメージや美しいデザインを常日頃から学ぶことは重要である。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 ()

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築環境工学**

担当者 松原 斎樹

テーマ

獲得目標

地球環境と人間にやさしい建築デザインのあり方を学ぶ。

授業の内容

建築は本来自然環境を巧みに調節する機能をもっていたが、近年は機械設備依存、エネルギー浪費の傾向が強く、地球環境問題の原因の一つにもなっている。この講義では建築デザインの根本に環境問題や物理環境調節の視点を持つ必要性を認識することを重視し、物理的な環境調節の視点からの建築環境工学原論として、建築物の主に熱、空気、光、音のデザインにかかわる物理学的な取扱いについて学ぶ。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 熱環境のデザインの基礎1 温度と熱移動
 - 第3回 熱環境のデザインの基礎2 断熱と気密化
 - 第4回 熱環境のデザインの基礎3 暑さ・寒さと人間
 - 第5回 熱環境のデザインの基礎4 湿気と結露防止
 - 第6回 温熱環境のデザインの基礎5 太陽位置と日影図
 - 第7回 温熱環境のデザインの基礎6 太陽エネルギーの利用と日照調整
 - 第8回 空気環境のデザインの基礎1 換気の必要性とその駆動力
 - 第9回 空気環境のデザインの基礎2 室内空気汚染と換気
 - 第10回 光環境のデザインの基礎1 光と視覚
 - 第11回 光環境のデザインの基礎2 採光と照明、色彩と人間の心理
 - 第12回 音環境のデザインの基礎1 音の性質
 - 第13回 音環境のデザインの基礎2 室内音響
 - 第14回 音環境のデザインの基礎3 騒音防止
 - 第15回 まとめ(演習)
-

授業以外での学習方法

予習としては、事前に教科書を読んでくること。復習はテキストとノートを振り返ること

教科書

図説やさしい建築環境

著者： 辻原監修, 今村・田中著

出版社： 学芸出版社

出版年： 2009

ISBN： 9784761524760

参考書

最新建築環境工学

著者： 田中, 武田, 岩田, 土屋, 寺尾

出版社： 井上書院

出版年： 2012

ISBN： 9784753017423

パッシブ建築設計手法事典新訂版

著者： 彰国社編

出版社： 彰国社

出版年： 2000

ISBN: 9784395110957

成績評価

試験（40）

授業中課題（ ）

参加度（30）

小テストは中間試験の意味。参加度は出席と授業態度。

小テスト（30）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 構造計画

担当者 福田 浩明

テーマ

獲得目標

構造と意匠(デザイン)と建築計画の相互の関係性を学ぶ。面と軸の構造概念の理解を通し、構造が直接意匠に及ぼす影響や、意匠を成立させる為の構造の重要性など具体例をあげ、業務レベルでの構造計画を実感し、理解を深める。

授業の内容

構造の原理を感覚としてとらえられるように模型を作製しながら又、実例を紹介しながら理解してもらい、実践力を養う。

内 容

- 第1回 構造計画とは
 - 第2回 面構造と軸構造の話
 - 第3回 柱、梁の話
 - 第4回 木構造 在来工法
 - 第5回 木構造 民家型工法
 - 第6回 木構造 2×4工法
 - 第7回 木構造 その他の工法
 - 第8回 鉄筋コンクリート造 ラーメン構造
 - 第9回 鉄筋コンクリート造 壁式構造
 - 第10回 鉄筋コンクリート造 その他
 - 第11回 鉄骨造、SRC造、他
 - 第12回 混構造
 - 第13回 その他の構造、工法
 - 第14回 演習(構造模型作製等)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 ()

参加度 (60%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a50202d810

人数、その他の状況に応じて評価方法をかえることもあります。原則は出席とノートの記録を重視します。最終日に100点満点のペーパーテスト(ノートのみ持ち込み可)と一緒に成績の評価とします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **構造力学Ⅱ**

担当者 山本 康彦

テーマ

構造物に起こる変形状態、崩壊機構の基礎について学習する。

獲得目標

構造物に働く力についての基本的な知識を習得し、構造物を合理的に設計する上で必要な事項を学ぶ。部材や構造物に作用する力に対して、どのように力が伝わり、どのように変形するかなどを理解するために、部材の応力度やひずみ、柱の座屈、静定構造物の変形、不静定構造物の弾性解析について練習問題を通して具体的に理解を深める。

授業の内容

テキストに沿って講義を進め、プリント類を使って理解度を確認する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 応力度
 - 第3回 弾性とひずみ
 - 第4回 柱の理論1、短柱
 - 第5回 柱の理論2、長柱
 - 第6回 静定構造物の変形1、片持ちはり1
 - 第7回 静定構造物の変形1、片持ちはり2
 - 第8回 静定構造物の変形2、単純はり1
 - 第9回 静定構造物の変形2、単純はり2
 - 第10回 不静定構造物と解法について
 - 第11回 不静定構造物の解析1 たわみ角法1
 - 第12回 不静定構造物の解析1 たわみ角法2
 - 第13回 不静定構造物の解析2 固定法1
 - 第14回 不静定構造物の解析2 固定法2
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

建築物が力を受けると、どのように変形するかを常にイメージする。

教科書

・図説 やさしい構造力学

著者： 浅野清昭

出版社：(株)学芸出版社

出版年：2011年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅱ <a>

担当者 中山 大介

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

獲得目標

平面図・立面図・断面図といった建築図面の作成ルールを理解し、建築製図用のCADソフトを使用してそれら建築図面を制作する。また図面のトレースや立体化を通じて、空間デザインのトレーニングを行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 基本の操作 面を使って図を描く 練習課題(1)
- 第2回 基本の操作 面を使って図を描く 練習課題(2)
- 第3回 基本の操作(1)
- 第4回 基本の操作(2)
- 第5回 基本の操作 線を使って図を描く 練習課題:アクソメを描く(1)
- 第6回 基本の操作 線を使って図を描く 練習課題:アクソメを描く(2)
- 第7回 基本の操作復習 練習課題:階段をアクソメで描く(1)
- 第8回 基本の操作復習 練習課題:階段をアクソメで描く(2)
- 第9回 基本の操作復習(2) 練習課題:らせん階段をアクソメで描く(1)
- 第10回 基本の操作復習(2) 練習課題:らせん階段をアクソメで描く(2)
- 第11回 演習課題1:小住宅のアクソメを描き、その空間構成をプロポジションについて学ぶ(1)
- 第12回 // (2)
- 第13回 // (3)
- 第14回 // (4)
- 第15回 演習課題2:名作住宅の図面をトレースする(1)
- 第16回 // (2)
- 第17回 // (3)
- 第18回 // (4)
- 第19回 演習課題2-2:トレースした図面をもとにアクソメをたちあげる(1)
- 第20回 // (2)
- 第21回 // (3)
- 第22回 // (4)
- 第23回 演習課題3:美術館をアクソメ化し、館内案内図をつくる(1)
- 第24回 // (2)
- 第25回 // (3)
- 第26回 // (4)
- 第27回 // (5)
- 第28回 // (6)
- 第29回 講評
- 第30回 講評(2)

授業以外での学習方法

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9784881667330

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2011

ISBN: 9784870710146

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅱ

担当者 松本 正富

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

獲得目標

平面図・立面図・断面図といった建築図面の作成ルールを理解し、建築製図用のCADソフトを使用してそれら建築図面を制作する。また図面のトレースや立体化を通じて、空間デザインのトレーニングを行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 基本の操作 面を使って図を描く 練習課題(1)
- 第2回 基本の操作 面を使って図を描く 練習課題(2)
- 第3回 基本の操作(1)
- 第4回 基本の操作(2)
- 第5回 基本の操作 線を使って図を描く 練習課題:アクソメを描く(1)
- 第6回 基本の操作 線を使って図を描く 練習課題:アクソメを描く(2)
- 第7回 基本の操作復習 練習課題:階段をアクソメで描く(1)
- 第8回 基本の操作復習 練習課題:階段をアクソメで描く(2)
- 第9回 基本の操作復習(2) 練習課題:らせん階段をアクソメで描く(1)
- 第10回 基本の操作復習(2) 練習課題:らせん階段をアクソメで描く(2)
- 第11回 演習課題1:小住宅のアクソメを描き、その空間構成をプロポジションについて学ぶ(1)
- 第12回 // (2)
- 第13回 // (3)
- 第14回 // (4)
- 第15回 演習課題2:名作住宅の図面をトレースする(1)
- 第16回 // (2)
- 第17回 // (3)
- 第18回 // (4)
- 第19回 演習課題2-2:トレースした図面をもとにアクソメをたちあげる(1)
- 第20回 // (2)
- 第21回 // (3)
- 第22回 // (4)
- 第23回 演習課題3:美術館をアクソメ化し、館内案内図をつくる(1)
- 第24回 // (2)
- 第25回 // (3)
- 第26回 // (4)
- 第27回 // (5)
- 第28回 // (6)
- 第29回 講評
- 第30回 講評(2)

授業以外での学習方法

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9784881667330

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2011

ISBN: 9784870710146

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **都市建築文化史Ⅱ**

担当者 石井 和浩

テーマ

未来が必要としている都市建築のあり方

獲得目標

これからの都市・建築のあり方を冷静に判断するための指標として都市・建築の歴史の変遷を的確に把握する。

授業の内容

古代から近代にかけて日本の都市・建築に多大な影響を与えた先人の思考に学び未来を創造する。講義の進行は図解資料パワーポイントを用いて解説する。

内 容

- 第1回 歴史的変遷を学ぶ意義
 - 第2回 都市の誕生と建築
 - 第3回 古代における建築文化
 - 第4回 中世・町衆の都市建築
 - 第5回 「都城」制の変容としての平安京
 - 第6回 戦国武将の町づくり
 - 第7回 近世の建築文化
 - 第8回 近世における城下町の変容
 - 第9回 近代の歴史的産業遺産
 - 第10回 近代の建築文化1 - 西洋建築の輸入 -
 - 第11回 近代の建築文化2 - 大正デモクラシーの建築 -
 - 第12回 近代の建築文化3 - 現代建築の規範 -
 - 第13回 現代の在郷町におけるまちづくり
 - 第14回 歴史的文化遺産を生かしたまちづくり
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

適宜レジュメを配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

図説 建築の歴史 西洋・日本・近代

著者: 西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎

出版社: 学芸出版社

出版年: 2003年

ISBN:

成績評価

a50202e510

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (50)

小テスト (50)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **観光情報論**

担当者 谷口 知司

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報および情報媒体について学ぶ。

獲得目標

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報がかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

授業の内容

講義と受講者による発表で構成される。授業タイトルは「論」であるが演習のつもりで受講してほしい。

内 容

- 第1回 観光情報とは
 - 第2回 観光情報とメディア
 - 第3回 観光ビジネスと情報活用について①
 - 第4回 観光ビジネスと情報活用について②
 - 第5回 観光ビジネスと情報活用について③
 - 第6回 観光ビジネスと情報活用について④
 - 第7回 いろいろな観光情報
 - 第8回 観光情報について分析する(発表を含む)①
 - 第9回 観光情報について分析する(発表を含む)②
 - 第10回 観光情報について分析する(発表を含む)③
 - 第11回 観光情報について分析する(発表を含む)④
 - 第12回 観光情報について分析する(発表を含む)⑤
 - 第13回 観光情報について分析する(発表を含む)⑥
 - 第14回 観光情報について分析する(発表を含む)⑦
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **アーツマネジメント論**

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメントを学ぶ入り口

獲得目標

アーツマネジメントが都市環境デザインにどう位置づけられるかを知る。アーツマネジメントの基礎的用語を理解し説明できる。アーツマネジメントの分類ができる。

授業の内容

ゲスト講師をできれば呼びたい。アーティストやアーツマネージャーが呼びかけに来てくれることもあるので、楽しみに

内 容

- 第1回 これからの予定の紹介(冒頭に、これからの演劇ダンス公演のPRだとか、美術関係のボランティア募集などの呼びかけが随時行われることがあり、そこに登場する方々は、それぞれ新進気鋭のアーツマネージャーなので、適宜、生のアーツマネジメントの姿を挿入することを促進する。)
 - 第2回 アーツマネジメントのABC
 - 第3回 アーツマネジメントの定義と文化政策、まちづくりとの関係
 - 第4回 アーツスペース(劇場ホール、美術館)とアーツカンパニー(劇団、楽団など)
 - 第5回 学外授業 芸術鑑賞 京都かその周辺(予定)
 - 第6回 アーツスペース論～劇場、コンサートホール、ライブハウス、美術館、画廊の真実～
 - 第7回 アーツの分類
 - 第8回 限界芸術論1・・・結婚式など冠婚葬祭を例示する
 - 第9回 限界芸術論2・・・ウェディングプランナーとフューネラルマネージャー
 - 第10回 アーツマネジメントの分類と歴史
 - 第11回 アーツマネージャーを招いて(外部講師)
 - 第12回 指定管理者制度など行政的マネジメント課題
 - 第13回 非営利民間活動の公共性～アーツNPOと企業メセナ
 - 第14回 限界芸術と先端芸術、伝統芸術、市場芸術の関係
 - 第15回 まとめ・・・アーツ(マネジメント)の公共性とは
-

授業以外での学習方法

アーツマネジメントの基本文献を紹介したり配布するので、時間外によく読んでおくこと。生協の読書奨励制度を積極的に活用するととても役立つ。芸術鑑賞と文化ボランティアの学外での活動を評価する。

教科書

参考書

アーツマネジメント学

著者: 小暮宣雄

出版社: 水曜社

出版年: 2013

ISBN: 9784880653129

文化政策学の展開

著者： 池上惇ほか

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN:

アーツ・マネジメント概論三訂版

著者： 伊藤裕夫ほか

出版社： 水曜社

出版年： 2009

ISBN:

アーツマネジメントみち

著者： 小暮宣雄

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN:

分権時代の自治体文化政策

著者： 中川幾郎

出版社： 勁草書房

出版年： 2001

ISBN:

限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999

ISBN:

著作権とは何か

著者： 福井健策

出版社： 集英社

出版年： 2005

ISBN:

地域再生の罫

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010

ISBN:

未来型サバイバル音楽論

著者： 牧村憲一ほか

出版社： 中央公論新社

出版年： 2010

ISBN:

これからのアートマネジメント

著者： 中川真ほか

出版社： フィルムアート社

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（20）

授業中課題（30）

授業中発表等（0）

参加度（50）

毎回、A5版程度の用紙（出席確認を兼ねるもの）に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらう。欠席の場合はそれに替わるものをA5用紙で提出して15回をクリアすることをめざす。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄メインブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

できればフィード購読を

2014 Syllabus

科目名 ビジュアルアーツ演習 <a>

担当者 清水 俊洋

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践(※主に視覚芸術の領域における)

獲得目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術(ちらし)デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の内容

(1)視覚芸術の名作(現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など)の鑑賞と分析・説明 (2)Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践 (3)写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

内 容

- 第1回 「ビジュアルアーツ演習」とは? 心にひびくデザインを考える … たくさんのチラシをみながら…
- 第2回 文字をみる・文字をつくる … タイポグラフィ制作
- 第3回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
- 第4回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
- 第5回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第6回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第7回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
- 第8回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
- 第9回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
- 第10回 視覚効果 … 隠蔽と想像力／錯覚／意外性その他
- 第11回 商品広告写真を撮る
- 第12回 心にひびくことばを考える … キャッチコピー
- 第13回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第14回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第15回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第16回 最終試験(60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出)

授業以外での学習方法

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触れている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト

著者: 志賀 隆生

出版社: ビー・エヌ・エヌ新社

出版年: 2007

ISBN: 978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール

著者： 大崎 善治

出版社： ソフトバンククリエイティブ

出版年： 2010

ISBN： 978-4797359220

なぜ、これがアートなの？

著者： アメリア アレナス

出版社： 淡交社

出版年： 1998

ISBN： 978-4473015785

成績評価

試験（30%）

小テスト（ ）

授業中課題（30%）

授業中発表等（ ）

参加度（40%）

参考URL

宣伝美術 清水俊洋

<http://shimizutoshihiro.info>

講師の公式ウェブサイト

2014 Syllabus

科目名 文化政策論

担当者 金武 創

テーマ

獲得目標

1)文化政策の先進事例から複眼的思考の重要性を学ぶ 2)学生が自らの経験を基礎に考えることを促す 3)自らの経済的自立のための基礎学力を育む(就職活動支援も含めて) 個人の自立を目指した文化政策を考える

授業の内容

生活の豊かさと個人の自立について考える。(「文化経済論」と連続講義)

内 容

- 第1回 稀少性と選択の科学
 - 第2回 価格メカニズム
 - 第3回 文化生産
 - 第4回 文化消費
 - 第5回 文化資本
 - 第6回 文化遺産観光
 - 第7回 埋蔵文化財
 - 第8回 JPOPと音楽消費
 - 第9回 温泉文化
 - 第10回 ギャンブルと文化支援
 - 第11回 スポーツ振興(1)
 - 第12回 スポーツ振興(2)
 - 第13回 建築デザイン
 - 第14回 パブリックアート
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

文化経済論

著者: 金武創/阪本崇

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2005

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a50202g310

試験 ()
授業中課題 (80)
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 地域文化行政論

担当者 五十川 伸矢

テーマ

文化財行政の現状と課題

獲得目標

文化財の保護という仕事は、これまで国都道府県市町村の行政体を中心となっておこなってきた。その仕事内容は、現実的な仕事である。また、最近では、時代の変化に対応した文化財行政のありかたが求められている。これらの文化財行政の現実と課題を理解する。

授業の内容

文化財行政の担当者が、きびしい現実に対して、どのように業務をこなしているのかを、きちんと説明するとともに、今後の課題について解説する。

内 容

- 第1回 近代国家成立以前の文化財保護
 - 第2回 近代の行政的文化財保護の歴史① 国家成立期の文化財事情
 - 第3回 近代の行政的文化財保護の歴史② 文化財保護法の成立
 - 第4回 古代のロマンとナショナリズムの形成
 - 第5回 学外授業 発掘調査現場または整備された遺跡・建築または博物館
 - 第6回 埋蔵文化財の調査現場の仕事
 - 第7回 教育委員会の仕事①(ゲストスピーカー)文化財調査担当者
 - 第8回 埋蔵文化財に関する文化財行政のまとめ
 - 第9回 学外授業 発掘調査現場または整備された遺跡・建築または博物館
 - 第10回 日本の世界遺産と平泉
 - 第11回 教育委員会の仕事②(ゲストスピーカー)文化財調査担当者
 - 第12回 行政体の文化財保護組織・保存問題
 - 第13回 文化財行政の課題① 大学・博物館・行政組織・民間の関係の変貌
 - 第14回 文化財行政の課題② 民間調査組織と資格問題
 - 第15回 文化財行政の課題③ 文化財の有効活用
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築施工**

担当者 笠井 俊明

テーマ

建築物が造り出される過程や施工のポイントについて、具体的にやさしく学ぶ。建築積算についても平行して学ぶ。

獲得目標

建築施工における基礎的な知識を学び、一般的な建築工事のプロセスについて理解する。各工程、工種での基本的な工事内容、技術的な手法や積算方法について具体的に知ること、施工計画や工程管理などの重要性を認識する。

授業の内容

建築施工における基礎的な知識を教えます、一般的な建築工事のプロセスについて配布資料・写真や図を用いて具体的に説明します。

内 容

- 第1回 建築施工について
 - 第2回 建築生産に関わる各種業務;設計・工事発注・施工など
 - 第3回 施工の流れと工程計画作成
 - 第4回 仮設工事について、および、地盤強度と地盤調査
 - 第5回 土工事と、地業工事の種類と施工法
 - 第6回 鉄筋工事と型枠工事
 - 第7回 コンクリートの配合と、その打設手順
 - 第8回 鉄骨の種類と、その接合や建て方について
 - 第9回 メーソロジー(組積)工事とプレキャストパネル
 - 第10回 建具工事
 - 第11回 内外装の機能材料と仕上工事
 - 第12回 給排水・空調・電気設備工事
 - 第13回 工事費の積算の手順
 - 第14回 簡単な構造物の積算演習
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

テキストの予習復習。日常生活から興味をもって建築施工について考える。工事現場を注意して観察する。

教科書

初学者の建築講座 建築施工

著者: 中澤明夫 門田誠

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2010

ISBN: 9784870711211

参考書

建築施工テキスト

著者: 兼歳昌直

出版社: 井上書院

出版年: 2012

ISBN: 9784753005871

成績評価

a50202g610

試験（30）

小テスト（30）

授業中課題（10）

授業中発表等（0）

参加度（30）

総合試験は最終授業後別日程で実施します。 前回授業の小テストを毎回します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築法規**

担当者 石井 和浩

テーマ

建築は社会の礎である

獲得目標

建築物、地域や都市を計画し、それを実現するために必要な建築基準法や関連する法令について基礎的な知識を習得する。

授業の内容

建築が日常生活へ与える影響について事例を交えながら解説し、建築法規の必要性を学ぶ。

内 容

- 第1回 建築基準法の概要1
 - 第2回 建築基準法の概要2
 - 第3回 用途と形態の制限1
 - 第4回 用途と形態の制限2
 - 第5回 防火対策と内装の規制1
 - 第6回 防火対策と内装の規制2
 - 第7回 避難施設の基準
 - 第8回 構造強度の規制1
 - 第9回 構造強度の規制2
 - 第10回 環境と整備に関する基準1
 - 第11回 環境と整備に関する基準2
 - 第12回 建築協定・建築士法
 - 第13回 ハートビル法・耐震改修促進法、建築業
 - 第14回 消防法、都市計画法、品確法、その他の法令
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

図説 やさしい建築法規

著者： 今村仁美・田中美都

出版社： 学芸出版社

出版年：

ISBN：

参考書

建築基準法令集

著者： 国土交通省住宅局・日本建築学会

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a50202g710

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (50)

小テスト (50)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **景観・アメニティ論**

担当者 小森 治夫

テーマ

景観・アメニティについて具体的に学ぶ

獲得目標

地域計画を通じて現代における景観やアメニティを考える。地域開発の歴史や景観論争の実態を把握し、論点を理解・整理した上で、日本の伝統文化が育んできたアメニティについて学ぶ。

授業の内容

京都の景観問題、農村の景観、建築の美など、景観・アメニティについて、具体的な事例をあげつつ学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション、地域計画・景観・アメニティ
- 第2回 京都の町屋
- 第3回 京都景観論争
- 第4回 京都の新景観政策
- 第5回 鞆浦景観論争
- 第6回 ソウル大改造
- 第7回 農村の景観(1)里山
- 第8回 農村の景観(2)棚田
- 第9回 農村の景観(3)黒川温泉
- 第10回 建築の美(1)桂離宮
- 第11回 建築の美(2)白川郷
- 第12回 建築の美(3)かやぶき屋根
- 第13回 建築の美(4)蔵と石橋
- 第14回 建築の美(5)ヴォーリス
- 第15回 建築家のミッション

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(特に経済面、政治面、社会面など) 講義内容に関連するテレビ番組を見る

教科書

参考書

日本に風景を殺したのは誰だ？

著者： 船瀬俊介

出版社： 彩流社

出版年： 2004年

ISBN:

日本美の再発見

著者： ブルーノ・タウト

出版社： 岩波書店

出版年： 1939年

ISBN:

ブルーノ・タウト

著者： 田中辰明

出版社： 中央公論新社

出版年： 2012年

ISBN：

ヴォーリズ建築の100年

著者： 山形政昭

出版社： 創元社

出版年： 2008年

ISBN：

日本の宝 鞆の浦を歩く

著者： 三浦正幸

出版社： 南々社

出版年： 2010年

ISBN：

都市伝説 ソウル大改造

著者： 李明博

出版社： マネジメント社

出版年： 2007年

ISBN：

京都観光学のススメ

著者： 井口和紀他

出版社： 人文書院

出版年： 2005年

ISBN：

都市不動産の経済学

著者： 柿本尚志

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2008年

ISBN：

歴史的環境の社会学

著者： 片桐新自編

出版社： 新曜社

出版年： 2000年

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習V**

担当者 今井 裕夫

テーマ

獲得目標

4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

授業の内容

内 容

- 第1回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント
 - 第2回 集合住宅の事例調査発表
 - 第3回 配置計画、全体計画案の作成
 - 第4回 構造計画案の作成
 - 第5回 設備計画案の作成
 - 第6回 全体計画案の修正、建築基準法の確認
 - 第7回 基本住戸平面計画案の作成
 - 第8回 立面・断面・内装計画案の作成
 - 第9回 中間発表
 - 第10回 配置図の作成
 - 第11回 平面図の作成
 - 第12回 立面・断面図の作成
 - 第13回 模型1
 - 第14回 模型2
 - 第15回 講評とまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 住宅計画

担当者 織田 直文

テーマ

健康で文化的な住宅を設計する。

獲得目標

住宅とは、決して単なる物ではなく、人間の多様で豊かな生活のための空間であること、そのためには、住宅というハードと使い方のソフトを融合させ、安全で快適、健康的かつ衛生的で、また便利で文化的な住宅設計の基本を修得する。

授業の内容

住宅を生活と環境の側面からとらえ、既往の建築計画学の成果である寸法計画、規模や形態に関する計画、地域計画などの知見も取り入れながら、住宅の設計の基本と応用を学ぶ。具体的な住宅作品を解説・評価し、住まい手について安全で快適、かつ健康的で文化的な住宅とはどのようなものか考察する。また、設計や管理計画に関する知見についても学び、将来の実務に役立つ知識を修得する。

内 容

- 第1回 住宅の定義および生活と住環境
 - 第2回 住宅計画学の体系と計画のプロセス
 - 第3回 住空間の形態と設計
 - 第4回 住宅計画のための調査の種類と進め方
 - 第5回 人間の寸法と設計の方法
 - 第6回 法規と設計
 - 第7回 平面計画の方法
 - 第8回 構造計画の方法
 - 第9回 室内環境の計画
 - 第10回 住宅設計実例の研究①
 - 第11回 住宅設計実例の研究②
 - 第12回 地域計画における住宅計画と景観づくり
 - 第13回 住宅の管理
 - 第14回 住み手参加による集合住宅デザイン
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

身近な所で関心を持った住宅の外部デザインや平面プランをサーベイし、学ぶ。

教科書

住宅のデザインと製図

著者： 三川 榮吉

出版社： 彰国社

出版年： 2006

ISBN：

参考書

成績評価

試験（10）

授業中課題（30）

参加度（50）

小テスト（10）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築設備**

担当者 柴田 祥江 福坂 誠

テーマ

建築設備の基礎を学ぶ

獲得目標

快適な建築空間を構築するために、建築と建築設備との関わりを理解した上で、給排水・衛生設備、空気調和設備、電気設備、搬送設備について、基礎的な知識を得ることとする。

授業の内容

内 容

- 第12回 空気調和設備6 換気・排煙・自動制御設備について
 - 第13回 電気設備1 受変電・幹線設備と動力設備について
 - 第14回 電気設備2 照明・コンセント設備と情報・通信設備について
 - 第15回 搬送設備 エレベータ、エスカレータ その他について
 - 第16回 試験
 - 第1回 建築と建築設備との関わり、地球環境と建築設備との関わり
 - 第2回 給排水・衛生設備1 給水設備について
 - 第3回 給排水・衛生設備2 給湯設備・ガス設備について
 - 第4回 給排水・衛生設備3 排水通気設備について
 - 第5回 給排水・衛生設備4 排水処理設備・衛生器具設備について
 - 第6回 給排水・衛生設備5 消火設備について
 - 第7回 空気調和設備1 空気調和と室内環境について
 - 第8回 空気調和設備2 湿り空気線図の使い方について
 - 第9回 空気調和設備3 空調負荷について
 - 第10回 空気調和設備4 空気調和方式の種類・特徴について
 - 第11回 空気調和設備5 熱源・熱搬送設備と機器部材について
-

授業以外での学習方法

予習としては、事前に次回の授業の教科書を読んでおくこと。復習は授業時に重要な用語を示すので、意味を理解して覚えていくこと。

教科書

初学者の建築講座 建築設備

著者： 大塚雅之

出版社： 市ヶ谷出版社

出版年： 2011

ISBN： 9784870710177

参考書

成績評価

試験（40）

授業中課題（ ）

小テスト（30）

授業中発表等（ ）

a50203d610

参加度（30）

小テストは中間で習熟度の確認。参加度は出席と授業態度

参考URL

2014 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化と観光

担当者 五十川 伸矢

テーマ

京都の古寺と古鐘 ——京都観光スポットと梵鐘探訪——

獲得目標

京都の観光スポットとなっている古寺をとりあげて、その歴史を解説するとともに、その寺が所蔵する古鐘について、最新の研究成果をもとに、その歴史を学習する。

授業の内容

日本史の教科書に出てくる京都府下の有力寺院の沿革と現状を解説し、その歴史の重要な証人としての梵鐘を紹介してゆく。

内 容

- 第1回 京都の古寺と古鐘——梵鐘の様式——
 - 第2回 梵鐘づくりの技術①民俗例のビデオ
 - 第3回 梵鐘づくりの技術②実物観察と鑄造遺跡
 - 第4回 妙心寺と最古の梵鐘
 - 第5回 神護寺と華麗な陽鑄銘文
 - 第6回 平等院と阿弥陀堂に似合う華麗な鐘
 - 第7回 学外授業 宇治平等院
 - 第8回 笠置寺と中国鐘をまねたユニークな鐘
 - 第9回 安祥寺と河内鑄物師の鐘
 - 第10回 清水寺と三条釜座の鑄物師が作った鐘
 - 第11回 南蛮寺と洋鐘形の鐘
 - 第12回 方広寺と豊臣滅亡の鐘
 - 第13回 学外授業 東山知恩院・方広寺
 - 第14回 中国の古鐘と日本鐘
 - 第15回 韓国の古鐘と日本鐘
-

授業以外での学習方法

京都の寺院や神社をたずねた時には梵鐘を鑑賞し、ひととき功德を積んで仏門へと誘われてほしい

教科書

参考書

成績評価

試験（60%）

授業中課題（40%）

参加度（）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <a>

担当者 今井 裕夫

テーマ

卒業論文を完成させる(1)テーマの設定と調査

獲得目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の内容

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法 ○文献・資料検索についての具体的指導を行う。・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表2
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表3
 - 第9回 発表3
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表4
 - 第12回 発表4
 - 第13回 発表4
 - 第14回 ゼミ合宿
 - 第15回 ゼミ合宿 ※尚、この授業では必要に応じて学外での授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ

担当者 竹山 清明

テーマ

卒業制作の計画づくり

獲得目標

卒業制作のアウトラインを作成する

授業の内容

建築計画と空間デザインの概略の作成

内 容

- 第1回 卒業制作の方向性の検討 その1
 - 第2回 卒業制作の方向性の検討 その2
 - 第3回 卒業制作の方向性の検討 その3
 - 第4回 卒業制作のラフな建築計画の検討 その1
 - 第5回 卒業制作のラフな建築計画の検討 その2
 - 第6回 卒業制作のラフな建築計画の検討 その3
 - 第7回 卒業制作のラフな建築計画の検討 その4
 - 第8回 卒業制作のラフな空間計画の検討 その1
 - 第9回 卒業制作のラフな空間計画の検討 その2
 - 第10回 卒業制作のラフな空間計画の検討 その3
 - 第11回 卒業制作のラフな空間計画の検討 その3
 - 第12回 アーキキヤドによる卒業制作のラフな計画の検討 その1
 - 第13回 アーキキヤドによる卒業制作のラフな計画の検討 その2
 - 第14回 アーキキヤドによる卒業制作のラフな計画の検討 その3
 - 第15回 アーキキヤドによる卒業制作のラフな計画の検討 その4 成果物の提出
-

授業以外での学習方法

アーキキヤドを習熟しておくこと

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 (25%)

小テスト ()

授業中発表等 (25%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <c>

担当者 松本 正富

テーマ

建築・インテリアを題材とした卒業研究(1)

獲得目標

研究論文作成のためのスキルを習得する。コンセプトある卒業制作を効果的にプレゼンテーションするためのスキルを習得する。

授業の内容

1) テーマ設定と絞込みに関するディスカッション 2) 論文構成や論理的文章作成のためのアドバイス 3) 文献調査・事例調査のアドバイス 4) コンセプトに沿ったデザイン手法についてのアドバイス

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 テーマについてのディスカッション-1
 - 第3回 テーマについてのディスカッション-2
 - 第4回 テーマについてのディスカッション-3
 - 第5回 テーマについてのディスカッション-4
 - 第6回 テーマについてのディスカッション-5
 - 第7回 テーマについてのディスカッション-6
 - 第8回 建築見学会-1
 - 第9回 文献調査・事例調査報告-1
 - 第10回 文献調査・事例調査報告-2
 - 第11回 文献調査・事例調査報告-3
 - 第12回 文献調査・事例調査報告-4
 - 第13回 文献調査・事例調査報告-5
 - 第14回 建築見学会-2
 - 第15回 まとめと講評 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

教科書

建築系学生のための卒業設計の進め方

著者： 日本建築学会 編

出版社： 井上書院

出版年： 2009

ISBN： 9784753010554

参考書

コンパクト設計資料集成

著者： 日本建築学会編

出版社： 丸善株式会社

出版年： 2005

ISBN： 9784621075098

成績評価

a502040113

試験 ()
授業中課題 (40)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <d>

担当者 河野 良平

テーマ

卒論のテーマを考える。

獲得目標

研究を通して論理的な思考を修得する。

授業の内容

卒論テーマに沿った資料を収集・整理する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 テーマ発表
 - 第3回 テーマ発表
 - 第4回 テーマ発表
 - 第5回 資料調査発表1
 - 第6回 資料調査発表1
 - 第7回 資料調査発表1
 - 第8回 資料調査発表2
 - 第9回 資料調査発表2
 - 第10回 資料調査発表2
 - 第11回 事例分析
 - 第12回 事例分析
 - 第13回 事例分析
 - 第14回 見学
 - 第15回 見学 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <e>

担当者 近藤 康子

テーマ

卒業研究(論文・設計)に取り組む。

獲得目標

・卒業研究のテーマを決める。・研究方法を学ぶ。・研究対象を調査、分析し、新たな知見を得る。

授業の内容

各自進捗状況を報告する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表2
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表3
 - 第9回 発表3
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表4
 - 第12回 発表4
 - 第13回 発表4
 - 第14回 見学会
 - 第15回 まとめ ※この授業では、必要に応じて学外授業を行なうことがある。
-

授業以外での学習方法

なるべく多くの本を読み、そこに書かれている内容がどのように構成されているのか(起承転結)、積極的に理解するよう心掛けること。

教科書

使用しない。適宜資料を配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (70)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <f>

担当者 織田 直文

テーマ

卒業研究テーマの追及

獲得目標

各自が卒業研究テーマを確定し、計画的に調査、作業を進め、論文作成を進めることで、課題発見力、調査研究能力、表現力などを向上させる。

授業の内容

各自が卒業研究計画をたて、計画に従って進めた作業を順次報告し、討論を行う。

内 容

- 第1回 ゼミの進め方および卒業研究に向けての基礎学習①
 - 第2回 卒業研究に向けての基礎学習②
 - 第3回 過去の優秀論文に学ぶ学習①
 - 第4回 過去の優秀論文に学ぶ学習②
 - 第5回 発表と討議
 - 第6回 発表と討議
 - 第7回 発表と討議
 - 第8回 発表と討議
 - 第9回 発表と討議
 - 第10回 中間総括
 - 第11回 発表と討議
 - 第12回 発表と討議
 - 第13回 発表と討議
 - 第14回 発表と討議
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

過去の優秀論文を精読する、また自分の研究に関する情報収集・分析を精力的に行う。

教科書

使用しない。ただし、1期上の卒論集を購入してもらい、研究活動や論文執筆の参考にしてもらおう。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a502040116

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (40)

参加度 (50)

過去の優秀論文を精読する、また自分の研究に関する情報収集・分析を精力的に行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <g>

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメント研究を形にしていく

獲得目標

アーツマネジメント研究を自分の研究、制作として形にするための計画をつくること 卒業研究(論文・制作)の準備と着手をきちんとおこなうこと

授業の内容

内 容

- 第1回 はじめに
 - 第2回 自分の卒業研究の内容確認
 - 第3回 卒業研究の作法の確認
 - 第4回 卒業制作と卒業研究の違い、共通事項
 - 第5回 卒業研究の企画書発表(1)
 - 第6回 卒業研究の企画書発表(2)
 - 第7回 卒業研究の企画書発表(3)
 - 第8回 卒業研究の企画書発表(4)
 - 第9回 卒業研究のための先行事例と文献の確認
 - 第10回 フィールドワークの作法とノーツの確認
 - 第11回 卒業研究の概要発表(1)
 - 第12回 卒業研究の概要発表(2)
 - 第13回 卒業研究の概要発表(3)
 - 第14回 卒業研究の概要発表(4)
 - 第15回 まとめ、夏休みの確認
-

授業以外での学習方法

卒業研究の作業は授業中ではできないものではないので、授業外で文献を読み、フィールドワークにおいてはインタビューや観察を丹念にし、記録すること。

教科書

参考書

アーツマネジメント学

著者: 小暮宣雄

出版社: 水曜社

出版年: 2013

ISBN: 9784880653129

アーツ・マネジメント概論三訂版

著者: 伊藤裕夫ほか

出版社: 水曜社

出版年: 2009

ISBN:

アーツマネジメントみち

著者： 小暮宣雄

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN：

限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999

ISBN：

地域再生の罨

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010

ISBN：

コミュニティを問いなおす

著者： 広井良典

出版社： 筑摩書房

出版年： 2009

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（60）

参加度（40）

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄のブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <h>

担当者 谷口 知司

テーマ

卒業論文を完成させる(1)テーマの設定と調査

獲得目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の内容

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法 ○文献・資料検索についての具体的指導を行う。・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 発表1

第3回 発表1

第4回 発表1

第5回 発表2

第6回 発表2

第7回 発表2

第8回 発表3

第9回 発表3

第10回 発表3

第11回 発表4

第12回 発表4

第13回 発表4

第14回 ゼミ合宿等

第15回 ゼミ合宿等 ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

授業以外での学習方法

卒論を作成するための資料調査などに授業外でも多くの時間と手間を要求する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <i>

担当者 金武 創

テーマ

キャリア開発と卒業論文執筆の準備

獲得目標

1. 卒業論文のテーマを吟味する 2. 専門文献の調査を推進する 3. キャリア開発への積極的取り組み

授業の内容

卒論準備とキャリア開発

内 容

第1回 キャリア開発1
第2回 キャリア開発2
第3回 卒論テーマの設定1
第4回 卒論テーマの設定2
第5回 卒論テーマの設定3
第6回 卒論テーマの設定4
第7回 文献の探索と引用1
第8回 文献の探索と引用2
第9回 文献の探索と引用3
第10回 文献の探索と引用4
第11回 キャリア開発3
第12回 キャリア開発4
第13回 中間報告への準備1
第14回 中間報告への準備2
第15回 中間報告への準備3 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

日経新聞を読むこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (100%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a502040119

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ <J>

担当者 木下 達文

テーマ

卒業研究を作成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒論進捗報告(序論)
 - 第4回 卒論進捗報告(序論)
 - 第5回 卒論進捗報告(序論)
 - 第6回 卒論進捗報告(序論)
 - 第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第9回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第10回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第12回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第13回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第14回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション**

担当者 伊藤 恵美子・小野塚 元子・河原 宣子・神崎 光子・竹下 夏美・西村 美八・堀 妙子

テーマ

健康の概念およびヘルスプロモーションの概念を学び、ライフサイクル各期において、人々が自らの健康をコントロールし、改善する過程を支援する看護方法を学ぶ

獲得目標

1. 健康の概念を理解する 2. ヘルスプロモーションの概念を理解する 3. 人の誕生からライフサイクル各期におけるヘルスプロモーション活動を理解する 4. 現代社会の保健医療福祉におけるヘルスプロモーション活動を理解する 5. ヘルスプロモーションと政策について理解する

授業の内容

ライフサイクル論と対応させ、オムニバス方式で授業を進行する。はじめに、ヘルスプロモーションの総論を学び、続いて、ライフサイクル各期における具体的活動および政策について学ぶ。

内 容

- 第1回 健康の概念
- 第2回 ヘルスプロモーションの概念
- 第3回 地域を基盤とした疾病予防の考え方と対応
- 第4回 人々の健康行動の特性・効果的な介入方法と技術
- 第5回 健康教育の定義・歴史と変遷
- 第6回 健康教育の理論とモデル
- 第7回 現代社会、現代文化におけるヘルスプロモーションと政策
- 第8回 健康教育活動の展開の実施例(地域)
- 第9回 健康教育活動の展開の実施例(母性)
- 第10回 健康教育活動の展開の実施例(小児)
- 第11回 健康教育活動の展開の実施例(成人)
- 第12回 健康教育活動の展開の実施例(精神)
- 第13回 健康教育活動の展開の実施例(老年)
- 第14回 健康教育活動の展開の実施例(成人)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキストを適宜使用

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成人看護学

著者: 櫻井しのぶ、大西和子

出版社: ニューヴェルヒロカワ

出版年:

ISBN:

成績評価

a70101a310

試験 (30)
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト (20)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ライフサイクル論(看)**

担当者 伊藤 恵美子・遠藤 俊子・河原 宣子・沼本 教子・堀 妙子

テーマ

人のライフサイクルと発達について学び、それぞれのライフサイクルにおける生活のあり方や健康課題の特徴を学び看護の対象となる人々を理解するための基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.人のライフサイクルと発達について説明できる。2.人の発達段階各期における保健統計から健康課題の特徴を説明できる。3.人の発達段階各期における、身体的変化、認知や感情、心理社会的変化について説明できる。4.人を生活している人ととらえ、発達段階各期におけるその特徴を説明できる。5.妊娠・産婦・褥婦の生理、胎児・新生児・乳幼児の生理について説明できる。6.人の発達段階各期における健康課題について理解し、健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。7.自己分析を行い、自己理解できる。

授業の内容

「橘薫の一生」というオリジナル教材を用い、主人公である橘薫の人生を題材として、それぞれの発達段階における特徴を、様々な視点から学ぶ。

内 容

- 第1回 ライフサイクル論概説(1)
- 第2回 ライフサイクル論概説(2)
- 第3回 ライフサイクル論概説(3)
- 第4回 青年期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第5回 青年期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第6回 青年期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第7回 青年期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第8回 青年期の成長・発達課題と健康課題(5)
- 第9回 成人前期の成長・発達課題と健康課題(1) 小テスト(1)
- 第10回 成人前期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第11回 成人前期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第12回 小児期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第13回 小児期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第14回 小児期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第15回 成人期中期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第16回 成人期中期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第17回 成人期中期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第18回 成人期中期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第19回 小児期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第20回 小児期の成長・発達課題と健康課題(5) 小テスト(2)
- 第21回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第22回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第23回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第24回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第25回 老年期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第26回 老年期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第27回 老年期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第28回 老年期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第29回 老年期の成長・発達課題と健康課題(5)
- 第30回 ライフサイクル論まとめ

授業以外での学習方法

授業中に紹介します

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論

著者： 小松浩子他

出版社： 医学書院

出版年： 最新版

ISBN:

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論

著者： 奈良間美保他

出版社： 医学書院

出版年： 最新版

ISBN:

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]

著者： 武井麻子他

出版社： 医学書院

出版年： 最新版

ISBN:

系統看護学講座 基礎分野 人間関係論

著者： 長谷川浩他

出版社： 医学書院

出版年： 最新版

ISBN:

新体系看護学全書 母性看護学①母性看護学概論/ウイメンズヘルスト看護

著者： 新藤幸恵他編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 最新版

ISBN:

新体系看護学全書 母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護

著者： 中野仁雄他編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 最新版

ISBN:

最新保健学講座別巻1 健康教育論

著者： 宮坂忠夫他編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 最新版

ISBN:

老年看護学 概論と看護の実践

著者： 奥野茂代他

出版社： ヌーベルヒロカワ

出版年： 最新版

ISBN:

成人看護学 ヘルスプロモーション

著者： 大西和子他編

出版社： ヌーベルヒロカワ

出版年： 最新版

ISBN:

公衆衛生マニュアル

著者： 柳川洋他編

出版社： 南山堂

出版年： 最新版

ISBN:

参考書

成績評価

試験（50%）

小テスト（50%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

2014 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント I**

担当者 中橋 苗代.西野 武志.林正 健二

テーマ

解剖学、生理学、微生物学の基礎医学を系統的に学び、身体の状態をアセスメントするための基礎知識を修得する。

獲得目標

【獲得目標】 1. 人体の構造を系統的・立体的に理解できる。 2. 人体の各組織や器官の正常機能およびそれらの協調による恒常性の維持などの調節機構を理解できる。 3. 看護に必要な人体の防御システムについて説明できる。

授業の内容

解剖学、生理学、微生物学を中心とした基礎医学的知識を学ぶ。フィジカルアセスメントⅡ、フィジカルアセスメント演習Ⅰ・Ⅱと連動して授業を進める。

内 容

- 第1回 学修方法、看護の土台となる解剖生理学、解剖学用語
- 第2回 体を構成する仕組み:細胞
- 第3回 体を構成する仕組み:組織
- 第4回 物質を運搬する仕組み(1):血液
- 第5回 物質を運搬する仕組み(2):凝固、線溶
- 第6回 体の隅々まで血液を送る仕組み(1):心臓の構造
- 第7回 体の隅々まで血液を送る仕組み(2):心臓の機能
- 第8回 体の隅々まで血液を送る仕組み(3):血管、リンパ系
- 第9回 酸素を取り入れ二酸化炭素を排出する仕組み:(1)呼吸器系の構造、(2)呼吸の調節
- 第10回 尿を作り体液の恒常性を保つ仕組み(1):腎臓と体液の恒常性の維持
- 第11回 尿を作り体液の恒常性を保つ仕組み(2):下部尿路機能(蓄尿、排尿)
- 第12回 体や臓器を守る仕組み:皮膚と膜
- 第13回 体を支える仕組み(1):骨
- 第14回 体を動かす仕組み(2):四肢の骨と関節
- 第15回 体を動かす仕組み(1):筋肉
- 第16回 体を動かす仕組み(2):骨格筋
- 第17回 情報を収集し判断して伝達する仕組み(1):神経
- 第18回 情報を収集し判断して伝達する仕組み(2):中枢神経
- 第19回 情報を収集し判断して伝達する仕組み(3):末梢神経
- 第20回 外部から情報を取り入れる仕組み(1):感覚
- 第21回 外部から情報を取り入れる仕組み(2):視覚
- 第22回 外部から情報を取り入れる仕組み(3):聴覚, 平衡覚, 味覚, 嗅覚
- 第23回 病原微生物学概論、細菌学(1)
- 第24回 細菌学(2)
- 第25回 細菌学(3)
- 第26回 ウイルス学(1)
- 第27回 ウイルス学(1)
- 第28回 真菌学、原虫学
- 第29回 感染に対する防御機構
- 第30回 感染症の診断と治療

授業以外での学習方法

・ビジュアル等の視聴覚教材も積極的に活用してください。

教科書

ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学第3版

著者: 林正健二編

出版社: メディカ出版

出版年: 2013

ISBN:

ビジュアル微生物学

著者: 小田紘

出版社: ニューヴェルヒロカワ

出版年: 2012

ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年:

ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)

著者: 坂井建雄他監訳

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

ギャノン生理学原書第24版

著者: 岡田泰伸監訳

出版社: 丸善

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (100%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント演習 I**

担当者 植村 由美子・奥野 信行・梶谷 佳子・片山 由加里・中橋 苗代・堀 妙子

テーマ

フィジカルアセスメント I・II で学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する

獲得目標

獲得目標 1. 診察技法を活用し、身体についての情報収集ができる。2. 得られた情報について、基準値や望ましい状態と比較しながら解釈することができる。3. 身体の正常な状態について理解できる。4. 身体の代表的な状態について理解できる。5. 対象者と援助的なコミュニケーションを展開できる。6. 対象者の気持ちやプライバシーに配慮した態度がとれる。

授業の内容

本授業は、まず講義を受け、その後演習を実施するという形で進みます。演習は、ユニフォームを着用し実習室で実施します。

内 容

- 第1回 フィジカルアセスメントとは(講義)
- 第2回 演習における諸注意(講義+演習)
- 第3回 バイタルサイン技術(講義)
- 第4回 バイタルサイン技術(演習)
- 第5回 呼吸器系のアセスメント(講義+演習)
- 第6回 循環器系のアセスメント(講義+演習)
- 第7回 小児のフィジカルアセスメント(講義+演習)
- 第8回 脳神経系のアセスメント(講義+演習)
- 第9回 感覚器系のアセスメント(講義+演習)
- 第10回 試験

授業以外での学習方法

・フィジカルアセスメント I・II で学んだ知識を活用できるよう、復習して演習に臨んでください。・ビジュラン等の視聴覚教材を積極的に利用し、知識を深めてください。・技術の修得は演習内では困難です。主体的に練習を行って下さい。

教科書

ナーシンググラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント

著者： 松尾ミヨ子他編

出版社： メディカ出版

出版年： 2013

ISBN:

参考書

フィジカルアセスメントガイドブック第2版

著者： 山内豊明

出版社： 医学書院

出版年： 2011

ISBN:

フィジカルアセスメント完全ガイド第2版

著者： 藤崎郁

出版社： Gakken

出版年： 2012

ISBN:

フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術

著者： 日野原重明

出版社： 医学書院

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験（70%）

授業中課題（30%）

参加度（）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 異文化コミュニケーション論

担当者 竹下 夏美

テーマ

多文化共生社会におけるあらゆるコミュニケーションを異文化コミュニケーションとしてとらえた上でさまざまな文化をグローバルな視点で考える。

獲得目標

1. 多文化共生社会における対象を理解するために何が必要か考える。2. 多文化共生社会における文化とは何かについて考える。3. 多文化共生社会における看護師の役割について考える。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業ガイダンス、異文化コミュニケーションを学ぶことの意義
 - 第2回 文化について考える①
 - 第3回 文化について考える②
 - 第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション
 - 第5回 異文化理解とコミュニケーション
 - 第6回 多文化社会の人間関係力
 - 第7回 異文化トレーニング
 - 第8回 多文化共生社会における看護師の役割
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

筆記試験、リアクションペーパー、授業中課題レポート等で評価します。参考図書等は、授業中に随時、紹介します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **情報科学 I <a>**

担当者 味田 治子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1) Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

a70101b410

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **情報科学 I **

担当者 味田 治子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1) Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

a70101b412

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (10%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 論理的思考

担当者 梅本 裕

テーマ

看護学学習と研究および一般教養として必要な論理的思考の基礎を講義と演習によって身につける。

獲得目標

看護の研究と実践に必要な論理的思考の基礎を身につける。(1)思考を深めるための定型を、書きことばと話しことばの両面にわたって身につける。(2)作文と作文の添削という二つの方法により、見学や実習の体験を文章化する技法に習熟する。

授業の内容

前半は、受講生がひとまとまりの文章を書き、それをクラスで検討する。翻訳書や論文の文章も検討する。後半はディベートを学ぶことにより主張と根拠の関係を理解し、論理的な文章やディスコースの特質を理解する。授業には常に国語辞書(電子辞書でよい)を持参すること。

内 容

- 第1回 400字で論評文を書く(その1)
 - 第2回 400字で論評文を書く(その2)
 - 第3回 思考単位としての文
 - 第4回 文章書き換えの練習(その1)
 - 第5回 文章書き換えの練習(その2)
 - 第6回 段落のはたらき・つくり方
 - 第7回 800字で論評文を書く(その1)
 - 第8回 800字で論評文を書く(その2)
 - 第9回 語句の選び方と使い方(その1)
 - 第10回 語句の選び方と使い方(その2)
 - 第11回 演習:ブックレビューを書く
 - 第12回 演習:案内文を書く
 - 第13回 ディベートの立論を書く(その1)
 - 第14回 ディベートの立論を書く(その2)
 - 第15回 アカデミックスキルとしての論理的文章
-

授業以外での学習方法

日ごろより本をたくさん読もう。また、文章を書く時には、常に一文一義の文体で書くように心がけよう

教科書

新版論理的思考

著者: 宇佐美寛

出版社: メディカルフレンド社

出版年: 1989

ISBN:

参考書

論理トレーニング101題

著者: 野矢茂樹

出版社: 産業図書

出版年: 2001

ISBN:

レポート・論文の書き方入門 第3版

著者： 河野哲也

出版社： 慶應義塾大学出版会

出版年： 2002

ISBN:

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **統計学基礎論**

担当者 片岡 裕介

テーマ

保健医療に関わるデータを解釈する際に必要となる統計学の基礎的知識を身につける。

獲得目標

集団における健康現象を理解するための、統計学の主要な概念、分析方法、保健統計データの処理について学習する。まず、社会調査における「統計」の意味・目的、「データ」の種類・性質、実際の「統計調査」の事例を学び、続いて、「量的なデータ」のうち、「一変量データ」については、単純集計、度数分布、代表値、ばらつきなど、「二変量データ」については、クロス集計、相関関係などの意味、計算の仕方、グラフの読み方・描き方を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業ガイダンス:保健医療における統計学
 - 第2回 調査方法とデータの種類:定性調査と定量調査、質的データと量的データ
 - 第3回 定性調査の事例
 - 第4回 定量調査の事例
 - 第5回 基本統計量:代表値
 - 第6回 基本統計量:ちらばり
 - 第7回 度数分布表とヒストグラム
 - 第8回 正規分布
 - 第9回 様々な図表化
 - 第10回 クロス集計表
 - 第11回 散布図と相関分析
 - 第12回 因果関係と相関関係
 - 第13回 疑似相関
 - 第14回 単回帰分析
 - 第15回 順位相関分析
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (60)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **実践看護学 I**

担当者 伊藤 恵美子・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・片山 由加里・中橋 苗代・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

既習の学習を踏まえ、発達段階や人間の基本的ニーズと関連させながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ

獲得目標

獲得目標: 1. ライフサイクル各期における日常生活援助の方法を理解できる。2. 看護における安全・安楽の重要性について理解できる。3. 援助的な関係を形成するためのコミュニケーションについて理解できる。4. 根拠に基づいた援助を提供するための看護過程の意義と方法を理解できる。5. 問題解決思考を活用し看護計画を立案できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 看護技術の安全性・安楽性・経済性、スタンダードプリコーションについて
- 第2回 看護の方法論ーライフサイクル各期の心身の特徴を理解した日常生活援助の意義
- 第3回 看護過程の要素① 目的・対象・意義
- 第4回 対人関係プロセスとコミュニケーション①
- 第5回 活動と休息の援助①
- 第6回 対人関係プロセスとコミュニケーション②
- 第7回 対人関係プロセスとコミュニケーション③
- 第8回 看護過程の要素② 情報収集
- 第9回 看護過程の要素③ アセスメント
- 第10回 看護過程の要素④ 看護診断
- 第11回 看護過程の要素⑤ 計画
- 第12回 看護過程の要素⑥ 評価と記録
- 第13回 生活環境の調整
- 第14回 移動の援助
- 第15回 活動と休息の援助②
- 第16回 清潔の援助①
- 第17回 排泄の援助
- 第18回 衣生活の援助
- 第19回 小児・老人の移動の援助
- 第20回 食事の援助
- 第21回 小児・老人の排泄の援助
- 第22回 清潔の援助②
- 第23回 小児の清潔の援助 沐浴・殿部浴・清拭
- 第24回 看護過程の実践① 情報収集
- 第25回 看護過程の実践② 情報の解釈・分析
- 第26回 看護過程の実践③ 情報の統合、関連図
- 第27回 看護過程の実践④ 看護診断
- 第28回 看護過程の実践⑤ 計画・目標
- 第29回 看護過程の実践⑥ 実施、評価
- 第30回 看護過程の実践⑦ まとめ

授業以外での学習方法

教科書

根拠がわかる基礎看護技術

著者： 岡崎美智子, 角濱春美編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 2008

ISBN:

看護学概論第5版

著者： 松木光子編

出版社： ニューウェルヒロカワ

出版年： 2011

ISBN:

参考書

NANDA-I看護診断－定義と分類2012-2014

著者： 日本看護診断学会監訳/T.ヘザー・ハードマン編

出版社： 医学書院

出版年： 2012

ISBN:

基本から学ぶ看護過程と看護診断

著者： 本郷久美子監訳/R.アルファロ・ルフィーヴィア著

出版社： 医学書院

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **実践看護学演習 I**

担当者 伊藤 恵美子・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・片山 由加里・中橋 苗代・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

実践看護学 I と対応しながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における発達段階や人間の基本的ニーズに応じた必要な看護技術とその適応方法を学ぶ。

獲得目標

1. ライフサイクル各期における日常生活援助の方法を修得する。 2. 安全・安楽、対象者のプライバシーを配慮した実践力を習得する。 3. 対象者の意志を尊重し、基本的ニーズに応じた実践力を習得する。 4. 対象者と援助的な関係を形成するコミュニケーション力を養う。 5. 実践した看護を評価し、記録する方法を習得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 環境について、手洗い、ベッドメイキング①
- 第2回 環境について、手洗い、ベッドメイキング②
- 第3回 移乗と移送①
- 第4回 移乗と移送②
- 第5回 体位変換・ポジショニング①
- 第6回 体位変換・ポジショニング②
- 第7回 排泄・陰部洗浄①
- 第8回 排泄・陰部洗浄②
- 第9回 シーツ交換・寝衣交換①
- 第10回 シーツ交換・寝衣交換②
- 第11回 小児・老年の移動①
- 第12回 小児・老年の移動②
- 第13回 食事・口腔ケア①
- 第14回 食事・口腔ケア②
- 第15回 小児・老年の排泄の援助、離乳食、サークルベッド①
- 第16回 小児・老年の排泄の援助、離乳食、サークルベッド②
- 第17回 全身清拭①
- 第18回 全身清拭②
- 第19回 全身清拭③
- 第20回 洗髪①
- 第21回 洗髪②
- 第22回 洗髪③
- 第23回 フットケア①
- 第24回 フットケア②
- 第25回 沐浴・殿部浴、清拭①
- 第26回 沐浴・殿部浴、清拭②
- 第27回 日常生活援助の技術評価①
- 第28回 日常生活援助の技術評価②
- 第29回 日常生活援助の技術評価③
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

根拠がわかる基礎看護技術

著者： 岡崎美智子, 角濱春美編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 2008

ISBN： 8392-1461-6

参考書

成績評価

試験（80%）

小テスト（）

授業中課題（20%）

授業中発表等（）

参加度（）

実技試験の受験には、2/3以上の出席が必要とする

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **実践看護学実習 I**

担当者 阿部 祝子・伊藤 恵美子・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・片山 由加里・竹下 夏美・中橋 苗代・西村 美八・松本 賢哉

テーマ

実践看護学 I・実践看護学演習 Iでの学習を踏まえ、高齢者施設をフィールドとして、主として日常生活援助を実施し、発達段階や人間の基本的ニード、健康レベルに応じた看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ。また、実習での体験を通して、自らの看護観を養う。

獲得目標

1. 発達段階や人間の基本的ニード、健康レベルをふまえ、対象を理解する。2. 対象の基本的ニード充足のために必要な日常生活援助を実践できる能力を養う。3. 対象と援助的コミュニケーションを展開できる。4. 対象の権利、プライバシーや情報の保護に配慮できる。5. ケアチームの一員として自覚と責任をもち、適切なコミュニケーションをとることができる。6. 自己の看護の向上に向けて、実習での体験を振り返り、自己を洞察し看護観を自らの言葉で説明できる。

授業の内容

実習は、介護老人保健施設で2週間行う。一人の対象を受け持ち、対象に適した日常生活援助を計画し、指導者・教員と共に実施する

内 容

第1回 時期：前半・後半に分かれて実施(8月下旬～9月中旬)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ヘルスケアシステム I

担当者 富永 真己・西村 美八・野村 陽子

テーマ

地域の看護活動を理解し、資料・健康指標を用いて地域の健康課題を解決する過程を学ぶ

獲得目標

1. 地域の人々の生活, 地域の環境, 社会経済構造を把握し, 地域の特性を基盤とした看護活動を説明できる. 2. 保健医療福祉制度の歴史から看護の現状と動向, 地域の保健医療福祉政策について理解し, その中で看護職が担う活動や役割を説明できる. 3. 疫学調査, 分析活用方法, 統計上とその活用方法について理解する. 4. 行政における組織や財政の仕組みを理解するとともに, 住民の健康ニーズの把握方法や施策を実施するための財源や人的資源の確保, 評価など基本構造を説明できる. 5. 地域の保健医療福祉制度, 健康に関する情報や指標を理解し, 地域の健康課題を導く方法について説明できる.

授業の内容

ヘルスプロモーション, ヘルスプロモーション演習, プライマリケア論, プライマリケア実習 I を踏まえ, 地域特性に対応した健康環境づくりの過程を理解するとともに, 地方行政における人的管理・人材確保など公衆衛生看護管理について学ぶ. また統計学基礎論, 情報科学を踏まえ, 地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標を活用して, 地域の健康課題を解決する過程を学ぶ. 指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち, 当該科目で教授する教育内容 別表1:「公衆衛生看護学概論」「個人・家族・集団・組織の支援」「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生看護管理論」「疫学」「保健統計学」「保健医療福祉行政論」別表3:「人体の構造と機能」「疫病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」

内 容

- 第1回 地域を基盤とした看護活動①ー地域看護の成立基盤
- 第2回 我が国の保健医療福祉の変遷①ー公衆衛生の歴史と体系
- 第3回 我が国の保健医療福祉の変遷②ー看護の現状と動向
- 第4回 地域を基盤とした看護活動②ー地域看護の活動方法
- 第5回 地域保健行政における看護職の役割
- 第6回 地域の看護活動の実践
- 第7回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用① 集団の健康状態の把握
- 第8回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用② 疫学的研究方法
- 第9回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用③ 疾病の予防とスクリーニング
- 第10回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用④ 感染症の疫学
- 第11回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用⑤ おもな疾患の疫学
- 第12回 地域看護管理①ー保健医療福祉分野における計画策定と施策化
- 第13回 地域看護管理②ー地域保健行政における情報管理システム, 予算管理と人材育成
- 第14回 地域看護管理③ー行政評価と事業評価
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験 なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

公衆衛生看護学.jp第3版

著者: 荒賀直子・後閑容子編集

出版社: インターメディカル

出版年:

ISBN: 9784900828551

保健師業務要覧 第3版

著者: 井伊久美子他編集

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN: 9784818016989

はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待

著者： 日本疫学会監修

出版社： 南江堂出版

出版年：

ISBN： 9784524260867

保健医療福祉行政論

著者： 野村陽子編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年：

ISBN：

参考書

国民衛生の動向2013/2014

著者：

出版社： 一般財団法人厚生労働時計協会

出版年：

ISBN：

国民福祉の動向 2012/2013

著者：

出版社： 一般財団法人厚生労働時計協会

出版年：

ISBN：

疫学～医学的研究と実践のサイエンス

著者： 木原正博・木原雅子・加治正行

出版社： メディカル・サイエンス・インターナショナル

出版年：

ISBN： 9784895926478

その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（90%）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（10%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **実践看護学Ⅲ－1**

担当者 天野 博夫・伊藤 恵美子・奥野 信行・小野塚 元子・河原 宣子・喜多 伸幸・鈴木 要子・常田 裕子・堀 妙子・松本 賢哉・村上 節

テーマ

さまざまな健康課題をもつ対象とその家族、多様な看護の場における、人によりそう看護に必要な病態・治療についてライフサイクルを踏まえて理解する。

獲得目標

1. 健康破綻をもたらす病態や疾患とその治療を理解する。2. ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と健康レベルについて理解する。3. 健康に影響する生活環境の把握と健康な環境づくりについて理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 糖代謝障害とその治療
- 第2回 高齢者に特有な症候①
- 第3回 小児によく見られる内分泌疾患とその治療
- 第4回 循環機能障害とその治療
- 第5回 分娩期の異常
- 第6回 小児によくみられる循環器・筋・骨疾患とその治療
- 第7回 高齢者の皮膚疾患とその治療
- 第8回 生殖生理
- 第9回 周産期の診断と検査
- 第10回 呼吸機能障害とその治療
- 第11回 脳神経系・運動機能の障害とその治療
- 第12回 統合失調症患者の特徴①
- 第13回 統合失調症患者の治療 ②
- 第14回 消化・吸収障害とその治療
- 第15回 高齢者の薬物療法
- 第16回 小児によくみられる消化器疾患とその治療
- 第17回 小児によくみられる腎・呼吸器疾患とその治療
- 第18回 排泄機能障害とその治療
- 第19回 認知症の診断と治療 ①
- 第20回 認知症の診断と治療 ②
- 第21回 がんとは がんの予防と検査
- 第22回 がんの手術療法
- 第23回 がんの薬物療法
- 第24回 がんの放射線療法
- 第25回 小児によく見られる悪性腫瘍とその治療
- 第26回 がんの終末期
- 第27回 物質関連障害をもつ人の特徴と治療
- 第28回 抑うつ状態・躁状態にある人の特徴と治療
- 第29回 精神保健福祉にかかわる法制度
- 第30回 精神障害への薬物療法、心理社会療法 テスト なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

授業以外での学習方法

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論

著者： 奈良間美保

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学

著者： 北島政樹

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

成人看護学 慢性期看護

著者： 鈴木久美

出版社： 南江堂

出版年：

ISBN：

精系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開

著者： 武井麻子

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

老年看護学 概論と看護の実践 第4版

著者： 奥野茂代

出版社： ニューヴェルヒロカワ

出版年：

ISBN：

糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版

著者： 日本糖尿病学会

出版社： 日本糖尿病協会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (100)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護学演習Ⅲ

担当者 伊藤 恵美子・奥野 信行・小野塚 元子・河原 宣子・鈴木 要子・竹 明美・常田 裕子・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

実践看護学Ⅲ-2と対応しながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場において必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。

獲得目標

1. ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護の場に応じたアセスメントの方法について理解できる。2. ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護の場に応じた看護技術を修得することができる。3. がん看護、精神看護、地域看護、老年看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重症患者看護、感染症看護、家族支援看護等のさまざまな看護の場における看護活動と専門性を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 周産期の看護技術(実技演習)
- 第2回 低出生体重児の看護技術
- 第3回 新生児期のアセスメントと看護②
- 第4回 統合失調症患者の地域生活支援
- 第5回 周産期の看護技術(実技演習)
- 第6回 周産期の看護技術(実技演習)
- 第7回 感染看護 在宅・臨床看護演習
- 第8回 在宅・臨床看護演習①
- 第9回 在宅・臨床看護演習②
- 第10回 在宅・臨床看護演習③
- 第11回 高齢で手術を受ける人の看護 事例演習①
- 第12回 高齢で手術を受ける人の看護 事例演習②
- 第13回 小児に特有の看護技術
- 第14回 小児の権利を守るための看護技術
- 第15回 小児に特有の症状に対する看護
- 第16回 排泄経路を変更した人への看護
- 第17回 高齢で手術を受ける人の看護 事例演習③
- 第18回 高齢で手術を受ける人の看護 事例演習④
- 第19回 がんの終末期の看護
- 第20回 在宅・臨床看護演習④
- 第21回 在宅・臨床看護演習⑤
- 第22回 在宅・臨床看護演習⑥
- 第23回 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際①
- 第24回 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際②
- 第25回 在宅・臨床看護演習⑦
- 第26回 在宅・臨床看護演習⑧
- 第27回 在宅・臨床看護演習⑨
- 第28回 小児の終末期の看護
- 第29回 看取りと看護①
- 第30回 看取りと看護② なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

授業以外での学習方法

a70103a610

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論

著者: 森恵美

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護管理学Ⅱ〈a〉

担当者 阿部 祝子

テーマ

医療の場における看護マネジメントの実際

獲得目標

1. 医療の場における看護マネジメントの実際を学ぶ。2. 看護マネジメントのかかわる諸理論、技法、政策を理解する。3. 経営参画者として、組織・チームの一員としての看護職者の役割を理解する。

授業の内容

本講は、看護管理学Ⅰでの学びを踏まえ、看護職者として医療チームの一員として、身近な看護マネジメントのテーマを設定し、それにかかわる諸理論、技法、政策等を理解する。これらにより、医療の場における看護マネジメントの実際を多様な側面から学び、看護サービスのあり方や医療経営への参画者として、また組織・チームの一員としての看護職者の役割について学習する。

内 容

- 第10回 学習成果のプレゼンテーション、討議③
- 第11回 学習成果のプレゼンテーション、討議④
- 第12回 学習成果のプレゼンテーション、討議⑤
- 第13回 学習成果のプレゼンテーション、討議⑥
- 第14回 看護実践とマネジメント
- 第15回 まとめ
- 第1回 オリエンテーション(学習目標、授業の進め方) テーマの設定とグループ編成
- 第2回 グループごとにテーマに基づく文献検索、グループ学習①
- 第3回 グループごとにテーマに基づく文献検索、グループ学習②
- 第4回 グループごとにテーマに基づく文献検索、グループ学習③
- 第5回 グループごとにテーマに基づく文献検索、グループ学習④
- 第6回 グループごとにプレゼンテーション準備①
- 第7回 グループごとにプレゼンテーション準備②
- 第8回 学習成果のプレゼンテーション、討議①
- 第9回 学習成果のプレゼンテーション、討議②

授業以外での学習方法

学びたいテーマを自ら提案する姿勢を持つ。先行研究や文献のほか、看護関係のトピックスなど、新しい動向を理解するために、さまざまな手段を用いる。

教科書

特に指定しない。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (20%)

a701043110

グループ学習における課題への取り組み, 参加の度合, 発表, レポートにより総合的に評価する.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護管理学Ⅱ

担当者 神崎 光子・竹 明美

テーマ

助産実践の基礎的な考え方や実践に必要な概念や考え方を学ぶ。母子の保健医療福祉現場における役割や業務を明確にし、助産師の役割機能を理解する。助産管理の理念と管理の構成要素、ならびに助産師の専門性による助産業務や対象の特殊性からもたらされる助産管理を学ぶ。

獲得目標

1. 助産師の定義・役割を理解する。2. わが国の母子保健を歴史的、統計、法や諸制度から知り、今後の課題を明らかにする。3. 助産師活動に必要な諸理論・倫理を学び、助産過程を展開する能力を獲得する。4. 助産サービスの質管理に必要な概念を理解する。5. 周産期における安全管理とリスクマネジメントを学ぶ。6. 施設における助産業務管理ならびに地域母子保健について知る。7. 助産サービス管理の実際—病院・診療所・助産所における管理の実際を知る。

授業の内容

内 容

- 第1回 助産師の定義と業務・役割
- 第2回 助産の歴史と助産師教育
- 第3回 日本の母子保健の動向
- 第4回 世界の母子保健の動向
- 第5回 わが国の母子保健関連法と制度
- 第6回 保助看法とその他の助産師関連法
- 第7回 女性の健康と人権
- 第8回 周産期医療における質と安全の保証（院内助産システム含む）
- 第9回 助産師が行うケアを支える理論
- 第10回 助産実践の倫理
- 第11回 助産診断と助産過程
- 第12回 助産業務管理と地域母子保健
- 第13回 周産期におけるリスクマネジメント
- 第14回 助産サービスの質管理
- 第15回 助産サービス管理の実際
- 第16回 テスト(13:30 開始)

授業以外での学習方法

教科書

助産師基礎教育テキスト1 2013年版 助産概論

著者： 山本あい子他

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

国民衛生の動向

著者：

出版社：

出版年： 2013

ISBN：

助産師基礎教育テキスト3 2013年版 周産期における医療の質と安全

著者： 成田伸他

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： ISBN：

参考書

新版助産師業務要覧 I・II

著者： 福井トシ子他

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： ISBN：

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **芸術と癒し〈Za〉**

担当者 山本 善則

テーマ

芸術を知ることによって文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

獲得目標

さまざまな分野の芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の内容

授業では各分野の芸術を映像、楽器、資料を参考にしながら実際に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想などを出してもらいます。

内 容

- 第1回 サウンドスケープとは？
 - 第2回 笑いと芸術
 - 第3回 香りと芸術
 - 第4回 全ての芸術の本質とは？
 - 第5回 情報化と芸術評価
 - 第6回 自然性と芸術の関係
 - 第7回 健康と芸術
 - 第8回 五感で捉える芸術
 - 第9回 音楽と芸術
 - 第10回 表現者と聴衆
 - 第11回 芸術の心理的効果とその実験
 - 第12回 ミュージカルとオペラ
 - 第13回 夢(右脳の活動)と芸術
 - 第14回 器と芸術
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業での学習をもとに、自主的に芸術に触れ、日常にその機会を増やしてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

a701a13110

毎回の出席、授業での提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **芸術と癒し <Zb>**

担当者 山本 善則

テーマ

芸術を知ることによって文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

獲得目標

さまざまな分野の芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の内容

授業では各分野の芸術を映像、楽器、資料を参考にしながら実際に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想などを出してもらいます。

内 容

- 第1回 サウンドスケープとは？
 - 第2回 笑いと芸術
 - 第3回 香りと芸術
 - 第4回 全ての芸術の本質とは？
 - 第5回 情報化と芸術評価
 - 第6回 自然性と芸術の関係
 - 第7回 健康と芸術
 - 第8回 五感で捉える芸術
 - 第9回 音楽と芸術
 - 第10回 表現者と聴衆
 - 第11回 芸術の心理的効果とその実験
 - 第12回 ミュージカルとオペラ
 - 第13回 夢(右脳の活動)と芸術
 - 第14回 器と芸術
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業での学習をもとに、自主的に芸術に触れ、日常にその機会を増やしてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

a701a13112

毎回の出席、授業での提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **運動学演習**

担当者 甲斐 義浩 永井 宏達

テーマ

四肢・体幹における関節の解剖学的構造と運動について学ぶ。

獲得目標

1.身体運動に関する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。

授業の内容

解剖生理学で学んだ知識をベースにしなが、運動器を主とする障害学の基礎となる、身体運動のメカニズムについて解説する。

内 容

- 第1回 脊柱の構造と機能 1
 - 第2回 脊柱の構造と機能 2
 - 第3回 脊柱の構造と機能 3
 - 第4回 股関節の構造と機能 1
 - 第5回 股関節の構造と機能 2
 - 第6回 股関節の構造と機能 3
 - 第7回 膝関節の構造と機能 1
 - 第8回 膝関節の構造と機能 2
 - 第9回 膝関節の構造と機能 3
 - 第10回 足関節と足部の構造と機能 1
 - 第11回 足関節と足部の構造と機能 2
 - 第12回 足関節と足部の構造と機能 3
 - 第13回 歩行のキネシオロジー
 - 第14回 咀嚼と換気のキネシオロジー
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

運動学の参考書の購読

教科書

基礎運動学 第6版補訂

著者： 中村隆一

出版社： 医歯薬出版株式会社

出版年： 2012

ISBN：

未定

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

プロメテウス解剖学アトラス

著者： 坂井建雄(監訳)

出版社：医学書院

出版年：2011

ISBN:

成績評価

試験（90%）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（10%）

期末試験の受験は講義の3分の2以上の出席を必要とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 人間発達学

担当者 安藤 忠 崎田 正博 村田 伸

テーマ

人間の誕生から死に至るまでの障害を発達という視点からとらえ、身体・心理両面における人間発達に関する基礎知識を身につける。

獲得目標

1. 人間の胎生期、新生児期、乳児期に焦点をあて、発達の視点を理解する。2. 身体や運動機能、知的、心理的、社会的発達を理解する。3. 理学療法に必要な運動発達と反射を理解する。

授業の内容

主に講義主体であるが、国家試験にも出題されるため覚える事項も多い。

内 容

- 第1回 総論:定義と目的、発達理論、発達の法則(1)
 - 第2回 総論:定義と目的、発達理論、発達の法則(2)
 - 第3回 反射と運動1 中枢神経の階層性1
 - 第4回 反射と運動2 中枢神経の階層性2
 - 第5回 知覚・認知の発達1 胎児・新生児の知覚・認知
 - 第6回 知覚・認知の発達2 乳幼児の知覚・認知
 - 第7回 知覚・認知の発達3 学童の知覚・認知
 - 第8回 知覚・認知の発達4 成人期以降の知覚・認知
 - 第9回 運動発達1
 - 第10回 運動発達2
 - 第11回 運動発達3
 - 第12回 社会性の発達1
 - 第13回 社会性の発達2
 - 第14回 社会性の発達3
 - 第15回 まとめと試験対策
-

授業以外での学習方法

ヒトの発達を学ぶことは、リハビリテーション対象者の回復を学ぶことと同等であるので、主体的に参加すること。

教科書

リハビリテーションのための人間発達学

著者: 大城昌平

出版社: メディカルプレス

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (95%)

授業中課題 ()

参加度 (5%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 内部障害系理学療法学基礎演習

担当者 阿波 邦彦・堀江 淳

テーマ

内部障害系(呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患)理学療法学の基礎的な知識、技術の理解を促進する。

獲得目標

本講義は、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関係する解剖学、運動学、生理学(運動生理学)の知識を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理についての基礎的な知識、技術の習得を目標とする。

授業の内容

これまで学習した呼吸、循環の解剖、生理、運動学の知識を整理しつつ、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に対する理学療法の評価、治療の基礎を座学を中心として学習する。また、簡単な実習を通じて知識を深めていく。

内 容

- 第1回 呼吸リハビリテーションと理学療法
- 第2回 呼吸器系の生理学、解剖学、運動学
- 第3回 呼吸リハビリテーションの対象疾患とその病態、治療
- 第4回 呼吸理学療法のための評価(問診、視診、聴診、触診、測定)
- 第5回 呼吸理学療法のための評価(運度耐容能評価)
- 第6回 呼吸理学療法のための治療プログラム
- 第7回 酸素療法と人工呼吸療法
- 第8回 循環器系の生理学、解剖学
- 第9回 心電図の診かた
- 第10回 心臓リハビリテーションの対象疾患とその病態、治療
- 第11回 循環器理学療法のための評価(リスクの層別化)
- 第12回 循環器理学療法のための治療プログラム
- 第13回 糖尿病の病態、検査、治療
- 第14回 糖尿病のための理学療法評価と治療プログラム
- 第15回 講義のまとめと最新トピックス

授業以外での学習方法

臨床実習、国家試験対策として「覚える」ことを授業以外の学習の主眼とする。特に、自宅での復習を重視し、確認のための質疑応答を随時行う。

教科書

理学療法テキスト内部障害理学療法学「呼吸」

著者： 石川朗

出版社： 中山書店

出版年： 2010

ISBN： 9784521732282

理学療法テキスト内部障害理学療法学「循環・代謝」

著者： 石川朗

出版社： 中山書店

出版年： 2010

ISBN： 9784521732275

参考書

成績評価

試験（100）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

期末に実施する筆記試験にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは筆記試験を受験できない。出席点は減点方式とし欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **スポーツ障害系理学療法学基礎演習**

担当者 横山 茂樹

テーマ

スポーツ障害に対する評価と治療方針

獲得目標

スポーツ障害に対する理学療法士の役割を理解するとともに、スポーツ理学療法の基礎知識を身につける。

授業の内容

各部位別のスポーツ障害の特性と理学療法評価およびプログラムを座学を中心に行います。

内 容

- 第1回 スポーツ理学療法総論
 - 第2回 足関節・足部疾患(1)
 - 第3回 足関節・足部疾患(2)
 - 第4回 膝関節疾患(1)
 - 第5回 膝関節疾患(2)
 - 第6回 膝関節疾患(3)
 - 第7回 下腿・大腿部疾患
 - 第8回 腰痛(1)
 - 第9回 腰痛(2)
 - 第10回 肩関節疾患(1)
 - 第11回 肩関節疾患(2)
 - 第12回 肘・手関節疾患
 - 第13回 障害者スポーツ
 - 第14回 スポーツ障害における心理学
 - 第15回 まとめ なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。
-

授業以外での学習方法

疾患に関する基礎的知識を事前に学習すること。さらに講義内容を体験する機会に積極的に参加すること。

教科書

参考書

スポーツ外傷学 I～IV

著者：黒沢 尚・他 編集

出版社：医歯薬出版

出版年：2001

ISBN：

スポーツリハビリテーション

著者：コルト・他

出版社：西村書店

出版年：2006

ISBN：

成績評価

試験（50）

授業中課題（10）

参加度（5）

小テスト（30）

授業中発表等（5）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 脊髄障害系理学療法学基礎演習

担当者 武田 功

テーマ

獲得目標

脊髄(疾患)損傷の講義は、単に病態像や身体障害の治療訓練のみを教授するのではなく、近年、高齢化から超高齢社会を迎えようとしている。そのため脊髄疾患の対象は多岐にわたってきた。すなわち、乳幼児から(超)高齢脊髄疾患まで幅広く、さらに多様化、重度化、重複化が進み社会のニーズの変化に伴い脊髄(疾患)損傷者自身のニーズも変化してきた。それはリハビリテーションの進歩に伴い、生存率を高め、通常の余命を期待できるようになったことにある。また、理学療法においても従来のimpairmentレベルに偏重した理学療法の理念からdisabilityそしてhandicapに至るまでのチームアプローチを実現することが可能となったことにある。それをさらに前進させるため理学療法はそのチームの一員として全人間的な見地から社会生活を含めた生活者として生きる脊髄(疾患)損傷者の広範囲なアプローチに主眼をおき、その基礎的なことを教授する。

授業の内容

内 容

- 第1回 脊髄損傷の理学療法概論
- 第2回 脊髄損傷の理学療法概論
- 第3回 脊髄損傷の理学療法に関する評価(1)
- 第4回 脊髄損傷の理学療法に関する評価(2)
- 第5回 脊髄損傷の高位診断
- 第6回 脊髄不全損傷とその特殊型
- 第7回 痙性麻痺の定義、概念、評価、治療
- 第8回 脊髄損傷に関する自律神経障害
- 第9回 回復期初期から後期における理学療法(1)
- 第10回 回復期初期から後期における理学療法(2)
- 第11回 回復期初期から後期における理学療法(3)
- 第12回 慢性期における理学療法(1)
- 第13回 慢性期における理学療法(2)
- 第14回 泌尿器系における理学療法
- 第15回 定期試験

授業以外での学習方法

教科書

脊髄損傷の理学療法(第2版)

著者: 武田 功・他

出版社: 医歯薬出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (90)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90103b010

参加度（10）

次の項目で総合評価する。①出席は減点法（1回につき欠席－2点、遅刻－1点を減点）②講義の質疑応答③提出物、④授業態度、⑤定期試験（2/3以上出席していること）以上の総合点とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **神経・筋疾患理学療法学演習**

担当者 兒玉 隆之・濱出 茂治

テーマ

神経・筋変性疾患、脱髄性疾患および免疫性疾患に対する理学療法を理解を促進する。

獲得目標

神経・筋変性疾患、脱髄性疾患および免疫性疾患の病態、それらに起因する障害、回復過程、予後に関する知識を学び、それらをもとにした障害の回復促進および増悪の予防に対する理学療法の基本原則と治療体系を修得することが目標となる。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション 神経筋疾患とは
 - 第2回 ギラン・バレー症候群の病態
 - 第3回 ギラン・バレー症候群の理学療法(演習)
 - 第4回 ニューロパチーの病態
 - 第5回 ニューロパチーの理学療法(演習)
 - 第6回 腕神経叢麻痺の病態
 - 第7回 腕神経叢麻痺の理学療法(演習)
 - 第8回 顔面神経麻痺の病態および理学療法(演習)
 - 第9回 パーキンソン病・パーキンソン症候群の病態
 - 第10回 パーキンソン病・パーキンソン症候群の理学療法(演習)
 - 第11回 運動ニューロン疾患の病態
 - 第12回 運動ニューロン疾患の理学療法(演習)
 - 第13回 脊髄小脳変性症の病態
 - 第14回 脊髄小脳変性症の理学療法(演習)
 - 第15回 多発性硬化症の病態および理学療法(演習)
-

授業以外での学習方法

講義内容に関するレポート作成

教科書

参考書

理学療法ハンドブック 第1～3巻

著者: 細田多穂・柳澤健 編

出版社: 共同医書出版社

出版年:

ISBN:

神経系理学療法実践マニュアル

著者: 内山靖・臼田滋・潮見泰藏編

出版社: 文光堂

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（50）

授業中課題（20）

参加度（10）

小テスト（）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **発達障害系理学療法学基礎演習**

担当者 崎田 正博

テーマ

発達障害における理学療法の基本的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。

獲得目標

1) 正常運動発達を理解し、発達障害の異常発達との違いを明確にする。2) 理学療法の対象疾患の障害を理解する。3) 各疾患による障害の病態・発達及び複合障害を理解する。4) 代表的疾患についての基本的な評価・動作分析・治療を身につける。

授業の内容

発達障害を有する児の医学的な基礎知識および理学療法評価法について講義・実技を行う。正常運動発達概念をおさえながら、筋疾患・末梢神経疾患・染色体異常・脳性麻痺といった理学療法の主体的対象疾患の経年的異常姿勢・運動発達の特徴を学習し、正常との違いを明確にすることで治療への示唆を与える。

内 容

- 第1回 乳幼児の正常運動発達(1)
- 第2回 乳幼児の正常運動発達(2)
- 第3回 乳幼児の正常運動発達と姿勢反射・反応(1)
- 第4回 乳幼児の正常運動発達と姿勢反射・反応(2)
- 第5回 姿勢反射・反応検査の技法: 原始反射
- 第6回 姿勢反射・反応検査の技法: 立ち直り反応・平衡反応
- 第7回 運動発達検査・評価(1)
- 第8回 運動発達検査・評価(2)
- 第9回 疾患別姿勢・運動分析とその記録(1)
- 第10回 疾患別姿勢・運動分析とその記録(2)
- 第11回 疾患別姿勢・運動分析とその記録(3)
- 第12回 疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(1)
- 第13回 疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(2)
- 第14回 疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

次回授業前に事前学習として教科書の内容を把握する。

教科書

こどもの理学療法

著者: 田原弘幸

出版社: 神陵文庫

出版年:

ISBN:

参考書

運動発達と反射-反射検査の手技と評価-

著者: 真野行夫

出版社: 医歯薬出版

出版年:

ISBN:

発達障害児の新しい療育

著者： 今川忠男

出版社： 三輪書店

出版年：

ISBN：

細田多穂

著者： 理学療法ハンドブック第2巻治療アプローチ

出版社： 協同医書出版社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（70%）

小テスト（20%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（10%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習**

担当者 白岩 加代子・堀江 淳・村田 伸

テーマ

ヘルスプロモーションの理念と実践について学ぶ

獲得目標

従来の理学療法に加え、疾病予防や介護予防、健康増進を含んだ包括的なヘルスプロモーション理学療法について学び、ヘルスプロモーションを推進するための理学療法の知識と技術を獲得する。

授業の内容

ヘルスプロモーションの定義を理解し、地域で生活する高齢者に対し病気やけがの予防、虚弱予防、介護予防の観点から、理学療法士ができる役割について学習する。

内 容

- 第1回 ヘルスプロモーション総論
 - 第2回 高齢者の評価(総論)
 - 第3回 高齢者の身体機能評価1
 - 第4回 高齢者の身体機能評価2
 - 第5回 高齢者の身体機能評価3
 - 第6回 高齢者の認知機能、精神・心理機能およびQOLの評価
 - 第7回 ヘルスプロモーションの実践(虚弱予防)
 - 第8回 ヘルスプロモーションの実践(転倒予防)
 - 第9回 ヘルスプロモーションの実践(認知症予防)
 - 第10回 ヘルスプロモーションの実践(生活習慣病予防・改善)
 - 第11回 行動科学とヘルスプロモーション
 - 第12回 要介護高齢者のヘルスプロモーション
 - 第13回 ヘルスプロモーションのための住環境整備
 - 第14回 ヘルスプロモーション関係法規
 - 第15回 ヘルスプロモーション研究の進め方
-

授業以外での学習方法

教科書

理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション-理論と実践

著者:

出版社: 南江堂

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 老年期障害理学療法学演習

担当者 白岩 加代子.村田 伸

テーマ

老人疾患の特徴や機能低下の特徴にあわせた理学療法について学ぶ

獲得目標

加齢に伴う身体機能の変化や老化の特徴について学び、個々に合わせた対応策を考案できるようになることを目標とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション 加齢とは
- 第2回 高齢者の身体的特性
- 第3回 高齢者の心理と精神的特性
- 第4回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(脳血管障害)
- 第5回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(廃用症候群)
- 第6回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(骨折)
- 第7回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(認知症)
- 第8回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(関節リウマチ)
- 第9回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(パーキンソン病)
- 第10回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(生活習慣病)
- 第11回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(心臓疾患)
- 第12回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(内部障害)
- 第13回 高齢者に多い疾患の特徴と理学療法(その他)
- 第14回 老人の尊厳と接し方
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

高齢者の動作分析や特徴などを観察してみる。

教科書

福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト

著者: 東京商工会議所

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ〈a〉**

担当者 坂本 敏郎・佐藤 鮎美・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
 - 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施
 - 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
 - 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

実験心理学関連の書籍を読み、自学自習する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a150

実験をするので出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ **

担当者 坂本 敏郎・佐藤 鮎美・田中 芳幸

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
 - 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施
 - 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
 - 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

実験心理学関連の書籍を読み、自学自習する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a152

実験をするので出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ <c>**

担当者 坂本 敏郎・田中 芳幸・前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
 - 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施
 - 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
 - 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

実験心理学関連の書籍を読み、自学自習する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a153

実験をするので出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ <d>**

担当者 坂本 久美・田中 芳幸・前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
 - 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施
 - 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
 - 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

実験心理学関連の書籍を読み、自学自習する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a154

実験をするので出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ <e>**

担当者 坂本 久美 中川 明仁 前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
 - 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施
 - 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
 - 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

実験心理学関連の書籍を読み、自学自習する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a155

実験をするので出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ** <f>

担当者 坂本 久美・佐藤 鮎美・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施(1)
 - 第3回 鏡映描写実験の実施(2)
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施
 - 第13回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(1)
 - 第14回 ビデオ撮影された動物の行動の解析(2)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

実験心理学関連の書籍を読み、自学自習する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a156

実験をするので出席を重視する。

参考URL

Syllabus

科目名 心理学実験演習Ⅱ〈R〉

担当者 坂本 敏郎

テーマ

獲得目標

授業の内容

内 容

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **実験心理学**

担当者 上北 朋子

テーマ

心理学の様々な研究法

獲得目標

行動や心を科学的に分析するための研究方法について学ぶ。それぞれの長所と短所を理解したうえで、各自が研究に取り組む際に適切な手法を選択・実施できるようになることを目標とする。

授業の内容

実証的な研究を行う時に、どのように変数を操作して行動を測定すればよいのか、また、統制すべきものは何かが問題となる。これらを様々な実験場面にあわせて、体系的に学習する。

内 容

- 第1回 心理学実験の意義
 - 第2回 実験法の基本
 - 第3回 独立変数と従属変数
 - 第4回 剰余変数
 - 第5回 実験的研究
 - 第6回 実験計画(1)
 - 第7回 実験計画(2)
 - 第8回 実験計画(3)
 - 第9回 観察的研究(1)
 - 第10回 観察的研究(2)
 - 第11回 データの統計処理(1)
 - 第12回 データの統計処理(2)
 - 第13回 研究倫理(1)
 - 第14回 研究倫理(2)
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし―

著者: 高野 陽太郎・岡 隆編

出版社: 有斐閣アルマ

出版年: 2004

ISBN: 4-641-12214-8

参考書

授業中に適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a90202e210

試験 (60)
授業中課題 (20)
参加度 (20)

小テスト (0)
授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <a>**

担当者 滝野 功久・殿谷 仁志・中西 龍一・松下 幸治・山崎 貴子

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

獲得目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasy—に基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 I(私)—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と同情—sympathyの相違点]についての概念化

授業以外での学習方法

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (60%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ **

担当者 滝野 功久、殿谷 仁志、中西 龍一、松下 幸治、山崎 貴子

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

獲得目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasy—に基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 I(私) —message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と同情—sympathyの相違点]についての概念化

授業以外での学習方法

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (60%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <c>**

担当者 滝野 功久・殿谷 仁志・中西 龍一・松下 幸治・山崎 貴子

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

獲得目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasy—に基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 I(私)—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と同情—sympathyの相違点]についての概念化

授業以外での学習方法

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (60%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <d>**

担当者 滝野 功久、殿谷 仁志、中西 龍一、松下 幸治、山崎 貴子

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

獲得目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasy—に基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 I(私)—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と同情—sympathyの相違点]についての概念化

授業以外での学習方法

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (60%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <e>**

担当者 滝野 功久・殿谷 仁志・中西 龍一・松下 幸治・山崎 貴子

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

獲得目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasy—に基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 I(私)—message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と同情—sympathyの相違点]についての概念化

授業以外での学習方法

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (60%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 コミュニティ心理学

担当者 濱田 智崇

テーマ

獲得目標

人間を生活者として、環境を含めて理解し、その視点での心理的援助を学ぶ

授業の内容

コミュニティ心理学の歴史的背景、基本的な発想、背景となるいくつかの理論、介入と援助について理解する。家庭や地域、学校教育、産業領域といった各分野での実践例にふれることを通じて、理解を深める。さらに、社会的文脈から人間の心理を理解できるようになり、さらに心理学を学んだ者として、自分自身が社会に対しどうかかわるかを考えることができるようになる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 コミュニティ心理学とは何か・その概念と理念
 - 第3回 コミュニティ心理学の歴史的背景
 - 第4回 基本的発想(1)人と環境の適合を目指して
 - 第5回 基本的発想(2)エンパワメントとサービス提供のあり方
 - 第6回 背景となる理論(1)危機理論・ストレス理論等
 - 第7回 背景となる理論(2)ソーシャルサポートをめぐって
 - 第8回 介入と援助(1)危機介入・コンサルテーション
 - 第9回 介入と援助(2)さまざまなアプローチ
 - 第10回 子育て支援の実践から
 - 第11回 DV対応における実践から
 - 第12回 学校・教育における実践から
 - 第13回 産業・職場における実践から
 - 第14回 男性のための悩み相談の実践から
 - 第15回 まとめ～学んだ皆さん自身の社会とのかかわりを考える また、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。
-

授業以外での学習方法

毎回の授業内容を復習し、それに対する自分の考え方をまとめておく。行政やNPO 団体、ボランティア団体などが行っている市民活動にも関心を向けておき、授業中に紹介した実践に関連するものについて調べてみる。自分が関心をもてるものには、余裕があれば参加してみる。

教科書

よくわかるコミュニティ心理学第2版

著者： 植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田満 編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2012年

ISBN： 4623064913

参考書

男の電話相談

著者： 『男』悩みのホットライン 編

出版社： かもがわ出版

出版年： 2006年

ISBN： 4876999910

成績評価

a90202f310

試験 (60)
授業中課題 (20)
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **健康心理学**

担当者 田中 芳幸・山崎 真理子

テーマ

健康心理学に関わる諸理論の理解

獲得目標

健康心理学の基本的な知識を学び、心理・社会・身体的な要因が様々な心身の問題にどの様に関連しているのかを把握する。また、心身疾患やストレスへの予防および心身の健康の維持増進方法について、健康心理学的な視点に基づいて考察する。さらに、自分自身や他者の健康関連行動や生活習慣について考える機会とすることも目的とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション 健康心理学とは「健康」のとらえ方
 - 第2回 健康心理学の基盤となる心理学理論
 - 第3回 健康行動の諸理論と心身不調の予防
 - 第4回 ストレスと健康
 - 第5回 ストレスへの対処とストレス関連身体疾患
 - 第6回 トランスアクションルモデルに基づくストレスマネジメント
 - 第7回 パーソナリティ・生活習慣と健康
 - 第8回 健康生成に役立つソーシャルサポートとヘルスケアシステム
 - 第9回 発達段階に応じた健康教育
 - 第10回 生活場面に応じた健康教育
 - 第11回 健康心理学に基づくアセスメント
 - 第12回 健康心理カウンセリングの理論
 - 第13回 健康心理カウンセリングの実際
 - 第14回 健康的な生活習慣の形成
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

健康心理学関連図書による自学自習

教科書

新版健康心理学

著者： 野口京子

出版社： 金子書房

出版年：

ISBN：

参考書

健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり

著者： 島井哲史・長田久雄・小玉正博(編)

出版社： 有斐閣

出版年：

ISBN：

健康心理学概論 (健康心理学基礎シリーズ1)

著者: 日本健康心理学会(編)

出版社: 実務教育出版

出版年: ISBN:

健康心理アセスメント概論 (健康心理学基礎シリーズ2)

著者: 日本健康心理学会(編)

出版社: 実務教育出版

出版年: ISBN:

健康心理カウンセリング概論 (健康心理学基礎シリーズ3)

著者: 日本健康心理学会(編)

出版社: 実務教育出版

出版年: ISBN:

健康教育概論 (健康心理学基礎シリーズ4J)

著者: 日本健康心理学会(編)

出版社: 実務教育出版

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **心理検査法Ⅱ〈a〉**

担当者 日比野 英子

テーマ

心理検査の実際について、検査用具を用いて施行法・結果の処理・結果の解釈を学習する。

獲得目標

心理検査の中から、特に投映法の代表的な検査であるロールシャッハ法と、児童心理臨床の現場で用いられることの多い新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査を取り上げ、実際に検査用具を用いて、施行法・結果の整理・結果の解釈について習得する。

授業の内容

前半はロールシャッハ・テストについて、後半は新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査について、施行法・結果の整理法・結果の解釈について学ぶ。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ロールシャッハ・テスト① ロールシャッハ・テストの被検
- 第3回 ロールシャッハ・テスト② 基礎技法
- 第4回 ロールシャッハ・テスト③ スコアリングの基礎知識(反応領域・反応決定因)
- 第5回 ロールシャッハ・テスト④ スコアリングの基礎知識(反応内容・形態水準)
- 第6回 ロールシャッハ・テスト⑤ スコアリング練習
- 第7回 ロールシャッハ・テスト⑥ スコアリング練習
- 第8回 ロールシャッハ・テスト⑦ 結果の整理・解釈
- 第9回 発達検査とは～子どもの姿をとらえる
- 第10回 やってみよう！新版K式発達検査①
- 第11回 やってみよう！新版K式発達検査②
- 第12回 やってみよう！ウェクスラー知能検査①
- 第13回 やってみよう！ウェクスラー知能検査②
- 第14回 その他の発達検査
- 第15回 まとめ～検査結果をどう生かしていくか

授業以外での学習方法

ロールシャッハ・テストのスコアリングの練習はできるだけ多くの事例にあたることを望ましい。授業以外の時間にも、すでに刊行されている書籍の中の事例のスコアリングを試みることを勧める。

教科書

参考書

改訂新・心理診断法—ロールシャッハ・テストの解説と研究

著者： 片口安史

出版社： 金子書房

出版年： 1987年

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90203d310

上記の試験50%とは、前半と後半に合計2回のレポート提出の課題を与えることを示す。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **心理検査法Ⅱ **

担当者 室 紀子

テーマ

心理検査の実際について、検査用具を用いて施行法・結果の処理・結果の解釈を学習する。

獲得目標

心理検査の中から、特に投映法の代表的な検査であるロールシャッハ法と、児童心理臨床の現場で用いられることの多い新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査を取り上げ、実際に検査用具を用いて、施行法・結果の整理・結果の解釈について習得する。

授業の内容

前半はロールシャッハ・テストについて、後半は新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査について、施行法・結果の整理法・結果の解釈について学ぶ。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ロールシャッハ・テスト① ロールシャッハ・テストの被検
- 第3回 ロールシャッハ・テスト② 基礎技法
- 第4回 ロールシャッハ・テスト③ スコアリングの基礎知識(反応領域・反応決定因)
- 第5回 ロールシャッハ・テスト④ スコアリングの基礎知識(反応内容・形態水準)
- 第6回 ロールシャッハ・テスト⑤ スコアリング練習
- 第7回 ロールシャッハ・テスト⑥ スコアリング練習
- 第8回 ロールシャッハ・テスト⑦ 結果の整理・解釈
- 第9回 発達検査とは～子どもの姿をとらえる
- 第10回 やってみよう！新版K式発達検査①
- 第11回 やってみよう！新版K式発達検査②
- 第12回 やってみよう！ウェクスラー知能検査①
- 第13回 やってみよう！ウェクスラー知能検査②
- 第14回 その他の発達検査
- 第15回 まとめ～検査結果をどう生かしていくか

授業以外での学習方法

ロールシャッハ・テストのスコアリングの練習はできるだけ多くの事例にあたることを望ましい。授業以外の時間にも、すでに刊行されている書籍の中の事例のスコアリングを試みることを勧める。

教科書

参考書

改訂新・心理診断法—ロールシャッハ・テストの解説と研究

著者： 片口安史

出版社： 金子書房

出版年： 1987年

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90203d312

上記の試験50%とは、前半と後半に合計2回のレポート提出の課題を与えることを示す。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **心理統計学Ⅲ(多変量解析)**

担当者 永野 光朗

テーマ

統計ソフトSPSSを用いておこなう多変量解析の修得

獲得目標

心理学データ解析で修得した内容を踏まえ、心理学研究において多用されている因子分析・重回帰分析をはじめとする種々の多変量解析を理解し、取得されたデータを適切に分析する能力を身につける。

授業の内容

各種の多変量解析の手法について適用事例を含めながら説明をし、模擬的なデータを使って各自でSPSSを用いて分析を行う。

内 容

- 第1回 多変量解析とは
 - 第2回 因子分析(理論の説明)
 - 第3回 因子分析(適用例の紹介)
 - 第4回 因子分析(演習)
 - 第5回 重回帰分析(理論の説明)
 - 第6回 重回帰分析(適用例の紹介)
 - 第7回 重回帰分析(演習)
 - 第8回 判別分析(理論の説明と適用例の紹介)
 - 第9回 判別分析(演習)
 - 第10回 クラスター分析(理論の説明と適用例の紹介)
 - 第11回 クラスター分析(演習)
 - 第12回 MDS(多次元尺度構成法)(理論の説明と適用例の紹介)
 - 第13回 MDS(多次元尺度構成法)(演習)
 - 第14回 総合演習①(データ収集)
 - 第15回 総合演習②(データ分析)
-

授業以外での学習方法

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

教科書

使用しない(資料配付)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

SPSSとAmosによる心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで

著者: 小塩真司

出版社: 東京図書

出版年:

ISBN:

成績評価

a90203d410

試験 ()
授業中課題 (50%)
参加度 (50%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **こころの脳科学**

担当者 坂本 敏郎

テーマ

脳のはたらきとこころのはたらきの関係を理解する。

獲得目標

知覚、学習、記憶、情動などの心的機能が、どのような神経回路によって制御されているかについて理解する。主に中枢神経系の解剖学的、生理学的基礎を学ぶ。脳科学の関連分野である生理学、薬理学、分子生物学の領域から得られた知見についても考察する。

授業の内容

授業の目的を達成するよう、テキストに沿って講義を行う。

内 容

- 第1回 脳科学と生理心理学の研究方法
 - 第2回 脳の構造
 - 第3回 神経の伝導と伝達
 - 第4回 脳と知覚1(視覚)
 - 第5回 脳と知覚2(聴覚、嗅覚、味覚)
 - 第6回 脳と学習
 - 第7回 脳と学習障害
 - 第8回 脳と情動
 - 第9回 脳と情動障害
 - 第10回 脳と動機づけ
 - 第11回 脳と報酬系、薬物嗜好
 - 第12回 脳の側性化
 - 第13回 脳と睡眠
 - 第14回 脳と意識
 - 第15回 臨床心理学と脳科学
-

授業以外での学習方法

生理心理学、脳科学に関連する書籍による自学自習

教科書

生理心理学

著者： 岡田隆・廣中直行・宮森孝史 著

出版社：サイエンス社

出版年：2005

ISBN:

参考書

バイオサイコロジー

著者：ピネル

出版社：西村書店

出版年：2005

ISBN:

成績評価

a90203d710

試験 (60%)
授業中課題 (20%)
参加度 (20%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理的援助論A

担当者 中島 暢美

テーマ

自己コントロール法の体験

獲得目標

人が主体的に自分の身体を動かそうと意図して努力し、その結果、動きや身体運動としてあらわれるものは、その人の一連の心理過程である。また、人と人が気持ちを向けて、互いの身体を向け合っていると、お互いに相手が感じていることがなんとなくわかっていくことがある。相互理解の基本ともいえる身体的知性について体験を通して学習する。

授業の内容

自分の体験の仕方や主体的活動に注目する身体を使った参加型授業である。机上学習とは異なり、ワークに主体的に参加することが望まれる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 アイス・ブレイク
 - 第3回 リラクゼーション(1)
 - 第4回 リラクゼーション(2)
 - 第5回 リラクゼーション(3)
 - 第6回 リラクゼーション(4)
 - 第7回 リラクゼーション(5)
 - 第8回 ペア・ワーク(1)
 - 第9回 ペア・ワーク(2)
 - 第10回 ペア・ワーク(3)
 - 第11回 イメージ・ワーク
 - 第12回 クール・ダウン(1)
 - 第13回 クール・ダウン(2)
 - 第14回 モーニング・ワーク
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

自己コントロール法

著者: 成瀬悟策

出版社: 誠信書房

出版年:

ISBN:

リラクゼーション -緊張を自分で弛める法-

著者: 成瀬悟策

出版社: 講談社

出版年:

ISBN:

姿勢のふしぎ -しなやかな体と心が健康をつくる-

著者: 成瀬悟策

出版社: 講談社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

参加型授業のため出席は必須である。毎回の授業中のレポートが評価として蓄積される。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **犯罪心理学**

担当者 我藤 諭

テーマ

犯罪及び刑事司法におけるさまざまな現象を心理学の観点からどのように捉えうるのかを考える

獲得目標

犯罪に関するさまざまな現象に対して、直感的感情的な理解ではなく、心理学の観点からその課題を明らかにして、再犯防止・誤判防止に資することができるのかを理解することを目標とする。

授業の内容

犯罪及び刑事司法における現象を考える上で、犯罪理論、捜査・裁判における目撃証言や自白、矯正・保護における処遇を概観する。その上で、それらの課題に対して心理学の観点からどのように分析し、関与できるのかを考察する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 日本における犯罪動向 授業の進め方の提示、犯罪の定義、日本の犯罪動向
 - 第2回 犯罪理論1 社会学的要因 社会学による犯罪理論
 - 第3回 犯罪理論2 生物・心理学的要因 生物学・心理学による犯罪理論
 - 第4回 犯罪理論3 少年、障害と犯罪 犯罪と少年、障害との関連について概観する
 - 第5回 目撃証言1 凶器注目効果 犯罪を目撃した際の心理学的問題について概観する
 - 第6回 目撃証言2 犯人識別手続、同調 犯人識別手続における心理学的問題について概観する
 - 第7回 目撃証言3 事後情報効果 目撃後の記憶の変容について概観する
 - 第8回 目撃証言4 想起と面接法 目撃した出来事を聞きとる方法について概観する
 - 第9回 目撃証言5 証言の分析方法 目撃証言の分析方法について概観する
 - 第10回 自白1 取調べと虚偽自白 虚偽自白の発生要因について概観する
 - 第11回 自白2 自白の分析方法 自白の分析方法について概観する
 - 第12回 自白3 冤罪事件 目撃証言や虚偽自白について事例に基づいて検討する
 - 第13回 矯正・保護1 犯罪・非行の心理臨床 犯罪・非行臨床の基礎を概観する
 - 第14回 矯正・保護2 犯罪者・非行少年のアセスメント 犯罪者・非行少年のアセスメントについて概観する
 - 第15回 矯正・保護3 高齢犯罪者と知的障がい犯罪者への処遇 高齢犯罪者や知的障がい犯罪者への処遇について概観する
-

授業以外での学習方法

新聞等を読むこと。参考書を読み、理解を深めることが望ましい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

自白の心理学

著者: 浜田 寿美男

出版社: 岩波書店

出版年: 2001

ISBN: 978-4004307211

犯罪・非行の心理学

著者： 藤岡 淳子

出版社： 有斐閣

出版年： 2007

ISBN： 978-4641183476

刑務所の風景

著者： 浜井 浩一

出版社： 日本評論社

出版年： 2006

ISBN： 978-4535584815

罪を犯した人を排除しないイタリアの挑戦—隔離から地域での自立支援へ

著者： 浜井 浩一

出版社： 現代人文社

出版年： 2013

ISBN： 978-4877985356

自白が無実を証明する—袴田事件、その自白の心理学的供述分析

著者： 浜田 寿美男

出版社： 北大路書房

出版年： 2006

ISBN： 978-4762825330

目撃証言の心理学

著者： 巖島 行雄, 仲 真紀子, 原 聡

出版社： 北大路書房

出版年： 2003

ISBN： 978-4762823275

目撃証言の研究—法と心理学の架け橋をもとめて

著者： 一瀬 敬一郎, 仲 真紀子, 巖島 行雄, 浜田 寿美男, 渡部 保夫 (監修)

出版社： 北大路書房

出版年： 2001

ISBN： 978-4762822063

成績評価

試験 (60%)

小テスト ()

授業中課題 (25%)

授業中発表等 ()

参加度 (15%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 環境心理学

担当者 太子 のぞみ

テーマ

現実の環境における人間の心理・行動についての知識や考え方を習得

獲得目標

受講者が環境心理学の概念や理論を知識として得た上で、人間を取り巻く環境を心理学の視点から把握できるように理解を深める。

授業の内容

本講義では、環境心理学の考え方を踏まえた上で、多様なテーマに応じた特徴について論じる。第一に環境の認知や評価方法、第二に個人特性と環境の関係、第三に多様な環境における心理学的知見について解説する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 環境心理学の考え方
 - 第3回 環境の認知
 - 第4回 環境の評価①
 - 第5回 環境の評価②
 - 第6回 個人特性と環境
 - 第7回 対人・社会環境
 - 第8回 住環境①
 - 第9回 住環境②
 - 第10回 教育環境
 - 第11回 職場環境
 - 第12回 犯罪環境
 - 第13回 自然環境①
 - 第14回 自然環境②
 - 第15回 まとめと理解の確認
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

環境心理学—人間と環境の調和のために(ライブラリ 実践のための心理学)

著者: 羽生和紀

出版社: サイエンス社

出版年: 2008年

ISBN: 4781911943

環境心理学(朝倉心理学講座)

著者: 佐古順彦・小西啓史

出版社: 朝倉書店

出版年: 2007年

ISBN: 4254526725

成績評価

試験（70）

授業中課題（）

参加度（30）

試験に代わりレポートを課すことがある。

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会心理学実験演習**

担当者 前田 洋光

テーマ

質問紙による実証研究

獲得目標

実証研究のプロセスについて理解する。

授業の内容

受講生をいくつかのグループに分け、社会調査を用いたグループ研究を実施していく。具体的には、グループごとに研究テーマを決定し、文献を講読し、研究仮説を構築する。その後、郵送調査を実施し、収集されたデータを分析し、レポートとしてまとめていく。最終的には、グループごとに研究成果のプレゼンテーションをおこなう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション・文献検索の方法
 - 第2回 研究テーマの決定
 - 第3回 グループでの研究仮説の構築
 - 第4回 研究仮説のプレゼンテーション
 - 第5回 質問項目の設計とそのプレゼンテーション
 - 第6回 質問紙の設計とそのプレゼンテーション
 - 第7回 最終版質問紙の確定
 - 第8回 調査準備
 - 第9回 調査の実施
 - 第10回 データ入力と分析の準備
 - 第11回 データ分析(基礎集計)
 - 第12回 データ分析(仮説の検討)
 - 第13回 データ分析(発展的検討)
 - 第14回 プレゼンテーション準備
 - 第15回 グループ発表
-

授業以外での学習方法

ほぼ毎週、グループごとにプレゼンやディスカッションをおこなう。そのため、授業外でもグループごとに研究について議論することが求められる。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

a90203e610

グループ研究を実施するため、出席は必須である。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **メンタルヘルス・マネジメント**

担当者 大久保 千恵・田中 芳幸

テーマ

こころもからだもウェルビーイングな生活を維持増進するために重要な諸理論と技法について学ぶ

獲得目標

(概要)心身の健康の維持増進や疾病への対処について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割をもつのかを心理学の側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄についての具体的な理解を深める。また、職場におけるメンタルヘルスの重要性について、事例を参照しながら講義する。さらに、人間性のネガティブな側面についてのみではなく、ポジティブな側面についても言及し、それらが心身の健康や疾病に対してどのような関わりをもつのかを考察する。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション メンタルヘルスと心身の健康
 - 第2回 ストレスの基礎理論
 - 第3回 ストレスの緩和要因
 - 第4回 ストレスと心身の健康
 - 第5回 職場におけるストレス関連問題 (1)過重労働などによる健康への影響
 - 第6回 職場におけるストレス関連問題 (2)セクシャルハラスメントの実態と対処
 - 第7回 職場におけるストレス関連問題 (3)モラルハラスメント、パワーハラスメントの実態と対処
 - 第8回 急性および外傷後のストレス反応
 - 第9回 自殺予防と危機介入
 - 第10回 健康関連行動の基礎理論
 - 第11回 健康関連行動と生活習慣病
 - 第12回 メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法 (1)認知行動療法
 - 第13回 メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法 (2)アサーションとソーシャルサポート
 - 第14回 メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法 (3)リラクゼーション
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

ニュースや新聞記事などに目を向け、現代社会でおきているメンタルヘルス関連問題に関心をもっていただきたい。

教科書

ストレス・マネジメント入門 自己診断と対処法を学ぶ

著者: 中野敬子

出版社: 金剛出版

出版年: 2013(9刷)

ISBN: 9784772408936

その他、必要に応じて資料を配布したり、書籍を指示したりする。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ストレスマネジメントと職場カウンセリング 主要な方法論とアプローチ

著者: 内山喜久雄監訳

出版社：川島書店

出版年：2002

ISBN：

健康の心理学 心と体の健康のために

著者：春木豊ほか

出版社：サイエンス社

出版年：2007

ISBN：

産業心理臨床入門

著者：CPI研究会

出版社：ナカニシヤ出版

出版年：2006

ISBN：

成績評価

試験（30%）

小テスト（50%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（20%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ライフサイクル論(健)**

担当者 菱田 一仁

テーマ

ライフサイクルの概観を理解し、人の発達・成長について臨床心理学的な観点から理解を深める。

獲得目標

人の誕生から死に至るまでのライフサイクルを臨床発達理論の視座から理解する。特に、臨床心理学において、ライフサイクルの節目における危機と成長のプロセスを理解することは重要である。基礎理論に加え、アイデンティティ探索の自己体験の探索を通じ、臨床実践的に理解することを目標とする。

授業の内容

人は生きていくうえで発達・成長していきます。そうした成長の中でテーマとなる課題や、臨床心理学的なテーマとなることについて学んでいきます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 ライフサイクルの全体像
 - 第3回 乳児期の発達と課題
 - 第4回 幼児期の発達と課題
 - 第5回 学童期の発達と課題
 - 第6回 学童期の発達と課題
 - 第7回 思春期の成長と課題
 - 第8回 青年期の成長と課題
 - 第9回 青年期の成長と課題
 - 第10回 成年期を生きるということ
 - 第11回 成年期を生きるということ
 - 第12回 中年期を生きるということ
 - 第13回 中年期を生きるということ
 - 第14回 老年期を生きるということ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (20%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **精神医学 I**

担当者 上鹿渡 和宏

テーマ

様々な精神疾患について、また、我が国の精神科医療の実際について幅広く理解する。

獲得目標

最初に精神医学の歴史と現状について概観する。生物学的基礎として脳および神経の生理・解剖とその機能について理解する。精神医学で扱う代表的な疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、また、本人や家族への支援について最新の知見と、当事者の視点も入れながら理解を深める。

授業の内容

精神医学の歴史、生物学的基礎、疾患の分類と具体的内容、また治療法や関わる際の注意事項について具体的なケース、当事者の語りを通して理解する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、精神医学、精神医療の歴史
 - 第2回 現代の精神医学
 - 第3回 脳および神経の生理・解剖 (1)
 - 第4回 脳および神経の生理・解剖 (2)
 - 第5回 精神医学の概念～精神障害の概念と成因・分類について
 - 第6回 診断の手順と方法～精神科医はどう考えるか
 - 第7回 精神症状と状態像～当事者の世界を理解する
 - 第8回 心理検査と身体的検査、その利用方法と注意点
 - 第9回 代表的な疾患について1 ～ 症状性を含む器質性精神障害
 - 第10回 代表的な疾患について2 ～ 精神作用物質使用による精神および行動の障害
 - 第11回 代表的な疾患について3 ～ 統合失調症、統合失調症型および妄想性障害(1)
 - 第12回 代表的な疾患について4 ～ 統合失調症、統合失調症型および妄想性障害(2)
 - 第13回 代表的な疾患について5～ 気分障害(1) うつ病
 - 第14回 代表的な疾患について6～ 気分障害(2) 双極性障害
 - 第15回 代表的な疾患について7 ～ 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(1)
-

授業以外での学習方法

予習としては教科書の相当箇所を読む。また、復習としては、回毎に出てくる精神医学に関する様々な用語(特に教科書太字部分)について理解を確実なものにする。

教科書

新・精神保健福祉士養成講座『精神疾患とその治療

著者： 日本精神保健福祉士養成校協会編

出版社： 中央法規

出版年： 2012年

ISBN: 9784805835746

参考書

子どもの問題行動への理解と対応

著者： クレアパレット他著、上鹿渡和宏訳

出版社： 福村出版

出版年： 2013年

ISBN: 9784571420542

イギリス・ルーマニア養子研究から社会的養護への示唆

著者： マイケル・ラター他著、上鹿渡和宏訳

出版社： 福村出版

出版年： 2012年

ISBN: 9784571420481

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

授業中課題としてはコミュニケーションペーパー、小レポート、期末レポートを課す予定。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **障害児医学**

担当者 安藤 忠

テーマ

「障害臨床学」という学問の価値を、教科書を基にした授業から学び、学びの内容を、学生間のディスカッションやレポート作成の過程を通じて深化する。単なる「障害」の特性についての理解のみならず、環境を含めたその援助方法についてそれぞれに理解し、支援を実践するに当たっての当面のの手のかりを掴むことを本授業のテーマとする。

獲得目標

個々の学生が、さまざまな障害のある児童・生徒に備わった、機能・能力障害の特殊性ばかりに目を向けて、改善の対象として障害をとらえるのではなく、障害児・者とその家族の生活を主体とした、臨床支援、障害児・者とその家族の社会とのかかわりを視野に入れ、その生涯を通しての臨床支援の考え方を学び、実践に結び付けることができるよう知識を深める。

授業の内容

ここで支援対象とする「障害」は、知的障害、自閉性障害、多動性障害、学習障害、運動障害、中途障害などで、支援の具体的内容は、「障害」の原因、概念・特徴、支援の考え方、医学的基礎知識、障害受容、早期療育、障害児教育などで、教科書のほかに、レジュメ、視聴覚資料を多用し、多角的な理解を進める。

内 容

- 第1回 「障害」とは何か、「障害」をどうとらえるか
- 第2回 脳・神経系の機能と障害
- 第3回 知的障害児の心理と支援
- 第4回 ダウン症
- 第5回 自閉性障害の心理と支援
- 第6回 TEACCHプログラム
- 第7回 多動性障害と学習障害の心理と支援
- 第8回 応用行動分析
- 第9回 運動障害の心理と支援 脳性まひ
- 第10回 筋ジストロフィー症
- 第11回 二分脊椎症、骨系統疾患など
- 第12回 中途障害の心理と支援
- 第13回 障害児の親・家族の心理と支援
- 第14回 早期発見と早期療育
- 第15回 インクルージョン教育の思想と現実
- 第16回 テスト

授業以外での学習方法

毎回の予習と復習、メディアに報道される障害者問題についての関心を深めること。

教科書

障害臨床学

著者： 中村義行・大石史博 著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年： 2005年

ISBN:

参考書

ダウン症児の育ち方・育て方

著者： 安藤 忠 著

出版社： 学研

出版年： 2002年

ISBN:

ダウン症療育のパイオニア

著者： 安藤忠・他 訳

出版社： あいり出版

出版年： 2006年

ISBN:

ダウン症のぼくから

著者： 安藤忠・他 著

出版社： あいり出版

出版年： 2013年

ISBN:

障害は個性か

著者： 茂木俊彦 著

出版社： 大月書店

出版年： 2004年

ISBN:

成績評価

試験 (50%)

小テスト (10%)

授業中課題 (15%)

授業中発表等 (10%)

参加度 (15%)

試験)筆記テスト 小テスト)筆記テスト 授業中課題)グループ・ディスカッション 授業中発表)指名による個別評価
参加度)出席回数

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語 V <Za>**

担当者 弥永 啓子

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

7月のTOEIC試験で700点以上を目指す。Part 5頻出の文法項目を理解する。

授業の内容

TOEIC試験得点アップのため、リーディングセクションの文法・語彙パートの頻出項目を講義、演習、グループワークで学んでゆく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 リスニング、読解問題の典型的なパターン
 - 第3回 品詞(1)、Listening Part 1
 - 第4回 品詞(2)、Listening Part 2
 - 第5回 代名詞(1)、Listening Part 3
 - 第6回 代名詞(2)、Listening Part 4
 - 第7回 比較(1)、読解: 広告
 - 第8回 比較(2)、読解: 広告
 - 第9回 形容詞(1)、読解: 申込書
 - 第10回 形容詞(2)、読解: 申込書
 - 第11回 復習、実践問題
 - 第12回 時制(1)、読解: 手紙、Eメール
 - 第13回 時制(2)、読解: 手紙、Eメール
 - 第14回 態(1)、読解: 掲示
 - 第15回 態(2)、読解: 掲示
 - 第16回 主述一致(1)、読解: 求人
 - 第17回 主述一致(2)、読解: 求人
 - 第18回 不定詞と動名詞(1)、読解: 記事
 - 第19回 不定詞と動名詞(2)、読解: 記事
 - 第20回 復習、実践問題
 - 第21回 接続詞(1)、読解: 保証書
 - 第22回 接続詞(2)、読解: 保証書
 - 第23回 前置詞(1)、読解総合問題
 - 第24回 前置詞(2)、読解総合問題
 - 第25回 関係詞(1)、読解総合問題
 - 第26回 関係詞(2)、読解総合問題
 - 第27回 分詞(1)、読解総合問題
 - 第28回 分詞(2)、読解総合問題
 - 第29回 総復習、実践問題(1)
 - 第30回 総復習、実践問題(2)
-

授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施し、毎週リスニングを中心とする宿題を課すので、これらをしっかりとこなすようにしてください。

教科書

Listening Guide to the TOEIC Test

著者: Bruce Rogers

出版社: Cengage Learning

出版年: 2007

ISBN: 9784902902693

TOEICテスト書き込みドリル スコア650文法編

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2010

ISBN: 4342000067

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (60%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。3. 成績評価の留意点 上記試験成績は7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(前期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。成績評価の20%はTOEICスコアに基づくものとします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職教養講座Ⅲ〈初等〉

担当者 島田 尚夫

テーマ

教育的論理形成と具体的な教育実践及び評価

獲得目標

教育を目指す者に求められる専門的力量的中心課題は、児童生徒理解に基づく学級づくり・集団及び個別指導の力量形成である。学校教育に対する基本認識を深め推進していくうえでの知識・技術・能力・態度を身に付ける。

授業の内容

教育原理・教育心理・教育行政等の理論を学ぶと同時に、それらの理論が具現化された実際の教育活動についての理解を深める。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、自らの生き方
 - 第2回 今の学校の姿
 - 第3回 教育課程の一般方針
 - 第4回 様々な教育方法
 - 第5回 論作文①
 - 第6回 学習指導要領の改訂とその経過
 - 第7回 学校・教育評価
 - 第8回 授業づくり
 - 第9回 指導案作成②
 - 第10回 学校・学級経営
 - 第11回 道徳教育
 - 第12回 発達と障害の理論
 - 第13回 特別支援教育
 - 第14回 教育時事②
 - 第15回 教職教養のポイント
-

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを見て学ぶことや、一般の新聞記事などにおける教育関係の記事、教育専門誌、教育月刊誌などを読む。

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年：

ISBN：

小学校指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する

著者：

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (なし)

小テスト (なし)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (15)

参加度 (15)

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な評定を行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職教養講座Ⅲ〈中等〉

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

教育サイクル(PDCA)の理解と「指導と評価の一体化」について

獲得目標

学校の教育活動は、PDCAという教育サイクルがスパイラルに繰り返されながら、生徒のよりよい成長を願った指導が展開される。授業は、生徒の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針や授業時間数、各教科等の目標・内容等を計画的に実施されることについて理解する。また、各教科等の内容・目標等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける。

授業の内容

各教科等の目標・内容等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける

内 容

- 第1回 オリエンテーション、本授業の構成要素等について
- 第2回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編①
- 第3回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編②
- 第4回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編③
- 第5回 授業づくりについて
- 第6回 授業づくりの必要事項について
- 第7回 学習指導計画案作成①
- 第8回 授業設計について
- 第9回 学習指導計画案作成②
- 第10回 授業中の大切なことについて
- 第11回 学習指導計画案作成③
- 第12回 授業の評価と授業の改善(指導と評価の一体化)
- 第13回 中教審(報告)から評価規準作成の参考資料
- 第14回 教育評価の基本的用語
- 第15回 目標に準拠した評価について

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

教科書

(中等)中・高等学校学習指導要領専門教科の解説編

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

授業における課題のレポート, 授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **起業家育成論 <Z>**

担当者

テーマ

「起業すること」を想定して、それに必要な知識、考え方を習得する。

獲得目標

受講生ごとに、現実の、または想定上の起業案件に、アイデアから起業に至る諸問題について、学習と演習をとおして理解・習得するとともに、実践的なビジネス・プランを策定・提出することを目標とする。

授業の内容

毎回、講義と個人ワークでワークシートを作成していく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と進め方)と起業概論
- 第2回 (個人別)起業動機、起業アイデア、これまでの自分の整理
- 第3回 アイデアの整理、ビジョン、事業目標の設定
- 第4回 事業の仕組み、ビジネスモデルの構築
- 第5回 市場戦略(顧客)、競争戦略(ライバルとの違い)
- 第6回 マーケティング戦略①(商品と価格)
- 第7回 マーケティング戦略②(販路と販売促進策)
- 第8回 事業経済性①(売上、原価、粗利益)
- 第9回 事業経済性②(コスト構造)
- 第10回 事業経済性③(損益と損益分岐点)
- 第11回 資金計画
- 第12回 種々の届け出等、事業リスクと対策
- 第13回 ビジネス・プラン作成①(まとめ方)
- 第14回 ビジネス・プラン作成②(質疑、意見交換)
- 第15回 ビジネス・プラン完成と提出

授業以外での学習方法

日常利用する店舗の観察(店頭、品揃え、価格、販売促進策、接客など)、ネットショップの研究

教科書

使用しません

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

やさしい経営入門読本

著者: 岸田道彦

出版社: 晃洋書房

出版年: 2009年

ISBN: 4-7710-2100-6

成績評価

試験 ()
授業中課題 (60%)
参加度 (40%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

J-Net21業種別スタートアップガイド

<http://j-net21.smrj.go.jp/establish/startup/index>.

業種別の起業ポイント

日本政策金融公庫国民生活事業

https://www.jfc.go.jp/n/service/dl_kokumin.html

業種別の事業計画書の例

2014 Syllabus

科目名 教職教養講座Ⅳ〈初等〉

担当者 島田 尚夫

テーマ

「生きる力」を育む教育実践

獲得目標

教職を目指す者は、その専門職としての力量を高めることが求められている。専門的力量の大半は授業力である。児童の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針にのっとり、各教科の目標や内容は計画的に意図し取り組まれていることを理解させる。また、各教科の特性、及び、その系統性を理解し、学習指導案作成の基礎・基本の力量を身に付けさせる。

授業の内容

「生きる力」をどのように育んでいくかを教育・授業づくりを通して理解していく。その際、指導の根底にある学習指導要領、またそれを支える教育理論、授業に反映させなければならない子どもたちの現状等の理解も合わせて図っていく。

内 容

- 第1回 教師の力量
 - 第2回 学習指導要領について
 - 第3回 特色のある教育活動
 - 第4回 学校教育づくり
 - 第5回 論作文②
 - 第6回 学習指導について
 - 第7回 学校教育目標・授業評価
 - 第8回 指導案作成①
 - 第9回 指導案作成③
 - 第10回 生徒指導①
 - 第11回 生徒指導②
 - 第12回 特別活動
 - 第13回 教育時事①
 - 第14回 教育時事③
 - 第15回 教職の重点
-

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを見ておくことや、新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育月刊誌などを読むようにする。

教科書

小学校指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年：

ISBN：

小学校指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

生徒指導提要

著者： 文部科学省

出版社： 教育図書

出版年：

ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）

小テスト（なし）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職教養講座Ⅳ〈中等〉

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

教育サイクル(PDCA)の理解と「指導と評価の一体化」について

獲得目標

学校の教育活動は、PDCAという教育サイクルがスパイラルに繰り返されながら、生徒のよりよい成長を願った指導が展開される。授業は、生徒の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針や授業時間数、各教科等の目標・内容等を計画的に実施されることについて理解する。また、各教科等の内容・目標等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける。

授業の内容

各教科等の目標・内容等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける

内 容

- 第9回 学習指導計画案作成②
- 第10回 授業中の大切なことについて
- 第11回 学習指導計画案作成③
- 第12回 授業の評価と授業の改善(指導と評価の一体化)
- 第13回 中教審(報告)から評価規準作成の参考資料
- 第14回 教育評価の基本的用語
- 第15回 目標に準拠した評価について
- 第1回 オリエンテーション、本授業の構成要素等について
- 第2回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編①
- 第3回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編②
- 第4回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編③
- 第5回 授業づくりについて
- 第6回 授業づくりの必要事項について
- 第7回 学習指導計画案作成①
- 第8回 授業設計について

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

教科書

(中等)中・高等学校学習指導要領専門教科の解説編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

授業における課題のレポート, 授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化財 I <Z>

担当者 仲田 順和

テーマ

京都の文化財を現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。

獲得目標

文化がどのように伝承されたかを学び、将来に伝えていく方策を考える。

授業の内容

この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学术交流協定に基づく授業である。現代に伝わる様々な文化をそれぞれの専門家が担当して講義する。さらに醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。各回毎に専門の担当者が授業を行うリレー形式で行われる。

内 容

- 第1回 京都に残る有形文化財がどのように伝えられてきたか、さらに将来への保存に向けてどのような方法が取られているか、具体例を上げて講義する。
- 第2回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に) <その1>
- 第3回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に) <その2>
- 第4回 文化財にふれる(醍醐寺霊宝館見学・学外授業)
- 第5回 醍醐寺所蔵の文化財について <その1>
- 第6回 醍醐寺所蔵の文化財について <その2>
- 第7回 現代に生きる山岳信仰 <その1>
- 第8回 現代に生きる山岳信仰 <その2>
- 第9回 信仰行事にふれる(柴灯護摩見学・学外授業)
- 第10回 日本人の生活の中に生きる仏教
- 第11回 日本人の根底に流れる仏教の影響
- 第12回 桃山文化にふれる(醍醐寺三宝院見学・学外授業)
- 第13回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に) <その1>
- 第14回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に) <その2>
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

積極的に街に残る行事に参加あるいは見学すること

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ajg1016110

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I <a>**

担当者 松本 広美

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)
 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：

ISBN：

話しことば検定 2級問題集

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（10）

参加度（30）

小テスト（50）

授業中発表等（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I **

担当者 松本 広美

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)
 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：

ISBN：

話しことば検定 2級問題集

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（10）

参加度（30）

小テスト（50）

授業中発表等（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I <c>**

担当者 吉田 真知子

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)
 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

話しことば検定 2級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I <d>**

担当者 吉田 真知子

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
- 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
- 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
- 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
- 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
- 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
- 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
- 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
- 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
- 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
- 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
- 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)
- 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
- 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
- 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：

ISBN：

話しことば検定 2級問題集

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（10）

参加度（30）

小テスト（50）

授業中発表等（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I <e>**

担当者 松岡 とお子

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)
 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

話しことば検定 2級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I <f>**

担当者 松岡 とお子

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)
 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年:

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：

ISBN：

話しことば検定 2級問題集

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（10）

参加度（30）

小テスト（50）

授業中発表等（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本事情 I**

担当者 取屋 淳子

テーマ

日本の文化や生活習慣・季節の行事などを通して、それらの背景にある日本人の考え方などを探る。

獲得目標

それぞれの習慣や行事などは、日本人の歩んできた歴史や考え方や密接に関係している。この講義では、言葉にも焦点を当て、文化から出てきた独特な慣用語なども学んでいく。自国との相違点や共通点を発見し、自分なりの意見を言えるようにする。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(自己紹介)、日本人と桜
 - 第2回 年中行事①
 - 第3回 年中行事②
 - 第4回 「色」について
 - 第5回 着物について
 - 第6回 日本料理
 - 第7回 日本の伝統的な遊び
 - 第8回 日本人の宗教観(寺・神社)
 - 第9回 関西弁
 - 第10回 日本の童謡・歌
 - 第11回 日本の教育
 - 第12回 日本の祭り
 - 第13回 発表 & ディスカッション①
 - 第14回 発表 & ディスカッション②
 - 第15回 発表 & ディスカッション③
-

授業以外での学習方法

日本の生活や習慣、行事などへの積極的な参加を望む。

教科書

プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

aks401d510

試験 (0)
授業中課題 (30)
参加度 (50)

小テスト (0)
授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本事情Ⅲ**

担当者 取屋 淳子

テーマ

日本のポップカルチャー(特に日本アニメやマンガ)から見た日本の文化や習慣

獲得目標

アニメやマンガを題材にして、内容やセリフだけではなく、その中に隠されているメッセージや日本独特の文化や習慣などを探っていく。一つの作品をさまざまな視点から見ることで、日本という国を見ていく。

授業の内容

日本アニメを代表するジブリ作品(マンガなども)を中心に、毎回テーマを決めて、内容やセリフなどから分かる日本文化を見ていく。一つの作品を平均3回の講義で観て、詳しく内容を分析し、そこから分かる日本人の考え方や感想などをクラスで発表したり、レポートにまとめていく。日本アニメやマンガの歴史なども紹介し、日本がなぜ「アニメ・マンガ大国」となりえたのか、といった背景にあるものにも言及していく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 日本のマンガ・アニメの歴史①
 - 第3回 日本のマンガ・アニメの歴史②
 - 第4回 ジブリ作品①
 - 第5回 ジブリ作品①
 - 第6回 ジブリ作品①
 - 第7回 ジブリ作品②
 - 第8回 ジブリ作品②
 - 第9回 ジブリ作品②
 - 第10回 ジブリ作品③
 - 第11回 ジブリ作品③
 - 第12回 ジブリ作品③
 - 第13回 作品を通してみる日本とは①
 - 第14回 作品を通してみる日本とは②
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

たくさんのアニメやマンガに触れ、さまざまな視点から詳しく観て、自分なりの考察を加える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本文化演習 I**

担当者 佐野 裕子

テーマ

日本の文化について関心と理解を深める。

獲得目標

日本の文化・習慣や関西地域に関する知識と理解を深めるとともに、日本語の「読む・聞く・書く・話す」を用いて自分の得た知識や考えを他者に伝える力を伸ばす。

授業の内容

学生たちのディスカッションや質疑応答を中心として、日本の文化・習慣や関西地域に関する知識と理解を深める。

内 容

- 第1回 授業内容説明(日本のマナー／プロジェクトワーク)／日本のマナーに関するディスカッション
- 第2回 日本でのマナー①<ディスカッションと発表>
- 第3回 日本でのマナー②<ディスカッションと発表>
- 第4回 日本でのマナー③<ディスカッションと発表>
- 第5回 日本でのマナーまとめ
- 第6回 プロジェクトワーク:グループ分けとテーマ・内容決定<会話>
- 第7回 プロジェクトワーク:グループ内での調査内容の発表と質疑応答<会話>
- 第8回 プロジェクトワーク:中間発表準備(原稿作り)<会話と作文>
- 第9回 プロジェクトワーク:パワーポイント使用の中間発表<発表と質疑応答>
- 第10回 プロジェクトワーク:内容訂正と最終発表準備(原稿作り)<会話と作文>
- 第11回 プロジェクトワーク:パワーポイント使用の最終発表<発表と質疑応答>
- 第12回 プロジェクトワーク:ガイドブック作成<作文>
- 第13回 プロジェクトワーク:ガイドブック作成<作文>
- 第14回 プロジェクトワークのまとめ
- 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

授業で扱う内容について、各自が自身の言語で下調べや予習を行うことが望ましい。また、内容によっては自身が実際に体験したり見学に行くことも推奨する。

教科書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

3分の1以上の欠席をした者は、成績評価の対象とならない。また、剽窃やコピーアンドペーストを行った者には「C」以上の評価を付けることはない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門 <a>

担当者 河原 宣子・北林 利治・阪本 崇南 直人・横山 茂樹

テーマ

市民や社会人として生きていくために、大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。地域社会と大学および大学生の役割について考える。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)市民や社会人として地域社会で生きるとは(4/14)
 - 第3回 外部講師による講演(2)地域社会と大学・大学生の役割(4/21)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門

担当者 河原 宣子・北林 利治・阪本 崇南 直人・横山 茂樹

テーマ

市民や社会人として生きていくために、大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。地域社会と大学および大学生の役割について考える。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)市民や社会人として地域社会で生きるとは(4/14)
 - 第3回 外部講師による講演(2)地域社会と大学・大学生の役割(4/21)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門 <c>

担当者 河原 宣子・北林 利治・阪本 崇南 直人・横山 茂樹

テーマ

市民や社会人として生きていくために、大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。地域社会と大学および大学生の役割について考える。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)市民や社会人として地域社会で生きるとは(4/14)
 - 第3回 外部講師による講演(2)地域社会と大学・大学生の役割(4/21)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門 <d>

担当者 河原 宣子・北林 利治・阪本 崇南 直人・横山 茂樹

テーマ

市民や社会人として生きていくために、大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。地域社会と大学および大学生の役割について考える。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)市民や社会人として地域社会で生きるとは(4/14)
 - 第3回 外部講師による講演(2)地域社会と大学・大学生の役割(4/21)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門 <Ga>

担当者 アンガス ノーマン 橋本 章彦 矢嶋 光

テーマ

グローバル化する日本で必要とされる教養とは何か？

獲得目標

グローバル化が進行する現在の日本にあって求められる教養とは何かという観点から必要とされる知識の習得を旨とする

授業の内容

グローバル化が急速に進行する現在の社会にあって求められる知識や教養を習得する。比較文化、政治経済、歴史認識という3つの領域から三人の教員によるオムニバス形式で授業を展開する

内 容

- 第1回 全体の説明
 - 第2回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(1)
 - 第3回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(2)
 - 第4回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(3)
 - 第5回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(4)
 - 第6回 グローバル化する日本の政治経済(1)
 - 第7回 グローバル化する日本の政治経済(2)
 - 第8回 グローバル化する日本の政治経済(3)
 - 第9回 グローバル化する日本の政治経済(4)
 - 第10回 グローバル化する日本の政治経済(5)
 - 第11回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(1)
 - 第12回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(2)
 - 第13回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(3)
 - 第14回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(4)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業内で教員が指示する

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門 <e>

担当者 河原 宣子・北林 利治・阪本 崇南 直人・横山 茂樹

テーマ

市民や社会人として生きていくために、大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。地域社会と大学および大学生の役割について考える。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)市民や社会人として地域社会で生きるとは(4/14)
 - 第3回 外部講師による講演(2)地域社会と大学・大学生の役割(4/21)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門〈f〉

担当者 河原 宣子・北林 利治・阪本 崇南 直人・横山 茂樹

テーマ

市民や社会人として生きていくために、大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。地域社会と大学および大学生の役割について考える。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第9回 人間と文化(3)
- 第10回 人間と社会(1)
- 第11回 人間と社会(2)
- 第12回 人間と社会(3)
- 第13回 人間と自然(1)
- 第14回 人間と自然(2)
- 第15回 人間と自然(3)
- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
- 第2回 外部講師による講演(1)市民や社会人として地域社会で生きるとは(4/14)
- 第3回 外部講師による講演(2)地域社会と大学・大学生の役割(4/21)
- 第4回 人間と知の伝達(1)
- 第5回 人間と知の伝達(2)
- 第6回 人間と知の伝達(3)
- 第7回 人間と文化(1)
- 第8回 人間と文化(2)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門 <g>

担当者 河原 宣子・北林 利治・阪本 崇南 直人・横山 茂樹

テーマ

市民や社会人として生きていくために、大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。地域社会と大学および大学生の役割について考える。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)市民や社会人として地域社会で生きるとは(4/14)
 - 第3回 外部講師による講演(2)地域社会と大学・大学生の役割(4/21)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門 <h>

担当者 河原 宣子・北林 利治・阪本 崇南 直人・横山 茂樹

テーマ

市民や社会人として生きていくために、大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。地域社会と大学および大学生の役割について考える。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)市民や社会人として地域社会で生きるとは(4/14)
 - 第3回 外部講師による講演(2)地域社会と大学・大学生の役割(4/21)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門 <Gb>

担当者 アンガス ノーマン 橋本 章彦 矢嶋 光

テーマ

グローバル化する日本で必要とされる教養とは何か？

獲得目標

グローバル化が進行する現在の日本にあって求められる教養とは何かという観点から必要とされる知識の習得を旨とする

授業の内容

グローバル化が急速に進行する現在の社会にあって求められる知識や教養を習得する。比較文化、政治経済、歴史認識という3つの領域から三人の教員によるオムニバス形式で授業を展開する

内 容

- 第1回 全体の説明
 - 第2回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(1)
 - 第3回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(2)
 - 第4回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(3)
 - 第5回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(4)
 - 第6回 グローバル化する日本の政治経済(1)
 - 第7回 グローバル化する日本の政治経済(2)
 - 第8回 グローバル化する日本の政治経済(3)
 - 第9回 グローバル化する日本の政治経済(4)
 - 第10回 グローバル化する日本の政治経済(5)
 - 第11回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(1)
 - 第12回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(2)
 - 第13回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(3)
 - 第14回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(4)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業内で教員が指示する

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門 <Gc>

担当者 アンガス ノーマン 橋本 章彦 矢嶋 光

テーマ

グローバル化する日本で必要とされる教養とは何か？

獲得目標

グローバル化が進行する現在の日本にあって求められる教養とは何かという観点から必要とされる知識の習得を目指す

授業の内容

グローバル化が急速に進行する現在の社会にあって求められる知識や教養を習得する。比較文化、政治経済、歴史認識という3つの領域から三人の教員によるオムニバス形式で授業を展開する

内 容

- 第1回 全体の説明
 - 第2回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(1)
 - 第3回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(2)
 - 第4回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(3)
 - 第5回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(4)
 - 第6回 グローバル化する日本の政治経済(1)
 - 第7回 グローバル化する日本の政治経済(2)
 - 第8回 グローバル化する日本の政治経済(3)
 - 第9回 グローバル化する日本の政治経済(4)
 - 第10回 グローバル化する日本の政治経済(5)
 - 第11回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(1)
 - 第12回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(2)
 - 第13回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(3)
 - 第14回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(4)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業内で教員が指示する

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門 <Gd>

担当者 アンガス ノーマン 橋本 章彦 矢嶋 光

テーマ

グローバル化する日本で必要とされる教養とは何か？

獲得目標

グローバル化が進行する現在の日本にあって求められる教養とは何かという観点から必要とされる知識の習得を旨とする

授業の内容

グローバル化が急速に進行する現在の社会にあって求められる知識や教養を習得する。比較文化、政治経済、歴史認識という3つの領域から三人の教員によるオムニバス形式で授業を展開する

内 容

- 第1回 全体の説明
 - 第2回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(1)
 - 第3回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(2)
 - 第4回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(3)
 - 第5回 国際感覚を養おう 比較文化論序説(4)
 - 第6回 グローバル化する日本の政治経済(1)
 - 第7回 グローバル化する日本の政治経済(2)
 - 第8回 グローバル化する日本の政治経済(3)
 - 第9回 グローバル化する日本の政治経済(4)
 - 第10回 グローバル化する日本の政治経済(5)
 - 第11回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(1)
 - 第12回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(2)
 - 第13回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(3)
 - 第14回 日本人とアジア—現代日本の歴史認識(4)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業内で教員が指示する

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報社会論 <a>

担当者 三輪 幸一

テーマ

IT社会におけるエンドユーザとしての基礎知識

獲得目標

経営戦略, システム企画, マネジメント, ハードウェア, ネットワーク, 情報セキュリティ, 著作権, 情報分析などの手法に関する基礎知識を修得すること

授業の内容

IT技術の進展した高度情報化社会に対処していく上で、経営戦略、システム企画、マネジメント、ハードウェアやネットワークのしくみに関する基礎的な知識は不可欠となっています。また個人情報の漏洩やコンピュータウイルスなどの脅威にさらされており、情報セキュリティに関する知識も不可欠となっています。これらについて概説するとともに、国家資格である情報処理技術者試験のITパスポート試験レベルを視野に入れた情報技術の基礎知識や情報分析の手法についても概説します。講義内容の理解を深めるため、ほぼ毎回授業の最後に小テスト形式での課題の提出が必要です。

内 容

- 第1回 経営管理と組織論 業務の把握と分析手法
- 第2回 経営戦略の手法
- 第3回 システム戦略とシステム企画 I
- 第4回 システム戦略とシステム企画 II
- 第5回 プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント
- 第6回 コンピュータシステム I ・コンピュータの構成要素(メモリ, CPU, バスシステムなど)
- 第7回 コンピュータシステム II ・コンピュータの構成要素(補助記憶装置, 入出力インタフェースなど)
- 第8回 コンピュータシステム III ・ソフトウェアシステム(OS, ファイルシステムなど)
- 第9回 ネットワークの構成としくみ I ・IPアドレスとネットワークのしくみ
- 第10回 ネットワークの構成としくみ II ・ネットワークのプロトコルやネットワーク構成に必要なサーバなど
- 第11回 ホームページやソフトウェアの著作権 コンピュータウイルスの種類と対策
- 第12回 情報セキュリティ・アクセス権, 認証, 暗号化, デジタル署名, メッセージ認証・ネットワークのセキュリティ対策・情報漏えい対策(フィッシング対策, スパイウェア対策など)
- 第13回 情報分析の手法 I (決定表とDFDによる分析)
- 第14回 情報分析の手法 II (E-R図による分析)
- 第15回 情報分析の手法 III (ポートフォリオ図による分析, SWOT分析) 情報分析の手法 IV アローダイアグラムによる日程計画

授業以外での学習方法

ITパスポート試験を受験する場合は、テキストのITパスポート試験の参考書を完全に精読し理解しておく必要があります。また70%は過去問から同様な問題が出題されるので過去問題集により傾向把握し問題練習するのが効果的です。

教科書

授業中にレジュメや小テスト形式の課題のプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ITパスポート スーパー合格本(CBT対応)

著者: 三輪幸市(ペンネーム)

出版社: 秀和システム

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

授業中の小テスト形式の課題による平常点評価のウエイトが高いので(80%)、やむを得ぬ理由があり授業に欠席した場合は、申し出て小テスト形式の課題を受取り、指定の提出期限までに課題を提出するようにして下さい。

参考URL

ITパスポート試験の過去問解説

http://www7b.biglobe.ne.jp/~a0mediac/index_k.htm

ITパスポート試験の過去問を分野別に解説している携帯用サイトの紹介(私のWEBサイトからQRコードで

2014 Syllabus

科目名 **情報社会論 **

担当者 三輪 幸一

テーマ

IT社会におけるエンドユーザとしての基礎知識

獲得目標

経営戦略, システム企画, マネジメント, ハードウェア, ネットワーク, 情報セキュリティ, 著作権, 情報分析などの手法に関する基礎知識を修得すること

授業の内容

IT技術の進展した高度情報化社会に対処していく上で、経営戦略、システム企画、マネジメント、ハードウェアやネットワークのしくみに関する基礎的な知識は不可欠となっています。また個人情報の漏洩やコンピュータウイルスなどの脅威にさらされており、情報セキュリティに関する知識も不可欠となっています。これらについて概説するとともに、国家資格である情報処理技術者試験のITパスポート試験レベルを視野に入れた情報技術の基礎知識や情報分析の手法についても概説します。講義内容の理解を深めるため、ほぼ毎回授業の最後に小テスト形式での課題の提出が必要です。

内 容

- 第1回 経営管理と組織論 業務の把握と分析手法
- 第2回 経営戦略の手法
- 第3回 システム戦略とシステム企画 I
- 第4回 システム戦略とシステム企画 II
- 第5回 プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント
- 第6回 コンピュータシステム I ・コンピュータの構成要素(メモリ, CPU, バスシステムなど)
- 第7回 コンピュータシステム II ・コンピュータの構成要素(補助記憶装置, 入出力インタフェースなど)
- 第8回 コンピュータシステム III ・ソフトウェアシステム(OS, ファイルシステムなど)
- 第9回 ネットワークの構成としくみ I ・IPアドレスとネットワークのしくみ
- 第10回 ネットワークの構成としくみ II ・ネットワークのプロトコルやネットワーク構成に必要なサーバなど
- 第11回 ホームページやソフトウェアの著作権 コンピュータウイルスの種類と対策
- 第12回 情報セキュリティ・アクセス権, 認証, 暗号化, デジタル署名, メッセージ認証・ネットワークのセキュリティ対策・情報漏えい対策(フィッシング対策, スパイウェア対策など)
- 第13回 情報分析の手法 I (決定表とDFDによる分析)
- 第14回 情報分析の手法 II (E-R図による分析)
- 第15回 情報分析の手法 III (ポートフォリオ図による分析, SWOT分析) 情報分析の手法 IV アローダイアグラムによる日程計画

授業以外での学習方法

ITパスポート試験を受験する場合は、テキストのITパスポート試験の参考書を完全に精読し理解しておく必要があります。また70%は過去問から同様な問題が出題されるので過去問題集により傾向把握し問題練習するのが効果的です。

教科書

授業中にレジュメや小テスト形式の課題のプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ITパスポート スーパー合格本(CBT対応)

著者: 三輪幸市(ペンネーム)

出版社: 秀和システム

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

授業中の小テスト形式の課題による平常点評価のウエイトが高いので(80%)、やむを得ぬ理由があり授業に欠席した場合は、申し出て小テスト形式の課題を受取り、指定の提出期限までに課題を提出するようにして下さい。

参考URL

ITパスポート試験の過去問解説

http://www7b.biglobe.ne.jp/~a0mediac/index_k.htm

ITパスポート試験の過去問を分野別に解説している携帯用サイトの紹介 (私のWEBサイトからQRコード)

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Aa>

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イン트로ダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ab>

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ac>

担当者 土井 一弘

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ad>

担当者

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **数学演習 I <Ae>**

担当者 奥田 久美子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Af>

担当者 木原 雅子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **数学演習 I <Ag>**

担当者 関 浩成

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ba>

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橋のポートフォリオ

著者: 京都橋大学

出版社: 京都橋大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **数学演習 I <Bb>**

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イン트로ダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bc>

担当者 土井 一弘

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bd>

担当者 池本 浩章

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Be>

担当者 奥田 久美子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bf>

担当者 木原 雅子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bg>

担当者 関 浩成

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <a>

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **数学演習 I **

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ah>

担当者 宮崎 孝史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bh>

担当者 宮崎 孝史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 V

担当者 三輪 幸一

テーマ

アニメーションを主としたプログラミング入門

獲得目標

JavaScriptやFlashアニメーションの初歩的なプログラミングができることを目指す

授業の内容

ホームページでの動的なアニメーション表現やデータ処理などにJavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラムが使われています。JavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラミングは、現在のWeb技術には欠くことのできない技術になっています。WebデザイナーやWebプログラマの基礎技術にもなっています。画像や図形のアニメーションを主としたJavaScriptやFlashアニメーションのプログラミングを通してプログラミングの初歩とプログラミングの基本的な処理パターンを修得します。初めてプログラミングを学ぶ人のために、実習を通して易しくプログラミングを修得します。授業では「プログラミングによるアニメーションの初歩と表現の可能性」を追究しながら授業をすすめていきます。1. JavaScriptによるプログラミング入門(第1～11回) 画像や図形のアニメーションを主としたプログラムの作成を通して、ループ処理や分岐処理、マウスによるイベント処理などのプログラミングの基本的な処理パターンを修得します。2. FlashのActionScriptによるアニメーションプログラミング入門(第12～15回) ActionScriptはFlashアニメーションのプログラムの作成を支援するツールで、プログラムの作成が初心者でも比較的容易になります。これを用いて、初歩的なプログラミング技術を修得します。ActionScriptにより高度なFlashアニメーションの作成技術が修得できますので、情報処理演習VIの受講者も引続き受講されることを推奨します。

内 容

- 第1回 JavaScriptの準備 (HTMLの基礎)
- 第2回 画像の配置とJavaScriptでプログラミングを行うための基礎知識
- 第3回 ボタンクリックで背景色が変わるプログラム キャラクタの画像の移動を制御するアニメーションのプログラム
- 第4回 キャラクタの画像がボタンクリックにより上下左右にアニメーションするプログラム
- 第5回 複数の画像が画面遷移しながら切替わり表示されるプログラム
- 第6回 ボタンクリックで複数の画像が画面遷移しながら切替わり表示されるプログラム
- 第7回 配列とfor文やwhile文によるループ処理
- 第8回 for文による二重ループ処理
- 第9回 飛行機が左下から右上へ拡大しながら上昇するアニメーションのプログラム 雪が降る情景のアニメーションのプログラム
- 第10回 桜が散る情景のアニメーションのプログラム トトロと風船がふんわりと上昇するアニメーションのプログラム
- 第11回 アニメーションのプログラムを改造・組み合わせて作成するプログラム
- 第12回 ActionScriptによるFlashアニメーションの基礎・トトロがマウスの動きに追従するアニメーション・透明度とサイズをランダムに変えながら明滅するロゴアニメーション
- 第13回 キャラクタの画像がステージの両端でリターンするアニメーション ボタンクリックで移動を開始または停止するアニメーション
- 第14回 当たり判定により命中すると爆発する宇宙船のゲームプログラミング
- 第15回 HTML5を利用したアニメーションのプログラミング

授業以外での学習方法

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介します。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（50）

参加度（50）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 比較文化論 <a>

担当者 杉山 泰

テーマ

イギリスから眺めた「日本文化」―「辺境文化」と見ることの妥当性

獲得目標

イギリスに1年間滞在して気づいたことは、イギリスでは今でもカンタベリー大主教を初めとする聖職貴族、法律貴族と750名の世襲貴族による上院(The House of Lords)が存在することだった。また、イギリスには自動販売機が極端に少なく、プレミア首相は、公立学校からコーラの販売(junk food)すら禁止した。日本には天皇が「国民の総意によって」象徴として存在し、イギリスにもエリザベス女王が存在している。しかし、イギリスには、自動販売機はほとんどないし、ましてや酒や煙草の自動販売機は皆無である。タクシーに自動ドアなどないし、百貨店のハロッズの扉も自分で開けないと開かない。そうした違いをpushing cultureだとかpulling culture、widening cultureだとかshortening cultureといった「文化」比較をしながら、日本文化ははたして、特殊な「辺境文化」と言えるのだろうか、という問いに答えていきたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 「比較文化」の常識テスト。八幡神社や稲荷神社の神はなぜ『古事記』『日本書紀』に載っていないのか。世界の国の数は？ では、世界の言語の数は？ 出雲大社ではなぜ4回も拍手を打つ？ まずは、日本文化を知ろう。
- 第2回 active incomeとpassive income(不労所得)を知っているだろうか。英米の人たちはなぜ貯金をしないのか。speculations(投機)とは「沈思黙考」できる人がやる。日本では大学出の賢い人でも、share marketやderivativeに手を出さない。
- 第3回 島国イギリスが、football world cupになぜ4チームも参加できるのか。The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland(U.K.)とは何？
- 第4回 quality of life(生活の質)とは、大阪万博(Expo'70)の英国館のテーマ。Industryになぜ、「勤勉」と「工業」の意味がある？ plant hunterの意味は？
- 第5回 「文化」とは人間が創ったもの。最大の文化は「言語」である。日英語の違いは何だろうか。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」<視点>は？
- 第6回 「主語なし日本語」(subject-free Japanese)を操る日本人の「あいまいさ」は日本文化に影響を及ぼしているのだろうか。「二度と過ちは繰り返させぬから」の主語は？ 「擬態語・擬声語」の文化(ぬるぬる、べとべと、ぷりぷり)。
- 第7回 「詰まらない」文化と「詰まる」文化。弁当箱に詰め、風呂敷に包み、傘でも折りたたんで、「縮んでいく」のが日本文化。ベッドと布団の文化。
- 第8回 「左脳」の文化と「右脳」の文化。漢字や邦楽の音(琴や三味線)を右脳で聞き取る日本人。「しこしこ」のアワビ、「とろとろ」のスープの英訳は？
- 第9回 唯一神のGodと八百万の神の違いは何か？ <みずから>の文化・<おのずから>の文化、key cultureとshoji culture、identity-oriented cultureとgroup-oriented culture
- 第10回 日本の神社からなぜ明治政府は仏教を排除しようとしたのか？ 「廃物毀釈」による、神社の純粋化(イギリス教会のpuritanism化との比較)。文化は<純粋>なのか<雑種>なのか？ <雑種文化論>とは何か？
- 第11回 <純粋文化論>と、<雑種文化論>。<文化相対主義cultural relativism>とは何か？ ニュージーランドのマオリの文化、カナダの先住民文化と日本文化。
- 第12回 「食」の文化。本マグロや鯨は食べてはいけないのか？ 人口問題と食。
- 第13回 「和食」がユネスコの無形文化遺産になったのはなぜ？ <macrobiotics>を知っていますか。世界193か国の伝統的食事を守るのか。人口爆発の21世紀。
- 第14回 slow lifeを楽しむイギリス(大英博物館など無料、300の歴史的建造物と200の庭園もナショナル・トラスト会員は無料、20年働けば日本人でも年金生活者)。
- 第15回 日本にはなぜイギリスやフランスの10分の1の観光客しか来ないのか？ 「恋し、結婚し、母になったこの町で、おばあちゃんになりたい」という京都にどうすればいいのか？ 京都タワーは京都らしくない？ 京都はどんな町。

授業以外での学習方法

図書館で新聞を調べてもらっての宿題を出し、あなたにとっての「日本文化」を<衣食住>から1つずつ探してもらおう。最も美しい京都、最も醜い京都の写真の提出をしよう。

教科書

毎回レジュメを配布する。(授業の最後に簡単な小テストを実施する時がある。)

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

日本語の起源

著者: 大野晋

出版社: 岩波新書

出版年: 1994 ISBN:

世界が認めた和食の知恵 — マクロビオティック物語

著者: 持田鋼一郎

出版社: 新潮新書

出版年: 2005 ISBN:

ルポ貧困大国アメリカ

著者: 堤未果

出版社: 岩波新書

出版年: 2008 ISBN:

日本語教のすすめ

著者: 鈴木孝夫

出版社: 新潮新書

出版年: 2009 ISBN:

オノマトピア — 擬音語大国にっぽん考

著者: 桜井順

出版社: 岩波文庫

出版年: 2010 ISBN:

日本辺境論

著者: 内田樹

出版社: 新潮新書

出版年: 2009 ISBN:

なぜ八幡神社が日本でいちばん多いのか

著者: 島田裕巳

出版社: 幻冬舎新書

出版年: 2013 ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 異文化コミュニケーション論(人文)

担当者 蒲 豊彦

テーマ

東アジアを題材とした異文化理解

獲得目標

諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。

授業の内容

本授業は、コミュニケーションの理論を学ぶのではなく、東アジア、なかでも中国の文化や歴史をおもな題材として、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。

内 容

- 第1回 あんパンはどこから来たのか(あんパン(なかに小豆のアンが入ったパン)を通して、日本の現状を考える。)
- 第2回 貿易の様子(貿易統計の数字を読む。)
- 第3回 日本語を書くということ(「中国由来のもの」を使わずに日本語を書くことができるかどうか、実験する。)
- 第4回 日本に住む外国人、外国に住む日本人
- 第5回 中国の暮らし(スライドを使って、現在の中国を紹介する。)
- 第6回 現在の中国はどのようにできたのか(中国現代史)
- 第7回 江戸時代の日中交流(おもに長崎の中国人社会を取り上げる)
- 第8回 江戸時代の日韓交流(朝鮮通信使をめぐる日韓交流の文人の交流)
- 第9回 東アジアの国々(タイ、ベトナム、ネパールなどの文化と歴史)
- 第10回 東アジアの近代と日本1(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。)
- 第11回 東アジアの近代と日本2
- 第12回 1時間で読めるハンゲル(ハンゲルの仕組みを中心として、韓国語を紹介する)
- 第13回 中国語入門1(中国語の歴史)
- 第14回 中国語入門2(発音と簡単な文法)
- 第15回 おまけー計画言語の夢(平等なコミュニケーションを目指して開発されたEsperantoやIdo等を通して、言語の問題を考える。)

授業以外での学習方法

授業に関連した各種の簡単な調査を宿題とする。

教科書

その都度、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

その都度、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 芸術と文化 <c>

担当者 山本 善則

テーマ

芸術を知ることによって文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

獲得目標

さまざまな分野の芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の内容

授業では各分野の芸術を映像、楽器、資料を参考にしながら実際に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出してもらいます。

内 容

- 第1回 サウンドスケープとは？
 - 第2回 笑いと芸術
 - 第3回 香りと芸術
 - 第4回 全ての芸術の本質とは？
 - 第5回 情報化と芸術評価
 - 第6回 自然性と芸術の関係
 - 第7回 健康と芸術
 - 第8回 五感で捉える芸術
 - 第9回 音楽と芸術
 - 第10回 表現者と聴衆
 - 第11回 芸術の心理的効果とその実験
 - 第12回 ミュージカルとオペラ
 - 第13回 夢(右脳の活動)と芸術
 - 第14回 器と芸術
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業での学習をもとに、自主的に芸術に触れ、日常にその機会を増やしてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

aky401d413

毎回の出席、授業での提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 中国語Ⅲ

担当者 トウ カ

テーマ

中国語中級

獲得目標

中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。

授業の内容

4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭で受け答えの練習を行いたい。プリントを使用するため、教科書を購入する必要はない。

内 容

- 第1回 発音の復習
 - 第2回 第1課 中国の朝ご飯
 - 第3回 会話(助動詞、方向補語等)
 - 第4回 短文
 - 第5回 練習
 - 第6回 第2課 服装
 - 第7回 会話(助動詞、兼語文等)
 - 第8回 短文
 - 第9回 練習
 - 第10回 第1課～2課の復習
 - 第11回 第3課 映画を見る
 - 第12回 会話(完了、比較等)
 - 第13回 短文
 - 第14回 練習
 - 第15回 第4課 割り勘
 - 第16回 会話(受け身、比較等)
 - 第17回 短文
 - 第18回 練習
 - 第19回 第3課～4課の復習
 - 第20回 第5課 病気になる
 - 第21回 会話(状態の持続等)
 - 第22回 短文
 - 第23回 練習
 - 第24回 第6課 携帯電話
 - 第25回 会話(～しながら等)
 - 第26回 短文
 - 第27回 練習
 - 第28回 第5課～6課の復習
 - 第29回 小テストの再テスト
 - 第30回 全体の復習
-

授業以外での学習方法

単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

小テストを行います。この小テストが成績評価の中心となります。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **韓国語 I <a>**

担当者 朴 惠貞

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

獲得目標

①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得 ②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。 ③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の内容

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているため検定対策もできる。

内 容

- 第1回 授業の進め方について 韓国語とは？
- 第2回 子音字と母音字<1>-1
- 第3回 子音字と母音字<1>-2
- 第4回 子音字と母音字<2>-1
- 第5回 子音字と母音字<2>-2
- 第6回 子音字と母音字<3>-1
- 第7回 子音字と母音字<3>-2
- 第8回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ①
- 第9回 パッチム1
- 第10回 パッチム2
- 第11回 日本の地名・人名のハングル表記
- 第12回 指定詞の表現
- 第13回 実践会話と検定対策 1
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ②
- 第15回 指定詞・疑問詞の表現
- 第16回 指示詞の否定の表現
- 第17回 漢数詞
- 第18回 月日・曜日の表現
- 第19回 存在詞・位置の表現
- 第20回 実践会話と検定対策 2
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ③
- 第22回 用言の「ハムニダ体」の表現
- 第23回 助詞
- 第24回 好き嫌いの表現
- 第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現
- 第26回 固有数詞
- 第27回 実践会話と検定対策 3
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ④
- 第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聞くこと。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

教科書

サクサクっと韓国語

著者： 金美華

出版社： 白帝社

出版年：

ISBN：

*テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

適宜、資料配布

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **韓国語 I **

担当者 朴 惠貞

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

獲得目標

①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得 ②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。 ③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の内容

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているため検定対策もできる。

内 容

- 第1回 授業の進め方について 韓国語とは？
- 第2回 子音字と母音字<1>-1
- 第3回 子音字と母音字<1>-2
- 第4回 子音字と母音字<2>-1
- 第5回 子音字と母音字<2>-2
- 第6回 子音字と母音字<3>-1
- 第7回 子音字と母音字<3>-2
- 第8回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ①
- 第9回 パッチム1
- 第10回 パッチム2
- 第11回 日本の地名・人名のハングル表記
- 第12回 指定詞の表現
- 第13回 実践会話と検定対策 1
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ②
- 第15回 指定詞・疑問詞の表現
- 第16回 指示詞の否定の表現
- 第17回 漢数詞
- 第18回 月日・曜日の表現
- 第19回 存在詞・位置の表現
- 第20回 実践会話と検定対策 2
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ③
- 第22回 用言の「ハムニダ体」の表現
- 第23回 助詞
- 第24回 好き嫌いの表現
- 第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現
- 第26回 固有数詞
- 第27回 実践会話と検定対策 3
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ④
- 第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聞くこと。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

教科書

サクサクっと韓国語

著者： 金美華

出版社： 白帝社

出版年：

ISBN：

*テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **韓国語 I <c>**

担当者 崔 孝先

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

獲得目標

①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得 ②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。 ③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の内容

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているため検定対策もできる。

内 容

- 第1回 授業の進め方について 韓国語とは？
- 第2回 子音字と母音字<1>-1
- 第3回 子音字と母音字<1>-2
- 第4回 子音字と母音字<2>-1
- 第5回 子音字と母音字<2>-2
- 第6回 子音字と母音字<3>-1
- 第7回 子音字と母音字<3>-2
- 第8回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ①
- 第9回 パッチム1
- 第10回 パッチム2
- 第11回 日本の地名・人名のハングル表記
- 第12回 指定詞の表現
- 第13回 実践会話と検定対策 1
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ②
- 第15回 指定詞・疑問詞の表現
- 第16回 指示詞の否定の表現
- 第17回 漢数詞
- 第18回 月日・曜日の表現
- 第19回 存在詞・位置の表現
- 第20回 実践会話と検定対策 2
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ③
- 第22回 用言の「ハムニダ体」の表現
- 第23回 助詞
- 第24回 好き嫌いの表現
- 第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現
- 第26回 固有数詞
- 第27回 実践会話と検定対策 3
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ④
- 第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聞くこと。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

教科書

サクサクっと韓国語

著者： 金美華

出版社： 白帝社

出版年：

ISBN：

*テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

適宜、資料配布

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 韓国語 I <d>

担当者 崔 孝先

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

獲得目標

①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得 ②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。 ③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の内容

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているため検定対策もできる。

内 容

- 第1回 授業の進め方について 韓国語とは？
- 第2回 子音字と母音字<1>-1
- 第3回 子音字と母音字<1>-2
- 第4回 子音字と母音字<2>-1
- 第5回 子音字と母音字<2>-2
- 第6回 子音字と母音字<3>-1
- 第7回 子音字と母音字<3>-2
- 第8回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ①
- 第9回 パッチム1
- 第10回 パッチム2
- 第11回 日本の地名・人名のハングル表記
- 第12回 指定詞の表現
- 第13回 実践会話と検定対策 1
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ②
- 第15回 指定詞・疑問詞の表現
- 第16回 指示詞の否定の表現
- 第17回 漢数詞
- 第18回 月日・曜日の表現
- 第19回 存在詞・位置の表現
- 第20回 実践会話と検定対策 2
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ③
- 第22回 用言の「ハムニダ体」の表現
- 第23回 助詞
- 第24回 好き嫌いの表現
- 第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現
- 第26回 固有数詞
- 第27回 実践会話と検定対策 3
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ④
- 第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聞くこと。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

教科書

サクサクっと韓国語

著者： 金美華

出版社： 白帝社

出版年：

ISBN：

*テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **韓国語Ⅲ**

担当者 朴 惠貞

テーマ

韓国語の習熟

獲得目標

①韓国語会話能力(自己意思表示が可能なレベル)及び読解能力の向上を目指す。②ハングル能力検定試験4級レベルの力をつけるための基礎を学ぶ。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅰ、Ⅱ」クラスで学んだ文法事項を復習しながら新しい文法項目などを体系的に積み上げていく。その際には、DVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。

内 容

- 第1回 授業の進め方について お互いのことを知ろう！
- 第2回 指定詞の「ハムニダ体」の表現 指定詞の「ハムニダ体」の否定表現
- 第3回 用言の「ハムニダ体」の表現 用言の「ハムニダ体」の否定表現
- 第4回 存在詞の「ハムニダ体」の表現、疑問詞の表現
- 第5回 読んでみよう！①
- 第6回 指示、所有、位置表現
- 第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！①
- 第8回 用言の「ヘヨ体」の表現①
- 第9回 用言の「ヘヨ体」の表現②
- 第10回 用言の「ヘヨ体」の否定表現
- 第11回 指定詞、存在詞の「ハムニダ体」の過去形の表現
- 第12回 用言の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形の表現
- 第13回 用言の変則活用形の表現①、文法①
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！②
- 第15回 指定詞の「ヘヨ体」の表現と否定表現、文法②
- 第16回 読んでみよう！②
- 第17回 漢数詞の応用、文法③
- 第18回 固有数詞の応用
- 第19回 用言の変則活用形の表現②、文法④
- 第20回 理由・原因・丁寧なお願い・勧誘表現
- 第21回 願望・目的・逆説表現、文法⑤
- 第22回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！③
- 第23回 注文してみよう！尊敬表現・特殊な尊敬語の表現
- 第24回 推量・推測・比較・感嘆表現
- 第25回 読んでみよう！③
- 第26回 尊敬表現の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形 禁止表現
- 第27回 病気の症状を説明してみよう！提案・順序表現
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！④
- 第29回 「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ①
- 第30回 「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ②

授業以外での学習方法

1. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。2. 韓国の新聞・雑誌などを積極的に読むこと。3. 辞書を用いて作文をしてみる

教科書

キャンパス韓国語

著者： 曹美庚その他

出版社： 白帝社

出版年： ISBN：

* 適宜、資料配布

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

参考書

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』の他

著者： 油谷幸利その他編

出版社： 小学館

出版年： ISBN：

成績評価

試験（20）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 フランス語 I

担当者 志賀 亮一

テーマ

フランス語の基礎(その1)

獲得目標

フランス語文法の重要な規則のうち、もっとも基本的な項目を学び、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

授業の内容

「講義による説明 → 音声と筆記による反復練習 → 練習問題＋小テスト」というサイクルで、ひとつ一つの項目を着実に学ぶ。なお、音声による反復練習の際には、クラス全員に聞こえるようしっかり発声することが望まれる。

内 容

- 第1回 講義「フランス語とはどんな言語か？」＋授業の進め方
- 第2回 フランス語のアルファベット：文字の呼び方と筆記体
- 第3回 発音記号と発音の仕方①：母音
- 第4回 発音記号と発音の仕方②：鼻母音と子音
- 第5回 名詞の変化：性と数
- 第6回 不定冠詞の変化①
- 第7回 不定冠詞の変化②・練習問題＋小テスト
- 第8回 定冠詞の変化①
- 第9回 定冠詞の変化②・練習問題＋小テスト
- 第10回 品質形容詞の変化①
- 第11回 品質形容詞の変化②・練習問題＋小テストリーダー
- 第12回 不規則動詞 *etre* の直説法現在①
- 第13回 不規則動詞 *etre* の直説法現在②・疑問文と否定文
- 第14回 不規則動詞 *etre* の直説法現在③・練習問題＋小テスト
- 第15回 第1章リーダー不規則動詞 *avoir* の直説法現在①
- 第16回 不規則動詞 *avoir* の直説法現在②・練習問題＋小テスト
- 第17回 第一群規則動詞の直説法現在①
- 第18回 第一群規則動詞の直説法現在②・練習問題＋小テスト
- 第19回 第2章リーダー＋基数形容詞
- 第20回 指示形容詞の変化①
- 第21回 指示形容詞の変化②・練習問題＋小テスト
- 第22回 所有形容詞の変化①
- 第23回 所有形容詞の変化②・練習問題＋小テスト
- 第24回 不規則動詞 *pouvoir* の直説法現在①
- 第25回 不規則動詞 *pouvoir* の直説法現在②・練習問題＋小テスト
- 第26回 不規則動詞 *vouloir* の直説法現在①
- 第27回 不規則動詞 *vouloir* の直説法現在②・練習問題＋小テスト
- 第28回 命令法①
- 第29回 命令法②・練習問題＋小テスト
- 第30回 第3章リーダー

授業以外での学習方法

初習外国語なので予習はかなり困難。むしろ、各回終了ごとに10-20分程度復習する(ex.通学返りの車中でその日のノートを読み返す)ことが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと。

教科書

オルセー美術館にて-初級フランス語総合教本

著者: 中山真彦

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ドイツ語 I <a>**

担当者 久下 泰弘

テーマ

ドイツ語入門その1

獲得目標

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その1

授業の内容

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

内 容

- 第1回 授業の進め方について、辞書の話
 第2回 Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音
 第3回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき母音の発音 挨拶表現
 第4回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき子音の発音 曜日、月の表現
 第5回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」 動詞の現在人称変化（規則変化）
 第6回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」語順、定動詞の位置
 第7回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」自己紹介
 第8回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」 ことば、君はなに読派？！
 第9回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
 第10回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
 第11回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 格の用法 職業、身分をたづねるとき
 第12回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 ～するのが好きです、 塩について
 第13回 Lektion3 「ウィーン市街で」人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
 第14回 Lektion3 「ウィーン市街で」命令形
 第15回 Lektion3 「ウィーン市街で」名詞の複数形、非人称表現
 第16回 Lektion3 「ウィーン市街で」 場所をたづねるとき、クールな都
 第17回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」 定冠詞類
 第18回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」 不定冠詞類
 第19回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」 否定冠詞
 第20回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」身につけるもの、家族をあらわす表現 買い物をするとき、ハンスと太郎
 名前のあるこれ
 第21回 Lektion5 「バーゼルで」前置詞と格
 第22回 Lektion5 「バーゼルで」前置詞と名詞の融合形
 第23回 Lektion5 「バーゼルで」人称代名詞の3格と4格、その語順
 第24回 Lektion5 「バーゼルで」 行きかたをたづねるとき、ドライな数 三・さん
 第25回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第26回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第27回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第28回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第29回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第30回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習

授業以外での学習方法

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

教科書

ブーメラン

著者： 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社： 朝日出版社

出版年： 2013

ISBN： 9784255253602

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者： 根本道也ほか

出版社： 同学社

出版年： 2010

ISBN： 9784810200065

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

授業出席重視。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ドイツ語 I **

担当者 久下 泰弘

テーマ

ドイツ語入門その1

獲得目標

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その1

授業の内容

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

内 容

- 第1回 授業の進め方について、辞書の話
 第2回 Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音
 第3回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき母音の発音 挨拶表現
 第4回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき子音の発音 曜日、月の表現
 第5回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」 動詞の現在人称変化（規則変化）
 第6回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」語順、定動詞の位置
 第7回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」自己紹介
 第8回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」 ことば、君はなに読派？！
 第9回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
 第10回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
 第11回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 格の用法 職業、身分をたづねるとき
 第12回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 ～するのが好きです、 塩について
 第13回 Lektion3 「ウィーン市街で」人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
 第14回 Lektion3 「ウィーン市街で」命令形
 第15回 Lektion3 「ウィーン市街で」名詞の複数形、非人称表現
 第16回 Lektion3 「ウィーン市街で」 場所をたづねるとき、クールな都
 第17回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」 定冠詞類
 第18回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」 不定冠詞類
 第19回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」 否定冠詞
 第20回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」身につけるもの、家族をあらわす表現 買い物をするとき、ハンスと太郎
 名前のあるこれ
 第21回 Lektion5 「バーゼルで」前置詞と格
 第22回 Lektion5 「バーゼルで」前置詞と名詞の融合形
 第23回 Lektion5 「バーゼルで」人称代名詞の3格と4格、その語順
 第24回 Lektion5 「バーゼルで」 行きかたをたづねるとき、ドライな数 三・さん
 第25回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第26回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第27回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第28回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第29回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第30回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習

授業以外での学習方法

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

教科書

ブーメラン

著者： 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社： 朝日出版社

出版年： 2013

ISBN： 9784255253602

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者： 根本道也ほか

出版社： 同学社

出版年： 2010

ISBN： 9784810200065

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

授業出席重視。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 京都講座 I

担当者 永田 信一

テーマ

重層する京都の遺跡発掘と京都の町探索から京都の歴史文化を学ぶ

獲得目標

発掘調査の資料をもとに重層する京都の遺跡を学び、理解し、考えてみる。京都の町歩き探索資料をもとに京都の遺跡や建造物、石碑等を訪ね、京都の歴史と文化を理解できる素地を創る。

授業の内容

京都の遺跡を時系列で説明する。関連する文化財についても随時触れる。京都の町歩き探索資料を配布する。

内 容

- 第1回 京都の文化財についてのガイダンス
 - 第2回 平安京以前の京都
 - 第3回 短命の都 長岡京
 - 第4回 平安京の造営
 - 第5回 平安宮(大内裏)
 - 第6回 羅城門と東寺、西寺
 - 第7回 平安京右京
 - 第8回 平安京左京
 - 第9回 平安京の変質(郊外への進展)
 - 第10回 中世京都の成立(鎌倉・室町時代の京都)
 - 第11回 近世京都の始まり(安土桃山時代の京都)
 - 第12回 伏見城と城下町
 - 第13回 江戸時代の京都
 - 第14回 遺跡が語る京都の近代化
 - 第15回 京都市考古資料館の見学(学外事業)
-

授業以外での学習方法

配布する京都の町歩き探索資料をもとに、文化財を訪ねる。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (30)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化Ⅱ

担当者 仲田 順和

テーマ

京都の文化財を現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。

獲得目標

文化がどのように伝承されたかを学び、将来に伝えていく方策を考える。

授業の内容

この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学术交流協定に基づく授業である。現代に伝わる様々な文化をそれぞれの専門家が担当して講義する。さらに醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。各回毎に専門の担当者が授業を行うリレー形式で行われる。

内 容

- 第1回 京都に残る有形文化財がどのように伝えられてきたか、さらに将来への保存に向けてどのような方法が取られているか、具体例を上げて講義する。
- 第2回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に)〈その1〉
- 第3回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に)〈その2〉
- 第4回 文化財にふれる(醍醐寺霊宝館見学・学外授業)
- 第5回 醍醐寺所蔵の文化財について〈その1〉
- 第6回 醍醐寺所蔵の文化財について〈その2〉
- 第7回 現代に生きる山岳信仰〈その1〉
- 第8回 現代に生きる山岳信仰〈その2〉
- 第9回 信仰行事にふれる(柴灯護摩見学・学外授業)
- 第10回 日本人の生活の中に生きる仏教
- 第11回 日本人の根底に流れる仏教の影響
- 第12回 桃山文化にふれる(醍醐寺三宝院見学・学外授業)
- 第13回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)〈その1〉
- 第14回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)〈その2〉
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

積極的に街に残る行事に参加あるいは見学すること

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（50）

授業中課題（ ）

参加度（30）

小テスト（20）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **文学と京都**

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

京都を舞台にした小説を読む

獲得目標

(1) 明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、どのような物語を可能にしてきたかを考える。(2) 21世紀の作家である万城目学と森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とし、学生(主に大学生)が登場する作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の内容

前半では京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。また、後半では万城目学と森見登美彦の作品を紹介する。基本的に講義形式だが、授業中に受講生諸君への質問を行うこともある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前にプリントを配布した場合は、そこに引用された小説の本文を読んでくる。引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 夏目漱石「虞美人草」
 - 第3回 梶井基次郎「檸檬」
 - 第4回 堀辰雄「曠野」
 - 第5回 三島由紀夫「金閣寺」
 - 第6回 川端康成「古都」
 - 第7回 万城目学「鴨川ホルモー」(1)
 - 第8回 万城目学「鴨川ホルモー」(2)
 - 第9回 万城目学『ホルモー六景』より「もっちゃん」ほか
 - 第10回 森見登美彦「太陽の塔」
 - 第11回 森見登美彦「四畳半神話大系」(1)
 - 第12回 森見登美彦「四畳半神話大系」(2)
 - 第13回 森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」(1)
 - 第14回 森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」(2)
 - 第15回 まとめとレポート指導
-

授業以外での学習方法

日本の近代文学作品を積極的に読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 (20%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

(1)授業中課題のコメントは、鋭い質問や授業内容を他の問題に結びつける考察に、より高い評価を与える。(2)コメント用紙で出席の確認を行う(それでも学生証は毎回必ず携帯し出席の登録を行うこと)ので、注意すること。(3)期末レポートを提出してもらい、これを試験とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 人権と教育〈a〉

担当者 井手 幸喜

テーマ

獲得目標

今日、部落問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の内容

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、部落問題をはじめとして様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

内 容

- 第1回 世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
- 第2回 世界的な人権の流れ－人権の概略史－
- 第3回 明治期、人権なる言葉の導入とその理解
- 第4回 人権の変容－戦前期まで－
- 第5回 人権に対する戦後の理解
- 第6回 人権教育の提唱－国連人権教育10 年計画－
- 第7回 同和問題とは
- 第8回 同和(融和)教育の軌跡－戦前－
- 第9回 同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
- 第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
- 第11回 同和教育の功罪
- 第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
- 第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
- 第14回 まとめ－教育実践と教材－
- 第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 人権と教育

担当者 井手 幸喜

テーマ

獲得目標

今日、部落問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の内容

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、部落問題をはじめとして様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

内 容

- 第1回 世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
- 第2回 世界的な人権の流れ－人権の概略史－
- 第3回 明治期、人権なる言葉の導入とその理解
- 第4回 人権の変容－戦前期まで－
- 第5回 人権に対する戦後の理解
- 第6回 人権教育の提唱－国連人権教育10 年計画－
- 第7回 同和問題とは
- 第8回 同和(融和)教育の軌跡－戦前－
- 第9回 同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
- 第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
- 第11回 同和教育の功罪
- 第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
- 第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
- 第14回 まとめ－教育実践と教材－
- 第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 国際関係入門

担当者 酒井 一臣

テーマ

国際関係論の基礎を学ぶ

獲得目標

この授業では、国際関係論の基礎を、ニュースなどで最近話題になっていることなどをとりあげつつ、学んでいきます。現在の社会はグローバル化が進んでいます。よって、国際関係の基礎知識は、政治経済はもちろんのこと、歴史やビジネスや看護などを学ぶ人にも必須のものです。受講生が、基礎知識を習得するとともに、自分のこととして国際関係に関心を持つ習慣を身につけることを目的とします。

授業の内容

国際関係の基礎知識を講義するとともに、小レポートやグループ学習を通じて、国際関係について、自分の意見を述べる練習もおこなう予定です。外部講師を招く場合もあります。

内 容

- 第1回 国際関係論はどんな学問か？
 - 第2回 国際関係論の基礎(1) 国際社会の基本概念
 - 第3回 国際関係論の基礎(2) 国際連合から考える
 - 第4回 国際関係論の基礎(3) 国家を裁くことができるのか？
 - 第5回 日本の平和(1) 国際関係史からみる憲法9条
 - 第6回 日本の平和(2) 日米安全保障条約と集団的自衛権
 - 第7回 現代世界の形成(1) 冷戦 イデオロギーの対立
 - 第8回 現代世界の形成(2) 核兵器
 - 第9回 現代世界の形成(3) 冷戦の終結
 - 第10回 現代世界の形成(4) 冷戦後の世界
 - 第11回 国際関係の諸問題(1) グローバル化の光と陰
 - 第12回 国際関係の諸問題(2) アジア太平洋と日本
 - 第13回 国際関係の諸問題(3) 人間の安全保障
 - 第14回 国際関係の諸問題(4) 世界平和に向けて
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

テレビニュースだけでなく、新聞を読む習慣をつけましょう。また、地図帳をながめて世界地図に親しむことも大切です。

教科書

ニュース解説室へようこそ！ 2015

著者：

出版社：清水書院

出版年：2013年

ISBN：

参考書

国際秩序

著者：細谷雄一

出版社：中央公論新社

出版年：2012年

ISBN：

民族とネーション

著者： 塩川伸明

出版社： 岩波書店

出版年： 2008年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

授業期間中に2回程度小レポートを課します。知識の確認のための小テストもおこないます。

参考URL

国際連合広報センター

<http://unic.or.jp/index.php>

国連のしくみや最新の動きがわかる

外務省ホームページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>

日本外交の諸活動を知ることができる

2014 Syllabus

科目名 **経済学概論 I**

担当者 小森 治夫

テーマ

現代日本経済をめぐる諸問題

獲得目標

バブル経済とその崩壊、女性労働、労働問題など、現代日本経済をめぐる諸問題について学ぶ

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 経済学とは何か
 - 第2回 バブル経済
 - 第3回 90年代不況(1)不良債権処理の10年
 - 第4回 90年代不況(2)不良債権処理の10年
 - 第5回 90年代不況(3)ケーススタディ・日本長期信用銀行
 - 第6回 90年代不況(4)ケーススタディ・山一証券
 - 第7回 中小企業問題
 - 第8回 女性労働(1)均等法誕生
 - 第9回 女性労働(2)均等法その後
 - 第10回 女性労働(3)育児支援
 - 第11回 労働問題(1)過労死・過労自殺
 - 第12回 労働問題(2)ホームレス
 - 第13回 労働問題(3)派遣労働
 - 第14回 労働問題(4)ネットカフェ難民
 - 第15回 労働問題(5)派遣村
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など) 経済問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

日本の宿題

著者: NHK「日本の宿題」プロジェクト

出版社: NHK出版

出版年: 2001年

ISBN:

中小企業が日本経済を救う

著者: 森靖雄

出版社: 大月書店

出版年: 2004年

ISBN:

ワーキング・プア

著者： デイヴィッド・K・シプラー

出版社： 岩波書店

出版年： 2007年

ISBN:

今日、ホームレスになった

著者： 増田明利

出版社： 新風舎

出版年： 2006年

ISBN:

フリーター漂流

著者： 松宮健一

出版社： 旬報社

出版年： 2006年

ISBN:

若者が働くとき

著者： 熊沢誠

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2006年

ISBN:

派遣村

著者： 宇都宮健児・湯浅誠編

出版社： 岩波書店

出版年： 2009年

ISBN:

15歳のワークルール

著者： 道幸哲也

出版社： 旬報社

出版年： 2007年

ISBN:

反貧困

著者： 湯浅誠

出版社： 岩波新書

出版年： 2008年

ISBN:

派遣のリアル

著者： 門倉貴史

出版社： 宝島社

出版年： 2007年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **体育理論 <a>**

担当者 新野 守

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

獲得目標

①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 体育科教育
 - 第3回 前近代スポーツ
 - 第4回 イギリスのスポーツ教育
 - 第5回 アメリカのスポーツ教育
 - 第6回 アジアのスポーツ
 - 第7回 日本の学校体育
 - 第8回 子どもの遊び
 - 第9回 スポーツ部活動
 - 第10回 女性スポーツ
 - 第11回 職場スポーツ
 - 第12回 生涯スポーツ
 - 第13回 オリンピック
 - 第14回 プロスポーツ
 - 第15回 まとめ
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見ましょう。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょうか。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

aky801d410

出席は評価対象ではないが、出席くんで10回以上の入力を行うこと。成績評価は期末試験で行う。再試験や特別課題の提示などは行わない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 体育理論

担当者 新野 守

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

獲得目標

①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 体育科教育
- 第3回 前近代スポーツ
- 第4回 イギリスのスポーツ教育
- 第5回 アメリカのスポーツ教育
- 第6回 アジアのスポーツ
- 第7回 日本の学校体育
- 第8回 子どもの遊び
- 第9回 スポーツ部活動
- 第10回 女性スポーツ
- 第11回 職場スポーツ
- 第12回 生涯スポーツ
- 第13回 オリンピック
- 第14回 プロスポーツ
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見ましょう。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょうか。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

aky801d412

出席は、評価対象ではないが、出席くんで10回以上の入力を行うこと。成績評価は期末試験で行う。再試験や特別課題の提示は行わない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 体育理論 <c>

担当者 新野 守

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

獲得目標

①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 体育科教育
- 第3回 前近代スポーツ
- 第4回 イギリスのスポーツ教育
- 第5回 アメリカのスポーツ教育
- 第6回 アジアのスポーツ
- 第7回 日本の学校体育
- 第8回 子どもの遊び
- 第9回 スポーツ部活動
- 第10回 女性スポーツ
- 第11回 職場スポーツ
- 第12回 生涯スポーツ
- 第13回 オリンピック
- 第14回 プロスポーツ
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見ましょう。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょうか。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

aky801d413

出席は評価対象ではないが、出席くんで10回以上の入力を行うこと。成績評価は期末試験で行う。再試験や特別課題の提示は行わない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **エコロジー研究〈a〉**

担当者 小森 治夫

テーマ

環境と開発の総合的研究

獲得目標

日本における山と森林・河川・海の開発事例について、自然環境と開発の関係を学ぶ

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 日本の自然保護(1)尾瀬
 - 第3回 日本の自然保護(2)富士山
 - 第4回 山と森林の自然保護(1)白神山地
 - 第5回 山と森林の自然保護(2)国有林の危機
 - 第6回 山と森林の自然保護(3)林業政策の大転換
 - 第7回 川の自然保護(1)川の文化
 - 第8回 川の自然保護(2)四万十川
 - 第9回 川の自然保護(3)四万十川、琵琶湖
 - 第10回 海の自然保護・諫早湾干拓
 - 第11回 日本の世界遺産(1)屋久島
 - 第12回 日本の世界遺産(2)知床
 - 第13回 日本のエコツーリズム(沖縄)
 - 第14回 世界のエコツーリズム(ガラパゴス諸島)
 - 第15回 レイチェル・カーソン
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(特に経済面、政治面、社会面など) 環境問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

日本の自然保護

著者: 石川徹也

出版社: 平凡社

出版年: 2001

ISBN:

沈黙の春

著者: レイチェル・カーソン

出版社: 新潮社

出版年: 1974

ISBN:

森は海の恋人

著者： 畠山重篤

出版社： 北斗出版

出版年： 1994

ISBN：

四万十川・歩いて下る

著者： 多田実

出版社： 築地出版

出版年： 1995

ISBN：

諫早の叫び

著者： 永尾俊彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2005

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 エコロジー研究〈b〉

担当者 小森 治夫

テーマ

環境と開発の総合的研究

獲得目標

日本における山と森林・河川・海の開発事例について、自然環境と開発の関係を学ぶ

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 日本の自然保護(1)尾瀬
 - 第3回 日本の自然保護(2)富士山
 - 第4回 山と森林の自然保護(1)白神山地
 - 第5回 山と森林の自然保護(2)国有林の危機
 - 第6回 山と森林の自然保護(3)林業政策の大転換
 - 第7回 川の自然保護(1)川の文化
 - 第8回 川の自然保護(2)四万十川
 - 第9回 川の自然保護(3)四万十川、琵琶湖
 - 第10回 海の自然保護・諫早湾干拓
 - 第11回 日本の世界遺産(1)屋久島
 - 第12回 日本の世界遺産(2)知床
 - 第13回 日本のエコツーリズム(沖縄)
 - 第14回 世界のエコツーリズム(ガラパゴス諸島)
 - 第15回 レイチェル・カーソン
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(特に経済面、政治面、社会面など) 環境問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

日本の自然保護

著者: 石川徹也

出版社: 平凡社

出版年: 2001

ISBN:

沈黙の春

著者: レイチェル・カーソン

出版社: 新潮社

出版年: 1974

ISBN:

森は海の恋人

著者： 畠山重篤

出版社： 北斗出版

出版年： 1994

ISBN：

四万十川・歩いて下る

著者： 多田実

出版社： 築地出版

出版年： 1995

ISBN：

諫早の叫び

著者： 永尾俊彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2005

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 自然の探求

担当者 佐々木 尚子

テーマ

身の回りの自然の観察と理解

獲得目標

この授業では、1)自然界を構成する地圏・水圏・気圏・生物圏の基本的な仕組みを理解すること、2)身の回りの自然を丁寧に観察し、それらを具体的に認識することを通じて、3)「わたしたちにとって自然とは何か」「自然にはどのような価値があるのか」、各自が論考することを目指します。

授業の内容

1) 投影資料やプリントを使った自然界の仕組みの解説、2) 五感を使った身の回りの自然の観察を基本とし、必要に応じて、グループディスカッションなどを織り込みながら授業を進めます。

内 容

- 第1回 ガイダンス: 生きているってどういうこと?
- 第2回 地球の形と大きさ
- 第3回 プレートテクトニクス
- 第4回 身近な生き物を探す
- 第5回 地球をめぐる大気
- 第6回 地球をめぐる水
- 第7回 生物と無機的環境
- 第8回 身近な生き物を観察する
- 第9回 生物同士のつながり その1
- 第10回 生物同士のつながり その2
- 第11回 生物の進化と生物多様性 その1
- 第12回 身近な生き物を描く
- 第13回 生物の進化と生物多様性 その2
- 第14回 人間の自然利用
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

参考になる文献・資料を授業中に提示するので、各自読んで理解を深めること。

教科書

参考書

地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム

著者: 酒井治孝

出版社: 東海大学出版会

出版年: 2003

ISBN: 978-4486016151

植物(小学館の図鑑NEO)

著者: 門田裕一

出版社: 小学館

出版年: 2002

ISBN: 978-4092172029

生き物の描き方:自然観察の技法

著者: 盛口 満

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2012

ISBN: 978-4130633352

自然を守るとはということか

著者: 守山 弘

出版社: 農山漁村文化協会

出版年: 1988

ISBN: 4-540-87140-4

なぜ生態系を守るのか?

著者: 松田裕之

出版社: NTT出版

出版年: 2008

ISBN: 978-4757160279

成績評価

試験 (50%)

小テスト (25%)

授業中課題 (25%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 同和教育〈Za〉

担当者 井手 幸喜

テーマ

獲得目標

今日、部落問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の内容

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、部落問題をはじめとして様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

内 容

- 第1回 世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
- 第2回 世界的な人権の流れ－人権の概略史－
- 第3回 明治期、人権なる言葉の導入とその理解
- 第4回 人権の変容－戦前期まで－
- 第5回 人権に対する戦後の理解
- 第6回 人権教育の提唱－国連人権教育10 年計画－
- 第7回 同和問題とは
- 第8回 同和(融和)教育の軌跡－戦前－
- 第9回 同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
- 第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
- 第11回 同和教育の功罪
- 第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
- 第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
- 第14回 まとめ－教育実践と教材－
- 第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 同和教育〈Zb〉

担当者 井手 幸喜

テーマ

獲得目標

今日、部落問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の内容

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、部落問題をはじめとして様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

内 容

- 第1回 世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
- 第2回 世界的な人権の流れ－人権の概略史－
- 第3回 明治期、人権なる言葉の導入とその理解
- 第4回 人権の変容－戦前期まで－
- 第5回 人権に対する戦後の理解
- 第6回 人権教育の提唱－国連人権教育10 年計画－
- 第7回 同和問題とは
- 第8回 同和(融和)教育の軌跡－戦前－
- 第9回 同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
- 第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
- 第11回 同和教育の功罪
- 第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
- 第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
- 第14回 まとめ－教育実践と教材－
- 第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座 I**

担当者 山脇 康彦

テーマ

21世紀の企業と経営に求められる人材について理解する。

獲得目標

企業とその経営に関する実態認識を深めるとともに、各自のキャリア形成について考えるきっかけを得る。

授業の内容

一般の講義、社会人講師による講義(レポートを提出)、販促企画の演習など

内 容

- 第1回 オリエンテーション、最近の企業経営の動向
- 第2回 キャリア開発概論(1):山脇
- 第3回 同(2):人材開発企業(有限会社 キャップス)
- 第4回 同(3):人材開発企業(有限会社 キャップス)
- 第5回 先輩と語ろう(1):先輩卒業生等からのメッセージ
- 第6回 同(2):先輩卒業生等とのQ&A
- 第7回 流通業界概論(1):山脇
- 第8回 同(2):流通業界企業(株式会社 高島屋 京都店)
- 第9回 同(3):演習(流通業の販促企画)
- 第10回 サービス業界概論(1):山脇
- 第11回 同(2):サービス業界企業(株式会社 近鉄ホテルシステムズ 新・都ホテル)
- 第12回 同(3):演習(サービス商品の開発)
- 第13回 製造業界概論(1):山脇
- 第14回 同(2):製造業界企業(京セラ 株式会社)
- 第15回 最近の経営動向からみたキャリア形成の考え方と課題:山脇

授業以外での学習方法

アルバイト、インターンシップの経験を積む

教科書

使用しません

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60%)

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <2a>**

担当者 濱田 剛

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

獲得目標

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

授業の内容

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
 - 第2回 語彙力・文法
 - 第3回 語彙力・文の並び替え～読解1
 - 第4回 語彙力・文の並び替え～読解2
 - 第5回 速さ関連・基礎～応用
 - 第6回 金銭関連・基礎～発展
 - 第7回 場合の数・確率
 - 第8回 集合・図表の読み取り
 - 第9回 領域・物の流れと比率
 - 第10回 資料の整理・ブラックスボックス
 - 第11回 推論・その他文章題1
 - 第12回 推論・その他文章題2
 - 第13回 総合演習1
 - 第14回 総合演習2
 - 第15回 就職筆記試験(模試)
-

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

イングオリジナルテキスト

著者: 株式会社イング

出版社: 株式会社イング

出版年: 2014年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask102d110

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <2b>**

担当者 濱田 剛

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

獲得目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の内容

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
 - 第2回 語彙力・文法
 - 第3回 語彙力・文の並び替え～読解1
 - 第4回 語彙力・文の並び替え～読解2
 - 第5回 速さ関連・基礎～応用
 - 第6回 金銭関連・基礎～発展
 - 第7回 場合の数・確率
 - 第8回 集合・図表の読み取り
 - 第9回 領域・物の流れと比率
 - 第10回 資料の整理・ブラックスボックス
 - 第11回 推論・その他文章題1
 - 第12回 推論・その他文章題2
 - 第13回 総合演習1
 - 第14回 総合演習2
 - 第15回 就職筆記試験(模試)
-

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2014年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <2Ga>**

担当者 籠田 彰宏峰 浩司

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

獲得目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重要項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の内容

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
 - 第2回 語彙力・文法
 - 第3回 語彙力・文の並び替え～読解1
 - 第4回 語彙力・文の並び替え～読解2
 - 第5回 速さ関連・基礎～応用
 - 第6回 金銭関連・基礎～発展
 - 第7回 場合の数・確率
 - 第8回 集合・図表の読み取り
 - 第9回 領域・物の流れと比率
 - 第10回 資料の整理・ブラックスボックス
 - 第11回 推論・その他文章題1
 - 第12回 推論・その他文章題2
 - 第13回 総合演習1
 - 第14回 総合演習2
 - 第15回 就職筆記試験(模試)
-

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2014年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask102d113

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <2Gb>**

担当者 籠田 彰宏峰 浩司

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

獲得目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重要項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の内容

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
 - 第2回 語彙力・文法
 - 第3回 語彙力・文の並び替え～読解1
 - 第4回 語彙力・文の並び替え～読解2
 - 第5回 速さ関連・基礎～応用
 - 第6回 金銭関連・基礎～発展
 - 第7回 場合の数・確率
 - 第8回 集合・図表の読み取り
 - 第9回 領域・物の流れと比率
 - 第10回 資料の整理・ブラックスボックス
 - 第11回 推論・その他文章題1
 - 第12回 推論・その他文章題2
 - 第13回 総合演習1
 - 第14回 総合演習2
 - 第15回 就職筆記試験(模試)
-

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2014年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask102d114

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急救命基礎講義 I <Z>

担当者 志賀 亮一

テーマ

政治経済基礎知識の完結

獲得目標

基礎演習 I & II の続きとして、現代社会の経済の基礎知識を身につけ、キャリア形成の基盤を形成する。

授業の内容

レジュメをもととした講義に政治経済の基礎知識を学んだのち、毎回受講生数名を指名して小テスト問題の作成を課す。つぎの回にはその小テストによって前回の学びを確実なものとする。

内 容

- 第1回 日本の政治制度1(司法と地方自治)
 - 第2回 日本の政治制度2(選挙と政党)
 - 第3回 行政の課題
 - 第4回 国際政治1(国際社会と国連)
 - 第5回 国際政治2(冷戦)
 - 第6回 国際政治3(軍縮と国際紛争)
 - 第7回 戦後の日本外交+中間テスト
 - 第8回 戦後日本経済の歴史
 - 第9回 戦後日本経済の問題点1(農業・中小企業・消費者)
 - 第10回 戦後日本経済の問題点2(公害と環境)
 - 第11回 戦後日本経済の問題点3(労働・社会保障)
 - 第12回 国際経済1(国際収支)
 - 第13回 国際経済2(国際通貨体制)
 - 第14回 国際経済3(諸問題と日本)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

新聞の政治欄、経済欄を毎日読むこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (100)

授業中発表等 ()

出席不良者、小テスト作問改題未提出者は単位を認定しない

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急救命基礎講義Ⅱ〈Z〉

担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二

テーマ

公務員試験対策

獲得目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス、公務員試験対策
- 第2回 公務員試験対策
- 第3回 公務員試験対策
- 第4回 公務員試験対策
- 第5回 公務員試験対策
- 第6回 公務員試験対策
- 第7回 公務員試験対策
- 第8回 公務員試験対策
- 第9回 公務員試験対策
- 第10回 公務員試験対策
- 第11回 公務員試験対策
- 第12回 公務員試験対策
- 第13回 公務員試験対策
- 第14回 公務員試験対策
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask103d782

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究 I <3a>**

担当者 本庄 賢行

テーマ

業種・業界・職種を知り、働くことの意味や企業選びのポイントを学ぶ

獲得目標

卒業後の進路となる『働く場』(「業種」・「業界」)の現状と将来性を理解し、あわせてどんな「仕事(職種)」があるのか、さらに働くことで得られる能力ややりがいを知ることでこれからの就職活動の目標作りに役立てる

授業の内容

「業界」の現状と将来について事例を交えながら学ぶことで、就職先を選ぶ予備知識とする。「職種」については、民間企業と公務員の仕事の違いや、企業の仕組みを具体的な事例で学ぶ。また、働くために自覚しておかねばならないこと、その仕事をするために求められる『基礎能力』と、その仕事を通じて得られる『専門能力』や『楽しみ』を具体的に理解できる。

内 容

- 第1回 働くことの大切さと、業界研究方法(業界の全体像、役割、関連)を学ぶ
- 第2回 業界研究(1): 製造業界…電機、機械、自動車、食品・飲料、アパレル、医薬品
- 第3回 業界研究(2): インフラ業界…交通・運輸、IT・通信、建設、不動産・住宅販売
- 第4回 業界研究(3): モノを売る業界①(B to B)…商社・貿易、卸売業(モノを仕入れる)
- 第5回 業界研究(4): モノを売る業界②(B to C)…流通(百貨店、スーパー、コンビニ) 小売業界(専門店、一般小売業)
- 第6回 業界研究(5): 金融業界…銀行・証券・保険業界
- 第7回 業界研究(6): サービスを売る業界①…ホテル、旅行、エンタテインメント、冠婚葬祭
- 第8回 業界研究(7): サービスを売る業界②…人材ビジネス、医療福祉・介護 業界研究(8): 情報を売る業界…出版・広告・放送・新聞
- 第9回 職種の理解(1): モノを売る仕事(営業・販売)、人と接する仕事(教育・保育・接客・医療・福祉)とはどんな仕事か
- 第10回 職種の理解(2): モノを作る仕事(製造・開発・デザイン)、機器を扱う仕事(システムエンジニア・プログラマー・技師)とはどんな仕事か
- 第11回 職種の理解(3): 会社を支える仕事(人事総務・経理財務・経営企画・秘書・広報宣伝)とはどんな仕事か。
- 第12回 やりたい仕事探しのポイント(自分について考える - 自己分析、自己理解の方法-)を学ぶ
- 第13回 働きがいのある会社の条件と探し方を学ぶ(経済・業界・企業情報の見方・読み方・研究のポイント、企業選びの方法と注意点)
- 第14回 働く人の行動の基本(社会人基礎力、ビジネスマナー、人間関係づくり)を学ぶ
- 第15回 働くことを通じて学び成長することの大切さと面白さを学ぶ

授業以外での学習方法

新聞を読む。テレビの経済ニュースに関心を持つ。

教科書

別途レジメ配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

京都橘大学生のための就職ハンドブック

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究 I <3b>**

担当者 本庄 賢行

テーマ

業種・業界・職種を知り、働くことの意味や企業選びのポイントを学ぶ

獲得目標

卒業後の進路となる『働く場』(「業種」・「業界」)の現状と将来性を理解し、あわせてどんな「仕事(職種)」があるのか、さらに働くことで得られる能力ややりがいを知ることでこれからの就職活動の目標作りに役立てる

授業の内容

「業界」の現状と将来について事例を交えながら学ぶことで、就職先を選ぶ予備知識とする。「職種」については、民間企業と公務員の仕事の違いや、企業の仕組みを具体的な事例で学ぶ。また、働くために自覚しておかねばならないこと、その仕事をするために求められる『基礎能力』と、その仕事を通じて得られる『専門能力』や『楽しみ』を具体的に理解できる。

内 容

- 第1回 働くことの大切さと、業界研究方法(業界の全体像、役割、関連)を学ぶ
- 第2回 業界研究(1): 製造業界…電機、機械、自動車、食品・飲料、アパレル、医薬品
- 第3回 業界研究(2): インフラ業界…交通・運輸、IT・通信、建設、不動産・住宅販売
- 第4回 業界研究(3): モノを売る業界①(B to B)…商社・貿易、卸売業(モノを仕入れる)
- 第5回 業界研究(4): モノを売る業界②(B to C)…流通(百貨店、スーパー、コンビニ) 小売業界(専門店、一般小売業)
- 第6回 業界研究(5): 金融業界…銀行・証券・保険業界
- 第7回 業界研究(6): サービスを売る業界①…ホテル、旅行、エンタテインメント、冠婚葬祭
- 第8回 業界研究(7): サービスを売る業界②…人材ビジネス、医療福祉・介護 業界研究(8): 情報を売る業界…出版・広告・放送・新聞
- 第9回 職種の理解(1): モノを売る仕事(営業・販売)、人と接する仕事(教育・保育・接客・医療・福祉)とはどんな仕事か
- 第10回 職種の理解(2): モノを作る仕事(製造・開発・デザイン)、機器を扱う仕事(システムエンジニア・プログラマー・技師)とはどんな仕事か
- 第11回 職種の理解(3): 会社を支える仕事(人事総務・経理財務・経営企画・秘書・広報宣伝)とはどんな仕事か。
- 第12回 やりたい仕事探しのポイント(自分について考える - 自己分析、自己理解の方法-)を学ぶ
- 第13回 働きがいのある会社の条件と探し方を学ぶ(経済・業界・企業情報の見方・読み方・研究のポイント、企業選びの方法と注意点)
- 第14回 働く人の行動の基本(社会人基礎力、ビジネスマナー、人間関係づくり)を学ぶ
- 第15回 働くことを通じて学び成長することの大切さと面白さを学ぶ

授業以外での学習方法

新聞を読む。テレビの経済ニュースに関心を持つ。

教科書

別途レジメ配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

京都橘大学生のための就職ハンドブック

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究 I <3c>**

担当者 本庄 賢行

テーマ

業種・業界・職種を知り、働くことの意味や企業選びのポイントを学ぶ

獲得目標

卒業後の進路となる『働く場』(「業種」・「業界」)の現状と将来性を理解し、あわせてどんな「仕事(職種)」があるのか、さらに働くことで得られる能力ややりがいを知ることでこれからの就職活動の目標作りに役立てる

授業の内容

「業界」の現状と将来について事例を交えながら学ぶことで、就職先を選ぶ予備知識とする。「職種」については、民間企業と公務員の仕事の違いや、企業の仕組みを具体的な事例で学ぶ。また、働くために自覚しておかねばならないこと、その仕事をするために求められる『基礎能力』と、その仕事を通じて得られる『専門能力』や『楽しみ』を具体的に理解できる。

内 容

- 第1回 働くことの大切さと、業界研究方法(業界の全体像、役割、関連)を学ぶ
- 第2回 業界研究(1): 製造業界…電機、機械、自動車、食品・飲料、アパレル、医薬品
- 第3回 業界研究(2): インフラ業界…交通・運輸、IT・通信、建設、不動産・住宅販売
- 第4回 業界研究(3): モノを売る業界①(B to B)…商社・貿易、卸売業(モノを仕入れる)
- 第5回 業界研究(4): モノを売る業界②(B to C)…流通(百貨店、スーパー、コンビニ) 小売業界(専門店、一般小売業)
- 第6回 業界研究(5): 金融業界…銀行・証券・保険業界
- 第7回 業界研究(6): サービスを売る業界①…ホテル、旅行、エンタテインメント、冠婚葬祭
- 第8回 業界研究(7): サービスを売る業界②…人材ビジネス、医療福祉・介護 業界研究(8): 情報を売る業界…出版・広告・放送・新聞
- 第9回 職種の理解(1): モノを売る仕事(営業・販売)、人と接する仕事(教育・保育・接客・医療・福祉)とはどんな仕事か
- 第10回 職種の理解(2): モノを作る仕事(製造・開発・デザイン)、機器を扱う仕事(システムエンジニア・プログラマー・技師)とはどんな仕事か
- 第11回 職種の理解(3): 会社を支える仕事(人事総務・経理財務・経営企画・秘書・広報宣伝)とはどんな仕事か。
- 第12回 やりたい仕事探しのポイント(自分について考える - 自己分析、自己理解の方法-)を学ぶ
- 第13回 働きがいのある会社の条件と探し方を学ぶ(経済・業界・企業情報の見方・読み方・研究のポイント、企業選びの方法と注意点)
- 第14回 働く人の行動の基本(社会人基礎力、ビジネスマナー、人間関係づくり)を学ぶ
- 第15回 働くことを通じて学び成長することの大切さと面白さを学ぶ

授業以外での学習方法

新聞を読む。テレビの経済ニュースに関心を持つ。

教科書

別途レジメ配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

京都橘大学生のための就職ハンドブック

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅱ <3G>**

担当者 今久保 幸生

テーマ

グローバル企業・業界の研究

獲得目標

グローバル企業の動向や経済のグローバル化について研究し、これらに関する確かな認識を得させるとともに、とりわけ、社会や企業において不可欠となる、グループまたは個人で課題に取り組む際のノウハウを身につけさせる。

授業の内容

経済のグローバル化、グローバル企業の動向について講義で概観したあと、いくつかの調査研究グループを編成して、グループごとにテーマに即した調査研究を行い、またグループ間のディベートをも行ったのち、個人による調査研究および発表、これに基づく討論を実施する。実際にグローバル企業で活躍されているビジネスマンに、その豊かな経験を伺う機会も設ける。

内 容

- 第1回 授業の狙いや進め方のガイダンスとグループ編成など
 - 第2回 経済のグローバル化1
 - 第3回 経済のグローバル化2
 - 第4回 グローバル企業の展開
 - 第5回 グループ発表と討論(1)
 - 第6回 グループ発表と討論(2)
 - 第7回 グループ発表と討論(3)
 - 第8回 グループ間のディベート
 - 第9回 グローバル企業の実務家による講義
 - 第10回 個人調査研究の方法 個人発表のテーマの決定
 - 第11回 個人研究の発表と討論
 - 第12回 個人研究の発表と討論
 - 第13回 個人研究の発表と討論
 - 第14回 個人研究の発表と討論
 - 第15回 グローバル企業への就職について
-

授業以外での学習方法

グループ発表の場合も個人研究発表の場合も、テーマに関する、専門書や業界新聞・専門誌・映像・インターネットなどで収集した多様な情報を、グループ学習や個人での分析を通じて、課題にとって有意義なかたちに再構成する作業を訓練することで、研究のまとめ方・発表の仕方などを習得する。

教科書

テキストは用いない。

著者： レジューメや資料によって演習を進める。

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

講義中に指示する場合がある。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

ask103e110

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅲ <3G>**

担当者 宇都宮 麻美・吉田 斉

テーマ

就職筆記試験を突破するための総合的な学力の養成

獲得目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重要項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。就職筆記試験で高得点で突破するために、最重要単元を中心に応用～発展レベルを確実に解法に導ける学力を養成する。

授業の内容

授業計画に沿って、重要単元における応用～発展的問題レベルまでを問題演習中心の授業を実施し、本番レベルの問題までを、改めてインプットしていく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 言語分野① 語彙・読解総合演習1
- 第3回 言語分野② 語彙・読解総合演習2
- 第4回 言語分野③ 文章力養成 発展編1
- 第5回 言語分野④ 文章力養成 発展編2
- 第6回 非言語分野① SPI最重要単元1
- 第7回 非言語分野② SPI最重要単元2
- 第8回 非言語分野③ SPI最重要単元3
- 第9回 非言語分野④ SPI最重要単元4
- 第10回 非言語分野⑤ SPI最重要単元5
- 第11回 非言語分野⑥ SPI以外の筆記試験対策1
- 第12回 非言語分野⑦ SPI以外の筆記試験対策2
- 第13回 非言語分野⑧ SPI以外の筆記試験対策3
- 第14回 非言語分野⑨ SPI以外の筆記試験対策4
- 第15回 ファイナルテスト 就職筆記試験(模試)

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2014年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask103e213

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究V <3a>**

担当者 武野 辰雄

テーマ

公務員「教養試験」のための基礎学力形成

獲得目標

公務員「教養試験」に向けての基礎学力の育成

授業の内容

公務員「教養試験」における知能分野(数的処理)・知識分野(社会科学)・その他(論文・面接)の基礎学習と演習を行う 後期同時限に実施の「キャリア開発研究VI <3a>」とセットで履修することが望ましい。

内 容

- 第1回 教養試験の概要説明と勉強方法
 - 第2回 数的処理① 社会科学①(政治)
 - 第3回 数的処理② 社会科学②(政治)
 - 第4回 数的処理③ 社会科学③(政治)
 - 第5回 数的処理④ 社会科学④(政治)
 - 第6回 数的処理⑤ 社会科学⑤(政治)
 - 第7回 数的処理⑥ 社会科学⑥(政治)
 - 第8回 数的処理⑦ 論文①
 - 第9回 数的処理⑧ 社会科学⑦(法学)
 - 第10回 数的処理⑨ 社会科学⑧(法学)
 - 第11回 数的処理⑩ 社会科学⑨(法学)
 - 第12回 数的処理⑪ 社会科学⑩(法学)
 - 第13回 数的処理⑫ 社会科学⑪(法学)
 - 第14回 数的処理⑬ 社会科学⑫(法学)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

予習は不要ですが、復習は必ず行うこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究V <3b>**

担当者 山脇 康彦

テーマ

「起業すること」を想定して、それに必要な知識、考え方を習得する。

獲得目標

受講生ごとに、現実の、または想定上の起業案件に、アイデアから起業に至る諸問題について、学習と演習をとおして理解・習得するとともに、実践的なビジネス・プランを策定・提出することを目標とする。

授業の内容

毎回、講義と個人ワークでワークシートを作成していく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と進め方)と起業概論
- 第2回 (個人別)起業動機、起業アイデア、これまでの自分の整理
- 第3回 アイデアの整理、ビジョン、事業目標の設定
- 第4回 事業の仕組み、ビジネスモデルの構築
- 第5回 市場戦略(顧客)、競争戦略(ライバルとの違い)
- 第6回 マーケティング戦略①(商品と価格)
- 第7回 マーケティング戦略②(販路と販売促進策)
- 第8回 事業経済性①(売上、原価、粗利益)
- 第9回 事業経済性②(コスト構造)
- 第10回 事業経済性③(損益と損益分岐点)
- 第11回 資金計画
- 第12回 種々の届け出等、事業リスクと対策
- 第13回 ビジネス・プラン作成①(まとめ方)
- 第14回 ビジネス・プラン作成②(質疑、意見交換)
- 第15回 ビジネス・プラン完成と提出

授業以外での学習方法

日常利用する店舗の観察(店頭、品揃え、価格、販売促進策、接客など)、ネットショップの研究

教科書

使用しません

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

やさしい経営入門読本

著者: 岸田道彦

出版社: 晃洋書房

出版年: 2009年

ISBN: 4-7710-2100-6

成績評価

試験 ()
授業中課題 (60%)
参加度 (40%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

J-Net21業種別スタートアップガイド

<http://j-net21.smrj.go.jp/establish/startup/index>.

業種別の起業ポイント

日本政策金融公庫国民生活事業

https://www.jfc.go.jp/n/service/dl_kokumin.html

業種別の事業計画書の例

2014 Syllabus

科目名 **教職入門**

担当者 大平 勲

テーマ

先生になりたい！なるぞ！なれるかな？

獲得目標

教職の意義や教員の仕事・役割を知ること。厳しい教育現実の問題点も冷静に受け止め、自己の資質・能力を鑑みて、教職への高い志を育む。

授業の内容

出きるだけ教師の仕事の多彩さを具体例によって示しながら、適宜学生相互の討論を行う。また学校の具体状況を知るためにビデオ視聴などもとり入れる

内 容

- 第1回 講義のイントロダクション。「教職入門」の目的、意義等について。
- 第2回 教育とは何か(1) 教育基本法など
- 第3回 教育とは何か(2) 可能性の伸長、自己実現、人格の完成
- 第4回 教職の特殊性 三つの教師像
- 第5回 教員の仕事(1) 教科指導、総合的学習の時間、評価など
- 第6回 教員の仕事(2) 生徒指導、教育相談
- 第7回 教員の仕事(3) 特別活動(学級経営他)、教育課程の編成など
- 第8回 先生の日
- 第9回 教員の身分・サービス・研修
- 第10回 今、教育現場では？(1) 教育思潮、ゆとり教育の是非など
- 第11回 今、教育現場では？(2) 教育の諸問題、いじめ・不登校、モンスターペアレンツなど
- 第12回 教師の資質・能力(1) 教師にはどんな資質能力が必要か？
- 第13回 教師の資質・能力(2) 文部科学省が求めるものは？
- 第14回 教師の力量形成とまとめ : 修養・研修・同僚性
- 第15回 先生への道、教員採用試験と初任者研修について
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

課題レポートを丁寧に書き、掲載された「講座通信」を熟読し受講生の意見への共感や反論を考察する。教育に関するニュースや情報を新聞やネットで知る。

教科書

講義冊子15回分を配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

子ども主人公の学校づくり

著者: 大平勲

出版社: 知書之屋本舗

出版年: 2005年

ISBN:

風雨強けれど光り輝く

著者： 大平勲他

出版社： つむぎ出版

出版年： 2011年

ISBN: 978-4-87668-174

成績評価

試験（70%）

小テスト（ ）

授業中課題（10%）

授業中発表等（10%）

参加度（10%）

試験問題を含めて授業への集中参加が成績評価を左右する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育心理学 <a>

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

中等教育段階の子どもの発達と教育

獲得目標

中等教育段階の子ども(中学生・高校生)における発達と教育の問題について関連する教育心理学の基本領域における知見を理解するとともに、教職への関心・意欲を高めることを目的とする。

授業の内容

「学校、生徒・教師の今」「生徒」「教師」「生徒と教師の関係」という柱建てのもとに、中学生・高校生の発達と教育の問題に焦点を当て、新学習指導要領や学校教育現場での諸問題を踏まえ、教育心理学の基本領域における概念や研究成果について講義をする。

内 容

- 第1回 学校と社会の現状、生徒の生活、教師の生活
 - 第2回 発達とは何か、発達の基礎理論
 - 第3回 発達と教育との関わり
 - 第4回 学習の原理と基礎過程
 - 第5回 学習動機づけと学力形成
 - 第6回 教科の学習
 - 第7回 教えること、授業づくり
 - 第8回 総合学習、道徳
 - 第9回 教育評価、授業における評価
 - 第10回 評価と進路指導、キャリア教育
 - 第11回 生徒指導・生徒理解の原理と方法
 - 第12回 問題行動の理解と指導
 - 第13回 学級づくり
 - 第14回 教師の悩みと成長、教師として生きる
 - 第15回 教師集団と学校づくり
-

授業以外での学習方法

予習の必要はないが、復習については、毎時間、配布資料を基に、講義内容の整理・確認をすること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育相談**

担当者 大平 勲

テーマ

人間理解とカウンセリングマインド

獲得目標

多様な心の病いを知ること。教育相談関係の初歩的理論と技法を身につけること。学校現場でカウンセリングマインドの活用を図る基礎力をつけること。

授業の内容

講義を主に、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、エクササイズ体験、ビデオ視聴などを適宜入れながら進めるので、時間配分の変更もありうる。

内 容

- 第1回 授業ガイダンス。教育相談の意義：“今なぜ教育相談か？”
- 第2回 教育相談とカウンセリング：学校での位置づけとその機能、限界。
- 第3回 教育相談の歩み：教育相談誕生の背景。
- 第4回 現場の事例を考える(1)：不登校、いじめ
- 第5回 現場の事例を考える(2)：対人恐怖、神経症など。
- 第6回 教育相談に役立つ基礎的理論と技法(1)精神分析論(フロイトなど)
- 第7回 " (2)自己理論(ロジャーズなど)
- 第8回 " (3)行動理論、論理療法
- 第9回 " (4)交流分析その他
- 第10回 ストレスマネジメント
- 第11回 カウンセリングマインドの活用 (1)人間理解と関係づくりのエクササイズ
- 第12回 " (2)構成的グループエンカウンター
- 第13回 自尊感情を高める：「例外」「リソース」を見つける。
- 第14回 望ましいコミュニケーションづくりのために
- 第15回 復習とまとめ

授業以外での学習方法

課題レポートを丁寧に書き、掲載される「構座通信」を熟読し受講生の意見への共感や反論を考察する。教育に関するニュースや情報を新聞やネットで知る。

教科書

講義冊子15回分を配布

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

子ども主人公の学校づくり

著者： 大平 勲

出版社： 知書之屋本舗

出版年： 2005年

ISBN：

風雨強けれど光り輝く

著者： 大平勲他

出版社： つむぎ出版

出版年： 2011年

ISBN: 978-4-87668-174

成績評価

試験（70%）

小テスト（ ）

授業中課題（10%）

授業中発表等（10%）

参加度（10%）

試験問題を含めて授業への集中参加が成績評価を左右します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会科教育法 I**

担当者 田中 曜次

テーマ

まず、「社会科は暗記するだけ」という考え方を捨てましょう。そうすると、「暗記ではなく何？」という疑問が出てきます。この疑問に対する答えを探ることがこの授業のテーマです。「なぜ学習するのか」を教師が理解していないと、「覚えなさい」というおもしろくない授業になります。「良い授業」を作るためには何が必要か考えていきます。

獲得目標

中学校社会科の授業を自ら構成し、「学習指導案」の形で表現できる。このためには、「社会科の基本的な内容を理解している」「社会科の教科としての目標や特徴を理解している」「教材研究や授業作りを自主的に行うことができる」ということが必要になります。

授業の内容

前半は講義を中心に、社会科について概略を学ぶ。その際、これまでに議論されていることや、現在も課題とされていることなどについて話し合いたい。後半は設定した課題に取り組む形で、発表や互いに交流する機会を持ちたい。

内 容

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 社会科について 成立から現在まで 経験主義と系統主義 ゆとりと学力低下
- 第3回 社会科で育てる資質・能力、学力とは？ 公民的資質と社会認識 「理解する」と「覚える」
- 第4回 社会科と評価 相対評価と絶対評価 観点別学習状況
- 第5回 国際学力調査を踏まえたこれからの社会科の課題
- 第6回 中学校社会科の単元計画と授業(地域学習を手がかりに)
- 第7回 中学校社会科の3つの分野と単元構成
- 第8回 発表「私の住んでいる地域のようす」
- 第9回 地理的分野の目標・内容 ①
- 第10回 地理的分野の目標・内容 ②
- 第11回 歴史的分野の目標・内容 ①
- 第12回 歴史的分野の目標・内容 ②
- 第13回 公民的分野の目標・内容 ①
- 第14回 公民的分野の目標・内容 ②
- 第15回 授業のまとめ 模擬授業の作り方

授業以外での学習方法

図書館などにある授業実践を記録した書籍などに触れるようにしてほしい。

教科書

中学校学習指導要領解説社会編

著者： 文部科学省

出版社： 日本文教出版

出版年： 2008.9

ISBN： 9784536590051

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

ask203d910

発表する課題については最初の時間に説明します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 地歴科教育法 I

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

地歴科教育の意義・課題と授業方法

獲得目標

高校地歴科分野の学習内容とその変遷を分析することにより、現代史学習や現代の課題を学ぶことが求められていることを理解する。また、子どもの授業参加を創り出す方法について学ぶ。

授業の内容

教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。

内 容

- 第1回 教育困難校の授業から考える―「机化」する生徒を起きあがらせる授業はどのような授業か
- 第2回 学習指導案の作り方:教材研究と導入の重要性
- 第3回 「学び方を学ぶ」授業の作り方:江戸時代の農民の生活
- 第4回 イスラームの導入教材を作る:仮説実験授業でイスラームのイメージをつくる
- 第5回 模擬授業と学習指導案の検討
- 第6回 人物を教材化して歴史を教える
- 第7回 地理教育の内容と意義:地理の授業をつくってみよう
- 第8回 地理の模擬授業を体験しよう
- 第9回 世界史の導入教材をつくる:ギリシア世界
- 第10回 新聞記事を導入にした日本史の授業を作ってみよう
- 第11回 導入教材の作成と検討(1)
- 第12回 導入教材の作成と検討(2)
- 第13回 導入教材の作成と検討(3)
- 第14回 導入教材の作成と検討(4)
- 第15回 導入教材の作成と検討(5)

授業以外での学習方法

新聞やTVニュース、小説や映画などにふれ、歴史や地理についての関心を深めて欲しい

教科書

中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―』

著者: 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社: 学文社

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

中等社会科の理論と実践

著者: 二谷貞夫・和井田清司

出版社: 学文社

出版年: 2007年

ISBN:

成績評価

ask203e510

試験 (0)
授業中課題 (60)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 公民科教育法 I

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

公民科教育の意義・内容・課題

獲得目標

多様化する現代社会について理解を深め、民主的で平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うために、高校公民科教育の意義や内容についての理解を深める。特に、高校での公民科の授業を体験することで、カリキュラム作成、教材開発、授業評価の実際を学ぶ。

授業の内容

新聞の切り抜きをもとにした「社会科通信」づくりを通して、現代の社会が抱える諸問題を教材化させ、授業づくりの方法論、学習指導案の書き方、授業評価の方法を実践的に学ぶ。

内 容

- 第1回 学習指導要領のもとでの公民科の位置づけとそれを具体化する授業づくりを考える
- 第2回 学習を放棄する生徒を学びの世界に引き戻す授業は可能か？
- 第3回 身近なものを教材化する－コンビニから戦後の小売業を考える
- 第4回 身近なものを教材化する－コンビニから情報化社会を考える
- 第5回 身近なものを教材化する－コンビニから食糧自給を考える
- 第6回 メディアリテラシー：今日のニュースや国際紛争・事件をどのように教材化するか
- 第7回 新聞で学ぶ現代の社会－「9. 11」からイラク戦争を教材化する
- 第8回 新聞で学ぶ現代の社会－「9. 11」以降の実践記録の特徴を検討する
- 第9回 経済分野の授業：経済学入門をどう教材化するか
- 第10回 経済分野の授業：絵本『レモンをお金にかえる方』を教材化する
- 第11回 憲法の授業をつくる：日米安保条約と沖縄
- 第12回 憲法の授業をつくる：冷戦終結と日米安保条約
- 第13回 模擬授業と授業研究(1)
- 第14回 模擬授業と授業研究(2)
- 第15回 模擬授業と授業研究(3)

授業以外での学習方法

人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をする。新聞を読み、時事問題に留意すること

教科書

中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―

著者： 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社：学文社

出版年：2013年

ISBN:

参考書

中等社会科の理論と実践

著者： 二谷貞夫・和井田清司

出版社：学文社

出版年：2007年

ISBN:

成績評価

ask203e710

試験 (0)
授業中課題 (60)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生徒・進路指導

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

生徒指導とそれを支える生活指導

獲得目標

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題、クラス経営や生徒会づくりの具体的な指導事例、生徒の学校参加の事例、進路指導の在り方を学ぶことを目的とする。

授業の内容

基本的には、学校現場で見られる事象を紹介し、それについて学生が意見表明をすることを授業の柱にする。授業の中で提示される具体的な事例や資料をもとに、小グループで検討・意見交換をし、全体の場で交流した後、重要ポイントを抽出する。また、事例研究では、具体的な事例に現場教師がどのようにかかわっているかを読み解き、レポートとして提出を義務づける。

内 容

- 第1回 生徒指導の領域と内容:いわゆる「教育困難校」の1日
- 第2回 学校がどんな組織で運営されているか—校務分掌と組織(生徒指導体制?)
- 第3回 生徒指導の方法—ゼロ・トレランス方式を考える
- 第4回 子どもの学校参加の考え方を学ぶ
- 第5回 ケーススタディ1:不登校傾向を担任する教師の指導
- 第6回 グループ討議:担任教師の指導のあり方を検討する
- 第7回 生活指導(1):クラスづくりに生かす学級通信と日直新聞
- 第8回 生活指導(2)—自治的にクラスを運営する組織づくり
- 第9回 生活指導(3)—生徒が自治的に進める文化祭の取り組み
- 第10回 生活指導(4)—文化祭の取り組みから委員長と副委員長が消えた
- 第11回 中学校の進路指導を考える: DVD視聴
- 第12回 高校での進路指導の考え方: 自己実現を目指す進路指導のあり方を考えよう
- 第13回 グループ討議: 高校時代の進路学習を振り返って、どのような進路指導が必要と考えるか
- 第14回 ケーススタディ2: 「カンニング」疑惑を指導した教師の対応について考えてみよう。
- 第15回 教職員の連携とチーム会議(カンファレンス)の事例研究

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

教科書

授業内で配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

ask203e910

試験 (0)
授業中課題 (60)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **図書館サービス論 <Za>**

担当者 川上 博幸

テーマ

図書館サービスとはどういうものか？ 図書館サービス概念と図書館活動の実際を理解する

獲得目標

高度情報化社会にあつて、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の内容

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

内 容

- 第1回 図書館サービスの開始までの建設と準備業務
- 第2回 図書館サービスの変遷
- 第3回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の基本機能
- 第4回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類
- 第5回 資料、情報の提供① 資料、情報サービスの基本
- 第6回 資料、情報の提供② 利用案内、応対接遇とフロアワーク
- 第7回 読書案内と予約・リクエスト① 読書案内とレファレンス
- 第8回 読書案内と予約・リクエスト② その処理過程と相互協力
- 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童ヤングサービス
- 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開② 障害者、高齢者、多文化サービス
- 第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③ 各種課題解決支援サービス
- 第12回 図書館ネットワーク協力和類縁機関等との連携
- 第13回 図書館サービスと著作権①
- 第14回 図書館サービスと著作権②
- 第15回 図書館サービス、現代の課題

授業以外での学習方法

大学図書館、公共図書館を日常生活の中で利用すること。『増補改訂版 市民の図書館』(日本図書館協会)を読んでおくこと。

教科書

新訂図書館サービス論

著者： 前園主計編著

出版社： 東京書籍

出版年： 2009

ISBN： 978448780333-0

参考書

図書館サービス概論

著者： 宮部頼子編著

出版社： 樹村房

出版年： 2012

ISBN： 978488367-204-2

成績評価

ask2111610

試験（50%）

授業中課題（0%）

参加度（20%）

小テストは中間時点で平常試験として行う。

小テスト（30%）

授業中発表等（0%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 図書館情報技術論 <a>

担当者 米谷 優子

テーマ

現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける

獲得目標

情報化の進展に伴い、図書館における各種の業務や図書館サービスのさまざまな側面で、情報技術が活用されるようになっていく。さらに、電子情報の普及・拡大によって、図書館情報資源そのものに大きな変化がもたらされており、その収集・管理の在り方もまた大きく変わろうとしている。この授業では情報社会における図書館の業務遂行及びサービス実施に必要な基礎的情報技術について、理解を深めることをねらいとして、図書館現場に即した実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。

授業の内容

情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。図書館業務に必要な基礎的な情報技術への理解を深め、情報の流通・管理等に関する知識の修得を図る。必要に応じて演習を取り入れる。

内 容

- 第1回 授業の概要と授業計画 情報技術と社会
- 第2回 図書館における情報技術の活用
- 第3回 図書館業務システム
- 第4回 コンピュータに関する基礎知識
- 第5回 コンピュータに関する基礎知識2
- 第6回 コンピュータネットワークに関する基礎知識
- 第7回 データベースとその仕組み
- 第8回 検索エンジンとその仕組み
- 第9回 電子資料の管理と活用
- 第10回 インターネット上の情報発信
- 第11回 情報社会と情報管理・セキュリティ
- 第12回 情報社会と情報管理・セキュリティ2
- 第13回 デジタル情報の保存とアクセスをめぐる諸問題
- 第14回 情報化をめぐる問題と今後の図書館サービス
- 第15回 まとめ(試験を含む)

授業以外での学習方法

普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと

教科書

図書館情報技術論

著者： 斎藤ひとみ、二村健

出版社： 学文社

出版年： 2012

ISBN： 9784762021923

参考書

情報検索の基礎知識新2版

著者： 原田智子ほか

出版社： 情報科学技術協会

出版年： 2011

ISBN： 9784889510478

新訂情報検索の知識と技術

著者： 時実象一ほか

出版社： 情報科学技術協会

出版年： 2010

ISBN： 9784889510461

図書館と情報技術

著者： 岡紀子, 田中邦英

出版社： 樹村房

出版年： 2013

ISBN： 9784883672240

成績評価

試験 (65)

授業中課題 (25)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 図書館情報技術論

担当者 米谷 優子

テーマ

現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける

獲得目標

情報化の進展に伴い、図書館における各種の業務や図書館サービスのさまざまな側面で、情報技術が活用されるようになっていく。さらに、電子情報の普及・拡大によって、図書館情報資源そのものに大きな変化がもたらされており、その収集・管理の在り方もまた大きく変わろうとしている。この授業では情報社会における図書館の業務遂行及びサービス実施に必要な基礎的情報技術について、理解を深めることをねらいとして、図書館現場に即した実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。

授業の内容

情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。図書館業務に必要な基礎的な情報技術への理解を深め、情報の流通・管理等に関する知識の修得を図る。必要に応じて演習を取り入れる。

内 容

- 第1回 授業の概要と授業計画 情報技術と社会
- 第2回 図書館における情報技術の活用
- 第3回 図書館業務システム
- 第4回 コンピュータに関する基礎知識
- 第5回 コンピュータに関する基礎知識2
- 第6回 コンピュータネットワークに関する基礎知識
- 第7回 データベースとその仕組み
- 第8回 検索エンジンとその仕組み
- 第9回 電子資料の管理と活用
- 第10回 インターネット上の情報発信
- 第11回 情報社会と情報管理・セキュリティ
- 第12回 情報社会と情報管理・セキュリティ2
- 第13回 デジタル情報の保存とアクセスをめぐる諸問題
- 第14回 情報化をめぐる問題と今後の図書館サービス
- 第15回 まとめ(試験を含む)

授業以外での学習方法

普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと

教科書

図書館情報技術論

著者： 斎藤ひとみ、二村健

出版社： 学文社

出版年： 2012

ISBN： 9784762021923

参考書

情報検索の基礎知識新2版

著者： 原田智子ほか

出版社： 情報科学技術協会

出版年： 2011

ISBN： 9784889510478

新訂情報検索の知識と技術

著者： 時実象一ほか

出版社： 情報科学技術協会

出版年： 2010

ISBN： 9784889510461

図書館と情報技術

著者： 岡紀子, 田中邦英

出版社： 樹村房

出版年： 2013

ISBN： 9784883672240

成績評価

試験 (65)

授業中課題 (25)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 図書館サービス概論 <a>

担当者 川上 博幸

テーマ

図書館サービスとはどういうものか？ 図書館サービス概念と図書館活動の実際を理解する

獲得目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の内容

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

内 容

- 第1回 図書館サービスの開始までの建設と準備業務
- 第2回 図書館サービスの変遷
- 第3回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の基本機能
- 第4回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類
- 第5回 資料、情報の提供① 資料、情報サービスの基本
- 第6回 資料、情報の提供② 利用案内、応対接遇とフロアワーク
- 第7回 読書案内と予約・リクエスト① 読書案内とレファレンス
- 第8回 読書案内と予約・リクエスト② その処理過程と相互協力
- 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童ヤングサービス
- 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開② 障害者、高齢者、多文化サービス
- 第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③ 各種課題解決支援サービス
- 第12回 図書館ネットワーク協力と類縁機関等との連携
- 第13回 図書館サービスと著作権①
- 第14回 図書館サービスと著作権②
- 第15回 図書館サービス、現代の課題

授業以外での学習方法

大学図書館、公共図書館を日常生活の中で利用すること。『増補改訂版 市民の図書館』（日本図書館協会）を読んでおくこと。

教科書

新訂図書館サービス論

著者： 前園主計編著

出版社： 東京書籍

出版年： 2009

ISBN： 978448780333-0

参考書

図書館サービス概論

著者： 宮部頼子編著

出版社： 樹村房

出版年： 2012

ISBN： 978488367-204-2

成績評価

ask302d510

試験（50%）

授業中課題（0%）

参加度（20%）

小テストは中間時点で平常試験として行う。

小テスト（30%）

授業中発表等（0%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **図書館サービス概論 **

担当者 川上 博幸

テーマ

図書館サービスとはどういうものか？ 図書館サービス概念と図書館活動の実際を理解すること

獲得目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の内容

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

内 容

- 第1回 図書館サービスの開始までの建設と準備業務
- 第2回 図書館サービスの変遷
- 第3回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の基本機能
- 第4回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類
- 第5回 資料、情報の提供① 資料、情報サービスの基本
- 第6回 資料、情報の提供② 利用案内、応対接遇とフロアワーク
- 第7回 読書案内と予約・リクエスト① 読書案内とレファレンス
- 第8回 読書案内と予約・リクエスト② その処理過程と相互協力
- 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童ヤングサービス
- 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開② 障害者、高齢者、多文化サービス
- 第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③ 各種課題解決支援サービス
- 第12回 図書館ネットワーク協力と類縁機関等との連携
- 第13回 図書館サービスと著作権①
- 第14回 図書館サービスと著作権②
- 第15回 図書館サービス、現代の課題

授業以外での学習方法

大学図書館、公共図書館を日常生活の中で利用すること。『増補改訂版 市民の図書館』（日本図書館協会）を読んでおくこと

教科書

新訂図書館サービス論

著者： 前園主計編著

出版社： 東京書籍

出版年： 2009

ISBN： 9784487803330

参考書

図書館サービス概論

著者： 宮部頼子編著

出版社： 樹村房

出版年： 2012

ISBN： 9784883672042

成績評価

ask302d512

試験 (50%)

授業中課題 (0%)

参加度 (20%)

小テストは中間時点で平常試験として行う

小テスト (30%)

授業中発表等 (0%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童サービス論 <a>

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさんの児童書に接し、その豊かさと魅力を体験する。

授業の内容

児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

内 容

- 第1回 発達と学習における読書の役割 児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原因と問題に言及し、読書の意義について考える。
- 第2回 児童サービスの意義と概要 これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する
- 第3回 児童資料の特色と選択1 絵本 絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつかれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。
- 第4回 児童資料の特色と選択2 創作児童文学と詩 「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するということをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえ詩の本もたくさん紹介する。
- 第5回 児童資料の特色と選択3 昔話・伝承文学、知識の本 最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。
- 第6回 児童資料の特色と選択4 児童資料の出版と流通 主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。
- 第7回 児童資料コレクションの形成と管理 児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。
- 第8回 児童サービスの業務1 資料提供サービス 資料提供の意義、貸出の意義、フロアワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。
- 第9回 児童サービスの業務2 情報サービス 情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。
- 第10回 児童サービスの業務3 乳幼児サービス ブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。
- 第11回 児童サービスの業務4 ヤングアダルト・サービス 子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色や、そのサービスについて解説し、サービスの企画立案について考える。
- 第12回 児童サービスの方法・技術 1 読み聞かせ、ストーリーテリング 児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。
- 第13回 児童サービスの方法・技術 2 ブックトーク、書評、ブックリストブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。
- 第14回 児童サービスの展開(運営、施設と設備、児童図書館員の役割) 児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。
- 第15回 学校、家庭、地域との連携・協力 学校図書館の活動(公共図書館との相違点を含む)、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の実例を紹介し、その重要性和今後のあり方について解説する。

授業以外での学習方法

教科書

児童サービス論

著者： 堀川照代 編著

出版社： 日本図書館協会

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童サービス論

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさんの児童書に接し、その豊かさと魅力を体験する。

授業の内容

児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

内 容

- 第1回 発達と学習における読書の役割 児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原因と問題に言及し、読書の意義について考える。
- 第2回 児童サービスの意義と概要 これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する
- 第3回 児童資料の特色と選択1 絵本 絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつかれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。
- 第4回 児童資料の特色と選択2 創作児童文学と詩 「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するということをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえ詩の本もたくさん紹介する。
- 第5回 児童資料の特色と選択3 昔話・伝承文学、知識の本 最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。
- 第6回 児童資料の特色と選択4 児童資料の出版と流通 主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。
- 第7回 児童資料コレクションの形成と管理 児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。
- 第8回 児童サービスの業務1 資料提供サービス 資料提供の意義、貸出の意義、フロアワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。
- 第9回 児童サービスの業務2 情報サービス 情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。
- 第10回 児童サービスの業務3 乳幼児サービス ブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。
- 第11回 児童サービスの業務4 ヤングアダルト・サービス 子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色や、そのサービスについて解説し、サービスの企画立案について考える。
- 第12回 児童サービスの方法・技術 1 読み聞かせ、ストーリーテリング 児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。
- 第13回 児童サービスの方法・技術 2 ブックトーク、書評、ブックリスト ブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。
- 第14回 児童サービスの展開(運営、施設と設備、児童図書館員の役割) 児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。
- 第15回 学校、家庭、地域との連携・協力 学校図書館の活動(公共図書館との相違点を含む)、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の実例を紹介し、その重要性和今後のあり方について解説する。

授業以外での学習方法

教科書

児童サービス論

著者： 堀川照代 編著

出版社： 日本図書館協会

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **図書館情報資源概論 <a>**

担当者 竹島 昭雄

テーマ

公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知るとともに、その収集方法と管理の在り方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。

獲得目標

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応じてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

授業の内容

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

内 容

- 第1回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1) 図書・雑誌・新聞、資料の歴史。
- 第2回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2) 主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。
- 第3回 電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質 電子資料の収集・選択・利用、課題 ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。
- 第4回 地域資料 地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。
- 第5回 行政資料(政府刊行物)、灰色文献 行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。
- 第6回 情報資源の生産(出版)と流通(1) 出版、書店、図書館、出版流通経路。
- 第7回 情報資源の生産(出版)と流通(2) 再販制度、主な出版社に関する基礎知識。
- 第8回 図書館業務と情報資源に関する知識(主な著者に関する基礎知識を含む)。
- 第9回 コレクション形成の理論 蔵書構成論、図書選択論。
- 第10回 コレクション形成の方法(1) 資料の選択・収集・評価。
- 第11回 コレクション形成の方法(2) 選択ツールの利用、選定、評価。
- 第12回 人文・社会科学分野の情報資源とその特質
- 第13回 科学技術分野の情報源とその特質
- 第14回 資料の管理(1) 資料の受入・除籍・保存・管理。
- 第15回 資料の管理(2) 資料の装備・補修・排架・展示・点検等。

授業以外での学習方法

居住地の近辺又は帰省先にある公共図書館を訪問して、次の4点を調査して、第8回目の授業にA4のレポートで提出する。ただし、図書館員に尋ねることはしない。①所蔵資料(蔵書)の種類。②行事や催し物などの事業内容。③訪問した図書館の感想。④開架室の排架図

教科書

図書館情報資源概論 JLA図書館学テキストシリーズⅢ8

著者: 馬場俊明

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012

ISBN: 9784820412175

参考書

図書館情報資源概論

著者: 高山正也・平野英俊編集

出版社: 樹村房

出版年: 2012

ISBN: 9784883672080

ask302e010

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 図書館情報資源概論

担当者 竹島 昭雄

テーマ

公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知るとともに、その収集方法と管理の在り方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。

獲得目標

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応じてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

授業の内容

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

内 容

- 第1回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1) 図書・雑誌・新聞、資料の歴史。
 第2回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2) 主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。
 第3回 電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質 電子資料の収集・選択・利用、課題 ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。
 第4回 地域資料 地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。
 第5回 行政資料(政府刊行物)、灰色文献 行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。
 第6回 情報資源の生産(出版)と流通(1) 出版、書店、図書館、出版流通経路。
 第7回 情報資源の生産(出版)と流通(2) 再販制度、主な出版社に関する基礎知識。
 第8回 図書館業務と情報資源に関する知識(主な著者に関する基礎知識を含む)。
 第9回 コレクション形成の理論 蔵書構成論、図書選択論。
 第10回 コレクション形成の方法(1) 資料の選択・収集・評価。
 第11回 コレクション形成の方法(2) 選択ツールの利用、選定、評価。
 第12回 人文・社会科学分野の情報資源とその特質
 第13回 科学技術分野の情報源とその特質
 第14回 資料の管理(1) 資料の受入・除籍・保存・管理。
 第15回 資料の管理(2) 資料の装備・補修・排架・展示・点検等。

授業以外での学習方法

居住地の近辺又は帰省先にある公共図書館を訪問し、次の4点を調査して第8回目授業に、A4レポートで提出する。ただし、図書館員に尋ねることはしない。①所蔵資料の種類 ②行事や催し物などの事業内容 ③訪問した図書館の感想 ④開架架の排架図

教科書

図書館情報資源概論 JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ8

著者： 馬場俊明

出版社： 日本図書館協会

出版年： 2012

ISBN： 9784820412175

参考書

図書館情報資源概論

著者： 高山正也・平野英俊

出版社： 樹村房

出版年： 2012

ISBN： 978488367208

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **情報資源組織論 <a>**

担当者 福井 多恵子

テーマ

図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ。

獲得目標

図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報原の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。

授業の内容

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

内 容

- 第1回 情報資源組織化の意義(1) 図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
- 第2回 情報資源組織化の意義(2) 多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
- 第3回 資料コントロール 意義、歴史、国際標準について説明
- 第4回 書誌情報の作成・流通・管理 書誌ユーティリティ、OPAC, MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
- 第5回 コンピュータによる目録作成の実際 流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
- 第6回 目録法の基礎 記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データなどの説明
- 第7回 記述目録法の基礎 記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
- 第8回 記述の単位と順序／記述目録作成の実際(1) 書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
- 第9回 記述目録作成の実際(2) 各書誌的事項作成の説明
- 第10回 記述目録作成の実際(3) 各書誌的事項および標目・排列について説明
- 第11回 主題目録法 主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
- 第12回 分類法の基礎(1) 分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
- 第13回 分類法の基礎(2) 列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
- 第14回 主題目録作成の実際「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
- 第15回 まとめと補足 情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書館記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明

授業以外での学習方法

事前に教科書の該当部分は勿論のこと、『日本目録規則』『日本十進分類法』『基本件名標目表』の該当箇所を精読のこと。大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPACやカード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。

教科書

情報資源組織論』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ-9)

著者: 柴田正美

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012

ISBN:

参考書

情報資源組織法

著者: 志保田務 他

出版社: 第一法規

出版年: 2012

ISBN:

情報資源組織論

著者： 田窪直規

出版社： 樹村房

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験（60%）

小テスト（30%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（10%）

小テストはレポートに振り替える場合があります。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **情報資源組織論 **

担当者 福井 多恵子

テーマ

図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ。

獲得目標

図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報原の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。

授業の内容

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

内 容

- 第1回 情報資源組織化の意義(1) 図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
- 第2回 情報資源組織化の意義(2) 多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
- 第3回 資料コントロール 意義、歴史、国際標準について説明
- 第4回 書誌情報の作成・流通・管理 書誌ユーティリティ、OPAC, MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
- 第5回 コンピュータによる目録作成の実際 流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
- 第6回 目録法の基礎 記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データなどの説明
- 第7回 記述目録法の基礎 記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
- 第8回 記述の単位と順序／記述目録作成の実際(1) 書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
- 第9回 記述目録作成の実際(2) 各書誌的事項作成の説明
- 第10回 記述目録作成の実際(3) 各書誌的事項および標目・排列について説明
- 第11回 主題目録法 主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
- 第12回 分類法の基礎(1) 分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
- 第13回 分類法の基礎(2) 列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
- 第14回 主題目録作成の実際「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
- 第15回 まとめと補足 情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書館記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明

授業以外での学習方法

事前に教科書の該当部分は勿論のこと、『日本目録規則』『日本十進分類法』『基本件名標目表』の該当箇所を精読のこと。大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPACやカード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。

教科書

情報資源組織論』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ-9)

著者: 柴田正美

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012

ISBN:

参考書

情報資源組織法

著者: 志保田務 他

出版社: 第一法規

出版年: 2012

ISBN:

情報資源組織論

著者： 田窪直規

出版社： 樹村房

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験（60%）

小テスト（30%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（10%）

小テストはレポートに振り替える場合があります。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **学校経営と学校図書館**

担当者 村岡 益子

テーマ

学校図書館の理念と意義を学校教育の抱える課題の中に位置づけて理解する。

獲得目標

今日の学校教育の諸課題をふまえ、学校図書館の教育的意義及び司書教諭の果たすべき任務について理解し、意欲的・創造的に活動する司書教諭をめざす。

授業の内容

当科目が講義科目全体の総論的な位置づけであることを踏まえ、まず学校教育における学校図書館の果たす役割等、学校図書館全般について論じ、基本的理解を図る。次に教師として、学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と職務を明確にし、校内の協力体制づくり、司書教諭としての研修の重要性にふれる。さらに、学校図書館メディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的理解を図る。

内 容

- 第1回 学校図書館の理念と教育的意義
- 第2回 生涯学習社会・知識基盤社会と学校図書館
- 第3回 学校図書館の発展と課題
- 第4回 教育行政と学校図書館
- 第5回 学校図書館法と関係法令
- 第6回 教育サービスとしての学校図書館施策
- 第7回 学校経営組織における学校図書館
- 第8回 学校図書館のマネジメント・サイクル
- 第9回 司書教諭の任務と役割
- 第10回 学校内の協力体制と司書教諭の職務
- 第11回 学校図書館メディアの構築と管理
- 第12回 学校図書館活動の対象と領域
- 第13回 学校図書館活動の内容と方法
- 第14回 「読む力」と「読書へのアニマシオン」
- 第15回 学校図書館が築くネットワーク

授業以外での学習方法

母校を訪問し、無償で図書館ボランティアを体験させてもらう。また、必要な事前学習については、適宜指示する。

教科書

学校経営と学校図書館

著者：「シリーズ学校図書館学」編集委員会編

出版社：全国学校図書館協議会

出版年：2011年

ISBN：4-7933-2242-6

加えて、適宜、講義の理解に必要な「印刷資料」を配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』

著者：全国学校図書館協議会編

出版社：全国学校図書館協議会
出版年：2012年

ISBN: 4-7933-0087-5

成績評価

試験（50%）

小テスト（0%）

授業中課題（10%）

授業中発表等（10%）

参加度（30%）

出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、授業中の発表内容、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 読書と豊かな人間性

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

子どもが読書することの意義、子どもに読書を薦める意義について自分なりの考えを持つ。また、学校図書館における読書教育の方策についての知識と理解を獲得する。子どもを本好きにするために何ができるか、読書教育と環境について考える

授業の内容

子どもの読書の意義について理解を深め、読書資料をジャンルごとに解説し、子供を本好きにするためのさまざまな技術や方法についても学ぶ。

内 容

- 第1回 子どもの読書の現状
 - 第2回 子どもの読書と人間形成
 - 第3回 学校教育における読書
 - 第4回 発達段階と読書
 - 第5回 小学生、中学生、高校生の読書
 - 第6回 読書指導の実際
 - 第7回 子どもを読書に誘う方法(1)読み聞かせとストーリーテリング
 - 第8回 子どもを読書に誘う方法(2)ブックトーク
 - 第9回 子どもを読書に誘う方法(3)朝の読書 ほか
 - 第10回 読書資料の種類と活用(1)絵本
 - 第11回 読書資料の種類と活用(2)児童文学 ほか
 - 第12回 読書資料の種類と活用(3)昔話・伝承文学、知識の本
 - 第13回 読書活動における司書教諭の役割、「図書館の自由」と「読書の秘密」
 - 第14回 生涯学習への読書、家庭・地域・公共図書館との連携、協力
 - 第15回 子ども読書活動の推進
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

教科書

読書と豊かな人間性

著者： 朝比奈大作 編

出版社： 樹村房

出版年： 2002

ISBN： 9784883670932

参考書

学校図書館発絵本ガイドブック

著者： 三宅興子ほか著

出版社： 翰林書房

出版年： 2004

ISBN： 978-87737-191-3

読書力

著者： 齊藤孝 著

出版社： 岩波書店

出版年： 2002

ISBN: 9784004308011

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 博物館学概論

担当者 小林 裕子

テーマ

博物館・美術館の現状と問題点

獲得目標

博物館に関する基礎的知識を理解し、博物館の現状と問題点を学び、その解決法を考える。

授業の内容

受講生に現代の博物館、美術館が抱える問題点について理解させ、今後のあり方について考えさせる。さらに経験をふまえた展示や運営などの具体的な事例について講義する。

内 容

- 第1回 博物館学の目的・方法・構成 博物館学の目的・方法・構成を学ぶ。授業の進め方についてのガイダンスを兼ねる。
 - 第2回 博物館学史 博物館学の歴史について学ぶ
 - 第3回 博物館とは何か① 博物館の定義と種類(館種、設置者別、法的区分等)を学ぶ
 - 第4回 博物館とは何か② 博物館の目的と機能を学ぶ
 - 第5回 博物館の歴史と現状① 我が国の博物館・美術館
 - 第6回 博物館の歴史と現状② 欧米の博物館・美術館1
 - 第7回 博物館の歴史と現状③ 欧米の博物館・美術館2
 - 第8回 博物館の歴史と現状④ 中国の博物館
 - 第9回 博物館の歴史と現状⑤ 韓国の博物館
 - 第10回 博物館の歴史と現状⑥ 博物館、美術館の問題—展覧会について
 - 第11回 博物館の歴史と現状⑦ 博物館、美術館の問題—収集について
 - 第12回 学芸員の役割① 学芸員の定義・役割について学ぶ
 - 第13回 学芸員の役割② 学芸員の実態について学ぶ
 - 第14回 博物館関係法令 博物館関係法令について学ぶ
 - 第15回 まとめ 21世紀の博物館、美術館のあり方
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 ()

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 博物館資料論

担当者 五十川 伸矢

テーマ

博物館資料の収集保管・調査研究・整理活動の方法

獲得目標

博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。

授業の内容

博物館における調査研究と資料公開の方法、すなわち、博物館資料の収集・調査研究・展示の方法を理解する。博物館資料の種類(文献・考古・民俗・自然史など)ごとに、その特徴と研究方法、博物館での研究と公開の方法を解説する。

内 容

- 第1回 博物館資料には、どんなものがあるか
 - 第2回 博物館資料の収集方法
 - 第3回 見学実習① 学外授業 博物館参観
 - 第4回 遺跡博物館の展示方法
 - 第5回 博物館資料の調査研究① 考古資料(1)
 - 第6回 博物館資料の調査研究② 考古資料(2)
 - 第7回 博物館資料の調査研究③ 民俗資料
 - 第8回 博物館資料の調査研究④ 歴史資料
 - 第9回 博物館資料の調査研究⑤ 美術資料
 - 第10回 見学実習② 学外授業 博物館参観
 - 第11回 博物館資料の調査研究⑥ 自然史資料
 - 第12回 博物館資料の調査報告書(図録)の編集
 - 第13回 博物館学芸員による資料収集・調査研究活動(講演会)
 - 第14回 博物館資料の調査研究展示普及活動の課題
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

博物館・美術館・資料館を訪ね、展示している資料を観察して、展示内容と展示の仕方を学習する。とくに京都国立博物館・奈良国立博物館は、キャンパスメンバーなので、頻繁に活用すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 博物館資料保存論

担当者 篠 雅廣

テーマ

獲得目標

博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う

授業の内容

博物館等に所蔵の文化財資料について、その保存に関する科学的手法を学ぶとともに、実際の博物館における実態を学ぶことで文化財保存とその環境、博物館の役割について学ぶ

内 容

- 第1回 資料保存の意義
 - 第2回 文化財保存における国内外の状況①
 - 第3回 文化財保存における国内外の状況②
 - 第4回 資料の状態調査・現状把握
 - 第5回 資料の修復・修理
 - 第6回 資料の梱包と輸送1
 - 第7回 資料の梱包と輸送2
 - 第8回 博物館資料の保存環境事例1
 - 第9回 博物館資料の保存環境事例2
 - 第10回 学外授業① 博物館資料の保存環境事例3
 - 第11回 地域文化資源の保存と活用事例1
 - 第12回 地域文化資源の保存と活用事例2
 - 第13回 学外授業② 地域文化資源の保存と活用事例3
 - 第14回 環境保全と博物館
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

講義中に適宜指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 博物館実習 I <a>

担当者 五十川 伸矢・宇野 日出生

テーマ

《五十川伸矢》考古遺物の取り扱いと調査法 《宇野日出生》古文書整理の基本を学ぶ

獲得目標

実習 I では、考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを目標とする。

授業の内容

考古資料の実測図・拓本・解説図の作成技術を身につける。また、古文書整理の技術習得をめざす。

内 容

- 第1回 【事前指導1】実習に係る事前指導と、実測図と拓本の技術解説
 - 第2回 実測図の意味と線画を描く基礎的練習
 - 第3回 実測図の作成①
 - 第4回 実測図の作成②
 - 第5回 解説図の作成
 - 第6回 拓本の作成
 - 第7回 見学実習① 学外授業 博物館参観
 - 第8回 【事後指導1】実習総括
 - 第9回 【事前指導2】実習に係る事前指導と、古文書の扱い方
 - 第10回 見学実習② 学外授業 博物館参観
 - 第11回 古文書の解説と整理(冊子を中心に)
 - 第12回 古文書の解説と整理(冊子を中心に)
 - 第13回 古文書の解説と整理(状を中心に)
 - 第14回 古文書の解説と整理(状を中心に)
 - 第15回 【事後指導2】実習総括
-

授業以外での学習方法

《五十川 伸矢》各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている考古資料を観察して、その意義について学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask403d110

《五十川 伸矢》試験(20%) 小テスト(0%) 授業中課題(60%) 授業中発表等(0%) 参加度(20%) 《宇野日出生》試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(50%) 授業中発表等(0%) 参加度(50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 博物館実習 I

担当者 五十川 伸矢・宇野 日出生

テーマ

《五十川伸矢》考古遺物の取り扱いと調査法 《宇野日出生》古文書整理の基本を学ぶ

獲得目標

実習 I では、考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを目標とする。

授業の内容

考古資料の実測図・拓本・解説図の作成技術を身につける。また、古文書整理の技術習得をめざす。

内 容

- 第1回 【事前指導1】実習に係る事前指導と、実測図と拓本の技術解説
- 第2回 実測図の意味と線画を描く基礎的練習
- 第3回 実測図の作成①
- 第4回 実測図の作成②
- 第5回 解説図の作成
- 第6回 拓本の作成
- 第7回 見学実習① 学外授業 博物館参観
- 第8回 【事後指導1】実習総括
- 第9回 【事前指導2】実習に係る事前指導と、古文書の扱い方
- 第10回 見学実習② 学外授業 博物館参観
- 第11回 古文書の解読と整理(冊子を中心に)
- 第12回 古文書の解読と整理(冊子を中心に)
- 第13回 古文書の解読と整理(状を中心に)
- 第14回 古文書の解読と整理(状を中心に)
- 第15回 【事後指導2】実習総括

授業以外での学習方法

《五十川 伸矢》各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている考古資料を観察して、その意義について学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask403d112

《五十川 伸矢》試験(20%) 小テスト(0%) 授業中課題(60%) 授業中発表等(0%) 参加度(20%) 《一》試験(0%)
小テスト(0%) 授業中課題(50%) 授業中発表等(0%) 参加度(50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 博物館実習Ⅲ <a>

担当者 木下 達文

テーマ

博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。

獲得目標

博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物(編集物)などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつづいて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。また、博物館の現場における実務を経験すること(館園実習)によって、博物館への理解をよりいっそう深める。

授業の内容

現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術(おもに二次資料の制作と利用)を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。

内 容

- 第1回 写真機(カメラ)の構造 博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。
- 第2回 博物館における資料撮影について 博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。
- 第3回 写真機の取り扱い ブローニカカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。
- 第4回 写真展の考え方 撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ(資料)の設定と、展示展開を考える。
- 第5回 資料撮影の実際(1) 撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。
- 第6回 資料撮影の実際(2) 1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。
- 第7回 写真パネルの制作(1) 撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用し作成指導する。
- 第8回 写真パネルの制作(2) 写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンペーンボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。
- 第9回 図録編集の実務(1) 博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。
- 第10回 図録編集の実務(2) 編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。
- 第11回 レプリカ資料の制作(1) 博物館においては、写真とともにレプリカ(複製資料)も多く取り扱う。ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。
- 第12回 レプリカ資料の制作(2) ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。
- 第13回 写真展示の実際(1) 自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。
- 第14回 写真展示の実際(2) 写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説などをも行う。
- 第15回 バリエーション(自己評価・他者評価) 自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。
- 第16回 【実習直前ガイダンス】 実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導
- 第17回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第18回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第19回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第20回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第21回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第22回 【事後指導】レポートの提出・実習まとめ

授業以外での学習方法

実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。

教科書

参考書

博物館学実習マニュアル

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年： 2002

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（30）

授業中発表等（30）

参加度（40）

特に出席を重視する

参考URL

2014 Syllabus

科目名 博物館実習Ⅲ

担当者 木下 達文

テーマ

博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。

獲得目標

博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物(編集物)などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつつじて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。また、博物館の現場における実務を経験すること(館園実習)によって、博物館への理解をよりいっそう深める。

授業の内容

現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術(おもに二次資料の制作と利用)を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。

内 容

- 第1回 写真機(カメラ)の構造 博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。
- 第2回 博物館における資料撮影について 博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。
- 第3回 写真機の取り扱い ブローニカカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。
- 第4回 写真展の考え方 撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ(資料)の設定と、展示展開を考える。
- 第5回 資料撮影の実際(1) 撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。
- 第6回 資料撮影の実際(2) 1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。
- 第7回 写真パネルの制作(1) 撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用し作成指導する。
- 第8回 写真パネルの制作(2) 写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンペーンボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。
- 第9回 図録編集の実務(1) 博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。
- 第10回 図録編集の実務(2) 編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。
- 第11回 レプリカ資料の制作(1) 博物館においては、写真とともにレプリカ(複製資料)も多く取り扱う。ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。
- 第12回 レプリカ資料の制作(2) ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。
- 第13回 写真展示の実際(1) 自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。
- 第14回 写真展示の実際(2) 写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説などをも行う。
- 第15回 バリエーション(自己評価・他者評価) 自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。
- 第16回 【実習直前ガイダンス】 実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導
- 第17回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第18回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第19回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第20回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第21回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第22回 【事後指導】レポートの提出・実習まとめ

授業以外での学習方法

実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。

教科書

参考書

博物館学実習マニュアル

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年： 2002

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（30）

参加度（40）

特に出席を重視する

小テスト（0）

授業中発表等（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語教材研究**

担当者 佐野 裕子

テーマ

日本語教育の様々な教材を分析し、学習レベルや学習目的による教材の特徴や違いを学ぶ

獲得目標

初級教材、中上級教材を分析し、初級と中上級との相違点や扱われる内容の違いを理解する。年代の異なる教材を分析し、年代による変化を把握する。

授業の内容

授業は、講義形式ではなく、学生の発表を主体とした討議形式によって行う。前半はグループ形式で教材を分析しその内容を発表してもらい、後半は個人で特定のレベルを対象として教材作成を行ってもらう。

内 容

- 第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明・担当教材の決定
 - 第2回 教材分析の方法1(学習段階と到達目標)
 - 第3回 教材分析の方法2(教材分析の観点)
 - 第4回 初級教材(『日本語初歩』『An Introduction to Modern Japanese』)の分析・発表・討論1
 - 第5回 初級教材(『初級日本語 げんき』『Situational Functional Japanese』)の分析・発表・討論2
 - 第6回 初級教材(『新文化初級日本語』『みんなの日本語初級』)の分析・発表・討論3
 - 第7回 中上級教材(『中級日本語(東京外国語大学)』)の分析・発表・討論1
 - 第8回 中上級教材(『テーマ別中級から学ぶ日本語』)の分析・発表・討論2
 - 第9回 中上級教材(『文化中級日本語 I・II』)の分析・発表・討論3
 - 第10回 中上級教材(『表現テーマ別にほんご作文の方法』)の分析・発表・討論4
 - 第11回 中上級教材(『日本語中級J301』)の分析・発表・討論5
 - 第12回 中上級教材(『日本語生中継』)の分析・発表・討論6
 - 第13回 教材作成実習(学習段階・学習項目の検討)
 - 第14回 教材作成実習(教材の選定)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

自分が担当しない教材についても、必ず教材研究を行うことが望ましい。地域の日本語教室への見学や参加などを自主的に行うこと。

教科書

テキストはプリントを作成

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

ask6011510

試験 (20)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会教育計画 I**

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

学習者の理解と学習課題の把握

獲得目標

社会教育計画策定の前提として、地域に問わず多様な学習者を理解し、生活課題と学習課題を探ることをねらいとする。

授業の内容

講義を主とするが、受講生による表現も行う

内 容

- 第1回 オリエンテーション 社会教育計画とは
 - 第2回 婦人教育から女性の学習へ
 - 第3回 子育てに関わる学びとネットワークづくり
 - 第4回 女性がはたらくことと学び
 - 第5回 今日の青少年教育施設
 - 第6回 子どもと地域 プレイパークの現在
 - 第7回 エイジングはよくないことか？高齢者の可能性
 - 第8回 文化の創造者としての高齢者
 - 第9回 障害者の学習
 - 第10回 障害者の自己表現と自立支援
 - 第11回 在日外国人の現在と学習課題
 - 第12回 多文化共生社会にかかわる学習
 - 第13回 まちづくりと社会教育計画
 - 第14回 企画・考察の交流とまとめ(1)
 - 第15回 企画・考察の交流とまとめ(2)
-

授業以外での学習方法

市町村の社会教育政策に関心を持つ。授業中に提示する参考文献を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会教育演習**

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

社会教育の学習方法

獲得目標

小集団による話し合い、調査など社会教育実践における主要な学習方法を習得する

授業の内容

受講生の関心に基づいたテーマを設定し、グループワークやアクティビティによる学習プログラムを共同で構築する訓練を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 自己紹介
 - 第2回 関心を持つテーマについて話し合う
 - 第3回 話し合いを発展させる
 - 第4回 ゲーム・スポーツによる親睦交流
 - 第5回 郷土料理を通じて知る地域
 - 第6回 調理実習の企画
 - 第7回 調理実習の実施
 - 第8回 学習のふりかえり
 - 第9回 地域社会教育の調査
 - 第10回 地域社会教育の調査
 - 第11回 調査のまとめ
 - 第12回 調査結果の発表準備
 - 第13回 発表・交流
 - 第14回 発表・交流
 - 第15回 全体のまとめと評価
-

授業以外での学習方法

日頃から様々な問題に関心を持ち、自分の意見をまとめるようにする。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

ask602d310

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語教授法 I**

担当者 中川 裕子

テーマ

日本語教育概論

獲得目標

日本語教育を理解する上で必要な基礎知識を身につける。

授業の内容

日本語教育の現状、日本語教育の歴史、外国語教授法、日本語教育の内容、言語の習得を主に扱う。授業は、基本的に講義形式であるが、内容によっては、課題を与え、発表(もしくは提出)を課す。

内 容

- 第1回 日本語教育の現状
 - 第2回 日本語教育現場の実際と日本語教育に従事する人々の役割
 - 第3回 日本語教育の歴史①
 - 第4回 日本語教育の歴史②
 - 第5回 日本語教育の歴史③
 - 第6回 外国語教授法①(文法訳読法、直接法)
 - 第7回 外国語教授法②(オーディオリンガルメソッド)
 - 第8回 外国語教授法③(コミュニカティブアプローチ他)
 - 第9回 日本語教育の内容①(初級で扱う文型)
 - 第10回 日本語教育の内容②(入門期の発音指導)
 - 第11回 日本語教育の内容③(入門期の文字、語彙の指導範囲とその方法)
 - 第12回 日本語教育の内容④(指導の手順、指導の流れ)
 - 第13回 日本語教育の内容⑤(指導準備、指導内容の知識の整理)
 - 第14回 日本語教育の内容⑥(指導案作成～実践へ)、言語の習得
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

日本語教育関係の文献を数多く読む。日本語教育関係のみならず、文化、日常社会生活に関する様々なものに多く接する。異文化理解に関する文献や、メディアからの情報に接する。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新・はじめての日本語教育 基本用語事典

著者: 高見澤孟監修

出版社: アスク

出版年: 2004

ISBN:

成績評価

ask702d510

試験 (30%)
授業中課題 (30%)
参加度 (10%)

小テスト (10%)
授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語教授法Ⅲ**

担当者 佐野 裕子

テーマ

初級レベル(主に初級前期)の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。

獲得目標

これまで「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」において学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、英語などの媒介語を使用しない直接法で初級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。

授業の内容

初級レベル(主に初級前期)の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。具体的には、模擬授業を通して、受講生同士コメントを加え、日本語初級文型の導入の仕方を学ぶ。授業は講義形式ではなく、毎回2～3名の学生が自分の担当する課の学習項目についての模擬授業を行い、その内容についてクラス全体でフィードバックする。その際各自の模擬授業は録画し、授業後はその映像を元に教案や教材を修正し、翌々週それらを担当教員に再提出する。※「日本語教授法Ⅰ」、「日本語教授法Ⅱ」を履修済みまたは今年度履修登録している学生、日本語教員養成に関する科目(日本語学概説など)をいくつか履修済みまたは登録している学生を対象としている。基本的に「日本語教授法Ⅲ」以外の日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課の決定
- 第2回 初級指導概説(初級の学習目標と指導の流れ)
- 第3回 初級指導概説(文型の定着方法と教案の作り方)
- 第4回 模擬授業1(みんなの日本語初級Ⅰ 1課と2課前半)
- 第5回 模擬授業2(みんなの日本語初級Ⅰ 2課後半と3課)
- 第6回 模擬授業3(みんなの日本語初級Ⅰ 4課と5課前半)
- 第7回 模擬授業4(みんなの日本語初級Ⅰ 5課後半と6課)
- 第8回 模擬授業5(みんなの日本語初級Ⅰ 7課と8課前半)
- 第9回 模擬授業6(みんなの日本語初級Ⅰ 8課後半と9課)
- 第10回 模擬授業7(みんなの日本語初級Ⅰ 10課と11課前半)
- 第11回 模擬授業8(みんなの日本語初級Ⅰ 11課後半と12課)
- 第12回 模擬授業9(みんなの日本語初級Ⅰ 13課と14課前半)
- 第13回 模擬授業10(みんなの日本語初級Ⅰ 14課後半と15課)
- 第14回 模擬授業11(みんなの日本語初級Ⅰ 16課と17課前半)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自分が担当しない課でも、必ず教材研究を行うこと、教案についても作成することが望ましい。日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。また日本語学校、地域の日本語教室などへの見学や参加などを主体的に行うこと。

教科書

みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊

著者:

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 2012

ISBN: 4883196038

参考書

参考文献は適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（30）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（40）

参加度（20）

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 データ分析 I

担当者 片岡 裕介

テーマ

獲得目標

本科目は、より高度な統計手法である「多変量解析法」のいくつかの手法について、その基本的な考え方と方法を身につけることを目的としている。授業では、「重回帰分析」のほか、「主成分分析」、「相関分析」、「分散分析」、「クラスター分析」、「判別分析」、「因子分析」などを取り上げ、その基本的な考え方、方法、利用事例などを学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業ガイダンス: 社会調査と多変量解析
 - 第2回 相関分析の方法と利用
 - 第3回 分散分析の考え方と方法
 - 第4回 分散分析の利用
 - 第5回 重回帰分析の理論(1): 最小二乗法と決定係数
 - 第6回 重回帰分析の理論(2): 回帰モデルの仮説検定
 - 第7回 重回帰分析の実際
 - 第8回 相関分析・分散分析・重回帰分析のレビュー
 - 第9回 主成分分析の方法と利用
 - 第10回 クラスター分析の方法と利用
 - 第11回 判別分析の方法と利用
 - 第12回 因子分析の考え方と方法
 - 第13回 因子分析の利用
 - 第14回 その他のモデル(数量化理論など)
 - 第15回 主成分分析・クラスター分析・判別分析・因子分析・その他のレビュー
-

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

ask802d110

遅刻・早退2回を欠席1回とみなし、5回を超えて欠席すると単位を取得できない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 特別研究 I (言M1前) <M>

担当者 安達 太郎

テーマ

修士論文のテーマの模索

獲得目標

1) 修士論文のテーマを決定する。2) 先行研究を批判的に読解する力を養う。3) 作品や作家に対する理解を深める。

授業の内容

修士論文の研究テーマを確定するために、作品の読解や先行研究の検討を行う。

内 容

- 第1回 受講生の報告と討論(1)
 - 第2回 受講生の報告と討論(2)
 - 第3回 受講生の報告と討論(3)
 - 第4回 受講生の報告と討論(4)
 - 第5回 受講生の報告と討論(5)
 - 第6回 受講生の報告と討論(6)
 - 第7回 受講生の報告と討論(7)
 - 第8回 受講生の報告と討論(8)
 - 第9回 受講生の報告と討論(9)
 - 第10回 受講生の報告と討論(10)
 - 第11回 受講生の報告と討論(11)
 - 第12回 受講生の報告と討論(12)
 - 第13回 受講生の報告と討論(13)
 - 第14回 受講生の報告と討論(14)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

課題とする図書や論文を事前に読んでレジュメを作っておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (0%)

参加度 (30%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (70%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 言語文化研究 I <M>

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語文法の発想

獲得目標

1)日本語がどのようなしくみを持つ言語であるのか理解する。2)自分たちが日常的に使っている日本語でさえ、私たちにとって未知な存在であることを理解する。3)2)を通じて、自分の立場を絶対化せず、相対的に考えるという視点を学ぶ。

授業の内容

日本語を母語とする者にとって、日本語はあらためて考える余地がないほど当たり前の存在に見える。この授業では、日本語のしくみについて私たちが驚くほど「知らない」ことを明らかにすることを通じて日本語文法の発想を理解させる。

内 容

- 第1回 文法とは何か？
 - 第2回 日本語の「内側」と「外側」
 - 第3回 名詞につく助詞
 - 第4回 格と文型
 - 第5回 主格・主語・主題
 - 第6回 格助詞の意味のゆらぎ
 - 第7回 場所表現と場所的表現
 - 第8回 動詞の意志性と関わる言語現象
 - 第9回 受身のタイプと意味的性質
 - 第10回 使役の意味の広がり
 - 第11回 方向性の拡張
 - 第12回 恩恵の拡張
 - 第13回 動きのとらえ方
 - 第14回 時間の表し方
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

1)授業で配布する資料をよく読んでください。2)『日本語学』や『月刊言語』といった雑誌のバックナンバーを手にとって、興味があるテーマを扱った論文を読んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (60)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 応用言語学研究 I <M>

担当者 安達 太郎

テーマ

文章日本語の成立と近代日本文学

獲得目標

1)近代日本文学と近代的な文章日本語の成立が深く関わっていることを理解する。2)明治20年代の近代日本文学について理解を深める。

授業の内容

明治20年代に言文一致の文体で登場した山田美妙を主たるテーマとして、美妙が近代的な作品を生み出すために必要とした日本語のイメージがどのようなものだったかについて考える。講義形式だが、一部受講生との討論を取り入れる。

内 容

- 第1回 山田美妙とその時代
 - 第2回 『夏木立』収録作品の分析1
 - 第3回 『夏木立』収録作品の分析2
 - 第4回 『夏木立』収録作品の分析3
 - 第5回 『夏木立』収録作品の分析4
 - 第6回 『夏木立』収録作品の分析5
 - 第7回 『夏木立』収録作品の分析6
 - 第8回 『夏木立』収録作品の分析7
 - 第9回 『夏木立』収録作品の分析8
 - 第10回 『夏木立』収録作品の分析9
 - 第11回 『夏木立』収録作品の分析10
 - 第12回 『夏木立』収録作品の分析11
 - 第13回 『夏木立』収録作品の分析12
 - 第14回 『夏木立』収録作品の分析13
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業までに本文を読んでおくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (0%)

参加度 (70%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本文学研究Ⅲ <M>

担当者 林 久美子

テーマ

歌舞伎について学ぶ

獲得目標

京都を代表する文化のひとつであり、世界遺産でもある歌舞伎の特色を知る。

授業の内容

以下を予定していますが、みなさんの質問とリクエストに応じて進めます。

内 容

- 第1回 歌舞伎とは
 - 第2回 出雲の阿国と南座のこと
 - 第3回 女形の魅力
 - 第4回 市川団十郎と江戸歌舞伎
 - 第5回 歌舞伎十八番
 - 第6回 坂田藤十郎と近松門左衛門
 - 第7回 三大名作①
 - 第8回 三大名作②
 - 第9回 三大名作③
 - 第10回 任侠劇『夏祭浪花鑑』
 - 第11回 鶴屋南北の怪談劇
 - 第12回 現代の歌舞伎
 - 第13回 受講生による作品紹介①
 - 第14回 受講生による作品紹介②
 - 第15回 これまでのまとめ
-

授業以外での学習方法

5月には南座で歌舞伎鑑賞教室があります。興味のある人は情報を見て足を運んでください。また、メディアセンター所蔵のビデオやテレビ、シネマ歌舞伎などでも鑑賞してください。活字になった脚本も図書館に多数あります。

教科書

歌舞伎の中の日本

著者： 松井今朝子

出版社： 日本放送出版協会

出版年： 2008

ISBN： 978414011532

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。発表者はレポートを免除されることがあります。

参考URL

日本芸術文化振興会

<http://www.ntjjac.go.jp/bunraku.html>

文化デジタルライブラリー

<http://www2.ntjjac.go.jp/dglib/>

2014 Syllabus

科目名 日本語学研究 I <M>

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語教育に必要な文法知識について考える

獲得目標

1)日本語教育における文法研究の現状を理解する。2)日本語教育の現場にフィードバック可能な文法のあり方について理解する。

授業の内容

庵功雄ほか『初級を教える人のために日本語文法ハンドブック』を読み進めていく。受講生の報告にもとづいて解説・討論を行う。

内 容

- 第1回 日本語教育と文法
 - 第2回 受講生の報告と討論1
 - 第3回 受講生の報告と討論2
 - 第4回 受講生の報告と討論3
 - 第5回 受講生の報告と討論4
 - 第6回 受講生の報告と討論5
 - 第7回 受講生の報告と討論6
 - 第8回 受講生の報告と討論7
 - 第9回 受講生の報告と討論8
 - 第10回 受講生の報告と討論9
 - 第11回 受講生の報告と討論10
 - 第12回 受講生の報告と討論11
 - 第13回 受講生の報告と討論12
 - 第14回 受講生の報告と討論13
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

報告の準備をすること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (0%)

参加度 (30%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (70%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本近・現代史研究 I <M>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

日本近代地域社会の変容

獲得目標

幕末から明治そして大正という激動の時代を地域の視点から見た場合どのような像を提示できるかを示す。

授業の内容

日本近代の地域社会が幕末から明治・大正にかけてどのように変容していくか京都府・滋賀県を対象に話を

内 容

- 第1回 前期で何を話すか(概説)
 - 第2回 幕末の激動を庶民はどうみたか
 - 第3回 同上
 - 第4回 王政復古の号令から鳥羽・伏見の戦いへ
 - 第5回 東京奠都
 - 第6回 国の「文明開化」政策は地域にどのように入っていくか(小学校、徴兵、地租改正)
 - 第7回 同上
 - 第8回 議会制度の導入(府県会、町村会・帝国議会)
 - 第9回 明治維新後、交通体系はどのように変わってくるか(鉄道、道路、舟運)
 - 第10回 同上
 - 第11回 日清・日露戦争を地域社会はどのようにうけとめたのか
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 日露戦後の地域社会
 - 第15回 同上
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ヨーロッパ・アメリカ女性史研究 I <M>

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリス女性生活誌1

獲得目標

近世以降のイギリスにおける女性の在り様の変化、多様な活動を検証することを通して、「西洋近代」と女性史のかかわりを考察する

授業の内容

上記のテーマ、目的を1年かけて追及し、前期においては、以下のトピックについて講義する

内 容

- 第1回 女性史について 史学史的アプローチ
- 第2回 近世の社会構造と女性① ジェントルマン支配のなかで
- 第3回 近世の社会構造と女性② 農業構造から考える
- 第4回 近世の社会構造と女性③ 家族構造から考える
- 第5回 近世の社会構造と女性④ 産業革命を支えた存在
- 第6回 工業化社会の二類型の女性
- 第7回 「家庭の天使」の真実① 家庭機能の変容によって
- 第8回 「家庭の天使」の真実② 結婚は最大のビジネス
- 第9回 「家庭の天使」の真実③ フェミニズムの源泉
- 第10回 「conspicuous consumptionの担い手」の裏側① 余暇の商業化
- 第11回 「conspicuous consumptionの担い手」の裏側② モードの裏側で
- 第12回 「優雅な社会奉仕者」の持つ意味① 福音主義が残したもの
- 第13回 「優雅な社会奉仕者」の持つ意味② ディストリクト。ヴィジティング
- 第14回 「優雅な社会奉仕者」の持つ意味③ 社会進出の原動力
- 第15回 まとめと確認

授業以外での学習方法

毎回の授業の際に配るコメント・シートによる復習と予習 イギリス史の概説書の精読

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 考古資料研究 I <M>

担当者 一瀬 和夫

テーマ

東アジアにおける古代墳墓実像の再構築のための文献講読

獲得目標

研究テーマにそくした関連文献の講読を通して、基本となる資料を収集・整備や研究史の整理、そこから課題を抽出し、検討・解釈を行うという力を養う。今回は古代大型墳墓に焦点をあてる。

授業の内容

古代墳墓、特に磚室墓にかかわる中国の発掘報告書を再調査する視角から購読し、墳墓の細部構造の認識に至る。

内 容

- 第1回 東アジアにおける古代墳墓の概観
 - 第2回 東アジア初期の古代墳墓の抽出
 - 第3回 磚室墓の構造の把握
 - 第4回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
 - 第5回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
 - 第6回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
 - 第7回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
 - 第8回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
 - 第9回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
 - 第10回 磚室墓の発掘調査報告に係わる『文物』・『考古』・『報告書』の講読
 - 第11回 磚室墓の発掘調査内容の整理
 - 第12回 磚室墓の実態復元
 - 第13回 磚室墓群の構造の再構築の試み
 - 第14回 磚室墓群の比較・検討
 - 第15回 東アジアの古代墳墓の実像のまとめ
-

授業以外での学習方法

東アジア初期の古代大型墳墓資料を収集する

教科書

洛陽焼溝漢墓墓

著者： 中国科学院考古研究所編

出版社： 科学出版社

出版年： 1959

ISBN：

広州漢墓

著者： 中国科学院考古研究所編

出版社： 文物出版社出版

出版年： 1981

ISBN：

参考書

成績評価

試験（0）

授業中課題（40）

参加度（30）

小テスト（0）

授業中発表等（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 美術工芸資料研究 I <M>

担当者 小林 裕子

テーマ

日本美術形成とその展開

獲得目標

日本美術史の諸問題に触れ、作品の理解はもとより、従来の研究方法や研究史を客観的に分析評価できる視点を養うことを目標とする。

授業の内容

古代における芸術表現は自らの美意識を満足させるための造形活動ではなく、意識的に外来の文化を摂取しようとしていた為政者の要求によるものであった。つくり手たちはその要求に応えるべく外来文化の模倣を出発点として、技術や表現技法を取得していく。こうした時代を経た後、わが国独特の自然や民族性を織り込んだ、いわゆる和様という文化が確立されていくのである。本講義では、祖先から継承してきたわが国の特筆すべき美術作品の制作された時代背景や宗教観を理解しつつ、作品が我々に語りかけるものを感じてとってもらいたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 天寿國繡帳のイコノロジー
- 第3回 法隆寺再建非再建論争
- 第4回 阿修羅の面貌の秘密 興福寺西金堂釈迦集会像
- 第5回 造東大寺司の活動 大仏造立と正倉院宝物
- 第6回 唐代美術の日本への伝播 長安旧光宅寺石仏龕と聖林寺十一面観音像
- 第7回 新文化の刺激 唐招提寺金堂三尊と鑑真和上
- 第8回 空海のもたらした文化 東寺講堂諸像と曼荼羅
- 第9回 学外見学
- 第10回 煌めく浄土の世界 平等院・三十三間堂・浄瑠璃寺
- 第11回 治承の兵火と南都復興
- 第12回 運慶と東国の仏像
- 第13回 神護寺伝源頼朝像をめぐる諸問題
- 第14回 美術史的京都案内2014年度版
- 第15回 狩野永徳と長谷川等伯
- 第16回 理解度の確認

授業以外での学習方法

奈良や京都の寺院に足を運び、信仰対象としての作品の姿を実感する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本女性史研究 I <M>

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

獲得目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態、などの面から会得する。

授業の内容

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

内 容

- 第1回 原始・古代の女性労働
 - 第2回 都城の変遷と女性の生活
 - 第3回 律令制下の女性の地位
 - 第4回 平安京の成立
 - 第5回 女房としての紫式部
 - 第6回 平安女性の財産相続権
 - 第7回 平氏政権下の女性
 - 第8回 院政期の女院と女房
 - 第9回 武士の登場・武士の女性
 - 第10回 鎌倉幕府法にみる娘、妻、母、後家
 - 第11回 平安時代の出産、鎌倉時代の出産
 - 第12回 北条政子の生涯とその役割
 - 第13回 南北朝期の女性の地位変化
 - 第14回 日野重子と日野富子
 - 第15回 古代・中世の女性の地位をめぐって
-

授業以外での学習方法

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい

教科書

参考書

日本女性史

著者： 脇田・林・永原編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1987

ISBN:

乳母の力

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2005

ISBN:

日本中世女性史論

著者： 田端泰子著

出版社： 塙書房

出版年： 1994

ISBN：

高台院北政所おね

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN：

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN：

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（80）

授業中課題（）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化政策 I <M>

担当者 金武 創

テーマ

文化政策実践論

獲得目標

1)文化政策の先進事例から複眼的思考の重要性を学ぶ 2)学生が自らの経験を基礎に考えることを促す 3)個人の自立をデザインする公共政策のあり方を理解する

授業の内容

先進事例の紹介と時事問題の検討を出発点にしながら、文化政策を推進する方策を学ぶ。

内 容

- 第1回 文化政策とは何か イン트로ダクション
 - 第2回 私にとっての文化政策 受講生によるプレゼンテーションと議論
 - 第3回 地域文化と公共政策(1)市町村合併と文化施設
 - 第4回 地域文化と公共政策(2)行政改革と文化政策
 - 第5回 地域文化と公共政策(3)人口減少社会と自治体消滅
 - 第6回 地域文化と公共政策(4)ジェンダーと文化政策
 - 第7回 地域文化と公共政策(5)文化施設整備と財政赤字
 - 第8回 文化政策のデザイン(1) 社会計画の限界
 - 第9回 文化政策のデザイン(2) 公共的価値の対立
 - 第10回 文化政策のデザイン(3) 政治プロセス
 - 第11回 文化政策のデザイン(4) 政策決定
 - 第12回 文化政策のデザイン(5) 増分主義
 - 第13回 1980年代の文化政策
 - 第14回 1990年代の文化政策
 - 第15回 2000年以降の文化政策
-

授業以外での学習方法

時事問題に強い関心を持つこと

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

h511010510

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 地域経済・地域開発 I <M>

担当者 小森 治夫

テーマ

まちづくりの事例を学ぶ

獲得目標

まちづくりの担い手の視点から、全国の優れたまちづくりの事例を学ぶ

授業の内容

以下のまちづくりの事例について、テキストと映像資料を活用して学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 倉敷
 - 第3回 川越
 - 第4回 郡上八幡
 - 第5回 長浜
 - 第6回 近江八幡
 - 第7回 小樽
 - 第8回 函館
 - 第9回 角館
 - 第10回 妻籠
 - 第11回 小布施
 - 第12回 足助
 - 第13回 石見銀山
 - 第14回 内子
 - 第15回 由布院
-

授業以外での学習方法

教科書

証言・町並み保存

著者： 西村幸夫

出版社： 学芸出版社

出版年：

ISBN：

証言・まちづくり

著者： 西村幸夫

出版社： 学芸出版社

出版年：

ISBN：

参考書

h511011910

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (70)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **アート・マネジメント I <M>**

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アートマネジメントを学ぶ入り口

獲得目標

アートマネジメントが都市環境デザインにどう位置づけられるかを知る。アートマネジメントの基礎的用語を理解し説明できる。アートマネジメントの分類ができる。

授業の内容

ゲスト講師をできれば呼びたい。アーティストやアートマネージャーが呼びかけに来てくれることもあるので、楽しみに

内 容

- 第1回 これからの予定の紹介(冒頭に、これからの演劇ダンス公演のPRだとか、美術関係のボランティア募集などの呼びかけが随時行われることがあり、そこに登場する方々は、それぞれ新進気鋭のアートマネージャーなので、適宜、生のアートマネジメントの姿を挿入することを促進する。)
 - 第2回 アートマネジメントのABC
 - 第3回 アートマネジメントの定義と文化政策、まちづくりとの関係
 - 第4回 アーツプレイス(劇場ホール、美術館)とアーツカンパニー(劇団、楽団など)
 - 第5回 学外授業 演劇鑑賞 京都かその周辺(予定)
 - 第6回 アーツプレイス論～劇場、コンサートホール、ライブハウス、美術館、画廊の真実～
 - 第7回 アートの分類
 - 第8回 限界芸術論1・・・結婚式など冠婚葬祭を例示する
 - 第9回 限界芸術論2・・・ウェディングプランナーとフューネラルマネージャー
 - 第10回 アートマネジメントの分類と歴史
 - 第11回 アートマネージャーを招いて(外部講師)
 - 第12回 指定管理者制度など行政的マネジメント課題
 - 第13回 非営利民間活動の公共性～アーツNPOと企業メセナ
 - 第14回 限界芸術と先端芸術、伝統芸術、市場芸術の関係
 - 第15回 まとめ・・・アート(マネジメント)の公共性とは
-

授業以外での学習方法

アートマネジメントの基本文献を紹介したり配布するので、時間外によく読んでおくこと。生協の読書奨励制度を積極的に活用するととても役立つ。芸術鑑賞と文化ボランティアの学外での活動を評価する。

教科書

参考書

アート・マネジメント概論三訂版

著者： 伊藤裕夫ほか

出版社： 水曜社

出版年： 2009

ISBN：

文化政策学の展開

著者： 池上惇ほか

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN：

入門都市政策

著者： 真山達志ほか

出版社： 大学コンソーシアム京都

出版年： 2009

ISBN：

アーツマネジメントみち

著者： 小暮宣雄

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN：

分権時代の自治体文化政策

著者： 中川幾郎

出版社： 勁草書房

出版年： 2001

ISBN：

限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999

ISBN：

著作権とは何か

著者： 福井健策

出版社： 集英社

出版年： 2005

ISBN：

地域再生の罫

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010

ISBN：

未来型サバイバル音楽論

著者： 牧村憲一ほか

出版社： 中央公論新社

出版年： 2010

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（20）

授業中課題（30）

授業中発表等（0）

参加度（50）

毎回、A5版程度の用紙（出席確認を兼ねるもの）に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらう。欠席の場合はそれに替わるものをA5用紙で提出して15回をクリアすることをめざす。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄メインブログ

ツイッターブログ

<http://twilog.org/kogurenob>

Twilog(twitterのブログ)

2014 Syllabus

科目名 ミュージアム・マネジメント I <M>

担当者 木下 達文

テーマ

ミュージアム・マネジメントの考え方および事例研究

獲得目標

日本のミュージアムは近年の経済状況や財政的課題から、苦しい経営を迫られている。こうした状況の中で、1990年代中頃よりミュージアム・マネジメント(博物館経営)という概念とその学問が展開されるようになる。その基本的概念を学習するとともに、地域における文化施設の在り方を考察することを目的とする。

授業の内容

本授業ではこのミュージアム・マネジメントの考え方を民間事業とも関係させながら考えるとともに、いくつかの事例研究をあわせて行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーションーミュージアムマネジメント学の始まりー
- 第2回 ミュージアムの法的環境
- 第3回 ミュージアムの活動環境ー地域社会とミュージアムー
- 第4回 ミュージアムの設置
- 第5回 ミュージアムの運営
- 第6回 ミュージアムの種類
- 第7回 ミュージアムの組織
- 第8回 ミュージアムと地域政策
- 第9回 ミュージアム・ボランティアー地域社会の参加ー
- 第10回 ミュージアム・マーケティング
- 第11回 ミュージアムとアウトリーチ
- 第12回 ミュージアムの危機管理
- 第13回 ミュージアムと多様なサービス
- 第14回 地域社会とミュージアムのミッション
- 第15回 フィールドワーク(施設見学)※学期中に実施

授業以外での学習方法

教科書

参考書

『新しい博物館学』

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年：

ISBN：

『ひろがる日本のミュージアム』

著者： 千地万造・木下達文編

出版社： 晃洋書房

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **看護倫理論 <M>**

担当者 梶谷 佳子・高田 早苗

テーマ

ヘルスケアや看護実践、看護研究などの生じる倫理的ジレンマについて、看護倫理の理論や価値分析を通して、自己の考え方を見直し、構築する。過去の自身の体験や社会的に問題になった事象を用いた事例を検討する。

獲得目標

1.看護倫理の意義とその必要性について理論的、社会的な見地から考察できる。2.「倫理」の概念、原則、倫理的なジレンマについて理解する。3.生命倫理に対する考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地からそのあり様を理解する。4.看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義について理解する。5.看護倫理を実践していく上で必要な能力、方法について理解出来る。6.医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察する。7.看護倫理に対する課題とアプローチ、看護倫理に関する組織的な取り組みについて理解する。

授業の内容

看護の実践現場における倫理的諸問題を解決するのに役立つ指針や仕組み作りの基礎となる知識を学び、臨床の場で遭遇する倫理的ジレンマについて、その問題点を分析し、そこに関わる人々の関係や各人の立場を考慮して、解決策を検討する。これら一連のプロセスを通して、看護者としての役割を追求する。さらに看護を取り巻く医療現場における倫理的ジレンマや研究・教育に関する倫理的課題を分析し、倫理的課題への対応や倫理的コンサルテーションについて、看護の視点から考察し、看護における倫理観を向上させる。

内 容

- 第1回 学修内容の確認、学修希望、看護倫理に関して体験した問題、感じていること
- 第2回 倫理とは：生命倫理、臨床倫理、看護倫理
- 第3回 倫理の原則、倫理的意思決定モデル、看護の行動規範と倫理綱領
- 第4回 看護倫理に基づくケアリン、看護の責任と責務
- 第5回 看護倫理の概念、本質、哲学的基盤、意義
- 第6回 倫理コンサルテーションと倫理的意思決定モデルの活用
- 第7回 医療および看護場面における倫理的ジレンマの事例の検討(1)
- 第8回 医療および看護場面における倫理的ジレンマの事例の検討(2)
- 第9回 医療および看護場面における倫理的ジレンマの事例の検討(3)
- 第10回 医療および看護場面における倫理的ジレンマの事例の検討(4)
- 第11回 医療および看護場面における倫理的ジレンマについてプレゼンテーションと討論(1)
- 第12回 医療および看護場面における倫理的ジレンマについてプレゼンテーションと討論(2)
- 第13回 教育に関わる倫理的課題
- 第14回 研究に関わる倫理的課題
- 第15回 看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、研究倫理の取り組み、組織上の取り組み

授業以外での学習方法

教科書

看護実践の倫理、第2版

著者： サラT.フライ(片田範子他訳)

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2009

ISBN:

新版看護者の基本的責務

著者： 日本看護協会監修

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2009

ISBN:

参考書

看護倫理学

h701010710

著者: 松木光子

出版社: NOUVELLE HIROKAWA

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (備考を参照)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中の参加度:40%、プレゼンテーションと討論:30%、レポート:30% による総合評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 老年看護学 I <M>

担当者 沼本 教子.mitei

テーマ

高齢者看護を实践するうえで必要な理論と看護の役割

獲得目標

高齢者看護を实践するうえで重要となる自己の高齢者観について追及する。さらに、高齢者の看護実践において発生する現象を分析し、援助の発展につなげるための基礎となる概念および理論を探求する。これらの学習を通して、老年看護を担う高度実践家としての役割について考える。

授業の内容

内 容

- 第1回 老年期における発達課題および高齢者の健康の概念に関する理論を学び、高齢者の生活を支援するための援助者としてのあり方を探求する。
- 第2回 老年期における発達課題および高齢者の健康の概念に関する理論を学び、高齢者の生活を支援するための援助者としてのあり方を探求する。
- 第3回 高齢者看護を实践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
- 第4回 高齢者看護を实践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
- 第5回 高齢者看護を实践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
- 第6回 高齢者看護を实践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
- 第7回 高齢者看護を实践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
- 第8回 高齢者看護を实践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
- 第9回 高齢者看護を实践する中で起こる現象を理解し、援助の方向性を考えるための理論について学ぶ。・危機理論、役割理論、自尊感情、自己効力感など
- 第10回 高齢者看護を实践する中で起こる現象を理解し、援助の方向性を考えるための理論について学ぶ。・危機理論、役割理論、自尊感情、自己効力感など
- 第11回 高齢者看護を实践する中で起こる現象を理解し、援助の方向性を考えるための理論について学ぶ。・危機理論、役割理論、自尊感情、自己効力感など
- 第12回 高齢者看護を实践する中で起こる現象を理解し、援助の方向性を考えるための理論について学ぶ。・危機理論、役割理論、自尊感情、自己効力感など
- 第13回 老年専門看護師としての役割と機能について学ぶ。さらに老年専門看護師の活動の現状について探求し、自己の老年専門看護師としての役割について考える。
- 第14回 老年専門看護師としての役割と機能について学ぶ。さらに老年専門看護師の活動の現状について探求し、自己の老年専門看護師としての役割について考える。
- 第15回 高齢者看護実践における課題と今後の展望について探求する。

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（備考を参照）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中課題<提出物・レポート>(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習 I (老年) <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 沼本 教子.小野塚 元子.mitei.mitei1	

テーマ

認知症高齢者および 介護家族の理解と専門的な看護援助

獲得目標

認知症高齢者および介護する家族が生活者としての権利や尊厳を守られ、高齢者が今まで培ってきた生き方や生活機能を重視し、より質の高い健康生活を送れるよう支援するために、認知症高齢者の理解を深め、専門的な看護について実証的に検討する。

授業の内容

内 容

- 第1回 高齢社会における認知症高齢者の動向およびケアの倫理的視点について考察し、認知症に対する看護の課題について考える。
- 第2回 高齢社会における認知症高齢者の動向およびケアの倫理的視点について考察し、認知症に対する看護の課題について考える。
- 第3回 高齢社会における認知症高齢者の動向およびケアの倫理的視点について考察し、認知症に対する看護の課題について考える。
- 第4回 高齢社会における認知症高齢者の動向およびケアの倫理的視点について考察し、認知症に対する看護の課題について考える。
- 第5回 認知症の病態、診断法、治療法について学び、認知症の理解が看護とどのように結びつくのかを、経験した事例を通して理解を深める。
- 第6回 認知症の病態、診断法、治療法について学び、認知症の理解が看護とどのように結びつくのかを、経験した事例を通して理解を深める。
- 第7回 認知症の病態、診断法、治療法について学び、認知症の理解が看護とどのように結びつくのかを、経験した事例を通して理解を深める。
- 第8回 認知症の病態、診断法、治療法について学び、認知症の理解が看護とどのように結びつくのかを、経験した事例を通して理解を深める。
- 第9回 認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。
- 第10回 認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。
- 第11回 認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。
- 第12回 認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。
- 第13回 認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。
- 第14回 認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。
- 第15回 認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。
- 第16回 認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。
- 第17回 認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。
- 第18回 認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。
- 第19回 認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。

- 第20回 認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。
- 第21回 認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。
- 第22回 認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。
- 第23回 認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。
- 第24回 認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。
- 第25回 認知症高齢者を介護する家族の介護負担について理解を深める。さらに、介護家族が介護満足感を得ながら少しでも長く介護が継続できるための家族への疾患や対応に関する教育、家族関係の調整方法や相談など、介護家族を支援するサポートについての実際を学ぶ。
- 第26回 認知症高齢者を介護する家族の介護負担について理解を深める。さらに、介護家族が介護満足感を得ながら少しでも長く介護が継続できるための家族への疾患や対応に関する教育、家族関係の調整方法や相談など、介護家族を支援するサポートについての実際を学ぶ。
- 第27回 認知症高齢者を介護する家族の介護負担について理解を深める。さらに、介護家族が介護満足感を得ながら少しでも長く介護が継続できるための家族への疾患や対応に関する教育、家族関係の調整方法や相談など、介護家族を支援するサポートについての実際を学ぶ。
- 第28回 認知症高齢者を介護する家族の介護負担について理解を深める。さらに、介護家族が介護満足感を得ながら少しでも長く介護が継続できるための家族への疾患や対応に関する教育、家族関係の調整方法や相談など、介護家族を支援するサポートについての実際を学ぶ。
- 第29回 認知症高齢者および含家族に関する看護実践の研究の動向と課題について考察する。
- 第30回 認知症高齢者および含家族に関する看護実践の研究の動向と課題について考察する。

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（備考を参照）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中課題<提出物・レポート> (30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 考古学研究Ⅱ(古代Ⅱ)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	

テーマ

考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。

獲得目標

社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解するとともに、先学の過去の解釈と現代社会と考古学の関わりも考える。そして、考古学を自己の創造へと応用するために備える。

授業の内容

考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに出向き今後の考古学のあり方を考える。

内 容

- 第1回 層位学的研究と型式学的研究法(1)層位学と洪積人類
- 第2回 層位学的研究と型式学的研究法(2)型式学と年代(トムセンと三時期区分法・モンテリウスの型式学・ディーツのセリエーション)
- 第3回 層位学的研究と型式学的研究法(3)交差年代法と絶対年代
- 第4回 歴史解釈法(1)発掘で読みとること、自然のしわざ
- 第5回 歴史解釈法(2)偶然か必然か、二粒の糶:歴史はだれのものか(過去と現代)
- 第6回 歴史解釈法(3)考古学データの間を読む、経済史的な歴史の諸段階
- 第7回 過去の文化的意味(1)「もの」のもつ意味とコンテキスト
- 第8回 過去の文化的意味(2)『達成された』と『選択する』
- 第9回 過去の文化的意味(3)非連続の歴史
- 第10回 考古学と現代社会(1)考古学と社会との関わりあい、土地に刻まれたパブリック・アーケオロジー
- 第11回 考古学と現代社会(2)在野の考古学
- 第12回 考古学と現代社会(3)遺跡の価値観、五色塚古墳の整備
- 第13回 考古学と現代社会(4)考古資料の公開・展示、考古学のハンズ・オンとワークショップに向けて
- 第14回 考古学と現代社会(5)考古学への一般評価に向けて
- 第15回 これからの考古学

授業以外での学習方法

発掘調査記事の新聞切抜きと発掘調査(現地説明会等)・史跡整備地の見学

教科書

考古学の研究法

著者: 一瀬和夫

出版社: 学生社

出版年: 2013

ISBN: 9.78E+12

参考書

考古学研究入門

著者: H・J・エガース著、田中琢・佐原真訳

出版社：岩波書店

出版年：1981

ISBN：

考古学への招待

著者： ジェイムズ・ディーツ著、関俊彦訳

出版社：雄山閣出版

出版年：1988

ISBN： 4639007124

過去を読む

著者： イアン・ホッダー著、深澤百合子訳

出版社：フジインターナショナルプレス

出版年：1997

ISBN：

考古学—理論・方法・実践—

著者： コリン・レンフルー、ポール・バーン

出版社：東洋書林

出版年：2007

ISBN： 9.78E+12

成績評価

試験（0）

小テスト（10）

授業中課題（45）

授業中発表等（10）

参加度（35）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育課程論(初)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 八木 英二

テーマ

教育課程の構造と教育実践

獲得目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の内容

1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

内 容

- 第1回 教育課程の構造と意味
- 第2回 内申書、通知票について
- 第3回 目標と評価のあり方
- 第4回 観点別評価の意味
- 第5回 教育実践評価と授業公開(初等)
- 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(初等)
- 第7回 教科書の採択システム
- 第8回 教科書づくり
- 第9回 教科と教科外の教育方法(初等)
- 第10回 総合学習について(初等)
- 第11回 身体と教育課程(初等)
- 第12回 教育課程と授業づくり(初等)
- 第13回 思春期の教育階梯
- 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。

教科書

教師の役割変化を問う

著者： 八木英二

出版社： 三学出版

出版年： 2013

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教科教育法(社会) <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	大学指定
担当者 倉持 祐二		

テーマ

小学校社会科の授業づくりの基礎・基本

獲得目標

小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。

授業の内容

小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。

内 容

- 第1回 学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと
- 第2回 社会科教材研究入門
- 第3回 社会科授業の発問づくり
- 第4回 小学校社会科の授業方法
- 第5回 学習指導案をつくる
- 第6回 地図を使った模擬授業と授業研究
- 第7回 「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第8回 日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第9回 環境をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第10回 各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究
- 第11回 「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第12回 「武士の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第13回 日本国憲法を教える模擬授業と授業研究
- 第14回 世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究
- 第15回 模擬授業や授業研究から学んだこと

授業以外での学習方法

(1)学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。(2)授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。

教科書

参考書

『小学校学習指導要領解説 社会編』

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： 2008 年8 月

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教科教育法(社会)

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 他学科生等10名まで	クラス指定	大学指定
担当者 倉持 祐二		

テーマ

小学校社会科の授業づくりの基礎・基本

獲得目標

小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。

授業の内容

小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。

内 容

- 第1回 学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと
- 第2回 社会科教材研究入門
- 第3回 社会科授業の発問づくり
- 第4回 小学校社会科の授業方法
- 第5回 学習指導案をつくる
- 第6回 地図を使った模擬授業と授業研究
- 第7回 「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第8回 日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第9回 環境をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第10回 各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究
- 第11回 「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第12回 「武士の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第13回 日本国憲法を教える模擬授業と授業研究
- 第14回 世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究
- 第15回 模擬授業や授業研究から学んだこと

授業以外での学習方法

(1)学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。(2)授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。

教科書

参考書

小学校学習指導要領解説 社会編』

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： 2008 年8 月

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会調査論**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高原 正興	

テーマ

社会調査・フィールドワークの意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。

獲得目標

「社会調査・フィールドワーク入門」の授業と同時開講しながら、上記テーマに記載の内容(社会調査の基本知識)を身につける。

授業の内容

下記の教科書に準拠して、社会調査の基本知識を講義形式で展開する。第一に定義・目的・歴史、第二に各種調査の種類の紹介、第三に調査方法や手順の実際に関する内容を概説する。

内 容

- 第1回 社会調査とは何か 社会調査の目的
- 第2回 社会学と社会調査の歴史
- 第3回 調査方法論 調査倫理
- 第4回 量的調査と質的調査
- 第5回 国勢調査 官庁統計 事業所・企業統計調査 世論調査
- 第6回 調査票調査
- 第7回 調査票作成
- 第8回 サンプリング
- 第9回 データ化作業
- 第10回 データ分析
- 第11回 フィールドワークとはなにか
- 第12回 フィールドワークの事例
- 第13回 聞き取り調査 参与観察法
- 第14回 ドキュメント分析
- 第15回 (まとめ)社会調査の意義
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

テキストの予習・復習に努める

教科書

新・社会調査へのアプローチ

著者： 大谷信介他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2013

ISBN： 9.78E+12

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習 I **

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習 I」および「建築・インテリア設計演習 II」をセットで登録すること	
担当者	近藤 康子	
テーマ	建築・インテリアの基礎を修得する。	

獲得目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 線の引き方
- 第3回 木造住宅のトレース1、平面図
- 第4回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図
- 第5回 木造住宅のトレース3、矩計図
- 第6回 部屋の改装1、実測とエスキース
- 第7回 部屋の改装2、平面図・展開図
- 第8回 部屋の改装3、模型制作
- 第9回 部屋の改装4、模型制作
- 第10回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
- 第11回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成
- 第12回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成
- 第13回 小住宅の設計4、模型制作
- 第14回 小住宅の設計5、模型制作
- 第15回 講評とまとめ

授業以外での学習方法

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得よう心掛けること。

教科書

初学者の建築講座 建築製図

著者： 瀬川康秀

出版社： 市ヶ谷出版

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習 I <c>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間	前期	定員 40
履修条件	「建築・インテリア設計演習 I」および「建築・インテリア設計演習 II」をセットで登録すること	
担当者	富澤 実	

テーマ

建築・インテリアの基礎を習得する。

獲得目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(1)
- 第2回 ガイダンス(2)
- 第3回 線の引き方(1)
- 第4回 線の引き方(2)
- 第5回 木造住宅のトレース1、平面図(1)
- 第6回 木造住宅のトレース1、平面図(2)
- 第7回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図(1)
- 第8回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図(2)
- 第9回 木造住宅のトレース3、矩計図(1)
- 第10回 木造住宅のトレース3、矩計図(2)
- 第11回 部屋の改装1、実測とエスキース(1)
- 第12回 部屋の改装1、実測とエスキース(2)
- 第13回 部屋の改装2、平面図・展開図(1)
- 第14回 部屋の改装2、平面図・展開図(2)
- 第15回 部屋の改装3、模型制作(1)
- 第16回 部屋の改装3、模型制作(2)
- 第17回 部屋の改装4、模型制作(1)
- 第18回 部屋の改装4、模型制作(2)
- 第19回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(1)
- 第20回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(2)
- 第21回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成(1)
- 第22回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成(2)
- 第23回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成(1)
- 第24回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成(2)
- 第25回 小住宅の設計4、模型制作(1)
- 第26回 小住宅の設計4、模型制作(2)
- 第27回 小住宅の設計5、模型制作(1)
- 第28回 小住宅の設計5、模型制作(2)
- 第29回 講評とまとめ(1)
- 第30回 講評とまとめ(2)

授業以外での学習方法

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

初学者の建築講座 建築製図第3版

著者： 瀬川康秀

出版社： 市谷出版社

出版年： 2008

ISBN： 9.78E+12

参考書

必要に応じて指示する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（50）

参加度（30）

小テスト（ ）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ヘルスケアシステムⅢ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 富永 真己・西村 美八	

テーマ

公衆衛生看護の支援技術と、地域看護管理と公衆衛生看護活動の理論と実践について学ぶ

獲得目標

1. 地方行政における人的管理・人材確保など公衆衛生看護管理について説明できる。2. 地域診断を通して導き出された健康課題を解決するために必要な施策を具体的に説明できる。3. 上記について、実施するために必要な支援技術を理解し、説明できる。

授業の内容

地域におけるヘルスケアシステムの構築等の基本的な公衆衛生看護の支援技術を学習する。また、地域全体のヘルスケアシステムの向上を目指す地域看護管理と公衆衛生看護活動計画における理論と、立案・実施・評価の一連の過程について、具体例を用いて学ぶ。

内 容

- 第1回 健康管理体制と支援技術①(各種健診)
- 第2回 健康管理体制と支援技術②(保健指導)
- 第3回 健康管理体制と支援技術③(保健指導)
- 第4回 健康管理体制と支援技術④(家庭訪問)
- 第5回 地域診断(概念と理論、方法)
- 第6回 実習地における地域診断①(地域別・対象別の情報収集)
- 第7回 実習地における地域診断②(地域別・対象別のアセスメント)
- 第8回 実習地における地域診断③(対象別健康課題の抽出:母子・成人・感染症)
- 第9回 実習地における地域診断④(対象別健康課題の抽出:母子・成人・感染症)
- 第10回 実習地における地域診断⑤(健康課題に基づく保健事業計画の立案)
- 第11回 実習地における地域診断⑥(健康課題に基づく保健事業計画の立案)
- 第12回 実習地における地域診断⑦(発表)
- 第13回 地域保健管理①組織・人材・社会資源・情報・予算の管理
- 第14回 地域保健管理②保健事業計画の策定・施策化・予算の実際
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験 ただし、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

授業以外での学習方法

ヘルスケアシステムⅡで行った地域診断の内容を復習すると同時に、行った課題の提出物をさらに充実させ持参して、授業に臨む。

教科書

「公衆衛生看護学」jp第3版

著者: 荒賀直子・後閑容子編集

出版社: インターメディカル

出版年:

ISBN: 9.78E+12

保健師業務要覧 第3版

著者： 井伊久美子他編集

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN： 9.78E+12

国民衛生の動向」2013/2014

著者：

出版社： 一般財団法人厚生労働時計協会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ()

参加度 (10%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **内科学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 吉川 隆一

テーマ

理学療法士に必要な内科疾患の基礎的知識を身につける。

獲得目標

理学療法を受ける患者の多くは内科疾患を罹患している。したがって、内科学、内科疾患の概要を理解することは理学療法士にとって重要な課題である。本講義では、内科学総論(症候、診断、治療)を概説し、さらに臓器別、病因別に内科疾患の各論を講義し、理学療法の対象となる内科疾患患者の病態の理解、把握に資することが目標となる。

授業の内容

理学療法の対象となる患者が持つ疾患を理解するための内科学的知識、技術を教授する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、内科学の概念
- 第2回 診断、治療
- 第3回 症候学
- 第4回 循環器疾患
- 第5回 呼吸器疾患
- 第6回 消化管疾患
- 第7回 肝胆膵疾患
- 第8回 血液・造血器疾患
- 第9回 代謝性疾患
- 第10回 内分泌疾患
- 第11回 腎・泌尿器疾患
- 第12回 膠原病・アレルギー疾患
- 第13回 感染症
- 第14回 中毒性疾患
- 第15回 皮膚疾患

授業以外での学習方法

教科書の予習、復習

教科書

標準理学療法学・作業療法学「内科学」第2版

著者： 大成浄志

出版社： 医学書院

出版年： 2009

ISBN：

参考書

内科学

著者： 杉本恒明・矢崎義雄総編集

出版社：朝倉書店

出版年：2007

ISBN：

日本内科学会雑誌(月刊)

著者：日本内科学会編

出版社：日本内科学会

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（20）

参加度（30）

3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法評価学総論実習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平・松尾 奈々	

テーマ

理学療法評価における検査測定の実際について学習する。理学療法評価を施行する上で必要な基礎的知識の理解と技術の習得を中心に、各種検査・評価を実習形式で教授する。

獲得目標

1. 各種検査・評価の意義や目的を説明することができる。2. 各種検査・評価の手順および注意点について説明することができる。3. 適した検査法が具体的に実施することができる。4. 各種検査・評価の結果が記録できる。

授業の内容

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。また、理学療法評価でも基本的な評価項目である徒手筋力検査法(MMT)をはじめとする理学療法評価の実習を行い、各種理学療法評価技術の習得を目指す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 形態測定
- 第3回 形態測定
- 第4回 関節可動域測定
- 第5回 関節可動域測定
- 第6回 感覚検査
- 第7回 感覚検査
- 第8回 反射検査、筋緊張検査
- 第9回 反射検査、筋緊張検査
- 第10回 筋力検査、徒手筋力検査(上肢)
- 第11回 徒手筋力検査(上肢)
- 第12回 徒手筋力検査(頸部、体幹)
- 第13回 徒手筋力検査(頸部、体幹)
- 第14回 徒手筋力検査(下肢)
- 第15回 徒手筋力検査(下肢)
- 第16回 協調性検査、姿勢反射検査
- 第17回 平衡機能検査
- 第18回 平衡機能検査
- 第19回 片麻痺機能検査
- 第20回 片麻痺機能検査
- 第21回 高次脳機能検査
- 第22回 整形外科的検査
- 第23回 ADL評価、環境評価

授業以外での学習方法

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

理学療法評価学 改訂第4版

著者： 松澤正

出版社： 金原出版株式会社

出版年： 2012

ISBN： 9.78E+12

新・徒手筋力検査法 原著第8版

著者： 津山直一

出版社： 協同医書出版社

出版年： 2008

ISBN： 9.78E+12

参考書

成績評価

試験（60%）

小テスト（実技試験 30%）

授業中課題（5%）

授業中発表等（）

参加度（5%）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **運動療法学演習**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期

定 員 60

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

運動療法の方法論

獲得目標

各種の運動療法に係る知識と技術を身につけて、実践能力を培う。さらに運動療法の現状とその課題について探求する。

授業の内容

実技を交えながら行いますので、実習着に着替えて参加してください。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 リスク管理
- 第3回 リラクゼーション・テクニック
- 第4回 関節可動域練習(1);基礎編/体幹
- 第5回 関節可動域練習(2);上肢
- 第6回 関節可動域練習(3);下肢
- 第7回 筋力強化練習(1);理論
- 第8回 筋力強化練習(2);実践
- 第9回 筋力強化練習(3);実践
- 第10回 持久力練習
- 第11回 協調性練習
- 第12回 呼吸練習
- 第13回 神経筋促通法
- 第14回 基本動作・歩行練習
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

関連する医学的(解剖学・運動学を含む)および専門的用語について予習を行うこと。

教科書

参考書

運動療法学テキスト

著者: 細田多穂 監修

出版社: 医学書院

出版年: 2010

ISBN:

運動療法学

著者： 市橋則明 編集

出版社： 文光堂

出版年： 2008

ISBN：

運動療法大全

著者： キャロリン・キスナー, 他

出版社： ガイアブックス

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験 (50)

小テスト (30)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (5)

参加度 (5)

関連する基礎知識について講義開始時に確認テストを実施します。授業中課題として提出されたレポートを参考に評価を行います。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 神経障害系理学療法学応用演習

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	小田桐 匡.兒玉 隆之.演出 茂治	

テーマ

中枢性,末梢性の神経障害に対する理学療法について学びを一層深める

獲得目標

神経障害系理学療法学基礎演習で学んだ知識を基礎に,より臨床に近いレベルでの疾患の病態,障害のメカニズム(回復,予後を含む),治療戦略に関する知識を演習形式にて指導する.さらに,研究的視点でそれらに対する理学療法に必要な専門的理論に対する思考過程の習熟を図る.

授業の内容

2回生で学んだ内容の復習を行いつつ,座学,グループ活動も含めた演習形式など多様な形態で進める.レポート課題も適宜行う.

内 容

- 第1回 末梢性神経障害の病態
- 第2回 末梢性神経障害の評価
- 第3回 末梢性神経障害に対する理学療法
- 第4回 末梢性神経障害症例に対する臨床推論1
- 第5回 末梢性神経障害症例に対する臨床推論2
- 第6回 脳血管障害後の神経学的徴候について (主に痙縮,固縮のメカニズム)
- 第7回 脳血管障害患者の急性期における問題点および治療プログラム
- 第8回 脳血管障害患者の慢性期における問題点および治療プログラム
- 第9回 症例(CVA)に対する臨床推論
- 第10回 大脳基底核の情報処理特性とパーキンソン病
- 第11回 パーキンソン病の問題点と治療プログラム
- 第12回 小脳の情報処理特性と多系統委縮症
- 第13回 多系統委縮症の問題点と治療プログラム
- 第14回 症例(多系統委縮症,パーキンソン病)に対する臨床推論

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (85)

授業中課題 (10)

参加度 (5)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **English Literacy III **

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	久保田 美佳	

テーマ

Academic Readingの実践

獲得目標

一般的な英語で書かれた文献を読んで自力である程度理解できるようになる。専門分野の基礎語彙を習得する。英語の音とリズムに慣れる。

授業の内容

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

内 容

- 第1回 授業オリエンテーション Unit 1 What is Stress?
- 第2回 Unit 2 What Causes Stress? Unit 3 What Is the Stress Response?
- 第3回 Unit 4 How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress?
- 第4回 Unit 5 How are Bodily Systems Affected by Stress?
- 第5回 Unit 6 Unhealthy Stress: How Can We Resist It?
- 第6回 Unit 7 Laugh Unit 8 Get Rid of Anger
- 第7回 Review Unit 1-8
- 第8回 Unit 9 Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists
- 第9回 Unit 10 Adapt Your Environment
- 第10回 Unit 11 Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection
- 第11回 Unit 12 Take Time Out for Meals
- 第12回 Unit 13 Try Aerobic Exercise and Take a Walk Unit 14 Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw
- 第13回 Unit 15 Reaching the True Relaxation State
- 第14回 Review Unit 9-15
- 第15回 Listening and Vocabulary

授業以外での学習方法

毎週授業で扱う箇所を事前に読んで来ること。また、単語テストを随時行うのでその準備も忘れないようにして下さい。

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す

著者： 田部井世志子、井上径子

出版社： 朝日出版

出版年： 2006

ISBN: 4255154228C1082

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

習熟度を測るため、定期的に小テストを行います。上記に、期末統一英語テスト20%が加算されます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 パーソナリティ心理学Ⅱ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	青木 剛.坂本 久美	

テーマ

パーソナリティに関する精神分析基礎理論と査定法の基礎

獲得目標

パーソナリティという構成概念、パーソナリティの発達、および、パーソナリティの査定理論についてさまざまな理論背景を学んだ上で、本講義では、精神分析的なアプローチからのパーソナリティ理論を追求する。また、現代精神医学における臨床査定の特徴であるミロンによるパーソナリティ・スタイル理論とその査定の特徴を理解する。さらに、自身のパーソナリティを追求することを通じ、臨床的態度とは何かを検討することをめざす。受講生の人数によって、講義・演習・討議・体験学習によって展開するため、授業の順序や内容は適宜変更され得る。そのため、全出席を原則とする。

授業の内容

教科書に従い、ビッグファイブ理論の視点から、古くからある類型論に始まり現代に至る性格心理学の理論についての理解を深めます。また、系統発生視点から、進化論と生物学からみた性格についても解説したいと思います。

内 容

- 第1回 パーソナリティ理論の歴史的展開と構成概念
- 第2回 精神分析的アプローチによるパーソナリティ理論-自己と自我-
- 第3回 パーソナリティと発達-精神性的発達理論-
- 第4回 パーソナリティと適応-防衛機制理論-
- 第5回 パーソナリティ査定理論の基礎
- 第6回 質問紙法による静的パーソナリティ査定-小レポート課題
- 第7回 基礎理論のまとめ
- 第8回 ミロンによるパーソナリティ・スタイル理論
- 第9回 パーソナリティと病理
- 第10回 質問紙による動的パーソナリティ査定-小レポート課題
- 第11回 パーソナリティと成熟
- 第12回 質問紙によるパーソナリティ・ファンクション査定-小レポート課題
- 第13回 パーソナリティと変化-成長と治療に関する心理教育・心理療法理論の基礎-
- 第14回 スモール・グループ・ディスカッション-パーソナリティ・スタイル理論の理解を深める-
- 第15回 グループ・プレゼンテーションとまとめ

授業以外での学習方法

教科書を適宜熟読し理解を進めて下さい。また、教科書に載っている参考図書についても積極的に読んで下さい。

教科書

性格の心理

著者： 丹野義彦

出版社：サイエンス社

出版年：2003.4.10

ISBN：4-7819-1037-8

参考書

児童の心理

著者：梅本堯夫・大山 正

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 森田 周	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <C>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <d>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <e>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <f>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <g>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員 50
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 森田 周	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <h>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <i>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <j>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <k>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <I>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <m>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <n>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <○>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <p>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <q>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <r>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <s>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <t>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作:オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など),Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作 セキュリティと情報モラル(1)
- 第2回 タブレット配布に関するオリエンテーション(パソコン教室以外で実施)
- 第3回 セキュリティと情報モラル(1) Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》Word構成、ページ設定、前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード、ファンクションキー
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 最終課題とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（40%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（10%）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 比較文化論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 杉山 泰	

テーマ

イギリスから眺めた「日本文化」―「辺境文化」と見ることの妥当性

獲得目標

イギリスに1年間滞在して気づいたことは、イギリスでは今でもカンタベリー大主教を初めとする聖職貴族、法律貴族と750名の世襲貴族による上院(The House of Lords)が存在することだった。また、イギリスには自動販売機が極端に少なく、プレミア首相は、公立学校からコーラの販売(junk food)すら禁止した。日本には天皇が「国民の総意によって」象徴として存在し、イギリスにもエリザベス女王が存在している。しかし、イギリスには、自動販売機はほとんどないし、ましてや酒や煙草の自動販売機は皆無である。タクシーに自動ドアなどないし、百貨店のハロッズの扉も自分で開けないと開かない。そうした違いをpushing cultureだとかpulling culture、widening cultureだとかshortening cultureといった「文化」比較をしながら、日本文化ははたして、特殊な「辺境文化」と言えるのだろうか、という問いに答えていきたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 「比較文化」の常識テスト。八幡神社や稲荷神社の神はなぜ『古事記』『日本書紀』に載っていないのか。世界の国の数は？ では、世界の言語の数は？ 出雲大社ではなぜ4回も拍手を打つ？ まずは、日本文化を知ろう。
- 第2回 active incomeとpassive income(不労所得)を知っているだろうか。英米の人たちはなぜ貯金をしないのか。speculations(投機)とは「沈黙思考」できる人がやる。日本では大学出の賢い人でも、share marketやderivative(手を出さない)。
- 第3回 島国イギリスが、football world cupになぜ4チームも参加できるのか。The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland(U.K.)とは何？
- 第4回 quality of life(生活の質)とは、大阪万博(Expo'70)の英国館のテーマ。Industryになぜ、「勤勉」と「工業」の意味がある？ plant hunterの意味は？
- 第5回 「文化」とは人間が創ったもの。最大の文化は「言語」である。日英語の違いは何だろうか。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」<視点>は？
- 第6回 「主語なし日本語」(subject-free Japanese)を操る日本人の「あいまいさ」は日本文化に影響を及ぼしているのだろうか。「二度と過ちは繰り返させぬから」の主語は？ 「擬態語・擬声語」の文化(ぬるぬる、べとべと、ぷりぷり)。
- 第7回 「詰まらない」文化と「詰まる」文化。弁当箱に詰め、風呂敷に包み、傘でも折りたたんで、「縮んでいく」のが日本文化。ベッドと布団の文化。
- 第8回 「左脳」の文化と「右脳」の文化。漢字や邦楽の音(琴や三味線)を右脳で聞き取る日本人。「しこしこ」のアワビ、「とろとろ」のスープの英訳は？
- 第9回 唯一神のGodと八百万の神の違いは何か？ <みずから>の文化・<おのずから>の文化、key cultureとshoji culture、identity-oriented cultureとgroup-oriented culture
- 第10回 日本の神社からなぜ明治政府は仏教を排除しようとしたのか？ 「廃物毀釈」による、神社の純粋化(イギリス教会のpuritanism化との比較)。文化は<純粋>なのか<雑種>なのか？ <雑種文化論>とは何か？
- 第11回 <純粋文化論>と、<雑種文化論>。<文化相対主義cultural relativism>とは何か？ ニュージランドのマオリの文化、カナダの先住民文化と日本文化。
- 第12回 「食」の文化。本マグロや鯨は食べてはいけないのか？ 人口問題と食。
- 第13回 「和食」がユネスコの無形文化遺産になったのはなぜ？ <macrobiotics>を知っていますか。世界193か国の伝統的食事を守れるのか。人口爆発の21世紀。
- 第14回 slow lifeを楽しむイギリス(大英博物館など無料、300の歴史的建造物と200の庭園もナショナル・トラスト会員は無料、20年働けば日本人でも年金生活者)。
- 第15回 日本にはなぜイギリスやフランスの10分の1の観光客しか来ないのか？ 「恋し、結婚し、母になったこの町で、おばあちゃんになりたい」という京都にどうすればいいのか？ 京都タワーは京都らしくない？ 京都はどんな町。

授業以外での学習方法

図書館で新聞を調べてもらっての宿題を出すし、あなたにとっての「日本文化」を〈衣食住〉から1つずつ探してもらおう。最も美しい京都、最も醜い京都の写真の提出をしてもらおう。

教科書

毎回レジュメを配布する。(授業の最後に簡単な小テストを実施する時がある。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本語の起源

著者: 大野晋

出版社: 岩波新書

出版年: 1994

ISBN:

世界が認めた和食の知恵 — マクロビオティック物語

著者: 持田鋼一郎

出版社: 新潮新書

出版年: 2005

ISBN:

ルポ貧困大国アメリカ

著者: 堤未果

出版社: 岩波新書

出版年: 2008

ISBN:

日本語教のすすめ

著者: 鈴木孝夫

出版社: 新潮新書

出版年: 2009

ISBN:

オノマトピア — 擬音語大国にっぽん考

著者: 桜井順

出版社: 岩波文庫

出版年: 2010

ISBN:

日本辺境論

著者: 内田樹

出版社: 新潮新書

出版年: 2009

ISBN:

なぜ八幡神社が日本でいちばん多いのか

著者: 島田裕巳

出版社: 幻冬舎新書

出版年: 2013

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 異文化コミュニケーション論(人文) <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 蒲 豊彦	

テーマ

東アジアを題材とした異文化理解

獲得目標

諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。

授業の内容

本授業は、コミュニケーションの理論を学ぶのではなく、東アジア、なかでも中国の文化や歴史をおもな題材として、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。

内 容

- 第1回 あんパンはどこから来たのか(あんパン(なかに小豆のアンが入ったパン)を通して、日本の現状を考える。)
- 第2回 貿易の様子(貿易統計の数字を読む。)
- 第3回 日本語を書くということ(「中国由来のもの」を使わずに日本語を書くことができるかどうか、実験する。)
- 第4回 日本に住む外国人、外国に住む日本人
- 第5回 中国の暮らし(スライドを使って、現在の中国を紹介する。)
- 第6回 現在の中国はどのようにできたのか(中国現代史)
- 第7回 江戸時代の日中交流(おもに長崎の中国人社会を取り上げる)
- 第8回 江戸時代の日韓交流(朝鮮通信使をめぐる日韓交流の文人の交流)
- 第9回 東アジアの国々(タイ、ベトナム、ネパールなどの文化と歴史)
- 第10回 東アジアの近代と日本1(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。)
- 第11回 東アジアの近代と日本2
- 第12回 1時間で読めるハングル(ハングルの仕組みを中心として、韓国語を紹介する)
- 第13回 中国語入門1(中国語の歴史)
- 第14回 中国語入門2(発音と簡単な文法)
- 第15回 おまけー計画言語の夢(平等なコミュニケーションを目指して開発されたEsperantoやIdo等を通して、言語の問題を考える。)

授業以外での学習方法

授業に関連した各種の簡単な調査を宿題とする。

教科書

その都度、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

その都度、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本国憲法 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

獲得目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の内容

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版

著者: 小林武ほか編

出版社: 法律文化社

出版年: 2011

ISBN: 978-4589033529

参考書

憲法入門

著者: 市川 正人・倉田 原志 編

出版社：法律文化社

出版年：2012

ISBN： 978-4589033970

ポケット六法 平成25年版

著者： 西田 典之 他編

出版社：有斐閣

出版年：2012

ISBN： 978-4641009134

憲法 第5版

著者： 芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社：岩波書店

出版年：2011

ISBN： 978-4000227810

成績評価

試験（60）

小テスト（20）

授業中課題（）

授業中発表等（10）

参加度（10）

受講生数・授業の進度により、割合が若干調整されることがある。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本国憲法

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

獲得目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の内容

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版

著者: 小林武ほか編

出版社: 法律文化社

出版年: 2011

ISBN: 978-4589033529

参考書

憲法入門

著者: 市川 正人・倉田 原志 編

出版社：法律文化社

出版年：2012

ISBN： 978-4589033970

ポケット六法 平成25年版

著者：西田 典之 他編

出版社：有斐閣

出版年：2012

ISBN： 978-4641009134

憲法 第5版

著者：芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社：岩波書店

出版年：2011

ISBN： 978-4000227810

成績評価

試験（60）

小テスト（20）

授業中課題（）

授業中発表等（10）

参加度（10）

受講生数・授業の進度により、割合が若干調整されることがある。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **健康に生きる I**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 河原 宣子・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

健康について様々な視点から学び事で、自分自身の健康に関心を持ち、健康に生きるための方法を考えるために必要な能力を養う。

獲得目標

1. 健康とは何かを理解する 2. 健康に対して関心を持つことができる 3. 健康に生きるための方法を考える事ができる

授業の内容

健康に関連した統計や社会の取り組み、そしてよくある病気等について学びながら、自分自身の生活についても見つめなおし、健康に生きていくために必要な知識を講義を通して学ぶ。

内 容

- 第1回 健康とは
- 第2回 日本人の健康の特徴
- 第3回 人間の体の仕組み
- 第4回 青年期の健康 性感染症
- 第5回 成人期の健康 がん
- 第6回 老年期の健康 認知症
- 第7回 心の健康(1) 心のはたらき
- 第8回 心の健康(2) ストレスと健康
- 第9回 心の健康(3) 大学生の心の問題
- 第10回 環境と健康
- 第11回 生活習慣と健康(1)食生活
- 第12回 生活習慣と健康(2)喫煙
- 第13回 生活習慣と健康(3)飲酒
- 第14回 生活習慣と健康(4)運動
- 第15回 まとめ 小テスト

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50%)

小テスト (50%)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 自然の探求

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 佐々木 尚子	

テーマ

身の回りの自然の観察と理解

獲得目標

この授業では、1)自然界を構成する地圏・水圏・気圏・生物圏の基本的な仕組みを理解すること、2)身の回りの自然を丁寧に観察し、それらを具体的に認識することを通じて、3)「わたしたちにとって自然とは何か」「自然にはどのような価値があるのか」、各自が論考することを目指します。

授業の内容

1) 投影資料やプリントを使った自然界の仕組みの解説、2) 五感を使った身の回りの自然の観察を基本とし、必要に応じて、グループディスカッションなどを織り込みながら授業を進めます。

内 容

- 第1回 ガイダンス: 生きているってどういうこと?
- 第2回 地球の形と大きさ
- 第3回 プレートテクトニクス
- 第4回 身近な生き物を探す
- 第5回 地球をめぐる大気
- 第6回 地球をめぐる水
- 第7回 生物と無機的环境
- 第8回 身近な生き物を観察する
- 第9回 生物同士のつながり その1
- 第10回 生物同士のつながり その2
- 第11回 生物の進化と生物多様性 その1
- 第12回 身近な生き物を描く
- 第13回 生物の進化と生物多様性 その2
- 第14回 人間の自然利用
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

参考になる文献・資料を授業中に提示するので、各自読んで理解を深めること。

教科書

参考書

地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム

著者: 酒井治孝

出版社: 東海大学出版会

出版年: 2003

ISBN: 978-4486016151

植物(小学館の図鑑NEO)

著者: 門田裕一

出版社: 小学館

出版年: 2002

ISBN: 978-4092172029

生き物の描き方:自然観察の技法

著者: 盛口 満

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2012

ISBN: 978-4130633352

自然を守るとはどういうことか

著者: 守山 弘

出版社: 農山漁村文化協会

出版年: 1988

ISBN: 4-540-87140-4

なぜ生態系を守るのか?

著者: 松田裕之

出版社: NTT出版

出版年: 2008

ISBN: 978-4757160279

成績評価

試験 (50%)

小テスト (25%)

授業中課題 (25%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語科教育法 I

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期	定員	40
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定	
担当者 中井 弘一		

テーマ

「実践的指導力」の育成: 授業実践力、指導案作成、模擬授業

獲得目標

・外国語習得について歴史的に思考錯誤されてきた教授法を理解する・それぞれの教授法の根拠となったメカニズムを理解する

授業の内容

外国語教授法の流れを概観し、それぞれの教授法が基づいている言語習得のメカニズムを理解することを通して、実際の英語教育において、学習指導要領がめざす英語力育成に向けてそのメカニズムを学習活動にどのように応用・活用するのかを探る。

内 容

- 第1回 外国語教授法概観・オリエンテーション(英語教員に求められる資質能力)
- 第2回 文法訳読法の理解
- 第3回 模擬授業1: 学校英語教育における文法訳読法の実際
- 第4回 オーディオ・リンガル・メソッドの理解
- 第5回 模擬授業2: 学校英語教育におけるオーディオ・リンガル・メソッド応用の実際
- 第6回 オーラル・メソッドの理解
- 第7回 模擬授業3: 学校英語教育におけるオーラル・メソッド応用の実際
- 第8回 トータル・フィジカル・リスポンズ・ジャズチャンツの理解
- 第9回 模擬授業4: 学校英語教育におけるトータル・フィジカル・リスポンズ・ジャズチャンツ応用の実際
- 第10回 ヒューマニスティック・アプローチの理解
- 第11回 模擬授業5: 学校英語教育におけるヒューマニスティック・アプローチ応用の実際
- 第12回 認知学習理論の理解
- 第13回 模擬授業6: 学校英語教育における認知学習理論応用の実際
- 第14回 ナチュラル・アプローチの理解・タスク・ベースの活動の理解
- 第15回 模擬授業7: 学校英語教育におけるナチュラル・アプローチの理解・タスク・ベースの活動の実際

授業以外での学習方法

発表に対する事前準備

教科書

現代英語教授法総覧

著者: 田崎清忠 編著

出版社: 大修館書店

出版年: 1995

ISBN: 9.78E+12

参考書

New Crown English Series New Edition(Book1, 2, 3)

著者:

出版社：三省堂

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40%）

授業中発表等（30%）

参加度（30%）

授業中課題<提出物・レポート>（40%）、参加・貢献度（30%）、授業中発表等<模擬授業含む>（30%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生涯学習概論 I <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 吉岡 いずみ	

テーマ

日本における社会教育・生涯学習の歴史と課題につき基礎的理解を得る

獲得目標

生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。

授業の内容

わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。

内 容

- 第1回 生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する
- 第2回 明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までにある、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。
- 第3回 昭和期の女性に対する社会教育—婦人教育の成立およびその意義について解説する。
- 第4回 戦後の社会教育行政の法制と行政の特質について解説する。
- 第5回 公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。
- 第6回 社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。
- 第7回 女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。
- 第8回 女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。
- 第9回 少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する。
- 第10回 青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例を挙げて解説する
- 第11回 青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。
- 第12回 多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める
- 第13回 学校支援地域本部、PTA等などの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。
- 第14回 障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。
- 第15回 これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。

授業以外での学習方法

授業中紹介した参考文献を読むようにする

教科書

指定しない。プリント配布。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業中に指示。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（70）

授業中課題（）

参加度（30）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生涯学習概論 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉岡 いずみ	

テーマ

日本における社会教育・生涯学習の歴史と課題につき基礎的理解を得る

獲得目標

生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。

授業の内容

わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。

内 容

- 第1回 生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する
- 第2回 明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までにある、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。
- 第3回 昭和期の女性に対する社会教育—婦人教育の成立およびその意義について解説する。
- 第4回 戦後の社会教育行政の法制と行政の特質について解説する。
- 第5回 公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。
- 第6回 社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。
- 第7回 女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。
- 第8回 女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。
- 第9回 少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する。
- 第10回 青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例を挙げて解説する
- 第11回 青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。
- 第12回 多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める
- 第13回 学校支援地域本部、PTA等などの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。
- 第14回 障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。
- 第15回 これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。

授業以外での学習方法

授業中紹介した参考文献を読むようにする

教科書

指定しない。プリント配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M1前) <Ma>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	

テーマ

自己の考古学遺跡調査の報告書の分析力を身につける

獲得目標

研究に必要な基礎的データを取得するための遺跡調査のデータの集約、分析をし報告書作成を体感する。

授業の内容

遺跡調査の集約、分析、製図、文章作成、報告書編集、それらのマネージメントを行う。

内 容

- 第1回 報告書作成の調査現場を観察する。
- 第2回 報告書作成の調査現場を観察する。
- 第3回 報告書作成の現場を観察する。
- 第4回 調査図面等の基本データの集約を行う。
- 第5回 調査図面等の基本データの集約を行う。
- 第6回 調査の集約したデータの分析を行う。
- 第7回 調査の集約したデータの分析を行う。
- 第8回 調査図面などの製図を行う。
- 第9回 調査図面などの製図を行う。
- 第10回 調査の状況、所見、考察の文章を作成する。
- 第11回 調査の状況、所見、考察の文章を作成する。
- 第12回 調査報告のマネージメントを考える。
- 第13回 調査報告のマネージメントを考える。
- 第14回 調査報告書を作成する。
- 第15回 調査報告書を作成する。

授業以外での学習方法

行政・他大学の発掘調査や整理作業に参加する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護理論〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 中島 登美子	

テーマ

看護学の歴史の変遷を振り返り、現在の看護学における理論体系について学習し理解を深めるとともに、看護理論を実践および研究に活用する基礎を養う。

獲得目標

1. 看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と理論の特徴を理解する。
2. 看護理論の範囲と構造および分析方法を理解する。
3. 看護理論の分析をもとに実践/研究/教育への理論の活用の意義と限界を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 看護専門職の歴史的発展過程と看護理論
- 第2回 理論発展の基礎としての科学哲学の歴史的発展過程
- 第3回 看護理論の範囲と理論の構造
- 第4回 理論分析の方法とその背景(1)
- 第5回 理論分析の方法とその背景(2)
- 第6回 概念および概念発達と概念分析(1)
- 第7回 概念および概念発達と概念分析(2)
- 第8回 理論をベースに研究を組み立てるとは(1)
- 第9回 理論をベースに研究を組み立てるとは(2)
- 第10回 理論を実践に活用するとは(1)
- 第11回 理論を実践に活用するとは(2)
- 第12回 概念を測定するとは(1)
- 第13回 概念を測定するとは(2)
- 第14回 理論分析および理論の活用プレゼンテーション(1)
- 第15回 理論分析および理論の活用プレゼンテーション(2)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

Theory and nursing A systematic approach 4th edition, 看護理論とは何か

著者: Chinn, P.L., Kramer, M.K.(1995), 白石聡監訳(1997)

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

Nursing theorists and their work, 看護理論家とその業績, 第4版

著者: Marriner-Tomey,A.(1990), 都留伸子監訳(2009)

出版社: 医学書院

出版年: ISBN:

Analysis and evaluation of nursing theories, フォーセット看護理論の分析と評価

著者: Fawcett,J(1993), 太田喜久子・筒井真優美監訳(2008)

出版社: 医学書院

出版年: ISBN:

Strategies for theory construction in nursing, 看護における理論構築の方法

著者: Walker & Avant(2005), 中木高夫・川崎修一訳(2008)

出版社: 医学書院

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護応用学特論 I (老年) <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 沼本 教子・小野塚 元子・村田 伸	

テーマ

高齢者の健康生活とその評価

獲得目標

健康障害を持つ高齢者が自律したその人らしい生活の実現を可能にするための看護実践を提供することを目的に、高齢者の生活機能を身体的・心理社会的側面から包括的に評価する方法について探究する。

授業の内容

内 容

- 第1回 健康障害を持つ高齢者の健康生活を支援するための健康生活評価技術について考察する。
 第2回 健康障害を持つ高齢者の健康生活を支援するための健康生活評価技術について考察する。
 第3回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(1) 日常生活動作、行動機能について(基本的ADL、手段的ADL、FIM、身体バランス・柔軟性など)
 第4回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(1) 日常生活動作、行動機能について(基本的ADL、手段的ADL、FIM、身体バランス・柔軟性など)
 第5回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(2) 認知機能、気分、意欲について(MMSE、HDS-R、GDSなど)
 第6回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(2) 認知機能、気分、意欲について(MMSE、HDS-R、GDSなど)
 第7回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(3) モラール、生活の質について(主観的幸福感、生きがい、生活満足度など)
 第8回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(3) モラール、生活の質について(主観的幸福感、生きがい、生活満足度など)
 第9回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(4) 生活環境、社会関係、ソーシャルサポート、家族の介護力評価など
 第10回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(4) 生活環境、社会関係、ソーシャルサポート、家族の介護力評価など
 第11回 高齢者の生活機能の維持・回復のためのリハビリテーションと社会資源の活用(福祉用具・自助具の活用を含む)について探求する。
 第12回 高齢者の生活機能の維持・回復のためのリハビリテーションと社会資源の活用(福祉用具・自助具の活用を含む)について探求する。
 第13回 老年専門看護師として高齢者の健康生活を支援するための総合的アセスメントの実際について探求する。
 第14回 老年専門看護師として高齢者の健康生活を支援するための総合的アセスメントの実際について探求する。
 第15回 高齢者の健康生活評価に対する看護研究の動向と今後の課題について考察する。

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（備考を参照）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中課題<提出物・レポート>(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 広域看護学演習 I (教育) <Mc>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 前期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 阿部 祝子	

テーマ

看護基礎教育制度とその教育課程, 教育方法, 教育評価の特徴

獲得目標

看護専門職養成の土台となる看護基礎教育について, その制度, 教育課程, 教育方法, 教育評価の特徴について, 実証的に検討する。

授業の内容

「授業計画」の各テーマについて, 関連文献や先行研究の文献検討を通して理解を深める。また, 各テーマに関する研究の動向や方法について理解する。これらに基づき, 自身の看護教育の経験を事例として, ディスカッションにより考察を深める。

内 容

- 第1回 ガイダンス(演習の意義, 授業目標の理解)
- 第2回 看護政策と看護基礎教育制度
- 第3回 教育対象の特徴①: 文献検討, 事例検討
- 第4回 教育対象の特徴②: 文献検討, 事例検討
- 第5回 教育課程(カリキュラム)の特徴①: 文献検討, 事例検討
- 第6回 教育課程(カリキュラム)の特徴②: 文献検討, 事例検討
- 第7回 教育方法の特徴①: 文献検討, 事例検討
- 第8回 教育方法の特徴②: 文献検討, 事例検討
- 第9回 教育評価の特徴①: 文献検討, 事例検討
- 第10回 教育評価の特徴②: 文献検討, 事例検討
- 第11回 授業形態(看護技術教育)の特徴①: 文献検討, 事例検討
- 第12回 授業形態(看護技術教育)の特徴②: 文献検討, 事例検討
- 第13回 授業形態(臨地実習)の特徴①: 文献検討, 事例検討
- 第14回 授業形態(臨地実習)の特徴②: 文献検討, 事例検討
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自身が携わっている看護基礎教育について, 各テーマの側面から関心を持ち, 考察する姿勢を持つ。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

日本文学研究の基礎

獲得目標

大学で日本文学を研究するための基礎的な知識と方法を習得する。演習形式の発表までのノウハウを身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「名文鑑賞」レポート作成要項
- 第3回 研究入門講義 作品論 夏目漱石「こころ」を例に
- 第4回 研究入門講義 テーマの設定、作品分析の方法、参考文献の集め方
- 第5回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 1
- 第6回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 2
- 第7回 研究入門講義 近代文学研究と卒業論文
- 第8回 学生発表 森鷗外「高瀬舟」
- 第9回 学生発表 夏目漱石「それから」
- 第10回 学生発表 芥川龍之介「舞踏会」
- 第11回 学生発表 志賀直哉「小僧の神様」
- 第12回 学生発表 谷崎潤一郎「春琴抄」
- 第13回 学生発表 太宰治「人間失格」
- 第14回 学生発表 三島由紀夫「潮騒」
- 第15回 学生発表 横光利一「機械」

授業以外での学習方法

日本文学の作品を積極的に多読すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）

授業中課題（ ）

小テスト（ ）

授業中発表等（30%）

a10201a250

参加度（20%）

期末試験はレポート形式。発表のまとめのレポートと、「名文鑑賞」レポートのふたつを課題とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈B〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語のことばと心

獲得目標

古典文学をきちんと読むことで味わうことのできる楽しさと意義を実感することを目的とする。古典を読むことが、現代人にとって、人生を考えるきっかけとなるものであることを授業を通じて確認してもらいたい。

授業の内容

前半は、源氏物語を読むための必要な知識や方法の確認を行いつつ作品を鑑賞し、後半は、演習形式で読みの実践を重ねていく。

内 容

- 第1回 前半の授業展開のねらいと進め方のガイダンス
- 第2回 源氏物語という作品について
- 第3回 源氏物語が描く人生
- 第4回 源氏物語を読む方法
- 第5回 源氏物語を読む その1(光源氏の恋 理想と現実)
- 第6回 源氏物語を読む その2(光源氏の人生 栄耀も苦悩も豊かな人生)
- 第7回 源氏物語を読む その3(源氏物語の女君 その賢明さ)
- 第8回 後半の演習形式の授業についてのガイダンス
- 第9回 源氏物語の読みの演習 その1(桐壺の巻)
- 第10回 源氏物語の読みの演習 その2(若紫の巻)
- 第11回 源氏物語の読みの演習 その3(葵の巻)
- 第12回 源氏物語の読みの演習 その4(賢木の巻)
- 第13回 源氏物語の読みの演習 その5(須磨の巻)
- 第14回 源氏物語の読みの演習 その6(明石の巻)
- 第15回 授業のまとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全14冊

著者: 玉上琢弥

出版社：角川書店

出版年：1964～1969

ISBN：

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者：池田亀鑑

出版社：中央公論社

出版年：1984～1985

ISBN：

その他各種源氏物語注釈書

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

源氏物語カルチャー講座

著者：福嶋昭治

出版社：扶桑社

出版年：2008

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（40）

参加度（30）

小テスト（ ）

授業中発表等（30）

参考URL

源氏物語の世界

<http://www.sainet.or.jp/~eshibuya/>

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <C>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

獲得目標

1)日本語を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2)データ収集、データ分析、レジュメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3)他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の内容

日本語はもっとも身近な言語だが、そこには私たちが知らない<謎>がひそんでいる。動詞の意味分析を通して、その<謎>を発見し、自らの力で解明する方法をマスターする。

内 容

- 第1回 導入：日本語をなぜ考えるのか？
- 第2回 チームによる日本語分析(1)
- 第3回 チームによる日本語分析(2)
- 第4回 分担の決定+データ収集の方法
- 第5回 データについての報告
- 第6回 担当項目のチーム内検討(1)
- 第7回 担当項目のチーム内検討(2)
- 第8回 担当項目のチーム内検討(3)
- 第9回 受講生による報告(1)
- 第10回 受講生による報告(2)
- 第11回 受講生による報告(3)
- 第12回 受講生による報告(4)
- 第13回 受講生による報告(5)
- 第14回 受講生による報告(6)
- 第15回 レポートの書き方

授業以外での学習方法

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手にとってみてください。今まで知らなかった日本語の姿が立ち上がってきます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <D>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

テーマ

書の基本の総合的学習

獲得目標

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など、基本的な知識と技法の修得をめざす。

授業の内容

書の基本に関する講義と実習。

内 容

- 第1回 書体と書風
- 第2回 文字の成立と書体の発達、推移。
- 第3回 文字の成立と書体の発達、推移。
- 第4回 篆書の鑑賞と表現。
- 第5回 隷書の鑑賞と表現。
- 第6回 楷書の造形。
- 第7回 行書の造形。
- 第8回 漢字書の歴史。
- 第9回 漢字書の歴史。
- 第10回 仮名書の歴史。
- 第11回 人と書。
- 第12回 人と書。
- 第13回 生活と書。
- 第14回 用具、用材について。
- 第15回 まとめ。

授業以外での学習方法

多くの書に接する機会を持つこと。臨書をしっかりすること。また書に関する参考書を多く読み、書への理解を深めること。

教科書

授業で資料配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業で紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポート、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語学概説Ⅱ**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語研究の研究分野と研究成果について概説する

獲得目標

日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「文法」「文章・文体」「方言」「言語生活」等について、その研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。

授業の内容

日本語学の研究分野である「文法」「文章・文体」「方言」「言語生活」等について講義を行う。概説であっても、極めて専門性の高い内容であるため、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス 文法(品詞論)1
- 第2回 文法(品詞論)2
- 第3回 文法(敬語論)
- 第4回 文法(構文論)1
- 第5回 文法 まとめと小テスト
- 第6回 文章・文体1
- 第7回 文章・文体2
- 第8回 方言1
- 第9回 方言2
- 第10回 文章・文体・方言 まとめと小テスト
- 第11回 言語生活1
- 第12回 言語生活2
- 第13回 日本語教育1
- 第14回 言語生活・日本語教育 まとめと小テスト
- 第15回 日本語研究の展望

授業以外での学習方法

受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから授業に臨むこと。また、授業後は、それぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認すること。

教科書

概説日本語学 改訂版

著者： 飯田晴巳他編

出版社： 明治書院

出版年： 2007

ISBN： 9784625704017

参考書

日本語概説

著者： 沖森卓也編

出版社：朝倉書店
出版年：2010 ISBN：9784254515237

日本語学のしくみ
著者：町田健編
出版社：研究社
出版年：2001 ISBN：432738304X

改訂版日本語要説
著者：工藤浩他著
出版社：ひつじ書房
出版年：2009 ISBN：978489476468-2

日本語概説
著者：渡辺実著
出版社：岩波書店
出版年：1996 ISBN：4000260022

ベーシック現代の日本語学
著者：日野資成
出版社：ひつじ書房
出版年：2009 ISBN：9784894764385

朝倉日本語講座全10巻
著者：北原保雄監修
出版社：朝倉書店
出版年：2002-5 ISBN：9784254515114

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）参加度は、積極的な受講に対して評価するものである。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 中学書写Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 新谷 泰一

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習

獲得目標

漢字と仮名の調和した書き方を理解し、その実技の習得を目的とする。授業研究によって現場における効果的な指導法を模索する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許(国語)に役立てる。中学校の教科書「中学書写」を用いて、楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。

授業の内容

内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 前期の復習
- 第3回 半紙による楷書と仮名の調和
- 第4回 半紙による行書と仮名の調和
- 第5回 八つ切による学習
- 第6回 細字による仮名の学習
- 第7回 細字による楷書の学習
- 第8回 細字による行書の学習
- 第9回 細字による漢字仮名交じりの書①
- 第10回 細字による漢字仮名交じりの書②
- 第11回 実用に即した書①
- 第12回 実用に即した書②
- 第13回 生活の中に生きる芸術書①
- 第14回 生活の中に生きる芸術書②
- 第15回 現代における書の必要性和これから

授業以外での学習方法

展覧会などの鑑賞をし、そのレポートの提出

教科書

中学書写一年

著者： 井上輝夫他

出版社： 光村図書

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（60）

授業中発表等（20）

参加度（20）

課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する

参考URL

2014 Syllabus

科目名 篆刻Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	小早川 修治	

テーマ

刻印の技術の習得

獲得目標

篆刻技術の習得

授業の内容

「篆刻Ⅰ」で習得した印の理解の上に立ち、それらを実際に制作し、その技術の習得を目的とする。篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。それ故、普段から篆書に慣れ親しんでおくことが、技術習得の上で重要になってくる。「篆刻Ⅰ」を履修していることが望ましい。

内 容

- 第1回 側款の文章表現(漢文)、誰が、いつ刻したか
- 第2回 " どこで、誰の為に刻したか
- 第3回 側款の刻し方
- 第4回 白文四字印の布字
- 第5回 " 刻と鈐印
- 第6回 朱文四字印の布字
- 第7回 " 刻と鈐印
- 第8回 白文四字印の布字
- 第9回 " 刻と鈐印
- 第10回 朱文四字印の布字
- 第11回 " 刻と鈐印
- 第12回 白文四字印の布字
- 第13回 " 刻と鈐印
- 第14回 朱文四字印の布字
- 第15回 " 刻と鈐印

授業以外での学習方法

篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。

教科書

書道テキスト 第10巻 篆刻

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN: 7984544141108

参考書

a10201e050

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書論・鑑賞Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 成田 健太郎

テーマ

書の古典鑑賞2

獲得目標

書の古典の価値を深く理解する。それぞれの作品が理解され評価されてきた来歴や、それを学習することの意味を把握した上で、自分の感じる魅力を自分なりの言葉で人に伝えることができるようになることを目指す。

授業の内容

有名な書家や作品をとりあげ、歴史上の評価や意義を書論資料から考察する。さらに今日の大衆向け展観を想定し、受講者によるプレゼンテーションも行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 書の古典と現代における受容のあり方(総説)
- 第3回 王羲之と蘭亭序(1)
- 第4回 王羲之と蘭亭序(2)
- 第5回 北宋の書(1)
- 第6回 北宋の書(2)
- 第7回 明清の書(1)
- 第8回 明清の書(2)
- 第9回 写経の美(1)
- 第10回 写経の美(2)
- 第11回 かな古筆の美(1)
- 第12回 かな古筆の美(2)
- 第13回 墨蹟(1)
- 第14回 墨蹟(2)
- 第15回 まとめ(レポート提出)

授業以外での学習方法

中国書道史上の名品を図版などで鑑賞しておくこと。できれば、博物館・美術館などにでかけて、作品(真跡)鑑賞する機会を多く作ることが望ましい。

教科書

参考書

書道全集

著者: 神田喜一郎ほか

出版社: 平凡社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (0)

授業中課題: 学期末レポート

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <A>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小野 浩

テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

獲得目標

歴史研究における一次史料(根本史料)とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。

授業の内容

歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことにはならない。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもついで質疑応答も行う。発表者は必ずレジュメを用意し全員に配布する。時間は質疑応答を含め1人30分程度とし、1回の授業で2～3人が報告する。自分がどこに関心をもったのか、どの点に疑問を感じたのか、といった発表者自身の考えが前面に出た発表が望まれる。ただ単に事典、本の関係部分を抜き書きしたような報告は避けること。またいたずらに詳しいだけの報告は、その分野の知識をあまり持たない出席者にとりわかりにくいものとなるので、この点にも留意が必要である。毎回各発表に対する意見、感想を提出させる。最終回までに全員が発表を担当するよう、担当順番を設定して授業を進める。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 導論 一次史料とは何か? その1 歴史研究における史料の意味
- 第2回 導論 一次史料とは何か? その2 文献史料についての説明
- 第3回 過去の発表レジュメの具体的紹介
- 第4回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その1
- 第5回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その2
- 第6回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その3
- 第7回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その4
- 第8回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その5
- 第9回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その6
- 第10回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その7
- 第11回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その8
- 第12回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その9
- 第13回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その10
- 第14回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その11
- 第15回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その12 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

a10301a250

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈B〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	松浦 京子	

テーマ

世界史上の人物について研究する

獲得目標

歴史学科学学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす

授業の内容

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。また、学生の発表報告に際しては、1週前の時点でレジュメの概要をもとに個別指導を行なう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 本演習のねらいについての解説: 卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得
- 第2回 テーマ設定と問題提起についての説明: どのような歴史上の人物を選ぶべきか、人物をとおしてどのような歴史的問いかけができるのか
- 第3回 文献検索、収集のやり方についての解説: 図書館の検索システムを利用して実際に検索してみる(2、3回目は順不同)
- 第4回 問題設定に対する回答を得るための分析・整理: 第2回の課題を用いて、また模擬報告用レジュメを用いて、回答を得るための内容整理について考察検討し、レジュメ作成上の留意点を解説する
- 第5回 読み上げ原稿について、と模擬報告: 読み上げ原稿(400字詰め原稿用紙7~8枚程度)についての説明とレジュメを用いての模擬報告
- 第6回 これより、学生番号順に学生の発表報告①(報告時間は20分程度を目安とすると発表後の質疑応答、教員からのコメント
- 第7回 学生発表報告②、質疑応答と教員からのコメント
- 第8回 学生発表報告③、質疑応答と教員からのコメント
- 第9回 学生発表報告④、質疑応答と教員からのコメント
- 第10回 学生発表報告⑤、質疑応答と教員からのコメント
- 第11回 学生発表報告⑥、質疑応答と教員からのコメント
- 第12回 学生発表報告⑦、質疑応答と教員からのコメント
- 第13回 学生発表報告⑧、質疑応答と教員からのコメント
- 第14回 学生発表報告⑨、質疑応答と教員からのコメント
- 第15回 学生発表報告⑩、質疑応答と教員からのコメント ならびに本演習のまとめ

授業以外での学習方法

発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメならびに読み上げ原稿の作成。その過程で、教員と面談の上アドバイスを受けること。

教科書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

授業中の課題には、発表報告後に、発表の際の読み上げ原稿を、教員からのコメントとゼミ生仲間からの指摘を参考にして書き改めて提出するレポートも含まれる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **研究入門ゼミⅡ <C>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	南 直人	

テーマ

歴史学研究のための基礎的能力の育成

獲得目標

歴史学科で学ぶ意味について自分で考えるとともに、世界史上の重要なトピックについて自分の力で調査し分析し発表する能力を修得する

授業の内容

歴史学に関する基礎的内容を以下の授業計画に沿って学修する。なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

内 容

- 第1回 大学で学ぶことの意味を考える
- 第2回 卒業後の進路、将来の人生設計を考える
- 第3回 歴史学の意義、その社会的役割について考える
- 第4回 歴史書を読んで内容をまとめる(1)
- 第5回 歴史書を読んで内容をまとめる(2)
- 第6回 歴史書を読んで内容をまとめる(3)
- 第7回 研究発表・レジュメ作成のガイダンス
- 第8回 個人別発表(1)
- 第9回 個人別発表(2)
- 第10回 個人別発表(3)
- 第11回 個人別発表(4)
- 第12回 個人別発表(5)
- 第13回 個人別発表(6)
- 第14回 個人別発表(7)
- 第15回 まとめ・総括

授業以外での学習方法

発表者は必ずレジュメを準備し、さらに発表用の原稿を準備すること。また授業中に紹介する歴史に関する文献を各自読んでもらいたい。

教科書

ヨーロッパがわかる

著者： 明石和康

出版社： 岩波ジュニア新書

出版年：

ISBN：

参考書

歴史を冒険するために

著者： 中谷功治

出版社：関西学院大学出版会

出版年：2008

ISBN:

甘さと権力 - 砂糖が語る近代史

著者： シドニー・ミンツ

出版社：平凡社

出版年：1988

ISBN:

砂糖の世界史

著者： 川北稔

出版社：岩波書店

出版年：1996

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <D>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	増淵 徹	

テーマ

京都の歴史を材料に、歴史の学び方を身につける

獲得目標

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

授業の内容

1780(安永9)年刊の『都名所図会』から材料を各参加者に割り当て、そこに描写された名所について調べ、その結果を報告し、質疑応答を行う形式で進行させる。また、早い段階に実際の調べ方を学ぶために学外授業を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 テキストの解説、授業展開の説明とレポート作成手順の解説
- 第2回 図書館の実際的な利用方法の解説、史料の読みと理解の実際(1)
- 第3回 史料の読みと理解の実際(2)
- 第4回 現地観察の方法(学外授業)
- 第5回 個別発表と質疑(1)
- 第6回 個別発表と質疑(2)
- 第7回 個別発表と質疑(3)
- 第8回 個別発表と質疑(4)
- 第9回 個別発表と質疑(5)
- 第10回 個別発表と質疑(6)
- 第11回 個別発表と質疑(7)
- 第12回 個別発表と質疑(8)
- 第13回 個別発表と質疑(9)
- 第14回 個別発表と質疑(10)
- 第15回 完成レポート作成の指導。

授業以外での学習方法

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。活字を通して知識を豊富にすること。

教科書

都名所図会(該当部分コピー配布)

著者:

出版社: 京都叢書・版本

出版年:

ISBN:

参考書

京都の歴史

著者:

出版社: 学芸書林

出版年:

ISBN:

京の鴨川と橋

著者: 門脇禎二・朝尾直弘編

出版社: 思文閣出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

完成レポートの未提出者には単位修得を認めない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈E〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 酒井 一臣

テーマ

歴史学入門 歴史を学ぶ楽しさ

獲得目標

この授業では、歴史学を志す学生に、歴史学とはどのような学問か、どのような方法で学べるのか、どのような意義があるのか、などを学んでもらうことを目的とします。

授業の内容

基礎学習のための講義・グループ発表・個人発表の順に授業を進めます。なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

内 容

- 第1回 歴史学へようこそ 歴史を学ぶ意義(授業参加者のグループ分け、ゼミリーダー決定)
- 第2回 歴史学へようこそ 歴史学のテーマ(テーマの決め方、方法論)
- 第3回 歴史学へようこそ 歴史学の学び方(本を探す)
- 第4回 基礎文献を読む1(教員指定文献の輪読)
- 第5回 基礎文献を読む2(教員指定文献の輪読)
- 第6回 グループ発表会1
- 第7回 グループ発表会2
- 第8回 個人テーマ発表準備(教員が指定した範囲で個人テーマを決め、学習計画を立てます)
- 第9回 個人テーマ発表準備(レジュメ作成法)
- 第10回 個人テーマ発表会1
- 第11回 個人テーマ発表会2
- 第12回 個人テーマ発表会3
- 第13回 個人テーマ発表会4
- 第14回 個人テーマ発表会5
- 第15回 個人テーマ発表会6

授業以外での学習方法

歴史学は未来を見通す学問です。現代の諸問題にも目を向けましょう。新聞を読む習慣が大切です。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

歴史を冒険するために

著者: 中谷功治

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（50）

参加度（40）

ゼミは、自分で調べ、人の調査に意見を述べ、自分の思考力をきたえることが目的です。自分の意見をはっきり述べることを心がけて下さい。ただ出席することを「参加」とはみなしません。高校までの教わることを中心とする学習から、自分でテーマを見つけて学習する姿勢が重要です。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **研究入門ゼミⅡ <F>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾下 成敏

テーマ

歴史研究入門

獲得目標

歴史研究を行うさい、その基礎となる書物を読み込んでもらい、そのことによって、歴史学研究についての理解を深めてもらいたい。

授業の内容

歴史研究のさい活用される辞典を読み、そこに書かれていることを要約し、年表などを作成してもらう。すなわち研究を行うさい必要な基礎的作業を体験してもらうことになる。

内 容

- 第1回 ガイダンス等
- 第2回 ガイダンス等
- 第3回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第4回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第5回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第6回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第7回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第8回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第9回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第10回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第11回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第12回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第13回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第14回 歴史研究に必要な辞典の講読
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業中に指示する。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (35)

授業中発表等 (35)

参加度 (30)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化史・文化交流史Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 酒井 一臣

テーマ

文化交流史の諸問題 総論編

獲得目標

グローバル化の進む現代世界はどのように形成されたのか。日本はどのような影響を受けてきたのか。この授業では、現代文化の形成を、世界の一体化という視点から、様々な側面から考察します。理解促進のため、映画もみませす。

授業の内容

国際交流や文化史を学ぶために必要な基礎的概念を学習します。

内 容

- 第1回 日本文化はあるのか
- 第2回 文明と野蛮(1) 明治日本の挑戦
- 第3回 文明と野蛮(2) 黄禍論と白禍論
- 第4回 文明と野蛮(3) 「王様と私」
- 第5回 中間のまとめ(レポート課題)
- 第6回 人種問題(1) なぜ人種差別が生まれたのか
- 第7回 人種問題(2) アメリカの人種問題
- 第8回 人種問題(3) 「フライド・グリーン・トマト」
- 第9回 中間のまとめ(レポート課題)
- 第10回 多文化主義(1) オーストラリアの多文化主義
- 第11回 多文化主義(2) 日本で多文化主義は可能か
- 第12回 移動する人びと(1) 大量移民の時代
- 第13回 移動する人びと(2) 文化摩擦
- 第14回 移動する人びと(3) グローバル世界
- 第15回 全体の考察とまとめ

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでください。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

白人とは何か

著者: 藤川隆男編

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (40)
参加度 (10)

小テスト (50)
授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 考古学実習Ⅳ〈Z〉

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	一瀬 和夫	

テーマ

発掘調査成果を記録、報告するという考古学研究の基礎の中で自己研究をまとめる操作方法をつかむ

獲得目標

I do and I understand. I work and I utilize.をもとに、主に統計、写真、絵画、デザイン、印刷、展示、プレゼンテーション、教育、ボランティア的要素などを備える発掘調査報告書の作成技術の修得をめざす。

授業の内容

主にPC教室で、報告書作成作業を行う。実際の印刷や活用資料製作の見学をする。

内 容

- 第1回 報告書作成の概要
- 第2回 遺物のデジタル写真撮影
- 第3回 遺物のデジタル写真撮影とPhotoshopによる画像修正
- 第4回 Illustratorによる遺構のレイアウト
- 第5回 Illustratorによる遺構のレイアウトとスケール・方位等の作成
- 第6回 Illustratorによる遺物のレイアウト
- 第7回 Illustratorによる遺物のレイアウトとスケール・ナンバリング等の作成
- 第8回 InDesignによる編集①
- 第9回 InDesignによる編集②
- 第10回 コロタイプ印刷過程の見学(学外授業)
- 第11回 原稿作成①
- 第12回 原稿作成②
- 第13回 考古学の活用に伴ったプログラムへの参加
- 第14回 展示実習、模型、ハンズ・オン装置の製作工程の見学(学外授業)
- 第15回 報告書とそれに伴うプレゼンテーションの総評

授業以外での学習方法

デジタルカメラ、Photoshop(画像)、Illustrator(製図)、InDesign(印刷編集)のコンピュータ・ソフトに触れる。

教科書

PCによる教材提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

埋蔵文化財発掘調査の手びき

著者: 文化庁文化財保護部

a104030450

出版社: 国土地理協会

出版年: 1966

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 美術工芸史実習Ⅳ <Za>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 小林 裕子

テーマ

仏像の調書作成方法や取扱を身につけるとともに、拓本の取り方、和綴じの方法など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。

獲得目標

学芸員や研究者は実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。

授業の内容

前期実習Ⅲに引き続き、美術工芸品の取扱いを学ぶ。なお、本実習では夏季休業中に近畿圏の寺院における宿泊実習をおこなう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 仏像の種類と取扱説明
- 第3回 取扱実習(仏像①)
- 第4回 取扱実習(仏像②)
- 第5回 取扱実習(仏像③)
- 第6回 取扱実習(仏像④)
- 第7回 取扱実習(仏像⑤)
- 第8回 拓本
- 第9回 拓本
- 第10回 拓本
- 第11回 裏打ち
- 第12回 裏打ち
- 第13回 和綴じ
- 第14回 和綴じ
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (20)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 美術工芸史実習Ⅳ <Zb>

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	有坂 道子	

テーマ

古文書の整理と扱い方

獲得目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の内容

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方を実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 実習(1)内海家文書の解読・中級①
- 第3回 実習(2)内海家文書の解読・中級②
- 第4回 実習(3)内海家文書の解読・中級③
- 第5回 実習(4)内海家文書の解読・中級④
- 第6回 学外授業
- 第7回 実習(5)内海家文書の解読・中級⑤
- 第8回 実習(6)内海家文書の解読・中級⑥
- 第9回 実習(7)内海家文書の解読・中級⑦
- 第10回 実習(8)内海家文書の解読・中級⑧
- 第11回 学外授業
- 第12回 実習(9)内海家文書の解読・上級①
- 第13回 実習(10)内海家文書の解読・上級②
- 第14回 実習(11)内海家文書の解読・上級③
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (70)

出席を重視する

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

獲得目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の内容

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史遺産学概説①
- 第3回 歴史遺産学概説②
- 第4回 学外見学事前学習
- 第5回 学外見学
- 第6回 学外見学事後学習
- 第7回 総括
- 第8回 ガイダンス
- 第9回 歴史遺産学概説③
- 第10回 歴史遺産学概説④
- 第11回 歴史遺産学概説⑤
- 第12回 学外見学事前学習
- 第13回 学外見学
- 第14回 学外見学事後学習
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **研究入門ゼミⅡ **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

獲得目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の内容

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史遺産学概説①
- 第3回 歴史遺産学概説②
- 第4回 学外見学事前学習
- 第5回 学外見学
- 第6回 学外見学事後学習
- 第7回 総括
- 第8回 ガイダンス
- 第9回 歴史遺産学概説③
- 第10回 歴史遺産学概説④
- 第11回 歴史遺産学概説⑤
- 第12回 学外見学事前学習
- 第13回 学外見学
- 第14回 学外見学事後学習
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <C>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

獲得目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の内容

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史遺産学概説①
- 第3回 歴史遺産学概説②
- 第4回 学外見学事前学習
- 第5回 学外見学
- 第6回 学外見学事後学習
- 第7回 総括
- 第8回 ガイダンス
- 第9回 歴史遺産学概説③
- 第10回 歴史遺産学概説④
- 第11回 歴史遺産学概説⑤
- 第12回 学外見学事前学習
- 第13回 学外見学
- 第14回 学外見学事後学習
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古都学Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 前田 義明	

テーマ

地下に埋もれた遺構・遺物から京都の歴史と文化の特性を探る。

獲得目標

京都の歴史と文化が歴史・文化遺産として現代に影響を与え、生き続けていることを理解する。

授業の内容

平安京以前の京都、平安京の構造、民衆の生活、中世の京都、近世の京都など各時代の遺跡について、発掘調査の成果から具体的に考古学的な遺構・遺物の検討や実見することで古都の知見を掘り下げる。

内 容

- 第1回 平安京遷都 長岡京から平安京へ遷都された意味を探る
- 第2回 平安京の条坊制と条里制 京都の町並みと平安京の条坊制・条里制の関連を学ぶ
- 第3回 平安宮の構造 平安宮の構造について実態と変遷を探る
- 第4回 平安京の邸宅 京都の市街地に埋もれた平安時代の邸宅跡を探る
- 第5回 平安京の寺院 平安京とその周辺に造営された寺院についてその特性を理解する
- 第6回 平安京の出土遺物(1) 平安宮や寺院造営に伴い多量に作られた平安時代の瓦の特性を探る
- 第7回 平安京の出土遺物(2) 土器・祭祀遺物・銭貨・石製帯飾具についてその特質や変遷を学ぶ
- 第8回 山科の遺跡(1) 山科盆地にある縄文時代から中世の遺跡を学ぶ
- 第9回 山科の遺跡(2) 実地見学(大宅廃寺～山科本願寺)
- 第10回 院政期(1) 白河上皇と鳥羽上皇によって造営された鳥羽離宮跡について学ぶ
- 第11回 院政期(2) 六勝寺・法金剛院・法住寺殿など院政期の遺跡を学ぶ
- 第12回 中世の遺跡 市街地遺跡の調査から中世の遺跡の実態を探る
- 第13回 織豊期(1) 聚楽第・御土居・天正地割・方広寺など豊臣秀吉が行なった土木事業を探る
- 第14回 織豊期(2) 江戸時代に破壊・移築された伏見城の実態を探る
- 第15回 近世の遺跡 二条城・淀城や公家町遺跡など近世の遺跡を学ぶ

授業以外での学習方法

京都市内の博物館や資料館を見学し実見する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

平安京提要

著者:

出版社: 角川書店

出版年: 1994年

ISBN: 04-821044-0

つちの中の京都1

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2009年

ISBN: 89704-267-1

つちの中の京都2

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2001年

ISBN: 89704-163-5

つちの中の京都3

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2006年

ISBN: 89704-224-0

つちの中の京都4

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2010年

ISBN: 89704-278-7

成績評価

試験 (0%)

小テスト (20%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈A〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	池田 修	

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアーズについて学ぶ①:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアーズについて学ぶ②:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアーズについて学ぶ③:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアーズについて学ぶ④:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアーズについて学ぶ⑤:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈B〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森本 美絵	

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアーズについて学ぶ①:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアーズについて学ぶ②:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアーズについて学ぶ③:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアーズについて学ぶ④:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアーズについて学ぶ⑤:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈C〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	神谷 栄司	

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアーズについて学ぶ①:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアーズについて学ぶ②:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアーズについて学ぶ③:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアーズについて学ぶ④:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアーズについて学ぶ⑤:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈D〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	佐野 仁美	

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアーズについて学ぶ①:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアーズについて学ぶ②:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアーズについて学ぶ③:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアーズについて学ぶ④:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアーズについて学ぶ⑤:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈E〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	芦名 猛夫	

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアースhipについて学ぶ①:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアースhipについて学ぶ②:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアースhipについて学ぶ③:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアースhipについて学ぶ④:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアースhipについて学ぶ⑤:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ <F>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	青木 美智子	

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアースhipについて学ぶ①:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアースhipについて学ぶ②:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアースhipについて学ぶ③:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアースhipについて学ぶ④:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアースhipについて学ぶ⑤:教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会福祉**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	80
履修条件	クラス指定	
担当者	幸重 忠孝	

テーマ

現代の身近な社会課題を切り口に社会福祉の理念と制度を理解する

獲得目標

子どもを取り巻く家族や社会の様々な課題に社会福祉がどう関わっているのか、社会福祉の理念をベースにしながら現在の社会福祉の制度や仕組みを理解する。社会福祉の理念とは何かを講義を通して常に考えることを目的とする。

授業の内容

各回に関連した身近な福祉テーマをあつかった視聴覚教材(映画・ドラマ・アニメ・ドキュメンタリーなど)や地域の福祉活動を題材にし、社会福祉の現状と課題を講義する。ミニレポートを通して社会福祉の理念を考察する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「現代社会における社会福祉の意義」
- 第2回 現代社会における社会福祉の意義「社会福祉とは何か？」
- 第3回 社会福祉と児童家庭福祉①「在宅福祉の推進」
- 第4回 社会福祉と児童家庭福祉②「少子高齢化社会と社会福祉」
- 第5回 社会福祉と子どもの人権「生活困窮と子どもの貧困」
- 第6回 社会福祉の制度と実施体系①「社会福祉の法律と制度」
- 第7回 社会福祉の制度と実施体系②「社会福祉の行政機関と社会福祉施設」
- 第8回 社会福祉の専門職「ソーシャルワーカーとケアワーカー」
- 第9回 社会福祉の歴史の変遷「社会福祉の先駆者たち」
- 第10回 ソーシャルワーク①「ケースワーク・相談援助」
- 第11回 ソーシャルワーク②「グループワーク・コミュニティーワーク」
- 第12回 社会福祉の動向と課題①「多様な家族形態と福祉支援」
- 第13回 社会福祉の動向と課題②「市民による福祉・NPO活動」
- 第14回 利用者の保護「守秘義務と第三者評価」
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で紹介された参考文献(福祉コミック)を読み学びを深める 課題レポートによるフィールドワーク

教科書

子どもたちとつくる貧困とひとりぼっちのないまち

著者： 山科醍醐こどものひろば

出版社： かがわ出版

出版年： 2013

ISBN： 9784780305760

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (0)

授業外課題(30%)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

のほほん研究室

<http://www.nohohonse.com/>

教員ホームページ

幸重社会福祉士事務所

<http://yukishige.jp/>

教員の個人事務所

2014 Syllabus

科目名 **相談援助〈幼A〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

獲得目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の内容

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

内 容

- 第1回 相談援助の概要
- 第2回 相談援助の方法
- 第3回 個人に対する相談援助の具体的展開
- 第4回 事例による理解
- 第5回 集団を活用した相談援助の具体的展開
- 第6回 事例による理解
- 第7回 記録・連携・協働の方法
- 第8回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考文献等を読み進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

2014 Syllabus

科目名 **相談援助〈幼B〉**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期前半	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森本 美絵	

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

獲得目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の内容

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

内 容

- 第1回 相談援助の概要
- 第2回 相談援助の方法
- 第3回 個人に対する相談援助の具体的展開
- 第4回 事例による理解
- 第5回 集団を活用した相談援助の具体的展開
- 第6回 事例による理解
- 第7回 記録・連携・協働の方法
- 第8回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考文献等を読み進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (20%)

小テスト (50%)

授業中発表等 ()

a30102g912

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **相談援助〈幼C〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期前半

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

獲得目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の内容

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

内 容

- 第1回 相談援助の概要
- 第2回 相談援助の方法
- 第3回 個人に対する相談援助の具体的展開
- 第4回 事例による理解
- 第5回 集団を活用した相談援助の具体的展開
- 第6回 事例による理解
- 第7回 記録・連携・協働の方法
- 第8回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考文献等を読み進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

a30102g913

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保育相談支援 <幼A>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

獲得目標

保護者支援の意義、基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を考える

授業の内容

内 容

- 第1回 保育相談支援の意義と基本的視点
- 第2回 保育相談支援の基本
- 第3回 保育相談支援の展開
- 第4回 環境を通じた保育相談支援
- 第5回 保育所入所児童の保護者への保育相談支援
- 第6回 保育所の地域子育て支援における保育相談支援
- 第7回 児童福祉施設における保育相談支援
- 第8回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

教科書

参考書

<増補版>保育者の保護者支援

著者： 柏女霊峰 橋本真紀

出版社： フレーベル館

出版年：

ISBN：

保育相談支援

著者： 小林育子

出版社： 萌文書林

出版年：

ISBN：

成績評価

a30102h010

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (20)

小テスト (50)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保育相談支援〈幼B〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

獲得目標

保護者支援の意義、基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を考える

授業の内容

内 容

- 第1回 保育相談支援の意義と基本的視点
- 第2回 保育相談支援の基本
- 第3回 保育相談支援の展開
- 第4回 環境を通じた保育相談支援
- 第5回 保育所入所児童の保護者への保育相談支援
- 第6回 保育所の地域子育て支援における保育相談支援
- 第7回 児童福祉施設における保育相談支援
- 第8回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

教科書

参考書

〈増補版〉保育者の保護者支援

著者： 柏女霊峰 橋本真紀

出版社： フレーベル館

出版年：

ISBN：

保育相談支援

著者： 小林育子

出版社： 萌文書林

出版年：

ISBN：

成績評価

a30102h012

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (20)

小テスト (50)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保育相談支援 <幼C>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 前期後半

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森本 美絵

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

獲得目標

保護者支援の意義、基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を考える

授業の内容

内 容

- 第1回 保育相談支援の意義と基本的視点
- 第2回 保育相談支援の基本
- 第3回 保育相談支援の展開
- 第4回 環境を通じた保育相談支援
- 第5回 保育所入所児童の保護者への保育相談支援
- 第6回 保育所の地域子育て支援における保育相談支援
- 第7回 児童福祉施設における保育相談支援
- 第8回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

教科書

参考書

<増補版>保育者の保護者支援

著者： 柏女霊峰 橋本真紀

出版社： フレーベル館

出版年：

ISBN：

保育相談支援

著者： 小林育子

出版社： 萌文書林

出版年：

ISBN：

成績評価

a30102h013

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (20)

小テスト (50)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 家庭支援論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 古橋 紗人子	

テーマ

保育所・子育て支援活動の現状を中心に、子どもや親・家庭への支援を考える。

獲得目標

1. 家庭の意義とその機能について理解する。2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。3. 子育て家庭の支援体制について理解する。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

授業の内容

保育所や子育て支援事業等における、利用者の主体性や自助をより尊重した「家庭支援論」の理解について、テキストを中心に参考書(絵本・小説・保育月刊誌)や、事例を紹介しながら授業をすすめます。講義の他に家庭支援の視点から「連絡帳」や「指導計画」の書き方の実際についても学ぶ授業を目指します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 自己紹介 授業の進め方 「援助」と「支援」という言葉について
 第2回 1. 家庭支援の意義と役割 (1) 家庭の意義と機能 子どもの成長・発達と家庭
 第3回 1. 家庭支援の意義と役割 (2) 家庭支援の必要性 子どもの成長と親の成長 個別指導計画—保護者支援
 第4回 1. 家庭支援の意義と役割 (3) 保育士等が行う家庭支援の原理 小テスト
 第5回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (1) 現代の家庭における人間関係 連絡帳の書き方
 第6回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (2) 地域社会の変容と家庭支援
 第7回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (3) 男女共同参画社会とワークライフバランス 小テスト
 第8回 3. 子育て家庭の支援体制 (1) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
 第9回 3. 子育て家庭の支援体制 (2) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 小テスト
 第10回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (1) 子育て支援サービスの概要
 第11回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (2) 保育所入所児童の家庭への支援 リーフレット作成
 第12回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (3) 地域の子育て家庭への支援
 第13回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (4) 養保護児童及びその家庭に対する支援
 第14回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (5) 子育て支援における関係機関との連携
 第15回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (6) 子育て支援サービスの課題 小テスト

授業以外での学習方法

- ①参考書を読む。 ②保育所・子育て支援事業・児童館などで自主実習させていただき実践力をつける。

教科書

家族援助論

著者: 野澤正子・森本美絵

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2008

ISBN:

参考書

愛着崩壊—子どもを愛せない大人たち

著者: 岡田尊司

出版社：角川選書

出版年：2012

ISBN:

こどもへのまなざし 完

著者：佐々木正美

出版社：福音館書店

出版年：2010

ISBN:

赤ちゃんから学ぶ「乳児保育の実践力」—保育所・家庭で役立つ

著者：川原佐公・古橋紗人子

出版社：保育出版社

出版年：2010

ISBN:

子どもの脳を守る—小児脳神経外科医の報告

著者：山崎麻美

出版社：集英社新書

出版年：2007

ISBN:

わたし

著者：谷川俊太郎・文 長新太・絵

出版社：福音館書店

出版年：1981

ISBN:

まいごになったぞう

著者：寺村輝夫・文 上村勉・絵

出版社：偕成社

出版年：1989

ISBN:

ねんねん ねこねこ

著者：ながのひでこ

出版社：アリス館

出版年：1996

ISBN:

国銅

著者：簗木蓬生

出版社：新潮文庫

出版年：2006

ISBN:

月刊 保育とカリキュラム

著者:

出版社：ひかりのくに株式会社

出版年：2014

ISBN:

成績評価

試験（なし）

小テスト（40）

授業中課題（30）

授業中発表等（10）

参加度（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ〈A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

大学の学習スタイルを身につける

獲得目標

自分を取り巻く状況から「問題」を発見し、それについて調べて考え、その内容を発表し、議論する能力の伸長

授業の内容

前期に習得した「問題」の発見の仕方、資料の調べ方、論の展開の仕方、発表の仕方、等々の力を生かして、今度は自分で「問題」を見つけ、それについて調べ、レジュメにまとめて発表してもらおう。発表は一人ないし二人で行い、その後、前期と同じ要領でディスカッションを行いたい。ペーパーの書き方、参考文献の使い方や引用の方法についても指導する。5回以上欠席すると、単位が認められない。

内 容

- 第1回 前期ペーパー返却、講評、後期へのイントロダクション
- 第2回 発表①
- 第3回 発表②
- 第4回 発表③
- 第5回 発表④
- 第6回 発表⑤
- 第7回 発表⑥
- 第8回 発表⑦
- 第9回 発表⑧
- 第10回 発表⑨
- 第11回 発表⑩
- 第12回 発表⑪
- 第13回 発表⑫
- 第14回 発表⑬
- 第15回 発表⑭、総括。ペーパー提出

授業以外での学習方法

基本的に前期と同じ。また前記と同様、3回感想文を提出するが、後期は英語・英米文化に関する好きな本を選んでよい。

教科書

参考書

成績評価

試験（（ペーパー）50）
授業中課題（10）

小テスト（）
授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	西村 友美	

テーマ

アカデミック・スキルの深化

獲得目標

「研究入門ゼミⅠ」で習得したアカデミック・スキルをより発展させ、自ら問題を発見し、表現する力を深化させる。

授業の内容

課題図書は「研究入門ゼミⅠ」で読んだものより専門性が高くなる。また、Critical な読みができるよう、自ら参考文献に当たって、読みを深めていく。発表では、異文化コミュニケーションに関する問題をグループで討議して、その成果をクラスでプレゼンする。レポート執筆では、ピア・リーディングを導入し、よりよい書き方を学ぶ。

内 容

- 第1回 受講生の発表と全員での討論(1回目)、レポート提出
- 第2回 受講生の発表と全員での討論(1回目)
- 第3回 受講生の発表と全員での討論(1回目)、レポート返却とコメント
- 第4回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第5回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第6回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第7回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第8回 中間のまとめとレポート第1ドラフト提出
- 第9回 レポート第1ドラフト返却とコメント
- 第10回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフトのピア・リーディング
- 第11回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフト提出
- 第12回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフト返却
- 第13回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第3ドラフトのピア・リーディング
- 第14回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第3ドラフト提出
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

英語コミュニケーション学科で学ぶ専門領域の文献を読む。その他日頃からコミュニケーションに関する本や新聞を読み、TVなどを見て、発表のテーマを自ら探す。Graded readers を読む。自主勉強会に参加する。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Communication I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 西村 友美

テーマ

グローバル時代におけるリスニング

獲得目標

グローバル時代における時事、国際問題のTVニュースなどを題材にした素材を聞き、理解することを目指す。

授業の内容

CALL教室で、紙媒体だけでなくネットでアクセスできる素材などを活用し、幅広いリスニング活動を行なう。また、聞くだけでなく、シャドーイングなどで教材とともに自分の声を録音するトレーニングを取り入れ、自然な発音やスピードを身につけるようにする。

内 容

- 第1回 リスニングに必要なこと
- 第2回 Unit 1
- 第3回 Unit 2
- 第4回 Unit 3
- 第5回 Unit 4
- 第6回 Unit 5
- 第7回 Unit 6
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 Unit 7
- 第10回 Unit 8
- 第11回 Unit 9
- 第12回 Unit 10
- 第13回 Unit 11
- 第14回 Unit 12
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞を読む。テキストの予習。シャドーイングの練習。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈A〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	李 在鎬	

テーマ

経営者の役割(2)

獲得目標

組織を成功に導く経営者の哲学、リーダーシップ、行動原理について考察し、現代ビジネス学習の楽しさを覚えるとともに、文献の読解能力、レジュメとして纏める能力、発表能力など、大学教育の基礎を身に付けることを獲得目標とする。

授業の内容

名経営者の伝記や文献を輪読・発表・議論する。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 マネジメント現場の見学、又は理解度チェック
- 第15回 全体の総括、マネジメント現場の見学、又は理解度チェック

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

幸之助論

著者: ジョン・P・コッター

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（30）

授業中課題（0）

授業中発表等（50）

参加度（20）

2/3以上の出席率が単位認定の前提条件となります。基本的に2回以上の報告と討論への積極的な参加が求められます。1回はテストに置き換えられることがあります。理解度テストは筆記試験か、口頭試問によって行われます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ〈B〉**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	高山 一夫	

テーマ

大学における学習スキルの習得並びに学習習慣の確立

獲得目標

この演習では、受講生が学生生活を円滑にスタートするために資するよう、大学で勉強をするために必要な各種のスキルを学ぶとともに、受講生が自ら勉強する習慣の確立を図ることを、目標とする。

授業の内容

①大学での基本的学習スキルについての確認、②映像教材を通じたマネジメント分野への学習意欲の喚起、③テキストを用いた発表と討論を通じたコミュニケーションスキルの獲得

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大学での学び(1)
- 第3回 大学での学び(2)
- 第4回 大学での学び(3)
- 第5回 大学での学び(4)
- 第6回 大学での学び(5)
- 第7回 映像教材を用いた学習(1)
- 第8回 映像教材を用いた学習(2)
- 第9回 映像教材を用いた学習(3)
- 第10回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(1)
- 第11回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(2)
- 第12回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(3)
- 第13回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(4)
- 第14回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(5)
- 第15回 演習全体のまとめ

授業以外での学習方法

予習復習をしっかりと行い、演習に積極的に参加すること。各自で学習ポートフォリオを作成し、学習記録と配布物等を保存すること。

教科書

生活保護から考える

著者： 稲葉剛

出版社： 岩波書店

出版年： 2013

ISBN： 9784004314592

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ <C>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

統計学的な考え方の基本

獲得目標

身近な問題を統計学の基本的な知識を使って考えることで、情報で溢れかえる現代社会に起こる様々な現象を捉える視点を養うとともに、発表用資料の作成要領、発表における表現方法、質疑のポイントなどの学生生活に必要な技術を身に付ける。

授業の内容

毎回の発表および議論を通して、問題を整理し論理的に考える姿勢を学ぶとともに、自分の知識や考えを他の人に伝えるためのスキルを身に付ける。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表方法について
- 第3回 学生による発表および議論(1)
- 第4回 学生による発表および議論(2)
- 第5回 学生による発表および議論(3)
- 第6回 学生による発表および議論(4)
- 第7回 学生による発表および議論(5)
- 第8回 前半の総括
- 第9回 学生による発表および議論(6)
- 第10回 学生による発表および議論(7)
- 第11回 学生による発表および議論(8)
- 第12回 学生による発表および議論(9)
- 第13回 学生による発表および議論(10)
- 第14回 学生による発表および議論(11)
- 第15回 全体の総括

授業以外での学習方法

教科書

統計学でリスクと向き合う 新版

著者： 宮川公男

出版社： 東洋経済新報社

出版年： 2007

ISBN：

参考書

a50101a253

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ〈D〉**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	尾関 美智子	

テーマ

大学における学習スキルの習得ならびに学習習慣の確立

獲得目標

この演習では、受講生が大学で勉強するために必要な各種のスキルを学ぶとともに、受講生が自ら勉強する習慣の確立を図ることを目標とする。

授業の内容

①大学での基本的学習スキルについての確認、②テキストを用いた発表と討論を通じたコミュニケーションスキルの獲得

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大学での学び(1)
- 第3回 大学での学び(2)
- 第4回 大学での学び(3)
- 第5回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(1)
- 第6回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(2)
- 第7回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(3)
- 第8回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(4)
- 第9回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(5)
- 第10回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(6)
- 第11回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(7)
- 第12回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(8)
- 第13回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(9)
- 第14回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(10)
- 第15回 演習全体のまとめと確認テスト

授業以外での学習方法

予習復習をしっかりと行い、演習に積極的に参加すること。各自で学習ポートフォリオを作成し、学習記録と配布物等を保存すること。

教科書

テレビの日本語

著者： 加藤昌男

出版社： 岩波新書

出版年： 2012

ISBN： 9784004313786

参考書

学術論文の技法【新訂版】

著者： 齊藤孝・西岡達裕

a50101a254

出版社：日本エディタースクール出版部

出版年：2005

ISBN：9784888883528

レポート・論文の書き方入門第3版

著者：河野哲也

出版社：慶応義塾大学出版会

出版年：2004

ISBN：4766409698

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（30）

授業中発表等（40）

参加度（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ〈E〉**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 今井 まりな

テーマ

マーケティングの基礎をつかむ。

獲得目標

マーケティングに関する基礎知識の習得、発表やディスカッションに向けて報告資料の準備に慣れることを目的とする。

授業の内容

グループ分けを行い、各グループに最低2回、報告を割り当てる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自己紹介の報告と輪読の説明
- 第3回 輪読①(1周日)
- 第4回 輪読②(1周日)
- 第5回 輪読③(1周日)
- 第6回 輪読④(1周日)
- 第7回 輪読⑤(1周日)
- 第8回 輪読⑥(1周日)
- 第9回 輪読①(2周日)
- 第10回 輪読②(2周日)
- 第11回 輪読③(2周日)
- 第12回 輪読④(2周日)
- 第13回 輪読⑤(2周日)
- 第14回 輪読⑥(2周日)
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

身のまわりのマーケティング現象を注意深く観察する。各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。

教科書

マーケティングをつかむ

著者： 黒岩健一郎・水越康介

出版社： 有斐閣

出版年： 2012

ISBN： 9784641177178

参考書

a50101a255

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈救急A〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 土井 一弘

テーマ

数学への興味関心、特に救急救命士をめざす者に必要な数学的物の見方を身につける。

獲得目標

救急救命士をめざす者が、仕事の上で必要となる数学的物の見方を身につけるとともに、公務員試験などをクリアするために基礎的な数学を復習する。

授業の内容

基礎的な数学の演習

内 容

- 第1回 レディネス診断
- 第2回 救急救命士として必要な数学を学び直す
- 第3回 数の不思議から文字へ
- 第4回 数の不思議から文字へ
- 第5回 速度(速さ)にまつわるエトセトラ
- 第6回 濃度にまつわるエトセトラ
- 第7回 方程式・不等式の活用①
- 第8回 方程式・不等式の活用②
- 第9回 比・割合
- 第10回 場合の数
- 第11回 確率って信じますか
- 第12回 平面図形①
- 第13回 平面図形②
- 第14回 平面図形の計量
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (55%)

授業中課題 (15%)

小テスト (15%)

授業中発表等 ()

a50101a256

参加度（15%）

授業中課題とはノート提出のことである 小テストは宿題提出で代用することもある

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ〈救急B〉**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 志賀 亮一	

テーマ

現代市民・公務員に求められる知識と教養――現代の政治

獲得目標

救急救命士養成コースでは、卒業後の進路を確実なものとするため、市民・公務員として基本的な知識と教養が不可欠である。この授業では、わが国の動向を中心に現代政治の基礎知識を身につける。

授業の内容

毎回プリントを配布し、それをもとに現代政治の基礎知識を講義したのち、授業終了時に、受講生数名を指名して次回のための小テスト問題作成を課す。次回は、授業開始時にその小テストを受け、自己採点して前回の知識を確実なものとする。

内 容

- 第1回 近代政治思想――王権神授説と社会契約論
- 第2回 近代国家の諸原則
- 第3回 人権の原理と歴史
- 第4回 世界の政治制度――イギリス、アメリカ、社会主義国
- 第5回 日本国憲法と国民主権
- 第6回 日本国憲法と基本的人権①
- 第7回 日本国憲法と基本的人権②
- 第8回 中間のテスト&日本国憲法と平和主義
- 第9回 日本国憲法と政治制度①
- 第10回 日本国憲法と政治制度②
- 第11回 現代政治①――地方自治と選挙
- 第12回 現代政治②――政党と政党政治
- 第13回 国際政治①――国連と戦後の国際関係
- 第14回 国際政治②――戦後日本の外交政策など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

各授業後毎回プリント復習のこと。小テスト問題の作成を課されたものは、期限までにはならず提出のこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

出席不良者、小テスト問題未提出者は単位を認定しない

小テスト (100)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **会計学入門**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

会計の基礎的思考の修得

獲得目標

会計学(企業会計)という社会科学は、経済情報を収集し、処理し、伝達する、非常に精密に組み立てられた、企業の内外利害関係者へのコミュニケーション・ツールである。会計の様々な姿を紹介しながら、このことを理解するのが本講義の目的である。

授業の内容

本講義では、初心者理解しやすいように、平易に書かれたテキストを使用するが、講義のレベルと下げないように、多くのサブ教材を使用するので、しっかりと勉強してもらいたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス 企業経営の仕組みと会計の役割
- 第2回 会計と経理 財務諸表と決算
- 第3回 企業会計原則と会計法規
- 第4回 貸借対照表の構造-資金の調達と運用-
- 第5回 損益計算書の構造-経営努力と経営成果-
- 第6回 経営活動の中身と利益の区分表示の意味
- 第7回 経営分析(1)
- 第8回 経営分析(2)
- 第9回 経営分析(3)
- 第10回 コストマネジメントの意義
- 第11回 コストマネジメントの方法
- 第12回 利益計画の方法(1)
- 第13回 利益計画の方法(2)
- 第14回 財務リバレッジ理論
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネス等に掲載される経済記事を適宜紹介する(プリントでの配布等)ので、講義で学んだ知識を活用して、経営の実務にも興味をもってもらいたい。

教科書

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

新版財務諸表論

著者： 武田隆二

出版社： 中央経済社

出版年： ISBN：

情報化社会における管理会計の役割

著者： 河野充央

出版社： 税務経理協会

出版年： ISBN：

成績評価

試験（30）

小テスト（10）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（50）

日経新聞や日経ビジネス等に掲載される経済記事を適宜紹介する(プリントでの配布等)ので、講義で学んだ知識を活用して、経営の実務にも興味をもってもらいたい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **現代企業論 I**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 李 在鎬

テーマ

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

獲得目標

株式会社を中心とした、企業の存在価値について理解を深める。

授業の内容

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

内 容

- 第1回 講義概要、及び現代企業を見る観点
- 第2回 企業の目的と存在価値
- 第3回 財・サービスの提供機関としての企業
- 第4回 企業の形態論
- 第5回 株式会社制度の出現と展開
- 第6回 株式会社の本質と特徴
- 第7回 株式会社の組織
- 第8回 企業論の基本的概念の総括と理解度チェック
- 第9回 コーポレート・ガバナンスの国際比較
- 第10回 企業の境界
- 第11回 企業関係の構造と行動
- 第12回 企業統合の形態論とM&A
- 第13回 会社機関
- 第14回 証券取引市場
- 第15回 企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお薦めします。

教科書

企業論

著者： 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫

出版社： 有斐閣

出版年： 2007

ISBN：

参考書

a50101e950

成績評価

試験（80）

授業中課題（10）

参加度（10）

テスト以外の「みなし評価」は原則的に認めておりません。

小テスト（0）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **救急救命特別実習 <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 海老澤 徹二郎

テーマ

海外先進地の救急体制の視察

獲得目標

海外先進地の救急体制を学ぶことで、より高度な実践力を身につけ、救急救命士としての視野を広げ、知識技能の向上を図ることを目的とします。

授業の内容

海外実習

内 容

- 第1回 事前学習及びガイダンス
- 第2回 海外視察
- 第3回 海外視察
- 第4回 海外視察
- 第5回 海外視察
- 第6回 海外視察
- 第7回 海外視察
- 第8回 事後報告会

授業以外での学習方法

事前学習 事後報告会等

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (60)

a50102g080

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **救急救命特別実習 **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 喜熨斗 智也

テーマ

海外先進地の救急体制の視察

獲得目標

海外先進地の救急体制を学ぶことで、より高度な実践力を身につけ、救急救命士としての視野を広げ、知識技能の向上を図ることを目的とします。

授業の内容

海外実習

内 容

- 第1回 事前学習及びガイダンス
- 第2回 海外視察
- 第3回 海外視察
- 第4回 海外視察
- 第5回 海外視察
- 第6回 海外視察
- 第7回 海外視察
- 第8回 事後報告会

授業以外での学習方法

事前学習 事後報告会等

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (60)

2014 Syllabus

科目名 救急救命特別実習 <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 千田 いずみ.夏目 美樹

テーマ

他国の救急事情および救急救命士教育の実情の把握

獲得目標

救急先進国アメリカでの救急業務および通信指令業務の実際を現地実習にて理解を深め、日本との相違点などを把握・理解することを目的とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 学内オリエンテーション
- 第2回 国内消防業務研究
- 第3回 見学予定地の事前研究
- 第4回 現地実習
- 第5回 実習後報告検討会

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ〈A〉**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	近藤 康子	

テーマ

小論文を作成し、発表する。

獲得目標

・調査の方法を学ぶ。・論文の書き方を学ぶ。・プレゼンテーション能力を身に付ける。・基礎演習1に引き続き、京都の建築・インテリアを知る。

授業の内容

夏休みレポートをもとにして、各自、小論文を作成する。論文作成にあたり必要な調査方法、論文の書き方、プレゼンテーション能力を身に付けることとして、この授業ではグループで見学会を企画し、それについての調査、発表を行なう。学外授業を行なうこともあり、その場合には下記の日程を調整する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 夏休みレポートをもとに、小論文のテーマを発表。
- 第3回 2グループに分かれて見学会を企画。見学する建築・インテリアについては、各グループ内で話し合って決めること。
- 第4回 見学する建築・インテリアの歴史、文化、思想、構成などの調査。(図書館を利用した文献調査や、地域の人へのヒアリングなど)
- 第5回 見学する建築・インテリアの歴史、文化、思想、構成などの調査。
- 第6回 調査内容についてのプレゼンテーション。(パワーポイントの利用)
- 第7回 調査内容についてのプレゼンテーション。
- 第8回 見学会の実践1
- 第9回 見学会の実践2
- 第10回 反省会(調査内容の不足や過多、見学会での発見などを確認)
- 第11回 小論文の作成。
- 第12回 小論文の作成。
- 第13回 小論文の発表。
- 第14回 小論文の発表。
- 第15回 発表予備日。一年間のまとめ。※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行なうことがある。

授業以外での学習方法

日常的に新聞、雑誌、本などを読むこと。気になるところに傍線を引く、メモ書きをするなど、それぞれの仕方理解するよう努めること。

教科書

使用しない。適宜資料を配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ〈B〉**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	五十川 伸矢	

テーマ

テーマを設定して小論文を作成し、発表する力を身につける

獲得目標

①基礎レポートをもとにして、短い小論文を作成するための技術を獲得する。②各種の新書を読んで、研究課題に対する様々な考え方を学ぶ能力を修得する。③パワーポイントなどのプレゼンテーション能力を獲得する。

授業の内容

基礎レポート(夏休みレポート)をもとにして、発展させた小論文を作成し、発表をおこなう。

内 容

- 第1回 納得工房の見学
- 第2回 夏休み課題の研究成果の報告会
- 第3回 基礎レポートの発表①
- 第4回 基礎レポートの発表②
- 第5回 基礎レポートの発表③
- 第6回 基礎レポートの発表④
- 第7回 基礎レポートの発表⑤
- 第8回 パワーポイント製作練習
- 第9回 プレゼンテーションの基礎的技術
- 第10回 プレゼンテーションの練習①
- 第11回 プレゼンテーションの練習②
- 第12回 プレゼンテーションの練習③
- 第13回 プレゼンテーションの練習④
- 第14回 インターゼミの反省
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

毎日、新聞を読み、テレビニュースを見るという習慣をつけ、時事的で社会的な問題に関心をもって接すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ〈C〉**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	織田 直文	

テーマ

プレゼンテーション力とフィールドワーク力を生かしてデザインする力を身につけよう

獲得目標

基礎演習Ⅰでの学びを活かし、より魅力的で実効性ある事業の企画ができるデザイン力を高める。それらの基本となる知識獲得に通じる「私のお奨め専門書1冊」や京都のまちづくりの歴史学習を行い、討論を行うほか、まちづくりの先進事例調査(フィールドワーク)を実施し、臨床の知を深める。

授業の内容

事業企画の実践を学ぶため、事例研究や地域イベントにスタッフとして参加する。私のお奨め一冊で、順番に報告、討論する。京都のまちづくりの歴史学習を行い、討論を行うほか必要に応じて学外授業を行うことがある。

内 容

- 第1回 授業の進め方および、地域イベントについての講義
- 第2回 先進事例調査(フィールドワーク)
- 第3回 先進事例調査(フィールドワーク)
- 第4回 地域イベント企画への参加
- 第5回 地域イベントへのスタッフ参加
- 第6回 地域イベントへのスタッフ参加
- 第7回 地域イベントへのスタッフ参加
- 第8回 地域イベントの反省
- 第9回 夏休みレポートの発表①
- 第10回 夏休みレポートの発表②
- 第11回 「私のお奨め専門書1冊」① + 京都のまちづくり史①
- 第12回 「私のお奨め専門書1冊」② + 京都のまちづくり史②
- 第13回 「私のお奨め専門書1冊」③ + 京都のまちづくり史③
- 第14回 「私のお奨め専門書1冊」④ + 京都のまちづくり史④
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自分が関心を抱くテーマに関する新聞、雑誌記事などのスクラップをする癖をつける。

教科書

京都千二年(下)

著者: 西川幸治・高橋徹

出版社: 草思社

出版年: 1997

ISBN:

参考書

とくにない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (40)

イベント企画・実施等の実践活動への取組姿勢を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ〈D〉**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

小論文とレジュメを作成し、プレゼンテーションをする

獲得目標

自分の意見を論理だてて展開した小論文とそのレジュメを作成するとともに、人を説得するためのプレゼンテーションの技法を身につける

授業の内容

インターゼミナールを目指して、以下の内容について実践する

内 容

- 第1回 夏休みレポートの提出とテーマ報告
- 第2回 レジュメの作成とプレゼンテーションの技法
- 第3回 夏休みレポートの発表(1)
- 第4回 夏休みレポートの発表(2)
- 第5回 夏休みレポートの発表(3)
- 第6回 夏休みレポートの発表(4)
- 第7回 夏休みレポートの発表(5)
- 第8回 プレゼンテーションの実践(1)
- 第9回 プレゼンテーションの実践(2)
- 第10回 プレゼンテーションの実践(3)
- 第11回 プレゼンテーションの実践(4)
- 第12回 プレゼンテーションの実践(5)
- 第13回 プレゼンテーションの実践(6)
- 第14回 インターゼミナールの反省
- 第15回 1年を振り返って

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など)

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈E〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

アカデミックスキルとベーシックスキルの取得

獲得目標

研究テーマを絞る方法を身につける 自らの経験を通して、観察する／理解する／伝えるための言語力を伸ばす

授業の内容

アカデミック・スキルとソーシャル・スキルの習得

内 容

- 第1回 夏休みレポートの再作業① 作業の反省
 第2回 夏休みレポートの再作業② 図書館でのさらなる文献探索
 第3回 夏休みレポートの再作業③ 5分間スピーチに向けて
 第4回 夏休みレポートの再作業④ レジюмеの作成
 第5回 自分なりの研究テーマを考える1 視点を持つこと
 第6回 自分なりの研究テーマを考える2 視点を変える
 第7回 自分なりの研究テーマを考える3 逆演算
 第8回 自分なりの研究テーマを考える4 条件を変えてみる
 第9回 自分なりの研究テーマを考える5 要素と構造
 第10回 自分なりの研究テーマを考える6 自分の尺度を持つ
 第11回 自分なりの研究テーマを考える7 アナロジーを使う
 第12回 自分なりの研究テーマを考える8 伝える場合、伝えない場合
 第13回 自分なりの研究テーマを考える9 個で考えて集団で共有する
 第14回 もう一度レジюмеを作ってみる
 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

図書館の積極的利用を通して、専門学習への準備をすること

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (100)

参加度 ()

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈F〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	木下 達文	

テーマ

現代マネジメントを総合的に考える ～大学における研究と実践(プロジェクト)の実際を学ぶ～

獲得目標

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての 課題設定、情報(文献)収集、レポート・原稿の書き方、調査(フィールドワーク)の方法など、基礎的な方法論と同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行いながら、身をもって現代ビジネスのあり方を応用的に身につけるとともに、全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることを目的とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標・自他理解)
- 第2回 個人研究発表1
- 第3回 個人研究発表2
- 第4回 個人研究発表3
- 第5回 個人研究発表4
- 第6回 個人研究発表5
- 第7回 個人研究発表6
- 第8回 個人研究発表7
- 第9回 個人研究発表8
- 第10回 プロジェクト企画に関する基礎研究の検討
- 第11回 プロジェクト企画に関する事業計画
- 第12回 学科インターゼミナールの実施
- 第13回 プロジェクト企画に関する事業準備
- 第14回 プロジェクト企画に関する事業実践
- 第15回 プロジェクト企画に関する事業評価(エヴァリエーション活動) ※演習の内容によって多少変更をする場合もある。

授業以外での学習方法

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。日頃の生活では、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できることはしてみましょう。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (30)

a50201ab56

参加度（40）
特に出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈G〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	杉山 泰	

テーマ

小論文の作成と発表

獲得目標

・自分の意見の根拠となる証拠を集めることができるようになる。(図書館の利用)・自分の意見を論理建てて説明できるようになる。(「レジュメ」の書き方)・他人を説得するためのプレゼンテーションの基礎的スキルを身につける(腹式呼吸の重要性、英語の発声と日本語の発声の違い、factとfeelingの違い)

授業の内容

「夏休みレポート」を元にした小論文を完成させることが「基礎演習Ⅱ」を通じた目標である。夏休みにレポートできるテーマを探し、それを「論文」にしていくことで、大学の4回生で完成させる「卒業論文」のミニ版を作ってもらおう。それを元にして、12月半ばの「インターゼミ」で発表を行なう。前期2冊のテキストの読了を義務付ける。

内 容

- 第1回 夏休みを振り返る。(夏休みの思い出を語り、夏休みレポートを提出)
- 第2回 各自のテーマを10分で発表してもらおう。(「レジュメ」の作成)
- 第3回 前期に学んだ「スローライフ」の生き方と「脱原発社会」の生き方を討論する。
- 第4回 大学の文化政策ともいべき「橋祭」をどうしたら、活性化できるのか。ゼミとしてユニークな「店」を出す。(店舗の設計、看板、前売り券のデザイン)
- 第5回 「橋祭」の計画と実践。(いかにマネージメントをしっかりとするか)
- 第6回 発表。(「発表のチェックリスト」の提出)
- 第7回 発表。(「発表のチェックリスト」の提出)
- 第8回 発表。(「発表のチェックリスト」の提出)
- 第9回 プレゼンテーションのテクニック。(パワーポイントの利用、英語的発声)
- 第10回 各自10分間の「レジュメ」の作成。
- 第11回 各自40部ほどの「レジュメA4」を2枚でまとめ完成させる。
- 第12回 インターゼミナールの反省。
- 第13回 「夏休みレポート」の「論文」完成。
- 第14回 「夏休みレポート」の「論文」の「文献一覧」作成。
- 第15回 1年間のまとめ。

授業以外での学習方法

「夏休みレポート」が最重要課題となる。地元に戻ったとき、「わがまちにある近代建築、古建築、文化財」、さらには「博物館」「美術館」などに興味をもってほしい。また、観光地として成功しているのであれば、その「事実」「観光客の数」「外国人の数」「経済効果」などを調べておきたい。寺社仏閣を訪れたときも、「外国語のパンフレット」をください、といえ、パンフレットの比較もできる。10月の「山科駅前陶灯路」(清水焼団地の陶器とロウソクの灯とのコラボ)への参加、秋の「時代祭」(10月22日)への積極的参加を期待する。

教科書

参考書

湯布院の小さな奇跡

著者： 木谷文弘

出版社： 新潮社新書

出版年： 2004年

ISBN:

世界が賞賛した日本の町の秘密

著者: チェスター・リーブス

出版社: 洋泉社新書

出版年: 2011年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)〈A〉**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹 明美・西村 美八

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1, 2回生合同)
 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第15回 まとめ

授業以外の学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a70101b950

参加度（30）

（2/3以上の出席が必要）後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)〈B〉**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片山 由加里・竹 明美

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1, 2回生合同)
 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第15回 まとめ

授業以外の学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a70101b952

参加度（30）

（2/3以上の出席が必要）後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<C>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片山 由加里・常田 裕子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1, 2回生合同)
- 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a70101b953

参加度（30）

（2/3以上の出席が必要）後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<D>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 植村 由美子・常田 裕子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1, 2回生合同)
 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a70101b954

参加度（30）

（2/3以上の出席が必要）後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<E>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 植村 由美子 神崎 光子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1, 2回生合同)
- 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a70101b955

参加度（30）

（2/3以上の出席が必要）後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<F>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 神崎 光子・中橋 苗代

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1, 2回生合同)
 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a70101b956

参加度（30）

（2/3以上の出席が必要）後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<G>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹下 夏美,中橋 苗代

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ - 自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける -

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける (1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) (2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける (1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ (2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1, 2回生合同)
- 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a70101b957

参加度（30）

（2/3以上の出席が必要）後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<H>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子・竹下 夏美

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スケジュール・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1, 2回生合同)
 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第15回 まとめ

授業以外の学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a70101b958

参加度（30）

（2/3以上の出席が必要）後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<I>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子.西村 美八

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶー自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につけるー

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける (1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) (2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける (1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ (2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1, 2回生合同)
 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a70101b959

参加度（30）

（2/3以上の出席が必要）後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生命・医療倫理

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 荒木 正見

テーマ

医療における倫理観を養い、さまざまな医療現場における倫理的場面に対応する知識を得るとともに、医療現場と日常において倫理的な行動がとれるようになる。

獲得目標

倫理学の基礎から、医療倫理の実際や実践的場面における知識を得るとともに、正しい倫理を実践できるような人格発達を遂げる。

授業の内容

集中講義という形式を有効に活用して、基礎から体系的に述べ、最後には獲得目標を達成できるように組み立てる。授業はテキストを主体とするが、特に人格発達に関する内容については、講師作成の資料を配布する。記述能力の育成のために、板書を利用してノートやメモをとっていただく。考える内容なので、じっくり考える習慣をつけるために、医療現場での実例を多く補い、躍動感のある授業を行う。また自己認識の助けとなるオリジナルの自己認識エクササイズを随時行う。

内 容

- 第1回 医療倫理学とは何かを述べ、その歴史と今日、医療者に必要とされている理由と意義について考える。また、発達障害を例にして、人格発達概念と医療との関連について学ぶ。
- 第2回 医療の基礎となる健康概念について考える。テキストに加えて、現在の健康概念の意味、人格発達と健康、などについて補う。
- 第3回 倫理学という学問を考えつつ、再び、医療倫理とは何か、人格発達を遂げるためにはどうすればよいか、などについて考える。
- 第4回 科学としての医療の発展によって生じてきたさまざまな医療倫理上の問題点を例示しつつ、そのあるべき姿を基礎から考える。
- 第5回 生命の終焉に関する医療のありかたを、現実の諸制度を配慮しつつ、生命倫理の立場から考える。
- 第6回 医事法と医療倫理との関係を具体的に考える。特に、法では説明できないところに倫理が存在することを理解し、実践の助けにできるように考える。
- 第7回 科学としての医療の進歩に伴って起こってきた諸問題のうち、特に遺伝子診断、遺伝子治療に関する諸問題とその考え方について学ぶ。
- 第8回 遺伝子診断や遺伝子治療、ターミナルケアなどの知識をもとにして、再び、健康とは何かを考える。特に、真のQOLについて、深く考える。
- 第9回 倫理学の基礎としての人間の尊厳について考えたいうえで、安楽死やクローン人間などの科学的発展の意義と対応の仕方について考える。
- 第10回 訪問看護や地域看護などでの、看護師の教育者としての役割や、看護師自身の自己啓発的教育における、倫理教育や医療倫理教育の意義やその方法について学ぶ。
- 第11回 医療専門職の社会的意義や立場、そのための自己啓発や実践的態度育成などの、実践者としての看護師のあり方について、社会的現実と理念との双方から考える。
- 第12回 患者中心のチーム医療の中で、看護師としていかに関わるべきなのか、実践と理念との融合的態度について、倫理的な側面から考える。
- 第13回 歴史上形となってきた医療倫理に関する綱領や宣言、誓詞などについて理解し、実践の助けとする。
- 第14回 これまでのまとめと、自己理解につながるオリジナルエクササイズを行う。
- 第15回 重要なキーワードを再確認するとともに、全体の成果を確認するエクササイズを行う。

授業以外の学習方法

テキストに目を通して臨んでください。授業後には授業で学んだことを生かして、通学途上やテレビ鑑賞などでもプロとしての思考を行ってください。

教科書

医療倫理学 第2版

著者：丸山マサ美

出版社：中央法規

出版年：2009年

ISBN：978-4-8058-3163

参考書

人格発達と癒し ―昔話解釈・夢解釈―

著者：荒木正見

出版社：ナカニシヤ出版

出版年：2002年

ISBN：4-88848-679-4

場所論と癒し

著者：荒木正見編

出版社：ナカニシヤ出版

出版年：2003年

ISBN：4-88848-752-9

成績評価

試験（60%）

小テスト（10%）

授業中課題（10%）

授業中発表等（10%）

参加度（10%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 助産学実習

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定 員
履修条件 「助産診断学」、「助産技術学」、「看護管理学Ⅱb」を修得済み	クラス指定
担当者 遠藤 俊子・神崎 光子・竹 明美・常田 裕子	

テーマ

母子看護活動における助産師の役割ならびに社会的責任を理解し、周産期にある母子ならびにその家族の尊厳と権利を擁護しながら、健康レベルに応じた助産活動を実践できる能力を養う。

獲得目標

1 周産期にある母子ならびにその家族の健康レベルを経過にそって査定し、健康の増進、疾病予防に必要な看護援助について理解を深める事ができる。①妊婦と胎児の健康診査ならびに保健指導等の看護援助が実践できる。②産婦と胎児の健康診査の実施ならびに分娩経過を査定し、助産過程を展開できる。③分娩経過中の異常兆候を早期に発見し、その対処方法を実践する。④褥婦と新生児の健康診査ならびに保健指導等の看護援助が実践できる。⑤家庭訪問(新生児訪問)を通じて褥婦と新生児の保健指導等の看護援助が実践できる。2 産科救急の特徴と救急処置ならびに産科手術の特徴と介助方法を理解できる。3 母子看護活動における医療・社会資源、チーム医療のあり方について理解し、保健医療福祉サービスの継続性(連携)について実践できる。4 周産期における助産管理の実際について学ぶ。5 助産師としての姿勢を身につける。

授業の内容

1 方法 1)実習時期 5月:分娩見学 6月～7月:受持ち事例の展開 (但し、分娩介助10例に到達しない場合は期間延長) 2)総合実習(2単位)を含む 2 実習内容 1)10例の分娩介助、集団保健指導、継続事例の個別指導を行う。2)カンファレンスを適時実施する 全体では中間・最終カンファレンス(事例検討等)を学内で実施する * 教員が必要と認めた場合は全員を招集して補習講義、カンファレンスを行うことがある。

内 容

第1回 5月:分娩見学
第2回 6月～7月:受持ち事例の展開

授業以外での学習方法

* 実践看護学Ⅲ-5、助産診断学、助産技術学、看護管理学Ⅱ等で指定したテキストや参考書の他、周産期関連の書籍を用いて知識をまとめる。

教科書

参考書

成績評価

試験 () 小テスト ()
授業中課題 (70) 授業中発表等 (10)

参加度 (20)

指定された記録物、実習評価表、カンファレンス、学習・実習態度等により総合的に評価する。補習は実施しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 医療リスクマネジメント

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 山野 薫	

テーマ

医療における安全とその管理を講義し、医療の質を高めることとリスクマネジメントの関係性について教授する。具体的には、医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因について講義し、理解を深める。また、理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について解説する。

獲得目標

1. 医療における安全とその管理の概要を理解する。2. 医療の質を向上させることとリスクマネジメントの関係性について理解する。3. 各種治療におけるリスクおよび事故防止方法について理解する。4. 理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について理解する。

授業の内容

医療における安全とその管理を講義し、医療の質を高めることとリスクマネジメントの関係性について教授する。具体的には、医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因について講義し、理解を深める。また、理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について解説する。

内 容

- 第1回 医療における安全とその管理の概要
- 第2回 医療の質とリスクマネジメント
- 第3回 診療記録の共有(公開)とリスクマネジメント
- 第4回 医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因
- 第5回 チーム医療におけるリスクマネジメントのあり方
- 第6回 理学療法士の業務における感染症の概要
- 第7回 理学療法士の業務における感染症の対策
- 第8回 病院施設の管理体制(医療安全・感染症)

授業以外での学習方法

テキスト等での予習復習

教科書

理学療法リスク管理・ビューポイント

著者：丸山仁司(編集)

出版社：文光堂

出版年：2008

ISBN：9784830643415

参考書

理学療法リスク管理マニュアル 第3版

著者：聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部

出版社：三輪書店

出版年：2011

ISBN：9784895903868

成績評価

試験 (80%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20%)

a90101a150

定期試験80%、授業態度(遅刻や欠席を含む)20%にて評価します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 人体の構造と機能演習Ⅱ(呼吸・循環系、消化系など)

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	林正 健二	

テーマ

理学療法の実践に必要な、人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の基礎知識を修得する。

獲得目標

1. 構造(解剖学)に関する知識を機能(生理学)に関連させる習慣を養う。2. 細胞、組織、器官に関する知識を統合して、生体特有の合目的性および恒常性を理解する。

授業の内容

予習用プリントとテキストを用いて予習をした内容を、授業で確認する。演習は講義とは異なり、自分でしなければ意味がありません。

内 容

- 第1回 血液の成分(血球、血漿、造血)
- 第2回 血液の機能(凝固、線溶、血液型)
- 第3回 循環器系(心臓の構造と機能)
- 第4回 循環器系(血管とリンパ系)
- 第5回 呼吸器系(鼻、咽頭、喉頭、肺)
- 第6回 呼吸器系(換気とガスの運搬、内呼吸と外呼吸、呼吸の調節)
- 第7回 消化器系(食欲と咀嚼・嚥下、口腔、歯、咽頭、食道)
- 第8回 消化器系(胃・小腸・肝臓・膵臓の構造と機能)
- 第9回 消化器系(消化と吸収、大腸の構造と機能)
- 第10回 泌尿器系(腎臓の機能と働き、尿管・膀胱・尿道と排尿の生理)
- 第11回 生殖器系(女性生殖器の構造と機能、性周期)
- 第12回 生殖器系(妊娠・出産、乳腺の構造と機能、男性生殖器の構造と機能)
- 第13回 内分泌系(視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体)
- 第14回 内分泌系(副腎、性腺、消化管、腎臓、胸腺、その他)
- 第15回 免疫系

授業以外での学習方法

国家試験既出問題の問題集を自学自習する習慣は1年生の時から身につけて下さい。

教科書

ナーシング・グラフィカ①解剖生理学

著者: 林正健二編著

出版社: メディカ出版

出版年: 2013年(第3版)

ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版

著者: 金子丑之助

出版社：南山堂

出版年：2000年

ISBN:

ギャング生理学原書第24版

著者：ギャング

出版社：丸善

出版年：2014年

ISBN:

成績評価

試験（90%）

小テスト（10%）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

試験は多肢選択式です

参考URL

2014 Syllabus

科目名 リハビリテーション概論

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	兒玉 隆之・畑 正樹	

テーマ

「リハビリテーション」とは何か、その本質と仕組みの理解

獲得目標

リハビリテーション医学が、歴史的にどのように発展したかを考察することにより、リハビリテーションが医師や作業療法士などの異業種を包括したチームとして活動するチームアプローチであることを理解する。その中で、理学療法士がどのようにチーム活動に寄与できるかを考えながら、これから学んでいく理学療法についてその道しるべとなるよう全体像を形成する。

授業の内容

(畑正樹／8回)リハビリテーション医学の定義と歴史を講義した上で、脳・脊髄・神経・運動器・外傷・内部障害・小児疾患などの障害に関する診断・検査・評価および治療プロセスについて教授する。(兒玉隆之／7回)リハビリテーションの定義・理念・目的・歴史、障害の概念と分類、障害の心理・社会的側面、リハビリテーションのプロセス・段階・職種、リハビリテーションとチーム医療の関わりなど、リハビリテーションの現状を教授する。

内 容

- 第1回 リハビリテーション医学の歴史
- 第2回 リハビリテーション医学の定義・概念
- 第3回 運動器系疾患に対するリハビリテーション医学(上肢)
- 第4回 運動器系疾患に対するリハビリテーション医学(体幹)
- 第5回 運動器系疾患に対するリハビリテーション医学(下肢)
- 第6回 小児整形疾患に対するリハビリテーション医学
- 第7回 内部障害に対するリハビリテーション医学
- 第8回 脳・脊髄障害に対するリハビリテーション医学
- 第9回 リハビリテーションの概念・理念・定義
- 第10回 「健康と障害」の概念と分類
- 第11回 障害の心理、心理的・社会的問題と受容
- 第12回 リハビリテーション過程
- 第13回 リハビリテーションの諸段階
- 第14回 リハビリテーション専門職種とチームアプローチ
- 第15回 ADL, QOLの概念

授業以外での学習方法

教科書

医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論

著者： 上好昭孝, 土肥信之

出版社： 永井書店

出版年： 2011

ISBN:

参考書

a90101a650

成績評価

試験（80）

授業中課題（）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保健医療福祉論**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	並河 孝・村上 貴士	

テーマ

日本における保健医療福祉に関連する政策・制度・法律についての基礎的理解

獲得目標

1. 地域で生活する人びとの健康の保持・増進、疾病予防のための活動を説明できる。2. 地域の保健医療福祉政策について理解し、保健、医療、福祉の連携やその中で専門職が担う活動や役割を説明できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 障害者・高齢者における社会生活上の問題点
- 第2回 地域の保健・福祉制度とサービス
- 第3回 グループワーク「今、地域で何が出来ますか？」
- 第4回 地域での理学療法士の役割と連携
- 第5回 我が国の社会保険制度について
- 第6回 リハビリテーションにおける医療制度Ⅰ
- 第7回 リハビリテーションにおける医療制度Ⅱ
- 第8回 今後の医療保険制度について

授業以外での学習方法

教科書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

国民衛生の動向

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

国民福祉の動向

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（80）

授業中課題（）

参加度（20）

3分の1以上の欠席を認めない

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法技術学入門演習 I (骨・関節の触察)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 松尾 奈々・宮崎 純弥	

テーマ

骨関節疾患の評価・治療ができるようになるために、機能解剖学と体表からの触察を演習形式で学習する。

獲得目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形を知る。2. 学習者が視診・触察を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形を認識する。3. 学習者が評価、治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得する。

授業の内容

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、骨・関節を中心にそれらの解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 総論(運動方向、運動の軸と面、骨の名称、骨・関節の形、触察法)
- 第3回 骨の視診・触察(指骨、手根骨)
- 第4回 手関節の触察
- 第5回 骨の視診・触察(橈骨、尺骨、上腕骨)
- 第6回 肘関節の触察
- 第7回 骨の視診・触察(肩甲骨、鎖骨)
- 第8回 上肢帯と肩関節の触察
- 第9回 骨の視診・触察(脛骨、腓骨、足根骨)
- 第10回 足関節の触察
- 第11回 骨の視診・触察(大腿骨、膝蓋骨)
- 第12回 膝関節の触察
- 第13回 骨の視診・触察(寛骨)
- 第14回 股関節の触察
- 第15回 骨の視診・触察(脊柱)

授業以外での学習方法

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

触診機能解剖カラーアトラス 上 総論・身体の面と軸・骨/関節・靭帯

著者: 竹井仁

出版社: 文光堂

出版年: 2008

ISBN: 9784830643446

触診機能解剖カラーアトラス 下 筋・血管・神経

著者： 竹井仁

出版社： 文光堂

出版年： 2008

ISBN： 9784830643453

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系

著者： 坂井建雄

出版社： 医学書院

出版年： 2011

ISBN： 9784260010689

参考書

成績評価

試験（60）

小テスト（実技試験30）

授業中課題（5）

授業中発表等（）

参加度（5）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **運動療法学**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	横山 茂樹	

テーマ

運動療法の基本的事項に関する知識と技術・方法について理解する。

獲得目標

本講義では、運動療法の構成要素について、生理学および機能解剖学的知識を踏まえた上で学習します。理学療法の基盤となる運動療法に関する幅広い基礎知識を身につけることが目標となる。

授業の内容

内 容

- 第1回 運動療法の基本的概念(1);運動療法の歴史, 定義, 意義
- 第2回 運動療法の基本的概念(2);運動療法の分類, 適用, 効果
- 第3回 基本的運動療法(1);運動メカニズムに関する基礎的知識
- 第4回 基本的運動療法(2);運動療法の手順
- 第5回 関節可動域運動(1);他動的
- 第6回 関節可動域運動(2);ストレッチング(伸張練習)
- 第7回 関節可動域運動(3);モビライゼーション
- 第8回 筋力増強練習(1);自動介助～自動運動
- 第9回 筋力増強練習(2);抵抗運動
- 第10回 筋持久力運動
- 第11回 有酸素運動(全身持久力運動)
- 第12回 協調性運動
- 第13回 全身調整運動
- 第14回 水中運動
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義ノートを作成し、予習・授業内容・復習を整理してまとめてください。ノート提出を求める場合もあります。

教科書

障害別アプローチの理論と実際 第2版

著者: 市橋則明

出版社: 文光堂

出版年: 2014

ISBN: 9784830645037

参考書

運動療法大全

著者: キャロリン・キスナー, 他

成績評価

試験 (60)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (5)

参加度 (5)

復習を目的とした確認テストを実施します。授業中課題として提出されたレポートを参考に評価を行います。授業中発表は、提出したノートの内容も加味して評価します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **地域理学療法学応用演習**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 白岩 加代子.村田 伸	

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的に地域での理学療法士の役割を学習する。

獲得目標

地域理学療法学基礎演習で学んだ地域理学療法学の理念に基づき、地域社会を基盤として行われるリハビリテーションの分野で、地域社会に貢献できる理学療法士の育成をめざす。

授業の内容

地域社会における理学療法士の役割を体験できるような学外研修を中心に授業を行う予定

内 容

- 第1回 オリエンテーション 地域理学療法学の理念・目標・考え方
- 第2回 地域包括ケアと地域リハビリテーションの必要性
- 第3回 リハビリテーションと自立支援
- 第4回 在宅介護での自立支援のあり方
- 第5回 連携とネットワークづくり
- 第6回 介護保険とリハビリテーションにおける課題と展望
- 第7回 通所・訪問リハビリテーションの実際と理学療法士の役割
- 第8回 学外研修(訪問リハビリテーション、地域事業への参加)
- 第9回 学外研修(訪問リハビリテーション、地域事業への参加)
- 第10回 学外研修(訪問リハビリテーション、地域事業への参加)
- 第11回 学外研修(訪問リハビリテーション、地域事業への参加)
- 第12回 学外研修(訪問リハビリテーション、地域事業への参加)
- 第13回 学外研修(訪問リハビリテーション、地域事業への参加)
- 第14回 まとめ(グループ発表など)
- 第15回 まとめ(グループ発表など)

授業以外での学習方法

自分が住んでいる地域や育った環境での保険・福祉制度や地域理学療法の現状について調べてみる。

教科書

地域リハに吏テーション

著者: 大田仁史

出版社: 三輪書店

出版年:

ISBN:

参考書

地域リハビリテーション学テキスト

著者: 細田多穂

a90103b550

出版社：南江堂

出版年：

ISBN：

理学療法学コース`マスターテキスト`地域理学療法学

著者：柳澤健

出版社：メジカルビュー

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（60）

小テスト（）

授業中課題（10）

授業中発表等（20）

参加度（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 パーソナリティ心理学 I

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	井上 裕樹・中島 暢美	

テーマ

パーソナリティ心理学の基礎理論を学ぶ

獲得目標

パーソナリティ心理学の諸側面について基礎的知見を習得する。臨床心理学や発達心理学の知見とも重なるところがあり、今後、心理学の学習を進めるにあたり基本的な理解を得ることを目的とする。

授業の内容

まず、パーソナリティの定義に関連する理論を検討する。次に、パーソナリティの形成要因について議論するためにパーソナリティの発達について詳解する。さらに、パーソナリティの測定方法や病理について概説する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション&イントロダクション ～パーソナリティ心理学で何を学ぶのか～
- 第2回 パーソナリティの理論(1)
- 第3回 パーソナリティの理論(2)
- 第4回 パーソナリティの理論(3)
- 第5回 パーソナリティの理論(4)
- 第6回 パーソナリティ形成要因(1)
- 第7回 パーソナリティ形成要因(2)
- 第8回 パーソナリティ形成要因(3)
- 第9回 パーソナリティ形成要因(4)
- 第10回 パーソナリティ形成要因(5)
- 第11回 パーソナリティの測定方法(1)
- 第12回 パーソナリティの測定方法(2)
- 第13回 パーソナリティの測定方法(3)
- 第14回 パーソナリティの病理(1)
- 第15回 パーソナリティの病理(2)

授業以外での学習方法

心理学辞典等を用いた専門用語の意味の確認(予習、復習)、および関連図書の購読。

教科書

参考書

はじめて学ぶパーソナリティ心理学

著者: 小塩真司

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

パーソナリティ心理学

著者： 二宮克美他編

出版社： 新曜社

出版年：

ISBN：

対人援助職のためのリスニング—カウンセリングの基本となる聞き 方—

著者： 中島暢美

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2014年3月末予定

ISBN：

成績評価

試験（100%）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

定期試験、60点以上／100 が合格とする。出席3分の2以上で受験資格有、遅刻3回で欠席1回。開始30分以降入室、終了30分以前の退室は欠席扱いとする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 家族の心理・社会学

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 滝野 功久

テーマ

家族に関わるさまざまな事象についての心理的かつ社会的な探求

獲得目標

今日、家族のあり方が多様になってきていること、多くの家族が抱える問題・課題も複雑になってきていることをできるだけ具体的に理解し、それらについて言葉や図像で説明できるようになる。一方では、自分の家族の歴史に関心をもち、また他方では、自分の家族とは違った家族のあり様をできるだけ多く具体的に知ることで、家族を通して自らのなかに内化されている世界観・価値観を見直す糸口をつかむ。

授業の内容

「授業」という名称にはなっていますが、これは、周りのさまざまな人々の暮らしや・家族の有り様に積極的に関心をもち、できるだけ具体的な問いをもって取り組むことで、初めて展開できる学びであり、その中身と成果が「内容」ということとなります。そうしたことを含めて、下に記載されるスケジュールは、きっちりその通りに順次行われるプログラムではありません。家族問題が実際に扱われる時は、大体は(原因があり帰結があるという)直線的な動きというより、さまざまなことが複雑に絡む非直線的な展開になりますが、ここでもそれと同じ動きがでて来ると思います。

内 容

- 第1回 全体のオリエンテーション1 なぜ家族か？ 家族とはなにか？ 家・イエ・家庭・family
- 第2回 オリエンテーション2 家族を心理学するとは？ 社会学するとは？
- 第3回 家族をめぐる諸問題と家族のイメージ 「家族」の歴史と多様性
- 第4回 名前と呼び方 名称・氏名 家族の名前 夫婦別姓という問題
- 第5回 家族心理学の課題と方
- 第6回 家族の心理的プロセスと家族内コミュニケーション
- 第7回 男と女の関係1 近年の革命的变化と変わらぬこと
- 第8回 男と女の関係2 セクシュアリティとジェンダーに関わること
- 第9回 親子関係の心理と病理 母子密着と児童虐待
- 第10回 兄弟関係と一人っ子の課題
- 第11回 男と女の関係3 夫婦関係の変化と課題
- 第12回 老いと家族の課題
- 第13回 家族のなかの喪失と死
- 第14回 家族と宗教
- 第15回 全体の振り返り 家族にとって先祖と子孫

授業以外での学習方法

自らの家族、特に親について、関心をもち、無理のない程度に調べてみるということは、学習にとっての大きな資源を見つけることとなります。

教科書

家族心理学入門(補訂版)

著者： 岡堂哲也 編

出版社：(培風館)

出版年：

ISBN：

家族を超える社会学—新たな生の基盤を求めて

著者： 牟田和恵 編

出版社：（新曜社）

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（30）

授業中課題（50）

授業中発表等（60）

参加度（60）

基本的に減点法でなく、加点法で行う。上の数値が100を越えている一つの意味は そこにもある。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **English Communication III **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Practical Oral Communication in English

獲得目標

This course will aim to improve students' self-expression in and understanding of real-life English while fostering critical thinking.

授業の内容

Students will be expected to attend regularly, participate actively and interact with classmates. We will practice listening and speaking skills, and do exercises to build vocabulary and grammar skills. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Things in common
- 第3回 Starting a conversation
- 第4回 Leisure time
- 第5回 Music
- 第6回 Health
- 第7回 Encouraging people to talk
- 第8回 Review 1
- 第9回 Celebrations
- 第10回 Traditions
- 第11回 Childhood
- 第12回 School
- 第13回 Locations
- 第14回 Giving directions
- 第15回 Review 2

授業以外での学習方法

Classwork will be augmented with online homework exercises.

教科書

Touchstone Blended Online Level 2 Student's Book A w/Audio CD/CD-ROM & Online Workbook A

著者: Michael McCarthy, Jeanne McCarten and Helen Sandiford

出版社: Cambridge University Press

出版年:

ISBN: 9781107690660

参考書

成績評価

試験 (25)

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト (25)

授業中発表等 ()

参考URL

ktu-e-learn.net

<http://ktu-e-learn.net/>

We will use this site weekly for accessing audio m

2014 Syllabus

科目名 情報処理応用演習 I

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	松永 順子	

テーマ

Excelを使用し、業務データを目的に応じて活用・分析する方法を習得する。

獲得目標

Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』資格の取得をめざす。

授業の内容

現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終回のみ1～3講時とする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／表作成の基本
- 第2回 実務における表作成と編集・・・データ入力、修正、削除、コピー、オートフィル、書式設定
- 第3回 実務における表計算・・・数式、関数 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(各装置の役割)
- 第4回 実務における表計算・・・相対参照、絶対参照 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(記憶装置、情報の量と単位)
- 第5回 知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア(OS、アプリケーション)
- 第6回 実技科目対策・・・問題1(行挿入、ピボットテーブル、複合グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ファイルとフォルダ
- 第7回 知識科目対策(共通分野)・・・データベース・XML、ネットワーク基礎、インターネット
- 第8回 実技科目対策・・・問題2(並べ替え、集計、関数、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第9回 知識科目対策(共通分野)・・・取引の仕組みと業務データの流れ
- 第10回 実技科目対策・・・問題3(関数、複合グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(会計・財務)
- 第11回 実技科目対策・・・問題4(列挿入、書式コピー、関数、ピボットテーブル、並べ替え、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(業務分析・業務計画)
- 第12回 実技科目対策・・・問題5(関数、ピボットテーブル、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・電子商取引、電子政府・電子自治体、データベース管理
- 第13回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

教科書

日商PC検定試験 データ活用 3級 完全マスター Excel2010対応

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 9784893118981

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **医療と生命の倫理**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 鶴田 尚美

テーマ

生命倫理学の基本問題

獲得目標

1. 生命倫理の基礎的な知識を習得する。2. 自分自身で倫理的問題について考える力を養う。

授業の内容

授業は教科書を随時使いながら、講義形式でおこなう。毎回、授業レジュメを配付する。

内 容

- 第1回 授業の概要説明と受講上の注意
- 第2回 インフォームド・コンセント(1)
- 第3回 インフォームド・コンセント(2)
- 第4回 人工妊娠中絶(1)
- 第5回 人工妊娠中絶(2)
- 第6回 人工妊娠中絶(3)
- 第7回 生殖補助医療(1)
- 第8回 生殖補助医療(2)
- 第9回 出生前診断
- 第10回 終末期医療、安楽死・尊厳死(1)
- 第11回 終末期医療、安楽死・尊厳死(2)
- 第12回 終末期医療、安楽死・尊厳死(3)
- 第13回 脳死と臓器移植(1)
- 第14回 脳死と臓器移植(2)
- 第15回 医療情報

授業以外での学習方法

教科書を前もって予習しておく。

教科書

生命倫理と医療倫理

著者： 伏木信次、樫則章、霜田求

出版社： 金芳堂

出版年： 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験（90）

授業中課題（）

参加度（10）

記述式試験を実施する。

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本人と宗教

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本人はの宗教観の原型的性格を考える

獲得目標

日本人は、無宗教だとよく言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事物に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はずぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあると見てよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原型的側面を探り出し、人は宗教とどのように関わるべきかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原型的側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

授業の内容

生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

内 容

- 第1回 宗教をどのように枠づけるか
- 第2回 日本人の宗教観の原型的側面をさぐる(1)—カミ・仏教公伝に学ぶ—
- 第3回 日本人の宗教観の原型的側面をさぐる(2)—カミ・仏教公伝に学ぶ—
- 第4回 観音と地蔵(1) 観音の誘惑—庶民にとっての観音信仰
- 第5回 観音と地蔵(2) 野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由
- 第6回 福の神と日本人(1)—総論・京洛の福神信仰—
- 第7回 福の神と日本人(2)—毘沙門天信仰・起源と歴史的展開—
- 第8回 福の神と日本人(3)—毘沙門天信仰・仏教守護神から福の神へ—
- 第9回 水神の制御と仏教的神(1)—寺院創建伝説に探る—
- 第10回 水神の制御と仏教的神(2)—寺院創建伝説に探る—
- 第11回 眼の霊力について考える—一つ目の鬼、節分・放相氏、そして写楽包介へ 付・仏教の天眼通と明恵上人
- 第12回 盗む空海(1)—神話的空海の仏教伝承
- 第13回 盗む空海(2)—神話的空海の仏教伝承
- 第14回 日本人のあの世—日本人の他界観はどのように変わったか
- 第15回 復習とまとめ

授業以外での学習方法

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

宗教学

著者： 岸本英夫

出版社： 大明堂

出版年： 1991

ISBN:

宗教学入門

著者： 棚次正和・山中弘 編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2005

ISBN:

その他授業内で指示

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本国憲法 <c>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

獲得目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の内容

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版

著者: 小林武ほか編

出版社: 法律文化社

出版年: 2011

ISBN: 978-4589033529

参考書

憲法入門

著者: 市川 正人・倉田 原志 編

出版社：法律文化社

出版年：2012

ISBN： 978-4589033970

ポケット六法 平成25年版

著者： 西田 典之 他編

出版社：有斐閣

出版年：2012

ISBN： 978-4641009134

憲法 第5版

著者： 芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社：岩波書店

出版年：2011

ISBN： 978-4000227810

成績評価

試験（60）

小テスト（20）

授業中課題（）

授業中発表等（10）

参加度（10）

受講生数・授業の進度により、割合が若干調整されることがある。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本国憲法 <d>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

獲得目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の内容

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版

著者: 小林武ほか編

出版社: 法律文化社

出版年: 2011

ISBN: 978-4589033529

参考書

憲法入門

著者: 市川 正人・倉田 原志 編

出版社：法律文化社

出版年：2012

ISBN： 978-4589033970

ポケット六法 平成25年版

著者： 西田 典之 他編

出版社：有斐閣

出版年：2012

ISBN： 978-4641009134

憲法 第5版

著者： 芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社：岩波書店

出版年：2011

ISBN： 978-4000227810

成績評価

試験（60）

小テスト（20）

授業中課題（ ）

授業中発表等（10）

参加度（10）

受講生数・授業の進度により、割合が若干調整されることがある。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本国憲法 <e>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上出 浩

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

獲得目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の内容

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版

著者: 小林武ほか編

出版社: 法律文化社

出版年: 2011

ISBN: 978-4589033529

参考書

憲法入門

著者: 市川 正人・倉田 原志 編

出版社：法律文化社

出版年：2012

ISBN： 978-4589033970

ポケット六法 平成25年版

著者： 西田 典之 他編

出版社：有斐閣

出版年：2012

ISBN： 978-4641009134

憲法 第5版

著者： 芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社：岩波書店

出版年：2011

ISBN： 978-4000227810

成績評価

試験（60）

小テスト（20）

授業中課題（）

授業中発表等（10）

参加度（10）

受講生数・授業の進度により、割合が若干調整されることがある。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **実践看護応用学演習 I (成人・精神) <M>**

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松本 賢哉	

テーマ

精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法の検討

獲得目標

1. 精神の健康状態のアセスメント及び援助方法を検討する。2. 精神看護における課題を明確にする。

授業の内容

精神の健康状態を包括的にアセスメントし、援助する方法を検討する。また、精神看護における倫理的な課題及び多職種間の連携、地域サポートシステムについて考察する。学生のプレゼンテーションを主として、文献検討及び事例検討を進める。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 精神の健康状態のアセスメント(1)文献検討
- 第3回 精神の健康状態のアセスメント(2)文献検討
- 第4回 精神の健康状態のアセスメント(3)事例検討
- 第5回 精神の健康状態のアセスメント(4)事例検討
- 第6回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法(1)文献
- 第7回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法(2)文献
- 第8回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法(3)文献
- 第9回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法(4)事例検討
- 第10回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法(5)事例検討
- 第11回 精神看護における多職種間の連携、地域におけるサポートシステムの現状と課題
- 第12回 精神看護における倫理的課題
- 第13回 精神看護における課題の明確化(1)
- 第14回 精神看護における課題の明確化(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護応用学実習(老年) <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 沼本 教子・小野塚 元子	

テーマ

講義・演習で学んだ理論、知識、技術を実践に適用・統合し、専門看護師として活動できる看護実践能力の形成・向上を図る。そのために施設で暮らしている健康課題をもつ高齢者(認知症高齢者を含む)とその家族に対し、専門的老年看護の実践、スタッフや他職種への教育、相談、保健医療福祉に関わる人々の調整、倫理的調整などに研究的視点をもって臨み、また老年看護活動を創意工夫・変革するため実践的研究に取り組む。

獲得目標

1) 介護施設を利用し生活する高齢者の生活活動とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。2) 認知症高齢者の生活活動とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。3) 高齢者と家族の関係調整に関する実践・相談・教育、コーディネーションなどの能力を身につける。4) 高齢者ケアにおける看護活動・組織の検討と関係調整に必要なコーディネーション、リーダーシップを発揮する能力を身につける。5) 高齢者ケアにおける看護スタッフへの教育・相談の企画・実践・評価およびコンサルテーション、リーダーシップを発揮する能力を身につける。6) 高齢者ケアにおける倫理的課題について関係者間での倫理的調整に必要な能力を身につける。7) 高齢者ケアにおける看護の創意工夫、開発を図る実践的実態的研究課題を見出し研究的能力を育成する。

授業の内容

1) 施設における老年看護の事例、認知症高齢者の看護の事例について、看護実践を行いケースレポートを作成する。(目標1,2,3) 2) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護管理実践を行い、看護組織・機関における高齢者ケアに関する実践的・実態的課題についてレポートを1例作成する。(目標4) 3) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護活動計画、スタッフ教育、相談、調整、コンサルテーションを行い論述するレポートを1例作成する。(目標5) 4) 病院・施設における実習において倫理的な問題・葛藤について倫理的調整、コーディネーションについて論述するレポートを1例作成する。(目標3,6) 5) 1)~4)のレポートのうち一つについては、高齢者ケアにおける看護の創意工夫、開発を図る実践的・実態的研究としてまとめる。(目標7)

内 容

第1回 実習時期:1年次後期~2年次前期・後期 実習施設・期間:各自の関心領域を中心に、高度な実践知識・スキルの修得、専門看護師の役割・機能などの内容を網羅した実習計画を作成し、実習する。実習期間は1施設最低4週間とし全体で10週間以上を目安とするが、各自の専門的看護実践のための技術や能力の修得度によって調整する。注:①実習期間は、専門看護師として院生の能力開発強化の必要性を考慮し決める。注:②認知症高齢者の看護実践を体験する場合は、必要に応じ医療施設・介護施設・在宅での実習を継続して行う。実習の進め方: 1) 実習目標にもとづき個別行動目標を明確にし、実習計画を立てる、さらに教員、指導者を交えて検討する。2) 日々の実習記録を記載する。また、複雑な事例に関する臨床判断、実践的知識、他者との関係性、自己の気持ちや感情などについて、丁寧に記述し、経験の意味を考察する。3) 高齢者や家族に対する倫理的配慮を行うと共に、予測される倫理的課題について指導者やスタッフと調整する。4) 週1回定期的なカンファレンスにおいて、教員、実習指導者の助言をうけ、専門看護実践に関する自己評価を行うと共に、実習計画を修正する。スーパービジョン: 1) 実習中は、担当教員より週1回のスーパービジョンを受ける。スーパービジョンは、実習施設におけるベツサイドおよび大学での両方を併用する。2) 実習施設では、適宜カンファレンスを行い、実習指導者(専門看護師レベルに相当する看護職)や他の看護職などから、助言・フィードバックを受ける。学習方法:臨床実習、文献学習、学生プレゼンテーション

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

h701013010

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

実習計画の作成(個別行動目標)、実習状況、実習目標の到達状況、プレゼンテーション、課題レポート、学習態度などを総合的に評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 広域看護学特別研究 <Ma>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美	

テーマ

先行文献を収集し、分析しながら自己の研究課題と研究方法を明らかにし、研究計画を立案する。その際に必ず倫理的配慮を行う。倫理申請書を作成し、倫理審査委員会の審査後に調査を実施し、その結果を分析し修士論文を作成する一連の課程を修得できる。

獲得目標

1. 研究課題に関連した先行文献の収集と選別並びに熟読を行い、研究方法を決定する。2. 倫理申請書を作成し、学内の倫理審査委員会で審査を受ける。3. フィールド調査を行い、結果を分析し、考察する。4. 1～3の一連の研究プロセスを経て研究を実施できる基礎能力を身につける。2 論文作成ができる基礎能力を身につける。3 学術発表ができる基礎能力を身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 (1回生)研究課題別の研究プロセスを学習する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第2回 (1回生)研究課題別の研究プロセスを学習する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第3回 (1回生)研究主題を明確にするために、関連の先行研究文献検索、プレゼンテーション(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第4回 (1回生)研究主題を明確にするために、関連の先行研究文献検索、プレゼンテーション(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第5回 (1回生)研究主題を明確にするために、関連の先行研究文献検索、プレゼンテーション(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第6回 (1回生)研究主題を明確にするために、関連の先行研究文献検索、プレゼンテーション(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第7回 (1回生)研究課題に最も適した研究方法の決定を行い、倫理的配慮を行う。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第8回 (1回生)研究課題に最も適した研究方法の決定を行い、倫理的配慮を行う。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第9回 (1回生)研究課題に最も適した研究方法の決定を行い、倫理的配慮を行う。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第10回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第11回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第12回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第13回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第14回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)データの分析結果を考察しまとめる。
- 第15回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)データの分析結果を考察しまとめる。
- 第16回 16回以降(1回生)倫理審査を受ける準備、倫理申請書の作成。研究計画を研究委員会へ申請し、研究倫理に関する審査を受ける。研究倫理委員会で承認された後、研究対象者へパイロットスタディを実施し、研究計画の修正。研究計画及びデータ収集方法の再検討。中間報告会でプレゼンテーションを行う。16回以降(2回生)先行文献の再検討を行いながら、指導者の助言を受けながら論文を完成させる。論文完成後、投稿論文、学会発表等研究成果の公開に向けて準備する。 ※ 但し、3年コースの場合は上記を3年かけて行う予定。

授業以外での学習方法

積極的に他の学生とも交流しディスカッションを行ってください。また多くの課題に関連した先行文献に目を通し、随時まとめておいてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

プレゼンテーション・ディスカッション参加(30%)、論文(60%)、出席(10%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 広域看護学特別研究 <Mb>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 阿部 祝子	

テーマ

特論、演習での学びを基盤として、看護管理学領域における院生の研究課題について、一連の研究プロセスを通して、修士論文をまとめる。

獲得目標

1.研究課題に関連する先行研究・文献について検討を加え、研究課題を明確にする。2.研究計画書を作成し、倫理審査委員会の承認を受ける。3.研究計画に基づき、十分な倫理的配慮のもと研究を遂行する。4.得られた結果をもとに十分に考察を加え、修士論文にまとめる。5.修士論文について、効果的なプレゼンテーションを考え、発表する。6.1～5の一連の研究プロセスを通して、研究を遂行できる基礎能力を身につける。

授業の内容

研究課題の明確化、文献検討、研究テーマの決定、研究計画立案、研究倫理審査委員会への申請、研究の実施、データの収集、データの分析、データに基づく考察、修士論文の作成、論文の発表

内 容

- 第1回 研究課題の明確化
- 第2回 研究課題の明確化
- 第3回 文献の収集と検討
- 第4回 文献の収集と検討
- 第5回 研究テーマの決定
- 第6回 研究テーマに適した方法、倫理的配慮の検討の検討
- 第7回 研究テーマに適した方法、倫理的配慮の検討の検討
- 第8回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第9回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第10回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第11回 研究協力依頼とデータ収集
- 第12回 データ収集
- 第13回 データ収集
- 第14回 データ分析
- 第15回 データ分析
- 第16回 データ分析
- 第17回 データ分析
- 第18回 データに基づく考察
- 第19回 データに基づく考察
- 第20回 データに基づく考察
- 第21回 論文作成
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 論文作成
- 第27回 論文の発表資料の作成
- 第28回 論文の発表資料の作成
- 第29回 論文の発表資料の作成
- 第30回 論文の発表

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (70%)

授業中課題 ()

参加度 (15%)

小テスト ()

授業中発表等 (15%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 広域看護学特別研究 <Mc>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 阿部 祝子	

テーマ

特論、演習での学びを基盤として、看護教育学領域における院生の研究課題について、一連の研究プロセスを通して、修士論文をまとめる。

獲得目標

1.研究課題に関連する先行研究・文献について検討を加え、研究課題を明確にする。2.研究計画書を作成し、倫理審査委員会の承認を受ける。3.研究計画に基づき、十分な倫理的配慮のもと研究を遂行する。4.得られた結果をもとに十分に考察を加え、修士論文にまとめる。5.修士論文について、効果的なプレゼンテーションを考え、発表する。6.1～5の一連の研究プロセスを通して、研究を遂行できる基礎能力を身につける。

授業の内容

研究課題の明確化、文献検討、研究テーマの決定、研究計画立案、研究倫理審査委員会への申請、研究の実施、データの収集、データの分析、データに基づく考察、修士論文の作成、論文の発表

内 容

- 第1回 研究課題の明確化
- 第2回 研究課題の明確化
- 第3回 文献の収集と検討
- 第4回 文献の収集と検討
- 第5回 研究テーマの決定
- 第6回 研究テーマに適した方法、倫理的配慮の検討の検討
- 第7回 研究テーマに適した方法、倫理的配慮の検討の検討
- 第8回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第9回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第10回 研究計画の立案、研究計画書の作成
- 第11回 研究協力依頼とデータ収集
- 第12回 データ収集
- 第13回 データ収集
- 第14回 データ収集
- 第15回 データ分析
- 第16回 データ分析
- 第17回 データ分析
- 第18回 データに基づく考察
- 第19回 データに基づく考察
- 第20回 データに基づく考察
- 第21回 論文作成
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 論文作成
- 第27回 論文の発表資料の作成
- 第28回 論文の発表資料の作成
- 第29回 論文の発表資料の作成
- 第30回 論文の発表

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (70%)

授業中課題 ()

参加度 (15%)

小テスト ()

授業中発表等 (15%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 I <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期前半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

テーマ

行動の中で言語文化を学ぶ

獲得目標

1)さまざまな活動の中で知識を獲得し、活用する力を養う。2)グループで協力して課題に取り組む力を養う。3)批評や議論、プレゼンテーションに積極的に取り組む力を養う。

授業の内容

学内、学外で言語、文学、文化を総合的に取り入れた多様な活動を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学内での活動の準備
- 第3回 お薦め本の紹介を書く(1)
- 第4回 お薦め本の紹介を書く(2)
- 第5回 インタビューと記事制作(1)
- 第6回 インタビューと記事制作(2)
- 第7回 インタビューと記事制作(3)
- 第8回 インタビューと記事制作(4)
- 第9回 吟行の準備(1)
- 第10回 吟行の準備(2)
- 第11回 学外授業(吟行1)
- 第12回 学外授業(吟行2)
- 第13回 句会というコミュニケーション1
- 第14回 句会というコミュニケーション2
- 第15回 言語文化総合演習 I のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

俳句という遊び 句会の空間

著者： 小林恭二

出版社： 岩波書店

出版年： 1991

ISBN:

俳句という愉しみ 句会の醍醐味

著者： 小林恭二

出版社： 岩波書店

出版年： 1995

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 言語文化総合演習 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期前半	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 辻本 千鶴	

テーマ

司馬遼太郎と歩く幕末明治の京都(1)

獲得目標

司馬遼太郎の歴史小説を読み、近代日本及び日本人とはどのようなものか、知見を広め、思考を深める。学習を教室内での知識の獲得に止めず、関連箇所を見学・散策することにより、現代につながる歴史の息吹を感得する。

授業の内容

学外研修を取り入れ、フィールドワーク・グループ活動を通して、学習内容への生きた興味を培う。教室での事前学習ののち、学外研修(現地集合・現地解散)を行い、その振り返りをするというサイクルを主として、授業が構成される。

内 容

- 第1回 ガイダンス 明治維新はなぜ起きたのか？
- 第2回 ガイダンス 明治維新はなぜ起きたのか？
- 第3回 坂本竜馬を学ぶ 1 『竜馬がゆく』解説
- 第4回 坂本竜馬を学ぶ 2 『竜馬がゆく』解説
- 第5回 学外研修 その1 霊山博物館・京都護国神社探訪
- 第6回 学外研修 その1 霊山博物館・京都護国神社探訪
- 第7回 学外研修 事後学習
- 第8回 学外研修 事後学習
- 第9回 前回の学外研修のまとめ
- 第10回 葵祭見学準備／グループ分け、テーマ選定など
- 第11回 学外研修 その2 葵祭見学
- 第12回 学外研修 その2 葵祭見学
- 第13回 葵祭事後学習
- 第14回 西郷隆盛と薩摩
- 第15回 まとめ学習

授業以外での学習方法

参考文献の通読。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

「竜馬がゆく」一～八

著者: 司馬遼太郎

出版社：文春文庫

出版年：

ISBN：

「翔ぶが如く」一～十

著者： 司馬遼太郎

出版社：文春文庫

出版年：

ISBN：

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

学外研修への参加を単位認定の必須事項として重視します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **言語文化総合演習Ⅲ <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半

定 員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

テーマ

行動の中で言語文化を学ぶ

獲得目標

1)さまざまな活動の中で知識を獲得し、活用する力を養う。2)グループで協力して課題に取り組む力を養う。3)批評や議論、プレゼンテーションに積極的に取り組む力を養う。

授業の内容

学内、学外で言語、文学、文化を総合的に取り入れた多様な活動を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学外授業の準備1
- 第3回 学外授業の準備2
- 第4回 学外授業の準備3
- 第5回 学外授業1
- 第6回 学外授業2
- 第7回 学外授業の事後授業
- 第8回 学外授業の準備
- 第9回 学外授業の準備
- 第10回 学外授業の準備
- 第11回 学外授業の準備
- 第12回 学外授業
- 第13回 学外授業
- 第14回 学外授業事後学習

授業以外での学習方法

学外授業では文学作品に関係する場所を訪れる。事前に作品を読んでおくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期前半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学にみる京都

獲得目標

1, 文学作品を読む機会を増やす。2, 京都らしさについて考える。3, 京都の文化や伝統について関心を深める。

授業の内容

古典から現代までの京都を舞台にした文学作品を読み、京都らしい風物や事柄を取り出して、京都を語る際の切り口を考える。

内 容

- 第1回 授業の進め方について説明し、取り上げる作品とグループを決める。
 第2回 受講生の抱いている京都のイメージを語り合う。
 第3回 作品を読む①
 第4回 作品から京都の地名や京都らしい事物や風景を取り出し、語り合う。
 第5回 作品を読む②
 第6回 第4回に同じ
 第7回 作品を読む③
 第8回 第4回に同じ
 第9回 作品を読む④
 第10回 第4回に同じ
 第11回 作品を読む⑤
 第12回 第4回に同じ
 第13回 学外見学(京都文化博物館など)
 第14回 学外見学(同)
 第15回 学外見学で学んだことを報告する
 第16回 まとめと、後半の授業の進め方についての説明

授業以外での学習方法

課題に選んだ本を入手して読んでおく。京都について学ぶ。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題（ ）

授業中発表等（50）

参加度（50）

参加度には、出席点のほかに平常点を含みます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅲ <c>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 名和 久仁子	

テーマ

室町物語を題材に、古典文学研究の糸口をつかむ

獲得目標

古典文学への興味・知的関心を深め、研究にあたって必要となる基礎的な知識と方法の習得をめざす。グループワークによる課題解決を通してコミュニケーション能力を身につける。プレゼンテーションの方法を身につける。

授業の内容

室町物語の作品を読むことに重点を置いたグループワーク。演習形式で研究の糸口をつかむ。演習Ⅳと合同。

内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス
- 第2回 テキストを読むにあたっての方法と実践
- 第3回 作品の選択と梗概の作成
- 第4回 受講生による発表(1)
- 第5回 受講生による発表(2)
- 第6回 受講生による発表(3)
- 第7回 受講生による発表(4)
- 第8回 問題点の整理①
- 第9回 問題点の整理②
- 第10回 受講生による発表と質疑応答(1)
- 第11回 受講生による発表と質疑応答(2)
- 第12回 受講生による発表と質疑応答(3)
- 第13回 受講生による発表と質疑応答(4)
- 第14回 受講生による発表と質疑応答(5)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

図書館を活用すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

室町物語草子集

著者: 新編日本古典文学全集

a10201e353

出版社: 小学館

出版年: 2002年

ISBN:

『室町物語集』上下

著者: 新日本古典文学大系

出版社: 岩波書店

出版年: 1989年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育原論(初)**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 八木 英二

テーマ

教育の基本問題と教育改革

獲得目標

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

授業の内容

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討する。

内 容

- 第1回 教育の理念
- 第2回 教育に関する歴史
- 第3回 教育に関する思想
- 第4回 教育の公共性
- 第5回 教育万能論と決定論
- 第6回 学校制度のあり方
- 第7回 接続問題
- 第8回 不登校・登校拒否の問題
- 第9回 いじめ問題の対応
- 第10回 教師専門職論
- 第11回 教科指導と生活指導
- 第12回 学力形成と教育方法
- 第13回 教育の国際的合意形成
- 第14回 教育改革論
- 第15回 講義のまとめ

授業以外での学習方法

様々な教育書を各自で意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたっぶりふれ、人間の理解を深めることを期待する。

教科書

新・教育学

著者： 南新ほか編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **発達心理学**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 80

履修条件

クラス指定

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

大人になるということ

獲得目標

成人期にいたるまでの人間の発達について概観する。成長するとはどういうことか、大人になるとはどういうことかについての理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 発達心理学とは、本講義がめざすもの
- 第2回 人格の構造
- 第3回 無条件反射と条件反射
- 第4回 第2信号系としての「ことば」
- 第5回 「カベ」と「シマ」の仮説
- 第6回 乳幼児期① 「循環反応」、「模倣」、「遊び」
- 第7回 乳幼児期② 「アニミズム」、「直感的思考」、「自己中心的思考」
- 第8回 児童期① 「保存性」、「経験的思考」、「具体的思考」
- 第9回 児童期② 「生活的概念」、「科学的概念」
- 第10回 思春期① ケース検討① 「もうひとりの自分」の誕生、「自分との対話」
- 第11回 思春期② ケース検討② 「おとな感覚」の芽生え、「自立と依存」
- 第12回 思春期③ ケース検討③ 「同性の友人関係」の意義
- 第13回 青年・成人期① ケース検討④ 「問題行動」をどうみるか
- 第14回 青年・成人期② ケース検討⑤ ある大学生の「成育史」
- 第15回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

予習の必要はないが、復習については、毎時間後、配布資料を基に講義内容の整理・確認を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I -2 <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期前半	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	一柳 敦子	

テーマ

施設実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成 児・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について学び、保育者としての知識や教養を身につけ、より一層の自覚を高めることを目指す。

内 容

- 第1回 実習の意義と目的
- 第2回 帳票類と保菌検査の説明
- 第3回 施設の機能と役割の理解① 養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理
- 第4回 施設の機能と役割の理解② 自分の実習する施設の特徴や役割の調査とオリエンテーションの心構え
- 第5回 生活支援の内容と方策
- 第6回 実習課題の設定について
- 第7回 実習簿の記入と記録の書き方 直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I -2

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員 40
履修条件	クラス指定
担 当 者 太田 みつ枝	

テーマ

施設実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成 児・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について学び、保育者としての知識や教養を身につけ、より一層の自覚を高めることを目指す。

内 容

- 第1回 実習の意義と目的
- 第2回 帳票類と保菌検査の説明
- 第3回 施設の機能と役割の理解① 養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理
- 第4回 施設の機能と役割の理解② 自分の実習する施設の特徴や役割の調査とオリエンテーションの心構え
- 第5回 生活支援の内容と方策
- 第6回 実習課題の設定について
- 第7回 実習簿の記入と記録の書き方 直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅰ-2 <c>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期前半	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	大山 弘美	

テーマ

施設実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成 児・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について学び、保育者としての知識や教養を身につけ、より一層の自覚を高めることを目指す。

内 容

- 第1回 実習の意義と目的
- 第2回 帳票類と保菌検査の説明
- 第3回 施設の機能と役割の理解① 養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理
- 第4回 施設の機能と役割の理解② 自分の実習する施設の特徴や役割の調査とオリエンテーションの心構え
- 第5回 生活支援の内容と方策
- 第6回 実習課題の設定について
- 第7回 実習簿の記入と記録の書き方 直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I -2 <d>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 杉江 由紀子	

テーマ

施設実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成 児・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について学び、保育者としての知識や教養を身につけ、より一層の自覚を高めることを目指す。

内 容

- 第1回 実習の意義と目的
- 第2回 帳票類と保菌検査の説明
- 第3回 施設の機能と役割の理解① 養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理
- 第4回 施設の機能と役割の理解② 自分の実習する施設の特徴や役割の調査とオリエンテーションの心構え
- 第5回 生活支援の内容と方策
- 第6回 実習課題の設定について
- 第7回 実習簿の記入と記録の書き方 直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I -2 <e>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期前半	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	谷口 敦子	

テーマ

施設実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成 児・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について学び、保育者としての知識や教養を身につけ、より一層の自覚を高めることを目指す。

内 容

- 第1回 実習の意義と目的
- 第2回 帳票類と保菌検査の説明
- 第3回 施設の機能と役割の理解① 養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理
- 第4回 施設の機能と役割の理解② 自分の実習する施設の特徴や役割の調査とオリエンテーションの心構え
- 第5回 生活支援の内容と方策
- 第6回 実習課題の設定について
- 第7回 実習簿の記入と記録の書き方 直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅰ-2〈f〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	

テーマ

施設実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成 児・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について学び、保育者としての知識や教養を身につけ、より一層の自覚を高めることを目指す。

内 容

- 第1回 実習の意義と目的
- 第2回 帳票類と保菌検査の説明
- 第3回 施設の機能と役割の理解① 養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理
- 第4回 施設の機能と役割の理解② 自分の実習する施設の特徴や役割の調査とオリエンテーションの心構え
- 第5回 生活支援の内容と方策
- 第6回 実習課題の設定について
- 第7回 実習簿の記入と記録の書き方 直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 2 <g>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期前半	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	山口 陽子	

テーマ

施設実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成 児・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について学び、保育者としての知識や教養を身につけ、より一層の自覚を高めることを目指す。

内 容

- 第1回 実習の意義と目的
- 第2回 帳票類と保菌検査の説明
- 第3回 施設の機能と役割の理解① 養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理
- 第4回 施設の機能と役割の理解② 自分の実習する施設の特徴や役割の調査とオリエンテーションの心構え
- 第5回 生活支援の内容と方策
- 第6回 実習課題の設定について
- 第7回 実習簿の記入と記録の書き方 直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I -2 <h>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期前半	定 員 40
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 裕子	

テーマ

施設実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教③市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成 児・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について学び、保育者としての知識や教養を身につけ、より一層の自覚を高めることを目指す。

内 容

- 第1回 実習の意義と目的
- 第2回 帳票類と保菌検査の説明
- 第3回 施設の機能と役割の理解① 養護原理、養護内容、児童福祉法の振り返りと整理
- 第4回 施設の機能と役割の理解② 自分の実習する施設の特徴や役割の調査とオリエンテーションの心構え
- 第5回 生活支援の内容と方策
- 第6回 実習課題の設定について
- 第7回 実習簿の記入と記録の書き方 直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅱ <a>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「建築・インテリア設計演習Ⅰ」を修得済み	クラス指定	
担当者 近藤 康子		

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

獲得目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の内容

建築・インテリアの基礎を修得するため、図面と模型の制作を行なう。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 インテリア・パースの練習1、一点透視図
- 第3回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1
- 第4回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2
- 第5回 アクソメトリック図の作成1
- 第6回 アクソメトリック図の作成2
- 第7回 講評
- 第8回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
- 第9回 戸建て住宅の設計2、エスキース
- 第10回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成
- 第11回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成
- 第12回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成
- 第13回 戸建て住宅の設計6、模型
- 第14回 戸建て住宅の設計7、模型
- 第15回 講評とまとめ

授業以外での学習方法

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

初学者の建築講座 建築製図

著者： 瀬川康秀

出版社： 市ヶ谷出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅱ **

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「建築・インテリア設計演習Ⅰ」を修得済み	クラス指定	
担当者 富澤 実		

テーマ

建築・インテリアの基礎を習得する。

獲得目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(1)
- 第2回 ガイダンス(2)
- 第3回 インテリア・パースの練習1、一点透視図(1)
- 第4回 インテリア・パースの練習1、一点透視図(2)
- 第5回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1(1)
- 第6回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1(2)
- 第7回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2(1)
- 第8回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2(2)
- 第9回 アクソメトリック図の作成1(1)
- 第10回 アクソメトリック図の作成1(2)
- 第11回 アクソメトリック図の作成2(1)
- 第12回 アクソメトリック図の作成2(2)
- 第13回 講評(1)
- 第14回 講評(2)
- 第15回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(1)
- 第16回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(2)
- 第17回 戸建て住宅の設計2、エスキース(1)
- 第18回 戸建て住宅の設計2、エスキース(2)
- 第19回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成(1)
- 第20回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成(2)
- 第21回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成(1)
- 第22回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成(2)
- 第23回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成(1)
- 第24回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成(2)
- 第25回 戸建て住宅の設計6、模型(1)
- 第26回 戸建て住宅の設計6、模型(2)
- 第27回 戸建て住宅の設計7、模型(1)
- 第28回 戸建て住宅の設計7、模型(2)
- 第29回 講評とまとめ(1)
- 第30回 講評とまとめ(2)

授業以外での学習方法

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

初学者の建築講座 建築製図第3版

著者： 瀬川康秀

出版社： 市ヶ谷出版社

出版年： 2008

ISBN： 978487070146

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅱ <c>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「建築・インテリア設計演習Ⅰ」を修得済み	クラス指定	
担当者	福田 浩明	

テーマ

建築・インテリアの基礎を習得する。

獲得目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(1)
- 第2回 ガイダンス(2)
- 第3回 インテリア・パースの練習1、一点透視図(1)
- 第4回 インテリア・パースの練習1、一点透視図(2)
- 第5回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1(1)
- 第6回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1(2)
- 第7回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2(1)
- 第8回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2(2)
- 第9回 アクソメトリック図の作成1(1)
- 第10回 アクソメトリック図の作成1(2)
- 第11回 アクソメトリック図の作成2(1)
- 第12回 アクソメトリック図の作成2(2)
- 第13回 講評(1)
- 第14回 講評(2)
- 第15回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(1)
- 第16回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(2)
- 第17回 戸建て住宅の設計2、エスキース(1)
- 第18回 戸建て住宅の設計2、エスキース(2)
- 第19回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成(1)
- 第20回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成(2)
- 第21回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成(1)
- 第22回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成(2)
- 第23回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成(1)
- 第24回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成(2)
- 第25回 戸建て住宅の設計6、模型(1)
- 第26回 戸建て住宅の設計6、模型(2)
- 第27回 戸建て住宅の設計7、模型(1)
- 第28回 戸建て住宅の設計7、模型(2)
- 第29回 講評とまとめ(1)
- 第30回 講評とまとめ(2)

授業以外での学習方法

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

初学者の建築講座 建築製図第3版

著者： 瀬川康秀

出版社： 市ヶ谷出版社

出版年： 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 助産診断学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹 明美・常田 裕子	

テーマ

マタニティケアを根拠に基づいて計画的に実践するための基礎的な助産診断力を養う

獲得目標

1. 女性のライフサイクルにおける周産期の特徴を理解する

2. 周産期の健康の保持増進および異常の

予防のために必要な知識を理解する 3. 周産期(妊娠・分娩・育児期)の母児と家族の健康状態と課題について身体的、心理的、社会的側面からの理解と診断ができる 4. 家族形成期にある母児および家族の発達課題の理解と診断ができる 5. 個人の特性および地域の特性に対応した健康のための環境づくりの支援ニーズを診断できる

授業の内容

周産期における母児と家族の健康の保持増進と異常の予防・早期発見を目指して、妊娠・分娩・産褥の経過に沿った母児の健康問題と家族の課題に関する視点と助産診断を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション、女性のライフサイクルと周産期看護(復習)
- 第2回 助産師の定義と業務・役割・助産診断と助産過程(1)
- 第3回 助産診断と助産過程(2)
- 第4回 妊娠の生理と妊婦の特徴
- 第5回 妊婦の健康診査と助産診断
- 第6回 胎児発育と助産診断
- 第7回 ハイリスク妊娠の診断(1) 妊娠合併症、合併症妊娠、心理・社会的ハイリスク
- 第8回 ハイリスク妊娠の診断(2) 妊娠合併症、合併症妊娠、心理・社会的ハイリスク
- 第9回 ハイリスク妊婦の看護(1)
- 第10回 ハイリスク妊婦の看護(2)
- 第11回 妊娠期の保健指導(1)
- 第12回 妊娠期の保健指導(2)
- 第13回 妊娠期の保健指導(3)
- 第14回 分娩経過と助産診断(1)
- 第15回 分娩経過と助産診断(2)
- 第16回 分娩期の助産診断と看護(1)
- 第17回 分娩期の助産診断と看護(2)
- 第18回 出生直後の新生児のアセスメントと看護
- 第19回 分娩期の異常のアセスメント(1)
- 第20回 分娩期の異常のアセスメント(2)
- 第21回 分娩期の異常のアセスメント(3)
- 第22回 産褥期の健康診査と助産診断
- 第23回 産褥期の異常のアセスメントと看護
- 第24回 新生児の健康診査と子宮外適応の診断
- 第25回 新生児の異常のアセスメントと看護
- 第26回 進行性変化と母乳育児支援
- 第27回 産褥・育児期における家族の課題のアセスメントと看護
- 第28回 産褥期における心理的適応のアセスメントと看護、産褥期の精神異常のアセスメントと看護
- 第29回 帝王切開術を受けた産婦のアセスメントと看護、不妊治療を受けている人／子どもを失った人と家族のアセスメントと看護
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

既修得の周産期看護の関連する範囲の内容を復習を行う
ツールを作成する

実習で使った知識ミニノートなどを活用し知識整理の

教科書

助産師基礎教育テキスト1, 4~7

著者:

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2013

ISBN:

最新産科学 正常編

著者: 荒木 勤

出版社: 文光堂

出版年: 2008

ISBN:

最新産科学 異常編

著者: 荒木 勤

出版社: 文光堂

出版年: 2008

ISBN:

参考書

今日の助産—マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第3版

著者: 北川 真理子 他

出版社: 南江堂

出版年: 2013

ISBN:

改訂2版 胎児心拍数モニタリング講座 大事なサインを見逃さない!

著者: 藤森 敬也

出版社: メディカ出版

出版年: 2012

ISBN:

新訂第2版 マタニティアセスメントガイド

著者: 吉沢 豊予子 他

出版社: 真興交易医書出版部

出版年: 2012

ISBN:

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

全回出席を原則とする その他:助産診断学単位取得者のみ助産技術学受講可とする

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護学原論Ⅱ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小坂橋 喜久代	

テーマ

これまでの学び、自らの経験を総括して、看護を通しての自立・共生・臨床智を活かした創造活動としての看護(学)について内省し探求する機会とする。改めて、実践科学の担い手として、社会の中での仕事の意味を考えることで、自らを発展させる能力と自己研鑽の必要性を確認し、職業人としての使命を自覚し涵養する。

獲得目標

1.健医療福祉システムの中での、看護サービスの位置づけ・あり方について考察する 2.臨床能力を高めるためのキャリア形成について、具体的なモデルを作ってみる 3.補完代替療法の流れと看護実践について考察する 4.近未来を創造していく者としての看護の役割拡大と方向性を推測しその責務について考察する

授業の内容

内 容

- 第1回 社会の中の保健・医療・福祉制度と看護サービスに関わる法的側面について検討する
- 第2回 看護の役割拡大と看護の専門性について検討する
- 第3回 臨床におけるキャリアラダーのシステムと自己の目標をモデル化し検討する
- 第4回 補完代替療法の流れと看護療法について検討する
- 第5回 看護療法としての新しい看護技術の開発とその有効性について検討する
- 第6回 医療・看護サービスの利用者の立場から、ケアのあり方について検討する
- 第7回 専門職性を発揮するうえでの看護師の資質について検討する
- 第8回 これまでの看護からの学びについて内省し、近未来の看護について創造する

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

- | | |
|---------------------|------------|
| 試験 () | 小テスト () |
| 授業中課題 () | 授業中発表等 () |
| 参加度 () | |
| レポート50%, グループワーク50% | |

参考URL

2014 Syllabus

科目名 小児科学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 忠

テーマ

人の「発達」上の諸現象を、主として感覚運動の発達の総和という観点からとらえ、脳・神経系の発達、骨・関節系の発達および相動運動系の発達の重要性を理解する。

獲得目標

1.原始反射や立ち直り反応や平衡反応の種類とその役割や消褪について理解する 2.粗大運動や巧緻運動の発達について理解する 3.視覚や聴覚など他の感覚器官の発達について理解する 4.認知活動や社会性の発達について理解する 5.代表的小児疾患の特徴と対応について理解する

授業の内容

内 容

- 第1回 運動とは何か
- 第2回 運動の三要素
- 第3回 反射の発達
- 第4回 ボイタ博士の姿勢反射と運動発達
- 第5回 乳幼児の発達の見方
- 第6回 ボイタ博士の発達診断法
- 第7回 粗大運動の発達
- 第8回 巧緻運動の発達
- 第9回 認知活動の発達および社会性の発達
- 第10回 視覚・聴覚機能の発達
- 第11回 子供の神経系の疾患と理学療法
- 第12回 子供の骨・関節系の疾患と理学療法
- 第13回 子供の筋肉系の疾患と理学療法
- 第14回 知的障害の理解と理学療法
- 第15回 発達障害の理解と理学療法

授業以外での学習方法

実習やボランティア活動を通じて子供と接する機会を増やす様に心がけ、子供の発達を分析的にみるように心がけること

教科書

随時資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

正常発達

著者: JUNG SUN HONG

出版社：三輪書店

出版年：2011

ISBN:

成績評価

試験（50）

小テスト（20）

授業中課題（20）

授業中発表等（5）

参加度（5）

小テストは2回 授業中課題は2回 授業中発表はグループ活動で1回 参加度は無欠席者に加点 3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法評価学各論演習

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平・小田桐 匡・松尾 奈々	

テーマ

本講義は、理学療法の対象となる代表的な疾患の検査方法の意義と方法論を学び、各疾患の評価結果を踏まえた理学療法の流れについて学ぶ。

獲得目標

1. 各種検査を実施するにあたり解剖学、生理学、神経内科学などの基礎知識を整理することができる。
2. 疾患・部位別の代表的な理学療法評価を理解することができる。
3. 各種検査・評価の意義および目的や注意点を説明することができる。
4. 各種検査における種類と方法を正しく理解することができる。
5. 疾患・部位別に適した検査法が具体的に実施することができる。
6. 各種検査・評価の結果が記録できる。
7. 適切
8. 医療人としての基本的態度を身につけ、患者様に実践できる準備をする。

授業の内容

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。また、理学療法評価でも基本的な評価項目である筋の評価をはじめとする運動器系疾患および中枢神経系疾患の対する理学療法評価の実習を行い、各種理学療法評価技術の習得を目指す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、神経学的検査:筋緊張検査
- 第2回 神経学的検査:筋緊張検査
- 第3回 神経学的検査:筋緊張検査
- 第4回 神経学的検査:筋緊張検査
- 第5回 神経学的検査:反射検査
- 第6回 神経学的検査:反射検査
- 第7回 神経学的検査:反射検査
- 第8回 協調性検査
- 第9回 協調性検査
- 第10回 神経障害系疾患の評価:片麻痺機能検査
- 第11回 神経障害系疾患の評価:片麻痺機能検査
- 第12回 神経障害系疾患の評価:片麻痺機能検査
- 第13回 神経障害系疾患の評価:片麻痺機能検査
- 第14回 神経障害系疾患の評価:脳神経検査
- 第15回 神経障害系疾患の評価:脳神経検査
- 第16回 神経障害系疾患の評価:脳神経検査
- 第17回 神経障害系疾患の評価:高次脳機能検査
- 第18回 神経障害系疾患の評価:高次脳機能検査
- 第19回 神経障害系疾患の評価:高次脳機能検査
- 第20回 神経障害系疾患の評価:高次脳機能検査
- 第21回 平衡機能検査
- 第22回 平衡機能検査
- 第23回 平衡機能検査
- 第24回 平衡機能検査
- 第25回 運動器疾患の評価:整形外科的検査(頸部・体幹疾患)
- 第26回 運動器疾患の評価:整形外科的検査(上肢疾患)
- 第27回 運動器疾患の評価:整形外科的検査(下肢疾患)
- 第28回 痛みの評価
- 第29回 痛みの評価
- 第30回 まとめ、記述テスト

授業以外での学習方法

テキストや参考文献を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

理学療法評価学 改訂第4版

著者： 松澤正、他

出版社： 金原出版株式会社

出版年： 2012

ISBN： 978430775032

病気がみえる〈vol.7〉脳・神経

著者： 医療情報科学研究所

出版社： メディックメディア

出版年： 2011

ISBN： 9784896323580

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者： 田崎義昭、他

出版社： 南山堂

出版年： 2011

ISBN： 9784525247171

成績評価

試験（70%）

小テスト（実技試験 30%）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（0）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 物理療法学

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	濱出 茂治	

テーマ

物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌等の知識を理解する。さらに骨・関節、神経・筋疾患に対する臨床適用技術法を修得する。

獲得目標

1. 物理療法における評価方法および治療量の適切な決定基準を理解する。2. 疼痛症状、創傷、骨・関節障害、神経・筋障害等の病態を理解する。3. 治療リスクおよび事故防止方法を理解する。4. 基本的治療技術方法を理解する。

授業の内容

物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌等を教授する。特に筋・骨格系、神経系障害に起因する筋萎縮、疼痛、関節拘縮、創傷などの病態について最新の基礎研究に基づく知見を講義する。さらにこれらの病態に対する物理療法の治療効果機序について言及し、特に物理療法における人工的物理エネルギー(レーザー光、超音波、磁気・電気刺激)がどのような影響を生体に及ぼすかを細胞生物学レベルで研究された知見に基づき授業を行う。

内 容

- 第1回 物理療法の歴史、定義、体系
- 第2回 物理療法における評価法
- 第3回 表在温熱療法Ⅰ：伝導熱、輻射熱、対流熱
- 第4回 表在温熱療法Ⅱ：パラフィン浴、赤外線療法
- 第5回 深部温熱療法Ⅰ：エネルギー変換熱(超短波、極超短波)
- 第6回 深部温熱療法Ⅱ：エネルギー変換熱(超音波療法、低出力超音波療法)
- 第7回 寒冷療法：冷却法、痙性抑制法、神経・筋促進法
- 第8回 極低温療法：局部冷却、全身冷却
- 第9回 水治療法：ハーバードタンク、過流浴、圧注法、交代浴、灌注法
- 第10回 光線療法：紫外線、ソフトレーザー療法
- 第11回 電気刺激療法Ⅰ：経皮的末梢神経電気刺激、高電圧刺激、干渉電流刺激
- 第12回 電気刺激療法Ⅱ：神経・筋電気刺激、機能的電気刺激法
- 第13回 牽引療法：四肢牽引、頸椎牽引、腰椎牽引
- 第14回 電気診断：時間一強さ曲線作図法、誘発筋電図(M波、H波、F波、運動誘発電位)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

物理療法学に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

教科書

物理療法マニュアル

著者： 嶋田智明、濱出茂治・他

出版社： 医歯薬出版

出版年： 1996

ISBN：

参考書

a90102b950

成績評価

試験（80%）

授業中課題（10%）

参加度（10%）

3分の1以上の欠席を認めない。

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 内部障害系理学療法学応用演習

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	阿波 邦彦・堀江 淳	

テーマ

内部障害系(呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患)理学療法学の高度な知識、技術の習得を促進する。

獲得目標

本講義は、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関する特異的な留意点を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理、および薬物療法、酸素療法、人工呼吸療法と理学療法の関わりについて学び、その知識、技術の習得を目標とする。

授業の内容

呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関する特異的な留意点を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理、および薬物療法、酸素療法、人工呼吸療法と理学療法の関わりについて学び、その知識、技術を習得する。

内 容

- 第1回 COPDの病態
- 第2回 COPDにおける動的肺過膨張、薬物療法と理学療法
- 第3回 間質性肺炎や気管支拡張症の病態
- 第4回 間質性肺炎や気管支拡張症の理学療法
- 第5回 急性期(ICU、CCUなど)における呼吸、循環動態
- 第6回 急性期(ICU、CCUなど)における呼吸器疾患の病態、評価と治療
- 第7回 酸素療法、非侵襲的、侵襲的人工呼吸療法と理学療法
- 第8回 胸部、腹部外科術後における理学療法とリスク管理
- 第9回 心筋梗塞、狭心症における心臓リハビリテーション
- 第10回 急性期(ICU、CCUなど)における循環器疾患の病態、評価と治療
- 第11回 心臓血管外科術後における心臓リハビリテーションの評価と治療
- 第12回 回復期から慢性期における心臓リハビリテーションの評価と治療
- 第13回 II型糖尿病の病態、検査、治療
- 第14回 II型糖尿病のための理学療法評価と治療プログラム
- 第15回 講義のまとめと最新トピックス

授業以外での学習方法

教員作成資料、内部障害関連学術雑誌の抄読、理学療法士対象の関連勉強会、講習会への参加促進

教科書

理学療法テキスト内部障害理学療法学「呼吸」

著者： 石川 朗

出版社： 中山書店

出版年： 2010

ISBN： 9784521732282

理学療法テキスト内部障害理学療法「循環・代謝」

著者： 石川朗

出版社： 中山書店

出版年： 2010

ISBN： 9784521732275

参考書

成績評価

試験（100）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

期末に実施する筆記試験にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは筆記試験を受験できない。出席点は減点方式とし、欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Communication II <Ha>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	フォスター ヘンリー	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life Elementary Workbook

著者: John Hughes

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9781133316039

参考書

成績評価

試験（40）

授業中課題（ ）

参加度（ ）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（40）

授業中発表等（ ）

参考URL

ktu-e-learn.net

<http://ktu-e-learn.net/>

このサイトは、小テストや期末テストの実施、リスニング等に毎回使います。

2014 Syllabus

科目名 **English Communication II <Hb>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	フリンハンナマイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (55)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities.

Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities. 上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus**科目名 English Communication II <Hc>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定

担 当 者 フライアンバスカギル

テーマ

Expressing More of Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の内容

内 容

- 第1回 introductions
- 第2回 classroom English
- 第3回 movies
- 第4回 television
- 第5回 work-A
- 第6回 work-B
- 第7回 health-A
- 第8回 health-B
- 第9回 love & marriage
- 第10回 music
- 第11回 books
- 第12回 places in Japan
- 第13回 Japanese culture
- 第14回 talking about Japan
- 第15回 review

授業以外での学習方法

教科書

Let's Chat

著者: John Pak

出版社: EFL Press

出版年: 2007

ISBN: 4580244420056

参考書

a90201a253

成績評価

試験（20）

授業中課題（30）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Communication II <Hd>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	ソーソン マーカス	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student

著者: Paul Dummett, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

a90201a254

成績評価

試験（20）

授業中課題（20）

参加度（40）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ〈a〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(日比野)
- 第2回 ジョハリの窓(日比野)
- 第3回 成長のためのフィードバック(日比野)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(中島)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための5つの要素(中島)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(中島)
- 第10回 感情とのつきあい方(松下)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(松下)
- 第12回 非言語コミュニケーション(松下)
- 第13回 からだとことば(ジェームス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェームス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェームス) なお、外部講師を招いて、講演を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ <e>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **こころとからだの臨床学Ⅱ**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	坂本 敏郎.ジェイムス 朋子.田中 芳幸.中西 龍一.永野 光朗.羽下 大信	

テーマ

こころとからだ／健康であること／身体観のちがいで文化と時代

獲得目標

こころとからだのあり方を総合的にとらえ、理解する

授業の内容

講義とワーク

内 容

- 第1回 からだをとらえる: 構造・機能・働き、そしてそれ以上【羽下大信】
- 第2回 心身のストレスに関する基礎理論【田中 芳幸】
- 第3回 ストレスへの対処【田中 芳幸】
- 第4回 心身のストレスに関する基礎理論【田中 芳幸】
- 第5回 ストレスと身体(からだ)【中西 龍一】
- 第6回 ゲシュタルト療法と身体【中西 龍一】
- 第7回 こころとからだ【中西 龍一】
- 第8回 精神分析学における性愛性と攻撃性の発達力学【ジェイムス 朋子】
- 第9回 心理療法における受益者と受益性【ジェイムス 朋子】
- 第10回 精神分析的心理療法事例から学ぶ【ジェイムス 朋子】
- 第11回 社会的行動からみた身体① 身体(外見)のコミュニケーション機能【永野 光朗】
- 第12回 社会行動からみた身体② 身体(外見)が対人認知と対人魅力に及ぼす効果【永野 光朗】
- 第13回 社会行動からみた身体③ 身体(外見)が対人行動に及ぼす効果【永野 光朗】
- 第14回 こころの絆の神経内分泌機構【坂本 敏郎】
- 第15回 男と女の情動科学【坂本 敏郎】

授業以外での学習方法

講義の中で紹介された本、ビデオ、DVDなどはできるだけ見てください

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100)

参加度 ()

出席とレポートはセットです。

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **中国語 I**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期集中	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	トウ カ	

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

獲得目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の内容

短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

内 容

- 第1回 中国と中国語の概説
- 第2回 発音A
- 第3回 発音B
- 第4回 発音C
- 第5回 発音D
- 第6回 第一課 単語と文法
- 第7回 第一課の表現練習
- 第8回 第二課 単語と文法
- 第9回 第二課の表現練習
- 第10回 第三課 単語と文法
- 第11回 第三課の表現練習
- 第12回 第四課 単語と文法
- 第13回 第四課の表現練習
- 第14回 総復習
- 第15回 ミニ発表

授業以外での学習方法

教科書

ともだち・朋友 スリム版①

著者： 董燕・遠藤光暁

出版社：（朝日出版社）

出版年： 2010

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

最終の試験ではなく、毎回の小テスト

小テスト (100%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 女性とイメージ <eL>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期集中	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	志賀 亮一	

テーマ

私たち自身のジェンダーへの気づき

獲得目標

ヨーロッパでは古来、家父長制社会が営まれてきた。絵画・彫刻など芸術をはじめとして、近現代のポスターやテレビCMまで、この社会の女性イメージは、上記家父長制の影響を色濃く示し、男性優位のジェンダー像を呈している。授業では、このイメージを母・妻・妖婦の3要素に集約したうえ、さまざまな視覚イメージをもとに個々の要素を詳説しつつ、各要素間の関係を明らかにし、その全体像を再構築する。あわせて、近現代の女性たちの業績をつうじて、このイメージに対する女性たちの反抗の足取りを跡づける。以上の学修を通じて、受講生は自らの課されているジェンダーの枠組みを自覚すること。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 導入：視覚メディアにおける女性のイメージ
- 第2回 母親像1：子孫再生産の担い手
- 第3回 母親像2：究極の母親・聖母マリア——子孫再生産と男系血統の保障
- 第4回 母親像3：一家の母(マーテル・ファミリアス)と一家の父(パーテル・ファミリアス)——子孫再生産とジェンダー
- 第5回 妻像1：夫を補佐するもの
- 第6回 妻像2：男性を補佐するもの
- 第7回 妻像3：家内を管理するもの
- 第8回 妻像4：女・家内・私事 vs 男・社会・公事——社会的役割とジェンダー
- 第9回 妖婦像1：近代以前の妖婦像——伝説の妖婦たち
- 第10回 妖婦像2：近代の妖婦たち
- 第11回 妖婦像3：妖婦像の二重構造——魅惑するものと墮落させるもの
- 第12回 妖婦像4：ジェンダーの要としての妖婦像
- 第13回 女性たちの反抗1：男性に伍した女性たち
- 第14回 女性たちの反抗2：解放運動のイメージあれこれ
- 第15回 まとめ：解放の歴史

授業以外での学習方法

身近なジェンダー像の表出に日常注意を払うこと

教科書

特に指定しない

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

女のイメージ

著者： G・デュビィ 編

出版社：(藤原書店)

出版年：

ISBN：

聖母マリアの美術

著者： 諸川春樹・利倉隆 著

出版社：(美術出版社)

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (100%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは第4回、第8回、第12回の授業後に行う

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Literacy III <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

Academic Readingの実践

獲得目標

一般的な英語で書かれた文献を読んで自力である程度理解できるようになる。専門分野の基礎語彙を習得する。英語の音とリズムに慣れる。

授業の内容

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

内 容

- 第1回 授業オリエンテーション Unit 1 What is Stress?
- 第2回 Unit 2 What Causes Stress? Unit 3 What Is the Stress Response?
- 第3回 Unit 4 How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress?
- 第4回 Unit 5 How are Bodily Systems Affected by Stress?
- 第5回 Unit 6 Unhealthy Stress: How Can We Resist It?
- 第6回 Unit 7 Laugh Unit 8 Get Rid of Anger
- 第7回 Review Unit 1-8
- 第8回 Unit 9 Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists
- 第9回 Unit 10 Adapt Your Environment
- 第10回 Unit 11 Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection
- 第11回 Unit 12 Take Time Out for Meals
- 第12回 Unit 13 Try Aerobic Exercise and Take a Walk Unit 14 Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw
- 第13回 Unit 15 Reaching the True Relaxation State
- 第14回 Review Unit 9-15
- 第15回 Listening and Vocabulary

授業以外での学習方法

毎週授業で扱う箇所を事前に読んで来ること。また、単語テストを随時行うのでその準備も忘れないようにして下さい。

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す

著者: 田部井世志子、井上径子

出版社: 朝日出版

出版年: 2006

ISBN: 4255154228C1082

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

習熟度を測るため、定期的にテストを行います。上記に、統一期末英語テスト20%が加算されます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理応用演習Ⅱ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	松永 順子	

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

獲得目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』資格の取得をめざす。

授業の内容

現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／基本的な文書編集
- 第2回 ビジネス文書の基本・・・種類、作成上の留意点
- 第3回 ビジネス文書(社内文書)・・・特徴、社内連絡文書・報告書・議事録・提案書の書き方
- 第4回 ビジネス文書(社外文書)・・・特徴、社外連絡文書の書き方
- 第5回 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書の基本 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア
- 第6回 ビジネス文書のライティング技術(日本語の基本)・・・文法、用字・用語、漢字と平仮名の使い分け、数字の書き方
- 第7回 ビジネス文書のライティング技術(文章表現の基本)・・・わかりやすい文章表現、誤解を招かない文章表現、正しい日本語 知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア
- 第8回 ビジネス文書のライティング技術・・・文章表現の応用、文章構成、敬語 知識科目対策(共通分野)・・・データベース
- 第9回 電子メールのライティング技術・・・電子メールの基本、文例とポイント 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書のライティング技術 知識科目対策(共通分野)・・・ネットワーク
- 第10回 知識科目対策(文書作成分野)・・・電子メールのライティング技術 知識科目対策(共通分野)・・・インターネット
- 第11回 ビジネス図解の基本・・・種類と特長、基本パターン、作成方法、グラフの利用
- 第12回 ビジネス文書の管理・・・文書管理の基本、文書のライフサイクルと各プロセスの役割 知識科目対策(共通分野)・・・トラブル対応、ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第13回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内/パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

教科書

日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター Word2010対応

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 9784893118998

日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 4-89311-637-1

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **実験計画法**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	上北 朋子.mitei	

テーマ

実験計画の基礎と実践

獲得目標

この講義では、受講生が実験計画法の基礎を理解し、実際に遂行できるようになることを目標とする。

授業の内容

知覚や記憶など心理学のテーマに関する実験計画を立案し、データ収集、処理までを実践的に学ぶ。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実験計画法の基礎
- 第3回 実験計画法の実際(1)
- 第4回 実験計画法の実際(2)
- 第5回 実験計画の立案:1要因(1元配置)
- 第6回 資料収集
- 第7回 資料収集
- 第8回 解析
- 第9回 ディスカッション
- 第10回 実験計画の立案:2要因以上
- 第11回 資料収集
- 第12回 資料収集
- 第13回 解析
- 第14回 ディスカッション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

立案した実験の実施に必要な資料収集およびデータ収集を授業時間以外に行う。

教科書

よくわかる心理統計

著者: 山田 剛史・村井 潤一郎

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2004

ISBN: 9784623039999

参考書

心理学マニュアル 要因計画法

著者: 後藤 宗理・大野木 裕明・中沢 潤

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（20）

授業中発表等（40）

参加度（40）

授業は実践的内容を含ため、出席が重視されます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育心理学(心)**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	佐藤 鮎美・中村 和夫	

テーマ

学校教育における子どもの発達と教育との関係の理解

獲得目標

教育心理学についての基礎的知識を理解すること。および子どもの発達にとって学校教育の持つ重要な意味を、学校での基本的教育活動との関係において理解できるようになること。

授業の内容

教育心理学の基本領域のうち、「発達」と「学習」と「教育評価」について講義をする。

内 容

- 第1回 教育心理学の基本領域—教育とは何か、発達とは何か—
- 第2回 発達の規定要因
- 第3回 発達と文化・教育との関わり
- 第4回 発達のプロセス—ピアジェの知能の発達段階論—
- 第5回 発達のプロセス—フロイト、エリクソンの発達段階論—
- 第6回 学習の基礎過程—連合説—
- 第7回 学習の基礎過程—認知説—
- 第8回 教科学習の前提
- 第9回 学習の動機づけ
- 第10回 知識獲得と問題解決のメカニズム
- 第11回 発見学習と有意味受容学習
- 第12回 教育評価の目的と方法、集団準拠評価
- 第13回 目標準拠評価(到達度評価)と授業改善
- 第14回 指導要録の実際と問題
- 第15回 その他学力以外の評価

授業以外での学習方法

教育心理学関連の参考書の自習。

教科書

とくに指定はしない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

試験に代えてレポートを課すことがある。参加度は出席を含めた授業態度。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 死生学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 滝野 功久.松下 幸治	

テーマ

人間の「死」を見つめ、それと向き合うことを通して、「生きること」ないし「いま、生きていること」についての体験的実感を得ること。

獲得目標

すべての人間が平等に経験する「死」を眺め、向き合い、そしてそれについてより豊かに思い巡らせることを通して、「生きる」ないし「生きている」という営みを考える。「生」と「死」という二項対立的発想を越えて、その二項が包含する領域にこそ真に生きた人間関係が存在し、真に生きた宗教性が存在することを複数の教員がそれぞれの観点から論じ、ともに考え、たましいのあり様に接近する。

授業の内容

1～6回目講義(担当:松下)7～12回目講義(担当:滝野)13～15回目集中講義(担当:上鹿渡)

内 容

- 第1回 思春期・青年期の心と心の迷い
- 第2回 「象徴的な死」について
- 第3回 心理臨床家からみた「死」と「生」
- 第4回 「死」と「生」の二項対立的発想の落とし穴
- 第5回 「たましい」について
- 第6回 いきいきと生きるために死と向き合うということ
- 第7回 「死ぬ」ということ そのイメージ それと直面すること(キューブラー＝ロスの貢献)
- 第8回 緩慢な死と突然死そして「過労死」
- 第9回 自殺 個人的決断と社会的現象としての自殺 その実態と予防
- 第10回 尊厳死と安楽死 緩和ケアとホスピス
- 第11回 臨死体験 彼岸はあるのか? スピリチュアリティとはなにか?
- 第12回 悲嘆の作業 喪の営み 内観法 葬儀・法事 日本人と宗教
- 第13回 子どもの生について
- 第14回 子どもの死について
- 第15回 子どもの死に対する権利について～コルチャック先生の言葉を通して考える

授業以外での学習方法

教科書

参考書

コルチャック先生のいのちの言葉

著者: ヤヌシュ・コルチャック著 サンドラ・ジョウゼフ編著 津崎哲雄訳

出版社: 明石出版

出版年: 2001年

ISBN:

対話する生と死

著者： 河合隼雄

出版社： 潮出版社

出版年： 1992年

ISBN: 4-267-01320-9

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

1～6回:毎回の授業後各自の感想をまとめること。7～12回随時課題 集中講義:子どもが生きること、死ぬことについて、講義内容をまとめてください。その上で、あなたの考えを自由に述べてください。(1600字から2000字程度)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 臨床心理学ワークショップ(事例研究と当事者研究)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 滝野 功久	

テーマ

「臨床の知」を、実践的学習にできる限り近い形で行おうとするものです。「臨床」とは今や医療に全く限りません。「臨床心理」とはそれ以上に、医療的援助活動に関わるだけのものではありません。教育、福祉、司法、さらには宗教(あるいはスピリチュアリティ)に関わるなど、さまざまな領域での観察や評価そして介入技法などの実践に、心理的なアプローチを生かそうとするものです。対象の大きさは、個人だけでなく、カップル・家族、そして集団や組織までひろげることができます。それらはほとんど人のこのころに関わってきますので、「臨床心理」は、そこでの心理的支援と援助などの実践活動の全てをカバーできると言えるでしょう。臨床心理に「学」がついていますが、学術的権威をつけるというより、自らの「学び」と「学び方」について、考え見直す新たに発見するというのが、この科目のもう一つのテーマとしてあるからです。

獲得目標

集団研究と事例研究とを二つの大きな柱にしなが、実際に役に立つスキルを高める。1) 集団の力動を見抜き、個人と集団の成長に生かすための促進と問題提起のスキルを磨く(対人援助という活動においては、たとえ個人が対象でも、個人を取りまく集団についての考察ができることが不可欠)。2) 振り返りの技法と応用の可能性を考え、少なくとも一つの技法を身に着ける(レフレクティヴ・プロセスなどの技法の応用)

授業の内容

1) さまざまな事例を通して問題のとらえ方、学び方を検討します。できればですが、それを身体表現やドラマなども試み生かしながら行えればと、願っています。2) 自らを素材にして、当事者研究の意義と限界についても具体的に考える以上のことを、全員参加型のワークショップ方式で行います。メンバーに響いてくるテーマとアプローチを採用したいと考えていますので、扱うことは参加メンバーの構成とその展開によって大きく変わってきます。下にスケジュールとして挙げていることは、ワークショップのなかでできるだけ扱いたいと考えているものにすぎません。最も基本的なテーマと課題に関しては、詳しく丁寧に扱いますが、全く扱えないものもあるでしょうし、扱えても順序はもちろん密度も、グループの展開によって大きく変わって行くことになります。

内 容

- 第1回 全体のオリエンテーション1 臨床の知と学び方 自らの学び方について見直す 勉強と学びの違い、授業・講義とワークショップの違い
- 第2回 全体のオリエンテーション2 自分の学びの方の癖、特徴、条件づけられているもの
- 第3回 「臨床」とはなにか? 臨床の知と科学の知 その起源と歴史 日本での「臨床の知」という波の特別な意味と意義
- 第4回 事例研究という方法 当事者研究の威力
- 第5回 パフォーマンスと学び 道具としてのロールプレイ・演劇
- 第6回 臨床心理はいかに使われているか? 今後の可能性は?
- 第7回 集団力動と個人 集団のもつ魅力と魔力 個人はどのように集団と付き合えるか?
- 第8回 個人と集団: いじめという問題 差別と排除
- 第9回 破壊的カルト集団とマインドコントロール(これは宗教領域の問題だけではない)
- 第10回 児童虐待とネグレクトという問題(家族という矛盾した集団と場)
- 第11回 臨床の知と文化の多様性
- 第12回 文化の多様性が含む臨床的な力
- 第13回 文化の多様性と性愛問題、宗教問題
- 第14回 心理と政治の問題 Political Correctness の効用と乱用
- 第15回 全体の振り返り 吟味検討、振り返りの仕方 現実が変わるためには? 変えるためには?

授業以外での学習方法

自分の周りで生じていること、社会で起きていることに対する好奇心をもつこと。自分の感覚を磨くこと。そのために日常的に何ができるかを考え、試み、振り返ること。

教科書

後程提示したい

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

後程提示したい

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

★基本的に減点法でなく、加点法で行う

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅣA <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	中井 翔	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 Chapter 1 Part 5 Part 7
- 第2回 Chapter 2 Part 5 Part 6
- 第3回 Chapter 3 Part 5 Part 7
- 第4回 Chapter 4 Part 7
- 第5回 Chapter 5 Part 5 Part 7
- 第6回 Chapter 6 Part 5 Part 6
- 第7回 Chapter 7 Part 5 Part 7
- 第8回 Chapter 8 Part 7
- 第9回 Chapter 9 Part 5 Part 7
- 第10回 Chapter 10 Part 5 Part 7
- 第11回 Chapter 11 Part 5 Part 7
- 第12回 Chapter 12 Part 7
- 第13回 Chapter 13 Part 5 Part 7
- 第14回 Chapter 14 Part 5 Part 7 TOEIC QUIZE
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

An Intensive Approach to the TOEIC Test

著者： 松岡昇

出版社： 金星堂

出版年： 2008

ISBN： 9784764738584

A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar

著者： 小池直己

出版社： 南雲堂

出版年： 2007

ISBN： 9784523175513

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者： 小山克明 Kent Domries

出版社： Z会

出版年： 2008

ISBN： 9784862900128

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅣA **

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	ブライアンバスカギル	

テーマ

Expressing More of Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills. Class activities, discussion topics and so forth will be aimed at preparing students for participation in a global society.

授業の内容

This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 introductions
- 第2回 classroom English
- 第3回 movies
- 第4回 television
- 第5回 work-A
- 第6回 work-B
- 第7回 health-A
- 第8回 health-B
- 第9回 love & marriage
- 第10回 music
- 第11回 books
- 第12回 places in Japan
- 第13回 Japanese culture
- 第14回 talking about Japan
- 第15回 review

授業以外での学習方法

教科書

Let's Chat

著者: John Pak

出版社: EFL Press

出版年: 2007

ISBN: 4580244420056

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅣA <c>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 ジェームス デイゲル		
テーマ		
Global Events and Topics		

獲得目標

Students should be able to improve upon their reading, writing, speaking, and listening skills by discussing topics that are important on a global level and how they affect their lives and the lives of others.

授業の内容

There will be various activities targeting the four skills through a variety of units. There will be a special concentration on comprehension and understanding of content and expression of ideas and thoughts regarding each of the units. There will also be supplementary materials when appropriate in addition to the text for various topics that will be introduced to and responsible for. This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Nature 1
- 第2回 Nature 2
- 第3回 Nature 3
- 第4回 Life in the Past (Historical Moments) 1
- 第5回 Life in the Past (Historical Moments) 2
- 第6回 Life in the Past (Historical Moments) 3
- 第7回 Travel 1
- 第8回 Travel 2
- 第9回 Travel 3
- 第10回 (Interesting and Exciting) Careers 1
- 第11回 (Interesting and Exciting) Careers 2
- 第12回 (Interesting and Exciting) Careers 3
- 第13回 Celebrations (and Festivals Around the World) 1
- 第14回 Celebrations (and Festivals Around the World) 2
- 第15回 Celebrations (and Festivals Around the World) 3

授業以外での学習方法

This is designed to be a communication class so a large focus will be upon communicating with other members of the class in various ways – so students should try their best to improve upon their ability in this regard.

教科書

World English 2

著者: Kristin L. Johannsen

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9781424063376

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅣA <d>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	高居 佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 Unit 1 Sentence Patterns (5文型)
- 第2回 Unit 2 Nouns and Modifiers (名詞とその修飾句)
- 第3回 Unit 3 Adjectives and Adverbs (形容詞と副詞)
- 第4回 Unit 4 Tricky Prepositions (間違いやすい前置詞)
- 第5回 Review Test 1 for Units 1, 2, 3 and 4
- 第6回 Unit 5 Auxiliary Verbs (助動詞)
- 第7回 Unit 6 Causative Verbs and Verbs of Perception (使役動詞と知覚動詞)
- 第8回 Unit 7 Conjunctions (小さい接続詞と大きな接続詞)
- 第9回 Unit 8 Relative Clauses (関係詞)
- 第10回 Review Test 2 for Units 5, 6, 7 and 8
- 第11回 Unit 9 Tense (時制)
- 第12回 Unit 10 Quantifiers and the Correct Verbs (数量詞と動詞の関係)
- 第13回 Unit 11 Conditional Sentences (条件文/仮定法)
- 第14回 Unit 12 Verb + ing vs. Verb + to + Stem Verb (～ingにつく動詞・toにつく動詞) Review Test 3
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

TOEIC Test: On Target Book 1

著者: 大賀リコ William J. Benfield

出版社: 南雲堂

出版年: 2010

ISBN: 9784523176480

A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar

著者： 小池直己

出版社： 南雲堂

出版年： 2007

ISBN： 9784523175513

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者： 小山克明 Kent Domries

出版社： Z会

出版年： 2008

ISBN： 9784862900128

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅣA <e>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	田中 美和子	

テーマ

国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する

獲得目標

本コースでは、プロジェクト・ベースドで、英語の四技能、すなわち発信する力であるライティングとスピーキング、受容する力であるリーディング、リスニングを総合的に学んでいく。英文法を総合的に復習して、各プロジェクトのテーマに関連する語彙力を身に付ける。そして、パワーポイントを用いながら、自分の言いたいことを、わかりやすく英語で表現することができるようになることを目標とする。

授業の内容

後期は、①日本の魅力②日本の社会問題③将来の計画 という3つのテーマで、2分間以上のプレゼンテーションに臨む。前期でうまくいかなかった部分を、各自、後期のプロジェクトにおいて課題とする。発表では「平易な英語」を用いて、誰にでもわかりやすいプレゼンテーションを行えるようになることが後期の目標である。

内 容

- 第1回 1 Orientation Icebreaking (Textbook)
- 第2回 2 Project4 Introducing Japan: Step1
- 第3回 3 Project4 Introducing Japan: Step2
- 第4回 4 Project4 Introducing Japan: Step3
- 第5回 5 Project4 Introducing Japan: Presentation
- 第6回 6 Project5 Discussing Social Issues: Step1
- 第7回 7 Project5 Discussing Social Issues: Step2
- 第8回 8 Project5 Discussing Social Issues: Step3
- 第9回 9 Project5 Discussing Social Issues: Presentation
- 第10回 10 Reviews
- 第11回 11 Project6 Talking about Your Future Plans: Step1
- 第12回 12 Project6 Talking about Your Future Plans: Step2
- 第13回 13 Project6 Talking about Your Future Plans: Step3
- 第14回 14 Project6 Talking about Your Future Plans: Presentation
- 第15回 15 Reviews

授業以外での学習方法

発表はすべて英語です。授業以外でも英語にふれて、自分のペースで英語学習を続けましょう。

教科書

Presentations to Go

著者： 松岡昇 立野貴之 三宅ひろ子

出版社： センゲージラーニング株式会社

出版年： 2014

ISBN： 9484863122642

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅣA <f>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト準備を介して実用的な英語力を養う

獲得目標

TOEICテストにおけるリーディング力、文法力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

TOEIC Testでは求人、宣伝販売、交通機関を利用するなど様々なシチュエーションでのリーディングの理解が求められる。そのようなシチュエーションに沿って、TOEICテスト形式での問題演習を行う。その中で必要な語彙を整理していく。文法は、品詞の選び方、時制など基本的な文法項目別を整理しながら、演習を行う。最後に各省ごとの単語リストを使っての語彙・文法の復習する。

内 容

- 第1回 授業内容、評価方法の説明 Unit 1 Daily Life
- 第2回 Unit 2 places
- 第3回 Unit 3 People
- 第4回 Unit 4 Travel
- 第5回 Unit 5 Business
- 第6回 Unit 6 Office
- 第7回 Unit 7 Technology
- 第8回 Unit 8 Personnel
- 第9回 Unit 9 Management
- 第10回 Unit 10 Purchasing
- 第11回 Unit 11 Finances
- 第12回 模擬テスト
- 第13回 時事英語を読もう
- 第14回 時事英語を読もう
- 第15回 時事英語を読もう

授業以外での学習方法

各章ごとの単語・文法リストの書入れ、復習

教科書

Successful Keys to the TOEIC Test 1: Goal 500, 2nd Edition

著者: Atsushi Mizumoto, Mark D. Stafford

出版社: ピアソン桐原

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (45)

授業中発表等 (15)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅣA <g>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 山崎 清水

テーマ

総合的な英語運用能力を習得する。

獲得目標

DVDを観ながら総合的英語力を養成する。

授業の内容

世界遺産のDVDを観ながら英語力の向上を図る演習を行う。

内 容

- 第1回 Statue of Liberty, USA
- 第2回 Forbidden City, China
- 第3回 Bath, England
- 第4回 Canadian Rockies, Canada
- 第5回 The Pyramids, Egypt
- 第6回 Ayutthaya, Thailand
- 第7回 Edinburgh Castle, Scotland
- 第8回 Machu Picchu, Peru
- 第9回 Taj Mahal, India
- 第10回 Te Wahipounamu, New Zealand
- 第11回 Shirakawa-go, Japan
- 第12回 Cappadocia, Turkey
- 第13回 Blue Mountains, Australia
- 第14回 Persepolis, Iran
- 第15回 国内の世界遺産について

授業以外での学習方法

詳細は授業で説明する。

教科書

World Heritage on DVD

著者： 染矢 正一／Fred Ferrasci

出版社： 南雲堂

出版年： 2010

ISBN： 978452317641

参考書

成績評価

試験（40）

授業中課題（20）

参加度（10）

後期末英語テスト20%を加算。

小テスト（）

授業中発表等（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅣA <h>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	久保田 美佳	

テーマ

時事英語への発展。

獲得目標

比較的平易な英語で書かれた英文記事を読めるようになる。時事英語に関連した基本語彙を学習する。授業で検討したそれぞれの社会的問題についての意識を高める。英語の音とリズムに慣れる。

授業の内容

英文テキストの内容を正確に読み取る練習を続けます。テキスト付属の音源その他で英語の音とリズムに慣れる練習をします。

内 容

- 第1回 Chapter 7 Hikikomori
- 第2回 Chapter 7 Hikikomori
- 第3回 Chapter 8 Cults
- 第4回 Chapter 8 Cults
- 第5回 Chapter 9 Baby Boomers Retire
- 第6回 Chapter 9 Baby Boomers Retire
- 第7回 Review
- 第8回 Chapter 10 Immigration
- 第9回 Chapter 11 Telecommuting
- 第10回 Chapter 11 Telecommuting, Chapter 12 Buying Organs
- 第11回 Chapter 12 Buying Organs, Chapter 13 Surrogate Mother
- 第12回 Chapter 13 Surrogate Mother, Chapter 14 Baby Hatch
- 第13回 Chapter 14 Baby Hatch, Chapter 15 Eating Disorder
- 第14回 Chapter 15 Eating Disorder, Summary
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

語彙の復習は欠かさず行い定着させ、授業外でも音読をするなどして毎日英語に触れる習慣を付けて下さい。

教科書

Keywords for Japan Today

著者: Paul Stapleton

出版社: Cengage Learning

出版年: 2008

ISBN: 9784863120433

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストを定期的に行い習熟度をチェックします。上記に、後期末統一英語テスト20%が加算されます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅣA <i>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	溝部 芳子	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

獲得目標

TOEICに対応できる文法事項、語彙を確認し、リーディングの正確さとスピードの向上を目指す。

授業の内容

前半では、文法事項の確認とジャンル別英文の攻略法を習得する。後半では多くの問題をまとめて解きながら、正確さとスピードを高めていく。随時小テストを行い、適宜時事英語も扱う。

内 容

- 第1回 Introduction (テキストの使い方、授業の進め方、TOEIC リーディングパートについて)
- 第2回 Part 5: Word Form
- 第3回 Part 5: Context
- 第4回 Part 6: Verbs
- 第5回 Part 6: Modifiers
- 第6回 Part 7: Advertisements, Forms, Correspondences
- 第7回 Part7: Tables, Notices, Instructions
- 第8回 Strategy Practice
- 第9回 Reading Review
- 第10回 Practice Test (1)
- 第11回 Practice Test (1)
- 第12回 Practice Test (2)
- 第13回 Practice Test (2)
- 第14回 Practice Test (3)
- 第15回 Practice Test (3)

授業以外での学習方法

語彙学習。課題として出された問題にしっかりと取り組む。Web上の英文ニュースや企業のホームページなど時事英語に親しむ。

教科書

Longman Preparation Series for the TOEIC Test with Intermediate Course

著者: Lin Lougheed

出版社: Pearson Education

出版年: 2012

ISBN: 9780132861427

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25%)

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (40%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅣA <j>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	川口 玲子	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 Chapter 1 At an Airport Chapter 2 At a Hotel 基本文型 名詞の修飾
 第2回 Chapter 3 On the Street Chapter 4 At a Restaurant 文と文の接続 知覚動詞と使役動詞
 第3回 Chapter 5 Shopping Chapter 6 At a Bank 助動詞 その他の助動詞と助動詞＋完了形
 第4回 Chapter 7 Taking a Trip Chapter 8 Seeing the Doctor 時制 現在完了
 第5回 Chapter 9 Renting an Apartment Chapter 10 Sports 前置詞 to不定詞
 第6回 Chapter 11 Job Hunting Chapter 12 Talking on the Phone 仮定法過去 仮定法過去完了
 第7回 Chapter 13 Appointment Chapter 14 Giving a Presentation 受動態 動名詞と分詞構文
 第8回 Chapter 15 Negotiating Chapter 16 Meeting 関係代名詞 関係副詞
 第9回 Chapter 17 Business Performance Chapter 18 Dealing with Complaints 比較 名詞と冠詞
 第10回 Chapter 19 Market Trends Chapter 20 Parties 注意すべき名詞の数と数量形容詞 強調構文と倒置
 第11回 演習 短文穴埋め問題
 第12回 演習 長文穴埋め問題
 第13回 演習 読解問題 1つの文書
 第14回 演習 読解問題 2つの文書
 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

Kick off for the TOEIC Test

著者： 松岡昇

出版社： 金星堂

出版年： 2006

ISBN： 9784764738188

A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar

著者： 小池直己

出版社： 南雲堂

出版年： 2007

ISBN： 9784523175513

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者： 小山克明 Kent Domries

出版社： Z会

出版年： 2008

ISBN： 9784862900128

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅣA <k>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	山下 美朋	

テーマ

伝達手段としての英語に必要な4技能(読む、書く、聞く、話す)の基礎力の育成を目標とする。

獲得目標

1)簡単な日常会話を聞いて理解する。2)音声上の規則を理解し、様々な場面での平易な内容の会話ができる。3)高校までに学んだ文法事項を理解する。4)比較的平易な内容の数パラグラフ程度の英文を読めるようになる。5)簡単なTOEIC形式の問題を解くことができるようになる。

授業の内容

テキストを中心に進め、日常会話の習得のためにペアやグループの活動を取り入れます。また短いプレゼンテーション課題にも取り組んでもらいます。

内 容

- 第1回 Why don't you join a tour?
- 第2回 You've got a nice place
- 第3回 Where are we supposed to meet?
- 第4回 Challenge 1
- 第5回 I'm very sorry
- 第6回 Review
- 第7回 This is so cool
- 第8回 Where is it?
- 第9回 Challenge 2
- 第10回 Excuse me
- 第11回 Be careful!
- 第12回 I'll miss you!
- 第13回 Challenge 3
- 第14回 Mini-TOEIC
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

指定された宿題や課題はきちんと行うこと。またペアワーク、グループワークに積極的に取り組むこと。

教科書

English Connections Study & Holiday 2

著者:

出版社: Macmillan Languagehouse

出版年: 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅣA <I>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	野口 博代	

テーマ

英字新聞を通して、世界のニュースに触れる。

獲得目標

新聞英語特有の語彙や文体に慣れる事を目標とします。

授業の内容

The New York Times や The Japan Times等の 英字新聞の記事を教材に、新聞英語で使用される語彙や文体に慣れるための演習を行います。更に、多角的な演習を加えて総合的な英語運用能力の向上に努めます。

内 容

- 第1回 Introduction / Unit 1 Tokyo Disneyland, now 30, still casts spell
- 第2回 Unit 1 Tokyo Disneyland, now 30, still casts spell Unit 2 Where the Internet arrives on a bicycle
- 第3回 Unit 2 Where the Internet arrives on a bicycle
- 第4回 Unit 3 Treasure Island Trauma
- 第5回 Unit 4 No, Greenland does not belong to China
- 第6回 Unit 5 Mobile devices are new black bags for physicians
- 第7回 Unit 6 Off-the-air TV drama in Iran
- 第8回 Unit 7 Boy attends New York school remotely via robot
- 第9回 Unit 9 'Abenomics' out of the gate
- 第10回 Unit 12 Are there any Europeans left?
- 第11回 Unit 14 Cloning and Stem Cell Work Earns Nobel
- 第12回 Unit 15 Paying a record tuna price is simply good advertising
- 第13回 Review
- 第14回 Review
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

英字新聞を読む。

教科書

15 Selected Units of English through the News Media

著者: Masami Takahashi / Noriko Ttoh / Richard Powell

出版社: Asahi Press

出版年: 2014

ISBN: 9784255155500

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅣA <m>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 原 俊樹

テーマ

一段上の英語力を身につけよ

獲得目標

ⅢAと同様に、実践的な英語運用能力を身につける

授業の内容

基本的には各ユニットに沿って授業を進める。

内 容

- 第1回 テキスト前半部の学習内容の整理と確認
- 第2回 基礎力判定実力テスト 英文の基本表現の確認1: 英文の成り立ち・主語と述語動詞のとらえ方
- 第3回 英文の基本表現の確認2: 5文型
- 第4回 英文の基本表現の確認3: 文の要素・修飾語句
- 第5回 叙法
- 第6回 関係詞(関係代名詞と関係副詞)
- 第7回 助動詞の用法1
- 第8回 助動詞の用法2
- 第9回 話法
- 第10回 比較
- 第11回 否定
- 第12回 疑問
- 第13回 複雑な構造を持つ文の理解1: 接続語句と重文・複文
- 第14回 複雑な構造を持つ文の理解2: 分詞構文
- 第15回 後期のまとめ・到達度の確認

授業以外での学習方法

予習・復習を確実にしてくること。

教科書

English through the News Media 2014 edition

著者: MasamiTakahashi/ Noriko Itoh/ RichardPowell

出版社: Asahi Press

出版年: 2014

ISBN: 9784255155494

参考書

成績評価

試験 (50%)
授業中課題 (10%)
参加度 (10%)

小テスト (20%)
授業中発表等 (10%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅣA <n>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	野口 博代	

テーマ

英字新聞を通して、世界のニュースに触れる。

獲得目標

新聞英語特有の語彙や文体に慣れる事を目標とします。

授業の内容

The New York Times や The Japan Times等の 英字新聞の記事を教材に、新聞英語で使用される語彙や文体に慣れるための演習を行います。更に、多角的な演習を加えて総合的な英語運用能力の向上に努めます。

内 容

- 第1回 Introduction / Unit 1 Tokyo Disneyland, now 30, still casts spell
- 第2回 Unit 1 Tokyo Disneyland, now 30, still casts spell Unit 2 Where the Internet arrives on a bicycle
- 第3回 Unit 2 Where the Internet arrives on a bicycle
- 第4回 Unit 3 Treasure Island Trauma
- 第5回 Unit 4 No, Greenland does not belong to China
- 第6回 Unit 5 Mobile devices are new black bags for physicians
- 第7回 Unit 6 Off-the-air TV drama in Iran
- 第8回 Unit 7 Boy attends New York school remotely via robot
- 第9回 Unit 9 'Abenomics' out of the gate
- 第10回 Unit 12 Are there any Europeans left?
- 第11回 Unit 14 Cloning and Stem Cell Work Earns Nobel
- 第12回 Unit 15 Paying a record tuna price is simply good advertising
- 第13回 Review
- 第14回 Review
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

英字新聞を読む。

教科書

15 Selected Units of English through the News Media

著者: Masami Takahashi / Noriko Ttoh / Richard Powell

出版社: Asahi Press

出版年: 2014

ISBN: 9784255155500

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅣA <○>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	川口 玲子	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 Chapter 1 Part 1 Part 3 Part 5 Part 7
- 第2回 Chapter 2 Part 2 Part 4 Part 5 Part 6
- 第3回 Chapter 3 Part 3 Part 5 Part 7
- 第4回 Chapter 4 Part 2 Part 4 Part 7
- 第5回 Chapter 5 Part 1 Part 3 Part 5 Part 7
- 第6回 Chapter 6 Part 2 Part 4 Part 5 Part 6
- 第7回 Chapter 7 Part 3 Part 5 Part 7
- 第8回 Chapter 8 Part 2 Part 4 Part 7
- 第9回 Chapter 9 Part 1 Part 3 Part 5 Part 7
- 第10回 Chapter 10 Part 2 Part 4 Part 5 Part 7
- 第11回 Chapter 11 Part 3 Part 5 Part 7
- 第12回 Chapter 12 Part 2 Part 4 Part 7
- 第13回 Chapter 13 Part 1 Part 3 Part 5 Part 7
- 第14回 Chapter 14 Part 2 Part 4 Part 5 Part 7 TOEIC QUIZE
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

An Intensive Approach to the TOEIC Test

著者： 松岡昇

出版社： 金星堂

出版年： 2008

ISBN: 9784764738584

参考書

成績評価

試験（30）

授業中課題（0）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（20）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅣA <p>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 原 俊樹	

テーマ

一段上の英語の運営能力を身につける

獲得目標

ⅢAと同様に、英語の理解・運用の能力を身につける。

授業の内容

ⅢA同様に基本的にはテキストの各ユニットに沿って授業を進める 習熟度・理解度をみるための小テスト・実力テスト・課題を用意します

内 容

- 第1回 テキスト前半部(ⅢA範囲)の学習内容の整理と確認
- 第2回 基礎力判定テスト 英文の基本表現の確認1:英文の成り立ち・主語と述語動詞のとらえ方
- 第3回 英文の基本表現の確認2:5文型
- 第4回 英文の基本構造の確認3:文の要素と修飾語句
- 第5回 叙法:直説法・命令法・仮定法
- 第6回 関係詞:関係代名詞と関係副詞
- 第7回 助動詞の用法1
- 第8回 助動詞の用法2
- 第9回 話法
- 第10回 比較
- 第11回 否定
- 第12回 疑問
- 第13回 複雑な構造を持つ文の理解1:接続語句と重文・複文
- 第14回 複雑な構造を持つ文の理解2:分詞構文
- 第15回 後期のまとめ・到達度の確認

授業以外での学習方法

予習・復習を確実にすること

教科書

Understanding Health Care]

著者: Tsukimaro Nishimura/ David I. Brooks/ etc.

出版社: Asahi Press

出版年: 2011

ISBN: 9784255155036

参考書

成績評価

試験 (50%)
授業中課題 (10%)
参加度 (10%)

小テスト (20%)
授業中発表等 (10%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅣA <R>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	杉山 泰	

テーマ

英日翻訳を実践していくことで、日英語の違いを学んでいく

獲得目標

日本は翻訳天国と言われている。何しろ、世界哲学全集を日本語で読める国などそう多くはない。イギリス文学はもちろんのこと、ロシア文学もすべて日本語で読める。さらに、大学の医学部ですべての授業が日本語で講義できる国はアジアでは日本だけと言えるだろう。「十二指腸」や「盲腸」でも翻訳語ができて上がっている。7世紀には漢字をそのまま導入し、最近でも漢文によって中国文学を理解している。英日語翻訳を通して、日本文化の底流に流れている「翻訳文化」の効用を学んでいきたい。

授業の内容

毎回プリントで楽しい英文を配布し、それをその場で翻訳してもらおう。意見やさしい英日翻訳も、日本語ができなければ美しい日本語には訳せない。日本語に翻訳しながら、「英日翻訳文法」を学んでもらう。

内 容

- 第1回 英日翻訳とは何か(翻訳は翻訳者の数だけ存在する) To be or not to be: that is the question.をどう訳す?
- 第2回 主語あり英語を主語なし日本語にどう訳すのか
- 第3回 厄介なく代名詞の訳し方(「彼」「彼女」「それ」と訳してはダメ)
- 第4回 名詞中心構文をどう動詞中心構文に訳すのか(I have a fear of death=いつか死ぬという不安がある)
- 第5回 名詞中心構文の代表選手<関係代名詞>の訳し方
- 第6回 前から訳せ<関係代名詞>という鉄則
- 第7回 魔法の杖<that>という接続詞の訳し方
- 第8回 <時制>という魔物(「秋でした」はいいが、「美しいでした」は?)
- 第9回 歴史書はすべて<過去形>で訳せばいいのか?(日本語に<時制>はない)
- 第10回 <間接話法>は<直接話法>で訳せ(日本語は直接話法が好き)
- 第11回 <隠れた文化>をどう訳すか(Good morning.はなぜ「おはよう」なのか?)
- 第12回 <ベッドの文化>を<畳の文化>にどう訳せばいいのか?
- 第13回 drinkと「飲む」、waterと「水」はどう違うのか? 英日語対照による、<意味>のずれ
- 第14回 英日翻訳の実践(日本語に存在しない英語をどう訳すのか?)
- 第15回 英日翻訳の実践(児童文学の翻訳—翻訳したい児童文学)

授業以外での学習方法

新聞、雑誌にあふれている<翻訳日本語>を調べ、取り出してもらおう。TPPIは「環太平洋パートナーシップ」の訳でいいのか? 「原子力をベースにする」とはどんな意味なのか? 「橘壮」「橘アパート」「橘マンション」「橘ジャルダン」と聞いて、どんなイメージを受けるだろうか。江戸時代はオランダ語をことごとく日本語に翻訳して、「社会」「会社」「十二指腸」「哲学」という新しい言葉を生み出した。現在はどうか、全員で考えてほしい。

教科書

杉山泰「プリント」

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

初めて学ぶ「翻訳」「通訳」

著者: 杉山泰ほか

出版社：松柏社

出版年： ISBN：

心に届く英語

著者： マーク・ピーターセン

出版社：岩波新書

出版年：1999年 ISBN：

日本語は敬語があつて主語がない

著者： 光文社新書

出版社：

出版年：2010年 ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（40）

参加度（30）

小テスト（ ）

授業中発表等（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ〈a〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ<C>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <d>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <e>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ〈f〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (10%)

参加度 ()

小テスト (30%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <g>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <h>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分ちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (10%)

参加度 ()

小テスト (30%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <i>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <j>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <k>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <I>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ〈m〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <n>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ〈○〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (10%)

参加度 ()

小テスト (30%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <p>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第10回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
 第11回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
 第12回 プレゼンテーションⅡ: プレゼンテーション資料の作成および発表準備
 第13回 プレゼンテーションⅢ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
 第14回 プレゼンテーションⅣ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ
 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
 第4回 数値分析Ⅰ-(1): 情報処理演習Ⅰ Excel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
 第5回 数値分析Ⅰ-(2): 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
 第9回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <q>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小城 弥生	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <r>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (10%)

参加度 ()

小テスト (30%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ〈s〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森田 周	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <t>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振り返り・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法を学ぶ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint 演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 倫理学概論 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 安部 彰	

テーマ

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。

獲得目標

倫理的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の内容

近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理的な思考法の意義と重要性を知る。

内 容

- 第1回 インTRODakション——倫理学とは何か
- 第2回 倫理学の基礎
- 第3回 近代の倫理学
- 第4回 功利主義(1)——功利主義とは何か？
- 第5回 功利主義(2)——功利主義の意義と限界
- 第6回 義務論(1)——カントの倫理学
- 第7回 義務論(2)——義務論の意義と限界
- 第8回 義務論と功利主義の展開
- 第9回 自由主義
- 第10回 自由と責任
- 第11回 現代正義論(1)——その基本的発想
- 第12回 現代正義論(2)——平等主義と分配
- 第13回 現代正義論(3)——正義論への批判
- 第14回 正義論の展開
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

毎講義後の復習をつよく推奨する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

功利主義入門

著者: 児玉 聡

出版社：筑摩書房(ちくま新書)

出版年：2012

ISBN:

正義論の名著

著者：中山 元

出版社：筑摩書房(ちくま新書)

出版年：2011

ISBN:

プレップ倫理学

著者：柘植 尚則

出版社：弘文堂

出版年：2010

ISBN:

高校生と大学一年生のための倫理学講義

著者：藤野 寛

出版社：ナカニシヤ出版

出版年：2011

ISBN:

政治哲学への招待

著者：A・スウィフト

出版社：風行社

出版年：2011

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100)

授業中発表等 ()

参加度 ()

1)最終講義時に実施する習熟確認課題の結果にもとづき成績を判定 する。2)出席が総授業数の3分の2に満たない場合、受験資格はあたえない (つまり評価対象外とする)。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 倫理学概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 碓井 敏正	

テーマ

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。

獲得目標

倫理的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の内容

近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理的な思考法の意義と重要性を知る。

内 容

- 第1回 インTRODakション——倫理学とは何か
- 第2回 倫理学の基礎
- 第3回 近代の倫理学
- 第4回 功利主義(1)——功利主義とは何か？
- 第5回 功利主義(2)——功利主義の意義と限界
- 第6回 義務論(1)——カントの倫理学
- 第7回 義務論(2)——義務論の意義と限界
- 第8回 義務論と功利主義の展開
- 第9回 自由主義
- 第10回 自由と責任
- 第11回 現代正義論(1)——その基本的発想
- 第12回 現代正義論(2)——平等主義と分配
- 第13回 現代正義論(3)——正義論への批判
- 第14回 正義論の展開
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

『正義 —現代社会の公共哲学を求めて—』

著者: 平井亮輔 編 若松良樹・服部高宏・那須耕介・植木一幹・玉木秀敏・高井裕之・中山竜一 著

出版社：嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

他は授業内で適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ 70 ）

授業中課題（ 30 ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ジェンダー研究**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 芝原 妙子

テーマ

ジェンダーは人種、民族、階級、社会、文化、宗教とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点を用いて今日的な課題を考える。

獲得目標

ジェンダーに関する基本的な概念を理解すると共に、ジェンダーの視点を用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目的とする。

授業の内容

講義中心の授業である。テキストは用いず講義に必要な資料を適時配布する。その資料に基づいての予習が講義の理解のために不可欠である。また講義の理解を深めるため映像資料を用いることがある。講義中に配布するコメント用紙への記入を求める。コメントの内容は評価の対象となる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、ジェンダー史・ジェンダー研究の概観
- 第2回 ジェンダー研究キー・コンセプト
- 第3回 ジェンダーと家族 (1)
- 第4回 ジェンダーと家族 (2)
- 第5回 ジェンダーと法・社会規範
- 第6回 ジェンダーと宗教
- 第7回 ジェンダーと戦争
- 第8回 ジェンダーと戦争
- 第9回 ジェンダーと政治
- 第10回 ジェンダーと平和運動
- 第11回 ジェンダーと平和運動
- 第12回 ジェンダーと労働・経済
- 第13回 ジェンダーと表象文化
- 第14回 ジェンダーとセクシュアリティ
- 第15回 まとめ ジェンダー研究の応用

授業以外での学習方法

日常から授業内容に関連するメディア(新聞・雑誌・報道番組など)に目を通す。授業中に紹介された参考文献を読み進めること。

教科書

参考書

女性の目からみたアメリカ史

著者: エレン・キャロル・ディチュボイス、リン・ディメニル

出版社: 明石書店

出版年: 2009

ISBN:

ジェンダーで学ぶ社会学

著者： 伊藤公雄、牟田和恵編

出版社： 世界思想社

出版年： 2006

ISBN：

ジェンダーから世界を読むII

著者： 中野知律、越智博美編

出版社： 明石書店

出版年： 2008

ISBN：

知らないと恥ずかしいジェンダー入門

著者： 加藤秀一

出版社： 朝日新聞社

出版年： 2006

ISBN：

近代日本女性論の系譜

著者： 金子幸子

出版社： 不二出版

出版年： 1999

ISBN：

アメリカ・ジェンダー研究入門

著者： 有賀夏紀、小檜山ルイ編

出版社： 青木書店

出版年： 2010

ISBN：

Japanese Women and the Transnational Feminist Movement before World War II

著者： Taeko Shibahara

出版社： Temple University Press

出版年： 2014

ISBN：

成績評価

試験（60）

小テスト（）

授業中課題（40）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中課題40%は、講義時に提出を求めるコメントを意味する。試験60%は中間試験と期末レポート試験を意味する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 法学概論Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 実千代	

テーマ

私法に関する基礎知識の習得

獲得目標

私法全体に共通する基本的な原理・原則、枠組み、法概念を理解する。私生活の様々な場面において、各制度の正確な位置づけを図り、初歩的な応用力を身につける。

授業の内容

授業は講義形式で、指定テキストを使用しながら行う。補足資料として、適宜にレジュメを配布する。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 私法の基本原理
- 第3回 法律行為①(意思表示)
- 第4回 法律行為②(行為能力)
- 第5回 代理制度
- 第6回 時効制度
- 第7回 契約①(債務不履行責任)
- 第8回 契約②(消費者契約の種類)
- 第9回 所有権
- 第10回 不法行為責任
- 第11回 債務の弁済
- 第12回 夫婦と親子
- 第13回 相続と遺言
- 第14回 民事事件の紛争解決
- 第15回 総まとめ
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

新聞やテレビのニュース等に注意を払い、私法に関連する法改正や判決について、論理的説明を試みる。

教科書

2014年の小型六法

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

民事法入門

著者: 野村豊弘

出版社：有斐閣

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（20%）

参加度（ ）

小テスト（80%）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 法学概論Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 実千代	

テーマ

私法に関する基礎知識の習得

獲得目標

私法全体に共通する基本的な原理・原則、枠組み、法概念を理解する。私生活の様々な場面において、各制度の正確な位置づけを図り、初歩的な応用力を身につける。

授業の内容

授業は講義形式で、指定テキストを使用しながら行う。補足資料として、適宜にレジュメを配布する。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 私法の基本原理
- 第3回 法律行為①(意思表示)
- 第4回 法律行為②(行為能力)
- 第5回 代理制度
- 第6回 時効制度
- 第7回 契約①(債務不履行責任)
- 第8回 契約②(消費者契約の類型)
- 第9回 所有権
- 第10回 不法行為責任
- 第11回 債務の弁済
- 第12回 夫婦と親子
- 第13回 相続と遺言
- 第14回 民事事件の紛争解決
- 第15回 総まとめ
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

新聞やテレビのニュース等に注意を払い、私法に関連する法改正や判決について、論理的説明を試みる。

教科書

2014年の小型六法

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

民事法入門

著者: 野村豊弘

出版社：有斐閣

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（20%）

参加度（ ）

小テスト（80%）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **健康に生きるⅢ**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 田中 芳幸	

テーマ

精神的な「健康」(メンタルヘルス)の概要とその維持増進に役立つ心理学・行動科学理論の理解

獲得目標

個人の「健康」について精神的側面(メンタルヘルス)を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されている様々なメンタルヘルスの理論や、その歴史的背景を学び、現代人が健康に生活するうえでのメンタルヘルスの重要性を理解する。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされる様々な理論・技法についても考察する。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション 「健康」の捉え方
- 第2回 メンタルヘルスの関連学問領域
- 第3回 パーソナリティと健康
- 第4回 パーソナリティやメンタルヘルスの測定方法
- 第5回 ストレスのメカニズムと健康
- 第6回 ストレスへの対処
- 第7回 様々なストレスマネジメント技法
- 第8回 社会・集団とメンタルヘルス
- 第9回 様々な健康関連行動
- 第10回 健康関連行動と生活習慣
- 第11回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅰ：認知・学習心理学の視点から
- 第12回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅱ：学習・行動心理学の視点から
- 第13回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅲ：精神分析学の視点から
- 第14回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅳ：人間性心理学の視点から
- 第15回 健康に生きるⅢ(メンタルヘルス)のまとめ

授業以外での学習方法

教科書や参考文献に示すものなどといった心理学・医療行動科学関連図書や講義中に配布する資料による自学自習、および、講義内容を踏まえての自分自身の心身の健康への考察

教科書

医療の行動科学Ⅰ 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー

著者： 山田 富美雄(編)

出版社： 北大路書房

出版年：

ISBN：

参考書

健康と暮らしに役立つ心理学

著者： 金政 祐司・大竹 恵子

出版社：北樹出版

出版年：

ISBN：

新版健康心理学

著者：野口 京子

出版社：金子書房

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50%）

小テスト（）

授業中課題（30%）

授業中発表等（）

参加度（20%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生活の中の数学

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小寺 隆幸	

テーマ

実生活の様々な問題を数学的にとらえるとより深く理解できることを知り、数学への興味・関心を高め、市民としての数学的リテラシーを育む。

獲得目標

実生活の様々な問題には数量・図形・変化などが関わっている。この授業では、具体的な場面を取り上げ、数学的に物事を見ることでより適切な判断が出来ることを理解していく。それぞれの数学の内容を掘り下げ習熟することが目的ではなく、数理的に見るとはどのようなことを理解し、数学に対する関心を深め、将来必要になった時に数学を自分で学ぼうとする姿勢を育てることが目的である。

授業の内容

算数から微積分まで、小中高の数学の内容を生活との関わりという視点で見直す。さらにカオスなどの新たな数学にもふれる。今まで数学が苦手な人もわかるようにすすめる。

内 容

- 第1回 携帯料金 どれがお得？ 一次関数から線型計画法へ
- 第2回 スキー場の数学 斜面の運動から二次関数へ
- 第3回 落下運動 微分・積分の考え
- 第4回 ドライバーの数学 制動距離は二次関数
- 第5回 ハイキングの数学 三平方の定理、三角比
- 第6回 身近な形を数理的に見る 図形の性質・対称
- 第7回 オウムガイとアワビの数学 相似・指数関数
- 第8回 サラ金から身を守るために 指数関数
- 第9回 ローンの返済 半対数グラフの活用
- 第10回 放射能に向き合って生きる 対数
- 第11回 リスクと宝くじ 確率・期待値
- 第12回 統計の利用と嘘 代表値・推測統計
- 第13回 成長を考える ロジスティック関数からカオスへ
- 第14回 数理のメガネで見る 角・差分
- 第15回 環境問題を数学で考える 多変数関数・フローとストック

授業以外での学習方法

授業に関連した本を紹介する。興味がある人は読んで深めよう。

教科書

参考書

数学の1, 2, 3
 著者： 瀬山士郎
 出版社： 講談社
 出版年： 2002

ISBN:

検定外高校数学 上

著者： 何森仁、小嶋順

出版社： 日本評論社

出版年： 2007

ISBN：

こんなに役立つ数学入門

著者： 広田照幸、川西琢也

出版社： 筑摩書房

出版年： 2007

ISBN：

なるほどなっとく数学再挑戦

著者： 増島高敬、石井孝子

出版社： 日本評論社

出版年： 2004

ISBN：

数学は世界を解明できるか

著者： 丹羽敏雄

出版社： 中央公論新社

出版年： 1999

ISBN：

微分積分の意味がわかる

著者： 野崎昭弘

出版社： ベレ出版

出版年： 2000

ISBN：

統計確率の意味がわかる

著者： 野崎昭弘

出版社： ベレ出版

出版年： 2001

ISBN：

数学入門 上 下

著者： 遠山啓

出版社： 岩波書店

出版年： 1959

ISBN：

地球を救え！数学探偵団

著者： 小寺隆幸

出版社： 国土社

出版年： 1996

ISBN：

数学で考える環境問題

著者： 小寺隆幸

出版社： 明治図書

出版年： 2004

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（ ）

授業中課題（30）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

参加度は毎回提出する授業感想で評価、試験はレポート試験とする

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急救命基礎講義 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 春期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北小屋 裕.関根 和弘.千田 いずみ.夏目 美樹.深澤 雄二.福岡 範恭

テーマ

政治の常識①

獲得目標

卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の内容

第1回の授業は、a・bクラス合同でオリエンテーションともに公務員試験を模擬体験し、第2回以降は、数学と政治の授業を隔週で実施する。政治の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。

内 容

- 第1回 合同:オリエンテーション&公務員試験問題の体験
- 第2回 数の世界の不思議から文字へ
- 第3回 政治:国家とはなにか?—その思想と原則
- 第4回 文字式の計算を図で考えよう~展開、因数分解、平方完成、解の公式
- 第5回 政治:人権—原理と歴史
- 第6回 数の世界の拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第7回 政治:いろいろな政治制度
- 第8回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第9回 政治:日本国憲法
- 第10回 方程式の活用~一次・連立・二次方程式
- 第11回 政治:憲法と人権①
- 第12回 不等式とその活用
- 第13回 政治:憲法と人権②
- 第14回 比・比例・割合
- 第15回 政治:まとめ

授業以外での学習方法

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

教科書

授業毎にプリント配付

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ask103d680

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急救命基礎講義Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 春期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

経済の常識①

獲得目標

卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の内容

第1回の授業から、数学と経済の授業を隔週で実施し、最終回には数学&政治・経済の総合テストを実施する。経済の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。

内 容

- 第1回 場合の数
- 第2回 経済:経済体制
- 第3回 順列・組み合わせ
- 第4回 経済:経済理論①
- 第5回 確率
- 第6回 経済:経済理論②
- 第7回 平面図形の基礎
- 第8回 経済:経済理論③
- 第9回 相似
- 第10回 経済:戦後の日本経済
- 第11回 図形の計量
- 第12回 経済:その分野別問題
- 第13回 空間図形
- 第14回 政治:まとめ
- 第15回 合同:まとめのテスト

授業以外での学習方法

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語科教育法Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 中井 弘一	

テーマ

「実践的指導力」の育成:授業実践力、指導案作成、模擬授業

獲得目標

・中学校・高等学校の英語科担当教員に必要とされる基本的な知識を得る・教育現場での実践的な英語指導法を身につける

授業の内容

学習者の語彙力、文法力を踏まえ、コミュニケーション能力育成のための4領域の指導はどうあるべきかなど実践的な知識と指導技術を模擬授業を行ったりして体得させるようにする。また、チームティーチング、評価、授業案作成など実践的な課題を取り上げる。

内 容

- 第1回 第1章 英語科授業構成の基礎知識:学習指導要領、シラバス、英語教員の役割
- 第2回 第2章 教材を見る視点(教材研究):語彙・文構造の面からの分析、学習者の要因、学習心理
- 第3回 第3章 教材を使う視点:学習者に応じた教材の選択、教材を見る視点
- 第4回 第4章 英語科授業構成の考え方:中・長期的な目標設定の重要性、求められる統合型の英語科授業構成
- 第5回 第5章 英語科授業の展開:指導案と授業の進め方・学習指導案の書き方、授業で行うアクティビティ
- 第6回 中学校の模擬授業(1) 授業研究
- 第7回 中学校の模擬授業(2) 授業研究
- 第8回 中学校の模擬授業(3) 授業研究
- 第9回 中学校の模擬授業(4) 授業研究
- 第10回 高等学校の模擬授業(1) 授業研究
- 第11回 高等学校の模擬授業(2) 授業研究
- 第12回 高等学校の模擬授業(3) 授業研究
- 第13回 第6章 英語科評価の新動向:さまざまな評価の種類
- 第14回 第7章 開発する視点とその方法:教材の開発
- 第15回 第8章 これからの英語教育と英語教師に求められる力:これからの英語教師に求められる資質と能力

授業以外での学習方法

模擬授業準備、発表準備

教科書

新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践

著者: 三浦省吾・深沢清治編著

出版社: ミネルバ書房

出版年: 2009

ISBN: 9784623053025

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 (30%)

授業中課題<提出物・レポート>(40 %)、参加・貢献度(30 %)、授業中発表等<模擬授業含む>(30 %)

小テスト ()

授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語科教育法Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 梅本 裕	

テーマ

授業業作りのABC

獲得目標

授業とは・授業づくりとはどういうものかを、体験を通じて理解する。また、英語教師として最低限必要な英語力をつける。

授業の内容

国内・国外における英語教育の現状を紹介し、個々の授業に置いてどのように活かしていけるかを考察し、実現できるよう工夫していく。

内 容

- 第1回 これからの英語教育
- 第2回 異文化コミュニケーションとは？
- 第3回 異文化理解のための教育とは？（日本における異文化理解の歴史から学ぶ）
- 第4回 異文化理解のための教育とは？（諸外国の事例に学ぶ）
- 第5回 リーディングの指導における異文化理解の指導
- 第6回 実践・模擬授業（リーディングを中心としたコミュニケーション）
- 第7回 ライティングの指導における異文化理解の指導
- 第8回 実践・模擬授業（ライティングを中心としたコミュニケーション）
- 第9回 スピーキングとリスニングの指導における異文化理解の指導
- 第10回 実践・模擬授業（スピーキングを中心としたコミュニケーション）
- 第11回 海外におけるESL教育における文化理解指導（アメリカ合衆国、カナダの事例）
- 第12回 海外におけるESL教育における文化理解指導（オーストラリア、ニュージーランドの事例）
- 第13回 異文化への態度変容と外国語学習
- 第14回 実践・模擬授業（第11回目、12回で学んだ海外の事例をもとにして）
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

なるべく多くの英文を読むこと。多読が英語学力の基礎である。

教科書

英語科教育法I・IIと同じ

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(歴財M1後)〈Ma〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

修士論文を設計。

獲得目標

現状における研究の到着点を把握し、問題点を見出し、自己の論文の立ち位置を整備し修論の構成をねりあげる。

授業の内容

発表に基づき、評価し、点検し、設計し、組立てる。

内 容

- 第1回 研究論文の書き方。
- 第2回 研究史に関する発表と討議。
- 第3回 研究史に関する発表と討議。
- 第4回 研究史に関する評価。
- 第5回 研究史に関する点検。
- 第6回 研究対象資料の組立の検討。
- 第7回 研究対象資料の組立の検討。
- 第8回 自己研究の点検。
- 第9回 自己研究の点検。
- 第10回 研究対象資料の検討。
- 第11回 研究発表と討議。
- 第12回 研究発表と討議。
- 第13回 論文設計の不足の点検。
- 第14回 論文設計の不足の点検。
- 第15回 まとめと課題の検出。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習Ⅲ(成人・精神)〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河原 宣子・伊藤 恵美子	

テーマ

クリティカルな状況にある個人および家族への対応能力

獲得目標

1.クリティカルな状況にある個人および家族の身体的・心理社会的問題について、包括的に理解する。2.クリティカルな状況にある個人および家族への効果的な看護実践方法について考究できる。3.クリティカル領域での研究動向を把握し、看護の課題を探求する。

授業の内容

クリティカルな状況にある個人および家族への対応能力を養い、効果的な看護援助を提供するための方法・課題を探求する能力を養う。そのため、クリティカルな状況にある個人および家族の身体的・心理社会的問題について、包括的に理解し、クリティカルな状況にある個人および家族への効果的な看護実践方法について考究する。また、クリティカル領域での研究動向を把握し、看護の課題を探求する。

内 容

- 第1回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援①
- 第2回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援②
- 第3回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援③
- 第4回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援④
- 第5回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑤
- 第6回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑥
- 第7回 クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑦
- 第8回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討①
- 第9回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討②
- 第10回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討③
- 第11回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討④
- 第12回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑤
- 第13回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑥
- 第14回 国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑦
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業内容に関連する文献の講読

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護応用学演習Ⅱ(老年)〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 沼本 教子・小野塚 元子・mitei	

テーマ

高齢者の健康課題と介護施設における専門的な看護援助

獲得目標

介護施設において健康課題をもつ高齢者とその家族に対し専門関連領域の理論等を活用した生活環境および生活行動の調整、健康行動の変容をめざした実践的なアセスメント、看護援助について探究する。

授業の内容

内 容

- 第1回 多様な慢性疾患や障害を有しながら施設で暮らす高齢者に対するアセスメント能力を培い、生活環境を整えるための具体的な援助方法について探求する。
- 第2回 多様な慢性疾患や障害を有しながら施設で暮らす高齢者に対するアセスメント能力を培い、生活環境を整えるための具体的な援助方法について探求する。
- 第3回 多様な慢性疾患や障害を有しながら施設で暮らす高齢者に対するアセスメント能力を培い、生活環境を整えるための具体的な援助方法について探求する。
- 第4回 多様な慢性疾患や障害を有しながら施設で暮らす高齢者に対するアセスメント能力を培い、生活環境を整えるための具体的な援助方法について探求する。
- 第5回 介護施設で暮らしている高齢者に多い転倒、誤嚥、感染などのリスクを早期発見し、予防的ケアを提供するためのリスクマネジメントの現状について学び、高齢者の自立支援とリスクマネジメントの両側面から看護の課題を考える。
- 第6回 介護施設で暮らしている高齢者に多い転倒、誤嚥、感染などのリスクを早期発見し、予防的ケアを提供するためのリスクマネジメントの現状について学び、高齢者の自立支援とリスクマネジメントの両側面から看護の課題を考える。
- 第7回 介護施設で暮らしている高齢者に多い転倒、誤嚥、感染などのリスクを早期発見し、予防的ケアを提供するためのリスクマネジメントの現状について学び、高齢者の自立支援とリスクマネジメントの両側面から看護の課題を考える。
- 第8回 介護施設で暮らしている高齢者に多い転倒、誤嚥、感染などのリスクを早期発見し、予防的ケアを提供するためのリスクマネジメントの現状について学び、高齢者の自立支援とリスクマネジメントの両側面から看護の課題を考える。
- 第9回 介護施設で高齢者看護に携わる看護職者および介護家族の相談内容の実態について学び、看護職者と家族に対する老年専門看護師としての看護コンサルテーションの在り方について探求する。
- 第10回 介護施設で高齢者看護に携わる看護職者および介護家族の相談内容の実態について学び、看護職者と家族に対する老年専門看護師としての看護コンサルテーションの在り方について探求する。
- 第11回 介護施設で高齢者看護に携わる看護職者および介護家族の相談内容の実態について学び、看護職者と家族に対する老年専門看護師としての看護コンサルテーションの在り方について探求する。
- 第12回 介護施設で高齢者看護に携わる看護職者および介護家族の相談内容の実態について学び、看護職者と家族に対する老年専門看護師としての看護コンサルテーションの在り方について探求する。
- 第13回 高齢者の健康生活を支援するうえで発生する看護職の倫理的葛藤の現状について学び、介護施設における老年専門看護師としての倫理的な判断や関係職種との倫理的調整の在り方について検討する。
- 第14回 高齢者の健康生活を支援するうえで発生する看護職の倫理的葛藤の現状について学び、介護施設における老年専門看護師としての倫理的な判断や関係職種との倫理的調整の在り方について検討する。
- 第15回 高齢者の健康生活を支援するうえで発生する看護職の倫理的葛藤の現状について学び、介護施設における老年専門看護師としての倫理的な判断や関係職種との倫理的調整の在り方について検討する。
- 第16回 高齢者の健康生活を支援するうえで発生する看護職の倫理的葛藤の現状について学び、介護施設における老年専門看護師としての倫理的な判断や関係職種との倫理的調整の在り方について検討する。
- 第17回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を包括的に援助していくために、看護職としての専門的立場から多職種間のコーディネーションを実践する方法について学ぶ。

- 第18回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を包括的に援助していくために、看護職としての専門的立場から多職種間のコーディネーションを実践する方法について学ぶ。
- 第19回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を包括的に援助していくために、看護職としての専門的立場から多職種間のコーディネーションを実践する方法について学ぶ。
- 第20回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を包括的に援助していくために、看護職としての専門的立場から多職種間のコーディネーションを実践する方法について学ぶ。
- 第21回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。
- 第22回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。
- 第23回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。
- 第24回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。
- 第25回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。
- 第26回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。
- 第27回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。
- 第28回 介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。
- 第29回 施設で暮らす高齢者とその家族の健康課題に対する老年専門看護についての研究の動向と課題について考察する。
- 第30回 施設で暮らす高齢者とその家族の健康課題に対する老年専門看護についての研究の動向と課題について考察する。

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（備考を参照）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中課題<提出物・レポート> (30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 広域看護学演習Ⅲ(教育) <Mc>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 阿部 祝子

テーマ

専門職としてのキャリア開発

獲得目標

専門職としてのキャリア開発の視点から、看護基礎教育及び看護継続教育について、統合的に考察する。

授業の内容

「授業計画」の各テーマについて、関連文献や先行研究の文献検討を通して理解を深める。また、各テーマに関する研究の動向や方法について理解する。これらに基づき、自身の看護教育の経験を事例として、ディスカッションにより考察を深める。

内 容

- 第1回 ガイダンス(演習の意義, 授業目標の理解)
- 第2回 専門職とは
- 第3回 キャリアとは①
- 第4回 キャリアとは②
- 第5回 看護職の生涯学習①: 文献検討, 事例検討
- 第6回 看護職の生涯学習の特徴②: 文献検討, 事例検討
- 第7回 看護職のキャリアパスの特徴①: 文献検討, 事例検討
- 第8回 看護職のキャリアパスの特徴②: 文献検討, 事例検討
- 第9回 看護職のキャリア開発の特徴①: 文献検討, 事例検討
- 第10回 看護職のキャリア開発の特徴②: 文献検討, 事例検討
- 第11回 スペシャリストとジェネラリストの養成①: 文献検討, 事例検討
- 第12回 スペシャリストとジェネラリストの養成②: 文献検討, 事例検討
- 第13回 臨地実習指導の意義①: 文献検討, 事例検討
- 第14回 臨地実習指導の意義②: 文献検討, 事例検討
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

シームレスな看護基礎教育及び看護継続教育の連携に基づく、キャリア開発を考察する姿勢を持つ。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護応用学特論Ⅲ(老年)〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 沼本 教子・安藤 忠・小野塚 元子・mitei・林正 健二	

テーマ

老年期の疾患と検査、治療

獲得目標

高齢者に特有な疾患や症候、およびそれらに関連する検査、治療を学び、看護アセスメント能力の向上を目指す。さらに老年期の回復過程の特徴をとらえながら、生活機能の維持・回復を目指した看護を探究する。

授業の内容

内 容

- 第1回 老年期の生理的変化(エイジング)と病的変化について学ぶ。
- 第2回 老年期の生理的変化(エイジング)と病的変化について学ぶ。
- 第3回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(1)骨・運動器疾患(骨粗しょう症、変形性骨関節疾患、大腿骨頸部骨折)
- 第4回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(1)骨・運動器疾患(骨粗しょう症、変形性骨関節疾患、大腿骨頸部骨折)
- 第5回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(1)骨・運動器疾患(骨粗しょう症、変形性骨関節疾患、大腿骨頸部骨折)
- 第6回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(1)骨・運動器疾患(骨粗しょう症、変形性骨関節疾患、大腿骨頸部骨折)
- 第7回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(2)糖尿病、心臓疾患、血管系疾患(心不全、末梢動脈疾患など)
- 第8回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(2)糖尿病、心臓疾患、血管系疾患(心不全、末梢動脈疾患など)
- 第9回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(2)糖尿病、心臓疾患、血管系疾患(心不全、末梢動脈疾患など)
- 第10回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(3)腎・泌尿器系疾患(尿路感染症、前立腺肥大症、腎不全など)
- 第11回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(3)腎・泌尿器系疾患(尿路感染症、前立腺肥大症、腎不全など)
- 第12回 高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(3)腎・泌尿器系疾患(尿路感染症、前立腺肥大症、腎不全など)
- 第13回 高齢者に特有な症候に対する看護アセスメント能力を培い、生活の不活発化および寝たきりを予防するための高齢者の生活機能の維持・回復を目指した看護アセスメントとケアについて探究する。
- 第14回 高齢者に特有な症候に対する看護アセスメント能力を培い、生活の不活発化および寝たきりを予防するための高齢者の生活機能の維持・回復を目指した看護アセスメントとケアについて探究する。
- 第15回 高齢者に特有な症候に対する看護アセスメント能力を培い、生活の不活発化および寝たきりを予防するための高齢者の生活機能の維持・回復を目指した看護アセスメントとケアについて探究する。

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（備考を参照）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中課題<提出物・レポート>(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語Ⅱ <c>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 取屋 淳子		

テーマ

日本語運用能力の向上

獲得目標

日本語の基本文法の整理・まとめをし、ある程度の身近な話題のまとまった文章を読み、理解することが出来るようになる。

授業の内容

四技能のうち、この授業では特に、「書く・読む」能力を中心に進めていく。学外での活動も予定している。

内 容

- 第1回 オリエンテーション/自己紹介①ー私の目標
- 第2回 自己紹介②ー好きな場所を紹介する
- 第3回 住んでいる町について①ー私の生活
- 第4回 住んでいる町について②ー休みの日の出来事
- 第5回 イベント・行事について
- 第6回 色々な気持ちを表現するー慣用句・ことわざ・擬態語
- 第7回 日本を知る①
- 第8回 日本を知る②
- 第9回 身近な話題・ニュースについて①ー調査
- 第10回 身近な話題・ニュースについて②ー情報をまとめる
- 第11回 自分の意見を述べる①
- 第12回 自分の意見を述べる②
- 第13回 まとめ
- 第14回 発表①
- 第15回 発表②

授業以外での学習方法

配布プリントの予習・復習をしっかりとすること。

教科書

プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考文献は授業中適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語Ⅱ <c>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 千葉 朋美		

テーマ

中級聴解(モノローグの聴解力を高める)

獲得目標

モノローグの大まかな内容をつかんだり、必要な情報を聴き取ったりする練習を通じて、日本語で行われる講義を聴き取るための基礎力を身につけることを目的とする。

授業の内容

中級レベルのモノローグを聞き、大意をつかんだり、必要な情報を聴き取ったりする練習を行う。また、聴き取りに必要な新しい語彙や表現も学習する。課のテーマによってはニュースなどの映像を使用した応用練習も行う。なお、授業内容・進度は学生数、学生のレベルによって変更する可能性がある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、聴き取りにくい音の聴き取り練習①
- 第2回 聴き取りにくい音の聴き取り練習②、聴解練習① 第7課
- 第3回 聴き取りにくい音の聴き取り練習③、聴解練習② 第8課
- 第4回 聴解練習③ 第10課、第14課
- 第5回 聴解練習④ 第12課、第20課
- 第6回 聴解練習⑤ 第21課
- 第7回 聴解練習⑥ 第24課
- 第8回 聴解練習⑦ 第34課
- 第9回 聴解練習⑧ 第40課
- 第10回 聴解練習⑨ 第46課
- 第11回 聴解練習⑩ 第28課、第30課
- 第12回 聴解練習⑪ 第6課、第35課
- 第13回 聴解練習⑫ 第23課、第42課
- 第14回 聴解練習⑬ 第47課、第49課
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

授業で学んだ聴解ストラテジーを日常生活の中で積極的に応用すること。

教科書

ハンドアウトを配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

中級音声教材 新・毎日の聞き取り50上

著者: 宮城幸枝、太田淑子、柴田正子、牧野恵子、三井昭子

出版社： 凡人社

出版年： 2007

ISBN：

中級音声教材 新・毎日の聞き取り50下

著者： 宮城幸枝、太田淑子、柴田正子、牧野恵子、三井昭子

出版社： 凡人社

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（40）

小テスト（10）

授業中課題（ ）

授業中発表等（20）

参加度（30）

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅱ〈a〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

獲得目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と褚遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

授業の内容

内 容

- 第1回 北魏の書について
- 第2回 張猛龍碑について
- 第3回 張猛龍碑の基本点画
- 第4回 張猛龍碑 半紙臨書①
- 第5回 張猛龍碑 半紙臨書②
- 第6回 張猛龍碑 半切臨書①
- 第7回 張猛龍碑 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第8回 ※遂良の楷書について
- 第9回 雁塔聖教序の基本点画
- 第10回 雁塔聖教序 半紙臨書①
- 第11回 雁塔聖教序 半紙臨書②
- 第12回 雁塔聖教序 半切臨書①
- 第13回 雁塔聖教序 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第14回 第14回 魏晉小楷・王羲之
- 第15回 第15回 顔真卿の楷書 *条幅臨書作品の互評会を行う

授業以外での学習方法

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

教科書

中国法書選23張猛龍碑

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選34雁塔聖教序

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	尾西 正成	

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

獲得目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と褚遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

授業の内容

内 容

- 第1回 北魏の書について
- 第2回 張猛龍碑について
- 第3回 張猛龍碑の基本点画
- 第4回 張猛龍碑 半紙臨書①
- 第5回 張猛龍碑 半紙臨書②
- 第6回 張猛龍碑 半切臨書①
- 第7回 張猛龍碑 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第8回 ※遂良の楷書について
- 第9回 雁塔聖教序の基本点画
- 第10回 雁塔聖教序 半紙臨書①
- 第11回 雁塔聖教序 半紙臨書②
- 第12回 雁塔聖教序 半切臨書①
- 第13回 雁塔聖教序 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第14回 第14回 魏晉小楷・王羲之
- 第15回 第15回 顔真卿の楷書 *条幅臨書作品の互評会を行う

授業以外での学習方法

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

教科書

中国法書選23張猛龍碑

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選34雁塔聖教序

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅳ〈a〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした基本的な書法の研究。

獲得目標

基本的なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 高野切第一種の臨書①〈線運動・墨法・構成等〉
 第2回 高野切第一種の臨書②〈線運動・墨法・構成等〉
 第3回 高野切第一種の臨書③〈線運動・墨法・構成等〉
 第4回 高野切第一種の背臨
 第5回 高野切第一種の集字
 第6回 高野切第一種の倣書
 第7回 寸松庵色紙について
 第8回 寸松庵色紙の臨書①〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
 第9回 寸松庵色紙の臨書②〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
 第10回 寸松庵色紙の臨書③〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
 第11回 寸松庵色紙の臨書④〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
 第12回 寸松庵色紙の集字
 第13回 寸松庵色紙の倣書
 第14回 寸松庵色紙の倣書
 第15回 寸松庵色紙の倣書

授業以外での学習方法

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

教科書

日本名筆選「高野切第一種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選「寸松庵色紙」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅳ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	橋本 二三	

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

獲得目標

基本的なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 高野切第一種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
- 第2回 高野切第一種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
- 第3回 高野切第一種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
- 第4回 高野切第一種の背臨
- 第5回 高野切第一種の集字
- 第6回 高野切第一種の倣書
- 第7回 寸松庵色紙について
- 第8回 寸松庵色紙の臨書①<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
- 第9回 寸松庵色紙の臨書②<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
- 第10回 寸松庵色紙の臨書③<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
- 第11回 寸松庵色紙の臨書④<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
- 第12回 寸松庵色紙の集字
- 第13回 寸松庵色紙の倣書
- 第14回 寸松庵色紙の倣書
- 第15回 寸松庵色紙の倣書

授業以外での学習方法

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

教科書

日本名筆選「高野切第一種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選「寸松庵色紙」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 漢文学Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 蒲 豊彦

テーマ

漢文学概説

獲得目標

漢文学Ⅰを継続する。中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるようにしたい。

授業の内容

「漢文学」を概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説(西遊記のようなもの)も取り上げる。具体的には、漢文学ⅠとⅡで古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。

内 容

- 第1回 後期授業の内容紹介
- 第2回 朝鮮半島の漢文学
- 第3回 小説の発生
- 第4回 日本の小説
- 第5回 長安と詩人Ⅰ
- 第6回 長安と詩人Ⅱ
- 第7回 日本の古典小説と中国
- 第8回 中国の音楽と詞
- 第9回 印刷術の発展
- 第10回 中国のオペラ
- 第11回 都市の繁栄と通俗小説
- 第12回 読書の歴史
- 第13回 水滸伝と民衆反乱
- 第14回 文学革命
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で取り上げる文学作品はいずれも、その翻訳が本学図書館に入っているので、たとえ1ページでもよいので、見ておいてほしい。参考文献と詳しい授業内容については、<http://yuri.kt.tachibana-u.ac.jp/~kaba/> を見ること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

漢文学のページ

<http://yuri.kt.tachibana-u.ac.jp/~kaba/>

授業に関するさまざまな情報

2014 Syllabus

科目名 **言語文化総合演習Ⅱ <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期後半

定 員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

テーマ

行動の中で言語文化を学ぶ

獲得目標

1)さまざまな活動の中で知識を獲得し、活用する力を養う。2)グループで協力して課題に取り組む力を養う。3)批評や議論、プレゼンテーションに積極的に取り組む力を養う。

授業の内容

学内、学外で言語、文学、文化を総合的に取り入れた多様な活動を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学外授業の準備1
- 第3回 学外授業の準備2
- 第4回 学外授業の準備3
- 第5回 学外授業の準備4
- 第6回 学外授業1
- 第7回 学外授業2
- 第8回 学外授業事後学習
- 第9回 学外授業の準備1
- 第10回 学外授業の準備2
- 第11回 学外授業の準備3
- 第12回 学外授業の準備4
- 第13回 学外授業1
- 第14回 学外授業2
- 第15回 学外授業事後学習

授業以外での学習方法

学外授業では文学作品にまつわる場所を訪問する。事前に作品を読んでおくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期後半	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 辻本 千鶴	

テーマ

司馬遼太郎と歩く幕末明治の京都(2)

獲得目標

司馬遼太郎の歴史小説を読み、近代日本及び日本人とはどのようなものか、知見を広め、思考を深める。学習を教室内での知識の獲得に止めず、関連箇所を見学・散策することにより、現代につながる歴史の息吹を感得する。

授業の内容

学外研修を取り入れ、フィールドワーク・グループ活動を通して、学習内容への生きた興味を培う。教室での事前学習ののち、学外研修(現地集合・現地解散)を行い、その振り返りをするというサイクルを主として、授業が構成される。

内 容

- 第12回 学外研修 その4 光縁寺・壬生寺など
- 第13回 学外研修 その4 光縁寺・壬生寺など
- 第14回 明治維新から日本の近代化を考える 1
- 第15回 明治維新から日本の近代化を考える 2
- 第1回 『翔ぶが如く』グループ活動
- 第2回 西郷隆盛と幕末維新の薩摩を学ぶ 1 『翔ぶが如く』解説
- 第3回 西郷隆盛と幕末維新の薩摩を学ぶ 2 『翔ぶが如く』解説
- 第4回 学外研修 その3 寺田屋探訪
- 第5回 学外研修 その3 寺田屋探訪
- 第6回 学外研修 事後学習
- 第7回 学外研修 事後学習
- 第8回 『燃えよ剣』解説Ⅰ
- 第9回 『燃えよ剣』解説Ⅱ
- 第10回 DVD 「歴史ヒストリア」
- 第11回 DVD 「歴史ヒストリア」 まとめ

授業以外での学習方法

参考文献の通読。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

「燃えよ剣」上・下

著者: 司馬遼太郎

出版社：新潮文庫

出版年：

ISBN：

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

学外研修への参加を単位認定の必須事項として重視します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

テーマ

行動の中で言語文化を学ぶ

獲得目標

1)さまざまな活動の中で知識を獲得し、活用する力を養う。2)グループで協力して課題に取り組む力を養う。3)批評や議論、プレゼンテーションに積極的に取り組む力を養う。

授業の内容

学内、学外で言語、文学、文化を総合的に取り入れた多様な活動を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学外授業の準備1
- 第3回 学外授業の準備2
- 第4回 学外授業の準備3
- 第5回 学外授業の準備4
- 第6回 学外授業1
- 第7回 学外授業2
- 第8回 学外授業事後学習
- 第9回 学外授業の準備1
- 第10回 学外授業の準備2
- 第11回 学外授業の準備3
- 第12回 学外授業
- 第13回 学外授業
- 第14回 学外授業事後学習
- 第15回 言語文化総合演習Ⅳのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **言語文化総合演習Ⅳ **

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期後半	定 員
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 林 久美子	

テーマ

文学作品にみる郷土

獲得目標

1, 文学作品を読む機会を増やす。2, 郷土の文学や作家を知り、そこに描かれるものについて考える。3, 郷土の文化や伝統について関心を深める。4, 意見をまとめ、説明する能力を身に付ける。

授業の内容

古典から現代までの郷土を舞台にした文学作品を読み、地名や事柄を取り出して、郷土を語る際の切り口を考える。

内 容

- 第1回 受講生の抱く郷土のイメージについて語り合う。
- 第2回 滋賀、大阪、兵庫、その他でグループを作り、作品担当を決める。
- 第3回 作品を読む①
- 第4回 作品に描かれる郷土について発表する
- 第5回 作品を読む②
- 第6回 作品に描かれる郷土について発表する
- 第7回 作品を読む③
- 第8回 作品に描かれる郷土について発表する
- 第9回 作品を読む④
- 第10回 作品に描かれる郷土について発表する
- 第11回 作品を読む⑤
- 第12回 作品に描かれる郷土について発表する
- 第13回 作品を読む⑥
- 第14回 作品に描かれる郷土について発表する
- 第15回 取り上げた作品を総合的に分析する
- 第16回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題（ ）

授業中発表等（50）

参加度（50）

参加度には出席点のほかに平常点も含まれます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 言語文化総合演習Ⅳ <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期後半

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

室町物語を題材に、古典文学研究の糸口をつかむ

獲得目標

古典文学への興味・知的関心を深め、研究にあたって必要となる基礎的な知識と方法の習得をめざす。グループワークによる課題解決を通してコミュニケーション能力を身につける。プレゼンテーションの方法を身につける。

授業の内容

室町物語の作品を読むことに重点を置いたグループワーク。演習形式で研究の糸口をつかむ。演習Ⅲと合同。

内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス
- 第2回 テキストを読むにあたっての方法と実践
- 第3回 作品の選択と梗概の作成
- 第4回 受講生による発表(1)
- 第5回 受講生による発表(2)
- 第6回 受講生による発表(3)
- 第7回 受講生による発表(4)
- 第8回 問題点の整理①
- 第9回 問題点の整理②
- 第10回 受講生による発表と質疑応答(1)
- 第11回 受講生による発表と質疑応答(2)
- 第12回 受講生による発表と質疑応答(3)
- 第13回 受講生による発表と質疑応答(4)
- 第14回 受講生による発表と質疑応答(5)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

図書館を活用すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

室町物語草子集

著者: 新編日本古典文学全集

a10201e453

出版社: 小学館

出版年: 2002年

ISBN:

『室町物語集』上下

著者: 新日本古典文学大系

出版社: 岩波書店

出版年: 1989年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅱ〈A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 安達 太郎

テーマ

〈表現〉を分析する

獲得目標

1) 表現を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2) テキスト分析、レジュメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3) 他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の内容

日常生活から文学や芸術の分野まで、私たちはさまざまなレベルで〈表現〉に触れている。ここでは翻訳という行為を対象として、あるテキストがどのように〈解釈〉され、どのように別のテキストとして〈表現〉されていくのかを考える。

内 容

- 第1回 導入：〈表現〉を分析する
- 第2回 表現の分析(1)
- 第3回 表現の分析(2)
- 第4回 発表の準備
- 第5回 チーム内検討(1)
- 第6回 チーム内検討(2)
- 第7回 チーム内検討(3)
- 第8回 受講生による報告(1)
- 第9回 受講生による報告(2)
- 第10回 受講生による報告(3)
- 第11回 受講生による報告(4)
- 第12回 受講生による報告(5)
- 第13回 受講生による報告(6)
- 第14回 受講生による報告(7)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

参考書としてあげた『翻訳夜話』に目を通してください。翻訳に対する村上春樹の姿勢を知ることができます。

教科書

参考書

翻訳夜話

著者： 村上春樹・柴田元幸

出版社： 文芸春秋

出版年： 2000年

ISBN： 978-4166601295

翻訳夜話2 サリンジャー戦記

著者： 村上春樹・柴田元幸

出版社： 文芸春秋

出版年： 2003年

ISBN： 978-4166603305

翻訳教室

著者： 柴田元幸

出版社： 新書館

出版年： 2006年

ISBN： 978-4403210884

成績評価

試験（0）

授業中課題（20）

参加度（30）

小テスト（0）

授業中発表等（50）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ〈B〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 辻本 千鶴

テーマ

現代文学 小説鑑賞

獲得目標

研究入門で学んだ発表の仕方、レジュメの作り方の復習を兼ねて、演習形式の授業を行う。3回生ゼミへの橋渡し、及び研究対象として読む作家・作品の幅を広げることを目標とする。

授業の内容

主として演習形式。テキストで論評の対象となっている作品を課題とし、作品論と論文批評の発表を割り当てる。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ワークショップ 1
- 第3回 ワークショップ 2
- 第4回 太宰治『斜陽』
- 第5回 三島由紀夫『仮面の告白』
- 第6回 大岡昇平『武蔵野夫人』
- 第7回 大江健三郎『芽むしり仔撃ち』
- 第8回 安岡章太郎『海辺の光景』
- 第9回 安部公房『砂の女』
- 第10回 小島信夫『抱擁家族』
- 第11回 倉橋由美子『バルタイ』
- 第12回 古井由吉『杏子』
- 第13回 三田誠広『僕って何』
- 第14回 発表予備日(予備日が不必要な場合は、第15回と合わせて、グループでのワークショップ)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自分の担当でなくとも、事前に作品を通読すること。授業で扱う作家の他の作品も積極的に読むこと。

教科書

教養として読む現代文学

著者： 石原千秋

出版社： 朝日新聞出版

出版年： 2013年

ISBN: 9784022630094

参考書

成績評価

試験（30%）

小テスト（）

授業中課題（20%）

授業中発表等（40%）

参加度（10%）

試験はレポート形式とする。発表内容を適宜修正して、論文の体裁にすること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ〈C〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 林 久美子

テーマ

文学研究の方法を学ぶ

獲得目標

多くの作品に触れることで、文学の幅広さを知る。きちんと本文を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。論文の書き方を学ぶ。

授業の内容

前半は古典文学またはその影響を受けた作品についての読みを披露し、後半には、その作品について取り上げた論文を紹介、評価する。

内 容

- 第1回 授業のねらいと進め方についての説明
- 第2回 中・近世の作品、あるいはそれに関わりのある近現代の文学から自分に合ったものを選ぶ
- 第3回 各自の選んだ作品について、研究概要をまとめ、問題点を探る
- 第4回 作品について語る(プレゼンテーション)①
- 第5回 同上②
- 第6回 同上③
- 第7回 同上④
- 第8回 同上⑤
- 第9回 論文を検索し、収集する
- 第10回 論文の組み立て方、論述の仕方について学ぶ
- 第11回 前半の発表に関連する論文を紹介し、どこが良く、どこに疑問が残ったかを述べる①
- 第12回 同上②
- 第13回 同上③
- 第14回 同上④
- 第15回 特別講義(時期は未定)

授業以外での学習方法

本文をよく読む。図書館やインターネットを活用して調べる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

a10202a253

参加度（40）

参加度には出席だけでなく、受講態度も含まれます

参考URL

2014 Syllabus

科目名 漢字古典研究Ⅱ〈a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 中村 史朗

テーマ

漢字古典研究一王羲之書法と初唐の三大家を中心に一

獲得目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて基本的な知識を修得するとともに、各古典の多様な表現技法に習熟する。書体の変遷等、史的な視点を重視し、単に個別の技法を知るだけでなく、歴史のながれの中で作品相互がどのように関係しあっているのか、念入りに掘り下げたい。臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主となるが、履修者がすすんで自身が時間をかけて取り組む古典を見だし、制作の背景を固めることもねらいとしている。Ⅱ(a)では前代と比較しながら初唐期の書的隆盛を重点的に考察する。

授業の内容

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況についても確認する。時代の区切りで課題の提出をもとめ臨書を日常化できるよう促す。また古典の表現に関する鑑賞文や自身の臨書に対するコメントなどを通じて記述する習慣を身につける。

内 容

- 第1回 ガイダンス 中国書道史概観(2)
- 第2回 王羲之の刻帖(1)
- 第3回 王羲之の刻帖(2)
- 第4回 北朝の楷書(1)ー龍門造像記ー
- 第5回 北朝の楷書(2)ー鄭道昭の摩崖刻ー
- 第6回 隋代の書(1)ー墓誌銘ー
- 第7回 隋代の書(2)ー智永「真草千字文」ー
- 第8回 初唐の書(1)ー太宗の書ー
- 第9回 初唐の書(2)ー欧陽詢の書①ー
- 第10回 初唐の書(3)ー欧陽詢の書②ー
- 第11回 初唐の書(4)ー虞世南の書①ー
- 第12回 初唐の書(5)ー虞世南の書②ー
- 第13回 初唐の書(6)ーちよ遂良の書①ー
- 第14回 初唐の書(7)ーちよ遂良の書②ー
- 第15回 まとめ 臨書ファイル提出

授業以外での学習方法

事前に授業で取り扱う古典について基本的な事項を確認しておくこと。指定した古典は授業外の時間に反復して臨書すること。

教科書

改訂 書道の古典(1)～(3)

著者: 大東文化大学書道文化センター

出版社: 二玄社

出版年: 1984

ISBN:

参考書

中国法書選(1)～(60)

著者:

出版社：二玄社

出版年： ISBN：

書跡名品叢刊(1)～(208)

著者：

出版社：二玄社

出版年： ISBN：

天来書院テキストシリーズ(1)～(53)

著者：

出版社：天来書院

出版年： ISBN：

書道講座(1)～(7)

著者：西川寧 編

出版社：二玄社

出版年： ISBN：

書道全集

著者：

出版社：平凡社

出版年： ISBN：

書道藝術

著者：

出版社：中央公論社

出版年： ISBN：

成績評価

試験（30）

小テスト（10）

授業中課題（30）

授業中発表等（10）

参加度（20）

授業時に指示する提出課題、授業中の取り組み、小テストなどを総合して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 漢字古典研究Ⅱ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	中村 史朗	

テーマ

漢字古典研究―王羲之書法と初唐の三大家を中心に―

獲得目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて基本的な知識を修得するとともに、各古典の多様な表現技法に習熟する。書体の変遷等、史的な視点を重視し、単に個別の技法を知るだけでなく、歴史のながれの中で作品相互がどのように関係しあっているのか、念入りに掘り下げたい。臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主となるが、履修者がすすんで自身が時間をかけて取り組む古典を見だし、制作の背景を固めることもねらいとしている。Ⅱ(a)では前代と比較しながら初唐期の書的隆盛を重点的に考察する。

授業の内容

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況についても確認する。時代の区切りで課題の提出をもとめ臨書を日常化できるよう促す。また古典の表現に関する鑑賞文や自身の臨書に対するコメントなどを通じて記述する習慣を身につける。

内 容

- 第1回 ガイダンス 中国書道史概観(2)
- 第2回 王羲之の刻帖(1)
- 第3回 王羲之の刻帖(2)
- 第4回 北朝の楷書(1)―龍門造像記―
- 第5回 北朝の楷書(2)―鄭道昭の摩崖刻―
- 第6回 隋代の書(1)―墓誌銘―
- 第7回 隋代の書(2)―智永「真草千字文」―
- 第8回 初唐の書(1)―太宗の書―
- 第9回 初唐の書(2)―欧陽詢の書①―
- 第10回 初唐の書(3)―欧陽詢の書②―
- 第11回 初唐の書(4)―虞世南の書①―
- 第12回 初唐の書(5)―虞世南の書②―
- 第13回 初唐の書(6)―ちよ遂良の書①―
- 第14回 初唐の書(7)―ちよ遂良の書②―
- 第15回 まとめ 臨書ファイル提出

授業以外での学習方法

事前に授業で取り扱う古典について基本的な事項を確認しておくこと。指定した古典は授業外の時間に反復して臨書すること。

教科書

改訂 書道の古典(1)～(3)

著者： 大東文化大学書道文化センター

出版社： 二玄社

出版年： 1984

ISBN：

参考書

中国法書選(1)～(60)

著者：

出版社：二玄社

出版年： ISBN：

書跡名品叢刊(1)～(208)

著者：

出版社：二玄社

出版年： ISBN：

天来書院テキストシリーズ(1)～(53)

著者：

出版社：天来書院

出版年： ISBN：

書道講座(1)～(7)

著者：西川寧 編

出版社：二玄社

出版年： ISBN：

書道全集

著者：

出版社：平凡社

出版年： ISBN：

書道藝術

著者：

出版社：中央公論社

出版年： ISBN：

成績評価

試験（30）

小テスト（10）

授業中課題（30）

授業中発表等（10）

参加度（20）

授業時に指示する提出課題、授業中の取り組み、小テストなどを総合して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **かな古典研究Ⅱ <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

獲得目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 院政時代の作品「曼殊院本古今集」
- 第2回 院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
- 第3回 院政時代の作品「本阿弥切古今集」
- 第4回 院政時代の作品「小島切斎宮女御集」
- 第5回 世尊寺家の書流について①
- 第6回 世尊寺家の書流について②
- 第7回 世尊寺家の書流について③
- 第8回 世尊寺家の書流について④
- 第9回 平安時代末期の作品「針切」
- 第10回 平安時代末期の作品「香紙切」
- 第11回 平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
- 第12回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第13回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第14回 鎌倉時代の作品(定家)
- 第15回 江戸時代の書について(良寛)

授業以外での学習方法

授業中では学習時間が足りないなので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 かな古典研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

獲得目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 院政時代の作品「曼殊院本古今集」
- 第2回 院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
- 第3回 院政時代の作品「本阿弥切古今集」
- 第4回 院政時代の作品「小島切斎宮女御集」
- 第5回 世尊寺家の書流について①
- 第6回 世尊寺家の書流について②
- 第7回 世尊寺家の書流について③
- 第8回 世尊寺家の書流について④
- 第9回 平安時代末期の作品「針切」
- 第10回 平安時代末期の作品「香紙切」
- 第11回 平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
- 第12回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第13回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第14回 鎌倉時代の作品(定家)
- 第15回 江戸時代の書について(良寛)

授業以外での学習方法

授業中では学習時間が足りないなので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

教科書

「和様の書美」

著者： 横山煌平 編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読b(日本語文法研究Ⅱ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語文法の展開

獲得目標

1) 日本語がどのようなしくみを持つ言語であるのか理解する。2) 自分たちが日常的に使っている日本語でさえ、私たちにとって未知な存在であることを理解する。3) 2)を通じて、自分の立場を絶対化せず、相対的に考えるという視点を学ぶ。

授業の内容

日本語を母語とする者にとって、日本語はあらためて考える余地がないほど当たり前存在に見える。この授業では、日本語のしくみについて私たちが驚くほど「知らない」ことを明らかにすることを通じて日本語文法の発想を理解させる。

内 容

- 第1回 日本語文法の発想法
- 第2回 とりたてと知識
- 第3回 推量的表現の諸相
- 第4回 疑問と主張の関係
- 第5回 行為表明と行為要求
- 第6回 常体と敬体
- 第7回 複文のとらえ方
- 第8回 条件と理由
- 第9回 名詞修飾の諸相
- 第10回 「こ」「そ」「あ」の使い分け
- 第11回 言わないことの意味
- 第12回 無意味なことばの意味
- 第13回 「のだ」による文と文の関係づけ
- 第14回 論理関係と接続詞の役割
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

1) 授業で配付する資料をよく読んでください。2) 『日本語学』や『月刊言語』といった雑誌のバックナンバーを手にとって、興味をひかれるテーマを扱った論文を読んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読d(社会言語学Ⅱ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語諸方言の社会言語学的研究

獲得目標

日本各地の方言について概観したうえで、現在の「京ことば」及び「大阪弁」を社会言語学的視点から考察し、その実態や変化を理解する。

授業の内容

まず、「標準語と共通語」、「方言と言語」の違いなどについて、言語学の立場から考察したい。次に、日本各地の諸方言について概観したうえで、その成立事情を「方言圏論」から確認してみたい。最後に、現在の「京ことば」及び「大阪弁」を社会言語学的視点から考察し、その実態や変化を理解する。受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。

内 容

- 第1回 社会言語学と方言学
- 第2回 方言と言語の違いについて
- 第3回 共通語と標準語
- 第4回 方言の分布について1(圏分布1)
- 第5回 方言の分布について2(圏分布2)
- 第6回 方言の分布について3(圏分布3)
- 第7回 方言の分布について4(東西分布・日本海分布)
- 第8回 方言の分布について5(アクセントの分布について1)
- 第9回 方言の分布について6(アクセントの分布について2)
- 第10回 方言分布のまとめ(小テスト:レポート)
- 第11回 日本語諸方言の実態1(方言区画論)
- 第12回 日本語諸方言の実態2(具体的音声から)
- 第13回 京ことばと大阪弁1
- 第14回 京ことばと大阪弁2
- 第15回 京ことばと大阪弁のまとめ(小テスト:レポート)

授業以外での学習方法

授業中に紹介した参考文献やシラバスの参考文献及び独自に探し出した文献を読み、小テスト:レポートにあたること。

教科書

適宜プリントを配付

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本語地図 全6集

著者: 国立国語研究所編

出版社：大蔵省印刷局
 出版年：1966-74 ISBN:

日本の方言地図
 著者：徳川宗賢編
 出版社：中公新書
 出版年：1979 ISBN: 4121005333

方言分法全国地図 全6集
 著者：国立国語研究所編
 出版社：財務省印刷局
 出版年：1989-06 ISBN:

方言の地図帳
 著者：佐藤亮一編
 出版社：小学館
 出版年：2002 ISBN: 4095041528

ガイドブック方言研究
 著者：小林隆他編
 出版社：ひつじ書房
 出版年：2003 ISBN: 4894761831

ガイドブック方言調査
 著者：小林隆他編
 出版社：ひつじ書房
 出版年：2007 ISBN: 9784894762800

シリーズ方言学 全4巻
 著者：小林隆他
 出版社：岩波書店
 出版年：2006-08 ISBN: 9784000271172

大阪のことば地図
 著者：岸江信介他編著
 出版社：和泉書院
 出版年：2009 ISBN: 9784757605268

日本語アクセント入門
 著者：松森晶子他編著
 出版社：三省堂
 出版年：2012 ISBN: 9784385365312

方言学入門
 著者：木部暢子他編著
 出版社：三省堂
 出版年：2013 ISBN: 9784385363936

成績評価

試験 (0)	小テスト (40)
授業中課題 (10)	授業中発表等 (10)
参加度 (40)	

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。(遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内) 参加度は、積極的な受講に対して評価するものである。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読f(平安文学研究Ⅱ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読むー光源氏の人生のかげり・紫の上の苦悩の深まりー

獲得目標

源氏物語の時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の内容

源氏物語第一部の「少女」の巻以後、光源氏が人生の頂点を極めるまでの部分と、第二部の、かげりを帯びてくる光源氏の人生の後半部分を読む。同時に、第二部の重要なテーマである紫の上の苦悩の深まりという点についても注目する。

内 容

- 第1回 夕霧の元服と六条院の造成ー少女ー
- 第2回 玉鬘物語ー玉鬘十帖の巻々ー
- 第3回 光源氏の人生の頂点ー藤裏葉ー(現地学習を別に設定する)
- 第4回 女三の宮の降嫁ー若菜上①ー
- 第5回 明石の入道の思いー若菜上②ー
- 第6回 六条院の蹴鞠ー若菜上③ー
- 第7回 二度目の住吉詣でー若菜下①ー
- 第8回 紫の上の孤独ー若菜下②ー
- 第9回 柏木と女三の宮の密通ー若菜下③ー
- 第10回 柏木の死と薫の誕生ー柏木ー
- 第11回 形見の笛ー横笛ー
- 第12回 出家した女三の宮ー鈴虫ー
- 第13回 夕霧の恋ー夕霧ー
- 第14回 紫の上との別れー御法ー
- 第15回 哀悼の一年ー幻ー

授業以外での学習方法

教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社：角川書店

出版年：1964～1969

ISBN：

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者：池田亀鑑

出版社：中央公論社

出版年：1984～1985

ISBN：

その他源氏物語各種注釈書

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

源氏物語カルチャー講座

著者：福嶋昭治

出版社：扶桑社

出版年：2008

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（20）

授業中発表等（）

参加度（30）

参考URL

源氏物語の世界

<http://www.sainet.or.jp/~eshibuya/>

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読n(メディア・表現研究Ⅱ)

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	禧美 智章	

テーマ

戦争とアニメーション

獲得目標

アニメーションは、「戦争」「戦闘」「暴力」を描き続けてきたメディアである。本講義では、様々なアニメーション作品の分析を通して、我々を取り巻く「戦争」について考察することを目的とする。 ※日本語日本文学講読m(メディア・表現研究Ⅰ)を受講し、基本的なアニメーション・リテラシーを身につけていることが望ましい。

授業の内容

「戦争とアニメーション」をテーマに、具体的な作品を取り上げながら、アニメーション批評の方法を講義する。なお、授業内容は進行等に変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 戦前のアニメーション<1> 日本のアニメーション、三人の創始者
- 第3回 戦前のアニメーション<2> 『煙突屋ペロー』
- 第4回 戦中のアニメーション<1> 『海の神兵』の鑑賞
- 第5回 戦中のアニメーション<2> 『海の神兵』の解説
- 第6回 戦後のアニメーション
- 第7回 富野由悠季<1> 70-80年代のアニメーション—『機動戦士ガンダム』
- 第8回 富野由悠季<2> 富野由悠季の描いた「戦争」
- 第9回 (進度調整)
- 第10回 押井守<1> 90年代前半のアニメーション—『機動警察パトレイバー2 the movie』
- 第11回 押井守<2> 押井守の描いた「戦争」
- 第12回 庵野秀明<1> 90年代後半のアニメーション—『新世紀エヴァンゲリオン』
- 第13回 庵野秀明<2> 庵野秀明の描いた「戦争」
- 第14回 ゼロ年代のアニメーション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

教科書

授業時にプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

紅のメタルスーツ—アニメという戦場

著者: 上野俊哉

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

毎回コミュニケーションペーパーを回収し、授業理解度・参加度を評価する。また、授業中、レポートの提出を求める(80%)。講義内での発言、授業に関する優れた質問・提言があった場合は評価に加える(20%)。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本書道史

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	中村 史朗	

テーマ

日本書道史 三筆・三跡の漢字書と仮名上代様の成立を中心に

獲得目標

漢字の渡来から仮名(女手)の成立を視覚的に確認する。特に漢字書の日本的展開と仮名(女手)の成立過程を正確に把握することをめざす。三筆、三跡あるは仮名上代様についての基本知識を身につけるとともに、著名な作品の技法的特色を作品相互を比較するなどして、実際に即して把握するようにつとめる。さらに本阿弥光悦ら寛永期の代表的能書が上代様をどのように吸収し新表現につなげたかを理解する。

授業の内容

漢字渡来から、日本人が中国書法を自身のものとする流れを確認するとともに、日本語の表記が成立する過程、いわゆる上代様の仮名(女手)が成立を考察する。さらに寛永の三筆を例にとりながら、近世の京都における独自の書の展開も取り上げる。講義が中心であるが、意見発表、グループ討議、鑑賞メモなどを通じて主体的に参加するようながす。

内 容

- 第1回 古代日本の文字資料
- 第2回 飛鳥・白鳳時代の書
- 第3回 奈良時代の書(1)
- 第4回 奈良時代の書(2)
- 第5回 平安時代の漢字書(1) 弘仁・貞観期の文化、三筆の書①
- 第6回 平安時代の漢字書(2) 三筆の書②
- 第7回 平安時代の漢字書(3) 国風文化の発展、三跡の書①
- 第8回 平安時代の漢字書(4) 三跡の書②
- 第9回 仮名の生成と発展(1)
- 第10回 仮名の生成と発展(2)
- 第11回 上代様の名品とその書法(1)
- 第12回 上代様の名品とその書法(2)
- 第13回 寛永の三筆(1) 王朝美の再現
- 第14回 寛永の三筆(2) 本阿弥光悦の人と書
- 第15回 寛永の三筆(3)、まとめ 近衛信尹、松花堂昭乗の人と書、まとめ

授業以外での学習方法

日本書道史に関する資料をよく参照し、代表的能書や名品に関する知識を自発的に身につけてほしい。また図版資料によって古典の書風・書法を視覚的に分析・理解できるようつとめること。

教科書

日本書道史年表
著者： 名兎耶明
出版社： 二玄社
出版年： 1999

ISBN: 4-544-01242-2

参考書

展望日本書道史
著者： 小松茂美

出版社：中央公論社

出版年：

ISBN：

古筆

著者：小松茂美

出版社：講談社

出版年：

ISBN：

書道全集

著者：

出版社：平凡社

出版年：

ISBN：

書道藝術

著者：

出版社：中央公論

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（25）

小テスト（25）

授業中課題（20）

授業中発表等（10）

参加度（20）

レポート試験、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと	クラス指定	希望制
担当者	福嶋 昭治	

テーマ

卒業論文の完成

獲得目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成ために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の内容

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

内 容

- 第1回 卒業論文の進捗状況の報告
- 第2回 中間発表について
- 第3回 中間発表要旨の作成
- 第4回 同上
- 第5回 中間発表
- 第6回 卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 卒業論文の構造確認と要旨作成
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 全体総括

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (70)

参考URL

源氏物語の世界

<http://www.sainet.or.jp/~eshibuya/>

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

獲得目標

卒業論文作成の準備

授業の内容

後期は4回生の発表を優先するので、3回生は先輩の報告に学びつつ、準備を進める。

内 容

- 第1回 夏休み中の作業について報告する
- 第2回 文献、資料検索、論文収集を進めつつ、読解を深める
- 第3回 同上
- 第4回 4回生の中間発表要旨を点検する
- 第5回 中間発表会に参加する(時期は未確定)
- 第6回 中間発表に対する講評を行う
- 第7回 作品分析を深め、テーマを固めてゆく
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 一年間の取り組みへの総括と今後の進め方についての確認

授業以外での学習方法

作品の読みを深め、資料を収集する

教科書

参考書

成績評価

a10203a252

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

参加度には、出席点のほか、平常点を含みます。

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと	クラス指定 希望制
担当者 辻本 千鶴	

テーマ

近現代文学研究(演習)

獲得目標

作品を読む力・論文を書く力を養成することを目標とする。同時に卒論の対象とする作家・作品・テーマを絞り込んでいけるよう、準備を進める。

授業の内容

演習形式。受講者各人が選んだ作家・作品での研究発表を中心に進める。発表一巡後は、近現代文学作品を取り上げ、グループでの作品分析ワーク・ショップを行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス・参考文献の紹介・日程表作成
- 第2回 ワーク・ショップ 芥川龍之介「蜜柑」・「トロッコ」1
- 第3回 ワーク・ショップ 芥川龍之介「蜜柑」・「トロッコ」2
- 第4回 卒業論文中間発表会(日程は変更の可能性あり)
- 第5回 学生発表 1
- 第6回 学生発表 2
- 第7回 学生発表 3
- 第8回 学生発表 4
- 第9回 学生発表 5
- 第10回 学生発表 6
- 第11回 学生発表 7
- 第12回 発表予備日
- 第13回 ワーク・ショップ
- 第14回 ワーク・ショップ
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自分の担当日でなくとも、発表作品を事前に通読してから授業に出席すること。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（40）

授業中課題（）

参加度（20）

期末試験はレポート形式とする。

小テスト（）

授業中発表等（40）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <d>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと	クラス指定	希望制
担当者	橋本 正志	
テーマ	日本近現代文学の研究	

獲得目標

卒業論文を作成するための準備を実践的に行う(演習形式)。発表や議論を通じて、設定したテーマに対する理解を深めることを目的とする。

授業の内容

授業は、前後期を通じて作品や論文の「文章を読み、要約する」段階から、しだいに「問題を見つける」「関連資料を探る」、そして「論文を書く」という過程をとったものを計画している。

内 容

- 第1回 ガイダンスおよび発表テーマなどの希望調査
- 第2回 受講生による発表①(テーマの設定、調査方法の検討)
- 第3回 受講生による発表①(テーマの設定、調査方法の検討)
- 第4回 受講生による発表①(テーマの設定、調査方法の検討)
- 第5回 受講生による発表①(テーマの設定、調査方法の検討)
- 第6回 受講生による発表①(テーマの設定、調査方法の検討)
- 第7回 受講生による発表①(テーマの設定、調査方法の検討)
- 第8回 受講生による発表②(資料の収集・整理・検討)
- 第9回 受講生による発表②(資料の収集・整理・検討)
- 第10回 受講生による発表②(資料の収集・整理・検討)
- 第11回 受講生による発表②(資料の収集・整理・検討)
- 第12回 受講生による発表②(資料の収集・整理・検討)
- 第13回 受講生による発表②(資料の収集・整理・検討)
- 第14回 受講生による発表②(資料の収集・整理・検討)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

あらかじめ作品を読んで臨むこと。

教科書

参考書

成績評価

a10203a254

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <e>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと	クラス指定 希望制
担当者 安達 太郎	

テーマ

卒業論文に向けての方法の模索

獲得目標

1)卒業論文のテーマを確定する。2)みずからの設定したテーマにふさわしい方法論を探求する。

授業の内容

テーマが具体的にイメージできるようになったら、そのテーマにふさわしい方法論を模索する段階にはいる。既存の方法を使いこなすことができるようにし、新しい工夫を盛り込む余地を探る。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 テーマの確認と目標の設定(1)
- 第3回 テーマの確認と目標の設定(2)
- 第4回 テーマの確認と目標の設定(3)
- 第5回 テーマの確認と目標の設定(4)
- 第6回 第1次経過報告(1)
- 第7回 第1次経過報告(2)
- 第8回 第1次経過報告(3)
- 第9回 第1次経過報告(4)
- 第10回 日本語分析の方法
- 第11回 第2次経過報告(1)
- 第12回 第2次経過報告(2)
- 第13回 第2次経過報告(3)
- 第14回 第2次経過報告(4)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

教科書

参考書

成績評価

a10203a255

試験 (0)
授業中課題 (20)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書論特講d

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 成田 健太郎

テーマ

書論選読2

獲得目標

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文に慣れるとともに、本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考える力を養う。

授業の内容

毎回、代表的な書論の一節をとりあげ、その内容を考察していく。受講者の積極的な質問、発言を期待する。途中簡単な小テストを数回実施し、復習の機会とする。読解が終わった部分から各自テーマを選び、最終回にレポートを提出してもらう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 北宋の書論(1)
- 第3回 北宋の書論(2)
- 第4回 北宋の書論(3)
- 第5回 北宋の書論(4)
- 第6回 北宋の書論(5)
- 第7回 明の書論(1)
- 第8回 明の書論(2)
- 第9回 明の書論(3)
- 第10回 清の書論(1)
- 第11回 清の書論(2)
- 第12回 清の書論(3)
- 第13回 清の書論(4)
- 第14回 清の書論(5)
- 第15回 まとめ(レポート提出)

授業以外での学習方法

書に関する書物(できれば他の芸術に関しても)をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

教科書

参考書

中国書論大系

著者： 中田勇次郎ほか

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

a10203f050

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (15)

授業中課題: 学期末レポート

小テスト (15)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代書研究Ⅱ

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	尾西 正成	

テーマ

春学期に続いて、今日における書のありかたを総合的に考察する。現代社会において、個の表現としての書はどのような方向を求めているのか、また書が社会性を持つとはどのようなことなのか、実作、鑑賞などを手がかりに検討したい。

獲得目標

現代における新傾向の書の表現について、より掘り下げた視点を設け、制作・鑑賞に取り組む。特に「漢字仮名交じりの書」については、今日の日本語表記と書の表現が今後どのように関係を深めていけるのかを検討し、表現の深化・拡張について検討する。あわせて高等学校「書道」における「漢字仮名交じり書」のあり方を、指導する立場から検討を加える。

授業の内容

戦後の日本の書を概観し、新傾向の書の成立の背景・根拠をさぐるとともに、今日それらの制作活動がどのように展開されているのかを知る。また「漢字仮名交じりの書」「少字数書」などの基礎的技法を再確認しながら、さらに固有の技法を身につけるよう演習する。講義、発表、実習などの形式を交えながら進行する。

内 容

- 第1回 現代の書のありよう①。伝統の書と新傾向の書。
- 第2回 現代書のありよう②。新傾向の書はどのように展開したのか。
- 第3回 現代書の制作。意図と技法、用具・用材。
- 第4回 漢字仮名交じりの書① 古典の技法をふまえて。
- 第5回 漢字仮名交じりの書② 文人の書を参考に。
- 第6回 漢字仮名交じりの書③ 何を書くのか—素材の検討—。
- 第7回 漢字仮名交じりの書④ 指導する立場—教材化を中心に—。
- 第8回 現代書の制作①
- 第9回 現代書の制作②
- 第10回 現代書の制作③
- 第11回 古典を基盤とした大作を①
- 第12回 古典を基盤とした大作を②
- 第13回 古典を基盤とした大作を③
- 第14回 古典を基盤とした大作を④
- 第15回 まとめ 一現代書の現在と今後— ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施することがある。

授業以外での学習方法

作品制作を中心とするが、書き上げたものを相互に批評したり、指導の場における評価のあり方などを検討する機会を設ける。授業以外にも積極的に作品を試作するとともに、展示会場に足を運び作品を鑑賞したり、関係書籍に掲載されている作品を参照することによって、自身の表現の方向性を探してほしい。

教科書

参考書

漢字仮名交じりの書の名品

著者： 田宮文平・中野遵

出版社： 天来書院

出版年： 2010

ISBN：

現代文体の書(書学大系・研究編10)

著者: 青木香流

出版社: 同朋舎

出版年: 1984

ISBN:

少字数の書(書学大系・研究編11)

著者: 浅見錦龍、新井光風 他

出版社: 同朋舎

出版年: 1984

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

作品、レポート、授業の取り組み、出席率など総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語日本文学演習Ⅳ <a>**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	福嶋 昭治	

テーマ

卒業論文の完成

獲得目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成ために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の内容

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

内 容

- 第1回 卒業論文の進捗状況の報告
- 第2回 中間発表について
- 第3回 中間発表要旨の作成
- 第4回 同上
- 第5回 中間発表
- 第6回 卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 卒業論文の構造確認と要旨作成
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 全体総括

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (70)

参考URL

源氏物語の世界

<http://www.sainet.or.jp/~eshibuya/>

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

獲得目標

卒業論文作成

授業の内容

卒論を完成させる。演習Ⅱと同時開講なので、間に3回生の発表も行う。

内 容

- 第1回 進捗状況の報告
- 第2回 中間発表の骨格を考える
- 第3回 中間発表の要旨作成
- 第4回 同上
- 第5回 中間発表(時期は未確定)
- 第6回 中間発表を受けて、今後の進め方を相談する
- 第7回 執筆を進め、互に批評を行う
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 『国文橋』の要旨を作成・修正する
- 第14回 同上
- 第15回 一年間の取り組みの総括

授業以外での学習方法

- 1, 作品の読みを深め、問題意識を育てる
- 2, 説得力を高めるために資料を収集する
- 3, 十分な考察を行う
- 4, 執筆に時間と労力を注ぐ

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

a102040252

参加度（40）

参加度には、3回生の指導など、ゼミへの貢献を含みます

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ <c>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 辻本 千鶴

テーマ

卒業論文の完成

獲得目標

報告、議論、修正というサイクルをくりかえしながら、卒業論文を完成させることを目標とする。

授業の内容

演習形式。受講生が選んだ作家・作品についての研究発表を中心とする。

内 容

- 第1回 講義 卒業論文の完成にむけて
- 第2回 講義 卒業論文の完成にむけて
- 第3回 卒業論文中間発表会(日程未定)
- 第4回 受講生による発表(1)
- 第5回 受講生による発表(2)
- 第6回 受講生による発表(3)
- 第7回 受講生による発表(4)
- 第8回 受講生による発表(5)
- 第9回 受講生による発表(6)
- 第10回 受講生による発表(7)
- 第11回 受講生による発表(8)
- 第12回 受講生による発表(9)
- 第13回 講義 論文執筆についての注意事項
- 第14回 講義 卒業生の卒論を教材に
- 第15回 『国文橋』掲載用原稿執筆

授業以外での学習方法

自分の担当でなくとも、発表作品を通読してから出席すること。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a102040253

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30%)

小テスト (0)

授業中発表等 (70%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ <d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 辻本 千鶴

テーマ

卒業論文の完成

獲得目標

報告、議論、修正というサイクルをくりかえしながら、卒業論文を完成させることを目標とする。

授業の内容

演習形式。受講生が選んだ作家・作品についての研究発表を中心とする。

内 容

- 第11回 受講生による発表(8)
- 第12回 受講生による発表(9)
- 第13回 講義 論文執筆についての注意事項
- 第14回 講義 卒業生の卒論を教材に
- 第15回 『国文橋』掲載用原稿執筆
- 第1回 講義 卒業論文の完成にむけて
- 第2回 講義 卒業論文の完成にむけて
- 第3回 卒業論文中間発表会(日程未定)
- 第4回 受講生による発表(1)
- 第5回 受講生による発表(2)
- 第6回 受講生による発表(3)
- 第7回 受講生による発表(4)
- 第8回 受講生による発表(5)
- 第9回 受講生による発表(6)
- 第10回 受講生による発表(7)

授業以外での学習方法

自分の担当でなくとも、発表作品を通読してから出席すること。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a102040254

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30%)

小テスト (0)

授業中発表等 (70%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ <e>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文の完成

獲得目標

1) 卒業論文の作成をとおして、自らの力でテーマを発見し、そのテーマにふさわしい方法論を確定し、成果を上げるという活動の持つ意味を理解する。2) 他の受講生のテーマについても、自らのテーマに対するのと同様の関心を持ち、能動的に関わっていく。3) 資料を的確に用いて、自らの考察を論文というかたちで文章化する。

授業の内容

報告、議論、修正というサイクルをくりかえしながら、卒業論文を完成させる。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 受講生による第1回報告(1)
- 第3回 受講生による第1回報告(2)
- 第4回 受講生による第1回報告(3)
- 第5回 受講生による第1回報告(4)
- 第6回 受講生による第2回報告(1)
- 第7回 受講生による第2回報告(2)
- 第8回 受講生による第2回報告(3)
- 第9回 受講生による第2回報告(4)
- 第10回 受講生による第3回報告(1)
- 第11回 受講生による第3回報告(2)
- 第12回 受講生による第3回報告(3)
- 第13回 受講生による第3回報告(4)
- 第14回 まとめ1
- 第15回 まとめ2

授業以外での学習方法

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 東洋史概説Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 米田 健志

テーマ

中国を中心としたアジアの歴史

獲得目標

殷周時代から明清時代までの中国の歴史における、政治・社会・法制・人物、および周辺地域との関係について、基礎的知識の習得をめざす。

授業の内容

毎回、プリントを配布したうえで講義を行う。授業期間中に小レポートを2回提出。また期末試験を実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 先秦～後漢(1)
- 第3回 先秦～後漢(2)
- 第4回 先秦～後漢(3)
- 第5回 三国～隋(1)
- 第6回 三国～隋(2)
- 第7回 唐～北宋(1)
- 第8回 唐～北宋(2)
- 第9回 唐～北宋(3)
- 第10回 南宋～遼・金・元(1)
- 第11回 南宋～遼・金・元(2)
- 第12回 南宋～遼・金・元(3)
- 第13回 明～清(1)
- 第14回 明～清(2)
- 第15回 明～清(3)
- 第16回 期末試験

授業以外での学習方法

中国史・アジア史に関する様々な文献を図書館で探して読むことをおすすめする。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（55%）
授業中課題（30%）
参加度（15%）

小テスト（0%）
授業中発表等（0%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 西洋史概説Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

近現代の西洋の歴史の基礎的理解をはかる

獲得目標

16世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の内容

近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史(西洋史)を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後16世紀から20世紀にいたるヨーロッパ史(西洋史)の流れをたどっていく。

内 容

- 第1回 世界史の新しい見方ー世界システム
- 第2回 近代世界システムの形成
- 第3回 16世紀ポルトガルのアジア進出
- 第4回 16世紀スペインの新大陸支配
- 第5回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー
- 第6回 17・18世紀イギリスの商業革命と大西洋貿易
- 第7回 18世紀英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
- 第8回 産業革命とフランス革命の新解釈
- 第9回 19世紀大英帝国のヘゲモニー
- 第10回 19世紀ヨーロッパ社会
- 第11回 19世紀ヨーロッパ文化
- 第12回 20世紀のヨーロッパ(1)
- 第13回 20世紀のヨーロッパ(2)
- 第14回 20世紀のヨーロッパ(3)
- 第15回 20世紀のヨーロッパ(4)

授業以外での学習方法

授業で紹介した本や近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

教科書

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2001

ISBN:

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者： 小山哲、他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2011

ISBN：

近代ヨーロッパ史

著者： 福井憲彦

出版社： 放送大学教育振興会

出版年： 2005

ISBN：

概説 現代世界の歴史

著者： W・ウッドラフ

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2003

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（10）

授業中発表等（0）

参加度（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 考古学概説Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

考古学からみた地域と文化

獲得目標

日本各地の地域性を示す遺跡において解明されている個性豊かな地域の考古学的知見から、特色をもった地域文化が、どのように成立したかを理解する。

授業の内容

日本列島の西から東へと地域をめぐり、先史から歴史へと時代をたどりながら、重要な遺跡を説明する。

内 容

- 第3回 瀬戸内の土器製塩
- 第4回 中国山地のたたら製鉄
- 第5回 陶邑の須恵器生産
- 第6回 土師器「かわらけ」の世界
- 第7回 学外授業 正倉院展(奈良国博)見学
- 第8回 正倉院展見学の復習
- 第9回 東海地方の焼物——猿投・瀬戸・常滑
- 第10回 鎌倉の考古と歴史
- 第11回 学外授業 博物館見学
- 第12回 戦国城下町越前——乗谷朝倉氏遺跡
- 第13回 江戸時代の考古学
- 第14回 日本領の「異国」琉球の考古と文化
- 第15回 まとめ
- 第1回 日本文化の地域性
- 第2回 弥生時代の北九州

授業以外での学習方法

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	増淵 徹	

テーマ

古代の法から社会像を考える

獲得目標

『類聚三代格』をテキストに、太政官符などの古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の内容

参加者各自に官符などを割り当て、その読み下し、訳、考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 授業解説、テキストの解説(1)
- 第2回 テキストの解説(2)、図書館の活用方法やレポートの作成方法の解説
- 第3回 史料の読み方と理解の実際(1)
- 第4回 史料の読み方と理解の実際(2)
- 第5回 歴史遺産の見学(学外授業)
- 第6回 個別発表(1)
- 第7回 個別発表(2)
- 第8回 個別発表(3)
- 第9回 個別発表(4)
- 第10回 個別発表(5)
- 第11回 個別発表(6)
- 第12回 個別発表(7)
- 第13回 個別発表(8)
- 第14回 個別発表(9)
- 第15回 歴史研究の方法論と史料分析(まとめ)

授業以外での学習方法

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。

教科書

類聚三代格(該当部分コピー配布)

著者: 黒板勝美編(国史大系)

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

参考書

『律令国家と天平文化』(日本の時代史4)

著者: 佐藤 信 編

出版社: 吉川弘文館

出版年: ISBN:

『平安京』(日本の時代史5)

著者: 吉川真司 編

出版社: 吉川弘文館

出版年: ISBN:

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史6)

著者: 加藤友康 編

出版社: 吉川弘文館

出版年: ISBN:

日本歴史大系2 律令国家の展開

著者:

出版社: 山川出版社

出版年: ISBN:

日本歴史大系3 貴族政治と武士

著者:

出版社: 山川出版社

出版年: ISBN:

『平安京の時代』(日本古代の歴史)

著者: 佐々木恵介

出版社: 吉川弘文館

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本史基礎ゼミⅡ **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 山田 徹

テーマ

百練抄を読む

獲得目標

日本中世史料を読解する能力を養う。

授業の内容

テキストは、朝廷の記録書である百練抄を使用する。最初の数回は、和様漢文の基礎を理解するため、簡単な記事を集中的に読む。慣れてきたら、治承・寿永の内乱に関する記事を中心に、講読していくこととする。

内 容

- 第1回 授業解説
- 第2回 百練抄の講読(1)
- 第3回 百練抄の講読(2)
- 第4回 百練抄の講読(3)
- 第5回 百練抄の講読(4)
- 第6回 百練抄の講読(5)
- 第7回 百練抄の講読(6)
- 第8回 百練抄の講読(7)
- 第9回 百練抄の講読(8)
- 第10回 百練抄の講読(9)
- 第11回 百練抄の講読(10)
- 第12回 百練抄の講読(11)
- 第13回 百練抄の講読(12)
- 第14回 百練抄の講読(13)
- 第15回 百練抄の講読(14) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

史料について、予習と復習をおこなうこと。この時代に関しては多くの本が売られています。最新の研究成果が示された本を、ぜひ手に取ってみてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

鎌倉幕府

著者: 石井進

出版社：中央公論社

出版年：2004(初出1966)

ISBN:

源平の盛衰

著者：上横手雅敬

出版社：講談社

出版年：1997(初出1969)

ISBN:

源平合戦の虚像を剥ぐ

著者：川合康

出版社：講談社

出版年：1996

ISBN:

後白河法皇

著者：棚橋光男

出版社：講談社

出版年：1995

ISBN:

源義経

著者：元木泰雄

出版社：吉川弘文館

出版年：2007

ISBN:

日本の時代史7 院政の展開と内乱

著者:

出版社：吉川弘文館

出版年：2002

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ <c>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 尾下 成敏

テーマ

江戸時代の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。

授業の内容

江戸時代の幕府・藩に関する史料(譜代大名松平忠利の日記)を読む。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳の作成と報告。

内 容

- 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説
- 第2回 テキストに関する概説
- 第3回 松平忠利の日記の講読
- 第4回 松平忠利の日記の講読
- 第5回 松平忠利の日記の講読
- 第6回 松平忠利の日記の講読
- 第7回 松平忠利の日記の講読
- 第8回 松平忠利の日記の講読
- 第9回 松平忠利の日記の講読
- 第10回 松平忠利の日記の講読
- 第11回 松平忠利の日記の講読
- 第12回 松平忠利の日記の講読
- 第13回 松平忠利の日記の講読
- 第14回 松平忠利の日記の講読
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料等に慣れ親しんで欲しい。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (30)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本史基礎ゼミⅡ <d>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

幕末・明治の史料を読む。

獲得目標

日本近代史の史料を確実に読める能力を養う。

授業の内容

下記のテーマに関する史料を通読し、幕末・明治の時代状況もあわせて知るようにする。

内 容

- 第1回 史料購読の方法
- 第2回 幕末という時代についての説明
- 第3回 京都の幕末・維新についての説明
- 第4回 (史料)「池田屋事件」
- 第5回 (史料)「禁門の変」
- 第6回 (史料)「安政の大獄」
- 第7回 (史料)「薩長盟約」
- 第8回 (史料)「大政奉還」
- 第9回 (史料)「王政復古の大号令」
- 第10回 (史料)「鳥羽・伏見の戦い」
- 第11回 大政奉還から鳥羽・伏見の戦いまでの説明
- 第12回 (史料)「大坂遷都の建白」
- 第13回 (史料)「琵琶湖疏水」
- 第14回 (史料)「同上」
- 第15回 明治の京都についてのまとめ

授業以外での学習方法

京都には幕末・明治の史跡が数多くある。京都を散策してほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅡ <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 松浦 京子

テーマ

西洋史上の著名な史料(英文)を読む

獲得目標

英文史料を精読しその史料から何を読み取れるかを考え、史料解読の方法を理解することをめざす

授業の内容

Weidenfeld and Nicolson社刊のIllustrated History of Europeに掲載されている抜粋史料を年代順に読んでいく。ヘロドトスの『歴史』、アリストテレスの『アテナイの国制』からはじまって、タキトゥスの『ゲルマニア』や『年代記』、各種中世年代記、教皇文書、議会文書、思想家の著作、旅行記、『エンサイクロペディア』、王令・布告、新聞、日記、書簡、条約など、歴史研究において重要な史料を読み、その内容から何が読み取れるかを考える。各史料の翻訳とその意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。翻訳に関しては、発表報告の最低でも2週間前には全訳文を教員に提出し添削をうけなければならない。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 テキストの解説と分担の決定
- 第2回 教員による模擬史料購読、解説①
- 第3回 史料輪読①
- 第4回 教員による解説①
- 第5回 史料輪読②
- 第6回 教員による解説②
- 第7回 ゼミ生報告一回目①と質疑応答
- 第8回 ゼミ生報告一回目②と質疑応答
- 第9回 ゼミ生報告一回目③と質疑応答史料輪読③
- 第10回 史料輪読③
- 第11回 教員による解説③
- 第12回 ゼミ生報告二回目①と質疑応答
- 第13回 ゼミ生報告二回目②と質疑応答
- 第14回 ゼミ生報告二回目③と質疑応答
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

各自担当部分の翻訳と関連文献の精読。史料上の専門用語(歴史用語)に関する下調べ。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅡ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	小野 浩	

テーマ

アジアの歴史を中国史中心ではなく中央アジア・西アジアからの視点で捉える

獲得目標

ヨーロッパ史でも中国史でもない中央・西アジアの歴史を軸に広くアジア全体の歴史を眺めてみると東アジアや西欧の見え方も異なってくる。この授業では東の中国から西方を見るのではなく、西から東を見通してみる。

授業の内容

宮崎市定著『アジア史概説』をテキストにとり上げ、そのうちから主に西アジアの部分を読み進めていく。毎回担当者を決めて内容の要約紹介をしてもらうが、教員の方からも出席者全員に内容に基づいたさまざまな質問を投げかけるので、担当者のみならず出席者はあらかじめテキストを十分に読み込んでくることが求められる。テキストはコピーして配布する。なお、半期に一度学術講演会を行なうこともある。

内 容

- 第1回 導入その1. 著者宮崎市定の生涯と業績。
- 第2回 導入その2. 『アジア史概説』の成立事情。
- 第3回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その1
- 第4回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その2
- 第5回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その3
- 第6回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その4
- 第7回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その5
- 第8回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その6
- 第9回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その7
- 第10回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その8
- 第11回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その9
- 第12回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その10
- 第13回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その11
- 第14回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その12
- 第15回 出席者による輪読と質疑、教員からの解説 その13

授業以外での学習方法

あらかじめテキストを読んで授業に臨むこと

教科書

参考書

アジア史概説(宮崎市定全集を使用)

著者: 宮崎市定

出版社: 岩波書店

出版年: 1990

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史基礎ゼミⅡ <a>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 南 直人

テーマ

現代史(ヨーロッパ・アメリカ)の専門研究への入門

獲得目標

専門的な現代史(ヨーロッパ・アメリカ)研究のために必要な基礎的知識・技法の修得をめざす。

授業の内容

西洋史学(近現代)の概説的／専門的知識、専門研究のスタイル、近年における種々の専門的研究テーマについて学習する。そのために、概説書から適宜テーマを選定し、各人がそれぞれ指定されたテーマについて発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外講師の講演会をそれぞれ1回程度おこなうこともある。

内 容

- 第1回 歴史学の意義について考える、進路／就職についても考える
- 第2回 現代史(西洋史)研究へのイントロダクション
- 第3回 現代の世界(1)
- 第4回 現代の世界(2)
- 第5回 現代の世界(3)
- 第6回 西洋近代史概説(1)
- 第7回 西洋近代史概説(2)
- 第8回 西洋近代史概説(3)
- 第9回 西洋近代史概説(4)
- 第10回 西洋現代史概説(1)
- 第11回 西洋現代史概説(1)
- 第12回 西洋現代史概説(2)
- 第13回 西洋現代史概説(3)
- 第14回 西洋現代史概説(4)
- 第15回 まとめ・発表

授業以外での学習方法

テキストや参考書以外の現代史関係の書物をできるだけ読むこと

教科書

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011年

ISBN:

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社：放送大学教育振興会

出版年：2001年

ISBN:

近代ヨーロッパ史

著者：福井憲彦

出版社：放送大学教育振興会

出版年：2005年

ISBN:

概説 現代世界の歴史

著者：ウィリアム・ウッドラフ

出版社：ミネルヴァ書房

出版年：2003年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (50)

参加度 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史基礎ゼミⅡ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 25

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 酒井 一臣

テーマ

この授業では戦後史の史料を読みます。『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む予定です。

獲得目標

この授業の目的は、近現代政治史研究には欠かせない史料の扱いになれることで、卒業論文にむけた史料読解力を伸張することです。この授業では、近年さかんになったオーラル・ヒストリーの史料を読みます、史料をもとに、どのように調査研究を進めていけばいいのを知ってもらうことも授業の目的です。

授業の内容

史料をめぐる基礎知識の整理をチームをつくって調べてもらいます。その後、担当を決めて、史料を読み進めていきます。なお、外部講師の招請・校外学習を行う場合があります。

内 容

- 第1回 導入と解説
- 第2回 戦後史概説
- 第3回 基礎調査の発表(1)
- 第4回 基礎調査の発表(2)
- 第5回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(1)
- 第6回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(2)
- 第7回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(3)
- 第8回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(4)
- 第9回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(5)
- 第10回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(6)
- 第11回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(7)
- 第12回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(8)
- 第13回 『中曽根康弘が語る戦後日本外交』を読む(9)
- 第14回 まとめの発表(1)
- 第15回 まとめの発表(2)

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書学BⅡ(近世)〈a〉

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 牧 知宏	

テーマ

日本近世の古文書

獲得目標

くずし字で書かれた日本近世の古文書を読み解き、文章の内容を把握するための能力を身につけることを目的とします。

授業の内容

授業では、事前に配布した古文書のコピーを読み進めていきます。日本近世のさまざまなタイプの古文書を取りあげ、くずし字や文章内容を読み解く方法について学習します。

内 容

- 第1回 古文書の文章に関する基礎知識
- 第2回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む1
- 第3回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む2
- 第4回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む3
- 第5回 近世の古文書(公家に関する文書)を読む1
- 第6回 近世の古文書(公家に関する文書)を読む2
- 第7回 近世の古文書(寺社に関する文書)を読む1
- 第8回 近世の古文書(寺社に関する文書)を読む2
- 第9回 近世の古文書(村に関する文書)を読む1
- 第10回 近世の古文書(村に関する文書)を読む2
- 第11回 近世の古文書(村に関する文書)を読む3
- 第12回 近世の古文書(町に関する文書)を読む1
- 第13回 近世の古文書(町に関する文書)を読む2
- 第14回 近世の古文書(町に関する文書)を読む3
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を行うことが必要です。とくに声を出しながら何度も読むことが大切です。できるだけ博物館や美術館などへ足を運び、古文書の実物にも慣れ親しんで下さい。

教科書

なし、適宜配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

逐次紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (45%)

小テスト (10%)

授業中課題 ()

授業中発表等 (20%)

参加度 (25%)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるのはもちろん、成績評価にも結びつきます。この点をよく心得ておいて下さい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書学BⅡ(近世)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 蔭山 兼治

テーマ

日本近世の古文書

獲得目標

日本近世の古文書を解説し、その内容を把握することを目的とします。

授業の内容

日本近世の古文書やくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、近世の様々なタイプの古文書を取りあげ、その字体や文章について学習します。また、古文書の内容を把握していきながら、日本の近世社会に関する理解を深めます。授業は、事前に配付したテキスト(古文書のコピー)を読んでいます。

内 容

- 第1回 古文書と近世の社会(1)
- 第2回 村に関する古文書(1)
- 第3回 村に関する古文書(2)
- 第4回 村に関する古文書(3)
- 第5回 町に関する古文書(1)
- 第6回 町に関する古文書(2)
- 第7回 町に関する古文書(3)
- 第8回 町に関する古文書(4)
- 第9回 町に関する古文書(5)
- 第10回 京都に関する古文書(1)
- 第11回 京都に関する古文書(2)
- 第12回 京都に関する古文書(3)
- 第13回 京都に関する古文書(4)
- 第14回 京都に関する古文書(5)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を積み重ねることが何よりも大切です。予習では、ノートを準備し、配布されたテキスト(古文書のコピー)を翻刻し、書き下しを作成してください。復習では、授業で学んだ古文書を、声に出して何度も読み上げてください。また、日本近世の歴史に関する書物や、史料集を見てみましょう。

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多編

出版社: 東京堂出版

出版年: 1993

ISBN:

くずし字解説辞典

著者： 児玉幸多編

出版社： 東京堂出版

出版年： 1993

ISBN:

概説 古文書学 近世編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1989

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト (10)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書学C II (近世)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 古文書学A I II (古代・中世)または古文書学B I II (近世)を修得済み、または同等以上の者

クラス指定

担当者 高久 嶺之介

テーマ

明治の古文書を読む

獲得目標

明治期の古文書についてひたすら読解力を向上させる。

授業の内容

明治期の古文書について、簡単なものから読むようにし、地域の多様な古文書、個人の日記など少しずつ読み進める。授業はゆっくり進める。変体仮名も読むようにする。できれば必ずし字に関する辞典を用意してほしい。

内 容

- 第1回 授業の進め方、史料についてのガイダンス
- 第2回 史料についてのガイダンス
- 第3回 史料をみんなで読んでいく。
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 近代史料の扱い方
- 第15回 同上

授業以外での学習方法

古文書はひたすら慣れることである。いつも古文書を見ていれば少しずつ読めるようになる。

教科書

参考書

成績評価

a10302d850

試験 ()
授業中課題 (20)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本女性史特講Ⅱ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

獲得目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態、などの面から会得する。

授業の内容

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

内 容

- 第1回 戦国～織豊期の女性①北政所おね
- 第2回 戦国～織豊期の女性②細川ガラシャ
- 第3回 戦国～織豊期の女性③淀殿
- 第4回 戦国～織豊期の女性④利家正室まつ
- 第5回 おあんが語る戦国時代
- 第6回 江戸幕府の成立と女性
- 第7回 春日局の一生とその役割
- 第8回 江戸時代の農村女性の生活
- 第9回 江戸時代の商家の女性
- 第10回 明治維新とは
- 第11回 大正デモクラシーと女性
- 第12回 戦時中の生活変化と女性の役割
- 第13回 戦後改革と女性
- 第14回 現代社会の女性の地位変化
- 第15回 日本女性のあゆみ

授業以外での学習方法

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい

教科書

参考書

日本女性史

著者： 脇田・林・永原編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1987

ISBN:

乳母の力

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2005

ISBN：

日本中世女性史論

著者： 田端泰子著

出版社： 塙書房

出版年： 1994

ISBN：

高台院北政所おね

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN：

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN：

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（80）

授業中課題（）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 外書研究b

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	小野 浩	
テーマ	アジア史関連英語文献選読	

獲得目標

アジア史に関する英語文献をテキストにして、常に文法に留意しつつ精読する姿勢を習得する。単語を辞書で引いてそれを適当に組み合わせて意味の通るように日本語化する、といった態度を排し、まずなによりも文法的に読解することを目指す。したがってスピードにはこだわらず、まずはやさしい英文をゆっくりと読み進めることから始める。読む分量は少しずつであっても、毎週読み進めて行けば少なくとも《英語アレルギー》の度合いはいくぶんなりとも減少して行くはずである。

授業の内容

テキストは、アジアの歴史に関連するものを適宜選び、コピーして配布する。最初は日本語訳のある英文を扱い、なぜこう訳せるのか確認しつつ授業を進める。テキストごとに書誌的知識と歴史背景を解説する。出席者全員で輪読していくので、毎回充分な予習が必須となる。なお、テキストとして下記テキスト欄に挙げたものはあくまで一例である。

内 容

- 第1回 この授業の方針説明
- 第2回 テキストの解説
- 第3回 全員による輪読および内容の解説 その1
- 第4回 全員による輪読および内容の解説 その2
- 第5回 全員による輪読および内容の解説 その3
- 第6回 全員による輪読および内容の解説 その4
- 第7回 全員による輪読および内容の解説 その5
- 第8回 全員による輪読および内容の解説 その6
- 第9回 全員による輪読および内容の解説 その7
- 第10回 全員による輪読および内容の解説 その8
- 第11回 全員による輪読および内容の解説 その9
- 第12回 全員による輪読および内容の解説 その10
- 第13回 全員による輪読および内容の解説 その11
- 第14回 全員による輪読および内容の解説 その12
- 第15回 全員による輪読および内容の解説 その13

授業以外での学習方法

授業までに必ず文献の予習をしておくこと。

教科書

Islamic Central Asia—An Anthology of Historical Sources

著者: Scott C. Levy & Ron Cella (eds.)

出版社: Indiana University Press

出版年: 2010

ISBN:

参考書

a10302g950

成績評価

試験（0%）

授業中課題（0%）

参加度（40%）

小テスト（0%）

授業中発表等（60%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 外書研究d

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

英文テキストを読む

獲得目標

英文テキストを読み、その内容を知識情報として理解し吸収することをめざす

授業の内容

テキストは、Longman社刊の歴史研究書の入門シリーズであるTHEN & THERE(あのととき、あそこで)Seriesのなかの Alan Delgado, A Hundred YEARS OF MEDICAL CAREとする。この本は、イギリスの福祉制度の根幹の1つであるNHS「国民保健サービス」の発足(1948年)に先立つ百年ほど間の、病人ケアの変容とそれをもたらした人々について概観したもので、医療史、看護史、福祉史の入門概説書である。イギリスのUniversity-College(短大、市民大学)でテキストとして用いられるもので、英語のレベルとしては平易であるが、史料をふんだんに用いるとともに読ませる内容になっている。これを、受講生で輪読し、担当教員が内容(19~20世紀イギリスの医療、看護の変容)について解説していく。受講生は、授業までに必ず、予め読解を進めておかなければならない。

内 容

- 第1回 テキスト内容の紹介
- 第2回 テキストの輪読①
- 第3回 テキストの輪読②
- 第4回 テキストの輪読③
- 第5回 テキストの輪読④
- 第6回 テキストの輪読⑤
- 第7回 テキストの輪読⑥
- 第8回 これまでの内容について、確認
- 第9回 テキストの輪読⑧
- 第10回 テキストの輪読⑨
- 第11回 テキストの輪読⑩
- 第12回 テキストの輪読⑪
- 第13回 テキストの輪読⑫
- 第14回 テキストの輪読⑬
- 第15回 これまでの内容について、確認

授業以外での学習方法

テキスト全文をわかりやすい日本語の文章として書き出すこと

教科書

参考書

成績評価

a10302h150

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (50)

小テスト (50)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 外書研究f

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定

担当者 佐藤 専次

テーマ

ヨーロッパ中世史に関する英語文献の講読

獲得目標

西洋中世史に関する英語文献を講読して、西洋史の英文を正確に理解して的確に翻訳し、かつ西洋中世史について理解を深める。

授業の内容

ヨーロッパ中世に関する英語文献を講読する。本年も昨年に引き続き、図版を豊富に使用してヨーロッパ中世をわかりやすく概観した、George Holmes, The Oxford Illustrated History of Medieval Europeをテキストに使用する。授業では、英文を読み進めながら内容について解説していく。

内 容

- 第1回 ガイダンスとヨーロッパ中世の概観
- 第2回 英書講読
- 第3回 英書講読
- 第4回 英書講読
- 第5回 英書講読
- 第6回 英書講読
- 第7回 英書講読
- 第8回 英書講読
- 第9回 英書講読
- 第10回 英書講読
- 第11回 英書講読
- 第12回 英書講読
- 第13回 英書講読
- 第14回 英書講読
- 第15回 英書講読

授業以外での学習方法

毎回全員に訳させる予定でいるので、確実な予習が必要である。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 増淵 徹

テーマ

日本古代史研究Ⅱ

獲得目標

演習Ⅰに続き、日本古代史を研究する上での史料読解・研究方法の習得と、そのための力量向上を目指す。演習Ⅰでの到達度をみながらではあるが、まずは平安期の日記史料の読解に進み、広く時代を研究するために多様な史料に対応できる能力の獲得を目指す。

授業の内容

前期に続き、参加者各人に課題を割り当て、それに関する報告レポートを軸に授業を進行させる。なお、歴史学に関する講演(1回)、文化遺産あるいは研究施設の見学(1回)を予定している。

内 容

- 第1回 テキストの配布と授業進行方法の説明
- 第2回 レポート作成の方法の説明及び史料の説明
- 第3回 史料の読みと理解の実際
- 第4回 文化遺産見学(学外授業)
- 第5回 個別発表(1)
- 第6回 個別発表(2)
- 第7回 個別発表(3)
- 第8回 個別発表(4)
- 第9回 個別発表(5)
- 第10回 個別発表(6)
- 第11回 個別発表(7)
- 第12回 個別発表(8)
- 第13回 個別発表(9)
- 第14回 個別発表(10)
- 第15回 卒業研究に向けての指導(まとめ)

授業以外での学習方法

自分の興味のある分野に関連する論文や著作を多数読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 細川 涼一

テーマ

中世史をめぐって各自が研究したテーマを発表する

獲得目標

中世史研究の状況を知るとともに、論文読解の方法を身につけ、自分自身の研究作成にむけた目標を設定していくことにしたい。

授業の内容

日本中世史関係の論文から、ゼミ参加者の興味のある論文を読むとともに、適宜ゼミ参加者の研究発表を行っていく。後期には、ゼミ参加者各自が自分の興味ある分野について調べた内容を発表し、皆で討論を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行う。

内 容

- 第1回 発表と討論(1)
- 第2回 発表と討論(2)
- 第3回 発表と討論(3)
- 第4回 発表と討論(4)
- 第5回 発表と討論(5)
- 第6回 発表と討論(6)
- 第7回 発表と討論(7)
- 第8回 発表と討論(8)
- 第9回 発表と討論(9)
- 第10回 発表と討論(10)
- 第11回 発表と討論(11)
- 第12回 発表と討論(12)
- 第13回 発表と討論(13)
- 第14回 発表と討論(14)
- 第15回 発表と討論(15)

授業以外での学習方法

研究発表に向けて関係する研究書・論文をよく読んで調べること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (35%)

小テスト ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ <c>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	希望制
担当者 尾下 成敏		
テーマ		
日本近世史研究の諸問題		

獲得目標

研究するさいの基本的な技術や姿勢について理解を深めるとともに、各自の卒業論文テーマの内容を深める。

授業の内容

まずは各自が各自の研究テーマにもとづく報告を行い、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う。つぎに論文や報告書等を読み、史料の分析の仕方を会得してもらうことにする。後期の最後には原稿用紙換算で15枚以上のレポートと、卒論に関わる史料(資料)を集めたデータベースを作成してもらう。

内 容

- 第1回 ガイダンスなど
- 第2回 ガイダンスなど
- 第3回 4回生の卒業論文中間発表会への参加
- 第4回 個別発表
- 第5回 個別発表
- 第6回 個別発表
- 第7回 個別発表
- 第8回 個別発表
- 第9回 個別発表
- 第10回 個別発表
- 第11回 個別発表
- 第12回 史料の分析の仕方
- 第13回 史料の分析の仕方
- 第14回 史料の分析の仕方
- 第15回 まとめ、レポート作成に関するアドバイス

授業以外での学習方法

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、近世史に関する知識を増やすこと。

教科書

とくになし。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (45)

授業中発表等 (40)

参加度 (15)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

日本近代史の諸問題

獲得目標

基礎的作業を継続するとともに、各自の卒業論文テーマの内容を深める。

授業の内容

各自が各自のテーマにもとづく報告を行い、討論を行う。

内 容

- 第1回 3回生ゼミ後期のゼミ運営方法討議
- 第2回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自のによるテーマ設定のための報告(1)
- 第3回 4回生卒業論文中間報告を聞く。
- 第4回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自のによるテーマ設定のための報告(2)
- 第5回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自のによるテーマ設定のための報告(3)
- 第6回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自のによるテーマ設定のための報告(4)
- 第7回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自のによるテーマ設定のための報告(5)
- 第8回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自のによるテーマ設定のための報告(6)
- 第9回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自のによるテーマ設定のための報告(7)
- 第10回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自のによるテーマ設定のための報告(8)
- 第11回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自のによるテーマ設定のための報告(9)
- 第12回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自のによるテーマ設定のための報告(10)
- 第13回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自のによるテーマ設定のための報告(11)
- 第14回 近代史のビデオ鑑賞
- 第15回 3回生後期のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 王 衛明	
テーマ	
東アジア史の研究と発表	

獲得目標

主として東アジアの歴史を研究するために必要な知識の習得をめざす。具体的には次のことがらである。①テーマの設定と関心の深め方。②関連文献の収集と整理。③根本史料の収集と読解。④研究結果の発表。

授業の内容

東アジアという地域は広く、その歴史は長く多様である。受講生諸君も一人一人が異なる興味・関心をもっていることだろう。したがって、この授業では、まず各人がそれぞれの興味・関心に沿ったテーマを決める。ついで、そのテーマに関する文献を調べてレジュメを作成、授業においてその発表を行い、それにもとづいて他の受講生との討論をする、という手順で授業を進めてゆきたい。なお、レジュメの作成にあたっては、複数の文献を利用するように努めてもらいたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス、発表順の決定
- 第2回 東アジア研究に関する文献紹介: 史料
- 第3回 東アジア研究に関する文献紹介: 工具書
- 第4回 発表と講評
- 第5回 発表と講評
- 第6回 発表と講評
- 第7回 発表と講評
- 第8回 発表と講評
- 第9回 発表と講評
- 第10回 発表と講評
- 第11回 発表と講評
- 第12回 発表と講評
- 第13回 発表と講評
- 第14回 発表と講評
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

積極的に図書館を利用して、文献・情報を集めるよう心がけて欲しい。

教科書

参考書

中国歴史研究入門
著者: 礪波護ほか編
出版社: 名古屋大学出版会
出版年: 2006年

ISBN: 481580527X

成績評価

試験（0）

授業中課題（25）

参加度（15）

小テスト（0）

授業中発表等（60）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 小野 浩	

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

獲得目標

各人の卒論へ向けたテーマの模索と成果発表

授業の内容

各人の問題関心に沿った発表とそれに対する討論をおこない、卒論のテーマを考えていく。前期と同様に史料収集、目録からの論文探索、主要学術誌の紹介等は授業中に適宜行う。なお、学外者を招いての講演会1回を予定している。

内 容

- 第1回 卒論の書き方、ルールを説明する。
- 第2回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その1
- 第3回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その2
- 第4回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その3
- 第5回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その4
- 第6回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その5
- 第7回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その6
- 第8回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その7
- 第9回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その8
- 第10回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その9
- 第11回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その10
- 第12回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その11
- 第13回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その12
- 第14回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その13
- 第15回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その14

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ <c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定 希望制
担当者 松浦 京子	
テーマ	
西洋史に関する文献にもとづく研究・報告	

獲得目標

卒業論文作成に向けて確定したテーマに見合う基礎知識の獲得をめざす。

授業の内容

講義の後、前期に引き続いて、受講者が順番に発表し、質疑応答・討論の形式をとる。前期の作業の成果を受けて、受講者は、卒業論文のテーマを確定する。そのうえで各自のテーマに沿って、そのテーマから論文課題を抽出するために当該時期・領域に関する概説書、古典的地位を得ている研究書を広く収集し、精読し基本的知識の獲得と理解に努めなければならない。後期のゼミでは、各自が進めている研究成果を発表と言う形でゼミ生仲間に披露し、質疑応答や担当教員からの指導を通して、意義あるかたちに整え、論文の問題関心をしばっていかななければならない。

内 容

- 第1回 (講義)研究テーマから問題提起へ - 研究動向整理と問題点の発見
 第2回 ゼミ生報告と質疑応答1-①(基本的知識の収集成果に基づく報告)
 第3回 4回生ゼミと合同の卒論中間発表会
 第4回 ゼミ生報告と質疑応答1-②(基本的知識の収集成果に基づく報告)
 第5回 ゼミ生報告と質疑応答1-③(基本的知識の収集成果に基づく報告)
 第6回 ゼミ生報告と質疑応答1-④(基本的知識の収集成果に基づく報告)
 第7回 ゼミ生報告と質疑応答1-⑤(基本的知識の収集成果に基づく報告)
 第8回 ゼミ生報告と質疑応答1-⑥(基本的知識の収集成果に基づく報告)
 第9回 ゼミ生報告と質疑応答1-⑦(基本的知識の収集成果に基づく報告) ゼミ生報告と質疑応答2-①(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第10回 ゼミ生報告と質疑応答2-②(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第11回 ゼミ生報告と質疑応答2-③(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第12回 ゼミ生報告と質疑応答2-④(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第13回 ゼミ生報告と質疑応答2-⑤(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第14回 ゼミ生報告と質疑応答2-⑥(問題関心の明示、それに対応した報告)
 第15回 ゼミ生報告と質疑応答2-⑦(問題関心の明示、それに対応した報告)

授業以外での学習方法

参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容を関心にそって分析・整理する。

教科書

参考書

成績評価

a10303a653

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本現代史の諸問題

獲得目標

この授業では、卒業論文作成に向けて、各自のテーマをみつけて研究を進めていく準備を行います。発表と質疑応答を通じ、各自のテーマを深めて具体化していくことを目的とします。

授業の内容

最初は、卒業論文を書くためのガイダンスを行います。その後、各自のテーマを決定し、発表を行います。発表に対して質問することも重要です。発表と質疑応答を通じて、卒業論文の内容を高めていきましょう。なお、外部講師の招請・校外学習を行う場合があります。

内 容

- 第1回 卒業論文の書き方
- 第2回 史料を選ぶ(1)
- 第3回 史料を選ぶ(2)
- 第4回 史料を選ぶ(3)
- 第5回 個人発表(1)
- 第6回 個人発表(2)
- 第7回 個人発表(3)
- 第8回 個人発表(4)
- 第9回 個人発表(5)
- 第10回 個人発表(6)
- 第11回 個人発表(7)
- 第12回 個人発表(8)
- 第13回 仮論文を書く(1)
- 第14回 仮論文を書く(2)
- 第15回 仮論文を書く(3)

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a10303b050

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定 希望制

担当者 南 直人

テーマ

現代史研究の諸問題

獲得目標

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。

授業の内容

前期の学修内容を踏まえて、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

内 容

- 第1回 卒論のテーマの絞り込み、卒業後の進路(就活に備えて)
- 第2回 これまでの卒業研究の内容の復習
- 第3回 個別発表1回目(1)
- 第4回 個別発表1回目(2)
- 第5回 個別発表1回目(3)
- 第6回 個別発表1回目(4)
- 第7回 個別発表1回目(5)
- 第8回 個別発表1回目(6)
- 第9回 個別発表2回目(1)
- 第10回 個別発表2回目(2)
- 第11回 個別発表2回目(3)
- 第12回 個別発表2回目(4)
- 第13回 個別発表2回目(5)
- 第14回 個別発表2回目(6)
- 第15回 まとめ、卒論への展望

授業以外での学習方法

自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史講読Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 森本 慶太

テーマ

現代史(ヨーロッパ・アメリカ)文献の講読

獲得目標

この授業では、おもに欧米の現代史に関する文献を講読し、「ナショナリズム」「二つの世界大戦」「社会主義」「大衆化」「冷戦」といった、現代史の主要トピックへの理解を深めていきます。その際に、将来の卒業論文作成を念頭に置いて、文献を批判的に読む能力の修得をめざします。

授業の内容

この授業では、各回の発表担当者が、事前に指定した文献の内容を要約して発表し、受講生全体で議論をおこないます。課題文献は、『世界史リフレット』シリーズ(山川出版社)などから取り上げます。授業の進行や発表の手順については、受講生の人数を考慮して決定します。授業の終盤には、受講生各自が上記シリーズから1冊を選んで書評し、レポートとして提出してもらいます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の手順について説明するので必ず出席すること)
- 第2回 読書の方法について(講義)
- 第3回 現代史研究で扱う史料について(講義)
- 第4回 受講生による発表①
- 第5回 受講生による発表②
- 第6回 受講生による発表③
- 第7回 受講生による発表④
- 第8回 受講生による発表⑤
- 第9回 書評について(レポートの作成手順についての説明)
- 第10回 受講生による発表⑥
- 第11回 受講生による発表⑦
- 第12回 受講生による発表⑧
- 第13回 受講生による発表⑨
- 第14回 受講生による発表⑩
- 第15回 授業全体のまとめ

授業以外での学習方法

常日頃から、新聞やドキュメンタリー番組などを通じて、現代世界への関心を深めておくことが望ましい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

現代史を学ぶ

著者: 溪内謙

出版社：岩波書店(岩波新書)

出版年：1995

ISBN：9784004303947

世界の歴史(26)世界大戦と現代文化の開幕

著者：木村靖二、長沼秀世、柴宜弘

出版社：中央公論新社(中公文庫)

出版年：2009

ISBN：9784122051942

世界の歴史(28)第二次世界大戦から米ソ対立へ

著者：油井大三郎、古田元夫

出版社：中央公論新社(中公文庫)

出版年：2010

ISBN：9784122052765

世界の歴史(29)冷戦と経済繁栄

著者：猪木武徳、高橋進

出版社：中央公論新社(中公文庫)

出版年：2010

ISBN：9784122053243

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

各回の発表者には、課題文献の適切な要約(レジュメ)の作成と聴衆に配慮したプレゼンテーション、発表者以外の受講生には、発表の内容の理解と積極的な発言を求めます。出席率が著しく低いなど、受講態度に問題がある場合は、厳しく対処します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅱ〈Za〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 巽 淳一郎

テーマ

研究テーマを設定し、先行研究論文を解説する。

獲得目標

先行論文を批判的に読み、論理性の有無を確認し、問題点を探り、研究課題を見つける。

授業の内容

論文を解説し、内容・問題点・課題をみんなの前で発表し、自論に対する意見・批判を聞き、研究の向上に繋げる。

内 容

- 第1回 ゼミ運営と予定の策定。
- 第2回 学外授業。
- 第3回 各自研究テーマと先行研究論文に関する発表。
- 第4回 研究発表・討議。
- 第5回 研究発表・討議。
- 第6回 研究発表・討議。
- 第7回 研究発表・討議。
- 第8回 研究発表・討議。
- 第9回 研究発表・討議。
- 第10回 研究史の総括・発表・討議。
- 第11回 研究史の総括・発表・討議。
- 第12回 研究史の総括・発表・討議。
- 第13回 研究史の総括・発表・討議。
- 第14回 研究史の総括・発表・討議。
- 第15回 総括。全体討議。4回生に向けて課題設定。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

a104030250

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (50)

参加度 (30)

研究論文の解題が十分できているか、研究史の総括が十分にできているかどうかを主たる判断材料とし、発表内容の良し悪しと参加度を勘案して成績評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅱ <Zb>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学研究の方法を学ぶ

獲得目標

歴史遺産学に関する論文を執筆するための準備を行う。

授業の内容

各自が設定した研究テーマに関して論文を執筆するための作業、すなわち(1)論文執筆に必要な材料(歴史資料)をみつけ、読解すること、(2)それを用いて議論を組み立てること、を実際に行う。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。学期末には原稿用紙換算で15枚以上の小論を作成してもらう。

内 容

- 第1回 ガイダンス 研究に用いる歴史資料に関する発表
- 第2回 ガイダンス 研究に用いる歴史資料に関する発表
- 第3回 個別発表1
- 第4回 個別発表2
- 第5回 個別発表3
- 第6回 個別発表4
- 第7回 個別発表5
- 第8回 個別発表6
- 第9回 個別発表7
- 第10回 個別発表8
- 第11回 個別発表9
- 第12回 個別発表10
- 第13回 個別発表11
- 第14回 個別発表12
- 第15回 まとめ 小論執筆の進捗状況の報告

授業以外での学習方法

各自の設定したテーマに関する文献(概説書・新書・選書など)を積極的に読むこと。授業開講までに研究に必要な材料(歴史資料)を集めておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

研究テーマを設定し、論文執筆に必要な材料(歴史資料)をどれだけ読解できるかどうか、成績評価に大きく関わる。そのことをしっかりと理解して欲しい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅱ〈Zc〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 小林 裕子

テーマ

嘉承元年(1106)頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

獲得目標

親通の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、学外見学・学部講師による特別講義を実施することがある。

授業の内容

前期の演習Ⅰに引き続き『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 唐招提寺条
- 第3回 唐招提寺条
- 第4回 唐招提寺条
- 第5回 唐招提寺条
- 第6回 唐招提寺条
- 第7回 薬師寺条
- 第8回 薬師寺条
- 第9回 薬師寺条
- 第10回 法隆寺条
- 第11回 法隆寺条
- 第12回 法隆寺条
- 第13回 法隆寺条
- 第14回 学外見学あるいは外部講師による特別講義
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記

著者： 藤田経世

出版社： 中央公論美術出版

出版年： 1972年

ISBN:

参考書

奈良六大寺大観(全14巻)

著者： 奈良六大寺大観刊行会

出版社： 岩波書店

出版年： 1999~2001年

ISBN:

日本の古寺美術シリーズ

著者:

出版社： 保育社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅱ <Zd>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと

クラス指定 希望制

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の古文書を読む(初級)

獲得目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の内容

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習(1)
- 第3回 演習(2)
- 第4回 演習(3)
- 第5回 演習(4)
- 第6回 学外授業
- 第7回 演習(5)
- 第8回 演習(6)
- 第9回 演習(7)
- 第10回 演習(8)
- 第11回 学外授業
- 第12回 演習(9)
- 第13回 演習(10)
- 第14回 演習(11)
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN: 4-490-10333-6

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

出席を重視する

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅳ〈a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 巽 淳一郎

テーマ

卒業論文を完成させる。

獲得目標

先行研究を踏まえ、緻密な資料検討をおこない、独創的な見解を発表する。

授業の内容

研究内容を分かり易く発表し、みな意見・批判を聞き、至らない所を把握し論文の質向上を図る。

内 容

- 第1回 卒業論文中間発表原稿の最終チェック。
- 第2回 卒業論文中間発表原稿の最終チェック。
- 第3回 卒業論文の個別指導。
- 第4回 卒業論文の個別指導。
- 第5回 卒業論文の個別指導。
- 第6回 卒業論文の個別指導。
- 第7回 卒業論文の個別指導。
- 第8回 卒業論文の個別指導。
- 第9回 卒業論文の個別指導。
- 第10回 卒業論文の個別指導。
- 第11回 卒業論文の個別指導。
- 第12回 卒業論文口頭試問の準備。
- 第13回 卒業論文口頭試問の準備。
- 第14回 卒業論文口頭試問の準備。
- 第15回 卒業論文口頭試問の準備。
- 第16回 卒業論文口頭試問。

授業以外での学習方法

空いた時間に個別相談をおこなう。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

研究発表の取り組み方、発表内容を判断基準とし、参加度を勘案して成績評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅳ

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	有坂 道子	

テーマ

卒業論文作成にむけて

獲得目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○
 テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各
 自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について
 指導する。○論文作成にむけての個別指導

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文化財学演習(1)
- 第3回 文化財学演習(2)
- 第4回 文化財学演習(3)
- 第5回 文化財学演習(4)
- 第6回 学外授業
- 第7回 文化財学演習(5)
- 第8回 文化財学演習(6)
- 第9回 文化財学演習(7)
- 第10回 文化財学演習(8)
- 第11回 学外授業
- 第12回 文化財学演習(9)
- 第13回 文化財学演習(10)
- 第14回 文化財学演習(11)
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a104040252

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (100)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅳ <c>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 小林 裕子

テーマ

卒業論文執筆指導

獲得目標

先行研究を整理し、問題点を解決すべく自らの見解をまとめて論理を構築する論文執筆を目指す。

授業の内容

すでに作成した論文構成に沿って執筆の中間報告をおこなったうえで論文を仕上げていく。なお、必要に応じて学外授業を実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒論中間報告①
- 第3回 卒論中間報告②
- 第4回 卒論中間報告③
- 第5回 卒論中間報告④
- 第6回 学外授業
- 第7回 個別論文指導①
- 第8回 個別論文指導②
- 第9回 個別論文指導③
- 第10回 個別論文指導④
- 第11回 個別論文指導⑤
- 第12回 レイアウトの基本<図版画像処理>
- 第13回 レイアウトの基本<版面作成>
- 第14回 卒論提出
- 第15回 講評

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 ()

小テスト ()
授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅳ <d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

卒業論文の作成

獲得目標

研究史を踏まえ、研究発表し、他者に意見を求め、それを吟味、検討し、自己のオリジナリティーを客観的に表現する論文に仕上げる。

授業の内容

中間発表と論文をまとめる

内 容

- 第1回 卒論中間発表原稿作成
- 第2回 卒論中間発表原稿作成
- 第3回 卒論中間発表会
- 第4回 中間発表の講評と対応検討
- 第5回 個別・グループ指導
- 第6回 個別・グループ指導
- 第7回 個別・グループ指導
- 第8回 個別・グループ指導
- 第9回 個別指導・相互点検
- 第10回 個別指導・相互点検
- 第11回 個別指導・相互点検
- 第12回 卒論提出
- 第13回 提出事後点検
- 第14回 卒論補遺作成
- 第15回 卒論補遺作成

授業以外での学習方法

校正、見直しを確実に行う。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

a104040254

参加度（30）

取り組み姿勢、課題達成度、オリジナリティーの有無を基に評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産学概説Ⅱ〈Z〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

獲得目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の内容

多様な実習により、文化財に対すべき姿勢を習得する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習事前指導
- 第3回 歴史遺産学演習①
- 第4回 歴史遺産学演習②
- 第5回 歴史遺産学演習③
- 第6回 歴史遺産学演習④
- 第7回 演習事後学習
- 第8回 総括
- 第9回 演習事前学習
- 第10回 歴史遺産学演習①
- 第11回 歴史遺産学演習②
- 第12回 歴史遺産学演習③
- 第13回 歴史遺産学演習④
- 第14回 演習事後学習
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 民俗学Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 橋本 章彦	

テーマ

宗教民俗学入門

獲得目標

現代を生きる我々の問題として「民俗」を考えてみたい。その為に講義では、我々にとってできる限り身近な民俗的事象を取り上げる。中には、一見して民俗と何の関わりもないような話題についても考察を加えることになるであろう。皆さんは、それらの検討を通じて、現代生活と民俗の深い関わりを認識し、自分自身を民俗の視点から、今一度見つめ直す機会として欲しい。

授業の内容

以下の予定にしたがって講義を展開する。

内 容

- 第1回 江戸・民衆のあの世観—熊野観心十界図—
- 第2回 日本のお正月行事—正月はなぜあるのか(1)—
- 第3回 日本のお正月行事—正月はなぜあるのか(2)—
- 第4回 日本のお正月行事—正月はなぜあるのか(3)—
- 第5回 京都市域の民俗(1)—町屋の暮らし—
- 第6回 京都市域の民俗(2)—年中行事と食べ物—
- 第7回 京都市域の民俗(3)—社寺へバーチャル参詣・「参詣曼荼羅」の世界へ—
- 第8回 祓いの構造と現代文化—「鬼で鬼を払う」(1)—
- 第9回 祓いの構造と現代文化—「鬼で鬼を払う」(2)—
- 第10回 笑いの民俗—漫才の近代史・言祝ぎから娯楽へ(1)—
- 第11回 笑いの民俗—漫才の近代史・言祝ぎから娯楽へ(2)—
- 第12回 裸祭りの諸相—人はなぜ裸になるのか—
- 第13回 『大魔神』にまなぶ日本の民俗(1)
- 第14回 『大魔神』にまなぶ日本の民俗(2)
- 第15回 まとめにかえて—再び民俗とは何かについて考える

授業以外での学習方法

民俗学の入門書を一冊くらいは読むのが望ましい。また宗教学の講義を受けたり、もしくは概説書を読んで宗教について理解を深めておくことも重要である。

教科書

プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

民俗学概論

著者: 福田アジオ・宮田登編

出版社：吉川弘文館

出版年：

ISBN：

現代民俗学入門

著者：佐野賢治編

出版社：吉川弘文館

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（50）

参加度とは出席率を意味する。3分の2以上の出席者を採点対象として点数化する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産総合演習Ⅱ <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

獲得目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の内容

多様な実習により、文化財に対すべき姿勢を習得する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習事前指導
- 第3回 歴史遺産学演習①
- 第4回 歴史遺産学演習②
- 第5回 歴史遺産学演習③
- 第6回 歴史遺産学演習④
- 第7回 演習事後学習
- 第8回 総括
- 第9回 演習事前学習
- 第10回 歴史遺産学演習①
- 第11回 歴史遺産学演習②
- 第12回 歴史遺産学演習③
- 第13回 歴史遺産学演習④
- 第14回 演習事後学習
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産総合演習Ⅱ **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

獲得目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の内容

多様な実習により、文化財に対すべき姿勢を習得する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習事前指導
- 第3回 歴史遺産学演習①
- 第4回 歴史遺産学演習②
- 第5回 歴史遺産学演習③
- 第6回 歴史遺産学演習④
- 第7回 演習事後学習
- 第8回 総括
- 第9回 演習事前学習
- 第10回 歴史遺産学演習①
- 第11回 歴史遺産学演習②
- 第12回 歴史遺産学演習③
- 第13回 歴史遺産学演習④
- 第14回 演習事後学習
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産総合演習Ⅱ <c>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

獲得目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の内容

多様な実習により、文化財に対すべき姿勢を習得する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習事前指導
- 第3回 歴史遺産学演習①
- 第4回 歴史遺産学演習②
- 第5回 歴史遺産学演習③
- 第6回 歴史遺産学演習④
- 第7回 演習事後学習
- 第8回 総括
- 第9回 演習事前学習
- 第10回 歴史遺産学演習①
- 第11回 歴史遺産学演習②
- 第12回 歴史遺産学演習③
- 第13回 歴史遺産学演習④
- 第14回 演習事後学習
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産学基礎ゼミ I <Zc>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 25
履修条件	クラス指定
担当者 登谷 伸宏	

テーマ

『義演准后日記』を読む

獲得目標

文献史料の読解能力を養うことは、歴史遺産学研究を進めるための土台となる。本講義では古記録・古文書を解読するための基礎的な能力の獲得を目指す。さらに、論文を執筆する上で必要となる史料批判の方法についてもその基礎を学ぶ。

授業の内容

『義演准后日記』のうち、醍醐寺復興に関する記事を解読するとともに、それに関連する論文を講読する。なお、講義の一環として、記事の内容に対する理解を深めるために醍醐寺・伏見城下町の見学を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス 『義演准后日記』とは
- 第2回 文献史料を読むための準備①
- 第3回 文献史料を読むための準備②
- 第4回 『義演准后日記』を読む①
- 第5回 『義演准后日記』を読む②
- 第6回 『義演准后日記』を読む③
- 第7回 論文講読①
- 第8回 『義演准后日記』を読む④
- 第9回 『義演准后日記』を読む⑤
- 第10回 『義演准后日記』を読む⑥
- 第11回 論文講読②
- 第12回 『義演准后日記』を読む⑦
- 第13回 『義演准后日記』を読む⑧
- 第14回 『義演准后日記』を読む⑨
- 第15回 論文講読③

授業以外での学習方法

歴史的建造物・伝統的町並みに関する基本的な知識を身に付けるとともに、博物館や資料館に足を運び、文献史料に慣れ親しんで欲しい。

教科書

おさらい古文書の基礎

著者： 林英夫監修

出版社： 柏書房

出版年： 2002年

ISBN： 4-7601-2200-1

参考書

くずし字用例辞典 普及版

著者： 児玉幸多編

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅡ〈a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

考古学の論文を批判的に読む。

獲得目標

考古学の論文は、論者の知的環境(上梓された時代の資料数と質・個人の歴史観)に基づき書かれた仮説であり、決して絶対的な定説でないことを理解させる。新しい発見や研究方法の開発によって論は検証され淘汰されるべきことを伝える。

授業の内容

かつて定説だった考古学の論文が今どのように評価されているのかを検証し、無批判的に説を鵜呑みにする危険性を理解してもらおう。

内 容

- 第1回 ガイダンス。ゼミの進め方、各自課題設定。
- 第2回 学外授業。
- 第3回 論文講読。
- 第4回 論文講読。
- 第5回 論文講読。
- 第6回 論文講読。
- 第7回 論文講読。
- 第8回 研究発表討議。
- 第9回 研究発表討議。
- 第10回 研究発表討議。
- 第11回 研究発表討議。
- 第12回 研究発表討議。
- 第13回 研究発表討議。
- 第14回 研究発表討議。
- 第15回 研究発表討議。総括。

授業以外での学習方法

空いた時間に相談・指導。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

a10412a250

参加度（ 40 ）

発表内容・方法、他人の発表に対して意見を述べたかどうか、また適切な意見・批判だったかどうかを判断材料とし、参加度を勘案して成績評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産学基礎ゼミⅡ **

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	有坂 道子	

テーマ

近世の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の内容

文献史料(翻刻史料)を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献史料を読む(1)
- 第3回 文献史料を読む(2)
- 第4回 文献史料を読む(3)
- 第5回 文献史料を読む(4)
- 第6回 文献史料を読む(5)
- 第7回 文献史料を読む(6)
- 第8回 文献史料を読む(7)
- 第9回 学外授業
- 第10回 くずし字を読む(1)
- 第11回 くずし字を読む(2)
- 第12回 くずし字を読む(3)
- 第13回 くずし字を読む(4)
- 第14回 くずし字を読む(5)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

博物館・美術館の展示を積極的に見学する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産学基礎ゼミⅡ <c>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	登谷 伸宏	

テーマ

『義演准后日記』を読む

獲得目標

文献史料の読解能力を養うことは、歴史遺産学研究を進めるための土台となる。本講義では古記録・古文書を解読するための基礎的な能力の獲得を目指す。さらに、論文を執筆する上で必要となる史料批判の方法についてもその基礎を学ぶ。

授業の内容

『義演准后日記』のうち、醍醐寺復興に関する記事を解読するとともに、それに関連する論文を講読する。なお、講義の一環として、記事の内容に対する理解を深めるために醍醐寺・伏見城下町の見学を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス 『義演准后日記』とは
- 第2回 文献史料を読むための準備①
- 第3回 文献史料を読むための準備②
- 第4回 『義演准后日記』を読む①
- 第5回 『義演准后日記』を読む②
- 第6回 『義演准后日記』を読む③
- 第7回 論文講読①
- 第8回 『義演准后日記』を読む④
- 第9回 『義演准后日記』を読む⑤
- 第10回 『義演准后日記』を読む⑥
- 第11回 論文講読②
- 第12回 『義演准后日記』を読む⑦
- 第13回 『義演准后日記』を読む⑧
- 第14回 『義演准后日記』を読む⑨
- 第15回 論文講読③

授業以外での学習方法

歴史的建造物・伝統的町並みに関する基本的な知識を身に付けるとともに、博物館や資料館に足を運び、文献史料に慣れ親しんで欲しい。

教科書

おさらい古文書の基礎

著者： 林英夫監修

出版社： 柏書房

出版年： 2002年

ISBN： 4-7601-2200-1

参考書

くずし字用例辞典 普及版

著者： 児玉幸多編

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文献史料学Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

歴史考古学を学ぶ

獲得目標

歴史時代における文化遺産研究は、考古学固有の研究法からの探求とともに同時代の文献史料や文献史学の研究成果を踏まえ、総合的に進めなければいけないことを教授する。

授業の内容

内 容

- 第1回 古代の貨幣と銭貨―富本銭をめぐる諸問題
- 第2回 流記資財帳と考古学―西大寺伽藍配置の検討
- 第3回 古代の呪い 1
- 第4回 古代の呪い 2
- 第5回 古代の地鎮と鎮壇
- 第6回 大嘗祭
- 第7回 焼物の調査
- 第8回 古代焼物の器名比定
- 第9回 墨書土器・刻書土器
- 第10回 官衙官人に関する遺物 1
- 第11回 官衙官人に関する遺物 2
- 第12回 称徳天皇と百万塔
- 第13回 わが国に於ける仏教の受容と展開 1
- 第14回 わが国に於ける仏教の受容と展開 2
- 第15回 わが国に於ける喫茶の始まり
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト (0)

a10412d450

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（50）

出席度と課題達成度、試験の結果を総合して評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 美術工芸史研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

古代中国絵画史の発展様相を体系的に考察する。

獲得目標

絵画史の資料を考察することによって、中国地域における美術造形発展の重要事項を把握し、美術史学の学問体系からその重要画家、代表作品、表現様式について、様々な角度で検討する。また、近年最新の研究状況、考古学発見の紹介を加えながら、中国絵画史の歴史展開の輪郭を講じていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 中国絵画史研究の特徴および研究方法
- 第2回 漢代絵画史の諸問題—墓室壁画
- 第3回 絵画史資料からみる漢代絵画史の発展状況
- 第4回 魏晋南北朝の絵画史の諸問題
- 第5回 魏晋南北朝の代表画家—顧愷之、彫刻家戴逵
- 第6回 魏晋南北朝の出土壁画
- 第7回 絵画史資料からみる南北地域の代表画家とその作品
- 第8回 絵画史資料からみる南北朝の芸術論
- 第9回 魏晋南北朝墓室壁画の諸問題
- 第10回 隋唐時代の絵画史の諸問題
- 第11回 張彦遠『歴代名画記』にみられる漢唐時代の絵画史の発展
- 第12回 隋唐時代の代表画家とその作品
- 第13回 隋唐時代の代表画家とその作品
- 第14回 西安郊外に出土した墓室壁画の諸問題
- 第15回 内容総括

授業以外での学習方法

重要な特別展を見学し、その絵画作品を実見することによって問題意識を養うこと。また、見学などの学外授業への参加を義務づける。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件 2回生終了までに合計40
単位以上修得済みである
こと。

クラス指定 希望制

担当者 巽 淳一郎

テーマ

研究テーマを設定し、先行研究論文を解説する。

獲得目標

先行論文を批判的に読み、論理性の有無を確認し、問題点を探り、研究課題を見つける。

授業の内容

論文を解説し、内容・問題点・課題をみんなの前で発表し、自論に対する意見・批判を聞き、研究の向上に繋げる。

内 容

- 第1回 ゼミ運営と予定の策定。
- 第2回 学外授業。
- 第3回 各自研究テーマと先行研究論文に関する発表。
- 第4回 研究発表・討議。
- 第5回 研究発表・討議。
- 第6回 研究発表・討議。
- 第7回 研究発表・討議。
- 第8回 研究発表・討議。
- 第9回 研究発表・討議。
- 第10回 研究史の総括・発表・討議。
- 第11回 研究史の総括・発表・討議。
- 第12回 研究史の総括・発表・討議。
- 第13回 研究史の総括・発表・討議。
- 第14回 研究史の総括・発表・討議。
- 第15回 総括。全体討議。4回生に向けて課題設定。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

a10413a250

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (50)

参加度 (30)

研究論文の解題が十分できているか、研究史の総括が十分にできているかどうかを主たる判断材料とし、発表内容の良し悪しと参加度を勘案して成績評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと。	クラス指定 希望制
担当者 登谷 伸宏	

テーマ

歴史遺産学研究の方法を学ぶ

獲得目標

歴史遺産学に関する論文を執筆するための準備を行う。

授業の内容

各自が設定した研究テーマに関して論文を執筆するための作業、すなわち(1)論文執筆に必要な材料(歴史資料)をみつけ、読解すること、(2)それを用いて議論を組み立てること、を実際に行う。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。学期末には原稿用紙換算で15枚以上の小論を作成してもらう。

内 容

- 第1回 ガイダンス 研究に用いる歴史資料に関する発表
- 第2回 ガイダンス 研究に用いる歴史資料に関する発表
- 第3回 個別発表1
- 第4回 個別発表2
- 第5回 個別発表3
- 第6回 個別発表4
- 第7回 個別発表5
- 第8回 個別発表6
- 第9回 個別発表7
- 第10回 個別発表8
- 第11回 個別発表9
- 第12回 個別発表10
- 第13回 個別発表11
- 第14回 個別発表12
- 第15回 まとめ 小論執筆の進捗状況の報告

授業以外での学習方法

各自の設定したテーマに関する文献(概説書・新書・選書など)を積極的に読むこと。授業開講までに研究に必要な材料(歴史資料)を集めておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

研究テーマを設定し、論文執筆に必要な材料(歴史資料)をどれだけ読解できるかどうか、成績評価に大きく関わる。そのことをしっかりと理解して欲しい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学演習Ⅱ <c>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと。	クラス指定	希望制
担当者	小林 裕子	

テーマ

嘉承元年(1106)頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

獲得目標

親通の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、学外見学・学部講師による特別講義を実施することがある。

授業の内容

前期の演習Ⅰに引き続き『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 唐招提寺条
- 第3回 唐招提寺条
- 第4回 唐招提寺条
- 第5回 唐招提寺条
- 第6回 唐招提寺条
- 第7回 薬師寺条
- 第8回 薬師寺条
- 第9回 薬師寺条
- 第10回 法隆寺条
- 第11回 法隆寺条
- 第12回 法隆寺条
- 第13回 法隆寺条
- 第14回 学外見学あるいは外部講師による特別講義
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記

著者： 藤田経世

出版社： 中央公論美術出版

出版年： 1972年

ISBN:

参考書

奈良六大寺大観(全14巻)

著者： 奈良六大寺大観刊行会

出版社： 岩波書店

出版年： 1999~2001年

ISBN:

日本の古寺美術シリーズ

著者：

出版社： 保育社

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産学演習Ⅱ <d>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件 2回生終了までに合計40 単位以上修得済みである こと。	クラス指定	希望制
担当者	有坂 道子	

テーマ

近世の古文書を読む(初級)

獲得目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の内容

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習(1)
- 第3回 演習(2)
- 第4回 演習(3)
- 第5回 演習(4)
- 第6回 学外授業
- 第7回 演習(5)
- 第8回 演習(6)
- 第9回 演習(7)
- 第10回 演習(8)
- 第11回 学外授業
- 第12回 演習(9)
- 第13回 演習(10)
- 第14回 演習(11)
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN: 4-490-10333-6

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

出席を重視する

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 木簡・金石文学

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 渡辺 晃宏

テーマ

木簡を中心とする出土文字資料の特質と遺跡との関わり、そしてそれらが語る新しい歴史像

獲得目標

歴史を考える上で欠くことのできない位置を占めるようになった木簡をはじめとする出土文字資料の特質を理解した上で、実際に木簡を読み解きながら、資料としての木簡の役割について理解を深め、新しい日本史像を探求する。

授業の内容

具体的な木簡に即して、日本古代を中心とするの木簡の概論、各論を講義する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡をはじめとする出土文字資料や発掘調査の情報などを適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えているので、取り上げる木簡やその順序に変更や偏りが生じる場合がある。また、平城宮跡における現地講義に振り替える場合がある。

内 容

- 第1回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
- 第2回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
- 第3回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料が役割について考える。
- 第4回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料が役割について考える。
- 第5回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料が役割について考える。
- 第6回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第7回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第8回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第9回 735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第10回 735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第11回 735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第12回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第13回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第14回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。
- 第15回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。

授業以外での学習方法

木簡をはじめとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などへの積極的な参加を期待する。

教科書

特に使用しない。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

適宜プリントなどを配布する。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

木簡から古代がみえる(岩波新書)新赤版1256

著者: 木簡学会

出版社: 岩波書店

出版年: 2010 ISBN: 978-4004312567

木簡が語る日本の古代(岩波新書)黄版231

著者: 東野治之

出版社: 岩波書店

出版年: 1983 ISBN: 978-4004202318

平城京と木簡の世紀(講談社学術文庫)

著者: 渡辺晃宏

出版社: 講談社

出版年: 2009 ISBN: 978-4062919043

平城京1300年全検証—奈良の都を木簡から読み解く

著者: 渡辺晃宏

出版社: 柏書房

出版年: 2010 ISBN: 978-4760137404

日本古代木簡選

著者: 木簡学会

出版社: 岩波書店

出版年: 1990 ISBN: 978-4000016803

日本古代木簡集成

著者: 木簡学会

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2003 ISBN: 978-4130201360

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

試験はレポートによる場合もある。

参考URL

奈良文化財研究所

<http://mikasa.nabunken.go.jp/>

木簡データベース

<http://www.nabunken.go.jp/Open/mokkan/mokkan.html>

木簡に関する日本唯一最大の総合的データベース

木簡字典

<http://jiten.nabunken.go.jp/index.html>

木簡の画像を文字単位で検索できる画像データベース

2014 Syllabus

科目名 考古学研究Ⅳ(中世Ⅱ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

陶磁史を通じて原始・古代・中世・近世社会を読む。

獲得目標

各焼物の特性を理解し、各焼物の出現時期・背景を把握する。各時代の焼物様式と様式転換の社会的背景を考える。

授業の内容

毎回、レジュメを配布し、写真資料や実物を提示し理解に資する。

内 容

- 第1回 焼物の分類、各焼物の特性、出現時期を把握する。
- 第2回 世界及び日本における土器の発明とその恩恵。縄文土器の特徴。
- 第3回 農耕文化の土器(弥生土器)の特質。
- 第4回 古墳時代の土器(土師器)の特質。
- 第5回 せつ器(須恵器)の出現。
- 第6回 土器の一種、埴輪の話。
- 第7回 6世紀末から7世紀末の間に継起した3段階の焼物様式転換。
- 第8回 律令国家時代の焼物様式の特質。
- 第9回 陶器(7世紀末葉の緑釉陶器・奈良三彩)の出現とその特質。
- 第10回 奈良時代末、平安時代初期に継起する陶器様式の転換。
- 第11回 中世の焼物の特質1。
- 第12回 中世焼物の特質2。
- 第13回 安土桃山時代の陶器(瀬戸・美濃・唐津)の特質。茶陶の出現。
- 第14回 磁器(染付・銅島・柿右衛門)の登場と磁器生産の展開。
- 第15回 近世における陶器生産の変容。京焼の話。
- 第16回 試験。

授業以外での学習方法

授業前後にカラー版の陶磁全集や陶磁事典で焼物を調べる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (0)

a10413e050

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

試験の結果に参加度を勘案して評価。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保存科学 I**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 前期集中	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	中川 正人	

テーマ

文化財資料の科学的調査法と保存処理

獲得目標

文化財資料を対象とした科学的調査の目的と方法を学び、調査法の基礎を習得する。

授業の内容

文化財資料を材質ごとに分類し、素材や製作技法、劣化状態、保存処理法などを学ぶ。授業のなかで分析機器などを用いながら実習形式で進める。

内 容

- 第1回 木製品の用材
- 第2回 木製品の加工法
- 第3回 木製品の劣化対策
- 第4回 木製品の保存処理
- 第5回 金属製品の材質調査
- 第6回 金属製品の技法調査
- 第7回 X線ラジオグラフィー
- 第8回 ブロンズ病対策
- 第9回 赤色顔料(朱)
- 第10回 赤色顔料(ベンガラ)
- 第11回 壁画の保存
- 第12回 壁画の活用
- 第13回 木簡の赤外線観察
- 第14回 木簡の保存法(真空凍結乾燥)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文化財資料を材質や技法、さらに劣化状態などから観察しその保存法を考える。

教科書

プリントを配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a10413e110

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保存科学Ⅱ**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期集中	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	中川 正人	

テーマ

文化財資料の活用と保存環境

獲得目標

文化財資料のおかれた現状を把握し、広く活用していくための保存環境を考える

授業の内容

近年における文化財資料の保存に関するコンセプトは、資料が劣化したならば保存修復するといった考え方から、劣化を予防する総合的な環境づくりをめざしている。授業のなかで博物館等における環境対策やミュージアム・ワークショップを実習形式として取り入れる。

内 容

- 第1回 色彩の科学(色彩の原理)
- 第2回 色彩の科学(古代色名)
- 第3回 紙の保存科学(材料と製法)
- 第4回 紙の保存科学(酸性紙問題)
- 第5回 繊維の保存科学(材料と製法)
- 第6回 繊維の保存科学(劣化対策)
- 第7回 博物館の環境学－1(温度・湿度・照明)
- 第8回 博物館の環境学－2(展示・活用)
- 第9回 博物館の環境学－3(災害対策)
- 第10回 博物館活動(ミュージアム・ワークショップ)
- 第11回 文化財の保存修復－1(事前調査)
- 第12回 文化財の保存修復－2(修復技術)
- 第13回 文化財の保存修復－3(修復材料)
- 第14回 文化財の保存修復－4(修復倫理)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

博物館や美術館をはじめ寺院や神社を数多く見学し、文化財の環境対策の面から考えたい。

教科書

プリントを配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a10413e250

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 音楽演習 I <a>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	佐野 仁美	

テーマ

ピアノ演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い

獲得目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4~5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.81、82
- 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85
- 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.88、89
- 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
- 第5回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、バイエルNo.91、93
- 第6回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.93、94
- 第7回 ヘ長調のコード伴奏付け、バイエルNo.94、95
- 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.95、96
- 第9回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97
- 第10回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.97、98
- 第11回 ト長調のコード伴奏付け、バイエルNo.98、99
- 第12回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.99、100
- 第13回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.100
- 第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
- 第15回 ピアノ実技発表

授業以外での学習方法

授業中の課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集

著者： 小畑郁男・佐野仁美編著

出版社： サーベル社

出版年： 2014年

ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー

著者： 坂井康子他編著

出版社： ヤマハ・ミュージックメディア

出版年： 2008年

ISBN：

参考書

プリントを配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（10）

参加度（20）

小テスト（0）

授業中発表等（70）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 音楽演習 I

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	佐野 仁美	

テーマ

ピアノ演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い

獲得目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4~5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.81、82
- 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85
- 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.88、89
- 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
- 第5回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、バイエルNo.91、93
- 第6回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.93、94
- 第7回 ヘ長調のコード伴奏付け、バイエルNo.94、95
- 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.95、96
- 第9回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97
- 第10回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.97、98
- 第11回 ト長調のコード伴奏付け、バイエルNo.98、99
- 第12回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.99、100
- 第13回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.100
- 第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
- 第15回 ピアノ実技発表

授業以外での学習方法

授業中の課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

楽譜をどう表現するかー旋律表現のためのやさしいピアノ曲集

著者： 小畑郁男・佐野仁美編著

出版社： サーベル社

出版年： 2014年

ISBN：

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー

著者： 坂井康子他編著

出版社： ヤマハ・ミュージックメディア

出版年： 2008年

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験（0）

授業中課題（10）

参加度（20）

小テスト（0）

授業中発表等（70）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 音楽演習 I <c>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	阿部 真子・佐野 仁美	

テーマ

ピアノ演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い

獲得目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.81、82
- 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85
- 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.88、89
- 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
- 第5回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、バイエルNo.91、93
- 第6回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.93、94
- 第7回 ヘ長調のコード伴奏付け、バイエルNo.94、95
- 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.95、96
- 第9回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97
- 第10回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.97、98
- 第11回 ト長調のコード伴奏付け、バイエルNo.98、99
- 第12回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.99、100
- 第13回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.100
- 第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
- 第15回 ピアノ実技発表

授業以外での学習方法

授業中の課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

楽譜をどう表現するか―旋律表現のためのやさしいピアノ曲集

著者： 小畑郁男・佐野仁美編著

出版社： サーベル社

出版年： 2014年

ISBN：

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー

著者： 坂井康子他編著

出版社： ヤマハ・ミュージックメディア

出版年： 2008年

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験（0）

授業中課題（10）

参加度（20）

小テスト（0）

授業中発表等（70）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈幼A〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	芦名 猛夫・大久保 恭子	

テーマ

乳幼児期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

獲得目標

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

授業の内容

紙・土などの身近で原初的な素材を活用した制作や活動を重ねていく。アレンジする力を豊かにする。グループ等での仲間と協力する力を実践を通して掴み取っていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画) 紙で作る①(切り紙絵)
- 第2回 紙で作る②(切り紙絵)
- 第3回 紙で作る②(切り紙絵鑑賞)
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①: 飛び出しカード作り(計画⇒制作前半)
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②: 飛び出しカード作り(制作後半⇒鑑賞)
- 第6回 基礎的な描材と描法実践(フィンガーペインティング・スタンピング・マーブリング等)
- 第7回 自然素材を生かした造形活動『土』①: 土粘土作り(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第8回 自然素材を生かした造形活動『土』②: 作陶(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第9回 壁面掲示①: グループ作り→計画・構成
- 第10回 壁面掲示②: 完成→鑑賞
- 第11回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる①: グループ作り→計画・構成
- 第12回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる②: 作成
- 第13回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる③: 演じる・鑑賞
- 第14回 指導・展開法: 指導案の書き方
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。(美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加) ○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

教科書

資料については、授業の際に担当者よりハンドアウトします。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a30101d950

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

全回出席が前提です。

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈幼B〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	芦名 猛夫・大久保 恭子	

テーマ

乳幼児期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

獲得目標

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

授業の内容

紙・土などの身近で原初的な素材を活用した制作や活動を重ねていく。アレンジする力を豊かにする。グループ等での仲間と協力する力を実践を通して掴み取っていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画) 紙で作る①(切り紙絵)
- 第2回 紙で作る②(切り紙絵)
- 第3回 紙で作る②(切り紙絵鑑賞)
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①: 飛び出しカード作り(計画⇒制作前半)
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②: 飛び出しカード作り(制作後半⇒鑑賞)
- 第6回 基礎的な描材と描法実践(フィンガーペインティング・スタンピング・マーブリング等)
- 第7回 自然素材を生かした造形活動『土』①: 土粘土作り(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第8回 自然素材を生かした造形活動『土』②: 作陶(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第9回 壁面掲示①: グループ作り→計画・構成
- 第10回 壁面掲示②: 完成→鑑賞
- 第11回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる①: グループ作り→計画・構成
- 第12回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる②: 作成
- 第13回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる③: 演じる・鑑賞
- 第14回 指導・展開法: 指導案の書き方
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。(美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加) ○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

教科書

資料については、授業の際に担当者よりハンドアウトします。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a30101d952

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

全回出席が前提です。

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈幼C〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	芦名 猛夫・大久保 恭子	

テーマ

乳幼児期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

獲得目標

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

授業の内容

紙・土などの身近で原初的な素材を活用した制作や活動を重ねていく。アレンジする力を豊かにする。グループ等での仲間と協力する力を実践を通して掴み取っていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画) 紙で作る①(切り紙絵)
- 第2回 紙で作る②(切り紙絵)
- 第3回 紙で作る②(切り紙絵鑑賞)
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①: 飛び出しカード作り(計画⇒制作前半)
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②: 飛び出しカード作り(制作後半⇒鑑賞)
- 第6回 基礎的な描材と描法実践(フィンガーペインティング・スタンピング・マーブリング等)
- 第7回 自然素材を生かした造形活動『土』①: 土粘土作り(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第8回 自然素材を生かした造形活動『土』②: 作陶(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第9回 壁面掲示①: グループ作り→計画・構成
- 第10回 壁面掲示②: 完成→鑑賞
- 第11回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる①: グループ作り→計画・構成
- 第12回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる②: 作成
- 第13回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる③: 演じる・鑑賞
- 第14回 指導・展開法: 指導案の書き方
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。(美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加) ○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

教科書

資料については、授業の際に担当者よりハンドアウトします。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a30101d953

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

全回出席が前提です。

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈児a〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 芦名 猛夫・大久保 恭子

テーマ

児童期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

獲得目標

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

授業の内容

紙・土・竹などの身近で原初的な素材・自然素材を活用した一からの制作や活動を重ねる。アレンジする力を豊かにする。仲間と協力する力を実践を通して掴み取っていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画) 紙で作る①(切り紙絵)
 第2回 紙で作る②(切り紙絵)
 第3回 紙で作る③(切り紙絵鑑賞)
 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①:ポップアップカード作り(計画⇒制作前半)
 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②:ポップアップカード作り(制作後半⇒鑑賞)
 第6回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』①:ゲストティーチャーに学ぶ(土粘土作り)
 第7回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』②:ゲストティーチャーに学ぶ(作陶)
 第8回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』③:ゲストティーチャーに学ぶ(作陶完成⇒鑑賞)
 第9回 基礎的な技法実践(木版画)①表現構想⇒彫り
 第10回 基礎的な技法実践(木版画)②刷り⇒鑑賞
 第11回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』①:「竹ぶんぶんゴマ」のための竹切り・割り
 第12回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』②:「竹ぶんぶんゴマ」のための竹削り
 第13回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』③:「竹ぶんぶんゴマ」完成⇒回し遊び発表
 第14回 感動を描画に(竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現)①:計画・構成
 第15回 感動を描画に(竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現)②:彩色⇒鑑賞

授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。(美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加) ○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

教科書

資料については、授業の際に担当者よりハンドアウトします。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a30101d954

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

全回出席が前提です

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈児b〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	芦名 猛夫・大久保 恭子	

テーマ

児童期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

獲得目標

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

授業の内容

紙・土・竹などの身近で原初的な素材・自然素材を活用した一からの制作や活動を重ねる。アレンジする力を豊かにする。仲間と協力する力を実践を通して掴み取っていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画) 紙で作る①(切り紙絵)
 第2回 紙で作る②(切り紙絵)
 第3回 紙で作る③(切り紙絵鑑賞)
 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①:ポップアップカード作り(計画⇒制作前半)
 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②:ポップアップカード作り(制作後半⇒鑑賞)
 第6回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』①:ゲストティーチャーに学ぶ(土粘土作り)
 第7回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』②:ゲストティーチャーに学ぶ(作陶)
 第8回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』③:ゲストティーチャーに学ぶ(作陶完成⇒鑑賞)
 第9回 基礎的な技法実践(木版画)①表現構想⇒彫り
 第10回 基礎的な技法実践(木版画)②刷り⇒鑑賞
 第11回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』①:「竹ぶんぶんゴマ」のための竹切り・割り
 第12回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』②:「竹ぶんぶんゴマ」のための竹削り
 第13回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』③:「竹ぶんぶんゴマ」完成⇒回し遊び発表
 第14回 感動を描画に(竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現)①:計画・構成
 第15回 感動を描画に(竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現)②:彩色⇒鑑賞

授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。(美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加) ○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

教科書

資料については、授業の際に担当者よりハンドアウトします。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a30101d955

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

全回出席が前提です

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 こども理解 I (幼児)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 八木 英二

テーマ

実践で子どもたちと向き合う大切さ

獲得目標

幼児理解の基盤となる子どもの行為の意味と理解や発達の考え方、子どもたちがクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さなどを実際の現場での事例を通して検討し、理解を深める。

授業の内容

幼児理解の基盤となる子どもの行為の意味と理解や発達の考え方、子どもたちがクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さなどを実際の現場での事例を通して検討していく。

内 容

- 第1回 園づくりと子ども
- 第2回 現場の諸問題と保育士
- 第3回 入園当初の事例検討
- 第4回 遊べない事実
- 第5回 2歳と3歳の姿(理解の理論及び事例検討)
- 第6回 4歳と5歳の姿(理解の理論及び事例検討)
- 第7回 6歳の就学(理解の理論及び事例検討)
- 第8回 様々な保育形態
- 第9回 イメージ遊び
- 第10回 お話あそびの成立
- 第11回 クラスレベルの遊びの発展
- 第12回 春の保育事例から
- 第13回 秋の保育事例から
- 第14回 劇遊びと生活発表会
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

幼児にふさわしいと思われる童話を選び学生どうして読み聞かせをし合うなど、各自で独自のシミュレーションを重ねるような学習活動の発展を期待する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **こどもの保健 I - 1**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 80

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 忠 齋藤 洋子

テーマ

子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な基礎的保健知識を学ぶ。

獲得目標

1. 乳幼児の成長発達の特徴を理解する。2. 乳幼児の疾病の特徴や異常を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 子どもの健康と保健の意義
- 第2回 地域における保健活動と児童虐待
- 第3回 母子保健対策と保育
- 第4回 子どもの健康状態の把握
- 第5回 子どもの発育・発達と保健 I
- 第6回 子どもの発育・発達と保健 II
- 第7回 子どもの発育・発達と保健 III
- 第8回 子どもの発育・発達と保健 IV
- 第9回 先天異常
- 第10回 感染症 I
- 第11回 感染症 II
- 第12回 免疫とアレルギー疾患
- 第13回 慢性疾患
- 第14回 小児期からの生活習慣病予防の重要性
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

図表で学ぶ子どもの保健 I

著者： 加藤忠明・岩田力 編著

出版社： 建帛社

出版年：

ISBN：

参考書

よくわかる小児保健

著者： 竹内義博・大矢紀昭編

a30101e750

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

子どもの思いにこころをよせて

著者: 西川由紀子

出版社: かもがわ出版

出版年:

ISBN:

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教科教育法(算数) <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小寺 隆幸

テーマ

小学校算数の指導法を理解する

獲得目標

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

内 容

- 第1回 小学校1年生の数概念指導
- 第2回 1位数の加法・減法
- 第3回 2位数の加法・減法
- 第4回 整数の乗法
- 第5回 整数の除法
- 第6回 小数とその加減
- 第7回 小数の乗除
- 第8回 分数とその加減
- 第9回 分数の乗除
- 第10回 外延量と測定
- 第11回 内包量
- 第12回 小学校の先生の講義
- 第13回 比例
- 第14回 図形
- 第15回 統計

授業以外での学習方法

算数が日常生活の中でどう使われているか普段から関心を持つ。基本的な考え方や意味を自分で説明できるようにする。

教科書

入門算数学第二版

著者： 黒木哲徳

出版社： 日本評論社

出版年： 2009年

ISBN： 4-535-78540-3

小学校学習指導要領解説 算数編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： 2009年

ISBN： 4-491-02373-1

参考書

成績評価

試験（40）

授業中課題（20）

参加度（ ）

小テスト（20）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教科教育法(算数) **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 小寺 隆幸

テーマ

小学校算数の指導法を理解する

獲得目標

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

内 容

- 第1回 小学校1年生の数概念指導
- 第2回 1位数の加法・減法
- 第3回 2位数の加法・減法
- 第4回 整数の乗法
- 第5回 整数の除法
- 第6回 小数とその加減
- 第7回 小数の乗除
- 第8回 分数とその加減
- 第9回 分数の乗除
- 第10回 外延量と測定
- 第11回 内包量
- 第12回 小学校の先生の講義
- 第13回 比例
- 第14回 図形
- 第15回 統計

授業以外での学習方法

算数が日常生活の中でどう使われているか普段から関心を持つ。基本的な考え方や意味を自分で説明できるようにする。

教科書

入門算数学第二版

著者： 黒木哲徳

出版社： 日本評論社

出版年： 2009年

ISBN： 4-535-78540-3

小学校学習指導要領解説 算数編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： 2009年

ISBN： 4-491-02373-1

参考書

成績評価

試験（40）

授業中課題（20）

参加度（）

小テスト（20）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教科教育法(理科) <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	三上 周治	

テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

獲得目標

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大変大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。

授業の内容

学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

内 容

- 第1回 理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
- 第2回 「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進。光の反射。
- 第3回 「くうき」(ものの場所性・不可入性)
- 第4回 熱と温度／熱の伝導と熱の移動(対流・輻射)熱によるものの変化(I): 膨張
- 第5回 熱によるものの変化(II): 三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
- 第6回 種の実りと種の拡散
- 第7回 気体と燃焼＝気体
- 第8回 気体と燃焼＝燃焼
- 第9回 豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
- 第10回 磁石の性質とはたらき(小3&小6)／磁石ごまの製作
- 第11回 電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
- 第12回 「やじろべえ」を教材化する
- 第13回 「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
- 第14回 水溶液の性質とはたらき(1)＝酸性の水溶液
- 第15回 水溶液の性質とはたらき(2)＝アルカリ性の水溶液

授業以外での学習方法

(1)小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

小学校学習指導要領(理科編)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

新しい理科の教科書』小学3年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学4年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学5年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学6年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

参考書

その都度紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教科教育法(理科)

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	三上 周治	

テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

獲得目標

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大変大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。

授業の内容

学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

内 容

- 第1回 理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
- 第2回 「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進。光の反射。
- 第3回 「くうき」(ものの場所性・不可入性)
- 第4回 熱と温度／熱の伝導と熱の移動(対流・輻射)熱によるものの変化(I): 膨張
- 第5回 熱によるものの変化(II): 三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
- 第6回 種の実りと種の拡散
- 第7回 気体と燃焼＝気体
- 第8回 気体と燃焼＝燃焼
- 第9回 豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
- 第10回 磁石の性質とはたらき(小3&小6)／磁石ごまの製作
- 第11回 電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
- 第12回 「やじろべえ」を教材化する
- 第13回 「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
- 第14回 水溶液の性質とはたらき(1)＝酸性の水溶液
- 第15回 水溶液の性質とはたらき(2)＝アルカリ性の水溶液

授業以外での学習方法

(1)小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

小学校学習指導要領(理科編)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

新しい理科の教科書』小学3年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学4年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学5年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学6年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

参考書

その都度紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教科教育法(音楽) <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	佐野 仁美	

テーマ

音楽授業をつくる

獲得目標

(1)小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。(2)授業を進めるための実践的な方法を理解する。(3)特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

内 容

- 第1回 オリエンテーションー音楽科教育の目的
- 第2回 表現・歌唱ー共通教材
- 第3回 表現・歌唱ー教科書歌唱教材
- 第4回 表現・歌唱ー合唱曲、世界の歌
- 第5回 表現・歌唱と器楽ーリズム
- 第6回 表現・器楽ーリコーダー、鍵盤ハーモニカ
- 第7回 表現・器楽ー合奏
- 第8回 表現・創作ー音楽づくりと手作り楽器
- 第9回 鑑賞ー鑑賞教材による授業づくり
- 第10回 国際理解／異文化理解に挑戦する授業
- 第11回 授業行為と音楽授業
- 第12回 実践事例から学ぶ
- 第13回 指導案の作成と準備
- 第14回 模擬授業ー器楽・創作
- 第15回 模擬授業ー歌唱

授業以外での学習方法

音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。

教科書

初等科音楽教育法(改訂版)

著者: 初等科音楽教育研究会編

出版社: 音楽之友社

出版年:

ISBN:

参考書

a30102d850

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教科教育法(音楽)

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	佐野 仁美	

テーマ

音楽授業をつくる

獲得目標

(1)小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。(2)授業を進めるための実践的な方法を理解する。(3)特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

内 容

- 第1回 オリエンテーションー音楽科教育の目的
- 第2回 表現・歌唱ー共通教材
- 第3回 表現・歌唱ー教科書歌唱教材
- 第4回 表現・歌唱ー合唱曲、世界の歌
- 第5回 表現・歌唱と器楽ーリズム
- 第6回 表現・器楽ーリコーダー、鍵盤ハーモニカ
- 第7回 表現・器楽ー合奏
- 第8回 表現・創作ー音楽づくりと手作り楽器
- 第9回 鑑賞ー鑑賞教材による授業づくり
- 第10回 国際理解／異文化理解に挑戦する授業
- 第11回 授業行為と音楽授業
- 第12回 実践事例から学ぶ
- 第13回 指導案の作成と準備
- 第14回 模擬授業ー器楽・創作
- 第15回 模擬授業ー歌唱

授業以外での学習方法

音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。

教科書

初等科音楽教育法(改訂版)

著者: 初等科音楽教育研究会編

出版社: 音楽之友社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教科教育法(家庭) <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	大塚 真理子	

テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

獲得目標

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。

授業の内容

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

内 容

- 第1回 学習指導要領改訂のいきさつ
- 第2回 家庭科の内容構成
- 第3回 家庭科の目標・内容
- 第4回 指導計画作成上の留意点
- 第5回 家庭科学習指導案の書き方(1)(教材と教具)
- 第6回 家庭科学習指導案の書き方(2)(児童と生活実態)
- 第7回 年間指導計画、題材計画について
- 第8回 指導形態及び指導方法
- 第9回 視聴覚教材とその取り扱いについて
- 第10回 授業をする技術
- 第11回 評価の目的・評価の観点について
- 第12回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する①(日常の食事と調理)
- 第13回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する②(衣服と住まい)
- 第14回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する③(消費生活と環境)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

家庭や生活、特に子どもの生活課題に関する記事やニュースに関心を持ってください。家庭科の指導や、授業の題材につながるものが多いことに気付くでしょう。

教科書

教科書「新しい家庭5・6」

著者:

出版社: 東京書籍

出版年:

ISBN: 487-10390-4

初等家庭科教育法

著者： 加地芳子・大塚真理子

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2011

ISBN： 623-05986-7

参考書

小学校学習指導要領解説 家庭編

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（20）

授業中課題（50）

授業中発表等（10）

参加度（20）

授業中課題は指導案や実習レポート、製作品などで、授業中発表は模擬授業である。参加度は班活動や授業の感想などから評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教科教育法(家庭) **

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	大塚 真理子	

テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

獲得目標

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。

授業の内容

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

内 容

- 第12回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する①(日常の食事と調理)
- 第13回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する②(衣服と住まい)
- 第14回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する③(消費生活と環境)
- 第15回 まとめ
- 第1回 学習指導要領改訂のいきさつ
- 第2回 家庭科の内容構成
- 第3回 家庭科の目標・内容
- 第4回 指導計画作成上の留意点
- 第5回 家庭科学習指導案の書き方(1)(教材と教具)
- 第6回 家庭科学習指導案の書き方(2)(児童と生活実態)
- 第7回 年間指導計画、題材計画について
- 第8回 指導形態及び指導方法
- 第9回 視聴覚教材とその取り扱いについて
- 第10回 授業をする技術
- 第11回 評価の目的・評価の観点について

授業以外での学習方法

家庭や生活、特に子どもの生活課題に関する記事やニュースに関心を持ってください。家庭科の指導や、授業の題材につながるものが多いことに気付くでしょう。

教科書

教科書「新しい家庭5・6」

著者:

出版社: 東京書籍

出版年:

ISBN: 487-10390-4

初等家庭科教育法

著者： 加地芳子・大塚真理子

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2011

ISBN： 623-05986-7

参考書

小学校学習指導要領解説 家庭編

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（20）

授業中課題（50）

授業中発表等（10）

参加度（20）

授業中課題は指導案や実習レポート、製作品などで、授業中発表は模擬授業である。参加度は班活動や授業の感想などから評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会的養護**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護の現状及び課題の理解

獲得目標

社会的養護の現代的意義と歴史の変遷について学び、児童家庭福祉との関連性について理解する。また、社会的養護の制度および実施体制等を学び、子どもの権利擁護及び自立支援についての理解を深める。

授業の内容

社会的養護のもとにある子どもとその家族の課題・背景を理解し、彼らを支援する姿勢、援助計画、援助の進め方、活用資源などを学ぶ。

内 容

- 第1回 社会的養護とは何か
- 第2回 現代社会に暮らす子どもと家庭
- 第3回 子どもの権利
- 第4回 子どもの養護の歴史
- 第5回 社会的養護の体系
- 第6回 社会的養護の制度
- 第7回 施設養護の特質
- 第8回 施設養護の基本原則
- 第9回 日常生活及び自立支援
- 第10回 治療的・支援的援助
- 第11回 親子、地域との関係調整
- 第12回 社会的養護とソーシャルワーク
- 第13回 児童福祉施設の運営管理
- 第14回 社会的養護のあるべき姿
- 第15回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

講義中に紹介された参考文献を読み進める。

教科書

社会的養護

著者： 小池由佳/山縣文治

出版社： ミネルバ書房

出版年： 2013

ISBN： 978-4-623-05669

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 こどもの保健Ⅱ〈幼A〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	齋藤 洋子	

テーマ

健全な子どもの成長発達を促すために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

獲得目標

1. 乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を学ぶ。2. 乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。3. 乳幼児の病気時の看護の知識と技術を学ぶ。4. 乳幼児の事故防止と安全な保育環境についての知識と技術を学ぶ。

授業の内容

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について実習を通して習得する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 子どもの保健と保育
- 第2回 乳幼児の養護(衣類の着脱・おむつ交換等)
- 第3回 乳幼児の身体計測
- 第4回 乳幼児の生理機能の測定(バイタルサインの測定)
- 第5回 乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価
- 第6回 乳幼児の運動機能の発達と評価
- 第7回 乳幼児の歯の健康
- 第8回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当(電法)
- 第10回 乳幼児の異常症状と手当(嘔吐下痢の処理)
- 第11回 乳幼児の擬古と応急手当
- 第12回 心肺蘇生法
- 第13回 健康(安全)教育(グループワーク)
- 第14回 保健だより(グループワーク)
- 第15回 保育における環境衛生 保育者の健康管理
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

事前に教科書の内容を読んで授業(実習)に臨むこと。

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者: 高内雅子 編著

出版社: 建帛社

出版年:

ISBN:

産婦人科の窓口から

著者： 河野美代子

出版社： 十月舎

出版年：

ISBN：

参考書

保育保健の基礎知識

著者： 巷野悟郎 監修

出版社： 日本小児医事出版社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（20）

参加度（10）

「産婦人科の窓口から」を読んでレポートの提出を求める(20%) 授業中に提出を求める課題・グループワークの発表(20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **こどもの保健Ⅱ〈幼B〉**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	森岡 順子	

テーマ

子どもが健全に成長・発達するために必要な知識と技術を深める。

獲得目標

1、乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を習得する。2、乳幼児の健康管理の知識と技術を習得する。3、乳幼児の病気時の看護の知識と技術を習得する。4、乳幼児の事故防止・安全な保育環境の知識と技術を習得する。

授業の内容

乳幼児の日常生活の養護・健康管理・病気時の看護・事故防止・安全な保育環境について実習等を通して身につける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、保育に必要な保健演習 子どもの保健と保育者の保健
- 第2回 保育者の手洗い 乳幼児の養護(抱き方、おんぶの仕方)
- 第3回 乳幼児の養護(衣服の着脱、おむつ交換)
- 第4回 子どもの保健と母子保健 乳幼児の歯の健康(歯ブラシ持参)
- 第5回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
- 第6回 乳幼児の身体計測
- 第7回 乳幼児の生理機能の測定
- 第8回 乳幼児の異常症状と手当て(下痢・嘔吐の処理)
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当て(霰法)
- 第10回 乳幼児の事故と応急手当て
- 第11回 心肺蘇生法
- 第12回 乳幼児の精神・運動機能の発達
- 第13回 保育における環境衛生 集団保育と保健
- 第14回 保健だより作成
- 第15回 健康教育資料作成
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者: 高内正子

出版社: ケンパク社

出版年:

ISBN:

産婦人科の窓口から

著者： 河野美代子

出版社： 十月舎

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（50%）

小テスト（）

授業中課題（20%）

授業中発表等（15%）

参加度（15%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 こどもの保健Ⅱ〈幼C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 森岡 順子

テーマ

1、乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を習得する。

獲得目標

1、乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を習得する。2、乳幼児の健康管理の知識と技術を習得する。3、乳幼児の病気時の看護の知識と技術を習得する。4、乳幼児の事故防止・安全な保育環境の知識と技術を習得する。

授業の内容

乳幼児の日常生活の養護・健康管理・病気時の看護・事故防止・安全な保育環境について実習等を通して身につける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、保育に必要な保健演習 子どもの保健と保育者の保健
- 第2回 保育者の手洗い 乳幼児の養護(抱き方、おんぶの仕方)
- 第3回 乳幼児の養護(衣服の着脱、おむつ交換)
- 第4回 子どもの保健と母子保健 乳幼児の歯の健康(歯ブラシ持参)
- 第5回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
- 第6回 乳幼児の身体計測
- 第7回 乳幼児の生理機能の測定
- 第8回 乳幼児の異常症状と手当て(下痢・嘔吐の処理)
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当て(霰法)
- 第10回 乳幼児の事故と応急手当て
- 第11回 心肺蘇生法
- 第12回 乳幼児の精神・運動機能の発達
- 第13回 保育における環境衛生 集団保育と保健
- 第14回 保健だより作成
- 第15回 健康教育資料作成
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者： 高内正子

出版社： ケンパク社

出版年：

ISBN：

産婦人科の窓口から

著者： 河野美代子

出版社： 十月舎

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（50%）

小テスト（）

授業中課題（20%）

授業中発表等（15%）

参加度（15%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ〈a〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 倉持 祐二	

テーマ

“子どものくらしと学び”をテーマにした研究と実践に学ぶ

獲得目標

“子どものくらしと学び”をテーマにした文献を幅広く収集し、その中から関心のあるテーマにそって内容を理解してまとめ、順番に発表を行う。質疑・応答・討議では、各自の発表の到達点と課題を明らかにしていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション 文献検索の方法について
- 第2回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む①
- 第3回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む②
- 第4回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む③
- 第5回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む④
- 第6回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む⑤
- 第7回 現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む⑥
- 第8回 奈良教育大学付属幼稚園のとりくみに学ぶ
- 第9回 奈良教育大学付属小学校のとりくみに学ぶ
- 第10回 教育実習・保育実習でのとりくみを検討する①
- 第11回 教育実習・保育実習でのとりくみを検討する②
- 第12回 教育実習・保育実習でのとりくみを検討する③
- 第13回 教育実習・保育実習でのとりくみを検討する④
- 第14回 教育実習・保育実習でのとりくみを検討する⑤
- 第15回 卒業論文のテーマを考える
- 第16回 (学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある)

授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけるために、大学図書館を利用し、『教育』『生活教育』『歴史地理教育』『社会科教育』『どの子も伸びる』『授業づくりネットワーク』『作文と教育』などの教育関係の雑誌を定期的に読む。

教科書

担当者によるハンドアウト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 口野 隆史	

テーマ

子どもの発達と教育をめぐる諸問題

獲得目標

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みその内容を理解する。その上で、テーマに沿って調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題についての理解を深める

授業の内容

「教育演習Ⅰ」の中で深めようとしたテーマにそって、新しい文献や論文ならびに教育実践記録などを幅広く収集する。そして、それらの内容を理解し、整理し、順番に発表を行う。質疑・応答・討議では、各自の発表の到達点と課題を明らかにしていく。

内 容

- 第1回 夏期休暇の研究成果の交流。後期個別発表の計画づくり。
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議(実習での課題を明確にする)⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議(実習での課題を明確にする)⑥
- 第8回 中間まとめ(各自及び全体の進捗状況の確認と今後課題)
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議(実習での経験・成果を交流する)⑦
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議(実習での経験・成果を交流する)⑧
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
- 第15回 後期の振り返りと最終学年への課題・まとめ(学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある)

授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけ出すために、本学や他大学、その他の図書館を利用して、子どもの発達、教育、実践等の文献・資料を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

a30103ab52

参加度（20）

授業中、他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 大久保 恭子

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する

獲得目標

人格形成と結びついた表現の意味を探る視点を掴み、子どもの発達と表現との関わりを、さまざまな角度から深く追求する力を身につける。各自が問題意識による研究活動第二段階に入る。

授業の内容

内 容

- 第1回 前期以降の研究成果の交流、各自の研究計画発表
 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬
 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑭

授業以外での学習方法

○学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加…を適宜、行うことがある ○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、論文(実績のある大学のそれらに関わる論文集)や実践報告を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

a30103ab53

参加度（40%）
全回出席を前提とする

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <d>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	三上 周治	

テーマ

小学校の学級経営および教科教育にかんする研究。

獲得目標

1)文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。2)学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
- 第2回 研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言
- 第3回 論文を読み解き、まとめる作業①
- 第4回 論文を読み解き、まとめる作業②
- 第5回 実習における学びの報告①
- 第6回 実習における学びの報告②
- 第7回 実習における学びの報告③
- 第8回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①
- 第9回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②
- 第10回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③
- 第11回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④
- 第12回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤
- 第13回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥
- 第14回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦
- 第15回 まとめ:1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

授業以外での学習方法

各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。

教科書

授業時に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 佐野 仁美

テーマ

子どもと音楽の関わりについて考察を深める。

獲得目標

1)文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。2)学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
- 第2回 研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言
- 第3回 論文を読み解き、まとめる作業①
- 第4回 論文を読み解き、まとめる作業②
- 第5回 実習における学びの報告①
- 第6回 実習における学びの報告②
- 第7回 実習における学びの報告③
- 第8回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①
- 第9回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②
- 第10回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③
- 第11回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④
- 第12回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤
- 第13回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥
- 第14回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦
- 第15回 まとめ:1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

授業以外での学習方法

各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。

教科書

授業時に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ〈f〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 池田 修	

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する理論と実践に学ぶ。

獲得目標

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

授業の内容

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

内 容

- 第1回 夏休みの研究成果の交流、個別発表の計画づくり。
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬
- 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑭

授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践(『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載)を読む。教育研究会に積極的に参加する。

教科書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <g>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護のもとにある児童に関わる諸課題を基本文献から学ぶ。

獲得目標

基本となる文献を読み、各自が関心のあるテーマを探す。

授業の内容

内 容

- 第1回 各自の課題の検討
- 第2回 基本文献1の講読の分担報告-1
- 第3回 基本文献1の講読の分担報告-2
- 第4回 基本文献1の講読の分担報告-3
- 第5回 基本文献1の講読の分担報告-4
- 第6回 質疑・応答・討議
- 第7回 基本文献2の講読の分担報告-1
- 第8回 基本文献2の講読の分担報告-2
- 第9回 基本文献2の講読の分担報告-3
- 第10回 基本文献2の講読の分担報告-4
- 第11回 質疑・応答・討議
- 第12回 基本文献3の講読の分担報告-1
- 第13回 基本文献3の講読の分担報告-2
- 第14回 基本文献3の講読の分担報告-3
- 第15回 基本文献3の講読の分担報告-4

授業以外での学習方法

基本文献のほかに、各自の関心あるテーマに関して、大学図書館等を活用して、できるだけ多くの文献を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育演習Ⅱ <h>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 15
履修条件	クラス指定 希望制
担当者 青木 美智子	

テーマ

保育・教育にかかわる研究課題を深める

獲得目標

子どもの成長発達について、その保育・教育活動について、あるいは子どもをとりまく社会について等々、受講生がそれぞれの視点から課題に取り組み、問題意識を深め、研究の方法を獲得していくことを目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 ゼミ活動の計画と確認
- 第2回 論文の書き方について1
- 第3回 文献講読から学ぶ1
- 第4回 文献講読から学ぶ2
- 第5回 文献講読から学ぶ3
- 第6回 論文の書き方について2
- 第7回 受講生のテーマについての報告1
- 第8回 受講生のテーマについての報告2
- 第9回 受講生のテーマについての報告3
- 第10回 受講生のテーマについての報告4
- 第11回 論文の書き方について3
- 第12回 受講生のテーマに就いての報告5
- 第13回 受講生のテーマについての報告6
- 第14回 受講生のテーマについての報告7
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

各自の問題意識に沿って、文献や資料の収集を進める。

教科書

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

a30103ab58

成績評価

試験（0%）

授業中課題（50%）

参加度（0%）

小テスト（0%）

授業中発表等（50%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <i>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 神谷 栄司

テーマ

卒業論文の課題意識をより詳細に発表し、自分にとっての意味を深める。

獲得目標

1)卒業論文の課題意識をより詳細に発表し、相互交流を図りつつ、各自にとっての意味を深めていく。2)ゼミ内の意思疎通を図るために親睦の活動を位置づける。

授業の内容

卒業論文の課題意識をより詳細に発表する(1コマ当たり1人発表)

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文の課題意識の発表(1)
- 第3回 卒業論文の課題意識の発表(2)
- 第4回 卒業論文の課題意識の発表(3)
- 第5回 卒業論文の課題意識の発表(4)
- 第6回 卒業論文の課題意識の発表(5)
- 第7回 卒業論文の課題意識の発表(6)
- 第8回 卒業論文の課題意識の発表(7)
- 第9回 卒業論文の課題意識の発表(8)
- 第10回 卒業論文の課題意識の発表(9)
- 第11回 卒業論文の課題意識の発表(10)
- 第12回 卒業論文の課題意識の発表(11)
- 第13回 卒業論文の課題意識の発表(12)
- 第14回 卒業論文の課題意識の発表(13)
- 第15回 卒業論文の課題意識の発表(14)

授業以外での学習方法

各自の課題意識に関連する単行本・論文を学習しつつ、論文の構想を試行錯誤を含めて組み立てていく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生徒・進路指導(初)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 大平 勲	

テーマ

進路・生徒指導の理論と実践

獲得目標

学校現場における進路・生徒指導の理論と実践を具体的な事例を通して学ぶことを目的とする。

授業の内容

講義とグループ討議・交流を原則とする。1回～3回までは進路・生徒指導の理論・歴史講義。具体的な事例からは「課題・問題」についてグループ討議、発表交流・まとめをする。(授業はじめに前時まとめと教育関係ニュース紹介)

内 容

- 第1回 こどもの現状・課題と進路・生徒指導 授業計画と授業の進め方
- 第2回 進路指導の理論とその歴史・課題
- 第3回 生徒指導の理論とその歴史・課題
- 第4回 集団に入れない子ども・登校しぶりの対応どうするか
- 第5回 不登校の子どもの理解とその指導
- 第6回 幼い子どもの「いじめ」その理解と対応
- 第7回 「いじめ」問題子どもの心・本音と指導
- 第8回 子どもの「けんか」「暴力」とその指導
- 第9回 子どもの「問題行動」「万引き」の指導と対応
- 第10回 「問題行動」「非行」問題とその指導
- 第11回 子どもの「荒れ」「学級崩壊」とその対応
- 第12回 学級の規律・問題と集団作り
- 第13回 課題を持つ子どもと学級行事・取り組み
- 第14回 子どもの問題と進路指導の課題
- 第15回 「進路・生徒指導」まとめと試験・評価について

授業以外での学習方法

課題レポートを丁寧に書き、掲載された「講座通信」を熟読し受講生の意見への共感や反論を考察する。教育に関するニュースや情報を新聞やネットで知る。

教科書

講義冊子15回分を配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

子ども主人公の学校づくり

著者: 大平勲

出版社：知書之屋本舗

出版年：2005年

ISBN:

風雨強けれど光り輝く

著者：大平勲他

出版社：つむぎ出版

出版年：2011年

ISBN: 978-4-876-68

成績評価

試験（70%）

小テスト（）

授業中課題（10%）

授業中発表等（10%）

参加度（10%）

試験問題を含めて授業への集中参加が成績評価を左右する

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 一柳 敦子	

テーマ

幼稚園教諭としての役割や幼児教育に関する様々な専門性に関する学びを広げるとともに保育者としてふさわしい人間性や資質を磨く。

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の養成 教⑥物事を論理的に分析する能力の養成 児〇教育・保育に対する視野を広げる。

授業の内容

幼稚園教育実習の目的や内容を理解し、必要な技術や知識について積極的に学び、実習への期待を高めるとともに、子どもと関わるためにふさわしい人間性と資質を磨こうとする態度の育成を目指す。

内 容

- 第1回 幼稚園教育実習の意義と目的の理解(視聴覚教材等) 帳票類の確認
- 第2回 教育課程と指導計画の理解 実習簿や記録の書き方 (演習)
- 第3回 指導案の作成①・書いてみよう (演習)
- 第4回 指導案の作成②・ディスカッションと修正
- 第5回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法①・表現活動(実技) 直前指導
- 第6回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法②・集団遊び(実技)
- 第7回 幼稚園教育実習における意見交換
- 第8回 幼稚園教育実習のまとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園)

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	

テーマ

幼稚園教諭としての役割や幼児教育に関する様々な専門性に関する学びを広げるとともに保育者としてふさわしい人間性や資質を磨く。

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の養成 教⑥物事を論理的に分析する能力の養成 児〇教育・保育に対する視野を広げる。

授業の内容

幼稚園教育実習の目的や内容を理解し、必要な技術や知識について積極的に学び、実習への期待を高めるとともに、子どもと関わるためにふさわしい人間性と資質を磨こうとする態度の育成を目指す。

内 容

- 第1回 幼稚園教育実習の意義と目的の理解(視聴覚教材等) 帳票類の確認
- 第2回 教育課程と指導計画の理解 実習簿や記録の書き方 (演習)
- 第3回 指導案の作成①・書いてみよう (演習)
- 第4回 指導案の作成②・ディスカッションと修正
- 第5回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法①・表現活動(実技) 直前指導
- 第6回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法②・集団遊び(実技)
- 第7回 幼稚園教育実習における意見交換
- 第8回 幼稚園教育実習のまとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 大山 弘美	

テーマ

幼稚園教諭としての役割や幼児教育に関する様々な専門性に関する学びを広げるとともに保育者としてふさわしい人間性や資質を磨く。

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の養成 教⑥物事を論理的に分析する能力の養成 児〇教育・保育に対する視野を広げる。

授業の内容

幼稚園教育実習の目的や内容を理解し、必要な技術や知識について積極的に学び、実習への期待を高めるとともに、子どもと関わるためにふさわしい人間性と資質を磨こうとする態度の育成を目指す。

内 容

- 第1回 幼稚園教育実習の意義と目的の理解(視聴覚教材等) 帳票類の確認
- 第2回 教育課程と指導計画の理解 実習簿や記録の書き方 (演習)
- 第3回 指導案の作成①・書いてみよう (演習)
- 第4回 指導案の作成②・ディスカッションと修正
- 第5回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法①・表現活動(実技) 直前指導
- 第6回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法②・集団遊び(実技)
- 第7回 幼稚園教育実習における意見交換
- 第8回 幼稚園教育実習のまとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <d>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 杉江 由紀子	

テーマ

幼稚園教諭としての役割や幼児教育に関する様々な専門性に関する学びを広げるとともに保育者としてふさわしい人間性や資質を磨く。

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の養成 教⑥物事を論理的に分析する能力の養成 児〇教育・保育に対する視野を広げる。

授業の内容

幼稚園教育実習の目的や内容を理解し、必要な技術や知識について積極的に学び、実習への期待を高めるとともに、子どもと関わるためにふさわしい人間性と資質を磨こうとする態度の育成を目指す。

内 容

- 第1回 幼稚園教育実習の意義と目的の理解(視聴覚教材等) 帳票類の確認
- 第2回 教育課程と指導計画の理解 実習簿や記録の書き方 (演習)
- 第3回 指導案の作成①・書いてみよう (演習)
- 第4回 指導案の作成②・ディスカッションと修正
- 第5回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法①・表現活動(実技) 直前指導
- 第6回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法②・集団遊び(実技)
- 第7回 幼稚園教育実習における意見交換
- 第8回 幼稚園教育実習のまとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <e>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 谷口 敦子	

テーマ

幼稚園教諭としての役割や幼児教育に関する様々な専門性に関する学びを広げるとともに保育者としてふさわしい人間性や資質を磨く。

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の養成 教⑥物事を論理的に分析する能力の養成 児〇教育・保育に対する視野を広げる。

授業の内容

幼稚園教育実習の目的や内容を理解し、必要な技術や知識について積極的に学び、実習への期待を高めるとともに、子どもと関わるためにふさわしい人間性と資質を磨こうとする態度の育成を目指す。

内 容

- 第1回 幼稚園教育実習の意義と目的の理解(視聴覚教材等) 帳票類の確認
- 第2回 教育課程と指導計画の理解 実習簿や記録の書き方 (演習)
- 第3回 指導案の作成①・書いてみよう (演習)
- 第4回 指導案の作成②・ディスカッションと修正
- 第5回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法①・表現活動(実技) 直前指導
- 第6回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法②・集団遊び(実技)
- 第7回 幼稚園教育実習における意見交換
- 第8回 幼稚園教育実習のまとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <f>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	

テーマ

幼稚園教諭としての役割や幼児教育に関する様々な専門性に関する学びを広げるとともに保育者としてふさわしい人間性や資質を磨く。

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の養成 教⑥物事を論理的に分析する能力の養成 児〇教育・保育に対する視野を広げる。

授業の内容

幼稚園教育実習の目的や内容を理解し、必要な技術や知識について積極的に学び、実習への期待を高めるとともに、子どもと関わるためにふさわしい人間性と資質を磨こうとする態度の育成を目指す。

内 容

- 第1回 幼稚園教育実習の意義と目的の理解(視聴覚教材等) 帳票類の確認
- 第2回 教育課程と指導計画の理解 実習簿や記録の書き方 (演習)
- 第3回 指導案の作成①・書いてみよう (演習)
- 第4回 指導案の作成②・ディスカッションと修正
- 第5回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法①・表現活動(実技) 直前指導
- 第6回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法②・集団遊び(実技)
- 第7回 幼稚園教育実習における意見交換
- 第8回 幼稚園教育実習のまとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <g>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 山口 陽子	

テーマ

幼稚園教諭としての役割や幼児教育に関する様々な専門性に関する学びを広げるとともに保育者としてふさわしい人間性や資質を磨く。

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の養成 教⑥物事を論理的に分析する能力の養成 児〇教育・保育に対する視野を広げる。

授業の内容

幼稚園教育実習の目的や内容を理解し、必要な技術や知識について積極的に学び、実習への期待を高めるとともに、子どもと関わるためにふさわしい人間性と資質を磨こうとする態度の育成を目指す。

内 容

- 第1回 幼稚園教育実習の意義と目的の理解(視聴覚教材等) 帳票類の確認
- 第2回 教育課程と指導計画の理解 実習簿や記録の書き方 (演習)
- 第3回 指導案の作成①・書いてみよう (演習)
- 第4回 指導案の作成②・ディスカッションと修正
- 第5回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法①・表現活動(実技) 直前指導
- 第6回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法②・集団遊び(実技)
- 第7回 幼稚園教育実習における意見交換
- 第8回 幼稚園教育実習のまとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

幼稚園教育要領解説

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育実習指導(幼稚園) <h>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 吉田 裕子	

テーマ

幼稚園教諭としての役割や幼児教育に関する様々な専門性に関する学びを広げるとともに保育者としてふさわしい人間性や資質を磨く。

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の養成 教⑥物事を論理的に分析する能力の養成 児〇教育・保育に対する視野を広げる。

授業の内容

幼稚園教育実習の目的や内容を理解し、必要な技術や知識について積極的に学び、実習への期待を高めるとともに、子どもと関わるためにふさわしい人間性と資質を磨こうとする態度の育成を目指す。

内 容

- 第1回 幼稚園教育実習の意義と目的の理解(視聴覚教材等) 帳票類の確認
- 第2回 教育課程と指導計画の理解 実習簿や記録の書き方 (演習)
- 第3回 指導案の作成①・書いてみよう (演習)
- 第4回 指導案の作成②・ディスカッションと修正
- 第5回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法①・表現活動(実技) 直前指導
- 第6回 幼児期に適した教材や保育技術、指導法②・集団遊び(実技)
- 第7回 幼稚園教育実習における意見交換
- 第8回 幼稚園教育実習のまとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 学校調査IV(海外)

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 倉持 祐二	

テーマ

タイの学校や少数民族の子どもたちの寮などの教育施設を訪問し、見聞を広める

獲得目標

タイの教育施設を見学する。タイの授業のようす、子どもたちのくらしぶり、教師の仕事について見聞を広め、日本の教育機関と対比しながら、それぞれの特徴、相違点や共通点について理解を深める。

授業の内容

今年度は、2015年2月上旬に、タイのチェンマイ周辺の幼稚園・小学校・中学校・高校、少数民族の寮を訪問する。おおよそ10日間の間に学校を訪問し、授業を参観するとともに、先生や子どもたちとも交流する予定である。また、チェンマイ・ラチャパット大学人文社会科学部日本語学科の学生とも交流し、タイの教育事情について見聞を広める。受講(参加)にあたっては、①事前ガイダンスに出席すること、②出発前の課題にきちんと取り組むこと、③調査の目的を明確にすることを求める。詳細なスケジュールは受講者に別に提示する。

内 容

- 第1回 タイの政治・経済・文化・教育の状況をつかむために、テキストを輪読する。
 第2回 タイの教育・文化・言語などを調べ、調べたことを交流する。
 第3回 帰国後に調査報告集を作成する。

授業以外での学習方法

事前の学習の内容はガイダンス時に説明する。

教科書

タイ 中進国の模索

著者： 末廣昭

出版社： 岩波新書

出版年： 2009年

ISBN:

参考書

花の都・チェンマイ

著者： 河崎かよ子

出版社： 喜楽研

出版年： 2007年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習 I -2 <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

獲得目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の内容

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

授業以外での学習方法

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保育実習 I -2 **

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

獲得目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の内容

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

授業以外での学習方法

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習 I -2 <c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 大山 弘美

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

獲得目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の内容

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

授業以外での学習方法

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習 I -2 <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉江 由紀子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

獲得目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の内容

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

授業以外での学習方法

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習 I -2 <e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 敦子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

獲得目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の内容

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

授業以外での学習方法

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習 I -2 <f>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 中崎 あつ子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

獲得目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の内容

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

授業以外での学習方法

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習 I -2 <g>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 山口 陽子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

獲得目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の内容

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

授業以外での学習方法

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習 I -2 <h>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵.吉田 裕子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

獲得目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の内容

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

授業以外での学習方法

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ〈a〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した実習の実施 一実習でのつまずきや失敗を今後の保育の糧に一

獲得目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育園における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の内容

この実習では、受け入れ保育園の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

内 容

第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 第1回 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

授業以外での学習方法

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それをういて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針〈原本〉

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

a30103e680

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した実習の実施 一実習でのつまずきや失敗を今後の保育の糧に一

獲得目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育園における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の内容

この実習では、受け入れ保育園の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

内 容

第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 第1回 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

授業以外での学習方法

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

a30103e682

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ <c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 大山 弘美	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した実習の実施 一実習でのつまずきや失敗を今後の保育の糧に一

獲得目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育園における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の内容

この実習では、受け入れ保育園の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

内 容

第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 第1回 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

授業以外での学習方法

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

a30103e683

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ <d>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 杉江 由紀子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した実習の実施 ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育の糧にー

獲得目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育園における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の内容

この実習では、受け入れ保育園の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

内 容

第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 第1回 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

授業以外での学習方法

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

a30103e684

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ〈e〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 谷口 敦子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した実習の実施 一実習でのつまずきや失敗を今後の保育の糧に一

獲得目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育園における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の内容

この実習では、受け入れ保育園の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

内 容

第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 第1回 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

授業以外での学習方法

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針〈原本〉

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

a30103e685

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ〈f〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した実習の実施 ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育の糧にー

獲得目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育園における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の内容

この実習では、受け入れ保育園の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

内 容

第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 第1回 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

授業以外での学習方法

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針〈原本〉

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

a30103e686

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ〈g〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 山口 陽子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した実習の実施 ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育の糧にー

獲得目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育園における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の内容

この実習では、受け入れ保育園の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

内 容

第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 第1回 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

授業以外での学習方法

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針〈原本〉

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

a30103e687

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅱ <h>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 口野 隆史・吉田 裕子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した実習の実施 ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育の糧にー

獲得目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育園における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の内容

この実習では、受け入れ保育園の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

内 容

第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 第1回 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

授業以外での学習方法

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それをういて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

a30103e688

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 一柳 敦子	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

獲得目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の内容

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **保育実習Ⅲ **

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

獲得目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の内容

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 大山 弘美	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

獲得目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の内容

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <d>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 杉江 由紀子	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

獲得目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の内容

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <e>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 谷口 敦子	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

獲得目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の内容

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <f>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

獲得目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の内容

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%	

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <g>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定 員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 山口 陽子

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

獲得目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の内容

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <h>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期集中

定 員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 森本 美絵 吉田 裕子

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

獲得目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の内容

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習IV <a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を全員が書き上げることを目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(全体概要)
- 第2回 卒論進捗報告(全体概要)
- 第3回 卒論進捗報告(全体概要)
- 第4回 卒論進捗報告(全体概要)
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告(個別)
- 第7回 卒論最終報告(個別)
- 第8回 卒論最終報告(個別)
- 第9回 卒論最終報告(個別)
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 卒論ドラフト相互チェック
- 第13回 卒論発表の準備
- 第14回 卒論発表の準備
- 第15回 まとめと「卒論集」の作成準備

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	口野 隆史	

テーマ

自らの研究をまとめ卒業論文を作成し、自らの研究成果を発表する

獲得目標

これまで学内外で学習してきたことをまとめ、卒業論文を作成する。また、自らの研究の内容を適切に伝えることができるようにする。

授業の内容

これまで学内外で学習してきたことをまとめ、卒業論文を作成する。また、自らの研究の内容を適切にゼミのメンバーにまた、ゼミ外の人に伝えられるようにする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 授業計画(卒業論文作成及び発表を含めた後期の計画)の理解
- 第2回 研究結果の検討(結果の考察)①
- 第3回 研究結果の検討(結果の考察)②
- 第4回 研究結果の検討(結果の考察)③
- 第5回 研究結果の検討(考察から結論へ)①
- 第6回 研究結果の検討(考察から結論へ)②
- 第7回 研究結果の検討(考察から結論へ)③
- 第8回 中間発表(章立て、研究概要)
- 第9回 卒業論文執筆①
- 第10回 卒業論文執筆②
- 第11回 卒業論文執筆③
- 第12回 卒業論文執筆④
- 第13回 卒業論文執筆⑤(卒業論文提出)
- 第14回 卒業論文講評
- 第15回 まとめ 4年間の学びを振り返って

授業以外での学習方法

各自で、また小グループで研究テーマ、方法、内容について学習を進める。他のゼミの学生とも、また他大学の学生とも交流し、自らの研究の特徴について考える。自らの研究を上手く伝える工夫を考える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)
授業中課題 (40%)

小テスト (0%)
授業中発表等 (40%)

a301040252

参加度（20%）

授業中、他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育演習IV <c>**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	小寺 隆幸	

テーマ

算数教育、平和教育、総合学習等を中心に幅広く教育のあり方について考える。

獲得目標

各自のテーマにそって調査・研究したことをまとめ、質疑・応答・討議を重ねながら論文に仕上げる。

授業の内容

内 容

- 第1回 個別発表の計画づくり
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第10回 論文中間発表会
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第14回 ゼミ内論文発表会
- 第15回 まとめと今後の課題の確認

授業以外での学習方法

学外授業を適宜、行うことがある 自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (50)

小テスト (0)
授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ <d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 三上 周治

テーマ

卒業研究を進め、論文完成をめざす

獲得目標

各自のテーマにそって調査・研究したことをまとめ、質疑・応答・討議を重ねながら論文に仕上げる。

授業の内容

内 容

- 第1回 個別発表の計画づくり
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第10回 論文中間発表会
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第14回 ゼミ内論文発表会
- 第15回 まとめと今後の課題の確認

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育演習IV <f>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 池田 修

テーマ

卒業論文を完成させる。

獲得目標

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を受け、卒業論文を完成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
- 第2回 卒論進捗報告(結論)
- 第3回 卒論進捗報告(結論)
- 第4回 卒論進捗報告(結論)
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論中間報告会
- 第7回 卒論ドラフト相互チェック
- 第8回 卒論ドラフト相互チェック
- 第9回 卒論ドラフト相互チェック
- 第10回 卒論最終報告(全体)
- 第11回 卒論最終報告(全体)
- 第12回 卒論最終報告(全体)
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備 和綴じ本づくり
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

卒業研究のテーマについての調査研究。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育演習IV <g>**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	森本 美絵	

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

研究テーマについて考えを深め、卒業論文を完成する。

授業の内容

①テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。②文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導 ③順次、各自の研究テーマについて発表させる。④執筆要領、留意事項など細部について指導する。⑤論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 卒論進捗状況の報告と討論(結論)
- 第2回 卒論進捗状況の報告と討論(結論)
- 第3回 卒論進捗状況の報告と討論(結論)
- 第4回 卒論進捗状況の報告と討論(結論)
- 第5回 卒論進捗状況の報告と討論(結論)
- 第6回 卒論進捗状況の報告と討論(結論)
- 第7回 卒論最終報告(全体)
- 第8回 卒論最終報告(全体)
- 第9回 卒論最終報告(全体)
- 第10回 卒論最終報告(全体)
- 第11回 卒論最終報告(全体)
- 第12回 卒論最終報告(全体)
- 第13回 卒論原稿相互チェック
- 第14回 卒論原稿相互チェック
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ <h>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 三山 岳

テーマ

卒業論文の作成

獲得目標

各自が自分の関心に沿って理解を深めてきた研究テーマについて、分析と討論を進め、卒業論文としてまとめる。

授業の内容

実際に卒業論文を書き進めます。調査や研究を進め、それに沿った章立てを考え、考察を深めて各章を完成させていきます。

内 容

- 第1回 夏休みの成果発表(資料集めと論文進行の状況を発表)①
- 第2回 夏休みの成果発表(資料集めと論文進行の状況を発表)②
- 第3回 最終的に絞り込んだ論文テーマの発表と討論①
- 第4回 最終的に絞り込んだ論文テーマの発表と討論②
- 第5回 最終的に絞り込んだ論文テーマの発表と討論③
- 第6回 最終的に絞り込んだ論文テーマの発表と討論④
- 第7回 3回生を交えた卒論中間発表会①
- 第8回 3回生を交えた卒論中間発表会②
- 第9回 卒論作成状況の確認と個別指導
- 第10回 卒論作成状況の確認と個別指導
- 第11回 卒論作成状況の確認と個別指導
- 第12回 卒論作成状況の確認と個別指導
- 第13回 卒論作成状況の確認と個別指導
- 第14回 卒業論文のゼミ内発表会
- 第15回 卒業論文報告会の原稿作り

授業以外での学習方法

ゼミの進行に関わらず、卒業論文に着手し、書き進めること

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ <i>

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	倉持 祐二	

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめる。

授業の内容

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

内 容

- 第1回 各自の研究テーマについて発表させる①
- 第2回 各自の研究テーマについて発表させる②
- 第3回 各自の研究テーマについて発表させる③
- 第4回 論文作成に向けての個別指導①
- 第5回 論文作成に向けての個別指導②
- 第6回 論文作成に向けての個別指導③
- 第7回 論文作成に向けての個別指導④
- 第8回 論文作成に向けての個別指導⑤
- 第9回 論文作成に向けての個別指導⑥
- 第10回 論文作成に向けての個別指導⑦
- 第11回 論文作成に向けての個別指導⑧
- 第12回 論文作成に向けての個別指導⑨
- 第13回 論文作成に向けての個別指導⑩
- 第14回 論文発表会に向けての指導①
- 第15回 論文発表会に向けての指導②

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

参考書

ISBN:

a301040259

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育演習IV <j>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 神谷 栄司

テーマ

卒業論文の作成・完成

獲得目標

1)各自の卒業論文について助言を行い、論文を完成させる。2)ゼミ内の人間関係を良好にするために親睦の活動を位置づける。

授業の内容

1)各自の卒業論文執筆について助言する。2)卒業論文発表会に向けてポスターの作成について助言する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 各自の卒業論文についての助言
- 第3回 各自の卒業論文についての助言
- 第4回 各自の卒業論文についての助言
- 第5回 各自の卒業論文についての助言
- 第6回 各自の卒業論文についての助言
- 第7回 各自の卒業論文についての助言
- 第8回 各自の卒業論文についての助言
- 第9回 各自の卒業論文についての助言
- 第10回 各自の卒業論文についての助言
- 第11回 各自の卒業論文についての助言
- 第12回 ポスター作成の助言
- 第13回 ポスター作成の助言
- 第14回 ポスター作成の助言
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

卒業論文およびポスターを作成する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 Reading & Vocabulary Building II <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 山崎 清水

テーマ

リーディング演習

獲得目標

読解力と語彙力の向上を目指す。

授業の内容

ショートストーリーやエッセイなど様々な英文を読むことで、更なる読解力と語彙力アップを図る。

内 容

第1回 プrint
第2回 プrint
第3回 プrint
第4回 プrint
第5回 プrint
第6回 プrint
第7回 プrint
第8回 プrint
第9回 プrint
第10回 プrint
第11回 プrint
第12回 プrint
第13回 プrint
第14回 プrint
第15回 プrint

授業以外での学習方法

予習すること。詳細は授業で説明する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a30201a450

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building II **

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 アンガス ノーマン		

テーマ

A Pre-intermediate Reading and Vocabulary Course on Contemporary Topics

獲得目標

(1) To introduce students to a variety of contemporary topics and their English vocabulary (2) To ensure complete confidence with a basic 2,000 word vocabulary (3) To develop pre-intermediate reading and vocabulary skills and knowledge

授業の内容

In the second semester we will look at a number of short texts with very different content. This is to equip students with the English vocabulary necessary to communicate in contemporary situations, and to reinforce grammatical structures learned in high school.

内 容

- 第1回 Textbook: texts 11
- 第2回 Textbook: texts 12 Vocabulary: 1001-1200
- 第3回 Graded Readers
- 第4回 Textbook: texts 13
- 第5回 Textbook: texts 14 Vocabulary: 1201-1400
- 第6回 Graded Readers
- 第7回 Textbook: texts 15
- 第8回 Textbook: texts 16 Vocabulary: 1401-1600
- 第9回 Graded Readers
- 第10回 Textbook: texts 17
- 第11回 Textbook: texts 18 Vocabulary: 1601-1800
- 第12回 Graded Readers
- 第13回 Textbook: texts 19
- 第14回 Textbook: texts 20 Vocabulary: 1-2000
- 第15回 Final discussion and evaluation

授業以外での学習方法

Students will be encouraged to keep up their self-study programme using the graded readers in the English Department Common Room and Language Centre.

教科書

Reading Pass 2

著者: Andrew E. Bennett

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2009

ISBN: 978-4-523-17609

参考書

成績評価

試験 (20%)

小テスト (20%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

Students will have regular reading homework with questions on the text. These will be handed in and go towards the final grade. There will also be regular vocabulary quizzes; and a final quiz on the basic 1,000 word list.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening III <a>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	西村 友美	

テーマ

直聴直解技術の体得

獲得目標

(1) 英語を直聴直解できるようになること。(2) 英語のリスニングにはどんな戦略が必要なのか、自分がどんなリスニングの弱点を持っているのか、また、その克服の為にどんなトレーニング法を実行していけばよいか、などの問題に自ら答えを出せるようになること。

授業の内容

シチュエーションに応じた語彙や表現をさらに増やし、聞いたものを直解するトレーニングをおこなう。授業も英語でおこなう。教科書はホームステイを題材にしたものなので、留学時に役立つ知識も吸収できるであろう。中間・終了テスト以外に、小テストをする。最後に、授業で提供されるマテリアルや情報を通じて、英語のリスニングにはどんな戦略が必要なのか自分がどんなリスニングの弱点を持っているのか、また、その克服の為にどんなトレーニング法を実行していけばよいか、などの問いに自ら答えを出せるようにする。

内 容

- 第1回 英語のリスニング・ストラテジー
- 第2回 unit 1
- 第3回 unit 2
- 第4回 unit 3
- 第5回 unit 4
- 第6回 unit 5
- 第7回 unit 6
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 unit 7
- 第10回 unit 8
- 第11回 unit 9
- 第12回 unit 10
- 第13回 unit 11
- 第14回 unit 12
- 第15回 総合まとめ

授業以外での学習方法

教科書を使ったアウトプット(授業で説明するシャドーイングなど)を日課的に行う。自分の気に入ったマテリアル(映画や音楽)を選んでどんどん聞く。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening III **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 山崎 清水

テーマ

リスニング能力の向上

獲得目標

英語を直聴直解できるようになることを目指す。

授業の内容

ビデオ教材を使用しリスニング能力の向上を目指す。

内 容

- 第1回 Cloud Atlas
- 第2回 The Dark Knight Rises
- 第3回 Another Earth
- 第4回 The Amazing Spider-Man
- 第5回 Harry Potter and the Deathly Hollows: Part 2
- 第6回 The Social Network
- 第7回 Skyfall
- 第8回 Lincoln
- 第9回 Ruby Sparks
- 第10回 The Hobbit: An Unexpected Journey
- 第11回 Argo
- 第12回 The Tree of Life
- 第13回 J. Edgar
- 第14回 Super 8
- 第15回 Rise of the Planet of the Apes

授業以外での学習方法

日頃から積極的に英語を聴くように心がけること。

教科書

Hollywood English

著者: John S. Lander

出版社: 朝日出版社

出版年: 2014

ISBN: 978425515544

参考書

成績評価

試験（40）

授業中課題（20）

参加度（10）

小テスト（30）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening IV **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 野口 博代

テーマ

Improving Practical Listening Skills

獲得目標

様々な素材の英語を扱った教材を用いて、実践的なリスニングの力を鍛えることを目標とする。

授業の内容

様々な素材の英語をたくさん聞き、豊富な練習問題に取り組みます。自宅学習は、適宜授業中に指示します。

内 容

- 第1回 Introduction: The sounds of English
- 第2回 Unit 1 Work, relax, and play!
- 第3回 Unit 1 / Unit 2 My schedule for Friday
- 第4回 Unit 2 / Unit 3 How's the weather there?
- 第5回 Unit 3 / Unit4 Looking for an apartment?
- 第6回 Unit 4 / Unit 5 How do I use this camera?
- 第7回 Unit 5 & Review
- 第8回 Challenge & Review 1
- 第9回 Unit 6 A great price, today only!
- 第10回 Unit 7 Could you hold the line?
- 第11回 Unit 8 We should have a party!
- 第12回 Unit 9 Your attention, please!
- 第13回 Unit10 Can you fill out this form?
- 第14回 Review
- 第15回 Challenge & Review 2

授業以外での学習方法

テキスト付属のCDを繰り返し聞くこと。

教科書

Real-World Listening

著者: Richard Blight / Eri Tanaka / Tanya McCarthy

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Listening IV <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 日高 周平

テーマ

基礎的なリスニング能力の向上。

獲得目標

日常生活で必要とされるリスニング能力の基礎を養う。

授業の内容

毎回教科書の1ユニットを行い、補助教材を使いながらリスニング、語彙、文法の確認をする。

内 容

- 第1回 講義概要・成績評価の方法・TOEICに関する説明
- 第2回 Unit 1 Living Arrangements
- 第3回 Unit 2 Party
- 第4回 Unit 3 Airport
- 第5回 Unit 4 Hotel
- 第6回 Unit5 Traffic
- 第7回 Unit 6 Tour / Event
- 第8回 Unit 7 Shopping
- 第9回 Unit 8 Service
- 第10回 Unit 9 Office Work
- 第11回 Unit 10 Business
- 第12回 Unit 11 Personnel
- 第13回 Unit 12 Office Announcements
- 第14回 TOEIC系対策問題（プリントにて対応）
- 第15回 総合復習、理解度確認テスト

授業以外での学習方法

第一回講義で配布するTOEIC対策用の単語リストを暗記する事

教科書

Beyond the Basics of the TOEIC Test

著者： Yoshihiro Tsukada / Braven Smillie

出版社： 金星堂

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (60)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus科目名 **地域文化研究Ⅳ**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Area Studies (The United Kingdom)

獲得目標

The aim of this course is to give the students a general picture of the history, life, culture and people of The United Kingdom. This class will be taught in English.

授業の内容

Each session will pick up one aspect of the country then, after a short lecture, we will view some visual materials, review what is said in the text, or complete a set of questions on the content of the class.

内 容

- 第1回 Geography
- 第2回 History
- 第3回 The Monarchy
- 第4回 Parliament and the EC
- 第5回 Holidays and Festivals
- 第6回 Education
- 第7回 The Welfare State
- 第8回 Sport
- 第9回 Northern Ireland
- 第10回 Wales
- 第11回 Scotland
- 第12回 London
- 第13回 Food
- 第14回 A Multi-racial Society
- 第15回 Final discussion and evaluation

授業以外での学習方法

Watching the BBC news, and reading British newspapers

教科書**参考書**

In Britain

著者: M. Vaughan-Rees

出版社: MACMILLAN LANGUAGEHOUSE

出版年: 2006

ISBN: 00140-3-112177

Spotlight in Britain

著者: S. Sheerin

出版社: Oxford

出版年: 1995

ISBN: 0-19-432788-4

Britain

著者: J. O'Driscoll

出版社: Oxford

出版年:

ISBN: 978019-4306478

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

20% of the final grade will be made up of evaluated homework sheets on the weekly topics.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Essay & Presentation II**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

Essay and presentation

獲得目標

Learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.

授業の内容

内 容

- 第1回 Introduction & Course Description
- 第2回 Unit 14 Congratulations!
- 第3回 Unit 15 It would be appreciated if...
- 第4回 Unit 16 Can I make an offer?
- 第5回 Unit 17 Thank you!
- 第6回 Unit 18 You know what?
- 第7回 Unit 19 Get well soon!
- 第8回 Unit 20 Anybody interested?
- 第9回 Unit 21 Season's Greetings!
- 第10回 Unit 22 I would like to apply for a position
- 第11回 Unit 23 Inquiry about scholarship
- 第12回 Unit 24 Sorry for your loss
- 第13回 Academic writing 1
- 第14回 Academic writing 2
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

Students will be required to write emails and letters, both inside and outside the class. Students are welcome to contact me via email.

教科書

Write Me Back Soon! Communicating through Email

著者: 成岡恵子/早野 薫/Sean M. Hackett 著

出版社: 金星堂

出版年:

ISBN:

参考書

a30203d850

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ビジネス数学 <Z>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 片岡 裕介	

テーマ

コンピューターを活用した経営管理問題の解決の方法を学習する。

獲得目標

ビジネスに関する問題解決を支援する経営科学の手法について、表計算ソフトであるMS-Excelを用いた具体的な事例の分析を通して理解し、経営科学における基礎的なアプローチを学習するとともに、それに必要となるPCおよびExcelの基本的操作を身に付ける。

授業の内容

コンピューターを活用した経営科学の手法について学習する。また、データの視覚化機能で作成されるグラフを通して、データの表現の関する理解を深める。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 データの処理: 統計データのグラフと特性値(1)
- 第3回 データの処理: 統計データのグラフと特性値(2)
- 第4回 需要予測: 回帰分析と時系列分析による定量的方法(1)
- 第5回 需要予測: 回帰分析と時系列分析による定量的方法(2)
- 第6回 需要予測: 回帰分析と時系列分析による定量的方法(3)
- 第7回 待ち行列理論: サービス窓口での顧客の並びのシミュレーション(1)
- 第8回 待ち行列理論: サービス窓口での顧客の並びのシミュレーション(2)
- 第9回 前半のまとめ
- 第10回 在庫管理: 定量発注システムと定期発注システム(1)
- 第11回 在庫管理: 定量発注システムと定期発注システム(2)
- 第12回 線形計画法: 目的関数を用いた最適化(1)
- 第13回 線形計画法: 目的関数を用いた最適化(2)
- 第14回 線形計画法: 目的関数を用いた最適化(3)
- 第15回 全体のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a50101d710

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (10)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **金融入門**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 夏期集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 隆則

テーマ

私たちの経済社会において金融機関がどのような役割を果たしているかを具体的に学びます。金融業界への就職を考えようとする人だけでなく、広くビジネスや公共的な仕事に携わろうとする人にとっても不可欠の金融の基礎知識を習得します。

獲得目標

金融仲介の意義を正しく理解し、様々な種類の金融機関の業務内容の共通点や相違点について具体的に説明できることを目標とします。

授業の内容

銀行、信用金庫、生命保険会社、損害保険会社、金融商品取引業者(証券会社など)、ノンバンクといった様々な種類の金融機関について、経済社会の中で果たしている役割や業務内容について学びます。授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜、具体的課題についてみんなで考え発言する時間を作ります。

内 容

- 第1回 金融を学ぶ意義: 社会生活を営む上でも、経済情報を正確に理解する上でも、ビジネスや公共業務に携わる上でも、金融の基礎知識が不可欠であることを様々な事例から説き起こします。
- 第2回 金融機関の種類と業務の概要: 全ての金融機関の共通機能である「金融仲介」とは何か、「直接金融」と「間接金融」の違いとは何かといったポイントを踏まえ、金融機関の種類と業務の概要を学びます。
- 第3回 銀行(1): 銀行について基礎的な知識を身に付けます。具体的には、銀行の種類、銀行の共通点、自由化による銀行の多様化について学びます。
- 第4回 銀行(2): 銀行の業務内容を具体的に見てゆきます。決済、預金、融資など支店の業務、リスク管理、審査、国際業務、市場業務など本部の業務について知った上で、銀行の収益の源泉は主として「信用リスク」と「金利リスク」にあることを学びます。
- 第5回 銀行(3): 銀行業務を支える人材の採用と育成、銀行員のキャリアパス、銀行員に求められる素養について考えます。
- 第6回 銀行(4): 銀行と地域の企業や産業が深いかわりを持っていることを学びます。特に地方銀行や信用金庫といった地域金融機関は地元経済の発展に大きな役割を果たしています。
- 第7回 保険(1): 保険業界について基礎的な知識を身に付けます。まず保険の原理である「大数の法則」を理解した上で、公的保険、私的保険といった区別や生命保険、損害保険、第三分野といった区分を学習します。
- 第8回 保険(2): 生命保険会社の業務について学びます(生命保険の仕組み、契約の基本的事項、税金など)。またインターネット保険会社や外資系保険会社など、生命保険業界の多様化についても触れます。
- 第9回 保険(3): 損害保険会社の業務について学びます(損害保険の仕組み、商品の種類など)。また医療保険やガン保険と言った第三分野保険についても触れます。
- 第10回 金融商品取引業(1): 直接金融の仲介機能を果たしている「金融商品取引業」の特徴を間接金融との比較で考えます。また、金融商品取引業の種類も学びます。
- 第11回 金融商品取引業(2): 金融商品取引業のうち、証券の引受・販売業を学びます。具体的には、証券の流通市場の意味や引受・販売の担い手である証券会社の役割、証券業界の動向について見てゆきます。
- 第12回 金融商品取引業(3): 金融商品取引業のうち、資産運用業について学びます。具体的には、投資顧問会社と投資信託会社がどのような役割を担っているかを見てゆきます。
- 第13回 ノンバンク(1): ノンバンクのうち、リース、信販、クレジットカードの各業界の機能について学習します。
- 第14回 ノンバンク(2): ノンバンクのうち、ベンチャー・キャピタルやサービサーの機能について学習します。併せて、起業、株式公開、企業再編、企業再生といった企業の成長段階に応じた金融機能についてまとめます。
- 第15回 全体のまとめと復習

授業以外での学習方法

近年話題になっている「アベノミクス」や「ビットコイン」について、できるだけ授業前に新聞やインターネットなどを利用して意味を調べておいてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

イラスト図解 銀行のしくみ

著者: 戸谷圭子

出版社: 日本実業出版社

出版年: 2008年

ISBN: 4534044763

2013-2014年版 みんながほしかった! FPの教科書 2級・AFP

著者: 滝澤ななみ

出版社: TAC株式会社

出版年: 2013年

ISBN: 4813251765

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	今井 まりな	

テーマ

製品・サービスのヒットの理由を考える。

獲得目標

情報探索や報告のスキルを身に付ける。自身の報告や他人の報告を聞くことを通じて、特定の業界・企業・製品に詳しくなる。

授業の内容

業界ごとにグループ分けを行い、最低3回報告する。報告では各自が報告資料を作成し、報告、ディスカッションを行う。最終的に製品・サービスのヒットした理由に関するレポートを作成し、提出する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報探索や報告の方法
- 第3回 報告1: 業界構造(グループ1)
- 第4回 報告1: 業界構造(グループ2)
- 第5回 報告1: 業界構造(グループ3)
- 第6回 報告1: 業界構造(グループ4)
- 第7回 報告2: ヒットした製品・サービス(グループ1)
- 第8回 報告2: ヒットした製品・サービス(グループ2)
- 第9回 報告2: ヒットした製品・サービス(グループ3)
- 第10回 報告2: ヒットした製品・サービス(グループ4)
- 第11回 報告3: 製品・サービスの競争優位(グループ1)
- 第12回 報告3: 製品・サービスの競争優位(グループ2)
- 第13回 報告3: 製品・サービスの競争優位(グループ3)
- 第14回 報告3: 製品・サービスの競争優位(グループ4)
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。なお、参考書を一読することで、製品・サービスのヒットの理由に関する理解が深まる。

教科書

参考書

売れる仕掛けはこうしてつくる

著者: 栗木契・余田拓郎・清水信年

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2006

ISBN: 978-4532312985

成績評価

試験 ()

授業中課題 (45)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (45)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV **

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	今久保 幸生	

テーマ

私たちの国際経済

獲得目標

企業や個人は、世界や日本の経済の動きを把握することで、はじめてそれぞれが、確かな見通しをもって足元から行動することができる。この演習は、このような意味を持つ、世界や日本の経済動向に関する確かな見通しを獲得することを目標とする。

授業の内容

基本的には教科書に即して輪読するが、関連の論点では教科書を離れた資料・文献を動員して演習を進める。

内 容

- 第1回 報告担当者決定・ゼミ運営などの相談
- 第2回 国際経済を見る眼
- 第3回 国際貿易・金融
- 第4回 経済統合
- 第5回 貧困と開発
- 第6回 人口と食料
- 第7回 資源とエネルギー
- 第8回 地球環境問題
- 第9回 アメリカ
- 第10回 ヨーロッパ
- 第11回 日本
- 第12回 アジアNIES
- 第13回 ASEAN
- 第14回 中国
- 第15回 BRICs

授業以外での学習方法

テーマと関連する書物や新聞・映像メディアなどを積極的に学習すること。

教科書

私たちの国際経済[第3版]

著者： 東京経済大学国際経済グループ

出版社： 有斐閣

出版年： 2013

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <c>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担 当 者 片岡 裕介

テーマ

地域の拡がりの中で経済現象を理解する。

獲得目標

社会経済的な現象に対する空間的側面からのアプローチについて、基礎的な考え方を身に付けるとともに、具体的な事例を通して理解する。

授業の内容

位置や場所に関わる経済データを用いた分析および活用事例について扱う。具体的には、公共施設や商業施設の立地、流通システムの空間構造に関するテーマを予定している。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 地域の分析 (1)
- 第3回 地域の分析 (2)
- 第4回 地域の分析 (3)
- 第5回 プレゼンテーションの技術 (1)
- 第6回 プレゼンテーションの技術 (2)
- 第7回 前半の内容整理
- 第8回 文献発表および議論(1)
- 第9回 文献発表および議論(2)
- 第10回 文献発表および議論(3)
- 第11回 文献発表および議論(4)
- 第12回 文献発表および議論(5)
- 第13回 文献発表および議論(6)
- 第14回 文献発表および議論(7)
- 第15回 全体の総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (20)

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <d>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 河野 充央

テーマ

管理会計の研究をとおして、マネジメントの本質を理解する

獲得目標

企業経営における会計の役割を理解する。同時に日本経済新聞や日経ビジネスなどの経済記事を理解できるようにする。

授業の内容

内 容

- 第7回 製造会計とコストマネジメント(5)
- 第8回 製造会計とコストマネジメント(6)
- 第9回 製造会計とコストマネジメント(7)
- 第10回 マーケティング会計とコストマネジメント(1)
- 第11回 マーケティング会計とコストマネジメント(2)
- 第12回 マーケティング会計とコストマネジメント(3)
- 第13回 製造業のコストマネジメント戦略
- 第14回 サービス業のコストマネジメント戦略
- 第15回 まとめ
- 第1回 ガイダンス プレゼミで学ぶ内容の概説
- 第2回 コストマネジメントの理解-戦略編- コストマネジメントの理解-管理編-
- 第3回 製造会計とコストマネジメント(1)
- 第4回 製造会計とコストマネジメント(2)
- 第5回 製造会計とコストマネジメント(3)
- 第6回 製造会計とコストマネジメント(4)

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネスのタイムリーな記事をプリントで適宜配布する。ゼミ生は、これを読みレポートを提出する。

教科書

スッキリわかる日商簿記2級-工業簿記-

著者: 滝澤ななみ

出版社: TAC出版

出版年:

ISBN:

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社：中央経済社

出版年：

ISBN：

管理会計

著者：岡本清 他

出版社：中央経済社

出版年：

ISBN：

情報化社会における管理会計の役割

著者：河野充央

出版社：税務経理協会

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（20）

参加度（60）

小テスト（ ）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <e>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	阪本 崇	

テーマ

公共部門の経済学について学ぶ

獲得目標

・卒業論文の作成に必要な文献調査や文章作成の技術を身につける。・経済学的な視点から社会現象を考えることができるようになる。

授業の内容

政府の活動は私たちの暮らしにとって無くてはならないものです。このゼミでは、経済の中での政府の働きを理解するのに欠かせない公共経済学や財政学の基本的な内容を学び、自分自身で研究する際の基礎を身につける。

内 容

- 第1回 ガイダンス:テキストおよび分担の決定
- 第2回 情報検索演習(1)
- 第3回 情報検索演習(2)
- 第4回 プレゼンテーションの技術(1)
- 第5回 プレゼンテーションの技術(2)
- 第6回 プレゼンテーションの技術(3)
- 第7回 テキストの輪読(1)
- 第8回 テキストの輪読(2)
- 第9回 テキストの輪読(3)
- 第10回 テキストの輪読(4)
- 第11回 テキストの輪読(5)
- 第12回 テキストの輪読(6)
- 第13回 テキストの輪読(7)
- 第14回 テキストの輪読(8)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業に参加するための準備を各自があらかじめ行っておく必要がある。具体的に言えば、指示された課題等は、指定日までに必ずこなしておかなければならない。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (10)

小テスト (0)
授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <f>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	高原 正興	

テーマ

社会学系ゼミで学習する

獲得目標

テキストを読んで、発表者はレジュメを作り、みんなが討論に参加して、社会的な見方・分析のしかたを身につける。

授業の内容

テキストの講読・発表・討論

内 容

- 第1回 ゼミの運営方法についてのガイダンスとゼミ生の自己紹介
- 第2回 学生による発表・討論(1)
- 第3回 学生による発表・討論(2)
- 第4回 学生による発表・討論(3)
- 第5回 学生による発表・討論(4)
- 第6回 学生による発表・討論(5)
- 第7回 学生による発表・討論(6)
- 第8回 学生による発表・討論(7)
- 第9回 学生による発表・討論(8)
- 第10回 学生による発表・討論(9)
- 第11回 学生による発表・討論(10)
- 第12回 学生による発表・討論(11)
- 第13回 学生による発表・討論(12)
- 第14回 学生による発表・討論(13)
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

テキストをよく読んで、十分に準備した上でゼミに参加すること

教科書

新版社会学のエッセンス

著者： 友枝敏雄他

出版社： 有斐閣

出版年： 2007

ISBN： 9784641123380

参考書

授業中に示す

著者：

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 基礎演習Ⅳ <g>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	高山 一夫	

テーマ

医療マネジメント

獲得目標

医療マネジメントに関する基礎的な知識を学習するとともに、学外授業の企画と実施を通じて、受講生の自主的な勉学を促進する。具体的な内容は、受講生との相談の上で決定する。

授業の内容

テキストを用いた演習またはグループワークを基本としつつ、学外授業も行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(1)
- 第3回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(2)
- 第4回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(3)
- 第5回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(4)
- 第6回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(5)
- 第7回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(6)
- 第8回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(7)
- 第9回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(8)
- 第10回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(9)
- 第11回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(10)
- 第12回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(11)
- 第13回 学外授業の準備
- 第14回 学外授業
- 第15回 演習全体のまとめ

授業以外での学習方法

メディカルクラークの資格取得や病院インターンシップへの参加など、授業以外での自主的な学習を期待します。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

医療問題

著者: 池上直己

出版社：日本経済新聞社

出版年：2010

ISBN：9784532118174

健康と医療の公平に挑む

著者：松田亮三

出版社：勁草書房

出版年：2009

ISBN：9784326700615

論文の書き方

著者：澤田昭夫

出版社：講談社学術文庫

出版年：1977

ISBN：9784061581531

日本の医療

著者：島崎謙治

出版社：東京大学出版会

出版年：2011

ISBN：9784130511339

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（20）

授業中発表等（50）

参加度（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <h>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	李 在鎬	

テーマ

経営者のリーダーシップ

獲得目標

経営リーダーシップの基礎概念を熟知し、経営戦略の立案と遂行におけるトップの経営リーダーシップを理解することが本教科の獲得目標である。

授業の内容

経営者のリーダーシップについて、研究者の理論と実務家の持論を包括的にとらえる。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 関連映像資料の鑑賞
- 第15回 全体の総括、ただし、必要に応じて学外授業を行う場合がある。

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお薦めします。

教科書

リーダーシップ入門

著者: 金井壽宏

出版社: 日本経済新聞出版社

出版年: 2007年

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

授業中課題（0）

参加度（45）

2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。

小テスト（0）

授業中発表等（55）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <救急A>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 土井 一弘

テーマ

数学への興味関心、特に救急救命士をめざす者に必要な数学的物の見方を身につける。

獲得目標

救急救命士をめざす者が、仕事の上で必要となる数学的物の見方を身につけるとともに、公務員試験などをクリアするために基礎的な数学を復習する。

授業の内容

基礎的な数学の演習

内 容

- 第1回 レディネス診断
- 第2回 パラボラアンテナの秘密
- 第3回 n進法
- 第4回 線形計画法
- 第5回 手順を数学する
- 第6回 整数問題
- 第7回 統計・箱ひげ図
- 第8回 統計・シンプソンのパラドックス
- 第9回 数的推理・パズル①
- 第10回 数的推理・パズル②
- 第11回 立体図形①
- 第12回 立体図形②
- 第13回 集合・論理
- 第14回 投影図・見取り図・立体の切断
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (55%)

授業中課題 (15%)

小テスト (15%)

授業中発表等 ()

a50102a259

参加度（15%）

授業中課題とはノート提出のことである 小テストは宿題提出で代用することもある

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <救急B>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 志賀 亮一

テーマ

政治経済基礎知識の完結

獲得目標

基礎演習 I & II の続きとして、現代社会の経済の基礎知識を身につけ、キャリア形成の基盤を形成する。

授業の内容

レジュメをもととした講義に政治経済の基礎知識を学んだのち、毎回受講生数名を指名して小テスト問題の作成を課す。つぎの回にはその小テストによって前回の学びを確実なものとする。

内 容

- 第1回 日本の政治制度1(司法と地方自治)
- 第2回 日本の政治制度2(選挙と政党)
- 第3回 行政の課題
- 第4回 国際政治1(国際社会と国連)
- 第5回 国際政治2(冷戦)
- 第6回 国際政治3(軍縮と国際紛争)
- 第7回 戦後の日本外交+中間テスト
- 第8回 戦後日本経済の歴史
- 第9回 戦後日本経済の問題点1(農業・中小企業・消費者)
- 第10回 戦後日本経済の問題点2(公害と環境)
- 第11回 戦後日本経済の問題点3(労働・社会保障)
- 第12回 国際経済1(国際収支)
- 第13回 国際経済2(国際通貨体制)
- 第14回 国際経済3(諸問題と日本)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞の政治欄、経済欄を毎日読むこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

出席不良者、小テスト作問改題未提出者は単位を認定しない

小テスト (100)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今久保 幸生

テーマ

現代ヨーロッパ経済の試練と対応

獲得目標

前期で学んだEU経済社会の学習を前提に、後期は現代のヨーロッパ経済社会が直面する様々な試練とそれへの対応について学ぶことを通じて、重要な企業環境としてのヨーロッパ経済をより深く理解させることが目的である。

授業の内容

教科書に即して輪読し、必要に応じて関連の文献も輪読する。

内 容

- 第10回 EU統合の拡大の展望
- 第11回 EU統合の深化の課題
- 第12回 EUにおける国境を越えた地域間協力の課題
- 第13回 EUのFTA戦略の現状
- 第14回 日本・EU関係の現状と展望
- 第15回 まとめ
- 第1回 ガイダンスと分担決定
- 第2回 戦後ヨーロッパ統合の進展
- 第3回 リスボン条約およびユーロ危機を踏まえたEU機構改革
- 第4回 中央銀行の政策手段とその限界
- 第5回 欧州中央銀行の市場との対話
- 第6回 ユーロ拡大とユーロ危機
- 第7回 EU加盟前後におけるポーランド経済の変動
- 第8回 EU加盟の問題国ハンガリー
- 第9回 ロシア・EU経済関係

授業以外での学習方法

教科書

EU統合の深化とユーロ危機・拡大

著者： 久保広正他編著

出版社： 勁草書房

出版年： 2013

ISBN:

参考書

グローバル化とEU統合の再検証

著者： 日本EU学会編

出版社：有斐閣

出版年：2012

ISBN：

成績評価

試験（）

授業中課題（30%）

参加度（30%）

小テスト（）

授業中発表等（40%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **専門演習Ⅱ **

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 河野 充央

テーマ

企業経営と管理会計

獲得目標

企業経営における管理会計の意義と役割を学ぶ

授業の内容

内 容

- 第1回 企業の利害関係者と経済的情報
- 第2回 企業経営と企業目標
- 第3回 経営管理者の職能
- 第4回 管理会計の目的とその変遷(1)
- 第5回 管理会計の目的とその変遷(2)
- 第6回 管理会計の目的とその変遷(3)
- 第7回 企業経営と管理会計担当部門
- 第8回 コストマネジメントの体系
- 第9回 戦略的プランニングとコストマネジメント(1)
- 第10回 戦略的プランニングとコストマネジメント(2)
- 第11回 戦略的コントロールとコストマネジメント(1)
- 第12回 戦略的コントロールとコストマネジメント(2)
- 第13回 管理的プランニングとコストマネジメント
- 第14回 管理的コントロールとコストマネジメント
- 第15回 まとめ 卒業論文作成へ向けての指導

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネスのタイムリーな記事をプリントで適宜配布する。ゼミ生は、これを読みレポートを提出する。

教科書

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

管理会計

著者： 岡本清 他

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN：

ケースブック・コストマネジメント

著者： 加登豊 他

出版社： 新世社

出版年：

ISBN：

情報化社会における管理会計の役割

著者： 河野充央

出版社： 税務経理協会

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (15)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今井 まりな

テーマ

グループ論文の執筆

獲得目標

グループで論文を執筆することを通じて、一連の論文執筆プロセスを学習する。報告とディスカッションを通じて、プレゼンテーションスキル並びにコミュニケーションスキルを養成する。一つの論文を複数のメンバーで執筆することで、長期的な目標を計画的かつ組織的に達成するプロセスを経験する。

授業の内容

内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 事例研究の検討
- 第3回 先行研究レビュー(グループ1、2)
- 第4回 先行研究レビュー(グループ3、4)
- 第5回 インタビュー調査(グループ1、2)
- 第6回 インタビュー調査(グループ3、4)
- 第7回 目次構成の検討(グループ1、2)
- 第8回 目次構成の検討(グループ3、4)
- 第9回 中間報告(グループ1、2)
- 第10回 中間報告(グループ3、4)
- 第11回 グループ1の論文の検討会
- 第12回 グループ2の論文の検討会
- 第13回 グループ3の論文の検討会
- 第14回 グループ4の論文の検討会

授業以外での学習方法

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

a50103a253

試験 ()
授業中課題 (50%)
参加度 (20%)

小テスト ()
授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **専門演習Ⅱ <d>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントの発展的学習

獲得目標

医療マネジメントに関する知見を深めるとともに、受講生相互の交流を通じて、各自の研究テーマや将来の進路について考える。

授業の内容

グループワーク並びにテキストを用いた発表と討論を通じて、医療マネジメントについての理解を深めるとともに、卒業研究をまとめるために必要なアカデミックスキルも習得する。希望があれば学外授業も実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 グループワーク(1)
- 第3回 グループワーク(2)
- 第4回 グループワーク(3)
- 第5回 グループワーク(4)
- 第6回 グループワーク発表会
- 第7回 テキストを用いた演習(1)
- 第8回 テキストを用いた演習(2)
- 第9回 テキストを用いた演習(3)
- 第10回 テキストを用いた演習(4)
- 第11回 テキストを用いた演習(5)
- 第12回 テキストを用いた演習のまとめ
- 第13回 学外授業の準備
- 第14回 学外授業
- 第15回 演習全体のまとめ

授業以外での学習方法

自主ゼミ(医療マネジメント研究会)も活用しつつ、積極的に学習する習慣を保持して下さい。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a50103a254

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高原 正興

テーマ

研究課題の深化、フィールドワークへの参加、関連文献の講読

獲得目標

ゼミ生の社会的な関心をより深化させるとともに、フィールドワークの実施や関連文献の講読を通して、社会的な素養を高める。

授業の内容

テキストの講読・発表・討論、フィールドワークへの参加など

内 容

- 第1回 後期ガイダンス
- 第2回 夏季課題の報告(1)
- 第3回 夏季課題の報告(2)
- 第4回 夏季課題の報告(3)
- 第5回 夏季課題の報告(4)
- 第6回 フィールドワーク(京都刑務所)
- 第7回 関連文献の講読(1)
- 第8回 関連文献の講読(2)
- 第9回 関連文献の講読(3)
- 第10回 関連文献の講読(4)
- 第11回 フィールドワーク(山科青少年活動センター)
- 第12回 関連文献の講読(5)
- 第13回 関連文献の講読(6)
- 第14回 関連文献の講読(7)
- 第15回 まとめと展望

授業以外での学習方法

講読文献の予習は必須である。

教科書

上記の関連文献(未定)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (50)

授業中課題は、夏季課題とフィールドワークに関するレポートである。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈f〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文作成に向けた研究とその報告

獲得目標

卒業論文作成の構想を立てる

授業の内容

専門演習Ⅰに引き続き、卒業論文作成にむけた準備を行う。各自が自分自身で決めたテーマのもとで調査研究を行い、進捗状況をそれぞれ2回程度報告する。また、就職活動に向けた準備も平行して行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テクニカル・ライティング実践(1)
- 第3回 テクニカル・ライティング実践(2)
- 第4回 プレゼンテーションの技術
- 第5回 卒業論文計画発表Ⅰ(1)
- 第6回 卒業論文計画発表Ⅰ(2)
- 第7回 卒業論文計画発表Ⅰ(3)
- 第8回 中間のまとめ
- 第9回 卒業論文計画発表Ⅱ(1)
- 第10回 卒業論文計画発表Ⅱ(2)
- 第11回 卒業論文計画発表Ⅱ(3)
- 第12回 卒業論文計画発表Ⅱ(4)
- 第13回 卒業論文計画発表Ⅱ(5)
- 第14回 卒業論文計画発表Ⅱ(6)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <g>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	李 在鎬	

テーマ

経営戦略の代表的な古典的論文を輪読し、理論と事例について理解を深める。

獲得目標

卒業研究において、しっかり先行研究を吟味し、理論的な脈絡の中で、自分の経営学研究を位置づけるため、必読の代表的な論文を読み、読解力、発表力を鍛えるのが本教科の目的である。

授業の内容

1957年～93年までのハーバード学派経営戦略理論の流れを網羅的に考察する。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
 第2回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第3回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第4回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第5回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第6回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第7回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第8回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第9回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第10回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第11回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第12回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第13回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
 第14回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック ※尚、この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。
 第15回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック ※尚、この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

・戦略論1957-1993

著者： DIAMOND編集部

出版社：ダイヤモンド社

出版年：2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（55）

参加度（45）

基本的に2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈救急〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 北小屋 裕.関根 和弘.千田 いずみ.夏目 美樹.深澤 雄二.福岡 範恭

テーマ

公務員試験対策

獲得目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス、公務員試験対策
- 第2回 公務員試験対策
- 第3回 公務員試験対策
- 第4回 公務員試験対策
- 第5回 公務員試験対策
- 第6回 公務員試験対策
- 第7回 公務員試験対策
- 第8回 公務員試験対策
- 第9回 公務員試験対策
- 第10回 公務員試験対策
- 第11回 公務員試験対策
- 第12回 公務員試験対策
- 第13回 公務員試験対策
- 第14回 公務員試験対策
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)
授業中課題 ()

小テスト ()
授業中発表等 ()

a50103a258

参加度 ()

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 河野 充央

テーマ

卒業論文の作成および完成

獲得目標

質の高い卒論を完成させ、学士号を取得する

授業の内容

内 容

- 第1回 下書きを提出 レジユメとして目次を全員に配布 概要報告と意見交換 必要に応じて口頭にて指導
 第2回 報告とチェック(1) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
 第3回 報告とチェック(2) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
 第4回 報告とチェック(3) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
 第5回 報告とチェック(4) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
 第6回 報告とチェック(5) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
 第7回 報告とチェック(6) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
 第8回 報告とチェック(7) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
 第9回 報告とチェック(8) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
 第10回 報告とチェック(9) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
 第11回 最終チェック(1) (個別指導を含む)
 第12回 最終チェック(2) (個別指導を含む)
 第13回 口頭試問準備(1) (個別指導を含む)
 第14回 口頭試問準備(2) (個別指導を含む)
 第15回 総括

授業以外での学習方法

好奇心をもって、各自の研究テーマを掘り下げる努力をする

教科書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	河野 充央	

テーマ

卒業論文の作成および完成

獲得目標

質の高い卒論を完成させ、学士号を取得する

授業の内容

内 容

- 第1回 下書きを提出 レジユメとして目次を全員に配布 概要報告と意見交換 必要に応じて口頭にて指導
- 第2回 報告とチェック(1) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第3回 報告とチェック(2) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第4回 報告とチェック(3) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第5回 報告とチェック(4) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第6回 報告とチェック(5) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第7回 報告とチェック(6) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第8回 報告とチェック(7) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第9回 報告とチェック(8) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第10回 報告とチェック(9) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第11回 最終チェック(1) (個別指導を含む)
- 第12回 最終チェック(2) (個別指導を含む)
- 第13回 口頭試問準備(1) (個別指導を含む)
- 第14回 口頭試問準備(2) (個別指導を含む)
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

好奇心をもって、各自の研究テーマを掘り下げる努力をする

教科書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <c>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 今井 まりな

テーマ

卒業論文の完成

獲得目標

これまでに行ってきた作業を取りまとめ、卒業論文として完成することを目的とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 良い論文とは何か？
- 第3回 事例分析・考察
- 第4回 事例分析・考察
- 第5回 事例分析・考察
- 第6回 事例分析・考察
- 第7回 卒業論文中間報告会
- 第8回 卒業論文中間報告会
- 第9回 卒業論文最終報告
- 第10回 卒業論文最終報告
- 第11回 卒業論文最終報告
- 第12回 卒業論文最終報告
- 第13回 卒業論文の検討会
- 第14回 卒業論文の検討会
- 第15回 卒業論文の検討会

授業以外での学習方法

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (70)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <d>

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	李 在鎬	

テーマ

ゼミの研究テーマおよび各ゼミ生の卒業研究を完成し、成果物をまとめる。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の内容

個人的な興味だけではなく、学術的、社会的な問題意識から研究課題を見直し、これまで専門演習で習ってきた理論を土台にし、卒業研究を完成し、卒業論文を執筆する。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告2-3本(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 全体の総括、または必要に応じて学外授業を行う場合がある。
- 第15回 全体の総括、または必要に応じて学外授業を行う場合がある。

授業以外での学習方法

卒業研究の分析対象へのフィールドワーク、インタビュー調査などを勧めます。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（55）

参加度（45）

基本的に2回以上の報告と討論への積極的な参加が求められますが、それに加え、卒業論文の完成まで、数次にわたり、個人指導が必要な場合があります。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <e>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントの学習のまとめと卒業論文の作成

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の内容

卒業研究を完成するために、受講生各人の進捗状況に応じて指導するとともに、論文作成技法の紹介を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業研究報告(1)
- 第3回 卒業研究報告(2)
- 第4回 卒業研究報告(3)
- 第5回 卒業研究報告(4)
- 第6回 卒業研究報告(5)
- 第7回 卒論研究中間報告会(予定)
- 第8回 卒論研究中間報告会(予定)
- 第9回 卒業研究報告(6)
- 第10回 卒業研究報告(7)
- 第11回 卒業研究報告(8)
- 第12回 卒業研究報告(9)
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 演習全体のまとめ

授業以外での学習方法

卒業研究の完成のために、必要に応じて個別に指導する。また、自主ゼミ等も活用して受講生相互で卒論の内容を議論することが望ましい。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a501040255

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <f>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文を完成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
- 第2回 卒論進捗報告(結論)
- 第3回 卒論進捗報告(結論)
- 第4回 卒論進捗報告(結論)
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告(全体)
- 第7回 卒論最終報告(全体)
- 第8回 卒論最終報告(全体)
- 第9回 卒論最終報告(全体)
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <g>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高原 正興

テーマ

卒業論文の作成にむけて

獲得目標

12月の卒業論文の提出にむけて、よりよい卒業論文が作成できるように、ゼミ生の研究発表を続け、教員がアドバイスを加える。

授業の内容

ゼミ生による卒業論文の研究発表と教員のアドバイス(合宿を含む)

内 容

- 第1回 後期ガイダンス
- 第2回 卒業論文の研究発表(1)
- 第3回 卒業論文の研究発表(2)
- 第4回 卒業論文の研究発表(3)
- 第5回 卒業論文の研究発表(4)
- 第6回 卒業論文の研究発表(5)
- 第7回 卒業論文の研究発表(6)
- 第8回 卒業論文の研究発表(7)
- 第9回 卒業論文の研究発表(8)
- 第10回 卒業論文の研究発表(9)
- 第11回 卒業論文の研究発表(10)
- 第12回 卒業論文の研究発表(11)
- 第13回 卒業論文の研究発表(12)
- 第14回 要約の作成・発表(1)
- 第15回 要約の作成・発表(2)

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <h>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

卒業論文を完成させる

獲得目標

各自、課題に即した研究方法を習得して、論文の書き方を学び、卒業論文を完成させる。

授業の内容

卒業研究の中間報告とコメントおよび最終報告とコメント。

内 容

- 第1回 卒業研究報告1(結論)
- 第2回 卒業研究報告2(結論)
- 第3回 卒業研究報告3(結論)
- 第4回 卒業研究報告4(結論)
- 第5回 卒業研究中間報告会(予定)
- 第6回 卒業研究中間報告会(予定)
- 第7回 卒業研究最終報告1(全体)
- 第8回 卒業研究最終報告2(全体)
- 第9回 卒業研究最終報告3(全体)
- 第10回 卒業研究最終報告4(全体)
- 第11回 卒論執筆原稿相互検討1
- 第12回 卒論執筆原稿相互検討2
- 第13回 口頭試問の準備1
- 第14回 口頭試問の準備2
- 第15回 口頭試問の準備3
- 第16回 演習の総括

授業以外での学習方法

必要に応じて個別指導を行うほか、ゼミ生相互で卒論を報告し合い、議論し合うのが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈救急〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 北小屋 裕.関根 和弘.千田 いずみ.夏目 美樹.深澤 雄二.福岡 範恭

テーマ

国家試験対策

獲得目標

救急救命士国家試験に合格できる知識を習得することを目的とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス、救急救命士国家試験対策
- 第2回 救急救命士国家試験対策
- 第3回 救急救命士国家試験対策
- 第4回 救急救命士国家試験対策
- 第5回 救急救命士国家試験対策
- 第6回 救急救命士国家試験対策
- 第7回 救急救命士国家試験対策
- 第8回 救急救命士国家試験対策
- 第9回 救急救命士国家試験対策
- 第10回 救急救命士国家試験対策
- 第11回 救急救命士国家試験対策
- 第12回 救急救命士国家試験対策
- 第13回 救急救命士国家試験対策
- 第14回 救急救命士国家試験対策
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)
授業中課題 ()

小テスト ()
授業中発表等 ()

a501040259

参加度 ()

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 都市環境デザイン論Ⅱ〈Z〉

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 富本 真理子	

テーマ

京都の文化観光を通じて地域の文化をいかにコーディネートするかを考える。

獲得目標

主に京都市内で実践されている、様々な文化観光の特徴を理解するために必要な事柄について概観する。具体的にそれらに関わっている人々から、その活動をするに至った経緯や、マネジメント、今後への思いなどの話を聞く。以上から、文化と都市、プロデュースと環境デザインの関係を広く学ぶ。

授業の内容

京都の文化観光の実践者の話を必要に応じて聞く。また、双方向型授業としてワークショップの手法を随時を取り入れる。文化プロデュース論でもあるが、京都の興味深い観光事業について知ることできる。

内 容

- 第1回 文化プロデュースの視点からみた文化観光
- 第2回 文化政策と観光政策
- 第3回 地域の文化を地域の人によって地域の人に ～見えなかったことを見えるように～
- 第4回 「まいまい京都／住民がガイドする京都のミニツアー」（ゲストスピーカーのお話）
- 第5回 ワークショップ：身近な場所の宝探しから
- 第6回 日本文化を外国人へ～今なぜ日本文化か～
- 第7回 ～食文化編～事例考察「京都クッキングサークル」
- 第8回 ～日本の魅力を伝える通訳案内士（ガイド）の仕事～
- 第9回 ～伝統文化編～事例考察「妙心寺・春光院」
- 第10回 文化をプロデュースする視点、企画や運営、広報、思い。
- 第11回 ～文化の交流拠点としてのゲストハウス～（ゲストスピーカーのお話）
- 第12回 ～文化体験プログラム～事例考察「WAK JAPAN」（ゲストスピーカーのお話）
- 第13回 ～まとめ～ 異文化からみた日本文化と、私たち日本人
- 第14回 ワークショップ：文化を楽しみ、共有しよう！
- 第15回 文化観光を通じて見えてきた文化プロデュース

授業以外での学習方法

文化とは何かを、さらに、その文化を社会でサポートするような観光のあり方について考えること。参考文献を読むこと。

教科書

参考書

固有価値の地域観光論～京都の文化政策と市民による観光創造

著者： 富本 真理子

出版社： 水曜社

出版年： 2011年

ISBN： 978-4880652566

創造都市のための観光振興

著者： 宗田 好史

出版社： 学芸出版社

出版年： 2009年

ISBN： 978-4761512675

京都・観光文化への招待

著者： 井口 貢、池上 惇編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2011年

ISBN： 978-4623058730

観光文化と地元学

著者： 井口 貢

出版社： 古今書院

出版年： 2011年

ISBN： 978-4772231381

成績評価

試験（0）

授業中課題（40）

参加度（30）

小テスト（0）

授業中発表等（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **CAD演習 I **

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者 杉本 雅子		

テーマ

JW-CADによる建築製図

獲得目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CAD の基本的な操作方法について学ぶ。

授業の内容

建築業界で最も代表的なCADソフトの一つであるJW-CADを習得する。基本操作を学習後、実際の建築図面を一通り作成することにより、CADにより建築製図の基礎をマスターする。

内 容

- 第1回 CAD ソフトについて
- 第2回 CAD ソフトについて(2)
- 第3回 CAD 製図の基礎とオブジェクトの操作
- 第4回 CAD 製図の基礎とオブジェクトの操作(2)
- 第5回 平面図の作図
- 第6回 // (2)
- 第7回 // (3)
- 第8回 // (4)
- 第9回 // (5)
- 第10回 // (6)
- 第11回 // (7)
- 第12回 // (8)
- 第13回 家具、窓等の作図
- 第14回 家具、窓等の作図(2)
- 第15回 課題の作図、提出
- 第16回 課題の作図、提出(2)
- 第17回 立面図の作図
- 第18回 // (2)
- 第19回 // (3)
- 第20回 // (4)
- 第21回 // (5)
- 第22回 // (6)
- 第23回 断面図の作図
- 第24回 // (2)
- 第25回 // (3)
- 第26回 // (4)
- 第27回 敷地図の作図、レイアウト
- 第28回 敷地図の作図、レイアウト(2)
- 第29回 図面の設定、印刷
- 第30回 総括

授業以外での学習方法

建築、インテリアの専門書に目を通し、建築作品展に足を運ぶことにより、図面の表現技法を自身の目で学ぶこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **構造力学 I**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 山本 康彦	

テーマ

構造物に働く力について、基本的な知識を習得する。

獲得目標

力に関する基本的な知識を学び、構造物について詳しく理解する。力学で使われる用語の解説から、構造物に生じる反力と応力の求め方、構造物の判別、静定構造物の弾性解析、断面の性質などについて練習問題を通して具体的に理解を深める。

授業の内容

テキストに沿って講義を進めながら、プリント類を使って理解度を確認する。

内 容

- 第8回 断面の性質1
- 第9回 断面の性質2
- 第10回 静定ラーメンの応力計算1 片持はり型ラーメン
- 第11回 静定ラーメンの応力計算2、単純はり型ラーメン
- 第12回 静定ラーメンの応力計算3、3ヒンジラーメン
- 第13回 静定トラスの解析1、節点法
- 第14回 静定トラスの解析2、切断法
- 第15回 まとめ
- 第1回 構造力学について
- 第2回 力のつり合い
- 第3回 外力と内力のつりあい
- 第4回 構造物の分類とモデル化
- 第5回 構造部材に生じる応力と応力図
- 第6回 静定骨組みの応力計算1 片持ちはり
- 第7回 静定骨組みの応力計算2 単純はり

授業以外での学習方法

構造物について、どのような力が作用しているかを、常にイメージする。

教科書

図説 やさしい構造力学

著者： 浅野清昭

出版社：(株)学芸出版社

出版年：2011年

ISBN:

参考書

a50201d650

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 インテリアエレメント

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 康子	

テーマ

インテリア空間を構成する要素についての基礎知識を修得する。

獲得目標

インテリアにおいて、構造から仕上げに至るまでの基本的な知識を修得する。規格や性質等を含め、さまざまなインテリアエレメントについて学ぶ。構成要素・素材の総合的な知識を身に付け、材料・空間・生活の相互関連メカニズムを論じる。また、ユニバーサルデザイン、サステイナブルデザインにも言及する。

授業の内容

さまざまなインテリアエレメント(床、窓、壁、天井、階段、家具など)について、構造、規格、性質、仕上げなどの基本的な知識を修得する。インテリア空間と人間の生活とが、どのように関わり合うのかについても検討する。

内 容

- 第1回 インテリアエレメント・マテリアル概論
- 第2回 文化としての生活・建築・環境づくり: インテリア空間の基本的構成エレメント1
- 第3回 文化としての生活・建築・環境づくり: インテリア空間の基本的構成エレメント2
- 第4回 要素と構成: 要素から室内空間へ1……(エレメント-1)
- 第5回 要素と構成: 要素から室内空間へ2……(エレメント-2)
- 第6回 重要要素の種類と性格……(エレメント-3)
- 第7回 内外環境計画の現場を知る【学外研修】: エレメントとマテリアルへの注目
- 第8回 空間構成と計画……(エレメントとマテリアル-1)
- 第9回 空間構成と表現……(エレメントとマテリアル-2)
- 第10回 要素と構築-1: 石と壁組から……(マテリアル-1)
- 第11回 要素と構築-2: 木と軸組から……(マテリアル-2)
- 第12回 重要材の種類と性質……(マテリアル-3)
- 第13回 エレメントとマテリアルによる統合-1: ユニバーサルデザイン
- 第14回 エレメントとマテリアルによる統合-2: サステイナブルデザイン
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

見学や、雑誌・写真集の閲覧などを通して、なるべく多くの作品に触れること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a50201d850

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <a>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 竹山 清明	

テーマ

望ましい生活空間のつくり方を学ぶ

獲得目標

使いやすく美しい建築やインテリアの計画・デザインや、その空間の中にある質の高い家具や生活用品などのデザインの進め方を学ぶ。

授業の内容

そのようなものを形づくる専門家としての基礎教育である。

内 容

- 第1回 各自が興味を持つ家具や生活用品について その1
- 第2回 各自が興味を持つ家具や生活用品について その2
- 第3回 各自が興味を持つ家具や生活用品について その3
- 第4回 各自が興味を持つ家具や生活用品について その4
- 第5回 各自が興味を持つ家具や生活用品について その5
- 第6回 各自が興味を持つ家具や生活用品について その6
- 第7回 各自が興味を持つ家具や生活用品について その7
- 第8回 見学・調査などのフィールドワーク
- 第9回 各自が興味を持つ建築の模型をグループでつくる その1
- 第10回 各自が興味を持つ建築の模型をグループでつくる その2
- 第11回 各自が興味を持つ建築の模型をグループでつくる その3
- 第12回 各自が興味を持つ建築の模型をグループでつくる その4
- 第13回 各自が興味を持つ建築の模型をグループでつくる その5
- 第14回 各自が興味を持つ建築の模型をグループでつくる その6
- 第15回 各自が興味を持つ建築の模型をグループでつくる その7

授業以外での学習方法

常日頃から望ましい生活空間のあり方を自主的に探る姿勢の獲得が必要である。様々な魅力的な生活空間の見学・調査や、それらが掲載されている写真資料などを眺め学ぶことを生活習慣にして欲しい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

a50202ab50

授業中課題（50%）
参加度（25%）
制作物の質を評価

授業中発表等（25%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

建築やインテリアの見学

獲得目標

各班で計画を提案し、合理的でスムーズな見学計画をまとめ、実行する。

授業の内容

各班で見学計画をたて、ゼミで発表する。

内 容

- 第1回 ガイダンス、班決め
- 第2回 1班計画発表、打ち合わせ
- 第3回 1班計画修正、2班計画発表、打ち合わせ
- 第4回 見学1
- 第5回 見学1
- 第6回 1班見学反省、2班計画修正、3班計画発表、打ち合わせ
- 第7回 見学2
- 第8回 見学2
- 第9回 2班見学反省、3班計画修正、4班計画発表、打ち合わせ
- 第10回 見学3
- 第11回 3班見学反省、4班計画修正、5班計画発表、打ち合わせ
- 第12回 見学4
- 第13回 4班見学反省、5班計画修正
- 第14回 見学5
- 第15回 5班見学反省、まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <c>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 今井 裕夫	

テーマ

建築・インテリアの設計の理解②

獲得目標

住居と環境の親和性の理解(環境設計手法の獲得) 人間と住居との関係や、人間の生活と自然環境、風土、風景との関わり方について、さまざまな観点や角度からの学習を行う。住居と環境との親和性を踏まえた設計手法を獲得するための簡単な実技を交える。

授業の内容

内 容

- 第1回 生活環境の理解① 里山(山辺)
- 第2回 生活環境の理解② 里山(水辺)
- 第3回 ベースとなる思考① 生物多様性
- 第4回 ベースとなる思考② 福岡 正信
- 第5回 ベースとなる思考③ 宮本 常一
- 第6回 現代美術① ランドスケープアート
- 第7回 現代美術② 環境美術
- 第8回 記憶のデザイン 記憶地図の作成
- 第9回 美とはなにか
- 第10回 庭園と建築 桂離宮の構成と分析
- 第11回 茶庭と茶室(極小空間) 北野 武×千 宗室
- 第12回 環境建築 藤森照信の作品
- 第13回 イサム・ノグチの芸術 モエレ沼公園
- 第14回 新宮 晋の作品
- 第15回 環境設計 ポケットパークの設計

授業以外での学習方法

常日ごろカメラと取材ノート(A6)を持ち歩くこと。

教科書

毎回 必要な資料を配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <d>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 織田 直文	

テーマ

社会を学び、まちの元気づくりを実践する

獲得目標

現代社会の様々な病理について学ぶとともに、まちを元気にするプロデュース力を身につける。

授業の内容

教科書を用いて現代社会の問題点を深く学び、その上でまちづくりの意義や手法を学習する。教科書の内容を学生が分担して予習し、ゼミで報告し討論を行う。また、具体的なイベントを体験する。

内 容

- 第1回 ゼミの進め方、自己紹介
- 第2回 フィールドワーク調査
- 第3回 フィールドワーク調査
- 第4回 教科書発表① + イベント研究①
- 第5回 教科書発表② + イベント研究②
- 第6回 イベント体験
- 第7回 イベント体験
- 第8回 教科書発表③ + イベント研究③
- 第9回 イベント体験
- 第10回 イベント体験
- 第11回 教科書発表④
- 第12回 教科書発表⑤
- 第13回 教科書発表⑥
- 第14回 まちづくりに関する総括講義
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

卒業研究を念頭に、日頃から情報収集を行いスクラップする。

教科書

文芸春秋オピニオン2014年の論点100

著者： 文芸春秋社編

出版社： 文芸春秋社

出版年： 2014

ISBN:

参考書

とくにない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

ィールドワーク重視のゼミなので、その部分における学生の取組姿勢評価部分のウエイトが大きい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <e>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	
担当者 小暮 宣雄		
テーマ		
アーツマネジメント入門(2)		

獲得目標

アーツシーンを出来るだけ具体的に調査できるようになる。アーツの現場で仕事が少しでも出来き、参加した活動を自分の言葉で発表できる。文献をきちんと読み、レジュメづくりができる。

授業の内容

夏休みの体験が決め手になるので、授業開始前から準備すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 夏休みの体験報告1
- 第3回 夏休みの体験報告2
- 第4回 夏休みの体験報告3
- 第5回 視覚芸術の特質
- 第6回 美術を知ろう～ワークショップ体験～ 学外授業予定
- 第7回 工芸を知ろう
- 第8回 デザインを知ろう
- 第9回 映画とは・・・非ハリウッド映画、ドキュメント映画
- 第10回 文献レジュメづくりワーク1
- 第11回 文献レジュメづくりワーク2
- 第12回 レジュメによる発表の心得と発表1
- 第13回 レジュメによる発表2
- 第14回 レジュメによる発表3
- 第15回 まとめ～アーツマネジメントと私たち

授業以外での学習方法

授業中、学外授業のほか、自主的活動、アーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。なお、アーツ体験のさい、授業時間外の課題としてアーツマネージャーへのインタビューを行ってもらう予定にしているため、そういうアーツのプロの言葉が教科書ということになるかも知れない。

教科書

参考書

日本映画史100年
著者： 四方田犬彦
出版社： 集英社
出版年： 2000年

ISBN: 4087200256

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（20）

授業中発表等（30）

参加度（50）

夏休みにアート体験をしてもらい、その発表を行い、継続的にアートシーンに関わってもらおう。学外授業については、他の授業などとの調整のため学内鑑賞に変える可能性あり。可能性としてだが、アーティストとの交流、アート・ワークショップ体験もあるかも知れない。この内容の授業順序はアーティストなどの事情で自由に入れ替わる。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄メインブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <f>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 小森 治夫	
テーマ	
京都の観光について学ぶ	

獲得目標

(1)わが国を代表する観光文化都市・京都の観光資源について学ぶとともに、今後の京都観光のあり方について考える (2)観光関連業界の仕事について学ぶ (3)全国の観光・まちづくりの優れた事例について学び、ふるさとの観光・まちづくりに貢献できる人材となることをめざす

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 秋の嵐山・嵯峨野
- 第3回 洛中洛外図
- 第4回 時代祭・鞍馬の火祭
- 第5回 南禅寺界隈の庭・並河靖之邸
- 第6回 京和菓子
- 第7回 花街と舞妓・芸妓(1)
- 第8回 花街と舞妓・芸妓(2)
- 第9回 伝統産業(1)西陣織、友禅染
- 第10回 伝統産業(2)京焼・清水焼
- 第11回 旅行業界(1)
- 第12回 旅行業界(2)
- 第13回 ホテル業界
- 第14回 航空業界
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

京都の寺社仏閣をはじめとする観光地を自らフィールドワークして、その現状と問題点を発見するとともに、その改善策について提案する

教科書

参考書

京都の「まち」の社会学
 著者： 鯨坂学・小松秀雄編
 出版社： 世界思想社
 出版年： 2008年

ISBN:

観光京都研究叙説

著者： 杉野国明

出版社： 文理閣

出版年： 2007年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **基礎演習IV <g>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	
担当者	谷口 知司	

テーマ

観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化

獲得目標

世界中で年間10億人近くの人々が観光目的で移動していると言われていています。こうした現状から観光は、それを担う21世紀最大の産業と言われていています。ゼミでは、「ビジネスとしての観光」と「文化現象としての観光」という2つの視点から観光を眺めることによって、観光を総合的に理解する力を身につけることを目標とします。特に基礎演習IV(後期)では、「文化現象としての観光」を中心に扱います。

授業の内容

課題発表は随時行う。

内 容

- 第1回 文化と何か？
- 第2回 文化資源、文化財、文化遺産等と観光資源について1
- 第3回 文化資源、文化財、文化遺産等と観光資源について2
- 第4回 ニューツーリズムについて1 文化観光、グリーンツーリズム、エコツーリズム等
- 第5回 ニューツーリズムについて2
- 第6回 ニューツーリズムについて3
- 第7回 京都まちなかアーカイブ事前研究1
- 第8回 京都まちなかアーカイブ事前研究2
- 第9回 京都まちなかアーカイブを行う。
- 第10回 デジタル・アーカイブと観光資源の情報化1
- 第11回 デジタル・アーカイブと観光資源の情報化2
- 第12回 世界遺産現地調査事前研究1
- 第13回 世界遺産現地調査事前研究2
- 第14回 世界遺産現地調査事前研究3
- 第15回 課題発表

授業以外での学習方法

世界遺産の現地調査を行う。そのためのさまざまな準備等を授業外で行う。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010年

ISBN:

成績評価

試験（0）

授業中課題（30）

参加度（30）

小テスト（20）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 今井 裕夫	

テーマ

「フォルム・マテリアル(建築素材)」の研究

獲得目標

素材、材料として建築や工作物の美しさや時間、物質的な滅びや腐食を読み取り、空間と人間の関係性についてイメージすることにより、建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての視線・眼差しを獲得する。同時に作家研究もしくは設計課題を行う。

授業の内容

日常的な環境からの建築の素材や材料の多様な魅力を素材と言葉を交わし獲得すること。撮影すること。建築素材の〔質〕を読み取り、人間の感性とイメージを重ねることを行う。・写真によるチェックを行う。・写生または写真からのドローイングにより記憶素としての確認を行う。・眼差しによる言葉をつづること。(箇条書でよいがキーワードやキャプションが必要)・適宜、報告と情報交換をゼミ形式で行う。発表者はメモを用意する。・2-3名のグループ行動がよいと思われる。・提出物は感性ノートⅡ A4版(20P)クリアファイル(A4 用紙に写真またはコピーを添付(コメント付き)20枚以上/ドローイング2枚・カメラ(できればマニュアルカメラ)を所有すること。・その他指示による。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 講義
- 第3回 取材①
- 第4回 取材①
- 第5回 取材①
- 第6回 講義
- 第7回 課題(設計 ドローイング)
- 第8回 課題(設計 ドローイング)
- 第9回 課題(設計 ドローイング)
- 第10回 取材②
- 第11回 取材②
- 第12回 取材②
- 第13回 発表・講評
- 第14回 発表・講評
- 第15回 ノート作成(提出)

授業以外での学習方法

つね日頃、カメラを持参すること。環境のすみずみに息づく空間に興味を持つこと。空間の〔質〕を問うこと。撮影すること。

教科書

参考書

成績評価

a50203a250

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **専門演習Ⅱ **

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 竹山 清明

テーマ

アーキキャド(3Dキャド)を学ぶ

獲得目標

現在の建築キャドソフトの中では最も先進的で性能の高いアーキキャドの操作方法を学ぶ。

授業の内容

CADに実地に触り習練する

内 容

- 第1回 CAD演習 その1
- 第2回 CAD演習 その2
- 第3回 CAD演習 その3
- 第4回 CAD演習 その4
- 第5回 CAD演習 その5
- 第6回 CAD演習 その6
- 第7回 CAD演習 その7
- 第8回 CAD演習 その8
- 第9回 CAD演習 その9
- 第10回 CAD演習 その10
- 第11回 CAD演習 その11
- 第12回 CAD演習 その12
- 第13回 CAD演習 その13
- 第14回 CAD演習 その14
- 第15回 成果物の提出・評価

授業以外での学習方法

空いている時間には、キャド室で次週を行い、習熟度を高めて欲しい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 松本 正富	

テーマ

卒業制作・論文に向けたテーマとコンセプトの模索

獲得目標

当ゼミでは、卒業研究として建築・インテリア設計作品の制作を前提とする。生活環境や空間デザインを扱う分野において自分の興味対象を絞り込み、魅力とやりがいのある卒業制作のテーマを設定する。

授業の内容

1) 各自の興味を抱いた内容について調査分析し、ビジュアル的に配慮したプレゼンテーションに纏める。これに対するディスカッションを繰り返すなかで、テーマの絞り込みとコンセプトの構想につなげる。2) “社会的な問題を提起し、その解決に向けた建築的仕掛けを考察する”といった一連の行為についての練習を重ねる。3) 数回の建築見学会を開催する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 課題の設定
- 第3回 プレゼンテーション-1
- 第4回 プレゼンテーション-2
- 第5回 プレゼンテーション-3
- 第6回 プレゼンテーション-4
- 第7回 プレゼンテーション-5
- 第8回 建築見学会-1
- 第9回 卒業制作・論文のテーマ設定-1
- 第10回 卒業制作・論文のテーマ設定-2
- 第11回 卒業制作・論文のテーマ設定-3
- 第12回 卒業制作・論文のテーマ設定-4
- 第13回 卒業制作・論文のテーマ設定-5
- 第14回 建築見学会-2
- 第15回 まとめと講評 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

教科書

建築系学生のための卒業設計の進め方

著者： 日本建築学会 編

出版社： 井上書院

出版年： 2009

ISBN： 9784753010554

参考書

コンパクト設計資料集成

著者： 日本建築学会編

成績評価

試験（ ）

授業中課題（30）

参加度（40）

小テスト（ ）

授業中発表等（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

テーマに沿った空間のデザインと就職活動について

獲得目標

あるテーマに沿って空間をデザインする。

授業の内容

空間デザインと就活に関する発表を4回行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4(業界研究)
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 見学
- 第15回 見学

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <e>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 近藤 康子	

テーマ

「現代」における建築・インテリアの読解とデザイン

獲得目標

「現代」を独自の視点から捉え、何が求められているのか問う力を養う。卒業制作・論文や、就職活動へと繋がる課題を見つける。専門演習Ⅰに引き続き、読解力、表現力を身に付ける。

授業の内容

・作品分析 現代作家の作品を取り上げ(各自興味をもった建築やインテリア)、それについての調査・分析を行ない、「現代」における課題を確認する。これをふまえたうえで、建築・インテリアのデザインを通して自分なりの解答を出す。・設計課題 具体的に決められた敷地、必要諸室などの様々な条件を丁寧に読み解き、設計を行なう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 各自取り上げる作品を決定する。
- 第3回 作品を調査・分析する。
- 第4回 作品を調査・分析する。
- 第5回 調査・分析をふまえたうえで、その作品に自分なりの新しい提案を加える。
- 第6回 作品の提案
- 第7回 作品の提案
- 第8回 プレゼンテーション
- 第9回 設計課題;店舗
- 第10回 設計課題;店舗
- 第11回 設計課題;店舗
- 第12回 設計課題;店舗
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 見学会
- 第15回 見学会 ※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行なうことがある。

授業以外での学習方法

卒業制作・論文や就職活動を視野に入れて活動すること。展覧会やイベントなどに積極的に参加し、自身の経験を通して社会の動向を学ぶこと。

教科書

使用しない。資料を適宜配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈f〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

まちの元気づくりプロデュース + 卒業研究。

獲得目標

活性化が求められているまちの元気づくりプロデュース力の獲得とあわせ、各自が卒業研究活動を進める。

授業の内容

具体的なイベントを体験する。また、各自が卒業研究活動を進める。テーマは例えば祭・イベント、歴史や文化、自然・環境、伝統産業・観光等の振興、町家・町並み、中心市街地や歴史的商店街の活性化等である。また適宜、ゲストスピーカーを招いての学習やフィールドワークなども行う。

内 容

- 第1回 後期の進め方、まちづくり事業企画についての講義
- 第2回 フィールドワークの実施①
- 第3回 フィールドワークの実施②
- 第4回 地域イベントへの参加
- 第5回 地域イベントへの参加
- 第6回 地域イベントの反省
- 第7回 卒業研究に関する講義
- 第8回 卒業研究に向けての発表①
- 第9回 4回生卒論中間発表会への参加
- 第10回 卒業研究に向けての発表③
- 第11回 政策系大学交流会への参加(学外授業)
- 第12回 政策系大学交流会への参加(学外授業)
- 第13回 卒業研究に向けての発表④
- 第14回 卒業研究に向けての発表⑤
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

卒業研究を念頭に、日頃から情報収集を行いスクラップする。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

とくにない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

卒業研究を念頭に、日頃から情報収集を行いスクラップする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <g>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	

テーマ

アーツを伝える、文化を創る(その2) —アーツマネジメント経験の伝達と理論化

獲得目標

1) 自分のアーツマネジメント活動を発表できるようになる 2) 卒業後の自分の仕事イメージを形成できるようにする 3) 実演芸術、視覚芸術、言語芸術のほか、冠婚葬祭イベントなど自分のテーマをみつけ、将来の自分の仕事との関係を考える

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 4回生の卒業研究中間報告に参加①
- 第3回 4回生の卒業研究中間報告に参加②
- 第4回 京都学生芸術作品展アーツバーの企画・運営①
- 第5回 京都学生芸術作品展アーツバーの企画・運営②
- 第6回 京都学生芸術作品展アーツバーの企画・運営③
- 第7回 秋の文化イベントの参加(アーツ鑑賞になる可能性あり)
- 第8回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する①
- 第9回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する②
- 第10回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する③
- 第11回 文化プロデュースの実践の仕方・・・めくるめく紙芝居など、現地でのワークショップ
- 第12回 キャリア研究① 自分のキャリアとアーツマネジメント
- 第13回 キャリア研究② 生活と文化プロデュース分野を探る
- 第14回 キャリア研究③ 限界芸術と冠婚葬祭
- 第15回 まとめ 卒業研究をこれから深めるために

授業以外での学習方法

就職活動との連動に配慮する 卒業研究について、制作の場合は、この秋からスタートにする て、自分が購読すべき文献リストとスケジュールを作る課題を出すので、それに従って努力すること。また、学外で研究成果を発表する機会を作る(紹介するので、積極的に参加すること)。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト ()

日ごろの実践活動をノートやブログ、ツイッターなどにして見えるようにすること。その自分の行動のプロセスを客体化している様子を評価に加えたい。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄のメインサイト

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <h>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 谷口 知司	

テーマ

観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究

獲得目標

観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺的な知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、教科書の輪読を併せて行う。

授業の内容

演習であるため、学生の活動が中心になる。

内 容

- 第1回 京都まちなかアーカイブ事前学習 前期で学習したデジタル・アーカイブの知識や技術を活用し、京都まちなかアーカイブを行う。また、新たにGPSによる位置情報や撮影方向などの記録を同時に取得する方法について学ぶ。
- 第2回 京都まちなかアーカイブ事前学習
- 第3回 京都まちなかアーカイブ事前学習
- 第4回 京都まちなかアーカイブ事前学習
- 第5回 京都まちなかアーカイブを行う。
- 第6回 ツーリズムの形態について学ぶ。1班3名のグループを構成し、グループによる課題研究方式で、ツーリズムの形態(エコ、グリーン、産業、都市etc)や、その意味・意義・課題等について研究する。また、特定の地域におけるそれぞれの形態での旅の計画を行う。なお、研究成果は指定された日に発表することを要求する。課題解決の方法ならびに発表内容については適宜指導する。
- 第7回 ツーリズムの形態について学ぶ。
- 第8回 ツーリズムの形態について学ぶ。
- 第9回 ツーリズムの形態について学ぶ。
- 第10回 ツーリズムの形態について学ぶ。
- 第11回 課題発表
- 第12回 卒業論文のテーマについて考える。
- 第13回 卒業論文のテーマについて考える。
- 第14回 卒業論文のテーマについて考える。
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ<i></i>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

観光/文化とビジネスマインド

獲得目標

ビジネス・マインドを基礎にした文化プロデュースを学ぶ姿勢を確立する

授業の内容

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練(専門演習Ⅰ、Ⅱ共通)・読む、書く、話す、考える、伝える等、様々な学習方法を通して、専門領域の学習はいうまでもなく、オリジナルな卒論執筆に向けた準備を進める。苦手分野を平均レベルにあげることを念頭に、授業外で就職活動についての相互サポートを積極的に実施し、学生生活の充実を共通目標に定めて、4回生春の内定獲得を副次的目標とする。

内 容

- 第1回 「場のマネジメント」を読む①
- 第2回 「場のマネジメント」を読む②
- 第3回 「観光文化学」を読む①
- 第4回 「観光文化学」を読む②
- 第5回 「人を助けるとはどういうことか」を読む①
- 第6回 「人を助けるとはどういうことか」を読む②
- 第7回 卒論準備書誌情報作成①
- 第8回 卒論準備書誌情報作成②
- 第9回 卒論準備書誌情報作成③
- 第10回 旅行企画①
- 第11回 旅行企画②
- 第12回 旅行企画③
- 第13回 「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む①
- 第14回 「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む②
- 第15回 「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む③ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

日経ビジネスオンライン、日経新聞を読んでおくこと。学外授業を行うこともある。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

実践知

著者: 金井壽宏/楠見孝

出版社: 有斐閣

出版年: 2012

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (20)

授業出席と授業中課題は成績評価の最低条件です。

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <j>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること

クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

プロジェクトマネジメント & 空間プロデュース(2) ～専門研究の展開と仕事研究の準備～

獲得目標

本演習では、まず夏休みに実施した各自のアパレンティスシップの報告を通じて、各々の経験を共有し、自分たちの将来について考えることを行う。また、後半では各自のテーマ内容をより深め、基礎知識から専門知識へと高めていく。卒業論文と同時に就職の準備サポートも可能な限り行う。あわせて、サブプログラムの継続実施をし、応用実践の一連のプログラムを学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標)
- 第2回 アパレンティスシップ報告(1)
- 第3回 アパレンティスシップ報告(2)
- 第4回 前期に確立した研究・活動スケジュールの修正
- 第5回 文献研究の整理(1)
- 第6回 文献研究の整理(2)
- 第7回 文献研究の整理(3)
- 第8回 中間発表(1)
- 第9回 中間発表(1)
- 第10回 個別研究課題の設定
- 第11回 個別研究課題の調査(1)
- 第12回 個別研究課題の調査(2)
- 第13回 期末発表(1)
- 第14回 期末発表(2)
- 第15回 評価とまとめ

授業以外での学習方法

個別研究課題を設定するのに時間がかかる人が多いため、なるべく早くからさまざまな社会的関心をもち、候補をいくつか考えるようにしてほしい。また、文献も収集するのに時間がかかるため、日頃から情報アンテナを広げる癖をつけるようにしてほしい。また、前期に引き続き、メーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を行うのと、全体で行うサブプログラムを継続実施する。なお、必要に応じてゼミ会も行う。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題（30）
参加度（40）
特に出席を重視する。

授業中発表等（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **災害看護学 I**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担 当 者	奥野 信行・小野塚 元子・川口 淳・河原 宣子・竹下 夏美・夏目 美樹・堀 妙子

テーマ

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動についてライフサイクルを踏まえて理解する。また、救命救急活動における基本的技術を習得する。

獲得目標

1.災害看護に関する基本的知識と援助技術を理解する。2.ライフサイクル各期の災害看護活動を理解する。3.国内諸地域および国際協力における健康危機管理とその対策、災害看護活動を理解する。4.救命救急活動に必要なBLS、応急手当等を習得する。

授業の内容

1～6回は、各教員によるオムニバス講義を行う。7～8回は、実習室においてBLSや応急手当等の実技演習を行う。

内 容

- 第1回 災害看護とは 災害に関する基礎知識、災害サイクル各期における災害看護活動、健康危機発生時の緊急対応、心的外傷後ストレス障害
- 第2回 地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システムと看護の役割
- 第3回 ライフサイクル各期における災害看護活動①
- 第4回 ライフサイクル各期における災害看護活動②
- 第5回 災害看護活動における国際協力
- 第6回 救命救急処置技術の基本
- 第7回 救命救急処置技術の演習(BLS、応急手当等)
- 第8回 救命救急処置技術の演習(BLS、応急手当等)

授業以外での学習方法

国内外で発生している災害に関する情報について関心を持ちこと。自身の日常生活における防災・減災の準備を行うこと。

教科書

災害看護学習テキストー概論編ー

著者： 南裕子・山本あい子編集

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 最新刊

ISBN:

災害看護学習テキストー実践編ー

著者： 南裕子・山本あい子編集

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 最新刊

ISBN:

参考書

いのちとこころを救う災害看護

著者： 小原真理子監修

出版社： 学研

出版年：最新刊 ISBN：

演習で学ぶ災害看護

著者：小原真理子監修

出版社：南山堂

出版年：最新刊 ISBN：

災害現場でのトリアージと応急処置

著者：山崎達枝著

出版社：日本看護協会出版会

出版年：最新刊 ISBN：

新版 災害看護 第2版一人間の生命と生活を守る

著者：黒田裕子・酒井明子監修

出版社：メディカ出版

出版年：最新刊 ISBN：

新体系看護学全書38 看護の統合と実践② 災害看護学

著者：辺見弘監修

出版社：メヂカルフレンド社

出版年：最新刊 ISBN：

災害看護－看護の専門知識を統合して実践につなげる

著者：酒井明子・菊池志津子編集

出版社：南江堂

出版年：最新刊 ISBN：

実践！災害看護－看護者はどう対応するのか

著者：野中廣志著

出版社：照林社

出版年：最新刊 ISBN：

ナーシング・グラフィカEX 災害看護

著者：黒田裕子・酒井明子編集

出版社：メディカ出版

出版年：最新刊 ISBN：

災害看護 心得ておきたい基本的な知識 改訂2版

著者：小原真理子・酒井明子監修

出版社：南山堂

出版年：最新刊 ISBN：

系統看護学講座統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③

著者：日本赤十字社事業局看護部編集

出版社：医学書院

出版年：最新刊 ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（60%）

授業中発表等（ ）

参加度（40%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 国際看護学 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美.河原 宣子.近藤 松子.常田 裕子	

テーマ

国際看護の概念を理解し、多文化共生社会における看護の役割について考える

獲得目標

1. 国際看護・異文化看護について理解するとともに、基礎的な知識を習得する 2. 医療(主として看護)における国際協力の実際を知る 3. 多文化共生社会における看護活動の考え方を理解することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 授業ガイダンス、国際保健・国際看護とは何か(竹下)(9/25)
 第2回 国際看護の主要概念、国際看護と異文化看護(竹下)(10/2)
 第3回 日本が受けた援助の歴史と第二次世界大戦後の日本と援助の関わりについて(竹下)(10/9)
 第4回 日本の看護職による国際協力活動の歴史と変遷(竹下)(10/16)
 第5回 国際協力機関と協力の仕組み、NGOの役割と動向(竹下)(10/23)
 第6回 世界の健康問題の現状と諸要因(竹下)(10/30)
 第7回 国際協力の実際① 国際看護と民俗医療システム・ヘルスケアシステム(各国の事例を用いながら)(竹下)(11/6)
 第8回 国際協力の実際② ジェンダー、リプロダクティブヘルス(常田)(1)(11/13)
 第9回 国際協力の実際③ ジェンダー、リプロダクティブヘルス(2)(竹下)(11/20)
 第10回 国際協力の実際④ 在日外国人の医療と看護(多文化共生センター 高嶋先生)(竹下)(11/27)
 第11回 国際協力の実際⑤ 日本の看護職による国際協力の実際・赤十字の歩みと活動:赤十字の原則、国際人道法(1)(京都第一赤十字病院 近藤先生)(竹下)(12/4)
 第12回 国際協力の実際⑥ 日本の看護職による国際協力の実際・赤十字の歩みと活動:赤十字の原則、国際人道法(2)(京都第一赤十字病院 近藤先生)(竹下)(12/11)
 第13回 国際協力の実際⑦ 社会的・文化的背景の異なる看護職との協働(竹下)(12/18)
 第14回 国際協力の実際⑧ 国際看護と看護教育(河原)(1/8)
 第15回 多文化共生社会における看護について考える(まとめ)(竹下)(1/15)

授業以外での学習方法

授業の内容と日程は、外部講師との関連で変更する場合があります。授業に関連した事前学習について、授業中提示したいと思っています。また、学生の皆さん自身も様々なメディアを通じて、世界の動向について、日常的に考える習慣を身につけましょう。また、国内外を問わず、医療や看護に関連した内容について興味・関心をもって考えてみましょう。

教科書

現在検討中

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（60）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（20）

筆記試験、リアクションペーパー、授業中課題等で評価を行います。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈A〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 伊藤 恵美子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii) 2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読およびディスカッション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1, 2回生合同)
- 第10回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換
- 第11回 文献講読およびディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈B〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 西村 美八

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii) 2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読およびディスカッション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1, 2回生合同)
- 第10回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換
- 第11回 文献講読およびディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈C〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 竹 明美

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii) 2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読およびディスカッション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1, 2回生合同)
- 第10回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換
- 第11回 文献講読およびディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈D〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片山 由加里

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii) 2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読およびディスカッション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1, 2回生合同)
- 第10回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換
- 第11回 文献講読およびディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈E〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 常田 裕子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii) 2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読およびディスカッション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1, 2回生合同)
- 第10回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換
- 第11回 文献講読およびディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈F〉**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 植村 由美子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii) 2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読およびディスカッション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1, 2回生合同)
- 第10回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換
- 第11回 文献講読およびディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈G〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 神崎 光子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii) 2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読およびディスカッション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1, 2回生合同)
- 第10回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換
- 第11回 文献講読およびディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈H〉**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 中橋 苗代

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii) 2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読およびディスカッション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1, 2回生合同)
- 第10回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換
- 第11回 文献講読およびディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈I〉**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2. 文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3. テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web,CiNii) 2. 看護学分野における文献講読の方法について学ぶ ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksの活用など)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読およびディスカッション
- 第9回 4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加(1, 2回生合同)
- 第10回 看護研究演習Ⅱの発表会について情報交換・意見交換
- 第11回 文献講読およびディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめてプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **学校保健**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期集中	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	近藤 恵 寺口 佐與子	

テーマ

学校保健の基礎を学ぶ

獲得目標

1) 学校教育における学校保健の目的について理解できる 2) 学校保健の行政と制度, 学校保健関係職員について理解できる
3) 学校における保健管理と保健教育, 保健組織活動の内容について理解できる 4) 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題について理解できる 5) 学校保健の今日的課題と展望について考察できる

授業の内容

講義およびグループでディスカッションを行い学校保健の理解を深める

内 容

- 第1回 学校保健の概要と学校保健の歴史
- 第2回 学校における保健教育(保健学習と保健指導)
- 第3回 学校における保健管理①(健康診断、保健調査、健康評価)
- 第4回 学校における保健管理②(感染症)、学校環境衛生
- 第5回 学校における保健管理③(疾病管理)
- 第6回 学校における保健管理③(疾病管理)
- 第7回 学校保健組織活動と学校安全
- 第8回 応急手当、食育
- 第9回 児童生徒の心身の発達①
- 第10回 児童生徒の心身の発達②
- 第11回 児童生徒の心身の発達③
- 第12回 児童生徒の精神の健康①
- 第13回 児童生徒の精神の健康②
- 第14回 学校保健の今日的課題と展望
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞やニュースを通じて学校保健に関する情報を収集すること! 児童生徒の発達段階の理解を深めること

教科書

学校保健ハンドブック第5次改訂

著者: 教員養成系大学保健協議会編

出版社: ぎょうせい

出版年: 2009

ISBN: 9784324088494

新訂版 学校保健実務必携<第2次改訂版>

著者:

出版社: 第一法規

出版年: 2009

ISBN:

参考書

学校保健・学校安全法令必携 第7次改訂

著者: ぎょうせい編

出版社: ぎょうせい

出版年: 2012

ISBN: 9784324095683

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **精神保健**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	
担当者	國松 典子	

テーマ

学校における精神保健的問題への対しかた

獲得目標

・特に学童期や思春期にみられる精神保健的諸問題についての知識を得る。・養護教育に関わる心理学的視点を持ち、相談的対応の心得を身につける。

授業の内容

心の発達について知り、特に学童期や思春期において生じやすい精神保健的問題について講義する。事例をとおして考え、受講生同士の意見を共有する。児童・生徒や保護者への相談的対応を学び、養護教諭としてのアイデンティティを意識する機会としたい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション : 養護教諭とは
- 第2回 心の発達1 : 乳児期
- 第3回 心の発達2 : 幼児期
- 第4回 心の発達3 : 学童期
- 第5回 心の発達4 : 思春期
- 第6回 心の発達5 : 青年期
- 第7回 相談的対応の心得1 : カウンセリングの基本
- 第8回 相談的対応の心得2 : 自分を知る
- 第9回 学校で関わる精神保健的問題1 : 緘黙／抜毛
- 第10回 学校で関わる精神保健的問題2 : 神経症／うつ病／統合失調症
- 第11回 学校で関わる精神保健的問題3 : 自傷行為／摂食障害
- 第12回 学校で関わる精神保健的問題4 : いじめ／虐待／PTSD
- 第13回 学校で関わる精神保健的問題5 : 発達障害
- 第14回 学校で関わる精神保健的問題6 : 不登校
- 第15回 まとめ : 学校という場を活かすこと

授業以外での学習方法

授業で紹介した資料や参考書を積極的に読み、内容について関心を深めること。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

心をつめる養護教諭たち

著者: カウンセリング研究会

出版社：ミネルヴァ書房

出版年：2012

ISBN：

保健室と養護教諭

著者：教育科学研究会

出版社：国土社

出版年：2008

ISBN：

看護のための精神医学[2版]

著者：中井久夫・山口直彦

出版社：医学書院

出版年：2004

ISBN：

少年期の心

著者：山中康裕

出版社：中公新書

出版年：1978

ISBN：

発達障害の豊かな世界

著者：杉山登志郎

出版社：日本評論社

出版年：2000

ISBN：

カウンセリングを語る(上)(下)

著者：河合隼雄

出版社：講談社プラスアルファ文庫

出版年：1999

ISBN：

養護教諭の相談的対応[3版]

著者：養護教諭の相談を学ぶ会

出版社：学事出版

出版年：1997

ISBN：

成績評価

試験（50%）

小テスト（ ）

授業中課題（20%）

授業中発表等（ ）

参加度（30%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<a>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担 当 者 小坂橋 喜久代	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040150

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 梶谷 佳子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040152

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <c>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 片山 由加里	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040153

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<d>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 植村 由美子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040154

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈e〉**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担 当 者 中橋 苗代	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040155

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<f>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河原 宣子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040156

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<g>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 奥野 信行	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040157

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)<h>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040158

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<i>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 野村 陽子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040159

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈J〉**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担 当 者 小野塚 元子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040160

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)<k>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 伊藤 恵美子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040161

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<I>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松本 賢哉	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040162

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <m>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担 当 者 中島 登美子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040163

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <n>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 堀 妙子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040164

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <ο>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 神崎 光子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040165

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<p>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹 明美	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040166

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<q>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 常田 裕子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040167

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<r>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 富永 真己	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040168

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<s>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 西村 美八	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040169

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<t>**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	小坂橋 喜久代	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040170

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護)<u>**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	沼本 教子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040171

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習VI(看護) <v>**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	10
履修条件	クラス指定	
担当者	小坂橋 喜久代	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

講義、グループワーク、個人ワークと様

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて①
- 第3回 看護専門職の専門分野とキャリアについて②
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 自己の学習計画の実施
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 薬害被害に関する講演会
- 第10回 自己の学習計画の実施
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 学習計画の評価と修正
- 第14回 「卒後2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護キャリアについて学べる講演会を主催します。主体的に参加し、学びを深めてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701040172

参加度 ()

グループワーク参加度、レポートより総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈a〉

クラス 配当回生 学部4回生

講義期間 通年 定員

履修条件 クラス指定

担当者 小坂橋 喜久代

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈b〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈c〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片山 由加里

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 植村 由美子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈e〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中橋 苗代

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <f>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 河原 宣子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <g>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 奥野 信行

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈h〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 竹下 夏美

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <i>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 野村 陽子	

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <j>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 小野塚 元子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <k>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <I>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 松本 賢哉

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈m〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 中島 登美子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈n〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 堀 妙子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈○〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 神崎 光子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <p>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹 明美	

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <q>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 常田 裕子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <r>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 富永 真己

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈s〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 西村 美八

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <t>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定員 10
履修条件	クラス指定
担当者 小坂橋 喜久代	

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <u>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 通年	定 員 10
履修条件	クラス指定
担当者 沼本 教子	

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <v>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 10

履修条件

クラス指定

担当者 小坂橋 喜久代

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連つけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるすることができる。6.論文を作成することができる。7.研究内容をまとめ、発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

進め方に関しては担当教員の指示に従う。

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各教員におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究計画書作成
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 同上
- 第17回 同上
- 第18回 同上
- 第19回 同上
- 第20回 同上
- 第21回 同上
- 第22回 論文作成
- 第23回 同上
- 第24回 同上
- 第25回 同上
- 第26回 発表準備
- 第27回 同上
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

自らの学習課題を明確にし臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **運動学**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	甲斐 義浩	

テーマ

四肢・体幹における関節の解剖学的構造と運動について理解を促進する。

獲得目標

1.身体運動に関与する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。

授業の内容

解剖生理学で学んだ知識をベースに、運動器を主とする障害学の基礎となる身体運動のメカニズムについて解説する。

内 容

- 第1回 運動学および生体力学の基礎
- 第2回 運動器の構造と機能(総論)
- 第3回 肩関節の運動学Ⅰ
- 第4回 肩関節の運動学Ⅱ
- 第5回 肘関節の運動学Ⅰ
- 第6回 手関節および手指の運動学
- 第7回 脊柱の運動学Ⅰ
- 第8回 脊柱の運動学Ⅱ
- 第9回 股関節の運動学Ⅰ
- 第10回 股関節の運動学Ⅱ
- 第11回 膝関節の運動学Ⅰ
- 第12回 膝関節の運動学Ⅱ
- 第13回 足関節の運動学Ⅰ
- 第14回 足関節の運動学Ⅱ
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

運動学の参考書の購読

教科書

基礎運動学 第6版補訂

著者： 中村隆一

出版社： 医歯薬出版株式会社

出版年： 2012

ISBN：

エッセンシャルキネシオロジー

著者: Paul Jackson Mansfield , Donald A. Neuman

出版社: 南江堂

出版年: 2010年10月

ISBN:

参考書

プロメテウス解剖学アトラス

著者: 坂井建雄(監訳)

出版社: 医学書院

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験 (90%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10%)

期末試験の受験は講義の3分の2以上の出席を必要とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 人体の構造と機能実習Ⅱ(機能系)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 林正 健二

テーマ

理学療法の実践に必要な呼吸器、循環器、神経系の生理学的診察法を習得する。

獲得目標

1. 血圧測定や脈拍測定などの基本的身体検査が出来る。2. データを解釈し、正常と異常の区別が出来る。

授業の内容

内 容

- 第1回 脈拍の測定1
- 第2回 脈拍の測定2、血圧測定1
- 第3回 血圧測定2
- 第4回 心音聴取
- 第5回 心電図
- 第6回 呼吸の観察と血液ガスの分析
- 第7回 呼吸音の聴取
- 第8回 呼吸機能検査1
- 第9回 呼吸機能検査2
- 第10回 筋力検査1
- 第11回 筋力検査2
- 第12回 筋電図
- 第13回 神経系の診察1
- 第14回 神経系の診察2
- 第15回 体成分分析

授業以外での学習方法

国家試験既出問題集の自学自習は、十集と並行して行って下さい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（90%）

授業中課題（）

参加度（）

小テスト（10%）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 臨床運動学演習

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 義浩.mitei

テーマ

生体力学の基礎を学び、重力環境下における姿勢や歩行のメカニズムを理解する。

獲得目標

1. 身体運動に関与する力学的要素(力, 加速度, 重心, モーメントなど)を理解できる
2. 姿勢や歩行の力学的メカニズムについて理解できる。
3. 運動学習の理論について理解できる。

授業の内容

人間の動作や運動にかかわる人体の解剖学的構造と生理学的機能、および生体力学的変数と臨床上の問題との関係について解説する。

内 容

- 第1回 生体力学の基礎(1)－力の合成と分解, 生体におけるてこについて
- 第2回 生体力学の基礎(2)－運動法則(加速度, 力など)について
- 第3回 生体力学の基礎(3)－重心について(重心の求め方, 重心の速度・加速度)
- 第4回 生体力学の基礎(4)－床反力について
- 第5回 生体力学の基礎(5)－関節モーメントについて
- 第6回 歩行の基礎(1)－歩行周期および相, 基本的な機能について
- 第7回 歩行の基礎(2)－歩き始めの歩行力学
- 第8回 歩行の基礎(3)－足関節および足部における歩行力学
- 第9回 歩行の基礎(4)－膝関節における歩行力学
- 第10回 歩行の基礎(5)－股関節における歩行力学
- 第11回 仕事と力学的エネルギーの定義について
- 第12回 姿勢の基礎(1)－姿勢と安定性について
- 第13回 姿勢の基礎(2)－姿勢制御について
- 第14回 運動学習(1)－学習と記憶, 運動技能について
- 第15回 運動学習(2)－運動学習の理論など

授業以外での学習方法

当該科目における国家試験の過去問においてどのような問題が出題されているか確認しておくこと

教科書

基礎運動学 第6版補訂

著者: 中村隆一

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年: 2012

ISBN:

歩行分析－正常歩行と異常歩行 原著第2版

著者： Perry J(著), 武田功(訳)

出版社： 医歯薬出版株式会社

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (90%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10%)

期末試験の受験は甲斐担当範囲、永井担当範囲のそれぞれの講義の3分の2以上の出席を必要とする

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **精神医学**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	西村 伊三男	

テーマ

心の病気(精神疾患)に関する医学

獲得目標

理学療法士に必要な精神医学の基本を修得する。①精神症状を理解し、精神医学用語で説明できるようになる。②代表的な精神疾患について、症状・経過・診断・治療などの基本事項を理解する。③わが国の精神科医療の現状と課題について理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 精神医学とは
- 第2回 精神科症候学
- 第3回 統合失調症Ⅰ
- 第4回 統合失調症Ⅱ
- 第5回 気分障害Ⅰ
- 第6回 気分障害Ⅱ
- 第7回 神経症
- 第8回 心身症
- 第9回 児童思春期精神医学
- 第10回 物質依存
- 第11回 認知症を含む器質性精神障害Ⅰ
- 第12回 認知症を含む器質性精神障害Ⅱ
- 第13回 コンサルテーション・リエゾン精神医学、精神腫瘍学
- 第14回 精神科治療学
- 第15回 日本の精神科医療

授業以外での学習方法

教科書

MINOR TEXTBOOK 精神医学 第12版

著者： 加藤伸勝

出版社： 金芳堂

出版年： 2013

ISBN： 9784765315715

参考書

うつ病 知る・治す・防ぐ

著者： 福居顯二 ほか

出版社：金芳堂

出版年：2009

ISBN： 9784765313865

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版

著者： 上野 武治

出版社：医学書院

出版年：2010

ISBN： 9784260010122

成績評価

試験（60%）

小テスト（0%）

授業中課題（0%）

授業中発表等（20%）

参加度（20%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法評価学各論実習

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	安彦 鉄平・小田桐 匡・松尾 奈々	

テーマ

本講義は、理学療法評価学各論演習で学んだ各種理学療法評価について、疾患および障害に適した検査・測定を選択できるようにする。また、評価方法について実習し、技術の習得や結果の解釈について学ぶ。また、学生同士で練習することで、対象者への配慮やリスク管理などについても理解する。

獲得目標

1. 各種疾患の障害メカニズムを説明することができる。2. 各種疾患の代表的評価項目を述べるすることができる。3. 各種疾患の評価手順に沿って実施することができる。4. 各種疾患とICFにもとづく障害の整理ができる。5. 対象者への配慮やリスク管理に留意して検査・測定を遂行することができる。

授業の内容

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。また、障害別評価法の実習を行い、各種理学療法評価技術の習得を目指す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
- 第2回 神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
- 第3回 神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
- 第4回 神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
- 第5回 運動器疾患（大腿骨頸部骨折）の障害像の理解と理学療法評価
- 第6回 運動器疾患（大腿骨頸部骨折）の障害像の理解と理学療法評価
- 第7回 運動器疾患（関節リウマチ）の障害像の理解と理学療法評価
- 第8回 運動器疾患（関節リウマチ）の障害像の理解と理学療法評価
- 第9回 運動器疾患（変形性関節症）の障害像の理解と理学療法評価
- 第10回 運動器疾患（変形性関節症）の障害像の理解と理学療法評価
- 第11回 運動器疾患（腰痛症）の障害像の理解と理学療法評価
- 第12回 運動器疾患（腰痛症・肩関節周囲炎）の障害像の理解と理学療法評価
- 第13回 運動器疾患（肩関節周囲炎）の障害像の理解と理学療法評価
- 第14回 神経障害系疾患（小脳疾患）の障害像の理解と理学療法評価
- 第15回 神経障害系疾患（小脳疾患）の障害像の理解と理学療法評価
- 第16回 神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
- 第17回 神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
- 第18回 神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
- 第19回 神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
- 第20回 神経障害系疾患（脊髄損傷）の障害像の理解と理学療法評価
- 第21回 神経障害系疾患（脊髄損傷）の障害像の理解と理学療法評価
- 第22回 神経障害系疾患（脊髄損傷）の障害像の理解と理学療法評価
- 第23回 まとめ

授業以外での学習方法

テキストや参考文献を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

理学療法評価学 改訂第4版

著者： 松澤正、他

出版社： 金原出版株式会社

出版年： 2012

ISBN： 978430775032

病気がみえる〈vol.7〉脳・神経

著者： 医療情報科学研究所

出版社： メディックメディア

出版年： 2011

ISBN： 9784896323580

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者： 田崎義昭、他

出版社： 南山堂

出版年： 2011

ISBN： 9784525247171

理学療法学ゴールド・マスター・テキスト1理学療法評価学

著者： 柳澤健(編)

出版社： MEDICAL VIEW

出版年： 2012

ISBN： 9784758311083

成績評価

試験 (100%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (0%)

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **運動器障害系理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	宮崎 純弥	

テーマ

運動器障害系理学療法の基礎的な知識と技術の習得を促進

獲得目標

基本的な運動器障害系の理学療法について理解し、また基本的な技術を習得することを目標とする。

授業の内容

運動器系疾患に対する理学療法を実施するうえで必要な基礎知識を学び、基本的な治療手技を学ぶ。講義と実技を行う。

内 容

- 第1回 理学療法プロセスとは
- 第2回 理学療法プロセス(障害の階層性)
- 第3回 理学療法プロセス(情報収集～検査測定の意味)
- 第4回 理学療法プロセス(統合解釈～治療計画立案)
- 第5回 骨折に関する基礎知識
- 第6回 大腿骨頸部骨折の理学療法
- 第7回 大腿骨頸部骨折の理学療法実技
- 第8回 変形性股関節症の理学療法
- 第9回 変形性股関節症の理学療法実技
- 第10回 変形性膝関節症の理学療法
- 第11回 変形性膝関節症の理学療法実技
- 第12回 腰痛症の理学療法1
- 第13回 腰痛症の理学療法2
- 第14回 腰痛症の理学療法実技
- 第15回 腰部疾患の理学療法
- 第16回 腰部疾患の理学療法実技
- 第17回 肩関節疾患の理学療法1
- 第18回 肩関節疾患の理学療法2
- 第19回 肩関節疾患の理学療法実技
- 第20回 関節リウマチの理学療法
- 第21回 関節リウマチの理学療法実技
- 第22回 下肢骨折の理学療法
- 第23回 下肢骨折の理学療法実技
- 第24回 上肢骨折の理学療法
- 第25回 上肢骨折の理学療法実技
- 第26回 脊椎疾患の理学療法
- 第27回 脊椎疾患の理学療法実技
- 第28回 靭帯損傷の理学療法
- 第29回 靭帯損傷の理学療法実技
- 第30回 総括

授業以外での学習方法

テキストや参考書を使用して、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

ここがポイント！整形外科疾患の理学療法改訂第2版

著者： 監修)富士武史

出版社： 金原出版

出版年： 2006

ISBN： 9784307251334

骨・関節系理学療法クイックリファレンス

著者： 岡西哲夫・他

出版社： 文光堂

出版年： 2010

ISBN： 9784830643828

参考書

成績評価

試験（80）

小テスト（ ）

授業中課題（10）

授業中発表等（5）

参加度（5）

授業日程の2/3以上出席した者を成績評価の対象とします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **神経障害系理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	小田桐 匡.兒玉 隆之.濱出 茂治	

テーマ

中枢性・末梢性神経障害に対する理学療法学を学ぶ。

獲得目標

解剖学、生理学、臨床医学などで学んだ神経系の知識を基礎に、それらの損傷がもたらす中枢性疾患や末梢性疾患の病態を理解し、その障害に対する理学療法(評価方法や治療トレーニング)の知識を演習形式にて学習する。

授業の内容

内 容

- 第1回 下位ニューロン障害の病態
- 第2回 下位ニューロン障害に対する評価(電気診断法)
- 第3回 下位ニューロン障害に対する理学療法
- 第4回 模擬下位ニューロン障害症例に対するグループ演習 I
- 第5回 模擬下位ニューロン障害症例に対するグループ演習 II
- 第6回 大脳の解剖生理と機能について
- 第7回 大脳における運動神経系および感覚神経系について
- 第8回 大脳の内因性疾患(脳卒中など)に対する理学療法
- 第9回 大脳の外因性疾患(頭部外傷など)に対する
- 第10回 グループ演習①
- 第11回 大脳基底核の解剖と生理および代表的な障害について
- 第12回 小脳の解剖と生理および代表的な障害について
- 第13回 脊髄の解剖と生理および代表的な障害について
- 第14回 グループ演習②
- 第15回 グループ演習③

授業以外での学習方法

神経障害学に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（80%）

授業中課題（10%）

参加度（10%）

3分の1以上の欠席を認めない。

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 公衆衛生学

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 健一

テーマ

理学療法士に必要な公衆衛生の基礎的な知識を身につける。

獲得目標

公衆衛生の前提となる集団・社会の健康の意義、社会医学の考え方、公衆衛生学の発展過程を理解した上で、公衆衛生活動の人口・疾病統計と健康指標、疫学、健康管理の基礎を身につける。地域保健、成人保健、母子保健、老人保健、産業保健、学校保健の各分野における保健活動について理解する。

授業の内容

公衆衛生学の中から理学療法とその発展に必要と思われる項目を中心に講義を行う

内 容

- 第1回 集団の健康の定義と社会医学の考え方
- 第2回 公衆衛生学の発展過程
- 第3回 人口統計の健康指標
- 第4回 疫学の定義、疫学の調査方法
- 第5回 環境保健・健康管理
- 第6回 地域保健・母子保健
- 第7回 成人保健・老人保健福祉
- 第8回 学校保健・産業保健

授業以外での学習方法

日本における医療保険制度に関するニュース、新聞に興味を持つこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

わかりやすい公衆衛生学

著者: 清水忠彦、佐藤拓代

出版社: ニューヴェルヒロカワ

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 薬理学(理)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 天野 博夫	

テーマ

看護に必要な生理学, 薬理学, 病理学, 栄養学等を系統的に学び, 身体 の健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

獲得目標

1.看護に必要な人体の構造と機能を関連付けて説明できる。2.薬物療法の種類と効果について説明できる。3.組織や器官の正常な状態との比較から異常な状態を説明できる。4.看護に必要な栄養と代謝について説明できる。5.主要な疾患の症状, 病因, 病態, 治療, 予後について説明できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(1):咀嚼、嚥下
- 第2回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(2):消化
- 第3回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(3):吸収
- 第4回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(4):排泄
- 第5回 栄養と代謝(1):臨床栄養学の基礎知識
- 第6回 栄養と代謝(2):運動と栄養
- 第7回 栄養と代謝(3):人生各期における栄養
- 第8回 栄養と代謝(4):検査と回復促進のための食事
- 第9回 栄養と代謝(5):疾患治療のための食事
- 第10回 栄養と代謝(6):食事指導
- 第11回 子孫を残す仕組み(1):女性性器
- 第12回 子孫を残す仕組み(2):男性性器
- 第13回 体内の環境を整える仕組み(1):内分泌ホルモン
- 第14回 体内の環境を整える仕組み(2):内分泌器官
- 第15回 異物を認識し、記憶して排除する仕組み:免疫系 *1~15回 林正先生
- 第16回 生体機能の変調 ~病理学の基礎:病理学とは, 病因論
- 第17回 生体機能の変調 ~病理学の基礎:病理学とは, 病因論
- 第18回 先天異常と遺伝子異常
- 第19回 代謝障害
- 第20回 循環障害
- 第21回 炎症と修復
- 第22回 腫瘍 *16~22回 川上先生
- 第23回 生体機能を補う ~薬学の基礎
- 第24回 薬物療法と看護
- 第25回 薬物の作用と作用機序
- 第26回 薬物動態
- 第27回 薬物相互作用
- 第28回 薬物療法に影響を与える因子
- 第29回 薬物の有害作用
- 第30回 医薬品の管理 *23~30回 天野先生

授業以外での学習方法

教科書

ナーシンググラフィカ 解剖生理学

著者:

出版社: メディカ出版

出版年:

ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 病理学

著者:

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学

著者:

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

ナーシング・グラフィカ④臨床栄養学第

著者: 關戸啓子

出版社: メディカ出版

出版年:

ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年:

ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)

著者: 坂井建雄他監訳

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

ギャノン生理学原書23版

著者: 岡田泰信監訳

出版社: 丸善

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 村田 伸	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (80)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

a90103a250

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 堀江 淳	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (80)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

a90103a252

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ <c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 白岩 加代子	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (80)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

a90103a253

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ <d>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 安彦 鉄平	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (80)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

a90103a254

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ <e>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ
- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (80)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

a90103a255

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ <f>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a256

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ <g>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 甲斐 義浩	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (80)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

a90103a257

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ <h>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 松尾 奈々

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a258

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ <i>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 濱出 茂治	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (80)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

a90103a259

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ <J>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 児玉 隆之

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a260

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ <k>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 崎田 正博	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (80)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

a90103a261

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 理学療法研究法Ⅱ <I>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 小田桐 匡

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

獲得目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の内容

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

内 容

- 第1回 理学療法分野における研究について学ぶ
- 第2回 研究課題と見つけ方について学ぶ
- 第3回 研究計画の立て方について学ぶ
- 第4回 研究デザインの種類について学ぶ
- 第5回 評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
- 第6回 研究倫理について学ぶ
- 第7回 文献の収集方法と読解方法について学ぶ
- 第8回 研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
- 第9回 研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
- 第10回 研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
- 第11回 研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
- 第12回 統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
- 第13回 統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
- 第14回 研究成果の公表方法について学ぶ
- 第15回 プレゼンテーション方法について学ぶ

授業以外での学習方法

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a90103a262

参加度 ()

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 義肢装具学演習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 安彦 鉄平・坂本 明信・横山 茂樹・吉田 剛

テーマ

義肢・装具に関する基礎と臨床

獲得目標

義肢・装具の適応、使用目的、構成要素等の基礎知識を身につけるとともに、チェックアウト等の技術を学修する。

授業の内容

オムニバス形式にて演習と施設見学を組み合わせる。義肢装具士の講師を招いて、義肢・装具の製作過程の実演および実習を行う。

内 容

- 第1回 装具学総論
- 第2回 装具(頸部・体幹)
- 第3回 装具(上肢) 1
- 第4回 装具(上肢) 2
- 第5回 スプリント・自助具(1)
- 第6回 スプリント・自助具(2)
- 第7回 装具(下肢) 1
- 第8回 装具(下肢) 2
- 第9回 装具(下肢) 3
- 第10回 装具(下肢) 4
- 第11回 義肢学総論
- 第12回 義肢(上肢)
- 第13回 義肢(下肢) 1
- 第14回 義肢(下肢) 2
- 第15回 義肢(下肢) 3
- 第16回 義肢(下肢) 4
- 第17回 義肢装具トピックス(1)
- 第18回 義肢装具トピックス(2)
- 第19回 義肢装具製作所見学／機能代償機器の種別(1)
- 第20回 義肢装具製作所見学／機能代償機器の種別(2)
- 第21回 機能代償機器の種別／義肢装具製作所見学(1)
- 第22回 機能代償機器の種別／義肢装具製作所見学(2)
- 第23回 簡易式短下肢装具作製実習(1)
- 第24回 簡易式短下肢装具作製実習(2)
- 第25回 簡易式短下肢装具作製実習(3)
- 第26回 簡易式短下肢装具作製実習(4)
- 第27回 簡易式短下肢装具作製実習(5)
- 第28回 簡易式短下肢装具作製実習(6)
- 第29回 車椅子・杖(1)
- 第30回 車椅子・杖(2)

授業以外での学習方法

体験した内容はレポートとしてまとめておくこと。提出を求めます。

教科書

義肢装具学テキスト

著者： 細田多穂 監修

出版社： 南江堂

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験（50）

小テスト（25）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（5）

実習時の取り組みや課題レポートを重視します。 ※なお、31回目に試験を行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **スポーツ障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 横山 茂樹	

テーマ

スポーツ障害の再発防止に向けた理学療法

獲得目標

医療現場とスポーツ現場をつなぐ役割が果たせることを目的とした実践的な理学療法技術を身につける。

授業の内容

スポーツ現場の実践を中心とした体験を通して、スポーツ障害の評価・治療および自己管理能力の指導を行います。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 評価(1);足関節
- 第3回 評価(2);膝関節
- 第4回 評価(3);骨盤・股関節
- 第5回 評価(4);脊柱・胸郭
- 第6回 評価(5);肩
- 第7回 評価(6);肘・手
- 第8回 治療(1);ストレッチング1
- 第9回 治療(1);ストレッチング2
- 第10回 治療(3);モビライゼーション
- 第11回 治療(4);ジャンプ動作習得エクササイズ
- 第12回 治療(5);腰痛予防エクササイズ
- 第13回 治療(6);投球障害予防エクササイズ
- 第14回 治療(7);アップとダウン
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

スポーツ現場の見学実習も行います。

教科書

参考書

スポーツ理学療法

著者: 浦辺幸夫

出版社: 医歯薬出版

出版年: 2006

ISBN:

スポーツリハビリテーション

著者: コルト・他

出版社: 西村書店

出版年: 2006

ISBN:

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

実技試験を実施します.

小テスト (30)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **発達障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	崎田 正博	

テーマ

小児理学療法の主対象疾患である脳性麻痺児・者の多様な病型と異常運動発達を学び、評価から治療プログラム立案および実際の治療方法を学ぶ。

獲得目標

- 1) 脳性麻痺の多様な病態と異常発達を理解する。 2) 脳性麻痺の各病型別動作分析の視点を学ぶ。 3) 重度障害の病態・発達及び複合障害を理解する。 4) 応用的な評価・動作分析・治療を身につける。

授業の内容

前半は講義中心に進め、後半は実際の症例動画を観察し、動作分析をグループ別に発表する形式。

内 容

- 第1回 脳性麻痺の概念(1)
- 第2回 脳性麻痺の病型分類と麻痺分布(1)
- 第3回 脳性麻痺の評価
- 第4回 病型別脳性麻痺の評価(動作分析を中心に)(1)
- 第5回 病型別脳性麻痺の評価(動作分析を中心に)(2)
- 第6回 病型別脳性麻痺の治療(神経生理学的アプローチを中心に)(1)
- 第7回 病型別脳性麻痺の治療(神経生理学的アプローチを中心に)(2)
- 第8回 脳性麻痺の評価(実習)
- 第9回 脳性麻痺の評価、統合と解釈
- 第10回 脳性麻痺理学療法における問題解決方法(1)発表
- 第11回 脳性麻痺理学療法における問題解決方法(2)発表
- 第12回 脳性麻痺理学療法における問題解決方法(3)発表
- 第13回 脳性麻痺理学療法における問題解決方法(4)発表
- 第14回 脳性麻痺理学療法における問題解決方法(5)発表
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

教科書

こどもの理学療法

著者: 田原弘幸

出版社: 神陵文庫

出版年:

ISBN:

参考書

a90103d650

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 ()

参加度 (5%)

小テスト ()

授業中発表等 (35%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション理学療法学応用演習**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	白岩 加代子.堀江 淳.村田 伸	

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内の活発な意見交換を通して、主体的にヘルスプロモーションを促進するための理学療法士の役割を学習する。

獲得目標

ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習で学んだ知識を活かし、より実践的な事項について学び、医療機関や地域の関係諸機関においても活躍できる理学療法士をめざす。

授業の内容

内 容

- 第1回 生活習慣病予防のための運動処方
- 第2回 生活習慣病予防のための運動処方(運動指針と運動処方)
- 第3回 生活習慣病予防のための運動処方(効果的なウォーキング方法)
- 第4回 介護予防のための運動処方(介護予防と身体活動)
- 第5回 介護予防のための運動処方(骨粗鬆症の予防)
- 第6回 介護予防のための運動処方(転倒予防)
- 第7回 介護予防のための運動処方(認知症予防)
- 第8回 運動実施時の注意点(健康チェック)
- 第9回 運動実施時の注意点(環境と健康)
- 第10回 運動実施時の注意点(肥満者への運動指導)
- 第11回 運動実施時の注意点(腰・膝・肩に痛みがある人への運動指導)
- 第12回 運動実施時の注意点(筋力低下・虚弱高齢者への運動指導)
- 第13回 運動実施時の注意点(運動習慣の形成方法)
- 第14回 生活習慣病・介護予防に対する運動効果のエビデンス
- 第15回 生活習慣病・介護予防に対する運動効果のエビデンス

授業以外での学習方法

教科書

理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション-理論と実践

著者: 日本ヘルスプロモーション理学療法学科

出版社: 南江堂

出版年: 2014

ISBN:

参考書

a90103d810

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法技術学 I (運動器障害)**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 宮崎 純弥

テーマ

運動器系疾患理学療法に関する治療・研究の方向性について紹介し、整形徒手理学療法の理論と技術を学ぶ

獲得目標

整形徒手理学療法(Kaltenborn-Evjenth Concept)の理論を理解し、基本的な技術を習得し、この基本的技術を患者に使用できるようにすることを目的とする。また、その過程で必要な学術論文が読めるようになることを目的とする。

授業の内容

講義形式とグループワークを行ってもらう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 整形徒手理学療法の理論
- 第3回 上肢の徒手療法1
- 第4回 上肢の徒手療法2
- 第5回 下肢の徒手療法1
- 第6回 下肢の徒手療法2
- 第7回 脊柱の徒手療法
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

整形徒手理学療法

著者： 富雅男・砂川勇監修

出版社： 医歯薬出版

出版年： 2011

ISBN： 9784263213872

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (5)

参加度 (5)

a90103d950

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Literacy II <Ha>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

指定箇所の予習 単語ノートの作成

教科書

Life, Elementary, Student

著者: Paul Dummett, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

a90201a450

Life Elementary Workbook with Audio CD

著者: Hughes, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (5%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (50%)

授業中発表等 (15%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **English Literacy II <Hb>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	山崎 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
- 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
- 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
- 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
- 第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
- 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10 (D): (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
- 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
- 第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
- 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
- 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
- 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

a90201a452

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

後期末英語テスト20%を加算。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Literacy II <Hc>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	栗田 梨津子	

テーマ

アカデミック英語入門

獲得目標

様々な学問分野の英語を読んで理解できるようになるための基礎となる語彙力、文法力、読解力を養うこと。まとまった量の英文から正確にかつ短時間で情報を読み取るためのスキルを身につけること。

授業の内容

アカデミック英語の基礎となる様々なトピックの説明文を読み、パラグラフごとの要点をつかむ練習をします。補足的に、各ユニットのテーマに関連するリスニングの練習を通して、聴解力を養います。

内 容

- 第1回 授業概要の説明
- 第2回 Unit 1: Living in Society (Chapter 1: The Paradox of Happiness)
- 第3回 Unit 1: Living in Society (Chapter 2: Junior Status: Sharing Dad's Name a Mixed Bag)
- 第4回 Unit 1: Trends in Living (Chapter 3: The Birth-Order Myth)
- 第5回 Unit 1のまとめとリスニング練習
- 第6回 Unit 2: Health and Well-Being (Chapter 4: Laughter Is the Best Medicine for Your Heart)
- 第7回 Unit 2: Health and Well-Being (Chapter 5: Acupuncture: The New Old Medicine)
- 第8回 Unit 2: Health and Well-Being (Chapter 6: Highs and Lows in Self-Esteem)
- 第9回 Unit 2のまとめとリスニング練習
- 第10回 Unit 4: Science and Technology (Chapter 10: Antarctica: Whose Continent Is It Anyway?)
- 第11回 Unit 4: Science and Technology (Chapter 11: A Messenger from the Past)
- 第12回 Unit 4: Science and Technology (Chapter 12: Is Time Travel Possible?)
- 第13回 Unit 4のまとめとリスニング練習
- 第14回 リスニング練習
- 第15回 リスニング練習

授業以外での学習方法

各ユニットの終わりに、語彙と内容をどれだけ理解できているかを確認する小テストを行いますので、毎回授業の復習をしっかりしておいてください。

教科書

Concepts for Today 4 (Reading for Today, Third Edition)

著者: Lorraine C. Smith & Nancy Nici Mare

出版社: Heinle, Cengage Learning

出版年: 2011

ISBN:

参考書

a90201a453

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Literacy II <Hd>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	弥永 啓子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (15%)

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (50%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎・田中 芳幸・前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

授業以外での学習方法

実験心理学関連図書による自学自習

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201a950

参加度（50%）

実験を行うため、出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 坂本 久美.田中 芳幸.前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

授業以外での学習方法

実験心理学関連図書による自学自習

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201a952

参加度（50%）

実験を行うため、出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 久美.中川 明仁.前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

授業以外での学習方法

実験心理学関連図書による自学自習

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201a953

参加度（50%）

実験を行うため、出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I <d>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 久美・佐藤 鮎美・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

授業以外での学習方法

実験心理学関連図書による自学自習

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201a954

参加度（50%）

実験を行うため、出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I <e>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎・佐藤 鮎美・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

授業以外での学習方法

実験心理学関連図書による自学自習

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201a955

参加度（50%）

実験を行うため、出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理学実験演習 I <f>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎・佐藤 鮎美・田中 芳幸

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれて、5種類の実験を実施し、各実験につきレポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
- 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
- 第3回 錯視実験(1)
- 第4回 錯視実験(2)
- 第5回 データ解析とレポートの説明
- 第6回 記憶課題テスト、概要説明
- 第7回 記憶実験(1)
- 第8回 記憶実験(2)
- 第9回 記憶実験(3)
- 第10回 データ解析とレポートの説明
- 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
- 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
- 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
- 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
- 第15回 レポートの説明、授業のまとめ

授業以外での学習方法

実験心理学関連図書による自学自習

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

a90201a956

参加度（50%）

実験を行うため、出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **心理学Ⅱ**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	永野 光朗	

テーマ

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

獲得目標

心理学は実証的方法論に基づいて人間の心と行動の仕組みについて客観的・中立的に理解するための「科学」である。この授業では心理学の各分野のなかで、特に「社会的過程」に関するものや「社会への応用」に関連する内容を取り扱う。社会的場面や、産業場面に関連する具体的なテーマを取り上げながら、心理学と社会のつながりについて理解をしたい。また、心理学の各分野で使用される研究法(実験, 調査, 行動観察など)についても実例を通して理解を深めたい。

授業の内容

過去の心理学研究における研究の流れを概観した上で、実証に基づき人間の心と行動の仕組みを理解するという心理学の学問的目標が、人間の社会生活や産業場面においてどのように役立つのかを理解する。また、以上を達成するための心理学的方法論の有用性についても理解をする。

内 容

- 第1回 心理学の目標
- 第2回 人間理解と心理学
- 第3回 心理学と社会生活とのつながり
- 第4回 これまでの心理学の取り組み(1) 実証科学としての心理学の確立
- 第5回 これまでの心理学の取り組み(2) 学習理論
- 第6回 これまでの心理学の取り組み(3) 認知理論
- 第7回 社会を理解するための心理学(1) 社会的相互作用としての人間行動
- 第8回 社会を理解するための心理学(2) 対人認知と印象形成
- 第9回 社会を理解するための心理学(3) 対人行動
- 第10回 社会を理解するための心理学(4) 集合行動
- 第11回 社会を理解するための心理学(5) 社会的認知理論
- 第12回 心理学の応用(1) 社会生活への応用
- 第13回 心理学の応用(2) 企業活動への応用(組織行動)
- 第14回 心理学の応用(3) 企業活動への応用(消費者行動)
- 第15回 心理学の応用(4) 環境配慮行動の促進

授業以外での学習方法

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。

教科書

心理学概論

著者: 岡市広成監修

出版社: (ナカニシヤ出版)

出版年: 2006年

ISBN:

参考書

心理学・入門 心理学はこんなにも面白い

著者: サトウタツヤ・渡邊芳之 著

出版社：(有斐閣)

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (40%)

小テスト (60%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

毎回の授業の終了時に小テストを実施する。また期末試験も実施する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理統計学 I

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	中川 明仁・前田 洋光	

テーマ

基礎的な統計学の理解

獲得目標

基礎的な統計手法や概念について理解し、心理統計学 II 以降で前提となる知識の基盤をつくる。また、統計の必要性について理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン:統計学の必要性について
- 第2回 尺度水準 (Stevensの4つの尺度水準)
- 第3回 度数分布
- 第4回 さまざまな代表値
- 第5回 散布度
- 第6回 変数変換 (標準得点と偏差値)
- 第7回 前半部分のまとめと確認
- 第8回 共分散とピアソンの相関係数(1)
- 第9回 共分散とピアソンの相関係数(2)
- 第10回 順位相関係数
- 第11回 カイ2乗検定(1)
- 第12回 カイ2乗検定(2)
- 第13回 マン・ホイットニーのU検定
- 第14回 後半部分のまとめと確認
- 第15回 授業全体のまとめ

授業以外での学習方法

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

教科書

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本

著者: 吉田寿夫 著

出版社: 北大路書

出版年:

ISBN:

参考書

よくわかる心理統計

著者: 山田剛史・村井潤一郎 著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期集中

定 員 60

履修条件

クラス指定

担当者 トウ カ

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

獲得目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の内容

短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

内 容

- 第1回 前期の総復習
- 第2回 第五課 単語と文法
- 第3回 第五課の表現練習
- 第4回 第六課 単語と文法
- 第5回 第六課の表現練習
- 第6回 第七課 単語と文法
- 第7回 第七課の表現練習
- 第8回 第八課 単語と文法
- 第9回 第八課の表現練習
- 第10回 第九課 単語と文法
- 第11回 第九課の表現練習
- 第12回 第十課 単語と文法
- 第13回 第十課の表現練習
- 第14回 総復習
- 第15回 ミニ発表

授業以外での学習方法

教科書

ともだち・朋友 スリム版①

著者： 董燕・遠藤光暁

出版社：（朝日出版社）

出版年： 2010

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

最終の試験ではなく、毎回の小テスト

小テスト (100%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ヨーロッパの歴史 <eL>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 前期集中	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	南 直人	

テーマ

ヨーロッパの歴史の基礎的理解をはかる

獲得目標

16世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の内容

[メディア授業/全15回] 近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史(西洋史)を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後16世紀から20世紀にいたるヨーロッパ史(西洋史)の流れをたどっていく。

内 容

- 第1回 世界史の新しい見方ー世界システム
- 第2回 近代世界システムの形成
- 第3回 ポルトガルのアジア進出
- 第4回 スペインの新大陸支配
- 第5回 ハプスブルク「世界帝国」の盛衰
- 第6回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー(1)
- 第7回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー(2)
- 第8回 イギリスの商業革命と大西洋貿易
- 第9回 英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
- 第10回 産業革命とフランス革命の新解釈
- 第11回 大英帝国のヘゲモニー
- 第12回 19世紀ヨーロッパ社会
- 第13回 20世紀のヨーロッパ(1)
- 第14回 20世紀のヨーロッパ(2)
- 第15回 20世紀のヨーロッパ(3)

授業以外での学習方法

近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社：（放送大学教育振興会）

出版年：

ISBN：

大学で学ぶ西洋史 近現代

著者： 小山哲、他

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年：

ISBN：

インディアスの破壊についての簡潔な考察

著者： ラス・カサス

出版社：（岩波書店）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（100%）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

小テストは第2回、第7回、第12回の授業後に行う

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文学にみる京都

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

京都を舞台にした小説を読む

獲得目標

(1) 明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、どのような物語を可能にしてきたかを考える。(2) 21世紀の作家である万城目学と森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とし、学生(主に大学生)が登場する作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の内容

前半では京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。また、後半では万城目学と森見登美彦の作品を紹介する。基本的に講義形式だが、授業中に受講生諸君への質問を行うこともある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前にプリントを配布した場合は、そこに引用された小説の本文を読む。引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 夏目漱石「虞美人草」
- 第3回 梶井基次郎「檸檬」
- 第4回 堀辰雄「曠野」
- 第5回 三島由紀夫「金閣寺」
- 第6回 川端康成「古都」
- 第7回 万城目学「鴨川ホルモー」(1)
- 第8回 万城目学「鴨川ホルモー」(2)
- 第9回 万城目学『ホルモー六景』より「もっちゃん」ほか
- 第10回 森見登美彦「太陽の塔」
- 第11回 森見登美彦「四畳半神話大系」(1)
- 第12回 森見登美彦「四畳半神話大系」(2)
- 第13回 森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」(1)
- 第14回 森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」(2)
- 第15回 まとめとレポート指導

授業以外での学習方法

日本の近代文学作品を積極的に読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参加度（20%）

(1)授業中課題のコメントは、鋭い質問や授業内容を他の問題に結びつける考察に、より高い評価を与える。(2)コメント用紙で出席の確認を行う(それでも学生証は毎回必ず携帯し出席の登録を行うこと)ので、注意すること。(3)期末レポートを提出してもらい、これを試験とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化 <eL>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子・脇田 修・脇田 晴子

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々

獲得目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

内 容

- 第1回 都城の変遷[田端]
- 第2回 平安京の成立[田端]
- 第3回 平安京に暮らす人々[田端]
- 第4回 院政期の京都[田端]
- 第5回 京一鎌倉をつなぐ人々[田端]
- 第6回 「このごろ都にはやるもの」ー南北朝期の京都[田端]
- 第7回 室町幕府の成立と京の都[田端]
- 第8回 土一揆の時代[田端]
- 第9回 京の商工業者[田端]
- 第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都[田端]
- 第11回 祇園祭と京の町[脇田晴子]
- 第12回 中世京都の芸能[脇田晴子]
- 第13回 織田信長と京都[脇田修]
- 第14回 豊臣政権と京の町[脇田修]
- 第15回 元禄時代の京都[脇田修]

授業以外での学習方法

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

物語 京都の歴史

著者: 脇田修・晴子

出版社：（中央公論新社）

出版年： ISBN：

女性芸能の源流

著者： 脇田晴子

出版社：（角川書店）

出版年： ISBN：

中世京都と祇園祭

著者： 脇田晴子

出版社：（中央公論新社）

出版年： ISBN：

秀吉の経済感覚

著者： 脇田修

出版社：（中央公論社）

出版年： ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年： ISBN：

足利義政と日野富子

著者： 田端泰子

出版社：（山川出版社）

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（100%）

参加度（ ）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **経済学概説**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

くらしと密接に結びついている経済を理解するための、経済学の基礎を学ぶ

獲得目標

経済がくらしとどのように結びついているかを、世間の常識を鵜呑みにせず、経済学概念や考え方をういて論理的に理解するための力を養う。

授業の内容

経済学は「金儲けのための学問」ではありません。20世紀初頭に活躍したイギリスの経済学者A.C.ピグーの言葉にもあるように、それは「人間生活の改良のための学問」です。人間生活の改良のために解決しなければならない経済問題は、その時代毎に変化します。経済学は250年の歴史の中で、さまざまな経済問題にとりくみながら発展してきました。この授業では、こうした経済学の発展過程で生まれてきた重要な概念や思考方法を学びながら、経済学が、現代の社会に生きる私たちが取り組まなければならない問題-地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題-にどのように取り組んでいるのかを学びます。

内 容

- 第1回 経済学とは。経済の大きさとは
- 第2回 所得の分配と社会保障
- 第3回 家計の消費と貯蓄
- 第4回 働くことと貧しさ
- 第5回 企業とは
- 第6回 投資とは
- 第7回 政府の役割と税金
- 第8回 政府のお金の使い方
- 第9回 お金の役割
- 第10回 金融とは
- 第11回 金利の決まる仕組み
- 第12回 国境を越える経済活動について
- 第13回 為替レートはどう決まるか
- 第14回 物価について----インフレとデフレ----
- 第15回 経済成長と景気

授業以外での学習方法

授業の予習復習のほか、新聞やテレビのニュースなどで日本経済の動きなどを知ったり、これらを、授業で学んだ基礎理論を当てはめて確かめたりするよう、心がけること。

教科書

目からウロコの経済学入門

著者： 山崎好裕

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2011

ISBN：

参考書

a90201d810

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **国際マーケティング論**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	近藤 文男	

テーマ

日本企業の国際マーケティング戦略について

獲得目標

国際マーケティングについての基本知識を身につける。同時に、社会に出て企業に就職したとき、マーケティングや国際マーケティングについて戦略的見方を養う。

授業の内容

マーケティングに関する基本知識を学習した後、先進国におけるマーケティング戦略の特徴について説明する。その上で、新興国市場におけるマーケティング戦略の特徴について説明する。できるだけ豊富な資料を提供するとともに、必要に応じてパワーポイントで写真等を紹介する。授業はノート講義を中心に行うのでノートを必ず準備すること。講義の終わりに毎回感想文を書いてもらい提出してもらう。

内 容

- 第1回 国際マーケティングとは何かについての概説。
- 第2回 国際マーケティング戦略における商品戦略とブランド、広告戦略について。
- 第3回 国際マーケティング戦略における価格戦略とチャネル戦略について。
- 第4回 三洋電機の対米輸出マーケティング戦略について
- 第5回 松下電機産業の対米輸出マーケティング戦略について
- 第6回 ソニーの対米輸出マーケティング戦略について
- 第7回 先進国市場におけるパナソニックのグローバル・マーケティング戦略について
- 第8回 新興国市場、ASEAN、中国、インド市場におけるグローバル・マーケティング戦略について
- 第9回 中国市場における日本の自動車企業のマーケティング戦略について
- 第10回 インド市場における日本の家電企業のマーケティング戦略について
- 第11回 新興国市場におけるサムスン電子のグローバル・マーケティング戦略について
- 第12回 中国市場における日本の化粧品企業資生堂のマーケティング戦略について
- 第13回 中国市場におけるアパレル企業ユニクロのマーケティング戦略
- 第14回 ASEAN 市場におけるファーストフード・モスバーガーと日本食の大戸屋と8番ラーメンのマーケティング戦略について
- 第15回 ASEAN市場における日本のコンビニエンス・ストア・ファミリーマートのマーケティング戦略について
- 第16回 テスト

授業以外での学習方法

日本企業のマーケティングや海外進出に関する新聞や雑誌の記事について関心を持って読んでおくこと。

教科書

日本企業のアジア・マーケティング戦略

著者： マーケティング史研究会編

出版社： 同文館

出版年： 2014年

ISBN： 未定

参考書

日本企業の国際マーケティング

著者： 近藤文男

出版社： 有斐閣

出版年： 2004年

ISBN： 4641161992

日本企業のグローバル・マーケティング

著者： 大石芳裕編

出版社： 白桃書房

出版年： 2011年

ISBN： 9784561651772

成績評価

試験（30%）

小テスト（感想文（70%））

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

毎講義後に提出してもらった感想文70%とテスト30%で評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 高齢者のヘルスプロモーション

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 重森 健太.山野 薫	

テーマ

高齢者におけるヘルスプロモーションの理論と実践を講義し、現在の本邦での高齢者介護は介護保険制度を抜きにして進めないことから、介護保険との関係性について教授する。具体的には、高齢者の持つ身体的要因、精神的要因、環境側の要因について理解を深める。また、介護保険にかかわる職種の業務についても解説する。

獲得目標

1. 高齢者ヘルスプロモーションの概要を理解する。2. 高齢者ヘルスプロモーションと介護保険制度の関係性について理解する。3. 転倒予防・生活習慣病予防について理解する。4. 認知症におけるヘルスプロモーションについて理解する。

授業の内容

高齢者のヘルスプロモーションについて教授する。国家的目標である「介護予防」について、高齢者の身体的側面と精神的側面から講義する。加えて、介護保険制度との関係性について理解を深める。高齢者におけるヘルスプロモーションの具体的方法(転倒予防・生活習慣病予防・認知症予防)について解説する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、ヘルスプロモーション総論(山野)
- 第2回 高齢者の評価(山野)
- 第3回 高齢者の身体機能Ⅰ(山野)
- 第4回 高齢者の身体機能Ⅱ(山野)
- 第5回 転倒予防(山野)
- 第6回 生活習慣病予防(山野)
- 第7回 要介護高齢者のヘルスプロモーション(山野)
- 第8回 ヘルスプロモーションのための住環境整備(山野)
- 第9回 脳科学から見た認知症(重森)
- 第10回 認知症の評価(重森)
- 第11回 軽度認知機能障害におけるヘルスプロモーション(重森)
- 第12回 高齢者の注意力や自発性へのアプローチ(重森)
- 第13回 高齢者の記憶障害へのアプローチ(重森)
- 第14回 高齢者の空間認知やボディイメージへのアプローチ(重森)
- 第15回 重度認知症におけるヘルスプロモーション(重森)

授業以外での学習方法

高齢者の心身の健康や介護問題に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題等の学習

教科書

理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション—理論と実践

著者： 日本ヘルスプロモーション理学療法学会(編集)

出版社： 南江堂

出版年： 2014

ISBN： 9784524267552

参考書

近赤外分光法による前頭前野計測

著者： 志村孚城(編集)

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

参加度(20%)には、出席のほか、遅刻・私語などの授業態度も含まれ、成績評価に反映されます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理検査法Ⅰ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	青木 剛・田中 芳幸	

テーマ

心理検査法に関する基礎理論の理解、および心理検査施行における基本姿勢の検討

獲得目標

心理検査 (Psychological test) とは、心理査定 (Psychological assessment) を行うための方法の一つであり、「ひと」(client) を「全人的に理解しようとする活動」の一部である。そこで本講義では、(1)各種心理検査の信頼性と妥当性を含めた特徴、(2)心理検査の選び方や検査施行時の環境の整え方、(3)心理検査結果の報告やフィードバックの仕方などを学ぶとともに、(4)心理検査施行時の検査者の姿勢・態度について考えることも目的とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 心理検査とは ー心理検査と心理査定ー
- 第2回 心理検査開発の歴史的背景
- 第3回 心理検査の信頼性と妥当性
- 第4回 検査者の基本的姿勢・態度
- 第5回 「性格」理解のための諸理論
- 第6回 性格検査(1)質問紙法
- 第7回 性格検査(2)投影法
- 第8回 性格検査(3)作業検査法
- 第9回 知能検査(1)知能とは
- 第10回 知能検査(2)知能検査の種類
- 第11回 発達に関する諸検査
- 第12回 行動・社会性に関する諸検査
- 第13回 心理的な症状に関する諸検査
- 第14回 その他の心理検査
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

・心理検査・心理査定・心理測定関連図書の講読・レポートの執筆

教科書

図表で学ぶ心理テスト

著者： 長尾 博

出版社： ナカニシヤ出版

出版年：

ISBN：

参考書

心理臨床アセスメント入門ー心の治療のための臨床判断学ー

著者： 赤塚大樹・森谷寛之・豊田洋子・鈴木国文

出版社：培風館

出版年：

ISBN：

心理測定への招待－測定からみた心理学入門－

著者：市川伸一

出版社：サイエンス社

出版年：

ISBN：

各種心理検査の手引書

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（40%）

授業中課題（30%）

参加度（30%）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理学データ解析 <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	佐藤 鮎美.前田 洋光	

テーマ

SPSSを用いた統計解析の基礎

獲得目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、解析ソフト「SPSS」を用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。

授業の内容

本講では、心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法(t検定、分散分析等)について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用方法のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 記述統計:度数分布、平均、標準偏差
- 第3回 相関係数
- 第4回 t検定
- 第5回 一要因の分散分析
- 第6回 二要因被験者間の分散分析
- 第7回 交互作用と多重比較
- 第8回 二要因被験者内の分散分析と混合計画
- 第9回 χ^2 乗検定
- 第10回 データ分析演習(1)
- 第11回 データ分析演習(2)
- 第12回 データ分析演習(3)
- 第13回 データ分析演習(4)
- 第14回 データ分析演習(5)
- 第15回 授業全体のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

教科書は特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

SPSSのススメ<1>2要因の分散分析をすべてカバー

著者: 竹原 卓真

出版社：北大路書房

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（）

授業中課題（50）

参加度（10）

小テスト（）

授業中発表等（40）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理学データ解析

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	佐藤 鮎美.前田 洋光	

テーマ

SPSSを用いた統計解析の基礎

獲得目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、解析ソフト「SPSS」を用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。

授業の内容

本講では、心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法(t検定、分散分析等)について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2回 記述統計:度数分布、平均、標準偏差
- 第3回 相関係数
- 第4回 t検定
- 第5回 一要因の分散分析
- 第6回 二要因被験者間の分散分析
- 第7回 交互作用と多重比較
- 第8回 二要因被験者内の分散分析と混合計画
- 第9回 χ^2 乗検定
- 第10回 データ分析演習(1)
- 第11回 データ分析演習(2)
- 第12回 データ分析演習(3)
- 第13回 データ分析演習(4)
- 第14回 データ分析演習(5)
- 第15回 授業全体のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

教科書は特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

SPSSのススメ<1>2要因の分散分析をすべてカバー

著者: 竹原 卓真

出版社: 北大路書房

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **行動分析学**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	上北 朋子	

テーマ

こころを理解するための行動分析学:基礎から応用まで

獲得目標

こころを自然科学的にとらえる手法を提示した行動分析学の思想を理解する。そのうえで、この理論が教育、医療、福祉、および子育ての場面でいかに活用されてきたのかを学ぶ。

授業の内容

自分を理解し、他者を理解するには、まず人間はどのようなものであるかについての知識が必要である。本講義では行動分析学における行動の理解がどのようなものであるかを理解し、日常行動の分析から問題行動の分析まで具体的に学ぶ。

内 容

- 第1回 行動分析学とは
- 第2回 行動心理学が生まれるまで「こころ」と「行動」
- 第3回 行動の法則:観察、記述、予測
- 第4回 行動と学習(1):レスポナント条件付け
- 第5回 行動と学習(2):オペラント条件付け
- 第6回 シェイピング:行動をつくる
- 第7回 強化スケジュール:行動を操作する
- 第8回 消去と回復
- 第9回 弁別と般化:違いが分かる、同じと分かる
- 第10回 模倣
- 第11回 言語行動
- 第12回 応用行動分析(1):医療、福祉の現場で
- 第13回 応用行動分析(2):発達障害をもつ子どものために
- 第14回 応用行動分析(3):親、教師のために
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

関連図書による自学自習

教科書

行動の基礎

著者: 小野浩一

出版社: 倍風館

出版年: 2005

ISBN: 9784563056964

参考書

行動分析学入門

著者: 杉山尚子、島宗理、佐藤方哉、マロット

出版社：産業図書株式会社

出版年：1998

ISBN：978-4782890301

パフォーマンス・マネジメント—問題解決のための行動分析学

著者：島宗理

出版社：米田出版

出版年：2000

ISBN：978-4946553073

成績評価

試験（70）

小テスト（0）

授業中課題（10）

授業中発表等（0）

参加度（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 対人援助論B

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	坂本 敏郎・滝野 功久・殿谷 仁志・中西 龍一・日比野 英子・松下 幸治	

テーマ

心理・福祉・教育・医療等の種々の領域で展開されている「対人援助行為」について広く概観する。

獲得目標

「臨床の知」のみならず「科学」の視点も盛り込み、広く「人が人を援助するとはどういうことか」について考える。具体的には脳科学の視点からの貢献、母子臨床からの視点、コミュニティ・サポートの視点、心理療法からのアプローチについて、それぞれの観点から「人の役に立つ」営みについて考察を深めることができる。

授業の内容

松下を全15回のコーディネーターとし、5名の教員(坂本、日比野、羽下、滝野、中西)との対話形式で対人援助についての議論を展開する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション①～対人援助行為とは～
- 第2回 オリエンテーション②～対人援助の「光」と「影」～
- 第3回 心理学への興味とその後の展開
- 第4回 「臨床の知」と「科学の知」
- 第5回 治療的面接学と脳科学の出会い
- 第6回 乳幼児の発達～愛着を中心として～
- 第7回 母と子のユニット
- 第8回 「臨床乳児」と「被観察乳児」
- 第9回 対人援助論
- 第10回 個人開業の立場から
- 第11回 Perls.F.S.の背景
- 第12回 ゲシュタルト療法の実際
- 第13回 広く心理療法に通底するもの
- 第14回 まとめ①～「精神科心理臨床」と「日常的な心理臨床」～
- 第15回 まとめ②～「良識」に基づいた「当たり前の行為」としての対人援助～

授業以外での学習方法

教科書

参考書

現実に介入しつつ心に関わる

著者： 田嶋誠一

出版社： 金剛出版

出版年： 2009年

ISBN： 978-7724-1103-5

嘘を生きる人妄想を生きる人—個人神話の創造と病—

著者： 武野俊弥

出版社： 新曜社

出版年： 2005年

ISBN： 4-7885-0960-1

ゲシュタルト療法入門

著者： 倉戸ヨシヤ(編)

出版社： 金剛出版

出版年： 2012年

ISBN： 978-7724-1281-0

愛着の発達

著者： 繁多進

出版社： 大日本図書

出版年： 1987年

ISBN： 4-477-12155-5

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

毎回の講義の感想を自由に書いてもらう。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅢ <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.滝野 功久.殿谷 仁志.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

獲得目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらい、その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらい、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 他者に必要とされること、我に返ること(社会的居場所、人間的居場所について)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 身体声を表現する(内省体験の自己開示)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 社会的居場所、人間的居場所について
- 第12回 心身相関
- 第13回 日常の中の非日常
- 第14回 自己援助的内省を活性化させる体験
- 第15回 「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

授業以外での学習方法

日常場面における自らの安全な居場所探しを試みる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅢ **

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	ジェイムス 朋子.滝野 功久.殿谷 仁志.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

獲得目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらい、その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 他者に必要とされること、我に返ること(社会的居場所、人間的居場所について)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 身体声を表現する(内省体験の自己開示)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 社会的居場所、人間的居場所について
- 第12回 心身相関
- 第13回 日常の中の非日常
- 第14回 自己援助的内省を活性化させる体験
- 第15回 「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

授業以外での学習方法

日常場面における自らの安全な居場所探しを試みる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅢ <c>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	ジェイムス 朋子.滝野 功久.殿谷 仁志.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

獲得目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第5回 グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 身体声を表現する(内省体験の自己開示)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 社会的居場所、人間的居場所について
- 第12回 心身相関
- 第13回 日常の中の非日常
- 第14回 自己援助的内省を活性化させる体験
- 第15回 「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化
- 第1回 他者に必要とされること、我に返ること(社会的居場所、人間的居場所について)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
- 第4回 振り返り(気づき)

授業以外での学習方法

日常場面における自らの安全な居場所探しを試みる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 グループワークⅢ <d>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.滝野 功久.殿谷 仁志.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

獲得目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらい、その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 他者に必要とされること、我に返ること(社会的居場所、人間的居場所について)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 身体声を表現する(内省体験の自己開示)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 社会的居場所、人間的居場所について
- 第12回 心身相関
- 第13回 日常の中の非日常
- 第14回 自己援助的内省を活性化させる体験
- 第15回 「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

授業以外での学習方法

日常場面における自らの安全な居場所探しを試みる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅢ <e>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.滝野 功久.殿谷 仁志.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

獲得目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらい、その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 他者に必要とされること、我に返ること(社会的居場所、人間的居場所について)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 身体声を表現する(内省体験の自己開示)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 社会的居場所、人間的居場所について
- 第12回 心身相関
- 第13回 日常の中の非日常
- 第14回 自己援助的内省を活性化させる体験
- 第15回 「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

授業以外での学習方法

日常場面における自らの安全な居場所探しを試みる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ <a>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.滝野 功久.殿谷 仁志.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

有機体としてのグループが、その営み自体に「自然快復力」ないし「自己治癒力」を含んでいることを実感する。

獲得目標

グループワークⅠ、Ⅱ、Ⅲに流れの中で変容—transformationしてきた各自の体験を互いに披露しあう中で、改めて自身の声に対する他のメンバーから返された応答の手応え感が自己評価を高め、グループのもつ潜在力—potentialや知恵—wisdom|によって自身が癒される体験、さらには真の「自己受容」を体得していく体験を実感してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 グループ・メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 有機体としてのグループ
- 第12回 人生を物語ること
- 第13回 グループの治癒力
- 第14回 自己受容
- 第15回 「グループの潜在力—potential|あるいは「グループの知恵—wisdom|」の考察

授業以外での学習方法

Kirschenbaum, H. and Henderson, V. L(著)、伊東博・村山正治(訳)『ロジャーズ撰集—カウンセラーなら—度は読んでおきたい33論文』<上><下>誠信書房を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ **

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.滝野 功久.殿谷 仁志.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

有機体としてのグループが、その営み自体に「自然快復力」ないし「自己治癒力」を含んでいることを実感する。

獲得目標

グループワークⅠ、Ⅱ、Ⅲに流れの中で変容—transformationしてきた各自の体験を互いに披露しあう中で、改めて自身の声に対する他のメンバーから返された応答の手応え感が自己評価を高め、グループのもつ潜在力—potentialや知恵—wisdom|によって自身が癒される体験、さらには真の「自己受容」を体得していく体験を実感してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 グループ・メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 有機体としてのグループ
- 第12回 人生を物語ること
- 第13回 グループの治癒力
- 第14回 自己受容
- 第15回 「グループの潜在力—potential|あるいは「グループの知恵—wisdom」の考察

授業以外での学習方法

Kirschenbaum, H. and Henderson, V. L(著)、伊東博・村山正治(訳)『ロジャーズ撰集—カウンセラーなら—度は読んでおきたい33論文』<上><下>誠信書房を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ <c>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.滝野 功久.殿谷 仁志.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

有機体としてのグループが、その営み自体に「自然快復力」ないし「自己治癒力」を含んでいることを実感する。

獲得目標

グループワークⅠ、Ⅱ、Ⅲに流れの中で変容—transformationしてきた各自の体験を互いに披露しあう中で、改めて自身の声に対する他のメンバーから返された応答の手応え感が自己評価を高め、グループのもつ潜在力—potentialや知恵—wisdomによって自身が癒される体験、さらには真の「自己受容」を体得していく体験を実感してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 グループ・メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 有機体としてのグループ
- 第12回 人生を物語ること
- 第13回 グループの治癒力
- 第14回 自己受容
- 第15回 「グループの潜在力—potential」あるいは「グループの知恵—wisdom」の考察

授業以外での学習方法

Kirschenbaum, H. and Henderson, V. L(著)、伊東博・村山正治(訳)『ロジャーズ撰集—カウンセラーなら一度は読んでおきたい33論文』<上><下>誠信書房を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ <d>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.滝野 功久.殿谷 仁志.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

有機体としてのグループが、その営み自体に「自然快復力」ないし「自己治癒力」を含んでいることを実感する。

獲得目標

グループワークⅠ、Ⅱ、Ⅲに流れの中で変容—transformationしてきた各自の体験を互いに披露しあう中で、改めて自身の声に対する他のメンバーから返された応答の手応え感が自己評価を高め、グループのもつ潜在力—potentialや知恵—wisdomによって自身が癒される体験、さらには真の「自己受容」を体得していく体験を実感してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 グループ・メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 有機体としてのグループ
- 第12回 人生を物語ること
- 第13回 グループの治癒力
- 第14回 自己受容
- 第15回 「グループの潜在力—potential」あるいは「グループの知恵—wisdom」の考察

授業以外での学習方法

Kirschenbaum, H. and Henderson, V. L(著)、伊東博・村山正治(訳)『ロジャーズ撰集—カウンセラーなら一度は読んでおきたい33論文』<上><下>誠信書房を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ <e>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 ジェイムス 朋子.滝野 功久.殿谷 仁志.中西 龍一.松下 幸治

テーマ

有機体としてのグループが、その営み自体に「自然快復力」ないし「自己治癒力」を含んでいることを実感する。

獲得目標

グループワークⅠ、Ⅱ、Ⅲに流れの中で変容—transformationしてきた各自の体験を互いに披露しあう中で、改めて自身の声に対する他のメンバーから返された応答の手応え感が自己評価を高め、グループのもつ潜在力—potentialや知恵—wisdom|によって自身が癒される体験、さらには真の「自己受容」を体得していく体験を実感してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 グループ・メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 有機体としてのグループ
- 第12回 人生を物語ること
- 第13回 グループの治癒力
- 第14回 自己受容
- 第15回 「グループの潜在力—potential|あるいは「グループの知恵—wisdom」の考察

授業以外での学習方法

Kirschenbaum, H. and Henderson, V. L(著)、伊東博・村山正治(訳)『ロジャーズ撰集—カウンセラーなら—度は読んでおきたい33論文』<上><下>誠信書房を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 産業心理学Ⅱ(消費者行動論)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 永野 光朗	

テーマ

消費と広告の心理学

獲得目標

心理学研究に基づいて消費者の心理・行動についての客観的理解を深める。このような理解は自身の消費生活の向上に寄与し、同時に企業人としての能力を高めるであろう。

授業の内容

企業が実施している広告戦略や販売促進活動の実例をあげながら、企業が消費者の心理・行動をどのように理解しているのかを心理学理論をベースにしながらか考察する。

内 容

- 第1回 消費者行動研究の目的と意義
- 第2回 消費者行動とマーケティング
- 第3回 消費者の購買意思決定過程①(EBMモデルの紹介)
- 第4回 消費者の購買意思決定過程②(ブランド選択過程を中心にして)
- 第5回 価格の心理学①(価格の心理的機能)
- 第6回 価格の心理学②(心理的財布理論)
- 第7回 広告の社会心理学①(広告効果モデル・広告の種類)
- 第8回 広告の社会心理学②(タレント・専門家起用広告)
- 第9回 広告の社会心理学③(恐怖喚起広告)
- 第10回 広告の社会心理学④(弱点開示広告・比較広告)
- 第11回 販売場面における説得のテクニック①(foot in the door techniqueなど)
- 第12回 販売場面における説得のテクニック②(Cialdiniの影響力の武器)
- 第13回 店舗内の消費者行動①(店舗内における行動のコントロール)
- 第14回 店舗内の消費者行動②(店舗内における販売促進の方法)
- 第15回 ブランドと消費者行動

授業以外での学習方法

消費者としての自分自身のあり方を振り返り、その心理や行動についての素朴な疑問(なぜ消費者はこんな商品に惹かれるのか?なぜ消費者はこんなときにこんな行動をとってしまうのか?)をつねに持ちながら授業に臨んで欲しい。このような疑問を思いつく限りメモ書きにしておくこと。

教科書

新・消費者理解のための心理学

著者: 杉本徹雄編著

出版社: 福村出版

出版年: 2012

ISBN: 4571250401

参考書

成績評価

試験（40）

小テスト（60）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

毎回の授業において小テストを実施する。また学期末に定期試験を実施する（持ち込み不可）。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 消費者コミュニケーション論

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	前田 洋光	

テーマ

現代社会における消費者行動の理解

獲得目標

現代における消費者コミュニケーションの意義・機能について、客観的な視点から理解することができる

授業の内容

消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものである。私たちは、このすべてのプロセスにおいて、他者とくちコミ情報を授受しあう、企業から情報を入手する、企業に苦情を伝える、Web上で情報交換をおこなう等、種々のコミュニケーション活動をおこなっている。本講では、これらの消費者をめぐるコミュニケーション活動に焦点をあて、そのプロセス・機能・役割について明らかにしていく。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 くちコミ①:他メディアとの効果差異を中心に
- 第3回 くちコミ②:くちコミの受け手・メッセージ内容を中心に
- 第4回 くちコミ③:くちコミの送り手に関する検討
- 第5回 くちコミと普及
- 第6回 Webくちコミ
- 第7回 消費者とモノとのコミュニケーション①:モノの意味
- 第8回 消費者とモノとのコミュニケーション②:被服心理学
- 第9回 企業と消費者間のコミュニケーション①:消費者満足
- 第10回 企業と消費者間のコミュニケーション②:選択肢評価
- 第11回 企業と消費者間のコミュニケーション③:リスクコミュニケーション
- 第12回 現代社会における消費者コミュニケーション①:悪質商法
- 第13回 現代社会における消費者コミュニケーション②:消費者の苦情行動
- 第14回 現代社会における消費者コミュニケーション③:環境配慮行動
- 第15回 まとめと確認

授業以外での学習方法

教科書

購入する必要はない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新・消費者理解のための心理学

著者: 杉本徹雄(編)

出版社: 福村出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (20)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **マーケティング調査演習**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 60
履修条件	クラス指定
担当者 永野 光朗	

テーマ

マーケティング遂行に必要な情報収集手段としての消費者調査

獲得目標

マーケティング遂行の手段としての「来街者調査」の企画立案、実施、結果の分析、報告書の作成を自らが行うことで、社会調査についての「体験的理解」を深めると同時に実務的・実践的スキルを身につける。

授業の内容

商店街など地域社会の活性化を目指してプランを立案する場合にしばしば行われる来街者調査（地域への来訪者を対象とした面接調査、行動観察調査など）のプロセスを体験する。

内 容

- 第1回 来街者調査とは？
- 第2回 来街者調査の事例紹介
- 第3回 来街者調査の方法①（面接調査）
- 第4回 来街者調査の方法②（通行量調査）
- 第5回 質問紙の設計と調査計画の作成
- 第6回 来街者調査の実施①
- 第7回 来街者調査の実施②
- 第8回 来街者調査の実施③
- 第9回 来街者調査の実施④
- 第10回 来街者調査の実施⑤
- 第11回 来街者調査の実施⑥
- 第12回 データの入力
- 第13回 データの分析
- 第14回 調査結果の検討
- 第15回 調査報告書の作成

授業以外での学習方法

商店街や店舗での販売促進の事例を収集し、その遂行のためにはどのような情報が必要になるのかを自分なりに考える。

教科書

教科書はなし

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（30%）

授業中発表等（ ）

参加度（70%）

・10月または11月の土曜日及び日曜日に商店街などにおいて来街者調査を行う。また事前の現地への下見や事後の報告会なども実施する。・現地への交通費はすべて自己負担とする。・上記の詳細(調査実施場所など)については未定であるが決まり次第通知をする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 精神医学Ⅱ

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	上鹿渡 和宏	

テーマ

様々な精神疾患について、また、我が国の精神科医療の実際について幅広く理解する。

獲得目標

精神医学Ⅰに引き続き、精神医学で扱う代表的な疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、また、本人や家族への支援について最新の知見もふまえて、当事者の視点からの理解も深める。さらに、精神科病院等における専門治療の内容や特性、多職種の連携についても理解することが望まれる。

授業の内容

精神医学Ⅰに引き続き、精神疾患疾患の具体的内容、また治療法や関わる際の注意事項について具体的なケース、当事者の語りを通して理解する。その上で、現実の治療の枠組みについてや、患者の人権擁護についても学ぶ。さらに精神科治療における諸機関、専門職の連携と、それぞれの役割についても具体的な事例を通して理解する。

内 容

- 第1回 代表的な疾患について8 ～ 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害(2)
- 第2回 代表的な疾患について9 ～ 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
- 第3回 代表的な疾患について10 ～ 成人のパーソナリティおよび行動の障害
- 第4回 代表的な疾患について11 ～ 精神遅滞
- 第5回 代表的な疾患について12 ～ 発達障害(1) 自閉症スペクトラム障害
- 第6回 代表的な疾患について13 ～ 発達障害(2) ADHD, 学習障害について
- 第7回 代表的な疾患について14 ～ 発達障害(3)～成人における問題、最近の話題
- 第8回 代表的な疾患について15 ～ 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
- 第9回 代表的な疾患について12 ～ 神経系の疾患
- 第10回 治療について1 ～ 薬物療法、電気けいれん療法
- 第11回 治療について2 ～ 精神療法、環境・社会療法と精神科リハビリテーション
- 第12回 病院精神医療の実際 ～ 歴史と現状、様々な専門病棟と治療構造、司法精神医学
- 第13回 精神科医療における人権擁護について 入院形態、インフォームドコンセント、行動制限
- 第14回 精神医療と関連機関との連携
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

予習としては教科書の相当箇所を読む。また、復習としては、回毎に出てくる精神医学に関する様々な用語(特に教科書太字部分)について理解を確実なものにする。

教科書

新・精神保健福祉士養成講座『精神疾患とその治療』

著者： 日本精神保健福祉士養成校協会編

出版社： 中央法規

出版年： 2012年

ISBN： 9784805835746

参考書

子どもの問題行動への理解と対応

著者： クレアパレット他著、上鹿渡和宏訳

出版社： 福村出版

出版年： 2013年

ISBN: 9784571420542

イギリス・ルーマニア養子研究から社会的養護への示唆

著者： マイケル・ラター他著、上鹿渡和宏訳

出版社： 福村出版

出版年： 2012年

ISBN: 9784571420481

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

授業中課題としてはコミュニケーションペーパー、小レポート、期末レポートを課す予定。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Aa>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	米澤 洋子	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目指す

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Ab〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ac>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	禧美 智章	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ〈Ad〉**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	榎藤 愛順	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Ae〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ <Af>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	松井 治子	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ〈Ag〉**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	熊谷 昭宏	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Ah〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 正志

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ai>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 渡邊 浩史

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Aj>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	橋本 章彦	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ <Ak>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	伊藤 典文	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ <AI>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	鳥谷 善史	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Am>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 重松 恵美

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ <An>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	檜垣 泰代	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Ba〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 米澤 洋子

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ <Bb>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	古澤 夕起子	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bc>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 禧美 智章

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ <Bd>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	榎藤 愛順	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Be〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 名和 久仁子

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bf>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 松井 治子

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bg>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bh>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	橋本 正志	

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bi>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 渡邊 浩史

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bj>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目指す

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくること

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Bk〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 伊藤 典文

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <BI>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 鳥谷 善史

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bm>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 重松 恵美

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bn>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 檜垣 泰代

テーマ

アカデミックスキルの習得

獲得目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解説する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を旨とする

授業の内容

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかりと踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
- 第2回 文章を書く(2)文章構成
- 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
- 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
- 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
- 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
- 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
- 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
- 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
- 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
- 第11回 読解力を養おう(1)文脈を読む
- 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
- 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
- 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する

授業以外での学習方法

授業中に示された課題は必ずやってくる

教科書

スタート

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 ジェームス ディーグル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life Elementary Student's Book

著者: John Hughes

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9781133315698

Life Elementary Workbook

著者: John Hughes

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9781133316039

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (30)

小テスト (10)

授業中発表等 (15)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

各パートの攻略法を知り、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 前期学習事項の確認
- 第2回 短文穴埋め問題攻略法 語彙問題
- 第3回 長文穴埋め問題攻略法 イディオム問題
- 第4回 読解問題攻略法 1つの文書
- 第5回 読解問題攻略法 2つの文書
- 第6回 短文穴埋め問題攻略法 文法問題
- 第7回 長文穴埋め問題攻略法 前後関係を見る
- 第8回 読解問題攻略法 スキミングの練習
- 第9回 読解問題攻略法 スキャニングの練習
- 第10回 短文穴埋め問題 演習 総合問題
- 第11回 長文穴埋め問題 演習 総合問題
- 第12回 読解問題 1つの文書 演習
- 第13回 読解問題 1つの文書 演習
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

Score Goals in TOEIC Test Listening 600

著者: 河合忠仁 David E. Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2006

ISBN: 9784881985724

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 3

著者： 河合忠仁 David E. Bramley

出版社： 松柏社

出版年： 2007

ISBN： 9784881985861

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明 David Rondeau

出版社： Z会

出版年： 2007

ISBN： 9784862900012

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <c>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 久保田 美佳

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持つ。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の内容

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (C) 食習慣について話す。
- 第3回 Unit 7 (D) 好きな食べ物について話す。
- 第4回 Unit 8 (C) 自分の町の面白い場所について話す。
- 第5回 Unit 8 (D) 観光スポットについてプレゼンテーションをする。
- 第6回 Unit 9 (C) 人が最近していることを説明する。
- 第7回 Unit 9 (D) 人が最近していることについて話し合う。
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10 (C) 日課を話す(過去)。
- 第10回 Unit 10 (D) 過去の活動を説明する。
- 第11回 Unit 11 (C) 過去の休暇について話す。
- 第12回 Unit 11 (D) 旅行の経験を説明する。
- 第13回 Unit 12 (C) 計画について話し合う。
- 第14回 Unit 12 (D) 伝統的な誕生日の過ごし方を説明する。
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 ()

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (60)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <d>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	溝部 芳子	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

獲得目標

TOEICのリーディングパートに対応できるリーディング力と語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

TOEICリーディングに必要な基礎的な文法事項を整理しつつ、問題演習を行う。またTOEIC頻出の日常生活やビジネスの場面で必要な語彙を学習してから、それを応用するTOEICリーディングの問題に取り組む。グループワークも取り入れた活気のある授業を目指す。終盤では総合演習を行う。また随時確認テストを行う。

内 容

- 第1回 Introduction / Bank & Economy / 可算名詞と不可算名詞
- 第2回 Company / 名詞の数え方
- 第3回 Office & Office supplies / 動詞の形
- 第4回 Personnel Affairs / 接頭辞
- 第5回 Positions & Titles / 接尾辞
- 第6回 Logistics / 動名詞・不定詞
- 第7回 Customer Service / 分詞
- 第8回 Salary & Benefits / 仮定法
- 第9回 Negotiations& Business Transactions / 助動詞
- 第10回 Vocabulary Review (1) / 書き手と読み手を推測する
- 第11回 Vocabulary Review (2) / 読み手の次の行動を推測する
- 第12回 Vocabulary Review (3) / パラフレーズに注意
- 第13回 総合演習(1)
- 第14回 総合演習(2)
- 第15回 総合演習(3)

授業以外での学習方法

語彙学習。宿題には時間をかけて取り組むこと。

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test

著者： 杉田麻哉、Jeff Smith, 竹内理

出版社： 成美堂

出版年： 2010

ISBN： 9784791931231

Mastery Drills for the TOEIC Test Vocabulary

著者： 武藤克彦

出版社： 桐原書店

出版年： 2011

ISBN： 9784342553028

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40%)

授業中課題 (25%)

授業中発表等 ()

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <e>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	高居 佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life (日常生活) Part 5, 7
- 第3回 Unit 2 Eating Out & Amusement (外食と娯楽) Part 6, 7
- 第4回 Unit 3 Cooking & Purchasing (料理と買い物) Part 5, 7
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel (交通と旅行) Part 6, 7
- 第6回 Unit 5 Production & Logistics (製造と運輸) Part 5, 7
- 第7回 Unit 6 Business & Economics (ビジネスと経済) Part 5, 7 Review Test 1
- 第8回 Unit 7 Advertising & ICT (広告と情報通信技術) Part 5, 7
- 第9回 Unit 8 Health & the Environment (健康と環境) Part 6, 7
- 第10回 Unit 9 Law & Administration (司法と行政) Part 5, 7
- 第11回 Unit 10 Employment & Personnel (雇用と人事) Part 5, 7
- 第12回 Unit 11 Finance & Banking (財務と銀行業務) Part 5, 7
- 第13回 Unit 12 Office Work & Correspondence (社内業務と通信) Review Test 2
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST

著者: 安丸雅子 Malcolm Swanson

出版社: 金星堂

出版年: 2011

ISBN: 9784764739192

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明 David Rondeau

出版社： Z会

出版年： 2007

ISBN： 9784862900012

はじめての新TOEICテスト本番模試

著者： 森川美貴子

出版社： 旺文社

出版年： 2009

ISBN： 9784010940969

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（20）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <f>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	田中 美和子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
- 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
- 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
- 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
- 第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
- 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
- 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
- 第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
- 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
- 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
- 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 (25)

小テスト (15)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (5)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <g>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	野口 博代	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（20%）

授業中課題（10%）

参加度（20%）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（20%）

授業中発表等（10%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <h>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	山崎 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
- 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
- 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
- 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
- 第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
- 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
- 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
- 第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
- 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
- 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
- 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

後期末英語テスト20%を加算。

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <i>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	原 俊樹	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（40%）

授業中課題（10%）

参加度（10%）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（10%）

授業中発表等（10%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <j>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	弥永 啓子	

テーマ

リサーチのために英語を正確に読む

獲得目標

・ 読むために必要な高校文法を復習し理解する ・ 平易な英文を読むことに慣れる ・ 世界の社会・文化的背景に関する知識を深める

授業の内容

英語Ⅱ-Bで各自が行うプロジェクトとそのプレゼンテーションの内容を深めるために、世界中から集められた様々な話題に関する短い文章を読んでゆきます。同時に、読むために必要な高校文法を復習し、学生がプロジェクトのために様々な英文リソースを読む際の手助けとします。

内 容

- 第1回 教育(動く学校)、主述関係を把握する
- 第2回 都市(砂漠の中の未来都市)、目的語と補語
- 第3回 ロボット(介助ロボット)、主節と従属節
- 第4回 性格(外向型と内向型)、等位接続詞
- 第5回 ホテル(宇宙のホテル)、不定詞
- 第6回 文化と宗教(宗教者のサミット)、関係代名詞
- 第7回 企業(理想の企業)、時制
- 第8回 食(未来の食物)、つなぎ言葉
- 第9回 結婚(理想の結婚式)、分詞構文
- 第10回 健康(若さの秘訣)、助動詞
- 第11回 宇宙(月か火星か)、比較
- 第12回 医療(未来の医療)、仮定法過去
- 第13回 人類(未接触部族)、受動態
- 第14回 技術(未来のコンピュータ)、挿入句
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

毎回の予習小テスト、復習テストに備えること。リスニングの宿題を期限通りに提出すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

参考書

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20%)

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (45%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <k>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	小川 享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

授業内容に従い、リスニング、ライティングなどの課題を出すので、それに取り組む。語彙を増やすための努力をする。

教科書

Life, Elementary, Student's Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（20）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（15）

参加度（15）

試験、小テスト、授業中の積極的な学習姿勢、ペアワークなどの取り組みなどを総合的に判断して成績評価を出す。上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA<I>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	山下 美朋	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
- 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
- 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
- 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
- 第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
- 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
- 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
- 第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
- 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
- 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
- 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

指示のあった予習、復習は必ず行うこと。

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN:

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (15)

参加度 (20)

参加度には出席を含みます。授業中課題と発表は同義とし、併せて30%で成績を出します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <m>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about people and things that have changed the world.

獲得目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の内容

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as preparing weekly blog entries, and doing reading, listening and speaking exercises about various world-changers. We will also focus on various tools for autonomously improving your English speaking and writing skills. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語ⅡB. This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Introduction / further computer terminology
- 第2回 World-changer (WC) 1 / freewriting
- 第3回 WC 2 / Vocab: phrases/idioms
- 第4回 WC 3 / word choice: using example sentences
- 第5回 WC 4 / Vocab: word class review
- 第6回 WC 5 / Audacity review; 1-minute talks
- 第7回 WC 6 / avoiding misuse of translation sites I
- 第8回 Vocabulary Quiz 1 / Quiz game
- 第9回 WC 7 / avoiding misuse of translation sites II
- 第10回 WC 8 / effective use of Internet searches II
- 第11回 WC 9 / Vocab: review of word frequency
- 第12回 WC 10 / further pronunciation practice
- 第13回 WC 11 / presentation techniques review
- 第14回 WC 12 / small group discussions
- 第15回 Vocabulary Quiz 2 / Quiz game

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <n>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	溝部 芳子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

DVDを観る。語彙学習、その他自宅学習課題にしっかりと取り組む。

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40%)

授業中課題 (25%)

授業中発表等 ()

参加度 (15%)

上記に加えて後期末英語テスト20%。小テストには2から3單元ごとの確認テストが含まれる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <○>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	中井 翔	

テーマ

「環境」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング・ライティング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。・英字新聞に慣れ英語記事を読めるようになる。

授業の内容

Pre-reading, Reading, Post-reading の3つのパートでリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。Key Wordsコーナーで語彙を修得し、英作文の練習をする。

内 容

- 第1回 Unit 8 Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales
- 第2回 Unit 8 世界的な禁煙傾向、タバコ産業の将来は—キューバ発
- 第3回 Unit 9 Global Warming Claiming Next Victim: Andes Water
- 第4回 Unit 9 溶ける氷河におびやかされる人々の生活—ボリビア発
- 第5回 Unit 10 Aborigines Still Rely on Bush Medicines for Remedies
- 第6回 Unit 10 アボリジニの命の綱、伝統的な薬草医療—オーストラリア発
- 第7回 Unit 11 African Farmers Seek Ways to Survive Droughts
- 第8回 Unit 11 温暖化で干ばつ続き⇒早い、強い作物に栽培転換—ザンビア発
- 第9回 Unit 12 Study: Fruity Cocktails May Be Good for Health
- 第10回 Unit 12 フルーツカクテルで健康に？ アルコールで抗酸化作用の効果アップか—アメリカ発
- 第11回 Unit 13 Rising Seas May Force Island Nations to Evacuate
- 第12回 Unit 13 住民を国外へ追いやる海面上昇—モルディブ発
- 第13回 Unit 14 Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating
- 第14回 Unit 15 Planned Chinese City wants all Eco-Friendly Power
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

Healing Our World

著者： 小笠原真司 Pino Cutrone

出版社： 南雲堂

出版年： 2010

ISBN： 9784523176473

参考書

成績評価

試験（30）

授業中課題（0）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（20）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <p>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 ジェームス デイグル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。)
 ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)
 ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動)
 ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life Elementary Student's Book

著者: John Hughes

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9781133315698

Life Elementary Workbook

著者: John Hughes

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9781133316039

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (30)

小テスト (10)

授業中発表等 (15)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <q>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	久保田 美佳	

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持つ。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の内容

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (C) 食習慣について話す。
- 第3回 Unit 7 (D) 好きな食べ物について話す。
- 第4回 Unit 8 (C) 自分の町の面白い場所について話す。
- 第5回 Unit 8 (D) 観光スポットについてプレゼンテーションをする。
- 第6回 Unit 9 (C) 人が最近していることを説明する。
- 第7回 Unit 9 (D) 人が最近していることについて話し合う。
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10 (C) 日課を話す(過去)。
- 第10回 Unit 10 (D) 過去の活動を説明する。
- 第11回 Unit 11 (C) 過去の休暇について話す。
- 第12回 Unit 11 (D) 旅行の経験を説明する。
- 第13回 Unit 12 (C) 計画について話し合う。
- 第14回 Unit 12 (D) 伝統的な誕生日の過ごし方を説明する。
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 ()

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (60)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA** <r>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	弥永 啓子	

テーマ

リサーチのために英語を正確に読む

獲得目標

・ 読むために必要な高校文法を復習し理解する ・ 平易な英文を読むことに慣れる ・ 世界の社会・文化的背景に関する知識を深める

授業の内容

英語Ⅱ-Bで各自が行うプロジェクトとそのプレゼンテーションの内容を深めるために、世界中から集められた様々な話題に関する短い文章を読んでゆきます。同時に、読むために必要な高校文法を復習し、学生がプロジェクトのために様々な英文リソースを読む際の手助けとします。

内 容

- 第1回 教育(動く学校)、主述関係を把握する
- 第2回 都市(砂漠の中の未来都市)、目的語と補語
- 第3回 ロボット(介助ロボット)、主節と従属節
- 第4回 性格(外向型と内向型)、等位接続詞
- 第5回 ホテル(宇宙のホテル)、不定詞
- 第6回 文化と宗教(宗教者のサミット)、関係代名詞
- 第7回 企業(理想の企業)、時制
- 第8回 食(未来の食物)、つなぎ言葉
- 第9回 結婚(理想の結婚式)、分詞構文
- 第10回 健康(若さの秘訣)、助動詞
- 第11回 宇宙(月か火星か)、比較
- 第12回 医療(未来の医療)、仮定法過去
- 第13回 人類(未接触部族)、受動態
- 第14回 技術(未来のコンピュータ)、挿入句
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

毎回の予習小テスト、復習テストに備えること。リスニングの宿題を期限通りに提出すること。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20%)

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (45%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <s>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	野口 博代	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（20%）

授業中課題（10%）

参加度（20%）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（20%）

授業中発表等（10%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <t>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	田中 美和子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
 第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
 第8回 前半の復習とまとめ
 第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
 第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 (25)

小テスト (15)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (5)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <u>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	原 俊樹	

テーマ

英語を普段使いにしよう

獲得目標

I Aと同様に基本的な英語の理解・表現に必要な語彙・文法的知識・語法を身につける。

授業の内容

基本的にはテキストの各ユニットに沿って英語学習のための基礎力をつける。中学・高校で学んできたいわゆる「学校英法」を今一度体系的に確認・拡充する。

内 容

- 第1回 テキスト前半部(I A範囲)の学習内容の整理と確認。基礎力判定テスト。
- 第2回 英文の基本表現の確認Ⅰ:英文の成り立ち・主語と述語動詞・態・時制。
- 第3回 英文の基本表現の確認Ⅱ:文の要素と5文型・修飾語句。
- 第4回 叙法の確認:命令法・直説法・仮定法
- 第5回 助動詞の用法1
- 第6回 助動詞の用法2
- 第7回 不定詞、動名詞と分詞
- 第8回 話法1
- 第9回 話法2
- 第10回 比較:構文と級変化
- 第11回 複雑な構造を持つ文の理解1:分詞構文
- 第12回 複雑な構造を持つ文の理解2:接続語句と重文・複文
- 第13回 否定:部分否定と全否定
- 第14回 疑問詞と疑問文
- 第15回 後期学習事項のまとめと確認

授業以外での学習方法

予習・復習を確実にやりこなすこと。

教科書

LIFESAVER Basic English in Medical Situation

著者: Maki Inoue/ Toshiya Sato

出版社: MACMILLANLANGUAGEHOUSE

出版年: 2005

ISBN: 9784777360369

参考書

成績評価

試験（40%）

授業中課題（10%）

参加度（10%）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（10%）

授業中発表等（10%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <v>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	高居 佐紀	

テーマ

「医療」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

医療やhealth care の題材でリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。患者と医者、患者と看護婦の意思疎通に役立つ表現を覚える。

内 容

- 第1回 Unit 7 The Mystery of Dreams and Dreaming
- 第2回 Unit 7 夢のミステリー
- 第3回 Unit 8 Headache
- 第4回 Unit 8 頭痛
- 第5回 Useful Expressions 4: Examination Language and General Exam Instructions
- 第6回 Unit 9 Saving Preterm Babies with an Idea from Nature
- 第7回 Unit 9 カンガルーからヒントを得た未熟児看護法
- 第8回 Unit 10 Looking for New Uses for spices in the Medical Lab
- 第9回 Unit 10 スパイスの新たな医学的可能性
- 第10回 Useful Expressions 5: Emergency Room
- 第11回 Unit 11 Feeling No Pain: The World of Anesthesia
- 第12回 Unit 11 麻酔の限界
- 第13回 Unit 12 How Autoimmune Diseases Attack the Body's Defenses
- 第14回 Unit 12 自己免疫疾患・ループスの検証 Useful Expressions 6: Medication
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

Caregiver

著者： 近藤進 Gerald R. Gordon

出版社： 朝日出版社

出版年： 2010

ISBN: 9784255154893

参考書

成績評価

試験（30）

授業中課題（0）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（20）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <w>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 フォスター ヘンリー	

テーマ

Research and communicate about people and things that have changed the world.

獲得目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の内容

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as preparing weekly blog entries, and doing reading, listening and speaking exercises about various world-changers. We will also focus on various tools for autonomously improving your English speaking and writing skills. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語ⅡB. This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Introduction / further computer terminology
- 第2回 World-changer (WC) 1 / freewriting
- 第3回 WC 2 / Vocab: phrases/idioms
- 第4回 WC 3 / word choice: using example sentences
- 第5回 WC 4 / Vocab: word class review
- 第6回 WC 5 / Audacity review; 1-minute talks
- 第7回 WC 6 / avoiding misuse of translation sites I
- 第8回 Vocabulary Quiz 1 / Quiz game
- 第9回 WC 7 / avoiding misuse of translation sites II
- 第10回 WC 8 / effective use of Internet searches II
- 第11回 WC 9 / Vocab: review of word frequency
- 第12回 WC 10 / further pronunciation practice
- 第13回 WC 11 / presentation techniques review
- 第14回 WC 12 / small group discussions
- 第15回 Vocabulary Quiz 2 / Quiz game

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <x>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	川口 玲子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
- 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
- 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
- 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
- 第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
- 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
- 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
- 第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
- 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
- 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
- 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 (mitei)

小テスト (mitei)

授業中課題 (mitei)

授業中発表等 (mitei)

参加度 (mitei)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <y>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	山下 美朋	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
 第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
 第8回 前半の復習とまとめ
 第9回 Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
 第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

指示のあった予習、復習を必ず行うこと。

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN:

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (15)

授業中発表等 (15)

参加度 (20)

参加度に出席を含みます。授業中課題と発表は同義とし、併せて30%で成績を出します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA <z>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	小川 享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
 第15回 後半の復習とまとめ
 第1回 オリエンテーション
 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
 第8回 前半の復習とまとめ
 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)

授業以外での学習方法

授業内容に従い、リスニング、ライティングなどの課題を出すので、それに取り組む。語彙を増やすための努力をする。

教科書

Life, Elementary, Student's Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（20）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（15）

参加度（15）

試験、小テスト、授業中の積極的な学習姿勢、ペアワークなどの取り組みなどを総合的に判断して成績評価を出す。上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA<Ha>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life Elementary Workbook

著者: John Hughes

出版社: Cengage Learning

出版年: 2014

ISBN: 9781133316039

参考書

成績評価

試験（40）

授業中課題（ ）

参加度（ ）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（40）

授業中発表等（ ）

参考URL

ktu-e-learn.net

<http://ktu-e-learn.net/>

このサイトは、小テストや期末テストの実施、リスニング等に毎回使います。

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA<Hb>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	山崎 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解(読解・ビデオ視聴)活動・各テーマに関連する発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 Unit 7 (D): (Reading) Sports - Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
 第3回 Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
 第4回 Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
 第5回 Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
 第6回 Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
 第7回 Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
 第8回 前半の復習とまとめ
 第9回 Unit 10 (D): (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
 第10回 Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
 第11回 Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
 第12回 Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
 第13回 Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
 第14回 Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

後期末英語テスト20%を加算。

参考URL

2014 Syllabus科目名 **英語ⅡA<Hc>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フライアンバスカギル

テーマ

Expressing More of Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の内容

This course will be taught in English

内 容

- 第1回 introductions
- 第2回 classroom English
- 第3回 movies
- 第4回 television
- 第5回 work-A
- 第6回 work-B
- 第7回 health-A
- 第8回 health-B
- 第9回 love & marriage
- 第10回 music
- 第11回 books
- 第12回 places in Japan
- 第13回 Japanese culture
- 第14回 talking about Japan
- 第15回 review

授業以外での学習方法

教科書

Let's Chat

著者: John Pak

出版社: EFL Press

出版年: 2007

ISBN: 4580244420056

参考書

成績評価

試験（20）

授業中課題（30）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA<Hd>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 弥永 啓子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (15%)

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (50%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡA<R>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	杉山 泰	

テーマ

Cultural Literacy(文化的基礎知識)を生かして学ぶ英語

獲得目標

「パン」や「アルバイト」が大和言葉の日本語でないことはだれも知っているが、「フリーター」だとか、「カンニング」を英語だと勘違いしてはいないだろうか。今や日本語は英語の基礎知識なしにはAKB48も正しい発音すらできない。筆記体の書き方から始まり、大学生として当然知っておくべき日英語対照基礎大学英文法を学んでいく。その際に、毎回提出物プリントがあるので、遅れても提出しないと、出席にはならない。

授業の内容

毎日が手作業なので、教科書と辞書を持ってきて授業中に教科書の問題を解き、応用の英作(時事英語と俵万智の短歌など)をやってもらう。

内 容

- 第1回 自己紹介。(I am Sugiyama Yasushi.とはっきりと自己アピールしてもらう)
- 第2回 Lesson 1 アルファベットの不思議(パスポートのサインを筆記体で書く)
- 第3回 Lesson 2 I have no problem in …ing構文による英訳の実践。
- 第4回 Lesson 3 The sooner, the better.の比較級構文の英訳の実践。
- 第5回 Lesson 4 時制(現在・過去・未来)のない日本語の英訳実践。
- 第6回 Lesson 5 不定詞(未来志向のニュアンスを学ぶ)の英訳実践。
- 第7回 Lesson 6 受動態(主語が必要な英語)の英訳実践。
- 第8回 Lesson 7 関係代名詞(後ろから修飾する英語)の英訳実践。
- 第9回 Lesson 8 仮定法(シュミレーションが不得意な日本人)
- 第10回 Lesson 9 現在完了形(日本食の英語)
- 第11回 Lesson 10 It is easy …to …構文(There is構文)
- 第12回 Lesson 11 現在進行形
- 第13回 Lesson 12 形容詞(英詩の実践、英語の俳句)の実践。
- 第14回 Lesson 13 分詞構文(俵万智の短歌)の英訳の実践。
- 第15回 Lesson 14 これまで訳してきた短歌の英訳、作ってきた英詩をまとめ、最後に英語での履歴書を作成してもらう。

授業以外での学習方法

文化的基礎知識を学んでいくので、衣食住の文化の違い、縮んでいく文化・広がっていく文化、将棋・囲碁の文化など、文化の違いをやさしい英語で説明できるように日頃からチェックしてもらう。

教科書

Do You Know This?

著者: 杉山泰編

出版社: 朝日出版社

出版年: 2006年

ISBN:

参考書

「イギリス社会」入門

著者: コリン・ジョイス

出版社：NHK出版新書

出版年：2011年

ISBN：

日本語は敬語があつて主語がない

著者：金谷武洋

出版社：光文社新書

出版年：2010年

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（30）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20% 毎回作業をやるので、欠席した学生は自宅で必ず教科書をやり、毎回提出させるプリントを遅れても提出すれば、遅れの出席として評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <a>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

指定箇所の予習 単語ノートの作成

教科書

Life, Elementary, Student

著者: Paul Dummett, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

Life Elementary Workbook with Audio CD

著者: Hughes, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (5%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (50%)

授業中発表等 (15%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	中井 翔	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 前期学習事項の確認
- 第2回 写真描写問題攻略法 人物描写
- 第3回 応答問題攻略法 Wh疑問文
- 第4回 会話問題攻略法 設問の先読み訓練
- 第5回 説明文問題攻略法 キーワードのとらえ方
- 第6回 写真描写問題攻略法 位置関係
- 第7回 応答問題攻略法 クイックレスポンスの練習
- 第8回 会話問題攻略法 会話の流れをつかむ
- 第9回 説明文問題攻略法 話の流れをつかむ
- 第10回 写真描写問題 演習
- 第11回 応答問題 演習
- 第12回 会話問題 演習
- 第13回 説明文問題 演習
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

Score Goals in TOEIC Test Listening 600

著者： 河合忠仁 David E. Bramley

出版社： 松柏社

出版年： 2006

ISBN： 9784881985724

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 3

著者： 河合忠仁 David E. Bramley

出版社： 松柏社

出版年： 2007

ISBN： 9784881985861

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明 David Rondeau

出版社： Z会

出版年： 2007

ISBN： 9784862900012

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <c>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	クーラン	コーリ

テーマ

Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。)

授業の内容

・Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A) 食事を描写する
- 第3回 Unit 7 (B) 好き嫌いを述べる
- 第4回 Unit 8 (A) 近所にある店等の位置を説明する
- 第5回 Unit 8 (B) 道案内を聞く・述べる
- 第6回 Unit 9 (A) 今していることを述べる
- 第7回 Unit 9 (B) 電話で話す時間があるかを尋ねる・今話せない理由を言う
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A) 先週末について話す
- 第10回 Unit 10 (B) 相槌を打つ・驚きを示す
- 第11回 Unit 11 (A) どこに居たのかを説明する
- 第12回 Unit 11 (B) 人の話に反応する
- 第13回 Unit 12 (A) 予定について話す
- 第14回 Unit 12 (B) 招待に応じる・断る
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

The teacher will introduce methods (free ESL websites and other interesting and fun online resources, DVDs, etc) to study and improve your English outside of classtime on a weekly basis. This extra study can be done at any time during the student's free

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126151

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126540

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

上記に加えて学期末英語テスト

20%

In class tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

参考URL

Weblio 英和和英辞典

www.eje.weblio.jp

An excellent, free online dictionary

Using English

www.usingenglish.com/

Fun and free English online learning

Top 10 FREE ESL websites

www.freenuts.com/learn-english-online-for-free/

Free online English lessons in many formats

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <d>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	溝部 芳子	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

獲得目標

TOEICリスニングに対応できるリスニングスキルの養成および基礎となる語彙力の修得を目的とする。

授業の内容

TOEICリスニングに必要なスキルを整理しつつ、Part 1から4の問題演習を行っていく。またTOEIC頻出の日常生活やビジネスの場面で必要な語彙を学習してから、それを応用するTOEICリスニングの問題に取り組む。グループワークも取り入れた活気のある授業を目指す。終盤では総合的な演習を行う。また随時確認テストを行う。

内 容

- 第1回 Introduction / Shopping & Restaurant / 人物の動作や状態
- 第2回 Traffic & Commuting / 風景写真
- 第3回 Internet & E-mail / 複数の人物
- 第4回 Weather forecast / 問題の冒頭部分を聞き取る
- 第5回 Business trip & Airport / 応答の多様性(1)
- 第6回 Business meeting & Presentation / 応答の多様性(2)
- 第7回 Daily routine / 設問のパターン
- 第8回 Recruitment & Interview / 場面をとらえる
- 第9回 Finance / 聞き手と話し手を推測する
- 第10回 Contract / 次の行動を推測する
- 第11回 Production / パラフレーズに注意(1)
- 第12回 Vocabulary Review / パラフレーズに注意(2)
- 第13回 総合演習(1)
- 第14回 総合演習(2)
- 第15回 総合演習(3)

授業以外での学習方法

語彙学習。英語を聴く機会を作ること。

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test

著者： 杉田麻哉、Jeff Smith、竹内理

出版社： 成美堂

出版年： 2010

ISBN： 97847919-3123-1

Mastery Drills for the TOEIC Test Vocabulary

著者： 武藤克彦

出版社： 桐原書店

出版年： 2011

ISBN： 9784342-55302-8

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40%)

授業中課題 (25%)

授業中発表等 ()

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <e>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	高居 佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life (日常生活) Part 1, 2
- 第3回 Unit 2 Eating Out & Amusement (外食と娯楽) Part 1, 3
- 第4回 Unit 3 Cooking & Purchasing (料理と買い物) Part 1, 4
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel (交通と旅行) Part 1, 2
- 第6回 Unit 5 Production & Logistics (製造と運輸) Part 1, 3
- 第7回 Unit 6 Business & Economics (ビジネスと経済) Part 1, 4 Review Test 1
- 第8回 Unit 7 Advertising & ICT (広告と情報通信技術) Part 1, 2
- 第9回 Unit 8 Health & the Environment (健康と環境) Part 1, 3
- 第10回 Unit 9 Law & Administration (司法と行政) Part 1, 4
- 第11回 Unit 10 Employment & Personnel (雇用と人事) Part 1, 2
- 第12回 Unit 11 Finance & Banking (財務と銀行業務) Part 1, 3
- 第13回 Unit 12 Office Work & Correspondence (社内業務と通信) Part 1, 4 Review Test 2
- 第14回 模擬試験 解答・解説
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST

著者: 安丸雅子 Malcolm Swanson

出版社: 金星堂

出版年: 2011

ISBN: 9784764739192

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明 David Rondeau

出版社： Z会

出版年： 2007

ISBN： 9784862900012

はじめての新TOEICテスト本番模試

著者： 森川美貴子

出版社： 旺文社

出版年： 2009

ISBN： 9784010940969

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <f>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	田中 美和子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 (25)

小テスト (15)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (5)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <g>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フライアンバスカガイル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（20）

授業中課題（20）

参加度（40）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <h>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	スミス ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住とったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <i>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	ソーソン マーカス	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student

著者: Paul Dummett, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（20）

授業中課題（20）

参加度（40）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（0）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <j>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 弥永 啓子

テーマ

プロジェクトとプレゼンテーションを通して国際語としての英語で発信する

獲得目標

・リサーチの基本的な技能を身につける・英語でのプレゼンテーション経験を通して英語によるパブリックスピーキングに自信を持つ・自律的な英語学習のためのICT活用スキルを身につける

授業の内容

各学生が自分でプロジェクトのテーマを決めてリサーチし、これを発表する。

内 容

- 第1回 後期プロジェクトテーマを考える
- 第2回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第3回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第4回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第5回 マルチメディア資料を収集する
- 第6回 インタビューデータを収集する、アンケートを作成する
- 第7回 アンケート結果をまとめる
- 第8回 中間発表用原稿を作成する
- 第9回 中間発表、フィードバック
- 第10回 発表内容の修正、スライドの作成
- 第11回 最終原稿の作成、発表練習
- 第12回 最終プレゼンテーション(1)
- 第13回 最終プレゼンテーション(2)
- 第14回 最終プレゼンテーション(3)
- 第15回 スライドショーを作成する

授業以外での学習方法

授業内で完了できなかったリサーチやリサーチ・学習記録、プレゼンテーションの準備

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35%)

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト ()

授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <k>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	小川 享子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

授業内容に従い、リスニング、ライティングなどの課題を出すので、それに取り組む。語彙を増やすための努力をする。

教科書

Life, Elementary, Student's Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（20）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（15）

参加度（15）

試験、小テスト、授業中の積極的な学習姿勢、ペアワークなどの取り組みなどを総合的に判断して成績評価を出す。上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB<I>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	フリンハンナマイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (55)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities.

Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities. 上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <m>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about people and things that have changed the world.

獲得目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の内容

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as preparing weekly blog entries, and doing reading, listening and speaking exercises about various world-changers. We will also focus on various tools for autonomously improving your English speaking and writing skills. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語ⅡA. This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Introduction / model projects
- 第2回 Brainstorming & choosing a topic
- 第3回 Planning/researching I
- 第4回 Planning/researching II
- 第5回 Script preparation
- 第6回 Recording & editing
- 第7回 Sharing & giving feedback
- 第8回 Model group projects
- 第9回 Brainstorming & choosing a theme
- 第10回 Conducting group research I
- 第11回 Conducting group research II
- 第12回 Putting it all together
- 第13回 Model presentation
- 第14回 Presentation preparation
- 第15回 Final presentations

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <n>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	溝部 芳子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

DVDを観る。語彙学習、その他自宅学習課題にしっかりと取り組む。

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ 30%）

授業中課題（ 20%）

授業中発表等（ 15%）

参加度（ 15%）

上記に加えて後期末英語テスト20%。小テストには2から3單元ごとの確認テストが含まれる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <o>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	中井 翔	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 Unit 1 Entertainment 映画や音楽などの娯楽
- 第2回 Unit 2 Personnel 求人広告や社内人事
- 第3回 Unit 3 Office Work & Supplies オフィス業務や備品など
- 第4回 Unit 4 Office Messages 電話やEメールなどのオフィスメッセージ
- 第5回 Unit 5 Eating Out ランチやパーティーなどの外食
- 第6回 Unit 6 Technology コンピューターなどの化学技術
- 第7回 Unit 7 Research & Merchandise Development 調査研究や商品開発
- 第8回 Unit 8 Finance & Budgets 銀行業務や経理などの財務
- 第9回 Unit 9 Purchases ショッピングや注文・出荷など
- 第10回 Unit 10 Manufacturing 工場管理や生産ラインなどの製造
- 第11回 Unit 11 Marketing & Sales マーケティングや販売
- 第12回 Unit 12 Travel 交通機関や旅行関連
- 第13回 Unit 13 Contracts & Negotiations 契約や交渉など
- 第14回 Unit 14 Housing & Properties 住宅やビルなどの不動産
- Unit 15 Health 医療や健康
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition

著者： 塚野壽一 Rovert VanBenthuyssen

出版社： 成美堂

出版年： 2007

ISBN： 9784791910465

参考書

成績評価

試験（30）

授業中課題（0）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（20）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <p>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

指定箇所の予習 単語ノートの作成

教科書

Life, Elementary, Student

著者: Paul Dummett, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

Life Elementary Workbook with Audio CD

著者: Hughes, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (5%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (50%)

授業中発表等 (15%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <q>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	クーラン	コーリ

テーマ

Build confidence in using English as a global language. (国際語としての英語を使うことに自信を持つ。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使うことができる。)

授業の内容

・Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play. (新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第3回 Unit 7 (B) 好き嫌いを述べる
- 第4回 Unit 8 (A) 近所にある店等の位置を説明する
- 第5回 Unit 8 (B) 道案内を聞く・述べる
- 第6回 Unit 9 (A) 今していることを述べる
- 第7回 Unit 9 (B) 電話で話す時間があるかを尋ねる・今話せない理由を言う
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A) 先週末について話す
- 第10回 Unit 10 (B) 相槌を打つ・驚きを示す
- 第11回 Unit 11 (A) どこに居たのかを説明する
- 第12回 Unit 11 (B) 人の話に反応する
- 第13回 Unit 12 (A) 予定について話す
- 第14回 Unit 12 (B) 招待に応じる・断る
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)
- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A) 食事を描写する

授業以外での学習方法

The teacher will introduce methods (free ESL websites and other interesting and fun online resources, DVDs, etc) to study and improve your English outside of classtime on a weekly basis. This extra study can be done at any time during the student's free

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126151

Four Corners, 1, Workbook

著者: Jack C. Richards, David Bohlke

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2013

ISBN: 9780521126540

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (20)

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

上記に加えて学期末英語テスト
20%

In class tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

参考URL

Weblio 英和和英辞典

www.eje.weblio.jp

An excellent, free online dictionary

Using English

www.usingenglish.com/

Fun and free English online learning

Top 10 FREE ESL websites

www.freenuts.com/learn-english-online-for-free/

Free online English lessons in many formats

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <r>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	弥永 啓子	

テーマ

プロジェクトとプレゼンテーションを通して国際語としての英語で発信する

獲得目標

・リサーチの基本的な技能を身につける・英語でのプレゼンテーション経験を通して英語によるパブリックスピーキングに自信を持つ・自律的な英語学習のためのICT活用スキルを身につける

授業の内容

各学生が自分でプロジェクトのテーマを決めてリサーチし、これを発表する。

内 容

- 第1回 後期プロジェクトテーマを考える
- 第2回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第3回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第4回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第5回 マルチメディア資料を収集する
- 第6回 インタビューデータを収集する、アンケートを作成する
- 第7回 アンケート結果をまとめる
- 第8回 中間発表用原稿を作成する
- 第9回 中間発表、フィードバック
- 第10回 発表内容の修正、スライドの作成
- 第11回 最終原稿の作成、発表練習
- 第12回 最終プレゼンテーション(1)
- 第13回 最終プレゼンテーション(2)
- 第14回 最終プレゼンテーション(3)
- 第15回 スライドショーを作成する

授業以外での学習方法

授業内で完了できなかったリサーチやリサーチ・学習記録、プレゼンテーションの準備

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（）

授業中課題（35%）

参加度（15%）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（）

授業中発表等（30%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡB<s>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	フライアンバスカガイル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（20）

授業中課題（20）

参加度（40）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <t>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	田中 美和子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 (25)

小テスト (15)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (5)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡB** <u>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	ソーソン マーカス	

テーマ

Acting English Drama

獲得目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping students develop their own English characters.

授業の内容

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue. This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Summer Holiday – Story Review
- 第2回 Journal week 1 Episode 12 The Convention
- 第3回 Story Summary Q and A
- 第4回 Episode 14 Blinndate
- 第5回 Journal week 4 – Quiz – Episodes 12 – 14
- 第6回 Acting Scene 5 Q and A
- 第7回 Independence Day – Acting scene
- 第8回 Journals week 7 Story Summary
- 第9回 Acting – New Girl Scene
- 第10回 Story Questions – Vocabulary Test
- 第11回 Final Journal Notebook week 10
- 第12回 Episode 19 Four Square
- 第13回 Final Story notes– Q and A
- 第14回 Final Episode Destiny – Reports – Presentations
- 第15回 Final Papers and Discussion

授業以外での学習方法

B5 Notebook Journals will be required homework and research

教科書

Acting English Drama

著者: Marcus Thorson

出版社: Sun Publishing

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（40%）

授業中課題（10%）

参加度（10%）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（10%）

授業中発表等（10%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <v>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 Chapter 1 人物の動作、状態
- 第2回 Chapter 2 名詞の教え方
- 第3回 Chapter 3 5W1H の疑問文
- 第4回 Chapter 4 書き手と読み手の推測
- 第5回 Chapter 5 話し手と聞き手の推測
- 第6回 Chapter 6 名詞をつくる接頭辞
- 第7回 Chapter 7 周辺の状況
- 第8回 Chapter 8 読み手の次の行動を予測
- 第9回 Chapter 9 依頼の文に対する適切な答え
- 第10回 Chapter 10 パラフレーズに注意
- 第11回 Chapter 11 写真の細部に注目
- 第12回 Chapter 12 助動詞をおさえる
- 第13回 Mini-TOEIC Test 1
- 第14回 Mini-TOEIC Test 2
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test

著者： 杉田麻哉 Jeff Smith

出版社： 成美堂

出版年： 2010

ISBN： 9784791931231

参考書

成績評価

試験（30）

授業中課題（0）

参加度（30）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（20）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <w>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research and communicate about people and things that have changed the world.

獲得目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の内容

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as preparing weekly blog entries, and doing reading, listening and speaking exercises about various world-changers. We will also focus on various tools for autonomously improving your English speaking and writing skills. Note that the content of this class will be coordinated with that of 英語ⅡA. This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Introduction / model projects
- 第2回 Brainstorming & choosing a topic
- 第3回 Planning/researching I
- 第4回 Planning/researching II
- 第5回 Script preparation
- 第6回 Recording & editing
- 第7回 Sharing & giving feedback
- 第8回 Model group projects
- 第9回 Brainstorming & choosing a theme
- 第10回 Conducting group research I
- 第11回 Conducting group research II
- 第12回 Putting it all together
- 第13回 Model presentation
- 第14回 Presentation preparation
- 第15回 Final presentations

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <x>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 スミス ジョン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住とったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <y>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (55)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities.

Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities. 上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB <z>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 小川 享子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

授業内容に従い、リスニング、ライティングなどの課題を出すので、それに取り組む。語彙を増やすための努力をする。

教科書

Life, Elementary, Student's Book with DVD

著者: Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（20）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（15）

試験、小テスト、授業中の積極的な学習姿勢、ペアワークなどの取り組みなどを総合的に判断して成績評価を出す。上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB〈Ha〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

獲得目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の内容

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
- 第3回 Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
- 第4回 Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
- 第5回 Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
- 第6回 Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
- 第7回 Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
- 第8回 前半の復習とまとめ
- 第9回 Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
- 第10回 Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
- 第11回 Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
- 第12回 Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
- 第13回 Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
- 第14回 Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
- 第15回 後半の復習とまとめ

授業以外での学習方法

指定箇所の予習 単語ノートの作成

教科書

Life, Elementary, Student

著者: Paul Dummett, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

aks201a477

Life Elementary Workbook with Audio CD

著者: Hughes, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (5%)

参加度 (10%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (50%)

授業中発表等 (15%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB<Hb>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving. (余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7 (A/B): What's happening now (現在進行形を使う)
- 第3回 Unit 7 (C): Abilities (できること・できないことについて話す)
- 第4回 Unit 8 (A/B): Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
- 第5回 Unit 8 (C): Likes and dislikes (好みを表現する)
- 第6回 Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party (レストランでの注文・パーティーの計画を立てる)
- 第7回 Unit 9 (C): Healthy diet (健康な食事について話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10 (A/B): The body and symptoms (体と症状を描写する)
- 第10回 Unit 10 (C): Remedies and advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
- 第11回 Unit 11 (A/B): Plan special days (誕生日や休日の予定を立てる)
- 第12回 Unit 11 (C): Life plans (人生設計について話す)
- 第13回 Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past (出身、過去の引っ越しを説明する)
- 第14回 Unit 12 (C): Preparations for moving (引っ越しの準備について話す)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

World English Intro, Student Book Text Only

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050147

World English Intro, Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050109

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (55)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities.

Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities. 上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB<Hc>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	栗田 梨津子	

テーマ

アカデミック英語入門

獲得目標

様々な学問分野の英語を読んで理解できるようになるための基礎となる語彙力、文法力、読解力を養うこと。まとまった量の英文から正確にかつ短時間で情報を読み取るためのスキルを身につけること。

授業の内容

アカデミック英語の基礎となる様々なトピックの説明文を読み、パラグラフごとの要点をつかむ練習をします。補足的に、各ユニットのテーマに関連するリスニングの練習を通して、聴解力を養います。

内 容

- 第1回 授業概要の説明
- 第2回 Unit 1: Living in Society (Chapter 1: The Paradox of Happiness)
- 第3回 Unit 1: Living in Society (Chapter 2: Junior Status: Sharing Dad's Name a Mixed Bag)
- 第4回 Unit 1: Trends in Living (Chapter 3: The Birth-Order Myth)
- 第5回 Unit 1のまとめとリスニング練習
- 第6回 Unit 2: Health and Well-Being (Chapter 4: Laughter Is the Best Medicine for Your Heart)
- 第7回 Unit 2: Health and Well-Being (Chapter 5: Acupuncture: The New Old Medicine)
- 第8回 Unit 2: Health and Well-Being (Chapter 6: Highs and Lows in Self-Esteem)
- 第9回 Unit 2のまとめとリスニング練習
- 第10回 Unit 4: Science and Technology (Chapter 10: Antarctica: Whose Continent Is It Anyway?)
- 第11回 Unit 4: Science and Technology (Chapter 11: A Messenger from the Past)
- 第12回 Unit 4: Science and Technology (Chapter 12: Is Time Travel Possible?)
- 第13回 Unit 4のまとめとリスニング練習
- 第14回 リスニング練習
- 第15回 リスニング練習

授業以外での学習方法

各ユニットの終わりに、語彙と内容をどれだけ理解できているかを確認する小テストを行いますので、毎回授業の復習をしっかりしておいてください。

教科書

Concepts for Today 4 (Reading for Today, Third Edition)

著者: Lorraine C. Smith & Nancy Nici Mare

出版社: Heinle, Cengage Learning

出版年: 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB<Hd>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

獲得目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の内容

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth. (旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動) This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Orientation (オリエンテーション)
- 第2回 Unit 7a - Flight of the Silver Queen (旅について読む・聞く・話す)
- 第3回 Unit 7b - Animal migrations (比較する)
- 第4回 Unit 8a - The faces of festivals (人の外見を描写する)
- 第5回 Unit 8b - Global fashion (洋服・ファッションについて読む・話す)
- 第6回 Unit 9a: - All roads film festival (映画について読む・聞く・話す)
- 第7回 Unit 9b - People in film and the arts (予定について読む・聞く・話す)
- 第8回 Review 1 (前半の復習とまとめ)
- 第9回 Unit 10a - Technology has changed our lives (テクノロジーについて読む・聞く・話す)
- 第10回 Unit 10b - How well can you remember? (記憶と学びについて話す・読む・聞く)
- 第11回 Unit 11a - Going on holiday (観光について読む・聞く・話す)
- 第12回 Unit 11b - Planning a holiday (旅行の計画を立てる)
- 第13回 Unit 12a - Climate change (測定の表現・未来について予測する)
- 第14回 Unit 12b - Exploring the earth (世界の果ての地を描写する)
- 第15回 Review 2 (後半の復習とまとめ)

授業以外での学習方法

教科書

Life, Elementary, Student

著者: Paul Dummett, John

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN: 9781133315698

参考書

成績評価

試験（20）

授業中課題（20）

参加度（40）

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅡB<R>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	杉山 泰	

テーマ

日本文化を基礎英語で紹介する(観光英語を学ぶ)

獲得目標

日本人が海外に出る場合、まずパスポート取得が必要だ。日本人であることを日本国は保証してくれる。北朝鮮以外にはこのますポートは有効(valid)と書かれている。次は、日本語だけでは193か国の人々と理解できないことを学び、そのために英語を第二言語として学ばざるをえないことを学ぶ。なぜ英語が必要かさえ分かれば、中学校英語の復習で十分。Basic Englishを学んでもらう。

授業の内容

内 容

- 第1回 英語で自己紹介、英語で「履歴書」を書く。
 第2回 Unit 1 Graduation 大学卒業と就職活動(アメリカ・イギリス・日本)
 第3回 Unit 2 Smiling Faces 7回転職するアメリカ、日本も3/4が転職。なぜアメリカ人は貯金をせず、passive income(不労所得)を得るのか？
 第4回 Unit 3 Farewell 学士号、修士号を取れば、なぜ給料が上がるのか？ Speculations(投機)とは賢い人間(沈黙思考)しかできない。
 第5回 Unit 4 Japanese 外国語としての日本語は難しい、それとも易しい？
 第6回 Unit 5 Southeast Asia 3億人が英語を学んでいる中国 海外留学をしなくなった日本人
 第7回 Unit 6 Sport Journalism スポーツ情報はほとんどが英語 sportsの80%はイギリス生まれ
 第8回 Unit 7 Homesick 世界で働く若者のホームシック問題 30歳になっても親元で同居する日本人、18歳で家を出る英米人
 第9回 Unit 8 Culture shock 中国人が世界中に進出 日本人はなぜ貯金ばかりするのか？
 第10回 Unit 9 Studying Abroad 米国留学50%減の日本人・90%増のインド人
 第11回 Unit 10 Denmark 北欧人は英語がなぜ得意？ 大学授業料がただの国、北欧
 第12回 Unit 11 A Helicopter Pilot 英国では5万ポンドかかるので空軍に入る
 第13回 Unit 12 Bicycling 車社会から自転車社会へ、slow lifeの勧め
 第14回 Unit 14 Reporter 世界の事件を取材する新聞記者
 第15回 Unit 15 各自世界193か国で英語がなぜ必要なのか、英語で書いてもらう。

授業以外での学習方法

各自、インターネットを使って、観光地のホームページを検索してもらい、発表しあう。観光都市京都のホームページは何か国語で紹介されているのか、調べてもらう。

教科書

Let's Talk with Friends Around the World

著者： 行時潔ほか

出版社： 松柏社

出版年： 2012年

ISBN:

参考書

日本語を「外」から見る

著者： 佐々木瑞枝

出版社： 小学館新書

出版年： 2009年

ISBN:

オリンピックと商業主義

著者： 小川勝

出版社： 集英社新書

出版年： 2012年

ISBN:

ルポ貧困大国アメリカ

著者： 堤美果

出版社： 岩波新書

出版年： 2008年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

上記に加えて学期末英語テスト20% 自宅学習も重視する。提出物を遅れて出した学生も評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	中井 翔	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 Chapter 1 Part 1 Part 3
- 第2回 Chapter 2 Part 2 Part 4
- 第3回 Chapter 3 Part 3
- 第4回 Chapter 4 Part 2 Part 4
- 第5回 Chapter 5 Part 1 Part 3
- 第6回 Chapter 6 Part 2 Part 4
- 第7回 Chapter 7 Part 3
- 第8回 Chapter 8 Part 2 Part 4
- 第9回 Chapter 9 Part 1 Part 3
- 第10回 Chapter 10 Part 2 Part 4
- 第11回 Chapter 11 Part 3
- 第12回 Chapter 12 Part 2 Part 4
- 第13回 Chapter 13 Part 1 Part 3
- 第14回 Chapter 14 Part2 Part 4 TOEIC QUIZE
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

An Intensive Approach to the TOEIC Test

著者： 松岡昇

出版社： 金星堂

出版年： 2008

ISBN： 9784764738584

A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar

著者： 小池直己

出版社： 南雲堂

出版年： 2007

ISBN： 9784523175513

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者： 小山克明 Kent Domries

出版社： Z会

出版年： 2008

ISBN： 9784862900128

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語IVB

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 田中 美和子		
テーマ		

国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する

獲得目標

プロジェクト・ベースドで、英語の四技能、すなわち発信する力であるライティングとスピーキング、受容する力であるリーディング、リスニングを総合的に学んでいく。英文法を総合的に復習して、各プロジェクトのテーマに関連する語彙力を身に付ける。そして、パワーポイントを用いながら、自分の言いたいことを、わかりやすく英語で表現することができるようになることを目標とする。

授業の内容

①日本の魅力②日本の社会問題③将来の計画 という3つのテーマで、2分間以上のプレゼンテーションに臨む。前期でうまくいかなかった部分を、各自、後期のプロジェクトにおいて課題とする。発表では「平易な英語」を用いて、誰にでもわかりやすいプレゼンテーションを行えるようになることが後期の目標である。

内 容

- 第1回 Orientation Icebreaking (Textbook)
- 第2回 Project4 Introducing Japan: Step1
- 第3回 Project4 Introducing Japan: Step2
- 第4回 Project4 Introducing Japan: Step3
- 第5回 Project4 Introducing Japan: presentation
- 第6回 Project5 Discussing Social Issues: Step1
- 第7回 Project5 Discussing Social Issues: Step2
- 第8回 Project5 Discussing Social Issues: Step3
- 第9回 Project5 Discussing Social Issues: presentation
- 第10回 Reviews
- 第11回 Project6 Talking about Your Future Plans: Step1
- 第12回 Project6 Talking about Your Future Plans: Step2
- 第13回 Project6 Talking about Your Future Plans: Step3
- 第14回 Project6 Talking about Your Future Plans: presentation
- 第15回 Reviews

授業以外での学習方法

発表はすべて英語です。授業以外でも英語にふれて、自分のペースで英語学習を続けましょう。

教科書

Presentations to Go DVDで学ぶ はじめての英語プレゼンテーション

著者： 松岡昇 立野貴之 三宅ひろ子

出版社： センゲージラーニング株式会社

出版年： 2014

ISBN： 9484863122642

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <c>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	松村 優子	

テーマ

英字新聞記事の読み方を段階的に学習すると共に、内外の情勢や現代の諸問題に対する理解を深める。

獲得目標

英字新聞やニュースの英語に慣れ、読解力を伸ばす。時事英語特有の表現を学習することによって、語彙力を身につける。

授業の内容

国内外のメディアから厳選された文化・社会・経済・科学・医療など様々なテーマに関する記事を読み、聞く。多様な練習問題をこなすことにより、段階的に時事英語を学習する。

内 容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Chapter 11 Health Concerns over Blue Light
- 第3回 Chapter 12 Star Troupe in Taiwan
- 第4回 Chapter 13 Electronics Manufacturer Adapts to Survive
- 第5回 Chapter 14 Mobile Interpreter
- 第6回 Chapter 15 The Wind: Powering Our Future?
- 第7回 Chapter 16 Matchmaking Monks
- 第8回 Chapter 17 Think Minimal for Success!
- 第9回 Chapter 18 Almost Armageddon?
- 第10回 Chapter 19 Lost King Found!
- 第11回 Chapter 20 How Bad Is Your Pain?
- 第12回 復習
- 第13回 復習
- 第14回 まとめテスト(1)
- 第15回 まとめテスト(2)

授業以外での学習方法

指定箇所の予習。単語ノート作成

教科書

Insights 2014

著者： 村尾純子

出版社： 金星堂

出版年： 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (10%)

参加度 (15%)

小テスト (60%)

授業中発表等 (15%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <d>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	高居 佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 Unit 1 Going Overseas
- 第2回 Unit 2 Going Shopping
- 第3回 Unit 3 Talking about Food and Health
- 第4回 Unit 4 Enjoying Sports and Entertainment
- 第5回 Review Test 1 for Units 1, 2, 3 and 4
- 第6回 Unit 5 Preserving Nature
- 第7回 Unit 6 Giving Directions
- 第8回 Unit 7 Going Job Hunting
- 第9回 Unit 8 Working in the Office
- 第10回 Review Test 2 for Units 5, 6, 7 and 8
- 第11回 Unit 9 Paying the Bills
- 第12回 Unit 10 Advertising a New Product
- 第13回 Unit 11 Renting an Apartment
- 第14回 Unit 12 Troubleshooting Review Test 3
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

TOEIC Test: On Target Book 1

著者: 大賀リコ William J. Benfield

出版社: 南雲堂

出版年: 2010

ISBN: 9784523176480

A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar

著者： 小池直己

出版社： 南雲堂

出版年： 2007

ISBN： 9784523175513

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者： 小山克明 Kent Domries

出版社： Z会

出版年： 2008

ISBN： 9784862900128

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus科目名 **英語IVB <e>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 プライアンバスカギル

テーマ

Expressing More of Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の内容

This course will be taught in English

内 容

- 第1回 introductions
- 第2回 classroom English
- 第3回 movies
- 第4回 television
- 第5回 work-A
- 第6回 work-B
- 第7回 health-A
- 第8回 health-B
- 第9回 love & marriage
- 第10回 music
- 第11回 books
- 第12回 places in Japan
- 第13回 Japanese culture
- 第14回 talking about Japan
- 第15回 review

授業以外での学習方法

教科書

Let's Chat

著者: John Pak

出版社: EFL Press

出版年: 2007

ISBN: 4580244420056

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <f>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト受験準備を介して実用的な英語力を養う

獲得目標

TOEICテストにおけるリスニング力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする

授業の内容

リスニングパートのPart1 Photos, Part2 Question-Response, Part3 Conversation, Part4 Talksを解く、要点の整理をしながら、問題演習を多くしていく。

内 容

- 第1回 授業方法、進め方の説明 Part1 Photos
- 第2回 Part2 Question-Response
- 第3回 Part3 Conversations
- 第4回 Part4 Short Talks
- 第5回 Mini-test 1 & 2
- 第6回 Mini-test 3 & 4
- 第7回 Mini-test 5 & 6
- 第8回 Mini-test 7 & 8
- 第9回 Mini-test 9 & 10
- 第10回 調整、模擬テスト
- 第11回 調整、模擬テスト
- 第12回 調整、模擬テスト
- 第13回 調整、模擬テスト
- 第14回 調整、模擬テスト
- 第15回 調整、模擬テスト

授業以外での学習方法

語彙の予習、復習、表現の整理、リスニングの復習

教科書

TOEIC Test Listening [New Version]

著者: Osamu Kato

出版社: 朝日出版社

出版年: 2006

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35)

参加度 ()

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (45)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <g>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	クーラン コーリ	
テーマ	Travel English	

獲得目標

Continue to learn and improve on the basics of travel and survival English.

授業の内容

****This course will be taught in English**** We will continue to follow four young Japanese students as they travel abroad and introduce Japan to overseas guests. The course introduces key language needed for speaking English at home or abroad.

内 容

- 第1回 Welcome back, fall semester preview, and begin Unit 7 "Do you want to go to a concert?"
- 第2回 Finish Unit 7
- 第3回 Begin Unit 8 "I have to study."
- 第4回 Finish Unit 8
- 第5回 Begin Unit 9 "Did you go on the rollercoaster?"
- 第6回 Finish Unit 9
- 第7回 Review and reflection of Units 7 to 9
- 第8回 Begin Unit 10 "I think I'm lost!"
- 第9回 Finish Unit 10
- 第10回 Begin Unit 11 "Have you been to Kyoto?"
- 第11回 Finish Unit 11
- 第12回 Begin Unit 12 "Are the hotdogs ready yet?"
- 第13回 Finish Unit 12
- 第14回 Review and reflection of Units 10 to 12
- 第15回 Review and recap of semester

授業以外での学習方法

The English in this class is useful when traveling abroad or when communicating with foreigners in Japan, so use it whenever you can!

教科書

My First Passport 2

著者: Tanja McCandie

出版社: Oxford

出版年: 2006

ISBN: 9780194718004

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

In this semester, more emphasis will be put on in-class performance compared to the spring semester.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <h>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 ヒエタラヒティ エレキ		

テーマ

Oral English with Culture Content

獲得目標

Learn to speak about culture of countries around the world in basic to elementary level English.

授業の内容

- THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH - You'll learn about interesting culture events and customs in countries all over the world. Also, practical skills such as using basic verb tenses.

内 容

- 第1回 Start Unit 5 "Sports"
- 第2回 Continue Unit 5
- 第3回 Finish Unit 5
- 第4回 Start Unit 6 "Destinations"
- 第5回 Continue Unit 6
- 第6回 Finish Unit 6
- 第7回 Review and reflection of Units 5 and 6
- 第8回 Start Unit 7 "Communication"
- 第9回 Continue Unit 7
- 第10回 Finish Unit 7
- 第11回 Start Unit 8 "The Future"
- 第12回 Continue Unit 8
- 第13回 Finish Unit 8
- 第14回 Review and reflection of Units 7 and 8
- 第15回 Semester review and recap

授業以外での学習方法

It's a big help to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.

教科書

World English 1

著者: Martin Milner

出版社: Heinle, Cengage Learning

出版年: 2010

ISBN: 9781424050154

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (30)

授業中発表等 (10)

You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <i>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 溝部 芳子		

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

獲得目標

TOEICリスニングに必要なスキルの確認を行い、TOEICリスニングのスコアアップを目指す。

授業の内容

前半では、各パートの攻略に必要なスキルを確認し、後半では長時間集中して英語を正確に聴き取る演習を多数行う。インプットのための受け身のリスニングではなく、TOEIC頻出の題材については、暗唱してアウトプットできるように練習をする。随時小テストを行う。

内 容

- 第1回 Introduction (テキストの使い方、授業の進め方、TOEIC リスニングについて)
- 第2回 Part 1: Photos of People
- 第3回 Part 1: Photos of Things / Strategy Practice
- 第4回 Part 2: Statements, Occupations
- 第5回 Part 2: Activities, Time & Location
- 第6回 Part2: Reason, How / Strategy Practice
- 第7回 Part3: Occupations, Activities
- 第8回 Part3: Time, Location
- 第9回 Part 3: Reason / Strategy Practice
- 第10回 Part 4: Advertisements, Weather
- 第11回 Part 4: News, Announcements
- 第12回 Part 4: Strategy Practice
- 第13回 Practice Test (1)
- 第14回 Practice Test (2)
- 第15回 Practice Test (3)

授業以外での学習方法

リスニングタスク。TVまたはWebなどを利用して、時事の英語ニュースや記事、天気予報などを聴く。

教科書

Longman Preparation Series for the TOEIC Test with Intermediate Course

著者: Lin Lougheed

出版社: Pearson Education

出版年: 2012

ISBN: 9780132861427

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25%)

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト (40%)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <j>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	川口 玲子	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

各パートの攻略法を知り、リスニング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

内 容

- 第1回 Chapter 1 At an Airport Chapter 2 At a Hotel Part 1, Part 2, Part 4
- 第2回 Chapter 3 On the Street Chapter 4 At a Restaurant Part 1, Part 3, Part 4
- 第3回 Chapter 5 Shopping Chapter 6 At a Bank Part 2, Part 3, Part 4
- 第4回 Chapter 7 Taking a Trip Chapter 8 Seeing the Doctor Part 1, Part 2, Part 4
- 第5回 Chapter 9 Renting an Apartment Chapter 10 Sports Part 1, Part 3, Part 4
- 第6回 Chapter 11 Job Hunting Chapter 12 Talking on the Phone Part 2, Part 3, Part 4
- 第7回 Chapter 13 Appointment Chapter 14 Giving a Presentation Part 1, Part 2, Part 4
- 第8回 Chapter 15 Negotiating Chapter 16 Meeting Part 1, Part 3, Part 4
- 第9回 Chapter 17 Business Performance Chapter 18 Dealing with Complaints Part 2, Part 3, Part 4
- 第10回 Chapter 19 Market Trends Chapter 20 Parties Part 1, Part 2, Part 4
- 第11回 演習 写真描写問題
- 第12回 演習 応答問題
- 第13回 演習 会話問題
- 第14回 演習 説明文問題
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

教科書

Kick off for the TOEIC Test

著者： 松岡昇

出版社： 金星堂

出版年： 2006

ISBN: 9784764738188

A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar

著者： 小池直己

出版社： 南雲堂

出版年： 2007

ISBN： 9784523175513

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者： 小山克明 Kent Domries

出版社： Z会

出版年： 2008

ISBN： 9784862900128

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加えて学期末英語テスト20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <k>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Acting English Drama

獲得目標

This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.

授業の内容

Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocabulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introductions, Class Objectives
- 第2回 Journals Homework #1 Introduction.
- 第3回 The Alien Truth – Story Research
- 第4回 Journals week 3 Pronunciation Pg. 5
- 第5回 Leaving Normal – Acting Scene.
- 第6回 Episode 5 Missing Q – A
- 第7回 Journals week 6 Kyle and Liz Scene
- 第8回 Episode 7 Riverdog – Acting
- 第9回 Story Review – Tell the story.
- 第10回 Episode 9 Heat Wave
- 第11回 Final Journals week 10
- 第12回 Presentations – Reports
- 第13回 Toy House – Acting Scene
- 第14回 Into the Woods
- 第15回 The Convention – Q and A

授業以外での学習方法

教科書

Acting English Drama

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <I>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 スミス ジョン		

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

獲得目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の内容

This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

内 容

- 第1回 Summer vacation reports
- 第2回 Describing characteristics and qualities
- 第3回 Comparing different types of communication styles
- 第4回 Halloween and superstitions
- 第5回 Talking about weekend plans
- 第6回 Making weather predictions
- 第7回 Making comparisons
- 第8回 Talking about clothing and shopping styles
- 第9回 Healthy habits
- 第10回 Making suggestions
- 第11回 Evaluating one's lifestyle
- 第12回 Interviewing for a job
- 第13回 Christmas around the world
- 第14回 Making financial choices
- 第15回 Actions and consequences and course review

授業以外での学習方法

教科書

World English 1

著者: Martin Milner

出版社: Heinle Cengage

出版年: 2010

ISBN: 13:978-1-4240

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <m>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Using English for Communication

獲得目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の内容

This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation and Summer vacation
- 第2回 Your Family
- 第3回 Typical families
- 第4回 Making generalizations
- 第5回 Sports
- 第6回 Fitness
- 第7回 Talking about quantity and frequency
- 第8回 Review
- 第9回 Leisure activities
- 第10回 Weekends
- 第11回 Vacations
- 第12回 Your neighborhood
- 第13回 Places
- 第14回 Complaints
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

教科書

Interchange I Student's Book A(fourth Edition)

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年:

ISBN: 9780521601757

Interchange I Workbook A(4th Edition)

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年:

ISBN: 9780521601788

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (55)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and evaluation of participation of in class activities.

Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <n>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 ヒエタラヒティ エレキ		
テーマ		
Nursing English		

獲得目標

Learn the basics of healthcare English.

授業の内容

- THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH - This course will teach you how to speak in usual hospital and clinic situations. You will also learn special healthcare words.

内 容

- 第1回 Start Unit 7 "Locations of Hospital Objects"
- 第2回 Finish Unit 7
- 第3回 Start Unit 8 "Hospital Directions and Instructions"
- 第4回 Finish Unit 8
- 第5回 Start Unit 9 "Directions (Outside the Hospital)"
- 第6回 Finish Unit 9
- 第7回 Review and reflection of Units 7 to 9
- 第8回 Start Unit 10 "Chatting with a Patient"
- 第9回 Finish Unit 10
- 第10回 Start Unit 11 "Taking a Medical History"
- 第11回 Finish Unit 11
- 第12回 Start Unit 12 "Hospital Procedures"
- 第13回 Finish Unit 12
- 第14回 Review and reflection of Units 10 to 12
- 第15回 Semester review and recap

授業以外での学習方法

It's important to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.

教科書

Vital Signs

著者: Morooka & Sugiura

出版社: Nan'un-do

出版年: 2009

ISBN: 9784523176305

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語IVB <p>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	クーラン	コーリ

テーマ

Beginner level English for students of nursing.

獲得目標

The aim of this course is to enable students to communicate in English in everyday situations and gain the knowledge and confidence they need to use English in a wide variety of situations in and around the hospital.

授業の内容

Different topics related to nursing will be addressed and discussed through speaking, reading, writing, and listening exercises. This course will be taught in English

内 容

- 第1回 Review of materials covered in Semester 1
- 第2回 Illnesses and their symptoms
- 第3回 Illnesses and their symptoms
- 第4回 Illnesses and their symptoms
- 第5回 Illnesses and their symptoms
- 第6回 Review and recap of weeks 2 to 5
- 第7回 Daily routines for patients with different illnesses
- 第8回 Daily routines for patients with different illnesses
- 第9回 Daily routines for patients with different illnesses
- 第10回 Review and recap of weeks 7 to 9
- 第11回 Surgical video
- 第12回 Surgical video
- 第13回 Surgical video
- 第14回 Review and recap of weeks 11 to 13
- 第15回 Review and recap of course

授業以外での学習方法

In class, teacher will point out useful websites, videos, and other educational materials that pertain to the class. The students may use these for their own personal improvement in the fields of nursing and medicine.

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

Teacher will supply all necessary text materials. YOU DO NOT NEED TO BUY A TEXTBOOK Although review test exercises will be given, coming to class prepared and ready to participate is also very important.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語IVB <R>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「英語 I B」または「英語 II B」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 杉山 泰	

テーマ

英語が必要な状況を設定し、基礎英語でコミュニケーションしよう

獲得目標

Globalismが叫ばれ、高校でも英語での授業が重要視され、TOEFLの点数で大学入学資格を与えようという動きがある。一方で、ここ10年間で、日本人の海外留学熱が冷めている。中国、韓国の若者が倍々ゲームで海外留学しているし、中国、韓国からの日本への観光客数も増えている。日本語が国際語になっていない現在、必要不可欠な英語をマスターし、海外に出ていこう、というのがこの授業の目的である。

授業の内容

海外留学する日本人が経験する必要不可欠な英語表現を学んでいく。

内 容

- 第1回 まずは、自己紹介。(I am Sugiyama Yasushi.と言えますか?)
- 第2回 携帯電話や電話が日本語では通じない。その時あなたは?
- 第3回 パスポートを取って、国際空港に行こう。空港英語を学ぼう。
- 第4回 外国人に日本食を紹介できますか? 中学英語で説明しよう。
- 第5回 さあ、いよいよサンフランシスコへ。日本語だけでは通じない。
- 第6回 外国の空港のcustomsを1人で通関できますか? ローマ字で氏名、住所が書けますか? 筆記体でサインができますか?
- 第7回 外国の家では靴を脱ぎません。いつ脱ぎますか? 風呂は?
- 第8回 円をドルに換えることができますか? カードが使えますか?
- 第9回 アメリカの大学で英語を学びます。使用言語は英語です。
- 第10回 大学の食堂でランチを頼めますか。支払いは? メニューが読めますか?
- 第11回 知識がないと観光地もただの海。車社会の「モーテル」に泊まれますか?
- 第12回 肥満(obese)の国のexercise。Fitnessに励むアメリカ人。
- 第13回 世界の国立公園はいくら? 自然保護の重要性。
- 第14回 日本人へのアメリカのお土産は何? 安く買う方法は? 消費税はいくら?
- 第15回 アメリカで夕食を食べる。何を注文しますか? 世界の食研究。

授業以外の学習方法

実際にパスポートをチェックしてもらおう。10年間有効。パスポートがあれば、何ができるのか。「国際運転免許」の取り方は? ブラジルではworld football(soccer)が行なわれる。何があれば、ブラジルに行けるのか。また、何日行けるのか、など海外旅行する場合のいろはについて調べてもらおう。

教科書

Take a Trip Around San Francisco!

著者: 行時潔ほか

出版社: 松柏社

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

知らなきゃ恥ずかしい日本文化

著者： 白幡洋三

出版社： ワニブックス

出版年： 2010年

ISBN:

日本語を「外」から見る

著者： 佐々木瑞枝

出版社： 小学館

出版年： 2009年

ISBN:

ルポ貧困大国アメリカII

著者： 堤未果

出版社： 岩波

出版年： 2010年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **宗教学概論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 橋本 章彦	

テーマ

宗教と向き合うより良き方法を考える

獲得目標

宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。

授業の内容

以下の予定で授業を行う

内 容

- 第1回 総論Ⅰ 宗教と宗教学—宗教にどのようにアプローチするか—
- 第2回 総論Ⅱ 宗教をどのように定義するか
- 第3回 総論Ⅲ 宗教の構造と機能
- 第4回 総論Ⅳ 個人において宗教はどのように顕れるか—信仰ということ—
- 第5回 総論Ⅴ 宗教現象の諸相—祈るということ—
- 第6回 総論Ⅵ 宗教の人間観と世界観
- 第7回 各論Ⅰ(1) 仏教—釈迦とその後の展開—
- 第8回 各論Ⅰ(2) 仏教—日本仏教—
- 第9回 各論Ⅰ(3) 仏教教義の基礎
- 第10回 各論Ⅰ ユダヤ教とキリスト教
- 第11回 各論Ⅰ イスラーム
- 第12回 各論Ⅱ 道教と儒教
- 第13回 各論Ⅲ 民俗信仰—神道—
- 第14回 各論Ⅳ 新宗教—天理教と大本教など—
- 第15回 各論Ⅴ まとめ—宗教とどのように向き合うか
- 第16回

授業以外での学習方法

「日本人と宗教」を同時に受講することが望ましい

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

宗教学

著者: 岸本英夫

出版社：原書房

出版年：2004

ISBN：

宗教学入門

著者： 棚次政和 他編

出版社：ミネルヴァ書房

出版年：2005

ISBN：

宗教学入門

著者： 脇本平也

出版社：講談社

出版年：1997

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（50）

参加度とは出席のこと

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理学概論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 濱田 智崇	

テーマ

心理学の諸分野に触れ基礎的な知識を身につける

獲得目標

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、対人関係や社会生活について考える上でも「こころ」を抜きにすることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心を持つ人は多いが、誤解されることや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を概観する。そのことで、受講者の持っていた興味や関心が正確な知識とつながり、さらに自らで考えることができるようになるための基礎づくりを目標とする。

授業の内容

生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基礎的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 「こころ」とは何か？「心理学」とは何か？
- 第2回 こころとからだ～生きている上で実感すること
- 第3回 「動物」としての人間
- 第4回 「機械」としての人間～行動主義の心理学
- 第5回 学習と知能
- 第6回 認知と記憶
- 第7回 子どものこころの世界
- 第8回 こころの成長とは？
- 第9回 ライフサイクルから人生を考える
- 第10回 社会や集団を考える心理学
- 第11回 対人関係を考える心理学
- 第12回 パーソナリティとは？～自分の性格について考える
- 第13回 感情とは何か？～自分の感情に気づく
- 第14回 カウンセリングの基礎
- 第15回 まとめ
- 第16回 期末試験

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでおくと理解が深まる

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (30)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅲ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 前期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	松永 順子	

テーマ

Excelを使用し、業務データを目的に応じて活用・分析する方法を習得する。

獲得目標

Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』資格の取得をめざす。

授業の内容

現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終回のみ1～3講時とする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／表作成の基本
- 第2回 実務における表作成と編集・・・データ入力、修正、削除、コピー、オートフィル、書式設定
- 第3回 実務における表計算・・・数式、関数 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(各装置の役割)
- 第4回 実務における表計算・・・相対参照、絶対参照 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(記憶装置、情報の量と単位)
- 第5回 知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア(OS、アプリケーション)
- 第6回 実技科目対策・・・問題1(行挿入、ピボットテーブル、複合グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ファイルとフォルダ
- 第7回 知識科目対策(共通分野)・・・データベース・XML、ネットワーク基礎、インターネット
- 第8回 実技科目対策・・・問題2(並べ替え、集計、関数、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第9回 知識科目対策(共通分野)・・・取引の仕組みと業務データの流れ
- 第10回 実技科目対策・・・問題3(関数、複合グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(会計・財務)
- 第11回 実技科目対策・・・問題4(列挿入、書式コピー、関数、ピボットテーブル、並べ替え、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(業務分析・業務計画)
- 第12回 実技科目対策・・・問題5(関数、ピボットテーブル、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・電子商取引、電子政府・電子自治体、データベース管理
- 第13回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

教科書

日商PC検定試験 データ活用 3級 完全マスター Excel2010対応

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 9784893118981

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅳ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	松永 順子	

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

獲得目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』資格の取得をめざす。

授業の内容

現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／基本的な文書編集
- 第2回 ビジネス文書の基本・・・種類、作成上の留意点
- 第3回 ビジネス文書(社内文書)・・・特徴、社内連絡文書・報告書・議事録・提案書の書き方
- 第4回 ビジネス文書(社外文書)・・・特徴、社外連絡文書の書き方
- 第5回 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書の基本 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア
- 第6回 ビジネス文書のライティング技術(日本語の基本)・・・文法、用字・用語、漢字と平仮名の使い分け、数字の書き方
- 第7回 ビジネス文書のライティング技術(文章表現の基本)・・・わかりやすい文章表現、誤解を招かない文章表現、正しい日本語 知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア
- 第8回 ビジネス文書のライティング技術・・・文章表現の応用、文章構成、敬語 知識科目対策(共通分野)・・・データベース
- 第9回 電子メールのライティング技術・・・電子メールの基本、文例とポイント 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書のライティング技術 知識科目対策(共通分野)・・・ネットワーク
- 第10回 知識科目対策(文書作成分野)・・・電子メールのライティング技術 知識科目対策(共通分野)・・・インターネット
- 第11回 ビジネス図解の基本・・・種類と特長、基本パターン、作成方法、グラフの利用
- 第12回 ビジネス文書の管理・・・文書管理の基本、文書のライフサイクルと各プロセスの役割 知識科目対策(共通分野)・・・トラブル対応、ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第13回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内/パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

教科書

日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター Word2010対応

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 9784893118998

日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 4-89311-637-1

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ <a>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	
担当者	トウ カ	
テーマ	中国語入門	

獲得目標

前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の内容

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。)
- 第3回 練習
- 第4回 練習
- 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。)
- 第6回 練習
- 第7回 練習
- 第8回 第8課～9課の復習
- 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第10課～11課の復習
- 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第12課～13課の復習
- 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第15課 様態補語 (彼は歩くのがはやい。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第14課～15課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	
担当者	トウ カ	
テーマ	中国語入門	

獲得目標

前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の内容

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。)
- 第3回 練習
- 第4回 練習
- 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。)
- 第6回 練習
- 第7回 練習
- 第8回 第8課～9課の復習
- 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第10課～11課の復習
- 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第12課～13課の復習
- 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第15課 様態補語 (彼は歩くのがはやい。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第14課～15課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 中国語Ⅳ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件 中国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定	
担当者 トウ カ		
テーマ		
中国語中級		

獲得目標

中国語Ⅲを継続する。中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。

授業の内容

4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭での受け答えの練習を行いたい。プリントを配布するため、教科書を購入する必要はない。教科書のほかに、中国各地の新聞を使い、現在の社会事情なども見てみたい。

内 容

- 第1回 前期の復習
- 第2回 第7課 大学生活
- 第3回 会話(疑問詞等)
- 第4回 短文
- 第5回 練習
- 第6回 第8課 恋愛事情
- 第7回 会話(～でさえ等)
- 第8回 短文
- 第9回 練習
- 第10回 第7課～8課の復習
- 第11回 第9課 感謝の表現
- 第12回 会話(動作の回数等)
- 第13回 短文
- 第14回 練習
- 第15回 第10課 一人っ子
- 第16回 会話(可能補語等)
- 第17回 短文
- 第18回 練習
- 第19回 第9課～10課の復習
- 第20回 第11課 若者と職業
- 第21回 会話(～のために等)
- 第22回 短文
- 第23回 練習
- 第24回 第12課 外国語の学習
- 第25回 会話(～の他に、使役等)
- 第26回 短文
- 第27回 練習
- 第28回 第11課～12課の復習
- 第29回 小テストの再テスト
- 第30回 全体の復習

授業以外での学習方法

単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

小テストを行います。この小テストが成績評価の中心となります。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **政治学概論Ⅱ**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鶴谷 将彦

テーマ

本講義は、政治学を学ぶ上で、必要な概念や理論について扱う。特に、権力、民主主義、統治機構・地方自治に関する概念について詳しく説明する。

獲得目標

本講義は、受講生に政治学を体系的に理解してもらい、政治学の概念や理論を自分の言葉で説明してもらうことを目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 民主政治の起源
- 第3回 民主政治の変容
- 第4回 福祉と政治
- 第5回 議院内閣制
- 第6回 大統領制
- 第7回 選挙制度①
- 第8回 選挙制度②
- 第9回 小テスト
- 第10回 議会制度と政党
- 第11回 政策過程と官僚・利益集団
- 第12回 世論とマスメディア
- 第13回 地方自治①
- 第14回 地方自治②
- 第15回 民主政治のこれから
- 第16回 定期試験

授業以外での学習方法

教科書

政治学

著者： 川出良枝・谷口将紀

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2012

ISBN: 9784130322195

参考書

成績評価

試験（80）

小テスト（20）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（0）

小テストについては、授業の進行状況などをみながら実施時期を判断する。この件とあわせて成績評価については、第1回の授業におけるイントロダクションで説明する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 行政法

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 実千代

テーマ

行政法に関する基礎知識と初歩的な応用力の習得

獲得目標

1.日常生活の各場面において、行政法の関連や位置づけを理解する。2.現代の行政体制について、しくみを学び、問題意識をもつ。3.法的な思考方法に触れ、多面的な考え方を身につける。

授業の内容

毎講義レジュメまたは参考資料を配布し、これに沿って講義する。小テストや課題の扱いについては、適宜に説明する。

内 容

- 第1回 行政法の領域と基本原理
- 第2回 行政主体と行政機関
- 第3回 行政作用の一般理論
- 第4回 行政活動(1)(行政立法・行政計画)
- 第5回 行政活動(2)(行政処分①)
- 第6回 行政活動(3)(行政処分②)
- 第7回 行政活動(4)(行政指導・行政契約)
- 第8回 まとめとテスト①(第1回～第7回)
- 第9回 行政による強制手段
- 第10回 情報公開と個人情報保護
- 第11回 行政不服審査法
- 第12回 行政事件訴訟法①
- 第13回 行政事件訴訟法②
- 第14回 国家補償制度
- 第15回 まとめとテスト(第9回～第14回)

授業以外での学習方法

新聞やテレビ等のニュースに注意を払い、社会問題について留意すること。

教科書

参考書

行政法のエッセンス

著者： 櫻井敬子

出版社： 学陽書房

出版年： 2013年

ISBN:

はじめての行政法 第3版

著者: 石川敏行ほか

出版社: 有斐閣

出版年: 2013年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト (70)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 行政学

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	

テーマ

国と地域の行政に関する制度と実際の両面を探る

獲得目標

1)身近なところから行政の働きと仕組みに関心をもてるようになる 2)国家の統治機構のなかの行政分野を制度的歴史的に理解できるようになる 3)地方自治体や地方公務員の実際を分析し地域公共政策について考察できるようにする

授業の内容

教科書(真淵勝『行政学案内』)を丁寧に読み、そこから発展的に調べることをメインとするので、毎回教科書を携行すること

内 容

- 第1回 はじめに—行政にまつわるトピックス、あるいは、政治学や法学との関係について—
 第2回 学修方法の提示—行政学を学ぶための補助教材の紹介。文学や映画、各種メディアの紹介、自主課題について—
 第3回 行政学の歴史(ここからは教科書必携)
 第4回 国家公務員と天下りなど
 第5回 内閣制度と首相の指導力
 第6回 国の中央省庁はいま
 第7回 予算制度と編成過程
 第8回 行政改革はどのようにすすんだか
 第9回 中央と地方、国と地域の関係・・・このあたりでうまくタイミングがあれば、京都府庁舎(現存日本最古)の見学など、地方行政の現場学外授業を予定。
 第10回 地方財政論
 第11回 大都市行政と市町村合併
 第12回 官僚制とは何か
 第13回 行政責任の種類とあり方
 第14回 日本における行政システムの特徴
 第15回 まとめ—いまの日本の行政、とくに地域公共政策に必要なものとは—

授業以外での学習方法

新聞や総合雑誌のなかの行政に関わる記事(インターネットも活用可)を読むようにすること。行政や公務員に関する文学作品、映画などを紹介するので、それを楽しみながら、かつ、理論と照らして、考えることなど、自主的な課題に挑戦すること。

教科書

行政学案内

著者: 真淵勝

出版社: 滋学社出版

出版年: 2009

ISBN:

参考書

行政学[新板]

著者: 西尾勝

出版社：有斐閣

出版年：2001

ISBN：

Next教科書シリーズ 行政学

著者： 外山公美ほか

出版社：弘文堂

出版年：2011

ISBN：

行政学

著者： 真淵勝

出版社：有斐閣

出版年：2009

ISBN：

公共経済学

著者： 林正義ほか

出版社：有斐閣

出版年：2010

ISBN：

身近な公共政策論—マイクロ行政学入門

著者： 安章浩ほか

出版社：学陽書房

出版年：2010

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（30）

授業中課題（30）

授業中発表等（10）

参加度（30）

レポート課題は、行政への参加をしてみた結果についてを企画中。たとえば、自分が関心をもつ計画や政策・制度設計へのパブリックコメントを行なってみる実践的なものなど。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄の基本ブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

できればフィード購読を

2014 Syllabus

科目名 **社会学概論Ⅱ**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 松田 いりあ	

テーマ

現代日本社会の諸問題に関する社会学的想像力の習得

獲得目標

現在の日本では高度経済成長期につちかわれた「自明性」がもたらした副作用ともいべき問題に対峙している。この授業では社会の「あたりまえ」という感覚の崩壊や空洞化の前に立ちすくむのではなく、新たな「自明性」の再構築あるいはバージョンアップを社会学的な知識と方法を通じて探究する。

授業の内容

近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着を目指す。企業、行政、コミュニティなどそれぞれの現場でのプロフェッショナルにこそ、日常業務と(社会学的)知識との間を往還が重要であることを授業を通じて実感してもらうことが目標である。

内 容

- 第1回 はじめに:この授業の概要の説明
- 第2回 家族関係の現在
- 第3回 友人関係の現在
- 第4回 学校・教育の現在
- 第5回 親密性の現在
- 第6回 記憶の現在
- 第7回 ポピュラー文化の現在(1):ファン・オーディエンスの変容
- 第8回 ポピュラー文化の現在(2):コンテンツのグローバル化
- 第9回 情報技術の現在(1):インターネットの文化的前提
- 第10回 情報技術の現在(2):SNSの可能性と限界
- 第11回 情報技術の現在(3):アーキテクチャとしての重要性
- 第12回 現代社会と社会学(1):認識をめぐる問題
- 第13回 現代社会と社会学(2):実存をめぐる問題
- 第14回 現代社会と社会学(3):コミュニケーションをめぐる問題
- 第15回 まとめ:この授業の総括

授業以外での学習方法

授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと

教科書

社会理論と社会システム

著者: 三本松 政之・杉岡直人・武川正吾編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2009年

ISBN: 978-4623053872

参考書

aky701d650

成績評価

試験（70%）

授業中課題（30%）

参加度（）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ <a>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	藤田 幸光	

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (10%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

aky801d650

参加度（60%）

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **スポーツコースⅡ **

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	藤田 幸光	

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (10%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

aky801d652

参加度（60%）

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ <c>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	藤田 幸光	

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (10%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

aky801d653

参加度（60%）

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ <d>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	藤田 幸光	

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

基本練習から応用練習、最終段階では各グループに分かれてゲームを行う。ゲームはそれぞれのグループまたは個人のモチベーションが上がるよう星取表を付け順位を競い合う。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源とルール・フィットネスルーム利用とマシンの使用方法等)
- 第2回 安全なマシンの使用方法・ウエイトトレーニングの基本動作等の説明
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・スパイク・サーブ)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト及びゲームを通しての評価)

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (10%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

aky801d654

参加度（60%）

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ〈ラクト〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	佐々木 雅人	

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と筋力アップ

獲得目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です

内 容

- 第1回 オリエンテーション: フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)
- 第2回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操
- 第3回 体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデータとの比較
- 第4回 筋力アップの実践: 筋持久力、筋力向上の理論と実践。白筋と赤筋とは
- 第5回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操
- 第6回 無酸素運動: 筋肉づくりの栄養・理論を学び筋力をつける
- 第7回 エアロビクス: ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践
- 第8回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動
- 第9回 サーキットトレーニング: 部屋でできる運動プログラム
- 第10回 体幹エクササイズ: バランスボール、ストレッチボールを使ってインナーマッスルを強化する
- 第11回 ピラティス: 身体の歪を解消
- 第12回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動
- 第13回 コアトレーニング: 腹筋群・背筋群を強化する。体幹のトレーニング
- 第14回 脚部強化運動 脚筋群・臀部を強化する。脚部を引き締める運動
- 第15回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動。体脂肪測定

授業以外での学習方法

① JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。② 参考書:「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。③京都橘大学はラクトスポーツプラザと団体契約をしているため、授業以外時は特別料金で利用できます(学生証提示)

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

aky801d655

参加度 (60)
(技能20%) (態度20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 スポーツコースⅣ <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 45
履修条件	クラス指定
担当者 宇部 一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化による生涯スポーツの基盤づくり(※2011年度以前入学生は2単位です。)

獲得目標

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の内容

バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

内 容

- 第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。
- 第2回 バドミントンの基礎技術練習(ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど)
- 第3回 バドミントンの基礎技術練習(ドロップ、ドライブ、サービスなど)
- 第4回 シングルスのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム
- 第5回 シングルスの戦術とリーグ戦形式ゲーム
- 第6回 ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解
- 第7回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術
- 第8回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム(ミックスダブルス、チーム対抗など)
- 第9回 卓球の基礎技術練習(フォアハンドの基本、バックショートなど)
- 第10回 卓球の基礎技術練習(サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解)
- 第11回 シングルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第12回 ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第13回 ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第14回 チーム対抗形式でのゲーム
- 第15回 卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

授業以外での学習方法

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (5)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

aky801d850

参加度（60）

授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 スポーツコースⅣ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	45
履修条件	クラス指定	
担当者	宇部 一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化による生涯スポーツの基盤づくり(※2011年度以前入学生は2単位です。)

獲得目標

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の内容

バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

内 容

- 第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。
- 第2回 バドミントンの基礎技術練習(ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど)
- 第3回 バドミントンの基礎技術練習(ドロップ、ドライブ、サービスなど)
- 第4回 シングルスのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム
- 第5回 シングルスの戦術とリーグ戦形式ゲーム
- 第6回 ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解
- 第7回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術
- 第8回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム(ミックスダブルス、チーム対抗など)
- 第9回 卓球の基礎技術練習(フォアハンドの基本、バックショートなど)
- 第10回 卓球の基礎技術練習(サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解)
- 第11回 シングルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第12回 ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第13回 ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第14回 チーム対抗形式でのゲーム
- 第15回 卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

授業以外での学習方法

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (5)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

aky801d852

参加度（60）

授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 スポーツコースⅣ〈ラクト〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	佐々木 雅人	

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット

獲得目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です

内 容

- 第1回 オリエンテーション：フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)
- 第2回 ストレッチ実践：柔軟性の向上と準備・整理体操
- 第3回 体力・形態測定：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデータとの比較
- 第4回 マシンジム：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ
- 第5回 ストレッチ理論：ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり
- 第6回 ダイエットの為に栄養と理論：体脂肪とはなんぞや？正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について
- 第7回 有酸素運動：体脂肪を燃焼させるメカニズムについて
- 第8回 エアロビクスⅠ：ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践
- 第9回 無酸素運動：ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」
- 第10回 自律訓練法：ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
- 第11回 ダンスエクササイズ：ズンバ(ZUMBA)で敏捷性、巧緻性(器用さ)の向上
- 第12回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動
- 第13回 腹部ひきしめ体操：腹筋群、背筋群、コアトレーニング
- 第14回 脚部ひきしめ体操：脚筋群、臀部を強化、スクワット
- 第15回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動。体脂肪測定

授業以外での学習方法

(1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。(2)参考書：「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。(3)京都橘大学はラクトスポーツプラザと団体契約をしているため、授業以外時は特別料金で利用できます(学生証提示)。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

aky801d853

参加度 (60)
(技能20%) (態度20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I <2a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	小暮 宣雄	

テーマ

地域政策—地方公務員

獲得目標

1.地域政策を担う地方公共団体の仕組みと現状を理解する。2.地方公務員が担う地方行政の特質と機能を、自らが働くことを想定しつつ、具体的に知る。3.地方公務員になるための公務員試験の特色を知り、チャレンジするための心構えとスケジュールづくりを行う。

授業の内容

公務員試験を受験することを前提として、受験しようとする地方自治体を選んで、自発的に研究を行う。個人の地道な積み上げが基本だが、刺激を与えるためグループ化が進むような学修方法も検討する予定。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、自己紹介 教科書を前半は使うので事前に用意すること 憲法、民法、行政法、政治学概論 I II、行政学、経済学などの受講(予定)科目を聞き、各人の学習スタンスを確認する
- 第2回 地域政策の概要 志望動機にどう関わるか
- 第3回 地方行政とは何か 志望動機に関係して考える
- 第4回 地方自治制度の理解 地方財政や公務員制度の特質などまず何か一つに詳しくなるようにする
- 第5回 地方公務員のイメージと実際の働くすがた(1) 世間的印象と実体との乖離の理由を考える
- 第6回 地方公務員のイメージと実際の働くすがた(2) 地方公務員というキャリアと民間企業キャリアとの関係
- 第7回 地方公務員試験の研究(1)
- 第8回 地方公務員試験の研究(2)
- 第9回 地方公務員試験の研究(3)
- 第10回 フィールドワーク 自治体訪問(あるいは、ゲストを交えたディスカッション)
- 第11回 地方公務員に必要な法学的知識
- 第12回 地方公務員に必要な政治学的・行政学的知識
- 第13回 研究発表(1)
- 第14回 研究発表(2)
- 第15回 研究発表(3) まとめ

授業以外での学習方法

公務員試験のための授業外学習が不可欠なので、生協などの情報を事前に調べ、そのセミナーなどを活用すること。

教科書

公務員試験のカラクリ

著者: 大原暲

出版社: 光文社

出版年: 2011

ISBN:

参考書

コミュニティ・スタディーズ—災害と復興、無縁化、ポスト成長の中で、新たな共生社会を展望する

著者: 吉原直樹

出版社: 作品社

出版年: 2011

ISBN:

コミュニティ再生のための地域自治のしくみと実践

著者: 中川幾郎編著

出版社: 学芸出版社

出版年: 2011

ISBN:

コミュニティデザイナー一人がつながるしくみをつくる

著者: 山崎亮

出版社: 学芸出版社

出版年: 2011

ISBN:

地域主権時代の新しい公共: 希望を拓くNPOと自治・協働改革

著者: 今瀬政司

出版社: 学芸出版社

出版年: 2011

ISBN:

地方自治ことばの基礎知識 キーワードを通して地域主権を考える

著者: 兼子仁

出版社: ぎょうせい

出版年: 2010

ISBN:

教育の職業的意義ー若者、学校、社会をつなぐ

著者: 本田由紀

出版社: 筑摩書房

出版年: 2009

ISBN:

大学センターのぶっちゃけ話ー知的現場主義の就職活動ー

著者: 沢田健太

出版社: ソフトバンククリエイティブ

出版年: 2011

ISBN:

大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法

著者: 松本茂他

出版社: 玉川大学出版部

出版年: 2007

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I <2b>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	武野 辰雄	

テーマ

警察官・消防官・自衛官など公安職に必要とされる職業理解の獲得

獲得目標

警察官・消防官・自衛官など公安職に求められる専門知識の獲得と自らの職業観の育成・開発

授業の内容

警察官・消防官・自衛官などの公安職に求められる専門知識の獲得と自らの職業観の育成・開発のために、各職種の仕事内容について講義や講演を通じて学ぶ

内 容

- 第1回 総論「公務員」とその中での「公安職」の特徴
- 第2回 警察官の仕事内容・試験制度に関する講義
- 第3回 消防官の仕事内容・試験制度に関する講義
- 第4回 自衛官の仕事内容・試験制度に関する講義
- 第5回 警察官人事担当者講演会
- 第6回 消防官人事担当者講演会
- 第7回 自衛官人事担当者講演会
- 第8回 ワークシート記入
- 第9回 ワークシート発表
- 第10回 ワークシート指導・質疑応答
- 第11回 面接対策講義
- 第12回 面接対策指導
- 第13回 論文対策講義
- 第14回 論文対策指導
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読み、理解を深めること

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ <2a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 秋期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	濱田 剛	

テーマ

就職筆記試験の非言語分野に対応し得る知識の習得と実践力を、短期集中で養う。

獲得目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。とりわけ非言語分野は、筆記試験において点差が開く分野であり、本分野の克服無くして筆記試験の突破は困難である。非言語分野に特化、集中して学ぶことにより、一気に本番の筆記試験に対応し得る能力を養成することを目的とする。

授業の内容

就職筆記試験における非言語分野を、基礎から応用発展まで単元ごとに演習中心に学習。後半5コマは本番レベルの問題を、模試、解答解説を繰り返し実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 基礎数学 四則混合計算から総復習
- 第3回 非言語分野① 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
- 第4回 非言語分野② 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
- 第5回 非言語分野③ 仕事算、年齢算、濃度算
- 第6回 非言語分野④ 場合の数、確率
- 第7回 非言語分野⑤ 集合、ブラックボックス
- 第8回 非言語分野⑥ 資料の整理、長文読み取り
- 第9回 非言語分野⑦ 推論
- 第10回 非言語分野⑧ 領域、物の流れと比率
- 第11回 非言語分野⑨ 徹底答練Ⅰ
- 第12回 非言語分野⑩ 徹底答練Ⅱ
- 第13回 非言語分野⑪ 徹底答練Ⅲ
- 第14回 非言語分野⑫ 徹底答練Ⅳ
- 第15回 非言語分野⑬ 徹底答練Ⅴ

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

参考書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2014年

ISBN:

ask101d480

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ〈教職〉**

クラス 配当回生 学部2回生

講義期間 後期 定員 50

履修条件 クラス指定

担当者 小寺 隆幸

テーマ

小学校教員になるための数学演習

獲得目標

小学校の教員採用試験に出題される数学の問題が解ける力をつける。主に数Ⅰ・数A程度だが、数Ⅱ・数Bの範囲も含む。

授業の内容

教員採用試験の過去問題を解く中で数学の復習を行う。

内 容

- 第1回 滋賀県の問題から 1
- 第2回 滋賀県の問題から 2
- 第3回 京都市の問題から 1
- 第4回 京都市の問題から 2
- 第5回 京都府の問題から 1
- 第6回 京都府の問題から 2
- 第7回 大阪府の問題から
- 第8回 兵庫県の問題から
- 第9回 愛知県の問題から
- 第10回 三角比・三角関数
- 第11回 微積分
- 第12回 確率
- 第13回 指数・対数
- 第14回 図形
- 第15回 総合問題

授業以外での学習方法

毎回出す課題を次回までにやる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <2a>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 香坂 千佳子	

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けての取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生に向けての取り組み②
- 第12回 三回生に向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 全体まとめ

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（60%）

授業中発表等（0%）

参加度（40%）

出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容(質)なども重要となります。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <2b>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 堀越 昭夫	

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けての取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生の向けての取り組み②
- 第12回 三回生の向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合(発表)などを含めて評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <2c>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 香坂 千佳子	

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

内 容

- 第12回 三回生に向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 全体まとめ
- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けの取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生に向けての取り組み②

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（60%）

授業中発表等（0%）

参加度（40%）

出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容(質)なども重要となります。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <2d>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 堀越 昭夫	

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けての取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生の向けての取り組み②
- 第12回 三回生の向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合(発表)などを含めて評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <G>**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 香坂 千佳子

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けての取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生に向けての取り組み②
- 第12回 三回生に向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 全体まとめ

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（60%）

授業中発表等（0%）

参加度（40%）

出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容(質)なども重要となります。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <2e>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 堀越 昭夫	

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
- 第2回 人生の目的・目標(振り返り)
- 第3回 日本の雇用の仕組みを考える
- 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
- 第6回 日本の産業を考える(業界・企業とは)③
- 第7回 三回生の向けての取り組み①
- 第8回 職種を考える
- 第9回 ゲストスピーカー①
- 第10回 ゲストスピーカー②
- 第11回 三回生の向けての取り組み②
- 第12回 三回生の向けての取り組み③
- 第13回 ケーススタディ
- 第14回 目標と時間管理
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (20%)

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容(質)及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合(発表)などを含めて評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 50

履修条件

クラス指定

担 当 者 籠田 彰宏

テーマ

就活実践力の養成に必要な社会人になるための素地を鍛え上げる。

獲得目標

グローバル人材に最低限求められる能力を、体現することから養成する。

授業の内容

プレゼンテーションの授業を通して、チーム・問題解決のプロセスを踏みながらコミュニケーション能力を育成する。

内 容

- 第1回 最後の学生生活～社会人になることの意義
- 第2回 先入観・固定概念・潜在意識からの脱却1
- 第3回 先入観・固定概念・潜在意識からの脱却2
- 第4回 新聞の読み方実践
- 第5回 協調性との共通点と相違点
- 第6回 聞き上手になるための極意
- 第7回 アイコンタクトの重要性
- 第8回 定義とルール～実践
- 第9回 ディスカッションの楽しさの体現
- 第10回 プレゼンテーションの基本～課題発表
- 第11回 課題研究～ディスカッション・グループワーク
- 第12回 プレゼンテーション大会in橘
- 第13回 戦略と戦術の違いを体現
- 第14回 チームワークで世界チャンプを倒す
- 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 道徳教育の理論と方法

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 夏期集中

定 員

履修条件 教職課程履修登録者のみ
履修可

クラス指定

担当者 碓井 敏正

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

獲得目標

押し付けであっては、道徳教育の効果はない。学校教育を通して、子どもたちが自然と道徳性をいかに身につけるかを学ぶことを目標とする。

授業の内容

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

内 容

- 第1回 道徳とは何か
- 第2回 中学生期の発達の特徴
- 第3回 道徳教育の歴史(明治～大正)
- 第4回 道徳教育の歴史(戦後)
- 第5回 全面主義と特設主義
- 第6回 他の教科と道徳教育の関連
- 第7回 道徳教育と特別活動
- 第8回 道徳教育と総合学習
- 第9回 道徳の内容の理解
- 第10回 道徳教育の要としての道徳の時間
- 第11回 道徳の時間の展開
- 第12回 道徳の時間の実践例
- 第13回 家庭、地域と道徳教育
- 第14回 道徳教育と評価
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

時事的な話題として取り上げられる、教育問題や現代の青少年の精神状況や行動の特徴などに絶えず、関心を払うこと。

教科書

中学校指導書・道徳編は必ず購入すること。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

その都度指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 国語科教育法Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 池田 修	

テーマ

実技教科としての国語科のあり方を探る

獲得目標

教師が「教科書を読んで板書して解説して」という国語科を脱却し、学習者が主体的に学びに参加する国語科の授業を構築するための観点と方法を手に入れることを目的とする。

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として「模擬授業」「教材作り」「学習ゲーム」などの活動を行う。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。

内 容

- 第1回 国語科と教材作り 授業ガイダンス。夏休みの課題の相互評価。ワークシートの実例から、教材とは何かを考える。学習班づくり。発問とは何か？
- 第2回 国語科を実技教科として考える。学習ゲーム、ワークシート、資料集作り、辞書作り、アンソロジーノート、対義語でポン、和綴じ本作りなど。
- 第3回 学習ゲームの実際。辞書しり取り、たほいや、why-becauseゲーム、無関係ゲーム、ディベート、J1百人一首など。人生名言集。
- 第4回 ワークシートの実際。短編問題集、漢字学習、言語事項学習など。実際にゲームを作ってみる スピーチテスト。
- 第5回 指導案の書き方 1。授業のビデオを見て、その授業の指導案を書いてみる。
- 第6回 指導案の書き方 2。指導案の相互評価。
- 第7回 定番教材の指導 韻文。中学校の定番教材として扱われる韻文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
- 第8回 定番教材の指導 散文。中学校の定番教材として扱われる散文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
- 第9回 定番教材の指導 古典。中学校の定番教材として扱われる古典の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
- 第10回 作成教材の検討 1。定番教材として提出した教材を実際に使って、定期考査を作る。
- 第11回 国語教育の現在 1。メディアリテラシー教育。メディア断食、CMの分析、番組作りなど。
- 第12回 国語教育の現在 2。コンピュータと国語。タッチタイプ、ブログ、デジタルストーリーテリング、読書感想文など。
- 第13回 作成教材の検討 2。第10回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。評価／評定指導。評価とは何か、評価から評定への実際。
- 第14回 模擬授業 1 5分程度の模擬授業を全員が行う。
- 第15回 模擬授業 2 5分程度の模擬授業を全員が行う。国語科教育法2のまとめ。

授業以外での学習方法

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

教科書

まともな日本語教えない勘違いだらけの国語教育

著者： 有元秀文

出版社： 合同出版

出版年： ISBN：

いちばんやさしい教える技術

著者： 向後千春

出版社： 永岡書店

出版年： ISBN：

参考書

中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集

著者： 石川晋・平山雅一

出版社： 学事出版

出版年： ISBN：

みんな言葉を持っていた

著者： 柴田保之

出版社： オクムラ書店

出版年： ISBN：

一斉指導10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社： 学事出版

出版年： ISBN：

新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN：

読書で遊ぼうアニメーション

著者： モセラット・サルト

出版社： 柏書房

出版年： ISBN：

プレイフル・ラーニング

著者： 上田信行×中原淳

出版社： 三省堂

出版年： ISBN：

授業の作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年： ISBN：

これだけは身につけたい 超定番！ 授業づくりの基礎・基本

著者： 八木正一・上條晴夫

出版社： 学事出版

出版年： ISBN：

奇跡の教室

著者： 伊藤氏貴

出版社： 小学館

出版年： ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は面白い

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（10）

授業中課題（40）

授業中発表等（20）

参加度（30）

グループで行う模擬授業と、個人で行う模擬授業を評価では重点とします。準備、実際、まとめとそれぞれを丁寧に取り組むこと。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 国語科教育法Ⅲ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 夏期集中

定員 40

履修条件 教職課程履修登録者のみ
履修可

クラス指定

担当者 渡邊 久暢

テーマ

中等国語科教育の実践的な学習指導の研究

獲得目標

中学校・高等学校における国語科授業の構成、実施、評価にかかわる知識、能力を身につける。特に、教材研究、授業計画、授業分析の実際を通して力量を高める。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 中学校・高等学校国語科教育の目標と内容—平成20年版学習指導要領から—
- 第3回 学習指導案作成のポイントと評価の仕方
- 第4回 文学的文章の学習指導(1)
- 第5回 文学的文章の学習指導(2)
- 第6回 説明的文章の学習指導(1)
- 第7回 説明的文章の学習指導(2)
- 第8回 古典の学習指導(1)
- 第9回 書くことの学習指導(1)
- 第10回 書くことの学習指導(2)
- 第11回 話すこと・聞くことの学習指導
- 第12回 文学的文章の学習指導(3)模擬授業
- 第13回 説明的文章の学習指導(3)模擬授業
- 第14回 古典の学習指導(2)模擬授業
- 第15回 文法の学習指導

授業以外での学習方法

・教育実習で指導内容を考え、授業が行えるように中学校、高等学校の教材分析や学習指導案(略案)作成を課題として課す。
・幅広い知識と教養を身につけるために新聞スクラップの課題を課す。

教科書

文学の授業づくりハンドブック 第4巻 授業実践史をふまえて中・高校校編

著者： 浜本純逸監修

出版社： 溪水社

出版年： 2010

ISBN： 978-4863270794

徒然草 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典

著者： 角川書店編

出版社： 角川書店

出版年： 2002

ISBN： 978-4043574087

参考書

国語教育を学ぶ人のために

著者： 糸井通浩／植山俊宏編

出版社： 世界思想社

出版年： 1995

ISBN： 978-4790705796

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（60）

授業中発表等（20）

参加度（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 言語文化研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語文法の展開

獲得目標

1) 日本語がどのようなしくみを持つ言語であるのか理解する。2) 自分たちが日常的に使っている日本語でさえ、私たちにとって未知な存在であることを理解する。3) 2)を通じて、自分の立場を絶対化せず、相対的に考えるという視点を学ぶ。

授業の内容

日本語を母語とする者にとって、日本語はあらためて考える余地がないほど当たり前存在に見える。この授業では、日本語のしくみについて私たちが驚くほど「知らない」ことを明らかにすることを通じて日本語文法の発想を理解させる。

内 容

- 第1回 日本語文法の発想法
- 第2回 とりたてと知識
- 第3回 推量的表現の諸相
- 第4回 疑問と主張の関係
- 第5回 行為表明と行為要求
- 第6回 常体と敬体
- 第7回 複文のとらえ方
- 第8回 条件と理由
- 第9回 名詞修飾の諸相
- 第10回 「こ」「そ」「あ」の使い分け
- 第11回 言わないことの意味
- 第12回 無意味なことばの意味
- 第13回 「のだ」による文と文の関係づけ
- 第14回 論理関係と接続詞の役割
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

1) 授業で配付する資料をよく読んでください。2) 『日本語学』や『月刊言語』といった雑誌のバックナンバーを手にとって、興味をひかれるテーマを扱った論文を読んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(歴財M2後)〈Md〉

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

修士論文を設計。

獲得目標

現状における研究の到着点を把握し、問題点を見出し、自己の論文の立ち位置を整備し修論の構成をねりあげる。

授業の内容

発表に基づき、評価し、点検し、設計し、組立てる。

内 容

- 第1回 研究論文の書き方。
- 第2回 研究史に関する発表と討議。
- 第3回 研究史に関する発表と討議。
- 第4回 研究史に関する評価。
- 第5回 研究史に関する点検。
- 第6回 研究対象資料の組立の検討。
- 第7回 研究対象資料の組立の検討。
- 第8回 自己研究の点検。
- 第9回 自己研究の点検。
- 第10回 研究対象資料の検討。
- 第11回 研究発表と討議。
- 第12回 研究発表と討議。
- 第13回 論文設計の不足の点検。
- 第14回 論文設計の不足の点検。
- 第15回 まとめと課題の検出。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 特別研究Ⅳ(歴財M2後)〈Mo〉

クラス

配当回生 大学院2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

優秀な修士論文を上梓する。

獲得目標

学会誌に投稿できるような修士論文を提出させることを目的とする。

授業の内容

ゼミ方式で問題点を探り、研究の深化を図る。

内 容

- 第1回 論文構成の再確認と進行状況の確認
- 第2回 仕上がり原稿の検討
- 第3回 仕上がり原稿の検討
- 第4回 仕上がり原稿の検討
- 第5回 未着手章の検討
- 第6回 未着手章の検討
- 第7回 未着手章の検討
- 第8回 未着手章の検討
- 第9回 仕上がり原稿の検討
- 第10回 仕上がり原稿の検討
- 第11回 仕上がり原稿の検討
- 第12回 全体原稿と資料編の検討
- 第13回 全体原稿と資料編の検討
- 第14回 原稿・資料編の最終チェック
- 第15回 原稿・資料編の最終チェック

授業以外での学習方法

陶邑資料保管場所(平安高校)での実物観察。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

h102000365

参加度（ 20）

与えた課題の達成度・論文の出来不出来を基準に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生活習慣系看護学〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河原 宣子	

テーマ

慢性疾患や慢性疾患を原因とする障害をもつ成人とその家族におよぼす影響

獲得目標

1.慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題を包括的に理解できる。2.慢性疾患や障害を体験する成人とその家族を対象とした効果的な看護実践を行うための諸理論と看護介入方法を考究する。

授業の内容

慢性疾患や慢性疾患を原因とする障害をもつ成人とその家族におよぼす影響、特徴を理解する。それらの人々のもつ療養上の困難や問題について全人的にとらえ、効果的援助方法に関連する理論、看護理論について考察する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴①
- 第2回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴②
- 第3回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴③
- 第4回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族に適用される看護理論の背景および概念
- 第5回 慢性疾患や障害を体験する人を理解するための諸理論
- 第6回 慢性疾患や障害を体験する人と家族を理解するための諸理論
- 第7回 慢性疾患や障害を体験する人と家族を対象とした研究①:文献検索
- 第8回 慢性疾患や障害を体験する人と家族を対象とした研究②
- 第9回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討①
- 第10回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討②
- 第11回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討③
- 第12回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討④
- 第13回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討⑤
- 第14回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討⑥
- 第15回 事例検討の結果を評価し、諸理論と看護介入方法の活用について自己の課題を明確にする。

授業以外での学習方法

授業内容に関連する文献の講読

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 老年看護学Ⅱ〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 沼本 教子・小野塚 元子.mitei.mitei1	

テーマ

高齢者の生活を支援する保健医療福祉制度・政策およびサポートシステム の現状

獲得目標

高齢者が健康な生活を送れるよう支援するために、世界・日本における高齢者の保健医療福祉制度・政策の現状について学び、日本における保健医療福祉制度・政策の課題について探究する。また高齢者の健康生活を支援するためのサポートシステムの現状と今後の課題について探求する。

授業の内容

内 容

- 第1回 高齢者の健康生活を支援するために必要な社会資源およびサポートシステムの現状について学ぶ。
- 第2回 高齢者の健康生活を支援するために必要な社会資源およびサポートシステムの現状について学ぶ。
- 第3回 諸外国および日本における高齢者保健医療福祉制度・政策に関する歴史的変遷、諸外国と日本の共通点、相違点について学び、今後の課題について探求する。
- 第4回 諸外国および日本における高齢者保健医療福祉制度・政策に関する歴史的変遷、諸外国と日本の共通点、相違点について学び、今後の課題について探求する。
- 第5回 高齢者の自律した健康生活を支援するための看護職としてのケアマネジメントの役割とプロセスについて学ぶ。
- 第6回 高齢者の自律した健康生活を支援するための看護職としてのケアマネジメントの役割とプロセスについて学ぶ。
- 第7回 施設および在宅における看護職のケアマネジメントの現状、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。
- 第8回 施設および在宅における看護職のケアマネジメントの現状、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。
- 第9回 施設および在宅における看護職のケアマネジメントの現状、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。
- 第10回 施設および在宅における看護職のケアマネジメントの現状、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。
- 第11回 健康課題をもった高齢者の事例をもとに、健康生活を復権するためのケアマネジメント計画を立案する。その事例分析から、老年専門看護師としてのケアマネジメントの役割について探求する。
- 第12回 健康課題をもった高齢者の事例をもとに、健康生活を復権するためのケアマネジメント計画を立案する。その事例分析から、老年専門看護師としてのケアマネジメントの役割について探求する。
- 第13回 健康課題をもった高齢者の事例をもとに、健康生活を復権するためのケアマネジメント計画を立案する。その事例分析から、老年専門看護師としてのケアマネジメントの役割について探求する。
- 第14回 健康課題をもった高齢者の事例をもとに、健康生活を復権するためのケアマネジメント計画を立案する。その事例分析から、老年専門看護師としてのケアマネジメントの役割について探求する。
- 第15回 老年看護における保健医療福祉システムの今後の課題について探求する。

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（備考を参照）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中課題<提出物・レポート>(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 老年看護学Ⅲ <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 沼本 教子.小野塚 元子.mitei	

テーマ

健康課題をもつ高齢者と介護家族に対する専門的な看護援助

獲得目標

健康課題をもつ高齢者のセルフケア能力を尊重した看護実践と、高齢者看護を担う家族の力を支援するために必要な看護援助について探求する。また、高齢者看護の現場で起こっている身体拘束や高齢者虐待について考察し、高齢者の権利や尊厳を守るための看護者としての在り方について追及する。

授業の内容

内 容

- 第1回 老年期における疾病の回復過程の特徴とセルフケア能力に視点を当てた看護援助について探求する。
 第2回 老年期における疾病の回復過程の特徴とセルフケア能力に視点を当てた看護援助について探求する。
 第3回 急性期、慢性期、終末期など各健康段階にある高齢者に対する援助の特徴と課題について探求する。
 第4回 急性期、慢性期、終末期など各健康段階にある高齢者に対する援助の特徴と課題について探求する。
 第5回 家族形態の変遷と高齢者および家族の介護に対する意識の変化について考察し、家族介護力の実態について探求する。
 第6回 家族形態の変遷と高齢者および家族の介護に対する意識の変化について考察し、家族介護力の実態について探求する。
 第7回 高齢者および家族の生活再構築を支援するための方法について、エンパワメントの概念から考察する。
 第8回 高齢者および家族の生活再構築を支援するための方法について、エンパワメントの概念から考察する。
 第9回 家族システム理論を基盤に、家族を単位とした高齢者への援助および生活調整のあり方などの家族看護の実際とその評価について学ぶ。
 第10回 家族システム理論を基盤に、家族を単位とした高齢者への援助および生活調整のあり方などの家族看護の実際とその評価について学ぶ。
 第11回 高齢者看護の現場で起こっている高齢者に対する様々な看護実践の状況について、倫理的視点から考察する。
 第12回 高齢者看護の現場で起こっている高齢者に対する様々な看護実践の状況について、倫理的視点から考察する。
 第13回 高齢者看護の現場で起こっている身体拘束や高齢者虐待について考察し、高齢者の権利擁護と看護の在り方について学ぶ。
 第14回 高齢者看護の現場で起こっている身体拘束や高齢者虐待について考察し、高齢者の権利擁護と看護の在り方について学ぶ。
 第15回 高齢者看護実践の研究動向と今後の課題について展望する。

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（備考を参照）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中課題<提出物・レポート>(30%)、授業中発表・プレゼンテーション(30%)、授業中参加度・学習態度(40%)などを総合評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 看護教育学特論 <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 阿部 祝子	

テーマ

看護職の人材育成における教育のあり方

獲得目標

看護教育論での学びを踏まえ、自らの看護実践を通して捉えた教育的問題の考察を通して、教育の本質を探究する。

授業の内容

看護実践において自身が感じている教育的問題を提示し、文献講読や討議によりその問題の本質を探り、問題の本質とその解決の視点を探る。1. 看護実践における教育的問題の提起 2. 問題の事実関係の再考 3. 文献講読及び討議による問題の本質の探究 4. 問題に対する解決の視点の発見 5. 提起した問題についての総括

内 容

- 第1回 オリエンテーション(学習目標, 授業の進め方)
- 第2回 各自の看護実践における教育的問題の提起
- 第3回 問題の現状, 背景などから問題の事実関係(プレゼンテーション, 討議)
- 第4回 問題の本質の理解(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第5回 問題の本質の理解(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第6回 問題の本質の理解(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第7回 問題の本質の理解(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第8回 問題の本質の見極め
- 第9回 問題解決にむけた視点の理解
- 第10回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第11回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第12回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第13回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第14回 提起した問題及びその解決方策についての総括(プレゼンテーション, 討議)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護実践において問題意識を持つ。広く関連図書・専門誌等を読む。討議における発表の準備をする。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で提示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

プレゼンテーションおよび授業への参加態度から総合的に評価する.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読h(古典文学研究Ⅱ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

『雨月物語』を読む

獲得目標

短編怪異小説の傑作を味わい、表現方法を学ぶ。人間の業や執着心について考える。

授業の内容

各作品について、1時間目はみんなですれずつ読み進め、2時間目には意見や疑問を交換します。

内 容

- 第1回 授業の進め方、参考文献等について
- 第2回 「白峯」を読む①
- 第3回 「白峯」を読む②
- 第4回 「菊花の約」を読む①
- 第5回 「菊花の約」を読む②
- 第6回 「浅茅が宿」を読む①
- 第7回 「浅茅が宿」を読む②
- 第8回 「仏法僧」を読む①
- 第9回 「仏法僧」を読む②
- 第10回 「吉備津の釜」を読む①
- 第11回 「吉備津の釜」を読む②
- 第12回 「邪性の淫」を読む①
- 第13回 「邪性の淫」を読む②
- 第14回 「青頭巾」を読む①
- 第15回 「青頭巾」を読む②

授業以外での学習方法

テキストに目を通しておくこと。また、関心のある作品については、注をたよりに典拠にも当たってみてください。

教科書

改訂版 雨月物語—現代語訳付き(角川ソフィア文庫)

著者: 鶴飼 洋

出版社: 角川学芸出版

出版年: 2006

ISBN:

参考書

新編日本古典文学全集78『英草紙、西山物語、雨月物語、春雨物語』

著者: 中村幸彦他

出版社：小学館

出版年：1995

ISBN：

新潮日本古典集成

著者：浅野三平

出版社：新潮社

出版年：1980

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（50）

参加度（50）

参加度には、出席点以外の平常点も含まれます。また、受講者数によって、発表をレポートに代える場合があります。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読(近代文学研究Ⅱ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 渡邊 浩史

テーマ

日本近代文学の名作を読む

獲得目標

明治から昭和戦後期にかけての、近代小説を読解する。近代小説の名作、わけても何事かに向け、情熱をかたむける登場人物を描いた作品に焦点を絞り、そこから人間存在のありようについて考察していきたい。さらに、それぞれの文学者の作風、各作品の叙述、構想、主題について獲得することを目標とする。

授業の内容

演習形式を取り入れる予定なので、取り上げる作品は必ず読んでくること。人数が多い際にはグループ発表になる可能性もある。

内 容

- 第1回 ガイダンス —講義概要等の説明—
 第2回 近代文学を読み進めるポイント
 第3回 夏目漱石「坊ちゃん」①
 第4回 夏目漱石「坊ちゃん」②
 第5回 森鷗外「雁」①
 第6回 森鷗外「雁」②
 第7回 芥川龍之介「地獄変」①
 第8回 芥川龍之介「地獄変」②
 第9回 中島敦「山月記」①
 第10回 中島敦「山月記」②
 第11回 坂口安吾「桜の森の満開の下」①
 第12回 坂口安吾「桜の森の満開の下」②
 第13回 三島由紀夫「潮騒」①
 第14回 三島由紀夫「潮騒」②
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で用いる作品は必ず読み、自分なりの意見をもって参加すること。

教科書

作品で読む20世紀の日本文学

著者：みぎわ書房編

出版社：白地社

出版年：2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（40%）

授業中発表等（40%）

参加度（20%）

「授業中課題」は討論で導き出した自分の意見文の提出及び、レポート。「授業中発表」では、討論における自分の意見や質疑応答が評価の対象となる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読I(現代文学研究Ⅱ)〈a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 橋本 正志

テーマ

昭和の小説を読解する。

獲得目標

近現代小説の名作を中心に、時代社会との関連やそこに描かれた多彩な人間像について考察していきたい。作品の主題を理解し、さらに時代社会との関わりにおいて深めることを目的とする。

授業の内容

受講人数により演習形式も取り入れる。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 昭和の文学(1)芥川龍之介「蜃気楼」(昭2)、横光利一「頭ならびに腹」(昭2)

第3回 昭和の文学(2)小林多喜二「蟹工船」(昭4)

第4回 昭和の文学(3)中野重治「村の家」(昭10)、北條民雄「いのちの初夜」(昭11)

第5回 昭和の文学(4)火野葦平「麦と兵隊」(昭13)、石川達三「生きてゐる兵隊」(昭13)

第6回 昭和の文学(5)宮沢賢治「毒もみのすきな署長さん」(昭13)

第7回 昭和の文学(6)石川達三「赤虫島日誌」(昭16)

第8回 昭和の文学(7)中島敦「山月記」(昭17)

第9回 昭和の文学(8)中島敦「名人伝」(昭17)

第10回 昭和の文学(9)太宰治「津軽」(昭19)

第11回 昭和の文学(10)金子光晴「三人」(昭19)「落下傘」(昭23)

第12回 昭和の文学(11)田宮虎彦「絵本」(昭25)

第13回 昭和の文学(12)開高健「ベトナム戦記」(昭40)「輝ける闇」(昭43)「夏の闇」(昭47)

第14回 昭和の文学(13)村上春樹「中国行きのスロウ・ポート」(昭55)

第15回 まとめ

授業以外での学習方法

本文は抜粋を配布する。あらかじめ全体を読んでおくことが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読I(現代文学研究Ⅱ)

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 辻本 千鶴	

テーマ

昭和60年代以降の文学

獲得目標

昭和60年代以降の小説作品を中心に読む。現代文学の潮流について知識を深め、受講者各人の小説鑑賞の幅を広げることを目標とする。

授業の内容

下記の作品を取り上げ、批評・研究の対象としてのアプローチを試みる。主として講義形式で進めるが、受講生は中間発表(あるいは中間レポート)によって、授業の進行に参加する。

内 容

- 第1回 池澤夏樹「スティル・ライフ」
- 第2回 島田雅彦「僕は模造人間」
- 第3回 山田詠美「蝶々の纏足」
- 第4回 村上春樹「眠り」
- 第5回 南木佳士「ダイヤモンドダスト」
- 第6回 川上弘美「蛇を踏む」
- 第7回 小川洋子「薬指の標本」
- 第8回 いいしんじ「ぶらんこ乗り」
- 第9回 阿部和重「ニッポニアニッポン」
- 第10回 森見登見彦「太陽の塔」
- 第11回 金原ひとみ「アッシュベイビー」
- 第12回 川上未映子「乳と卵」
- 第13回 山崎ナオコーラ「この世は二人組ではできあがらない」
- 第14回 保坂和志「残響」
- 第15回 まとめ ——保坂和志の小説観から現代文学を考える——

授業以外での学習方法

授業で扱う作品は必ず通読すること。同じ作家の別の作品も積極的に読むことが望ましい。

教科書

(プリント配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（40%）

小テスト（ ）

授業中課題（20%）

授業中発表等（30%）

参加度（10%）

期末試験はレポート形式とする。なおレポート課題と別の作品について、中間発表（あるいは中間レポートの提出）を義務づける。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読p(文芸創作実習)

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	重松 恵美, 辻本 千鶴	

テーマ

言葉あそびから小説作成まで

獲得目標

文芸作品を作り出す「技術」について考えながら習得する。

授業の内容

絵本、童話、ライトノベル、現代小説、俳句など、様々なスタイルの文芸作品の特徴について考察し、議論しながら、受講生各自が毎週の創作課題に取り組む。毎週の課題ごとに数人のグループを作り、グループ内で意見交換しながら創作活動を進めていく予定。

内 容

- 第1回 言葉あそび(あいうえおちゃん、ほか)
- 第2回 ミニミニ絵本(動物、果物、季節の絵本)
- 第3回 童話(おばけ、魔女、どろぼう、ほか)
- 第4回 俳句
- 第5回 現代小説(連作、共作)
- 第6回 現代小説(店員と客、ほか)
- 第7回 現代小説(出会ってはいけない二人、ほか)
- 第8回 俳句
- 第9回 ライトノベル(キャラクター作り)
- 第10回 ライトノベル(〇〇が禁止されている町、ほか)
- 第11回 ライトノベル(〇〇から来た少女、ほか)
- 第12回 自由創作と発表
- 第13回 自由創作と発表
- 第14回 特別講義
- 第15回 特別講義

授業以外での学習方法

授業時間のみで「創作」活動を行なうのは難しいため、常に課題を先取りして、翌週以降の課題についても日々構想を練っておくこと。

教科書

俳句ハンドブック

著者：『俳句』編集部編

出版社：角川学芸出版

出版年：2012

ISBN：978-4-04-652606

参考書

あいうえおちゃん

著者：森絵都(文)・荒井良二(絵)

出版社：文春文庫

出版年：

ISBN：

キャラクター小説の作り方

著者：大塚英志

出版社：星海社新書

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（90）

授業中発表等（10）

参加度（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅵ <a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 新谷 泰一

テーマ

行草書の書法の研究

獲得目標

自在で幅広い表現技術の修得。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之の書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の内容

内 容

- 第1回 王羲之・十七帖の書法
- 第2回 十七帖の臨書(半紙)
- 第3回 十七帖の臨書(半紙)
- 第4回 十七帖の臨書(半切)
- 第5回 十七帖の臨書(半切)互評会
- 第6回 十七帖の倣書(半切)
- 第7回 十七帖の倣書(半切)互評会
- 第8回 中国歴代の行・草書古典の臨書1(半紙)
- 第9回 中国歴代の行・草書古典の臨書1(半切)
- 第10回 中国歴代の行・草書古典の臨書2(半紙)
- 第11回 中国歴代の行・草書古典の臨書2(半切)
- 第12回 中国歴代の行・草書古典の臨書3(半切)
- 第13回 中国歴代の行草書古典の倣書(半切)
- 第14回 中国歴代の行草書古典の倣書(半切)
- 第15回 倣書作品の互評会・まとめ

授業以外での学習方法

家庭で十分な練習をすること。授業で扱う古典以外の古典の臨書もしっかりすること。書展などを積極的に鑑賞すること。

教科書

中国法書選14十七帖

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

a10203a450

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅵ

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	20
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	新谷 泰一	

テーマ

行書。草書の書法を習得し、書作の幅を広げる。

獲得目標

自在で幅広い字形の表現力と筆を扱う技術の習得を目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第2回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第3回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第4回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第5回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第6回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第7回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第8回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第9回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第10回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第11回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第12回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第13回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第14回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 第15回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。

授業以外での学習方法

滑らかで自由な運筆をするため、家庭でも十分な練習を欠かさない。授業で扱う古典以外の古典の臨書にも挑戦することを望む。展覧会などの鑑賞も積極的にしたい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
 授業中課題 (70)

小テスト (0)
 授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅷ <a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

獲得目標

多様なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第14回 創作に向けて(帖・卷子について)
- 第15回 創作への展開
- 第1回 継色紙について
- 第2回 継色紙の技法について
- 第3回 継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)
- 第4回 継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)
- 第5回 継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)
- 第6回 継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)
- 第7回 継色紙の臨書①(線表現と墨法)
- 第8回 継色紙の臨書②(線表現と墨法)
- 第9回 継色紙の臨書③(線表現と墨法)
- 第10回 継色紙の倣書①
- 第11回 継色紙の倣書②
- 第12回 継色紙の倣書③
- 第13回 創作に向けて(散らし書きについて)

授業以外での学習方法

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10203a650

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法Ⅷ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員 20

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

獲得目標

多様なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 継色紙について
- 第2回 継色紙の技法について
- 第3回 継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)
- 第4回 継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)
- 第5回 継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)
- 第6回 継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)
- 第7回 継色紙の臨書①(線表現と墨法)
- 第8回 継色紙の臨書②(線表現と墨法)
- 第9回 継色紙の臨書③(線表現と墨法)
- 第10回 継色紙の倣書①
- 第11回 継色紙の倣書②
- 第12回 継色紙の倣書③
- 第13回 創作に向けて(散らし書きについて)
- 第14回 創作に向けて(帖・卷子について)
- 第15回 創作への展開

授業以外での学習方法

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10203a652

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講b(日本語史Ⅱ)

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 鳥谷 善史	

テーマ

日本語の通時的变化や変異を概観する。

獲得目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、基礎的内容をふまえて通時的に考察を深めたい。ここでは、「音図」の歴史や「いろは歌」成立までの状況をとりあげ、音韻史や文字史の実態にせまりたい。最後に、方言の歴史について確認し、日本語の歴史や古代日本語の実態について考えたい。

授業の内容

「五十音図」や「いろは歌」成立の動機や意義について、音韻史や文字史の視点から確認する。また、方言について歴史的にわかっている事実から古代日本語と現在の方言分布についての相関について考察する。極めて専門性の高い内容であるため、日本語学の基本的な知識がない場合や、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。

内 容

- 第1回 日本語史について(ガイダンスと前期の確認)
- 第2回 音図について(五十音図の成立)①
- 第3回 音図について(五十音図の成立)②
- 第4回 いろは歌について①
- 第5回 いろは歌について②
- 第6回 いろは歌について③
- 第7回 たみにの歌について①
- 第8回 たみにの歌について②
- 第9回 あめつちの詞について①
- 第10回 あめつちの詞について②
- 第11回 手習いと歌の父母・全体のみとめ
- 第12回 方言史(上代)
- 第13回 方言史(中古から中世)
- 第14回 方言史(近世)
- 第15回 方言史まとめと小テスト(レポート)

授業以外での学習方法

参考文献を各自で調べ授業で述べた内容をより深く考察すること。

教科書

適宜プリントを配付するが、前期のテキスト「参考書1」を持参することが望ましい。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本語史概説

著者: 沖森卓也

出版社：朝倉書店
出版年：2010 ISBN：4254515220

概説日本語の歴史
著者：佐藤武義
出版社：朝倉書店
出版年：1995 ISBN：4254510195

日本語史要説
著者：渡辺実
出版社：岩波書店
出版年：1997 ISBN：4000260111

日本語の歴史
著者：山口明穂他
出版社：東京大学出版会
出版年：1997 ISBN：4130820042

はじめて読む日本語の歴史
著者：沖森卓也
出版社：ベレ出版
出版年：2010 ISBN：4860642556

日本語の歴史 全8巻
著者：亀井孝他編
出版社：平凡社
出版年：1963-66 ISBN：4582765955

いろはうた
著者：小松英雄
出版社：講談社学術文庫
出版年：2009 ISBN：9784062919418

五十音図の話
著者：馬淵和夫
出版社：大修館書店
出版年：1993 ISBN：9784469220933

国語音韻論
著者：馬淵和夫
出版社：笠間書院
出版年：1971 ISBN：4305000180

国語学史
著者：馬淵和夫・出雲朝子
出版社：笠間書院
出版年：2010 ISBN：9784305603029

成績評価

試験（0） 小テスト（40）
授業中課題（10） 授業中発表等（10）
参加度（40）

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）参加度は、積極的な受講に対して評価するものである。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講d(現代日本語研究Ⅱ)

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 福田 雅子	

テーマ

プレゼンテーションの基礎 自己発言力と説得力の習得

獲得目標

プレゼンテーションとは「自分の思いを相手に伝え、理解・賛同してもらい、自分の欲する行動をとってもらうこと」であり、「相手が動いてくれて初めて、プレゼンテーションの成功」と言えます。その為には、自分が発見した事実や自分の意見を、論理的に分かりやすく相手に伝え、聞き手の理解・納得をどう得るかというコミュニケーション技術が必要です。これは、社会人としてますます必要とされるスキルなのです。本講義では、コミュニケーション技法、プレゼンテーション技法の基礎を学び、そのスキルを実践を通して身に付けます。プレゼンテーションツールであるパワーポイントの効果的な使用方法も習得します。

授業の内容

本講義では、プレゼンテーションの前提となる、コミュニケーション技術の習得に力点を置き、ディスカッションや発表を通して、「理解・賛同してもらえる表現力」を一步一步、身に付けていきます。最後の「プレゼンテーション実践」は、プレゼンテーションツールを効果的に使用して、身に付けたスキルを存分に活かした発表となります。

内 容

- 第1回 オリエンテーション コミュニケーション技法1(アプローチ①)
- 第2回 コミュニケーション技法2(アプローチ②)
- 第3回 コミュニケーション技法3(傾聴)
- 第4回 コミュニケーション技法4(伝達)
- 第5回 コミュニケーション技法5(傾聴&伝達)
- 第6回 プレゼンテーション演習1(箇条書き・ラベリング)
- 第7回 プレゼンテーション演習2(話の組み立て方①)
- 第8回 プレゼンテーション演習3(話の組み立て方②)
- 第9回 プレゼンテーション演習4(スピーチ発表と評価)
- 第10回 パワーポイントの基礎・復習(効果的なビジュアル表現)
- 第11回 パワーポイントの実践1(パワーポイント課題作成)
- 第12回 パワーポイントの実践2(パワーポイント課題作成)
- 第13回 プレゼンテーション実践1(プレゼンテーション発表の準備)
- 第14回 プレゼンテーション実践2(プレゼンテーション発表と評価①)
- 第15回 プレゼンテーション実践3(プレゼンテーション発表と評価①)

授業以外での学習方法

パワーポイントの基本操作復習

教科書

参考書

身近なテーマで作って学ぶ!学生のためのOffice2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

a10203d450

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講f(女性文学研究)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 福嶋 昭治

テーマ

女性と文学

獲得目標

女性が担い手となった古典を取り上げ、それぞれの作品に込められた登場人物と作者の「思い」を探る。さらに、「文学とは何か」という問いについての答の一つを確認し合い、その担い手となってきた女性のおかれた歴史的立場についても見識を深める。さらに、現代の共生の問題についての一定の知見を得ることも目標とする。

授業の内容

平安時代の古典を中心に取り上げ、それぞれの必要な場所を十分読み解きながら、「文学とは何か」「女性の関わり」という問題を考えて行く。

内 容

- 第1回 「文学について考える」ということ
- 第2回 蜻蛉日記の作者
- 第3回 蜻蛉日記「三十日三十夜は我がもとに」
- 第4回 枕草子が生まれた歴史的背景
- 第5回 枕草子の文章
- 第6回 源氏物語の文学論～螢の巻～
- 第7回 源氏物語の「わたくしの別れ」～賢木の巻～
- 第8回 源氏物語の空蟬の思い～帚木・空蟬の巻～
- 第9回 源氏物語の髭黒北の方～真木柱の巻～
- 第10回 和泉式部という人
- 第11回 和泉式部日記
- 第12回 更級日記の作者
- 第13回 更級日記
- 第14回 摂州合邦辻～武士の妻～
- 第15回 与謝野晶子～君死にたまふことなかれ～

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（70）

授業中課題（）

参加度（30）

試験はレポート試験とする。

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講h(歌舞伎・浄瑠璃研究Ⅱ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

文楽(人形浄瑠璃)入門

獲得目標

歌舞伎と並ぶ上方発祥の世界遺産「文楽」(人形浄瑠璃)について知り、日本の文化についての理解を深める。

授業の内容

テキストにある演目の中から、近松物や三大名作など、代表的なものを選んで映像を鑑賞し、解説します。

内 容

- 第1回 文楽についての概説
- 第2回 浄瑠璃の起源と歴史
- 第3回 近松門左衛門について
- 第4回 三大名作①「菅原伝授手習鑑」
- 第5回 三大名作②「義経千本桜」
- 第6回 三大名作③「仮名手本忠臣蔵」
- 第7回 世話物①
- 第8回 世話物②
- 第9回 時代物・男の巻
- 第10回 時代物・女の巻①
- 第11回 時代物・女の巻②
- 第12回 学んできた作品について感想を話し合う
- 第13回 受講者による発表①
- 第14回 受講者による発表②
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

できれば文楽公演を鑑賞し、興味を持った作品を読んでください。

教科書

あらすじで読む文楽名作50

著者： 高木秀樹

出版社： 世界文化社

出版年： 2005

ISBN： 441805215

参考書

あやつられ文楽鑑賞

著者： 三浦しをん

出版社：双葉社

出版年：2011

ISBN： 978-4575713831

仏果を得ず

著者： 三浦しをん

出版社：双葉社

出版年：2011

ISBN： 4575514446

新編日本古典文学全集『浄瑠璃集

著者： 鳥越文蔵ほか

出版社：小学館

出版年：2002

ISBN： 4-09-658077-5

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

文楽に関連するテーマでレポートを作成する。もしくは、授業中に作品紹介のプレゼンテーションをする。

参考URL

日本芸術文化振興会

<http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/bunraku/jp/index>.

財団法人文楽協会

<http://www.bunraku.or.jp/jbunraku/index.html>

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講(近代文学研究Ⅳ)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

森見登美彦『ペンギン・ハイウェイ』を読む

獲得目標

これまでの森見作品のイメージを見事に打ち破った小説『ペンギン・ハイウェイ』の分析を、複数の観点から行う。また、適宜近代日本の小説に見られる諸問題との比較を行いつつ分析し、多くの作品に親しむことを目指す。

授業の内容

基本的には講義形式であるが、重要な問題については、時折受講者同士で意見交換を行う。毎回授業終了時に講義内容についての分析的なコメントを求める。コメントに対してはできるだけ次の授業の冒頭で回答したい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 小学4年生の視点(1)
- 第3回 小学4年生の視点(2)
- 第4回 小学4年生の視点(3)
- 第5回 小学4年生の視点(4)
- 第6回 「ニュータウン」の物語(1)
- 第7回 「ニュータウン」の物語(2)
- 第8回 「ニュータウン」の物語(3)
- 第9回 SFとして読むと……(1)
- 第10回 SFとして読むと……(2)
- 第11回 過去を振り返る語り(1)
- 第12回 過去を振り返る語り(2)
- 第13回 学問と学校制度(1)
- 第14回 学問と学校制度(2)
- 第15回 まとめとレポート指導

授業以外での学習方法

(1)第2回までには『ペンギン・ハイウェイ』を読了する。(2)プリントを授業終了時に配布した場合は、次の回までに目を通し、自分なりに問題点を整理しておく。(3)期末レポートに向けて、できるだけ多くの日本の近代小説を読む。

教科書

文庫版『ペンギン・ハイウェイ』

著者： 森見登美彦

出版社： 角川書店

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（50%）

小テスト（ ）

授業中課題（30%）

授業中発表等（ ）

参加度（20%）

学期末に授業内容に関するレポートの提出を求め、これを「試験」とする。「授業中課題」とは、毎回提出するコメント用紙のことであり、記述内容により評価が変わる。「授業中課題」の評価は「参加度」(出席)と連動するので、注意すること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講I(現代文学研究IV)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴・三重野 由加

テーマ

宮沢賢治の児童文学作品を解釈・鑑賞する。

獲得目標

児童文学の代表的な作品を数多く残している宮沢賢治の作品を解釈・鑑賞することで、文学研究、あるいは児童文学を教えるための基礎力を養成することを目的とする。

授業の内容

作品の丁寧な解釈と鑑賞を行う。そのため、受講生は事前に作品を読んできておく必要がある。講義後、グループディスカッションを行い、代表者に発表してもらう。授業進度により、数回の映画鑑賞を予定している。また、外部講師による講演1回が予定されている。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 「オツベルと象」
- 第3回 「なめとこ山の熊」①
- 第4回 「なめとこ山の熊」②
- 第5回 「なめとこ山の熊」③
- 第6回 「よだかの星」①
- 第7回 「よだかの星」②
- 第8回 外部講師による講演(講師の都合により日程変更の可能性有)
- 第9回 「グスコブトリの伝記」①
- 第10回 「グスコブトリの伝記」②
- 第11回 「グスコブトリの伝記」③
- 第12回 「銀河鉄道の夜」①
- 第13回 「銀河鉄道の夜」②
- 第14回 「銀河鉄道の夜」③
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

授業で取り上げる作品を、必ず事前に読んでおくこと。

教科書

作品で読む宮沢賢治

著者: みぎわ書房編

出版社: 白地社

出版年: 2007

ISBN: 4-89359-245-3

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講n(メディア・表現研究IV)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 重松 恵美

テーマ

現代日本におけるジャンヌ・ダルク小説

獲得目標

ジャンヌ・ダルクは、小説、戯曲、映画などの素材として、様々に取り扱われてきた。フランス史上の実在の人物ではあるが、作品として虚構化されるたびに、新たな人物像が造り出されている。現代日本におけるジャンヌ・ダルク小説とその舞台化映像を考察の対象とし、歴史小説の虚構性について考えてみたい。

授業の内容

長編歴史小説をテキストとし、多読、速読、熟読の技術習得を目指す。作品をていねいに読んで理解した上で、作品について受講生各自が考察したことをレポートにまとめる。レポートは800字×4回実施。第7回目(予定)には、グループディスカッションを実施し、作品についての意見発表と意見交換を行なう。

内 容

- 第1回 英米仏のジャンヌ・ダルク小説
- 第2回 佐藤賢一とジャンヌ・ダルク
- 第3回 『傭兵ピエール 上』一の巻
- 第4回 『傭兵ピエール 上』二の巻 1～4
- 第5回 『傭兵ピエール 上』二の巻 5～8
- 第6回 『傭兵ピエール 上』二の巻 9～12
- 第7回 ディスカッション
- 第8回 『傭兵ピエール 上』二の巻 13～16
- 第9回 『傭兵ピエール 上』二の巻 17～20
- 第10回 『傭兵ピエール 上』二の巻 21～24
- 第11回 『傭兵ピエール 上』二の巻 25～28
- 第12回 『傭兵ピエール 上』三の巻
- 第13回 宝塚歌劇『傭兵ピエール』前半
- 第14回 宝塚歌劇『傭兵ピエール』後半
- 第15回 『傭兵ピエール 下』

授業以外での学習方法

テキスト『傭兵ピエール 上』を、学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分(週あたり2時間)とする。

教科書

傭兵ピエール 上

著者: 佐藤賢一

出版社: 集英社文庫

出版年: 1999

ISBN: 978-4-08-747015

参考書

a10203e450

成績評価

試験 ()

授業中課題 (90)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 作品研究Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

獲得目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の内容

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

内 容

- 第1回 卒業制作の準備、内容決定。
- 第2回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第3回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第4回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第5回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第6回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第7回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第8回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第9回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第10回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第11回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第12回 卒業制作の完成。
- 第13回 互評、反省会。
- 第14回 自由制作。
- 第15回 自由制作 まとめ

授業以外での学習方法

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 作品研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

獲得目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の内容

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

内 容

- 第1回 卒業制作の準備、内容決定。
- 第2回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第3回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第4回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第5回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第6回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第7回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第8回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第9回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第10回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第11回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第12回 卒業制作の完成。
- 第13回 互評、反省会。
- 第14回 自由制作。
- 第15回 自由制作 まとめ

授業以外での学習方法

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（ ）

授業中課題（50）

参加度（30）

小テスト（ ）

授業中発表等（20）

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 作品研究Ⅳ <a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

獲得目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の内容

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

内 容

- 第1回 主体的作品制作と鑑賞 (1) 配字と構成
- 第2回 主体的作品制作と鑑賞 (2) 配字と構成
- 第3回 主体的作品制作と鑑賞 (3) 配字と構成
- 第4回 主体的作品制作と鑑賞 (4) 運筆のリズムと線質
- 第5回 主体的作品制作と鑑賞 (5) 運筆のリズムと線質
- 第6回 主体的作品制作と鑑賞 (6) 運筆のリズムと線質
- 第7回 主体的作品の習熟 (1) 古筆の再確認
- 第8回 主体的作品の習熟 (2) 変化と統一
- 第9回 主体的作品の習熟 (3) 墨法効果
- 第10回 制作作品の相互研究 <<中間発表>>
- 第11回 作品の完成に向けて (1) 全体構成の研究
- 第12回 作品の完成に向けて (2) 線質の確認と墨法効果
- 第13回 作品の完成に向けて (3) 作品の選別
- 第14回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (1)
- 第15回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (2)

授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 作品研究Ⅳ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

獲得目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の内容

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

内 容

- 第1回 主体的作品制作と鑑賞 (1) 配字と構成
- 第2回 主体的作品制作と鑑賞 (2) 配字と構成
- 第3回 主体的作品制作と鑑賞 (3) 配字と構成
- 第4回 主体的作品制作と鑑賞 (4) 運筆のリズムと線質
- 第5回 主体的作品制作と鑑賞 (5) 運筆のリズムと線質
- 第6回 主体的作品制作と鑑賞 (6) 運筆のリズムと線質
- 第7回 主体的作品の習熟 (1) 古筆の再確認
- 第8回 主体的作品の習熟 (2) 変化と統一
- 第9回 主体的作品の習熟 (3) 墨法効果
- 第10回 制作作品の相互研究 <<中間発表>>
- 第11回 作品の完成に向けて (1) 全体構成の研究
- 第12回 作品の完成に向けて (2) 線質の確認と墨法効果
- 第13回 作品の完成に向けて (3) 作品の選別
- 第14回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (1)
- 第15回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (2)

授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書学AⅡ(中世)〈Za〉

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	米澤 洋子	

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

前期の授業を受けて、後期は武家文書を中心に、古文書の様式について学習する。さらには東寺百合文書などの寺家文書も取り上げ、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。なお、講義の内容上、前期と連続して受講することが望ましい。

授業の内容

最初は前期の復習をかねた概説の講義を行い、各時代、各様式の古文書を受講者に割り当て、読んでもらう。機会があれば、博物館の展示などを見学する課外授業を実施する場合もある。

内 容

第1回	概説①	前期の復習
第2回	概説②	花押の世界
第3回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(1)
第4回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(2)
第5回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(3)
第6回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(4)
第7回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(1)
第8回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(2)
第9回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(3)
第10回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(4)
第11回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(1)
第12回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(2)
第13回	その他の古文書	寺家文書(1)
第14回	その他の古文書	寺家文書(2)
第15回	まとめ(予備)	

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内に扱える古文書は少ない。各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載された写真を見る。また博物館や資料館に足を運んで、実物の古文書に触れる。

教科書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN：

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976年

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ 60 ）

授業中課題（ 20 ）

授業中発表等（ 10 ）

参加度（ 10 ）

单元ごとに確認のテストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書学AⅡ(中世)〈Zb〉

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	米澤 洋子	

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

前期の授業を受けて、後期は武家文書を中心に、その様式について学習する。さらには東寺百合文書などの寺家文書も取り上げ、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。なお、講義の内容上、前期と連続して受講することが望ましい。

授業の内容

最初は前期の復習をかねた概説の講義を行い、各時代、各様式の古文書を受講者に割り当て、読んでもらう。機会があれば、博物館の展示などを見学する課外授業を実施する場合もある。

内 容

第1回	概説①	前期の復習
第2回	概説②	花押の世界
第3回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(1)
第4回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(2)
第5回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(3)
第6回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(4)
第7回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(1)
第8回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(2)
第9回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(3)
第10回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(4)
第11回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(1)
第12回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(2)
第13回	その他の古文書	寺家文書(1)
第14回	その他の古文書	寺家文書(2)
第15回	まとめ(予備)	

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内に扱える古文書は少ない。各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載された写真を見る。また博物館や資料館に足を運んで、実物の古文書に触れる。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代中世・編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN：

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976年

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（10）

参加度（10）

单元ごとに確認のテストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史特講h(近現代史) <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本近現代史理解のためのポイント(戦中・戦後編)

獲得目標

現代史理解には、社会科学の知識が欠かせません。太平洋戦争から現代までの日本史で議論の的になっていることを論じます。この授業では、政治学や国際関係論との接点にも注意を向けてもらい、現代史を理解するための基礎的知識獲得を目的とします。

授業の内容

概念整理を中心に重要な事例を取り上げます。通史的な内容は、授業中に紹介する参考文献などで学習してください。高校のときに使用していた日本史の教科書がある人は、現代史のところを読んでおいてください。

内 容

- 第1回 「大東亜」戦争 アジアの盟主
- 第2回 敗戦 連続か断絶か
- 第3回 戦後史の可能性 政治学と歴史学
- 第4回 日本国憲法 歴史的な位置づけ
- 第5回 吉田茂 ワンマンか名宰相か
- 第6回 55年体制(1) 冷戦史の文脈
- 第7回 安保体制 岸信介の決断
- 第8回 エコノミックアニマル 高度経済成長
- 第9回 アジア外交(1) 二つの中国・二つの朝鮮
- 第10回 アジア外交(2) 軍服をスーツに替えて
- 第11回 新自由主義の登場 戦後政治の総決算
- 第12回 バブル経済 歴史の教訓
- 第13回 日本型社会主義 第三の道はあるのか
- 第14回 55年体制(2) 歴史は終わらない
- 第15回 現代史の方法 全体のまとめ

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

はじめて学ぶ日本外交史

著者: 酒井一臣

成績評価

試験（0）
授業中課題（20）
参加度（10）

小テスト（70）
授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史特講j(ヨーロッパ・アメリカ史Ⅱ)〈Z〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

食という視点からヨーロッパ近現代の歴史を考察する

獲得目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ史についての理解を深める。およびベルリンを事例としてドイツ近現代史を考察する。

授業の内容

後期はヨーロッパの近代社会の形成と食生活との関わりについて考察する。およびベルリンの歴史遺産を探索することを通じてドイツ近現代史を考察する。

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
- 第2回 食に関する知の近代化(1)
- 第3回 食に関する知の近代化(2)
- 第4回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(1)
- 第5回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(2)
- 第6回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(3)
- 第7回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(4)
- 第8回 食事作法の近代化(1)
- 第9回 食事作法の近代化(2)
- 第10回 外食の発達(1)
- 第11回 外食の発達(2)
- 第12回 ベルリンの歴史を歩く(1)
- 第13回 ベルリンの歴史を歩く(2)
- 第14回 ベルリンの歴史を歩く(3)
- 第15回 まとめ・総括

授業以外での学習方法

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の食文化シリーズ

著者: 石毛直道(監修)

a103029050

出版社：農文協

出版年：2003-2008年

ISBN:

ベルリン <記憶の場所>を辿るたび

著者：A・シュタインガルト

出版社：昭和堂

出版年：2006

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書学AⅡ(古代・中世) <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	米澤 洋子	

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

前期の授業を受けて、後期は武家文書を中心に、その様式について学習する。さらに東寺百号文書などの寺家文書も取り上げ、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。なお、講義の内容上、前期と連続して受講することが望ましい。

授業の内容

最初は復習をかねた概説の講義を行い、各時代、各様式の古文書を受講者に割り当て、読んでもらう。機会があれば、博物館の展示などを見学する課外授業をおこなう場合もある。

内 容

- | | | |
|------|---------|------------|
| 第1回 | 概説① | 前期の復習 |
| 第2回 | 概説② | 花押の世界 |
| 第3回 | 武家文書Ⅰ | 鎌倉幕府の文書(1) |
| 第4回 | 武家文書Ⅰ | 鎌倉幕府の文書(2) |
| 第5回 | 武家文書Ⅰ | 鎌倉幕府の文書(3) |
| 第6回 | 武家文書Ⅰ | 鎌倉幕府の文書(4) |
| 第7回 | 武家文書Ⅱ | 室町幕府の文書(1) |
| 第8回 | 武家文書Ⅱ | 室町幕府の文書(2) |
| 第9回 | 武家文書Ⅱ | 室町幕府の文書(3) |
| 第10回 | 武家文書Ⅱ | 室町幕府の文書(4) |
| 第11回 | 武家文書Ⅲ | 戦国武将の文書(1) |
| 第12回 | 武家文書Ⅲ | 戦国武将の文書(2) |
| 第13回 | その他の古文書 | 寺家文書(1) |
| 第14回 | その他の古文書 | 寺家文書(2) |
| 第15回 | まとめ(予備) | |

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内に扱える古文書は少ない。各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載されている写真など見る。また博物館や資料館などに足を運んで、実物の古文書に触れる。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN：

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976年

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（10）

参加度（10）

單元ごとに確認テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書学AⅡ(古代・中世)

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	米澤 洋子	

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

前期の授業を受けて、後期は武家文書を中心に、その様式について学習する。さらには東寺百合文書などの寺家文書も取り上げ、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。なお、講義の内容上、前期と連続して受講することが望ましい。

授業の内容

最初は前期の復習をかねた概説の講義を行い、各時代、各様式の古文書を受講者に割り当て、読んでもらう。機会があれば、博物館の展示などを見学する課外授業を実施する場合もある。

内 容

第1回	概説①	前期の復習
第2回	概説②	花押の世界
第3回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(1)
第4回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(2)
第5回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(3)
第6回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書(4)
第7回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(1)
第8回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(2)
第9回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(3)
第10回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書(4)
第11回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(1)
第12回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書(2)
第13回	その他の古文書	寺家文書(1)
第14回	その他の古文書	寺家文書(2)
第15回	まとめ(予備)	

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内に扱える古文書は少ない。各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真を見る。また博物館や資料館などに足を運んで、実物の古文書に触れる。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997年

ISBN:

概説古文書学—古代・中世編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983年

ISBN：

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976年

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（10）

参加度（10）

单元ごとに確認のテストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

参考URL

2014 Syllabus

科目名 出土文字資料論 I

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	渡辺 晃宏	

テーマ

木簡を中心とする出土文字資料の特質と遺跡との関わり、そしてそれらが語る新しい歴史像

獲得目標

歴史を考える上で欠くことのできない位置を占めるようになった木簡をはじめとする出土文字資料の特質を理解した上で、実際に木簡を読み解きながら、資料としての木簡の役割について理解を深め、新しい日本史像を探求する。

授業の内容

具体的な木簡に即して、日本古代を中心とするの木簡の概論、各論を講義する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡をはじめとする出土文字資料や発掘調査の情報などを適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えているので、取り上げる木簡やその順序に変更や偏りが生じる場合がある。また、平城宮跡における現地講義に振り替える場合がある。

内 容

- 第1回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
- 第2回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
- 第3回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料が役割について考える。
- 第4回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料が役割について考える。
- 第5回 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料が役割について考える。
- 第6回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第7回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第8回 長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第9回 735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第10回 735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第11回 735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第12回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第13回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第14回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。
- 第15回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。

授業以外での学習方法

木簡をはじめとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などへの積極的な参加を期待する。

教科書

特に使用しない。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

適宜プリントなどを配布する。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

木簡から古代がみえる(岩波新書)新赤版1256

著者: 木簡学会

出版社: 岩波書店

出版年: 2010 ISBN: 978-4004312567

木簡が語る日本の古代(岩波新書)黄版231

著者: 東野治之

出版社: 岩波書店

出版年: 1983 ISBN: 978-4004202318

平城京と木簡の世紀(講談社学術文庫)

著者: 渡辺晃宏

出版社: 講談社

出版年: 2009 ISBN: 978-4062919043

平城京1300年全検証—奈良の都を木簡から読み解く

著者: 渡辺晃宏

出版社: 柏書房

出版年: 2010 ISBN: 978-4760137404

日本古代木簡選

著者: 木簡学会

出版社: 岩波書店

出版年: 1990 ISBN: 978-4000016803

日本古代木簡集成

著者: 木簡学会

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2003 ISBN: 978-4130201360

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

試験はレポートによる場合もある。

参考URL

奈良文化財研究所

<http://mikasa.nabunken.go.jp/>

木簡データベース

<http://www.nabunken.go.jp/Open/mokkan/mokkan.html>

木簡に関する日本唯一最大の総合的データベース

木簡字典

<http://jiten.nabunken.go.jp/index.html>

木簡の画像を文字単位で検索できる画像データベース

2014 Syllabus

科目名 日本史特講b(古代史)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

遺跡と歴史像の構成

獲得目標

歴史を考える重要な素材である遺跡を取り上げ、それと文献史料・出土文字資料・絵図資料等の解釈を組み合わせることを通して、ある時代の歴史像の総合的な構成に取り組む。

授業の内容

都宮跡・城柵跡・国郡庁跡・寺院跡・荘園遺跡など、いくつかのジャンルの遺跡を選んで話を進めるが、特に地方社会の様相を示す遺跡に重点を置く。また、条件が許せば、遺跡を見学する学外授業を行う場合がある。

内 容

- 第1回 遺跡とは何か
- 第2回 遺跡と史料(資料)
- 第3回 遺跡・出土文字資料と歴史像のチェック
- 第4回 国衙の機能と実像①
- 第5回 国衙の機能と実像②
- 第6回 国衙の廃絶と継承
- 第7回 多賀城跡と東北の城柵遺跡①
- 第8回 多賀城跡と東北の城柵遺跡②
- 第9回 遺跡と物流
- 第10回 地方山岳寺院の誕生と発展①
- 第11回 地方山岳寺院の誕生と発展②
- 第12回 荘園の成立・発展と荘園遺跡
- 第13回 荘園の経営と遺跡
- 第14回 遺跡の保存と整備
- 第15回 まとめ(この間に学外授業を行う場合がある)

授業以外での学習方法

遺跡は、さまざまな材料を基に多面的に理解するものである。書籍や報告書だけでなく、遺跡を訪れたり、説明会に参加したりして、遺跡と文献史料の両方の視点から学ぶ姿勢を身につけてほしい。なお、機会があれば、1回程度、資料館または遺跡の見学を行いたい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史特講d(中世史)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 大田 壮一郎

テーマ

室町時代史研究の可能性

獲得目標

室町時代史研究の軌跡と現在の研究水準を理解し、研究課題を発見する方法を身につける。

授業の内容

日本中世史研究は、主として中世前期を対象に検討されてきた。しかし近年はとくに室町・戦国時代に関する研究が盛んである。こうした研究動向を概観しながら、主に室町時代史研究の現状について検討する。ただ研究の流行を追うのではなく、背景や経緯を踏まえて考える視点を養ってほしい。各分野の研究動向の紹介とともに、論点となる重要史料についての分析も行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本中世史の成立と近代国家
- 第3回 戦後歴史学と中世史研究
- 第4回 中世史研究の動向(1)－領主制論－
- 第5回 中世史研究の動向(2)－武家政権論－
- 第6回 中世史研究の新展開(1)－権門体制論1－
- 第7回 中世史研究の新展開(2)－権門体制論2－
- 第8回 中世史研究の到達点と課題
- 第9回 室町時代史の位置
- 第10回 室町時代史研究の現在(1)公武関係論
- 第11回 室町時代史研究の現在(2)公武関係論
- 第12回 室町時代史研究の現在(3)首都と地域社会
- 第13回 室町時代史研究の現在(4)宗教と国家
- 第14回 室町時代史研究の現在(5)宗教と国家
- 第15回 講義のまとめ
- 第16回 定期試験

授業以外での学習方法

地の利を活かして京都を歩いて実際に現地を訪れる。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

室町・戦国期研究を読みなおす

著者: 中世後期研究会編

出版社： 思文閣出版

出版年： 2007年

ISBN：

室町幕府の政治と宗教

著者： 大田 壮一郎

出版社： 塙書房

出版年： 2014年

ISBN：

成績評価

試験（70）

小テスト（）

授業中課題（30）

授業中発表等（）

参加度（）

私語をはじめ、他の受講者への迷惑になる行為については受講取り消しを含め厳しく対処する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史特講f(近世史)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 鍛治 宏介

テーマ

江戸時代の書物・文字文化・教育

獲得目標

①書物の時代としての江戸時代の文化の特色を学ぶこと。②史料から歴史を描き出す歴史学の学問方法を学ぶこと。③出版物を史料として使いこなす作法を学ぶこと

授業の内容

江戸時代は書物の時代ともいわれるほど文字文化が浸透した時代であり、出版文化の隆盛、手習い教育の広がりにより、現代にも繋がる多くの文化が生まれ社会的に定着した時代です。本講義では、色鮮やかな浮世絵を読み解いたり、和本の作り方なども学んだりしながら、江戸時代における書物文化の特色について学んでいきます。なお、本講義では、毎回の講義にて、疑問・感想の提出を求めます。毎回、講義冒頭で、前回の疑問への回答を行います。場合によっては、回答だけで一コマを費やすこともあるほど、講師も全力で応えますので、是非応え甲斐のある疑問・質問が書けるように、能動的な姿勢で講義に挑んで下さい。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 江戸時代の地震となまず
- 第3回 江戸文学としての『源氏物語』
- 第4回 判じ絵を読み解く
- 第5回 江戸時代人の常識と教養
- 第6回 江戸時代の本の作り方
- 第7回 浮世絵の作り方と本屋仲間
- 第8回 江戸時代前期の出版と法
- 第9回 歌麿と幕府
- 第10回 幕末期の諷刺浮世絵
- 第11回 幕末期政治情報の流通
- 第12回 音読から黙読へ
- 第13回 江戸時代の学び
- 第14回 〈子供〉の誕生
- 第15回 江戸時代の識字率は世界いちいい！？

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

絵解き幕末諷刺画と天皇

著者: 奈倉哲三編著

出版社： 柏書房

出版年： 2007

ISBN:

錦絵はいかにつくられたか

著者： 国立歴史民俗博物館編

出版社： 国立歴史民俗博物館

出版年： 2009

ISBN:

幕末江戸の文化

著者： 南和男

出版社： 塙書房

出版年： 1998

ISBN:

江戸の判じ絵

著者： 岩崎均史

出版社： 小学館

出版年： 2004

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 ()

受講者の数によっては試験ではなく、レポートにすることもあります。授業中課題は毎回の提出を求めますので、出席も兼ねています。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 近現代史特講b(日本)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本近現代史理解のためのポイント(戦中・戦後編)

獲得目標

現代史理解には、社会科学の知識が欠かせません。太平洋戦争から現代までの日本史で議論の的になっていることを論じます。この授業では、政治学や国際関係論との接点にも注意を向けてもらい、現代史を理解するための基礎的知識獲得を目的とします。

授業の内容

概念整理を中心に重要な事例を取り上げます。通史的な内容は、授業中に紹介する参考文献などで学習してください。高校のときに使用していた日本史の教科書がある人は、現代史のところを読んでおいてください。

内 容

- 第1回 「大東亜」戦争 アジアの盟主
- 第2回 敗戦 連続か断絶か
- 第3回 戦後史の可能性 政治学と歴史学
- 第4回 日本国憲法 歴史的な位置づけ
- 第5回 吉田茂 ワンマンか名宰相か
- 第6回 55年体制(1) 冷戦史の文脈
- 第7回 安保体制 岸信介の決断
- 第8回 エコノミックアニマル 高度経済成長
- 第9回 アジア外交(1) 二つの中国・二つの朝鮮
- 第10回 アジア外交(2) 軍服をスーツに替えて
- 第11回 新自由主義の登場 戦後政治の総決算
- 第12回 バブル経済 歴史の教訓
- 第13回 日本型社会主義 第三の道はあるのか
- 第14回 55年体制(2) 歴史は終わらない
- 第15回 現代史の方法 全体のまとめ

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

はじめて学ぶ日本外交史

著者: 酒井一臣

出版社：昭和堂

出版年：2013年

ISBN:

成績評価

試験（0）

授業中課題（20）

参加度（10）

小テスト（70）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 近現代史特講d(世界)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

食という視点からヨーロッパ近現代の歴史を考察する

獲得目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ史についての理解を深める。およびベルリンを事例としてドイツ近現代史を考察する。

授業の内容

後期はヨーロッパの近代社会の形成と食生活との関わりについて考察する。およびベルリンの歴史遺産を探索することを通じてドイツ近現代史を考察する。

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
- 第2回 食に関する知の近代化(1)
- 第3回 食に関する知の近代化(2)
- 第4回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(1)
- 第5回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(2)
- 第6回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(3)
- 第7回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(4)
- 第8回 食事作法の近代化(1)
- 第9回 食事作法の近代化(2)
- 第10回 外食の発達(1)
- 第11回 外食の発達(2)
- 第12回 ベルリンの歴史を歩く(1)
- 第13回 ベルリンの歴史を歩く(2)
- 第14回 ベルリンの歴史を歩く(3)
- 第15回 まとめ・総括

授業以外での学習方法

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の食文化シリーズ

著者: 石毛直道(監修)

出版社：農文協

出版年：2003-2008年

ISBN:

ベルリン <記憶の場所>を辿るたび

著者：A・シュタインガルト

出版社：昭和堂

出版年：2006

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史特講d(東アジア史Ⅳ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

獲得目標

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第2回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第3回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
- 第4回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第5回 仏典の漢訳と仏像の制作
- 第6回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
- 第7回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
- 第8回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第9回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第10回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
- 第11回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察(キジル石窟、敦煌石窟)
- 第12回 敦煌莫高窟からみる仏教美術の諸問題
- 第13回 河西地域からみる漢民族化仏教芸術の諸問題
- 第14回 雲岡石窟・龍門石窟からみる仏教造像の様式
- 第15回 内容総括

授業以外での学習方法

授業時に指定する参考書をよく読むことと日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史特講f(中央・西アジア史Ⅱ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 塩野崎 信也

テーマ

イランを支配したテュルク人たち

獲得目標

イランの地を支配したテュルク(トルコ)系の王朝の歴史を紹介し、中央・西アジア史において彼らが果たした役割を考察する

授業の内容

ペルシア人の国として知られるイランであるが、歴史的に見ると、この地を支配した王朝はテュルク系であることが多い。本講義では、これらテュルク系諸王朝の歴史を通じて、現在「イラン的」とみなされる諸要素がどのように成立していったのかを考察する。また、前近代のイスラーム世界における「国家」のあり方の理解を目指す。特に中心的なトピックとなるのは、その首都エスファハーンが「世界の半分」と称されるほどの栄華を誇ったサファヴィー朝である。

内 容

- 第1回 イランとは、どこか？
- 第2回 テュルク人とは、誰か？
- 第3回 黒羊朝・白羊朝とサファヴィー教団
- 第4回 サファヴィー朝前期の国家体制
- 第5回 サファヴィー朝後期の国家体制
- 第6回 サファヴィー朝時代の文化
- 第7回 イランのシーア派化
- 第8回 シーア派の歴史
- 第9回 キズィルバシュの末裔たち(1): ナーデル・シャー
- 第10回 キズィルバシュの末裔たち(2): ガージャール朝
- 第11回 『シャー・ナーメ』の世界
- 第12回 トウルクマーンとセルジューク朝
- 第13回 モンゴルとティムール朝
- 第14回 ティムール朝の文化
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

関連図書は授業中に適宜指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史特講h(中央・西アジア史Ⅳ)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 宮本 純二

テーマ

古代エジプト王朝史Ⅱ

獲得目標

エジプト古代王朝史の後半の流れを知り、理解を深める

授業の内容

前期の世界史特講gに引き続き、国家の統一が再び崩壊する第二中間期を契機として、輝かしい繁栄が再来する新王国時代、さらには衰退へと向かう末期王朝時代までの古代エジプト王朝史の後半を辿る。さらに、アレクサンダー大王によるエジプト征服や女王クレオパトラ(7世)に代表されるプトレマイオス王朝を概観する。なお、トメス一族やハトシェプスウト女王、異端王アクエンアテン、ツタンカーメン王ならびにラメセス大王(2世)が生きた時代として知られる新王国時代が講義の中心となる(授業の進め方は世界史特講gに同じ)。

内 容

- 第1回 講座解説(映像資料観賞を含む)
- 第2回 王朝史前半を振り返る／大民族移動の嵐
- 第3回 第二中間期:異民族ヒクソスの支配
- 第4回 第二中間期:エジプト解放戦争
- 第5回 第二中間期:再統一と武力外交
- 第6回 新王国時代:ハトシェプスウト女王1
- 第7回 新王国時代:ハトシェプスウト女王2
- 第8回 新王国時代:トメス3世の侵略戦争
- 第9回 新王国時代:アメンヘテプ3世と帝国の栄華
- 第10回 新王国時代:アマルナ宗教改革の断行
- 第11回 新王国時代:ツタンカーメン王の生涯
- 第12回 新王国時代:ラメセス2世の奮闘・栄光の終焉
- 第13回 末期王朝～ギリシア・ローマ時代:新時代の幕開け・アレクサンダー大王の到来
- 第14回 総括(映像資料観賞)
- 第15回 総括(映像資料観賞・レポート提出を含む)

授業以外での学習方法

古代オリエント史に関連する研究成果を掲載している雑誌や論集に目を通すことも大切である。主なものとしては尾形禎亮他／岩波講座・世界歴史2『オリエント世界』、日本オリエント学会・編集発行の研究雑誌『オリエント』、早稲田大学エジプト学会・編集発行の『エジプト学研究』など。

教科書

教科書 随時、コピーで配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

古代エジプト入門(補助テキスト、購入が望ましい)

著者: 内田杉彦

出版社: 岩波ジュニア新書

出版年: 2007

ISBN:

参考書

岩波講座・世界歴史2・オリエント世界

著者: 尾形禎亮他

出版社: 岩波書店

出版年: 1998

ISBN:

古代オリエント辞典

著者: 日本オリエント学会編

出版社: 岩波書店

出版年: 2004

ISBN:

大英博物館・古代エジプト百科事典

著者: イアン・ショー他

出版社: 原書房

出版年: 1997

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (85)

授業中発表等 ()

参加度 (15)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界女性史特講Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリス女性生活誌2

獲得目標

近世以降のイギリスにおける女性の在り様、活動を検証することを通して、「西洋近代」と女性史のかかわりを考察する

授業の内容

上記のテーマ、目的を一年かけて追及するにあたり、後期は以下のトピックについて講義する(順序は入れ替わる可能性もある)

内 容

- 第1回 フェミニズム① フェミニズム発生の背景
- 第2回 フェミニズム② 法的無能力からの解放を求めて
- 第3回 フェミニズム③ レディに相応しい職とは何か
- 第4回 フェミニズム④ 女子教育改革の進展
- 第5回 フェミニズム⑤ 大学の門戸開放は可能か
- 第6回 フェミニズム⑥ ミドルクラス女性にとっての参政権
- 第7回 フェミニズム⑦ 戦闘的女性参政権運動
- 第8回 インターミッション
- 第9回 工業化社会の女性労働① 伝統的女性労働の変容
- 第10回 工業化社会の女性労働② ホワイトブラス職の登場
- 第11回 工業化社会の女性労働③ 都市的貧困と家内労働
- 第12回 工業化社会の女性労働④ 社会帝国主義と反苦汗労働運動
- 第13回 工業化社会の女性労働⑤ 労働組合とsocial feminism
- 第14回 工業化社会の女性労働⑥ 女性協同組合ギルドが目指したこと
- 第15回 まとめと確認

授業以外での学習方法

授業ごとに配布するコメント・シートによる復習と予習 適宜指示する参考文献の精読

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **自然地理学**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 上野 裕

テーマ

自然環境と人間の関わり

獲得目標

中学高校で自然地理学分野を教えることを念頭に置きながら、自然地理の基礎的概念の理解と、自然と人間の関わりそしてその課題を発見できるようになること。

授業の内容

前半で自然地理の基礎、後半で人間活動との関わりについて、多くの事例をあげ検討していく。

内 容

- 第1回 講義の目標、計画、留意事項の説明
- 第2回 地形の形成：大地形と小地形
- 第3回 山地の形成と分類
- 第4回 平野の形成：侵食平野
- 第5回 平野の形成：沖積平野(1)
- 第6回 平野の形成：沖積平野(2)
- 第7回 海岸地形の形成
- 第8回 地形の形成：大阪平野の形成を事例に
- 第9回 気候環境の形成
- 第10回 気候環境と人間活動
- 第11回 地形図と読図：基礎事項
- 第12回 地形図と読図：模式図を用いて
- 第13回 地形図と読図：地形図を用いて
- 第14回 地形と人間：水害・地震の災害との関係
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

高校で地理を履修していなかった学生は、地理分野に関してある程度自習しておくことが望ましい。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

a10302g550

成績評価

試験（60%）

授業中課題（10%）

参加度（30%）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ〈a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 淵原 智幸

テーマ

『日本書紀』を読む

獲得目標

7世紀以前の日本を考える上で最も基本的な文献史料『日本書紀』を丁寧に読み込む。これにより古代史の基礎知識を修得するとともに、自ら問題を発見し・調べ・考え・発表する能力、つまりは研究能力の基礎を身につける。

授業の内容

各自の担当範囲について、漢和辞典や歴史事典類はもちろん、関連史(資)料や先行研究などまで調べた上で、レジメにまとめて報告してもらう。なお毎回、史料の読み下しを報告者以外の人に行ってもらおう。この読み下しも成績評価に大きく反映される。

内 容

- 第1回 ガイダンス、分担の決定
- 第2回 『日本書紀』解題
- 第3回 個別報告
- 第4回 個別報告
- 第5回 個別報告
- 第6回 個別報告
- 第7回 個別報告
- 第8回 個別報告
- 第9回 個別報告
- 第10回 個別報告
- 第11回 個別報告
- 第12回 個別報告
- 第13回 個別報告
- 第14回 個別報告
- 第15回 個別報告

授業以外での学習方法

自分の担当回か否かを問わず、毎回あらかじめ史料を読んでおくこと。読み下し方を確認するのはもちろん、できるだけ内容についても調べておいてほしい。

教科書

『日本書紀』〈5〉

著者： 坂本太郎他校注

出版社： 岩波文庫

出版年：

ISBN：

参考書

新編日本古典文学全集『日本書紀』

著者： 小島憲之他校注

出版社: 小学館

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

「参加度」には出席率だけでなく、担当範囲以外の読み下しや質問・意見発表といった平常点が含まれる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本史講読Ⅱ **

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 山田 徹

テーマ

中世の事件簿

獲得目標

中世史料の総合的読解力と、関連事項を調べる力をつける。

授業の内容

歴史を読み解いていくには、文書・記録・法制史料など、さまざまな史料からの情報を、総合的に生かさなければなりません。本講では、上記テーマにかんするさまざまな史料を読み進めていくことにより、卒業論文へもつながる、中世史料の総合的読解力を養成します。

内 容

- 第1回 ガイダンス(テキストの配布と分担決定)
- 第2回 史料講読の基礎確認
- 第3回 史料講読の基礎確認 第一課題提出
- 第4回 史料の講読
- 第5回 史料の講読
- 第6回 史料の講読
- 第7回 史料の講読
- 第8回 史料の講読
- 第9回 史料の講読
- 第10回 史料の講読
- 第11回 史料の講読
- 第12回 史料の講読
- 第13回 史料の講読
- 第14回 史料の講読
- 第15回 史料の講読 第二課題提出 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

授業で取り上げることのできる史料は限られています。それ以外にも、興味を持ったら、それを史料で確認するよう心がけ、さまざまな史料に触れてみるようにしてみてください。また、授業中に指示する研究書や論文にも、ぜひ目を通してみましょう。そうした努力が、卒業論文へとつながります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

喧嘩両成敗の誕生

著者: 清水克行

出版社：講談社

出版年：2006

ISBN：

戦国の作法

著者：藤木久志

出版社：平凡社

出版年：1998

ISBN：

中世神判史

著者：清水克行

出版社：中央公論社

出版年：2010

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

第1回に決定した担当範囲に関して、読み下し・逐語訳・関連事項についてのレジメを第3回までに提出してもらい（第一課題）、第4回以降の進行は、そのレジメに沿った報告を順番におこなうかたちで進めていきます。成績評価は、この第一課題と報告のほか、授業の途中で提示する第二課題（第15回までに提出）によっておこないます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ <c>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 尾下 成敏

テーマ

近世の京都に関する史料を読む

獲得目標

江戸時代の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。

授業の内容

江戸時代中後期の京都の様相がわかる史料(町触など)を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した逐語訳・事項解説の作成と報告。

内 容

- 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説
- 第2回 テキストに関する概説
- 第3回 史料の講読
- 第4回 史料の講読
- 第5回 史料の講読
- 第6回 史料の講読
- 第7回 史料の講読
- 第8回 史料の講読
- 第9回 史料の講読
- 第10回 史料の講読
- 第11回 史料の講読
- 第12回 史料の講読
- 第13回 史料の講読
- 第14回 史料の講読
- 第15回 まとめ ※ なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料などに慣れ親しんで欲しい。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (30)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ <d>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

明治期から昭和期までの史料を読む

獲得目標

明治期から昭和期までのあらゆる種類の史料をスムーズに読み、内容を把握できる能力を養う。

授業の内容

「朝日新聞」などの新聞、明治期の政治家の書簡や日記、地域(京都、滋賀)などの史料を読んでいく。授業は受講生が用意したレジュメをもとに進められる。受講生は割り当てられた史料について、文の音読ができるようにしたうえで、語句の意味、人名や事件名、歴史的背景を調べ、論点はレジュメ化して提示し、発表することが求められる。史料は配布する。

内 容

- 第1回 授業の進め方、史料についてのガイダンス
- 第2回 史料についてのガイダンス
- 第3回 受講生による発表、質疑応答、教師からの補足説明
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 後期のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史講読Ⅱ <a>

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史 史料読解

獲得目標

中国では各種の学問の中で、史学がもっとも発達し、2千年にわたって歴代王朝の歴史が書き続けられた。これらの文献を読み、歴史叙述の持続及び用語、構文を理解する。

授業の内容

古代人物・仏教・儒教思想、文物典章制度に関する基礎文献をプリントにして配布し、毎回全員で輪読し、内容から問題展を読み取る。

内 容

- 第1回 授業の目的と進め方の説明
- 第2回 テキストの著者および内容概略の紹介
- 第3回 輪読とコメント・質問 その1
- 第4回 輪読とコメント・質問 その2
- 第5回 輪読とコメント・質問 その3
- 第6回 輪読とコメント・質問 その4
- 第7回 輪読とコメント・質問 その5
- 第8回 輪読とコメント・質問 その6
- 第9回 輪読とコメント・質問 その7
- 第10回 輪読とコメント・質問 その8
- 第11回 輪読とコメント・質問 その9
- 第12回 輪読とコメント・質問 その10
- 第13回 輪読とコメント・質問 その11
- 第14回 輪読とコメント・質問 その12
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

角川新字源

著者： 小川環樹他

出版社： 角川書店

出版年：

ISBN：

a10303a850

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史講読Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 鷲田 睦朗

テーマ

世界史文献の批判的購読

獲得目標

卒業論文を作成するために必要となる世界史文献を批判的に読む方法を実践的に身につけることを目標とする

授業の内容

前半：世界史文献を読んだ上でのプレゼンテーションの実践 後半：書評の読解・執筆方法論の指導と実践

内 容

- 第1回 オリエンテーション・講師によるプレゼンテーション実演
- 第2回 学生によるプレゼンテーション(1)
- 第3回 学生によるプレゼンテーション(2)
- 第4回 学生によるプレゼンテーション(3)
- 第5回 学生によるプレゼンテーション(4)
- 第6回 学生によるプレゼンテーション(5)
- 第7回 学生によるプレゼンテーション(6)
- 第8回 学生によるプレゼンテーション(7)
- 第9回 学生によるプレゼンテーション(8)
- 第10回 学生によるプレゼンテーション(9)
- 第11回 学生によるプレゼンテーション(10)
- 第12回 学生によるプレゼンテーション(11)
- 第13回 書評とは何か、書評の使い方
- 第14回 書評を書いてみよう
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

(山川出版社の「世界史リブレット」シリーズ等の)本を読んだのプレゼン資料作成、書評作成。詳しくは講義で説明する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a10303a852

参加度（30）

①プレゼンテーション、②他の人のプレゼンテーション時の質問等、③書評を総合的に判断して成績を評価する

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ <a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 増淵 徹

テーマ

卒業研究の完成

獲得目標

卒業研究をさらに進め、卒業論文として集成させることを目的とする。後半は個別指導を重点に置く。

授業の内容

参加者各人の研究テーマの特定断面を報告し、それに関する議論を行う形で授業を展開させる。なお、古代史関係の遺産の見学(1回)や、必要に応じて、卒業研究の参考となるように、学外学習や学外講師を招いての講演会を行うことがある。

内 容

- 第1回 研究の進行状況のチェックと指導
- 第2回 中間報告に向けての指導
- 第3回 中間報告での指摘事項及び構想再検討への指導
- 第4回 歴史遺産見学(学外授業)
- 第5回 個別報告と質疑(1)
- 第6回 個別報告と質疑(2)
- 第7回 個別報告と質疑(3)
- 第8回 個別発表と質疑(4)
- 第9回 個別発表と質疑(5)
- 第10回 個別発表と質疑(6)
- 第11回 個別発表と質疑(7)
- 第12回 個別発表と質疑(8)
- 第13回 卒業研究の整理と評価(1)
- 第14回 卒業研究の整理と評価(2)
- 第15回 卒業研究の整理と評価(3)

授業以外での学習方法

資料・論文の蒐集に努めること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本史演習Ⅳ **

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 細川 涼一

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を完成させる。日本史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。

授業の内容

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
- 第2回 個別発表(1)
- 第3回 個別発表(2)
- 第4回 個別発表(3)
- 第5回 個別発表(4)
- 第6回 個別発表(5)
- 第7回 個別発表(6)
- 第8回 個別発表(7)
- 第9回 個別発表(8)
- 第10回 個別発表(9)
- 第11回 個別発表(10)
- 第12回 個別発表(11)
- 第13回 個別発表(12)
- 第14回 個別発表(13)
- 第15回 個別発表(14)
- 第16回 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

卒論の下書きの添削指導を授業外でも行う

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本史演習IV <c>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 尾下 成敏

テーマ

卒業研究の完成に向けて

獲得目標

各自の研究テーマを深め、卒業論文を執筆し完成させる。

授業の内容

まずは各自が各自の研究テーマにもとづく報告を行い、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う。報告終了後は卒業論文の下書きを書き進める。

内 容

- 第1回 卒業論文中間発表会に向けた報告準備
- 第2回 卒業論文中間発表会に向けた報告準備
- 第3回 卒業論文中間発表会
- 第4回 卒業論文の形式と書き方
- 第5回 下書きの検討
- 第6回 下書きの検討
- 第7回 下書きの検討
- 第8回 下書きの検討
- 第9回 下書きの検討
- 第10回 下書きの検討
- 第11回 下書きの検討
- 第12回 卒業論文の最終調整
- 第13回 卒業論文の最終調整
- 第14回 反省会
- 第15回 歴史学とは何か？

授業以外での学習方法

授業中に指示する。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ <d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 高久 嶺之介

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文の作成

授業の内容

各自のテーマにもとずく個別報告を行い、さらに深めた討議を行う。

内 容

- 第1回 卒業論文作成のための指導(1)
- 第2回 卒業論文作成のための指導(2)
- 第3回 卒業論文中間報告
- 第4回 卒論の内容にかかわる個別報告(1)
- 第5回 卒論の内容にかかわる個別報告(2)
- 第6回 卒論の内容にかかわる個別報告(3)
- 第7回 卒論の内容にかかわる個別報告(4)
- 第8回 卒論の内容にかかわる個別報告(5)
- 第9回 卒論の内容にかかわる個別報告(6)
- 第10回 卒論の内容にかかわる個別報告(7)
- 第11回 卒論の内容にかかわる個別報告(8)
- 第12回 卒論の内容にかかわる個別報告(9)
- 第13回 卒業論文作成後の反省会(1)
- 第14回 卒業論文作成後の反省会(2)
- 第15回 卒業論文作成後の反省会(3)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 ()

小テスト ()
 授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 酒井 一臣

テーマ

卒業研究の完成に向けて

獲得目標

この授業では、卒業論文作成に向けて、各自のテーマに関して研究を進めていきます。発表と質疑応答を通じ、各自のテーマを深めて卒業論文の完成を目的とします。

授業の内容

各自のテーマに従い、発表を行います。発表に対して質問をすることも重要です。発表と質疑応答を通じて、卒業論文の内容を高めていきましょう。

内 容

- 第1回 卒業論文の説明(1)
- 第2回 卒業論文の説明(2)
- 第3回 個人発表(1)
- 第4回 個人発表(2)
- 第5回 個人発表(3)
- 第6回 個人発表(4)
- 第7回 個人発表(5)
- 第8回 個人発表(6)
- 第9回 個人発表(7)
- 第10回 個人発表(8)
- 第11回 個人発表(9)
- 第12回 個人発表(10)
- 第13回 卒業論文の仕上げ(1)
- 第14回 卒業論文の仕上げ(2)
- 第15回 卒業論文の仕上げ(3)

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a103040255

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ〈a〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 王 衛明

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を完成させる 内 容 世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。

授業の内容

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導(なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある) なお、期間中、歴史学に関する講演会を行うことがある。

内 容

- 第1回 個別発表(1)
- 第2回 個別発表(2)
- 第3回 個別発表(3)
- 第4回 個別発表(4)
- 第5回 個別発表(5)
- 第6回 個別発表(6)
- 第7回 個別発表(7)
- 第8回 個別発表(8)
- 第9回 個別発表(9)
- 第10回 個別発表(10)
- 第11回 個別発表(11)
- 第12回 個別発表(12)
- 第13回 個別発表(13)
- 第14回 個別発表(14)
- 第15回 個別発表(15)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 小野 浩

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を完成させる 内 容 世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。

授業の内容

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導(なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある) なお、期間中、歴史学に関する講演会を行うことがある。

内 容

- 第1回 個別発表(1)
- 第2回 個別発表(2)
- 第3回 個別発表(3)
- 第4回 個別発表(4)
- 第5回 個別発表(5)
- 第6回 個別発表(6)
- 第7回 個別発表(7)
- 第8回 個別発表(8)
- 第9回 個別発表(9)
- 第10回 個別発表(10)
- 第11回 個別発表(11)
- 第12回 個別発表(12)
- 第13回 個別発表(13)
- 第14回 個別発表(14)
- 第15回 個別発表(15)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ <c>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 松浦 京子

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業研究に真摯に取り組み、卒業論文の完成をめざす

授業の内容

これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆する。そのための個別指導などを行なう。授業内容は、次のことに留意しつつすすめる。○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ゼミ生各自が事前に発表を行い、全員での討論を経て指導などを行う。○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する。○個々の問題についての個別指導 なお、中間発表に備えて、9月の休暇期間に集中ゼミを行なう。なお、期間中、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 中間発表に向けての論文タイトル決定、レジュメの作成
- 第2回 レジュメのチェック
- 第3回 卒業論文中間発表
- 第4回 卒業論文の執筆要領についての解説
- 第5回 卒業論文執筆に向けて個別指導①
- 第6回 卒業論文執筆に向けて個別指導②
- 第7回 卒業論文執筆に向けて個別指導③
- 第8回 卒業論文執筆に向けて個別指導④
- 第9回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑤
- 第10回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑥
- 第11回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑦
- 第12回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑧
- 第13回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑨
- 第14回 卒業論文総括
- 第15回 卒業後に向けて懇談

授業以外での学習方法

自らの卒業研究における課題に真摯に取り組み、文献の収集、精読、情報整理、分析し、それらの成果をゼミおよび面談において披露できるようにする。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅳ <a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 酒井 一臣

テーマ

卒業研究の完成に向けて

獲得目標

この授業では、卒業論文作成に向けて、各自のテーマに関して研究を進めていきます。発表と質疑応答を通じ、各自のテーマを深めて卒業論文の完成を目的とします。

授業の内容

各自のテーマに従い、発表を行います。発表に対して質問をすることも重要です。発表と質疑応答を通じて、卒業論文の内容を高めていきましょう。

内 容

- 第1回 卒業論文の説明(1)
- 第2回 卒業論文の説明(2)
- 第3回 個人発表(1)
- 第4回 個人発表(2)
- 第5回 個人発表(3)
- 第6回 個人発表(4)
- 第7回 個人発表(5)
- 第8回 個人発表(6)
- 第9回 個人発表(7)
- 第10回 個人発表(8)
- 第11回 個人発表(9)
- 第12回 個人発表(10)
- 第13回 卒業論文の仕上げ(1)
- 第14回 卒業論文の仕上げ(2)
- 第15回 卒業論文の仕上げ(3)

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a10304a750

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅳ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 南 直人

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆するが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行う。

授業の内容

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていく。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する。○個々の問題についての個別指導 なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある。

内 容

- 第1回 個別発表(1)
- 第2回 個別発表(2)
- 第3回 個別発表(3)
- 第4回 個別発表(4)
- 第5回 個別発表(5)
- 第6回 個別発表(6)
- 第7回 個別発表(7)
- 第8回 個別発表(8)
- 第9回 個別発表(9)
- 第10回 個別発表(10)
- 第11回 個別発表(11)
- 第12回 個別発表(12)
- 第13回 個別発表(13)
- 第14回 個別発表(14)
- 第15回 個別発表(15)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化遺産

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 増淵 徹

テーマ

京都市の歴史遺産を学ぶ

獲得目標

京都市内に残る遺跡・建造物・庭園・美術工芸品・民俗文化財などの多様な文化遺産に対する知識を深め、それらの遺産の保護について問題意識をもつ。

授業の内容

京都市文化市民局文化財保護課の技師の方々に講師に、市内の各種の文化遺産とその特徴、及び調査や保護上の課題を解説する形式で進める(集中講義)。講義中に2～3回の現地見学を行う(見学料等が必要になる場合がある)。なお、以下の予定は2013年度実施の内容に準拠しており、各回の内容・順番は見学との関係で変更する場合があります、その際にはあらためて予定を掲示する。

内 容

- 第1回 京都の歴史と文化遺産の特徴(総説)
- 第2回 京都市内の文化遺産と保護の体系
- 第3回 京都市の史跡と世界遺産
- 第4回 町家と民家の庭園 ー以上、第1日ー
- 第5回 民俗文化財の保護と活用
- 第6回 市民が推薦する歴史遺産
- 第7回 文化遺産見学(1)
- 第8回 文化的景観 ー以上、第2日ー
- 第9回 京都の美術
- 第10回 史跡の整備と活用
- 第11回 文化遺産見学(2)ー①
- 第12回 文化遺産見学(3)ー② ー以上、第3日ー
- 第13回 京都市の遺跡
- 第14回 京都市の文化財建造物の保護
- 第15回 まとめー文化遺産の保護とその課題ー ー以上、第4日ー

授業以外での学習方法

日常的にたくさんの文化遺産を訪れ、自身で問題意識をもってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

a10304d180

参加度（50）

「授業中課題」として、毎日の小レポートと、全体をまとめるレポートを課す。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 美術工芸史概説〈Z〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

獲得目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の内容

多様な実習により、文化財に対すべき姿勢を習得する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 演習事前指導
- 第3回 歴史遺産学演習①
- 第4回 歴史遺産学演習②
- 第5回 歴史遺産学演習③
- 第6回 歴史遺産学演習④
- 第7回 演習事後学習
- 第8回 総括
- 第9回 演習事前学習
- 第10回 歴史遺産学演習①
- 第11回 歴史遺産学演習②
- 第12回 歴史遺産学演習③
- 第13回 歴史遺産学演習④
- 第14回 演習事後学習
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財特講 I (古代文化史) <Z>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	

テーマ

仁徳陵古墳と世界遺産の関係をみる

獲得目標

日本での世界遺産の登録とはいったい何か、文化財保護といかなる関係にあるのか。世界遺産の暫定リストにある「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の文化財的な普遍的価値を中心に見学・検討することで、日本社会における文化財の保存、公開、活用のあり方を具体的に考えてみる。

授業の内容

日本での世界遺産のあり方、「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の実態の実態を知る講義が中心である。学外授業を一部含む。講師を招いて講演会を含む。

内 容

- 第1回 世界遺産とは
- 第2回 世界遺産の登録とは
- 第3回 仁徳陵古墳の評価とは
- 第4回 古墳時代のシンボル
- 第5回 あばかれた内部
- 第6回 仁徳陵古墳の話題性
- 第7回 墳丘の復原
- 第8回 埴輪と須恵器
- 第9回 古墳時代のネットワーク
- 第10回 古墳時代の空間イメージ
- 第11回 仁徳陵古墳の見学(学外授業)
- 第12回 陵墓としての仁徳陵古墳
- 第13回 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の登録要件とは
- 第14回 百舌鳥・古市古墳群の顕著な普遍的価値とは
- 第15回 文化財保護と世界遺産登録の関係を展望する

授業以外での学習方法

世界的な視座をもって、まちと歴史遺産の調和関係を考えてみる。

教科書

古墳時代のシンボル・仁徳陵古墳

著者： 一瀬和夫

出版社： 新泉社

出版年： 2009

ISBN： 9784787709356

参考書

a104023910

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化財特講Ⅲ(建築) <Z>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 登谷 伸宏	

テーマ

日本建築史を読み解く

獲得目標

自分たちの身の回りに存在する歴史的建造物は、どのように成立・展開してきたのだろうか。その答えを、建築遺構や文字・絵画史料を解読することにより見つけられるようになって欲しい。そのための基礎的な力を身につけることを目標とする。

授業の内容

日本列島においてどのような建造物がつくられ、時代とともに如何なる空間的・機能的展開を遂げたのかを辿っていく。それとともに、その背景となる各時代の社会・文化や建築技術のあり方についても考えていきたい。なお、各回の内容は変更する可能性がある。

内 容

- 第1回 日本建築入門①
- 第2回 日本建築入門②(学外授業)
- 第3回 飛鳥・奈良時代の寺院建築
- 第4回 真言・天台宗の建築
- 第5回 古代における貴族住宅の成立
- 第6回 神社本殿の成立
- 第7回 大仏様の建築
- 第8回 禅宗様の建築
- 第9回 中世仏堂の成立とその空間・機能
- 第10回 書院造の形成過程
- 第11回 近世の寺社建築(学外授業)
- 第12回 近世城郭の成立
- 第13回 近世民家の類型と地方的特色(学外授業)
- 第14回 建築技術の変遷 設計技術と大工道具
- 第15回 日本の近代化と建築

授業以外での学習方法

歴史的建造物・歴史都市の見学を積極的に行い、自分自身でそれらを評価する力を養って欲しい。

教科書

日本建築史図集 新訂第三版

著者： 日本建築学会編

出版社： 彰国社

出版年： 2011年

ISBN： 9784395008889

参考書

a104024150

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I <ZB>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

獲得目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の内容

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史遺産学概説①
- 第3回 歴史遺産学概説②
- 第4回 学外見学事前学習
- 第5回 学外見学
- 第6回 学外見学事後学習
- 第7回 総括
- 第8回 ガイダンス
- 第9回 歴史遺産学概説③
- 第10回 歴史遺産学概説④
- 第11回 歴史遺産学概説⑤
- 第12回 学外見学事前学習
- 第13回 学外見学
- 第14回 学外見学事後学習
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **研究入門ゼミⅡ〈ZB〉**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 有坂 道子・登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

獲得目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の内容

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史遺産学概説①
- 第3回 歴史遺産学概説②
- 第4回 学外見学事前学習
- 第5回 学外見学
- 第6回 学外見学事後学習
- 第7回 総括
- 第8回 ガイダンス
- 第9回 歴史遺産学概説③
- 第10回 歴史遺産学概説④
- 第11回 歴史遺産学概説⑤
- 第12回 学外見学事前学習
- 第13回 学外見学
- 第14回 学外見学事後学習
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本美術史Ⅱ**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 村田 隆志

テーマ

日本美術の諸分野の制作技術等の基礎的理解と、特徴的な分野、芸術運動への理解

獲得目標

前期開講の「日本美術史Ⅰ」では日本美術史の通史を学ぶのに対して、本科目では理解の前提となる制度や制作技術、各時代の特徴的な分野や芸術運動について学ぶ。最終的には、それぞれの分野について理解し、その特徴を説明し得る能力を身につけることを目的とする。

授業の内容

本講義においては、各1回ごとにそれぞれ異なる主題について紹介し、理解を深める。また、学外授業として博物館・美術館への見学を実施する場合がある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国宝・重要文化財の制度
- 第3回 絵画の技法
- 第4回 書と美術
- 第5回 渡来人による美術への影響
- 第6回 彫刻
- 第7回 金工と武具
- 第8回 南蛮美術
- 第9回 学外見学
- 第10回 学外見学
- 第11回 浮世絵
- 第12回 洋画と日本画
- 第13回 民芸
- 第14回 マンガとアニメ
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

関西では、本講義で紹介する各種の作品に博物館・美術館・寺社などで実際に接することが比較的容易である。積極的な鑑賞機会を持つこと。学外授業として、関西の館の見学を実施するので参加のこと。

教科書

参考書

講義中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

a10411d250

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 西洋美術史 I <Z>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 邦洋

テーマ

美術(主に絵画、彫刻)作品から、作者のメッセージを読む。

獲得目標

美術作品は何も知らなくても、表面的な美しさは分かる。しかし、すぐれた作品はただ感覚的な美しさだけではなく、もっと深いメッセージを伝えようとしていることを知ってほしい。そのメッセージを読み解くための「技術」の獲得をめざす。

授業の内容

内 容

- 第1回 「序論」絵画の見方のいろいろ ～絵が「分かる」とはどういうことか?～
- 第2回 「物語る絵画」①旧約の世界(1)
- 第3回 「物語る絵画」②旧約の世界(2)
- 第4回 「物語る絵画」①新約の世界(1)
- 第5回 「物語る絵画」①新約の世界(2)
- 第6回 「物語る絵画」③レオナルド作「最後の晩餐」の修復の過程を記録したビデオ視聴
- 第7回 「物語る絵画」④最後の晩餐の系譜
- 第8回 「物語る絵画」⑤古典モチーフ ～ギリシア神話～
- 第9回 「物語る絵画」⑥古典モチーフ ～神話以外の文学～
- 第10回 「讚える絵画」①聖母子
- 第11回 「讚える絵画」②聖人
- 第12回 「讚える絵画」③世俗の人間
- 第13回 「世界を観る絵画」①ミケランジェロ作「最後の審判」の修復の過程を記録したビデオ視聴
- 第14回 「世界を観る絵画」②最後の審判の系譜
- 第15回 まとめ(試験含む)

授業以外での学習方法

展覧会、テレビの美術番組を見る。その時々展覧会については、授業内で紹介する。

教科書

絵画の探偵術

著者: 島本涼・岸文和 編

出版社: 昭和堂

出版年: 1995年(初版)

ISBN:

参考書

a10411d510

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **文化財行政論**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 登谷 伸宏	

テーマ

文化財保護行政と社会 行政用語からきた文化財という言葉を考えてみる

獲得目標

永く国家行政主導でつづいてきた文化財行政は平成11年の保護法改正をうけて文化庁長官から都道府県・指定都市教育委員会に一部の権限が委譲されている。社会情勢に敏感な文化財行政の変化を基礎におき、文化財学の枠組みを理解する。

授業の内容

各回とも配布したプリントにしたがい講義を進める。なお、各回の内容を変更することもある。また、授業の一環として、講師を招いて講演会を実施する。

内 容

- 第1回 文化財とは
- 第2回 文化財保護と文化遺産
- 第3回 日本における文化財保護制度の萌芽
- 第4回 美術工芸品・建造物の保護と公開・活用
- 第5回 記念物・史跡の保護と整備・活用
- 第6回 文化財保護法の制定
- 第7回 指定主義と台帳主義、原因者負担
- 第8回 歴史的風土の保存 古都保存法と明日香村特別措置法
- 第9回 重要文化的景観の選定
- 第10回 重要文化的景観と近代化遺産の保存活用の実際(学外授業)
- 第11回 無形文化財・民俗文化財及び文化財の保存技術の保護と活用
- 第12回 国立劇場、博物館及び文化財研究所
- 第13回 文化財の展示とその評価
- 第14回 近代化遺産の現状とその未来
- 第15回 文化財について価値判断の歴史を考える

授業以外での学習方法

身の回りの指定・登録・選定文化財にふれて、その価値を考えてみる。

教科書

文化財保護関係法令集 第3次改訂版

著者： 文化財保護法研究会

出版社： ぎょうせい

出版年： 2009年

ISBN： 9784324087732

参考書

a10411e050

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 西洋美術史

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 安藤 邦洋	

テーマ

美術(主に絵画、彫刻)作品から、作者のメッセージを読む。

獲得目標

美術作品は何も知らなくても、表面的な美しさは分かる。しかし、すぐれた作品はただ感覚的な美しさだけではなく、もっと深いメッセージを伝えようとしていることを知ってほしい。そのメッセージを読み解くための「技術」の獲得をめざす。

授業の内容

内 容

- 第1回 「序論」絵画の見方のいろいろ ～絵が「分かる」とはどういうことか?～
- 第2回 「物語る絵画」①旧約の世界(1)
- 第3回 「物語る絵画」②旧約の世界(2)
- 第4回 「物語る絵画」①新約の世界(1)
- 第5回 「物語る絵画」①新約の世界(2)
- 第6回 「物語る絵画」③レオナルド作「最後の晩餐」の修復の過程を記録したビデオ視聴
- 第7回 「物語る絵画」④最後の晩餐の系譜
- 第8回 「物語る絵画」⑤古典モチーフ ～ギリシア神話～
- 第9回 「物語る絵画」⑥古典モチーフ ～神話以外の文学～
- 第10回 「讀える絵画」①聖母子
- 第11回 「讀える絵画」②聖人
- 第12回 「讀える絵画」③世俗の人間
- 第13回 「世界を観る絵画」①ミケランジェロ作「最後の審判」の修復の過程を記録したビデオ視聴
- 第14回 「世界を観る絵画」②最後の審判の系譜
- 第15回 まとめ(試験含む)

授業以外での学習方法

展覧会、テレビの美術番組を見る。その時々展覧会については、授業内で紹介する。

教科書

絵画の探偵術

著者: 島本涼・岸文和 編

出版社: 昭和堂

出版年: 1995年(初版)

ISBN:

参考書

a10411e450

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅰ〈a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 通年

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子・小林 裕子・巽 淳一郎・登谷 伸宏

テーマ

歴史的建造物を知る(登谷) 美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ(小林) 考古学の最も基本となる遺物観察と遺物の図化方法を学ぶ(巽) 古文書に親しむ(有坂)

獲得目標

歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。計測・デッサン・ディスクリプションによって、対象となる作例を深く知る方法を会得する(小林)。資料化するための図化方法を理解させ、修得させる(巽)。さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。(有坂)

授業の内容

歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。実測の方法を教え、TAの援助をえて各自実測を体験する(巽)。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。(有坂)

内 容

- 第1回 ガイダンス(登谷)
- 第2回 実測調査①(学外授業)(登谷)
- 第3回 実測調査②(学外授業)(登谷)
- 第4回 実測調査③(学外授業)(登谷)
- 第5回 実測調査④(学外授業)(登谷)
- 第6回 図面の清書①(登谷)
- 第7回 図面の清書②(登谷)
- 第8回 図面の清書③、まとめ(登谷)
- 第9回 ガイダンス・デッサンの心構え(小林)
- 第10回 デッサン(小林)
- 第11回 法量計測・撮影(小林)
- 第12回 画像処理(小林)
- 第13回 スキャニング(小林)
- 第14回 簡単なディスクリプション(小林)
- 第15回 調書作成・総括(小林)
- 第16回 考古遺物の研究法・資料化・公開法に関する知識を学ぶ。
- 第17回 焼物の実測実習(轆轤成形の現代製品)。
- 第18回 焼物の実測実習(轆轤成形品の現代製品)。
- 第19回 焼物の実測実習(轆轤成形品の現代製品)。
- 第20回 焼物の実測実習(非轆轤製品—土師器)。
- 第21回 焼物の実測実習(非轆轤製品—土師器)。
- 第22回 焼物の実測実習(轆轤成形品—須恵器)。
- 第23回 拓本実習。
- 第24回 古文書を扱う①(有坂)
- 第25回 古文書を扱う②(有坂)
- 第26回 くずし字を読む①(有坂)
- 第27回 くずし字を読む②(有坂)
- 第28回 くずし字を読む③(有坂)
- 第29回 くずし字を読む④(有坂)
- 第30回 くずし字を読む⑤(有坂)

授業以外での学習方法

歴史的建造物を見学し、木造建造物がどのように造られているのかを理解するよう心がけて欲しい(登谷)。寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける(小林)。出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。(有坂)

教科書

参考書

新建築学大系50 歴史的建造物の保存

著者: 新建築学大系編集委員会編

出版社: 彰国社

出版年: 1999年

ISBN: 4-395-15050-0

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 通年	定員 25
履修条件	クラス指定
担当者 有坂 道子・小林 裕子・巽 淳一郎・登谷 伸宏	

テーマ

古文書に親しむ(有坂) 歴史的建造物を知る(登谷) 美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ(小林) 考古学の最も基本となる遺物観察と遺物の図化方法を学ぶ(巽)

獲得目標

さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すと同時に、くずし字の解読に挑戦する。(有坂) 歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。計測・デッサン・ディスプレイーションによって、対象となる作例を深く知る方法を会得する(小林)。資料化するための図化方法を理解させ、修得させる(巽)。

授業の内容

古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。(有坂) 歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。実測の方法を教え、TAの援助をえて各自実測を体験する(巽)。

内 容

- 第1回 古文書を扱う①(有坂)
- 第2回 古文書を扱う②(有坂)
- 第3回 古文書を扱う③(有坂)
- 第4回 くずし字を読む①(有坂)
- 第5回 くずし字を読む②(有坂)
- 第6回 くずし字を読む③(有坂)
- 第7回 くずし字を読む④(有坂)
- 第8回 くずし字を読む⑤(有坂)
- 第9回 ガイダンス(登谷)
- 第10回 実測調査①(学外授業)(登谷)
- 第11回 実測調査②(学外授業)(登谷)
- 第12回 実測調査③(学外授業)(登谷)
- 第13回 実測調査④(学外授業)(登谷)
- 第14回 図面の清書①(登谷)
- 第15回 図面の清書②、まとめ(登谷)
- 第16回 ガイダンス・デッサンの心構え(小林)
- 第17回 デッサン①(小林)
- 第18回 デッサン②(小林)
- 第19回 法量計測・撮影(小林)
- 第20回 画像処理(小林)
- 第21回 スキャニング(小林)
- 第22回 簡単なディスプレイーション(小林)
- 第23回 調書作成・総括(小林)
- 第24回 考古遺物の研究法・資料化・公開法に関する知識を学ぶ。
- 第25回 焼物の実測実習(轆轤成形の現代製品)。
- 第26回 焼物の実測実習(轆轤成形品の現代製品)。
- 第27回 焼物の実測実習(非轆轤製品—土師器)。
- 第28回 焼物の実測実習(非轆轤製品—土師器)。
- 第29回 焼物の実測実習(轆轤成形品—須恵器)。
- 第30回 拓本実習。

授業以外での学習方法

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。(有坂) 歴史的建造物を見学し、木造建造物がどのように造られているのかを理解するよう心がけて欲しい(登谷)。寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける(小林)。

教科書

参考書

新建築学大系50 歴史的建造物の保存

著者: 新建築学大系編集委員会編

出版社: 彰国社

出版年: 1999年

ISBN: 4-395-15050-0

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習 I <c>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 通年	定員 25
履修条件	クラス指定
担当者 有坂 道子・小林 裕子・巽 淳一郎・登谷 伸宏	

テーマ

考古学の最も基本となる遺物観察と遺物の図化方法を学ぶ(巽) 古文書に親しむ(有坂) 歴史的建造物を知る(登谷) 美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ(小林)

獲得目標

資料化するための図化方法を理解させ、修得させる(巽)。さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。(有坂) 歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。計測・デッサン・ディスクリプションによって、対象となる作例を深く知る方法を会得する(小林)。

授業の内容

実測の方法を教え、TAの援助をえて各自実測を体験する(巽)。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。(有坂) 歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。

内 容

- 第1回 考古遺物の研究法・資料化・公開法に関する知識を学ぶ。
- 第2回 焼物の実測実習(轆轤成形の現代製品)。
- 第3回 焼物の実測実習(轆轤成形品の現代製品)。
- 第4回 焼物の実測実習(轆轤成形品の現代製品)。
- 第5回 焼物の実測実習(非轆轤製品―土師器)。
- 第6回 焼物の実測実習(非轆轤製品―土師器)。
- 第7回 焼物の実測実習(轆轤成形品―須恵器)。
- 第8回 拓本実習。
- 第9回 古文書を扱う①(有坂)
- 第10回 古文書を扱う②(有坂)
- 第11回 くずし字を読む①(有坂)
- 第12回 くずし字を読む②(有坂)
- 第13回 くずし字を読む③(有坂)
- 第14回 くずし字を読む④(有坂)
- 第15回 くずし字を読む⑤(有坂)
- 第16回 ガイダンス(登谷)
- 第17回 実測調査①(学外授業)(登谷)
- 第18回 実測調査②(学外授業)(登谷)
- 第19回 実測調査③(学外授業)(登谷)
- 第20回 実測調査④(学外授業)(登谷)
- 第21回 図面の清書①(登谷)
- 第22回 図面の清書②(登谷)
- 第23回 図面の清書③、まとめ(登谷)
- 第24回 ガイダンス・デッサンの心構え(小林)
- 第25回 デッサン(小林)
- 第26回 法量計測・撮影(小林)
- 第27回 画像処理(小林)
- 第28回 スキャニング(小林)
- 第29回 簡単なディスクリプション(小林)
- 第30回 調書作成・総括(小林)

授業以外での学習方法

考古学に興味を抱き、将来考古学に関係する仕事に就きたいと思っている学生には、授業の無い時間に実測練習する便宜を図る(巽)。出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。(有坂)歴史的建造物を見学し、木造建造物がどのように造られているのかを理解するよう心がけて欲しい(登谷)。寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける(小林)。

教科書

参考書

新建築学大系50 歴史的建造物の保存

著者： 新建築学大系編集委員会編

出版社： 彰国社

出版年： 1999年

ISBN： 4-395-15050-0

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (60)

参加度と各自作成した実測図の出来ばえ見て評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅳ <a>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	一瀬 和夫	

テーマ

発掘調査成果を記録、報告するという考古学研究の基礎の中で自己研究をまとめる操作方法をつかむ

獲得目標

I do and I understand. I work and I utilize.をもとに、主に統計、写真、絵画、デザイン、印刷、展示、プレゼンテーション、教育、ボランティア的要素などを備える発掘調査報告書の作成技術の修得をめざす。

授業の内容

主にPC教室で、報告書作成作業を行う。実際の印刷や活用資料製作の見学をする。

内 容

- 第1回 報告書作成の概要
- 第2回 遺物のデジタル写真撮影
- 第3回 遺物のデジタル写真撮影とPhotoshopによる画像修正
- 第4回 Illustratorによる遺構のレイアウト
- 第5回 Illustratorによる遺構のレイアウトとスケール・方位等の作成
- 第6回 Illustratorによる遺物のレイアウト
- 第7回 Illustratorによる遺物のレイアウトとスケール・ナンバリング等の作成
- 第8回 InDesignによる編集①
- 第9回 InDesignによる編集②
- 第10回 コロタイプ印刷過程の見学(学外授業)
- 第11回 原稿作成①
- 第12回 原稿作成②
- 第13回 考古学の活用に伴ったプログラムへの参加
- 第14回 展示実習、模型、ハンズ・オン装置の製作工程の見学(学外授業)
- 第15回 報告書とそれに伴うプレゼンテーションの総評

授業以外での学習方法

デジタルカメラ、Photoshop(画像)、Illustrator(製図)、InDesign(印刷編集)のコンピュータ・ソフトに触れる。

教科書

PCによる教材提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

埋蔵文化財発掘調査の手びき

著者: 文化庁文化財保護部

出版社: 国土地理協会

出版年: 1966

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅳ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 25
履修条件	クラス指定
担当者 登谷 伸宏	

テーマ

歴史資料(歴史的建造物・歴史都市・遺跡など)の評価方法を学ぶ

獲得目標

歴史資料(歴史的建造物・歴史都市・遺跡など)の評価、および取り扱いに関する専門的な知識を習得する。

授業の内容

歴史遺産学研究を進めるにあたって必要となる歴史資料のうち、歴史的建造物、および古文書を取りあげる。その上で、歴史的建造物については、①図面の作成、②文化財としての評価方法、③報告書の作成方法に関する技術を身に付ける。一方、古文書については、①くずし字の解説・読解、②取り扱い方法に関する技術を習得する。なお、各回の授業内容は変更する可能性がある。歴史的建造物に関する実習は学外で行うことがある。さらに、夏期には宿泊をともなう実習旅行を実施する予定である。

内 容

- 第1回 ガイダンス 歴史資料の評価、および取り扱いについて
- 第2回 歴史的建造物の評価に関する実習①
- 第3回 歴史的建造物の評価に関する実習②
- 第4回 歴史的建造物の評価に関する実習③
- 第5回 古文書の評価・取り扱いに関する実習①
- 第6回 古文書の評価・取り扱いに関する実習②
- 第7回 古文書の評価・取り扱いに関する実習③
- 第8回 古文書の評価・取り扱いに関する実習④
- 第9回 古文書の評価・取り扱いに関する実習⑤
- 第10回 古文書の評価・取り扱いに関する実習⑥
- 第11回 歴史的建造物の報告書作成に関する実習①
- 第12回 歴史的建造物の報告書作成に関する実習②
- 第13回 歴史的建造物の報告書作成に関する実習③
- 第14回 歴史的建造物の報告書作成に関する実習④
- 第15回 まとめ、歴史資料の史料批判について

授業以外での学習方法

歴史的建造物や伝統的町並みの見学を自主的に行うこと。博物館・美術館などで古文書に触れる機会をより多くつくること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (20)小テスト ()
授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習Ⅳ <c>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	小林 裕子	

テーマ

仏像の調書作成方法や取扱を身につけるとともに、拓本の取り方、和綴じの方法など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。

獲得目標

学芸員や研究者は実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。

授業の内容

前期実習Ⅲに引き続き、美術工芸品の取扱いを学ぶ。なお、本実習では夏季休業中に近畿圏の寺院における宿泊実習をおこなう。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 仏像の種類と取扱説明
- 第3回 取扱実習(仏像①)
- 第4回 取扱実習(仏像②)
- 第5回 取扱実習(仏像③)
- 第6回 取扱実習(仏像④)
- 第7回 取扱実習(仏像⑤)
- 第8回 拓本
- 第9回 拓本
- 第10回 拓本
- 第11回 裏打ち
- 第12回 裏打ち
- 第13回 和綴じ
- 第14回 和綴じ
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (20)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **歴史遺産学実習Ⅳ <d>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

獲得目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の内容

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方を実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 実習(1)内海家文書の解読・中級①
- 第3回 実習(2)内海家文書の解読・中級②
- 第4回 実習(3)内海家文書の解読・中級③
- 第5回 実習(4)内海家文書の解読・中級④
- 第6回 学外授業
- 第7回 実習(5)内海家文書の解読・中級⑤
- 第8回 実習(6)内海家文書の解読・中級⑥
- 第9回 実習(7)内海家文書の解読・中級⑦
- 第10回 実習(8)内海家文書の解読・中級⑧
- 第11回 学外授業
- 第12回 実習(9)内海家文書の解読・上級①
- 第13回 実習(10)内海家文書の解読・上級②
- 第14回 実習(11)内海家文書の解読・上級③
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (70)

出席を重視する

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築遺産研究Ⅱ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 登谷 伸宏

テーマ

日本建築史を読み解く

獲得目標

自分たちの身の回りに存在する歴史的建造物は、どのように成立・展開してきたのだろうか。その答えを、建築遺構や文字・絵画史料を解読することにより見つけられるようになって欲しい。そのための基礎的な力を身につけることを目標とする。

授業の内容

日本列島においてどのような建造物がつくられ、時代とともに如何なる空間的・機能的展開を遂げたのかを辿っていく。それとともに、その背景となる各時代の社会・文化や建築技術のあり方についても考えていきたい。なお、各回の内容は変更する可能性がある。

内 容

- 第1回 日本建築入門①
- 第2回 日本建築入門②(学外授業)
- 第3回 飛鳥・奈良時代の寺院建築
- 第4回 真言・天台宗の建築
- 第5回 古代における貴族住宅の成立
- 第6回 神社本殿の成立
- 第7回 大仏様の建築
- 第8回 禅宗様の建築
- 第9回 中世仏堂の成立とその空間・機能
- 第10回 書院造の形成過程
- 第11回 近世の寺社建築(学外授業)
- 第12回 近世城郭の成立
- 第13回 近世民家の類型と地方的特色(学外授業)
- 第14回 建築技術の変遷 設計技術と大工道具
- 第15回 日本の近代化と建築

授業以外での学習方法

歴史的建造物・歴史都市の見学を積極的に行い、自分自身でそれらを評価する力を養って欲しい。

教科書

日本建築史図集 新訂第三版

著者： 日本建築学会編

出版社： 彰国社

出版年： 2011年

ISBN： 9784395008889

参考書

a10413d250

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史遺産研究 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

仁徳陵古墳と世界遺産の関係をみる

獲得目標

日本での世界遺産の登録とはいったい何か、文化財保護といかなる関係にあるのか。世界遺産の暫定リストにある「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の文化財的な普遍的価値を中心に見学・検討することで、日本社会における文化財の保存、公開、活用のあり方を具体的に考えてみる。

授業の内容

日本での世界遺産のあり方、「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の実態の実態を知る講義が中心である。学外授業を一部含む。講師を招いて講演会を含む。

内 容

- 第1回 世界遺産とは
- 第2回 世界遺産の登録とは
- 第3回 仁徳陵古墳の評価とは
- 第4回 古墳時代のシンボル
- 第5回 あばかれた内部
- 第6回 仁徳陵古墳の話題性
- 第7回 墳丘の復原
- 第8回 埴輪と須恵器
- 第9回 古墳時代のネットワーク
- 第10回 古墳時代の空間イメージ
- 第11回 仁徳陵古墳の見学(学外授業)
- 第12回 陵墓としての仁徳陵古墳
- 第13回 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の登録要件とは
- 第14回 百舌鳥・古市古墳群の顕著な普遍的価値とは
- 第15回 文化財保護と世界遺産登録の関係を展望する

授業以外での学習方法

世界的な視座をもって、まちと歴史遺産の調和関係を考えてみる。

教科書

古墳時代のシンボル・仁徳陵古墳

著者： 一瀬和夫

出版社： 新泉社

出版年： 2009

ISBN： 9784787709356

参考書

a10413d310

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学概論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小寺 隆幸

テーマ

算数教育の数学的基礎を学ぶ

獲得目標

幼児や小学生に算数を教える上で基本となる数・量・関数・図形・統計などの基本的な知識と考え方を学ぶ。教科教育法(算数)の前段として位置づける。

授業の内容

内 容

- 第1回 数とは何か 十進位取り記数法の考え方
- 第2回 加法減法
- 第3回 乗法除法
- 第4回 九九表の分析
- 第5回 分離量と連続量(小数・分数)
- 第6回 外延量(長さ、重さ、面積など)
- 第7回 内包量(密度、濃度、速度など)
- 第8回 正負の数 数の拡張
- 第9回 基本図形(角 三角形 四角形 円)
- 第10回 対称性としきつめ
- 第11回 求積
- 第12回 関数とは何か
- 第13回 座標と変換
- 第14回 確率の考え方
- 第15回 統計

授業以外での学習方法

* 宿題を出すのでしっかり取り組むこと。* 授業中に小テストを随時行う。

教科書

入門算数学 第2版

著者: 黒木哲徳

出版社: 日本評論社

出版年: 2009

ISBN: 9784535785403

参考書

a30101d650

成績評価

試験（50）

授業中課題（20）

参加度（10）

小テスト（10）

授業中発表等（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 体育概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 口野 隆史	

テーマ

文化としての体育・スポーツを理解し、その文化の継承・発展・創造を考える

獲得目標

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的などの多方面の基礎知識を身に付ける。そして体育・スポーツについて、仲間と共に考えることができる力、体育・スポーツを正しく理解する力を身に付ける。

授業の内容

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的な多方面の基礎知識を学ぶ。疑問の提起(クイズ)、資料、映像、簡単な実技などを通して基礎知識を学ぶ。また、自分たちで体育・スポーツに関するテーマを見付け、グループで共に考え、発表し理解を深める。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 「投げる」遊び・動作の習得と運動発達
- 第2回 人間の運動発達と現代の子どもの運動能力
- 第3回 筋肉の構造と筋力の発達や特性
- 第4回 人間の汗と体温調節のしくみ
- 第5回 人間の運動学習(わかる・できるようになる)
- 第6回 眼の仕組みとスポーツにおける眼の役割(スポーツビジョン)
- 第7回 相撲の歴史と文化(日本のスポーツ・運動文化)
- 第8回 陸上競技の歴史と文化(世界のスポーツの歴史)
- 第9回 スポーツの科学、カーブはなぜカーブするのか
- 第10回 体育とは何か、スポーツとはどうちがうのか
- 第11回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表①
- 第12回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表②
- 第13回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表③
- 第14回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表④
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

1. 体育・スポーツとは何か、自分で受けてきた(あるいは受けている)体育・スポーツの授業を振り返り、またクラブやサークルで行っているスポーツ・身体活動を振り返り考えてみましょう。2. 新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合結果ばかりではなく、試合の作戦、選手の技術、ファンへのサービス、地域・社会への貢献など、社会的、文化的、歴史的な背景等々、多くの視点で見てください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (30)

小テスト (20)
授業中発表等 (30)

a30101d750

参加度（20）

しっかり授業に出席し、教員の話、学生の発表をよく聞き理解すること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 こども理解Ⅱ(児童)

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 西條 昭男

テーマ

テーマ 子ども理解を深めよう。現代の子どもはどんな生活を送っているか。子どもの心の内に秘めているものは何か。子どもが表現した詩や作文や日記(生活ノート)を通して、子どもの生活や思いを知ることからはじめよう。

獲得目標

授業の目的は、子ども理解を深めることである。学生が今まで自分自身の成育歴や経験体験してきたことから形成している子ども観を深く、幅広いものにし、「子ども発見！」を繰り返しながら、現代を生きる子どもたちをリアルに理解できるようにする。

授業の内容

学校現場における子どもの行動や詩や作文、生活ノートなどの作品から子どもの心の声を聞く。子どもの作品を読みあい、意見や感想を交流しあう場面を多く取り入れながら、授業を進めていく。また、時々の子どもに関連する諸問題についても問題提起をする。

内 容

- 第1回 オリエンテーリング 授業の進め方・講義に期待することなど。
- 第2回 子どもたちは元気だ、愉快だ、おもしろい。 作品から読み取ろう。
- 第3回 ツツパル子どもたちのきもち。 花梨
- 第4回 屈折する子ども心。 アゲハ しばかんといて
- 第5回 いじめのきもち。 童心社 いじめのきもち
- 第6回 子どものさびしさと優しさ 明るくひょうきんな少年の内なる心
- 第7回 体罰問題と子ども。
- 第8回 子ども心を解き放つ 子どもに自由を 春の歌
- 第9回 課題 忘れられない小学校の負の思い出
- 第10回 居場所はあるか 4月の翔太
- 第11回 前を向いて生きる 子どもの健気さ いいなあ・お星さま
- 第12回 憲法と子ども 子どもの権利条約
- 第13回 子ども発見 はるかがこまっています
- 第14回 仲間と育つ子どもたち 愛ちゃん
- 第15回 講義のまとめ

授業以外での学習方法

テキストを事前に読む。子どもと教育に関する新聞記事などを日ごろから読んでおく。子どもとふれあう活動に積極的に参加する。

教科書

心ってこんなに動くんだ

著者： 西條 昭男

出版社： 新日本出版社

出版年： 2006

ISBN： 4-406-03263-0

参考書

a30101e150

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (70%)

参加度 (10%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育内容(言語) <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

テーマ:乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

獲得目標

1. 乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握する。2. 3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達の役割を理解する。3. 外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。4. 幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。5. 乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。6. 言語の指導として総合的表現活動について考察する。乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく。

授業の内容

内 容

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして、ことばの意味と「落とし穴」
- 第2回 ことばの発達① 乳児期—有意味語の成立まで
- 第3回 ことばの発達② 幼児前期—話しことばの体系の一応の獲得まで
- 第4回 ことばの発達③ 幼児後期—外的言語、自己中心的言語、内的言語
- 第5回 ことばと身ぶり書きことばの前史
- 第6回 書きことばの前史ことばと思考の発達
- 第7回 ことばと思考の発達
- 第8回 形象、複合、概念
- 第9回 ことばと想像
- 第10回 ことばと情動
- 第11回 幼児の遊びについて①
- 第12回 幼児の遊びについて②
- 第13回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第14回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第15回 劇遊びのなかのことばと身ぶり

授業以外での学習方法

適宜参考文献を紹介する

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 (0%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (0%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **養護原理 <Z>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護の現状及び課題の理解

獲得目標

社会的養護の現代的意義と歴史の変遷について学び、児童家庭福祉との関連性について理解する。また、社会的養護の制度および実施体制等を学び、子どもの権利擁護及び自立支援についての理解を深める。

授業の内容

社会的養護のもとにある子どもとその家族の課題・背景を理解し、彼らを支援する姿勢、援助計画、援助の進め方、活用資源などを学ぶ。

内 容

- 第1回 社会的養護とは何か
- 第2回 現代社会に暮らす子どもと家庭
- 第3回 子どもの権利
- 第4回 子どもの養護の歴史
- 第5回 社会的養護の体系
- 第6回 社会的養護の制度
- 第7回 施設養護の特質
- 第8回 施設養護の基本原則
- 第9回 日常生活及び自立支援
- 第10回 治療的・支援的援助
- 第11回 親子、地域との関係調整
- 第12回 社会的養護とソーシャルワーク
- 第13回 児童福祉施設の運営管理
- 第14回 社会的養護のあるべき姿
- 第15回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

講義中に紹介された参考文献を読み進める。

教科書

社会的養護

著者： 小池由佳/山縣文治

出版社： ミネルバ書房

出版年： 2013

ISBN： 978-4-623-05669

参考書

a301028150

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 小児保健 I <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 安藤 忠 齋藤 洋子

テーマ

子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な基礎的保健知識を学ぶ。

獲得目標

1. 乳幼児の成長発達の特徴を理解する。2. 乳幼児の疾病の特徴や異常を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 子どもの健康と保健の意義
- 第2回 地域における保健活動と児童虐待
- 第3回 母子保健対策と保育
- 第4回 子どもの健康状態の把握
- 第5回 子どもの発育・発達と保健 I
- 第6回 子どもの発育・発達と保健 II
- 第7回 子どもの発育・発達と保健 III
- 第8回 子どもの発育・発達と保健 IV
- 第9回 先天異常
- 第10回 感染症 I
- 第11回 感染症 II
- 第12回 免疫とアレルギー疾患
- 第13回 慢性疾患
- 第14回 小児期からの生活習慣病予防の重要性
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

図表で学ぶ子どもの保健 I

著者： 加藤忠明・岩田力 編著

出版社： 建帛社

出版年：

ISBN：

参考書

よくわかる小児保健

著者： 竹内義博・大矢紀昭編

a301028210

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

子どもの思いにこころをよせて

著者: 西川由紀子

出版社: かもがわ出版

出版年:

ISBN:

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 小児保健実習 <Z>

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	齋藤 洋子	

テーマ

健全な子どもの成長発達を促すために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

獲得目標

1. 乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を学ぶ。2. 乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。3. 乳幼児の病気時の看護の知識と技術を学ぶ。4. 乳幼児の事故防止と安全な保育環境についての知識と技術を学ぶ。

授業の内容

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について実習を通して習得する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 子どもの保健と保育
- 第2回 乳幼児の養護(衣類の着脱・おむつ交換等)
- 第3回 乳幼児の身体計測
- 第4回 乳幼児の生理機能の測定(バイタルサインの測定)
- 第5回 乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価
- 第6回 乳幼児の運動機能の発達と評価
- 第7回 乳幼児の歯の健康
- 第8回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当(電法)
- 第10回 乳幼児の異常症状と手当(嘔吐下痢の処理)
- 第11回 乳幼児の擬古と応急手当
- 第12回 心肺蘇生法
- 第13回 健康(安全)教育(グループワーク)
- 第14回 保健だより(グループワーク)
- 第15回 保育における環境衛生 保育者の健康管理
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

事前に教科書の内容を読んで授業(実習)に臨むこと。

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者: 高内雅子 編著

出版社: 建帛社

出版年:

ISBN:

産婦人科の窓口から

著者： 河野美代子

出版社： 十月舎

出版年：

ISBN：

参考書

保育保健の基礎知識

著者： 巷野悟郎 監修

出版社： 日本小児医事出版社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（20）

参加度（10）

「産婦人科の窓口から」を読んでレポートの提出を求める(20%) 授業中に提出を求める課題・グループワークの発表(20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈A〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 倉持 祐二

テーマ

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をさぐり、学ぶことの意味をさまざまな視点から追究してみよう。

獲得目標

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をつかみ、「学ぶ」とはということなのかを考える視点を学ぶ。また、ゼミでの集団討議を通して、テーマや問いの設定、議論の進め方、まとめ方についても学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 「子どもが楽しめる企画と技術」細案の検討
- 第2回 夏のフィールドワークのまとめと後期の取り組みについて
- 第3回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論①
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組み
- 第5回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論②
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の総括
- 第7回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論③
- 第8回 フィールドワークのまとめ①
- 第9回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論④
- 第10回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑤
- 第11回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑥
- 第12回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑦
- 第13回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑧
- 第14回 フィールドワークのまとめ②
- 第15回 児童教育総合演習の総括

授業以外での学習方法

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。

教科書

「学ぶ」ということの意味』

著者： 佐伯 胖

出版社： 岩波書店

出版年： 1995年

ISBN:

参考書

a30102ab50

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈B〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 池田 修

テーマ

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をさぐり、学ぶことの意味をさまざまな視点から追究してみよう。

獲得目標

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をつかみ、「学ぶ」とはということなのかを考える視点を学ぶ。また、ゼミでの集団討議を通して、テーマや問いの設定、議論の進め方、まとめ方についても学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 「子どもが楽しめる企画と技術」細案の検討
- 第2回 夏のフィールドワークのまとめと後期の取り組みについて
- 第3回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論①
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組み
- 第5回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論②
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の総括
- 第7回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論③
- 第8回 フィールドワークのまとめ①
- 第9回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論④
- 第10回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑤
- 第11回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑥
- 第12回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑦
- 第13回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑧
- 第14回 フィールドワークのまとめ②
- 第15回 児童教育総合演習の総括

授業以外での学習方法

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。

教科書

「学ぶ」ということの意味』

著者： 佐伯 胖

出版社： 岩波書店

出版年： 1995年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈C〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 大久保 恭子

テーマ

社会の中での子どもたちの学びの状況をさぐり、学ぶことの意味をさまざまな視点から追究する。

獲得目標

社会の中での子どもたちの学びの状況をつかみ、「学ぶ」とはどういうことなのかを考える。また、ゼミでの集団討議を通して、テーマや問いの設定、議論の進め方、まとめ方についても学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第11回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑥
- 第12回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑦
- 第13回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑧
- 第14回 フィールドワークのまとめ②
- 第15回 児童教育総合演習の総括
- 第1回 「子どもが楽しめる企画と技術」細案の検討
- 第2回 夏のフィールドワークのまとめと後期の取り組みについて
- 第3回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論①
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組み
- 第5回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論②
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の総括
- 第7回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論③
- 第8回 フィールドワークのまとめ①
- 第9回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論④
- 第10回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑤

授業以外での学習方法

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈D〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

「自分で考える」ということを深める。

獲得目標

何冊かある哲学に関する絵本を教材にし、自分の思考について意識させ、自主的な思考を育てることを目指す。

授業の内容

1)文献の講読・討論を行う。セメスターの中間で、学生各自のコメントを材料にして討論する。2)ちびっ子ランドなどを念頭においてクラスとしての活動に取り組む。3)ゼミ内の意思疎通を良くするため親睦の活動を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、クラスとしての計画
- 第2回 文献講読と討論
- 第3回 文献講読と討論
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
- 第5回 文献講読と討論
- 第6回 文献講読と討論
- 第7回 文献講読と討論
- 第8回 文献講読と討論
- 第9回 文献講読と討論
- 第10回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
- 第11回 文献講読と討論
- 第12回 文献講読と討論
- 第13回 文献講読と討論
- 第14回 文献講読と討論
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

毎回の授業に対するコメントを書くと共に、他の学生のコメントを読み、内容を深める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈E〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 25

履修条件

クラス指定

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

子どもと保育についての視点を深める

獲得目標

多様な実践や文献・資料の検討を通して、子どもと保育についての視点を深めていく。また、発表や問いの設定、議論の進め方などの力を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 後期授業の進め方について
- 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」検討と準備
- 第3回 多様な実践や文献・資料の検討
- 第4回 体験学習(前期～運動会)の振り返り
- 第5回 「子どもが楽しめる企画と技術」検討と準備
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の振り返り
- 第7回 多様な実践や文献・資料の検討①
- 第8回 多様な実践や文献・資料の検討②
- 第9回 多様な実践や文献・資料の検討③
- 第10回 多様な実践や文献・資料の検討④
- 第11回 多様な実践や文献・資料の検討⑤
- 第12回 多様な実践や文献・資料の検討⑥
- 第13回 多様な実践や文献・資料の検討⑦
- 第14回 多様な実践や文献・資料の検討⑧
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

* 保育園・幼稚園などでボランティアを積極的に行い、子どもと保育についての理解を深める。* 新聞やニュースを通して社会における家族や子どもの状況を知り、子どもの育ちや保育・保育についての問題意識を持つ。* 子どもや保育・教育に関わる本を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈F〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 25

履修条件

クラス指定

担当者 青木 美智子

テーマ

「自分で考える」ということを深める。

獲得目標

何冊かある哲学に関する絵本を教材にし、自分の思考について意識させ、自主的な思考を育てることを目指す。

授業の内容

1)文献の講読・討論を行う。セメスターの中間で、学生各自のコメントを材料にして討論する。2)ちびっ子ランドなどを念頭においてクラスとしての活動に取り組む。3)ゼミ内の意思疎通を良くするため親睦の活動を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、クラスとしての計画
- 第2回 文献講読と討論
- 第3回 文献講読と討論
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
- 第5回 文献講読と討論
- 第6回 文献講読と討論
- 第7回 文献講読と討論
- 第8回 文献講読と討論
- 第9回 文献講読と討論
- 第10回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
- 第11回 文献講読と討論
- 第12回 文献講読と討論
- 第13回 文献講読と討論
- 第14回 文献講読と討論
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

毎回の授業に対するコメントを書くと共に、他の学生のコメントを読み、内容を深める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈G〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定

担当者 森本 美絵

テーマ

子どもと保育についての視点を深める

獲得目標

多様な実践や文献・資料の検討を通して、子どもと保育についての視点を深めていく。また、発表や問いの設定、議論の進め方などの力を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 後期授業の進め方について
- 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」検討と準備
- 第3回 多様な実践や文献・資料の検討
- 第4回 体験学習(前期～運動会)の振り返り
- 第5回 「子どもが楽しめる企画と技術」検討と準備
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の振り返り
- 第7回 多様な実践や文献・資料の検討①
- 第8回 多様な実践や文献・資料の検討②
- 第9回 多様な実践や文献・資料の検討③
- 第10回 多様な実践や文献・資料の検討④
- 第11回 多様な実践や文献・資料の検討⑤
- 第12回 多様な実践や文献・資料の検討⑥
- 第13回 多様な実践や文献・資料の検討⑦
- 第14回 多様な実践や文献・資料の検討⑧
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

* 保育園・幼稚園などでボランティアを積極的に行い、子どもと保育についての理解を深める。* 新聞やニュースを通して社会における家族や子どもの状況を知り、子どもの育ちや保育・保育についての問題意識を持つ。* 子どもや保育・教育に関わる本を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育制度論(初) <a>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小田 義隆	

テーマ

教育制度の基礎的な理解を深め、教育に関する現代的な課題を発見する。

獲得目標

教員として心得ておくことが必要不可欠な法令や制度を理解するとともに、日常的に話題となる教育問題に関して、教育行政の視点から具体的に考えることができる能力を身につけ、教育行政の役割と現状、教育にとって必要なあり方を理解することを目標とする。

授業の内容

教育行政は、一般行政とは独自の仕組みをもち、教育活動の条件整備を立法に基づき行う行政活動である。この教育行政活動が、国の教育政策によってどのような教育的価値を実現する教育活動かを実質的に左右する。その教育行政の仕組みと現状、問題を検討する。授業方法としては、主として講義形式で行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本の教育制度 ①戦後教育改革
- 第3回 日本の教育制度 ②高度経済成長期の教育
- 第4回 日本の教育制度 ③1970年代以降の教育
- 第5回 憲法・教育基本法体制 ①憲法の教育条項
- 第6回 憲法・教育基本法体制 ②教育基本法の制定
- 第7回 憲法・教育基本法体制 ③教育基本法の改正
- 第8回 学校教育と制度 ①学校の役割と制度
- 第9回 学校教育と制度 ②学校の組織と運営
- 第10回 教育行政制度 ①国の教育行政制度
- 第11回 教育行政制度 ②地方の教育行政制度
- 第12回 教職員法制 ①教師の養成・採用と制度
- 第13回 教職員法制 ②教師の研修・評価と制度
- 第14回 少年司法と教育
- 第15回 保育者と教育

授業以外での学習方法

・テキストをあらかじめ読んでから講義に臨むこと。・「教師にとっての教育の意義と実際」に対する関心を高めるため、教育に関する新聞記事にも目を配って学ぶことが望ましい。

教科書

現代教育制度論

著者： 土屋基規

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2011

ISBN:

参考書

a30102d110

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育制度論(初) **

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 春期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 土屋 基規	

テーマ

現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。

獲得目標

現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察し、課題を発見して学習研究を行うことを目標とする。

授業の内容

現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政、教職員法制の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。

内 容

第1回	オリエンテーション	
第2回	I 憲法・教育基本法制	①憲法の教育条項
第3回	同上	②教育基本法の制定と改正
第4回	同上	③国際教育法
第5回	II 学校制度	①初等・中等教育制度
第6回	同上	②就学奨励制度
第7回	同上	③教科書制度
第8回	同上	④学校の組織運営
第9回	III 教育行政制度	①中央教育行政組織
第10回	同上	②教育委員会制度の創設
第11回	同上	③教育委員会制度の展開
第12回	IV 教職員法制	①教員養成・免許制度
第13回	同上	②教員採用制度
第14回	同上	③教員研修制度
第15回	同上	④教員評価制度

授業以外での学習方法

教科書

現代教育制度論

著者： 土屋基規編著

出版社： ミネルバ書房

出版年： 2011

ISBN： 978-4-623

参考書

現代教育法概説

著者： 平原・室井・土屋供著

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

出席状況(20%)、中間レポート(30%)、試験(50%)を総合して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 特別活動論(初)

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 土作 彰

テーマ

集団で学び合う意義

獲得目標

①特別活動の基本的な概念を理解すること。②全教育活動の中で特別活動の視点を活かした学級経営、授業展開をいかに工夫するかを考察し理解すること。

授業の内容

講義は極力減らし、模擬授業を主に進める。その後、グループで授業づくり演習、検討会を行う。「教育現場では何が必要故、何をどのようにすべきなのか」という視点を常に持ち続けながら進めていく。

内 容

- 第1回 授業ガイダンスと特別活動の内容・意義
- 第2回 集団教育の意義
- 第3回 学級づくりと授業づくり(国語編)
- 第4回 学級づくりと授業づくり(算数・理科編)
- 第5回 学級崩壊を考える
- 第6回 授業づくり演習と検討(1～3班)
- 第7回 児童会活動・クラブ活動・学校行事(異学級、異学年の指導)
- 第8回 学級づくりと授業づくり(理科・社会編)
- 第9回 授業づくり演習と検討(4～6班)
- 第10回 学級づくりと授業づくり(道徳・学活編)
- 第11回 学級づくりと授業づくり(体育・図工編)
- 第12回 授業づくり演習と検討(7～9班)
- 第13回 ワークショップ型ステーション授業と日々の授業
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

授業以外での学習方法

授業づくり演習ではグループで模擬授業の練習を行っておくこと。

教科書

子どもを伸ばす学級づくり

著者： 土作 彰

出版社： 日本標準

出版年： 2010

ISBN： 978-4820804093

参考書

a30102d480

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (20%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育の言語表現〈幼a〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期後半

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

獲得目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇つくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の内容

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

内 容

- 第1回 ことばと想像
- 第2回 ことばと情動
- 第3回 幼児の遊びについて①
- 第4回 幼児の遊びについて②
- 第5回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第6回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第7回 劇遊びのなかのことばと身ぶり
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

各自の関心にもとづいて表現に関する文献を読み進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30102f410

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育の言語表現〈幼b〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期後半

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

獲得目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇つくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の内容

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

内 容

- 第1回 ことばと想像
- 第2回 ことばと情動
- 第3回 幼児の遊びについて①
- 第4回 幼児の遊びについて②
- 第5回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第6回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第7回 劇遊びのなかのことばと身ぶり
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

各自の関心にもとづいて表現に関する文献を読み進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30102f412

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育の言語表現〈児〉

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 前期後半

定員 30

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 神谷 栄司

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

獲得目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇つくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の内容

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

内 容

- 第1回 ことばと想像
- 第2回 ことばと情動
- 第3回 幼児の遊びについて①
- 第4回 幼児の遊びについて②
- 第5回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第6回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
- 第7回 劇遊びのなかのことばと身ぶり
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

各自の関心にもとづいて表現に関する文献を読み進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

a30102f413

参考URL

2014 Syllabus

科目名 学級担任論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 池田 修	

テーマ

学級担任とは何かを考える。

獲得目標

学級担任の仕事を理解する。やがて教師として学級担任を持つ時に必要な「引き出し」をできるだけ多く理解し、さらに身につけることを目指す。

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として学級担任の仕事を模擬的に行ってみる。学生諸君の積極的な発言、活動を期待する。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。

内 容

- 第1回 学級とは何か・授業ガイダンス。学級開きを通して、学級を考えてみる。先生と児童との距離感、黄金の三日間、3・7・30の法則。
- 第2回 学級担任の仕事。学級担任の仕事の種類や範囲を考えてみる。また、学級担任が「学級作り」で考えることを考える。担任窓口論、学級経営年間指導案、学級担任意務、学級通信、学級指導の記録などを手掛かりとする。
- 第3回 学級レクリエーション。子どもは遊びの中から学んでいく。その遊びを学級の中で最初に組織するのは担任である。学級レクリエーションの例を見ながら、いくつかの具体的な方法を実際にやってみる。
- 第4回 学級集団内のグループ。公的集団と私的集団。班作り(生活班と学習班)、実行委員会、専門委員会、生徒会、プロジェクトチーム、学習係、お助け組、会社、遊び仲間、女子集団、ソシオメトリなどを考える。
- 第5回 学級の環境作り。子どもは生活リズムと環境を土台にして学習を行う。そのために重要な「座席・掲示物・給食・掃除・教室美化」について指導方法を考える。
- 第6回 体験作文の指導。学級担任の仕事の大きな一つに、子どもたちに作文を書かせるというものがある。運動会、遠足、新学期など様々な場面で子どもたちに作文を書かせる。その指導方法に付いて学ぶ。
- 第7回 担任の一日の仕事を考える1。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
- 第8回 担任の一日の仕事を考える2。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
- 第9回 場面別指導1。忘れ物、遅刻の指導を中心に扱う。
- 第10回 場面別指導2。私語、学習遅進児への対応を中心に扱う。
- 第11回 場面別指導3。喧嘩、いじめ、からかいなどのトラブルへの対応を中心に扱う。
- 第12回 保護者との関係作り。保護者との協力関係を作ることが、子どもの成長に繋がる。保護者会、家庭訪問、三者面談、電話対応などを中心に扱う。
- 第13回 学級担任としての写真講座。学級経営に生かす写真の在り方について考える。撮影、分析、提示などの観点から考える。
- 第14回 通知表の書き方。架空の児童の通知表を実際に書いてみる。通知表の相互評価。実際に書いてみた、架空の児童の通知表の相互評価を行う。
- 第15回 まとめ。「書き込み回覧作文」による学級担任論の授業評価。

授業以外での学習方法

学級担任は、子どもや保護者から見れば学校の窓口である。学校のすべての仕事が広く関わってくる。それぞれの仕事を理解し、有機的に関連づけて子どもの成長に活かすことが期待される。学習集団であり生活集団でもある学級を束ね、より高いところに導こうとする担任の仕事は多岐に渡り、豊かで複雑である。新聞記事などに出る教育の話題、問題、課題について、もし自分が学級担任ならどのように取り組むのかと日常的に考え、文章にまとめることを勧める。それは、教員採用試験の学習にも直結するであろう。

教科書

こんな時どう言い返す

著者： 池田修

出版社：学事出版

出版年：

ISBN：

子どもと歩む 教師の12ヶ月

著者： 家本芳郎

出版社：高文研

出版年：

ISBN：

教師のための叱る作法

著者： 野口芳宏

出版社：学陽書房

出版年：

ISBN：

新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社：学陽書房

出版年：

ISBN：

<教育力>をみがく

著者： 家本芳郎

出版社：寺子屋新書

出版年：

ISBN：

参考書

新採教師はなぜ追いつめられたのか

著者： 久富善之・佐藤博

出版社：高文研

出版年：

ISBN：

先生！ 親ってそんなに怖いんですか？

著者： 星 幸宏

出版社：立花書房

出版年：

ISBN：

必ずクラスがまとまる教師の成功術！

著者： 野中信行 横藤雅人

出版社：学陽書房

出版年：

ISBN：

<学級>の歴史学

著者： 柳 治男

出版社：講談社選書メチエ

出版年：

ISBN：

学級経営10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社：学事出版

出版年：

ISBN：

教師におくる「指導」のいろいろ

著者： 家本芳郎

出版社：高文研

出版年：

ISBN：

学級担任に絶対必要な「フォロー」の技術

著者： 中村健一

出版社：黎明書房

出版年：

ISBN：

いじめで子どもが壊れる前に

著者： 藤川大祐

出版社：角川ONEテーマ新書

出版年：

ISBN：

クラスづくりの極意

著者： 岩瀬直樹

出版社： 農文協

出版年：

ISBN：

手軽に発行 学級通信のアイデア40

著者： 佐藤正寿

出版社： ひまわり社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ）

授業中発表等（ 25 ）

参加度（ 35 ）

出欠席は、出席さんと授業後に指示する課題を掲示板に書くことの両方をセットにして確認する。片方だけでは出席とはならないことを理解すること。また、参加度は出席率のことではないことを理解すること。

参考URL

風に吹かれて

<http://nonobu.way-nifty.com/blog/>

野中信行先生のブログ

学校から新しい風を！

<http://susumu.exblog.jp/>

糸井登先生のブログ

いわせんの仕事部屋

<http://d.hatena.ne.jp/iwasen/>

岩瀬直樹先生のブログ

2014 Syllabus

科目名 教育・心理統計学

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 春期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 石田 正浩

テーマ

教育学・心理学の論文で用いられる統計数値の意味を学ぶことを通じて、統計的に考えることの理解を深める。

獲得目標

教育学・心理学領域では調査や実験を行い、理論・仮説の検証を行います。得られたデータには統計的な処理を行い、その結果をもとに論理を展開します。そのため論文を理解したり、自分で調査・実験研究を行う場合には、そうした統計数値の意味を理解することが欠かせません。本講義では実際に統計量を計算することを通じて、統計数値を読み取る能力を養い、統計的な考え方の基本を修得することを目指します。

授業の内容

統計数値を用いたさまざまな事例の理解を通じて、統計的な数値の読みとり方を学びます。また、代表的な統計処理の手順を実際に計算することで、元になるデータと統計量の関係、そこから何が言えるのかを学びます。

内 容

- 第1回 統計的な考え方とは イメージと誤解
- 第2回 心理測定の基本
- 第3回 データの表現
- 第4回 記述統計と推測統計
- 第5回 質的変数の表現と要約
- 第6回 量的変数の表現と要約
- 第7回 2変数の関係の分析－相関係数
- 第8回 2変数の関係の分析－クロス表と χ^2 2検定
- 第9回 t検定1
- 第10回 t検定2
- 第11回 分散分析1
- 第12回 分散分析2
- 第13回 多変量解析1 重回帰分析
- 第14回 多変量解析2 因子分析
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

マスコミ等で用いられる統計的な表現が何を意味するのか、おかしな点は無いかを考える習慣を身につけましょう。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方

著者: 浦上昌則・脇田貴文

a30102g550

出版社：東京図書

出版年：2008

ISBN： 978-4489020384

ファーストブック 統計学がわかる

著者： 向後千春・富永敦子

出版社：技術評論社

出版年：2007

ISBN： 978-4774131900

成績評価

試験（0%）

小テスト（0%）

授業中課題（60%）

授業中発表等（0%）

参加度（40%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **児童文学研究**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 辻本 千鶴・三重野 由加

テーマ

宮沢賢治の児童文学作品を解釈・鑑賞する。

獲得目標

児童文学の代表的な作品を数多く残している宮沢賢治の作品を解釈・鑑賞することで、文学研究、あるいは児童文学を教えるための基礎力を養成することを目的とする。

授業の内容

作品の丁寧な解釈と鑑賞を行う。そのため、受講生は事前に作品を読んでおく必要がある。講義後、グループディスカッションを行い、代表者に発表してもらう。授業進度により、数回の映画鑑賞を予定している。また、外部講師による講演1回が予定されている。

内 容

- 第1回 導入
- 第2回 「オツベルと象」
- 第3回 「なめとこ山の熊」①
- 第4回 「なめとこ山の熊」②
- 第5回 「なめとこ山の熊」③
- 第6回 「よだかの星」①
- 第7回 「よだかの星」②
- 第8回 外部講師による講演(講師の都合により日程変更の可能性有)
- 第9回 「グスコブトリの伝記」①
- 第10回 「グスコブトリの伝記」②
- 第11回 「グスコブトリの伝記」③
- 第12回 「銀河鉄道の夜」①
- 第13回 「銀河鉄道の夜」②
- 第14回 「銀河鉄道の夜」③
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

授業で取り上げる作品を、必ず事前に読んでおくこと。

教科書

作品で読む宮沢賢治
著者：みぎわ書房編
出版社：白地社
出版年：2007
参考書

ISBN: 4-89359-245-3

成績評価

試験（40）

授業中課題（10）

参加度（20）

小テスト（0）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 乳児保育〈幼a〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	青木 美智子	

テーマ

1. 乳幼児期の心身の発達について学び、これを基礎としながら、この時期にふさわしい保育の計画や内容、方法について学ぶ。2. 乳児保育をめぐる今日的な課題を理解し、保育者として保護者を支援することについて、また関連機関との連携について考える。

獲得目標

児童福祉法では「乳児」とは生後一歳未満の子どもを指す。しかし「保育」の現場では、広く三歳未満の子どもを「乳児」と呼び、この時期の子どもの育ちを大きな一つの流れの中で捉えようとしている。したがって本講義では、第一に三歳未満児の保育の基礎となる、発達の知識を獲得することを目指す。そして第二に、子どもの発達に関する知識を基礎に置きながら、乳児期にふさわしい保育の計画や内容、方法について学ぶ。また、乳児保育をめぐる今日的課題に触れながら、乳児保育における保護者支援や関係機関との連携について考える。

授業の内容

講義において学んだ知識を確認し、さらに深めていくために、実技を交えた演習形式で進める。3回の授業で一つのテーマを扱うため、全15回で5つのテーマについて学ぶ。

内 容

- 第15回 保護者を支える「乳児保育」 3
- 第16回 筆記試験
- 第1回 乳児保育の現在 1
- 第2回 乳児保育の現在 2
- 第3回 乳児保育の現在 3
- 第4回 発達と保育 1
- 第5回 発達と保育 2
- 第6回 発達と保育 3
- 第7回 保育の内容と方法 1
- 第8回 保育の内容と方法 2 (ゲストスピーカーを予定)
- 第9回 保育の内容と方法 3
- 第10回 保育の計画と記録 1
- 第11回 保育の計画と記録 2
- 第12回 保育の計画と記録 3
- 第13回 保護者を支える「乳児保育」 1
- 第14回 保護者を支える「乳児保育」 2

授業以外での学習方法

教科書

乳児保育 一人一人を大切に

著者： 加藤敏子編著

出版社： 萌文書林

出版年： 2011

ISBN： 9784893471567

参考書

はじめて学ぶ乳児保育

著者： 志村聡子編著者

出版社：同文書院

出版年：2013

ISBN：9784810313680

〈育てられる者〉から〈育てる者〉へ

著者：鯨岡 峻

出版社：NHKブックス

出版年：2002

ISBN：9784140019382

子どもが忌避される時代

著者：本田和子

出版社：新曜社

出版年：2007

ISBN：9784788510760

未完の贈り物

著者：倉本美香

出版社：産経新聞出版

出版年：2012

ISBN：9784819111676

乳児保育の基本

著者：汐見稔幸編集

出版社：フレーベル館

出版年：2007

ISBN：9784577812365

成績評価

試験（30）

授業中課題（20）

参加度（10）

小テスト（30）

授業中発表等（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 乳児保育〈幼〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 青木 美智子

テーマ

1. 乳幼児期の心身の発達について学び、これを基礎としながら、この時期にふさわしい保育の計画や内容、方法について学ぶ。2. 乳児保育をめぐる今日的な課題を理解し、保育者として保護者を支援することについて、また関連機関との連携について考える。

獲得目標

児童福祉法では「乳児」とは生後一歳未満の子どもを指す。しかし「保育」の現場では、広く三歳未満の子どもを「乳児」と呼び、この時期の子どもの育ちを大きな一つの流れの中で捉えようとしている。したがって本講義では、第一に三歳未満児の保育の基礎となる、発達の知識を獲得することを目指す。そして第二に、子どもの発達に関する知識を基礎に置きながら、乳児期にふさわしい保育の計画や内容、方法について学ぶ。また、乳児保育をめぐる今日的課題に触れながら、乳児保育における保護者支援や関係機関との連携について考える。

授業の内容

講義において学んだ知識を確認し、さらに深めていくために、実技を交えた演習形式で進める。3回の授業で一つのテーマを扱うため、全15回で5つのテーマについて学ぶ。

内 容

- 第1回 乳児保育の現在 1
- 第2回 乳児保育の現在 2
- 第3回 乳児保育の現在 3
- 第4回 発達と保育 1
- 第5回 発達と保育 2
- 第6回 発達と保育 3
- 第7回 保育の内容と方法 1
- 第8回 保育の内容と方法 2 (ゲストスピーカーを予定)
- 第9回 保育の内容と方法 3
- 第10回 保育の計画と記録 1
- 第11回 保育の計画と記録 2
- 第12回 保育の計画と記録 3
- 第13回 保護者を支える「乳児保育」 1
- 第14回 保護者を支える「乳児保育」 2
- 第15回 保護者を支える「乳児保育」 3
- 第16回 筆記試験

授業以外での学習方法

教科書

乳児保育 一人一人を大切に

著者: 加藤敏子編著

出版社: 萌文書林

出版年: 2011

ISBN: 9784893471567

参考書

はじめて学ぶ乳児保育

著者: 志村聡子編著者

出版社：同文書院

出版年：2013

ISBN：9784810313680

〈育てられる者〉から〈育てる者〉へ

著者：鯨岡 峻

出版社：NHKブックス

出版年：2002

ISBN：9784140019382

子どもが忌避される時代

著者：本田和子

出版社：新曜社

出版年：2007

ISBN：9784788510760

未完の贈り物

著者：倉本美香

出版社：産経新聞出版

出版年：2012

ISBN：9784819111676

乳児保育の基本

著者：汐見稔幸編集

出版社：フレーベル館

出版年：2007

ISBN：9784577812365

成績評価

試験（30）

小テスト（30）

授業中課題（20）

授業中発表等（10）

参加度（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 障害児保育〈幼a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 三山 岳

テーマ

障害に関する基礎的知識と障害児保育の意義を学ぶ

獲得目標

障害児の保育を行っていくために必要な障害の基礎的な知識を学ぶとともに、実際の具体的な保育実践と支援の事例を読みながら障害児保育の意義を学びます。また障害児保育を行うために活用できる社会的資源や、その利用の仕方についても学びます。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(“障がい”とは何か?)
- 第2回 障害児保育のあゆみと発達の権利
- 第3回 知的障害とダウン症の基礎知識
- 第4回 てんかん・脳性まひ・重度重複障害の基礎知識
- 第5回 ADHD・LDの基礎知識
- 第6回 自閉スペクトラム障害の基礎知識
- 第7回 自閉スペクトラム障害の基礎知識
- 第8回 グループ発表の学習とグループ交流
- 第9回 事例検討(グループ学習と発表)①
- 第10回 事例検討(グループ学習と発表)②
- 第11回 事例検討(グループ学習と発表)③
- 第12回 事例検討(グループ学習と発表)④
- 第13回 事例検討(グループ学習と発表)⑤
- 第14回 事例検討(グループ学習と発表)⑥
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

障害児保育の実践記録が書いてある本を探し、読んでみるようにしてください

教科書

発達障害児・気になる子の巡回相談—すべての子どもが「参加」する保育へ

著者： 浜谷直人

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2009

ISBN： 9784623055258

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（50）

参加度（20）

グループ発表に積極的に参加しなかった人には追加課題が出されます

参考URL

2014 Syllabus

科目名 障害児保育〈幼b〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期集中

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 竹下 秀子

テーマ

障害に関する基礎的知識と障害児保育の意義を学ぶ

獲得目標

障害児の保育を行っていくために必要な障害の基礎的な知識を学ぶとともに、実際の具体的な保育実践と支援の事例を読みながら障害児保育の意義を学びます。また障害児保育を行うために活用できる社会的資源や、その利用の仕方についても学びます。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(“障がい”とは何か?)
- 第2回 障害児保育のあゆみと発達の権利
- 第3回 知的障害とダウン症の基礎知識
- 第4回 広汎性発達障害(自閉症・アスペルガー)の基礎知識
- 第5回 ADHDの基礎知識
- 第6回 LDの基礎知識と発達障害への対応
- 第7回 肢体不自由とてんかんの基礎知識
- 第8回 社会的資源と発達保障
- 第9回 事例検討(グループ学習と発表)①
- 第10回 事例検討(グループ学習と発表)②
- 第11回 事例検討(グループ学習と発表)③
- 第12回 事例検討(グループ学習と発表)④
- 第13回 事例検討(グループ学習と発表)⑤
- 第14回 事例検討(グループ学習と発表)⑥
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

障害児保育の実践記録が書いてある本を探し、読んでみるようにしてください

教科書

発達障害児・気になる子の巡回相談—すべての子どもが「参加」する保育へ

著者： 浜谷直人

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2009

ISBN： 9784623055258

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（50）

参加度（20）

グループ発表に積極的に参加しなかった人には追加課題が出されます

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会的養護内容〈幼a〉**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	春田 真樹	

テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。

獲得目標

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。

授業の内容

基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。

内 容

- 第1回 子どもの養護と保育士① オリエンテーション
- 第2回 子どもの養護と保育士②
- 第3回 施設養護のプロセスの理解
- 第4回 施設養護のプロセスの展開(児童養護施設のDVD鑑賞)
- 第5回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援
- 第6回 こころの援助①
- 第7回 こころの援助②
- 第8回 中間の振り返り(児童養護施設のDVD鑑賞)
- 第9回 親子関係の援助
- 第10回 地域・学校との関係づくり
- 第11回 自己表現・自立への支援・援助① 自立の考え方
- 第12回 自己表現・自立への支援・援助② 自立に向けた支援・援助
- 第13回 児童福祉施設の運営管理
- 第14回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること(たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等)により、授業の内容がより実感として理解できると思います。

教科書

保育士をめざす人の社会的養護内容

著者： 辰巳隆・岡本真幸 編

出版社： 株式会社 みらい

出版年： 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（40）

授業中発表等（10）

参加度（50）

この授業は参加度と授業中の課題を重視します。授業中に与える課題はレポートを想定していますが、誤字脱字はもちろんのこと、与えられたテーマに対して筋道の通った文章展開がなされているか、適切な字数か等を採点項目にしています。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 社会的養護内容〈幼b〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	春田 真樹	

テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。

獲得目標

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。

授業の内容

基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。

内 容

- 第1回 子どもの養護と保育士① オリエンテーション
- 第2回 子どもの養護と保育士②
- 第3回 施設養護のプロセスの理解
- 第4回 施設養護のプロセスの展開(児童養護施設のDVD鑑賞)
- 第5回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援
- 第6回 こころの援助①
- 第7回 こころの援助②
- 第8回 中間の振り返り(児童養護施設のDVD鑑賞)
- 第9回 親子関係の援助
- 第10回 地域・学校との関係づくり
- 第11回 自己表現・自立への支援・援助① 自立の考え方
- 第12回 自己表現・自立への支援・援助② 自立に向けた支援・援助
- 第13回 児童福祉施設の運営管理
- 第14回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること(たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等)により、授業の内容がより実感として理解できると思います。

教科書

保育士をめざす人の社会的養護内容

著者： 辰巳隆・岡本真幸 編

出版社： 株式会社 みらい

出版年： 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（40）

授業中発表等（10）

参加度（50）

この授業は参加度と授業中の課題を重視します。授業中に与える課題はレポートを想定していますが、誤字脱字はもちろんのこと、与えられたテーマに対して筋道の通った文章展開がなされているか、適切な字数か等を採点項目にしています。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期前半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	一柳 敦子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教⑦読む力や書く力、話す力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。児④この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキル)について理解する。

授業の内容

保育所実習の意義と目的について基本を理解するとともに、保育実習 I - 1 の段階の内容を知り、必要な技術を身につける。また、実習への期待を高め、さらなる技術や情報について学ぶ。

内 容

- 第1回 保育所実習の意義と目的を理解する。(視聴覚教材や講話から)
 第2回 保育所保育指針について学ぶ① 保育所の役割や目的、機能について学ぶ。(保育所保育指針とその解説書等から)
 第3回 保育課程や指導計画について知る。(保育所保育指針解説書や実践例から)
 第4回 保育所の子どもたちや発達段階に応じた姿を知る。(視聴覚教材や体験活動からの振り返りなどから)
 第5回 年齢別の指導方法や保育技術について① 保育所の一日の流れや保育士の仕事を通して
 第6回 年齢別の指導方法や保育技術について② 養護にかかわる内容を通して
 第7回 帳票類・保菌検査について
 第8回 実習簿や記録の意味と書き方について 先輩の実践例から学ぶ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者：厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期前半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者 太田 みつ枝		

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教⑦読む力や書く力、話す力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。児④この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキル)について理解する。

授業の内容

保育所実習の意義と目的について基本を理解するとともに、保育実習 I - 1 の段階の内容を知り、必要な技術を身につける。また、実習への期待を高め、さらなる技術や情報について学ぶ。

内 容

- 第1回 保育所実習の意義と目的を理解する。(視聴覚教材や講話から)
 第2回 保育所保育指針について学ぶ① 保育所の役割や目的、機能について学ぶ。(保育所保育指針とその解説書等から)
 第3回 保育課程や指導計画について知る。(保育所保育指針解説書や実践例から)
 第4回 保育所の子どもたちや発達段階に応じた姿を知る。(視聴覚教材や体験活動からの振り返りなどから)
 第5回 年齢別の指導方法や保育技術について① 保育所の一日の流れや保育士の仕事を通して
 第6回 年齢別の指導方法や保育技術について② 養護にかかわる内容を通して
 第7回 帳票類・保菌検査について
 第8回 実習簿や記録の意味と書き方について 先輩の実践例から学ぶ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者：厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 <c>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期前半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	大山 弘美	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教⑦読む力や書く力、話す力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。児④この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキル)について理解する。

授業の内容

保育所実習の意義と目的について基本を理解するとともに、保育実習 I - 1 の段階の内容を知り、必要な技術を身につける。また、実習への期待を高め、さらなる技術や情報について学ぶ。

内 容

- 第1回 保育所実習の意義と目的を理解する。(視聴覚教材や講話から)
 第2回 保育所保育指針について学ぶ① 保育所の役割や目的、機能について学ぶ。(保育所保育指針とその解説書等から)
 第3回 保育課程や指導計画について知る。(保育所保育指針解説書や実践例から)
 第4回 保育所の子どもたちや発達段階に応じた姿を知る。(視聴覚教材や体験活動からの振り返りなどから)
 第5回 年齢別の指導方法や保育技術について① 保育所の一日の流れや保育士の仕事を通して
 第6回 年齢別の指導方法や保育技術について② 養護にかかわる内容を通して
 第7回 帳票類・保菌検査について
 第8回 実習簿や記録の意味と書き方について 先輩の実践例から学ぶ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者：厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 <d>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期前半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	杉江 由紀子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教⑦読む力や書く力、話す力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。児④この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキル)について理解する。

授業の内容

保育所実習の意義と目的について基本を理解するとともに、保育実習 I - 1 の段階の内容を知り、必要な技術を身につける。また、実習への期待を高め、さらなる技術や情報について学ぶ。

内 容

- 第1回 保育所実習の意義と目的を理解する。(視聴覚教材や講話から)
- 第2回 保育所保育指針について学ぶ① 保育所の役割や目的、機能について学ぶ。(保育所保育指針とその解説書等から)
- 第3回 保育課程や指導計画について知る。(保育所保育指針解説書や実践例から)
- 第4回 保育所の子どもたちや発達段階に応じた姿を知る。(視聴覚教材や体験活動からの振り返りなどから)
- 第5回 年齢別の指導方法や保育技術について① 保育所の一日の流れや保育士の仕事を通して
- 第6回 年齢別の指導方法や保育技術について② 養護にかかわる内容を通して
- 第7回 帳票類・保菌検査について
- 第8回 実習簿や記録の意味と書き方について 先輩の実践例から学ぶ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者：厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 <e>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期前半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	谷口 敦子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教⑦読む力や書く力、話す力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。児④この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキル)について理解する。

授業の内容

保育所実習の意義と目的について基本を理解するとともに、保育実習 I - 1 の段階の内容を知り、必要な技術を身につける。また、実習への期待を高め、さらなる技術や情報について学ぶ。

内 容

- 第1回 保育所実習の意義と目的を理解する。(視聴覚教材や講話から)
 第2回 保育所保育指針について学ぶ① 保育所の役割や目的、機能について学ぶ。(保育所保育指針とその解説書等から)
 第3回 保育課程や指導計画について知る。(保育所保育指針解説書や実践例から)
 第4回 保育所の子どもたちや発達段階に応じた姿を知る。(視聴覚教材や体験活動からの振り返りなどから)
 第5回 年齢別の指導方法や保育技術について① 保育所の一日の流れや保育士の仕事を通して
 第6回 年齢別の指導方法や保育技術について② 養護にかかわる内容を通して
 第7回 帳票類・保菌検査について
 第8回 実習簿や記録の意味と書き方について 先輩の実践例から学ぶ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者：厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅰ-1 <f>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期前半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	中崎 あつ子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教⑦読む力や書く力、話す力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。児④この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキル)について理解する。

授業の内容

保育所実習の意義と目的について基本を理解するとともに、保育実習Ⅰ-1の段階の内容を知り、必要な技術を身につける。また、実習への期待を高め、さらなる技術や情報について学ぶ。

内 容

- 第1回 保育所実習の意義と目的を理解する。(視聴覚教材や講話から)
 第2回 保育所保育指針について学ぶ① 保育所の役割や目的、機能について学ぶ。(保育所保育指針とその解説書等から)
 第3回 保育課程や指導計画について知る。(保育所保育指針解説書や実践例から)
 第4回 保育所の子どもたちや発達段階に応じた姿を知る。(視聴覚教材や体験活動からの振り返りなどから)
 第5回 年齢別の指導方法や保育技術について① 保育所の一日の流れや保育士の仕事を通して
 第6回 年齢別の指導方法や保育技術について② 養護にかかわる内容を通して
 第7回 帳票類・保菌検査について
 第8回 実習簿や記録の意味と書き方について 先輩の実践例から学ぶ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者：厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 <g>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期前半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	山口 陽子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教⑦読む力や書く力、話す力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。児④この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキル)について理解する。

授業の内容

保育所実習の意義と目的について基本を理解するとともに、保育実習 I - 1 の段階の内容を知り、必要な技術を身につける。また、実習への期待を高め、さらなる技術や情報について学ぶ。

内 容

- 第1回 保育所実習の意義と目的を理解する。(視聴覚教材や講話から)
 第2回 保育所保育指針について学ぶ① 保育所の役割や目的、機能について学ぶ。(保育所保育指針とその解説書等から)
 第3回 保育課程や指導計画について知る。(保育所保育指針解説書や実践例から)
 第4回 保育所の子どもたちや発達段階に応じた姿を知る。(視聴覚教材や体験活動からの振り返りなどから)
 第5回 年齢別の指導方法や保育技術について① 保育所の一日の流れや保育士の仕事を通して
 第6回 年齢別の指導方法や保育技術について② 養護にかかわる内容を通して
 第7回 帳票類・保菌検査について
 第8回 実習簿や記録の意味と書き方について 先輩の実践例から学ぶ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導 I - 1 <h>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期前半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	吉田 裕子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教②知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教⑦読む力や書く力、話す力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。児④この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキル)について理解する。

授業の内容

保育所実習の意義と目的について基本を理解するとともに、保育実習 I - 1 の段階の内容を知り、必要な技術を身につける。また、実習への期待を高め、さらなる技術や情報について学ぶ。

内 容

- 第1回 保育所実習の意義と目的を理解する。(視聴覚教材や講話から)
 第2回 保育所保育指針について学ぶ① 保育所の役割や目的、機能について学ぶ。(保育所保育指針とその解説書等から)
 第3回 保育課程や指導計画について知る。(保育所保育指針解説書や実践例から)
 第4回 保育所の子どもたちや発達段階に応じた姿を知る。(視聴覚教材や体験活動からの振り返りなどから)
 第5回 年齢別の指導方法や保育技術について① 保育所の一日の流れや保育士の仕事を通して
 第6回 年齢別の指導方法や保育技術について② 養護にかかわる内容を通して
 第7回 帳票類・保菌検査について
 第8回 実習簿や記録の意味と書き方について 先輩の実践例から学ぶ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ〈a〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期後半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	一柳 敦子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。児⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

保育実習Ⅱの段階の目的と内容を理解する。また実技や演習等を通して必要な技術を身につけるとともに、保育実習Ⅱにふさわしい探求心と課題意識を養う。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について② 発達段階に応じた保育者のかかわり
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法①-未満児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法②-3歳以上児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 絵本等について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 絵画制作について
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案の意味と作成
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期後半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	太田 みつ枝	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。児⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

保育実習Ⅱの段階の目的と内容を理解する。また実技や演習等を通して必要な技術を身につけるとともに、保育実習Ⅱにふさわしい探求心と課題意識を養う。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について② 発達段階に応じた保育者のかかわり
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法①-未満児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法②-3歳以上児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 絵本等について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 絵画制作について
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案の意味と作成
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ〈c〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期後半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	大山 弘美	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。児⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

保育実習Ⅱの段階の目的と内容を理解する。また実技や演習等を通して必要な技術を身につけるとともに、保育実習Ⅱにふさわしい探求心と課題意識を養う。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について② 発達段階に応じた保育者のかかわり
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法①-未満児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法②-3歳以上児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 絵本等について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 絵画制作について
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案の意味と作成
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者：厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ <d>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期後半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	杉江 由紀子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。児⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

保育実習Ⅱの段階の目的と内容を理解する。また実技や演習等を通して必要な技術を身につけるとともに、保育実習Ⅱにふさわしい探求心と課題意識を養う。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について② 発達段階に応じた保育者のかかわり
 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法①-未満児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法②-3歳以上児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 絵本等について
 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 絵画制作について
 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案の意味と作成
 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。直前指導
 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ〈e〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期後半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	谷口 敦子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。児⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

保育実習Ⅱの段階の目的と内容を理解する。また実技や演習等を通して必要な技術を身につけるとともに、保育実習Ⅱにふさわしい探求心と課題意識を養う。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について② 発達段階に応じた保育者のかかわり
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法①-未満児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法②-3歳以上児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 絵本等について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 絵画制作について
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案の意味と作成
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ〈f〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期後半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	中崎 あつ子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。児⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

保育実習Ⅱの段階の目的と内容を理解する。また実技や演習等を通して必要な技術を身につけるとともに、保育実習Ⅱにふさわしい探求心と課題意識を養う。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について② 発達段階に応じた保育者のかかわり
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法①-未満児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法②-3歳以上児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 絵本等について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 絵画制作について
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案の意味と作成
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者：厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ〈g〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期後半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	山口 陽子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。児⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

保育実習Ⅱの段階の目的と内容を理解する。また実技や演習等を通して必要な技術を身につけるとともに、保育実習Ⅱにふさわしい探求心と課題意識を養う。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について② 発達段階に応じた保育者のかかわり
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法①-未満児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法②-3歳以上児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 絵本等について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 絵画制作について
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案の意味と作成
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅱ〈h〉

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期後半	定員	25
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	吉田 裕子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

獲得目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の育成 教⑥物事を論理的に解決する能力の養成 児③基礎的な考え方(理論)や専門的知識を身につける。児⑤この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の内容

保育実習Ⅱの段階の目的と内容を理解する。また実技や演習等を通して必要な技術を身につけるとともに、保育実習Ⅱにふさわしい探求心と課題意識を養う。

内 容

- 第1回 保育所保育指針について② 発達段階に応じた保育者のかかわり
- 第2回 年齢別教材や保育技術、指導法①-未満児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第3回 年齢別教材や保育技術、指導法②-3歳以上児について- (ビデオ教材や事例研究等を通して)
- 第4回 年齢別教材や保育技術、指導法③ 絵本等について
- 第5回 年齢別教材や保育技術、指導法④ 絵画制作について
- 第6回 年齢別教材や保育技術、指導法⑤ 指導案の意味と作成
- 第7回 先輩の体験報告から学ぶ。直前指導
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

なし

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 体育実技〈幼a〉

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 新野 守

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得

獲得目標

①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。

授業の内容

基本の運動、器械運動、陸上運動、球技運動を行うが、人数によっては、内容を変更することがある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 体ほぐし①
- 第3回 体ほぐし②
- 第4回 鉄棒運動
- 第5回 跳び箱運動
- 第6回 マット運動
- 第7回 短距離走
- 第8回 リレー競走
- 第9回 走り幅跳び
- 第10回 持久走
- 第11回 ポートボール
- 第12回 バスケットボール
- 第13回 バレーボール
- 第14回 バドミントン
- 第15回 サッカー

授業以外での学習方法

毎回の準備運動では、腕立て伏せ、腹筋、背筋、ジャンプ、倒立などの運動を行い基礎的な体力と基本的な動作能力を培う。最終的に、上記の運動が男子は50回、女子は30回連続してできること、また器械運動の連続技の構成を目指す。自宅で毎日筋カトレーニングを実施すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a30102i350

参加度（50）

基礎的な体力・技術は実技テストで、技術指導のポイントの整理はレポートで、積極性はマナーで評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 体育実技<幼b>

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 40

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 新野 守

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技能の習熟

獲得目標

①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。

授業の内容

基本の運動、器械運動、陸上運動、球技運動を中心に、各運動の基礎技術の指導方法をグループ活動を通して学ぶ。人数によっては内容を変更することがある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 体ほぐし①
- 第3回 体ほぐし②
- 第4回 鉄棒運動
- 第5回 跳び箱運動
- 第6回 マット運動
- 第7回 短距離走
- 第8回 リレー競走
- 第9回 走り幅跳び
- 第10回 持久走
- 第11回 ポートボール
- 第12回 バスケットボール
- 第13回 バレーボール
- 第14回 バドミントン
- 第15回 サッカー

授業以外での学習方法

毎回の準備運動では、腕立て伏せ、腹筋、背筋、ジャンプ、倒立などの運動を行い基礎的な体力と基本的な動作能力を培う。最終的に、上記の運動が男子は50回、女子は30回連続してできること、また器械運動の連続技の構成を目指す。自宅で毎日筋カトレーニングを実施すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a30102i352

参加度（50）

基礎的な体力・技術は実技テストで、技術指導のポイントの整理はレポートで、積極性はマナーで評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 保育実習Ⅲ <Z>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定員 80
履修条件 『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担当者 口野 隆史 吉田 裕子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した実習の実施 ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育の糧にー

獲得目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育園における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の内容

この実習では、受け入れ保育園の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

内 容

第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 第1回 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)

授業以外での学習方法

1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それをを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>

著者: 文部科学省、厚生労働省

出版社: チルド社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

a301034780

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実にを行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 特別支援教育論

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 森下 勇

テーマ

障害のある子ども、発達に課題がある子どもに関する基礎的知識とその教育のあり方

獲得目標

1. 子ども理解の基本的視点がわかる。 2. 障害児のライフサイクルとそれぞれの時期の課題がわかる。 3. 日本の障害児教育の歴史と今日的課題がわかる。 4. 障害児、発達に課題のある子どもに関わる教師のあり方、役割についての考察を深める。

授業の内容

今日、障害児と発達的に課題を有する子どもの教育は特別支援教育としてとりくまれ、指導内容、方法などが議論にされることが多い。本講義においては、そうした具体的な論点を検討する上での前提として、子ども理解のあり方や、その形成の歴史的経過など、基本的な課題を理解すること、加えて、総合科学としての「障害児問題」についての入門的理解を図ることなどを通して、障害児教育、特別支援教育のあり方を学んでいきたい。必要な資料を用いながら、主として講義形式でおこなう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:①障害児教育をめぐる動向、特別支援教育とは ②科目の目標、すすめ方、留意事項の確認
- 第2回 特別支援教育の現状と課題①:実践現場の状況
- 第3回 特別支援教育の現状と課題②:子ども理解と指導
- 第4回 特別支援教育の現状と課題③:考えるべき課題
- 第5回 特別支援教育の制度:特別支援学校、特別支援学級、通級指導、通常学級
- 第6回 障害児教育の歴史①:戦後～1960年代(特殊教育論)
- 第7回 障害児教育の歴史②:1960年代～養護学校義務制実施前
- 第8回 障害児教育の歴史③:養護学校義務制移行～特別支援教育
- 第9回 ライフステージと障害児教育①:乳幼児期(障害の発見と受容)
- 第10回 ライフステージと障害児教育②:学童期(就修学、地域生活)
- 第11回 ライフステージと障害児教育③:思春期・青年期(「第2の誕生」から社会へ)
- 第12回 子ども理解の基本的視点①(障害)
- 第13回 子ども理解の基本的視点②(発達)
- 第14回 子ども理解の基本的視点③(生活)
- 第15回 ①発達障害(主に自閉症)の理解と教育 ②講義全体のまとめ

授業以外での学習方法

参考文献などを積極的に読み、障害児教育についての知識と理解を深めること、障害児・者問題について関心をもつことを日常的に心がけること。

教科書

参考書

障害児と教育

著者: 茂木俊彦

出版社: 岩波新書

出版年: 1990

ISBN: 400431319

障害児教育を考える

著者： 茂木俊彦

出版社： 岩波新書

出版年： 2007

ISBN： 9784004311102

キーワードブック障害児教育[改訂増補版]

著者： 清水貞夫・藤本文朗編

出版社： クリエイツかもがわ

出版年： 2005

ISBN： 9784863420205

障害児教育学の現状・課題・未来[改訂版]

著者： 藤本文朗・小川克正編

出版社： 培風館

出版年： 2006

ISBN： 4563057711

障害児教育の歴史

著者： 中村満紀男・荒川智

出版社： 明石書店

出版年： 2003

ISBN： 4750318019

発達保障ってなに？

著者： 丸山啓史・河合隆平・品川文雄

出版社： 全障研出版部

出版年： 2012

ISBN： 9784881340851

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

「授業中課題」: 期末レポート(提出必須)の内容一講義全般についての理解度、講義をふまえた自己の特別支援教育論、論理展開など一、さらに数回の小レポートの提出状況と内容、小テストの結果など。参加度: 出席回数(2/3以上の出席必須)および受講態度全般。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 表現教育論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担 当 者 久堀 久美子	

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実戦的学びを深める

獲得目標

幼児の内面理解を深め、幼児が自己を表現する意味や具体的な方法・内容、保育者の援助について学ぶことを目的とする

授業の内容

幼児の表現を理解するために、身体表現・言語表現・造形表現、総合的表現活動としての劇遊び等の視点から学びを進めていく

内 容

- 第1回 表現教育を通して幼児に何を育てるのか(幼稚園教育要領領域『表現』から理解を深める)
- 第2回 身体表現(1)身体を動かすことから心が育つ(リズムステップの基本)
- 第3回 身体表現(2)感動体験から身体表現へ(身近な自然との触れ合いから)
- 第4回 身体表現(3)お話(絵本)から身体表現へ(お話の気持ちを表現する)
- 第5回 造形表現(1)思いを育てる造形教育(秋の自然を通して)
- 第6回 造形表現(2)思いを育てる造形教育(お話を聞いて創造する)
- 第7回 造形表現(3)思いを育てる造形教育(お話を聞いて創造する)
- 第8回 総合的表現教育としての『劇遊び』(1)(『劇遊び』の意義と教育的役割・幼稚園における『劇遊び』の園児の姿をビデオで見る)
- 第9回 総合的表現教育としての『劇遊び』(2)(お話から劇のシナリオ作り①)
- 第10回 総合的表現教育としての『劇遊び』(3)(お話から劇のシナリオ作り②)
- 第11回 総合的表現教育としての『劇遊び』(4)(劇の流れ・構成を把握し、自主的に表現を練習)
- 第12回 総合的表現教育としての『劇遊び』(5)(劇の大道具や小道具作り)
- 第13回 総合的表現教育としての『劇遊び』(6)(劇に必要なナレーション・セリフ・音楽・歌等の練習)
- 第14回 総合的表現教育としての『劇遊び』(7)(劇の作品発表①)
- 第15回 総合的表現教育としての『劇遊び』(8)(劇の作品発表②)

授業以外での学習方法

身近な環境(自然・社会・人等)を通しての体験から感動を感じる心が自己表現の基盤。日頃から意識して自分の生活に取り入れるよう心掛けて欲しい。授業に関する資料は随時配布する。

教科書

参考書

幼稚園教育要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（40）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（0）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 表現教育論 <c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担 当 者 久堀 久美子	

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実戦的学びを深める

獲得目標

幼児の内面理解を深め、幼児が自己を表現する意味や具体的な方法・内容、保育者の援助について学ぶことを目的とする

授業の内容

幼児の表現を理解するために、身体表現・言語表現・造形表現、総合的表現活動としての劇遊び等の視点から学びを進めていく

内 容

- 第1回 表現教育を通して幼児に何を育てるのか(幼稚園教育要領領域『表現』から理解を深める)
- 第2回 身体表現(1)身体を動かすことから心が育つ(リズムステップの基本)
- 第3回 身体表現(2)感動体験から身体表現へ(身近な自然との触れ合いから)
- 第4回 身体表現(3)お話(絵本)から身体表現へ(お話の気持ちを表現する)
- 第5回 造形表現(1)思いを育てる造形教育(秋の自然を通して)
- 第6回 造形表現(2)思いを育てる造形教育(お話を聞いて創造する)
- 第7回 造形表現(3)思いを育てる造形教育(お話を聞いて創造する)
- 第8回 総合的表現教育としての『劇遊び』(1)(『劇遊び』の意義と教育的役割・幼稚園における『劇遊び』の園児の姿をビデオで見る)
- 第9回 総合的表現教育としての『劇遊び』(2)(お話から劇のシナリオ作り①)
- 第10回 総合的表現教育としての『劇遊び』(3)(お話から劇のシナリオ作り②)
- 第11回 総合的表現教育としての『劇遊び』(4)(劇の流れ・構成を把握し、自主的に表現を練習)
- 第12回 総合的表現教育としての『劇遊び』(5)(劇の大道具や小道具作り)
- 第13回 総合的表現教育としての『劇遊び』(6)(劇に必要なナレーション・セリフ・音楽・歌等の練習)
- 第14回 総合的表現教育としての『劇遊び』(7)(劇の作品発表①)
- 第15回 総合的表現教育としての『劇遊び』(8)(劇の作品発表②)

授業以外での学習方法

身近な環境(自然・社会・人等)を通しての体験から感動を感じる心が自己表現の基盤。日頃から意識して自分の生活に取り入れるよう心掛けて欲しい。授業に関する資料は随時配布する。

教科書

参考書

幼稚園教育要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（40）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（0）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職実践演習〈幼児a〉

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	25
履修条件	クラス指定	
担当者	八木 英二	

テーマ

子どもの遊びの発展と保育指導

獲得目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の内容

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。
1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各領域の指導、3. コミュニケーション(①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係)、4. 教育的愛情、5. 学級経営。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

内 容

- 第1回 4年間の学習を振り返る
- 第2回 子ども理解—幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
- 第3回 各領域の教育・保育—健康①日常生活リズム・健康に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第4回 各領域の教育・保育—健康②運動遊びに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第5回 各領域の教育・保育—人間関係①グループでの活動に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第6回 各領域の教育・保育—人間関係②異年齢交流に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第7回 各領域の教育・保育—環境①生き物、自然環境に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第8回 各領域の教育・保育—環境②数や量に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第9回 各領域の教育・保育—言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第10回 各領域の教育・保育—言葉②劇の発表に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第11回 各領域の教育・保育—表現①音楽やリズムに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第12回 各領域の教育・保育—表現②図画・工作に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第13回 幼稚園における職員間の連携(グループ討議、クラス討論)
- 第14回 地域・保護者との連携(グループ討議、クラス討論)
- 第15回 幼稚園教諭の役割—幼稚園教諭の資質の吟味と確認

授業以外での学習方法

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **研究入門ゼミⅡ <C>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 25

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Getting to Know the World II

獲得目標

1. To make the students more informed about world issues; 2. To have the students get into good and regular reading habits; 3. To encourage students to think in an academic, logical, informed and global way; 4. To give students the opportunity to express their opinions; 5. To encourage students to take notes; and 6. To give students the chance to make presentations and improve their presentation skills.

授業の内容

In the second semester each students will choose one international or domestic issue, and read books about it before giving a presentation to the class. After each presentation there will be question and discussion time about issues raised, problems faced by that particular country, and other points of national and international interest

内 容

- 第1回 Review of first semester, and first-semester assignments. Outline of second-semester requirements.
- 第2回 Issue 1
- 第3回 Issue 2
- 第4回 Issue 3
- 第5回 Issue 4
- 第6回 Issue 5
- 第7回 Issue 6
- 第8回 Issue 7
- 第9回 Issue 8
- 第10回 Issue 9
- 第11回 Issue 10
- 第12回 Issue 11
- 第13回 Issue 12
- 第14回 Issue 13
- 第15回 Final roundup and discussion

授業以外での学習方法

Watch the news daily, read the newspaper regularly, and read related materials on global topics

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (20)

小テスト (20)
授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building II <c>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Develop your reading skills and build your vocabulary

獲得目標

This course will aim to build your reading and vocabulary-building skills, as well as your ability to critically engage with academic material.

授業の内容

Reading will be conducted both in class and as homework. Students will be required to study vocabulary intensively. There will be regular quizzes.

内 容

- 第1回 Introduction / Catching up
- 第2回 Unit 7: Advertising techniques
- 第3回 Unit 7: How advertisers use the internet
- 第4回 Unit 8: How to do better
- 第5回 Unit 8: Drugs in sport
- 第6回 Unit 9: Living longer
- 第7回 Unit 9: Can we afford to live longer?
- 第8回 Review 1
- 第9回 Unit 10: Technology and society
- 第10回 Unit 10: The new luddites
- 第11回 Unit 11: Standing up for animals
- 第12回 Unit 11: People for animal rights
- 第13回 Unit 12: The news industry today
- 第14回 Unit 12: Can we trust the news?
- 第15回 Review 2

授業以外での学習方法

教科書

In Focus Level 1 Student's Book with Online Resources

著者: Charles Browne, Brent Culligan, Joseph Phillips

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2014

ISBN: 9781107627093

参考書

a30201a453

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation II <a>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員 30
履修条件	クラス指定 到達度別
担当者 フォスター ヘンリー	

テーマ

Develop confidence in writing and presenting in English

獲得目標

This course will aim to develop basic academic presentation and writing skills. Students will learn how to present a topic using effective physical, visual and verbal communication, and how to write academic paragraphs and short essays.

授業の内容

The second-semester course will focus on writing skills, and presentations will be developed from written assignments. The final assignment will be an 800-word essay. Students will be expected to attend regularly, participate actively and submit regular writing and presentation assignments. This class will be conducted in a computer lab. This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Pre-Writing
- 第2回 Paragraph Structure
- 第3回 Developing a Paragraph
- 第4回 Descriptive and Process Paragraphs
- 第5回 Opinion Paragraphs
- 第6回 Comparison/Contrast Paragraphs
- 第7回 Problem/Solution Paragraphs
- 第8回 Essay Structure
- 第9回 Outlining
- 第10回 Introduction & Conclusion
- 第11回 Unity & Coherence
- 第12回 Peer-Review, Revision & Editing
- 第13回 Presentation preparation
- 第14回 Final Presentations (1)
- 第15回 Final Presentations (2)

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a30201b050

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation II **

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	到達度別
担当者	栗田 梨津子	

テーマ

アカデミック・ライティングおよびプレゼンテーション入門

獲得目標

英語でのライティングおよびプレゼンテーションの基本技能を習得し、自分の意見や考えを論理的に英語で表現できるようになること。

授業の内容

英語でのレポートまたは論文作成の基本となるパラグラフの書き方や形式上のルールについて学んでいきます。同時に、ポディランゲージや視覚資料を用いて自分の考えを効果的に伝えるための技能を身につけていきます。

内 容

- 第1回 授業概要の説明
- 第2回 Unit 1: A motto for life
- 第3回 Unit 1: A motto for life
- 第4回 プレゼンテーション
- 第5回 Unit 2: Young people today
- 第6回 Unit 2: Young people today
- 第7回 プレゼンテーション
- 第8回 Unit 5: In my opinion
- 第9回 Unit 5: In my opinion
- 第10回 プレゼンテーション 1-1
- 第11回 プレゼンテーション 1-2
- 第12回 Unit 6: In the news
- 第13回 Unit 6: In the news
- 第14回 プレゼンテーション 1-1
- 第15回 プレゼンテーション 1-2 全体のまとめ

授業以外での学習方法

毎回テキストの指定された範囲を予習し、単語や文法などを調べておいてください。また必要であれば、参考書等を使って基本的な英文法を各自復習してください。

教科書

Present Yourself 2: Viewpoints

著者: Steven Gershon

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2008

ISBN:

参考書

マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)

著者: Raymond Murphy

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

授業中課題として英文エッセイ(800 words)を提出してもらいます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation II <c>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定 到達度別

担当者 金山 敬

テーマ

「世界でモノをいう日本人」育成のために

獲得目標

英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成する。

授業の内容

今まで蓄積してきた英語をベースに、プロジェクトを経験しながら、提案や説得できる、あるいは、効果的に情報伝達ができる英語力を養いつつ、プレゼンテーションの技術を身につけていきます。

内 容

- 第1回 Project 4 "Introducing Japan" Step 1
- 第2回 Project 4 "Introducing Japan" Step 2
- 第3回 Project 4 "Introducing Japan" Step 3
- 第4回 Project 4 "Introducing Japan" Presentation
- 第5回 Project 5 "Discussing Social Issues" Step 1
- 第6回 Project 5 "Discussing Social Issues" Step 2
- 第7回 Project 5 "Discussing Social Issues" Step 3
- 第8回 Project 5 "Discussing Social Issues" Presentation
- 第9回 Review
- 第10回 Project 6 "Talking about Your Future Plans" Step 1
- 第11回 Project 6 "Talking about Your Future Plans" Step 2
- 第12回 Project 6 "Talking about Your Future Plans" Step 3
- 第13回 Project 6 "Talking about Your Future Plans" Presentation(1)
- 第14回 Project 6 "Talking about Your Future Plans" Presentation(2)
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

教科書

Presentations to Go

著者: 松岡 昇 他

出版社: センゲージ ラーニング株式会社

出版年: 2014

ISBN: 9784863122642

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20%)

参加度 (40%)

積極的な授業参加を高く評価する。

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ <d>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期集中	定員	30
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	北林 利治	

テーマ

充実した留学生活のために

獲得目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の内容

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

内 容

- 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標
- 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
- 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
- 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
- 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
- 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
- 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
- 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
- 第9回 ディスカッション①ー気候や環境について
- 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー
- 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
- 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)
- 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)
- 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

各講義の前後には参考資料を提示するので、授業以外で学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (90)小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 地域文化研究Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

英語圏の文化について、理解を深める。

獲得目標

英語圏のマイノリティーに焦点をあて、彼らの生活様式、言語、教育など様々な角度から理解を深めていく。

授業の内容

国際化が進んでいる中、英語圏への理解は学生にとって必用不可欠なものになってきている。英語圏に住むマイノリティーを知る事により、さらに英語圏の人々への理解を深めたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス (授業の進め方、成績評価方法についての説明など)、マイノリティー／マジョリティーについてのディスカッション
- 第2回 Maori 1: 歴史、生活様式、アート(Ta moko)、Haka、国歌
- 第3回 Maori 2: バイリンガル教育、社会福祉問題
- 第4回 Amish: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第5回 Jewish: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第6回 Native Americans: 歴史、居住区域、アート、言語、音楽
- 第7回 African Americans: 歴史、言語(発音/イディオム)、文学、音楽、人種差別
- 第8回 Chinese Americans: 大陸横断鉄道、中国人街、移民、言語教育
- 第9回 Japanese Americans: 戦前戦中戦後、ハワイへの移住者の生活など
- 第10回 Mexican Americans: 不正入国問題、職業、Mexicanの中でのHip-hop文化
- 第11回 Indian American: Gujarat出身のインド系アメリカ人、言語、専門知識、職業など
- 第12回 Canadaのバイリンガル教育
- 第13回 Hong Kongのバイリンガル教育
- 第14回 個人研究
- 第15回 まとめ、個人研究発表

授業以外での学習方法

教科書

プリント等によって対応

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英米文学論Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 浅井 雅志	

テーマ

近現代英文学を読む

獲得目標

イギリスの近現代の短編を読むことを通して、文学の面白さを感じると同時に、背景となっている英語圏文化についての理解を深める。

授業の内容

近現代英文学の代表的な作家による短編を、基本的に1回に1つずつ読みながら、文学がどのように人間と生への理解を広げ、深めるかを経験してほしい。もう一つ、作品の背景となっている近代英国について知ることとおして、英語圏文化の諸側面にも理解を広げることを目指したい。具体的には、章ごとに担当者を決め、レジュメを作って発表してもらおう。その教員が必要な説明を加え、それからクラス全体で内容について議論してみたい。また、期末にはペーパーを提出してもらおう。書き方については授業で指導する。読む英文の分量が多く、積極的な参加が求められるので、相当の覚悟のある人の受講を期待している。欠席が6回以上になると単位は認められない。

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 Angela Carter, "The Kiss"
- 第3回 Alan Sillitoe, "Enoch's Two Letters"
- 第4回 Graham Green, "The Destroyers"
- 第5回 Evely Waugh, "An Englishman's House"
- 第6回 Aldous Huxley, "Nuns at Luncheon"
- 第7回 D.H.Lawrence, "The Man who Loved Islands" (1)
- 第8回 D.H.Lawrence, "The Man who Loved Islands" (2)
- 第9回 Virginia Woolf, "Solid Objects"
- 第10回 G.K.Chesterton, "The Tremendous Adventures of Major Brown"
- 第11回 H.G.Wells, "Under the Knife"
- 第12回 Rudyard Kipling, "Wireless"
- 第13回 Thomas Hardy, "A Mere Interlude"
- 第14回 Charles Dickens, "The Haunted House" (1)
- 第15回 Charles Dickens, "The Haunted House" (2); 総括。ペーパー提出

授業以外での学習方法

授業で指示する。

教科書

The Oxford Book of English Short Stories

著者: Ed. A.S.Byatt

出版社: Oxford University Press

出版年: 1999

ISBN:

参考書

成績評価

試験（（ペーパー）60）

授業中課題（）

参加度（10）

小テスト（）

授業中発表等（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **English Communication II**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定

担当者 西村 友美

テーマ

グローバル時代を生き抜くためのリーディング力

獲得目標

(1) 社会が大学生に求める英語リーディング力を養成する (2) 関西ゆかりの企業12社が辿ってきた軌跡、知られざる開発秘話を知り、社会について関心を喚起する

授業の内容

毎回600語程度の英文を読み、社会が求めるリーディング力を養成する。付属する exercise で語い力、理解力を強化する。Excercise のなかには、学生が自分の興味を抱く企業についてリサーチする課題も含まれているので、プロジェクト形式で能動的に取り組んでもらう。

内 容

- 第1回 unit 1
- 第2回 unit 2
- 第3回 unit 3
- 第4回 unit 4
- 第5回 unit 5
- 第6回 unit 6
- 第7回 unit 7
- 第8回 unit 8
- 第9回 unit 9
- 第10回 unit 10
- 第11回 unit 11
- 第12回 unit 12
- 第13回 unit 13
- 第14回 unit 14
- 第15回 unit 15

授業以外での学習方法

予習・復習。いサーチしたい企業について下調べをする。

教科書

A Visit to Amazing Kansai-based Companies

著者: 井上その他

出版社: 松柏社

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験（50）

授業中課題（ ）

参加度（10）

小テスト（20）

授業中発表等（20）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **English CommunicationⅢ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定

担当者 金山 敬

テーマ

「学習」を「楽習」へー自立学習

獲得目標

普段の日常生活でネイティブスピーカーが頻繁に用いるbアメンに応じたオーセンティックな表8限を学ぶ

授業の内容

実際のコミュニケーションで用いられる区表現や省略表現などを学ぶ。各場面を通じて、特定の英語表現が使われる文脈や状況、雰囲気把握する。映画を通じて擬似的な海外生活体験ができる。資格と聴覚を通じてリアルな英語に触れ、それを実際に口に出すことで生の英語を身につけることができる。

内 容

- 第1回 Orientation
- 第2回 Unit 1: Love Actually is All Around
- 第3回 Unit 2: Agaony of Being in Love
- 第4回 Unit 3: Feel Uncomfortable
- 第5回 ReviewU
- 第6回 Unit 4: Hve You Gone Competely Insane?
- 第7回 Unit 5: It's for You
- 第8回 Unit 6: You're Beautiful
- 第9回 Review
- 第10回 Unit 7: All I Want for Christmas is You
- 第11回 Unit 8: The Time to Be With the People You Love
- 第12回 Unit 9: All I Want for Christmas is You
- 第13回 Unit: 10 Let's Review
- 第14回 Review (1)
- 第15回 Review (2)

授業以外での学習方法

教科書

Love Actually

著者: 仁科 恭徳

出版社: 松柏社

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験（20%）

授業中課題（20%）

参加度（40%）

授業中の積極的な参加を高く評価する。

小テスト（20%）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English CommunicationIV

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件

クラス指定

担当者 金山 敬

テーマ

やさしい英語と映像で学ぶ総合英語

獲得目標

receptiveとproductiveな英語の運用能力を身につける

授業の内容

話題に関する掘り起こし video clips 視聴の準備 内容理解

内 容

- 第1回 Orientation
- 第2回 Unit 1 Laughter
- 第3回 Unit 2 Hats
- 第4回 Unit 3 Shinx's Nose
- 第5回 Unit 4 TerracttaWarriors
- 第6回 Unit 5 Silver and Platinum
- 第7回 Unit 6 Athens
- 第8回 Unit 7 Skydiving
- 第9回 Unit 8 Food and Society
- 第10回 Unit 9 Shinjuku Station
- 第11回 Unit 10 Bali's Temples
- 第12回 Unit 11 Car Recycling
- 第13回 Unit 12 Hi-Tech Farming
- 第14回 Unit 13 Honolulu
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

教科書

参考書

BBCWorld Profile on DVD

著者： 盛田 彰 他

出版社： 南雲堂

出版年： 2014

ISBN: 9784523177401

成績評価

試験（20%）

授業中課題（20%）

参加度（40%）

授業での積極的な参加を高く評価する。

小テスト（20%）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 地域文化研究 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 浅井 雅志

テーマ

英語圏の文化についての理解を深める

獲得目標

英国とアメリカを中心にした「英語圏文化」についての理解を深めるとともに、これらの国々と日本、そしてその中の個人であるあなたが、どのような関係をもっているか、もつべきかについて考える。

授業の内容

現在進行しているグローバリゼーションは、世界のあちこちで大きな力ともなりまた脅威ともなっているが、その「基準」となっているのが、アメリカであり、またその文化的母胎である英国である。それゆえ、現在に生きる私たちは、否が応でもこの「アン・グロ・アメリカ文化」と直面せざるを得ない。事実、この文化はまず大衆文化としてわれわれの周りにはびこっている。この得体の知れないものと、私たちはどう付き合えばよいのか。単なる「好」にも「親」にも、はたまた「嫌」にも走らずに、日本が長い関係を持つこの文化圏をしっかりと見つめてみよう。この両国以外の英語文化圏にも触れる予定。授業では、なるべくビデオなどの視聴覚に訴えるものを使いながら、講義を進めていく。受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低3回、関心を持ったテーマについて短いペーパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。6回以上欠席すると単位が認められません。

内 容

- 第1回 イントロダクション——日本と英語圏との接触の歴史
- 第2回 アイルランド
- 第3回 英国①
- 第4回 英国②
- 第5回 英国③
- 第6回 アメリカ①
- 第7回 アメリカ②
- 第8回 アメリカ③
- 第9回 アメリカ④
- 第10回 アメリカ⑤
- 第11回 アメリカ⑥
- 第12回 アメリカ⑦
- 第13回 アメリカ⑧
- 第14回 アメリカ⑨;カナダ
- 第15回 オーストラリア;ニュージーランド;総括

授業以外での学習方法

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。英語圏で作られた映画を観たりや音楽を聴いたりするときも、その文化的背景を考えてみよう。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考文献一覧を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **音声学**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担 当 者 久保田 美佳	

テーマ

Introduction to English Phonetics

獲得目標

(1)To learn the basics of phonetics, while studying and practicing English pronunciation. (2)To become able to distinguish and properly pronounce English sounds.

授業の内容

When a language is considered as a tool for oral communication, its sounds are understandably very important. The purpose of phonetics, as a discipline, is to study how exactly we humans use and control our digestive and respiratory organs such as lips, mouth, tongue, trachea, and lungs, to create the sounds of a language. We will study the characteristics of English sounds by comparing them with the sounds of Japanese. The class will be mostly conducted in English.

内 容

- 第1回 What is phonetics?
- 第2回 English Vowels①
- 第3回 English Vowels②
- 第4回 English Vowels③
- 第5回 English Consonants①
- 第6回 English Consonants②
- 第7回 English Consonants③
- 第8回 Syllable & Word Stress, Sentence Stress
- 第9回 Pause, Pitch, and Intonation
- 第10回 Elision
- 第11回 Assimilation
- 第12回 Intonation (series, alternative question, etc.)
- 第13回 Intonation (tag question, etc.) Strong and Weak Form of Function Words
- 第14回 Stress with Speaker's Intention Word Stress Shift and Others
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

Students are expected to practice pronunciation outside the class, as well as in class. Students will be introduced to many useful websites to help them with their practice at home.

教科書

Sounds Make Perfect 英語音声学への扉—発音とリスニングを中心に—

著者： 今井由美子・井上球美子・井上聖子・大塚朝美・高谷華・上田洋子・米田信子

出版社： 英宝社

出版年： 2010

ISBN:

参考書

a30202d550

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 ()

小テスト (80)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **英語コミュニケーション演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。	
担当者	アンガス ノーマン	
テーマ	Seminar in Translation Studies in the Community	

獲得目標

1. To introduce students to more advanced kinds of text translation and help them to be able to solve complex translation problems 2. To assign students with specific translation projects that will be of actual use to the Yamashina community, and to its foreign visitors 3. To introduce students to different types, or modes, of translation; and some translation theory 4. To give students further opportunity to make academic presentations 5. To prepare students for writing a graduation thesis This class will be taught in English.

授業の内容

This seminar is a continuation for the Seminar in Translation Studies in the Community class in the previous semester. In the first set of classes we will concentrate on advanced translation techniques and highly problematic translation issues, by closely analysing a number of complex or problematic texts. Students will undertake translation projects that relate to the community, which they will also present to the rest of the class for discussion. We will then look towards their graduation theses, which will be a piece of translation of their own choice, and they will produce a translation of part of their chosen text for final evaluation.

内 容

- 第1回 Prioritization
- 第2回 Vocabulary choice
- 第3回 Advanced translation strategies
- 第4回 Consistency
- 第5回 Introduction to theories of translation
- 第6回 Complex problem solving (1): cultural issues
- 第7回 Complex problem solving (2): linguistic issues
- 第8回 Community translation projects (1)
- 第9回 Community translation projects (2)
- 第10回 Community translation projects (3)
- 第11回 Community translation projects (4)
- 第12回 Community translation projects (5)
- 第13回 Student presentations (1) & discussion
- 第14回 Student presentations (2) & discussion
- 第15回 Preparation for the graduation thesis

授業以外での学習方法

Reading general introductory materials on translation and translation studies. Careful checking of any translated material related to the Yamashina and Kyoto areas: English pamphlets, tourist information in English, English guidebooks etc.

教科書

参考書

Same as Spring Semester

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。	クラス指定 希望制
担当者 浅井 雅志	

テーマ

文化の理解をとおして自分への理解を深める

獲得目標

前記と同様、文化というものへの理解をとおして自己理解を深める事を目標とする。

授業の内容

最初の数回は、前期に出来なかったBeyond Cultureの最後の数章を読む。その後は視点を日本に向けて、日本文化の深層に潜むものを検討してみたい。授業の進め方は基本的に前期と同じ。このクラスにも多少慣れたと思うので、前期以上に積極的な参加を望む。6回以上欠席すると単位を認められない。

内 容

- 第1回 前期のペーパー返却、講評。後期へのイントロダクション
- 第2回 Beyond Culture, Chap.13(1)
- 第3回 Beyond Culture, Chap.13(2)
- 第4回 Beyond Culture, Chap.14
- 第5回 Beyond Culture, Chap.15、総括
- 第6回 『安心社会から信頼社会へ』第1章
- 第7回 『安心社会から信頼社会へ』第2章
- 第8回 『安心社会から信頼社会へ』第3章
- 第9回 『安心社会から信頼社会へ』第4章(1)
- 第10回 『安心社会から信頼社会へ』第4章(2)
- 第11回 『安心社会から信頼社会へ』第5章(1)
- 第12回 『安心社会から信頼社会へ』第5章(2)
- 第13回 『安心社会から信頼社会へ』第6章(1)
- 第14回 『安心社会から信頼社会へ』第6章(2)
- 第15回 総括、ペーパー提出

授業以外での学習方法

前期と同じ

教科書

安心社会から信頼社会へ

著者： 山岸俊男

出版社： 中公新書

出版年： 1999

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ <c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件 2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。	クラス指定 希望制

担当者 西村 友美

テーマ

通訳に関わる諸側面の考察と通訳スキルの向上

獲得目標

(1) 通訳学関連論文を読み、自分の卒研テーマを探す。(2) 通訳する素材を自ら見つけ、通訳訓練する。

授業の内容

この授業は、受講者が通訳に関わる諸側面を観察し、自らテーマを見つければ、その問題の解明と表現をすることができるようになることをめざす。同時に、考察する対象として選んだ素材を通訳するトレーニングを行う。グループに分かれて英語の報道番組ビデオを時差通訳した作品を作り、授業で発表する。これらの作業を通じ、自分の卒研テーマを探す。春休みから具体的に卒研の作品制作第1段階に着手してもらう予定である。

内 容

- 第1回 プレゼン1回目
- 第2回 プレゼン1回目
- 第3回 プレゼン1回目
- 第4回 報道番組時差通訳(事例研究)
- 第5回 報道番組時差通訳(リスニング)
- 第6回 報道番組時差通訳(時差通訳)
- 第7回 報道番組時差通訳(時差通訳)
- 第8回 プロジェクト発表
- 第9回 プロジェクト発表
- 第10回 プロジェクト発表
- 第11回 プロジェクト発表
- 第12回 プレゼン2回目
- 第13回 プレゼン2回目
- 第14回 プレゼン2回目
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

プレゼンの準備。グループ・プロジェクトの作品制作および発表の準備。

教科書

参考書

授業で指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ <d>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。
	クラス指定 希望制

担当者 北林 利治

テーマ

英語を習得するとはどういうことかを問い直す

獲得目標

①前期に引き続いて、第2言語習得論や言語習得における文法の位置づけについて理解を深める。②上記のテーマで英語で発表したり、レポートにまとめる。

授業の内容

基本的には、前期の「英語コミュニケーション演習Ⅰ」の内容を発展させていく。前期と同様に、クラスでのプレゼンテーション、そして、後期は書くこと(レポートの作成)にも力を入れたい。明晰な英語を書くことを通して、論理的な思考方法とは何かという問題も考えてみたい。卒業論文を意識して、テーマの設定、論の進め方、レポートの形式などを扱っていく。なお、後期は、プレゼンテーションは原則として英語で行ってもらおう。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 プレゼンテーションについて
- 第3回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第4回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第5回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第6回 アカデミックライティングの基礎①
- 第7回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第8回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第9回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第10回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第11回 アカデミックライティングの基礎②
- 第12回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第13回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第14回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第15回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論

授業以外での学習方法

参考文献の一覧をクラスでわたすので、クラス外で読むこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈e〉

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB(全48単位)のうち30単位以上を修得済みであること。	
担当者	金山 敬	

テーマ

児童英語教育 言語習得と英語教育 多文化理解とコミュニケーション

獲得目標

自分の興味関心は何か。それを見つけ、どのように取り組み、研究していくかを考察する。日本の英語教育、特に児童期の英語教育の果たすべき役割の研究 世界の人々とよりよい理解と関係を築くためのコミュニケーション研究など

授業の内容

いかに論文に取り組んでいくか、論文はどのようにして書くのかをまず、研究し、それとともに自分のテーマを見つける。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 上回生の論文研究を読む
- 第3回 研究討議 1
- 第4回 研究討議 2
- 第5回 自分のテーマ探し 1
- 第6回 自分のテーマ探し 2
- 第7回 研究発表と討議 1
- 第8回 研究発表と討議 2
- 第9回 自分のテーマのより深い考察研究 1
- 第10回 自分のテーマのより深い考察研究 2
- 第11回 研究発表と討議 1
- 第12回 研究発表と討議 2
- 第13回 パワーポイントによる発表 1
- 第14回 パワーポイントによる発表 2
- 第15回 振り返りとまとめ

授業以外での学習方法

自分のテーマに沿った文献を読む。論文の書き方についての本を読む。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (40%)

積極的かつ意欲的な授業態度を高く評価します。

小テスト ()

授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **Critical Reading II <a>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定

担当者 芝原 妙子

テーマ

This class is designed to increase students' English reading skills and develop their insights to the topics of reading materials.

獲得目標

This class is designed to further help students develop reading skills, critical-thinking, and critical-reading. It also encourages students to form their own opinions and thoughts to relate to the ideas in the text and other materials.

授業の内容

Students are responsible for completing the readings for the day they are assigned. This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction and course description Unit 8-1
- 第2回 Unit 8-2
- 第3回 Unit 9-1
- 第4回 Unit 9-2
- 第5回 Unit 10-1
- 第6回 Unit 10-2
- 第7回 Unit 11-1
- 第8回 Unit 11-2
- 第9回 Unit 12-1
- 第10回 Unit 12-2
- 第11回 Unit 13-1
- 第12回 Unit 13-2
- 第13回 Unit 14-1
- 第14回 Unit 14-2
- 第15回 Review and Presentation

授業以外での学習方法

Read newspapers, magazines, and journals.

教科書

Global Issues Towards Peace

著者: Keiso Tatsukawa and others

出版社: Nan'un-do

出版年: 2014

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

小テスト (15)

授業中課題 (25)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

Since the readings and the class sessions in this course complement rather than repeat each other, it is extremely important that you be in class, on time and prepared, each day. Please do the day's reading before coming to class, and be prepared to discuss and ask questions about the reading assignments. You are expected to participate in discussion and turn in the papers on the scheduled days. Unexpected late papers are penalized. For example, a B paper would be recorded as a C. Without prior arrangements, there will be no make-ups for the presentations or the quizzes and exams.

参考URL

VOA

<http://www.voanews.com/>

English news from the Voice of America

BBC

<http://www.bbc.co.uk/news/>

BBC provides World and UK news.

Time for Kids

<http://www.timeforkids.com/>

TFK is a news magazine which offers simpler news stories

2014 Syllabus

科目名 **Critical Reading II **

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員 30

履修条件

クラス指定

担当者 日高 周平

テーマ

Developing critical reading skills.

獲得目標

Through this course, students will learn how to critically approach various kinds of texts.

授業の内容

This course is designed to improve students' reading skills through varieties of reading tasks and discussion activities.

内 容

- 第1回 Introduction and breaking the ice
- 第2回 Unit 1 Entertainment & Arts
- 第3回 Unit 2 Sports
- 第4回 Unit 3 Education
- 第5回 Unit 4 Technology
- 第6回 Unit 5 Health & Mind
- 第7回 Unit 6 Science
- 第8回 Unit 7 Politics & Economy
- 第9回 Unit 8 Business
- 第10回 Unit 9 World News: Japan
- 第11回 Unit 10 World News: U.S.A.
- 第12回 Unit 11 World News: Europe
- 第13回 Unit 12 World News: Asia
- 第14回 Unit 13 World News: Africa and Middle East
- 第15回 Review and final examination

授業以外での学習方法

Students are expected to read the assigned chapter prior to coming to class.

教科書

Reading Powerhouse

著者: 染谷泰正 / 南津佳広 編著

出版社: 金星堂

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (60)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Workshop II <a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員 30
履修条件	クラス指定
担当者 弥永 啓子	

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

12月のTOEIC試験で750点以上を目指す。Part 7 頻出の実社会で実用性の高い語彙・表現を受容モードで理解することができる。Part 7 頻出の実用文書のパターンを理解するとともに、そうした文書を一定速度で理解することができる。

授業の内容

TOEIC試験得点アップのため、リーディングセクションの読解パートの頻出パターンを講義、演習、グループワークで学んでゆく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 前期文法項目復習(1)
- 第2回 前期文法項目復習(2), 実践演習
- 第3回 実践練習 広告文の典型的なパターン
- 第4回 前期文法項目復習(3), 実践演習
- 第5回 実践練習 書式の典型的なパターン
- 第6回 前期文法項目復習(4), 実践演習
- 第7回 実践練習 通信文の典型的なパターン
- 第8回 前期文法項目復習(5), 実践演習
- 第9回 実践練習 通知文の典型的なパターン
- 第10回 前期文法項目復習(6), 実践演習
- 第11回 実践練習 求人広告の典型的なパターン
- 第12回 前期文法項目復習(7), 実践演習
- 第13回 実践練習 記事の典型的なパターン
- 第14回 前期文法項目復習(8), 実践演習
- 第15回 実践練習 保証書の典型的なパターン
- 第16回 2文書問題の典型的なパターン(1)
- 第17回 2文書問題の典型的なパターン(2)
- 第18回 2文書問題の典型的なパターン(3)
- 第19回 総復習
- 第20回 実践問題 (1)
- 第21回 実践問題 (2)
- 第22回 実践問題 (3)
- 第23回 実践問題 (4)
- 第24回 実践問題 (5)
- 第25回 実践問題 (6)
- 第26回 実践問題 (7)
- 第27回 実践問題 (8)
- 第28回 実践問題 (9)
- 第29回 模擬問題、解答解説
- 第30回 模擬問題解説、弱点補強

授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施し、毎週リスニングを中心とする宿題を課すので、これらをしっかりとこなすようにしてください。

教科書

TOEICテスト本番攻略リーディング10回模試

著者： カン・ジンオー、カン・ウォンジー

出版社： 学研

出版年： 2010

ISBN： 9784053032034

The TOEIC Test Trainer, Listening Supplement

著者： Geoffrey Tozer, 他

出版社： Cengage Learning

出版年： 2007

ISBN： 9784902902860

参考書

成績評価

試験（20%）

小テスト（60%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（0）

参加度（0）

1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC600点以上の学生が対象となります。600点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。3. 成績評価の留意点: 上記試験成績は12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(後期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。成績評価の20%はTOEICスコアに基づくものとします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Workshop II

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件	クラス指定 大学指定
担当者 栗田 梨津子	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEICテストのスコアアップ(12月のテストで600点以上)を目標に、様々な場面で用いられる実践的な英語を正確かつ迅速に理解できるようになるためのスキルを身につけること。

授業の内容

前期に引き続き、スコアアップに必要な語彙・文法力を強化します。同時に、授業ではできるだけ多くの練習問題をこなすことにより、応用力を養成します。※注意事項 1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC500点以上の学生が対象となります。500点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。TOEICテストの頻出事項をおさえながら、各セクションで正解率を上げるための基礎的な語彙・文法力を強化します。

内 容

- 第1回 授業概要の説明 TOEIC対策のための学習方法に関する説明
- 第2回 リスニング弱点補強、文法(不定詞・動名詞)
- 第3回 リスニング弱点補強、文法(接続詞)
- 第4回 問題演習
- 第5回 リスニング弱点補強、文法(前置詞)
- 第6回 問題演習
- 第7回 リスニング弱点補強、文法(関係詞)
- 第8回 問題演習
- 第9回 リスニング弱点補強、文法(分詞)
- 第10回 問題演習
- 第11回 文法(時制問題と代名詞問題)、読解(説明書、契約書、保証書)
- 第12回 問題演習
- 第13回 文法(つなぎ言葉)、読解(ダブルパッセージ)
- 第14回 問題演習
- 第15回 リスニング総合問題演習
- 第16回 リスニング総合問題演習
- 第17回 語彙・文法総合問題演習
- 第18回 語彙・文法総合問題演習
- 第19回 読解総合問題演習
- 第20回 読解総合問題演習
- 第21回 模擬試験1
- 第22回 模擬試験1の解説
- 第23回 模擬試験2
- 第24回 模擬試験2の解説
- 第25回 模擬試験3
- 第26回 模擬試験3の解説
- 第27回 語彙・文法弱点補強
- 第28回 語彙・文法実践演習
- 第29回 読解弱点補強
- 第30回 読解実践演習

授業以外での学習方法

毎回課題と小テストをしっかりとこなしてください。

教科書

TOEICテスト書き込みドリル スコア650 文法編

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： 2010

ISBN:

Quick Start for the TOEIC Test Level 3

著者： Kazushige Cho他

出版社： Macmillan Language House

出版年： 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験（20）

小テスト（60）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

上記試験成績は、12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです（後期中の公開テストでも可）。受講者は全員、IPもしくは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意してください。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 国際ビジネス実務演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 岡田 有叶	

テーマ

基本貿易実務と貿易英語の学習を中心に国際ビジネスを実務的に学ぶ

獲得目標

国際ビジネス、特に貿易分野に進むことを希望する皆さんにとって必須知識となる貿易実務と貿易英語の基本を中心に体系的に学習し、併せて貿易実務検定C級(できればそれ以上)の合格を目指します。(同学習と資格の取得によって、これらの分野での就職や入社後の業務活動が円滑に行なわれることを期待します。)

授業の内容

貿易実務検定C級オフィシャルテキストに沿って下記項目を学習し、適宜、テキストで(充分に)触れられていないが、現在国際ビジネス界で話題になっている事柄を時事問題として取り上げて補足します。これら学習案件について皆さんに調べてもらい、簡単なレポートを書いてもらうことも考えています。

内 容

- 第1回 貿易取引の全体像の理解
- 第2回 市場調査から契約の成立まで
- 第3回 信用状の基礎知識
- 第4回 品質条件・数量条件等
- 第5回 インコタームズの基礎知識
- 第6回 貿易運送
- 第7回 貨物海上保険、貿易取引に関するその他の保険
- 第8回 代金決済、船積みから輸出代金の回収
- 第9回 船積通知の受領から貨物の引取りまで
- 第10回 外国為替相場と為替変動リスクの回避
- 第11回 国際貿易体制の基礎知識
- 第12回 貿易書類の基礎知識(インボイス、売買契約書、取消不能信用状、為替手形)
- 第13回 貿易書類の基礎知識(船荷証券、航空運送状、保険証券)
- 第14回 貿易実務英語(英語ビジネスレターの基礎表現、貿易実務用語)
- 第15回 貿易実務英語(英語ビジネスレターの基礎表現、貿易実務用語)
- 第16回 まとめと期末テスト

授業以外での学習方法

世界の政治、経済等がどのように動くかによって国際ビジネスは大きく影響を受けます。新聞、テレビその他の報道等からこれらの動向を把握し、ビジネスと関連付けて考える習慣をつけましょう。国際ビジネス分野を目指す大学生として、就活生として大切なことであり、貿易実務検定C級以上の受験対策としても役立ちます。

教科書

最新貿易実務ベーシックマニュアル(第2版第4刷)

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: MHJ出版

出版年: 2013(2版第4刷)

ISBN: 9784902499211

(上記1注:開講時点までに改訂版(改訂刷)が発行されることも考えられ、その場合は、同時点での最新版(最新刷)を使用します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

実践貿易実務(第11版)

著者: ジェトロ

出版社: ジェトロ

出版年: 2012(11版)

ISBN: 9784822411138

ジェトロ貿易ハンドブック2014

著者: ジェトロ

出版社: ジェトロ

出版年: 2014

ISBN:

図解貿易実務ハンドブックベーシック版(第5版)

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: 日本能率協会マネジメントセンター

出版年: 2012(5版)

ISBN: 9784820747819

めざせ!貿易実務検定(改訂第9版)

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: 日本能率協会マネジメントセンター

出版年: 2013(9版)

ISBN: 9784820748380

(上記参考書注:この他、詳しくは授業中に説明します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童英語教材研究

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金山 敬

テーマ

幼児や児童の英語教育について

獲得目標

小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらよいのか、その目的と指導法について学ぶ。

授業の内容

実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つチャンツ、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。期末の課題としてオリジナル絵本を製作する。

内 容

- 第1回 ガイダンス(EFL学習の目的と指導)
- 第2回 チャンツの指導法
- 第3回 チャンツの指導発表 I
- 第4回 チャンツの指導発表 II
- 第5回 TPRの指導法
- 第6回 TPRの指導発表 I
- 第7回 TPRの指導発表 II
- 第8回 折々の行事について
- 第9回 Halloween Party
- 第10回 ストーリーテリングの指導法
- 第11回 オリジナル絵本製作のガイダンス
- 第12回 絵本のあらすじと構成
- 第13回 絵本のストーリーを英文にまとめる
- 第14回 絵本製作
- 第15回 絵本発表

授業以外での学習方法

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

授業への積極的な取り組みと意欲的な態度を高く評価します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 児童英語指導演習Ⅱ

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件 「児童英語教育研究」または「児童英語教材研究」を履修済みであること。	クラス指定	
担当者	金山 敬	

テーマ

児童英語教育の実践のための演習

獲得目標

児童英語教育のあるべき教育内容の考察とその実践のための実習

授業の内容

実際に小学校や幼稚園において英語活動を行うのに必要なカリキュラムの考察および作成、そして近隣の公立小学校における観察実習と短期実習

内 容

- 第1回 ガイダンス(英語によるコミュニケーションとその指導法)
- 第2回 小学校英語活動カリキュラム考察－英語教育の狙いとそのあり方－
- 第3回 小学校英語活動カリキュラム発表－英語教育の狙いとそのあり方－
- 第4回 小学校英語カリキュラム考察 授業案
- 第5回 小学校英語カリキュラム発表 授業案
- 第6回 模擬授業①
- 第7回 模擬授業②
- 第8回 模擬授業③
- 第9回 小学校における教育実習①
- 第10回 小学校における教育実習②
- 第11回 幼稚園英語授業年間カリキュラム・授業案考察
- 第12回 幼稚園英語授業カリキュラム・授業案発表
- 第13回 模擬授業
- 第14回 幼稚園における教育実習
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

公立小学校の英語活動および私立幼稚園の課外英語授業の観察実習

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

Hi, friends! 1

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年： 2012年

ISBN： 9784487258833

Hi, friends! 2

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年： 2012年

ISBN： 9784487258840

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ 30%）

参加度（ 40%）

授業への積極的な取り組みを評価します

小テスト（ ）

授業中発表等（ 30%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ <a>

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	アンガス ノーマン	

テーマ

卒業論文作成に向けて Translation Seminar

獲得目標

卒業論文・卒業研究を完成させる To give students close individual guidance on their graduation thesis, or chosen text for translation

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導 This course is taught in English.

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

Translation – An advanced resource book

著者： B. Hatim and J. Munday

出版社： Routledge

出版年： 2004

ISBN： 9780415-28306-9

a302040250

In Other Words – A coursebook on translation

著者: Mona Baker

出版社: Routledge

出版年: 2011

ISBN: 9780415-46754-4

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定 員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 浅井 雅志

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文・卒業研究を完成させる

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ <c>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 西村 友美

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文・卒業研究を完成させる

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (60%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (0%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ <d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定 希望制

担当者 北林 利治

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文・卒業研究を完成させる

授業の内容

内容は、卒業論文作成に向けて、一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通り。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成に向けての個別指導。

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (60)

小テスト ()
 授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ〈e〉

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	15
履修条件	クラス指定	希望制
担当者	金山 敬	

テーマ

卒業論文作成に向けて Translation Seminar

獲得目標

卒業論文・卒業研究を完成させる To give students close individual guidance on their graduation thesis, or chosen text for translation

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導 This course is taught in English.

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

Translation – An advanced resource book

著者： B. Hatim and J. Munday

出版社： Routledge

出版年： 2004

ISBN： 9780415-28306-9

In Other Words – A coursebook on translation

著者: Mona Baker

出版社: Routledge

出版年: 2011

ISBN: 9780415-46754-4

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **病理学**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 川上 ゆかり	

テーマ

身体的変化、組織学的変化から病気の原因、発症のメカニズムを知る。

獲得目標

病気を知る上で必要な基礎的知識、疾患の概念、分類の定義などを学び、病気の原因、発症のメカニズム、形態的变化を学ぶ

授業の内容

前半では 総論として病気の原因、定義を、後半は器官別に 病気の特徴、メカニズムを勉強します。解剖学の講義同様 テレビを使って 常に解剖組織学(正常な構造)と比較しながら理解をはかります。

内 容

- 第1回 概論
- 第2回 先天異常と遺伝子異常
- 第3回 代謝障害
- 第4回 循環障害
- 第5回 炎症・発熱
- 第6回 腫瘍
- 第7回 感染症
- 第8回 免疫
- 第9回 循環器系
- 第10回 呼吸器系
- 第11回 消化器系
- 第12回 内分泌系、血液・造血器系
- 第13回 泌尿器系・生殖器系
- 第14回 脳神経系 筋肉系
- 第15回 骨・関節、感覚器系
- 第16回 総括テスト

授業以外での学習方法

最近、新聞、雑誌などにも病気に関する専門医による解説記事が多数見られます。それらの記事に注目することも病気の原因を知る上で役立つと思います。

教科書

系統看護学講座「病理学」

著者:

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社: へるす出版

出版年:

ISBN:

参考書

病理学

著者: 堤 寛

出版社: 医学芸術社

出版年:

ISBN:

はじめの一步のイラスト病理学

著者: 深山正久

出版社: 羊土社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (100%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (0%)

参加度 (0%)

適時行う小テスト・出席状況は、最終判定時考慮する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生化学・微生物学

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 奥村 忠芳

テーマ

生命現象を分子から解明する。

獲得目標

生命現象を分子から解明する生化学では、健康を分子レベルで捉え、その維持と増進を図り栄養の役割を理解する上で必須の知識を習得する。タンパク質、糖質、脂質などの生体構成成分の構造と機能を説明し、生体内で起こる化学変化とエネルギー変換である代謝について理解を深める。また微生物学分野では、通常肉眼では見えない微小かつ単純な生物である微生物の性質や機能を概説した後、感染症の発生機構とその予防、治療に関する基本的な知識を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 生化学序論 1) 生体の構成物質と細胞小器官について 2) 異化と同化→(物質の代謝)
- 第2回 生体のエネルギー代謝 1) 解糖系 →(エネルギー通貨ATPとミトコンドリア) 2) クエン酸(TCA)回路と電子伝達系
- 第3回 糖質 1) 糖質の種類と構造 2) 糖質代謝(解糖系と糖新生、グリコーゲン合成、ペントースリン酸回路)
- 第4回 脂質 1) 脂質の種類と構造 2) 脂質代謝(脂肪酸の合成とβ酸化) 3) コレステロール・ケトン体の形成
- 第5回 タンパク質とアミノ酸 1) 種類と構造 2) アミノ酸の合成と分解→(アミノ酸代謝と尿素合成)
- 第6回 酵素・ホルモン・ビタミン 1) 酵素の性質と種類 2) ホルモンと代謝調節 3) ビタミンと欠乏症
- 第7回 微生物序論 1) 微生物とは 2) 微生物の大きさの特徴 3) 細菌の構造と機能
- 第8回 細菌の分類について 1) 細菌の増殖と遺伝 2) グラム陽性菌と陰性菌 3) 好気性菌と嫌気性菌
- 第9回 主なウイルスについて 1) ウィルスとは 2) ウィルス感染の仕組み 3) 主なウイルス
- 第10回 感染症について 1) 感染症の種類 2) ワクチンと抗菌薬
- 第11回 免疫学(その1) 1) 免疫学序論 2) 非特異的生体防御と特異的生体防御 3) 抗原と抗体
- 第12回 免疫学(その2) 1) 免疫の特性 2) 抗原抗体反応 3) 抗体産生 4) サイトカイン
- 第13回 免疫学(その3) 1) 細胞性免疫 2) アレルギー反応
- 第14回 生化学・微生物学・免疫学 各領域における最近のトピックスについて説明する
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (100%)

小テスト (0%)

a50101a650

授業中課題 (0%)
参加度 (0%)

授業中発表等 (0%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **救急医学総論Ⅱ**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 夏目 美樹

テーマ

プレホスピタルケアと救急救命

獲得目標

救急医療においては医療機関での診療を待たず、早期の医療が開始されなければならない。救急現場での観察・応急処置と医療機関内での診療治療が一貫したものが傷病者に提供される救急医療体制を作ることが必要である。このようなプレホスピタルケアの中心的な担い手である救急救命士の役割と責務について学習する。

授業の内容

内 容

- 第1回 救急医療体制
- 第2回 人工呼吸と気道確保資器材
- 第3回 外傷処置
- 第4回 特定行為
- 第5回 大規模災害・トリアージ
- 第6回 現場救護所・運営
- 第7回 NBC災害
- 第8回 国内の災害事例
- 第9回 外国の災害事例
- 第10回 ストレスマネジメント
- 第11回 救急活動事例と医事紛争
- 第12回 法医学・死体現象
- 第13回 まとめ
- 第14回 まとめ
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト改訂第8版第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験（100）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

規定の講義参加度に達している者のみ試験評価を実施する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急救命実習 I

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	北小屋 裕、関根 和弘、千田 いずみ、深澤 雄二、福岡 範恭

テーマ

救急活動の基礎を学ぶ

獲得目標

尊い人命を救助するための知識や技術を日常生活において実践して、自他の生命を尊重し、安全で健康な生活を営めるようにする。また、事故を防止し、災害時などにお互い助け合えるようなボランティアの精神を育てるとともに、医療人である救急救命士としての自覚を養う。一次救急処置の理論と基本的実技および、観察用資機材を用いた救急救命処置等の理論・技術について具体的な実習を通じて習得する。また、救急医療を担う医療施設および消防施設等の実地見学により救急救命の最前線の活動をイメージする。

授業の内容

通年講義実習の他、夏期および春期学休期等に学外実習を実施する。
 ※この単位履修については、履修態度・頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、一次救命処置(成人)
- 第2回 一次救命処置(成人)
- 第3回 一次救命処置(成人)1・2人法、AED取り扱い
- 第4回 一次救命処置(成人・小児)、AED取り扱い
- 第5回 一次救命処置(成人・小児二人法)、AED取り扱い
- 第6回 一次救命処置(乳児)1・2人法、一次救命処置まとめ
- 第7回 一次救命処置(実技効果測定)・器具を使用した人工呼吸
- 第8回 器具を使用した人工呼吸、酸素投与
- 第9回 三角巾法・止血法・固定
- 第10回 三角巾法・止血法・固定
- 第11回 三角巾法・徒手搬送法
- 第12回 外傷処置
- 第13回 外傷処置
- 第14回 外傷処置
- 第15回 前期まとめ
- 第16回 外傷処置
- 第17回 外傷処置
- 第18回 外傷処置
- 第19回 搬送器具を使用した搬送法
- 第20回 傷病者観察器具(血圧計・聴診器・検眼灯)
- 第21回 傷病者観察器具(血圧計・聴診器・検眼灯)
- 第22回 傷病者観察器具(血圧測定実技効果測定)
- 第23回 傷病者観察器具(心電計・パルスオキシメーター)
- 第24回 傷病者観察器具(心電計・パルスオキシメーター)
- 第25回 傷病者観察器具(器具を使用した気道確保・酸素投与)
- 第26回 傷病者観察器具(喉頭鏡)
- 第27回 傷病者観察器具(喉頭鏡)
- 第28回 傷病者観察器具(喉頭鏡・マギール鉗子)
- 第29回 傷病者観察器具(喉頭展開実技効果測定)
- 第30回 後期まとめ・総括

授業以外での学習方法

教科書

救急隊員標準テキスト 改訂第3版

著者： 救急隊員用教本作成委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2007

ISBN： 9784892695902

JPTECガイドブック

著者： 一般社団法人JPTEC協議会

出版社： へるす出版

出版年： 2010

ISBN： 9784892697036

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697449

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697456

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697463

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697470

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9784892697487

参考書

成績評価

試験（100）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

規定回数の講義参加度に達している者のみ試験評価を実施する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急救命実習(水難) <a>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 海老澤 徹二郎

テーマ

水難救助実習

獲得目標

特殊な救急活動に対する理解を深めるため、水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、水に対する安全法と救助法、資器材を使ったの救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。 ※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。また、安全管理上から実習中における担当教員の指示には従うことを原則とする。

授業の内容

内 容

第1回 水難救助法の実習を習得 国土舘大学ウエルネス・リサーチセンター(以下、「WRC」という。)が監修する「水難救助マニュアル」に基づき、学科(1日)と実技(3日間)の計4日間で構成され、救急救命士として必要な水難救助事象(プール、河川、湖沼及び海等)に対応できる知識及び能力を養成する。泳力の有無に係わらず誰でもが水難救助事象に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から、高度なものまでを実践する。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急救命実習(水難)

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 喜熨斗 智也	

テーマ

水難救助実習

獲得目標

特殊な救急活動に対する理解を深めるため、水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、水に対する安全法と救助法、資器材を使ったの救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。 ※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。また、安全管理上から実習中における担当教員の指示には従うことを原則とする。

授業の内容

内 容

第1回 水難救助法の実習を習得 国土舘大学ウエルネス・リサーチセンター(以下、「WRC」という。)が監修する「水難救助マニュアル」に基づき、学科(1日)と実技(3日間)の計4日間で構成され、救急救命士として必要な水難救助事象(プール、河川、湖沼及び海等)に対応できる知識及び能力を養成する。泳力の有無に係わらず誰でもが水難救助事象に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から、高度なものまでを実践する。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **救急救命実習Ⅱ**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 通年	定 員
履修条件 「救急救命実習Ⅰ」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 北小屋 裕・関根 和弘・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭	

テーマ

救急処置と救急活動の基本を習得する。

獲得目標

救急救命士として救急活動を行うために必要な基本処置および技術を理解し、習得することを目標とする。

授業の内容

※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

内 容

- 第1回 ガイダンス、基本CPA対応活動
- 第2回 基本CPA対応活動
- 第3回 基本CPA対応活動
- 第4回 基本外傷処置
- 第5回 基本外傷処置
- 第6回 外傷処置総合
- 第7回 傷病者観察
- 第8回 傷病者観察
- 第9回 傷病者観察
- 第10回 傷病者観察
- 第11回 外傷シナリオ想定
- 第12回 外傷シナリオ想定
- 第13回 CPAシナリオ想定
- 第14回 CPAシナリオ想定
- 第15回 前期まとめ
- 第16回 集団災害、トリアージ
- 第17回 静脈ライン、静脈路確保準備
- 第18回 静脈路確保基本手技
- 第19回 静脈路確保基本手技
- 第20回 静脈路確保基本手技
- 第21回 静脈路確保基本手技
- 第22回 器具を使用した気道確保
- 第23回 器具を使用した気道確保
- 第24回 気管挿管基本手技
- 第25回 気管挿管基本手技
- 第26回 気管挿管基本手技
- 第27回 特定行為基本想定
- 第28回 特定行為基本想定
- 第29回 まとめ
- 第30回 総括

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト改訂第8版第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士標準テキスト改訂第8版第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN：

救急救命士のための二次救命処置テキスト

著者： 編集小林國男・益子邦洋・坂本哲也

出版社： へるす出版

出版年： 2007

ISBN：

参考書

成績評価

試験（100）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

規定回数の講義参加度に達している者のみ試験の評価を実施する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **救急救命実習Ⅲ**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 通年

定 員

履修条件 「救急救命実習Ⅱ」を修得済みであること。

クラス指定

担当者 北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

消防署及び関連施設での実習(見学実習)

獲得目標

近隣地域の消防署及び関係機関の協力の下、救急業務それに関連する業務について見学実習を行う。※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

授業の内容

消防署及び関係機関の施設、設備と機能や、活動内容、救急事務や、救急用自動車、救急用資機材等を実地見学する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 臨地実習
- 第3回 臨地実習
- 第4回 臨地実習
- 第5回 臨地実習
- 第6回 臨地実習
- 第7回 臨地実習
- 第8回 臨地実習
- 第9回 臨地実習
- 第10回 臨地実習
- 第11回 臨地実習
- 第12回 臨地実習
- 第13回 臨地実習
- 第14回 臨地実習
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

a50101b280

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

各臨地実習の後にはレポートを提出すること

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **医療事務研究 I**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中

定 員 30

履修条件

クラス指定

担当者 森本 育子

テーマ

医療事務研究

獲得目標

医療事務技能審査(医科)=メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする。9/1・2・3・4・5で実施

授業の内容

短期間で単位と資格取得を目指すため、講義で理解・自宅で練習問題を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 医療保険制度
- 第3回 初診料
- 第4回 再診料
- 第5回 医学管理等
- 第6回 在宅医療
- 第7回 投薬1
- 第8回 投薬2
- 第9回 注射1
- 第10回 注射2
- 第11回 処置1
- 第12回 処置2
- 第13回 手術
- 第14回 輸血・麻酔
- 第15回 修了試験1

授業以外での学習方法

- ①医療事務技能審査試験(医科)の受験対策として医療事務研究 I・IIをすべて履修すること
- ②授業時間以外に復習・宿題のための時間を確保すること

教科書

教科書については第1回目の授業にて販売 16.432円(予定)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a50101e180

成績評価

試験（30%）

授業中課題（30%）

参加度（40%）

小テスト（0%）

授業中発表等（0%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **医療事務研究Ⅱ**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 秋期集中

定 員 30

履修条件

クラス指定

担当者 森本 育子

テーマ

医療事務研究

獲得目標

医療事務技能審査(医科)＝メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする。9/8・9・10・11・12で実施

授業の内容

短期間で単位と資格取得を目指すため、講義で理解・自宅で練習問題を行う。

内 容

- 第1回 検査1
- 第2回 検査2
- 第3回 検査3
- 第4回 検査4
- 第5回 画像診断1
- 第6回 画像診断2
- 第7回 入院料
- 第8回 リハビリテーション・接遇
- 第9回 試験対策(学科)
- 第10回 試験対策(点検)
- 第11回 レセプト点検1
- 第12回 レセプト点検2
- 第13回 レセプト点検3
- 第14回 レセプト点検4
- 第15回 修了試験2

授業以外での学習方法

- ①医療事務技能審査試験(医科)の受験対策として医療事務研究Ⅰ・Ⅱをすべて履修すること ②授業時間以外に復習・宿題のための時間を確保すること

教科書

教科書については第1回目の授業にて販売 16.432円(予定)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a50101e280

成績評価

試験（30%）

授業中課題（30%）

参加度（40%）

小テスト（0%）

授業中発表等（0%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **医療統計学**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 片岡 裕介

テーマ

診療情報を解析、活用するための統計学の基礎的知識を身につける。

獲得目標

各種の診療情報を活用する手段としての統計的方法とデータの視覚化の方法を身につける。統計的方法として具体的には、収集した観測値を要約する記述統計、標本調査から母集団の特性を推し測る推測統計の基礎的方法などを学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 変量と尺度
- 第2回 記述統計(1) 度数分布表とヒストグラム
- 第3回 記述統計(2) 代表値
- 第4回 記述統計(3) 散布度
- 第5回 記述統計(4) 散布図と相関係数
- 第6回 記述統計(5) 回帰直線
- 第7回 推測統計(1) 母集団と標本
- 第8回 推測統計(2) 確率変数と確率分布
- 第9回 推測統計(3) 正規分布
- 第10回 推測統計(4) 点推定と区間推定
- 第11回 推測統計(5) 量的変量の仮説検定
- 第12回 推測統計(6) 質的変量の仮説検定
- 第13回 データのグラフ表現
- 第14回 病院の統計資料
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

診療情報管理Ⅲ

著者： 武田隆久

出版社： 日本病院会

出版年： 2012

ISBN:

参考書

a50101f450

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (60)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **医療管理論 I**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 浅野 美幸.橋本 昌浩	

テーマ

医療制度の人的・物的・財的資源の概要を知る。

獲得目標

医療の仕組み・病院組織を理解し、診療情報管理士とは、何か、どのような役割をはたすことができるかを習得する。

授業の内容

人的資源である診療情報管理士および、各職種について説明。また、情報資源・財的資源を説明する。日本の医療制度・医療保障・医療関連法規について説明する。病院の組織と役割について説明する。診療情報管理の第1ステップの授業となります。

内 容

- 第1回 医療管理論オリエンテーション・診療情報管理士について
- 第2回 医療資源 物的資源・人的資源
- 第3回 医療資源 人的資源・財的資源・情報資源
- 第4回 日本の医療制度 医療保障 医療制度の特徴
- 第5回 日本の医療制度 医療制度の成り立ち 諸外国の医療制度 国民医療費の現状と将来
- 第6回 医療の需要と供給 地域医療
- 第7回 医療関連の法規定 医療と保健衛生活動に関する法規～その他病院の医療活動に関係する主な法規
- 第8回 医療関連の法規定 健康増進法～専門職種の身分などに関する法規 中間まとめ
- 第9回 医療管理各論イントロダクション、プロセス(工程)について
- 第10回 組織・機能について、管理と組織について
- 第11回 財務・経営管理について、人事・労務管理について、施設管理について
- 第12回 医療管理、診療部門、看護部門、医療技術部門・診療協力部門・コメディカル部門
- 第13回 教育研究部門、診療情報管理部門、スタッフ機能事務部門、ライン機能事務部門
- 第14回 施設・機器維持管理部門、労働安全衛生・環境衛生管理部門、ハウスキーピング部門
- 第15回 テスト対策、総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

診療情報管理 Ⅲ

著者:

出版社: 一般社団法人 日本病院会

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

病院職員読本 リーダー職員となるための10章

著者: 一般社団法人日本病院会 病院経営管理者協議会

成績評価

試験（60%）
授業中課題（10%）
参加度（30%）

小テスト（）
授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 公衆衛生

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 島原 政司

テーマ

環境と公衆衛生、保健・医療・福祉のヘルスケアシステムやその基盤となる保健医療福祉の関連法規および財政の理解、施策等行政組織の基礎的理解

獲得目標

1. 地域で生活する人びとの健康の保持・増進、疾病予防のための活動を説明できる。 2. 地域の保健医療福祉政策について理解し、保健、医療、福祉の連携やその中で専門職が担う活動や役割を説明できる。

授業の内容

内 容

- 第2回 保健医療制度②公衆衛生
- 第3回 保健医療制度③保健統計
- 第4回 保健医療制度④環境保健
- 第5回 保健医療制度⑤労働衛生
- 第6回 保健医療制度⑥学校保健
- 第7回 保健医療制度⑦母子保健
- 第8回 保健医療制度⑧地域保健
- 第9回 保健医療制度⑨精神保健福祉
- 第10回 社会保障制度①理念・体系、医療保障、所得保障
- 第11回 社会保障制度②母子および寡婦福祉法
- 第12回 社会保障制度③障害児・者
- 第13回 社会保障制度④高齢者福祉
- 第14回 社会保障制度⑤医療保険制度
- 第15回 社会保障制度⑥介護保険制度
- 第16回 総括と理解度チェック
- 第1回 保健医療制度①我が国の保健医療福祉の変遷

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト(上巻)。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜, 紹介する.

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (100)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急疾病Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大石 泰男・筈井 寛・富士原 彰	

テーマ

循環器系・呼吸器系・消化器系の疾病の理解

獲得目標

循環器系・呼吸器系の救急疾病について主な疾患を取り上げてその特徴と応急処置などを詳しく学ぶ。循環器系は心不全、虚血性疾患、不整脈、先天性心疾患、心筋疾患など、呼吸器は呼吸不全、呼吸器感染症、気管支喘息、肺炎、肺血管疾患その他の疾患の病態、診断、処置などを習得する。また消化器系の疾患の病態についても理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 循環器系疾患各論① 【筈井 寛】基本的な病態及び診断・検査方法、治療に用いる薬剤
 第2回 循環器系疾患各論② 【筈井 寛】心不全、虚血性心疾患
 第3回 循環器系疾患各論③ 【筈井 寛】虚血性心疾患の救急医療 高血圧
 第4回 循環器系疾患各論④ 【筈井 寛】不整脈
 第5回 循環器系疾患各論⑤ 【筈井 寛】先天性心疾患、心臓弁膜症
 第6回 循環器系疾患各論⑥ 【筈井 寛】心筋疾患、血管系疾患(動脈、静脈)
 第7回 呼吸器系疾患各論① 【大石 泰男】呼吸器感染症
 第8回 呼吸器系疾患各論② 【大石 泰男】気管支喘息とCOPD、肺腫瘍
 第9回 呼吸器系疾患各論③ 【大石 泰男】間質性肺炎と周辺疾患、呼吸不全
 第10回 呼吸器系疾患各論④ 【大石 泰男】肺血管疾患、胸膜・横隔疾患、その他の呼吸器疾患
 第11回 消化器系疾患各論① 【富士原 彰】胃・十二指腸疾患
 第12回 消化器系疾患各論② 【富士原 彰】大腸・小腸疾患
 第13回 消化器系疾患各論③ 【富士原 彰】肝炎・肝硬変、肝腫瘍、胆石症
 第14回 消化器系疾患各論④ 【富士原 彰】腫瘍、腹痛、吐血・下血など
 第15回 まとめ 【富士原 彰】

授業以外での学習方法

授業・実習を充実したものにするため、日常汎用医学用語および略語を知る。解剖・生理を理解する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (20%)

授業中課題 (20%)

小テスト (30%)

授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **救急の検査**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 竹下 仁・山口 桂司

テーマ

救急疾患と臨床検査の関係を理解する。

獲得目標

頻度の高い救急疾患と臨床検査の関連を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 検査総論
- 第2回 胃機能検査、一般検査
- 第3回 肝機能検査
- 第4回 血液検査
- 第5回 生理検査
- 第6回 胸痛と臨床検査
- 第7回 感染症検査
- 第8回 中毒と臨床検査
- 第9回 代謝異常、意識障害
- 第10回 腹痛と臨床検査
- 第11回 輸血検査
- 第12回 POCT(簡易迅速検査)
- 第13回 血液ガス、呼吸機能検査
- 第14回 凝固 染液
- 第15回 凝固・せん液検査
- 第16回 まとめ・11月18日 試験
- 第17回 終了試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

a50102a650

試験 (50%)
授業中課題 (0%)
参加度 (20%)

小テスト (0%)
授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **救急医学総論Ⅳ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 関根 和弘

テーマ

救急現場活動

獲得目標

救急現場活動を行うために必要なコミュニケーションスキル、救急隊の編成、救急自動車装備、通信体制、搬送方法や救急活動に関連する法律について理解することを目的とします。

授業の内容

講義及び実習

内 容

- 第1回 救急活動の基本・外傷総論
- 第2回 救急現場活動
- 第3回 救急現場活動
- 第4回 救急現場活動
- 第5回 救急現場コミュニケーション
- 第6回 救急現場コミュニケーション
- 第7回 救急現場コミュニケーション
- 第8回 救急現場コミュニケーション
- 第9回 救急行政と救急関係法規
- 第10回 救急活動と法的問題
- 第11回 救急活動と法的問題
- 第12回 惨事ストレスマネジメント
- 第13回 惨事ストレスマネジメント
- 第14回 海外の病院前救護体制
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

学外研修及び講演会聴講等集中講義を行うこともある

教科書

参考書

救急活動の法律相談

著者： 救急活動法務研究会

出版社： 新日本法規出版

出版年： 2010

ISBN：

プレホスピタルMOOK10

著者: 安田康晴

出版社: 永井書店

出版年: 2010

ISBN: 9784815918712

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **環境障害**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小尾口 邦彦

テーマ

中毒・環境傷害、放射線傷害について理解する。

獲得目標

中毒、熱傷、低体温、圧力などによる損傷など環境により人体に影響を与える救急の病態について理解する。また、放射線についての基礎知識を学習し、放射線事故による放射線被曝と障害と、その対応について習得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 中毒総論① 中毒経路・病態生理
- 第2回 中毒総論② 観察と判断、応急処置と搬送
- 第3回 中毒各論 医療品・農薬・工業薬品・ガス中毒 アルコール・自然毒・家庭用品・覚醒剤中毒
- 第4回 溺水、熱中症、低体温、凍傷
- 第5回 減圧症、酸素欠乏症、高山病
- 第6回 紫外線と放射線 放射線事故と傷害
- 第7回 まとめ
- 第8回 試験とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (50)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 経営戦略論Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 150
履修条件	クラス指定
担当者 今久保 幸生	

テーマ

主に関西の企業や経済団体から招いた経験豊富なゲストスピーカーの講義を聴き、これを通じて企業等の各レベルにおける多様な経営戦略、組織文化、人材確保・育成などを学ぶ。

獲得目標

様々な分野の企業経営等のトップや第一線で活躍中の各講師から、経営戦略等についての現場の体験を伺うことで、経営戦略を具体的に理解し、かつ、己が将来どのような業種の企業や団体等のどのような仕事や経営戦略に関わってゆくことができるかについての見通しを持てるようにすることが、目的である。

授業の内容

レジュメなどの資料に即した講義がなされる。これに対して毎回、学生のリアクション・ペーパーの提出が必要である。内容は各自の感想を述べたものでもよい。また、授業中あるいは授業後に質問や疑問があれば、積極的に発言することが薦められる。

内 容

- 第1回 今久保教授 講義の狙いと授業計画
- 第2回 杉村泰宏氏 シンク・アンド・アクト(株)・マネージング・ディレクター(プロジェクト・プロデュース他)
- 第3回 落亨氏 (有)星加・取締役・経営コンサルタント(食品衛生・生産性向上)
- 第4回 小野高明氏 近畿日本ツーリスト(株)関西営業本部・専任課長(旅行)
- 第5回 土屋佳幸氏 (株)博報堂・インタラクティブディレクター(広告)
- 第6回 久米田麻里氏 NPO法人ホース・フレンズ事務局枚方若者サポートステーション・若者支援担当 臨床心理士(福祉)
- 第7回 谷川俊治氏 (株)プロヴァンスコーポレーション・代表取締役社長(不動産)
- 第8回 大串幸蔵氏 京都ブライトンホテル総務部購買課・担当課長(ホテル)
- 第9回 保田裕章氏 丸二倉庫(株)人事総務部・課長代理(ロジスティクス)
- 第10回 清水 智子氏 有限会社キャップス・代表取締役社長(調査・コンサルタント)
- 第11回 馬場直也氏 サントリー酒類(株)ビール事業部プレミアム戦略部・担当課長(食品)
- 第12回 橋本恭典氏 橋本恭典税理士事務所・所長(税務代理・相談)
- 第13回 児玉尚樹氏 日本航空(株)京都支店・支店長(運輸)
- 第14回 西村浪二氏 洛和会ヘルスケアシステム介護事業部・担当課長(福祉)
- 第15回 今久保教授 授業のまとめ

授業以外での学習方法

当日の企業・団体の経営状況や関係する業界について、専門書、有価証券報告書、会社案内、会社四季報、ダイヤモンド、東洋経済などの業界紙、日本経済新聞、日本産業新聞、ホームページなどを手がかりに、予め調べておくことが有益である。

教科書

とくに定めない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講師により講義中に指示される場合がある。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

リアクション・ペーパー70 参加度30

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **企業と社会的責任**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 織田 直文	

テーマ

地域の中、世界の中で生き抜くためのこれからの企業経営

獲得目標

近年、企業が果たすべき広い意味での社会的責任(CSR)が強く求められるようになってきた。本講義では、その背景を探り、企業のあり方や経営を、社会との関係性から考え、今後のあり方を見出す。

授業の内容

当該テーマおよび目的追及のために、基礎的なキーワード概念や事例を述べるとともに、外部講師による特別講義の他、学生による事例調査やNPO、コミュニティ・ビジネスの起業企画作業を行ってもらい、理解を深めるものとする。

内 容

- 第1回 講義の進め方、企業とは何か。法人、セクター、まちづくりについて。
- 第2回 CSRとは何か。ステークホルダーとの関係論。
- 第3回 CSRが求められる理由。
- 第4回 ステークホルダー論①(消費者)
- 第5回 ステークホルダー論②(従業員)
- 第6回 ステークホルダー論③(株主)・(取引先)
- 第7回 ステークホルダー論④(地域社会)
- 第8回 中小企業と地域社会
- 第9回 ソーシャル・ビジネスとコミュニティ・ビジネス起業企画の方法
- 第10回 コミュニティ・ビジネス起業案作成ワークショップ①
- 第11回 コミュニティ・ビジネス起業案作成ワークショップ②
- 第12回 コミュニティ・ビジネス起業案報告①
- 第13回 コミュニティ・ビジネス起業案報告②
- 第14回 コミュニティ・ビジネス起業案報告③
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

日常的に企業が犯した不祥事やCSRなどに関する情報を、新聞や雑誌、報道番組などからチェックし、スクラップする。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

とくにない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (20)

参加度 (50)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **産業論 I (コンテンツ産業)**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 吉田 秀和

テーマ

コンテンツ産業と呼ばれる産業部門が成長・成熟していく過程を1960年代以降の産業構造の変化を踏まえつつ読み解く

獲得目標

産業構造の在り方は、わたしたちの日常の生活環境に深く結びついています。言い換えると、年齢・性別・職業などによる生活時間の使い方や生活の質および量はその社会の産業構造の影響を大いに受けているということです。そこで、この授業では、産業構造と私たちの生活構造の変化、すなわち生活インフラの変遷に注目しつつ、現時点までの各種コンテンツの現状と課題を読み解きつつ、同時にその手法を修得してもらおうと思います。

授業の内容

この授業では、高度経済成長期から今日までの日本の産業構造の変遷を提示しながら、大衆社会の形成と成熟した産業社会における、その時代を代表する放送番組、映画、音楽、書籍などのコンテンツを紹介していきます。そして、当時のコンテンツが人々の日常生活を通じてどのように大衆意識として浸透していったかを読み解いていきます。さらに、これらを踏まえて、高度情報社会を背景としてグローバル化していく今日の社会に潜む諸課題をコンテンツ産業の現状と課題を通じてみなさんと考えていきたいと思っています。授業では、その日の授業内容、質疑などを簡潔に記してもらおう用紙(コミュニケーション・ペーパーを配ります)を毎回配布しますので、授業終了時には用紙を提出して終わるという形態になります。なお、質疑に関する回答は次の授業冒頭に行います。

内 容

- 第1回 イントロダクション-産業構造と生活構造、そしていわゆるコンテンツ産業とのかかわり-
- 第2回 フォードシステムの導入と日本の高度経済成長
- 第3回 大衆社会の進展と出版・放送コンテンツ
- 第4回 労使協調主義と世界経済の趨勢
- 第5回 産業社会の成熟とコンテンツ産業の変容
- 第6回 消費社会の到来と新規コンテンツ産業の萌芽(ゲーム産業)
- 第7回 バブル経済と消費社会(不夜城社会の経験)の到来
- 第8回 コミュニケーション媒体の多様化とコンテンツ産業を取り巻く環境の変化
- 第9回 書籍・映画コンテンツにみるモノ社会からイメージの社会への移行
- 第10回 グローバル社会におけるクールジャパン戦略とコンテンツ産業
- 第11回 コンテンツ産業の定義と分類(総務省と経済産業省の分類)
- 第12回 映像系コンテンツ産業の現状と課題
- 第13回 音声系コンテンツ産業の現状と課題
- 第14回 ゲーム系コンテンツ産業の現状と課題
- 第15回 テキスト系コンテンツ産業の現状と課題

授業以外での学習方法

授業後は、講義で紹介したコンテンツに接してください。

教科書

参考書

成績評価

a50102e150

試験 (60)
授業中課題 (15)
参加度 (15)

小テスト (10)
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **応用簿記演習Ⅱ <Z>**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 「応用簿記演習Ⅰ」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 山本 耕二	

テーマ

複式簿記の応用分野を学習し本質的な部分を理解して行く

獲得目標

株式会社社会計など簿記の応用分野を理解する 簿記を通じて商取引の内容や経理システムを学習する

授業の内容

本講義は、応用簿記演習Ⅰの単位取得を前提とする 日商簿記2級における商業簿記の内容を学習する

内 容

- 第1回 固定資産(2) 債務保証
- 第2回 手形
- 第3回 貸倒引当金
- 第4回 修繕引当金、商品(製品)保証引当金、退職給付引当金 株式会社社会計(1)
- 第5回 株式会社社会計(2)
- 第6回 株式会社社会計(3)
- 第7回 株式会社社会計(4)
- 第8回 株式会社社会計(5) 税金(1)
- 第9回 税金(2) 精算表の作成
- 第10回 帳簿の締切法(1)
- 第11回 帳簿の締切法(2)
- 第12回 財務諸表(1)
- 第13回 財務諸表(2)
- 第14回 総合問題演習
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

簿記をしっかりと理解するには予習及び復習が必要です。毎回宿題を出しますからしっかりと自宅学習するように。

教科書

完全合格のための日商簿記2級商業簿記テキスト

著者： 大原簿記学校

出版社： 大原出版

出版年： 2012

ISBN： 9784872589627

完全合格のための日商簿記2級商業簿記問題集

著者： 大原簿記学校

出版社： 大原出版

出版年： 2012

ISBN： 9784872589634

参考書

成績評価

試験（40）

小テスト（10）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

まじめに取り組む姿勢を高く評価します。

参考URL

山本耕二税理士事務所

<http://homepage3.nifty.com/tax-yamamoto>

追加的な連絡事項を掲示する

2014 Syllabus

科目名 **ファイナンス論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 夏期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 近藤 隆則	

テーマ

私たちの経済社会において金融機関がどのような役割を果たしているかを具体的に学びます。金融業界への就職を考えようとする人だけでなく、広くビジネスや公共的な仕事に携わろうとする人にとっても不可欠の金融の基礎知識を習得します。

獲得目標

金融仲介の意義を正しく理解し、様々な種類の金融機関の業務内容の共通点や相違点について具体的に説明できることを目標とします。

授業の内容

銀行、信用金庫、生命保険会社、損害保険会社、金融商品取引業者(証券会社など)、ノンバンクといった様々な種類の金融機関について、経済社会の中で果たしている役割や業務内容について学びます。授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜、具体的課題についてみんなで考え発言する時間を作ります。

内 容

- 第1回 金融を学ぶ意義: 社会生活を営む上でも、経済情報を正確に理解する上でも、ビジネスや公共業務に携わる上でも、金融の基礎知識が不可欠であることを様々な事例から説き起こします。
- 第2回 金融機関の種類と業務の概要: 全ての金融機関の共通機能である「金融仲介」とは何か、「直接金融」と「間接金融」の違いとは何かといったポイントを踏まえ、金融機関の種類と業務の概要を学びます。
- 第3回 銀行(1): 銀行について基礎的な知識を身に付けます。具体的には、銀行の種類、銀行の共通点、自由化による銀行の多様化について学びます。
- 第4回 銀行(2): 銀行の業務内容を具体的に見てゆきます。決済、預金、融資など支店の業務、リスク管理、審査、国際業務、市場業務など本部の業務について知った上で、銀行の収益の源泉は主として「信用リスク」と「金利リスク」にあることを学びます。
- 第5回 銀行(3): 銀行業務を支える人材の採用と育成、銀行員のキャリアパス、銀行員に求められる素養について考えます。
- 第6回 銀行(4): 銀行と地域の企業や産業が深いかわりを持っていることを学びます。特に地方銀行や信用金庫といった地域金融機関は地元経済の発展に大きな役割を果たしています。
- 第7回 保険(1): 保険業界について基礎的な知識を身に付けます。まず保険の原理である「大数の法則」を理解した上で、公的保険、私的保険といった区別や生命保険、損害保険、第三分野といった区分を学習します。
- 第8回 保険(2): 生命保険会社の業務について学びます(生命保険の仕組み、契約の基本的事項、税金など)。またインターネット保険会社や外資系保険会社など、生命保険業界の多様化についても触れます。
- 第9回 保険(3): 損害保険会社の業務について学びます(損害保険の仕組み、商品の種類など)。また医療保険やガン保険と言った第三分野保険についても触れます。
- 第10回 金融商品取引業(1): 直接金融の仲介機能を果たしている「金融商品取引業」の特徴を間接金融との比較で考えます。また、金融商品取引業の種類も学びます。
- 第11回 金融商品取引業(2): 金融商品取引業のうち、証券の引受・販売業を学びます。具体的には、証券の流通市場の意味や引受・販売の担い手である証券会社の役割、証券業界の動向について見てゆきます。
- 第12回 金融商品取引業(3): 金融商品取引業のうち、資産運用業について学びます。具体的には、投資顧問会社と投資信託会社がどのような役割を担っているかを見てゆきます。
- 第13回 ノンバンク(1): ノンバンクのうち、リース、信販、クレジットカードの各業界の機能について学習します。
- 第14回 ノンバンク(2): ノンバンクのうち、ベンチャー・キャピタルやサービサーの機能について学習します。併せて、起業、株式公開、企業再編、企業再生といった企業の成長段階に応じた金融機能についてまとめます。
- 第15回 全体のまとめと復習

授業以外での学習方法

近年話題になっている「アベノミクス」や「ビットコイン」について、できるだけ授業前に新聞やインターネットなどを利用して意味を調べておいてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

イラスト図解 銀行のしくみ

著者: 戸谷圭子

出版社: 日本実業出版社

出版年: 2008年

ISBN: 4534044763

2013-2014年版 みんながほしかった! FPの教科書 2級・AFP

著者: 滝澤ななみ

出版社: TAC株式会社

出版年: 2013年

ISBN: 4813251765

成績評価

試験 ()

小テスト (50%)

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ビジネスコミュニケーション演習**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松田 いりあ	

テーマ

ビジネスシーンにおけるプレゼンテーションおよび企画書作成能力の向上

獲得目標

この授業では、PowerPointやKeynoteといったプレゼンテーションソフトウェアを活用し、商品企画やプレゼンテーションの基本的な能力を身につけることを目指す。

授業の内容

受講生はプレゼンテーションソフトウェアによるプレゼンおよび質疑応答を行う。担当者はソフトウェアの利用法を説明、プレゼンにおけるコミュニケーション全般について適宜アドバイスし、プレゼンの進行を支える。

内 容

- 第1回 はじめに: 受講生・担当者による自己紹介
- 第2回 グループワーク(1): 大学をプレゼンする
- 第3回 グループワーク(2): 大学をプレゼンする
- 第4回 受講生によるプレゼンテーション(1)
- 第5回 受講生によるプレゼンテーション(2)
- 第6回 受講生によるプレゼンテーション(3)
- 第7回 受講生によるプレゼンテーション(4)
- 第8回 受講生によるプレゼンテーション(5)
- 第9回 受講生によるプレゼンテーション(6)
- 第10回 受講生によるプレゼンテーション(7)
- 第11回 受講生によるプレゼンテーション(8)
- 第12回 受講生によるプレゼンテーション(9)
- 第13回 受講生によるプレゼンテーション(10)
- 第14回 受講生によるプレゼンテーション(11)
- 第15回 まとめ: プレゼンテーション能力をさらに向上させるために

授業以外での学習方法

自分のプレゼンテーションの準備は担当回を見越して十分に準備しておくこと(設備等については担当者が相談に応じる)

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (70%)

a50102e750

参加度（30%）

質疑応答への参加度も評価対象になる

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **広告とマスメディア**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今井 まりな・加賀田 茂敏

テーマ

メディア制作の現場—広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネット—

獲得目標

各種メディア制作の考え方やそのプロセスを知ることを通じて、メディアの現状とその可能性について理解する。さらに、メディアと履修者との関わり方について考え、メディアを活用する能力を養う。

授業の内容

講師の都合により、下記の講義の順番が入れ替わったり、内容が変更になる場合がある。

内 容

- 第1回 本講義の趣旨 今井まりな
- 第2回 広告とは—〈広告産業論〉(株)大広関西
- 第3回 広告マーケティング(株)大広
- 第4回 クリエイティブ(株)大広
- 第5回 メディア環境論Ⅰ(メディア環境変化と広告)(株)博報堂DYメディアパートナーズ
- 第6回 メディア環境論Ⅱ(デジタルメディアの伸展)(株)博報堂DYメディアパートナーズ
- 第7回 テレビ業界 KBS京都 アナウンス部
- 第8回 新聞業界 朝日新聞社
- 第9回 出版業界
- 第10回 テレビ番組制作の現場
- 第11回 ラジオ業界
- 第12回 映画ビジネス
- 第13回 エンターテインメントビジネス
- 第14回 マスメディアの学説と広告効果 今井まりな
- 第15回 総括 今井まりな

授業以外での学習方法

メディア関係の文献に目を通しておくこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ()

参加度 (60%)

参加度は、授業への出席および小レポートによる。授業中課題は、期末レポートによる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **医療経済論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高山 一夫

テーマ

医療経済学入門

獲得目標

医療経済学の基本的な考え方を学習する。医療制度や経済学に関する知識を必ずしも前提とはしないが、「医療経営入門」「医療政策論」などを併せて履修することが望ましい。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 医療経済思想の展開(1)－健康の価値試算
- 第3回 医療経済思想の展開(2)－公衆衛生と保健投資論
- 第4回 医療経済思想の展開(3)－社会保険の制度設計
- 第5回 医療経済思想の展開(4)－CCMCと医療経済調査
- 第6回 医療経済思想の展開(5)－福祉国家の成立と展開
- 第7回 医療経済学の基礎(1)－医療費とその増加要因分析
- 第8回 中間まとめと確認テスト
- 第9回 医療経済学の基礎(2)－医療需要の分析、SID仮説
- 第10回 医療経済学の基礎(3)－市場の失敗、マネジドケア、医療制度
- 第11回 医療の経済評価(1)－医療の経済評価の基礎
- 第12回 医療の経済評価(2)－便益と効用の測定
- 第13回 医療の経済評価(3)－経済効率と公平、健康格差
- 第14回 医療経済学の課題(4)－医療関連産業の経済分析
- 第15回 講義全体のまとめと確認テスト

授業以外での学習方法

授業中配布する資料や参考文献を用いてしっかり復習すること。

教科書

参考書

健康と医療の公平に挑む

著者： 松田亮三編

出版社： 勁草書房

出版年： 2009

ISBN： 9784326700615

医療の政治力学

著者： 野村拓編

出版社： 桐書房

出版年： 2011

ISBN： 9784876477920

「健康格差社会」を生き抜く

著者： 近藤克則

出版社： 朝日新書

出版年： 2010

ISBN： 9784022733177

国際的視点から学ぶ医療経済学入門

著者： マックペイク他

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2004

ISBN： 9784130421195

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（50）

理解度を確認する目的で確認テストを2回実施します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **産業論Ⅱ（ヘルスケア産業）**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高山 一夫	

テーマ

ヘルスケア産業の動向を学ぶ

獲得目標

わが国を含めて先進各国では、人口高齢化に対応し、また内需主導型の経済成長並びに雇用の受け皿として、広い意味でのヘルスケア産業への注目が高まっている。本講義では、こうしたヘルスケア産業をめぐる制度と現状、直面する課題、またヘルスケア産業と経済社会とのかわりについて、基本的な知識を獲得し、受講生の進路選択に資することを目標とする。

授業の内容

ヘルスケア産業の現状と将来性について、業界研究を意識した授業を展開する。

内 容

- 第1回 ガイダンスと話題提供
- 第2回 ヘルスケア産業とは
- 第3回 ヘルスケア分野の労働市場
- 第4回 医療制度と介護保険(1)
- 第5回 医療制度と介護保険(2)
- 第6回 医療・介護経営の動向(1)
- 第7回 医療・介護経営の動向(2)
- 第8回 中間まとめと確認テスト
- 第9回 医薬品産業(1)
- 第10回 医薬品産業(2)
- 第11回 医療機器産業
- 第12回 医療関連サービス業(1)
- 第13回 医療関連サービス業(2)
- 第14回 ヘルスケア産業の新たな展開
- 第15回 全体のまとめと確認テスト

授業以外での学習方法

授業中に指示する参考文献、また新聞・雑誌記事などに目を通して下さい。

教科書

参考書

よくわかる医療業界最新第2版

著者： 川越満、布施泰男

出版社： 日本実業出版社

出版年： 2013

ISBN： 9784534046956

成績評価

試験（0）

授業中課題（0）

参加度（50）

講義の理解度を確認するために確認テストを実施します。

小テスト（50）

授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 サプライ・チェーン・マネジメント

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	李在鎬	

テーマ

人、もの、かねの「流れ」最適化の観点から、経営資源調達の理論と実践を学ぶ。

獲得目標

生産システム、ロジスティクスの基礎を理解した上で、部品や原材料などの物流(ものの流れ)と商流(取引の流れ)について修得する。

授業の内容

授業の前半においては、生産システム論とロジスティクスの基礎理論やモデルについて学習した上で、後半において、輸送計画モデルと在庫管理モデルについて、パソコンによる実習を交えながら、学んでいく。

内 容

- 第1回 科目概説、生産システム論の中のサプライヤー
- 第2回 サプライ・チェーン・マネジメントとロジスティクスの生成と発展
- 第3回 注文サイクル
- 第4回 在庫管理Ⅰ (EOQモデル)
- 第5回 在庫管理Ⅱ (EPQモデル)
- 第6回 在庫管理Ⅲ (ROPモデル)
- 第7回 在庫管理Ⅳ (Pシステム)
- 第8回 総括と理解度のチェック
- 第9回 ケース研究(関連映像資料の鑑賞)
- 第10回 輸送計画モデルⅠ
- 第11回 輸送計画モデルⅡ
- 第12回 中継輸送計画モデル
- 第13回 品質管理Ⅰ
- 第14回 品質管理Ⅱ
- 第15回 総括と理解度テスト

授業以外での学習方法

工場見学などをおすすめします

教科書

ロジスティクス管理

著者: 李在鎬

出版社: 中央経済社

出版年: 2005年

ISBN:

参考書

成績評価

試験（80）

授業中課題（0）

参加度（10）

基本的に表計算ソフトウェアによる理解度テストが行われる。

小テスト（0）

授業中発表等（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **組織とメンタルヘルス**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期前半	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 香坂 千佳子	

テーマ

ストレス社会と言われる現代社会では、企業にとってメンタルヘルスの問題は無視することはできない。メンタルヘルスを学ぶことがどうして組織にとって重要なのかを理解する。

獲得目標

個人が集団の中で自分らしく生きていくための健康マネジメントのうち、組織におけるメンタルヘルスの問題をとりあげる。会社や職場等の組織の中で、私たちは様々なメンタルヘルス上の問題と出会う。どのような問題があるかを概観し、早期発見や回復の手立てを考える。メンタルヘルス、特に「セルフケア」を理解し修得する。

授業の内容

職場におけるメンタルヘルスの重要性とセルフケア、ストレス対処法などを学ぶ。毎回簡単な小テストを授業前に行う。(履修人数により、授業方法を変更する場合もある)

内 容

- 第1回 はじめに: 授業方針(受講上の注意、評価の方法) メンタルヘルスケアの意義
- 第2回 企業とメンタルヘルスとは
- 第3回 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ①
- 第4回 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ②
- 第5回 セルフケアの重要性 ①
- 第6回 ストレスへの気づき
- 第7回 ストレスへの対処・軽減法
- 第8回 まとめ テスト

授業以外での学習方法

常に、新聞、ニュースなどでメンタルヘルス、健康に関する情報収集をできるようにすること。

教科書

メンタルヘルスマネジメントⅢ種 セルフケアコース

著者: 大阪商工会議所編

出版社: 中央経済社

出版年: 2012

ISBN: 9784502422805

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

a50102f450

授業前に小テスト+宿題+課題=60% 出席回数+授業中=40%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **会計学**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員

履修条件 「会計学入門」を履修済み
であること。

クラス指定

担 当 者 河野 充央

テーマ

財務諸表の分析と活用

獲得目標

会計学入門で修得した7基礎知識・基礎理論をもとに、財務諸表の分析方法、および、分析結果の活用方法を学ぶ

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 会計学の体系
- 第2回 収益性の分析(1)
- 第3回 収益性の分析(2)
- 第4回 収益性の分析(3)
- 第5回 生産性の分析(1)
- 第6回 生産性の分析(2)
- 第7回 生産性の分析(3)
- 第8回 流動性の分析(1)
- 第9回 流動性の分析(2)
- 第10回 流動性の分析(3)
- 第11回 成長性の分析(1)
- 第12回 成長性の分析(2)
- 第13回 損益分岐点分析(1)
- 第14回 損益分岐点分析(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネス等に掲載される経済記事を適宜紹介する(プリントでの配布等)ので、講義で学んだ知識を活用して、経営の実務にも興味をもってもらいたい。

教科書

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

新版財務諸表論

著者： 武田隆二

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（30）

授業中課題（10）

参加度（50）

小テスト（10）

授業中発表等（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急救命実習Ⅷ <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定員 50

履修条件 「救急救命実習Ⅴ」を修得済みであること

クラス指定

担当者 関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭

テーマ

消防署及び関連施設での実習(見学実習)

獲得目標

近隣地域の消防署及び関係機関の協力の下、救急業務それに関連する業務について見学実習を行う。※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

授業の内容

消防署及び関係機関の施設、設備と機能や、活動内容、救急事務や、救急用自動車、救急用資機材等を実地見学する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 臨地実習
- 第3回 臨地実習
- 第4回 臨地実習
- 第5回 臨地実習
- 第6回 臨地実習
- 第7回 臨地実習
- 第8回 臨地実習
- 第9回 臨地実習
- 第10回 臨地実習
- 第11回 臨地実習
- 第12回 臨地実習
- 第13回 臨地実習
- 第14回 臨地実習
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

a501033880

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

各臨地実習の後にはレポートを提出すること

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急処置各論Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 甲斐 達朗・加藤 之紀・蒲池 正顕・関根 和弘・和田 亨

テーマ

応急処置各論と重傷度・緊急度判断

獲得目標

救急救命士の行う処置の実践を学ぶ。呼吸、循環、外傷に関する処置の他、体位管理や体温管理、災害時に必要となる処置についても学習する。重傷度・緊急度の判断方法についても説明し、重症外傷患者の救命に重要な現場活動の基礎、そして評価と観察、重症度・緊急度の判断と車内での活動、必要な処置を習得する。この他、処置のうち、除細動・胸骨圧迫・自動式心マッサージ器による胸骨圧迫についても学ぶ。処置の際に必要な救急隊員の安全管理についても理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 除細動について
- 第2回 静脈路確保について
- 第3回 静脈路確保について
- 第4回 止血法について
- 第5回 副子・固定について
- 第6回 体位について
- 第7回 在宅療法傷病者の対応について
- 第8回 搬送法について
- 第9回 各種プロトコールについて
- 第10回 各種プロトコールについて
- 第11回 各種プロトコールについて
- 第12回 事例研究
- 第13回 ビデオ・まとめ
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 救急症候学V

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 藤野 和典

テーマ

顔面・頸部の外傷

獲得目標

顔面・頸部には気道、頸髄あるいは脳神経など、生命維持にかかわる器官や組織だけではなく、視覚・聴覚・嗅覚・味覚などの感覚器、咀嚼や嚥下機能、唾液分泌、表情筋による表現など機能予後に関わる器官臓器も豊富に存在する。また口腔、舌、歯などは構音、咀嚼、嚥下運動を司り、上気道を司る。鼻腔、副鼻腔、耳下腺など耳鼻科もこの領域に含まれる。頸部には気管、食道、頸動脈など重要臓器が集約している。これらの臓器は、鈍的および鋭的な損傷により、重篤な損傷を起こす可能性が高い。臓器損傷の種類と症状について学習し、観察と判断、応急処置などを習得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 顔面・頸部の組織と機能
- 第2回 顔面の外傷
- 第3回 顔面軟部組織損傷
- 第4回 顔面骨骨折
- 第5回 眼外傷
- 第6回 耳損傷
- 第7回 鼻損傷、鼻出血
- 第8回 口唇・口腔・舌損傷
- 第9回 歯痛、頸部外傷
- 第10回 症状と観察1
- 第11回 症状と観察2
- 第12回 判断と応急処置1
- 第13回 判断と応急処置2
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (0)

小テスト (30)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 小児科学

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉田 匡人

テーマ

小児救急医療の特性

獲得目標

救急医療における小児の特性を理解し、実践的な救急救命士を育成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 小児の特徴
 第2回 観察と判断 応急処置と搬送法
 第3回 おもな疾患 1熱性痙攣 4髄膜炎 5脳症、脳炎
 第4回 おもな疾患 2クループ、急性喉頭蓋炎 3喘息
 第5回 おもな疾患 6腸重積 7溶血性尿毒症症候群 8乳幼児突然死症候群
 第6回 おもな疾患 9川崎病 10発疹性感染症 11流行性耳下腺炎 12伝染性膿か疹症候群 13 ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群
 第7回 おもな疾患 14被虐待児症候群 まとめ
 第8回 試験

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（50%）

小テスト（0%）

授業中課題（0%）

授業中発表等（25%）

参加度（25%）

情熱を持って救急救命士を志す人は、高く評価します。授業中の積極的な質問や議論でアピールして下さい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **精神医学**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 竹村 隆太

テーマ

救急救命の視点からみた精神障害と精神科医療

獲得目標

精神科臨床のいろいろな場面を想定し、病態や関わり方について学ぶ

授業の内容

内 容

- 第1回 精神医学総論(関連する社会制度、その歴史、対象となる状態像:興奮・混迷・自殺企図ほか)
 第2回 いろいろな病態 ①統合失調症圏
 第3回 いろいろな病態 ②躁うつ病圏
 第4回 いろいろな病態 ③神経症圏、児童・青年期精神障害、人格障害
 第5回 いろいろな病態 ④薬物依存、老年期精神障害
 第6回 いろいろな病態 ⑤摂食障害、児童青年期精神障害
 第7回 いろいろな病態 ⑥器質性精神障害など
 第8回 テスト

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

a50103b150

参考URL

日本精神科救急学会

<http://www.jaep.jp/>

2014 Syllabus

科目名 産婦人科学

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 常田 裕子

テーマ

臨床産科学

獲得目標

救急救命士に必要な産科・周産期救急医療を学ぶと共に、臨床産科学・婦人科学を学ぶ。具体的には、講義を通して、妊娠期・分娩期・産褥期の女性と胎児・新生児の正常な状態と病態を学ぶ。演習を通して、救急搬送時に必要となる病歴の聴取方法、観察項目・方法、対処方法について、理解を深める。そして医療機関の選定や搬送時に注意すべき事項などについて理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 我が国の産科(周産期)救急医療の実態
- 第2回 生殖器の解剖・生理・妊娠時の母体と胎児の変化(1)
- 第3回 妊娠時の母体と胎児の変化(2)
- 第4回 分娩の経過
- 第5回 産褥の変化
- 第6回 周産期医療にかかわる搬送とその対応(演習)
- 第7回 周産期医療にかかわる搬送とその対応(演習)
- 第8回 婦人科疾患とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト改訂第8版第4巻

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

救急救命士標準テキスト改訂第8版第5巻

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

病気がみえる10産科

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

改定7版 母子保健マニュアル

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

わが国における周産期救急に関するメディア・新聞などの記事を1つ以上あつめてレポートしてください(A4 2枚以内)

参考URL

母体の安全への提言2012

<http://www.jaog.or.jp/medical/ikai/project03/PDF/b>

周産期における母体死亡例を検証している報告書であり、産科救急においても携わる可能性がある。

2014 Syllabus

科目名 救急救命実習Ⅹ〈Z〉

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 通年	定員	50
履修条件 「救急救命実習Ⅴ」を修得済みであること	クラス指定	
担当者	北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二・福岡 範恭	

テーマ

医療機関の現場にて展開される救急医療の現状の把握およびそれらに必要な技術の習得。

獲得目標

救急医療に関連した知識の応用と救急救命処置に係る技術の習得を主体とすること。さらに既習の知識および技術を駆使し介助等を通じて診療の補助に対する理解を深め観察・判断能力を高めることを目的とする。

授業の内容

※この単位履修は、他の救急救命実習の履修状況および履修態度身だしなみとうが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加することは出来ない。

内 容

- 第1回 学内オリエンテーション、成人看護座学
- 第2回 学内成人看護演習
- 第3回 夏期病院実習
- 第4回 春期病院実習
- 第5回 各期病院実習後報告検討会

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

医療機関実習担当者の評価による。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **観光資源論Ⅱ**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

海外観光地理を学ぶ。

獲得目標

海外の観光地理を学び、それぞれの地域の観光資源(自然、人文、複合)についての知識を得ることを目的とする。

授業の内容

テキストを中心に授業を進めるが、毎回小テストを課す。

内 容

- 第1回 導入およびアジア①
- 第2回 アジア②
- 第3回 アジア③
- 第4回 ヨーロッパ①
- 第5回 ヨーロッパ②
- 第6回 ヨーロッパ③
- 第7回 南北アメリカ①
- 第8回 南北アメリカ②
- 第9回 南北アメリカ③
- 第10回 オセアニア、太平洋の島々①
- 第11回 オセアニア、太平洋の島々②
- 第12回 オセアニア、太平洋の島々②
- 第13回 中東、アフリカ①
- 第14回 中東、アフリカ②
- 第15回 中東、アフリカ③およびまとめ

授業以外での学習方法

毎回小テストを課し、その成績評価でのウエイトが高いため、自宅学習は必ず必要です。

教科書

海外観光地理サブノート

著者: JTB能力開発

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (0)

参加度 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 観光文化論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

観光学の基本的理解(主として観光文化の視点から)

獲得目標

観光学の基礎を学び理解すること 観光現象における文化と経済の緊張関係を考えること 地域の主体的自立を自分の問題として考えること

授業の内容

観光文化について、人類学や社会学、民俗学などを中心に学習する。受講人数によって、グループワークと文献購読あるいはツーリズム・コンテンツを組み合わせたPBL型授業を行うか、VTR+新聞資料を中心とした講義を進める。

内 容

- 第1回 観光学の基礎1
- 第2回 観光学の基礎2
- 第3回 観光学の基礎3
- 第4回 観光とメディア
- 第5回 個人化する観光
- 第6回 観光経験 ブーアスティンとマキヤーネルの論考から
- 第7回 ホストとゲスト
- 第8回 「大きな物語」と文化遺産観光(1)
- 第9回 「大きな物語」と文化遺産観光(2)
- 第10回 「大きな物語」と文化遺産観光(3)
- 第11回 戦争と観光
- 第12回 アニメ・マンガ・ゲーム観光
- 第13回 ボランティア観光
- 第14回 エコツーリズム
- 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。

授業以外での学習方法

日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

観光経験の人類学

著者: 橋本和也

出版社：世界思想社

出版年：2011

ISBN:

観光文化学

著者： 山下晋司

出版社：新陽社

出版年：2007

ISBN:

ふるさと資源化と民俗学

著者： 岩本通弥編

出版社：吉川弘文館

出版年：2007

ISBN:

祭りのゆくえ

著者： 松平誠

出版社：中央口論新社

出版年:

ISBN:

n次創作観光

著者： 岡本健

出版社：北海道冒険芸術出版

出版年：2013

ISBN:

観光学ガイドブック

著者： 大橋昭一ほか

出版社：ナカニシヤ出版

出版年：2014

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化プロデュース入門Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 富本 真理子	

テーマ

京都の文化観光を通じて地域の文化をいかにコーディネートするかを考える。

獲得目標

主に京都市内で実践されている、様々な文化観光の特徴を理解するために必要な事柄について概観する。具体的にそれらに関わっている人々から、その活動をするに至った経緯や、マネジメント、今後への思いなどの話を聞く。以上から、文化と都市、プロデュースと環境デザインの間関係を広く学ぶ。

授業の内容

京都の文化観光の実践者の話を必要に応じて聞く。また、双方向型授業としてワークショップの手法を随時を取り入れる。文化プロデュース論でもあるが、京都の興味深い観光事業について知ることもできる。

内 容

- 第1回 文化プロデュースの視点からみた文化観光
- 第2回 文化政策と観光政策
- 第3回 地域の文化を地域の人によって地域の人に ～見えなかったことを見えるように～
- 第4回 「まいまい京都／住民がガイドする京都のミニツアー」（ゲストスピーカーのお話）
- 第5回 ワークショップ：身近な場所の宝探しから
- 第6回 日本文化を外国人へ～今なぜ日本文化か～
- 第7回 ～食文化編～事例考察「京都クッキングサークル」
- 第8回 ～日本の魅力を伝える通訳案内士（ガイド）の仕事～
- 第9回 ～伝統文化編～事例考察「妙心寺・春光院」
- 第10回 文化をプロデュースする視点、企画や運営、広報、思い。
- 第11回 ～文化の交流拠点としてのゲストハウス～（ゲストスピーカーのお話）
- 第12回 ～文化体験プログラム～事例考察「WAK JAPAN」（ゲストスピーカーのお話）
- 第13回 ～まとめ～ 異文化からみた日本文化と、私たち日本人
- 第14回 ワークショップ：文化を楽しみ、共有しよう！
- 第15回 文化観光を通じて見えてきた文化プロデュース

授業以外での学習方法

文化とは何かを、さらに、その文化を社会でサポートするような観光のあり方について考えること。参考文献を読むこと。

教科書

参考書

固有価値の地域観光論～京都の文化政策と市民による観光創造

著者： 富本 真理子

出版社： 水曜社

出版年： 2011年

ISBN： 978-4880652566

創造都市のための観光振興

著者： 宗田 好史

出版社： 学芸出版社

出版年： 2009年

ISBN： 978-4761512675

京都・観光文化への招待

著者： 井口 貢、池上 惇編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2011年

ISBN： 978-4623058730

観光文化と地元学

著者： 井口 貢

出版社： 古今書院

出版年： 2011年

ISBN： 978-4772231381

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 イベントプランニング研究 <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉山 準

テーマ

劇場および舞台芸術の社会的意義を考える

獲得目標

劇場や舞台芸術を題材に、それに関わるフタッフの仕事や事業の目的、使命などを理解することで、劇場や舞台芸術の社会的意義を考えるとともに、舞台芸術だけでなく、広く文化や芸術の社会の中でのありようを考える。

授業の内容

講義に加えて学外で現場を実際に見たり、体験する。自分で考えることを大切にする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(評価方法、授業のねらいについての説明)および、事業を企画することについて考える。
- 第2回 事業(イベント)を企画する、意図や目的について考える
- 第3回 事業目的からの視点で、事業(イベント)を考察する1
- 第4回 事業目的からの視点で、事業(イベント)を考察する2
- 第5回 文化・芸術による地域のまちづくりの事例紹介と、その可能性について考える
- 第6回 文化・芸術による地域のまちづくりが行なわれている、現場を見て考察する(学外授業) * 催しの開催時期に合わせるため、日程が異なる場合があります。
- 第7回 劇場の機構と劇場で働くスタッフの仕事について
- 第8回 創作の現場で働くスタッフの仕事について
- 第9回 プロデューサー、制作スタッフの仕事について
- 第10回 劇場の使命と役割について
- 第11回 上演作品を見て考察する(学外授業) * 催しの開催時期に合わせるため、日程が異なる場合があります。
- 第12回 地域における文化政策や文化振興の現状について
- 第13回 文化行政と劇場(文化イベント)との関わりについて
- 第14回 地域における文化振興の課題と展望について
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

非営利で行なわれているイベント現場へ足を運んだり、スタッフやメンバーとして関与し、その事業の社会的意義を考えてみることを期待する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

a502025850

授業中課題（70%）

授業中発表等（30%）

参加度（ ）

授業中の課題や学外授業の出席、およびそれに関わるレポートを評価の上で重視します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **アート演習 I <Zb>**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	清水 俊洋	

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践(※主に視覚芸術の領域における)

獲得目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術(ちらし)デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の内容

(1)視覚芸術の名作(現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など)の鑑賞と分析・説明 (2)Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践 (3)写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

内 容

- 第1回 「ビジュアルアート演習」とは? 心にひびくデザインを考える … たくさんのチラシをみながら…
- 第2回 文字をみる・文字をつくる … タイポグラフィー制作
- 第3回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
- 第4回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
- 第5回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第6回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第7回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
- 第8回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
- 第9回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
- 第10回 視覚効果 … 隠蔽と想像力／錯覚／意外性その他
- 第11回 商品広告写真を撮る
- 第12回 心にひびくことばを考える … キャッチコピー
- 第13回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第14回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第15回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第16回 最終試験(60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出)

授業以外での学習方法

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト

著者: 志賀 隆生

出版社: ビー・エヌ・エヌ新社

出版年: 2007

ISBN: 978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール

著者： 大崎 善治

出版社： ソフトバンククリエイティブ

出版年： 2010

ISBN： 978-4797359220

なぜ、これがアートなの？

著者： アメリア アレナス

出版社： 淡交社

出版年： 1998

ISBN： 978-4473015785

成績評価

試験（30%）

小テスト（ ）

授業中課題（30%）

授業中発表等（ ）

参加度（40%）

参考URL

宣伝美術 清水俊洋

<http://shimizutoshihiro.info>

講師の公式ウェブサイト

2014 Syllabus

科目名 **アーツ演習Ⅱ〈Z〉**

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	岡村 宏懇	

テーマ

演劇の「ライブな表現」について知識を深め、人前で緊張せずにパフォーマンスできる力を身につける。古典芸能の「舞」にも挑戦してみよう。

獲得目標

〈舞台の演技〉と〈映像の演技〉の違いは「ライブ」性にあります。演劇は、現代劇から古典芸能(落語、狂言など)まで、その表現方法は違っても人前で何かを発表する「ライブな表現」であることに変わりはありません。この授業では「表現」について基礎的な知識を習得し、皆さんには人前で緊張せずに話す力と発声力を身につけてもらいたい。後半、簡単な「舞」を覚えて発表することで、古典芸能の美にも触れてみたい。体験的な授業になればと思っています。

授業の内容

「演技」は何も俳優や声優に限られた特別な技能ではなく、日常生活では誰もが「いろんな自分」をフツーに演じています。普段の何気無い自分の表現に少し自覚的になるだけで表現力はUPします。まずは、失敗を恐れずに挑戦してみましょう。授業は自由演技と課題演技(舞)で進める予定です。

内 容

- 第1回 ガイダンス。(表現についての基礎知識)
- 第2回 演技①(演技のタイプ)
- 第3回 演技②(舞台演技と映像演技の違い)
- 第4回 声優①(台本の読み方)
- 第5回 声優②(台本を演じてみよう)
- 第6回 現代演劇の舞台裏ドキュメンタリー(DVD)
- 第7回 現代演劇観賞(DVD)
- 第8回 古典芸能観賞(DVD)
- 第9回 発声、滑舌の練習
- 第10回 古典芸能「舞」の練習①
- 第11回 「舞」の練習②
- 第12回 「舞」の練習③
- 第13回 「舞」の練習④
- 第14回 「舞」の練習⑤
- 第15回 発表

授業以外での学習方法

TVドラマや映画を、俳優の演技に注目して観る。リメイクされた同じ作品の邦画と洋画の違いにも留意してみよう。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

扇子を用意すること。(100均のものでも可)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

成果よりも、取り組み姿勢などプロセスを重視します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化施設総論 <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 笠井 友仁

テーマ

演劇について理解を深め、舞台芸術のプロデュースを学ぶ

獲得目標

演劇は、オペラ、ミュージカル、新劇、小劇場演劇、歌舞伎、人形浄瑠璃、能、パントマイム、落語など、様々な上演形式があり、多様な表現方法を持つ芸術である。近年では映像を駆使した作品や「ドキュメンタリー演劇」という手法も登場している。またオペラのように大規模な作品もあれば、一人芝居もある。制作に係る予算や期間も様々であり、演劇はプロデュースする人によって柔軟に姿を変える「柔らかい芸術」である。この授業は、多様化する演劇の表現方法を知ること、芸術を視る目を養い、そして演劇の制作過程や演技法、演出法、プロデュース術を学ぶことで、舞台芸術をプロデュースする力を身に付けることを目的とする。

授業の内容

授業では、過去に上演された舞台の映像や写真を用いて、演劇の様々な上演形式を幅広く紹介し、授業の計画に沿ったテーマごとに解説を行う。なお、ゲストや催しの都合で日程が変更になることもある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界の演劇史を知る
- 第3回 日本の演劇史を知る
- 第4回 日本の現代演劇を知る
- 第5回 舞踊の歴史を知る
- 第6回 現代演劇の可能性を考察する
- 第7回 劇場の機構とスタッフの仕事学ぶ
- 第8回 俳優の演技と劇作家の仕事学ぶ
- 第9回 演出家の仕事と批評家の役割を学ぶ
- 第10回 劇場の仕組みを学ぶ 日本と海外の劇場について
- 第11回 劇場見学を兼ねた芸術鑑賞 *催しの開催時期によって、日程が変更なる場合があります。
- 第12回 舞台をプロデュースする1 演劇プロデューサーをゲストに迎えて *ゲストの都合によって、日程が変更なる場合があります。
- 第13回 舞台をプロデュースする2 企画書と予算書
- 第14回 舞台をプロデュースする3 宣伝方法と資金の調達方法
- 第15回 まとめ 作成した企画書と予算書を発表する

授業以外での学習方法

劇場でできるだけ多くの演劇作品に接すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a502026150

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 展示学〈Z〉

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	

テーマ

展示メディアの理解と創造

獲得目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

授業の内容

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念) 展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態) 展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史 展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性 展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等) 展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術) 展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究 展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営 展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説 展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等) とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義 実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践 これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
- 第13回 展示の製作実践 企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践 つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもとり、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新 展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

授業以外での学習方法

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年: 1996

ISBN:

イベント講座

著者: 日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年: 2004

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 まちづくり論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

まちづくりの理論と実践を学ぶ

獲得目標

優れたまちづくりの実践例とまちづくりの理論について学ぶ

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 医療・保健・福祉とまちづくり(1)
- 第3回 医療・保健・福祉とまちづくり(2)
- 第4回 コミュニティとまちづくり(1)
- 第5回 コミュニティとまちづくり(2)
- 第6回 交通政策とまちづくり
- 第7回 情報公開とまちづくり
- 第8回 内なる国際化とまちづくり
- 第9回 まちづくりの事例(1)宮崎県綾町
- 第10回 まちづくりの事例(2)愛媛県内子町
- 第11回 まちづくりの事例(3)大分県由布院温泉
- 第12回 まちづくりの事例(4)熊本県黒川温泉
- 第13回 まちづくりの事例(5)徳島県上勝町
- 第14回 まちづくりの事例(6)徳島県上勝町(つづき)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など) 地方自治や地方財政を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

概説日本の地方自治(第2版)

著者: 新藤宗幸・阿部斉

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2009年

ISBN:

まちづくりを学ぶ

著者： 石原武政・西村幸夫

出版社： 有斐閣

出版年： 2010年

ISBN:

命を守り心をつなぐ

著者： 白垣詔男

出版社： 自治体研究社

出版年： 2000年

ISBN:

由布院の小さな奇跡

著者： 木谷文弘

出版社： 新潮社

出版年： 2004年

ISBN:

黒川温泉

著者： 熊本日日新聞情報文化センター

出版社： 熊本日日新聞社

出版年： 2000年

ISBN:

黒川温泉 観光経営講座

著者： 後藤哲也・松田忠徳

出版社： 光文社

出版年： 2005年

ISBN:

そうだ、葉っぱを売ろう！

著者： 横石知二

出版社： ソフトバンク クリエイティブ

出版年： 2007年

ISBN:

終わりをければすべてよし

著者： 羽田澄子

出版社： 岩波書店

出版年： 2009年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅳ <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	
担当者	松本 正富	
テーマ	店舗併用住宅の設計	

獲得目標

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみだし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりになど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

授業の内容

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみだし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりになど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント
- 第2回 配置計画案の作成
- 第3回 平面計画案の作成
- 第4回 立面・断面計画案の作成
- 第5回 構造計画案の作成1
- 第6回 構造計画案の作成2
- 第7回 建築基準法の確認
- 第8回 中間発表
- 第9回 配置図・平面図の作成1
- 第10回 平面図の作成2
- 第11回 立面図の作成
- 第12回 断面図の作成
- 第13回 模型1
- 第14回 模型2
- 第15回 講評とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

a50202d350

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築計画Ⅱ**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹山 清明	

テーマ

住居以外のビルディングタイプの計画について基本的な知識を習得する。

獲得目標

居住施設以外のビルディングタイプの計画について基本的な知識を習得する。学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設や劇場等について、具体的な事例を挙げながら検証し、簡単な基本計画を行うことで各施設の機能、動線や配置計画についての理解を深める。

授業の内容

住居以外の建築についての計画やデザインについて学ぶ。現代建築の基本である20世紀初頭に成立したモダニズムの建築計画・デザインの歴史的社会的な流れを、実例を俯瞰しながら、その限界と課題について学ぶ。そしてこれからの建築計画・デザインの発展方向を考える。

内 容

- 第1回 ガイダンス、建築計画における共通事項
- 第2回 学校建築の歴史、学校における教育システムと各室計画
- 第3回 小学校の計画、計画事例
- 第4回 図書館の歴史、規模類型、全体計画、各室計画
- 第5回 図書館の計画、計画事例
- 第6回 美術館の歴史、全体計画、各室計画
- 第7回 美術館の計画、計画事例
- 第8回 医療福祉施設の役割、部門構成、各室計画
- 第9回 医療福祉施設の計画、計画事例
- 第10回 劇場の歴史、劇場空間の機能的特性、全体計画
- 第11回 演劇・音楽の場、舞台と客席の設計計画と寸法
- 第12回 劇場、音楽ホールの計画、計画事例
- 第13回 事務所の全体計画、平面計画、モジュール計画
- 第14回 事務所の計画、計画事例
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

建築の計画やデザインを学ぶ上で、質の高い空間イメージの理解や把握が最も大きい役割を果たす。建築図書やマスコミ・インターネット・展覧会などを利用して魅力的な空間イメージや美しいデザインを常日頃から学ぶことは重要である。また国内外の旅行の機会に建築や街並みの優れた事例を実体験することも進めたい。

教科書

サステイナブルな住宅・建築デザイン

著者： 竹山清明

出版社： 日本経済評論社

出版年： 2009

ISBN： 9784818820425

参考書

a50202d550

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 ()

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅲ <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「CAD演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 中山 大介		

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

獲得目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 2次元CADの基本操作 復習
- 第2回 3次元CADの基本操作 復習(2)
- 第3回 3次元CADの基本操作(1)
- 第4回 3次元CADの基本操作(2)
- 第5回 3次元CADの基本操作(3)
- 第6回 3次元CADの基本操作(4)
- 第7回 3次元CADの基本操作(5)
- 第8回 3次元CADの基本操作(6)
- 第9回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(1)
- 第10回 // (2)
- 第11回 // (3)
- 第12回 // (4)
- 第13回 // (5)
- 第14回 // (6)
- 第15回 講評(1)
- 第16回 講評(2)
- 第17回 3次元CADの応用(1)
- 第18回 3次元CADの応用(2)
- 第19回 演習2:いのりの空間をデザインする(1)
- 第20回 // (2)
- 第21回 // (3)
- 第22回 // (4)
- 第23回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(1)
- 第24回 // (2)
- 第25回 // (3)
- 第26回 // (4)
- 第27回 // (5)
- 第28回 // (6)
- 第29回 講評
- 第30回 講評(2)

授業以外での学習方法

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者： 五十嵐進

出版社： ソーテック

出版年： 2010

ISBN： 9784881667330

参考書

初学者の建築講座

著者： 瀬川康秀

出版社： 市ヶ谷出版社

出版年： 2011

ISBN： 9784870710146

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅲ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「CAD演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者	松本 正富	

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

獲得目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 2次元CADの基本操作 復習
- 第2回 3次元CADの基本操作 復習(2)
- 第3回 3次元CADの基本操作(1)
- 第4回 3次元CADの基本操作(2)
- 第5回 3次元CADの基本操作(3)
- 第6回 3次元CADの基本操作(4)
- 第7回 3次元CADの基本操作(5)
- 第8回 3次元CADの基本操作(6)
- 第9回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(1)
- 第10回 // (2)
- 第11回 // (3)
- 第12回 // (4)
- 第13回 // (5)
- 第14回 // (6)
- 第15回 講評(1)
- 第16回 講評(2)
- 第17回 3次元CADの応用(1)
- 第18回 3次元CADの応用(2)
- 第19回 演習2:いのりの空間をデザインする(1)
- 第20回 // (2)
- 第21回 // (3)
- 第22回 // (4)
- 第23回 演習2-2:いのりの空間内を移動する(1)
- 第24回 // (2)
- 第25回 // (3)
- 第26回 // (4)
- 第27回 // (5)
- 第28回 // (6)
- 第29回 講評
- 第30回 講評(2)

授業以外での学習方法

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9784881667330

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2011

ISBN: 9784870710146

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **観光政策論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

観光政策の基礎を理解する

獲得目標

観光振興の利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する

授業の内容

昨年度はエコ・ツーリズムと観光交通、国内観光(都道府県別)政策を重視した。今年度も学生の関心分野や知的水準を勘案して、シラバスで示した分野を網羅しながらも、重点分野を設けてみたい。

内 容

- 第1回 観光の基本構造
- 第2回 観光とレクリエーション
- 第3回 観光商品
- 第4回 事例研究 文化遺産と観光
- 第5回 旅行に対する需要
- 第6回 パック旅行の長所と短所
- 第7回 旅行代理店の長所と短所
- 第8回 観光産業の競争
- 第9回 観光行動
- 第10回 観光交通
- 第11回 国際観光
- 第12回 観光の経済効果
- 第13回 観光による受益と負担
- 第14回 持続可能な観光 自然環境保全と市場規制
- 第15回 観光振興を推進する主体 ※なお、講師を招いて講演会を実施することがある。

授業以外での学習方法

経済系週刊誌の読解を通して、最新の動向を把握する

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（20）

授業中課題（80）

授業中発表等（）

参加度（）

受講人数によるが、毎回の課題提出を日常点評価(授業中課題)とするので、単に教室にいるだけでは評価の対象とならない。受講人数によって、授業内容、授業方法を変更することがある。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **観光施設論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光施設全般について理解を深める。

獲得目標

本論で取り扱う観光施設は宿泊業・ブライダル業・外食業・テーマパークなどで、観光産業において重要な機能を担っている。これらの観光施設について、様々な事例からその現状と課題について学ぶことを目的としている。

授業の内容

授業の名称は論であるが、演習的に進める。

内 容

- 第1回 観光施設と何か
- 第2回 ホスピタリティの概念
- 第3回 ホスピタリティ産業
- 第4回 観光施設の基本構造と特性
- 第5回 宿泊産業①
- 第6回 宿泊産業②
- 第7回 宿泊産業③
- 第8回 ブライダル産業
- 第9回 外食産業
- 第10回 テーマパーク
- 第11回 空港および航空関連施設
- 第12回 海浜リゾート
- 第13回 動物園
- 第14回 観光施設におけるバリアフリー
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (40)

小テスト (10)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **観光ビジネス論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 谷口 知司	

テーマ

観光ビジネスの全体像を知る。

獲得目標

さまざまな観光ビジネスの現況と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の内容

観光学総論で概観した観光ビジネスについて、学生自らが問題意識を持ち、調査分析を行う。授業タイトルは「論」であるが、教師が一方向的に論じる形の授業は行わない。演習のつもりで受講してほしい。

内 容

- 第1回 観光ビジネスとは(観光学総論の復習)①
- 第2回 観光ビジネスとは(観光学総論の復習)②
- 第3回 旅行業の観光ビジネス①
- 第4回 旅行業の観光ビジネス②
- 第5回 鉄道会社と観光ビジネス①
- 第6回 鉄道会社と観光ビジネス②
- 第7回 航空産業と観光ビジネス①
- 第8回 航空産業と観光ビジネス②
- 第9回 ホテル・旅館業と観光ビジネス①
- 第10回 ホテル・旅館業と観光ビジネス②
- 第11回 土産品と観光ビジネス①
- 第12回 土産品と観光ビジネス②
- 第13回 ニューツーリズムと観光ビジネス①
- 第14回 ニューツーリズムと観光ビジネス②
- 第15回 その他の観光ビジネス

授業以外での学習方法

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN： 9784623056002

成績評価

試験（0%）

授業中課題（20%）

参加度（30%）

小テスト（0%）

授業中発表等（50%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **観光メディア論**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報媒体について学ぶ。

獲得目標

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまなメディアがかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

授業の内容

講義と受講者による発表で構成される。授業タイトルは「論」であるが演習のつもりで受講してほしい。

内 容

- 第1回 観光メディアとは
- 第2回 観光情報とメディア
- 第3回 観光ビジネスとメディアについて①
- 第4回 観光ビジネスとメディアについて②
- 第5回 観光ビジネスとメディアについて③
- 第6回 観光ビジネスとメディアについて④
- 第7回 観光メディアについて分析する(発表を含む)①
- 第8回 観光メディアについて分析する(発表を含む)②
- 第9回 観光メディアについて分析する(発表を含む)③
- 第10回 観光メディアについて分析する(発表を含む)④
- 第11回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑤
- 第12回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑥
- 第13回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑦
- 第14回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑧
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ニューツーリズム研究

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 金武 創	

テーマ

新版「ニューツーリズム」と観光マーケティング

獲得目標

観光マーケティング・消費者行動論を基礎にしなが、2000年以降の新たなニューツーリズムの利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する。

授業の内容

(1)国土交通省や観光庁が提唱する「ニューツーリズム」は古い概念に過ぎない。最新のニュース映像や新聞資料を活用しながら、最新事例を紹介し、ニューツーリズムのあり方を考える。(2)(1)の理解を深めるために、同時に消費者行動論からみたニューツーリズムの事例を説明する(目標達成のため、1,2回のアクティブ・ラーニングを水曜午後の学外授業として計画している)。

内 容

- 第1回 観光の基本構造 マスツーリズムと古いニューツーリズム
- 第2回 購買プロセスと心理的プロセス1
- 第3回 購買プロセスと心理的プロセス2
- 第4回 問題認識
- 第5回 情報検索1
- 第6回 情報検索2
- 第7回 評価選択1
- 第8回 評価選択2
- 第9回 動機づけ
- 第10回 態度形成1
- 第11回 態度形成2
- 第12回 知覚1
- 第13回 知覚2
- 第14回 コンテンツ・ツーリズム
- 第15回 観光まちづくりとまちづくり観光

授業以外での学習方法

日経MJを読むこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

消費者行動論

著者: 平久保直人

出版社：ダイヤモンド社

出版年：2005年

ISBN:

ことばとマーケティング

著者：松井剛

出版社：碩学舎

出版年：2013年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (80)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中の課題をまじめに取り組み、期限内に提出しないと出席が認められない

参考URL

2014 Syllabus

科目名 観光ビジネス実務演習 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期集中	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 萩原 憲一	

テーマ

旅行業を中心とした観光産業の現状と課題を踏まえつつ、観光ビジネスに関わる人材として、望まれる実務的な能力を養う。

獲得目標

旅行業を中心として、観光ビジネスの現場で必要とされる実務を学ぶ。これからの時代の観光産業に求められる人材像を踏まえ、必要とされる資質を涵養する。

授業の内容

近畿日本ツーリスト株式会社(KNT)京都支店の現役社員による講義と実習。旅行会社訪問や添乗業務実習など学外実習を含みます。

内 容

- 第1回 4/19(土)1講時:オリエンテーション(講座の概要とすすめ方、受講に際する心構えを伝える。観光業界の見取り図。)
- 第2回 4/19(土)2講時:旅行業の実務について(旅行業の現場における実務とはどのようなものか。解説とケーススタディ。)
- 第3回 5/10(土)2講時:フィールドワーク①旅行業現場研究 I (旅行業の現場を学ぶ。旅行会社の現場訪問と解説。)※学外実習
- 第4回 5/10(土)3講時:フィールドワーク②旅行業現場研究 II (旅行業の現場を学ぶ。旅行会社の現場訪問と解説。)※学外実習
- 第5回 5/10(土)4講時:フィールドワーク②旅行業現場研究 III (旅行業の現場を学ぶ。旅行会社の現場訪問と解説。)※学外実習
- 第6回 5/24(土)1講時:旅行業実務演習①添乗業務実務演習(ツアーコンダクター業務の解説とケーススタディ。)※学外実習
- 第7回 5/24(土)2講時:フィールドワーク④添乗実務演習 I (京都市内にて添乗業務のフィールドワークとロールプレイング。)※学外実習
- 第8回 5/24(土)3講時:フィールドワーク⑤添乗実務演習 II (京都市内にて添乗業務のフィールドワークとロールプレイング。)※学外実習
- 第9回 5/24(土)4講時:フィールドワーク⑥添乗実務演習 III (京都市内にて添乗業務のフィールドワークとロールプレイング。)※学外実習
- 第10回 6/7(土)1講時:旅行業実務演習②個人旅行販売実務演習(店頭接客業務や電話対応業務の解説とロールプレイング。)
- 第11回 6/7(土)2講時:旅行業実務演習③団体旅行販売実務演習(法人・組織団体営業や教育旅行営業の解説とロールプレイング。)
- 第12回 6/7(土)3講時:旅行企画作成①(与えられた課題をもとに旅行企画を作成。)
- 第13回 6/7(土)4講時:旅行企画作成②(与えられた課題をもとに旅行企画を作成。)
- 第14回 6/21(土)1講時:旅行企画プレゼンテーション①(作成した旅行企画をプレゼンテーション。)
- 第15回 6/21(土)2講時:旅行企画プレゼンテーション②(作成した旅行企画をプレゼンテーション。)講義のまとめ。

授業以外での学習方法

旅行広告(店頭、メディア、WEB等)の調査。観光地(京都市内)でのフィールドワーク。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (40%)

集中講義形式のため、欠席日があると成績への影響が大きくなりますので注意してください。学外講義では交通費等の実費が必要となります。

参考URL

近畿日本ツーリスト

<http://www.knt.co.jp/>

総合旅行サイト。担当講師の勤務先。

ツーリストエキスパート

<http://www.tex.co.jp/>

近畿日本ツーリストグループの添乗員派遣部門。

日本旅行業協会(JATA)

<http://www.jata-net.or.jp/>

旅行業の業界団体サイト。

2014 Syllabus

科目名 観光ビジネス実務演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期集中	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 萩原 憲一	

テーマ

観光産業を支えるサプライヤーの現状と課題を踏まえつつ、観光ビジネスに関わる人材として望まれる実務な能力を養う。

獲得目標

旅行素材を提供するサプライヤーを中心として、観光ビジネスの現場で必要とされる実務を学ぶ。これからの時代の観光産業に求められる人材像を踏まえ、必要とされる資質を涵養する。

授業の内容

近畿日本ツーリスト株式会社(KNT)京都支店の現役社員による講義と実習。京都のホテル・旅館・観光施設訪問などの学外実習を含みます。

内 容

- 第1回 9/27(土)2講時:オリエンテーション(講座の概要とすすめ方、受講に際する心構えを伝える。旅行業を支えるサプライヤー業界の見取り図。)
- 第2回 10/18(土)1講時:フィールドワーク①現場研究(京都の観光施設を訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習
- 第3回 10/18(土)1講時:フィールドワーク②現場研究(京都の観光施設を訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習
- 第4回 10/18(土)1講時:フィールドワーク③現場研究(京都の観光施設を訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習
- 第5回 10/18(土)1講時:フィールドワーク④現場研究(京都の観光施設を訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習
- 第6回 11/15(土)1講時:観光ビジネス研究①(ホテル・旅館業界の現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習
- 第7回 11/15(土)2講時:フィールドワーク⑤現場研究(京都の旅館・ホテルを訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習
- 第8回 11/15(土)3講時:フィールドワーク⑥現場研究(京都の旅館・ホテルを訪問。実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習
- 第9回 11/15(土)4講時:観光ビジネス研究②(テーマパーク業界の現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)※学外実習
- 第10回 11/22(土)1講時:観光ビジネス研究③(海外手配、ランドオペレーターの現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)
- 第11回 11/22(土)2講時:観光ビジネス研究④(訪日旅行・インバウンドの現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ。)
- 第12回 11/22(土)3講時:集客企画作成①(サプライヤーの立場からの企画作成実務演習。集客につながる企画の解説とケーススタディ。)
- 第13回 11/22(土)4講時:集客企画作成②(与えられた課題をもとに企画を作成。)
- 第14回 12/13(土)1講時:企画プレゼンテーション①(作成した企画をプレゼンテーション。)
- 第15回 12/13(土)2講時:企画プレゼンテーション②(作成した企画をプレゼンテーション。)

授業以外での学習方法

旅行広告(店頭、メディア、WEB等)の調査。観光地でのフィールドワーク。

教科書

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（30%）

授業中発表等（30%）

参加度（40%）

集中講義形式のため、欠席日があると成績への影響が大きくなりますので注意してください。学外講義では交通費等の実費が必要となります。

参考URL

近畿日本ツーリスト

<http://www.knt.co.jp/>

総合旅行サイト。担当講師の勤務先。

日本ホテル協会

<http://www.j-hotel.or.jp>

ホテル業の業界団体サイト。

旅の発見

<http://tabihatsu.jp/>

KNTと角川グループのコラボによるニューツーリズムサイト。

2014 Syllabus

科目名 観光法規・経営論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 晴夫

テーマ

旅行業に関する法規を通して、旅行事業のあり方を理解する。

獲得目標

事業経営は法規によって多かれ少なかれ規制されるが、特にサービスという目に見えない商品を扱う観光業に関する法規は消費者保護の観点から規制的な性格が強く、観光事業のあり方はそのような法規によって規定されてきた。本授業では主として旅行業を取り上げ、旅行業に関する法規の実態と法規等の規制を受ける旅行事業のあり方について理解する。

授業の内容

講義を中心とする。授業内容の理解度をはかるための課題を出す。

内 容

- 第1回 旅行業の経営概況と旅行業に関する法規
- 第2回 旅行業法の特徴、変遷
- 第3回 旅行業法の概要①(定義、登録制度等)
- 第4回 旅行業法の概要②(旅行業者代理業、営業保証金、弁済業務保証金制度等)
- 第5回 旅行業法の概要③(取引準則、旅程管理、旅行業務取扱管理者制度等)
- 第6回 旅行業約款の概要①(約款の意義、募集型企画旅行契約等)
- 第7回 旅行業約款の概要②(旅程管理、責任、旅程保証制度等)
- 第8回 旅行業約款の概要③(特別補償制度、手配旅行契約等)
- 第9回 関係法規と旅行業のあり方①(パンフレット・広告表示の規制等)
- 第10回 関係法規と旅行業のあり方②(クレーム・事故対応等)
- 第11回 関係法規と旅行業のあり方③(貸切バス事業と旅行業、ツアーバス問題等)
- 第12回 関係法規と旅行業のあり方④(旅行契約の問題等)
- 第13回 旅行業の経営課題と旅行業法のあり方
- 第14回 旅行業以外における法規と経営の関係(運輸交通業界等)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業終了後に出す課題への解答を通して、授業内容の理解を深めること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **舞台プロデュース論**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 笠井 友仁	

テーマ

演劇について理解を深め、舞台芸術のプロデュースを学ぶ

獲得目標

演劇は、オペラ、ミュージカル、新劇、小劇場演劇、歌舞伎、人形浄瑠璃、能、パントマイム、落語など、様々な上演形式があり、多様な表現方法を持つ芸術である。近年では映像を駆使した作品や「ドキュメンタリー演劇」という手法も登場している。またオペラのように大規模な作品もあれば、一人芝居もある。制作に係る予算や期間も様々であり、演劇はプロデュースする人によって柔軟に姿を変える「柔らかい芸術」である。この授業は、多様化する演劇の表現方法を知ること、芸術を視る目を養い、そして演劇の制作過程や演技法、演出法、プロデュース術を学ぶことで、舞台芸術をプロデュースする力を身に付けることを目的とする。

授業の内容

授業では、過去に上演された舞台の映像や写真を用いて、演劇の様々な上演形式を幅広く紹介し、授業の計画に沿ったテーマごとに解説を行う。なお、ゲストや催しの都合で日程が変更になることもある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 世界の演劇史を知る
- 第3回 日本の演劇史を知る
- 第4回 日本の現代演劇を知る
- 第5回 舞踊の歴史を知る
- 第6回 現代演劇の可能性を考察する
- 第7回 劇場の機構とスタッフの仕事学ぶ
- 第8回 俳優の演技と劇作家の仕事学ぶ
- 第9回 演出家の仕事と批評家の役割を学ぶ
- 第10回 劇場の仕組みを学ぶ 日本と海外の劇場について
- 第11回 劇場見学を兼ねた芸術鑑賞 *催しの開催時期によって、日程が変更なる場合があります。
- 第12回 舞台をプロデュースする1 演劇プロデューサーをゲストに迎えて *ゲストの都合によって、日程が変更なる場合があります。
- 第13回 舞台をプロデュースする2 企画書と予算書
- 第14回 舞台をプロデュースする3 宣伝方法と資金の調達方法
- 第15回 まとめ 作成した企画書と予算書を発表する

授業以外での学習方法

劇場でできるだけ多くの演劇作品に接すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化施設マネジメント論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 秋期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 笠井 敏光

テーマ

国や自治体の文化政策の変遷と文化施設のマネジメントについて学ぶ

獲得目標

法律・制度や国や自治体の文化政策の変遷の中で国公立の文化施設のマネジメントのあり方が大きく変わってきている。文化ホール・博物館・公民館・図書館などの事例を取り上げ、文化施設マネジメントの課題とあり方について学ぶ。

授業の内容

双方向の進行をめざすとともに、映像などを用いた立体的な授業をおこなう。後半には、実際に現地において学ぶ。

内 容

- 第1回 オリエンテーション—文化施設の種類について—
- 第2回 日本の文化政策の変遷
- 第3回 文化芸術振興基本法について
- 第4回 文化関係予算の現状
- 第5回 文化施設の運営主体について
- 第6回 指定管理者制度の現状と課題
- 第7回 文化ホールのマネジメント
- 第8回 博物館のマネジメント
- 第9回 公民館のマネジメント
- 第10回 生涯学習センターのマネジメント
- 第11回 図書館のマネジメント
- 第12回 生涯学習センターの実際(学外現地授業)
- 第13回 複合型文化施設の実際(学外現地授業)
- 第14回 市立歴史民俗資料館の実際(学外現地授業)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

図書館、博物館、文化ホールを利用するときには、マネジメントの視点から観察してみること

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 イベントデザイン論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメント各論としてのイベントプロデュースを学ぶ

獲得目標

アーツマネジメントの現場へ接近して理論を活用するための手法を学ぶ。イベントとは何か、そのあり方を知る。音楽ジャンルや冠婚葬祭のイベント諸相を体験的に学修する。

授業の内容

アーツマネジメント論を前期に学修していることが望ましい。イベントを実際に企画するアーティストがゲストとして来ることがあるので、積極的に現場感覚を学ぶことができる。

内 容

- 第1回 はじめに～アーツマネジメントの基本理解の確認
- 第2回 イベントの要件・目的・手段について
- 第3回 限界芸術としての冠婚葬祭、そのイベントとの関係
- 第4回 音楽という文化は都市にどのように関わるのか・ライブハウス、音楽ホール以外に音楽はどこで鳴っている？
- 第5回 音楽イベントとしての野外音楽フェスティバル
- 第6回 劇団・ダンスカンパニーの歴史と現状
- 第7回 演劇ダンスプロデュース公演のあり方
- 第8回 イベントとしての公演と非イベントとしてのワークショップ
- 第9回 学外授業1 糸賀一雄記念賞音楽祭(滋賀県内)に参加(栗東市さくら大ホールの予定)
- 第10回 イベントを冠婚葬祭として考えるなおす
- 第11回 学外授業2 音楽かダンスのイベントを鑑賞する 場所は未定(適当なものがない場合は、映像鑑賞に変える)
- 第12回 演劇ダンスと冠婚葬祭との比較論
- 第13回 限界芸術論を現代化する
- 第14回 イベントプロデュースの事例を自分なりに応用する
- 第15回 まとめ— 企画書づくりへ挑戦

授業以外での学習方法

京都における文化活動を紹介するのでできるだけ、時間外において参加し記録すること。

教科書

参考書

アーツマネジメント学

著者: 小暮宣雄

出版社: 水曜社

出版年: 2013年

ISBN: 9784880653129

ライブシーンよ、どこへいく—ライブカルチャーとポピュラー音楽

著者： 宮入恭平他

出版社： 青弓社

出版年： 2011年

ISBN： 9784787273116

ライブハウス文化論

著者： 宮入恭平

出版社： 青弓社

出版年： 2008年

ISBN： 9784787232854

ロックミュージックの社会学

著者： 南田勝也

出版社： 青弓社

出版年： 2001年

ISBN： 9784787231901

成績評価

試験（0）

小テスト（20）

授業中課題（50）

授業中発表等（）

参加度（30）

現場活動を紹介するので、できるだけ参加すること。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄のメインサイト

2014 Syllabus

科目名 展示デザイン論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	

テーマ

展示メディアの理解と創造

獲得目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

授業の内容

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念) 展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態) 展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史 展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性 展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等) 展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術) 展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究 展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営 展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説 展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等) とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義 実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践 これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
- 第13回 展示の製作実践 企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践 つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもと、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新 展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

授業以外での学習方法

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年: 1996

ISBN:

イベント講座

著者: 日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年: 2004

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **舞台イベント研究**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 杉山 準

テーマ

劇場および舞台芸術の社会的意義を考える

獲得目標

劇場や舞台芸術を題材に、それに関わるフタッフの仕事や事業の目的、使命などを理解することで、劇場や舞台芸術の社会的意義を考えるとともに、舞台芸術だけでなく、広く文化や芸術の社会の中でのありようを考える。

授業の内容

講義に加えて学外で現場を実際に見たり、体験する。自分で考えることを大切にする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(評価方法、授業のねらいについての説明)および、事業を企画することについて考える。
- 第2回 事業(イベント)を企画する、意図や目的について考える
- 第3回 事業目的からの視点で、事業(イベント)を考察する1
- 第4回 事業目的からの視点で、事業(イベント)を考察する2
- 第5回 文化・芸術による地域のまちづくりの事例紹介と、その可能性について考える
- 第6回 文化・芸術による地域のまちづくりが行なわれている、現場を見て考察する(学外授業) * 催しの開催時期に合わせるため、日程が異なる場合があります。
- 第7回 劇場の機構と劇場で働くスタッフの仕事について
- 第8回 創作の現場で働くスタッフの仕事について
- 第9回 プロデューサー、制作スタッフの仕事について
- 第10回 劇場の使命と役割について
- 第11回 上演作品を見て考察する(学外授業) * 催しの開催時期に合わせるため、日程が異なる場合があります。
- 第12回 地域における文化政策や文化振興の現状について
- 第13回 文化行政と劇場(文化イベント)との関わりについて
- 第14回 地域における文化振興の課題と展望について
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

非営利で行なわれているイベント現場へ足を運んだり、スタッフやメンバーとして関与し、その事業の社会的意義を考えてみることを期待する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

a50202g150

授業中課題（70%）

授業中発表等（30%）

参加度（ ）

授業中の課題や学外授業の出席、およびそれに関わるレポートを評価の上で重視します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ビジュアルアーツ演習

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	清水 俊洋	

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践(※主に視覚芸術の領域における)

獲得目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術(ちらし)デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の内容

(1)視覚芸術の名作(現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など)の鑑賞と分析・説明 (2)Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践 (3)写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

内 容

- 第1回 「ビジュアルアーツ演習」とは? 心にひびくデザインを考える … たくさんのチラシをみながら…
- 第2回 文字をみる・文字をつくる … タイポグラフィー制作
- 第3回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
- 第4回 文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
- 第5回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第6回 文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
- 第7回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
- 第8回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
- 第9回 文字をみる・文字をつくる … 飲料商品の企画とデザイン
- 第10回 視覚効果 … 隠蔽と想像力／錯覚／意外性その他
- 第11回 商品広告写真を撮る
- 第12回 心にひびくことばを考える … キャッチコピー
- 第13回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第14回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第15回 見る人に伝わる商品広告をつくる
- 第16回 最終試験(60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出)

授業以外での学習方法

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト

著者: 志賀 隆生

出版社: ビー・エヌ・エヌ新社

出版年: 2007

ISBN: 978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール

著者： 大崎 善治

出版社： ソフトバンククリエイティブ

出版年： 2010

ISBN： 978-4797359220

なぜ、これがアートなの？

著者： アメリア アレナス

出版社： 淡交社

出版年： 1998

ISBN： 978-4473015785

成績評価

試験（30%）

小テスト（ ）

授業中課題（30%）

授業中発表等（ ）

参加度（40%）

参考URL

宣伝美術 清水俊洋

<http://shimizutoshihiro.info>

講師の公式ウェブサイト

2014 Syllabus

科目名 地域文化財論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

各地の文化財を紹介し、観光開発による近代的文化財の成立過程を解説する。

獲得目標

文化財の宝庫である京都の歴史と、そこで生み出された代表的な文化財をはじめ、文化財観光の発展と、その現代における到達点である世界遺産を理解する。

授業の内容

地域を代表する文化財の紹介と文化財観光の発展過程を解説してゆく。

内 容

- 第1回 日本の文化財には、どんなものがあるか
- 第2回 平安京以前の京都の文化財
- 第3回 古代都市平安京の文化財
- 第4回 中世都市京都の文化財
- 第5回 近世都市京都の文化財
- 第6回 学外授業 博物館・美術館・祭礼の見学
- 第7回 近代都市京都と文化財
- 第8回 文化財観光開発の歴史② 京都叢書の世界
- 第9回 文化財観光開発の歴史③ 奥の細道の世界
- 第10回 文化財観光開発の歴史④ 北京古籍叢書の世界
- 第11回 学外授業 博物館・美術館・祭礼の見学
- 第12回 講演会 地域文化財の調査研究と活用
- 第13回 世界遺産① 日本と中国
- 第14回 世界遺産② ヨーロッパ
- 第15回 文化財政策の課題

授業以外での学習方法

京都近辺の博物館・美術館・資料館や多様な文化財を見学して、その歴史を学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 測量実習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 五十川 伸矢

テーマ

測量の基礎技術

獲得目標

土地の形状や大きさを計測するため、トラバース、レベリング、平板測量などの実習を行い、測量の基礎を習得する。

授業の内容

測量の基礎理論と測量機器の取り扱い方を習得する。

内 容

- 第1回 ガイダンス(班分け方法、実習上の諸注意、レポートの書き方)
- 第2回 距離測量1(目測・歩測)
- 第3回 距離測量2(巻尺による測量、数値の取り扱い、有効数字)
- 第4回 レベル基本操作、スタジア測量(レベル、標尺(スタッフ)、スタジア、スタジア定数)
- 第5回 水準測量1(レベル、標尺(スタッフ)、閉合水準測量)
- 第6回 水準測量2(レベル、標尺(スタッフ)、往復水準測量)
- 第7回 平板測量1(平板、アリダード、骨組測量、標定、放射法、道線法)
- 第8回 平板測量2(平板、アリダード、細部測量)
- 第9回 セオドライト基本操作、測角(セオドライト、水平角、鉛直角)
- 第10回 トラバース測量(多角測量)1(単測法、倍角法)
- 第11回 トラバース測量(多角測量)2(トラバース、緯距・経距、閉合誤差)
- 第12回 地形測量1(平板測量法による)
- 第13回 地形測量2(地形図を描く)
- 第14回 写真測量
- 第15回 測量実習の総括

授業以外での学習方法

地図を作るという作業には、地形を見抜く目をもつことが必要です。地形を見て、どんな図ができるか、いつも考える癖をつけること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅵ**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 「建築・インテリア設計演習Ⅲ」および「建築・インテリア設計演習Ⅳ」を修得済みであること。	クラス指定
担当者 竹山 清明	
テーマ 公共建築などの設計	

獲得目標

公共施設(コミュニティーセンター・図書館・学校)の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区分けし、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。

授業の内容

平面計画・空間計画の作成

内 容

- 第1回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント
- 第2回 コミュニティーセンターの事例調査発表
- 第3回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
- 第4回 平面・立面・断面図の作成
- 第5回 講評
- 第6回 図書館の事例調査発表
- 第7回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
- 第8回 平面計画図の作成
- 第9回 立面・断面図の作成
- 第10回 講評
- 第11回 学校の事例調査発表
- 第12回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
- 第13回 平面計画図の作成
- 第14回 立面・断面図の作成
- 第15回 講評

授業以外での学習方法

優れた建築の先進事例を折に触れ見ておくこと

教科書

参考書

成績評価

a50203d450

試験 ()
授業中課題 (50%)
参加度 (25%)

小テスト ()
授業中発表等 (25%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 観光・まちづくり事例研究

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 織田 直文	

テーマ

観光まちづくりプランを作ろう

獲得目標

観光振興を通して地域(都市)を活性化する「観光まちづくり」の手法を学び、さらにフィールドワークやグループ別ワークショップを通して実効性ある活性化プランを作成することで、観光振興や地域振興に関する知識・技法を学ぶ。またプラン作成を通し、調査力や企画力を習得する。

授業の内容

当初は、観光を通じて地域を活性化する「観光まちづくり」の手法について講義をする。次いで、山科地域をフィールドワーク地として現地調査や資料収集にあたり、グループ別ワークショップにより、活性化プランを作成してもらう。

内 容

- 第1回 講義の進め方、「観光まちづくり」に関する講義①。受講学生自己紹介とグループ分け作業。
- 第2回 「観光まちづくり」に関する講義②。グループ分け作業。
- 第3回 グループ別の現地調査方針、計画討議。
- 第4回 全員での山科地域現地調査①。レポート出題。
- 第5回 全員での山科地域現地調査②。レポート出題。
- 第6回 現地調査結果のグループ別まとめ(ワークショップ)。
- 第7回 グループ別計画案作成ワークショップ①。
- 第8回 グループ別計画案作成ワークショップ②。
- 第9回 中間報告会①。
- 第10回 中間報告会②。
- 第11回 中間レポート修正ワークショップ。
- 第12回 最終報告会①。
- 第13回 最終報告会②。
- 第14回 最終報告案の修正、完成ワークショップ。
- 第15回 最終報告書提出と講評。授業の総括。

授業以外での学習方法

山科地域でのケーススタディを行うので、身近な所にある観光資源を調べておく。また、グループ別研究では、授業以外にかなりの活動時間を要することを承知しておいてください。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

観光読本

著者: (財)日本交通公社

a50203d910

出版社：東洋経済新報社

出版年：2007年

ISBN：

これでわかる！着地型観光

著者：尾家建生・金井萬造

出版社：学芸出版社

出版年：2008年

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（40）

授業中発表等（10）

参加度（50）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **空間デザイン演習**

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 井上 信太	

テーマ

空間デザインとワークショップ

獲得目標

1、五感で感じる空間を体験する 2、即興的にオリジナルの発想力を養う 3、ワークショップを通してコミュニケーション能力を養う
上記三点の課題を軸に据え、空間から「感じる力」を習得する。

授業の内容

テーマに基づいた課題を通し、デザイン、ダンス、音楽、美術の表現方法を約90分のワークショップでディスカッションしながら学びます。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 空間ワークショップ1(絵を描く)
- 第3回 空間ワークショップ2(音を奏でる)
- 第4回 空間ワークショップ3(コンテンポラリーダンスを見る、体験する)
- 第5回 空間ワークショップ4(立体制作)
- 第6回 空間ワークショップ5(映像)
- 第7回 空間ワークショップ6(絵を描く:コラージュ)
- 第8回 空間ワークショップ7(即興で演奏する)
- 第9回 ピクニック演習
- 第10回 空間ワークショップ8(紙芝居作り)
- 第11回 空間ワークショップ9(物語作り)
- 第12回 空間ワークショップ10(音作り)
- 第13回 空間ワークショップ11(即興で遊ぶ)
- 第14回 空間ワークショップ12(リハーサル)
- 第15回 空間ワークショップ13(発表会)※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

いつでも、どこでも、どんなときでも、自己の空間をたのしむ。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参加度（100）
実践中心の演習です。

参考URL

ひつじかいの放牧日和

<http://grandsheep.exblog.jp/>

井上信太のブログ

羊飼プロジェクト

<http://www.grandsheep.com/>

井上信太のホームページ

facebook/井上信太

<http://www.facebook.com/shinta.inoue>

2014 Syllabus

科目名 パフォーミングアーツ演習

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 岡村 宏懇

テーマ

演劇の「ライブな表現」について知識を深め、人前で緊張せずにパフォーマンスできる力を身につける。古典芸能の「舞」にも挑戦してみよう。

獲得目標

〈舞台の演技〉と〈映像の演技〉の違いは「ライブ」性にあります。演劇は、現代劇から古典芸能(落語、狂言など)まで、その表現方法は違って人前で何かを発表する「ライブな表現」であることに変わりはありません。この授業では「表現」について基礎的な知識を習得し、皆さんには人前で緊張せずに話す力と発声力を身につけてもらいたい。後半、簡単な「舞」を覚えて発表することで、古典芸能の美にも触れてみたい。体験的な授業になればと思っている。

授業の内容

「演技」は何も俳優や声優に限られた特別な技能ではなく、日常生活では誰もが「いろんな自分」をフツーに演じています。普段の何気無い自分の表現に少し自覚的になるだけで表現力はUPします。まずは、失敗を恐れずに挑戦してみましょう。授業は自由演技と課題演技(舞)で進める予定です。

内 容

- 第1回 ガイダンス。(表現についての基礎知識)
- 第2回 演技①(演技のタイプ)
- 第3回 演技②(舞台演技と映像演技の違い)
- 第4回 声優①(台本の読み方)
- 第5回 声優②(台本を演じてみよう)
- 第6回 現代演劇の舞台裏ドキュメンタリー(DVD)
- 第7回 現代演劇観賞(DVD)
- 第8回 古典芸能観賞(DVD)
- 第9回 発声、滑舌の練習
- 第10回 古典芸能「舞」の練習①
- 第11回 「舞」の練習②
- 第12回 「舞」の練習③
- 第13回 「舞」の練習④
- 第14回 「舞」の練習⑤
- 第15回 発表

授業以外での学習方法

TVドラマや映画を、俳優の演技に注目して観る。リメイクされた同じ作品の邦画と洋画の違いにも留意してみよう。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

扇子を用意すること。(100均のものでも可)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

成果よりも、取り組み姿勢などプロセスを重視します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <a>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 今井 裕夫

テーマ

卒業論文を完成させる(2)調査の整理と論文の完成

獲得目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の内容

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○進捗状況を相互に確認する。○10月中を目途に中間発表を実施する。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○卒業研究を進めるための個別指導を行う。・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検 ○口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 発表または見学
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員 15
履修条件	クラス指定
担当者 竹山 清明	

テーマ

卒業制作の作成

獲得目標

卒業制作の作成

授業の内容

アーキキヤドなどを用いて卒業制作を作成

内 容

- 第1回 卒業制作案の再検討 その1
- 第2回 卒業制作案の再検討 その2
- 第3回 卒業制作案の再検討 その3
- 第4回 卒業制作案の再検討 その4
- 第5回 卒業制作案の再検討 その5
- 第6回 卒業制作案の再検討 その6
- 第7回 卒業制作案の再検討 その7
- 第8回 アーキキヤドなどによる卒業制作作成 その1
- 第9回 アーキキヤドなどによる卒業制作作成 その2
- 第10回 アーキキヤドなどによる卒業制作作成 その3
- 第11回 アーキキヤドなどによる卒業制作作成 その4
- 第12回 アーキキヤドなどによる卒業制作作成 その5
- 第13回 アーキキヤドなどによる卒業制作作成 その5
- 第14回 卒業制作のブラッシュアップ その1
- 第15回 卒業制作のブラッシュアップ その2

授業以外での学習方法

常に計画案のブラッシュアップを考えておくこと

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50%)

小テスト ()
授業中発表等 (25%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **専門演習Ⅳ <c>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定員 15
履修条件	クラス指定
担当者 松本 正富	

テーマ

建築・インテリアを題材とした卒業研究(2)

獲得目標

4年間の学習の集大成として、完成度の高い卒業研究を仕上げる

授業の内容

1)完成に向けてのスケジュールコントロール 2)論文構成や論理的な文章作成のためのアドバイス 3)効果的プレゼンテーションについてのアドバイス

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 進捗報告・個別指導-1
- 第3回 進捗報告・個別指導-2
- 第4回 進捗報告・個別指導-3
- 第5回 進捗報告・個別指導-4
- 第6回 進捗報告・個別指導-5
- 第7回 建築見学会-1
- 第8回 卒業研究の仮完成チェック
- 第9回 卒業研究の手直しとレベルアップ-1
- 第10回 卒業研究の手直しとレベルアップ-2
- 第11回 卒業研究の手直しとレベルアップ-3
- 第12回 ゼミ内プレゼンテーション-1
- 第13回 ゼミ内プレゼンテーション-2
- 第14回 建築見学会-2
- 第15回 まとめと講評 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

ショッピングや旅行の機会に、テレビや映画のシーンに、魅力的な空間や場面が数多くあるはずなので、肩を張らずに建築やインテリアを楽しむ習慣を身に付けたい。また、ファッションや雑貨の雑誌を見るように、建築系の書籍も趣味や娯楽のような感覚から楽しく眺めて欲しい。

教科書

建築系学生のための卒業設計の進め方

著者： 日本建築学会 編

出版社： 井上書院

出版年： 2009

ISBN： 9784753010554

参考書

コンパクト設計資料集成

著者： 日本建築学会編

成績評価

試験（）

授業中課題（40）

参加度（30）

小テスト（）

授業中発表等（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <d>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 河野 良平

テーマ

卒業研究を完成させる。

獲得目標

卒業研究を通して論理的思考を修得する。

授業の内容

集めた資料を分析し、結論を得る。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 資料調査発表1
- 第3回 資料調査発表1
- 第4回 資料調査発表1
- 第5回 中間発表
- 第6回 全体構成の検討
- 第7回 全体構成の検討
- 第8回 全体構成の検討
- 第9回 結論と考察
- 第10回 結論と考察
- 第11回 結論と考察
- 第12回 発表練習
- 第13回 発表練習
- 第14回 発表練習
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <e>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 近藤 康子

テーマ

卒業研究(論文・設計)を完成させる。

獲得目標

卒業研究(論文・設計)を完成させる。

授業の内容

各自進捗状況を報告する。

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 発表1

第3回 発表1

第4回 発表1

第5回 発表2

第6回 発表2

第7回 発表2

第8回 発表3

第9回 発表3

第10回 発表3

第11回 発表4

第12回 発表4

第13回 発表4

第14回 見学会

第15回 まとめ ※この授業では、必要に応じて学外での授業を行なうことがある。

授業以外での学習方法

なるべく多くの本を読み、そこに書かれている内容がどのように構成されているのか(起承転結)、積極的に理解するよう心掛けること。

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a502040255

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (70)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ〈f〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 織田 直文

テーマ

研究テーマに沿った論文を完成させる

獲得目標

各自が卒業研究テーマに沿って調査、作業を進めた成果をもとに論文にまとめることで、課題発見力、調査研究能力、論理的思考、ゼミ発表・論文文章化による表現力などを向上させる。

授業の内容

各自のテーマに沿って、卒業論文を仕上げる。また、政策系大学・大学院研究交流大会での発表をめざす

内 容

- 第1回 後期の進め方。論文の書き方について。
- 第2回 卒論成果発表と討論。
- 第3回 卒論成果発表と討論。
- 第4回 卒論成果発表と討論。
- 第5回 卒業研究中間報告会。
- 第6回 卒業研究中間報告会。
- 第7回 教員による卒論に対する全体講評と修正指導。
- 第8回 卒論成果発表と討論。
- 第9回 卒論成果発表と討論。
- 第10回 卒論成果発表と討論。
- 第11回 政策系大学・大学院研究交流大会への参加。
- 第12回 政策系大学・大学院研究交流大会への参加。
- 第13回 卒論への取り組み反省会。
- 第14回 卒論への取り組み反省会。
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (40)

参加度 (50)

卒論の書き方を十分習得したうえで、執筆する。過去の優秀論文を参考にする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <g>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメント研究の完成

獲得目標

アーツマネジメント研究として卒業研究(論文・制作)の作業を続け完成させること 卒業研究(論文・制作)を要約して対外的に提示できるようにすること

授業の内容

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 夏休みの作業の報告とこれからのスケジュールづくり
- 第3回 卒業論文の進捗状況の把握と疑問点の解消
- 第4回 卒業制作の準備・手伝い
- 第5回 卒業制作の本番における参加(本人は作業)
- 第6回 卒業論文の部分的発表と点検(1)
- 第7回 卒業論文の部分的発表と点検(2)
- 第8回 卒業論文の部分的発表と点検(3)
- 第9回 卒業論文の部分的発表と点検(4)
- 第10回 これからのアーツマネジメントと私たち(総括的に)
- 第11回 卒業論文の完成と添削(1)
- 第12回 卒業論文の完成と添削(2)
- 第13回 卒業論文の完成と添削(3)
- 第14回 卒業研究を要約し対外的に伝えるために
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

卒業制作の場合は、現場の作業。卒業論文は現地調査などのあと、自分自身の論稿をまとめる作業を各自行うこと。研究室で個別添削。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄のブログ

フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

2014 Syllabus

科目名 **専門演習Ⅳ <h>**

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 谷口 知司

テーマ

卒業論文を完成させる(2)調査の整理と論文の完成

獲得目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の内容

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○進捗状況を相互に確認する。○10月中を目途に中間発表を実施する。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○卒業研究を進めるための個別指導を行う。・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検 ○口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 発表1
- 第3回 発表1
- 第4回 発表1
- 第5回 発表2
- 第6回 発表2
- 第7回 発表2
- 第8回 発表3
- 第9回 発表3
- 第10回 発表3
- 第11回 発表4
- 第12回 発表4
- 第13回 発表4
- 第14回 発表または見学
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

卒論を作成するための資料調査などに授業外でも多くの時間と手間を要求する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <i>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

水準の高い卒業論文を書こう

獲得目標

(1)質の高い中間報告を準備すること (2)毎月設定される卒論原稿文字数を必ずクリアすること (3)仲間の論文批評の成果を自らの論文に生かすこと

授業の内容

中間報告および卒業研究に向けてのグループ学習

内 容

- 第13回 卒業ゼミ研究プロジェクト(2)
- 第14回 卒業ゼミ研究プロジェクト(3)
- 第15回 卒業ゼミ研究プロジェクト(4)
- 第1回 中間報告準備(1)
- 第2回 中間報告準備(2)
- 第3回 中間報告準備(3)
- 第4回 中間報告会
- 第5回 中間報告会
- 第6回 卒業論文に関するグループ学習(1)
- 第7回 卒業論文に関するグループ学習(2)
- 第8回 卒業論文に関するグループ学習(3)
- 第9回 卒業論文に関するグループ学習(4)
- 第10回 卒業論文に関するグループ学習(5)
- 第11回 論文執筆の反省
- 第12回 卒業ゼミ研究プロジェクト(1)

授業以外での学習方法

図書館の積極的利用

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0%）

授業中課題（50%）

参加度（30%）

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

小テスト（0%）

授業中発表等（20%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ <j>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員 15

履修条件

クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

卒業論文を完成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
- 第2回 卒論進捗報告(結論)
- 第3回 卒論進捗報告(結論)
- 第4回 卒論進捗報告(結論)
- 第5回 卒論中間報告会
- 第6回 卒論最終報告(全体)
- 第7回 卒論最終報告(全体)
- 第8回 卒論最終報告(全体)
- 第9回 卒論最終報告(全体)
- 第10回 卒論ドラフト相互チェック
- 第11回 卒論ドラフト相互チェック
- 第12回 口頭試問の準備
- 第13回 口頭試問の準備
- 第14回 口頭試問の準備
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小野塚 元子	

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する

獲得目標

1. 健康教育の理論を理解する 2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する 3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する 4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・評価の方法がわかる

授業の内容

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する

内 容

- 第1回 健康教育の企画・実施・評価についての講義
- 第2回 全体オリエンテーション 各グループのオリエンテーション
- 第3回 グループワーク① 健康に対するニーズの理解
- 第4回 グループワーク② 健康に対するニーズの理解
- 第5回 グループワーク③ 健康教育の企画書作成
- 第6回 グループワーク④ 健康教育の企画書作成
- 第7回 グループワーク⑤ 健康教育の指導案作成
- 第8回 グループワーク⑥ 健康教育の指導案作成
- 第9回 グループワーク⑦ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第10回 グループワーク⑧ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第11回 グループワーク⑨ 健康教育の活動準備
- 第12回 グループワーク⑩ 健康教育の実施および評価
- 第13回 グループワーク⑫ 健康教育の実施および評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②および総括

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション演習 **

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 西村 美八	

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する

獲得目標

1. 健康教育の理論を理解する 2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する 3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する 4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・評価の方法がわかる

授業の内容

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する

内 容

- 第1回 健康教育の企画・実施・評価についての講義
- 第2回 全体オリエンテーション 各グループのオリエンテーション
- 第3回 グループワーク① 健康に対するニーズの理解
- 第4回 グループワーク② 健康に対するニーズの理解
- 第5回 グループワーク③ 健康教育の企画書作成
- 第6回 グループワーク④ 健康教育の企画書作成
- 第7回 グループワーク⑤ 健康教育の指導案作成
- 第8回 グループワーク⑥ 健康教育の指導案作成
- 第9回 グループワーク⑦ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第10回 グループワーク⑧ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第11回 グループワーク⑨ 健康教育の活動準備
- 第12回 グループワーク⑩ 健康教育の実施および評価
- 第13回 グループワーク⑫ 健康教育の実施および評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②および総括

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション演習 <c>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹下 夏美	

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する

獲得目標

1. 健康教育の理論を理解する 2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する 3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する 4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・評価の方法がわかる

授業の内容

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する

内 容

- 第1回 健康教育の企画・実施・評価についての講義
- 第2回 全体オリエンテーション 各グループのオリエンテーション
- 第3回 グループワーク① 健康に対するニーズの理解
- 第4回 グループワーク② 健康に対するニーズの理解
- 第5回 グループワーク③ 健康教育の企画書作成
- 第6回 グループワーク④ 健康教育の企画書作成
- 第7回 グループワーク⑤ 健康教育の指導案作成
- 第8回 グループワーク⑥ 健康教育の指導案作成
- 第9回 グループワーク⑦ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第10回 グループワーク⑧ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第11回 グループワーク⑨ 健康教育の活動準備
- 第12回 グループワーク⑩ 健康教育の実施および評価
- 第13回 グループワーク⑫ 健康教育の実施および評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②および総括

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 <d>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 堀 妙子	

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する

獲得目標

1. 健康教育の理論を理解する 2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する 3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する 4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・評価の方法がわかる

授業の内容

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する

内 容

- 第11回 グループワーク⑨ 健康教育の活動準備
- 第12回 グループワーク⑩ 健康教育の実施および評価
- 第13回 グループワーク⑪ 健康教育の実施および評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②および総括
- 第1回 健康教育の企画・実施・評価についての講義
- 第2回 全体オリエンテーション 各グループのオリエンテーション
- 第3回 グループワーク① 健康に対するニーズの理解
- 第4回 グループワーク② 健康に対するニーズの理解
- 第5回 グループワーク③ 健康教育の企画書作成
- 第6回 グループワーク④ 健康教育の企画書作成
- 第7回 グループワーク⑤ 健康教育の指導案作成
- 第8回 グループワーク⑥ 健康教育の指導案作成
- 第9回 グループワーク⑦ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第10回 グループワーク⑧ 健康教育のシナリオおよび教材作成

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション演習 <e>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 河原 宣子	

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する

獲得目標

1. 健康教育の理論を理解する 2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する 3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する 4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・評価の方法がわかる

授業の内容

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する

内 容

- 第1回 健康教育の企画・実施・評価についての講義
- 第2回 全体オリエンテーション 各グループのオリエンテーション
- 第3回 グループワーク① 健康に対するニーズの理解
- 第4回 グループワーク② 健康に対するニーズの理解
- 第5回 グループワーク③ 健康教育の企画書作成
- 第6回 グループワーク④ 健康教育の企画書作成
- 第7回 グループワーク⑤ 健康教育の指導案作成
- 第8回 グループワーク⑥ 健康教育の指導案作成
- 第9回 グループワーク⑦ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第10回 グループワーク⑧ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第11回 グループワーク⑨ 健康教育の活動準備
- 第12回 グループワーク⑩ 健康教育の実施および評価
- 第13回 グループワーク⑫ 健康教育の実施および評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②および総括

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション演習 <f>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中橋 苗代	

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する

獲得目標

1. 健康教育の理論を理解する 2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する 3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する 4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・評価の方法がわかる

授業の内容

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する

内 容

- 第1回 健康教育の企画・実施・評価についての講義
- 第2回 全体オリエンテーション 各グループのオリエンテーション
- 第3回 グループワーク① 健康に対するニーズの理解
- 第4回 グループワーク② 健康に対するニーズの理解
- 第5回 グループワーク③ 健康教育の企画書作成
- 第6回 グループワーク④ 健康教育の企画書作成
- 第7回 グループワーク⑤ 健康教育の指導案作成
- 第8回 グループワーク⑥ 健康教育の指導案作成
- 第9回 グループワーク⑦ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第10回 グループワーク⑧ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第11回 グループワーク⑨ 健康教育の活動準備
- 第12回 グループワーク⑩ 健康教育の実施および評価
- 第13回 グループワーク⑫ 健康教育の実施および評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②および総括

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション演習 <g>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 竹 明美	

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する

獲得目標

1. 健康教育の理論を理解する 2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する 3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する 4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・評価の方法がわかる

授業の内容

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する

内 容

- 第1回 健康教育の企画・実施・評価についての講義
- 第2回 全体オリエンテーション 各グループのオリエンテーション
- 第3回 グループワーク① 健康に対するニーズの理解
- 第4回 グループワーク② 健康に対するニーズの理解
- 第5回 グループワーク③ 健康教育の企画書作成
- 第6回 グループワーク④ 健康教育の企画書作成
- 第7回 グループワーク⑤ 健康教育の指導案作成
- 第8回 グループワーク⑥ 健康教育の指導案作成
- 第9回 グループワーク⑦ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第10回 グループワーク⑧ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第11回 グループワーク⑨ 健康教育の活動準備
- 第12回 グループワーク⑩ 健康教育の実施および評価
- 第13回 グループワーク⑪ 健康教育の実施および評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②および総括

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション演習 <h>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 伊藤 恵美子	

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する

獲得目標

1. 健康教育の理論を理解する 2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する 3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する 4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・評価の方法がわかる

授業の内容

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する

内 容

- 第1回 健康教育の企画・実施・評価についての講義
- 第2回 全体オリエンテーション 各グループのオリエンテーション
- 第3回 グループワーク① 健康に対するニーズの理解
- 第4回 グループワーク② 健康に対するニーズの理解
- 第5回 グループワーク③ 健康教育の企画書作成
- 第6回 グループワーク④ 健康教育の企画書作成
- 第7回 グループワーク⑤ 健康教育の指導案作成
- 第8回 グループワーク⑥ 健康教育の指導案作成
- 第9回 グループワーク⑦ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第10回 グループワーク⑧ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第11回 グループワーク⑨ 健康教育の活動準備
- 第12回 グループワーク⑩ 健康教育の実施および評価
- 第13回 グループワーク⑪ 健康教育の実施および評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②および総括

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション演習 <i>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 植村 由美子	

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する

獲得目標

1. 健康教育の理論を理解する 2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する 3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する 4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・評価の方法がわかる

授業の内容

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する

内 容

- 第1回 健康教育の企画・実施・評価についての講義
- 第2回 全体オリエンテーション 各グループのオリエンテーション
- 第3回 グループワーク① 健康に対するニーズの理解
- 第4回 グループワーク② 健康に対するニーズの理解
- 第5回 グループワーク③ 健康教育の企画書作成
- 第6回 グループワーク④ 健康教育の企画書作成
- 第7回 グループワーク⑤ 健康教育の指導案作成
- 第8回 グループワーク⑥ 健康教育の指導案作成
- 第9回 グループワーク⑦ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第10回 グループワーク⑧ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第11回 グループワーク⑨ 健康教育の活動準備
- 第12回 グループワーク⑩ 健康教育の実施および評価
- 第13回 グループワーク⑫ 健康教育の実施および評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②および総括

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習 <j>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 富永 真己

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する

獲得目標

1. 健康教育の理論を理解する 2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する 3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する 4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・評価の方法がわかる

授業の内容

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する

内 容

- 第1回 健康教育の企画・実施・評価についての講義
- 第2回 全体オリエンテーション 各グループのオリエンテーション
- 第3回 グループワーク① 健康に対するニーズの理解
- 第4回 グループワーク② 健康に対するニーズの理解
- 第5回 グループワーク③ 健康教育の企画書作成
- 第6回 グループワーク④ 健康教育の企画書作成
- 第7回 グループワーク⑤ 健康教育の指導案作成
- 第8回 グループワーク⑥ 健康教育の指導案作成
- 第9回 グループワーク⑦ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第10回 グループワーク⑧ 健康教育のシナリオおよび教材作成
- 第11回 グループワーク⑨ 健康教育の活動準備
- 第12回 グループワーク⑩ 健康教育の実施および評価
- 第13回 グループワーク⑫ 健康教育の実施および評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)②および総括

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ヘルスプロモーションで用いたテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 プライマリケア論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	伊藤 恵美子・河原 宣子・竹下 夏美・富永 真己・西村 美八・堀 妙子

テーマ

プライマリケアの基本概念である、人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対する総合的・継続的、全人的に対応する地域の政策と機能について学ぶ、ライフサイクル論やヘルスプロモーションを踏まえ、ライフサイクル各期における様々な健康レベルにある人と政策や施策等との関連および看護活動を理解する。

獲得目標

1.プライマリケアとプライマリヘルスケアの概念を理解する。2.保健・医療・福祉における看護の機能と看護活動のあり方の基礎を理解する。3.ライフサイクル各期の保健医療福祉対策と看護活動を理解できる。4.保健・医療・福祉における協働と連携の意義を理解する。

授業の内容

各教員のオムニバス講義により行う。山科区の地区視診を自己学習で実施する。アセスメントツールに関しては授業中に提示する。

内 容

- 第1回 プライマリケアの理念－プライマリケアとは、プライマリヘルスケアとは－人々の尊厳と権利を擁護する社会の仕組み－社会・文化と健康
- 第2回 地域の特性と健康課題のアセスメントと看護介入－コミュニティ・アズ・パートナーモデル－健康に影響する環境と社会的要因の理解
- 第3回 プライマリヘルスケアと看護職の役割－国際看護の視点から－プライマリヘルスケア－社会・文化と健康
- 第4回 地域ケアの構築と看護機能①
- 第5回 地域ケアの構築と看護機能②
- 第6回 在宅看護の理念・目的・歴史と看護の実際－個人と家族の生活アセスメントと看護援助
- 第7回 産業看護活動①
- 第8回 産業看護活動②
- 第9回 メンタルヘルスと保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動－個人・家族・地域のメンタルヘルスの促進
- 第10回 母子における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動
- 第11回 地域保健と学校保健①
- 第12回 地域保健と学校保健②
- 第13回 成人における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動－医療の仕組み、医療保険制度、診療報酬制度
- 第14回 高齢者における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動
- 第15回 まとめ－2回生「プライマリケア実習Ⅰ」に向けて－地域特性や社会資源に関する資料を活用して地域の健康課題を把握する意義－学校や職場などの健康課題を把握する意義

授業以外での学習方法

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (90%)

授業中課題 (10%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ライフサイクル論実習**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 小野塚 元子・堀 妙子

テーマ

地域で生活するさまざまな発達段階の人と関わり、人の成長発達・健康・生活・環境の視点から対象を理解し、その健康課題を査定するために必要な基礎的能力を養う。

獲得目標

1. 地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達に応じた身体的変化、認知や感情、心理社会的変化を理解し、説明できる。2. 地域で暮らす乳幼児や高齢者の日常生活の様子、環境について理解し説明できる。3. 地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達・生活・環境と健康課題の関係について説明できる。4. 地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。5. 地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、相手を尊重する行動をとり、また守秘義務を遵守できる。

授業の内容

臨地実習及び学内演習・まとめを合わせて1週間の実習を行う。実習内容は、老人クラブの活動参加、保育園での実習、京あんしんこども館での見学実習などを予定している。詳細は実習要項をもとに、7月末～8月初め頃にオリエンテーションを行う。

内 容

- 第1回 学内オリエンテーション
- 第2回 学内演習① 子どもの日常生活の世話
- 第3回 学内演習② 高齢者疑似体験
- 第4回 実習① 高齢者の活動参加
- 第5回 実習② 保育園実習
- 第6回 実習③ 京あんしんこども館実習
- 第7回 ライフサイクル論実習まとめ

授業以外での学習方法

前期のライフサイクル論実習の復習をしてから、実習に参加する事

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

授業中課題は、この実習に関連した提出物全てとする

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメントⅡ**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 天野 博夫.川上 ゆかり.林正 健二	

テーマ

看護に必要な解剖学、生理学、薬理学、病理学、栄養学等を系統的に学び、身体の健康状態をアセスメントするための基礎知識を修得する

獲得目標

【獲得目標】 1. 看護に必要な人体の構造と機能を関連付けて説明できる。 2. 薬物療法の種類と効果について説明できる。
3. 組織や器官の正常な状態との比較から異常な状態を説明できる。 4. 看護に必要な栄養と代謝について説明できる。 5. 主要な疾患の症状、病因、病態、治療、予後について説明できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(1):咀嚼、嚥下
- 第2回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(2):消化
- 第3回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(3):吸収
- 第4回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(4):排泄
- 第5回 栄養と代謝(1):臨床栄養学の基礎知識
- 第6回 栄養と代謝(2):運動と栄養
- 第7回 栄養と代謝(3):人生各期における栄養
- 第8回 栄養と代謝(4):検査と回復促進のための食事
- 第9回 栄養と代謝(5):疾患治療のための食事
- 第10回 栄養と代謝(6):食事指導
- 第11回 子孫を残す仕組み(1):生殖器(女性)
- 第12回 子孫を残す仕組み(2):生殖器(男性)
- 第13回 体内の環境を整える仕組み(1):内分泌とホルモン
- 第14回 体内の環境を整える仕組み(2):内分泌器官
- 第15回 異物を認識し、記憶して排除する仕組み:免疫系
- 第16回 生体機能の変調 ~病理学の基礎:病理学とは、病因論
- 第17回 生体機能の変調 ~病理学の基礎:病理学とは、病因論
- 第18回 先天異常と遺伝子異常
- 第19回 代謝障害
- 第20回 循環障害
- 第21回 炎症と修復
- 第22回 腫瘍
- 第23回 生体機能を補う ~薬学の基礎
- 第24回 薬物療法と看護
- 第25回 薬物の作用と作用機序
- 第26回 薬物動態
- 第27回 薬物相互作用
- 第28回 薬物療法に影響を与える因子
- 第29回 薬物の有害作用
- 第30回 医薬品の管理

授業以外での学習方法

・ビジュアル等の視聴覚教材も積極的に活用してください。

教科書

ナーシンググラフィカ①人体の構造と機能 解剖生理学第3版

著者： 林正健二編

出版社： メディカ出版

出版年： 2013

ISBN：

系統看護学講座 専門基礎分野 病理学

著者： 坂本穆彦編

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学

著者： 大鹿英世

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

ナーシンググラフィカ④ 臨床栄養学第3版

著者： 關戸啓子編

出版社： メディカ出版

出版年： 2013

ISBN：

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)

著者： 金子丑之助

出版社： 南山堂

出版年：

ISBN：

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)

著者： 坂井建雄他監訳

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

ギャノン生理学原書第24版

著者： 岡田泰伸監訳

出版社： 丸善

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (100%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント演習Ⅱ**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 植村 由美子・梶谷 佳子・片山 由加里・中橋 苗代・松本 賢哉	

テーマ

フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱで学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。

獲得目標

1. 診察技法を活用し、身体についての情報収集ができる。2. 得られた情報について、基準値や望ましい状態と比較しながら解釈することができる。3. 身体の正常な状態について理解できる。4. 身体の代表的な異常について理解できる。5. 対象者と援助的なコミュニケーションを展開できる 6. 対象者の気持ちやプライバシーに配慮した態度がとれる。

授業の内容

本授業は、まず講義を受け、その後演習を実施するという形で進みます。演習は、ユニフォームを着用し実習室で行います。

内 容

- 第1回 消化器系のアセスメント(講義+演習)
- 第2回 栄養のアセスメント(講義+演習)
- 第3回 実技試験
- 第4回 排泄のアセスメント(講義+演習)
- 第5回 筋骨格系のアセスメント(講義+演習)
- 第6回 お助けたいへのフィジカルアセスメント(演習)
- 第7回 試験

授業以外での学習方法

・フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱで学んだ知識を活用できるように復習して演習に臨んでください。・ビジュアル等の視聴覚教材を積極的に利用し、知識を深めてください。・技術の修得は演習内では困難です。主体的に練習を行ってください。

教科書

ナーシンググラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント

著者： 松尾ミヨ子他編

出版社： メディカ出版

出版年： 2013

ISBN:

参考書

フィジカルアセスメントガイドブック第2版

著者： 山内豊明

出版社： 医学書院

出版年： 2011

ISBN:

フィジカルアセスメント完全ガイド第2版

著者： 藤崎郁

出版社： Gakken

出版年： 2012

ISBN:

フィジカルアセスメント ナースの必要な診断の知識と技術

著者： 日野原重明

出版社： 医学書院

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験（70%（実技試験40%＋ペーパー試験30%））

小テスト（ ）

授業中課題（30%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 家族看護学

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小野塚 元子.河原 宣子.堀 妙子.松本 賢哉	

テーマ

家族看護に関する理論的知識体系を学び、ライフサイクルに沿って個人と家族の生活とその関連を把握し、家族の持つ健康課題に取り組む看護の役割を考える。

獲得目標

1.家族とは何か、また個人とどのように関連しているかを考える 2.家族理解のための諸理論を知る 3.家族看護に関する代表的な諸理論を知る 4.ライフサイクル各期における家族の生活と健康障害との関連、疾病・傷害が家族生活に及ぼす影響について理解する 5.ライフサイクル各期における家族への看護の役割を理解する

授業の内容

各教員のオムニバス講義により行う。

内 容

- 第1回 家族とは、家族機能とは、家族看護学の軌跡と対象
- 第2回 家族アセスメントモデル・介入モデル、家族看護過程
- 第3回 ライフサイクル各期における家族看護(家族形成期の援助)
- 第4回 ライフサイクル各期における家族看護(病児を持つ家族の援助)
- 第5回 ライフサイクル各期における家族看護(慢性的健康課題を有する療養者を抱える家族の援助)
- 第6回 ライフサイクル各期における家族看護(精神障害者を抱える家族の援助)
- 第7回 ライフサイクル各期における家族看護(在宅で高齢者を介護する家族の援助)
- 第8回 家族理解のための諸理論、まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a70101b350

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報科学Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。また、看護における保健統計学についても学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報科学Ⅱガイダンス/前期振返り ・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。 ・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 保健統計について ・保健統計の概要を確認 ・様々な保健統計統計調査(人口/保健/指定/その他) ・統計調査の検索演習
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報科学ⅠExcel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 保健統計分析の手法:統計処理の基礎について学び、体験する ・「数値分析」のおさらい ・母集団と基本統計量/度数分布とヒストグラム/ピボット集計など
- 第8回 統計分析演習:保健統計学の基礎を理解する(前回の復習)
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

a70101b550

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報科学Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件	クラス指定
担当者 味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。また、看護における保健統計学についても学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報科学Ⅱガイダンス/前期振返り ・情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 ・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。 ・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。 ・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第3回 保健統計について ・保健統計の概要を確認 ・様々な保健統計統計調査(人口/保健/指定/その他) ・統計調査の検索演習
- 第4回 数値分析Ⅰ-(1):情報科学ⅠExcel復習 ・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第5回 数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 保健統計分析の手法:統計処理の基礎について学び、体験する ・「数値分析」のおさらい ・母集団と基本統計量/度数分布とヒストグラム/ピボット集計など
- 第8回 統計分析演習:保健統計学の基礎を理解する(前回の復習)
- 第9回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第10回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第11回 プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第12回 プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
- 第13回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 1/2
- 第14回 プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価 2/2
- 第15回 情報活用力診断テストRasti(2回目) これまでのまとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

実践ドリルで学ぶOffice活用術 Word・Excel・PowerPoint演習問題全133題(※前期使用テキスト)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト (30%)

授業中課題 (10%)

授業中発表等 (20%)

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護学演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者	伊藤 恵美子・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・片山 由加里・河原 宣子・常田 裕子・中橋 苗代・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

実践看護学Ⅱと対応しながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。

獲得目標

- 1.健康レベルの各期(急性期・回復期・リハビリテーション期・慢性期)における看護援助技術を適切に実施する能力を修得する。
- 2.安全なケア環境を提供するための基礎的能力を修得する。

授業の内容

実践看護学実習Ⅱと連動して行います。全体的な日程の入ったスケジュールは1回目の講義にて配布します。

内 容

- 第1回 情動・認知・行動への働きかけー病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション①
- 第2回 情動・認知・行動への働きかけー病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション②
- 第3回 情動・認知・行動への働きかけー病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション③
- 第4回 救命救急処置技術・診療に伴う援助技術ー患肢の固定・包帯法
- 第5回 安楽促進・苦痛の緩和ー罨法
- 第6回 感染予防,安全・事故防止の技術ー無菌操作,ガウンテクニック,滅菌手袋の装着脱①
- 第7回 感染予防,安全・事故防止の技術ー無菌操作,ガウンテクニック,滅菌手袋の装着脱②
- 第8回 感染予防,安全・事故防止の技術ー無菌操作,ガウンテクニック,滅菌手袋の装着脱③
- 第9回 感染予防,安全・事故防止の技術ー無菌操作,ガウンテクニック,滅菌手袋の装着脱④
- 第10回 感染予防,安全・事故防止の技術ー無菌操作,ガウンテクニック,滅菌手袋の装着脱⑤
- 第11回 感染予防,安全・事故防止の技術ー無菌操作,ガウンテクニック,滅菌手袋の装着脱⑥
- 第12回 医療処置の実施・管理ー採血①
- 第13回 医療処置の実施・管理ー採血②
- 第14回 医療処置の実施・管理ー採血③
- 第15回 医療処置の実施・管理ー注射①
- 第16回 医療処置の実施・管理ー注射②
- 第17回 医療処置の実施・管理ー注射③
- 第18回 医療処置の実施・管理ー輸液①
- 第19回 医療処置の実施・管理ー輸液②
- 第20回 医療処置の実施・管理ー輸液③
- 第21回 医療処置の実施・管理ー導尿①
- 第22回 医療処置の実施・管理ー導尿②
- 第23回 医療処置の実施・管理ー導尿③
- 第24回 医療処置の実施・管理ー酸素療法の管理,吸入①
- 第25回 医療処置の実施・管理ー酸素療法の管理,吸入②
- 第26回 医療処置の実施・管理ー酸素療法の管理,吸入③
- 第27回 医療処置の実施・管理ー浣腸,消毒薬の準備①
- 第28回 医療処置の実施・管理ー浣腸,消毒薬の準備②
- 第29回 医療処置の実施・管理ー浣腸,消毒薬の準備③

授業以外での学習方法

・事前学習、事後学習を積み重ねること・演習室での技術のトレーニングを主体的にすること.

教科書

適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

実技試験と毎回の演習記録の評価から総合的に評価する.

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護学実習Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・片山 由加里・常田 裕子・中橋 苗代・西村 美八・松本 賢哉

テーマ

看護過程の理論を活用し、対象者が自らの健康問題を解決するために根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を培う。

獲得目標

1. 入院中の対象者を多面的に理解することができる。1)対象者の入院中の生活の流れを知ることができる。2)入院、疾患や症状、治療が及ぼす身体・心理・社会面への影響を理解することができる。3)入院の目的が理解でき、入院による生活の変化を理解することができる。2. 対象者の健康上の問題を解決するために既習の知識を活用し看護を展開することができる。1)対象者の健康上の問題を解決するために必要な情報を収集することができる。2)根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し、多角的な視点で情報を解釈分析し、健康問題・課題を明らかにできる。3)優先度の高い健康問題・課題について看護計画を立案することができる。4)安全・安楽の基本に基づいて日常生活援助の基本技術を実施することができる。5)根拠に基づいた看護を提供することの必要性が説明できる。6)患者の反応から、実践した援助を振り返り、評価することができる。7)看護記録の目的と法的意義について説明できる。3. 対象者との人間関係を構築することができる。1)対象にあわせたコミュニケーションをはかることができる。2)患者の権利、プライバシーの保護に配慮できる。3)守秘義務を遵守できる。4. 医療チームメンバーの一員として適切な人間関係を形成できる。1)看護職間、他職種間の連携について理解できる。2)必要時、報告・連絡・相談ができる。5. 実習体験を振り返り、看護観を自らの言葉で表現できる。1)自己の看護実践を振り返ることができる。2)看護についての自らの考えを述べるができる。3)今後の自己の課題を明確にできる。

授業の内容

2回生後期 2014年2月下旬～3月上旬 2週間

内 容

- 第1回 学内にてオリエンテーション
 第2回 病院にてオリエンテーション 受け持ち患者紹介
 第3回 ①患者の理解のためのコミュニケーション、カルテの参照 ②患者のケアの見学 ③患者との人間関係の構築
 第4回 同上
 第5回 同上 中間カンファレンス
 第6回 ④患者の看護上の問題の明確化 ⑤患者の看護の方向性の決定
 第7回 ①②③④⑤ ⑥個性性のある看護実践
 第8回 同上 ⑦看護実践の評価
 第9回 最終カンファレンス 実習全体の振り返り、目標到達度の評価
 第10回 学内にてまとめ・報告会

授業以外での学習方法

2月上旬に実習ガイダンスを行う予定です。その指示に従ってください。解剖・生理学、フィジカルアセスメント演習の復習をしっかりとっておいてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

実習態度、記録、実習目標達成度から総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 プライマリケア実習 I

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子・植村 由美子・小野塚 元子・梶谷 佳子・片山 由加里・富永 真己・中橋 苗代・西村 美八・堀 妙子

テーマ

看護の対象となる人が生活している家庭・産業・学校の場をとおし、それぞれおかれている環境を理解したうえで、健康課題を査定し、根拠に基づいた看護援助を実践する基礎的な能力を養う。

獲得目標

1. 家庭・産業・学校の場の特徴を理解するための方法が説明できる 2. 家庭・産業・学校の場で生活する人々の健康課題を査定する方法が説明できる 3. 家庭・産業・学校の場で生活する人々の健康課題の特徴を説明できる 4. 保健医療福祉における看護の役割について説明できる 5. 保健医療福祉における様々な職種との協働と連携の必要性を説明できる 6. 様々な価値観・信条や生活背景をもつ人と接し、その人々を尊重する行動をとる、また守秘義務を遵守する事ができる 7. 自己の実践を振り返り、今後の課題を見出す事ができる

授業の内容

プライマリファミリー(山科区)1週間 産業・学校

1週間 学内演習も含めて2週間行う * 詳細は実習要項参照

内容

第1回 ガイダンス(ガイダンス以降の内容は、実習要項にて示す) なお、外部講師による講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

事前学習の内容は、実習ガイダンスにて提示する。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

1回生で使用した教科書。その他、適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

学校(35%)、産業(35%)、プライマリファミリー(30%)とする。実習参加度(出席も含めて)50%、提出物(50%)とし、産業・学校・プライマリファミリーの実習、それぞれの評価を合わせたものを最終評価とする。

2014 Syllabus

科目名 ヘルスケアシステムⅡ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 遠藤 俊子・富永 真己・西村 美八・野村 陽子

テーマ

地域の健康管理と公衆衛生看護活動に必要な制度や法規、健康危機管理について理解する

獲得目標

1. 地域における健康危機管理およびその対策に関わる看護職の役割について理解できる。 2. 社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規を説明できる。 3. 保健医療福祉における看護の機能と役割を理解できる。 4. 健康管理と公衆衛生看護活動に必要な支援技術を説明できる。

授業の内容

ヘルスケアシステムⅠを踏まえ、健康管理と公衆衛生看護活動に必要な社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規および財政の理解、施策等行政組織について、看護の視点からライフサイクル各期の特徴を踏まえて理解する。指定規則に定める別表の種類とそれぞれの別表に定める教育内容のうち、当該科目で教授する教育内容 別表1:「公衆衛生看護学概論」「個人・家族・集団・組織の支援」「公衆衛生看護活動展開論」「公衆衛生看護管理論」「疫学」「保健統計学」「保健医療福祉行政論」別表2:「基礎助産学」「地域母子保健」「助産管理」別表3:「人体の構造と機能」「疫病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」

内 容

- 第1回 社会保障制度①理念・体系
- 第2回 社会保障制度②高齢者福祉・介護保険制度a
- 第3回 社会保障制度③高齢者福祉・介護保険制度b
- 第4回 社会保障制度④障害児・者
- 第5回 社会保障制度⑤児童
- 第6回 社会保障制度⑥医療保障制度
- 第7回 社会保障制度⑦所得保障・年金制度
- 第8回 地域保健と健康危機管理①ー地域における日常的な健康危機管理
- 第9回 地域保健と健康危機管理②ー災害と保健師活動
- 第10回 母子における保健医療福祉対策の現状と課題
- 第11回 地域における保健事業の展開
- 第12回 地域診断の実際①
- 第13回 地域診断の実際②
- 第14回 地域診断の実際③
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

教科書

公衆衛生看護学.jp第3版

著者: 荒賀直子・後閑容子編集

出版社: インターメディカル

出版年:

ISBN: 9784900828551

保健師業務要覧 第3版

著者： 井伊久美子他編集

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN： 9784818016989

国民衛生の動向」2014/2015

著者：

出版社： 一般財団法人厚生労働時計協会

出版年：

ISBN：

保健医療福祉行政論

著者： 野村陽子編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年：

ISBN：

その他、参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（70%）

小テスト（）

授業中課題（30%）

授業中発表等（）

参加度（）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護学実習Ⅲ-1

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 奥野 信行・河原 宣子	

テーマ

「実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。」

獲得目標

1. 急激な健康破綻と回復過程にある対象とその家族に対する看護の理解を深め、問題解決能力を培う。2. 急激な健康破綻と回復過程にある対象とその家族への看護実践場面の体験を通して、看護の専門性を考察し、多職種との協働の重要性を学ぶ

授業の内容

内 容

- 第1回 急激な健康破綻と回復過程にある対象を多面的に捉え、疾病や治療によって受ける影響について説明できる。・急激な健康破綻と回復過程にある対象の身体的特徴について説明できる。・急激な健康破綻と回復過程にある対象の心理・社会的特徴について説明できる。・急激な健康破綻と回復過程にある対象の症状と疾病や治療との関係について説明できる。・急激な健康破綻と回復過程にある対象の生活習慣と疾病や治療の関係について説明できる。・対象の観察、医療者からの情報収集、記録を通して、必要な情報を系統的に収集できる。・急激な健康破綻と回復過程にある対象やその家族と、援助的人間関係を発展させることができる。
- 第2回 急激な健康破綻と回復過程にある対象の全身状態を査定し、生命維持や回復に向けた看護援助方法について説明できる。・対象の生命の維持や回復に必要な看護について説明できる。・対象が可能な限り早期にセルフケア能力を獲得するために必要な看護について説明できる。・回復過程を踏まえて、健康問題・課題ごとに達成および評価が可能な目標をあげることができる。・対象の安全・安楽・自立・自律を考慮しながら、計画に基づいた援助が実施できる。・実施した結果を目標と照らし合わせ客観的に評価し、計画修正ができる。
- 第3回 急激な健康破綻と回復過程にある対象とその家族への看護実践場面を通して、家族に必要な援助について考察できる。・家族の心理状態について考察できる。・家族機能の変化について考察できる。・家族のサポートシステムについて考察できる。
- 第4回 チーム医療における看護および他職種の役割を理解し、急激な健康破綻と回復過程にある対象とその家族を中心とした協働と連携のあり方について説明できる。・看護実践を通して、チーム医療・他職種との連携における看護の役割について説明できる。・継続看護、退院支援・退院調整などに必要な協働と連携を含めた看護援助方法について説明できる。
- 第5回 実践した看護を振り返り、看護専門職の専門性を発展させていく重要性について説明できる。・自己の実践した看護を振り返ることができる。・自らの看護観について説明できる。・看護の専門性について自分なりの意見を持つことができる。

授業以外での学習方法

解剖生理学やフィジカルアセスメント、実践看護学Ⅱ・Ⅲを必ず復習しておくこと。また、看護技術も練習し、実習までにフィジカルアセスメントや日常生活援助技術は必ず実践できるレベルにしておくこと。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

実習目標の達成度、実習態度、レポートから総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護学実習Ⅲ－2

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 奥野 信行.河原 宣子	

テーマ

実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2, 実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ, 実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ, 様々な健康問題をもつ対象とその家族への人によりそう看護の理解を深める. チームの一員として看護実践活動を行い, 看護の専門性を考察し, 他職種との協働の重要性を学ぶ.

獲得目標

目的 1)既習の知識を活用し, 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族への看護を実践するための基礎的能力を培う. 2)慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族への看護の実践を通して, 看護専門職の専門性について考察する能力を培う.

授業の内容

医療施設にて慢性期/終末期にある患者を1名(状況により複数)受持ち, 看護過程を展開する.

内 容

- 第1回 1)援助的関係を構築しながら, 慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族を総合的に捉えて説明することができる.
- 第2回 2)慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族が疾病や治療によってどのような影響を受けているか査定できる.
- 第3回 3)慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象と家族を理解し, 療養生活の看護援助方法について説明できる.
- 第4回 4)慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族が活用できる社会資源および教育資源について説明できる.
- 第5回 5)チーム医療における看護および他職種の役割を理解し, 慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族を中心とした協働と連携のあり方について説明できる.
- 第6回 6)実践した看護を振り返り, 看護専門職の専門性を発展させていく重要性について説明できる.

授業以外での学習方法

解剖生理学やフィジカルアセスメント, 実践看護学Ⅱ・Ⅲを必ず復習しておくこと. また, 看護技術も練習し, 実習までにフィジカルアセスメントや日常生活援助技術は必ず実践できるレベルにしておくこと.

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a70103a850

実習態度60% 出席20% 記録物20%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護学実習Ⅲ－3

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 堀 妙子	

テーマ

実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、様々な健康問題をもつ対象とその家族への人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。

獲得目標

1. 小児に特有な疾患の病態生理を説明できる 2. 小児の発達段階に応じた日常生活援助の方法を説明できる 3. 小児の発達段階に応じた処置やケアの方法を説明できる 4. 小児及び家族を理解するために必要な情報収集の方法を説明できる 5. 小児及び家族を理解するために必要な情報が収集できる 6. 収集した情報をもとに健康課題を査定する方法を説明できる 7. 収集した情報をもとに健康課題を査定できる 8. 査定した結果から個別性に応じた看護援助を考える方法を説明できる 9. 査定した結果から個別性に応じた看護援助を考えられる 10. 安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施する方法を説明できる 11. 安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施できる 12. 実施した自己の看護実践を評価する方法を説明できる 13. 実施した自己の看護実践を評価できる 14. 対象となる小児及びその家族を尊重した行動をとることができる

授業の内容

目的: 健康上の課題をもつ小児とその家族に対し、発達段階や健康課題が及ぼす影響を考えながら、個別性に応じた看護が実践できる能力を養う事。実習概要 1. 医療施設で患児を1名(状況により複数)受け持ち、看護過程を展開する 2. 小児専門病院及び重症心身障がい児施設の見学実習 詳細は、実習要項をもとに、オリエンテーションを行う

内 容

- 第1回 第1週月曜日 学内オリエンテーション
 第2回 第1週目火曜日～第2週目水曜日 医療施設での病棟実習
 第3回 第2週目木曜日・金曜日 学内実習(実習のまとめ)
 第4回 重症心身障がい児施設 1日見学実習
 第5回 小児専門病院 1日見学実習

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 () 小テスト ()
 授業中課題 (30) 授業中発表等 (50)

参加度 (20)

実習中課題は提出された記録物及び学びのレポートとする 授業中発表等は、実習態度とする

参考URL

2014 Syllabus

科目名 実践看護学実習Ⅲ-5

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 遠藤 俊子・神崎 光子・竹 明美・常田 裕子	

テーマ

ライフサイクルにおける周産期(妊娠、分娩、産褥(新生児)各期)にある母児の看護実践を通じて、生涯発達の見点から母児とその家族の健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助について学び、対象の個別的ニーズに応じた看護を実践する基礎的な能力を養う。

獲得目標

1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な健康状態をアセスメントできる。2. 家族の身体的・心理的・社会的な健康状態をアセスメントできる。3. 妊婦・産婦・褥婦および新生児を取り巻く環境をアセスメントし、健康状態との関係を説明できる。4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生活の特性とその家族の生活の変化を把握し、健康状態との関連をアセスメントできる。5. 新生児の誕生に伴う家族機能の変化を説明できる。6. 周産期(妊娠・出産・育児)に必要な看護援助方法(保健指導含む)の説明と指導のもとで実践ができる。7. 新生児の成長、発達に必要なケアを説明できる。8. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康増進に関連する政策と保健活動(社会資源等)を説明できる。9. 対象の個別性にあわせ、計画的に看護を展開できる(詳細:実習要項の行動目標参照) 10. 看護者としての社会的責任と責務を自覚した行動をとることができる。

授業の内容

1 実習場所 産科病棟(産褥室、新生児室、分娩室)および産科外来 2 実習内容 1)病院実習では、産褥(新生児)期にある母子あるいは入院中の妊婦を1例以上受け持ち、看護を実践する。受け持ち事例の選定基準 ①原則として正常経過をたどる経産分娩もしくは帝王切開分娩の母子 ②感染症事例は除く ③状態の安定している妊婦 ※いずれも臨床指導者、教員の合議により選定し、承諾の得られた妊産婦を受け持ち事例とする。2)産科外来 妊婦健診、保健指導や産褥1か月健康診査の実践を学ぶ。3)カンファレンス ①デイリーカンファレンス:日々の実習を振り返り学びを深め、共有する。②中間カンファレンス:事例検討や1週間の学びの総括を行い、次週への実習の課題を見出す。③実習終了カンファレンス:実習の学びをまとめ共有する。④最終(学内)カンファレンス:他のグループと学びを共有し、理解を深める。

内 容

- 第1回 学内オリエンテーション、周産期看護技術の演習等
- 第2回 病棟オリエンテーション、受持ちの決定等
- 第3回 病棟または外来実習等
- 第4回 病棟または外来実習等
- 第5回 病棟または外来実習等
- 第6回 病棟または外来実習等
- 第7回 病棟または外来実習等
- 第8回 病棟または外来実習等
- 第9回 病棟または外来実習等
- 第10回 最終カンファレンス、記録のまとめ等

授業以外での学習方法

妊娠期から産褥期までの看護展開に必要な知識や技術の復習を行い実習に臨む。(実践看護学Ⅲで課したミニノートの再整理を行う。)なお、テキスト、参考書については実践看護学Ⅲ-5等に提示したものの他に周産期関連の書籍を参考にする。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()	小テスト ()
授業中課題 (10)	授業中発表等 (10)
参加度 (80)	

a70103b150

全日程出席が原則。補習は実施しない。レポートおよび指定した記録物ならびに学習(実習)への取り組み態度等を加味して、実習評価表により評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 プライマリケア実習Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 通年

定員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子・植村 由美子・小野塚 元子・梶谷 佳子・片山 由加里・富永 真己・中橋 苗代・西村 美八

テーマ

生活の営みの中で人々の健康生活を支えるための看護活動(プライマリファミリーの訪問活動, 保健所, 保健センター, 訪問看護ステーション, 地域包括支援センターにおける看護活動)を体験することにより, 地域の健康政策機関の機能・役割について理解するとともに, 看護職の役割と関係職種の役割・連携について学ぶ。

獲得目標

1.プライマリファミリーの訪問活動を通して, 地域で暮らす人々の健康課題に対する援助方法と看護職の役割について理解できる。 1)プライマリファミリーの生活をより深く知り, 健康の維持・増進のために必要な看護を考えることができる。 2)プライマリファミリーが暮らす地域の健康的な環境を構築するための社会資源について, 説明できる。 2.地域の健康政策機関の保健福祉事業の成り立ちと, 機能と役割を説明できる。 3.個人および家族の生活を把握し, 健康状態との関連をアセスメントするとともに, 対象の生活の営みに即した地域での看護活動の展開方法を説明できる。 4.地域の健康政策機関における活動の現状, 地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標から健康課題を把握し, 課題解決に必要な看護援助方法を説明できる。 5.地域の健康政策機関における看護職, 関係機関および関係職種の機能・役割について説明できる。 6.保健・医療・福祉などの専門職および地域の人々との連携や協働活動の意義が理解できる。

授業の内容

実習期間および場所は, プライマリファミリー(1週間)および, 保健所・保健センター・訪問看護ステーション・地域包括支援センター(3週間)とする。

内容

第1回 * 詳細は, 実習要項参照のこと

授業以外での学習方法

高齢者とその家族を取り巻く環境や特性, 保健所・保健センター・訪問看護ステーション・地域包括支援センターの概要と関連法規について事前に学習しておくこと。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

a70103b210

プライマリファミリー実習20%, プライマリファミリー実習以外(保健所・保健センター・訪問看護ステーション・地域包括支援センター)80%の割合で評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生徒指導論

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 井ノ口 貴史	
テーマ	
生徒指導の理論と実践を学ぶ	

獲得目標

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題について具体的に学校現場で一般的に見られる生徒指導のあり方を事例を通して学ぶことを目的とする。

授業の内容

生徒指導上、学校現場で養護教諭に期待される役割、学級担任のクラス経営の事例、生徒会指導についてを学ぶ。

内 容

- 第1回 生徒指導の領域と内容 — いわゆる「教育困難校」の一日
- 第2回 生徒指導の意義 — 校務分掌と組織（生徒指導体制は？）
- 第3回 生徒指導の方法 — ゼロ・トレランス方式を考える
- 第4回 グループ討議：ゼロ・トレランス方式に賛成か反対か？
- 第5回 養護教諭の一日 — 養護教諭が生徒指導に果たす役割を考えてみよう
- 第6回 グループ討議：養護教諭は生徒指導場面でどのような役割を果たせるだろうか？
- 第7回 養護教諭の立場から、学校現場の生徒指導の在り方考える
- 第8回 グループ討議：いじめや不登校に対する指導を手がかりにして養護教諭の役割を考えよう
- 第9回 生活指導(1) — 民主的で自治的なクラスづくり
- 第10回 生活指導(2) — 学級通信と日直新聞の取り組み
- 第11回 生活指導(3) — ホームルームの指導組織を作って動かす取り組み
- 第12回 生活指導(4) — 文化祭の取り組み
- 第13回 生徒の学校参加 — 問題行動(授業妨害や校則違反、いじめや暴力行為)を克服するための試み
- 第14回 グループ討議：生徒を取り巻く社会と現実を考える
- 第15回 ケーススタディ — 摂食障害の生徒とその保護者、学級担任に対し、どのようなアドバイスをすべきか？

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

教科書

授業内で配布する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業内で紹介する

著者：

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 プライマリケア実習Ⅲ

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 通年

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 伊藤 恵美子・小野塚 元子・竹 明美・富永 真己・西村 美八

テーマ

人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対して総合的・継続的・全人的に対応する地域の政策と機能について理解し、健康に関する社会問題を解決するための政策形成過程を学ぶ。

獲得目標

1.プライマリーファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の健康課題に対する援助(実践)への評価を行い、地域に共通する健康課題を明らかにするとともに、解決するための方法を検討し実施できる。2.地域に暮らす人々の尊厳ある生活を継続するために、その営みに即した必要な支援を構築する方法を説明できる。3.地域の保健・医療・福祉サービスや地域のインフォーマルサービスなど多様な社会資源を用いて、個人や地域の特性に対応した看護援助や健康環境づくりについて説明できる。4.地域に暮らす人々の健康に関する社会問題を明らかにするとともに、解決するために、既存サービスに加え新たなサービスが形成される過程を理解できる。

授業の内容

1)訪問看護ステーション・地域包括支援センター・ディケア・ディサービスいずれかでの実習(3日間) 2)山科区老人クラブの高齢者の体力測定の間を活用しての健康教育の企画・実施 前後に演習・まとめを行う *詳細は、実習要項参照のこと

内 容

第1回 前後に演習・まとめを行う *詳細は、実習要項参照のこと なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

プライマリーファミリー、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、ディケア・ディサービスの概要と関連法規について事前に学習しておくこと。事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

健康教育50%、訪問看護ステーション・地域包括支援センター・ディケア・ディサービスいずれかでの実習40%、レポート10%の割合で評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 高度実践看護論

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梶谷 佳子・堀 妙子

テーマ

実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2. 実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅲ-1～5を踏まえ、現在臨地で行われている最新の看護について学ぶ。

獲得目標

1. 看護専門職の専門性を発展させていく重要性について説明できる 2. 専門職として生涯にわたり学習し続け、成長していくために自己を評価し管理していく重要について説明できる 3. 高度実践看護を行うための基礎となる、様々な健康課題を有する患者の全身状態の査定方法、および看護援助方法について説明できる 4. 高度実践看護を行うための基礎となる、看護技術を理解し実施できる 5. チーム医療における看護及び多職種役割を理解し、対象者を中心とした協働のあり方について説明できる

授業の内容

高度実践看護に関する講義、そして高度実践看護を行うために必要となる基礎的な能力を獲得するために、グループで実践的なシミュレーション事例の作成を行う。そして、事例に対する看護を演習で行い、その評価を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 高度実践看護とは
- 第2回 日本における高度実践看護師と専門看護師の教育制度・役割と機能
- 第3回 高度実践看護とチーム医療
- 第4回 専門看護師の活動の実際と課題
- 第5回 シミュレーション事例作成に関するオリエンテーション
- 第6回 シミュレーション事例の作成①
- 第7回 シミュレーション事例の作成②
- 第8回 シミュレーション事例の作成③
- 第9回 シミュレーション事例の作成④
- 第10回 シミュレーション事例の作成⑤
- 第11回 事例に対する看護演習①
- 第12回 事例に対する看護演習②
- 第13回 事例に対する看護演習③
- 第14回 事例に対する看護演習④
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

4回生前期までに学んだことを全て活用しながら行う授業です。特に実習で経験した事などは十分に振り返りを行ってから、授業に参加してください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

a701043450

参加度（50%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本人の宗教と福祉 <Z>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 橋本 章彦	

テーマ

日本人はの宗教観の原型的性格を考える

獲得目標

日本人は、無宗教だとよく言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事物に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はずぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあると見てよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原型的な側面を探り出し、人は宗教とどのように関わるべきかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原型的側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

授業の内容

生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

内 容

- 第1回 宗教をどのように枠づけるか
- 第2回 日本人の宗教観の原型的側面をさぐる(1)—カミ・仏教公伝に学ぶ—
- 第3回 日本人の宗教観の原型的側面をさぐる(2)—カミ・仏教公伝に学ぶ—
- 第4回 観音と地蔵(1) 観音の誘惑—庶民にとっての観音信仰
- 第5回 観音と地蔵(2) 野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由
- 第6回 福の神と日本人(1)—総論・京洛の福神信仰—
- 第7回 福の神と日本人(2)—毘沙門天信仰・起源と歴史的展開—
- 第8回 福の神と日本人(3)—毘沙門天信仰・仏教守護神から福の神へ—
- 第9回 水神の制御と仏教的神(1)—寺院創建伝説に探る—
- 第10回 水神の制御と仏教的神(2)—寺院創建伝説に探る—
- 第11回 眼の靈力について考える—一つ目の鬼、節分・放相氏、そして写楽包介へ 付・仏教の天眼通と明恵上人
- 第12回 盗む空海(1)—神話的空海の仏教伝承
- 第13回 盗む空海(2)—神話的空海の仏教伝承
- 第14回 日本人のあの世—日本人の他界観はどのように変わったか
- 第15回 復習とまとめ

授業以外での学習方法

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

宗教学

著者： 岸本英夫

出版社： 大明堂

出版年： 1991

ISBN:

宗教学入門

著者： 棚次正和・山中弘 編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2005

ISBN:

その他授業内で指示

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法技術学Ⅲ(内部障害)**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	堀江 淳	

テーマ

内部障害患者に対する代表的な検査、治療の技術を、より深く探求する。より臨床的、かつ最新の治療、論理を学習する。

獲得目標

内部障害患者に対する代表的な検査、治療の技術を学び、臨床実習で活用できることを目標とする。また、より臨床的な内容に着目した知識、技術を習得することを目標とする。

授業の内容

教科書的な内容よりも、より臨床的な内容で授業を展開する。学術論文など最新のトピックスなども合わせて読み解く。

内 容

- 第1回 呼吸機能検査(肺気量分画)の技術と理論を学ぶ
- 第2回 呼吸機能検査(フローボリューム)の技術と理論を学ぶ
- 第3回 フィールド歩行テスト(6分間歩行距離テスト)の技術と理論を学ぶ
- 第4回 フィールド歩行テスト(シャトルウォーキングテスト)の技術と理論を学ぶ
- 第5回 心肺運動負荷テストの技術と理論を学ぶ(最高酸素摂取量と嫌気性代謝作業閾値)
- 第6回 心肺運動負荷テストの技術と理論を学ぶ(換気と循環)
- 第7回 運動処方の実際と理論を学ぶ
- 第8回 気道クリアランスを高める技術と理論(排痰手技)を学ぶ

授業以外での学習方法

前期で学んだ内部障害系理学療法基礎演習の内容を事前に復習しておく。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

授業中の課題とその発表内容にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは発表を認めない。出席点は減点方式とし欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。

a90103e150

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法技術学Ⅳ(スポーツ障害)**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 横山 茂樹

テーマ

スポーツ障害に対するテーピング

獲得目標

スポーツ現場で用いられるテーピングの知識と技術習得を目指す。

授業の内容

実技を中心に行いますので、軽装を準備しておくこと

内 容

- 第1回 スポーツ障害総論
- 第2回 テーピング技術1(足関節)
- 第3回 テーピング技術2(足部)
- 第4回 テーピング技術3(膝関節)
- 第5回 テーピング技術4(肩関節)
- 第6回 テーピング技術5(肘関節)
- 第7回 テーピング技術5(手関節)
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

スポーツ現場における実践を行う場合もあります。常に技術研鑽に向けた取り組みを臨みます。

教科書

参考書

ファンクショナル・テーピング

著者： 川野 哲英

出版社：ブックハウスHD

出版年：2000

ISBN:

スポーツ理学療法

著者： 浦辺 幸夫

出版社：医歯薬出版

出版年：2006

ISBN:

成績評価

a90103e250

試験 (60)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

筆記試験および実技試験を行う。

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **理学療法技術学V(発達障害)**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 崎田 正博

テーマ

近年の発達障害系理学療法においてトピック的な評価や治療を教授し、具体的な症例を通して、理学療法プロセスを学ぶ。

獲得目標

1)脳性麻痺の動作分析を学ぶ。2)近年のトピック的な評価・治療を学ぶ。3)発達障害の加齢による退行を学ぶ。

授業の内容

主にディスカッション形式で行う。

内 容

- 第1回 痙直型脳性麻痺の近年の評価・治療
- 第2回 アトーゼ型脳性麻痺の近年の評価・治療
- 第3回 ジストニア型脳性麻痺の近年の評価・治療
- 第4回 失調型脳性麻痺の近年の評価・治療
- 第5回 症例1. ディスカッション
- 第6回 症例1. ディスカッション
- 第7回 症例1. ディスカッション
- 第8回 症例1. ディスカッション

授業以外での学習方法

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (45%)

参加度 (5%)

a90103e350

参考URL

2014 Syllabus

科目名 English Communication II <Zr>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件	クラス指定
担当者 弥永 啓子	

テーマ

プロジェクトとプレゼンテーションを通して国際語としての英語で発信する

獲得目標

・リサーチの基本的な技能を身につける・英語でのプレゼンテーション経験を通して英語によるパブリックスピーキングに自信を持つ・自律的な英語学習のためのICT活用スキルを身につける

授業の内容

各学生が自分でプロジェクトのテーマを決めてリサーチし、これを発表する。

内 容

- 第1回 後期プロジェクトテーマを考える
- 第2回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第3回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第4回 リサーチ: 英文を読むコツ
- 第5回 マルチメディア資料を収集する
- 第6回 インタビューデータを収集する、アンケートを作成する
- 第7回 アンケート結果をまとめる
- 第8回 中間発表用原稿を作成する
- 第9回 中間発表、フィードバック
- 第10回 発表内容の修正、スライドの作成
- 第11回 最終原稿の作成、発表練習
- 第12回 最終プレゼンテーション(1)
- 第13回 最終プレゼンテーション(2)
- 第14回 最終プレゼンテーション(3)
- 第15回 スライドショーを作成する

授業以外での学習方法

授業内で完了できなかったリサーチやリサーチ・学習記録、プレゼンテーションの準備

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a90201a255

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35%)

参加度 (15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%

小テスト ()

授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英書講読

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	濱田 智崇	

テーマ

心理学の専門的な文章を英語で読み、考える力をつける

獲得目標

心理学に関する英語の専門的な文章を読んでその内容をつかみ、それについて考えることができるようになる。卒業論文の作成、大学院入試、さらには大学院での研究に必要な、英語論文を読んで理解する力をつける。

授業の内容

まず、心理学のあらゆる分野の論文を少しずつ読み、専門用語や論文表現に慣れる。その後、主に臨床心理学分野の論文を読み進めていく。なお、取り扱う文章の内容は、受講者の関心や人数によって調整する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(英語の論文を読むとは)
- 第2回 心理学の専門用語・英語の論文表現
- 第3回 心理学のさまざまな分野の英文(1)
- 第4回 心理学のさまざまな分野の英文(2)
- 第5回 心理学のさまざまな分野の英文(3)
- 第6回 心理学のさまざまな分野の英文(4)
- 第7回 心理学のさまざまな分野の英文(5)
- 第8回 子どもと青年期の心理療法に関する英文(1)
- 第9回 子どもと青年期の心理療法に関する英文(2)
- 第10回 子どもと青年期の心理療法に関する英文(3)
- 第11回 子どもと青年期の心理療法に関する英文(4)
- 第12回 箱庭療法に関する英文(1)
- 第13回 箱庭療法に関する英文(2)
- 第14回 箱庭療法に関する英文(3)
- 第15回 箱庭療法に関する英文(4)

授業以外での学習方法

指示した部分を必ず予習してから授業に臨むこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a90203d550

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25%)

参加度 (25%)

小テスト ()

授業中発表等 (50%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **生理心理学**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 坂本 敏郎

テーマ

こころや行動に関わる神経内分泌系(ホルモン)の働きを理解する。

獲得目標

中枢神経系である脳の作用だけでなく、末梢神経、性ホルモン、免疫系などのはたらきと、情動、ストレス、学習、認知などの心的機能との関係を理解する。さらに、生理心理学、行動神経科学に関する英文論文を概観し、それらの知見の重要性を考察する。

授業の内容

授業の目的を達成するよう、テキストに沿って講義を行う。

内 容

- 第1回 ホルモンと行動研究
- 第2回 ホルモンと行動研究
- 第3回 性の決定と哺乳類の性分化
- 第4回 ホメオスタシスと行動
- 第5回 行動の周期性
- 第6回 種内のコミュニケーション
- 第7回 個体の絆の形成
- 第8回 生育環境と行動
- 第9回 ストレス応答と行動
- 第10回 情動、学習、記憶とホルモン
- 第11回 脳と心の進化
- 第12回 自己と他者の脳科学
- 第13回 社会性と脳科学
- 第14回 強化と快感の進化
- 第15回 認知、判断の進化

授業以外での学習方法

生理心理学関連の書籍を読み、自学自習する。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

脳とホルモンの行動学

著者: 近藤保彦他編

a90203d650

出版社：西村書店

出版年：2010年

ISBN:

脳科学とこころの進化

著者：小嶋祥三 渡辺茂

出版社：岩波書店

出版年：2007年

ISBN:

成績評価

試験（60%）

小テスト（）

授業中課題（20%）

授業中発表等（）

参加度（20%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 心理的援助論B

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	濱田 智崇	

テーマ

心理的援助における「表現」との向き合い方について考える

獲得目標

心理的援助における「表現」について体験的に学ぶ。ここで言う「表現」には言語による表現も、描画や箱庭、遊戯療法の遊びといったものも含まれるが、そうした「表現」に援助者としてどう向きあうのかを考えていく。他者の内面を理解しようとすることは、自ずと自分自身の内面と向きあうことにもなる。そうした姿勢の中から体験的に学ぶことを目標とする。

授業の内容

この授業では主に風景構成法と箱庭療法、遊戯療法に関して取り上げる。まずそれぞれの技法の成り立ちや特徴を解説し、その後、実際に描いたり、作成したりするワークを行う。実際に自分が表現してみることを、そしてそれを自分で分析して学ぶことで学びを深めていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(心理的援助における表現とは)
- 第2回 心理療法における描画法
- 第3回 風景構成法とは
- 第4回 風景構成法実習(1)
- 第5回 風景構成法実習(2)
- 第6回 心理療法における象徴的イメージとは
- 第7回 箱庭療法とは
- 第8回 箱庭を使ったワーク(1)
- 第9回 箱庭を使ったワーク(2)
- 第10回 箱庭療法の事例から学ぶ(1)
- 第11回 箱庭療法の事例から学ぶ(2)
- 第12回 援助者として表現に向きあうワーク
- 第13回 遊戯療法とは
- 第14回 遊戯療法の実際
- 第15回 遊戯療法の事例から学ぶ

授業以外での学習方法

実習・ワークの前に、講義の内容をよく理解しておかないと、せっかくの実習・ワークの体験を活かすことができなかつたり、他の受講者に迷惑をかけたりますので、よく理解しておいてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

風景構成法—その基礎と実践

著者: 皆藤章

出版社：誠信書房

出版年：1994

ISBN： 978-4414401691

風景構成法のしくみ：心理臨床の実践知をことばにする

著者： 佐々木玲仁

出版社：創元社

出版年：2012

ISBN： 978-4422115429

箱庭療法—基礎的研究と実践

著者： 木村晴子

出版社：創元社

出版年：1985

ISBN： 978-4422111032

箱庭療法の事例と展開

著者： 岡田 康伸(編)

出版社：創元社

出版年：2007

ISBN： 978-4422113647

遊戯療法の実際

著者： 河合 隼雄

出版社：誠信書房

出版年：2005

ISBN： 978-4414400212

成績評価

試験 ()

小テスト (30%)

授業中課題 ()

授業中発表等 (40%)

参加度 (30%)

小テストの点数が低い(実習・ワークに必要なことを理解できていない)場合、その後の実習・ワークの回の受講を制限せざるを得ないこともありますので、気をつけてください。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **集団力動学**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	ジェイムス 朋子	

テーマ

集団力動の理論とグループ・アプローチの基礎理解

獲得目標

集団はその構造によりさまざまな特徴をもつ。臨床心理学では古くから、個人力動の特質と集団力動の特質、そしてその交叉の力動を活かして、対人援助にアプローチしてきた。その知見は、教育、医療、矯正など、多くの領域で活用されている。本講義では、集団力動の基本理論と実際を理解し、援助処方としてのグループ・アプローチの基礎を理解することを目標とする。

授業の内容

授業では、講義、質疑応答、ディスカッション、簡単な演習を中心に展開する。それらの理解の確認のため、適宜小レポートを課す。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン—集団とは何か—
- 第2回 映画に見る集団力動
- 第3回 青年と集団
- 第4回 集団力動とは何か
- 第5回 グループ・サイズと機能:小演習
- 第6回 リーダーシップ
- 第7回 集団力動の実際
- 第8回 心の発達力学と集団
- 第9回 集団と対人関係
- 第10回 集団と家族・集団と学校
- 第11回 グループ・アプローチのあれこれ
- 第12回 グループ・ワーク:学校教育におけるグループ・ワークの例
- 第13回 グループ・ワーク:刑務所における心理教育グループ・ワークの例
- 第14回 グループ・カウンセリングと集団精神療法
- 第15回 事例による理解のまとめ

授業以外での学習方法

参考文献を読み、授業の理解を深める。

教科書

参考書

人間理解のグループ・ダイナミックス

著者: 吉田道雄

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: 2001

ISBN:

現代のエスプリ別冊 心の安全空間—家庭・地域・学校・社会—

著者： 小谷英文

出版社： 至文堂

出版年： 2006

ISBN：

学校で役立つ社会心理学

著者： 吉田敏和

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2013

ISBN：

現代のエスプリ グループセラピの現在

著者： 小谷英文

出版社： 至文堂

出版年： 2009

ISBN：

集団精神療法の基礎用語

著者： 日本集団精神療法学会

出版社： 金剛出版

出版年： 2003

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ ）

参加度（30%）

小テスト（ ）

授業中発表等（レポート70%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 コーチング心理学

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 60
履修条件	クラス指定
担当者 本山 雅英	

テーマ

卒業後に企業で働くことを前提としていた講座である。企業活動における生産性向上に、コーチング、ファシリテーションがどう役立っているかを学ぶ。

獲得目標

企業におけるヒューマンマネジメント(人的資源管理)は、心理学の諸理論の援用により構成、運用されている。静的アプローチとしての人事制度設計には、主として動機づけ理論。目標管理を中心とした、動的アプローチにはコーチング、ファシリテーションなどの行動科学の考え方が援用されている。本講座では、コーチング、ファシリテーションが企業内でどう活用され、どのような効果をあげているかを理解し、心理学を学んだものが企業内で、それをどう活用すべきかのポイントを習得する。

授業の内容

連続した三日間の集中講義により、企業社会で求められているコーチングとファシリテーションの基本スキルを習得する。

内 容

- 第1回 企業社会で期待される心理学とは？ 大学で学ぶ心理学と、社会人が勉強したい心理学とのギャップ。企業が期待する「スキルとしての心理学」を理解しよう。
- 第2回 コーチングの本質である、人の話をよく聴いて、仕事に役立てるスキル。例えば、モノが受ける営業マンになるためのヒヤリングにコーチングを活用する。良い人材を見つけるための採用面接に役立つコーチングを理解しよう。
- 第3回 企業でよく使われている心理学の諸理論のうち、TA理論について理解する。TA理論が、企業での人材育成に使われる理由と、その活用法のポイントを理解する。
- 第4回 TA理論の具体的な理解のため、エゴグラム分析を体験する。エリック・バーンの自我状態分析の考え方と、企業におけるその活用法を理解する。
- 第5回 TA理論のうち、ストローク/ディスカウント分析について学ぶ。企業での一般的なストローク活用法や、ゲーミフィケーションと連動させて全社を活性化させた事例などを理解する。
- 第6回 優良企業では従業員のキャリア開発についても熱心なトレーニングが行われている。代表的な援用理論である、エドガー・社員の自己成長のためのキャリア・アンカー理論について理解する。
- 第7回 企業で行われている人材教育としてのコーチングの位置づけを理解する。なぜ企業がコーチングを必要としているか、他者に語り説得するスキルを習得する。
- 第8回 他者への支援スキルとしてのコーチングにおける、他者理解のためのTA、エゴグラムの活用法を理解する。併せて、学生としてのコーチングの具体的な練習法を理解する。
- 第9回 企業における組織活性化と動機づけ理論の関係を理解する。ハーツバーグの二要因理論と、マズローの五段階説のおさらいを兼ねる。
- 第10回 ファシリテーションおよびチェンジエージェントという考え方を知り、企業における会議やミーティング時のファシリテーションの具体的な活用法を理解する。
- 第11回 企業から期待されるファシリテーションの基本的なスキルと、そのトレーニングの方法を会する。
- 第12回 企業に入ると必ず出会う目標管理とその基本的な考え方を理解する。企業社会に与えているドラッカー理論の影響と、その考え方のポイントを理解する。
- 第13回 企業に入ると必ず出会う目標管理とその基本的な考え方を理解する。企業社会に与えているドラッカー理論の影響と、その考え方のポイントを理解する。
- 第14回 目標管理とリーダーシップ、企業が求める人材へのコンピテンシー概念を理解し、その中でコーチングがどういう役割を果たしているのかを理解する。
- 第15回 自分自身が学んだ心理学やカウンセリングを、自分の人生にどう役立てようとするかを考察する。エドガー・シャインのキャリアアンカーモデルを援用して、受講者自身のキャリアデザインを体験することで、その技法を習得する。

授業以外での学習方法

教科書

心理学を学ぶ学生のためのコーチングとファシリテーション入門

著者： 本山雅英

出版社： 北大路書房

出版年： 2014年予定

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

第15回終了時に、レポート課題を課す。50%

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語VI <Za>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件	クラス指定
担当者 弥永 啓子	

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

12月のTOEIC試験で750点以上を目指す。Part 7 頻出の実社会で実用性の高い語彙・表現を受容モードで理解することができる。Part 7 頻出の実用文書のパターンを理解するとともに、そうした文書を一定速度で理解することができる。

授業の内容

TOEIC試験得点アップのため、リーディングセクションの読解パートの頻出パターンを講義、演習、グループワークで学んでゆく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 前期文法項目復習(1)
- 第2回 前期文法項目復習(2), 実践演習
- 第3回 実践練習 広告文の典型的なパターン
- 第4回 前期文法項目復習(3), 実践演習
- 第5回 実践練習 書式の典型的なパターン
- 第6回 前期文法項目復習(4), 実践演習
- 第7回 実践練習 通信文の典型的なパターン
- 第8回 前期文法項目復習(5), 実践演習
- 第9回 実践練習 通知文の典型的なパターン
- 第10回 前期文法項目復習(6), 実践演習
- 第11回 実践練習 求人広告の典型的なパターン
- 第12回 前期文法項目復習(7), 実践演習
- 第13回 実践練習 記事の典型的なパターン
- 第14回 前期文法項目復習(8), 実践演習
- 第15回 実践練習 保証書の典型的なパターン
- 第16回 2文書問題の典型的なパターン(1)
- 第17回 2文書問題の典型的なパターン(2)
- 第18回 2文書問題の典型的なパターン(3)
- 第19回 総復習
- 第20回 実践問題 (1)
- 第21回 実践問題 (2)
- 第22回 実践問題 (3)
- 第23回 実践問題 (4)
- 第24回 実践問題 (5)
- 第25回 実践問題 (6)
- 第26回 実践問題 (7)
- 第27回 実践問題 (8)
- 第28回 実践問題 (9)
- 第29回 模擬問題、解答解説
- 第30回 模擬問題解説、弱点補強

授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施し、毎週リスニングを中心とする宿題を課すので、これらをしっかりとこなすようにしてください。

教科書

TOEICテスト本番攻略リーディング10回模試

著者： カン・ジンオー、カン・ウォンジー

出版社： 学研

出版年： 2010

ISBN： 9784053032034

The TOEIC Test Trainer, Listening Supplement

著者： Geoffrey Tozer, 他

出版社： Cengage Learning

出版年： 2007

ISBN： 9784902902860

参考書

成績評価

試験（20%）

小テスト（60%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（0）

参加度（0）

1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC600点以上の学生が対象となります。600点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。3. 成績評価の留意点: 上記試験成績は12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(後期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。成績評価の20%はTOEICスコアに基づくものとします。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語VI <Zb>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件	クラス指定	
担当者	栗田 梨津子	

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEICテストのスコアアップ(12月のテストで600点以上)を目標に、様々な場面で用いられる実践的な英語を正確かつ迅速に理解できるようになるためのスキルを身につけること。

授業の内容

前期に引き続き、スコアアップに必要な語彙・文法力を強化します。同時に、授業ではできるだけ多くの練習問題をこなすことにより、応用力を養成します。※注意事項 1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC500点以上の学生が対象となります。500点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。TOEICテストの頻出事項をおさえながら、各セクションで正解率を上げるための基礎的な語彙・文法力を強化します。

内 容

- 第1回 授業概要の説明 TOEIC対策のための学習方法に関する説明
- 第2回 リスニング弱点補強、文法(不定詞・動名詞)
- 第3回 リスニング弱点補強、文法(接続詞)
- 第4回 問題演習
- 第5回 リスニング弱点補強、文法(前置詞)
- 第6回 問題演習
- 第7回 リスニング弱点補強、文法(関係詞)
- 第8回 問題演習
- 第9回 リスニング弱点補強、文法(分詞)
- 第10回 問題演習
- 第11回 文法(時制問題と代名詞問題)、読解(説明書、契約書、保証書)
- 第12回 問題演習
- 第13回 文法(つなぎ言葉)、読解(ダブルパッセージ)
- 第14回 問題演習
- 第15回 リスニング総合問題演習
- 第16回 リスニング総合問題演習
- 第17回 語彙・文法総合問題演習
- 第18回 語彙・文法総合問題演習
- 第19回 読解総合問題演習
- 第20回 読解総合問題演習
- 第21回 模擬試験1
- 第22回 模擬試験1の解説
- 第23回 模擬試験2
- 第24回 模擬試験2の解説
- 第25回 模擬試験3
- 第26回 模擬試験3の解説
- 第27回 語彙・文法弱点補強
- 第28回 語彙・文法実践演習
- 第29回 読解弱点補強
- 第30回 読解実践演習

授業以外での学習方法

毎回課題と小テストをしっかりとこなしてください。

教科書

TOEICテスト書き込みドリル スコア650 文法編

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： 2010

ISBN:

Quick Start for the TOEIC Test Level 3

著者： Kazushige Cho他

出版社： Macmillan Language House

出版年： 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験（20）

小テスト（60）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

上記試験成績は、12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです（後期中の公開テストでも可）。受講者は全員、IPもしくは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意してください。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化財Ⅱ <Z>

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子・脇田 修・脇田 晴子

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々

獲得目標

“都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

内 容

- 第1回 都城の変遷[田端]
- 第2回 平安京の成立[田端]
- 第3回 平安京に暮らす人々[田端]
- 第4回 院政期の京都[田端]
- 第5回 京一鎌倉をつなぐ人々[田端]
- 第6回 「このごろ都にはやるもの」ー南北朝期の京都[田端]
- 第7回 室町幕府の成立と京の都[田端]
- 第8回 土一揆の時代[田端]
- 第9回 京の商工業者[田端]
- 第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都[田端]
- 第11回 祇園祭と京の町[脇田晴子]
- 第12回 中世京都の芸能[脇田晴子]
- 第13回 織田信長と京都[脇田修]
- 第14回 豊臣政権と京の町[脇田修]
- 第15回 元禄時代の京都[脇田修]

授業以外での学習方法

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

物語 京都の歴史

著者: 脇田修・晴子

出版社：（中央公論新社）

出版年： ISBN：

女性芸能の源流

著者： 脇田晴子

出版社：（角川書店）

出版年： ISBN：

中世京都と祇園祭

著者： 脇田晴子

出版社：（中央公論新社）

出版年： ISBN：

秀吉の経済感覚

著者： 脇田修

出版社：（中央公論社）

出版年： ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年： ISBN：

足利義政と日野富子

著者： 田端泰子

出版社：（山川出版社）

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（100%）

参加度（ ）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ <a>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小林 亮子	

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(")
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)
- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9784893118141

参考書

成績評価

試験（0%）

授業中課題（30%）

参加度（50%）

小テスト（0%）

授業中発表等（20%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ **

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小林 亮子	

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(")
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)
- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9784893118141

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ <c>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小林 亮子	

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(")
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)
- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9784893118141

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ <d>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	小林 亮子	

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ
- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(//)
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9784893118141

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ <e>**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	梅村 みずほ	

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(")
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)
- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9784893118141

参考書

成績評価

試験（0%）

授業中課題（30%）

参加度（50%）

小テスト（0%）

授業中発表等（20%）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ** <f>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	100
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	梅村 みずほ	

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(")
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)
- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9784893118141

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 英語ⅣA <Za>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担当者 久保田 美佳		
テーマ		
Academic Readingの実践		

獲得目標

一般的な英語で書かれた文献を読んで自力である程度理解できるようになる。専門分野の基礎語彙を習得する。英語の音とリズムに慣れる。

授業の内容

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

内 容

- 第1回 授業オリエンテーション Unit 1 What is Stress?
- 第2回 Unit 2 What Causes Stress? Unit 3 What Is the Stress Response?
- 第3回 Unit 4 How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress?
- 第4回 Unit 5 How are Bodily Systems Affected by Stress?
- 第5回 Unit 6 Unhealthy Stress: How Can We Resist It?
- 第6回 Unit 7 Laugh Unit 8 Get Rid of Anger
- 第7回 Review Unit 1-8
- 第8回 Unit 9 Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists
- 第9回 Unit 10 Adapt Your Environment
- 第10回 Unit 11 Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection
- 第11回 Unit 12 Take Time Out for Meals
- 第12回 Unit 13 Try Aerobic Exercise and Take a Walk Unit 14 Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw
- 第13回 Unit 15 Reaching the True Relaxation State
- 第14回 Review Unit 9-15
- 第15回 Listening and Vocabulary

授業以外での学習方法

毎週授業で扱う箇所を事前に読んで来ること。また、単語テストを随時行うのでその準備も忘れないようにして下さい。

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す

著者： 田部井世志子、井上径子

出版社： 朝日出版

出版年： 2006

ISBN: 4255154228C1082

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

習熟度を測るため、定期的にテストを行います。上記に、統一期末英語テスト20%が加算されます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本事情Ⅱ <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 30

履修条件 外国人留学生のみ履修可

クラス指定

担当者 河村 静江

テーマ

日本語運用能力の向上

獲得目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となるマナー・会話・電話応対などの基礎を身に着ける。

授業の内容

ビジネス用語の理解・会話の聴解・会話の練習等を行う。

内 容

- 第1回 アピールポイントを意識した自己紹介(1)
- 第2回 アピールポイントを意識した自己紹介(2)
- 第3回 ビジネスマナーと敬語の基本(1)
- 第4回 ビジネスマナーと敬語の基本(2)
- 第5回 電話を受ける(1)
- 第6回 電話を受ける(2)
- 第7回 電話を受ける(3)
- 第8回 電話を受ける(4)
- 第9回 電話をかける(1)
- 第10回 電話をかける(2)
- 第11回 電話をかける(3)
- 第12回 電話をかける(4)
- 第13回 確認する
- 第14回 電話を切る
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

しごとの日本語(電話応対基礎編)

著者: 奥村真希他

出版社: アルク
出版年: 2007年

ISBN:

成績評価

試験 (60%)
授業中課題 ()
参加度 (40%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **日本事情Ⅱ **

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定	
担当者 河村 静江		

テーマ

日本語運用能力の向上

獲得目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となるマナー・会話・電話応対などの基礎を身に着ける。

授業の内容

ビジネス用語の理解・会話の聴解・会話の練習等を行う。

内 容

- 第1回 アピールポイントを意識した自己紹介(1)
- 第2回 アピールポイントを意識した自己紹介(2)
- 第3回 ビジネスマナーと敬語の基本(1)
- 第4回 ビジネスマナーと敬語の基本(2)
- 第5回 電話を受ける(1)
- 第6回 電話を受ける(2)
- 第7回 電話を受ける(3)
- 第8回 電話を受ける(4)
- 第9回 電話をかける(1)
- 第10回 電話をかける(2)
- 第11回 電話をかける(3)
- 第12回 電話をかける(4)
- 第13回 確認する
- 第14回 電話を切る
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

しごとの日本語(電話応対基礎編)

著者: 奥村真希他

出版社: アルク
出版年: 2007年

ISBN:

成績評価

試験 (60%)
授業中課題 ()
参加度 (40%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本事情Ⅳ <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員 30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担当者 佐野 裕子	

テーマ

日本の文化・慣習を学ぶとともに、受講者自身の出身地・出身国の文化・慣習と比較し、発表やレポート作成を行う。

獲得目標

日本の文化・慣習を学ぶだけでなく、受講者自身の出身地・出身国の文化・慣習も振り返り、物事を相対的に捉える姿勢を身につける。また、発表やレポート作成の仕方を学ぶとともに、授業内はピア活動を行い、受講者同士で共に改善しあうためのストラテジーを身につける。

授業の内容

日本の伝統文化や日本社会で守られている慣習を学び、受講者自身の出身地・出身国の文化や慣習と比較を行う。発表やレポートについては、受講者自身でテーマを選び、授業後期に実施する。その際、受講者同士のピア活動によって、自身の発表やレポートを互いに改善していく。なお、日本事情aと日本事情bは、原則同一内容で授業を開講する。また、場合によっては学外授業を行うことがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス・授業説明・評価方法説明
- 第2回 ライフサイクルに関する文化・慣習と社会1(乳児・幼児)
- 第3回 ライフサイクルに関する文化・慣習と社会2(青少年)
- 第4回 ライフサイクルに関する文化・慣習と社会3(成人)
- 第5回 ライフサイクルに関する文化・慣習と社会4(老人)
- 第6回 人間関係に関する文化・慣習1(マナー)
- 第7回 人間関係に関する文化・慣習2(冗談やほめことば)
- 第8回 人間関係に関する文化・慣習3(贈答と返礼)
- 第9回 学生発表1
- 第10回 学生発表2
- 第11回 学生発表3
- 第12回 学生発表4
- 第13回 レポート作成1(構成)
- 第14回 レポート作成2(下書きフィードバック)
- 第15回 レポート提出・まとめ

授業以外での学習方法

毎回課題を提示するので、必ず翌週に提出すること。

教科書

配布プリント

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本事情Ⅳ

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	30
履修条件 外国人留学生のみ履修可	クラス指定	
担当者	佐野 裕子	

テーマ

日本の文化・慣習を学ぶとともに、受講者自身の出身地・出身国の文化・慣習と比較し、発表やレポート作成を行う。

獲得目標

日本の文化・慣習を学ぶだけでなく、受講者自身の出身地・出身国の文化・慣習も振り返り、物事を相対的に捉える姿勢を身につける。また、発表やレポート作成の仕方を学ぶとともに、授業内はピア活動を行い、受講者同士で共に改善しあうためのストラテジーを身につける。

授業の内容

日本の伝統文化や日本社会で守られている慣習を学び、受講者自身の出身地・出身国の文化や慣習と比較を行う。発表やレポートについては、受講者自身でテーマを選び、授業後期に実施する。その際、受講者同士のピア活動によって、自身の発表やレポートを互いに改善していく。なお、日本事情aと日本事情bは、原則同一内容で授業を開講する。また、場合によっては学外授業を行うことがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス・授業説明・評価方法説明
- 第2回 ライフサイクルに関する文化・慣習と社会1(乳児・幼児)
- 第3回 ライフサイクルに関する文化・慣習と社会2(青少年)
- 第4回 ライフサイクルに関する文化・慣習と社会3(成人)
- 第5回 ライフサイクルに関する文化・慣習と社会4(老人)
- 第6回 人間関係に関する文化・慣習1(マナー)
- 第7回 人間関係に関する文化・慣習2(冗談やほめことば)
- 第8回 人間関係に関する文化・慣習3(贈答と返礼)
- 第9回 学生発表1
- 第10回 学生発表2
- 第11回 学生発表3
- 第12回 学生発表4
- 第13回 レポート作成1(構成)
- 第14回 レポート作成2(下書きフィードバック)
- 第15回 レポート提出・まとめ

授業以外での学習方法

毎回課題を提示するので、必ず翌週に提出すること。

教科書

配布プリント

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本文化演習Ⅱ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 30
履修条件 外国人留学生および履修許可を得た日本人学生のみ履修可	クラス指定
担当者 佐野 裕子	

テーマ

日本の伝統文化に関する知識を学び、実際に体験して理解を深める。

獲得目標

日本の古都と言われる京都に根付く文化を中心に、実際に受講者自身が文化体験をし日本文化への理解を深める。

授業の内容

毎回テーマを設定し、受講者には発表と文化体験をしてもらう。その際、授業中に毎回作品や感想を提出してもらう。また、必要に応じて学外授業を行うため、現地への移動が必要となる場合がある。「日本文化演習Ⅱ」の前後に他の授業を入れないほうが望ましい。※外国人学生については、2014年度前期受け入れの特別聴講生のみを対象にする。2014年度後期受け入れの特別聴講生の履修は許可しない。

内 容

- 第1回 ガイダンス・授業説明・評価方法説明
- 第2回 神社仏閣1(発表)
- 第3回 神社仏閣2(学外授業)
- 第4回 和室でのマナー
- 第5回 茶道
- 第6回 書道
- 第7回 短歌と俳句
- 第8回 落語
- 第9回 デザインと模様
- 第10回 京都の産業1(発表)
- 第11回 京都の産業2(学外授業)
- 第12回 年末年始の行事
- 第13回 食文化1(発表)
- 第14回 食文化2(調理実習)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業前に自分の母語で、テーマに関する基礎知識を入れておくこと。

教科書

配布プリント

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象にしない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教養入門〈Re〉

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 松下 幸治

テーマ

大学で「学ぶ」ことの面白さが体験的に実感できるとともに、広く教養を身につけて自らの将来が展望できる。

獲得目標

自身の「心の安全保障感」ともいうべき安心安全の感覚を関係性の中で賦活し、「住まい」「地域社会」「目的社会」の中での自身の居場所を探索する。目的社会としての大学で他者とのコミュニケーションを通して「教養」を身につけることの重要性が理解できる。その過程で自らの人生を物語ることとともに真の自己発見能力を身につける。

授業の内容

15回を通じてグループ・ワーク、個人面談を織り交ぜ、授業の目的(獲得目標)を目指す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション～大学という居場所～
- 第2回 居場所論①～「人間的居場所」について～
- 第3回 居場所論②～「社会的居場所」について～
- 第4回 青年期の心性と特質～子どもが大人になるということ～
- 第5回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」そして「現実(reality)」
- 第6回 からだの知をとりもどす～イメージと身体感覚～
- 第7回 迷うところの整理学～そとところを置いといて～
- 第8回 「個人神話」という概念～自身の人生を物語る力～
- 第9回 「自立」とは何か～individuationについて～
- 第10回 「共生」とは何か～convivialityについて～
- 第11回 「ヨク隠レタル者ヨク生キタリ」
- 第12回 生きた「私—あなた関係」とコミュニケーション
- 第13回 「ふたり居るからひとりになれる」～capacity to be alone～
- 第14回 「自分が本気でやりたいこと」～自己発見と将来の展望～
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

何か言いたいことが出てきたら迷わず担当教員に連絡すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (20)

小テスト ()
授業中発表等 ()

aky101a122

参加度（80）

担当教員と常時連絡を取り続けること。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Aa〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	青木 寛史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

aky301d550

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Ab〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	白井 安夫	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Ac>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	土井 一弘	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Ae〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	奥田 久美子	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

aky301d555

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Af>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	木原 雅子	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Ag>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	関 浩成	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Ba〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	青木 寛史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bb>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	白井 安夫	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bc>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	土井 一弘	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

aky301d560

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bd>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	池本 浩章	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

aky301d561

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Be〉

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	奥田 久美子	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bf>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	木原 雅子	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bg>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	関 浩成	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <a>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	青木 寛史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	白井 安夫	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Ah>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	宮崎 孝史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

aky301d570

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bh>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	大学指定
担当者	宮崎 孝史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橋のポートフォリオ

著者： 京都橋大学

出版社： 京都橋大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

aky301d571

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報処理演習VI

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	36
履修条件	クラス指定	
担当者	三輪 幸一	

テーマ

プレゼンテーションとマルチメディア素材の作成

獲得目標

PwerPointによるプレゼンテーション作成及びFlashアニメーションの作成やSkechUpによる3D作成ができることを目指す

授業の内容

授業では先ずPowerPointを活用したプレゼンテーションの作成を行います。更にコンピュータ上での静止画像のマルチメディア表現の技術としてフォトタッチ(画像の編集・合成)、アニメーション動画素材の作成技術としてFlashアニメーション、三次元マルチメディア素材の作成技術として3Dグラフィックス作成の基礎技術を修得します。ホームページ上で動きを与えるアニメーションとしてFlashアニメーションがよく使われています。Flashアニメーションにより、映画のタイトルロゴのような迫力ある演出や迫力あるリアルなアニメーションを作成できます。FlashアニメーションはWebデザイナーの基礎技術にもなっています。授業ではホームページ上のアニメーションとして人気のあるFlashアニメーションの作成のしかたを修得します。授業では「FlashアニメーションやFlashロゴデザインと表現の可能性」と「楽しさ、面白さ」を追求しながら授業をすすめていきます。また三次元マルチメディア素材作成技術としてSkechUpという3Dグラフィックス作成ソフトウェアにより建物などの三次元物体の作成の基礎技術を修得します。

内 容

- 第1回 ・PowerPointにより世界遺産や歴史的建造物のプレゼンテーションを作成してみる
- 第2回 ・PowerPointにより世界遺産や歴史的建造物のプレゼンテーションを作成してみる
- 第3回 ・PowerPointにより商品のプレゼンテーションを作成してみる
- 第4回 ・画像編集ソフトPixelによる画像のフォトタッチ(画像の編集・合成基礎)
- 第5回 ・画像編集ソフトPixelによる画像のフォトタッチ(画像の編集・合成応用)
- 第6回 ・Flashの図形描画の基本
- 第7回 ・球の移動と長方形が転がるモーショントーンによるアニメーションの基本 ・トトロと風船がふんわりと上昇するアニメーション ・ロゴが集結するアニメーション
- 第8回 ・パスに沿って鳥と風船が移動するアニメーション ・階段を回転しながら転がり落ちるアニメーション ・シヨパンのレリーフが分解・統合するアニメーション
- 第9回 ・ロゴが1文字ずつ色を変えながら落下するロゴアニメーション ・ランポリンズームと落下するロゴを組み合わせたアニメーション
- 第10回 ・水面に落下したロゴの周囲に波紋の広がるアニメーション
- 第11回 ・マウスクリックによりランプが点灯するアニメーション ・シェーブトウインによる立方体が転がるアニメーション
- 第12回 ・画像がフェードイン・フェードアウトし移動するアニメーション ・画像の遷移効果と移動を組み合わせたアニメーション
- 第13回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの基礎
- 第14回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成(建築物の作成 I)
- 第15回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成(BurgやSchrossなどの建築物の作成 II)

授業以外での学習方法

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

初めてのFlashCS5

<http://www.adobe.com/jp/devnet/flash/articles/flas>

FlashCS5のチュートリアル of 解説があります

FLASH講座1234

<http://flash1234.net/index.htm>

画像のアニメーションの作成例の解説があります

2014 Syllabus

科目名 中国語 I <e>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	蒲 豊彦	

テーマ

中国語入門

獲得目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の内容

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課～3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課～5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課～7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 中国語 I <f>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	蒲 豊彦	

テーマ

中国語入門

獲得目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の内容

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ~する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ~したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課~3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+~する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課~5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課~7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 朴 惠貞	

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

獲得目標

①自由自在に自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているので検定対策もできる。

内 容

- 第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
- 第3回 「ヘヨ体」1
- 第4回 代名詞の縮約形1
- 第5回 「ヘヨ体」2
- 第6回 代名詞の縮約形2
- 第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ①
- 第8回 「ヘヨ体」3
- 第9回 実践会話と検定対策 4
- 第10回 「ヘヨ体」の過去形
- 第11回 接続詞の表現
- 第12回 時刻の表現
- 第13回 一日のスケジュール
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ②
- 第15回 助詞、疑問詞
- 第16回 実践会話と検定対策 5
- 第17回 変則活用1
- 第18回 変則活用1の過去形
- 第19回 変則活用2
- 第20回 変則活用2の過去形、副詞1
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ③
- 第22回 進行形、希望の表現
- 第23回 長文を読んでみよう!
- 第24回 尊敬の表現
- 第25回 特別な尊敬語の表現
- 第26回 副詞2、勧誘・意志の表現
- 第27回 実践会話と検定対策 6
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ④
- 第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聴くこと。3. 韓国のドラマ・映画とK-POPを楽しみながら、韓国社会を理解すること。

教科書

サクサクっと韓国語

著者： 金美華

出版社： 白帝社

出版年： ISBN：

参考書

適宜、資料配布

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（20）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定	
担当者 朴 惠貞		

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

獲得目標

①自由自在に自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているので検定対策もできる。

内 容

- 第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
- 第3回 「ヘヨ体」1
- 第4回 代名詞の縮約形1
- 第5回 「ヘヨ体」2
- 第6回 代名詞の縮約形2
- 第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ①
- 第8回 「ヘヨ体」3
- 第9回 実践会話と検定対策 4
- 第10回 「ヘヨ体」の過去形
- 第11回 接続詞の表現
- 第12回 時刻の表現
- 第13回 一日のスケジュール
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ②
- 第15回 助詞、疑問詞
- 第16回 実践会話と検定対策 5
- 第17回 変則活用1
- 第18回 変則活用1の過去形
- 第19回 変則活用2
- 第20回 変則活用2の過去形、副詞1
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ③
- 第22回 進行形、希望の表現
- 第23回 長文を読んでみよう!
- 第24回 尊敬の表現
- 第25回 特別な尊敬語の表現
- 第26回 副詞2、勧誘・意志の表現
- 第27回 実践会話と検定対策 6
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ④
- 第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聴くこと。3. 韓国のドラマ・映画とK-POPを楽しみながら、韓国社会を理解すること。

教科書

サクサクっと韓国語

著者： 金美華

出版社： 白帝社

出版年： ISBN：

参考書

適宜、資料配布

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（20）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ <c>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 崔孝先	

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

獲得目標

①自由自在に自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているので検定対策もできる。

内 容

- 第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
- 第3回 「ヘヨ体」1
- 第4回 代名詞の縮約形1
- 第5回 「ヘヨ体」2
- 第6回 代名詞の縮約形2
- 第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ①
- 第8回 「ヘヨ体」3
- 第9回 実践会話と検定対策 4
- 第10回 「ヘヨ体」の過去形
- 第11回 接続詞の表現
- 第12回 時刻の表現
- 第13回 一日のスケジュール
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ②
- 第15回 助詞、疑問詞
- 第16回 実践会話と検定対策 5
- 第17回 変則活用1
- 第18回 変則活用1の過去形
- 第19回 変則活用2
- 第20回 変則活用2の過去形、副詞1
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ③
- 第22回 進行形、希望の表現
- 第23回 長文を読んでみよう!
- 第24回 尊敬の表現
- 第25回 特別な尊敬語の表現
- 第26回 副詞2、勧誘・意志の表現
- 第27回 実践会話と検定対策 6
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ④
- 第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聴くこと。3. 韓国のドラマ・映画とK-POPを楽しみながら、韓国社会を理解すること。

教科書

サクサクっと韓国語

著者： 金美華

出版社： 白帝社

出版年： ISBN：

*テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

参考書

適宜、資料配布

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ <d>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件 韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 崔孝先	

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

獲得目標

①自由自在に自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているので検定対策もできる。

内 容

- 第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
- 第3回 「ヘヨ体」1
- 第4回 代名詞の縮約形1
- 第5回 「ヘヨ体」2
- 第6回 代名詞の縮約形2
- 第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ①
- 第8回 「ヘヨ体」3
- 第9回 実践会話と検定対策 4
- 第10回 「ヘヨ体」の過去形
- 第11回 接続詞の表現
- 第12回 時刻の表現
- 第13回 一日のスケジュール
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ②
- 第15回 助詞、疑問詞
- 第16回 実践会話と検定対策 5
- 第17回 変則活用1
- 第18回 変則活用1の過去形
- 第19回 変則活用2
- 第20回 変則活用2の過去形、副詞1
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ③
- 第22回 進行形、希望の表現
- 第23回 長文を読んでみよう!
- 第24回 尊敬の表現
- 第25回 特別な尊敬語の表現
- 第26回 副詞2、勧誘・意志の表現
- 第27回 実践会話と検定対策 6
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ④
- 第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聴くこと。3. 韓国のドラマ・映画とK-POPを楽しみながら、韓国社会を理解すること。

教科書

サクサクっと韓国語

著者： 金美華

出版社： 白帝社

出版年： ISBN：

*テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

参考書

適宜、資料配布

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 韓国語Ⅳ

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員 50
履修条件 韓国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者 朴 惠貞	
テーマ	
韓国語の習熟	

獲得目標

①韓国語会話能力の一層の向上と共に、長文の読み書きと聞き取りができることを目指す。②ハングル能力検定試験4級レベルの力を付ける。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅲ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを体系的に積み上げていく。その際には、DVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。

内 容

- 第1回 夏休みの過ごし方を話してみよう！「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習②
- 第3回 計画・予定・許可・承諾表現
- 第4回 意思表現、形容詞の連体形の表現
- 第5回 作文をしてみよう！①
- 第6回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！①
- 第7回 可能・不可能と能力の有無を表す表現 動作の進行表現
- 第8回 条件・選択表現、用言の変則活用形の表現①
- 第9回 理想のタイプについて話してみよう！ 経験表現
- 第10回 動詞の連体形の表現
- 第11回 読解をしてみよう！①
- 第12回 買い物をしてみよう！用言の変則活用形の表現②
- 第13回 意図・許可表現、色についての表現
- 第14回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！②
- 第15回 道案内をしてみよう！ 授受表現
- 第16回 丁寧な要請・状況の説明・方向表現
- 第17回 作文をしてみよう！②
- 第18回 当為・禁止表現
- 第19回 確認・感嘆表現、用言の変則活用形の表現③
- 第20回 日韓の文化の類似点・相違点について 韓国語で話してみよう！
- 第21回 読解をしてみよう！②
- 第22回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！③
- 第23回 推量・推測・同時動作の表現
- 第24回 作文をしてみよう！③
- 第25回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！①
- 第26回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！②
- 第27回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！③
- 第28回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！④
- 第29回 「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。
2. 韓国の新聞・雑誌などを積極的に読むこと。
3. 辞書を用いて積極的に作文を試みる。

教科書

キャンパス韓国語

著者： 曹美庚その他

出版社： 白帝社

出版年： ISBN：

* 適宜、資料配布

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

参考書

ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』の他

著者： 油谷幸利その他編

出版社： 小学館

出版年： ISBN：

成績評価

試験（20）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 フランス語Ⅱ

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	フランス語Ⅰを修得済み、 もしくは同等以上の者	クラス指定
担当者	志賀 亮一	
テーマ	フランス語の基礎(その2)	

獲得目標

フランス語Ⅰにつづいて、フランス語の発音と文法の重要な規則のうち、もっとも基本的な項目を学び、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

授業の内容

フランス語Ⅰと同様、「講義による説明 → 音声と筆記による反復練習 → 練習問題＋小テスト」のサイクルで、各事項を直実に身につける。

内 容

- 第1回 不規則動詞 aller の直説法現在と命令法①
- 第2回 不規則動詞 aller の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
- 第3回 不規則動詞 venir の直説法現在と命令法①
- 第4回 不規則動詞 venir の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
- 第5回 不規則動詞 faire の直説法現在と命令法①
- 第6回 不規則動詞 faire の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
- 第7回 非人称表現(etre と avoir)①
- 第8回 非人称表現(etre と avoir)②・練習問題＋小テスト
- 第9回 非人称表現(天候)①
- 第10回 非人称表現(天候)②・練習問題＋小テスト
- 第11回 非人称表現(falloi ほか)①
- 第12回 非人称表現(falloi ほか)②・練習問題＋小テスト
- 第13回 第4章のリーダー
- 第14回 不規則動詞 prendre の直説法現在と命令法①
- 第15回 不規則動詞 prendre の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
- 第16回 不規則動詞 devoir の直説法現在と命令法
- 第17回 不規則動詞 voir の直説法現在
- 第18回 不規則動詞 devoir, voir 練習問題＋小テスト
- 第19回 形容詞・副詞の比較級①
- 第20回 形容詞・副詞の比較級②
- 第21回 形容詞・副詞の比較級③・練習問題＋小テスト
- 第22回 形容詞・副詞の最上級①
- 第23回 形容詞・副詞の最上級②
- 第24回 形容詞・副詞の最上級③・練習問題＋小テスト
- 第25回 関係代名詞 qui
- 第26回 関係代名詞 que
- 第27回 第5章リーダー
- 第28回 第二群規則動詞の直説法現在と命令法①
- 第29回 第二群規則動詞の直説法現在と命令法③・練習問題＋小テスト
- 第30回 疑問形容詞

授業以外での学習方法

初習外国語なので、文法の予習はかなり困難。むしろ、フランス語 I と同様、各回終了ごとに10-20分程度復習することが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと

教科書

オルセー美術館にて-初級フランス語総合教本

著者: 中山真彦

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト (50)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ドイツ語Ⅱ <a>**

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	
担当者	久下 泰弘	
テーマ	ドイツ語入門その2	

獲得目標

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その2ドイツ語検定5級合格を指標として

授業の内容

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

内 容

- 第1回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」話法の助動詞、未来形
- 第2回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文
- 第3回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞
- 第4回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」 チケットをかうとき、 森鷗外とドイツ ドイツ留学の先駆者
- 第5回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化
- 第6回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化
- 第7回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較
- 第8回 Lektion 7 「レストランで食事」 料理を注文するとき 負のエネルギー 核から各へ
- 第9回 Lektion 8 「週末の外出」動詞の3基本形
- 第10回 Lektion 8 「週末の外出」現在完了形
- 第11回 Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞
- 第12回 Lektion 8 「週末の外出」枠構造 過去を語るとき(現在完了) 天職 思いの強さが生み出すもの
- 第13回 Lektion9 「ヴァイマルで」過去形
- 第14回 Lektion9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞
- 第15回 Lektion9 「ヴァイマルで」「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞
- 第16回 Lektion9 「ヴァイマルで」 過去を語るとき(過去形) マイスター 縦と横
- 第17回 Lektion10 「冬休みに」zu不定詞句
- 第18回 Lektion10 「冬休みに」関係代名詞
- 第19回 Lektion10 「冬休みに」お祝いの言葉
- 第20回 Lektion10 「冬休みに」 予定を言うとき 祭り 西と東
- 第21回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第22回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第23回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第24回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第25回 ステップアップのためのドイツ語、受動形
- 第26回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法
- 第27回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式
- 第28回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式
- 第29回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明
- 第30回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明

授業以外での学習方法

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

教科書

ブーメラン

著者： 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社： 朝日出版社

出版年： 2013

ISBN： 9784255253602

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者： 根本道也ほか

出版社： 同学社

出版年： 2010

ISBN： 9784810200065

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

出席重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **ドイツ語Ⅱ **

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	
担当者	久下 泰弘	
テーマ	ドイツ語入門その2	

獲得目標

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その2ドイツ語検定5級合格を指標として

授業の内容

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

内 容

- 第1回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」話法の助動詞、未来形
- 第2回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文
- 第3回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞
- 第4回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」 チケットをかうとき、 森鷗外とドイツ ドイツ留学の先駆者
- 第5回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化
- 第6回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化
- 第7回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較
- 第8回 Lektion 7 「レストランで食事」 料理を注文するとき 負のエネルギー 核から各へ
- 第9回 Lektion 8 「週末の外出」動詞の3基本形
- 第10回 Lektion 8 「週末の外出」現在完了形
- 第11回 Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞
- 第12回 Lektion 8 「週末の外出」枠構造 過去を語るとき(現在完了) 天職 思いの強さが生み出すもの
- 第13回 Lektion9 「ヴァイマルで」過去形
- 第14回 Lektion9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞
- 第15回 Lektion9 「ヴァイマルで」「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞
- 第16回 Lektion9 「ヴァイマルで」 過去を語るとき(過去形) マイスター 縦と横
- 第17回 Lektion10 「冬休みに」zu不定詞句
- 第18回 Lektion10 「冬休みに」関係代名詞
- 第19回 Lektion10 「冬休みに」お祝いの言葉
- 第20回 Lektion10 「冬休みに」 予定を言うとき 祭り 西と東
- 第21回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第22回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第23回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第24回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第25回 ステップアップのためのドイツ語、受動形
- 第26回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法
- 第27回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式
- 第28回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式
- 第29回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明
- 第30回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明

授業以外での学習方法

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

教科書

ブーメラン

著者： 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社： 朝日出版社

出版年： 2013

ISBN： 9784255253602

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者： 根本道也ほか

出版社： 同学社

出版年： 2010

ISBN： 9784810200065

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

出席重視

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史学入門

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾下 成敏・小野 浩

テーマ

歴史学の手法と分野

獲得目標

歴史学の考え方を理解する

授業の内容

前半は日本史分野の教員、後半は世界史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介する。

内 容

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 歴史研究の素材と手順
- 第3回 真正な史料は真実を伝えるか
- 第4回 史料を論理的に読む
- 第5回 伝達されるものと伝達されないもの
- 第6回 事実の追求と歴史事象の評価
- 第7回 絵画資料の情報化
- 第8回 西洋史学史概説 ―歴史学(西洋史学)の誕生～歴史学の再検討
- 第9回 社会史 ―普通の人々の歴史
- 第10回 女性史 ―伝統史学への異議申し立て
- 第11回 家族史 ―「近代家族」論をめぐって
- 第12回 心性史 ―子供の「誕生」って何
- 第13回 計量経済史 ―数字は全てを語るか
- 第14回 世界システム論 ―世界近代史をどう見るか
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

参考文献は適宜紹介するので、その精読を期待する。

教科書

プリントを適宜配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

aky501e850

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 京都講座Ⅱ <a>

クラス	配当回生	学部1回生
講義期間 後期	定員	60
履修条件	クラス指定	
担当者	五十川 伸矢	

テーマ

京都の長い歴史を、テーマごとに、文化財を利用しながら解説するとともに、それを詳しく学習できる博物館や美術館、寺院神社についても紹介する。

獲得目標

京都の文化財を広く学ぶことによって、日本歴史における文化の中核部分を見渡すことができることに思い至ってほしい。

授業の内容

埋蔵文化財(遺跡)、美術工芸品、寺院神社の建築・庭園などの多様な京都の文化財を紹介しながら、京都の歴史を解説する。なお、寺院神社の拝観状況、博物館・美術館の開催状況などにおいて、授業内容や学外授業の訪問先・日程を変更することがある。また、学外授業は基本的に土曜日または日曜日(祝祭日)に実施する予定である。

内 容

- 第1回 京都の歴史を語る多様な文化財とその特徴
- 第2回 比叡山西麓の先史時代——京都大学総合博物館
- 第3回 平安京の世界——京都文化博物館・京都アスニー
- 第4回 浄土思想の流行——宇治平等院+鳳翔館
- 第5回 王朝文化・国風文化・渡来文化——京都文化博物館・高麗美術館
- 第6回 古代から中世へ——東山三十三間堂
- 第7回 学外授業 古建築解体修理現場見学(11月3日を予定)
- 第8回 京都国立博物館展示解説
- 第9回 学外授業 京都国立博物館「国宝鳥獣戯画と高山寺」(10.7~11.24)
- 第10回 中世から近世へ——東山広方寺
- 第11回 観光都市京都の成立——東山清水寺
- 第12回 茶道の世界——大西清右衛門美術館
- 第13回 近代岡崎の展開——平安神宮・琵琶湖疏水記念館
- 第14回 京都大学総合博物館の文化史系展示解説
- 第15回 学外授業 京都大学総合博物館

授業以外での学習方法

学外授業として見学する3ヶ所以外に、1つ以上の博物館・美術館や寺院を訪ねて、京都の歴史と文化を満喫して下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70%)
授業中課題 (30%)

小テスト ()
授業中発表等 ()

aky501f050

参加度 ()

最終試験を第16回目に実施します。授業中課題(レポート)は3回(10点×3)で提出してもらいます。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 京都講座Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

京都の寺社や各地にまつわる説話や伝説を学ぶ

獲得目標

京都の文化に対する理解と関心を深める

授業の内容

京都の寺社やその祭りがどのような由来をもち、どのような説話に彩られてきたのかを講義します。なお、取り上げる順序は変更することがあります。

内 容

- 第1回 朱雀門と羅生門にまつわる説話
- 第2回 上御霊神社、下御霊神社について
- 第3回 白峯神宮と鞠精大明神について
- 第4回 阿倍晴明の伝説
- 第5回 葵祭と文学
- 第6回 祇園祭とその縁起
- 第7回 三十三間堂の由来、小テスト①(予定)
- 第8回 清水観音にまつわる伝説
- 第9回 南禅寺と石川五右衛門
- 第10回 六道珍皇寺と矢田寺について
- 第11回 鞍馬と貴船の伝説
- 第12回 老ノ(大枝)坂の鬼の話
- 第13回 蟬丸神社と芸能について
- 第14回 宇治と文学
- 第15回 山科と文学、小テスト②(予定)

授業以外での学習方法

ガイドマップを片手に、自分で京都を歩いてください。

教科書

京都魔界案内

著者: 小松和彦

出版社: 光文社

出版年: 2002

ISBN: 4-334-78143-8

参考書

京都大事典

著者:

出版社：淡交社

出版年： ISBN：

京都市の地名

著者：

出版社：平凡社

出版年： ISBN：

角川日本地名大辞典 上・下

著者：

出版社：角川書店

出版年： ISBN：

京都の魔界をゆく

著者：か舎+菊池昌治

出版社：小学館

出版年：1999 ISBN：4-09-626212-9

京の歴史・文学を歩く

著者：知恵の会

出版社：勉誠出版

出版年：2008 ISBN：978-4-585-05160

新編日本古典文学全集(各作品)

著者：

出版社：小学館

出版年： ISBN：

新潮日本古典集成(各作品)

著者：

出版社：新潮社

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（40）

授業中課題（30）

授業中発表等（ ）

参加度（30）

授業中に小テスト2回(実施時期は事前に予告しますが、上記とずれる場合があります)を行うほか、お正月休みに小レポートを課します。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化 I <eL>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 前期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 田端 泰子・脇田 修・脇田 晴子

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々

獲得目標

“都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

内 容

- 第1回 都城の変遷[田端]
- 第2回 平安京の成立[田端]
- 第3回 平安京に暮らす人々[田端]
- 第4回 院政期の京都[田端]
- 第5回 京一鎌倉をつなぐ人々[田端]
- 第6回 「このごろ都にはやるもの」ー南北朝期の京都[田端]
- 第7回 室町幕府の成立と京の都[田端]
- 第8回 土一揆の時代[田端]
- 第9回 京の商工業者[田端]
- 第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都[田端]
- 第11回 祇園祭と京の町[脇田晴子]
- 第12回 中世京都の芸能[脇田晴子]
- 第13回 織田信長と京都[脇田修]
- 第14回 豊臣政権と京の町[脇田修]
- 第15回 元禄時代の京都[脇田修]

授業以外での学習方法

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

物語 京都の歴史

著者: 脇田修・晴子

出版社：（中央公論新社）

出版年：

ISBN：

女性芸能の源流

著者： 脇田晴子

出版社：（角川書店）

出版年：

ISBN：

中世京都と祇園祭

著者： 脇田晴子

出版社：（中央公論新社）

出版年：

ISBN：

秀吉の経済感覚

著者： 脇田修

出版社：（中央公論社）

出版年：

ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年：

ISBN：

足利義政と日野富子

著者： 田端泰子

出版社：（山川出版社）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（100%）

参加度（ ）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **くらしと経済**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 今久保 幸生

テーマ

くらしと密接に結びついている経済を理解するための、経済学の基礎を学ぶ

獲得目標

経済がくらしとどのように結びついているかを、世間の常識を鵜呑みにせず、経済学概念や考え方をういて論理的に理解するための力を養う。

授業の内容

経済学は「金儲けのための学問」ではありません。20世紀初頭に活躍したイギリスの経済学者A.C.ピグーの言葉にもあるように、それは「人間生活の改良のための学問」です。人間生活の改良のために解決しなければならない経済問題は、その時代毎に変化します。経済学は250年の歴史の中で、さまざまな経済問題にとりくみながら発展してきました。この授業では、こうした経済学発展過程で生まれてきた重要な概念や思考方法を学びながら、経済学が、現代の社会に生きる私たちが取り組まなければならない問題-地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題-にどのように取り組んでいるのかを学びます。

内 容

- 第1回 経済学とは。経済の大きさとは
- 第2回 所得の分配と社会保障
- 第3回 家計の消費と貯蓄
- 第4回 働くことと貧しさ
- 第5回 企業とは
- 第6回 投資とは
- 第7回 政府の役割と税金
- 第8回 政府のお金の使い方
- 第9回 お金の役割
- 第10回 金融とは
- 第11回 金利の決まる仕組み
- 第12回 国境を越える経済活動について
- 第13回 為替レートはどう決まるか
- 第14回 物価について----インフレとデフレ----
- 第15回 経済成長と景気

授業以外での学習方法

授業の予習復習のほか、新聞やテレビのニュースなどで日本経済の動きなどを知ったり、これらを、授業で学んだ基礎理論を当てはめて確かめたりするよう、心がけること。

教科書

目からウロコの経済学入門

著者： 山崎好裕

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2011

ISBN：

参考書

aky701d110

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 経営学概論 <eL>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 前期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 仲田 正機	

テーマ

企業、経営、マネジメントの理論を学び、企業経営の実際を分析する手がかりにする。

獲得目標

「会社(企業)が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解して、企業経営をめぐる社会の仕組み＝社会システムを理解することが、この科目の目標である。

授業の内容

[メディア授業/全15回] 会社の仕組みを明らかにし、経営のノウハウやスキルについても講義します。

内 容

- 第1回 はじめに—企業とは何か、会社とは何か、「会社(企業)が事業を経営する」とは? その仕組みを理解する—
- 第2回 企業における様々な形態について—会社の基本を押さえる—
- 第3回 企業が営む事業の種類と業態に目を向けよう—自社の営む事業やその業態は、会社のどこで決めるのか—
- 第4回 企業における一般的な意思決定の仕組みについて
- 第5回 事業の経営に必要な具体的な仕事(1)—会社の側から見た仕事—
- 第6回 事業の経営に必要な具体的な仕事(2)—業種と業態、個人の入社から退職まで—
- 第7回 経営組織の基本を押さえる—職能部門組織と事業部制組織、ラインとスタッフ—
- 第8回 マネジメントの見方・考え方を知ろう—マネジメント論の源流と主流—
- 第9回 マネジメントへの工学的アプローチ(「科学的管理法」とその後の発展)
- 第10回 マネジメントへの心理・社会学的アプローチ(「人間関係論」とその後の発展)
- 第11回 現代マネジメントの基礎理論—C.I.バーナード『経営者の役割』で示されたこと—
- 第12回 経営における意思決定の理論—H.A.サイモン『経営行動』で示されたこと—
- 第13回 経営における個人と組織の関係—H.A.サイモン「貢献と誘因のシステム」が示すもの—
- 第14回 激変する環境へ適応する戦略的マネジメント、そして競争優位の経営戦略とは?—A.D.チャンドラー、H.I.アンゾフ、M.ポーターが示したこと—
- 第15回 経営の国際化、グローバル化とは何か?—経営の今日的な課題とは?—

授業以外での学習方法

授業中に示されたキーワード、概念、理論、事例(ケース)について、講義の前後には参考文献やインターネット等で再確認しよう。

教科書

テキストは定めません。レジュメを配布して、授業を進めます。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

基礎コース 経営学

著者: 小松 章

出版社：（新世社）

出版年：

ISBN：

イラスト図解 会社のしくみ

著者： 坂田岳史

出版社：（日本実業出版社）

出版年：

ISBN：

現代アメリカ管理論史

著者： 仲田正機

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（100%）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

小テストは第4回、第7回、第9回、第12回、第14回の授業後に行う予定

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **福祉とボランティア <a>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 高原 正興

テーマ

社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方

獲得目標

社会福祉の歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。

授業の内容

レジュメにもとづく講義、ボランティア体験レポート、ビデオ鑑賞レポートなどから構成する

内 容

- 第1回 ガイダンスと福祉・社会福祉・ボランティアの定義
- 第2回 社会福祉の歴史(日本の場合1)
- 第3回 社会福祉の歴史(ビデオ鑑賞)
- 第4回 社会福祉の歴史(日本の場合2)
- 第5回 社会福祉の歴史(英国の場合)
- 第6回 地域福祉の考え方
- 第7回 ボランティア総論
- 第8回 ボランティア各論(委嘱ボランティア)
- 第9回 子ども夜回りボランティア(ビデオ鑑賞)
- 第10回 住民参加とは何か
- 第11回 夕張市と住民参加(ビデオ鑑賞)
- 第12回 社会福祉協議会
- 第13回 山科区社会福祉協議会
- 第14回 まとめ1
- 第15回 まとめ2
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

ボランティア体験レポートを課すので、ボランティア受け入れ先について学習・準備すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（40）

小テスト（）

授業中課題（40）

授業中発表等（）

参加度（20）

授業中課題は、ビデオ鑑賞後のレポート3回とボランティア体験レポートの2種類である。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **福祉とボランティア **

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 高原 正興	

テーマ

社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方

獲得目標

社会福祉の歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。

授業の内容

レジュメにもとづく講義、ボランティア体験レポート、ビデオ鑑賞レポートなどから構成する

内 容

- 第1回 ガイダンスと福祉・社会福祉・ボランティアの定義
- 第2回 社会福祉の歴史(日本の場合1)
- 第3回 社会福祉の歴史(ビデオ鑑賞)
- 第4回 社会福祉の歴史(日本の場合2)
- 第5回 社会福祉の歴史(英国の場合)
- 第6回 地域福祉の考え方
- 第7回 ボランティア総論
- 第8回 ボランティア各論(委嘱ボランティア)
- 第9回 子ども夜回りボランティア(ビデオ鑑賞)
- 第10回 住民参加とは何か
- 第11回 夕張市と住民参加(ビデオ鑑賞)
- 第12回 社会福祉協議会
- 第13回 山科区社会福祉協議会
- 第14回 まとめ1
- 第15回 まとめ2
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

ボランティア体験レポートを課すので、ボランティア受け入れ先について学習・準備すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（40）

小テスト（）

授業中課題（40）

授業中発表等（）

参加度（20）

授業中課題は、ビデオ鑑賞後のレポート3回とボランティア体験レポートの2種類である。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **時事問題研究 <Aa>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

参考書

aky701d750

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **時事問題研究 <Ab>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **時事問題研究 <Ac>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

参考書

aky701d753

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ad>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 禧美 智章

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

aky701d754

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **時事問題研究 <Ae>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 渡邊 浩史

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

aky701d755

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ga>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 矢嶋 光

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

aky701d756

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **時事問題研究 <Gc>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 重松 恵美

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

aky701d757

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ba>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

aky701d760

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **時事問題研究 <Bb>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 橋本 章彦

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Bc>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 古澤 夕起子

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

aky701d763

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **時事問題研究 <Bd>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 禧美 智章

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

参考書

aky701d764

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Be>

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 渡邊 浩史

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

aky701d765

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **時事問題研究 <Gb>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 矢嶋 光

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

aky701d766

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **時事問題研究 <Gd>**

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員 60

履修条件

クラス指定 大学指定

担当者 重松 恵美

テーマ

現代日本が抱える政治経済上の課題の理解

獲得目標

現在の日本が抱える様々な時事問題について理解を深め、社会に対して積極的に関心を持つきっかけ作りとする

授業の内容

授業は指定のワークシートを用いてグループワーク方式で実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンスとグループ分け
- 第2回 グローバリゼーション
- 第3回 領土問題
- 第4回 日本と中国(1)
- 第5回 日本と中国(2)
- 第6回 憲法改正問題(1)
- 第7回 憲法改正問題(2)
- 第8回 アベノミックス
- 第9回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(1)
- 第10回 ASEAN -チャイナ・プラス・ワン(2)
- 第11回 TPP交渉
- 第12回 原発問題
- 第13回 地球環境問題(1)
- 第14回 地球環境問題(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

一部のクラスで外部講師による特別講義の予定がある

教科書

スタートⅢ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **経済学概論Ⅱ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

戦後日本経済の歩みについて学ぶ

獲得目標

敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでの、戦後日本経済の歩みについて学ぶ

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 戦後日本経済の概観
- 第2回 特需景気
- 第3回 もはや戦後ではない
- 第4回 金の卵
- 第5回 エネルギー革命
- 第6回 所得倍増計画
- 第7回 公害
- 第8回 列島改造
- 第9回 ドルショックと石油ショック
- 第10回 日米経済摩擦
- 第11回 分割民营
- 第12回 バブル経済
- 第13回 プラザ合意
- 第14回 外国人労働者
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(特に経済面、社会面、政治面など) 経済問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

医学者は公害事件で何をしてきたのか

著者: 津田敏秀

出版社: 岩波書店

出版年: 2004年

ISBN:

民営化で誰が得をするのか

著者： 石井陽一

出版社： 平凡社

出版年： 2007年

ISBN:

JR福知山線事故の本質

著者： 山口栄一

出版社： NTT出版

出版年： 2007年

ISBN:

<研修生>という名の奴隷労働

著者： 「外国人労働者問題とこれからの日本」編集委員会

出版社： 花伝社

出版年： 2009年

ISBN:

外国人研修生殺人事件

著者： 安田浩一

出版社： 七つ森書館

出版年： 2007年

ISBN:

集団就職の時代

著者： 加瀬和俊

出版社： 青木書店

出版年： 1997年

ISBN:

戦後50年 そのとき日本は 第4巻、第6巻

著者： NHK取材班

出版社： NHK出版

出版年： 1996年

ISBN:

「移民列島」ニッポン

著者： 藤巻秀樹

出版社： 藤原書店

出版年： 2012年

ISBN:

高度成長

著者： 武田晴人

出版社： 岩波書店

出版年： 2008年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 地球生命論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 秋期集中	定員
履修条件	クラス指定
担当者 趙 哲濟	

テーマ

生命の発生から人類が進化・発展して現在に至った地球と生物の歴史の基礎的理解

獲得目標

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解する。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて概観する。

授業の内容

人類史を含む地球と生物の歴史の概要について、スライドを用いた講義を主体に行う。それらの証拠となる化石や考古遺物を理解するために必要な地層学の基礎事項も含めて行う。なお、授業の進捗状況により、内容を一部変更する場合がある。

内 容

- 第1回 先カンブリア時代(1) 地球の年代区分、地球の成り立ちと生命の発生、化学進化
- 第2回 先カンブリア時代(2) 原核生物と真核生物、細菌の光合成による遊離酸素の発生、多細胞生物の出現、全球凍結
- 第3回 古生代(1) 地球の構造と大陸の移動、骨格をもった多細胞生物、脊椎動物の出現
- 第4回 古生代(2) シダ植物の上陸、魚類の繁栄、両生類の上陸、大量絶滅
- 第5回 中生代(1) 超大陸パンゲア、アンモナイト類の進化、恐竜、海と空の爬虫類、鳥類
- 第6回 中生代(2) 裸子植物から被子植物の景観変遷、日本列島の恐竜、恐竜の絶滅
- 第7回 新生代(1) ヒマラヤ山脈とモンスーン気候、南極大陸と環南極海流、日本海と日本列島の成立
- 第8回 新生代(2) 哺乳類の系統と進化
- 第9回 新生代(3) 長鼻類の繁栄、霊長類の進化
- 第10回 第四紀(1) 第四紀とは、層序学の基礎、氷期と間氷期の編年
- 第11回 第四紀(2) 氷期と間氷期の景観、大阪層群、黄檗断層
- 第12回 人類の進化(1) 猿人、直立二足歩行の証拠、年代の調べ方
- 第13回 人類の進化(2) 原人・旧人、石器の発達、第1次出アフリカ
- 第14回 人類の進化(3) 分子系統、新人、第2次出アフリカ、石器の文化、言語、芸術、牧畜・農耕
- 第15回 自然改造と地盤災害、地球と人類の未来を考える(まとめにかえて)

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読み進めるとともに、野外で、地層や河原の堆積物のようす、植生のようすを体験的に観察する機会を積極的につくる。

教科書

参考書

地球生物学

著者： 池谷仙之・北里洋

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2004年

ISBN： 4-13-062711-2

生命と地球の歴史

著者： 丸山茂徳・磯崎行雄

出版社： 岩波新書

出版年： 1998年

ISBN： 4-00-430543-8

リズムカルな地球の変動

著者： 増田富士男

出版社： 岩波書店

出版年： 1993年

ISBN： 4-00-007903-4

繰り返す大量絶滅

著者： 平野弘道

出版社： 岩波書店

出版年： 1993年

ISBN： 4-00-007907-7

人類紀自然学

著者： 人類紀自然学編集委員会

出版社： 共立出版

出版年： 2007年

ISBN：

人類進化の700万年

著者： 三井誠

出版社： 講談社現代新書

出版年： 2005年

ISBN： 4-06-149805-3

出アフリカ記…人類の起源

著者： クリス ストリンガー

出版社： 岩波書店

出版年： 2001年

ISBN： 4-00-023354-8

進化の大爆発…動物のルーツを探る

著者： 大森昌衛

出版社： 新日本出版

出版年： 2000年

ISBN：

絶滅した日本の巨獣

著者： 井尻正二・犬塚則久

出版社： 築地書館

出版年： 1989年

ISBN： 4-8067-1153-5

層序と年代

著者： 長谷川四郎ほか

出版社： 共立出版

出版年： 2006年

ISBN： 4-320-04682-X

成績評価

試験 ()

小テスト (55)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (45)

参加度と授業の中で行う基礎事項に関する小テストで評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **地球環境論 <a>**

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小森 治夫	

テーマ

地球環境問題と水問題

獲得目標

21世紀の最重要化だえである地球環境問題と水問題についての理解を深める

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 地球環境問題と何か
- 第2回 地球温暖化(1)気候大異変
- 第3回 地球温暖化(2)気候大異変
- 第4回 地球温暖化(3)北極大変動
- 第5回 温暖化対策(1)自然エネルギー2001
- 第6回 温暖化対策(2)自然エネルギー2013
- 第7回 温暖化対策(3)低炭素社会
- 第8回 温暖化対策(4)デンマーク・ロラン島
- 第9回 水問題(1)水の世紀が始まった
- 第10回 水問題(2)水の世紀が始まった
- 第11回 水問題(3)アラル海
- 第12回 水問題(4)ウォーター・ビジネス
- 第13回 水問題(5)ウォーター・クライシス
- 第14回 水問題(6)ウォーター・クライシス
- 第15回 エピローグ

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など) 環境問題を取り上げたテレビ番組を見ること

教科書

参考書

不都合な真実

著者: アル・ゴア

出版社: ランダムハウス講談社

出版年: 2006

ISBN:

低炭素経済への道

著者： 諸富徹・浅岡美恵

出版社： 岩波書店

出版年： 2010

ISBN：

地球の水が危ない

著者： 高橋裕

出版社： 岩波書店

出版年： 2003

ISBN：

ウォーター・ビジネス

著者： 中村靖彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2004

ISBN：

ロラン島のエコ・チャレンジ

著者： ニールセン北村朋子

出版社： 野草社

出版年： 2012

ISBN：

地下水は語る

著者： 守田優

出版社： 岩波書店

出版年： 2012

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **地球環境論 **

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

地球環境問題と水問題

獲得目標

21世紀の最重要化だえである地球環境問題と水問題についての理解を深める

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 地球環境問題と何か
- 第2回 地球温暖化(1)気候大異変
- 第3回 地球温暖化(2)気候大異変
- 第4回 地球温暖化(3)北極大変動
- 第5回 温暖化対策(1)自然エネルギー2001
- 第6回 温暖化対策(2)自然エネルギー2013
- 第7回 温暖化対策(3)低炭素社会
- 第8回 温暖化対策(4)デンマーク・ロラン島
- 第9回 水問題(1)水の世紀が始まった
- 第10回 水問題(2)水の世紀が始まった
- 第11回 水問題(3)アラル海
- 第12回 水問題(4)ウォーター・ビジネス
- 第13回 水問題(5)ウォーター・クライシス
- 第14回 水問題(6)ウォーター・クライシス
- 第15回 エピローグ

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など) 環境問題を取り上げたテレビ番組を見ること

教科書

参考書

不都合な真実

著者: アル・ゴア

出版社: ランダムハウス講談社

出版年: 2006

ISBN:

低炭素経済への道

著者： 諸富徹・浅岡美恵

出版社： 岩波書店

出版年： 2010

ISBN：

地球の水が危ない

著者： 高橋裕

出版社： 岩波書店

出版年： 2003

ISBN：

ウォーター・ビジネス

著者： 中村靖彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2004

ISBN：

ロラン島のエコ・チャレンジ

著者： ニールセン北村朋子

出版社： 野草社

出版年： 2012

ISBN：

地下水は語る

著者： 守田優

出版社： 岩波書店

出版年： 2012

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 地理学概論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 中西 和子	

テーマ

地理学の成立を学び、現在の地理教育に関する諸問題について考える。あわせて、古典的モデル論の有効性と問題点を考える。

獲得目標

「地理学」は他の研究分野とどのように異なり、どのように類似するのか考え、「地理学的発想」および「地理学的手法」を取得する。さらに上記を踏まえたうえで、現代社会に必要な地理知識について検証する力を養う。

授業の内容

教科書は指定せず、配布プリントにて行うものとする。パワーポイントも使用するが、一部、全体でのディスカッション含む。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン：地理＝geography、コレ、本当？
- 第2回 地理学と地図1 人は何故、地図を描くのか—“文字”が先か“地図”が先か？
- 第3回 地理学と地図2 日本で最初の地図とそれから—何を何に描いたのか？
- 第4回 地理学と地図3 地理学の必殺技！“地図化する”ということ
- 第5回 地理学の成立と展開1 王子様の必須科目！—ヘカタイオスからアレクサンダーの東方遠征
- 第6回 地理学の成立と展開2 教養人の必須科目へ—エデンの園と新世界発見
- 第7回 地理学の成立と展開3 近代地理学の成立—「環境決定論」と「環境可能論」の仁義なき戦い
- 第8回 新しい(?)「環境決定論」—『銃・病原菌・鉄』
- 第9回 日本における地理学の成立
- 第10回 農業的土地利用・チューネンモデルと柳田国男の『蝸牛考』
- 第11回 産業立地・ウェーバーモデルと八幡製鉄所
- 第12回 大学生に最低限必要な“地理”について考えよう1 日本の農業の不思議について
- 第13回 大学生に最低限必要な“地理”について考えよう2 大都市の“電力”の不思議について
- 第14回 かつての街道と現代の高速道路—地理条件と社会条件、勝つのはどっち？
- 第15回 「地理教育」の問題点—どうして“地理嫌い”が多いの？

授業以外での学習方法

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。

教科書

参考書

現代地理学入門 身近な地域から世界まで

著者： 高橋 伸夫 他編

出版社： 古今書院

出版年： 2005

ISBN： 978477223049-0

成績評価

試験（40%）

小テスト（）

授業中課題（10%）

授業中発表等（）

参加度（50%）

授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来説など既往の研究をまとめるだけでなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育方法の研究〈Z〉

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 梅本 裕

テーマ

〈授業をつくる〉ことへのイメージを育む

獲得目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。より具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の内容

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して学習者が「生き生きと学べる授業」の要件を考察する。

内 容

- 第1回 「あの坂の名は？」: 社会科における発信型の授業と学力とは何か？
- 第2回 「見たこと作文」: 子どもが〈動く〉授業の条件とは？
- 第3回 「木の葉の駅で」: 発問の構造
- 第4回 「発電所はどこにあるか？」: 教授行為とは何か？
- 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての〈指示・発問・説明・応答・調整〉
- 第6回 「お化け屋敷で算数を」: こどもたちの理解の構造をさぐる
- 第7回 「絵を描くのは苦手です」: 教育内容と方法の開発論理
- 第8回 「声を育てる音楽の授業」: 〈雰囲気の良い授業〉の構造は？
- 第9回 「世界とつながる、深く調べる」: コンピュータとインターネットでできること
- 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」: 言語技術としての〈分析ツールを教える〉国語の授業
- 第11回 「琵琶湖で学ぶ」: 総合学習とは何か？
- 第12回 授業づくりの記号論的構造: 〈教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価〉
- 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」: 授業の機能とIT の活用
- 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」: イメージをそだてる授業の構造
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

専門の勉強にしっかり取り組んでおきなさい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ask1011950

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育実習 I

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 集中	定員	
履修条件 教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定	
担当者 井ノ口 貴史		
テーマ 実りのある教育実習		

獲得目標

学校現場での実習を通して、学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の内容

教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③生徒の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

内 容

- 第1回 ○第3週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。
- 第2回 ○第4週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

授業以外での学習方法

教科書

授業内で配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育実習Ⅱ(事前・事後指導を含む)

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 集中	定員	
履修条件 教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定	
担当者 井ノ口 貴史		

テーマ

実りある教育実習(教育実習事前指導)

獲得目標

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする

授業の内容

教育実習直前指導で実習での心構えと授業観察の要点指導、学習指導案の添削等、個別指導を行う。また、実習後の事後指導として教育実習報告会を行い、3回生へのアドバイスや質問に答える交流会を行う。

内 容

- 第1回 教員の適性について・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて
- 第2回 教員の資質について・教育実習の実態について―実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて・教育実習受講資格について(内規)
- 第3回 ビデオによる教育実習の観察指導
- 第4回 先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答
- 第5回 教育実習の心得
- 第6回 現場教員による講演
- 第7回 教育実習直前指導
- 第8回 実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う
- 第9回 【実習】第1週・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
- 第10回 第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。

教科書

授業内で配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 養護実習

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 牧野 節子	

テーマ

実りある養護実習(養護実習事前・事後指導)

獲得目標

(獲得目標)教育課程の総決算として、教育現場で実習を行い、養護教諭としての専門的知識の習得と技術を磨き、教職に関する実践的研究的能力と態度を養い、養護教諭への志を確たるものにする。

授業の内容

内 容

- 第1回 (事前指導)養護実習事前ガイダンス・養護実習をはじめるにあたっての準備と関係書類作成・養護実習訪問指導までの流れ
- 第2回 養護実習事前指導・養護実習の意義と実態について・養護実習の心得・心構えについて・実習校事前訪問・事前打ち合わせについて・養護実習内容について(定期健康診断・研究授業・実習日誌の書き方など)
- 第3回 養護実習事前指導 養護実習内容について
- 第4回 養護教諭の職務と実際について
- 第5回 養護実習反省会 養護実習体験報告を受けてのグループ討議・実践交流 養護実習の成果と課題・まとめ(4-3回生合同開催)

授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、児童教育学科の学生との情報交流、子ども対象の催しや学校ボランティア活動などに積極的に参加する。

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈初等〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 島田 尚夫	

テーマ

自ら、教職につくための確かな見通しを持ち、教育の意義と目的を明らかにするための理論の構築を目指す

獲得目標

「生きる力」という概念は、これからも続く激変の社会において、益々重要度をますことから、「生きる力」を形成する「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志願するものは、単に学習指導要領の改善点の知識の獲得だけでなく、改定の趣旨や背景、法制の改正なども踏まえて認識し、教師としての力量を高めることが大事である。教師として採用された後も、学習指導要領を始め、国レベルの答申や通知、報告などを継続的に理解し、時代の社会の変化に対応する資質と能力を身に付けることを目標とする。

授業の内容

学習指導要領の法制上の位置づけや教育課程を編成する際の基準等を理解する

内 容

- 第1回 教育の意義と目的
- 第2回 教育課程の意義
- 第3回 教育課程の編成と評価
- 第4回 現行学習指導要領の特色その①
- 第5回 現行学習指導要領の特色その②
- 第6回 道徳教育
- 第7回 総合的な学習の時間と特別活動
- 第8回 特別支援と生徒指導
- 第9回 学習指導要領・その変遷①
- 第10回 学習指導要領・その変遷②
- 第11回 学力と学習指導
- 第12回 学級経営
- 第13回 全学年の指導内容・全教科その概要
- 第14回 教員採用の現状と課題
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを見ることや、新聞等の教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読むようにする

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍株式会社

出版年：

ISBN：

小学校学習指導要領解説 総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

小学校学習指導要領解説 道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

小学校学習指導要領解説 特別活動編

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業中指示します

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）

小テスト（なし）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈中等〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 廣瀬 忠愛	

テーマ

学校教育実践論Ⅰ

獲得目標

これからの教職を志す者は、今日の学校教育における、具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を身につける必要があります。そのために、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、実践的な課題克服の方途を主体的に考える力を身につけることを目標とします。

授業の内容

今日の学校教育をめぐる基本的課題を多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、自らの実践を主体的に考え、発表する。

内 容

- 第1回 授業の説明等(教職を志す資質・能力及び教員採用試験)イントロダクション
- 第2回 教師の求められる資質・能力
- 第3回 ワークショップ
- 第4回 教育観について
- 第5回 ワークショップ
- 第6回 今日の教育課題
- 第7回 ワークショップ
- 第8回 学習指導の在り方
- 第9回 ワークショップ
- 第10回 児童生徒の問題行動について
- 第11回 ワークショップ
- 第12回 これからの人権教育
- 第13回 ワークショップ
- 第14回 都道府県政令指定都市の教育方針や教育目標などに関する内容
- 第15回 ワークショップのまとめ

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から見ておくこと。一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌など読んでおくこと

教科書

中学校学習指導要領本体

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN：

中学校学習指導要領解説道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN：

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN：

中学校学習指導要領解説特別活動編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 70 ）

授業中発表等（ 15 ）

参加度（ 15 ）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼a>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一柳 敦子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

獲得目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨く。

授業の内容

保育所や幼稚園の新しい役割と、現場の実態に即した保育者のあり方や子どもたちの豊かな経験を支えるための知識や技術を学び、保育者となるための期待や意欲を高める。

内 容

- 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係
- 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係
- 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係
- 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係(ゲスト講師)
- 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係
- 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係
- 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係
- 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係
- 第9回 素敵な保育者になるために①・求められる保育者像について
- 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な幼稚園や保育所と制度
- 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取組
- 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて
- 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな遊びのために
- 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな遊びのために(ゲスト講師)
- 第15回 素敵な保育者になるために⑦・保護者とのかかわり

授業以外での学習方法

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼b>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 太田 みつ枝	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

獲得目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨く。

授業の内容

保育所や幼稚園の新しい役割と、現場の実態に即した保育者のあり方や子どもたちの豊かな経験を支えるための知識や技術を学び、保育者となるための期待や意欲を高める。

内 容

- 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係
- 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係
- 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係
- 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係(ゲスト講師)
- 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係
- 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係
- 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係
- 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係
- 第9回 素敵な保育者になるために①・求められる保育者像について
- 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な幼稚園や保育所と制度
- 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取組
- 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて
- 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな遊びのために
- 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな遊びのために(ゲスト講師)
- 第15回 素敵な保育者になるために⑦・保護者とのかかわり

授業以外での学習方法

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼c>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 大山 弘美	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

獲得目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨く。

授業の内容

保育所や幼稚園の新しい役割と、現場の実態に即した保育者のあり方や子どもたちの豊かな経験を支えるための知識や技術を学び、保育者となるための期待や意欲を高める。

内 容

- 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係
- 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係
- 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係
- 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係(ゲスト講師)
- 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係
- 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係
- 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係
- 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係
- 第9回 素敵な保育者になるために①・求められる保育者像について
- 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な幼稚園や保育所と制度
- 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取組
- 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて
- 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな遊びのために
- 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな遊びのために(ゲスト講師)
- 第15回 素敵な保育者になるために⑦・保護者とのかかわり

授業以外での学習方法

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼d>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 杉江 由紀子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

獲得目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨く。

授業の内容

保育所や幼稚園の新しい役割と、現場の実態に即した保育者のあり方や子どもたちの豊かな経験を支えるための知識や技術を学び、保育者となるための期待や意欲を高める。

内 容

- 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係
- 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係
- 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係
- 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係(ゲスト講師)
- 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係
- 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係
- 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係
- 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係
- 第9回 素敵な保育者になるために①・求められる保育者像について
- 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な幼稚園や保育所と制度
- 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取組
- 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて
- 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな遊びのために
- 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな遊びのために(ゲスト講師)
- 第15回 素敵な保育者になるために⑦・保護者とのかかわり

授業以外での学習方法

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 谷口 敦子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

獲得目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨く。

授業の内容

保育所や幼稚園の新しい役割と、現場の実態に即した保育者のあり方や子どもたちの豊かな経験を支えるための知識や技術を学び、保育者となるための期待や意欲を高める。

内 容

- 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係
- 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係
- 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係
- 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係(ゲスト講師)
- 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係
- 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係
- 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係
- 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係
- 第9回 素敵な保育者になるために①・求められる保育者像について
- 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な幼稚園や保育所と制度
- 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取組
- 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて
- 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな遊びのために
- 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな遊びのために(ゲスト講師)
- 第15回 素敵な保育者になるために⑦・保護者とのかかわり

授業以外での学習方法

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅰ〈幼〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定員
履修条件	クラス指定
担当者 中崎 あつ子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

獲得目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨く。

授業の内容

保育所や幼稚園の新しい役割と、現場の実態に即した保育者のあり方や子どもたちの豊かな経験を支えるための知識や技術を学び、保育者となるための期待や意欲を高める。

内 容

- 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係
- 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係
- 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係
- 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係(ゲスト講師)
- 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係
- 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係
- 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係
- 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係
- 第9回 素敵な保育者になるために①・求められる保育者像について
- 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な幼稚園や保育所と制度
- 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取組
- 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて
- 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな遊びのために
- 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな遊びのために(ゲスト講師)
- 第15回 素敵な保育者になるために⑦・保護者とのかかわり

授業以外での学習方法

教科書

保育所保育指針解説書

著者：厚生労働省編

出版社：フレーベル館

出版年：2008

ISBN:

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼g>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 山口 陽子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

獲得目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨く。

授業の内容

保育所や幼稚園の新しい役割と、現場の実態に即した保育者のあり方や子どもたちの豊かな経験を支えるための知識や技術を学び、保育者となるための期待や意欲を高める。

内 容

- 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係
- 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係
- 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係
- 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係(ゲスト講師)
- 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係
- 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係
- 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係
- 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係
- 第9回 素敵な保育者になるために①・求められる保育者像について
- 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な幼稚園や保育所と制度
- 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取組
- 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて
- 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな遊びのために
- 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな遊びのために(ゲスト講師)
- 第15回 素敵な保育者になるために⑦・保護者とのかかわり

授業以外での学習方法

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義 I <幼h>

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 吉田 裕子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

獲得目標

・保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を磨く。

授業の内容

保育所や幼稚園の新しい役割と、現場の実態に即した保育者のあり方や子どもたちの豊かな経験を支えるための知識や技術を学び、保育者となるための期待や意欲を高める。

内 容

- 第1回 発達段階に応じた教材研究①・健康領域関係
- 第2回 発達段階に応じた教材研究②・健康領域関係
- 第3回 発達段階に応じた教材研究③・環境領域関係
- 第4回 発達段階に応じた教材研究④・環境領域関係(ゲスト講師)
- 第5回 発達段階に応じた教材研究⑤・表現領域関係
- 第6回 発達段階に応じた教材研究⑥・表現領域関係
- 第7回 発達段階に応じた教材研究⑦・言葉領域関係
- 第8回 発達段階に応じた教材研究⑧・言葉領域関係
- 第9回 素敵な保育者になるために①・求められる保育者像について
- 第10回 素敵な保育者になるために②・様々な幼稚園や保育所と制度
- 第11回 素敵な保育者になるために③・子育て支援の取組
- 第12回 素敵な保育者になるために④・保育者としての自覚に向けて
- 第13回 素敵な保育者になるために⑤・子どもの豊かな遊びのために
- 第14回 素敵な保育者になるために⑥・子どもの豊かな遊びのために(ゲスト講師)
- 第15回 素敵な保育者になるために⑦・保護者とのかかわり

授業以外での学習方法

教科書

保育所保育指針解説書

著者： 厚生労働省編

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

幼稚園教育要領解説

著者： 文部科学省

出版社： フレーベル館

出版年： 2008

ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (60%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅱ〈初等〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 島田 尚夫	

テーマ

自ら教職につくための確かな見通しを持ち、教育実践の力量を培う

獲得目標

これからの教職を志すものは、今日の学校教育における具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を深める必要がある。そのために、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、その課題解決に向けて考察し、学校教育の現状認識を深め実践的な課題克服を主体的に考える力を培うようにする。

授業の内容

今日の学校教育をめぐる状況とその課題を考察し、学校教育の現状について理解と認識を深め、自らの実践を主体的に考え表出しようとする

内 容

- 第1回 オリエンテーション 教育(学校)の役割
- 第2回 教師の求められる資質と能力
- 第3回 教員の役割・主な仕事 学習指導①
- 第4回 教員の役割・主な仕事 学習指導②
- 第5回 教員の役割・主な仕事 学習指導③
- 第6回 教員の役割・主な仕事 生徒指導に関する④
- 第7回 教員の役割・主な仕事 生徒指導に関する⑤
- 第8回 現在の教育課題
- 第9回 学級と学校の運営①
- 第10回 学級と学校の運営②
- 第11回 生きる力と確かな学力
- 第12回 授業作り
- 第13回 事例研究
- 第14回 自己の目指す教師像
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを見ること。新聞などにおける教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読むようにする。

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年：

ISBN：

小学校指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

授業中指示する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）

小テスト（なし）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教職・保育職教養講義Ⅱ〈中等〉

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 廣瀬 忠愛	

テーマ

学校教育実践論Ⅱ

獲得目標

今回の学習指導要領改訂において、「生きる力」という概念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志望する者は、教員採用試験のために、学習指導要領の改善点を単に暗記するだけでなく、改訂の趣旨及び背景（例えば、教育基本法の改正、学校教育法の改正など）も含めて理解し、教師としての実践力として身につけることが大切である。また、将来教師として採用された後も、学習指導要領をはじめ、国レベルで出される答申や通知、報告等を歴史的視点で継続的に理解し、時代の変化に対応できる資質・能力を身につけることなどを目標とする。

授業の内容

学習指導要領の法令上の位置づけや教育課程を編成する際の基準性等を理解する。

内 容

- 第1回 授業の説明等、イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領の改善点
- 第3回 教育課程の編成、教育課程の意義、教育課程の概念など
- 第4回 教育課程とその基準、教育課程に関する法制など
- 第5回 教育課程編成の一般方針
- 第6回 内容等の取扱いに関する共通的事項
- 第7回 授業時数に関する知識1
- 第8回 授業時数に関する知識2
- 第9回 指導計画の作成
- 第10回 教育課程実施上の配慮事項1
- 第11回 教育課程実施上の配慮事項2
- 第12回 教育課程実施上の配慮事項3
- 第13回 道徳、外国語
- 第14回 総合的な学習の時間、特別活動
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

教科書

中学校学習指導要領本体

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説特別活動編中学校学習指導要領解説特別活動編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 70 ）

授業中発表等（ 15 ）

参加度（ 15 ）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅳ <3c>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	豊福 千穂・柳本 周介	

テーマ

正課授業と課外授業との連動による反復学習を実現し、就活実践力を養成する。

獲得目標

今後の就活実践力を養い、社会人として活躍するための基礎になる力を身に付け、抽象的な言葉を具体的にし、自分の特徴を表現する。

授業の内容

社会人に向けて、必要となる実践的なスキルや経験値を身に付けながら自己理解を深め各業界・企業について学習します。

内 容

- 第1回 就職活動の現状～進め方・仕事とは？
- 第2回 業界企業の研究方法1
- 第3回 業界企業の研究方法2
- 第4回 業界企業の研究方法3
- 第5回 自己PR1 作成のための基本
- 第6回 自己PR2 実践
- 第7回 志望動機1 作成のための基本
- 第8回 志望動機2 実践
- 第9回 先入観・固定概念からの脱却～人事の視点
- 第10回 就活の常識・非常識～採用現場の本音
- 第11回 グループディスカッションのルール～実践
- 第12回 グループディスカッション実践
- 第13回 ブラッシュアップ
- 第14回 集団面接実践1
- 第15回 集団面接実践2

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

イングオリジナルテキスト

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 ()

課外授業の参加状況を加味する。

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究Ⅳ <3G>**

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	宇都宮 麻美・吉田 斉	

テーマ

就職筆記試験を高得点で突破するための実践力の養成

獲得目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。本番での就職試験を想定、答練形式の授業実施により、応用～発展レベルの問題を時間内に確実に解法に導ける実践力を養成する。

授業の内容

授業計画に沿って、キャリア開発講座Ⅱ、キャリア開発講座Ⅲ、及びキャリア開発研究Ⅲで学んだことを、模試・解答解説方式での実施。アウトプット中心の授業を実践していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 言語分野① SPI WEBテスト対策Ⅰ
- 第3回 言語分野② SPI WEBテスト対策Ⅱ
- 第4回 言語分野③ SPI WEBテスト対策Ⅲ
- 第5回 言語分野④ SPI 模試式実践演習Ⅰ
- 第6回 言語分野⑤ SPI 模試式実践演習Ⅱ
- 第7回 非言語分野① SPI WEBテスト対策Ⅰ
- 第8回 非言語分野② SPI WEBテスト対策Ⅱ
- 第9回 非言語分野③ SPI WEBテスト対策Ⅲ
- 第10回 非言語分野④ SPI 模試式実践演習Ⅰ
- 第11回 非言語分野⑤ SPI 模試式実践演習Ⅱ
- 第12回 非言語分野⑥ SPI 模試式実践演習Ⅲ
- 第13回 非言語分野⑦ SPI以外 模試式実践演習Ⅰ
- 第14回 非言語分野⑧ SPI以外 模試式実践演習Ⅱ
- 第15回 非言語分野⑨ SPI以外 模試式実践演習Ⅲ

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

イングオリジナルテキスト

著者：株式会社イング

出版社：株式会社イング

出版年：2014年

ISBN:

参考書

成績評価

試験（40）

小テスト（20）

授業中課題（40）

授業中発表等（）

参加度（）

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **キャリア開発研究VI <3a>**

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 武野 辰雄

テーマ

公務員「教養試験」のための基礎学力形成

獲得目標

公務員「教養試験」に向けての基礎学力の育成

授業の内容

公務員「教養試験」における知能分野(数的処理)・知識分野(社会科学)・その他(論文・面接)の基礎学習と演習を行う 前期同時限に実施の「キャリア開発研V <3a>」とセットで履修することが望ましい。

内 容

- 第1回 教養試験の概要説明と勉強方法
- 第2回 数的処理① 社会科学①(経済)
- 第3回 数的処理② 社会科学②(経済)
- 第4回 数的処理③ 社会科学③(経済)
- 第5回 数的処理④ 社会科学④(経済)
- 第6回 数的処理⑤ 社会科学⑤(経済)
- 第7回 数的処理⑥ 社会科学⑥(経済)
- 第8回 数的処理⑦ 社会科学⑦(経済)
- 第9回 数的処理⑧ 社会科学⑧(経済)
- 第10回 数的処理⑨ 社会科学⑨(経済)
- 第11回 数的処理⑩ 社会科学⑩(経済)
- 第12回 数的処理⑪ 論文①
- 第13回 数的処理⑫ 面接①
- 第14回 数的処理⑬ 面接②
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

予習は不要ですが、復習は必ず行うこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ask103e550

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育心理学

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

中等教育段階の子どもの発達と教育

獲得目標

中等教育段階の子ども(中学生・高校生)における発達と教育の問題について関連する教育心理学の基本領域における知見を理解するとともに、教職への関心・意欲を高めることを目的とする。

授業の内容

「学校、生徒・教師の今」「生徒」「教師」「生徒と教師の関係」という柱建てのもとに、中学生・高校生の発達と教育の問題に焦点を当てて、新学習指導要領や学校教育現場での諸問題を踏まえ、教育心理学の基本領域における概念や研究成果について講義をする。

内 容

- 第1回 学校と社会の現状、生徒の生活、教師の生活
- 第2回 発達とは何か、発達の基礎理論
- 第3回 発達と教育との関わり
- 第4回 学習の原理と基礎過程
- 第5回 学習動機づけと学力形成
- 第6回 教科の学習
- 第7回 教えること、授業づくり
- 第8回 総合学習、道徳
- 第9回 教育評価、授業における評価
- 第10回 評価と進路指導、キャリア教育
- 第11回 生徒指導・生徒理解の原理と方法
- 第12回 問題行動の理解と指導
- 第13回 学級づくり
- 第14回 教師の悩みと成長、教師として生きる
- 第15回 教師集団と学校づくり

授業以外での学習方法

予習の必要はないが、復習については、毎時間、配布資料を基に講義内容の整理・確認をすること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育原論 <a>

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 八木 英二	

テーマ

教育の基本問題と教育改革

獲得目標

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

授業の内容

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討する。

内 容

- 第1回 教育の理念
- 第2回 教育の歴史
- 第3回 教育の思想
- 第4回 学習指導要領について
- 第5回 学校制度・施設のあり方
- 第6回 教育の公共性
- 第7回 発達と教育
- 第8回 教育階梯
- 第9回 生活指導実践の意義
- 第10回 様々な教育方法
- 第11回 教科指導の意義
- 第12回 高校の進路指導
- 第13回 教育専門職論
- 第14回 教育改革動向
- 第15回 父母との関係

授業以外での学習方法

様々な教育書を意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたつぷりふれ、人間の理解を深めることを期待する。

教科書

教師の役割変化を問う

著者： 八木英二

出版社： 三学出版

出版年： 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育原論 **

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 春期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 松浦 善満	

テーマ

教育の基本問題と教育改革

獲得目標

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

授業の内容

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討する。

内 容

- 第1回 教育の理念
- 第2回 教育の歴史
- 第3回 教育の思想
- 第4回 学習指導要領について
- 第5回 学校制度・施設のあり方
- 第6回 教育の公共性
- 第7回 発達と教育
- 第8回 教育階梯
- 第9回 生活指導実践の意義
- 第10回 様々な教育方法
- 第11回 教科指導の意義
- 第12回 高校の進路指導
- 第13回 教育専門職論
- 第14回 教育改革動向
- 第15回 父母との関係

授業以外での学習方法

この期間中に学校訪問・授業参観が可能であれば、学外フィールドワークを実施しますので、追って授業で指示します。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

いじめとは何か

著者: 森田洋司

成績評価

試験（40%）

小テスト（0%）

授業中課題（20%）

授業中発表等（20%）

参加度（20%）

最終時間に試験を課する。授業出席と授業中の発表ならびにレスポンスカードを総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **教育制度論**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間	春期集中	定員
履修条件	教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者	篠原 岳司	

テーマ

現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。

獲得目標

現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察し、課題を発見して学習研究を行うことを目標とする。

授業の内容

現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政、教職員法制の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 I 憲法・教育基本法制 ①憲法の教育条項
- 第3回 同上 ②教育基本法の制定と改正
- 第4回 同上 ③国際教育法
- 第5回 II 学校制度 ①初等・中等教育制度
- 第6回 同上 ②就学奨励制度
- 第7回 同上 ③教科書制度
- 第8回 同上 ④学校の組織運営
- 第9回 III 教育行政制度 ①中央教育行政組織
- 第10回 同上 ②教育委員会制度の創設
- 第11回 同上 ③教育委員会制度の展開
- 第12回 IV 教職員法制 ①教員養成・免許制度
- 第13回 同上 ②教員採用制度
- 第14回 同上 ③教員研修制度
- 第15回 同上 ④教員評価制度

授業以外での学習方法

講義を通じ、または自主的に発見した課題について、教育関係の雑誌、情報等で問題の所在と改革の課題を学習研究し、中間または最終的なレポートにまとめることが望ましい。

教科書

現代教育制度論

著者： 土屋基規編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年：

ISBN：

参考書

現代教育法概説

著者： 平原・室井・土屋 共著

出版社: 学陽書房

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育課程論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 前期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 木村 裕	

テーマ

教育課程の構造と教育実践

獲得目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の内容

1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

内 容

- 第1回 教育課程の構造と意味
- 第2回 内申書、通知票について
- 第3回 観点別評価の意味
- 第4回 目標と評価のあり方
- 第5回 教育実践評価と授業公開(中等)
- 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(中等)
- 第7回 教科書の採択システム
- 第8回 教科書づくり
- 第9回 教科と教科外の教育方法(中等)
- 第10回 総合学習について(中等)
- 第11回 身体と教育課程(中等)
- 第12回 教育課程と授業づくり(中等)
- 第13回 思春期の教育階梯
- 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

* 講義で扱った内容をふまえてその後の講義を進めるため、復習をするとともに、不明な点があれば質問すること。* 講義外の時間を使って、講義中に出す課題に取り組むこと。

教科書

教育学の探究—教師の専門的思索のために

著者： 佐藤博志他

出版社： 川島書店

出版年： 2013

ISBN： 4761008938

参考書

よくわかる教育課程

著者： 田中耕治編

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

講義中に指示する数回のレポートやワークシート、プレゼンテーションを中心に、授業態度や授業への参加度を加味して、総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 特別活動論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 池田 修	

テーマ

特別活動の具体的な事例を考察し、ワークショップを通して学ぶ。

獲得目標

特別活動の事例を理解し、指導計画を作成すること、体験することを目的とする。

授業の内容

特別活動が示す領域を理解し、その後、学級活動の指導、行事に関わる指導、安全指導について学ぶ。特に安全指導では、ワークショップを取り入れる。課題が多く出ることを予め告げておく。ワード、エクセル、e-mailはある程度使えることが望ましい。

内 容

- 第1回 特別活動とは 特別活動が扱う領域を学習指導要領で確認する。
- 第2回 学級活動 1 日常生活。当番活動、係り活動、教科係り、プロジェクトチーム。学級開き(ゲーム、why-because-game、流れ)、学級収め、どう言い返すのワーク(データ収集)、掃除指導、席替え、班長会議、連絡カード
- 第3回 学級活動 2 学級行事。転入生を迎える、転校生を送り出す、進路指導、進路宣言、安全指導
- 第4回 その他 学芸行事/体育大会/学年行事/学校行事/儀式など 担任の仕事
- 第5回 課題作成 遠足指導の実踏計画 遠足指導の実踏計画を作成する。
- 第6回 遠足指導の実踏計画を作成する。(アイデア出し)
- 第7回 遠足指導の実踏計画を作成する。(実地調査)
- 第8回 遠足指導の実踏計画を作成する。(まとめ)
- 第9回 課題回収 お礼状の書き方指導
- 第10回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(理論)
- 第11回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(実践)
- 第12回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(質疑応答)
- 第13回 特別授業まとめ 授業を受けて、自分の課題、学んだことについての文章を書く。今村先生にお礼状を書く。
- 第14回 特別授業まとめ 特別授業の講義を受けての体験作文を書く。
- 第15回 まとめ 特別活動論を振り返りながら評価する。書き込み回覧作文で振り返る。最終課題の提示。

授業以外での学習方法

母校に行く機会を作り、各種行事に関する職員会議資料を見せてもらうと良い。想像以上に綿密に計画が立てられていることが分かるだろう。また、それを参考に自分で計画を立ててみるのも勉強になるだろう。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

学習指導要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育方法論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 梅本 裕	

テーマ

<授業をつくる>ことへのイメージを育む

獲得目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。より具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようにすること。

授業の内容

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して学習者が「生き生きと学べる授業」の要件を考察する。

内 容

- 第1回 「あの坂の名は？」: 社会科における発信型の授業と学力とは何か?
- 第2回 「見たこと作文」: 子どもが<動く>授業の条件とは?
- 第3回 「木の葉の駅で」: 発問の構造
- 第4回 「発電所はどこにあるか?」: 教授行為とは何か?
- 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての<指示・発問・説明・応答・調整>
- 第6回 「お化け屋敷で算数を」: こどもたちの理解の構造をさぐる
- 第7回 「絵を描くのは苦手です」: 教育内容と方法の開発論理
- 第8回 「声を育てる音楽の授業」: <雰囲気の良い授業>の構造は?
- 第9回 「世界とつながる、深く調べる」: コンピュータとインターネットでできること
- 第10回 「蟹と戯れるのは誰か?」: 言語技術としての<分析ツールを教える>国語の授業
- 第11回 「琵琶湖で学ぶ」: 総合学習とは何か?
- 第12回 授業づくりの記号論的構造: <教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価>
- 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」: 授業の機能とIT の活用
- 第14回 「地球の大きさはどれくらい?」: イメージをそだてる授業の構造
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

専門の勉強にしっかり取り組んでおきなさい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 社会科教育法Ⅱ

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 秋期集中	定員	40
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定	
担当者 木全 清博		

テーマ

中等社会科の目標、内容、方法について、教材分析と授業づくりを通じて基本的な理解を深める。

獲得目標

1 中等社会科の目標、内容、方法に関する基本的な理解を深めるために、中学校・高等学校の社会科の歴史とすぐれた社会科実践の分析を行う中で、教材づくりの視点と方法を学ぶ。2 中等社会科の授業案づくりを作成して、実践力を身につける。

授業の内容

中等社会科について戦後社会科の誕生から現在までの学習指導要領の歴史、民間の社会科実践のあゆみ、中学校教科書論、教材論、社会科の授業案を作成する。

内 容

- 第1回 戦後の中等社会科のあゆみ(1)ー公民教育構想と初期社会科の誕生、問題解決学習と初期社会科実践、初期社会科教科書の内容
- 第2回 戦後の中等社会科のあゆみ(2)ー1955年版学習指導要領から1977年版学習指導要領まで、系統学習と歴史・地理学習、民間社会科(歴教協と教科研)の実践、生産労働実践と系統的歴史・地理学習、中等社会科カリキュラムと高校の現代社会
- 第3回 戦後の中等社会科のあゆみ(3)ー1989年版学習指導要領と社会科解体、生活科と高校の地歴科・公民科、1998年版学習指導要領と総合的学習の開始、社会科の総合性と総合学習論
- 第4回 戦後社会科教育史から学ぶー社会科における問題解決学習と系統学習、課題探究型社会科学習、総合型の人権学習、平和教育と環境教育、
- 第5回 民間社会科実践史から学ぶ(1) 中学校社会科の授業づくりと学力ー安井俊夫の戦争学習実践
- 第6回 民間社会科実践史から学ぶ(2) 中学校歴史学習ー安井俊夫『子どもと学ぶ歴史の授業』から『子どもが動く社会科』へ、発言を引き出す授業
- 第7回 民間社会科実践史から学ぶ(3) 高校日本史の授業づくりと学力ー加藤公明実践、「近世アイヌの実像に迫る」実践、『考える日本史』ー討論型日本史学習、加藤の授業ビデオ視聴
- 第8回 日本とアメリカの歴史教育の比較ー渡邊雅子論文、高校世界史学習ー難波達興のアメリカ史実践
- 第9回 社会科教材づくりの視点と方法(1) 教育内容と教材の区分、中学校の教科書分析、安井俊夫の授業づくり論
- 第10回 社会科教材づくりの視点と方法(2) 各自の授業テーマに基づく授業案づくり、授業構想と教材研究
- 第11回 社会科教材づくりの視点と方法(3) 各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案づくり
- 第12回 社会科教材づくりの視点と方法(4) 各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
- 第13回 社会科教材づくりの視点と方法(5) 各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
- 第14回 社会科教材づくりの視点と方法(6) 各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
- 第15回 中等社会科の歴史と実践のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

学力と教育課程の創造

著者： 前田健次他編

出版社： 同時代社

出版年：2013年

ISBN：

参考書

新しい中等社会科へのいざない

著者： 臼井嘉一・木全清博他編

出版社： 地歴社

出版年：1993年

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（30）

授業中課題（40）

授業中発表等（30）

参加度（ ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 社会科教育法Ⅲ

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 後期	定員 40
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 田中 曜次	

テーマ

模擬授業の計画と実践を通して、教材研究や教科指導の力を養う。

獲得目標

教育実習での研究授業(公開授業)を念頭において、「学習指導案(細案)」を作成することができる。授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。協力して授業実践を行うことを通して、授業研究や授業改善の方法を知る。

授業の内容

小集団または個人によって教材を開発し、学習指導案を作成する。さらに模擬授業実践を行い、それを検討するまでを行う。

内 容

- 第1回 授業の目標と進め方について
- 第2回 授業づくりと教材研究の方法 ① 学習指導要領と教科書
- 第3回 授業づくりと教材研究の方法 ② 教材と教具 発問と指示
- 第4回 地理的分野の授業分析
- 第5回 歴史的分野の授業分析
- 第6回 公民的分野の授業分析
- 第7回 模擬授業と講評、相互評価 ①
- 第8回 模擬授業と講評、相互評価 ②
- 第9回 模擬授業と講評、相互評価 ③
- 第10回 模擬授業と講評、相互評価 ④
- 第11回 模擬授業と講評、相互評価 ⑤
- 第12回 模擬授業と講評、相互評価 ⑥
- 第13回 模擬授業と講評、相互評価 ⑦
- 第14回 模擬授業と講評、相互評価 ⑧
- 第15回 まとめ 模擬授業の振り返りと自己評価

授業以外での学習方法

教育委員会などでは、地域の優秀な指導案を収集・公開しています。地域によって形式なども異なるので、教育実習を意識し、あらかじめ確認しておきましょう。

教科書

中学校学習指導要領解説 社会編

著者： 文部科学省

出版社： 日本文教出版

出版年： 2008.9

ISBN： 9784536590051

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

模擬授業の準備、実践、振り返りを通して、積極的に協力して行ってほしい。模擬授業は「学習指導案」の形で最後に提出する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書道科教育法 I

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 前期集中	定員 40
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者 西村 大輔	

テーマ

講義と模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の確かな指導力を身につけるとともに、その現状と課題について考える。

獲得目標

高等学校の指導内容と現状を把握し、教材の研究・開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備展開できるようにする。授業は、高等学校芸術科書道教員を目指す諸君が、指導の実際を考え、書道の授業に関する諸々を身につけることを目標とする。諸君が書をどうとらえ、生徒たちをどう育てることが出来るのか、講義と模擬授業を通して、さまざまな角度からアプローチを図りたいと思う。※前期は書道1の範囲を中心とする。(漢字、かな他) 授業は、受講生の人数を勘案の上、出来る限り幅広い教材や課題点を取り上げ、実り多いものとした。ユニークで積極的な参加が望まれるところである。

授業の内容

内 容

- 第1回 芸術科書道の現状と課題を探る
- 第2回 年間授業計画について①
- 第3回 年間授業計画について②
- 第4回 指導案の基本的な考え方
- 第5回 指導案の書き方
- 第6回 用具用材についての模擬授業と授業研究
- 第7回 楷書領域での模擬授業と授業研究①
- 第8回 楷書領域での模擬授業と授業研究②
- 第9回 楷書領域での模擬授業と授業研究③
- 第10回 仮名領域での模擬授業と授業研究①
- 第11回 仮名領域での模擬授業と授業研究②
- 第12回 行書領域での模擬授業と授業研究①
- 第13回 行書領域での模擬授業と授業研究②
- 第14回 授業研究のまとめ
- 第15回 漢字かな交じりの書について ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。

教科書

高校書道 I

著者:

出版社: 光村書店

出版年:

ISBN:

高校書道Ⅱ

著者:

出版社: 光村書店

出版年:

ISBN:

高校書道Ⅲ

著者:

出版社: 光村書店

出版年:

ISBN:

参考書

学習指導要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等を総合的に評価することとする

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書道科教育法Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期集中

定員 40

履修条件 教職課程履修登録者のみ
履修可

クラス指定

担当者 西村 大輔

テーマ

講義や模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の確かな指導力を身につけるとともに、その現状と課題について考える。

獲得目標

高等学校の指導内容と現状を把握し、教科教材の研究・開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備・展開できるようにする。「書道科教育法Ⅱ」にあつては、書道Ⅱ、書道Ⅲ(漢字、かな、漢字仮名交じり他)を主として進める。また、いろいろな教材の可能性についての模索に取り組みたい。積極的な意見交換が行われ、書道教育の新たな展開を図りたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業における興味づけの大切さについて
- 第2回 漢字かな交じり文の展開について
- 第3回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究①
- 第4回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究②
- 第5回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究③
- 第6回 篆書領域での模擬授業と授業研究
- 第7回 隷書領域での模擬授業と授業研究
- 第8回 新しい教材の研究とユニークな授業の展開について また、その吟味と問題点を考える
- 第9回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究①
- 第10回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究②
- 第11回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究③
- 第12回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究④
- 第13回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究⑤
- 第14回 研究授業のまとめ
- 第15回 書道教育の現状と未来のあるべき姿を考える

授業以外での学習方法

模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。

教科書

参考書

学習指導要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（40）

授業中発表等（40）

参加度（20）

レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等、総合的に評価することとする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 地歴科教育法Ⅱ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 40

履修条件 教職課程履修登録者のみ
履修可

クラス指定

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

地歴科の授業づくりと模擬授業

獲得目標

現職教師の授業づくりの方法を学ぶとともに、教科書をもとに実際に授業を作って、模擬授業と授業研究をする。

授業の内容

教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。

内 容

- 第1回 「日本史A」の導入教材をどう作るか(1):教材研究と教材の開発
- 第2回 「日本史A」の導入教材をどう作るか(2):実践報告と授業評価
- 第3回 模擬授業と授業研究(1)
- 第4回 模擬授業と授業研究(2)
- 第5回 模擬授業と授業研究(3)
- 第6回 模擬授業と授業研究(4)
- 第7回 模擬授業と授業研究(5)
- 第8回 模擬授業と授業研究(6)
- 第9回 模擬授業と授業研究(7)
- 第10回 模擬授業と授業研究(8)
- 第11回 模擬授業と授業研究(9)
- 第12回 模擬授業と授業研究(10)
- 第13回 模擬授業と授業研究(11)
- 第14回 模擬授業と授業研究(12)
- 第15回 模擬授業と授業研究(13)

授業以外での学習方法

全国の著名な実践家の授業実践報告を読んだり、民間の教育研究団体の研究会に参加して、現場で授業づくりをおこなっている教師の生の声を聞いて欲しい。

教科書

中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―

著者： 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社：学文社

出版年：2013年

ISBN:

参考書

中等社会科の理論と実践

著者： 二谷貞夫・和井田清司

出版社: 学文社

出版年: 2007年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 公民科教育法Ⅱ

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件 教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定	
担当者	井ノ口 貴史	

テーマ

公民科教育の内容理解と授業づくり

獲得目標

模擬授業づくりを通して、教材開発の手法とカリキュラムデザインの実際を学ぶ。

授業の内容

「現代社会」「政治経済」「倫理」の中から個人で模擬授業を行い、授業後、授業研究を行う。また、学生が小グループでカリキュラム開発や教材開発を行い、模擬授業を行って、授業研究会を組織する。

内 容

- 第1回 学習指導案を検討する:食糧問題の授業づくり
- 第2回 生命倫理に関する授業を作る:ディベートの手法を学ぶ
- 第3回 倫理の授業をつくる:尾崎豊を教材に青年期の授業をつくる
- 第4回 模擬授業と授業研究(1):第1グループ
- 第5回 模擬授業と授業研究(2):第2グループ
- 第6回 模擬授業と授業研究(3):第3グループ
- 第7回 模擬授業と授業研究(4):第4グループ
- 第8回 共同研究1:「民主政治の基本原則と日本国憲法」単元の授業案を考える
- 第9回 模擬授業と授業研究(5):第5グループ
- 第10回 模擬授業と授業研究(6):第6グループ
- 第11回 共同研究2:「現代の経済」単元の授業案を考える
- 第12回 共同研究3:「現代の国際政治」単元の授業案を考える
- 第13回 「民主政治の基本原則と日本国憲法」の模擬授業
- 第14回 「現代の経済」単元の模擬授業
- 第15回 「現代の国際政治」の模擬授業

授業以外での学習方法

人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をする。新聞を読み、時事問題に留意すること

教科書

中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―』

著者: 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社: 学文社

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

中等社会科の理論と実践

著者: 二谷貞夫・和井田清司

出版社: 学文社

出版年: 2007年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生徒・進路指導 <Z>

クラス	配当回生	学部3回生
講義期間	秋期集中	定員
履修条件	教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担当者	井ノ口 貴史	
テーマ	生徒指導の理論と実践を学ぶ	

獲得目標

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題について具体的に学校現場で一般的に見られる生徒指導のあり方を事例を通して学ぶことを目的とする。

授業の内容

生徒指導上、学校現場で養護教諭に期待される役割、学級担任のクラス経営の事例、生徒会指導についてを学ぶ。

内 容

- 第1回 生徒指導の領域と内容 — いわゆる「教育困難校」の一日
- 第2回 生徒指導の意義 — 校務分掌と組織（生徒指導体制は？）
- 第3回 生徒指導の方法 — ゼロ・トレランス方式を考える
- 第4回 グループ討議：ゼロ・トレランス方式に賛成か反対か？
- 第5回 養護教諭の一日 — 養護教諭が生徒指導に果たす役割を考えてみよう
- 第6回 グループ討議：養護教諭は生徒指導場面でどのような役割を果たせるだろうか？
- 第7回 養護教諭の立場から、学校現場の生徒指導の在り方考える
- 第8回 グループ討議：いじめや不登校に対する指導を手がかりにして養護教諭の役割を考えよう
- 第9回 生活指導(1) — 民主的で自治的なクラスづくり
- 第10回 生活指導(2) — 学級通信と日直新聞の取り組み
- 第11回 生活指導(3) — ホームルームの指導組織を作って動かす取り組み
- 第12回 生活指導(4) — 文化祭の取り組み
- 第13回 生徒の学校参加 — 問題行動(授業妨害や校則違反、いじめや暴力行為)を克服するための試み
- 第14回 グループ討議：生徒を取り巻く社会と現実を考える
- 第15回 ケーススタディ — 摂食障害の生徒とその保護者、学級担任に対し、どのようなアドバイスをすべきか？

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

教科書

授業内で配布する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業内で紹介する

著者：

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 教育実習Ⅱ(3回生枠)

クラス	配当回生 学部3回生
講義期間 通年	定 員
履修条件 教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定
担当者 井ノ口 貴史	

テーマ

実りある教育実習(教育実習事前指導)

獲得目標

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする

授業の内容

教育実習に向けて、教師として必要な資質、教師の社会的役割について講義、教育実習校決定までの手続きについてのガイダンスをする。その上で、3回生には、教育実習を終えた4回生の実習体験及び研究授業の報告会に参加させ、教育実習に向けての準備をさせる。また、各学校で行われる公開研究会に参加させ、現場教師の授業づくりや授業方法をまなばせる。

内 容

- 第1回 教員の適性について・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて
- 第2回 教員の資質について・教育実習の実態について一実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて・教育実習受講資格について(内規)
- 第3回 ビデオによる教育実習の観察指導
- 第4回 先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答
- 第5回 教育実習の心得
- 第6回 現場教員による講演
- 第7回 教育実習直前指導
- 第8回 実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う
- 第9回 【実習】第1週・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
- 第10回 第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。

教科書

授業内で配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 養護実習(3回生枠)

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 集中

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 牧野 節子

テーマ

実りある養護実習(養護実習事前指導)

獲得目標

(獲得目標)学校保健活動における養護教諭の職務の実態、養護実習体験報告などから、養護実習についてのイメージを膨らませて実習に臨み、養護教諭への志を確たるものにする。

授業の内容

教職課程ガイダンス・教員の適性・資質について・教育職員免許取得の心構えについて

内 容

- 第1回 養護実習事前指導・養護実習内諾依頼について・養護実習の意義と計画について・養護実習の準備と心構えについて
- 第2回 養護実習反省会 実習体験報告から学ぶ。グループ討議・実践交流(4-3回生合同開催)
- 第3回 養護実習事前指導・養護実習の内容について(実習の流れ・プロセスと心得、実習記録など)・実習校への事前訪問、事前打ち合わせについて・養護実習の目標と計画について考え交流する。・養護実習受講資格について(内規)

授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、4回生や児童教育科の学生との情報交流、子ども対象の催しや学校ボランティア活動などに積極的に参加する。

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報検索演習 <Zb>

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 秋期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	米谷 優子	

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

獲得目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の内容

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
- 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
- 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
- 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
- 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
- 第6回 図書情報検索演習
- 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
- 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
- 第9回 人物情報・団体情報の検索
- 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
- 第11回 統計情報・地理的情報の検索
- 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
- 第13回 法律情報等の検索
- 第14回 法律情報等の検索演習
- 第15回 まとめ(試験を含む)

授業以外での学習方法

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

教科書

デジタル情報資源の検索

著者: 高嶽裕樹

出版社: 京都図書館情報研究会

出版年: 2012

ISBN: 9784820412144

参考書

キーワード検索がわかる

著者: 藤田節子

出版社：筑摩書房

出版年：2007

ISBN：9784480063854

インターネット時代のレファレンス

著者：大串夏身, 田中均

出版社：日外アソシエーツ

出版年：2010

ISBN：9784816922893

成績評価

試験（45）

小テスト（）

授業中課題（45）

授業中発表等（）

参加度（10）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報検索演習 <Zc>

クラス	配当回生	学部4回生
講義期間 春期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	米谷 優子	

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

獲得目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の内容

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
- 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
- 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
- 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
- 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
- 第6回 図書情報検索演習
- 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
- 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
- 第9回 人物情報・団体情報の検索
- 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
- 第11回 統計情報・地理的情報の検索
- 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
- 第13回 法律情報等の検索
- 第14回 法律情報等の検索演習
- 第15回 まとめ(試験を含む)

授業以外での学習方法

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

教科書

デジタル情報資源の検索

著者: 高嶽裕樹

出版社: 京都図書館情報研究会

出版年: 2012

ISBN: 9784820412144

参考書

キーワード検索がわかる

著者: 藤田節子

出版社：筑摩書房

出版年：2007

ISBN：9784480063854

インターネット時代のレファレンス

著者：大串夏身, 田中均

出版社：日外アソシエーツ

出版年：2010

ISBN：9784816922893

成績評価

試験（45）

小テスト（）

授業中課題（45）

授業中発表等（）

参加度（10）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 資料組織演習 I <Za>

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	

テーマ

多様な情報資源に関する書誌データ、メタデータの作成実習。

獲得目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の内容

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

内 容

- 第1回 書誌データ作成 1 (総則)
- 第2回 書誌データ作成 2 (タイトル・責任表示)
- 第3回 書誌データ作成 3 (版表示・出版事項)
- 第4回 書誌データ作成 4 (形態・シリーズ)
- 第5回 書誌データ作成 5 (注記)
- 第6回 書誌データ作成 6 (国際標準図書番号・入手条件)
- 第7回 書誌データ作成 7 (継続資料)
- 第8回 書誌データ作成 8 (継続資料)
- 第9回 書誌データ作成 9 (標目について)
- 第10回 集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)
- 第11回 集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)
- 第12回 集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)
- 第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 1 (概要)
- 第14回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 2 (作成)
- 第15回 書誌データ管理・検索システムの構築

授業以外での学習方法

自大学図書館のOPAC、CiiNii-Books、NDL-OPACなどで、資料検索しデータを見る。

教科書

テキストは使用しない。授業のつどプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズⅡ)

著者: 吉田憲一編

出版社：日本図書館協会

出版年：2007

ISBN：

情報資源組織論及び演習

著者： 那須雅熙著

出版社：学文社

出版年：2012

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中、授業最終日に理解度をはかるために確認のテストを行う。また、授業中、とくに「集中化・共同化による書誌データ作成」時における成果や、それぞれの演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

Cinii-books

<http://ci.nii.ac.jp/books/>

国立情報学研究所が構築する総合目録

国立国会図書館蔵書検索

<https://ndlopac.ndl.go.jp/F/>

国立国会図書館蔵書検索

2014 Syllabus

科目名 **資料組織演習 I <Zb>**

クラス	配当回生 学部4回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	

テーマ

多様な情報資源に関する書誌データ、メタデータの作成実習。

獲得目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の内容

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

内 容

- 第1回 書誌データ作成 1 (総則)
- 第2回 書誌データ作成 2 (タイトル・責任表示)
- 第3回 書誌データ作成 3 (版表示・出版事項)
- 第4回 書誌データ作成 4 (形態・シリーズ)
- 第5回 書誌データ作成 5 (注記)
- 第6回 書誌データ作成 6 (国際標準図書番号・入手条件)
- 第7回 書誌データ作成 7 (継続資料)
- 第8回 書誌データ作成 8 (継続資料)
- 第9回 書誌データ作成 9 (標目について)
- 第10回 集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)
- 第11回 集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)
- 第12回 集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)
- 第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 1 (概要)
- 第14回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 2 (作成)
- 第15回 書誌データ管理・検索システムの構築

授業以外での学習方法

自大学図書館のOPAC、CiiNii-Books、NDL-OPACなどで、資料検索しデータをみる。

教科書

テキストは使用しない。授業のつどプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズ II

著者: 吉田憲一編

出版社：日本図書館協会

出版年：2007

ISBN：

情報資源組織論及び演習

著者： 那須雅熙著

出版社：学文社

出版年：2012

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中、授業最終日に理解度をはかるために確認のテストを行う。また、授業中、とくに「集中化・共同化による書誌データ作成」時における成果や、それぞれの演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

Cinii-books

<http://ci.nii.ac.jp/books/>

国立情報学研究所が構築する総合目録

国立国会図書館蔵書検索

<https://ndlopac.ndl.go.jp/F/>

国立国会図書館蔵書検索

2014 Syllabus

科目名 **情報サービス演習 I <a>**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 秋期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	

テーマ

情報サービスの中心をなすレファレンスサービスや発信型情報サービスの実践演習

獲得目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の内容

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

内 容

- 第1回 情報サービスの設計 1(総論)
- 第2回 情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
- 第3回 情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
- 第4回 レファレンスインタビューの技法と実際
- 第5回 各種情報源の選択－質問分析と回答 1 事実調査(言葉・歴史を調べる)
- 第6回 各種情報源の選択－質問分析と回答 2 事実調査(地名・人名を調べる)
- 第7回 各種情報源の選択－質問分析と回答 3 演習(グループ)発表
- 第8回 各種情報源の選択－質問分析と回答 4 事実調査(統計・法令をしらべる)
- 第9回 各種情報源の選択－質問分析と回答 5 事実調査(その他)
- 第10回 各種情報源の選択－質問分析と回答 6 文献調査(図書)
- 第11回 各種情報源の選択－質問分析と回答 7 文献調査(雑誌)
- 第12回 各種情報源の選択－質問分析と回答 8 文献調査(新聞)
- 第13回 各種情報源の選択－質問分析と回答 9 演習(グループ発表)
- 第14回 発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
- 第15回 情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)

授業以外での学習方法

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみること。

教科書

テキストは使用しない。プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

問題解決のためのレファレンスサービス

著者: 長澤雅男(ほか)著

出版社：日本図書館協会

出版年：2009

ISBN：

情報サービス論及び演習

著者：中西裕(ほか)著

出版社：学文社

出版年：2012

ISBN：

レファレンスサービス演習(改訂版)

著者：吉田右子著

出版社：勉誠出版

出版年：2010

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（30）

参加度（20）

授業中にグループ演習を2回行い回答をグループごとに発表、その他「参考図書調査票」「パスファインダー」を作成し提出する。また、授業中に与えられた個人演習課題を最終日に提出する。参加度は、グループ演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

国立国会図書館リサーチナビ

<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

国立国会図書館が提供する「調べ方案内」の総合ポータルサイト

日外アソシエーツレファレンスクラブ

<http://www.reference-net.jp/>

日外アソシエーツのレファレンス支援サイト

2014 Syllabus

科目名 情報サービス演習 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 春期集中	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	

テーマ

情報サービスの中心をなすレファレンスサービスや発信型情報サービスの実践演習

獲得目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の内容

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

内 容

- 第1回 情報サービスの設計 1(総論)
- 第2回 情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
- 第3回 情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
- 第4回 レファレンスインタビューの技法と実際
- 第5回 各種情報源の選択－質問分析と回答 1 事実調査(言葉・歴史を調べる)
- 第6回 各種情報源の選択－質問分析と回答 2 事実調査(地名・人名を調べる)
- 第7回 各種情報源の選択－質問分析と回答 3 演習(グループ)発表
- 第8回 各種情報源の選択－質問分析と回答 4 事実調査(統計・法令をしらべる)
- 第9回 各種情報源の選択－質問分析と回答 5 事実調査(その他)
- 第10回 各種情報源の選択－質問分析と回答 6 文献調査(図書)
- 第11回 各種情報源の選択－質問分析と回答 7 文献調査(雑誌)
- 第12回 各種情報源の選択－質問分析と回答 8 文献調査(新聞)
- 第13回 各種情報源の選択－質問分析と回答 9 演習(グループ発表)
- 第14回 発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
- 第15回 情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)

授業以外での学習方法

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみること。

教科書

テキストは使用しない。プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

情報サービス論及び演習

著者: 中西裕(ほか)著

出版社：学文社

出版年：2012

ISBN：

レファレンスサービス演習(改訂版)

著者：吉田右子著

出版社：勉誠出版

出版年：2010

ISBN：

問題解決のためのレファレンスサービス

著者：長澤雅男(ほか)著

出版社：日本図書館協会

出版年：2009

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（30）

参加度（20）

授業中にグループ演習を2回行い回答をグループごとに発表、その他「参考図書調査票」「パスファインダー」を作成し提出する。また、授業中に与えられた個人演習課題を最終日に提出する。参加度は、グループ演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

国立国会図書館リサーチナビ

<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

国立国会図書館が提供する「調べ方案内」の総合ポータルサイト

日外アソシエーツレファレンスクラブ

<http://www.reference-net.jp/>

日外アソシエーツのレファレンス支援サイト

2014 Syllabus

科目名 情報サービス演習Ⅱ <a>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 秋期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	米谷 優子	

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

獲得目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の内容

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
- 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
- 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
- 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
- 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
- 第6回 図書情報検索演習
- 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
- 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
- 第9回 人物情報・団体情報の検索
- 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
- 第11回 統計情報・地理的情報の検索
- 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
- 第13回 法律情報等の検索
- 第14回 法律情報等の検索演習
- 第15回 まとめ(試験を含む)

授業以外での学習方法

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

教科書

デジタル情報資源の検索

著者: 高嶽裕樹

出版社: 京都図書館情報研究会

出版年: 2012

ISBN: 9784820412144

参考書

キーワード検索がわかる

著者: 藤田節子

出版社：筑摩書房

出版年：2007

ISBN：9784480063854

インターネット時代のレファレンス

著者：大串夏身, 田中均

出版社：日外アソシエーツ

出版年：2010

ISBN：9784816922893

成績評価

試験（45）

小テスト（）

授業中課題（45）

授業中発表等（）

参加度（10）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **情報サービス演習Ⅱ **

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 秋期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	米谷 優子	

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

獲得目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の内容

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

内 容

- 第8回 雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事検索演習
- 第9回 人物情報・団体情報の検索
- 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
- 第11回 統計情報・地理的情報の検索
- 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
- 第13回 法律情報等の検索
- 第14回 法律情報等の検索演習
- 第15回 まとめ(試験を含む)
- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
- 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
- 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
- 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
- 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
- 第6回 図書情報検索演習
- 第7回 雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事の検索

授業以外での学習方法

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

教科書

デジタル情報資源の検索

著者： 高嶽裕樹

出版社： 京都図書館情報研究会

出版年： 2012

ISBN： 9784820412144

参考書

キーワード検索がわかる

著者： 藤田節子

出版社：筑摩書房

出版年：2007

ISBN：9784480063854

インターネット時代のレファレンス

著者：大串夏身, 田中均

出版社：日外アソシエーツ

出版年：2010

ISBN：9784816922893

成績評価

試験（45）

小テスト（）

授業中課題（45）

授業中発表等（）

参加度（10）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報サービス演習Ⅱ <c>

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 春期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	米谷 優子	

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

獲得目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の内容

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
- 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
- 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
- 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
- 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
- 第6回 図書情報検索演習
- 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
- 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
- 第9回 人物情報・団体情報の検索
- 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
- 第11回 統計情報・地理的情報の検索
- 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
- 第13回 法律情報等の検索
- 第14回 法律情報等の検索演習
- 第15回 まとめ(試験を含む)

授業以外での学習方法

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

教科書

デジタル情報資源の検索

著者: 高嶽裕樹

出版社: 京都図書館情報研究会

出版年: 2012

ISBN: 9784820412144

参考書

キーワード検索がわかる

著者: 藤田節子

出版社：筑摩書房

出版年：2007

ISBN：9784480063854

インターネット時代のレファレンス

著者：大串夏身, 田中均

出版社：日外アソシエーツ

出版年：2010

ISBN：9784816922893

成績評価

試験（45）

小テスト（）

授業中課題（45）

授業中発表等（）

参加度（10）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 情報資源組織演習 I <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	

テーマ

多様な情報資源に関する書誌データ、メタデータの作成実習。

獲得目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の内容

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

内 容

- 第1回 書誌データ作成 1 (総則)
- 第2回 書誌データ作成 2 (タイトル・責任表示)
- 第3回 書誌データ作成 3 (版表示・出版事項)
- 第4回 書誌データ作成 4 (形態・シリーズ)
- 第5回 書誌データ作成 5 (注記)
- 第6回 書誌データ作成 6 (国際標準図書番号・入手条件)
- 第7回 書誌データ作成 7 (継続資料)
- 第8回 書誌データ作成 8 (継続資料)
- 第9回 書誌データ作成 9 (標目について)
- 第10回 集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)
- 第11回 集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)
- 第12回 集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)
- 第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 1 (概要)
- 第14回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 2 (作成)
- 第15回 書誌データ管理・検索システムの構築

授業以外での学習方法

自大学図書館のOPAC、CiiNii-Books、NDL-OPACなどで、資料検索しデータを見る。

教科書

テキストは使用しない。授業のつどプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズⅡ)

著者: 吉田憲一編

出版社：日本図書館協会

出版年：2007

ISBN：

情報資源組織論及び演習

著者： 那須雅熙著

出版社：学文社

出版年：2012

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中、授業最終日に理解度をはかるために確認のテストを行う。また、授業中、とくに「集中化・共同化による書誌データ作成」時における成果や、それぞれの演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

Cinii-books

<http://ci.nii.ac.jp/books/>

国立情報学研究所が構築する総合目録

国立国会図書館蔵書検索

<https://ndlopac.ndl.go.jp/F/>

国立国会図書館蔵書検索

2014 Syllabus

科目名 情報資源組織演習 I

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 平野 翠	

テーマ

多様な情報資源に関する書誌データ、メタデータの作成実習。

獲得目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の内容

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

内 容

- 第1回 書誌データ作成 1 (総則)
- 第2回 書誌データ作成 2 (タイトル・責任表示)
- 第3回 書誌データ作成 3 (版表示・出版事項)
- 第4回 書誌データ作成 4 (形態・シリーズ)
- 第5回 書誌データ作成 5 (注記)
- 第6回 書誌データ作成 6 (国際標準図書番号・入手条件)
- 第7回 書誌データ作成 7 (継続資料)
- 第8回 書誌データ作成 8 (継続資料)
- 第9回 書誌データ作成 9 (標目について)
- 第10回 集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)
- 第11回 集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)
- 第12回 集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)
- 第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 1 (概要)
- 第14回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 2 (作成)
- 第15回 書誌データ管理・検索システムの構築

授業以外での学習方法

自大学図書館のOPAC、CiiNii-Books、NDL-OPACなどで、資料検索しデータを見る。

教科書

テキストは使用しない。授業のつどプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズ II

著者: 吉田憲一編

出版社：日本図書館協会

出版年：2007

ISBN：

情報資源組織論及び演習

著者： 那須雅熙著

出版社：学文社

出版年：2012

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中、授業最終日に理解度をはかるために確認のテストを行う。また、授業中、とくに「集中化・共同化による書誌データ作成」時における成果や、それぞれの演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

Cinii-books

<http://ci.nii.ac.jp/books/>

国立情報学研究所が構築する総合目録

国立国会図書館蔵書検索

<https://ndlopac.ndl.go.jp/F/>

国立国会図書館蔵書検索

2014 Syllabus

科目名 情報資源組織演習Ⅱ <a>

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 福井 多恵子	

テーマ

図書館情報資源の組織化業務の一つである資料分類法についての知識と技法を学ぶ。

獲得目標

NDC9版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

授業の内容

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。

内 容

- 第1回 主題分析とその表示 情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主题について説明
- 第2回 基本件名標目表の概略 基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
- 第3回 基本件名標目表による件名作業 細目の用い方、件名規程の説明
- 第4回 演習とまとめ ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
- 第5回 日本十進分類法(NDC)の概略 NDCの構成を説明
- 第6回 日本十進分類法による分類作業 一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明
- 第7回 分類記号付与の実際 分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
- 第8回 演習とまとめ
- 第9回 分類記号付与の実際／人文科学(2類、1類) これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
- 第10回 分類記号付与の実際／人文科学(7類、8類、9類)
- 第11回 演習とまとめ
- 第12回 分類記号付与の実際／社会科学(3類)
- 第13回 分類記号付与の実際／自然科学(4類)、技術(5類)
- 第14回 分類記号付与の実際／産業(6類)、総記(0類)
- 第15回 図書記号・別置記号の付与; 演習とまとめ

授業以外での学習方法

大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、排架されている資料の背ラベルに記されている数字や記号を意識して観察する。

教科書

情報資源組織演習

著者: 和中幹雄ほか

出版社: 日本図書館協会

出版年:

ISBN:

参考書

情報資源組織論及び演習』(ライブラリー図書館情報学9)

著者: 那須雅熙

出版社：学文社

出版年：2012

ISBN：

成績評価

試験（50%）

小テスト（20%）

授業中課題（10%）

授業中発表等（）

参加度（20%）

授業に積極的に参加する姿勢を重視する。授業中、授業最終日に理解度を確認するためのテストを行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **情報資源組織演習Ⅱ **

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 福井 多恵子	

テーマ

図書館情報資源の組織化業務の一つである資料分類法についての知識と技法を学ぶ。

獲得目標

NDC9版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

授業の内容

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。

内 容

- 第1回 主題分析とその表示 情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主题について説明
- 第2回 基本件名標目表の概略 基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
- 第3回 基本件名標目表による件名作業 細目の用い方、件名規程の説明
- 第4回 演習とまとめ ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
- 第5回 日本十進分類法(NDC)の概略 NDCの構成を説明
- 第6回 日本十進分類法による分類作業 一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明
- 第7回 分類記号付与の実際 分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
- 第8回 演習とまとめ
- 第9回 分類記号付与の実際／人文科学(2類、1類) これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
- 第10回 分類記号付与の実際／人文科学(7類、8類、9類)
- 第11回 演習とまとめ
- 第12回 分類記号付与の実際／社会科学(3類)
- 第13回 分類記号付与の実際／自然科学(4類)、技術(5類)
- 第14回 分類記号付与の実際／産業(6類)、総記(0類)
- 第15回 図書記号・別置記号の付与; 演習とまとめ

授業以外での学習方法

大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、排架されている資料の背ラベルに記されている数字や記号を意識して観察する。

教科書

情報資源組織演習

著者: 和中幹雄

出版社: 日本図書館協会

出版年:

ISBN:

参考書

情報資源組織論及び演習』(ライブラリー図書館情報学9)

著者: 那須雅熙

出版社：学文社

出版年：2012

ISBN:

成績評価

試験（50%）

小テスト（20%）

授業中課題（10%）

授業中発表等（）

参加度（20%）

授業に積極的に参加する姿勢を重視する。授業中、授業最終日に理解度を確認するためのテストを行う。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **学校図書館メディアの構成**

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 村岡 益子	

テーマ

学校図書館メディアの構成に必要な実務的知識を得る。

獲得目標

学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成と、学校図書館メディアの専門職である司書教諭としての基本的な知識を獲得する。

授業の内容

まず初めに、高度情報社会における学習環境の変化に伴うメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種別と特性について説明し、理解を図る。次に、より優れたメディアの構築について、さらにメディアの組織化の意義と展開について講義し、必要に応じて演習や実習を行う。

内 容

- 第1回 高度情報社会における学校図書館メディア
- 第2回 学校図書館におけるメディアの種類と特性
- 第3回 学校図書館メディア構築のための基本
- 第4回 学校図書館メディアの選択と収集方針(評価方法を含む)
- 第5回 学校図書館メディアの選択のための情報源と発注
- 第6回 情報ファイル資料の構築
- 第7回 学校図書館メディアの維持と発展(更新・廃棄を含む)
- 第8回 学校図書館メディアの組織化の意義とプロセス
- 第9回 学校図書館メディアの配架
- 第10回 学校図書館メディアの組織化の新しい展開
- 第11回 学校図書館メディアの目録
- 第12回 学校図書館メディアの目録法
- 第13回 学校図書館メディアの主題索引法
- 第14回 特別な支援のための学校図書館メディア
- 第15回 学校図書館メディアの充実と提供

授業以外での学習方法

小・中・高・大学の図書館及び公共図書館へ足を運ぶ。また、必要な事前学習については、適宜指示する。

教科書

学校図書館メディアの構成

著者： 小田光宏 編集

出版社： 樹村房

出版年： 2010年

ISBN： 4-88367-091-8

加えて、適宜、講義に必要な「印刷資料」を配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

学校図書館・司書教諭講習資料 第7版』

著者： 全国学校図書館協議会編

出版社： 全国学校図書館協議会

出版年： 2012年

ISBN： 4-7933-0087-5

成績評価

試験（50%）

小テスト（0%）

授業中課題（10%）

授業中発表等（10%）

参加度（30%）

出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、授業中の発表内容、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 学習指導と学校図書館

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 村岡 益子	

テーマ

学習センター機能としての学校図書館は、教科学習や読書などと関連付けて活用されることが重要である。司書教諭は教師として、また多様なメディアの専門家として、その役割を果たすことが求められている。学校教育の目標と結びついた学習指導において学校図書館の活用を考えていく。

獲得目標

学習指導の基盤となる教育の理論を理解した上で、学校図書館メディアの活用方法を実践例を見ながら考察する。教科学習における担当教諭と司書教諭のコラボレーション、学習情報センターとしての学校図書館利用指導などについて事例を研究し、実際に自分で指導計画を作成する。情報リテラシー育成の一端を担う学校図書館活用の理論と実践のつながりを理解する。

授業の内容

講義中心であるが、課題をこなし、それに基づいた討論を行う。学習指導計画を実際に作成し、学校図書館を活用した授業を考える。最後に筆記試験を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーションとビデオ視聴『司書教諭の役割』
- 第2回 学校教育と学校図書館
- 第3回 主体的な学習を支える学校図書館
- 第4回 メディア活用能力育成とその方法
- 第5回 メディア活用能力育成の計画と評価
- 第6回 レファレンスサービスと情報サービス
- 第7回 学校図書館メディアの活用—レファレンスブックの利用
- 第8回 情報サービスの新しい展開
- 第9回 インターネット情報源の利用
- 第10回 情報の利用とまとめ方
- 第11回 ビデオ視聴『図書館を生かす学校は変わる』
- 第12回 調べ学習の事例(1)
- 第13回 調べ学習の事例(2)
- 第14回 学校図書館活用を組み込んだ学習指導計画の作成
- 第15回 学習指導計画の発表と討議 まとめと筆記試験

授業以外での学習方法

教育学、教科教育法の授業を履修した人は復習しておくこと。また、必要な、事前学習については、適宜指示する。

教科書

学習指導と学校図書館

著者：「シリーズ学校図書館学」編集委員会編

出版社：全国学校図書館協議会

出版年：2010年

ISBN：4-7933-2244-0

加えて、適宜、講義の理解に必要な「印刷資料」を配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

学校図書館・司書教諭講習資料 第7版

著者： 全国学校図書館協議会編

出版社： 全国学校図書館協議会

出版年： 2012年

ISBN： 4-7933-0087-5

成績評価

試験（50%）

小テスト（0%）

授業中課題（10%）

授業中発表等（10%）

参加度（30%）

出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、授業中の発表内容、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **情報メディアの活用**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 秋期集中	定員	50
履修条件	クラス指定	
担当者	戸田 久美子	

テーマ

存在するさまざまなメディアの特色を理解した上で、学校教育への活用を論じる。そして、児童生徒の情報リテラシーの育成について学ぶ。

獲得目標

司書教諭資格取得希望者、もしくは教職希望者が、情報メディアを授業で活用することを目標において行う講義である。実践に役立つ知識とスキルを身につけ、情報メディアの活用を目的とした教材の制作も行う。また、グループワークを取り入れ、コミュニケーションスキルの向上も図る。

授業の内容

現代社会におけるさまざまなメディアの特色を理解し、実際に学校教育に活用することができるような知識の習得をめざす。また著作権の問題やメディアに潜む「負」の要素を認識すると共に、併せて児童生徒への指導方法についても考える。

内 容

- 第1回 情報メディアの発達と変化：情報社会と人間
- 第2回 学校教育における情報メディア、高度情報社会における図書館の役割
- 第3回 情報メディアの特性と選択
- 第4回 視聴覚メディアの活用・実例の紹介
- 第5回 電子メディアの活用・実例の紹介
- 第6回 学校図書館におけるコンピュータの利用
- 第7回 情報活用能力、メディアリテラシー
- 第8回 教育用ソフトウェアの活用
- 第9回 情報検索の仕組みと実際：データベースを用いて
- 第10回 情報検索の仕組みと実際：インターネットを用いて
- 第11回 インターネットの利用：ネチケット、フィルタリング
- 第12回 インターネット：情報の発信
- 第13回 プレゼンテーションと情報の評価
- 第14回 情報メディアと著作権およびテスト
- 第15回 テストの確認と自己評価

授業以外での学習方法

授業で紹介する資料およびURLへは各自で閲覧やアクセスを行っておいてください。

教科書

情報メディアの活用

著者： 井口磯夫

出版社： 樹村房

出版年： 2009

ISBN：

参考書

授業でその都度紹介する

著者：

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (35)

小テスト (10)

授業中課題 (35)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

授業で紹介する資料およびURLへは各自で閲覧やアクセスを行っておいください。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 博物館教育論

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

資料重視型から利用者重視型へ向かう博物館での教育カリキュラムの構築

獲得目標

これまで日本の博物館では、収集資料重視の偏重があったため、館の使命の中に教育という側面がおろそかにされてきた。ところが、近年、利用者を重視する博物館運営にウエイトが増しており、普及部門の活動の中でも教育が必要不可欠な存在となってきた。本論では、博物館における教育展開の多方面にわたる手法と利用者の多様性を提示することで、よりよいカリキュラムの構築について考えてみたい。

授業の内容

博物館における教育活動の基盤となる理論や実践的な諸事例や方法を知り、それを展開する博物館がいかなる社会的存在となり得るかを探り、博物館機能の中に教育が参画できる基礎的な方策を立てることの能力を養う。

内 容

- 第1回 学びの意義(博物館の社会的存在感)
 第2回 【博物館教育の意義と理念】①コミュニケーションの場として博物館教育
 第3回 ②博物館機能の1つとしての教育的意義
 第4回 ③展示開発の中での教育担当者として役割
 第5回 ④博物館教育の意義(生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等)
 第6回 ⑤博物館教育の方針と評価
 第7回 【博物館の利用と学び】①博物館の利用実態と利用者の博物館体験
 第8回 ②校外学習の場、アウトリーチの場としての博物館活動と利用方法
 第9回 ③博物館における有効な学びの特性ーハンズ・オン、ワークショップの展開
 第10回 【博物館教育の実際】①国立民族学博物館の見学
 第11回 ②キッズプラザ大阪の見学
 第12回 ③学校教育に生かす活動(展示ストーリー、収蔵資料と学習指導要領の関係)
 第13回 ④博物館教育活動の企画案の作成
 第14回 ⑤博物館教育活動の実施案の作成
 第15回 ⑥博物館展示教育のカリキュラム案の作成

授業以外での学習方法

各地の博物館が行う教育プログラムに参加してみる。博物館のハンズ・オン展示に触れてみる。

教科書

造形ワークショップの広がり

著者： 高橋陽一編

出版社： 武蔵野美術大学出版局

出版年： 2011

ISBN： 9784901631983

参考書

博物館学ハンドブック

著者： 高橋隆博他

成績評価

試験（10）

授業中課題（20）

参加度（40）

小テスト（20）

授業中発表等（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 博物館情報・メディア論

クラス	配当回生 学部1回生
講義期間 後期	定員
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	

テーマ

メディアの意味を理解しつつ、視聴覚メディアの活用能力を磨く

獲得目標

博物館などの文化施設における視聴覚メディアの利用は、単なる視聴覚機器の時代から、デジタルテクノロジーを活用したマルチメディア時代へと大きく転換してきている。それに伴い、運営に携わるスタッフにもそれらを抵抗なく使いこなしていく能力が求められてきている。視聴覚メディアに関する歴史や意義を今一度振り返るとともに、文化施設等で実際に使用されている映像等を通じて、基礎的なメディア活用の能力を磨いていく。

授業の内容

博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

内 容

- 第1回 メディアの意義 今日、我々にとって様々なメディアは生活に不可欠となっており、文化施設等でも日常的に使用している。基本的なメディアの意義を説明する。
- 第2回 メディアの歴史と発展 これまで人類が創造してきた広い意味でのメディアの歴史を紐解きながら、それが博物館等どのように利用されてきたかを説明する。
- 第3回 メディアの未来とICT社会 メディアは日々進化しており、ここでは最新のメディア機器とそれに関わる博物館でのICT社会について説明する。
- 第4回 メディアと認知心理学 情報を発信すれば良いのではなく、最も重要なのがどう認知するかである。認知心理学の理論から、主に記憶と認知の構造を説明する。
- 第5回 メディアの利用とその影響 博物館にかぎらず、メディアの利用には気をつけなくてはならない点がある。過去の活用例をもとに、その影響力について説明する。
- 第6回 博物館におけるメディアの利用 博物館において、利用者や職員が使う様々なメディアについて、その全体像について説明する。
- 第7回 視聴覚情報メディア機器の活用(静止画) おもに従来から使用されてきたスライドやOHPなど静止画を中心とする具体的な機器について博物館での事例を交えて説明を行う。
- 第8回 視聴覚情報メディア機器の活用(動画) ここでは教育用に利用されてきたフィルムやビデオテープなどの動画を中心とする機器について博物館での事例を交えて説明を行う。
- 第9回 デジタル型視聴覚情報メディアについて 今日では、パソコンを含むデジタル型視聴覚情報メディアが利用されている。ここでは一般的な機器やインターネット等についての説明を行う。
- 第10回 デジタル機器とデータベース 情報コンテンツのデジタル化が一般化する中で、デジタルデータベース(=デジタルアーカイブ)をどのように構築し、利用するかを説明する。
- 第11回 ドキュメンテーションとシソーラス デジタル環境におけるドキュメンテーションづくりについて、とくに既製分類のない博物館におけるシソーラスのあり方について説明する。
- 第12回 博物館と著作権 博物館における知的財産権との関係の中で、とくに著作権を中心に日常業務に必要な事柄(著作権処理等を含む)について説明を行う。
- 第13回 情報管理と情報公開 おもにホームページ等への公開と管理を中心として、情報の管理形式とその公開について、ネットワークシステム論と併せて説明を行う。
- 第14回 学生によるプレゼンテーション(1) 学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。
- 第15回 学生によるプレゼンテーション(2) 学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。

授業以外での学習方法

文化施設で開催される講演会やシンポジウム・映画鑑賞会などに出席したり、テーマパーク等のメディア技術の観察などを行うこと。

教科書

山科ガイド

著者： 木下達文著

出版社： つむぎ出版

出版年： 2010

ISBN:

参考書

視聴覚メディアと教育方法

著者： 井上知義編

出版社： 北大路書房

出版年： 1999

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（30）

授業中発表等（30）

参加度（40）

特に出席を重視する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 博物館経営論

クラス	配当回生 学部2回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	

テーマ

社会に役立つ博物館とは

獲得目標

現代の博物館は非常に多様化しており、また経営方法も変わってきた。一方で、財政的にも厳しくなっているため、従来の経営方法では立ちゆかなくなってきた。したがって、これからの学芸員は経営感覚が必須といわれるようになってきた。そこで、本講座を通じて経営的視点をもつ人材の養成を行う。

授業の内容

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営(ミュージアムマネジメント)に関する基礎的能力を養う。

内 容

- 第1回 ミュージアムマネージメントの概念と必要性 ここでは、ミュージアムマネジメントとは何かということから、なぜ博物館において「経営」的視点が必要になってきたのかということについて解説する。
- 第2回 博物館の行財政(経営とその種類) 近年、独立行政法人や指定管理者制度の導入によりその経営のあり方は大きく変化した。ここでは、そうした行財政制度の基本を説明する。
- 第3回 博物館の設置(主体) 国や自治体のみならず、多様な市立博物館が今日たくさん設置されている。ここでは、設置主体毎の特徴をおおまかに説明していく。
- 第4回 博物館の施設・設備(ユニバーサル化を含む) そもそも博物館がどのように計画・設置されるのかというプロセスと同時に、博物館に必要な施設設備について解説する。
- 第5回 博物館の組織と職員 博物館にとっての組織のあり方と同時に、学芸員を含む様々な職務スタッフについての概要を海外と比較しながら説明を行う。
- 第6回 博物館の使命と計画と評価 博物館は「何のために存在するのか」を常に自身および他者に問わなければならない。その使命と実施評価の方法について説明する。
- 第7回 博物館倫理(行動規範) 博物館は公益活動を行うところであり、コレクションを持つという特色がある。業務の特色をふまえた行動規範について解説する。
- 第8回 博物館の危機管理 東日本大震災の調査記録等を素材としながら、博物館の様々な事故とそれに対応する管理体制およびリカバリー等について解説する。
- 第9回 ミュージアムマーケティング 社会には様々な娯楽があり、年々利用者獲得が難しくなっている。ここでは、博物館の市場および利用者獲得のためのマネジメントを考える。
- 第10回 博物館と市民参画(友の会、ボランティア等) 博物館をとりまく支援組織のあり方が変化している。おもに友の会と文化ボランティア活動についての概要を説明する。
- 第11回 博物館とサービス(ミュージアムショップ・レストラン等) 博物館は法の定義にもあるように、レクリエーションの場でもある。ここでは、博物館サービスとしてのショップとレストラン等のあり方考える。
- 第12回 博物館と地域連携 博物館はもはや単独経営では成り立たなくなっている。地域連携や博学連携などを例にあげながら、博物館の新たな役割について説明する。
- 第13回 博物館の財務(資金調達) これまでの博物館は一定の予算枠で活動を行うことが多かった。寄付に関する法律が変わっていくことで、今後の資金調達のあり方考える。
- 第14回 特別講義 これまで博物館経営を行ってきた人、あるいは学芸員としての実績がある人をお招きし、その経験的視点からのケーススタディを考える。
- 第15回 博物館の見学 実際に博物館の現場を訪れ、展示だけでなく経営的な視点から博物館の運営状況、スタッフ、ショップ・レストランに至るまで観察を行う。

授業以外での学習方法

できるだけ機会をつくっていろいろな博物館を見学したり活動に参加してほしい。また、広報誌やガイドブックを参考にそれぞれの博物館の特徴や社会サービスの内容を知ること。

教科書

ひろがる日本のミュージアム

著者： 千地万造・木下達文編

出版社： 晃洋書房

出版年： 2007

ISBN：

参考書

新しい博物館学

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（0）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 博物館展示論

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 木下 達文

テーマ

展示メディアの理解と創造

獲得目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

授業の内容

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念) 展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態) 展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史 展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性 展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等) 展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術) 展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究 展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営 展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説 展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等) とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義 実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践 これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
- 第13回 展示の製作実践 企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践 つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもとり、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新 展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

授業以外での学習方法

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年: 1996

ISBN:

イベント講座

著者: 日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年: 2004

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語教育実習

クラス

配当回生 学部4回生

講義期間 秋期集中

定員 50

履修条件 日本語教材研究も同時に登録すること

クラス指定

担当者 佐野 裕子.辻野 里枝.中川 裕子

テーマ

日本語教育の授業見学、教案作成、教壇実習

獲得目標

実際に日本語の授業の計画(教案作成、教材開発など)、実践、批判を行うことができる。

授業の内容

この授業においては教員はあくまでアドバイザーであり、学生に主体的に教案作成、教材開発を行ってもらう。事前授業における教員との個別指導は、原則週1回とする。

内 容

- 第1回 第1回ガイダンス 海外実習、国内実習の概要説明・実習先希望調査(5月中旬～下旬に行う)
 第2回 第2回ガイダンス 実習担当クラス(指導教師)の決定(6月中旬に行う予定)
 第3回 第3回ガイダンス 実習の授業計画(7月上旬予定)
 第4回 教案・教材作成(夏休み期間中)
 第5回 事前授業 教案・教材の最終確認・教員との個別指導の日程を決める(10月上旬予定)
 第6回 国内実習(11月上旬から中旬予定)
 第7回 海外実習(11月下旬予定)
 第8回 事後授業 実習報告会[実習の感想や反省などを発表]、実習報告書などの課題提出(12月中旬予定)
 第9回 実習報告書作成(1月下旬から2月上旬予定)

授業以外での学習方法

円滑に実習が行えるよう、教材の選定や教案の作成を計画的に行うことが重要である。少なくとも前期中に教案の草案を完成させておくように。教案の作成について相談がある場合は、必ずオフィスアワーなどを利用し指導を求めること。その際、必ず事前にアポイントメントをとること。教員からの連絡に常に注意を払うこと。不定期に行われるガイダンスなどの授業を最優先とし、授業に参加すること。

教科書

プリント作成

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題（30）

授業中発表等（60）

参加度（10）

ガイダンス(4回)、事前・事後授業に「すべて」出席することが単位認定の要件である。特に事前事業、教育実習期間中の指導教員による授業見学に欠席した場合、ただちに実習参加許可を取り消す。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 生涯学習概論Ⅱ

クラス

配当回生 学部1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

日本と世界の生涯学習

獲得目標

生涯学習を世界史的視野からとらえ、共通する現代的課題の国際的動向を把握する。

授業の内容

講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。

内 容

- 第1回 ハンブルク宣言の意味するもの
- 第2回 イギリスにおける大学拡張
- 第3回 成人教育の成立と現在
- 第4回 ドイツにおける民衆大学
- 第5回 市民大学の現在
- 第6回 有給教育休暇の理念と制度
- 第7回 職業資格と生涯学習
- 第8回 社会的教育学の成立と青少年教育
- 第9回 高齢社会と生涯学習
- 第10回 多文化共生と生涯学習
- 第11回 世界と日本の環境・まちづくり学習
- 第12回 エコミュージアムと市民の学習
- 第13回 アジアの生涯学習 中国
- 第14回 アジアの生涯学習 韓国
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

高校の世界史教科書の近代以降を自習しておくこと。授業中紹介した文献を読み世界の動向や教育改革の動きについて敏感になる

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の大学危機

著者: 潮木守一

出版社：中央公論新社

出版年：2004

ISBN： 4-12-101764-1

現代世界の生涯学習

著者： 新海英行／牧野篤

出版社：大学教育出版

出版年：2002

ISBN： 4-88730-477-3

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（70）

授業中発表等（）

参加度（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会教育計画Ⅱ**

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担 当 者 吉岡 いずみ

テーマ

地域・学校と社会教育計画

獲得目標

地域社会における学校教育と社会教育の協力を考える。また学級・講座の企画力を養う。

授業の内容

講義が主であるが、意見交換や発表も適宜行う

内 容

- 第1回 オリエンテーション 社会教育の場としての学校
- 第2回 小学校における施設開放
- 第3回 学社連携の実際
- 第4回 開かれた小学校とは？
- 第5回 校区社会教育の可能性
- 第6回 学校開放における安心と安全を考える
- 第7回 中学校におけるキャリア教育と地域連携を考える
- 第8回 総合型地域スポーツクラブと部活動
- 第9回 高等学校と地域社会
- 第10回 青年の学習と新しい高等学校
- 第11回 青年の自立支援のための施設と事業
- 第12回 大学開放の歴史と現在
- 第13回 日本におけるカウンターユニヴァーシティ
- 第14回 権利としての職業教育・訓練
- 第15回 企画ないしはテーマ研究の発表・交流

授業以外での学習方法

地域社会と学校の関係について、自分の体験にもとづいて考えること 授業中提示した参考文献を読むこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **社会教育課題研究**

クラス	配当回生	学部2回生
講義期間 後期	定員	40
履修条件	クラス指定	
担当者	吉岡 いずみ	

テーマ

施設調査と企画の提案

獲得目標

地域の社会教育調査の方法を習得し、施設に即した企画提案能力を身につける。

授業の内容

身近な近辺の市町村の社会教育関連施設について調べ、グループに分かれて調査もしくは実際にそこで行う企画を立案し、提案する。小集団による学習に習熟し、コミュニケーション能力を高め、プレゼンテーションの経験を積む。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 京都市および周辺市町村の社会教育の特徴
- 第3回 成人の学習の場所について
- 第4回 青少年教育施設について
- 第5回 児童館の現在
- 第6回 高齢者等福祉関連施設における学習について
- 第7回 地域の文化施設における学習について
- 第8回 調査のグルーピング
- 第9回 調査のグルーピング
- 第10回 グループに分かれてフィールドワーク
- 第11回 グループに分かれてフィールドワーク
- 第12回 企画立案ないしは調査の設計
- 第13回 企画立案ないしは調査の実施
- 第14回 企画の交流・調査結果の分析の発表
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

日頃から地域の学習・文化施設について関心を持つ

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語教授法Ⅱ

クラス

配当回生 学部2回生

講義期間 後期

定員 100

履修条件

クラス指定

担当者 中川 裕子

テーマ

日本語教育概論

獲得目標

日本語教育の現場で必要となる、基礎知識を身につける。

授業の内容

コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン、教材選択の基礎知識(種類、特徴)、日本語指導の方法、日本語指導の内容、評価法、異文化理解と日本事情を主に扱う。授業は、基本的に講義形式であるが、内容によっては、課題を与え、発表(もしくは提出)を課す。

内 容

- 第1回 コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン
- 第2回 教材論①(教材の種類と特徴—初級、中級、上級)
- 第3回 教材論②(教材の種類と特徴—技能別、学習者別)
- 第4回 教材論③(視聴覚教材、絵教材作成練習、教具の使用法)
- 第5回 日本語指導の内容①(初級の指導内容)
- 第6回 日本語指導の内容②(指導のプロセスと指導案)
- 第7回 日本語指導の内容③(練習方法の種類とその具体的指導方法)
- 第8回 日本語指導の内容④(初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法)
- 第9回 日本語指導の内容⑤(初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法)
- 第10回 日本語指導の内容⑥(中級の会話指導)
- 第11回 日本語指導の内容⑦(中級の文型指導、作文指導)
- 第12回 日本語指導の内容⑧(中級～上級の読解指導、教材作成)
- 第13回 日本語指導の内容⑨(異文化理解と日本事情)
- 第14回 評価法
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

日本語教育関係の文献を数多く読む。基本的な用語を理解する。外国語教授法に関する文献を数多く読む。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。提出物の一つである課題ノート(日本語指導の方法に関する)に取り組む。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新・はじめての日本語教育 基本用語事典

著者: 高見澤孟監修

出版社: アスク

出版年: 2004

ISBN:

日本語の教え方ABC

著者: 寺田和子他

出版社: アルク

出版年: 2001

ISBN:

成績評価

試験 (30%)

小テスト (10%)

授業中課題 (30%)

授業中発表等 (20%)

参加度 (10%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本語教授法Ⅳ

クラス

配当回生 学部3回生

講義期間 後期

定員 50

履修条件

クラス指定

担当者 佐野 裕子

テーマ

初級後期・初中級レベルの授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。

獲得目標

これまで学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、初級後期・初中級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。具体的には、模擬授業を通して、受講生同士コメントを加え、初級後期の文型の導入方法を学ぶ。あわせて中級指導の概説も簡単に行う。

授業の内容

授業は講義形式ではなく、毎回2～3名の学生が自分の担当する課の学習項目についての模擬授業を行い、その内容についてクラス全体でフィードバックする。その際各自の模擬授業は録画し、授業後はその映像を元に教案や教材を修正し、翌々週それらを担当教員に再提出する。※教授法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修済みまたは今年度履修登録している学生、日本語教員養成に関する科目(日本語学概説など)をいくつか履修済みまたは登録している学生を対象としている。基本的に教授法Ⅳ以外日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課決定
- 第2回 模擬授業1(みんなの日本語初級Ⅱ 26課と27課前半)
- 第3回 模擬授業2(みんなの日本語初級Ⅱ 27課後半と28課)
- 第4回 模擬授業3(みんなの日本語初級Ⅱ 29課と30課前半)
- 第5回 模擬授業4(みんなの日本語初級Ⅱ 30課後半と31課)
- 第6回 模擬授業5(みんなの日本語初級Ⅱ 32課と33課前半)
- 第7回 模擬授業6(みんなの日本語初級Ⅱ 33課後半と34課)
- 第8回 模擬授業7(みんなの日本語初級Ⅱ 35課と36課前半)
- 第9回 模擬授業8(みんなの日本語初級Ⅱ 36課後半と37課)
- 第10回 模擬授業9(みんなの日本語初級Ⅱ 38課と39課前半)
- 第11回 模擬授業10(みんなの日本語初級Ⅱ 39課後半と40課)
- 第12回 模擬授業11(みんなの日本語初級Ⅱ 41課と42課前半)
- 第13回 初級指導の総括
- 第14回 中級指導に向けて(中級の学習目標と指導のポイント)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。また日本語学校、地域の日本語教室などへの見学や参加などを自主的に行うこと。

教科書

みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊

著者:

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 2013

ISBN:

参考書

授業中適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (10)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(言M1後)〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

修士論文のテーマの深化

獲得目標

1) 修士論文の研究テーマをさらに掘り下げ、より深いものにしていく。2) 先行研究の正確な読解力を養う。3) 作品の読解を深める。

授業の内容

修士論文のテーマ先行研究や作品そのものの読解をとおして、修士論文のテーマの深化をはかる。

内 容

- 第1回 受講生の報告と討論(1)
- 第2回 受講生の報告と討論(2)
- 第3回 受講生の報告と討論(3)
- 第4回 受講生の報告と討論(4)
- 第5回 受講生の報告と討論(5)
- 第6回 受講生の報告と討論(6)
- 第7回 受講生の報告と討論(7)
- 第8回 受講生の報告と討論(8)
- 第9回 受講生の報告と討論(9)
- 第10回 受講生の報告と討論(10)
- 第11回 受講生の報告と討論(11)
- 第12回 受講生の報告と討論(12)
- 第13回 受講生の報告と討論(13)
- 第14回 受講生の報告と討論(14)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

課題とする図書や論文を事前に読んでレジュメを作っておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 応用言語学研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

文章日本語の成立と近代日本文学

獲得目標

1) 近代日本文学と近代的な文章日本語の成立が深く関わっていることを理解する。2) 明治20年代の近代日本文学について理解を深める。

授業の内容

明治20年代に山田美妙と前後して言文一致の文体で登場した二葉亭四迷をテーマとして、二葉亭が『浮雲』においてどのような言語実験を行ってきたのか、「あひゞき」や「めぐりあひ」といった翻訳作品の日本語がどんな新しさをもっていたのかについて考える。講義形式だが、一部受講生との討論を取り入れる。

内 容

- 第1回 二葉亭四迷とその時代
- 第2回 『浮雲』の分析1
- 第3回 『浮雲』の分析2
- 第4回 『浮雲』の分析3
- 第5回 『浮雲』の分析4
- 第6回 『浮雲』の分析5
- 第7回 『浮雲』の分析6
- 第8回 『浮雲』の分析7
- 第9回 『浮雲』の分析8
- 第10回 『浮雲』の分析9
- 第11回 二葉亭の翻訳作品の分析1
- 第12回 二葉亭の翻訳作品の分析2
- 第13回 二葉亭の翻訳作品の分析3
- 第14回 二葉亭の翻訳作品の分析4
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業前に本文を読んでおくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (0%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本文学研究Ⅳ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 林 久美子

テーマ

文楽(人形浄瑠璃)入門

獲得目標

歌舞伎と並ぶ上方発祥の世界遺産「文楽」(人形浄瑠璃)について知り、日本の文化についての理解を深める。

授業の内容

テキストにある演目の中から、近松物や三大名作など、代表的なものを選んで映像を鑑賞し、解説します。

内 容

- 第1回 文楽についての概説
- 第2回 浄瑠璃の起源と歴史
- 第3回 近松門左衛門について
- 第4回 三大名作①「菅原伝授手習鑑」
- 第5回 三大名作②「義経千本桜」
- 第6回 三大名作③「仮名手本忠臣蔵」
- 第7回 世話物①
- 第8回 世話物②
- 第9回 時代物・男の巻
- 第10回 時代物・女の巻①
- 第11回 時代物・女の巻②
- 第12回 学んできた作品について感想を話し合う
- 第13回 受講者による発表①
- 第14回 受講者による発表②
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

できれば文楽公演を鑑賞し、興味を持った作品を読んでください。

教科書

あらすじで読む文楽名作50

著者： 高木秀樹

出版社： 世界文化社

出版年： 2005

ISBN： 441805215

参考書

あやつられ文楽鑑賞

著者： 三浦しをん

出版社：双葉社

出版年：2011

ISBN： 978-4575713831

仏果を得ず

著者： 三浦しをん

出版社：双葉社

出版年：2011

ISBN： 4575514446

新編日本古典文学全集『浄瑠璃集

著者： 鳥越文蔵ほか

出版社：小学館

出版年：2002

ISBN： 4-09-658077-5

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

文楽に関連するテーマでレポートを作成する。もしくは、授業中に作品紹介のプレゼンテーションをする。

参考URL

日本芸術文化振興会

<http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/bunraku/jp/index>.

財団法人文楽協会

<http://www.bunraku.or.jp/jbunraku/index.html>

2014 Syllabus

科目名 日本語学研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語教育に必要な文法知識について考える

獲得目標

1)日本語教育における文法研究の現状を理解する。2)日本語教育の現場にフィードバック可能な文法のあり方について理解する。

授業の内容

庵功雄ほか『初級を教える人のために日本語文法ハンドブック』を読み進めていく。受講生の報告にもとづいて解説・討論を行う。

内 容

- 第1回 日本語教育と文法
- 第2回 受講生の報告と討論1
- 第3回 受講生の報告と討論2
- 第4回 受講生の報告と討論3
- 第5回 受講生の報告と討論4
- 第6回 受講生の報告と討論5
- 第7回 受講生の報告と討論6
- 第8回 受講生の報告と討論7
- 第9回 受講生の報告と討論8
- 第10回 受講生の報告と討論9
- 第11回 受講生の報告と討論10
- 第12回 受講生の報告と討論11
- 第13回 受講生の報告と討論12
- 第14回 受講生の報告と討論13
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

報告の準備をすること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (0%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (70%)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 漢字文化論Ⅱ <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期集中

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

書論選読(二)

獲得目標

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文になれるとともに、本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考える力を養うことが目的となる。講義では、受講者の積極的な質問、発言を期待する。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

授業の内容

授業は、毎回、代表的な書論の一節をとりあげ、その内容を考察していく。また、そこで取り上げられた問題を今日の書道の在り方と比較することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考えていきたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス(「書論とは何か」、参考書・工具書の紹介)
- 第2回 書論選読1
- 第3回 書論選読2
- 第4回 書論選読3
- 第5回 書論選読4
- 第6回 書論選読5
- 第7回 書論選読6
- 第8回 書論選読7
- 第9回 書論選読8
- 第10回 書論選読9
- 第11回 書論選読10
- 第12回 書論選読11
- 第13回 書論選読12
- 第14回 書論選読13
- 第15回 後期のまとめ。レポート提出。

授業以外での学習方法

書に関する書物(できれば他の芸術に関しても)をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

h101012650

参加度 (30)
授業中課題(期末レポート)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 書法演習Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字作品の創作研究

獲得目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の内容

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

内 容

- 第1回 卒業制作の準備、内容決定。
- 第2回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第3回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第4回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第5回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第6回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第7回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第8回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第9回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第10回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第11回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第12回 卒業制作の完成。
- 第13回 互評、反省会。
- 第14回 自由制作。
- 第15回 自由制作 まとめ

授業以外での学習方法

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本古代史研究Ⅱ〈M〉

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 増淵 徹	

テーマ

遺跡と歴史像の構成

獲得目標

歴史を考える重要な素材である遺跡を取り上げ、それと文献史料・出土文字資料・絵図資料等の解釈を組み合わせることを通して、ある時代の歴史像の総合的な構成に取り組む。

授業の内容

都宮跡・城柵跡・国郡庁跡・寺院跡・荘園遺跡など、いくつかのジャンルの遺跡を選んで話を進めるが、特に地方社会の様相を示す遺跡に重点を置く。また、条件が許せば、遺跡を見学する学外授業を行う場合がある。

内 容

- 第1回 遺跡とは何か
- 第2回 遺跡と史料(資料)
- 第3回 遺跡・出土文字資料と歴史像のチェック
- 第4回 国衙の機能と実像①
- 第5回 国衙の機能と実像②
- 第6回 国衙の廃絶と継承
- 第7回 多賀城跡と東北の城柵遺跡①
- 第8回 多賀城跡と東北の城柵遺跡②
- 第9回 遺跡と物流
- 第10回 地方山岳寺院の誕生と発展①
- 第11回 地方山岳寺院の誕生と発展②
- 第12回 荘園の成立・発展と荘園遺跡
- 第13回 荘園の経営と遺跡
- 第14回 遺跡の保存と整備
- 第15回 まとめ(この間に学外授業を行う場合がある)

授業以外での学習方法

遺跡は、さまざまな材料を基に多面的に理解するものである。書籍や報告書だけでなく、遺跡を訪れたり、説明会に参加したりして、遺跡と文献史料の両方の視点から学ぶ姿勢を身につけてほしい。なお、機会があれば、1回程度、資料館または遺跡の見学を行いたい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 日本近・現代史研究Ⅱ <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 酒井 一臣	

テーマ

日本近現代史理解のためのポイント(戦中・戦後編)

獲得目標

現代史理解には、社会科学の知識が欠かせません。太平洋戦争から現代までの日本史で議論の的になっていることを論じます。この授業では、政治学や国際関係論との接点にも注意を向けてもらい、現代史を理解するための基礎的知識獲得を目的とします。

授業の内容

概念整理を中心に重要な事例を取り上げます。通史的な内容は、授業中に紹介する参考文献などで学習してください。高校のときに使用していた日本史の教科書がある人は、現代史のところを読んでおいてください。

内 容

- 第1回 「大東亜」戦争 アジアの盟主
- 第2回 敗戦 連続か断絶か
- 第3回 戦後史の可能性 政治学と歴史学
- 第4回 日本国憲法 歴史的位置づけ
- 第5回 吉田茂 ワンマンか名宰相か
- 第6回 55年体制(1) 冷戦史の文脈
- 第7回 安保体制 岸信介の決断
- 第8回 エコノミックアニマル 高度経済成長
- 第9回 アジア外交(1) 二つの中国・二つの朝鮮
- 第10回 アジア外交(2) 軍服をスーツに替えて
- 第11回 新自由主義の登場 戦後政治の総決算
- 第12回 バブル経済 歴史の教訓
- 第13回 日本型社会主義 第三の道はあるのか
- 第14回 55年体制(2) 歴史は終わらない
- 第15回 現代史の方法 全体のまとめ

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

はじめて学ぶ日本外交史

著者: 酒井一臣

成績評価

試験（0）
授業中課題（20）
参加度（10）

小テスト（70）
授業中発表等（0）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ヨーロッパ・アメリカ近代史研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 南 直人

テーマ

食という視点からヨーロッパ近現代の歴史を考察する

獲得目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ史についての理解を深める。およびベルリンを事例としてドイツ近現代史を考察する。

授業の内容

後期はヨーロッパの近代社会の形成と食生活との関わりについて考察する。およびベルリンの歴史遺産を探索することを通じてドイツ近現代史を考察する。

内 容

- 第1回 食の歴史の意義
- 第2回 食に関する知の近代化(1)
- 第3回 食に関する知の近代化(2)
- 第4回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(1)
- 第5回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(2)
- 第6回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(3)
- 第7回 食品偽装問題と食品監視体制の成立(4)
- 第8回 食事作法の近代化(1)
- 第9回 食事作法の近代化(2)
- 第10回 外食の発達(1)
- 第11回 外食の発達(2)
- 第12回 ベルリンの歴史を歩く(1)
- 第13回 ベルリンの歴史を歩く(2)
- 第14回 ベルリンの歴史を歩く(3)
- 第15回 まとめ・総括

授業以外での学習方法

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の食文化シリーズ

著者: 石毛直道(監修)

h102013550

出版社：農文協

出版年：2003-2008年

ISBN：

ベルリン 〈記憶の場所〉を辿るたび

著者：A・シュタインガルト

出版社：昭和堂

出版年：2006

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（10）

授業中発表等（0）

参加度（30）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ヨーロッパ・アメリカ女性史研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリス女性生活誌2

獲得目標

近世以降のイギリスにおける女性の在り様、活動を検証することを通して、「西洋近代」と女性史のかかわりを考察する

授業の内容

上記のテーマ、目的を一年かけて追及するにあたり、後期は以下のトピックについて講義する(順序は入れ替わる可能性もある)

内 容

- 第1回 フェミニズム① フェミニズム発生の背景
- 第2回 フェミニズム② 法的無能力からの解放を求めて
- 第3回 フェミニズム③ レディに相応しい職とは何か
- 第4回 フェミニズム④ 女子教育改革の進展
- 第5回 フェミニズム⑤ 大学の門戸開放は可能か
- 第6回 フェミニズム⑥ ミドルクラス女性にとっての参政権
- 第7回 フェミニズム⑦ 戦闘的女性参政権運動
- 第8回 インターミッション
- 第9回 工業化社会の女性労働① 伝統的女性労働の変容
- 第10回 工業化社会の女性労働② ホワイトブラス職の登場
- 第11回 工業化社会の女性労働③ 都市的貧困と家内労働
- 第12回 工業化社会の女性労働④ 社会帝国主義と反苦汗労働運動
- 第13回 工業化社会の女性労働⑤ 労働組合とsocial feminism
- 第14回 工業化社会の女性労働⑥ 女性協同組合ギルドが目指したこと
- 第15回 まとめと確認

授業以外での学習方法

授業ごとに配布するコメント・シートによる復習と予習 適宜指示する参考文献の精読

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 考古資料研究Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 巽 淳一郎

テーマ

古代中国の国家形成と文字出現を考える。

獲得目標

学生の研究テーマに関連して、日本と深い関係にある中国での状況をりかし

授業の内容

講義と討論。各自に課題を設定して発表させる。

内 容

- 第1回 中国新石器文化に関する概説。
- 第2回 夏代の研究状況。課題発表。
- 第3回 夏代の研究状況。
- 第4回 殷商代の研究状況。
- 第5回 殷商代の研究状況。課題発表。
- 第6回 殷商代の研究状況。
- 第7回 殷商代の研究状況。
- 第8回 西周代の研究状況。課題発表。
- 第9回 西周代の研究状況。
- 第10回 西周代の研究状況。
- 第11回 東周代の研究状況。課題発表。
- 第12回 東周代の研究状況。
- 第13回 統一秦代の研究状況。
- 第14回 漢代の研究状況。
- 第15回 漢代の研究状況。まとめ。

授業以外での学習方法

教科書

中国考古学 新石器時代巻

著者： 中国社会科学院考古研究所

出版社： 中国社会科学出版社

出版年： 2010

ISBN:

中国考古学 夏商卷

著者：中国社会科学院考古研究所

出版社：中国社会科学出版社

出版年：2003

ISBN：

中国考古学 秦汉卷

著者：中国社会科学院考古研究所

出版社：中国社会科学出版社

出版年：2010

ISBN：

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（30）

授業中発表等（60）

参加度（10）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 古文書・史料学研究 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定 員

履修条件

クラス指定

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

獲得目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の内容

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方を実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 実習(1)内海家文書の解読・中級①
- 第3回 実習(2)内海家文書の解読・中級②
- 第4回 実習(3)内海家文書の解読・中級③
- 第5回 実習(4)内海家文書の解読・中級④
- 第6回 学外授業
- 第7回 実習(5)内海家文書の解読・中級⑤
- 第8回 実習(6)内海家文書の解読・中級⑥
- 第9回 実習(7)内海家文書の解読・中級⑦
- 第10回 実習(8)内海家文書の解読・中級⑧
- 第11回 学外授業
- 第12回 実習(9)内海家文書の解読・上級①
- 第13回 実習(10)内海家文書の解読・上級②
- 第14回 実習(11)内海家文書の解読・上級③
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (70)

出席を重視する

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 修復・史跡整備資料研究 I <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 一瀬 和夫	

テーマ

仁徳陵古墳と世界遺産の関係をみる

獲得目標

日本での世界遺産の登録とはいったい何か、文化財保護といかなる関係にあるのか。世界遺産の暫定リストにある「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の文化財的な普遍的価値を中心に見学・検討することで、日本社会における文化財の保存、公開、活用のあり方を具体的に考えてみる。

授業の内容

日本での世界遺産のあり方、「百舌鳥・古市古墳群」のうち仁徳陵古墳の実態の実態を知る講義が中心である。学外授業を一部含む。講師を招いて講演会を含む。

内 容

- 第1回 世界遺産とは
- 第2回 世界遺産の登録とは
- 第3回 仁徳陵古墳の評価とは
- 第4回 古墳時代のシンボル
- 第5回 あばかれた内部
- 第6回 仁徳陵古墳の話題性
- 第7回 墳丘の復原
- 第8回 埴輪と須恵器
- 第9回 古墳時代のネットワーク
- 第10回 古墳時代の空間イメージ
- 第11回 仁徳陵古墳の見学(学外授業)
- 第12回 陵墓としての仁徳陵古墳
- 第13回 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の登録要件とは
- 第14回 百舌鳥・古市古墳群の顕著な普遍的価値とは
- 第15回 文化財保護と世界遺産登録の関係を展望する

授業以外での学習方法

世界的な視座をもって、まちと歴史遺産の調和関係を考えてみる。

教科書

古墳時代のシンボル・仁徳陵古墳

著者： 一瀬和夫

出版社： 新泉社

出版年： 2009

ISBN： 9784787709356

参考書

h102014610

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 東アジア文化財研究 I <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 王 衛明

テーマ

古代中国絵画史の発展様相を体系的に考察する。

獲得目標

絵画史の資料を考察することによって、中国地域における美術造形発展の重要事項を把握し、美術史学の学問体系からその重要画家、代表作品、表現様式について、様々な角度で検討する。また、近年最新の研究状況、考古学発見の紹介を加えながら、中国絵画史の歴史展開の輪郭を講じていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 中国絵画史研究の特徴および研究方法
- 第2回 漢代絵画史の諸問題—墓室壁画
- 第3回 絵画史資料からみる漢代絵画史の発展状況
- 第4回 魏晋南北朝の絵画史の諸問題
- 第5回 魏晋南北朝の代表画家—顧愷之、彫刻家戴逵
- 第6回 魏晋南北朝の出土壁画
- 第7回 絵画史資料からみる南北地域の代表画家とその作品
- 第8回 絵画史資料からみる南北朝の芸術論
- 第9回 魏晋南北朝墓室壁画の諸問題
- 第10回 隋唐時代の絵画史の諸問題
- 第11回 張彦遠『歴代名画記』にみられる漢唐時代の絵画史の発展
- 第12回 隋唐時代の代表画家とその作品
- 第13回 隋唐時代の代表画家とその作品
- 第14回 西安郊外に出土した墓室壁画の諸問題
- 第15回 内容総括

授業以外での学習方法

重要な特別展を見学し、その絵画作品を実見することによって問題意識を養うこと。また、見学などの学外授業への参加を義務づける。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2014 Syllabus

科目名 歴史学・文化財学研究方法論Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 一瀬 和夫

テーマ

研究の基礎となる自己の考古学遺跡の調査法と調査マネージメントを確立する

獲得目標

研究に必要な基礎的データを取得するための遺跡調査の計画・実施・分類・分析・報告・考察を確実に実施できるようにする。

授業の内容

遺跡調査のプランニング、調査資材・人材の確保、調査の実施、調査中のマネージメント、とりまとめを行う。

内 容

- 第1回 発掘調査の周辺の既往の調査を調べる。
- 第2回 予備調査を行う。
- 第3回 調査のプランニングを行う。
- 第4回 調査の具体的な打ち合わせをする。
- 第5回 調査に必要な器材、備品、消耗品を考える。
- 第6回 調査を実施する。
- 第7回 実測・写真撮影等を行う。
- 第8回 調査のマネージメントを考える。
- 第9回 調査のマネージメントを考える。
- 第10回 調査をとりまとめる。
- 第11回 出土品を検討・分析・分類する。
- 第12回 出土品を検討・分析・分類する。
- 第13回 報告書作成のマネージメントを考える。
- 第14回 調査の考察を練る。
- 第15回 調査の考察を練る。

授業以外での学習方法

行政・他大学の発掘調査や整理作業に参加する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 文化政策Ⅱ〈M〉

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 金武 創

テーマ

文化政策の規範的検討

獲得目標

文化政策を規範的に考えることを念頭において、政治社会が直面する公共的な諸問題への政策的対応を理解する力を身につける。

授業の内容

民主主義の下での文化政策はどうあるべきか。この授業では、文化政策の作成・実施のプロセスを理解するために、授業の前半部では公共政策のよしあしを判断するための価値基準、すなわち公共政策規範を学んでいく。その際、政策の実現可能性や実現にかかるコストへの配慮に留意しつつ、時事問題などを紹介しながら公共政策規範の理解に努める。授業の後半では、政策設計のマクロ的指針と優先順位のためのミクロ的分析の両立の難しさを中心に文化政策の形成とその実地について学習する。

内 容

- 第1回 文化政策を学ぶ意義
- 第2回 公共政策規範とはなにか
- 第3回 公共政策デザインの指針
- 第4回 自由主義アプローチ
- 第5回 自由主義アプローチへの批判
- 第6回 功利主義アプローチ
- 第7回 功利主義アプローチへの批判
- 第8回 本質主義アプローチ
- 第9回 本質主義アプローチへの批判
- 第10回 政策目的の明確化
- 第11回 文化政策の社会的インパクト
- 第12回 文化政策と選好主義
- 第13回 文化政策の費用と便益(1) 機会費用を考える
- 第14回 文化政策の費用と便益(2) 将来費用の現在費用への換算
- 第15回 文化政策の費用と便益(3) 政策実施費用の見積もり

授業以外での学習方法

時事問題に対する関心を持って、情報収集すること

教科書

参考書

公共政策学とは何か

著者： 足立幸男

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2009

ISBN:

h511010650

公共政策規範

著者： 佐野亘

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 地域経済・地域開発Ⅱ <M>

クラス

配当回生 大学院1回生

講義期間 後期

定員

履修条件

クラス指定

担当者 小森 治夫

テーマ

まちづくりの理論を学ぶ

獲得目標

まちづくりの事例研究をふまえて、まちづくりの理論化に挑む

授業の内容

まちづくりの理論化に挑戦したテキストを学び、さらなる理論化に挑む

内 容

- 第1回 オリエンテーション、いまなぜまちづくりか
- 第2回 まちづくりとは何か
- 第3回 まちづくりの枠組み
- 第4回 まちづくりの変遷
- 第5回 住民主体のまちづくりを勧める仕組み
- 第6回 パートナーシップによるガバナンスの形成
- 第7回 まちを活性化させる地域産業
- 第8回 まちに賑わいをもたらす市域産業
- 第9回 まちを支えるインプットとアウトカム
- 第10回 美しく創造的な町並みをつくる地域デザイン
- 第11回 まちづくりを通じた安全と安心の向上、まちづくりの今後に向けて
- 第12回 まちづくりの構想
- 第13回 まちづくりのきっかけづくり
- 第14回 まちづくりの考え方
- 第15回 まちづくりのマネジメント

授業以外での学習方法

教科書

まちづくりを学ぶ
著者： 西村幸夫
出版社： 有斐閣
出版年：

ISBN：

h511012050

まちづくり学

著者： 西村幸夫

出版社： 朝倉書店

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (70)

参考URL

2014 Syllabus

科目名 **アーツ・マネジメントⅡ〈M〉**

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 小暮 宣雄	

テーマ

さまざまな芸術(アーツ)を鑑賞し、言葉化する。

獲得目標

アーツのジャンルを知り、触れたことのないアーツへの接近に勇気を持つ。実際にいくらかはアーツにじかに(ライブで)触れる。触れたアーツを言葉にする練習を続ける。

授業の内容

美術工芸デザイン、映画、演劇ダンス、音楽、伝統芸能などアーツは多岐にわたるので、少し受講者の興味によって重点化していくことにする。土曜日に2~3回は学外に出る。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 鑑賞とは何か…音楽を例にして
- 第3回 アーツのジャンル、その創造と鑑賞の関係
- 第4回 美術工芸デザインにおけるそれぞれの特徴、その鑑賞とは
- 第5回 美術館と画廊における展示の実際を知ろう
- 第6回 映画の誕生から今日までの駆け足映画史
- 第7回 映画を鑑賞するコツを知るー映画の中でその演出と役者をクローズアップして考える
- 第8回 演劇のざっとした歴史
- 第9回 劇作家とは、演出家とは
- 第10回 演劇鑑賞…学外授業の予定:ここでは一応演劇を想定しているが、受講者および実際の公演の予定を見て適宜ふさわしい実演芸術を決める
- 第11回 アフタートーク…学外授業の予定
- 第12回 ダンスをざっと知る+伝統芸能の入門の入門
- 第13回 音楽、ライブとしてのコンサート
- 第14回 オペラとミュージカル、あるいは、映画と記録映像の関係について
- 第15回 まとめーアーツを言葉化する演習ー

授業以外での学習方法

教科書

特に指定しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

『アーツ・マネジメント概論・三訂版』

著者: 伊藤裕夫ほか

h511013050

出版社：水曜社

出版年：

ISBN：

その他適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ）

授業中発表等（ ）

参加度（ 60 ）

参考URL

2014 Syllabus

科目名 ミュージアム・マネジメントⅡ <M>

クラス	配当回生 大学院1回生
講義期間 後期	定 員
履修条件	クラス指定
担当者 木下 達文	

テーマ

ミュージアム・マネジメントに関する政策研究

獲得目標

これからの日本の地域文化政策においてミュージアムの存在意義を見直し新たな役割を見いだしていくような活動が求められている。既存の事業活動等をきちんと見つめつつ、その中から課題をみつけ新たな提案をしていくことで、現状認知、課題設定、政策立案に対応できる能力を身につける。

授業の内容

本授業では、ミュージアム・マネジメントの考え方を民間事業とも関係させながら考えるとともに、いくつかの事例研究をあわせて行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション・政策研究について
- 第2回 ミュージアム政策の考え方ー地域文化政策との関係ー
- 第3回 ミュージアムの課題について
- 第4回 ミュージアム・マネジメントとテーマ研究
- 第5回 ミュージアム政策企画
- 第6回 ミュージアム政策の事例研究ー地域の中のミュージアムー
- 第7回 ミュージアム政策コンペティション
- 第8回 ミュージアムの政策調査研究
- 第9回 ミュージアムの政策調査設計
- 第10回 ミュージアムの現状確認(現場調査)※期間中に調査を行う
- 第11回 ミュージアムの政策分析
- 第12回 新たなミュージアム政策の立案
- 第13回 新たなミュージアム政策の具体化
- 第14回 新たなミュージアム政策に関する報告書の
- 第15回 新たなミュージアム政策とその総括

授業以外での学習方法

教科書

特に指定しない(適宜プリント等配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL
